

取扱説明書

DORICO PRO₃

Advanced Music Notation System



 **steinberg**

Steinberg マニュアル制作チーム: Cristina Bachmann, Heiko Bischoff, Lillie Harris, Christina Kaboth, Insa Mingers, Matthias Obrecht, Sabine Pfeifer, Benjamin Schütte, Marita Sladek

翻訳: Ability InterBusiness Solutions (AIBS), Moon Chen, Jérémie Dal Santo, Rosa Freitag, Josep Llodra Grimalt, Vadim Kupriianov, Filippo Manfredi, Roland Münchow, Boris Rogowski, Sergey Tamarovsky

このマニュアルは、目の不自由な方や視力の弱い方へのアクセシビリティに配慮しています。このマニュアルは複雑かつ多くの図が使用されているため、図の説明は省略されていることをご了承ください。

本書の記載事項は、Steinberg Media Technologies GmbH 社によって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。本書に掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。本書で取扱われているソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製は、ライセンス契約の範囲内でのみ許可されます(バックアップコピー)。Steinberg Media Technologies GmbH 社の書面による承諾がない限り、目的や形式の如何にかかわらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。本製品のライセンス所有者は、個人利用目的に限り、本書を1部複製することができます。

本書に記載されている製品名および会社名は、すべて各社の商標、および登録商標です。詳しくは、www.steinberg.net/trademarks をご覧ください。

© Steinberg Media Technologies GmbH, 2021.

All rights reserved.

Dorico Pro_3.1.10_ja-JP_2020-11-11

目次

9	新機能	345	フローの分割
14	はじめに	346	コメント
14	プラットフォーム非依存文書	353	浄書モード
14	表記規則	353	浄書モードのプロジェクトウィンドウ
16	Steinberg 社の Web サイトへのアクセス方法	362	「浄書オプション」ダイアログ
17	ファーストステップ	364	マスターページ
17	操作の概要	386	フロー見出し
25	新規プロジェクトの開始	390	フレーム
28	作曲	412	テキストの形式設定
33	Dorico のコンセプト	427	音楽記号
33	デザイン方針とハイレベルコンセプト	430	音符のスペーシング
41	ユーザーインターフェース	440	ページ形式設定
41	ウィンドウ	441	ページのサイズと向きの変更
54	ワークスペースの設定	442	ページ余白の変更
61	「環境設定 (Preferences)」ダイアログ	443	デフォルトの譜表サイズの変更
62	「環境設定 (Preferences)」ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」ページ	444	デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する
69	プロジェクトとファイルの処理方法	444	譜表/組段の両端揃え (垂直方向) を変更する
69	Hub	446	空白の譜表の表示/非表示を切り替える
73	異なるバージョンの Dorico のプロジェクト	447	ページの挿入
73	「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログ	448	ページの削除
75	ファイルの読み込みと書き出し	449	左側のページからレイアウトを始める
92	自動保存	449	同じページに複数のフローを表示する/表示しない
94	プロジェクトのバックアップ	450	「最初 (First)」のマスターページをいつ使用するかの変更
95	設定モード	451	フロー見出しを表示/非表示にする
95	設定モードのプロジェクトウィンドウ	451	フロー見出しの上下の余白を変更する
104	「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログ	453	フロー見出しの上の欄外見出しの情報の表示/非表示を切り替える
106	「レイアウトオプション」ダイアログ	454	デフォルトの楽曲フレームの余白を変更する
109	プレーヤー、レイアウト、フロー	454	楽曲フレームの余白を個別に変更する
110	プレーヤー	455	最後の組段の両端揃え (水平方向) の変更
114	アンサンブル	455	コンデンシングの有効化/無効化
115	インストゥルメント	457	配置設定
133	プレーヤーグループ	458	譜表サイズ
135	フロー	462	譜表のスペーシング
138	レイアウト	469	フレーム区切り
143	プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名	471	組段区切り
148	フロー名とフロータイトル	474	タチエット
149	ビデオ	477	コンデンシング
156	記譜モード	498	パート形式のコピー
156	記譜モードのプロジェクトウィンドウ	502	再生モード
164	「記譜オプション」ダイアログ	502	再生モードのプロジェクトウィンドウ
167	「音符入力オプション (Note Input Options)」ダイアログ	509	「再生オプション」ダイアログ
168	入力と編集	510	イベントディスプレイ
170	リズムグリッド	518	トラック
171	音符の入力	548	再生ヘッド
208	MIDI 録音	550	楽譜の再生
214	記譜記号の入力	557	スウィング再生
322	編集と選択	563	ミキサー
334	ナビゲーション	565	トランスポートウィンドウ
337	ガイド	567	再生テンプレート
339	配置ツール	576	エンドポイント
		582	エクスペッションマップ

593	パーカッションマップ	668	小節番号の変更
600	演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション	670	サブ小節番号
602	印刷モード	671	小節番号とリピート
602	印刷モードのプロジェクトウィンドウ	675	連桁
607	レイアウトの印刷	675	連桁グループ
610	グラフィックファイルとしての書き出し	678	手動で音符に連桁を付ける
615	プリンター	678	不完全連桁の方向を変更する
615	印刷/書き出し用のページ配置	679	譜表に対する連桁の位置
617	両面印刷	680	連桁の傾斜
618	ページサイズと用紙サイズ	681	中央配置の連桁
620	グラフィックファイルの形式	683	譜表をまたぐ連桁の作成
621	注釈	686	連桁のでっぱり
622	記譜に関するリファレンス	686	第2連桁
623	はじめに	687	連桁内の連符
624	臨時記号	688	ステムレット
624	臨時記号の削除	690	扇形連桁
625	臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける	692	音符と休符のグループ化
626	浄書オプションで臨時記号の設定をプロジェクト全体に適用する	693	拍子のカスタム連桁グループを作成する
626	臨時記号のスタック	694	大括弧と中括弧
627	オルタードユニゾン	695	アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更
629	微分音の臨時記号	697	第2括弧
630	臨時記号の有効範囲ルール	699	小副括弧
634	アーティキュレーション	699	浄書オプションで大括弧(ブラケット)と中括弧(ブレイス)の設定をプロジェクト全体に適用する
635	浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する	700	カスタムの譜表のグループ化
635	アーティキュレーションのコピー	706	コード記号
635	アーティキュレーションの変更	707	コードの構成要素
636	アーティキュレーションの削除	707	浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する
636	アーティキュレーションの位置	707	コード記号の外観のプリセット
641	再生時のアーティキュレーション	716	コード記号の移調
642	小節	717	コード記号を表示/非表示にする
642	小節/拍の削除	718	コード記号のルートとクオリティーを表示/非表示にする
644	小節の長さの変更	719	コード記号領域
644	空白の小節の幅を変更する	721	コード記号の位置
645	小節の分割	723	コード記号の表記の変更
646	小節の結合	724	MusicXML ファイルから読み込まれたコード記号
647	小節線	725	コードダイアグラム
649	浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する	725	コードダイアグラムの構成要素
649	小節線のフローごとの記譜オプション	726	浄書オプションでコードダイアグラムの設定をプロジェクト全体に適用する
649	調号の変更位置の小節線を変更する	726	コードダイアグラムのプロジェクト全体の音符入力オプション
650	フローの終了位置で使用する初期設定の小節線を変更する	727	コードダイアグラムを表示/非表示にする
650	単一譜表の組段で組段の小節線を表示/非表示にする	728	コードダイアグラムシェイプを変更する
651	小節線の削除	729	新しいコードダイアグラムシェイプを作成する
651	小節線のスペーシング	734	コードダイアグラムのフォントスタイルを編集する
652	譜表グループをまたぐ小節線	735	開始フレット番号の水平位置の変更
657	小節番号	735	コードダイアグラムの向きを変更する
657	小節番号を表示/非表示にする	736	音部記号
658	小節番号の囲み線を表示/非表示にする	737	音部記号の一般的な配置規則
661	長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする	737	プロジェクト全体における音部の間隔のスペーシング
662	ガイド小節番号の表示/非表示	739	音部記号の削除
662	小節番号のパラグラフスタイル	739	音部記号の変更におけるデフォルトのサイズ
664	小節番号の位置	740	音部記号を装飾音符のあとに表示
668	浄書オプションで小節番号の設定をプロジェクト全体に適用する	740	実音と移調音で異なる音部記号を設定する

741	レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする	812	フレット楽器のフィンガリング
742	音部記号の移調	818	フィンガリングスライド
743	オクターブ線	822	バルブ式金管楽器のフィンガリング
744	浄書オプションでオクターブ線の設定をプロジェクト全体に適用する	823	弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示の表示/非表示
744	オクターブ線の長さの変更	824	MusicXML ファイルから読み込まれたフィンガリング
745	オクターブ線の角度の変更	825	弦の指示記号
746	オクターブ線の位置	826	浄書オプションで弦の指示記号の設定をプロジェクト全体に適用する
749	オクターブ線の削除	826	開放弦の指示記号の外観を変更する
749	浄書モードのオクターブ線	827	弦の指示記号のサイズを変更する
750	タッキングインデックスのプロパティ	827	弦の指示記号の長さを変更する
752	キュー	829	弦の指示記号を削除する
752	キューの配置と記譜に関する一般的な表記規則	829	弦の指示記号の位置
753	浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する	833	前付け
753	リズムによるキュー	833	デフォルトのマスターページに使用されるプロジェクト情報
756	レイアウト内のキューを表示/非表示にする	834	マスターページへの献呈の追加
757	キューのオクターブを変更する	835	プレーヤーリストを追加する
757	キューラベルのオクターブ移調を表示/非表示にする	836	マスターページの欄外見出しを編集する
758	キューの移動	837	装飾音符
759	キューの長さの変更	837	装飾音符の一般的な配置規則
759	キューの削除	839	装飾音符の位置をプロジェクト全体で変更する
760	キューの内容	840	装飾音符のサイズ
761	キューラベル	840	装飾音符のスラッシュ
763	キューの記譜記号	842	装飾音符の符尾
764	キューの符尾の方向	842	装飾音符の連桁
765	キューのタイ	844	延長記号と休止記号
765	キューの休符	844	延長記号と休止記号のタイプ
767	キューの音部変更記号	846	浄書オプションで延長記号と休止記号の設定をプロジェクト全体に適用する
768	キューの表示オプション	846	延長記号と休止記号の位置
771	強弱記号	851	調号
771	強弱記号のタイプ	851	調号の配置
772	浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する	852	調号のタイプ
772	強弱記号の位置	853	浄書オプションで調号の設定をプロジェクト全体に適用する
777	括弧つきの強弱記号の表示	853	調号の削除
777	強弱記号の背景の塗りつぶし	854	同じ位置の複数の調号
779	強弱記号のコピー	854	調号の位置
779	強弱記号の削除	857	選択した音符と同時に調号を移調する
780	声部固有の強弱記号	858	異名同音の調号
780	ニエンテのヘアピン	859	予告の調号
782	強弱記号の修飾語句	859	調性システム
783	段階的強弱記号	875	歌詞 (Lyrics)
793	強弱記号のグループ	875	歌詞の一般的な配置規則
794	リンクされた強弱記号	876	浄書オプションで歌詞の設定をプロジェクト全体に適用する
796	強弱記号のフォントスタイル	876	歌詞のフィルター
798	強弱記号の再生オプション	877	歌詞のタイプ
800	フィンガリング	879	歌詞の音節のタイプ
800	フィンガリングの一般的な配置規則	880	歌詞のラインの削除
801	浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する	880	歌詞のコピー/ペースト
801	フィンガリングを替え指のフィンガリングに変更	882	歌詞テキストの編集
803	既存のフィンガリングの変更	884	歌詞の位置
803	フィンガリングの表示位置の移動	889	歌詞のハイフンと歌詞の延長線
806	フィンガリングのサイズを変更する	891	歌詞のライン番号
807	フィンガリングに囲み線/下線を表示する	894	歌詞番号
808	フィンガリングの表示/非表示	896	歌詞に使用するフォントスタイルの変更
808	フィンガリングの削除	897	日本語の歌詞でのスラー
809	フィンガリングのフォントスタイル		
811	親切フィンガリング		

898	音符	985	ジャズアーティキュレーションの 削除
898	浄書オプションで音符の設定をプロジェクト全体に適用する	986	ページ番号
898	符頭セット	986	マスターページでのページ番号の移動
912	音符のサイズの変更	987	ページ番号の段落スタイル
913	音符の位置の移動	988	ページ番号の数字スタイルの変更
914	加線の幅を個別に変更する	989	ページ番号を表示/非表示にする
915	付点の統合	991	ハーブのペダリング
916	個々の音符に弦を指定する	992	浄書オプションでハーブのペダリングの設定をプロジェクト全体に適用する
917	音域外の音符のカラーを表示/非表示にする	992	ハーブペダルダイアグラムの 外観の変更
918	括弧付きの符頭	993	レイアウト内のハーブのペダリングを表示または非表示にする
928	ハーモニクス	994	ハーブペダルダイアグラムの 枠線を表示または非表示にする
929	音符をハーモニクスに変換する	996	ハーブペダルダイアグラムの 位置
930	倍音の変更	998	部分的なハーブのペダリング
931	ハーモニクスの臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける	1000	ペダル線
932	ハーモニクスの外観/スタイル	1001	サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示
936	装飾音	1006	ペダル線の位置
936	浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する	1010	ペダル線の長さの変更
937	装飾音の音程の変更	1012	浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する
938	装飾音の位置	1012	ペダル線の開始記号、フック、および延長線
941	トリル	1017	テキストによるペダル線の記号
944	トリル音程	1019	再生時のペダル線
949	再生時のトリル	1020	MusicXML ファイルから読み込まれたペダル線
953	アルペジオ記号	1021	演奏技法
953	アルペジオ記号のタイプ	1022	浄書オプションで演奏技法の設定をプロジェクト全体に適用する
956	アルペジオ記号の長さ	1022	演奏技法の位置
957	アルペジオ記号の一般的な配置規則	1025	演奏技法へのテキストの追加
959	浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する	1026	テキストの演奏技法の背景の塗りつぶし
959	再生時のアルペジオ	1027	演奏技法の表示/非表示
962	グリッサンドライン	1028	演奏技法の長さを変更する
962	グリッサンドの一般的な配置規則	1029	演奏技法の延長線
963	浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する	1033	演奏技法のグループ
963	空白の小節をまたぐグリッサンド	1035	カスタムの演奏技法
964	グリッサンドのスタイルの変更	1044	演奏技法の再生効果
964	グリッサンドのテキストを個別に変更する	1046	ライン
966	グリッサンドの表示位置の移動	1048	ラインの構成要素
967	グリッサンドのデフォルトの角度をプロジェクト全体で変更する	1049	浄書オプションでラインの設定をプロジェクト全体に適用する
968	再生時のグリッサンドライン	1049	ラインの位置
970	ギターベンド	1055	ラインの長さ
973	浄書オプションでギターベンド/プリベンドの設定をプロジェクト全体に適用する	1057	ラインのボディスタイルの変更
973	ギターベンドホールドの線を表示/非表示にする	1058	ラインのキャップの変更
974	ギタープリベンドの方向を変更する	1058	ラインの方向の変更
974	ギターベンドをダイブとリターンとして表示する	1059	ラインへのテキストの追加
975	ギタープリベンドの臨時記号を表示/非表示にする	1064	リハーサルマーク (Rehearsal Marks)
976	ギターベンドの表示位置を移動する	1064	リハーサルマークの一般的な配置規則
979	ジャズアーティキュレーション	1065	浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する
980	ジャズの装飾音	1068	リハーサルマークの位置
981	浄書オプションでジャズアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する	1069	リハーサルマークの削除
981	ジャズアーティキュレーションの 表示位置の移動	1070	リハーサルマークの順序の変更
983	既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する	1070	リハーサルマークのシーケンスタイプの変更
984	スムーズのジャズアーティキュレーションの 線のスタイルを変更する	1071	リハーサルマークに先頭および末尾テキストを追加する
		1072	リハーサルマークのフォントスタイルの編集

1073	マーカー	1120	休符 (Rests)
1073	浄書オプションでマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する	1120	休符の一般的な配置規則
1074	マーカーを表示/非表示にする	1121	暗黙の休符と明示的な休符
1074	マーカーの垂直位置の変更	1123	休符のフローごとの記譜オプション
1075	マーカーのテキストを編集する	1123	浄書オプションで休符の設定をプロジェクト全体に適用する
1076	マーカー/タイムコードのフォントスタイルの編集	1124	休符のカラーを表示/非表示にする
1076	マーカーのタイムコードを変更する	1124	休符の削除
1077	マーカーのリズム上の位置を変更する	1125	空白の小節で小節休符を表示/非表示にする
1077	マーカーを重要なマーカーに指定する	1126	長休符
1079	タイムコード	1130	休符を垂直に移動する
1080	タイムコードの開始位置の値を変更する	1132	スラー
1080	タイムコードの垂直位置を変更する	1132	スラーの一般的な配置規則
1081	マーカーのタイムコードを表示/非表示にする	1137	浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する
1082	タイムコードの表示頻度を変更する	1137	譜表および声部をまたぐスラー
1083	リピート括弧	1138	入れ子状のスラー
1083	リピート括弧でリピート回数の総数を変更する	1139	スラーの位置の移動
1084	浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する	1140	スラーの長さの変更
1085	リピート括弧のセグメントの長さの変更	1141	リンクされたスラー
1085	リピート括弧の位置	1142	スラーのセグメント
1088	リピート括弧のテキストの編集	1143	浄書モードのスラー
1088	リピート括弧の最終セグメントの外観を個別に変更する	1147	大きなピッチ差をつなぐ短いスラー
1089	リピート括弧のフックの長さを変更する	1148	スラーの高さ
1089	MusicXML ファイルのリピート括弧	1150	スラーの肩のオフセット
1090	リピートマーカー	1151	スラーのカーブ方向
1091	浄書オプションでリピートマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する	1153	スラーのスタイル
1091	リピートマーカーのパラグラフスタイル	1156	スラーの衝突回避
1092	コーダ/セニョ記号のサイズの変更	1157	組段およびフレーム区切りをまたぐスラー
1092	リピートマーカーのインデックスの変更	1158	再生時のスラー
1093	リピートマーカーのテキストの編集	1159	譜表ラベル
1094	コーダの前に表示される小節線の変更	1160	譜表ラベルに表示されるインストゥルメント名
1095	リピートマーカーの位置	1161	譜表ラベルのパラグラフスタイル
1097	ジャンプ記号でジャンプした後の繰り返しを再生に含める/除外する	1161	浄書オプションで譜表ラベルの設定をプロジェクト全体に適用する
1098	リピート小節線による演奏回数の変更	1162	譜表ラベルを表示/非表示にする
1099	小節リピート記号	1163	特定の位置の譜表ラベルを表示/非表示にする
1100	浄書オプションで小節リピート記号の設定をプロジェクト全体に適用する	1164	譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調
1100	小節リピート領域の繰り返されるフレーズの長さを変更する	1167	フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にする
1101	小節リピート領域を移動する	1167	隣接する同一のインストゥルメントの譜表ラベルをグループ化する
1101	小節リピート領域の長さを変更する	1168	譜表ラベルの番号スタイルの変更
1102	小節リピート領域の強調表示を表示/非表示にする	1169	音楽の譜表のラベルを全大文字/頭文字大文字で表示する
1102	小節リピート記号のカウント	1169	打楽器キットの譜表ラベル
1107	小節リピート記号のグループ化	1170	コンデンスされた譜表の譜表ラベル
1109	スラッシュ符頭	1173	譜表
1109	スラッシュ領域	1173	レイアウトごとの譜表のオプション
1110	浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する	1174	譜表線の太さの変更
1111	複声部におけるスラッシュ	1174	譜表の削除
1113	スラッシュ領域の分割	1175	追加の譜表
1114	スラッシュ領域の移動	1179	オッサ譜表
1114	スラッシュ領域の長さの変更	1187	組段の分割記号
1115	スラッシュ領域の符尾を表示/非表示にする	1188	組段オブジェクト
1115	スラッシュ領域のカウント	1190	組段のインデント
		1192	ディヴィジ
		1193	「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」 ダイアログ
		1195	ディヴィジ作成の入力
		1196	既存のディヴィジ作成を編集する
		1196	ディヴィジ作成の移動

- 1197 ディヴィジのパスページを終了させる
 1197 ユニゾン範囲
 1199 声楽の譜表のディヴィジ
 1200 ディヴィジの譜表ラベル
 1204 再生時のディヴィジ
- 1205 タブ譜**
 1206 浄書オプションでタブ譜の設定をプロジェクト全体に適用する
 1206 タブ譜のリズム
 1207 音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする
 1208 タブ譜で音符に割り当てられた弦の変更
 1209 音符をデッドノートとして表示する
 1209 タブ譜で音符の囲み線を表示または非表示にする
 1211 タブ譜の付点の配置を変更する
 1211 タブ譜の数字用フォントスタイルの編集
- 1212 符尾**
 1212 浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する
 1213 符尾の方向
 1217 符尾の長さ
 1218 符尾の非表示
- 1219 テンポ記号**
 1220 テンポ記号のタイプ
 1220 浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する
 1221 テンポ記号の位置
 1223 テンポのテキストの変更
 1224 テンポ記号のフォントスタイル
 1225 テンポ記号の表示/非表示
 1225 テンポ記号の削除
 1226 テンポ記号の要素
 1228 メトロノームマーク
 1231 段階的テンポ変更
 1234 テンポの等式
- 1235 タイ**
 1236 タイの一般的な配置規則
 1237 浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する
 1238 タイとスラー
 1238 非標準のタイ
 1241 タイの削除
 1242 タイのつながりの分割
 1242 タイの形状と角度の変更
 1243 タイの肩のオフセット
 1245 タイの高さ
 1246 タイのスタイル
 1249 タイのカーブ方向
- 1251 拍子記号**
 1252 拍子記号の一般的な配置規則
 1252 浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する
 1253 プロジェクト全体における拍子記号の間隔のスペーシング
 1253 拍子記号のタイプ
 1255 弱起(アウフタクト)
 1256 大きな拍子記号
 1258 拍子記号のスタイル
 1262 拍子記号の位置
 1265 拍子記号の表示/非表示
 1266 拍子記号の削除
 1266 拍子記号のフォントスタイル
- 1268 トレモロ (Tremolos)**
 1269 タイのつながりの中のトレモロ
 1270 トレモロの一般的な配置規則
 1270 トレモロの速さの変更
 1271 トレモロの削除
 1272 トレモロが付いた音符の位置
 1272 トレモロストロークの移動
 1273 浄書オプションでトレモロの設定をプロジェクト全体に適用する
 1274 再生時のトレモロ
- 1276 連符**
 1276 連符の一般的な配置規則
 1277 浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する
 1277 入れ子状の連符
 1278 既存の音符を連符に変換する
 1278 連符から標準の音符に変換する
 1279 連符が小節線をまたぐことの許可/禁止を切り替える
 1280 連符の位置の移動
 1281 連符の削除
 1281 連符の連桁
 1281 連符の角括弧
 1286 連符の数や比率を示す数字
- 1289 無音程打楽器**
 1289 打楽器キットと個々の打楽器インストゥルメント
 1290 打楽器キットとドラムセット
 1291 浄書オプションで無音程打楽器の設定をプロジェクト全体に適用する
 1292 無音程打楽器のフローごとの記譜オプション
 1292 打楽器キットの譜表で音符の演奏技法を変更する
 1293 打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動する
 1293 打楽器キットの音符の記譜記号
 1295 打楽器キットの表示タイプ
 1297 無音程打楽器の演奏技法
 1301 打楽器のレジェンド
 1304 打楽器キットにおける声部
 1306 再生モードにおける無音程打楽器
 1307 ユニバーサルインド太鼓記譜法
- 1308 声部**
 1308 複声部の音符位置
 1309 声部のフローごとの記譜オプション
 1309 声部カラーを表示/非表示にする
 1310 未使用の声部
 1311 声部の順番の入れ替え
 1312 他の声部の音符がすでにある譜表に伸びた音符
 1312 スラッシュ付き声部
- 1315 用語**
1327 索引

新機能

追加された新機能: バージョン 3.1.0

ハイライト

コンデンシング方法の変更

- コンデンシング結果を任意の位置から手動で変更できるようになりました。コンデンシング方法の変更を使用すると、フレーズを分割したり、コンデンシングの記譜オプションを変更したり、個々のプレーヤーを声部や譜表にどのように割り当てるかを正確に指定したりできます。「[任意の位置からコンデンシングオプションを変更する](#)」を参照してください。

強弱記号レーン

- 再生モードの各インストゥルメントトラックに強弱記号レーンが表示されるようになりました。このレーンには時間の経過に伴う強弱記号のプロファイルが視覚的に表示され、強弱記号の確認や編集を行なえます。「[強弱記号レーン](#)」を参照してください。

括弧付きの符頭

- 以前は無音程打楽器に限られていましたが、すべての符頭に括弧を表示できるようになりました。丸括弧と角括弧の両方を使用できます。「[括弧付きの符頭](#)」を参照してください。

ライン

- Dorico Pro では、音符の間を垂直線、横棒線、または斜めの線をつなぎ、それらのラインにさまざまなスタイルや外観を適用できるようになりました。ラインは再生に影響を与えずにさまざまな意味を伝えるため、記譜の可能性を大きく広げます。「[ライン](#)」を参照してください。

その他の新機能

ステータスバーの声部の表示

- 単一の音符を選択すると、ステータスバーに声部が表示されるようになり、これまで以上に声部を簡単に把握できるようになりました。「[ステータスバー](#)」を参照してください。

XML の書き出し

- Dorico Pro の MusicXML の書き出しが改善されました。プロジェクトを MusicXML に書き出した際に、臨時記号、アーティキュレーション、コード記号、インストゥルメントの移調、ジャズアーティキュレーション、リハーサルマークがすべて含まれるようになりました。「[MusicXML ファイルの書き出し](#)」を参照してください。

ローカルなコード記号

- 1つのインストゥルメントにのみ適用されるコード記号を入力できるようになりました。これにより、同じ位置の異なるプレーヤーに対して異なるコード記号を表示できます。「[コード記号の入力](#)」を参照してください。

マスターページの読み込み/書き出し

- プロジェクト間でマスターページのセットを読み込んだり書き出したりできるようになりました。これにより、作成したマスターページを別のプロジェクトで再利用できます。「[マスターページのセットの読み込み](#)」を参照してください。
- プロジェクト内の他のマスターページのセットから、個々のマスターページを読み込むこともできます。つまり、カスタムのタイトルページ用マスターページを1つ作成し、それをフルスコアレイアウトとパートレイアウトで使用できます。「[マスターページの読み込み](#)」を参照してください。

レイアウトごとの大括弧のグループ化設定

- 今までの大括弧のグループ化のアンサンブルタイプが「**浄書オプション (Engraving Options)**」から「**レイアウトオプション (Layout Options)**」に移動し、大括弧のグループ化のアプローチをレイアウトごとに変更できるようになりました。「**アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更**」を参照してください。

調性システムの読み込み/書き出し

- プロジェクト間で調性システムの読み込みと書き出しを行なえるようになりました。これにより、調性システムを他のユーザーと共有できます。「**調性システムの読み込み**」を参照してください。

ハーモニクスの再生

- ナチュラルハーモニクスとアーティフィシャルハーモニクスがどちらも適切なピッチで再生されるようになりました。再生デバイスにハーモニクス専用のサウンドが含まれている場合、これらも自動的に使用されます。「**ハーモニクス**」を参照してください。

ギターベンドラン

- 連続するギターベンドのシーケンスがタブ譜上にベンドランとして記譜されるようになりました。「**ギターベンド**」を参照してください。

タイムコードの位置オプション

- 個別のタイムコード譜表を表示することなく、各組段の開始位置にタイムコードを表示できるようになりました。タイムコードは譜表の上または下に表示できます。「**タイムコードの垂直位置を変更する**」を参照してください。

その他

ファイル名の自動保存

- 自動保存されたプロジェクトファイルの名前の最後に [AutoSave] が自動的に追加されるようになりました。これにより、たとえばコンピューターのごみ箱からプロジェクトを復元する必要がある場合などにファイルを識別できます。「**自動保存**」を参照してください。

移調時の二重/三重臨時記号の回避

- 12-EDO と互換性のある調性システムで選択範囲を移調する際に、二重臨時記号や三重臨時記号を回避できるようになりました。「**移調 (Transpose) ダイアログ**」を参照してください。

オートメーションのコピー

- 別のオートメーションレーンへのコピーも含め、オートメーションポイントをコピーできるようになりました。「**オートメーションポイントのコピーと貼り付け**」を参照してください。

「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup) ダイアログのインストゥルメント名

- 「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup) ダイアログ**」の「**割り当てられたインストゥルメント (Assigned Instruments)**」コラムに、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで各インストゥルメントに設定されたインストゥルメント名が表示されるようになりました。「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup) ダイアログ**」を参照してください。

臨時記号の角括弧

- 既存の丸括弧のサポートに加え、個々の臨時記号に角括弧を表示できるようになりました。「**臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける**」を参照してください。
- これはハーモニクスの臨時記号にも使用できます。「**ハーモニクスの臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける**」を参照してください。

短線 (上)

- 5 線譜の第 3 間と第 4 間にまたがる、既存の短線に似た短線 (上) 小節線が Dorico Pro に追加されました。「**小節線**」を参照してください。

中括弧のデザインのスパンのしきい値

- 異なるデザインの中括弧を自動的に適用するためのスパンのしきい値を設定することもできるようになりました。平坦な中括弧を表示しないようにすることもできます。「[浄書オプションで大括弧\(ブラケット\)と中括弧\(ブレイス\)の設定をプロジェクト全体に適用する](#)」を参照してください。

調性システムの複製

- Dorico Pro では、既存の調性システムを複製して新規調性システムを作成できるようになりました。「[カスタムの調性システムの作成](#)」を参照してください。

臨時記号の複製

- Dorico Pro では、既存の臨時記号を複製して新規臨時記号を作成できるようになりました。「[カスタムの臨時記号を作成/編集する](#)」を参照してください。

追加された新機能: バージョン 3.0.10

タブ譜の入力

- テンキーを使用して、タブ譜に音符のフレット番号を入力できるようになりました。「[タブ譜への音符の入力](#)」を参照してください。

ハーブペダリングフィルター

- より大きな選択範囲内でハーブペダルダイアグラムを選択したり選択解除したりできるフィルターが追加されました。「[フィルター](#)」を参照してください。

追加された新機能: バージョン 3.0.0

ハイライト

複数の譜表への入力

- 複数の譜表にキャレットを伸ばし、強弱記号や演奏技法を含む記譜記号や音符をすべての譜表に同時に入力できるようになりました。MIDI キーボードを使用すれば、MIDI キーボードで入力した和音をこれらの譜表にエクスポートすることもできます。「[複数の譜表に音符と記譜記号を入力する](#)」を参照してください。

コメント

- このバージョンでは、楽譜に影響を与えることなくメモや指示を追加する方法として、コメントを注釈として追加する機能が搭載されました。「[コメント](#)」を参照してください。

コンデンシング

- Dorico Pro では、プレーヤーごとに個別のパートを維持したままコンデンシングしたスコアを自動的に生成できるようになりました。これにより、指揮者用のスコアを簡単に作成できます。コンデンシングを有効にしたあと、カスタムコンデンシンググループをレイアウトごとに個別に設定できます。「[コンデンシング](#)」を参照してください。

再生テンプレート

- カスタム再生テンプレートの作成や既存のテンプレートの編集を行なえるようになりました。出荷時のデフォルトの再生テンプレートやエンドポイント設定を組み合わせ、それらを好きな順序で単一のカスタム再生テンプレートにリストできます。「[再生テンプレートを編集 \(Edit Playback Template\)](#)」 [ダイアログ](#)」を参照してください。

コードダイアグラム

- Dorico Pro で、コード記号と一緒にコードダイアグラムを表示できるようになりました。ライブラリーに含まれるさまざまなチューニングのギターやその他のあらゆるフレット楽器に適したコードダイアグラムを表示したり、コードダイアグラムシェイプを独自に作成したりできます。「[コードダイアグラム](#)」を参照してください。

ギターなどのフレット楽器のフィンガリング

- 右手と左手のフィンガリングを自動的に正しく配置するなど、Dorico Pro はギターなどのフレット楽器の楽譜に必要な複雑なフィンガリングを包括的にサポートできるようになりました。「[フレット楽器のフィンガリング](#)」を参照してください。

弦の指示記号

- Dorico Pro では、譜表の内側と外側の両方に弦の指示記号を配置できるようになりました。譜表の内側に配置した場合は、背景が自動的に削除されます。また、同じ音符の左手のフィンガリングも自動的に調整されます。「[弦の指示記号](#)」を参照してください。

ハーモニクス

- Dorico Pro は、弦楽器およびフレット楽器のハーモニクスを記譜するためのさまざまな表記規則をサポートできるようになりました。これには、ナチュラルハーモニクスとアーティフィシャルハーモニクスの両方が含まれます。また、Dorico Pro では第2倍音から第6倍音に対して記譜する正しいピッチを計算することもできます。「[ハーモニクス](#)」を参照してください。

ギターバンド

- Dorico Pro では、ギタープリバンド、ホールド、リリースを含むギターバンドの記譜がサポートされるようになりました。これらの技法は、音符の譜表とタブ譜の両方に表示できます。「[ギターバンド](#)」を参照してください。

ハーブのペダリング

- ダイアグラムまたは音名で表示できるハーブペダルダイアグラム、楽節の演奏に必要なペダル位置を計算するツール、および現在のペダル位置では演奏できない音符の強調表示など、ハーブの楽譜特有の記譜に役立つように設計された機能が Dorico Pro に搭載されました。「[ハーブのペダリング](#)」を参照してください。

演奏技法の延長線

- 演奏技法の延長線を表示して、単に1つの演奏技法のデュレーションを表わす線と、演奏技法間の段階的な移行を示す線を区別できるようになりました。「[演奏技法の延長線](#)」を参照してください。

タブ譜

- Dorico Pro は、ギターやその他のフレット楽器用のタブ譜に対応するようになりました。これには、ギター特有の数多くの表現記号、弦のカスタムチューニング、タブ譜上でリズムを表わすためのさまざまな表記規則などが含まれます。楽譜は、通常の音符の譜表とタブ譜に同時に表示することも個別に表示することもできます。これらの譜表はリンクされており、一方の譜表を編集するともう一方にも自動的に反映されます。「[タブ譜](#)」を参照してください。

その他の新機能

「プロジェクト情報」ダイアログ

- この新しいバージョンでは、「[プロジェクト情報 \(Project Info\)](#)」ダイアログが大幅に更新されています。作業中も開いたままにしておくことができ、フローリストが追加されたことで、複数のフローの情報を一度に選択して変更できるようになったほか、設定モードの「[フロー \(Flows\)](#)」パネルからだけでなく、このダイアログからでもフローの追加や削除を行なえるようになりました。また、すばやくアクセスできるようにデフォルトのキーボードショートカットが新たに割り当てられました。「[プロジェクト情報 \(Project Info\)](#)」ダイアログ」を参照してください。

カスタムエンドポイント設定

- カスタム再生テンプレートに関連して、特定のエンドポイントに割り当てられたエクスペリションマップやインストゥルメントの変更など、エンドポイント設定に対して行なった上書きをカスタムエンドポイント設定として保存できるようになりました。そのあと、他のプロジェクトにこれらを再利用したりカスタム再生テンプレートに含めたりできます。「[カスタムエンドポイント設定](#)」を参照してください。

複数の位置に小節番号を表示

- 同じ組段の複数の垂直位置に小節番号を表示できるようになりました。これは、指揮者が目線を大きく動かさなくても小節番号を確認できるように、大規模なオーケストラのスコアでよく使用されます。「[特定の譜表の上に小節番号を表示する](#)」を参照してください。

コード記号領域

- スラッシュ領域、または新機能のコード記号領域の上だけにコード記号を表示させることができるようになりました。これにより、特定の場所にもみコード記号を表示するプレーヤーに対して、コード記号の表示範囲を指定することが容易になります。「[コード記号領域](#)」を参照してください。

レイアウトの移調に従う音部記号

- 個々の音部記号を、移調音と実音のレイアウトのどちらに表示するかを選択できるようになりました。これはたとえば、フルスコアでは音部記号の変更が必要で、パート譜では必要ないというインストゥルメントがある場合に便利です。このような形で非表示になった音部記号は、音符のスペーシングに影響を与えません。「[レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする](#)」を参照してください。

歌詞のラインの垂直調節

- 個々の組段の歌詞のラインの垂直方向の表示位置を調節できるようになりました。「[歌詞のラインを垂直に移動する](#)」を参照してください。

曲線のアルペジオ記号

- 作曲者によっては、ゆるやかなアルペジオ奏法や部分的なアルペジオ奏法の指示に使うことがある曲線のアルペジオ記号を Dorico Pro でも使用できるようになりました。「[アルペジオ記号のタイプ](#)」を参照してください。

グリッサンドの再生

- グリッサンドラインが再生に反映されるようになりました。ハープの場合、グリッサンドラインに含まれているピッチは、ハープの現在のペダリング設定に応じて自動的に変化します。「[再生時のグリッサンドライン](#)」を参照してください。

その他

MIDI アクティビティインジケーター

- Dorico Pro では、接続されたデバイスから MIDI 入力を受信すると、ステータスバーに一時的に緑色のライトが表示されるようになりました。「[ステータスバー](#)」を参照してください。

「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログ

- この新しいダイアログは、開こうとしているプロジェクトに、コンピューターにインストールされていないフォントが含まれていることをユーザーに伝え、ユーザーはこのダイアログで置換フォントを選択できます。「[「存在しないフォント \(Missing Fonts\)」ダイアログ](#)」を参照してください。

フレーム密度表示

- Dorico Pro の既存の機能である組段密度表示のように、フレームの垂直方向の密度が適切か高いかを表示するフレーム密度表示が追加されました。「[フレーム密度表示](#)」を参照してください。

16 分音符のスウィング再生

- Dorico Pro では、スウィング再生の単位として 16 分音符を使用できるようになりました。「[スウィング再生](#)」を参照してください。

長休符の小節数のフォント

- 長休符の小節数に使用するフォントを、初期設定の太字のアラビア数字からプレーンフォントに変更できるようになりました。「[長休符の小節数に使用するフォントの変更](#)」を参照してください。

移調に影響されないインストゥルメントの続き番号

- Dorico Pro の新しいオプションにより、F のホルンと D のホルンのように移調の異なるインストゥルメントであっても、インストゥルメント番号を続き番号で生成できるようになりました。「[移調の異なるインストゥルメントの番号の扱いの別個/一緒に切り替える](#)」を参照してください。

はじめに

このたびは Dorico Pro をご購入いただきありがとうございます。

Steinberg の楽譜作成アプリケーションを末永くご愛用いただければ幸いです。

Dorico は、コンポーザー、編曲家、楽譜浄書家、出版社、演奏家、教員、学生などを対象ユーザーとした、美しい楽譜を作成できる次世代のアプリケーションです。Dorico は、楽譜を印刷する場合にも、デジタル形式で共有する場合にも最適な、非常に優れたプログラムです。

他のすべての Steinberg 製品と同様、Dorico は、その基礎部分から徹底して、ミュージシャンで構成されたチームによって設計されています。そしてミュージシャンだからこそ、ユーザーのニーズをしっかりと把握しており、使い方が簡単で覚えやすく、優れた結果を得られる製品を作り上げるために努力しています。また、Dorico と既存のワークフローを統合し、さまざまな形式でファイルを読み込んだり書き出したりできます。

Dorico は、ミュージシャンと同じ方法で音楽をとらえ、音楽の要素と実際の演奏に対し、他の楽譜作成アプリケーションよりも深い理解を備えています。独自の設計により、楽譜の入力や編集、スコアレイアウト、リズムの自由度、その他さまざまな関連領域について、これまでにない柔軟性を実現しています。

ぜひ本製品をご活用ください。

Steinberg Dorico チーム一同

プラットフォーム非依存文書

このマニュアルには、Windows と macOS の両方のオペレーティングシステム用の内容が記載されています。

一方の OS 固有の機能や設定は、その旨が明記されています。記載がない場合は、Windows と macOS の両方に当てはまります。

注意事項:

- このマニュアルでは macOS のスクリーンショットが使用されており、Dorico Pro のテーマは「Dark」が選択されています。
- Windows の「**ファイル (File)**」メニューで使用できる機能の一部は、macOS ではプログラム名メニューにあります。

表記規則

本書では、表記上およびマークアップの要素を使用して説明しています。

表記上の要素

表記上の各要素は、以下の目的で使用されます。

前提

手順を開始する前に完了しておくこと、または満たす必要がある条件を示します。

手順

特定の結果を得るために必要な手順を示します。

重要

システムや接続されたハードウェアに影響を及ぼす可能性のある事項、またはデータ損失のリスクを伴う事項を示します。

音符 (Note)

考慮すべき事項を示します。

ヒント

役に立つ追加の情報を表示します。

例

例を示します。

結果 (Result)

手順の結果を示します。

タスク終了後の項目

手順を実行したあとに行なう操作または必要事項を示します。

関連リンク

本書に記載のある関連トピックを示します。

強調表示

このマニュアルでは、ユーザーインターフェースの要素が強調表示されています。

メニュー、オプション、機能、ダイアログ、ウィンドウなどの名前は太字で表示されています。

例

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「プロジェクト情報 (Project Info)」を選択します。

太字が大なり記号で区切られている場合は、複数のメニューを連続で開くことを表わします。

例

「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」を選択します。

ファイル名とフォルダーパスは、別々のフォントで表示されます。

例

example_file.txt

キーボードショートカット

キーボードショートカットは、一緒に押すと設定されたタスクが実行されるキーの組み合わせです。初期設定のキーボードショートカットの多くは修飾キーを使用しますが、修飾キーの一部はオペレーティングシステムによって異なります。

本書では、修飾キーを伴うキーボードショートカットを記述する場合、Windows の修飾キー、macOS の修飾キーの順に記述します。記載例は次の通りです。

例

[Ctrl]/[command]+[Z] と記載されている場合、Windows では **[Ctrl]** キー、macOS では **[command]** キーを押したままで、**[Z]** キーを押すことを指しています。

Dorico Pro のキーボードショートカット

Dorico Pro のデフォルトのキーボードショートカットは、選択したキーボードのレイアウトによって変わります。

ツールまたは機能にマウスオーバーすると、表示されるメニューの括弧内に、そのツールや機能を有効または無効にするためのキーボードショートカットの情報が表示されます。

以下のいずれかの操作も実行できます。

- 「ヘルプ (Help)」 > 「キーボードショートカット (Key Commands)」を選択し、「Dorico キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」ウィンドウを開いて、すべての使用可能なキーボードショートカットを確認します。
- 「環境設定 (Preferences)」ダイアログで特定の機能やメニュー項目のキーボードショートカットを検索します。このダイアログでは、新しいキーボードショートカットを割り当てたり、デフォルトのキーボードショートカットを変更したりもできます。

関連リンク

[インタラクティブ「Dorico Pro キーボードショートカット \(Dorico Key Commands\)」マップ \(64 ページ\)](#)

[各機能のキーボードショートカットの検索 \(65 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(62 ページ\)](#)

[キーボードショートカットの割り当て \(66 ページ\)](#)

Steinberg 社の Web サイトへのアクセス方法

「ヘルプ (Help)」メニューから追加情報にアクセスできます。

このメニューには、Steinberg 社のさまざまな Web サイトへのリンクが表示されます。メニュー項目のいずれかを選択すると、Web ブラウザーが自動的に起動し、該当のページが開きます。開いたページから、サポート情報や互換性情報、FAQ、更新情報、他の Steinberg 製品の情報などにアクセスできます。

Web サイトにアクセスするには、コンピューターに Web ブラウザーがインストールされ、インターネットに接続されている必要があります。

ファーストステップ

この章は、初めて Dorico Pro を使用する場合の手助けとなります。

初めて Dorico Pro を起動する場合、プロジェクトを開始する前にまずテンプレートを 1 つ開いて Dorico Pro のユーザーインターフェースと機能を確認することをおすすめしますが、この章を飛ばして実際に操作しながら確認しても問題ありません。

以下のセクションでは、次のトピックについて説明します。

- 最も重要なワークスペースの概要
- 新規プロジェクトの設定
- 作曲およびスコアへの記譜項目の追加
- ページの配置および形式設定
- 作成した楽譜の再生
- 印刷と書き出し

操作の概要

以下のセクションでは、ユーザーインターフェースの概要を示し、Dorico Pro の構成について紹介します。

テンプレートを開く

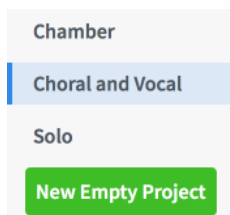
プロジェクトを開始する前に、Dorico Pro のユーザーインターフェースに慣れることをおすすめします。そのためには、まず、プログラムに含まれるテンプレートを 1 つ開きます。

前提条件

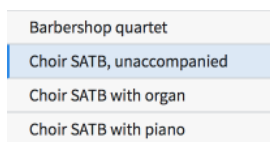
Dorico Pro を起動し、**Hub** が開いた状態にしておきます。

手順

1. **Hub** で、テンプレートグループを 1 つ選択します。たとえば、「**合唱および声楽 (Choral and Vocal)**」を選択します。



2. リストからテンプレートを 1 つ選択します。



3. 「**テンプレートから新規作成 (New from Template)**」をクリックします。
-

結果

テンプレートが開きます。テンプレートのプレーヤーがプロジェクトに追加され、譜表が楽譜領域に表示されます。

関連リンク

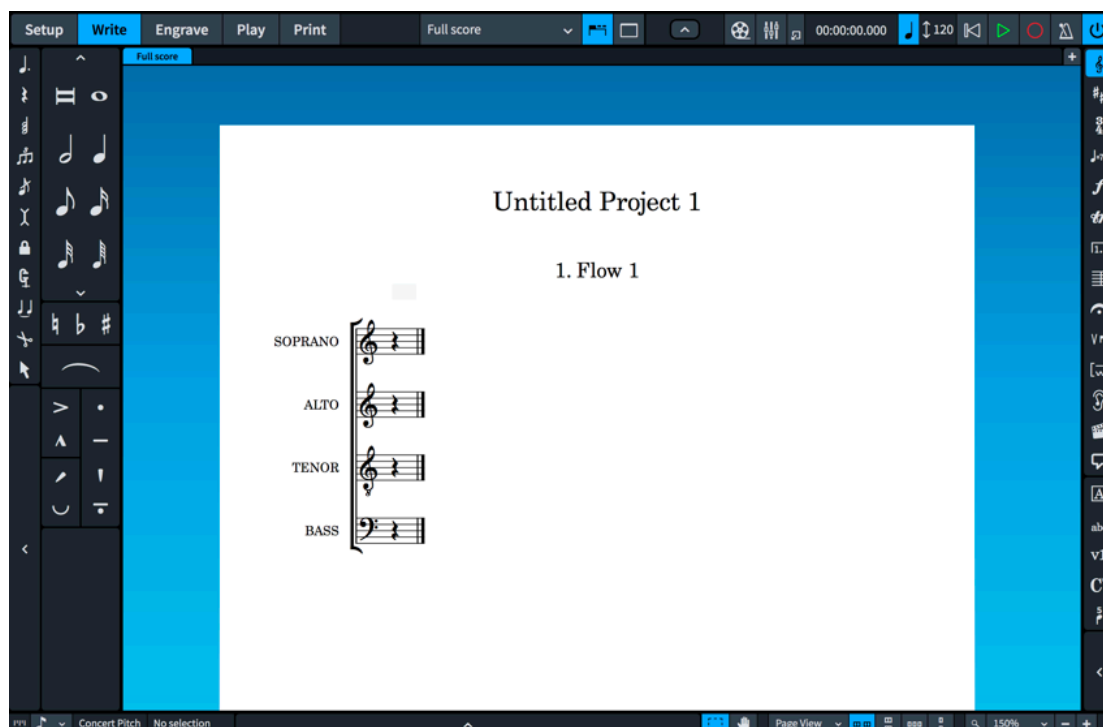
[Hub](#) (69 ページ)

ユーザーインターフェースのクイックツアー

Dorico Pro のユーザーインターフェースは、スコア作成のワークフローの異なるフェーズを表わす各種モードで構成されています。

すべてのモードで同じ構造のユーザーインターフェースを使用しています。プロジェクトウィンドウの中央には、楽譜を編集するための大きな領域が常に配置されます。各モードでは、プロジェクトウィンドウの左右および下部に、使用するモードに応じた折り畳み可能なパネルが表示されます。パネルの内容は、選択したモードにより変化します。

テンプレートを開くと、最初のビューに記譜モードのプロジェクトウィンドウが表示されます。



テンプレートを開いたときのプロジェクトウィンドウ

プロジェクトウィンドウは、以下の領域で構成されています。

ツールバー

プロジェクトウィンドウの上部に配置されています。



ツールバー

ツールバーの左側にモードが表示されます。モードを変更すると、ワークスペースと表示されるパネルが変わります。現在のモードは、異なる色で強調表示されます。ツールバーの中央にあるレイアウトオプションで、プロジェクト内の異なるレイアウトに切り替えたり、パネルとタブの表示/非表示を切り替えたりすることができます。

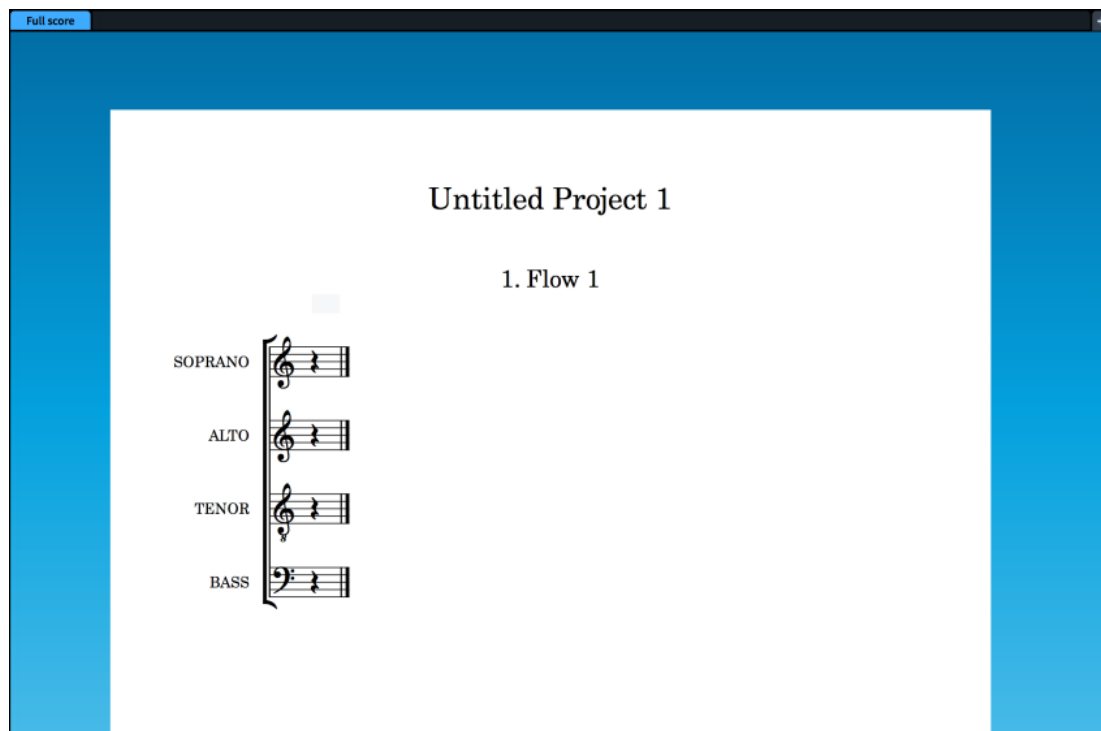
ツールバーの右側では、**ミキサー**を開いたり、さまざまな機能の中でも、再生と録音を行なうための基本的なトランスポートコントロールを使用したりできます。



「**ミキサーを表示 (Show Mixer)**」ボタン

楽譜領域

設定モード、記譜モード、および浄書モードにおけるプロジェクトウィンドウの大部分を占める領域です。楽譜の設定、入力、編集、形式設定は楽譜領域で行ないます。再生モードでは、楽譜領域はイベントディスプレイと呼ばれ、各音符はイベントとして表示されます。印刷モードでは、楽譜領域は印刷レビュー領域と呼ばれ、印刷内容や書き出す内容を画像として表示します。

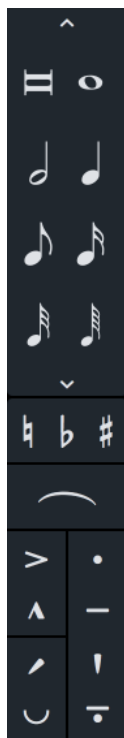


合唱テンプレートから新規作成したプロジェクトの記譜モードの楽譜領域

楽譜領域には、作成したスコアやパートが表示されます。楽譜領域の上部では、複数のレイアウトをタブにわけて表示し、切り替えることができます。Dorico Pro のレイアウトでは、楽譜を異なる形式で表示できます。たとえば、バイオリンのパートとファゴットのパートのように異なるパートのフルスコアがある場合、フルスコアのレイアウトと各パートのレイアウトを切り替えることができます。画面上のスペースを節約したり、個々のレイアウトに対して集中的に作業したりする場合は、タブを非表示にできます。

ツールボックス

ツールボックスはプロジェクトウィンドウの左右の端にあります。ツールボックスは現在のモードによって含まれるツールおよびオプションが異なりますが、一般的に、音符、記譜項目、フレームを入力および変更したり、対応するパネルに表示するオプションを設定したりできます。



記譜モードの音符パネル

ステータスバー

プロジェクトウィンドウの下部にあるステータスバーで、楽譜領域の異なるビューやページ配置を選択できます。ステータスバーはモードによって含まれるオプションが異なります。



ステータスバー

関連リンク

- [ユーザーインターフェース \(41 ページ\)](#)
- [ミキサー \(563 ページ\)](#)
- [トランスポートウィンドウ \(565 ページ\)](#)

モードの機能

モードは、スコアやパートを作成するためのワークフローのフェーズのことです。そのため、含まれるツールボックス、パネル、および機能はモードごとに異なります。

設定モード

設定モードでは、インストゥルメントやそのインストゥルメントを割り当てるプレーヤー、フロー、レイアウト、ビデオなど、プロジェクトの基本的な要素を設定できます。また、たとえばレイアウトに割り当てられたプレーヤーを変更するなど、それらが互いにどのように作用するかも設定できます。

設定モードでは、楽譜領域の楽譜を表示したり、他のタブやレイアウト間で表示を切り替えたりできますが、楽譜領域内のアイテムを選択したり、編集したりすることはできません。

設定モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[1]** を押します。
- ツールバーで「**設定 (Setup)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**設定 (Setup)**」を選択します。

記譜モード

記譜モードでは、楽譜を入力できます。また、アイテムの位置や音符のピッチを変更したり、音符やアイテムを削除したりして、楽譜を編集できます。ツールボックスとパネルを使用して、最も一般的に使用されるすべての音符および記譜項目を入力できます。

設計により、記譜モードで音符やアイテムの表示位置を動かすことはできません。表示位置の調整は浄書モードでのみ行なえます。

記譜モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[2]** を押します。
- ツールバーで「**記譜 (Write)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**記譜 (Write)**」を選択します。

浄書モード

浄書モードでは、音符やアイテムを微調整したり、プロジェクトのページレイアウトを決定したりできます。設計により、浄書モードでは浄書中のミスを防ぐために、音符やアイテムを削除したり、音符の位置やピッチを変更したりすることはできません。

浄書モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[3]** を押します。
- ツールバーで「**浄書 (Engrave)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**浄書 (Engrave)**」を選択します。

再生モード

再生モードでは、再生時に楽譜をどのように発音するかを変更できます。たとえば、再生テンプレートの変更や VST インストルメントの割り当て、オートメーションの入力、ミキシングの調節などを行なえるほか、再生時に記譜上のデュレーションに影響を与えずに音を発音するデュレーションを変更することもできます。

再生モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[4]** を押します。
- ツールバーで「**再生 (Play)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**再生 (Play)**」を選択します。

印刷モード

印刷モードでは、レイアウトを印刷したり、グラフィックファイルとして書き出したりできます。レイアウトの印刷時に、用紙サイズのほか、両面印刷や冊子印刷などのオプションを指定できます。レイアウトの書き出し時に、PDF や PNG などのさまざまな画像ファイル形式を指定できるほか、書き出す際のファイル名に含める情報も設定できます。

印刷モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[5]** を押します。
- ツールバーで「**印刷 (Print)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**印刷 (Print)**」を選択します。

関連リンク

[設定モード](#) (95 ページ)

[記譜モード](#) (156 ページ)

[浄書モード](#) (353 ページ)

[印刷モード](#) (602 ページ)

[再生モード](#) (502 ページ)

パネルの表示/非表示

1つまたは複数のパネルの表示/非表示を切り替えられます。たとえば、楽譜領域をさらに広く表示したい場合に便利です。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、パネルを個別にまたはすべてのパネルをまとめて非表示にします。
 - 左側のパネルの表示/非表示を切り替える場合:
[Ctrl]/[command]+[7] を押します。
メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左のパネルを表示 (Show Left Panel)**」 を選択します。
 - 右側のパネルの表示/非表示を切り替える場合:
[Ctrl]/[command]+[9] を押します。
メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**右のパネルを表示 (Show Right Panel)**」 を選択します。
 - 下部のパネルの表示/非表示を切り替える場合:
[Ctrl]/[command]+[8] を押します。
メインウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)**」 を選択します。
 - すべてのパネルの表示/非表示を切り替える場合:
[Ctrl]/[command]+[0] を押します。
「**パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)**」 をクリックします。



「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)**」 を選択します。

結果

対応するパネルの表示/非表示が切り替わります。パネルの横にチェックマークがあるときはガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示となります。

表示されているパネルをすべて非表示にすると、ツールバーの「**パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)**」 ボタンの外観が変わり、以前は表示されていて今は非表示となっているパネルが区別できるようになります。

例



パネルが表示されている



すべてのパネルが以前は表示されていて、今は非表示になっている

タブとウィンドウの操作

Dorico Pro では、作業スタイルに合わせてワークスペースを設定できます。

また、Dorico Pro では、複数のタブを開いて、同じウィンドウ内に同じプロジェクトの複数のレイアウトを表示できます。複数のウィンドウに同じプロジェクトを開くこともできます。

関連リンク

[ワークスペースの設定 \(54 ページ\)](#)

新規タブを開く


新規タブを開いて、同じプロジェクトウィンドウ内に異なるビューまたはレイアウトを表示できます。

各タブには、別のタブやウィンドウで既に開いている別のレイアウト、またはレイアウトの別のビューを表示できます。新規タブを開くと、タブに表示するレイアウトを選択する画面が表示されます。

タブは、ツールバーと楽譜領域の間にあるタブバーに表示されます。タブが表示されない場合は、ツールバーの「**タブを表示 (Show Tabs)**」をクリックします。

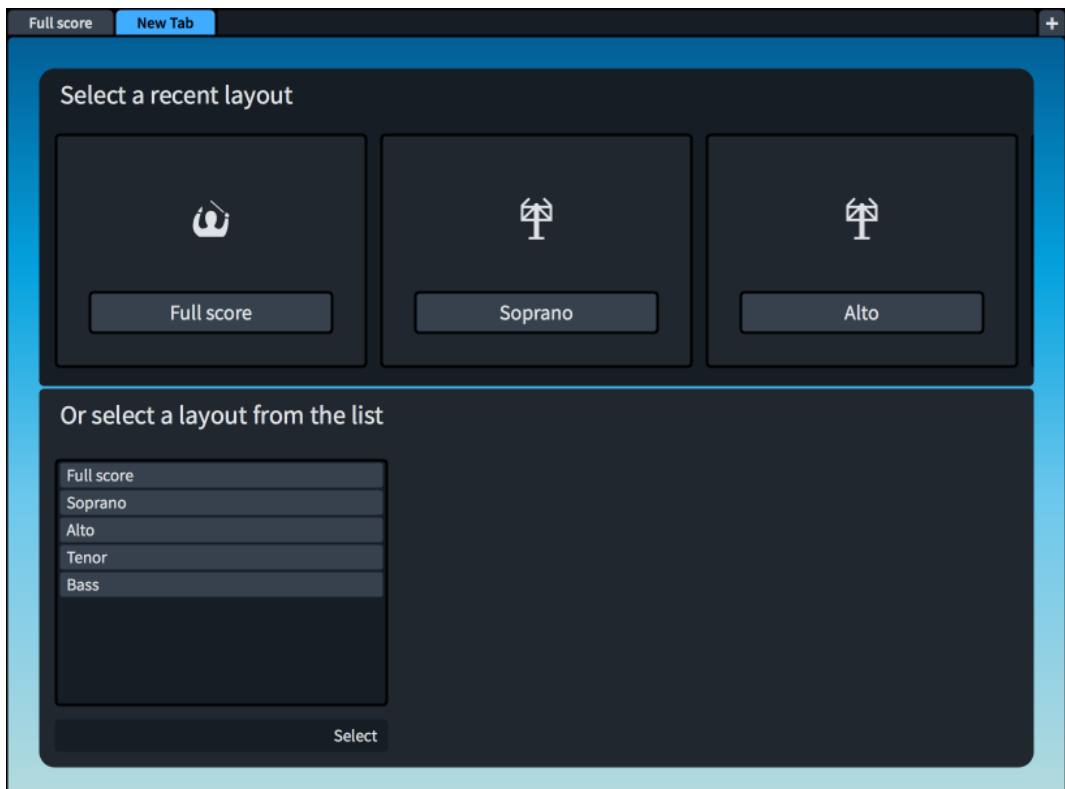


手順

- 新規タブを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - **[Ctrl]/[command]+[T]** を押します。
 - タブバーの右端にある「**新規タブ (New Tab)**」をクリックします。

 - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**新規タブ (New Tab)**」を選択します。

結果

新規タブを開くと、上部にアイコン、下部にレイアウトのリストが表示されます。



新規タブを開いたときに楽譜領域で選択可能なオプション

手順終了後の項目

アイコンをクリックするか、下部のリストからレイアウトを選択できます。または、ツールバーのレイアウトセレクターでレイアウトを選択できます。選択したレイアウトがアクティブなタブで開きます。

関連リンク

[タブバー \(45 ページ\)](#)

[ツールバー \(42 ページ\)](#)

新規ウィンドウを開く

同じプロジェクトを別のウィンドウに開くことができます。これはたとえば、同時に複数のレイアウトで作業する場合に便利です。また、1つのウィンドウでは記譜モード、別のウィンドウでは再生モードのように、複数のウィンドウで同じプロジェクトを異なるモードで表示できます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、新規プロジェクトウィンドウを開きます。
 - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[T]** を押します。
 - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**新規ウィンドウ (New Window)**」を選択します。

結果

ウィンドウの複製が開きます。元のウィンドウと同じタブと同じ表示オプションが表示されます。

関連リンク

[複数のプロジェクトウィンドウを開く \(58 ページ\)](#)

新規プロジェクトの開始

Dorico Pro のユーザーインターフェースの概要がつかめたら、楽譜の入力を始めましょう。ここでは、新規プロジェクトの設定方法を説明します。

前提条件

補足

この章に記載の入力内容と手順で使用されているイメージはすべて、あくまでも参考として提示された一例です。そのため、同じ内容を入力してイメージに表示されている結果を得る必要はありません。

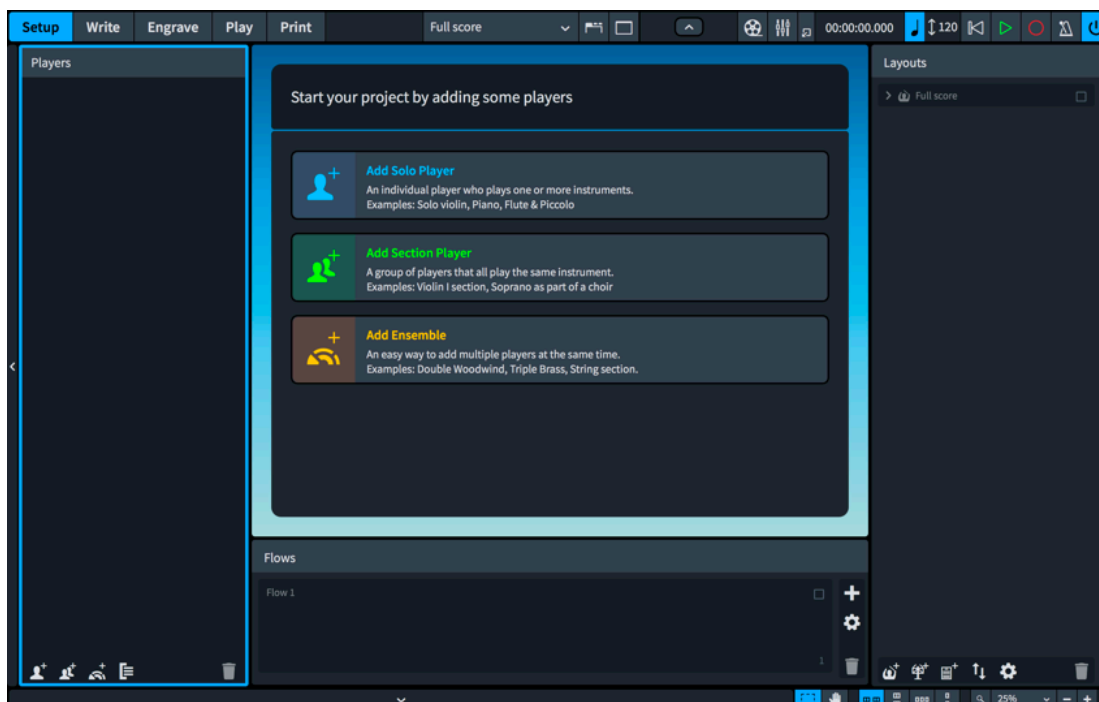
保存せずにテンプレートを閉じて、**Hub** を再び開いておきます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、新規プロジェクトを開始します。
 - **[Ctrl]/[command]+[N]** を押します。
 - 「**新規空白プロジェクト (New Empty Project)**」をクリックします。

結果

新しいプロジェクトウィンドウが開きます。



初期設定では、新規プロジェクトが設定モードで開始されます。そのため、すぐにプレーヤーを指定してインストゥルメントを割り当てることができます。中央の領域はプロジェクト開始領域と呼ばれ、異なるタイプのプレーヤーを含んだプロジェクトを開始できます。少なくとも1人のプレーヤーを追加すると、この領域は楽譜領域となります。

右側の「レイアウト (Layouts)」パネルには、「フルスコア (Full score)」レイアウトカードが表示されます。このレイアウトは、すべての新規プロジェクトに自動的に作成されます。

ウィンドウの下側には、プロジェクトの個別の楽譜の範囲を指定する「フロー (Flows)」パネルがあります。

手順終了後の項目

プレーヤーを追加し、そのプレーヤーにインストゥルメントを割り当ててプロジェクトを開始します。各種インストゥルメントを自由に割り当てることができます。以下の例では、1人のピアノプレーヤーを使用します。

関連リンク

[ウィンドウ](#) (41 ページ)

ソロプレーヤーの追加

ここでは、プレーヤーの追加方法とインストゥルメントの割り当て方法を説明します。

前提条件

新規プロジェクトを開始し、設定モードを開いておきます。

手順

1. 「**ソロプレーヤーを追加 (Add Solo Player)**」をクリックして、インストゥルメントピッカーを開きます。



2. インストゥルメントピッカーの検索フィールドに「**piano**」と入力します。

3. 「追加 (Add)」をクリックします。

結果

最初のプレイヤーが追加されました。楽譜領域には、該当する音部記号を含む必要なピアノ譜が表示されます。

手順終了後の項目

プロジェクトを保存します。プロジェクトの保存はいつでもできます。

必要に応じて、プロジェクトタイトルを編集したり、プレイヤーを追加したりします。

以下のセクションでは、フローとレイアウトを作成します。作曲を開始する場合は、これらのセクションを飛ばしても問題はありません。

関連リンク

[作曲](#) (28 ページ)

フローの作成

フローは、楽章や歌曲など、プロジェクト内の個別の楽譜の範囲のことです。ここでは、フローの作成方法を説明します。

前提条件

少なくとも1人のプレイヤーを設定し、設定モードを開いておきます。

手順

- 設定モードのウィンドウの下部にあるフローパネルで、「**フローを追加 (Add Flow)**」をクリックします。



結果

「**フローを追加 (Add Flow)**」をクリックするたびにプロジェクトに新規フローが追加されます。既存のすべてのプレイヤーが新規フローに割り当てられ、新規フローが既存のすべてのフルスコアとパートレイアウトに自動的に割り当てられます。

手順終了後の項目

フローカードをダブルクリックするとフロー名を変更できます。

「**プレイヤー (Players)**」パネルでプレイヤーのチェックボックスをオフにしてプレイヤーをフローから除外したり、「**レイアウト (Layouts)**」パネルでレイアウトのチェックボックスをオフにしてフローからレイアウトを除外したりすることもできます。

関連リンク

[フロー](#) (135 ページ)

[フロー名の変更](#) (148 ページ)

レイアウトの作成

ページサイズ、余白、譜表サイズなど、1つ以上のフローにある1人以上のプレイヤーの楽譜をどのように表示するかを定義します。ここでは、新規レイアウトの作成方法を説明します。

前提条件

少なくとも1人のプレイヤーと1つのフローを設定し、設定モードを開いておきます。

複数のプレイヤーが存在するアンサンブルでは、各プレイヤーの個々のパートのレイアウトが必要となる場合があるため、通常、複数のレイアウトを使用します。Dorico Pro では、すべてのプレイヤーとす

すべてのフローを含むフルスコアのレイアウトと、1人のプレーヤーとすべてのフローをそれぞれ含む個々のパートのレイアウトを自動的に作成します。2人のプレーヤー用の楽譜を含むパートなど、プレーヤーとフローの異なる組み合わせが必要な場合、以下のように任意のレイアウトを作成できます。

手順

- 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、「**パートレイアウトを追加 (Add Instrumental Part Layout)**」をクリックします。



結果

「**レイアウト (Layouts)**」パネルに空白のパート譜が作成されます。

手順終了後の項目

空白のパートカードするとレイアウト名を変更できます。

「**フロー (Flows)**」パネルでフローのチェックボックスをオンにしてレイアウトにフローを割り当てたり、「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーのチェックボックスをオンにしてレイアウトにプレーヤーを割り当てたりすることもできます。

作曲

プロジェクトの設定が完了したら、作曲を開始できます。

記譜モードでは、音符やその他の記譜記号をスコアに入力できます。

ヒント

Dorico Pro では、コンピューターキーボードのみでほとんどの作業が完了します。マウスやタッチパッドを使用する必要はありません。キーボードショートカットを覚えると、Dorico Pro を非常に効率よく操作できます。最も早い楽譜の入力方法は、MIDI キーボードを使用する方法です。MIDI キーボードを持っていない場合は、コンピューターキーボードを使用できます。もちろん、マウスやタッチパッドも使用できます。

以下のセクションでは、音符と記譜項目の入力方法を説明します。

最初の音符の入力

ここでは、音符の入力方法を説明します。最初に拍子記号や調号を追加することなく音符の入力を開始できます。

前提条件

- MIDI キーボードを設定しておきます。

補足

MIDI キーボードが設定されていない場合は、コンピューターキーボードで音符の入力を開始できます。

- 設定モードでピアノプレーヤーを 1 人追加しておきます。
- 記譜モードを選択しておきます。

手順

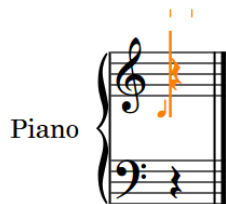
1. ソロプレーヤーを追加したときに調号の横に自動的に挿入された休符を選択します。



2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。

- **[Shift]+[N]** または **[Return]** を押します。
- 休符をダブルクリックします。

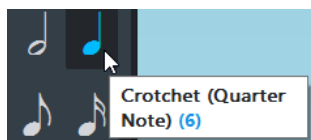
カーレットが有効になり、譜表上に表示されます。



3. 音符パネルでデュレーションを選択します。

補足

Dorico Pro の初期設定では、4 分音符が選択されます。



4. MIDI キーボードで音を鳴らしはじめるか、コンピューターキーボードで **[A]**、**[B]**、**[C]**、**[D]**、**[E]**、**[F]**、**[G]** のキーを押して対応するピッチを入力します。

入力された音よりもピッチを高く、または低くしたい場合は、音域を強制的に変更できます。

- 直前に入力した音符の上に音符を入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[A]**)。
- 直前に入力した音符の下に音符を入力するには、**[Ctrl]+[Alt] (Windows) 又は [Ctrl] (macOS)** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)**)。

補足

Mac の場合は、**[command]** ではなく、**[Ctrl]** を押してください。

結果

入力または再生したピッチは、音符として入力されます。

例



最後の音符を入力したあとにキュレットが有効になっている例

関連リンク

[記譜モード \(156 ページ\)](#)

[音符の入力中の音域の選択 \(178 ページ\)](#)

拍子記号の追加

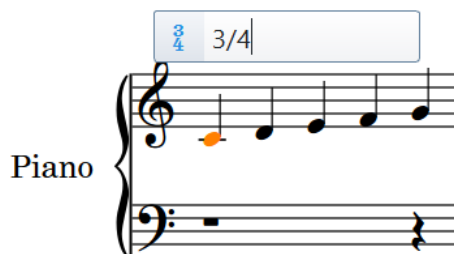
ここでは、譜表の最初に拍子記号を追加する方法を説明します。拍子記号は、メロディを入力する前でも入力した後でも追加できます。

前提条件

[Esc] を押してキュレットを無効にしておきます。

手順

1. 譜表の最初の音符を選択します。
2. **[Shift]+[M]** を押します。
譜表の上に拍子記号のポップオーバーが開きます。
3. ポップオーバーに「**3/4**」などの一般的な拍子記号を入力します。



4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果



拍子記号は音符の左側に自動的に挿入され、小節線が正しい位置に自動的に挿入されます。調号の挿入方法については、次のセクションを参照してください。

調号の追加

ここでは、調号の追加方法を説明します。調号を譜表上の任意の位置に追加できます。

新規プロジェクトを作成する場合、初期設定では調号は表示されません。作成する楽譜の種類によって、調号はCメジャー、または特定の調性の中心音を持たないオープンキーを意味する場合があります。

譜表上の任意の場所でキーを変更できます。例として、譜表の最初に異なる調号(たとえば、Dメジャー)を追加する手順を以下のとおり示します。

手順

1. 譜表の最初の音符を選択します。
2. **[Shift]+[K]** を押します。
譜表の上に調号のポップオーバーが開きます。
3. ポップオーバーに調号を入力します。Dメジャーを入力する場合は、大文字の「**D**」を入力します。Dマイナーを入力する場合は、小文字の「**d**」を入力します。



4. **[Return]** を押します。

結果



音部記号と拍子記号の間に調号が挿入されます。また、Dorico Pro が必要な箇所へ自動的に臨時記号を追加します。

最初の和音の入力

ここでは、コードモードを使用してコンピューターキーボードで和音を入力する方法を説明します。MIDI キーボードを使用する場合は、キーボードから和音を入力できるため、コードモードを使用する必要はありません。この場合、Dorico Pro が自動的に正しい音符を入力します。

前提条件

譜表上で最後の音符または休符を選択し、**[Return]** を押してキャレットを表示しておきます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、和音の入力を開始します。
 - **[Q]** を押します。
 - 音符ツールボックスの「**和音 (Chords)**」をクリックします。



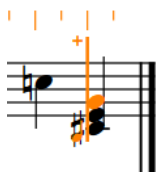
キャラットの上部に「+」記号が表示されます。



- 必要に応じて、音符パネルでデュレーションを選択します。
- [A]** ~ **[G]** のキーを 1 つずつ順に押して、和音に含める音符を入力します。たとえば、C メジャーのコードの場合、**[C]**、**[E]** および **[G]** を押します。

Dorico Pro は、初期設定で前の音符の上に新しい音符をそれぞれ追加します。音符の音域は手動で選択できます。

以下は結果の例を示しています。



- [Space]** を押して次の音符位置にキャラットを進め、次のコードを入力します。
Dorico Pro は、コード入力が無効になるまで、すべての入力をコードの入力として認識し続けます。
- 必要に応じてコードの入力を無効にするには、**[Q]** を押すか、音符ツールボックスの「和音 (Chords)」を再度クリックします。

関連リンク

[音符の入力中の音域の選択 \(178 ページ\)](#)

Dorico のコンセプト

Dorico は、そのデザイン方針から生まれたいくつもの重要なコンセプトに基づいています。

これらのコンセプトは Dorico での作業効率を大幅に向上させ、このマニュアルを使いこなすのに役立つため、しっかりと理解しておくことをおすすめします。

デザイン方針とハイレベルコンセプト

Dorico のような楽譜作成ソフトウェアはデザインについて深く考えて開発する必要があり、そのデザイン方針は楽譜作成アプリケーションをよく使うユーザーにとって特に興味深いかもしれません。Dorico は、コンピューター上の操作性よりも音楽的なコンセプトを重視した先進的なデザインを採用しており、多くのメリットを提供する製品です。

グラフィックを重視した他の多くの楽譜作成アプリケーションでは、譜表または譜表を作成するインストゥルメントの定義が最上位のコンセプトです。それらのアプリケーションでフルスコアを設定する場合、はじめに正しい数の譜表を追加し、そのあとすぐにレイアウトを決定しなければならなくなります。つまり、2本のフルートが譜表を共有するのか、個別の譜表を持つのかどうか、または使用するトランペットは2本なのか3本なのかをあらかじめ知っておく必要があります。これらの決定項目の多くは、個々のパートを入力、編集、および作成する過程の全体に大きく影響します。

通常、スコアの各組段には、特定の組段において非表示になっている譜表がある場合でも、同じ数の譜表を含める必要があります。つまり、同じインストゥルメントを複数のプレーヤーで演奏する場合には譜表を共有するようにするなど、全体に共通する表記規則を自分で管理する必要があります。このような手法には時間がかかり、必然的にミスの原因となります。

一方 Dorico は、あらかじめ作成されたスコアの設定に楽曲の演奏を従わせるのではなく、実際の楽曲の演奏方法に合わせてスコアを作成できるように設計されており、スコアというものを、実用的な演奏法を柔軟に表現するためのものに落とし込んでいます。

Dorico の最上位のコンセプトが、スコアを演奏する人であるミュージシャンのグループとなっているのはこのためです。スコアは、1つ以上のグループ(二部合唱、オーケストラとオフステージの室内楽アンサンブルなど)に対して作成できます。各グループには、1つ以上のインストゥルメントを演奏する人を表すプレーヤーが1人以上含まれています。プレーヤーは、1つ以上のインストゥルメントを演奏する個人(イングリッシュホルンを持ち替えるオーボエ奏者など)、または全員が同じ楽器を演奏するグループ(バイオリン奏者8人など)のいずれかです。

Dorico と他の楽譜作成アプリケーションの最大の違いは、音楽コンテンツとスコアを表示するレイアウトが独立して存在する点なのです。

スコアのグループによって演奏される実際の楽譜は、1つ以上のフローに属します。フローは、1歌曲全体、ソナタまたはシンフォニーの1楽章、ミュージカルの1曲め、音階練習曲もしくは練習曲など、任意の範囲の独立した楽譜です。フローによっては、プレーヤーが演奏する楽譜を持たない場合があります。たとえば、クラシックの交響曲のゆったりとした楽章ですべての金管楽器プレーヤーが演奏しない場合や、映画用のスコアで特定のプレーヤーが演奏しない場合があります。このような場合でも、フローにはあらゆる組み合わせのプレーヤーを含めることができるため問題ありません。

Dorico のデザイン方針にはいくつかのメリットがあります。最大のメリットは、同じ音楽コンテンツを共有するスコアをさまざまなレイアウトで作成できる点です。たとえば、1つのプロジェクトに、好きなだけの数のインストゥルメントをより少数の譜表に要約した指揮者用のスコア、各プレーヤーの楽譜を個別の譜表に記述したフルスコア、合唱のリハーサル用にピアノと声楽の譜表のみを含むカスタムスコアレイアウト、および特定のプレーヤーに属する楽譜のみを含めたパート譜などを作成できます。

Dorico のプロジェクト

プロジェクトは、Dorico Pro で作成する個別のファイルです。プロジェクトには、非常に短いものから非常に長いものまで、あらゆるインストゥルメントの組み合わせで書かれた複数の個別の楽譜を含めることができ、必要な数だけレイアウトを使用できます。

たとえば、1つのプロジェクトを作成して、バッハの『平均律クラヴィーア曲集』のすべての前奏曲とフーガを別々のフローに含めることができます。そのあと、1巻のフローだけを含むレイアウトを作成し、2巻のフローを含むもう1つのレイアウトを作成します。

記譜された楽譜に加え、プロジェクトには、適用されている再生テンプレート、マスターページ、オプションダイアログの設定といったその他の関連情報も保存されます。

Dorico のプロジェクトは .dorico ファイルとして保存されます。

関連リンク

[Dorico のフロー \(35 ページ\)](#)

[Dorico のレイアウト \(38 ページ\)](#)

Dorico のモード

Dorico Pro のモードは、スコア作成ワークフローのフェーズの論理的な順序を表わしますが、必要に応じていつでも切り替えることができます。

Dorico Pro には以下のモードがあります。

設定

設定モードでは、インストゥルメントやそのインストゥルメントを割り当てるプレーヤー、フロー、レイアウト、ビデオなど、プロジェクトの基本的な要素を設定できます。また、たとえばレイアウトに割り当てられたプレーヤーを変更するなど、それらが互いにどのように作用するかも設定できます。

設定モードでは、楽譜領域の楽譜を表示したり、他のタブやレイアウト間で表示を切り替えたりできますが、楽譜領域内のアイテムを選択したり、編集したりすることはできません。

記譜

記譜モードでは、楽譜を入力できます。また、アイテムの位置や音符のピッチを変更したり、音符やアイテムを削除したりして、楽譜を編集できます。ツールボックスとパネルを使用して、最も一般的に使用されるすべての音符および記譜項目を入力できます。

設計により、記譜モードでページ上の音符やアイテムの表示位置を動かすことはできません。表示位置の調整は浄書モードでのみ行なえます。

浄書

浄書モードでは、音符やアイテムの位置、サイズ、外観を微調整できるほか、マスターページの編集や作成も含め、プロジェクトのページレイアウトを設定できます。

設計により、浄書モードでは浄書中のミスを防ぐために、音符やアイテムを削除したり、音符の位置やピッチを変更したりすることはできません。

再生 (Play)

再生モードでは、再生時に楽譜をどのように発音するかを変更できます。たとえば、再生テンプレートの変更や VST インストゥルメントの割り当て、オートメーションの入力、ミキシングの調節などを行なえるほか、再生時に記譜上のデュレーションに影響を与えずに音を発音するデュレーションを変更することもできます。

印刷

印刷モードでは、レイアウトを印刷したり、グラフィックファイルとして書き出したりできます。レイアウトの印刷時に、用紙サイズのほか、両面印刷や冊子印刷などのオプションを指定できます。レイアウトの書き出し時に、PDF や PNG などのさまざまな画像ファイル形式を指定できるほか、書き出す際のファイル名に含める情報も設定できます。

関連リンク
[モードの機能](#) (21 ページ)

Dorico のフロー

フローとは、アルバム内の 1 歌曲、ソナタや交響曲の 1 楽章、ステージミュージカルの 1 曲め、数小節からなる短い音階練習曲や初見練習曲など、音楽コンテンツ内で完全に独立している、個別の楽譜の範囲のことです。1 つのプロジェクトに複数のフローを含めることができます。

各フローには、ほかのフローからは独立した形で、プレーヤーを任意に組み合わせた楽譜を含めることができます。たとえば、古典派の交響曲の第 2 楽章で、金管楽器のプレーヤーがタチェットになることは珍しくありません。この場合、第 2 楽章のフローから金管楽器のプレーヤーを削除し、ほかの楽章のフローには残すことができます。映画のキューなどでは、一部のキューにおいて特定のプレーヤーが必要とされないことがあります。この場合、該当のフローには演奏するプレーヤーのみを含めることができます。

Dorico Pro では、フローにプレーヤーを正しく割り当てると、個々のパートに対してタチェットシートを自動的に生成できます。

関連リンク
[フロー](#) (135 ページ)
[タチェット](#) (474 ページ)

Dorico のプレーヤー

Dorico Pro におけるプレーヤーとは、1 人のミュージシャンまたは同じセクション内の複数のミュージシャンのことを指します。プレーヤーにはインストゥルメントを割り当てることができ、インストゥルメントを追加するにはプロジェクトに少なくとも 1 人のプレーヤーを追加しておく必要があります。

- ソロプレーヤーとは、1 つ以上のインストゥルメントを演奏できる 1 人のプレーヤーを指します。たとえば、アルトサクソフォンも演奏するクラリネット奏者や、バスドラム、シンバル、トライアングルを演奏する打楽器奏者がソロプレーヤーです。
- セクションプレーヤーとは、全員が同じインストゥルメントを演奏する複数のプレーヤーを指します。たとえば、オーケストラの第 1 バイオリンセクションの 8 人のバイオリン奏者からなるバイオリンセクションプレーヤーや、混声合唱のソプラノパートのソプラノセクションプレーヤーなどがあります。

補足

セクションプレーヤーは、複数のインストゥルメントを演奏することはできませんが、分奏 (ディヴィジ) することはできます。つまり、セクションプレーヤーを小規模なユニットに分けることができます。これは、一般的に弦楽器で必要とされる機能です。

このプレーヤーというコンセプトのおかげで、Dorico Pro ではインストゥルメントの変更、分奏 (ディヴィジ)、複数のプレーヤーの楽譜をより少ない数の譜表へ要約するなどの作業を非常に簡単に行なうことができます。

また、大規模な楽譜でオンステージプレーヤーとオフステージプレーヤーを区別する場合など、プレーヤーをグループ化することもできます。プレーヤーのグループ化とは、プレーヤーをまとめてスコア上に配置し、グループ外のプレーヤーとは別に通し番号を付け、各レイアウトに設定されたアンサンプルタイプに応じてそれらを括弧で括弧することを意味します。

関連リンク
[プレーヤー](#) (110 ページ)
[プレーヤーグループ](#) (133 ページ)
[ディヴィジ](#) (1192 ページ)
[コンデンシング](#) (477 ページ)
[アンサンプルタイプによる大括弧でのグループ化](#) (696 ページ)

Dorico のインストゥルメント

Dorico Pro における、インストゥルメントとは、ピアノ、フルート、バイオリンなど、個々の楽器を指します。またソプラノやテナーなどのボーカルもインストゥルメントと見なされます。

演奏者が楽器を持つと同じように、Dorico Pro ではプレーヤーがインストゥルメントを持ちます。セクションプレーヤーが持てるインストゥルメントは1つだけですが、ソロプレーヤーは複数のインストゥルメントを持つことができます。これにより、オーボエとイングリッシュホルンを持ち替えるプレーヤーのインストゥルメントを切り替える場合などに、インストゥルメントを簡単に変更できます。

各インストゥルメントには独自の譜表が自動的に割り当てられますが、インストゥルメントの変更を許可した場合は、音符が重ならない限り、同じソロプレーヤーに割り当てられた複数のインストゥルメントの楽譜が1つの譜表に表示されます。

Dorico Pro には、各インストゥルメントのプロパティに関する情報のデータベースがあります。これには、音域、一般奏法および特殊奏法、記譜の規則、調性、チューニング、音部記号、譜表の数、譜表タイプなどが含まれます。これらのプロパティをあらかじめ定義しておくことで、プロジェクトの正しい設定を簡単かつ迅速に行なうことができます。たとえば、ホルンのパートレイアウトに対して適切な調性と音部記号が設定されたホルンのインストゥルメントを選択すれば、レイアウトごとに音部記号を入力する必要はありません。同様に、すべての調号を非表示にするティンパニのインストゥルメントもあります。

関連リンク

[インストゥルメント \(115 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(117 ページ\)](#)

[移調楽器 \(118 ページ\)](#)

ポップオーバー

ポップオーバーを使用すると、コンピューターのキーボードのみを使用して、さまざまな記譜記号を入力したり、選択した音符の移調などのタスクを実行したりできます。ポップオーバーはさまざまなアイテムやタスク用のテキストエントリーを使用する一時的な数値フィールドであり、目的ごとに専用のポップオーバーがあります。



エントリーの例が入力された強弱記号のポップオーバー

ポップオーバーの主なメリットは、音符を入力しながら使用できるという点です。たとえば、新しい拍子記号を入力したい位置まできたら、キーボードショートカットを使用して拍子記号のポップオーバーを開き、使用する拍子記号を入力し、音符の入力を続けることができます。

多くの記譜記号に対して特定のエントリーを入力する必要がありますが、各記譜記号のエントリーは一貫して論理的に構造化されています。たとえば、連符は常に、3:2 や 5:4 などの比率で表わされます。調号は、メジャーキーには大文字、マイナーキーには小文字を使用して表わされます。拍子記号は一對の数字で表わされ、一般的な拍子記号には、3/4 や 6/8 のようにスラッシュを使用します。

音符の入力中は、それぞれのポップオーバーを使用して入力する記譜記号に応じて、現在選択されている音符 (通常は最後に入力した音符)、またはキャレットが表示されている現在の位置のいずれかに記譜記号が入力されます。

ポップオーバーの種類は、左側のアイコンを見ることでいつでも確認できます。ウィンドウの右側の記譜ツールボックスにも同じアイコンが使用されており、そのアイコンをクリックすることで記譜パネルの表示/非表示を切り替えることができます (マウスを使用して記譜記号を入力する場合は、記譜パネルから行ないます)。

記譜モードは音符とアイテムを一緒に入力したり音符のピッチを変更したりできる唯一のモードであり、ポップオーバーは記譜モードでのみ使用できます。

関連リンク

[キャレット](#) (171 ページ)

[音符の入力](#) (171 ページ)

[記譜記号の入力](#) (214 ページ)

Dorico の音符と休符

Dorico では、音符と休符の記譜や分割は、表記規則に基づくルールによって意味的に決定されます。これはつまり、音符と休符のデュレーションがあとから変化し、最初にそれらを入力したときとは異なる形で表示される場合があることを意味しています。

Dorico は以下の主要なコンセプトに基づいており、コンテキストに応じて音符と休符の記譜方法を更新できます。

- 1 複数の音符がタイで連結されたタイのつながりとして表示される場合であっても、音符は1つのユニットとして扱われます。
- 2 入力した音符間の間隔は、暗黙の休符が自動的に埋めます。

拍子記号を入力すれば、それに対応する拍子を Dorico が理解し、任意のデュレーションに必要な音符を入力するだけで記譜できるようになります。たとえば、音符の間に休符を入力したり、半小節をまたぐ音符にタイを入力したりする必要はありません。拍子記号の変更や音符の開始位置の移動をあとから行なうと、小節線をまたいだ4分音符をタイでつながれた2つの8分音符として記譜したり、同じ小節内にある2つの8分休符を1つの4分休符に統合したりするなど、音符と休符の記譜方法が自動的に更新されます。

既存の音符をタイで連結すると、それらが1つの音符に変換されたり(タイでつながれた2つの4分音符ではなく2分音符が表示されるなど)、より多くの音符が含まれるタイのつながりに変換されたりする場合があります。これは、Dorico ではタイのつながりが1つの音符として扱われ、デュレーション、現在の拍子記号、小節内の音符の位置に応じて、Dorico が自動的に音符を適切に記譜し、連桁で連結するためです。同様に、タイで連結された4分音符と8分音符の後ろに休符ではなく8分音符を入力した場合に付点4分音符になるなど、直後に入力した音符によってコンテキストが変化し、音符が変換されることがあります。

ヒント

記譜モードでは、タイのつながりが1つの音符として扱われるため、タイのつながりの一部を選択するとタイのつながり全体が選択されます。ただし、キャレットを有効にしてタイのつながりの中の必要な位置に移動すれば、強弱記号などの記譜記号をタイのつながりの途中に入力することもできます。

音符と休符のグループ化および連桁のグループ化のデフォルト設定はフローごとに変更できます。たとえば、タイのつながりの中で現在の拍子とは異なる形で分割された拍を指定する場合など、個々の音符と休符のデュレーションを強制できます。

関連リンク

[音符](#) (898 ページ)

[タイ](#) (1235 ページ)

[暗黙の休符と明示的な休符](#) (1121 ページ)

[音符と休符のグループ化](#) (692 ページ)

[拍に従う連桁グループ](#) (676 ページ)

[連桁のグループ化に関するフローごとの記譜オプション](#) (676 ページ)

[キャレット](#) (171 ページ)

[音符の入力](#) (176 ページ)

[音符/休符のデュレーションの強制](#) (181 ページ)

[タイの入力](#) (196 ページ)

位置

Dorico では、特定の拍子記号を持つ個々の小節内の位置ではなく、フロー内の音楽的時間における場所で計算される位置に音符やアイテムが配置されています。

Dorico における音楽的時間とは、各フローの開始位置から始まる拍数を意味します。たとえば、4/4 拍子の第 4 小節の 3 拍めにある音符は、Dorico では拍子記号や小節内の位置に関係なく 15 拍めにある音符と見なされます。

このアプローチが大きな柔軟性をもたらします。たとえば、Dorico では小節や拍子記号と関係なく音符やアイテムが存在しているため、音符同士の相互関係を変更したり、各小節の最後に休符を追加したりすることなく拍子記号を変更できます。かわりに、小節線が別の位置に移動し、これにより小節線や半小節をまたいだ 4 分音符をタイでつながれた 2 つの 8 分音符として記譜するなど、必要に応じて音符のグループ化が更新されます。さらには、拍子記号を入力することなく音符の入力を始めることもできます。

同様に、挿入モードを使用すれば、音符を誤って記譜するリスクを冒すことなく、音符を前や後ろに簡単に動かすことができます。また、アイテムは音符に連結されているのではなく、特定の位置に存在しているため、楽譜内のアイテムを音符とは切り離して考えることができます。

Dorico では、音符やアイテムの位置は、ページ上の表示位置とは区別されます。そのため、楽譜内の適用する位置にアイテムを入力したあとで表示位置を動かしても、アイテムが別の音符に適用されたり、長休符が意図せず分割されたりすることがありません。これは、たとえば弦楽器で小節の最初からピチカートを適用する場合に、垂直方向のスペーシングが狭く、「pizz.」の指示を少しだけ横に動かしたい場合などに便利です。アイテムは適用される位置に連結線で接続されるため、そのアイテムがどこに属しているかは常に明らかです。

関連リンク

[音符と休符のグループ化](#) (692 ページ)

[連桁グループ](#) (675 ページ)

[拍子記号](#) (1251 ページ)

[挿入モードでの音符の挿入](#) (187 ページ)

[音符](#) (898 ページ)

[キャレット](#) (171 ページ)

[リズムグリッド](#) (170 ページ)

Dorico のレイアウト

レイアウトでは、ページ形式および浄書のルールに従って、フローなどの音楽コンテンツを組み合わせることができます。また、レイアウトを使用すると、さまざまな形式での書き出しや印刷に利用できるページ番号付きの楽譜を作成できます。たとえば、パートレイアウトにはその演奏者の楽譜のみが含まれ、フルスコアレイアウトにはプロジェクト内のすべての譜表が含まれます。

アンサンブルの一般的なプロジェクトには、複数のレイアウトが含まれます。たとえば、3 つの楽章で構成される弦楽四重奏の楽譜には、4 人のソロプレイヤー (バイオリン 2 人、ヴィオラ 1 人、チェロ 1 人) および 3 つのフロー (各楽章に 1 つずつ) が含まれます。このようなプロジェクトに必要なレイアウトは以下の 5 つです。

- 個々のパート (ソロプレイヤー) の 3 つのフローすべての楽譜を含むレイアウト 4 つ
- フルスコア (3 つのフローすべて、4 人のプレイヤーすべての楽譜) を含むレイアウト 1 つ

各レイアウトでは、譜表サイズ、音符のスペーシング、組段の形式を含む、楽譜の外観に関するあらゆる側面を個別に制御できます。レイアウトはそれぞれ、ページサイズ、余白、全ページに表示されるヘッダー、フッターなどの個別のページ形式設定を持つ場合があります。

レイアウトのデフォルトのページ形式設定は、マスターページで定義されています。

関連リンク

[レイアウト](#) (138 ページ)

[ページ形式設定 \(440 ページ\)](#)

Dorico のマスターページ

マスターページは Dorico Pro のテンプレートのように機能し、同じページの形式設定を別のレイアウトの複数の別のページに適用できます。

マスターページには、フレームの配置が含まれています。フレームは、テキスト、楽譜、グラフィックを表示できるボックスです。デフォルトのマスターページには、ページ番号と欄外見出しの情報を表示するテキストフレームがページの一番上に配置され、その下にページの大部分を占める楽曲フレームが配置されています。

スコアとパートの全ページには、マスターページのレイアウト形式が引き継がれます。マスターページを作成したり何らかの変更を加えたりすると、そのマスターページを使用するページに自動で反映されます。たとえば、新規フレームをマスターページに挿入すると、ページの優先が設定されているページ以外の、そのマスターページを使用するすべてのページに対応するフレームが表示されます。

補足

Dorico Pro では、レイアウト内の個々のページを変更すると、ページの形式変更の一種であるページの優先が設定されます。これは、たとえばマスターページエディターでの編集ではなく、1つのページのタイトルや欄外見出しを編集した場合などです。ページの優先が設定されたページはマスターページを変更しても更新されず、レイアウトが短くなり空になっても自動的に削除されません。

関連リンク

[マスターページ \(364 ページ\)](#)

[フレーム \(390 ページ\)](#)

[ページの形式変更 \(376 ページ\)](#)

Dorico Pro のオプションダイアログ

楽譜の外観および Dorico Pro の機能のデフォルト設定を制御するオプションを、そのタイプと目的に応じてさまざまなダイアログで使用できます。

Dorico Pro には、グローバル設定に対する以下のダイアログがあります。

レイアウトオプション (Layout Options)

ページサイズ、譜表サイズ、小節番号の外観や位置など、レイアウトごとに変わる可能性が高いオプションが含まれます。「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で設定したオプションは選択しているレイアウトにのみ影響しますが、そのレイアウトのすべてのフローに適用されます。

記譜オプション (Notation Options)

連桁のグループ化や臨時記号の有効範囲ルールなど、フローごとに変わる可能性が高いオプションが含まれます。「**記譜オプション (Notation Options)**」で設定したオプションは選択しているフローにのみ影響しますが、それらのフローが表示されているすべてのレイアウトに適用されます。

音符入力オプション (Note Input Options)

MIDI キーボードを使用したコード記号の作成など、入力の処理方法に関するオプションが含まれます。「**音符入力オプション (Note Input Options)**」で設定したオプションはプロジェクト全体に影響しますが、設定をデフォルトとして保存しない限り、他のプロジェクトには影響しません。

浄書オプション (Engraving Options)

音符やアイテムの外観および位置を高精度で制御するオプションが含まれます。たとえば、クレッシェンドをヘアピン表記とテキスト表記のどちらで表示するかを設定したり、連桁内の音程の間隔に従って連桁の傾斜を設定したりできます。「**浄書オプション (Engraving)**

Options)」で設定したオプションはプロジェクト全体に影響しますが、設定をデフォルトとして保存しない限り、他のプロジェクトには影響しません。

再生オプション (Playback Options)

再生時に何の音を出すか、また記譜項目の再生方法 (強弱記号の種類による音量の変化を設定する強弱のカーブ、反復を再生するか、フローとフローの間に間隔を空けるかなど) を制御するオプションが含まれます。「**再生オプション (Playback Options)」**で設定したオプションはプロジェクト全体に影響しますが、設定をデフォルトとして保存しない限り、他のプロジェクトには影響しません。

関連リンク

[「レイアウトオプション」ダイアログ](#) (106 ページ)

[「記譜オプション」ダイアログ](#) (164 ページ)

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ](#) (167 ページ)

[「浄書オプション」ダイアログ](#) (362 ページ)

[「再生オプション」ダイアログ](#) (509 ページ)

ユーザーインターフェース

Dorico Pro のユーザーインターフェースは、すべての重要なツールをすぐに使えるようにしながら、できる限り邪魔にならないように設計されています。

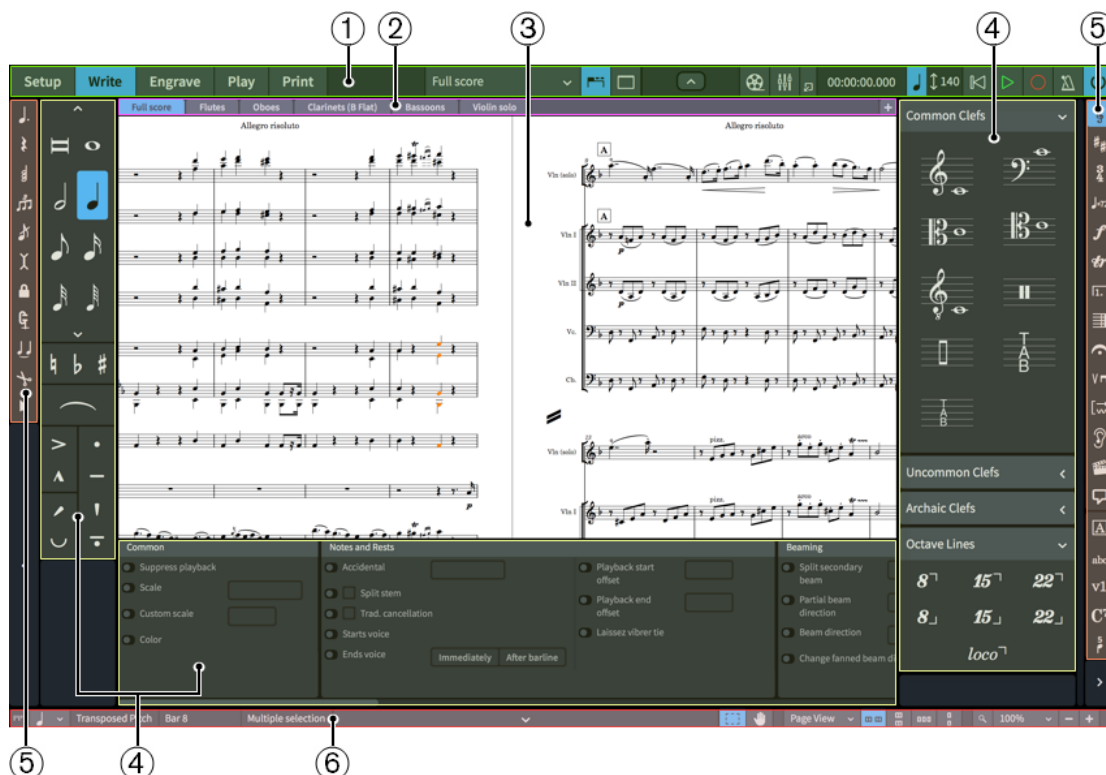
プロジェクトに不要な変更を加えずにインターフェースを操作できます。誤って編集した場合はいつでも元に戻したり、保存せずにプロジェクトを閉じたりできます。

ウィンドウ

Dorico Pro には、プロジェクトウィンドウとフローティングウィンドウがあります。

プロジェクトウィンドウ

同じまたは別のプロジェクトを複数のプロジェクトウィンドウで開くことができます。プロジェクトウィンドウは、複数の領域で構成されています。



プロジェクトウィンドウ

1 ツールバー

各モードや、ワークスペースオプション、ミキサー、ビデオウィンドウ、および主なトランスポートオプションにアクセスできます。

2 タブバー

設定モード、記譜モード、および浄書モードでは、現在開いているタブがタブバーに表示されません。楽譜領域を分割して複数のタブを開く場合は、タブグループが表示されます。

3 プロジェクト開始領域/楽譜領域/イベントディスプレイ/印刷プレビュー領域

新規空白プロジェクトを設定すると、設定モード、記譜モード、および浄書モードのこの領域にプロジェクト開始領域が表示され、最初のプレーヤーを追加できます。プレーヤーまたはアンサンプルを追加すると、この領域は楽譜領域となり、設定、記譜、編集、および形式設定を行なうスコアの全体または一部を表示します。再生モードでは、スコアの再生をコントロールするエフェクトを表示するイベントディスプレイがこの領域に表示されます。印刷モードでは、プロジェクトがどのように用紙に印刷されるか、またはどのように画像ファイル形式に書き出されるかを印刷プレビュー領域にプレビューとして表示します。

4 パネル

楽譜の作成や編集に必要な音符および記譜記号が表示されます。それぞれのパネルには、モードごとに異なるアイテムや機能が含まれます。

5 ツールボックス

楽譜の入力や編集に使用できるアイテムやツールにアクセスできます。それぞれのツールボックスには、モードごとに異なるアイテムやツールが含まれます。

6 ステータスバー

楽譜領域の異なるビューやページ配置を選択できます。また、ズームオプションや楽譜領域で選択しているアイテムの概要も表示されます。

フローティングウィンドウ

Dorico Pro では、**ミキサー**ウィンドウや**トランスポート**ウィンドウなどのフローティングウィンドウを開くことができます。フローティングウィンドウは、メインウィンドウで選択したモードとは関係なく、表示/非表示を切り替えられます。以下のオプションでフローティングウィンドウの表示/非表示を切り替えられます。

ミキサーを表示 (Show Mixer)



ミキサーウィンドウを開いたり閉じたりします。

トランスポートバーを表示 (Show Transport Bar)



トランスポートウィンドウを開いたり閉じたりします。

ビデオを表示 (Show Video)



ビデオウィンドウを開いたり閉じたりします。

関連リンク

[複数のプロジェクトウィンドウを開く \(58 ページ\)](#)

ツールバー

各モードや、ワークスペースオプションに加え、**ミキサー**および主なトランスポートオプションを選択できます。ツールバーは、使用するツールに関係なくすべてのモードで使用できます。

- ツールバーは、ツールバーの上にある展開矢印マークをクリックするか、**[Ctrl]/[command]+[6]**を押して表示/非表示を切り替えられます。



ツールバーには以下の項目が含まれます。

1 モード

プロジェクトウィンドウで選択できるワークスペースです。スコアを作成するワークフローの異なるフェーズのことを指します。メインプロジェクトウィンドウの幅が著しく狭い場合は、モードボタンがメニューに切り替わります。

2 ワークスペースオプション

楽譜領域に開くレイアウトを選択したり、作業環境を変更したりするオプションです。

3 ビデオを表示 (Show Video)

ビデオウィンドウを開いたり閉じたりします。

4 ミキサーを表示 (Show Mixer)

ミキサーウィンドウを開いたり閉じたりします。

5 ミニトランスポート

「再生 (Play)」、「録音 (Record)」、「クリック (Click)」を含む、主なトランスポート機能に素早くアクセスできます。

6 プロジェクトの有効化 (Activate Project)

複数のプロジェクトを開いている場合、再生用に有効化されているプロジェクトを示します。

ワークスペースオプション

ツールバー中央のワークスペースオプションでは、異なるレイアウトを選択したり、作業環境を変更したりできます。

レイアウトセレクター



現在のタブに表示するレイアウトを選択できます。

タブを表示 (Show Tabs)

楽譜領域の上にあるタブバーの表示/非表示を切り替えます。



タブバーが非表示になっている



タブバーが表示されている

パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)

すべてのパネルの表示/非表示を切り替えます。



パネルが表示されている



すべてのパネルが以前は表示されていて、今は非表示になっている

ミニトランスポート

ツールバーの右にあるミニトランスポートから、Dorico Pro の主なトランスポート機能に素早くアクセスできます。

トランスポートバーを表示 (Show Transport Bar)



「トランスポート (Transport)」ウィンドウを開きます。

タイムディスプレイ

以下のいずれかの形式で、再生ヘッドの位置が表示されます。

- 小節、拍、およびティック
- 経過時間 (時間、分、秒、ミリ秒の順)
- タイムコード (時間、分、秒、フレームの順)

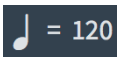

		
小節と拍が表示されたタイム ディスプレイ	経過時間が表示されたタイム ディスプレイ	タイムコードが表示されたタ イムディスプレイ

タイムディスプレイをクリックすると、表示形式を切り替えられます。

固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)

再生と録音の両方に使用されるテンポが表示されます。再生ヘッドの現在の位置に従って値が、現在のモードに従って外観が変化します。

テンポモードを切り替えるには、拍の単位をクリックします。固定テンポモードで使用されるメトロノームマークの値は、数字をクリックして上下にドラッグすることで変更できます。

	
固定テンポモードがオンのときの「固定テンポ モード (Fixed Tempo Mode)」の表示	追従テンポモードがオンのときの「固定テンポ モード (Fixed Tempo Mode)」の表示

フローの最初に巻き戻し (Rewind to Beginning of Flow)



フローの最初に再生位置を移動します。

再生 (Play)

再生ヘッドの位置で再生を開始/停止します。



再生の停止時



再生中

録音 (Record)



MIDI 録音を開始/停止します。

クリック (Click)



再生および録音中にメトロノームクリックを再生/ミュートします。

プロジェクトの有効化 (Activate Project)



複数のプロジェクトを開いている場合、再生用に有効化されているプロジェクトを示します。

ヒント

「トランスポート (Transport)」ウィンドウには、追加のトランスポート機能が含まれます。

関連リンク

[トランスポートウィンドウ \(565 ページ\)](#)

[楽譜の再生 \(550 ページ\)](#)

[再生ヘッドの移動 \(548 ページ\)](#)

[テンポモードの変更 \(554 ページ\)](#)

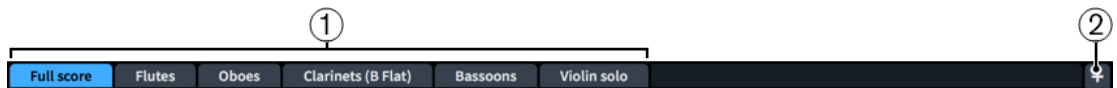
[トランスポートディスプレイに表示する内容の変更 \(567 ページ\)](#)

タブバー

Dorico Pro のタブバーを使用すると、同じプロジェクトウィンドウ内で異なるレイアウトを表示できます。タブバーは、ツールバーと楽譜領域の間にあります。

ヒント

タブバーが表示されていない場合は、ツールバーの「**タブを表示 (Show Tabs)**」をクリックします。「**タブを表示 (Show Tabs)**」がオンになっている場合、タブが1つしか開いていなくてもタブバーは常に表示されます。

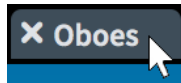


タブバーには以下のものが含まれます。

1 タブ

現在開いているすべてのタブが、開いた順番で左から右へ並べられて表示されます。各タブは、選択したレイアウト名でラベル付けされます。楽譜領域で現在開かれているタブは強調表示されます。

それぞれのタブの上にマウスを合わせると「**x**」が表示され、クリックするとタブが閉じます。

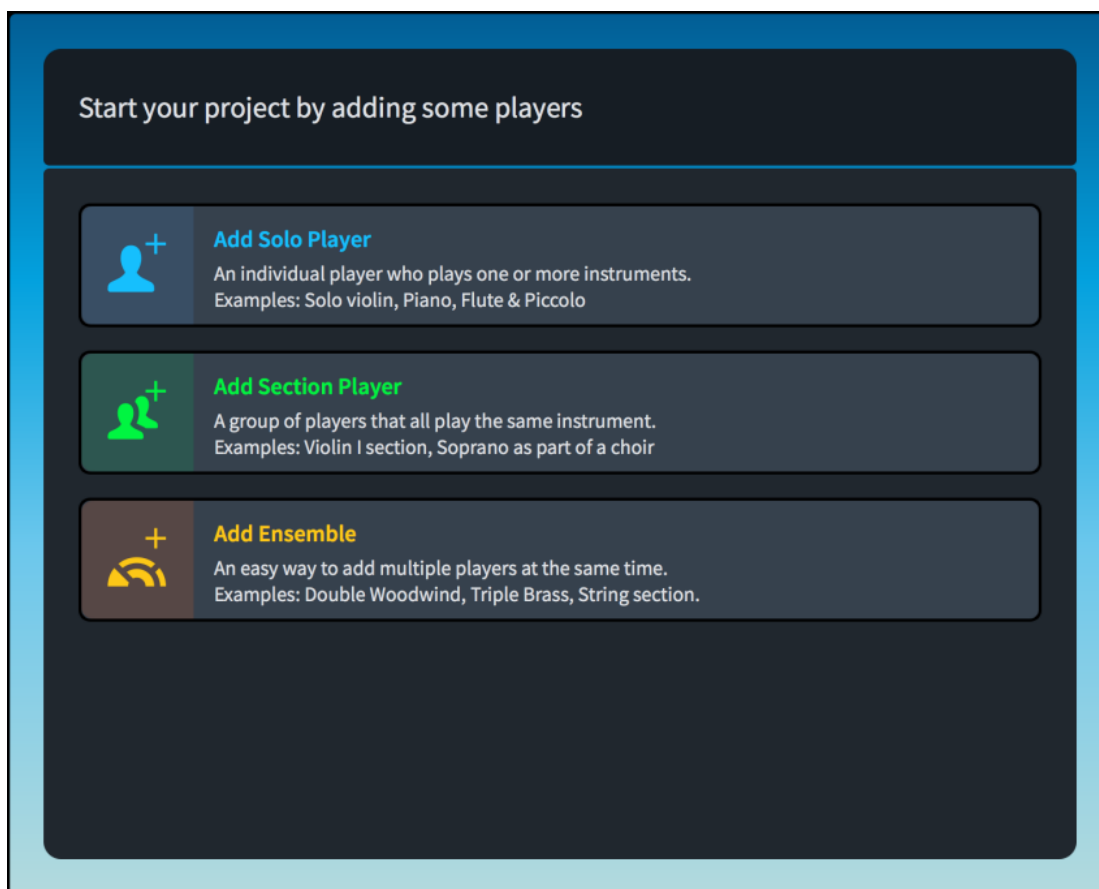


2 新規タブ (New Tab)

新規タブを開きます。タブには、別のタブやウィンドウで既に開いている別のレイアウト、またはレイアウトの別のビューを表示できます。

プロジェクト開始領域

設定モード、記譜モード、および浄書モードでは、空白プロジェクトを新規作成すると、プロジェクト開始領域がプロジェクトウィンドウの中央に表示されます。プレーヤーを1人でも追加すると、楽譜領域が表示されます。



プロジェクト開始領域

プロジェクト開始領域には、最初のプレーヤーカードを追加するためのメニューが表示されます。プレーヤーを追加するには、いずれかのカードをクリックします。

ソロプレーヤーを追加 (Add Solo Player)

1つ以上のインストゥルメントを割り当てる個人プレーヤーを追加します。

セクションプレーヤーを追加 (Add Section Player)

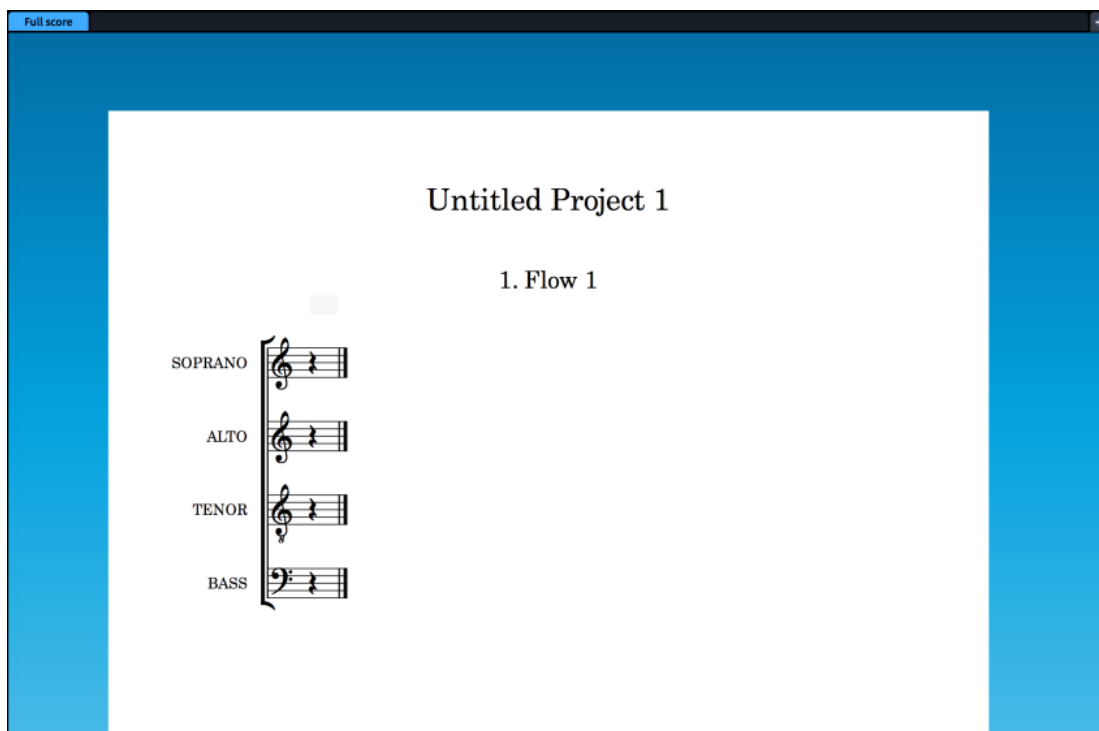
全員が同じインストゥルメントを演奏する演奏者のグループを追加します。

アンサンブルを追加 (Add Ensemble)

異なるインストゥルメントを演奏する複数のプレーヤーを追加します。追加されるアンサンブルは、演奏者の基本的な組み合わせを表わします。

楽譜領域

設定モード、記譜モード、および浄書モードでは、楽譜領域に編集可能なスコアが表示されます。



スコアのサンプルが表示された楽譜領域

楽譜領域では、複数のビューを切り替えて表示できます。楽譜領域のタブバーを使用すると、プロジェクト内の複数のレイアウトをタブで開いて、レイアウトを切り替え表示できます。楽譜領域の右側と下部のスクロールバーを使用すると、レイアウト内でスクロールできます。

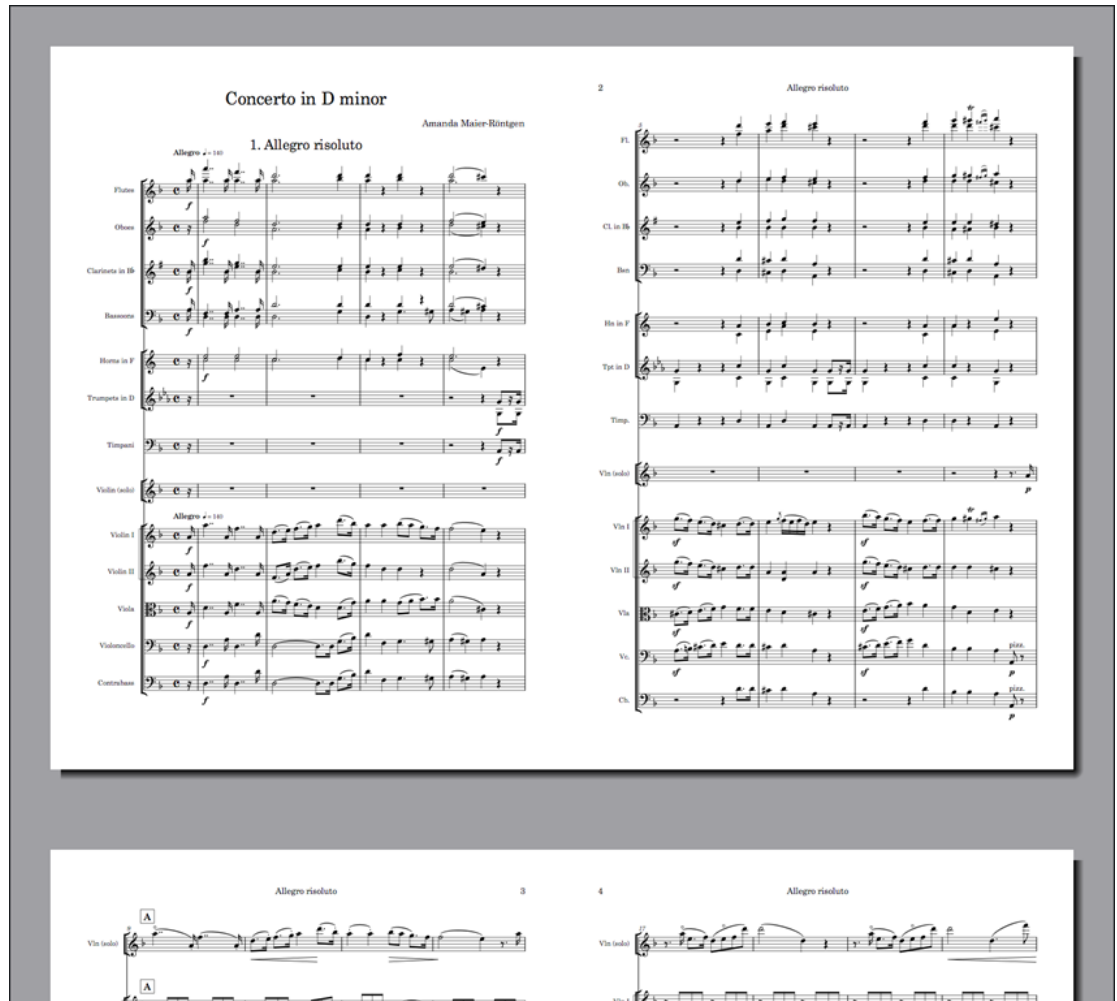
ウィンドウの左右および下部にパネルが開いている場合、楽譜領域のサイズが小さくなります。パネルの表示/非表示は必要に応じて切り替えられます。

関連リンク

[パネルの表示/非表示 \(23 ページ\)](#)

印刷プレビュー領域

印刷モードの印刷プレビュー領域は、印刷内容や書き出す内容をグラフィックとして表示します。



「2 ページを 1 ページに集約」に設定した場合の印刷プレビュー領域

印刷プレビュー領域では、スクロールしてすべてのページを表示できますが、レイアウトの編集はできません。レイアウトを変更するには、設定モード、記譜モード、または浄書モードに切り替える必要があります。

ヒント

[Home] を押して先頭ページに、**[End]** を押して最終ページに直接移動できます。これらのキーボードショートカットは「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで変更できます。

単一の印刷ジョブで複数のレイアウトを印刷する場合、印刷プレビュー領域には最初のレイアウトのみ表示されます。印刷プレビューで各レイアウトのページ配置が期待通りに表示されるか確認したい場合は、印刷する前に各レイアウトを個別に確認する必要があります。

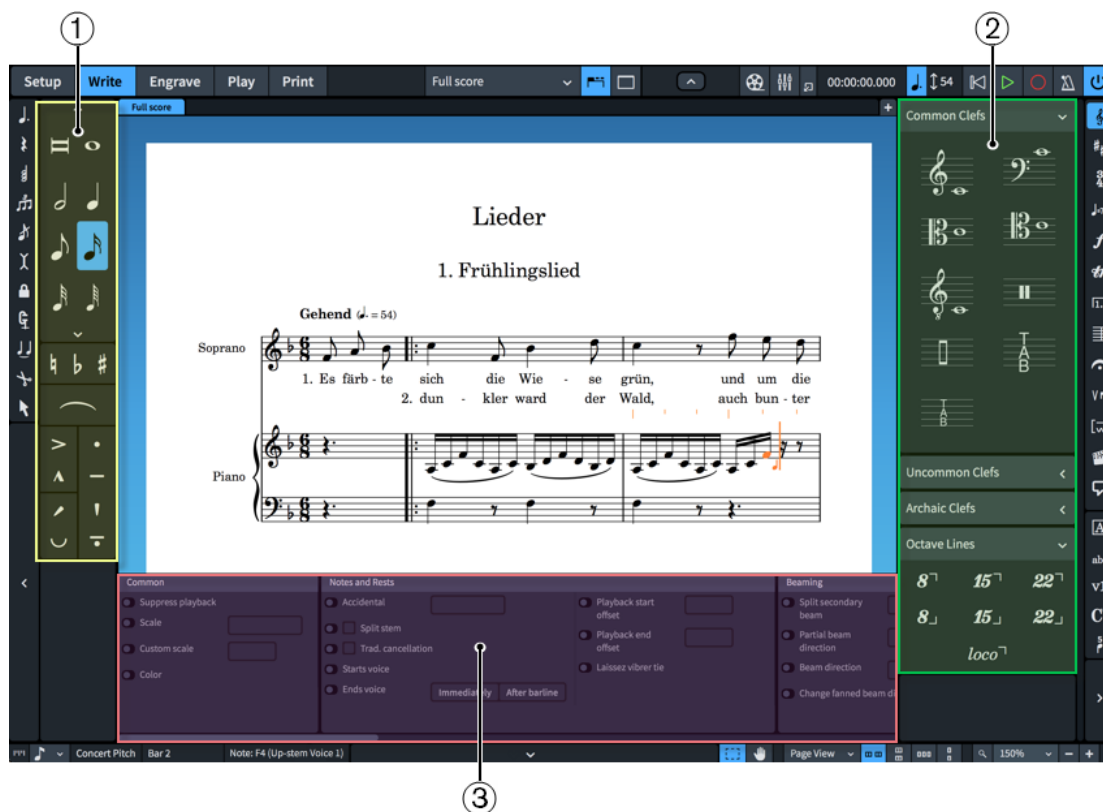
関連リンク

[印刷モードのプロジェクトウィンドウ \(602 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(62 ページ\)](#)

パネル

プロジェクトウィンドウのパネルには、音符、記譜記号、および楽譜の設定、記譜、編集、形式設定に必要な機能が表示されます。



記譜モードのパネル

- 1 左パネル。記譜モードでは、これは音符パネルです。
- 2 右パネル。記譜モードでは、これは記譜パネルです。
- 3 下パネル。記譜モードおよび浄書モードでは、これはプロパティパネルです。

Dorico Pro では、モードごとにパネルの名前および機能が異なります。

モードとパネル

モード	左パネル	右パネル	下パネル
設定	プレーヤー	レイアウト	フロー
記譜	音符	記譜	プロパティ
浄書	形式設定	ページ	プロパティ
再生	なし	VST インストゥルメン ト/MIDI インストゥルメ ント	なし
印刷	レイアウト	印刷オプション	なし

パネルには、初期設定で表示されるものとそうでないものがあります。パネルを個別に表示したり非表示にしたり、同時にすべてのパネルを表示したり非表示にしたりできます。

関連リンク

[Dorico のモード \(34 ページ\)](#)

[パネルの表示/非表示 \(23 ページ\)](#)

[設定モードのプロジェクトウィンドウ \(95 ページ\)](#)

[記譜モードのプロジェクトウィンドウ \(156 ページ\)](#)

[浄書モードのプロジェクトウィンドウ \(353 ページ\)](#)

[再生モードのプロジェクトウィンドウ \(502 ページ\)](#)

[印刷モードのプロジェクトウィンドウ \(602 ページ\)](#)

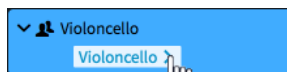
展開矢印マーク

展開矢印マークは、オブジェクトやメニューを垂直方向または水平方向に展開/折りたたみできることを示します。

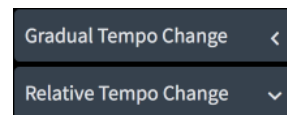
Dorico Pro では、展開矢印マークは、一般的にパネル、セクション、または詳細設定の表示/非表示を切り替えたり、設定モードで、**プレーヤー**パネルのプレーヤーカードなどのカードの展開/折りたたみを切り替えたりするのに使用されます。



下パネルの展開矢印マーク



プレーヤーカードと関連付けられた楽器の両方の展開矢印マーク



テンポパネルのセクションの展開矢印マーク

関連リンク

[パネルの表示/非表示 \(23 ページ\)](#)

[プレーヤーパネル \(96 ページ\)](#)

[インストゥルメント \(115 ページ\)](#)

ツールボックス

ツールボックスは記譜モード、浄書モード、および再生モードで使用できます。ツールボックスは現在のモードによって含まれるツールおよびオプションが異なりますが、一般的に、音符、記譜項目、フレームを入力および変更したり、対応するパネルに表示するオプションを設定したりできます。

モードごとに、以下のツールボックスを使用できます。

記譜モード

- 音符ツールボックス (ウィンドウの左側)
- 記譜ツールボックス (ウィンドウの右側)

浄書モード

- 浄書ツールボックス (ウィンドウの左側)

再生モード

- 再生ツールボックス (ウィンドウの左側)

関連リンク

[音符ツールボックス \(157 ページ\)](#)

[記譜ツールボックス \(162 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(354 ページ\)](#)

[再生ツールボックス \(503 ページ\)](#)

ステータスバー

プロジェクトウィンドウの下部のステータスバーから、楽譜領域で使用するビューやページ配置を選択できます。

補足

モードによって使用できないオプションがあります。



記譜モードのステータスバー

1 リズムグリッドセレクター

リズムグリッドの間隔を変更します。これは、アイテムが移動する間隔など、入力および編集の特定の操作に影響します。

2 ステータス表示

現在のレイアウトや選択アイテムに関する情報が、左から右に以下の3つのセクションで表示されます。

- 現在のレイアウトの移調
- 現在選択しているアイテムが含まれる小節または小節の範囲
- 単一音符のピッチや声部、複数音符の和音など、選択しているアイテムの概要

3 展開矢印マーク

設定モード、記譜モード、および浄書モードで下部のパネルの表示/非表示を切り替えられます。

4 選択ツール

記譜モードおよび浄書モードで、「範囲選択ツール (Marquee Tool)」と「ハンドツール (Hand Tool)」の使用を切り替えることができます。

5 ビュータイプセレクター

設定モードと記譜モードで、楽譜領域で使用するビュータイプを選択できます。

6 ページ配置オプション

個別のページまたは見開きと呼ばれるページのペアを水平方向に配置するか垂直方向に配置するかを選択できます。

7 ズームオプション

楽譜領域とその音楽コンテンツの表示倍率を変更できます。プリセットズームレベルまたはカスタムズームレベルのどちらかを使用できます。

8 MIDI アクティビティインジケーター / オーディオエンジン接続の警告

注意が必要な MIDI またはオーディオの問題がある可能性があることを示します。

- 一時的な緑色のライトは、Dorico Pro が接続されたデバイスから MIDI 入力を受信していることを示します。緑色のライトが点灯し続けている場合は、接続された MIDI デバイスから大量のデータが送信されており、問題が生じる可能性があります。



- 警告アイコンは、デバイスが選択されていない場合やサンプリングレートが誤っている場合など、Dorico Pro からオーディオエンジンに MIDI イベントを送信できない状態を示します。警告アイコンをクリックすると「デバイス設定 (Device Setup)」ダイアログが開き、ほとんどの場合はそこで問題を解決できます。



関連リンク

[リズムグリッド \(170 ページ\)](#)

[ビュータイプ \(52 ページ\)](#)
[ページビューのページ配置 \(53 ページ\)](#)
[ズームオプション \(53 ページ\)](#)
[MIDI 録音 \(208 ページ\)](#)
[楽譜の再生 \(550 ページ\)](#)

選択ツール

Dorico Pro のステータスバーには、楽譜領域内に表示されたアイテムの選択や楽譜の変更に使用できる選択ツールがあります。

範囲選択ツール (Marquee Tool)

ドラッグして長方形を描くと、複数の音符や記譜記号を選択できます。



ハンドツール (Hand Tool)

楽譜領域内のビューを動かすことができます。



ヒント

- **[Shift]** を押したままマウスを操作すると、現在選択していない方のツールを一時的に使用できます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページで、以降のすべてのプロジェクトで使用するデフォルトの選択ツールを変更できます。

関連リンク

[範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(324 ページ\)](#)
[楽譜領域でのページのドラッグ \(336 ページ\)](#)
[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

ビュータイプ

Dorico Pro では、レイアウトを確認するビュータイプが複数あります。各レイアウトで選択したビュータイプは Dorico Pro に保存されるため、ビュータイプを毎回設定しなおす必要はありません。

以下のビュータイプを使用できます。

ギャラリービュー

現在のレイアウトとフローに含まれるすべての譜表を単一の連続した組段に表示します。

ギャラリービューは、プロジェクトの音楽コンテンツに集中できるため、楽譜の入力に最適です。ギャラリービューにはすべての譜表が表示されるため、複数のインストゥルメントが割り当てられたソロプレーヤーやコンデンシングが有効になったレイアウトに音符を入力する場合に特に便利です。

デフォルトでは、すべての譜表の上のすべての小節に小節番号が表示されます。譜表ラベルもすべての譜表に表示され、スクロールに追従して常に表示されます。

補足

ギャラリービューでは、音符のスペーシングは自動で調整されません。つまり、ページや楽曲フレームの幅に合わせて拡大も縮小もされません。ただし、ギャラリービューで変更した音符のスペーシングはページビューにも適用されます。

さらに、ギャラリービューでは垂直方向の衝突回避が自動的に行なわれないため、音符やアイテムが重なって見える場合があります。

ページビュー

印刷または書き出しをしたときに表示されるページ番号付きのレイアウトをそのまま表示します。

ページビューは、見開きページや単一ページを確認するのに最適です。見開きページビューでは、パフォーマーがペアになっているページの右側ページの最後でページをめくるだけで済むように、ページめくりを調整できます。単一ページビューは、一連の単一ページとしてレイアウトを印刷する場合に便利です。たとえば、連続用紙や折りたたみ式の用紙を使用するときは、ページの左右を区別しないため、単一ページビューの使用が必要になる場合があります。

ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページで、以降のすべてのプロジェクトで使用するデフォルトのビュータイプを変更できます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(59 ページ\)](#)

[ページ形式設定 \(440 ページ\)](#)

[コンデンシング \(477 ページ\)](#)

[プレーヤー \(110 ページ\)](#)

[インストールメント \(115 ページ\)](#)

ページビューのページ配置

楽譜領域で使用するページの配置方法を変更できます。

見開き (水平) (Spreads Horizontally)



ページを見開きのペアとして表示し、見開きページをそれぞれ左から右に水平方向に並べて配置します。

見開き (垂直) (Spreads Vertically)



ページを見開きのペアとして表示し、見開きページをそれぞれ上から下に垂直方向に並べて配置します。

単一ページ (水平) (Single Pages Horizontally)



各ページを個別に左から右に配置します。

単一ページ (垂直) (Single Pages Vertically)



各ページを個別に上から下に配置します。

関連リンク

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(59 ページ\)](#)

ズームオプション

ステータスバーのズームオプションを使って、楽譜領域のページの表示倍率を変更できます。

カスタムの表示倍率 (Custom Zoom)

カスタムの表示倍率を設定できるダイアログを開きます。

表示倍率を設定 (Set Zoom)

リストからプリセットのズーム倍率を選択できます。「**環境設定 (Preferences)**」の「**全般 (General)**」ページで、以降のすべてのプロジェクトで使用するデフォルトのズーム倍率を変更できます。

ズームアウト (Zoom Out)

楽譜領域の音符および記譜記号の表示倍率を低下します。

ズームイン (Zoom In)

楽譜領域の音符および記譜記号のサイズを拡大します。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

[楽譜領域でのズームイン/ズームアウト \(337 ページ\)](#)

ワークスペースの設定

Dorico Pro では、作業スタイルに合わせてワークスペースを設定できます。

また、Dorico Pro では、複数のタブを開いて、同じウィンドウ内に同じプロジェクトの複数のレイアウトを表示できます。複数のウィンドウに同じプロジェクトを開くこともできます。

関連リンク

[パネルの表示/非表示 \(23 ページ\)](#)

[ナビゲーション \(334 ページ\)](#)

レイアウトの切り替え

プロジェクトで複数のレイアウトを作成した場合、すべてのモードで楽譜領域に表示するレイアウトを切り替えられます。設定モード、記譜モード、および浄書モードでは、現在開いているタブのレイアウトのみが切り替わります。

補足

レイアウトは、プレーヤーが割り当てられているレイアウト間でのみ切り替えることができます。

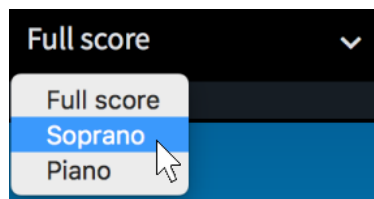
手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、別のレイアウトに切り替えます。
 - 次のレイアウトに切り替えるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[[]]** を押します。
 - 前のレイアウトに切り替えるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[@]** を押します。
 - レイアウトを開くプレーヤーの譜表上またはピアノロール上のアイテムを選択し、**[W]** を押します。

補足

暗黙の休符を選択しても切り替わりません。

- ツールバーのレイアウトセクターでレイアウトを選択します。



結果

選択したレイアウトが楽曲領域に表示されます。直前にタブで開かれていたレイアウトと新しく選択したレイアウトが入れ替わります。

関連リンク

[レイアウト](#) (138 ページ)

[暗黙の休符と明示的な休符](#) (1121 ページ)

新規タブを開く

同じプロジェクトウィンドウに複数のタブを開くことができます。この機能を使って複数のレイアウトを表示したり、同じレイアウトを異なるビューで確認したりできます。たとえば、フルスコアのレイアウトを1つのタブではページビューで、別のタブではギャラリービューで表示できます。

各タブには、別のタブやウィンドウで既に開いている別のレイアウト、またはレイアウトの別のビューを表示できます。新規タブを開くと、タブに表示するレイアウトを選択する画面が表示されます。

タブは、ツールバーと楽譜領域の間にあるタブバーに表示されます。タブが表示されない場合は、ツールバーの「**タブを表示 (Show Tabs)**」をクリックします。



手順

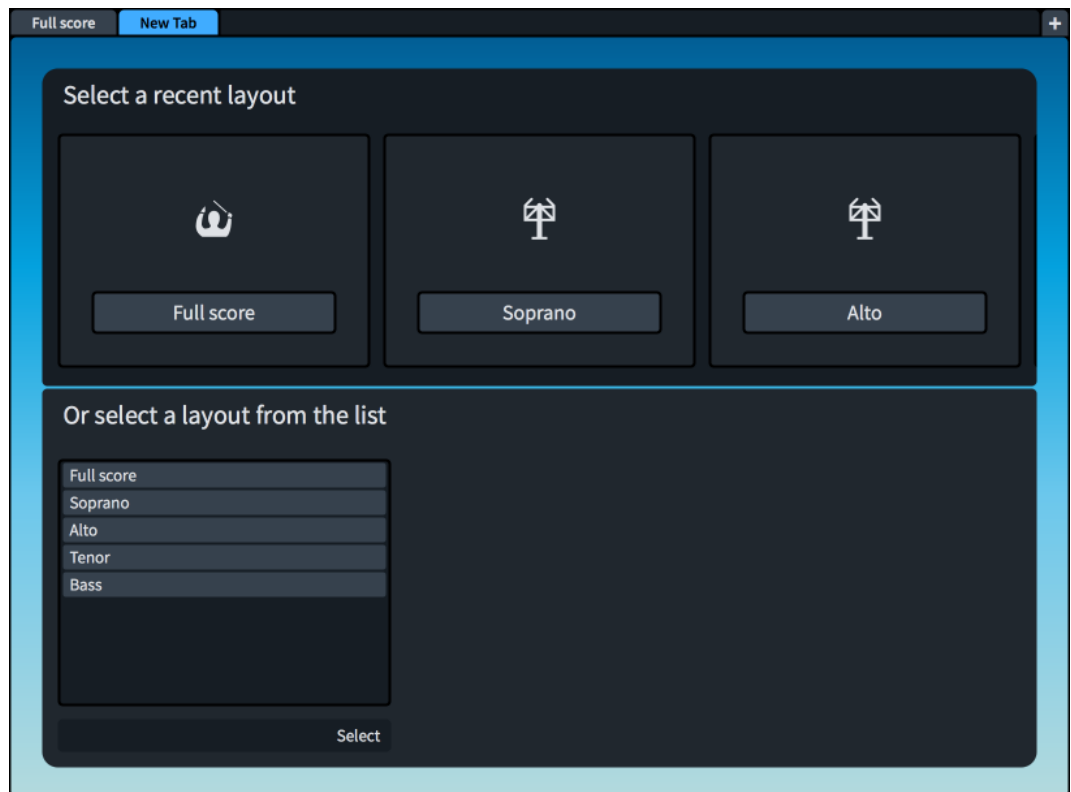
1. 以下のいずれかの操作を行なって、新規タブを開きます。

- **[Ctrl]/[command]+[T]** を押します。
- タブバーの右端にある「**新規タブ (New Tab)**」をクリックします。



- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**新規タブ (New Tab)**」を選択します。

新規タブを開くと、上部に最近使用したレイアウト、下部にプロジェクト内の他のレイアウトのリストが表示されます。



- 以下のいずれかの操作を行なって、新規タブで開くレイアウトを選択します。
 - 上部のアイコンをクリックします。
 - 下部のリストからレイアウトを選択します。
 - ツールバーのレイアウトセクターでレイアウトを選択します。

結果

選択したレイアウトがアクティブなタブで開きます。

ヒント

同じタブ内でレイアウトを切り替えることもできます。

関連リンク

[タブバー](#) (45 ページ)

[ツールバー](#) (42 ページ)

タブを閉じる

不要になったレイアウトの個別のタブを閉じることができます。また複数のタブを一度に閉じることができます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、タブを閉じます。
 - 閉じるタブを選択して、**[Ctrl]/[command]+[W]** を押します。
 - 閉じるタブの上にマウスを合わせて、「**x**」をクリックします。
 - 閉じるタブを右クリックし、コンテキストメニューから「**タブを閉じる (Close Tab)**」を選択します。

- 閉じたくないタブを右クリックし、コンテキストメニューから「他のタブを閉じる (Close Other Tabs)」を選択します。

補足

ウィンドウに表示されているタブが1つだけの場合、そのタブは閉じることができません。タブが1つだけ開いていてそのタブを非表示にする場合は、メインツールバーで「タブを表示 (Show Tabs)」をオフにします。タブは表示されなくなりますが、対応するレイアウトは表示されたままとなります。

結果

タブを1つ選択して閉じた場合、選択したタブおよび対応するレイアウトが閉じます。
タブを1つ選択して他のタブを閉じた場合、選択したタブ以外のすべてのタブが閉じます。

タブの切り替え

異なるタブ間で切り替えて、楽譜領域に異なるレイアウトを表示できます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、タブを切り替えます。
 - **[Ctrl]+[Tab]** を押して、開いているすべてのタブを切り替え表示します。
 - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Tab]** を押して、開いているすべてのタブを逆順に切り替え表示します。
 - 切り替え先のタブをクリックします。
-

タブの順番の変更

タブバー上でタブを別の位置に移動できます。

手順

- タブをクリックして新しい位置までドラッグします。
他のタブが移動して、ドラッグされたタブがどこに配置されるかを示します。
-

プロジェクトウィンドウに複数のタブを表示する

プロジェクトウィンドウを分割して、同時に2つのタブを表示できます。分割は垂直または水平方向のいずれかが可能で、異なるレイアウトを上下または左右に並べて表示できます。

プロジェクトウィンドウを分割すると、現在開いているタブが2つのグループに分かれます。タブは別のグループにいつでも移動できます。これによって、たとえば、異なるレイアウトを比較したり、同じレイアウトで2種類のビューを比較したりできます。

手順

1. 新規タブグループに移動するレイアウトのタブを選択します。
 2. 以下のいずれかの操作を行なって、ウィンドウを分割します。
 - 2つのレイアウトを左右に並べて表示するには、「ウィンドウ (Window)」 > 「垂直分割 (Vertical Split)」を選択します。
 - 2つのレイアウトを上下に並べて表示するには、「ウィンドウ (Window)」 > 「水平分割 (Horizontal Split)」を選択します。
-

結果

プロジェクトウィンドウが分割され、同時に2つのタブが表示されます。選択したタブが新規タブグループに移動します。

別のタブグループへのタブの移動

タブを別のタブグループに移動できます。

前提条件

プロジェクトウィンドウに2つ以上のタブを同時に表示しておきます。

手順

- 移動するタブをクリックし、移動先のタブグループにドラッグします。

関連リンク

[新規タブを開く](#) (55 ページ)

別のウィンドウへのタブの移動

同じプロジェクトの別のウィンドウにタブを移動して、新規ウィンドウに同じレイアウトを表示できません。

補足

- レイアウトは、同じプロジェクトに属している必要があります。タブを異なるプロジェクトのウィンドウに移動しようとしても、レイアウトが属するプロジェクトに新規ウィンドウが作成されません。
- タブが1つしか開いていない場合は、タブを別のウィンドウに移動することができません。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 同じプロジェクトの新規ウィンドウにタブを移動するには、タブをクリックしてタブバーから離れた水平方向(右または左)にドラッグし、放します。
 - 同じプロジェクトの別のウィンドウのタブバーにタブを挿入するには、タブをクリックして、タブバー上にドラッグします。
 - タブを選択して右クリックし、コンテキストメニューから「**タブを新規ウィンドウへ移動 (Move Tab to New Window)**」を選択します。
 - タブを選択し、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**タブを新規ウィンドウへ移動 (Move Tab to New Window)**」を選択します。

複数のプロジェクトウィンドウを開く

同じプロジェクトを複数のプロジェクトウィンドウで開くことができます。これは同時に複数のレイアウトで作業する場合に便利です。また、1つのウィンドウでは記譜モード、別のウィンドウでは再生モードのように、複数のウィンドウで同じプロジェクトを異なるモードで表示できます。

再生中は、同じプロジェクトに属するすべてのウィンドウに再生ヘッドが表示され、再生に合わせてビューが移動します。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、新規プロジェクトウィンドウを開きます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[T]** を押します。
 - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**新規ウィンドウ (New Window)**」を選択します。
-

結果

ウィンドウの複製が開きます。元のウィンドウと同じタブと同じ表示オプションが表示されます。

関連リンク

[再生ヘッド](#) (548 ページ)

全画面表示モードに変更する

プロジェクトウィンドウを画面全体に表示することで、楽譜のスペースを最大限に広げられます。

オペレーティングシステムのデスクトップ要素 (Windows のタスクバー、macOS のシステムメニューバーや Dock など) を隠すこともできます。

Dorico Pro では、ウィンドウの右側、左側、および下部のパネルの表示/非表示を切り替えることで、さらに楽譜のスペースを広げられます。

手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**全画面表示 (Full Screen)**」を選択します。
-

手順終了後の項目

表示をもとに戻すには、「**ビュー (View)**」 > 「**全画面表示 (Full Screen)**」を再度選択します。

関連リンク

[パネルの表示/非表示](#) (23 ページ)

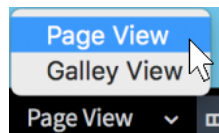
[楽譜領域でのズームイン/ズームアウト](#) (337 ページ)

ギャラリービューまたはページビューへの切り替え

楽譜領域のビュータイプを切り替えることができます。たとえば、プロジェクトのフルート奏者がピッコロに持ち替える場合、ビュータイプをギャラリービューに切り替えることでフルートの譜表に加えてピッコロの譜表も表示できます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、ギャラリービューまたはページビューに切り替えます。
 - **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[2]** を押してギャラリービューに切り替えます。
 - **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[1]** を押してページビューに切り替えます。
 - ステータスバーのビューセクターで、「**ギャラリービュー (Galley View)**」または「**ページビュー (Page View)**」を選択します。



2. 「**ページビュー (Page View)**」を選択した場合は、必要に応じてステータスバーでいずれかのページ配置を選択します。



見開き (水平) (Spreads
Horizontally)



見開き (垂直) (Spreads
Vertically)



単一ページ (水平)
(Single Pages
Horizontally)



単一ページ (垂直)
(Single Pages
Vertically)

結果

楽譜領域のビュータイプが変更されます。ページビューでは、デフォルトで音符またはアイテムを含む譜表のみが表示されます。空白のパートが複数関連付けられているプレーヤーは、フルスコアでは最初に関連付けられているインストゥルメントの譜表のみが表示されます。

ギャラリービューでは、プロジェクトのすべての譜表が表示されます。ただし、音符のスペーシングの調整や垂直方向の衝突回避は自動的に行なわれないため、音符やアイテムが重なって見える場合があります。

ヒント

- 「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)」ページで、ギャラリービューでのデフォルトの譜表間隔を変更できます。
 - 「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページの「ビュー (View)」セクションで、すべてのプロジェクトに使用するデフォルトのビュータイプを変更できます。
-

関連リンク

[ビュータイプ \(52 ページ\)](#)

[ページビューのページ配置 \(53 ページ\)](#)

[ギャラリービューでの譜表のスペーシングを変更する \(464 ページ\)](#)

[楽譜領域でのズームイン/ズームアウト \(337 ページ\)](#)

ウィンドウのカラーテーマを変更する

Dorico Pro 全体で使用されるカラーテーマを変更できます。たとえば、明るい背景に暗いテキストを表示したい場合は「Light」のテーマに切り替えることができます。初期設定では、Dorico Pro は暗い背景に明るいテキストが表示される「Dark」のテーマを使用します。

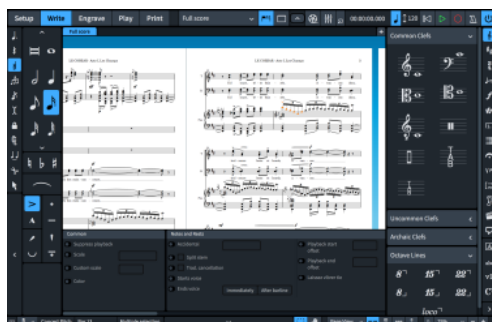
手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
 2. ページリストの「全般 (General)」をクリックします。
 3. 「ウィンドウ (Window)」セクションで、「テーマ (Theme)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - Dark
 - Light
 4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

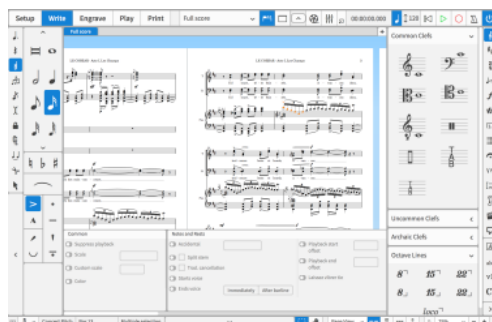
結果

Dorico Pro で使用されるカラーテーマが変更されます。これは現在のプロジェクトにすぐに適用され、設定を変更するまではそれ以降に開くすべてのプロジェクトにそのテーマが使用されます。

例



「Dark」のテーマ



「Light」のテーマ

優先する基準単位の変更

絶対値を使用する「レイアウトオプション (Layout Options)」のページ余白オプションなど、Dorico Pro 全体で使用されるデフォルトの優先する基準単位を変更できます。これは、「浄書オプション (Engraving Options)」や「記譜オプション (Notation Options)」のオプションのように、譜表サイズに関連するオプションには影響しません。

手順

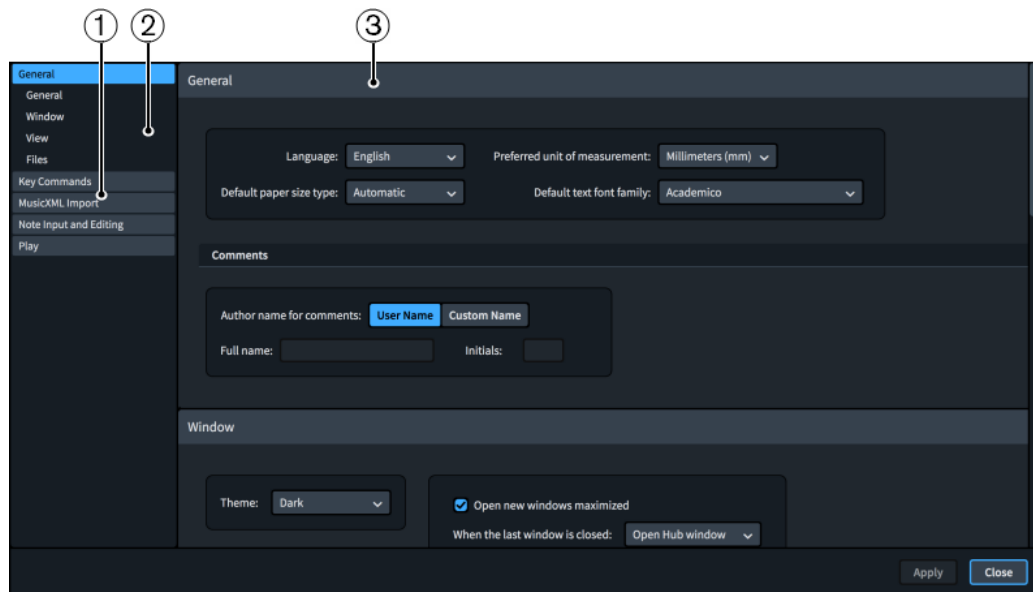
1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. ページリストの「全般 (General)」をクリックします。
3. 「全般 (General)」セクションで、「優先する基準単位 (Preferred unit of measurement)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - ポイント (pt)
 - ミリメートル (mm)
 - インチ (in)
 - センチメートル (cm)
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

「環境設定 (Preferences)」 ダイアログ

「環境設定 (Preferences)」ダイアログで、ワークスペースの設定を行ったり、キーボードショートカットを定義したりできます。

「環境設定 (Preferences)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押します。
- 「Dorico」 > 「環境設定 (Preferences)」を選択します (macOS)。
- 「編集 (Edit)」 > 「環境設定 (Preferences)」を選択します (Windows)。



環境設定

「環境設定 (Preferences)」ダイアログには以下のセクションが含まれます。

1 ページリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。リスト内のページをクリックすると、リストのページの下に使用可能なセクションのタイトルが表示されます。

2 セクションタイトル

選択したページのすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

3 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

補足

「キーボードショートカット (Key Commands)」ページのオプションの配置は、「環境設定 (Preferences)」ダイアログの他のページと大きく異なります。このページの詳細については、後述のセクションを参照してください。

関連リンク

[ビュータイプ](#) (52 ページ)

[ズームオプション](#) (53 ページ)

[選択ツール](#) (52 ページ)

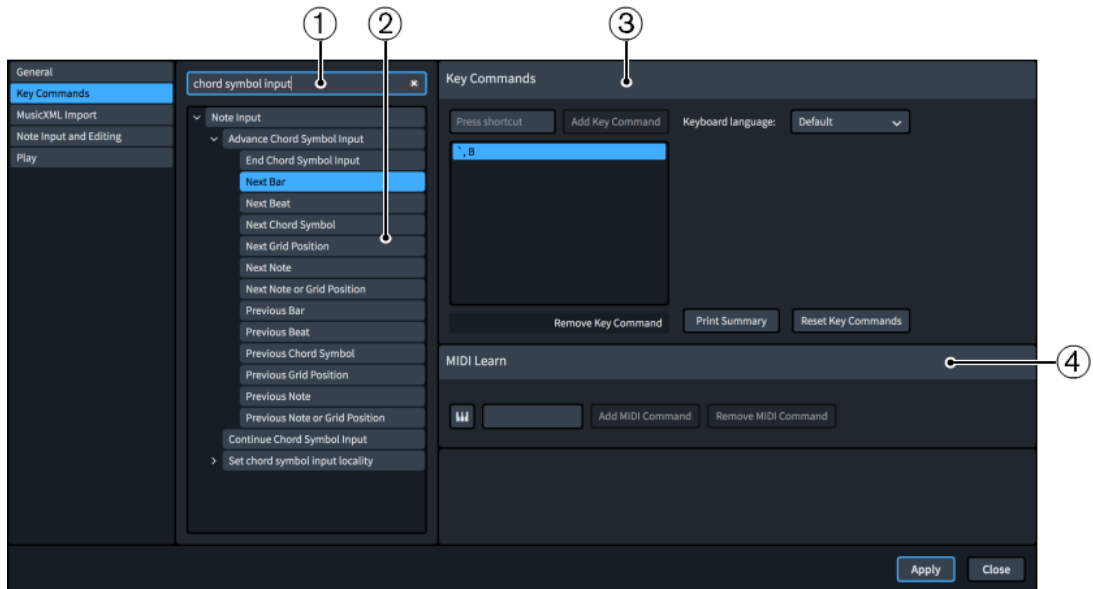
[「レイアウトオプション」ダイアログ](#) (106 ページ)

「環境設定 (Preferences)」ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」ページ

「環境設定 (Preferences)」ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」ページでは、キーボードショートカットを割り当てられるすべての項目や機能を確認したり、既存のキーボードショートカットを変更したり、キーボードショートカットがデフォルトで割り当てられていない項目や機能にキーボードショートカットを新たに割り当てたりできます。

Dorico Pro のメインメニューの多くは、メニュー項目にキーボードショートカットが設定されています。また、Dorico Pro の他の機能にもキーボードショートカットを割り当てることができます。リズムグリッドの間隔の変更やすべてのレイアウトを PDF に書き出すなどの頻繁に使う項目や機能がある場合は、キーボードショートカットが便利です。

- 「キーボードショートカット (Key Commands)」 ページを表示するには、「環境設定 (Preferences)」 ダイアログを開き、ページリストの「キーボードショートカット (Key Commands)」 をクリックします。



「環境設定 (Preferences)」 の「キーボードショートカット (Key Commands)」 ページ

「キーボードショートカット (Key Commands)」 ページには以下のセクションが含まれます。

1 検索フィールド

メニュー項目と機能を検索してキーボードショートカットを表示、変更、追加できます。多くのメニュー項目や機能は展開矢印マークによって複数の階層に折りたたまれているため、多くの場合、検索フィールドを使うと目的の項目を最も早く見つけられます。

2 メニュー項目と機能

キーボードショートカットを割り当てることのできるメニュー項目や機能が表示されます。検索フィールドを使用して、このリストをフィルタリングできます。より詳細なオプションが含まれる項目の横には、展開矢印マークが付いています。

メニューアイテムや機能にマウスを合わせると、ツールヒントが表示されます。これは名前が長い一部の機能において役立ちます。

3 「キーボードショートカット (Key Commands)」 セクション

割り当て済みのキーボードショートカットのリストで、選択しているメニュー項目または機能にキーボードショートカットが割り当てられているかどうかを確認したり、新しいキーボードショートカットを設定したりできます。入力したキーボードショートカットがすでに別のメニュー項目または機能に割り当てられている場合、そのショートカットは使用できないことを示す警告が表示されます。

各メニュー項目または機能には複数のキーボードショートカットを割り当てることができます。また、「キーボード言語 (Keyboard language)」 ポップアップメニューを使用して、言語ごとに異なるキーボードショートカットを割り当てることができます。

- **キーボードショートカットを追加 (Add Key Command):** 選択したメニュー項目または機能に、入力したキーボードショートカットを割り当てます。
- **キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command):** 選択したメニュー項目または機能から、現在選択しているキーボードショートカットを削除します。

- **概要を印刷 (Print Summary):** Web ブラウザーにオフラインページが開き、現在のキーボードショートカット設定がインタラクティブキーボードに表示されます。
- **キーボードショートカットをリセット (Reset Key Commands):**すべてのキーボードショートカットをデフォルトにリセットします。

4 「MIDI Learn」セクション

MIDI コントローラー、MIDI ノート、および MIDI ノートの組み合わせを、メニュー項目や機能の操作に割り当てることができます。

- **MIDI Learn:** Dorico Pro が受信した MIDI 入力データをコマンドとして保存できる状態にします。



- **MIDI コマンドを追加 (Add MIDI Command):**選択したメニュー項目または機能に、変更または入力した MIDI コントローラーや MIDI ノートを割り当てます。
- **MIDI コマンドを削除 (Remove Key Command):**選択したメニュー項目または機能から、MIDI コマンドを削除します。

関連リンク

[キーボードショートカットの割り当て \(66 ページ\)](#)

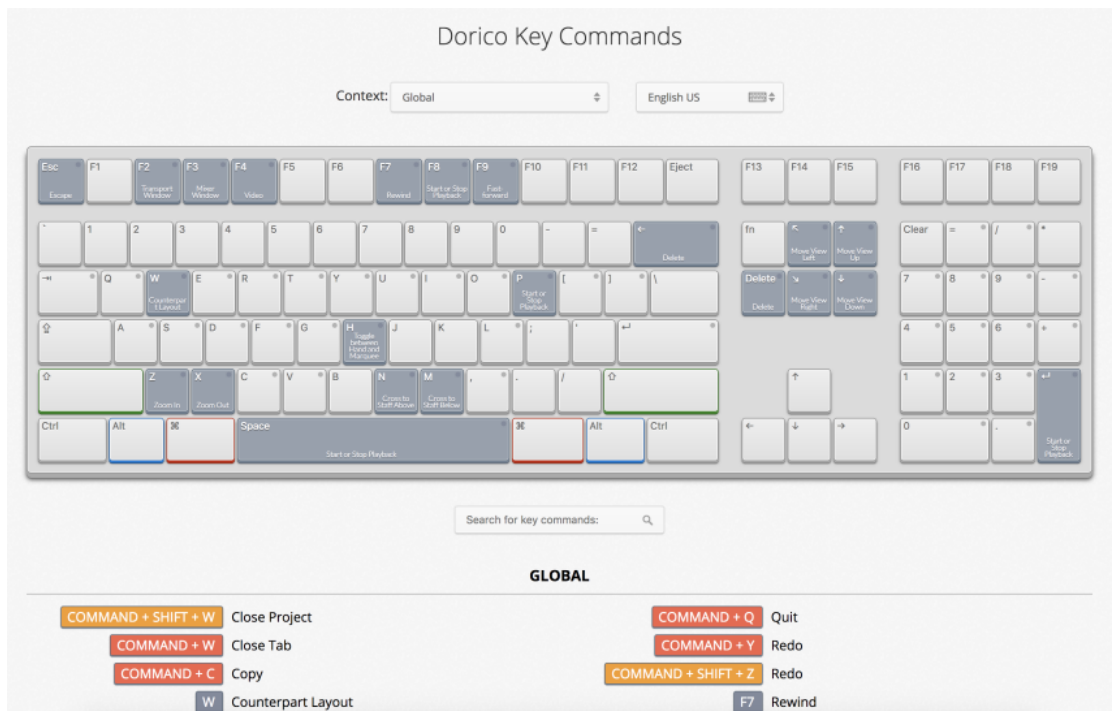
[MIDI コマンドの割り当て \(66 ページ\)](#)

インタラクティブ「Dorico Pro キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」マップ

インタラクティブ「Dorico キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」マップにはコンピューターのバーチャルキーボードが表示されます。キーボードショートカットが割り当てられたキーは強調表示され、使用している修飾キーによって異なる色が付いています。バーチャルキーボードの下に、選択したキーボード言語のすべてのキーボードショートカットが、全般とモード固有のグループに分かれてリストで表示されます。

「Dorico キーボードショートカット (Dorico Key Commands)」マップを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「ヘルプ (Help)」 > 「キーボードショートカット (Key Commands)」を選択します。
- 「編集 (Edit)」 > 「環境設定 (Preferences)」を選択し、「環境設定 (Preferences)」ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」セクションで、「概要を印刷 (Print Summary)」をクリックします。



「英語 (English US)」 を選択時のインタラクティブキーボードショートカットマップ

「**Dorico のキーボードショートカット (Dorico Key Commands)**」 マップが Web ブラウザーで開きます。以下のいずれかの操作を行なえます。

- 使用可能なキーボードショートカットを確認するには、コンテキストを選択します。キーボードショートカットのコンテキストとは、そのキーボードショートカットを使用できるモードのことを指します。「全般 (Global)」のコンテキストに属するキーボードショートカットは、すべてのモードで使用できます。
- 修飾キーと組み合わせてキーボードショートカットとして使用できるキーを強調表示するには、**[Shift]** など、お使いのキーボードの修飾キーを押すか、バーチャルキーボードの修飾キーをクリックします。複数の修飾キーを押すこともできます。バーチャルキーボードでキーが強調表示され、どの機能が割り当てられているかが表示されます。
- 特定のキーボードショートカットを検索するには、検索フィールドに 1 つ以上の単語を入力します。
- 使用できるキーボードショートカットの概要を確認するには、バーチャルキーボードの下にリスト表示されたショートカットを確認します。キーボードショートカットはそのショートカットを使用できるコンテキストごとにリスト表示されます。

関連リンク

[キーボードレイアウトの変更 \(67 ページ\)](#)

各機能のキーボードショートカットの検索

Dorico Pro で機能またはメニュー項目に割り当てられているキーボードショートカットを検索できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストから「**キーボードショートカット (Key Commands)**」をクリックします。
3. 「**検索 (Search)**」フィールドに、機能の名称を入力します。
入力した内容に応じてフィルタリングされたエントリが、検索フィールドの下にリスト表示されます。

4. エントリーを展開して、キーボードショートカットを確認する機能を選択します。
名前が特に長い場合は、マウスを合わせることでツールヒントを表示できます。

結果

機能に対してキーボードショートカットが設定されている場合、割り当て済みのキーボードショートカットのリストにキーボードショートカットが表示されます。

ヒント

インタラクティブキーボードショートカットマップでも機能のキーボードショートカットを検索できます。

キーボードショートカットの割り当て

多くのメニュー項目や機能にキーボードショートカットを割り当てることができます。たとえば、デフォルトではキーボードショートカットが割り当てられていないメニュー項目を頻繁に使用する場合、キーボードショートカットを割り当てることでそのメニュー項目に素早くアクセスできます。既存のキーボードショートカットの変更もできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストから「**キーボードショートカット (Key Commands)**」をクリックします。
3. 機能の名称を検索して選択します。
名前が特に長い場合は、マウスを合わせることでツールヒントを表示できます。
4. すでにキーボードショートカットが設定されている機能の場合、必要に応じて「**キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command)**」をクリックします。
既存のキーボードショートカットを削除せずに新しいショートカットを割り当てると、既存のショートカットと新しいショートカットの両方を使用できます。
5. 「**ショートカットを押してください (Press shortcut)**」入力フィールドをクリックします。
6. コンピューターキーボードで、割り当てるキーボードショートカットを押します。
7. 「**キーボードショートカットを追加 (Add Key Command)**」をクリックします。
割り当て済みのキーボードショートカットのリストにキーボードショートカットが追加されます。
8. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したメニュー項目または機能に、入力したキーボードショートカットが割り当てられます。割り当てたキーボードショートカットはすぐに使用できます。

関連リンク

[キーボードショートカットのリセット \(67 ページ\)](#)

MIDI コマンドの割り当て

MIDI キーボードの特定のキーやボタンを、機能の実行やメニュー項目へのアクセスに割り当てることができます。たとえば、コード記号の入力時に MIDI キーで操作できるようになります。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストから「**キーボードショートカット (Key Commands)**」をクリックします。
3. MIDI コマンドを割り当てるメニュー項目または機能を選択します。

名前が特に長い場合は、マウスを合わせることでツールヒントを表示できます。

4. 「MIDI Learn」をクリックします。



5. 選択したパラメーターに割り当てる MIDI キーボードのキーまたはボタンを押します。
 6. 「MIDI コマンドを追加 (Add MIDI Command)」をクリックします。
 7. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

キーボードレイアウトの変更

Dorico Pro ではキーボードレイアウトを別の言語のキーボードレイアウトに変更できます。これにより、選択した言語用にあらかじめ定義されたキーボードショートカットを使用できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
 2. ページリストから「キーボードショートカット (Key Commands)」をクリックします。
 3. 「キーボード言語 (Keyboard language)」メニューから別の言語のキーボードレイアウトを選択します。
 4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

選択した言語のキーボードショートカットはすぐに反映されます。

キーボードショートカットの削除

機能のキーボードショートカットは個別に削除できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
 2. ページリストから「キーボードショートカット (Key Commands)」をクリックします。
 3. 機能の名称を検索して選択します。
 4. 「キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command)」をクリックします。
 5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

選択した機能からキーボードショートカットが削除されます。

関連リンク

[各機能のキーボードショートカットの検索 \(65 ページ\)](#)

キーボードショートカットのリセット

プロジェクト内のすべてのキーボードショートカットをデフォルトにリセットできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. ページリストから「キーボードショートカット (Key Commands)」をクリックします。
3. 「キーボードショートカットをリセット (Reset Key Commands)」をクリックします。

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

すべてのカスタムのキーボードショートカットが削除され、デフォルトのキーボードショートカットに戻ります。

プロジェクトとファイルの処理方法

プロジェクトとファイルの処理方法には、プロジェクトおよびその他の形式のファイルを開いて読み込み/書き出しを行なう他に、自動保存とプロジェクトのバックアップも含まれます。

関連リンク

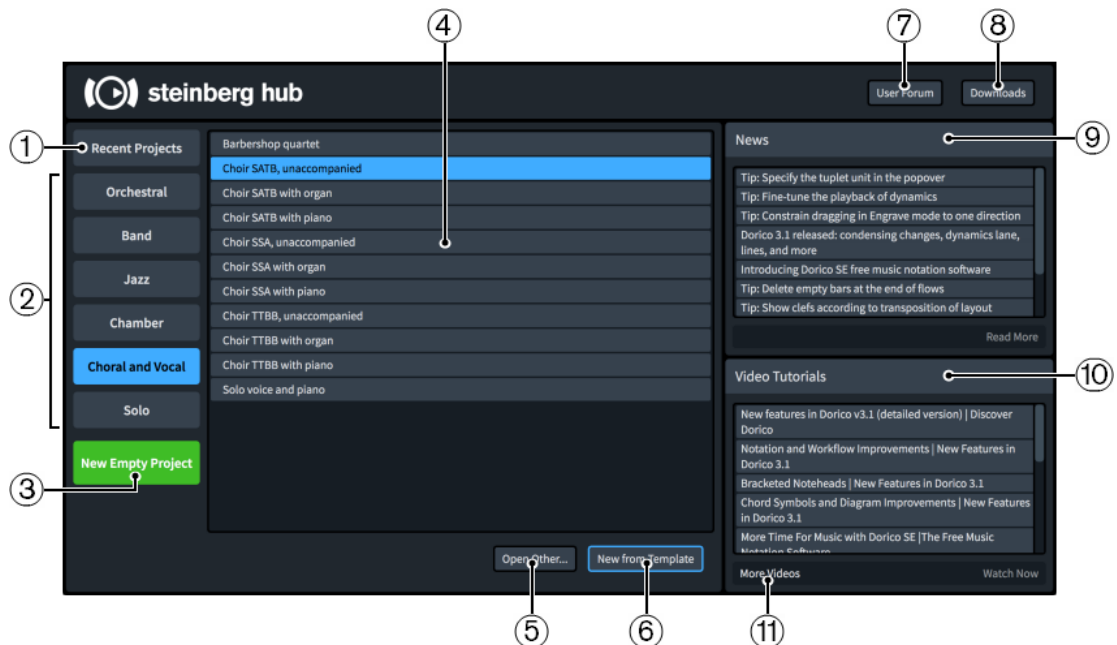
[ファイルの読み込みと書き出し \(75 ページ\)](#)

[自動保存 \(92 ページ\)](#)

[プロジェクトのバックアップ \(94 ページ\)](#)

Hub

Dorico Pro を起動すると Hub が開きます。Hub は、Dorico の最新情報やチュートリアルを入手したり、プロジェクトを整理したりするのに役立ちます。



Hub には以下のコンテンツが含まれます。

1 最近使用したプロジェクト (Recent Projects)

最近使用したプロジェクトに素早くアクセスできます。「最近使用したプロジェクト (Recent Projects)」を選択すると、該当するプロジェクトのリストが表示されます。マウスやタッチパッド、あるいは [↑]/[↓] キーを使用してリストをスクロールできます。

2 プロジェクトテンプレートのカテゴリ

使用可能なカテゴリから、適切なプロジェクトテンプレートに素早くアクセスできます。カテゴリを選択すると、使用可能なテンプレートのリストが表示されます。

3 新規空白プロジェクト (New Empty Project)

プレーヤーやフローが設定されていない新規のプロジェクトを開始します。

4 リスト

ダイアログの左側で選択している項目に従って、最近使用したプロジェクトまたはプロジェクトテンプレートが表示されます。

5 他のファイルを開く (Open Other)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) でその他のプロジェクトを検索して開くことができます。

6 テンプレートから新規作成 (New from Template) (プロジェクトテンプレートを選択時)

選択したプロジェクトテンプレートを使用して、新規プロジェクトを作成します。このオプションはプロジェクトテンプレートを選択している場合にのみ使用できます。

選択したプロジェクトを開く (Open Selected Project) (最近使用したプロジェクトを選択時)

「最近使用したプロジェクト (Recent Projects)」のリストで選択したファイルを開きます。

7 ユーザーフォーラム (User Forum)

Steinberg Web サイトのユーザーフォーラムのページを表示します。

8 ダウンロード (Downloads)

Steinberg Web サイトのダウンロードページへのリンクです。関連するアップデートインストーラーやマニュアルへのリンクがあります。

9 ニュース (News)

Dorico ブログの最新の記事が表示されます。ニュース記事をダブルクリックするか、選択して「**続きを読む (Read More)**」をクリックすると、記事が Web ブラウザーで表示されます。

10 ビデオチュートリアル (Video Tutorials)

最新の Dorico のビデオチュートリアルが表示されます。ビデオチュートリアルをダブルクリックするか、選択して「**今すぐ見る (Watch Now)**」をクリックすると、記事が Web ブラウザーで表示されます。

11 その他のビデオ (More Videos)

YouTube の Dorico チャンネルへのリンクです。チュートリアルビデオや新機能に関する情報をご覧ください。

関連リンク

[プロジェクトテンプレートのカテゴリー](#) (71 ページ)

新規プロジェクトの開始

Dorico Pro では、複数の方法でプロジェクトを開始できます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、新規プロジェクトを開始します。
 - **[Ctrl]/[command]+[N]** を押します。
 - 「**ファイル (File)**」 > 「**新規 (New)**」を選択します。
 - Hub で「**新規空白プロジェクト (New Empty Project)**」をクリックします。

結果

新しいプロジェクトウィンドウが開きます。

プロジェクトテンプレートから新規プロジェクトを開始

Dorico Pro には、さまざまなタイプのオーケストラや合唱など、新規プロジェクトを開始するためのプロジェクトテンプレートが複数用意されています。

手順

1. Hub で、以下のプロジェクトテンプレートのカテゴリーを 1 つ選択します。
 - **オーケストラ (Orchestral)**
 - **バンド (Band)**

- ジャズ (Jazz)
 - 室内楽 (Chamber)
 - 合唱および声楽 (Choral and Vocal)
 - ソロ (Solo)
2. リストからプロジェクトテンプレートを選択します。
 3. 「テンプレートから新規作成 (New from Template)」をクリックします。

結果

プロジェクトテンプレートが新規プロジェクトウィンドウで開きます。

ヒント

「ファイル (File)」 > 「テンプレートから新規作成 (New From Template)」 > [テンプレートのカテゴリ] > [プロジェクトテンプレート] を選択して、テンプレートから新規プロジェクトを開始することもできます。

手順終了後の項目

プレーヤーやインストゥルメントを追加したり、テンプレートに含まれていたプレーヤーやインストゥルメントを削除したりして、プロジェクトをカスタマイズできます。

関連リンク

- [アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(696 ページ\)](#)
- [ソロプレーヤー/セクションプレーヤーの追加 \(111 ページ\)](#)
- [プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(119 ページ\)](#)
- [プレーヤーの削除 \(113 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの削除 \(122 ページ\)](#)

プロジェクトテンプレートのカテゴリ

Dorico Pro には、さまざまなプロジェクトテンプレートのカテゴリが用意されています。異なるプロジェクトテンプレートのカテゴリから開始したプロジェクトには、大括弧と中括弧、譜表のラベルなど、そのアンサンブルに適した表記規則に従う異なるデフォルト設定があります。

オーケストラ (Orchestral)

弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器など、ほとんどの西洋楽器を含む大編成のアンサンブルです。

バンド (Band)

木管楽器や金管楽器などの管楽器を主に含む大編成のアンサンブルで、場合によっては打楽器や、弦楽器、ギターなどの他の楽器も含まれます。

ジャズ (Jazz)

ビッグバンドやジャズトリオなど、ジャズの演奏に一般的に使用される人気のアンサンブルです。

室内楽 (Chamber)

弦楽四重奏など、一般的に、プレーヤーが少数しかいない小編成のアンサンブルです。

合唱および声楽 (Choral and Vocal)

無伴奏混声四部合唱など、人気の合唱編成などの声部を含むアンサンブルです。

ソロ (Solo)

ソロオルガンやタブ譜付きのギターなど、単一のプレーヤーまたはインストゥルメントのみを含むアンサンブルです。

関連リンク

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化](#) (696 ページ)

[組段オブジェクト](#) (1188 ページ)

プロジェクト/ファイルを開く

Dorico Pro プロジェクトはいつでも開けます。たとえば、開きたいプロジェクトが、Hub の最近使用したプロジェクトのリストに表示されていない場合でも開くことができます。MusicXML および MIDI ファイルを開くこともできます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
 - Hub で、「他のファイルを開く (Open Other)」をクリックします。
 - 「ファイル (File)」 > 「開く (Open)」を選択します。
 - 「ファイル (File)」 > 「最近使用したプロジェクト (Open Recent)」 > [プロジェクトファイル名] を選択します。
2. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、開くファイルを探して選択します。
3. 「開く (Open)」をクリックします。

結果

選択した Dorico プロジェクトが開きます。

MusicXML や MIDI ファイルを開くと、MusicXML や MIDI の内容をもとにして Dorico Pro の新規プロジェクトファイルが作成されます。このファイルを Dorico Pro のデフォルトのプロジェクトとして保存できます。

MusicXML ファイルにページサイズ、余白、および譜表サイズの設定が含まれる場合、Dorico Pro はこれらの値を読み込みます。これらの値が含まれない場合は、ファイル内のインストゥルメント数に応じて Dorico Pro が適切な設定を作成します。

ヒント

MusicXML や MIDI ファイルを別のプロジェクトとして開くのではなく、既存のプロジェクトに新しいフローとして読み込むこともできます。

関連リンク

[Hub](#) (69 ページ)

[MusicXML ファイルの読み込み](#) (79 ページ)

[MIDI の読み込み](#) (82 ページ)

Hub から最近使用したプロジェクトを開く

Steinberg Hub から、最近使用したプロジェクトを選択して開くことができます。

手順

1. Hub で、「最近使用したプロジェクト (Recent Projects)」をクリックします。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、最近使用したプロジェクトをリストから選択します。
 - **[↑]/[↓]** を使用してプロジェクトファイル名を選択し、**[Return]** を押してプロジェクトを開きます。
 - プロジェクトファイル名をダブルクリックします。
 - プロジェクトファイル名を選択し、「選択したプロジェクトを開く (Open Selected Project)」をクリックします。

結果

選択した Dorico プロジェクトが開きます。

異なるバージョンの Dorico のプロジェクト

現在とは異なるバージョンの Dorico で保存したプロジェクトを開くことができます。その場合には、行なわれる動作についての警告メッセージが表示されます。

警告メッセージの内容は、開こうとしているプロジェクトがどのバージョンの Dorico で保存されているかによって異なります。

- 旧バージョンで保存されたプロジェクトを開く場合は、保存されている旧バージョン番号、およびプロジェクトが現在のバージョンに更新される旨のメッセージが表示されます。
- 現在よりも新しいバージョンで保存されたプロジェクトを開く場合は、プロジェクトがより新しいバージョンで作成されている旨のメッセージが表示されます。また、新しいバージョンのアイテムと記譜記号が表示されない可能性や、プロジェクトを現在のバージョンで保存するとアイテムと記譜記号が削除される可能性があることも表示されます。

上記のどちらの場合でも、プロジェクトを開くことでデータは破損しません。つまり、保存をしなければ内容や形式は影響を受けません。

「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページにある「ファイル (Files)」セクションでは、異なるバージョンのプロジェクトを開く際に表示される警告をオフにできます。同じセクションで、異なるバージョンのプロジェクトは新しい場所に保存することを促すように設定できます。これにより、誤ってプロジェクトを上書きするリスクを低減します。

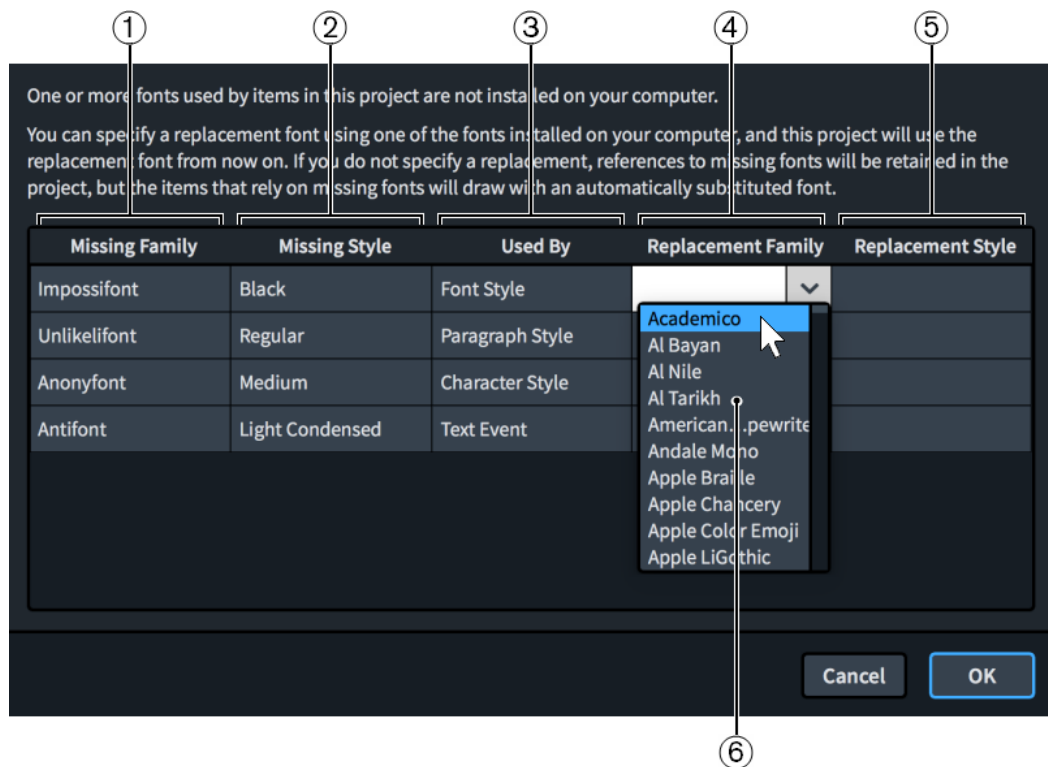
関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログ

「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログは、コンピューターにインストールされていないフォントを含むプロジェクトを開くと表示されます。このダイアログでは、コンピューターにインストールされている置換フォントを代替フォントとして選択できます。

「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログには、複数の列を含む表が表示されます。これらの列では、フォントスタイル、文字スタイル、パラグラフスタイル、およびテキストオブジェクトについて、存在しない特定のフォントファミリーとスタイルを確認できます。プロジェクト内でフォントが存在しない場所について、それぞれ個別の行が表示されます。たとえば、あるフォントファミリーの太字スタイルが3つの異なるパラグラフスタイルで使用されている場合、ダイアログにはそれぞれのパラグラフスタイルに対して1行ずつ、合計3行が表示されます。



「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログ

「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログは以下で構成されます。

1 「存在しないファミリー (Missing Family)」列

プロジェクトには含まれているものの、コンピューター上には存在しないフォントファミリーのリストが表示されます。

2 「存在しないスタイル (Missing Style)」列

プロジェクトには含まれているものの、コンピューター上には存在しない、該当するフォントファミリー内の特定のスタイルのリストが表示されます。

3 「使用箇所 (Used By)」列

該当するフォントが使用されているプロジェクト内の場所のリストが表示されます。

4 「代替ファミリー (Replacement Family)」列

代替のフォントファミリーを選択できます。選択すると、そのエントリーにフォントファミリーの名前が表示されます。

5 「代替スタイル (Replacement Style)」列

その代替フォントファミリー内の使用できるスタイルを選択できます。選択すると、そのエントリーにスタイルが表示されます。

6 使用できるフォントメニュー

コンピューターにインストールされているすべてのフォントのリストが表示されます。「代替ファミリー (Replacement Family)」列と「代替スタイル (Replacement Style)」列でエントリーをダブルクリックするとこのメニューが表示されます。

ヒント

コンピューターにインストールされていないフォントを含むプロジェクトを開いたときに「存在しないフォント (Missing Fonts)」ダイアログを表示するかどうかは、「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページで選択できます。

関連リンク

- [「環境設定 \(Preferences\)」 ダイアログ \(61 ページ\)](#)
- [「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」 ダイアログ \(412 ページ\)](#)
- [「文字スタイル \(Character Styles\)」 ダイアログ \(418 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」 ダイアログ \(415 ページ\)](#)
- [記譜モードのテキストエディターオプション \(316 ページ\)](#)
- [浄書モードのテキストエディターオプション \(420 ページ\)](#)

ファイルの読み込みと書き出し

外部ファイルとは、Dorico プロジェクトとは形式が異なるファイルで、MIDI、MusicXML やテンポトラックなどがあります。Dorico Pro では、さまざまな種類のファイルの読み込みと書き込みを行なえます。

これは、たとえば異なる楽譜作成ソフトウェアを使用する誰かとプロジェクトを共有する場合や、プロジェクト中の音符、オーディオ、または拍子記号とテンポ情報を他の形式に変換する場合などに有用です。

フローの読み込み

個々のフローを既存のプロジェクトに読み込むことができます。たとえば、複数の既存の楽曲を出版用に1つのプロジェクトにまとめたり、好みの設定が保存された空白のプロジェクトファイルを読み込んでそれらの設定を再利用したりできます。

手順

- 「**ファイル (File)**」 > 「**読み込み (Import)**」 > 「**フロー (Flows)**」を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
- エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、読み込むフローのプロジェクトファイルの場所まで移動して選択します。
- 「**開く (Open)**」をクリックして、最初に選択したプロジェクトの「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログを開きます。
- 「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログの「**プレーヤーの処理方法 (Player handling)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)
 - 可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)
- 「**フローを読み込む (Import flows)**」リストで、読み込むフローそれぞれのチェックボックスをオンにします。
- 「**OK**」をクリックすると選択したフローが読み込まれ、ダイアログが閉じます。
- また、フローの読み込みを行なうプロジェクトを複数選択した場合は、それぞれのプロジェクトに対し手順4から6を繰り返します。プロジェクトごとに「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログが自動的に開きます。

結果

選択したフローがプロジェクトに読み込まれます。

- 「**すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**」を選択している場合、必要なだけの新規プレーヤーが各フローに追加されます。
- 「**可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**」を選択している場合、読み込まれたフローと既存のプロジェクト間で共通のプレーヤーはマージされます。たとえば、ピアノソロが含まれるフローをピアノとヴィオラが含まれるプロジェクトに読み込んだ場合、読み込まれたフローは既存のピアノプレーヤーに追加されます。

補足

- プロジェクトに読み込んだフローには、プレイヤーは自動的に追加されません。
- フローを既存プロジェクト内の新規フローではなく、個別のプロジェクトとする場合、フローを直接開くこともできます。

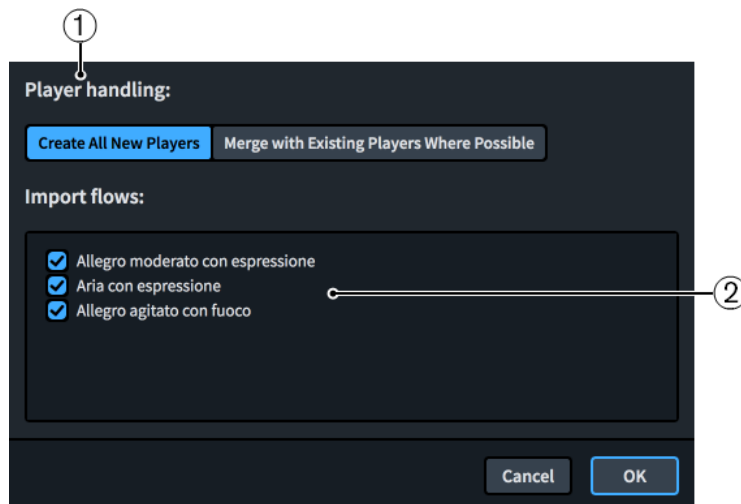
関連リンク

[プロジェクト/ファイルを開く \(72 ページ\)](#)

「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログ

「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログでは、読み込んだフローのプレイヤーをプロジェクトに既存のプレイヤーにマージするかどうか、および他のプロジェクトの中からどのフローを読み込むかについて指定できます。

- 「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「読み込み (Import)」 > 「フロー (Flows)」 を選択して、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) から Dorico プロジェクトを開きます。



「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログ

「フローの読み込みオプション (Flow Import Options)」 ダイアログは以下で構成されます。

1 プレイヤーの処理方法 (Player handling)

読み込んだフローをどのようにプレイヤーに割り当てるか指定できます。

- 「すべて新規のプレイヤーを作成 (Create All New Players)」 は読み込んだフローごとに個別のプレイヤーを追加します。
- 「可能な場合既存のプレイヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)」 は、プロジェクト中の既存のプレイヤーと互換性のあるプレイヤーが読み込んだフローにいる場合、両者をマージします。

2 フローを読み込む (Import flows)

選択したプロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。チェックボックスをオンにしたフローが読み込み対象となります。

フローの書き出し

プロジェクトから個々のフローを書き出しできます。たとえば、サイズの大きいプロジェクトから小さい抜粋を個別に保存することなどができます。

補足

この手順では、フローが個別の Dorico プロジェクトとして書き出されます。フローを別のファイル形式、たとえば MusicXML や MP3 で書き出す場合は、他の方法が用意されています。

手順

1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「フロー (Flows)」を選択して「フローを書き出し (Export Flows)」ダイアログを開きます。
 2. 「フローを書き出し (Export Flows)」ダイアログで、「選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)」をオンまたはオフにします。
 3. 「書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)」リストで、書き出すフローに対応するチェックボックスをオンにします。リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
 4. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」のオン/オフを切り替えます。
 5. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」をオンにした場合は、「書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)」リストで書き出すレイアウトに対応するチェックボックスをオンにします。リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
 6. 「書き出し先 (Export to)」フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。

 7. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
 8. 「フォルダーを選択 (Select Folder)」 (Windows) / 「開く (Open)」 (macOS) をクリックして、「書き出し先 (Export to)」フィールドに新しいパスを指定します。
 9. 「ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)」をオン/オフにします。
 10. 「OK」をクリックすると、選択したフローとレイアウトが書き出されてダイアログが閉じます。
-

関連リンク

[MusicXML ファイルの書き出し \(80 ページ\)](#)

[MIDI の書き出し \(85 ページ\)](#)

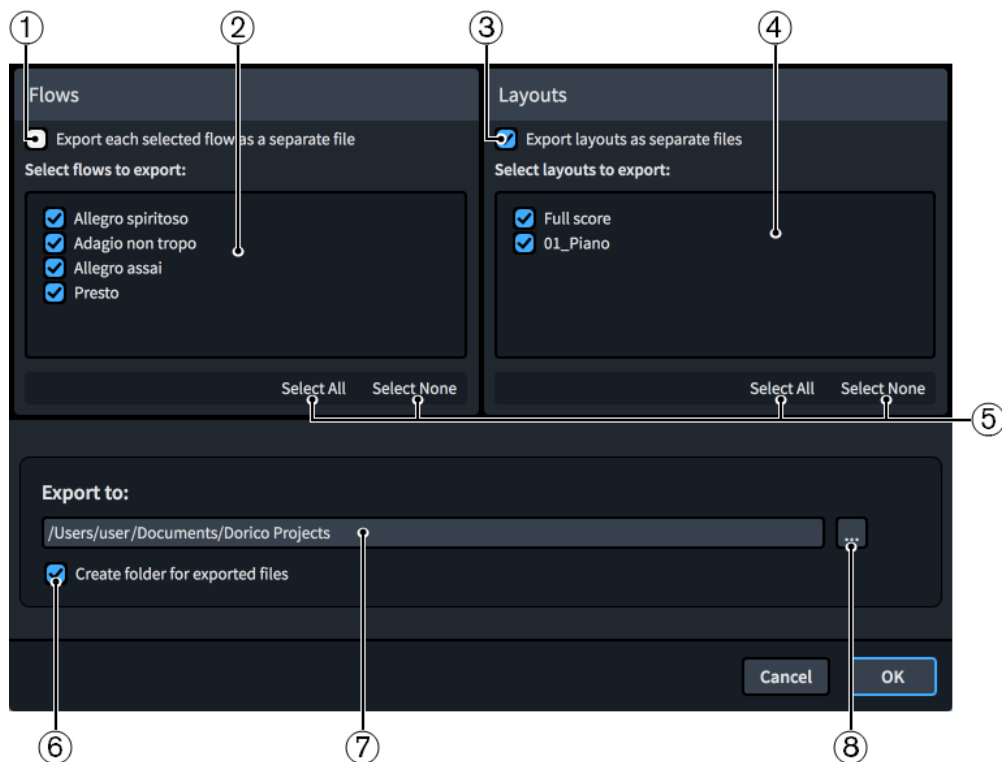
[テンポトラックの書き出し \(89 ページ\)](#)

[オーディオの書き出し \(90 ページ\)](#)

「フローを書き出し (Export Flows)」ダイアログ

「フローを書き出し (Export Flows)」ダイアログでは、個々のフローおよびレイアウトを個別の Dorico ファイルに保存できます。

- 「フローを書き出し (Export Flows)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「フロー (Flows)」を選択します。



「フローを書き出し (Export Flows)」 ダイアログ

「フローを書き出し (Export Flows)」 ダイアログには、以下のオプションとリストがあります。

1 選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)

選択したフローすべてを 1 つのファイルに書き出すのではなく、各フローを個別のファイルに書き出すことができます。

2 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)

プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。

3 レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)

プロジェクトの各レイアウトを 1 つのファイルではなく個別のファイルとして書き出すことができます。

4 書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)

プロジェクト内のすべてのレイアウトが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたレイアウトは書き出しされます。「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」をオンにした場合のみ、レイアウトを書き出すことができます。

5 選択オプション

対応するリストのすべてのフロー/レイアウトの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを 1 つだけ選択できます。

6 ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)

選択したフローを書き出す際に、Dorico Pro が指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。フローの場所 Smyth - String Quintet のように、自動作成されるフォルダー名は、フローの場所のあとにプロジェクトファイル名が続きます。

7 「書き出し先 (Export to)」 フィールド

書き出したフローが保存される現在の書き出しパスを表示します。

8 フォルダーを選択 (Choose Folder)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

MusicXML ファイルの読み込み

MusicXML ファイルは、たとえば異なる楽譜作成ソフトウェアで開始された楽曲の作業を引き継ぐ場合など、個別のフローとして既存の Dorico Pro プロジェクトに読み込まれます。

手順

1. 「**ファイル (File)**」 > 「**読み込み (Import)**」 > 「**MusicXML**」を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、読み込む MusicXML ファイルを探して選択します。
3. 「**開く (Open)**」をクリックして、最初を選択した MusicXML ファイルのための「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログを開きます。
4. 「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログの「**プレーヤーの処理方法 (Player handling)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**
 - **可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**
5. 「**OK**」をクリックすると選択したフローが読み込まれ、ダイアログが閉じます。
6. また、複数の MusicXML ファイルを選択した場合は、必要に応じて各ファイルに手順 4 から 5 を繰り返します。ファイルごとに「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログが自動的に開きます。

結果

選択した MusicXML ファイルが新規フローとしてプロジェクトに読み込まれます。

- MusicXML ファイルにページサイズ、余白、および譜表サイズの設定が含まれる場合、Dorico Pro はこれらの値を読み込みます。これらの値が含まれない場合は、ファイル内のインストゥルメント数に応じて Dorico Pro が適切な設定を作成します。
- 「**すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**」を選択している場合、それぞれの MusicXML ファイルの読み込みに必要なだけの新規プレーヤーが追加されます。
- 「**可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**」を選択している場合、読み込まれた MusicXML ファイルと既存のプロジェクト間で共通のプレーヤーはマージされます。たとえば、ピアノソロが含まれる MusicXML ファイルをピアノとヴィオラが含まれるプロジェクトに読み込んだ場合、読み込まれた MusicXML ファイルは既存のピアノプレーヤーに追加されます。

ヒント

- MusicXML ファイルを既存プロジェクト内の新規フローではなく、個別のプロジェクトとして開く場合は、MusicXML ファイルを直接開くこともできます。
- 読み込んだ MusicXML ファイルの処理方法に関する環境設定のデフォルトは、「**環境設定 (Preferences)**」の「**MusicXML の読み込み (MusicXML Import)**」ページで変更できます。


関連リンク

[「フローの読み込みオプション \(Flow Import Options\)」ダイアログ \(76 ページ\)](#)
[プロジェクト/ファイルを開く \(72 ページ\)](#)

MusicXML ファイルの書き出し

たとえばソリストのレイアウトの1つめのフローのみを書き出す場合、フローとレイアウトを個別の MusicXML ファイルとして書き出せます。

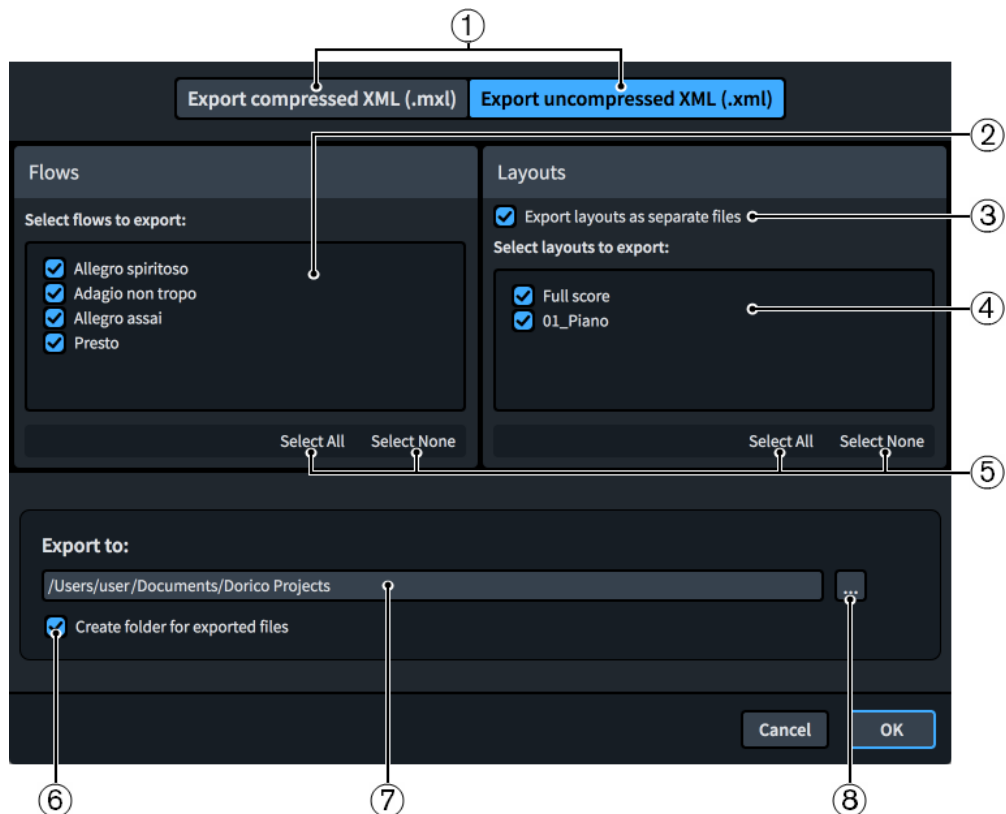
手順

1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「MusicXML」を選択して、「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログを開きます。
2. 「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログで、以下のいずれかのファイル形式のオプションを選択します。
 - 圧縮された XML ファイル (.mxl) を書き出し (Export compressed XML (.mxl))
 - 非圧縮の XML ファイル (.xml) を書き出し (Export uncompressed XML (.xml))
3. 「書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)」リストで、書き出すフローに対応するチェックボックスをオンにします。リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
4. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」のオン/オフを切り替えます。
5. 「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」をオンにした場合は、「書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)」リストで書き出すレイアウトに対応するチェックボックスをオンにします。リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
6. 「書き出し先 (Export to)」フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。

7. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
8. 「フォルダーを選択 (Select Folder)」(Windows) / 「開く (Open)」(macOS) をクリックして、「書き出し先 (Export to)」フィールドに新しいパスを指定します。
9. 「ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)」をオン/オフにします。
10. 「OK」をクリックすると、選択したフロー/レイアウトが MusicXML ファイルとして書き出され、ダイアログが閉じます。

「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログ

「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログでは、個々のフローおよびレイアウトを個別の MusicXML ファイルに保存できます。

- 「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「MusicXML」を選択します。



「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」 ダイアログ

「MusicXML を書き出し (Export MusicXML)」 ダイアログには、以下のオプションとリストがあります。

1 ファイル形式オプション

書き出しを行なう MusicXML ファイルの形式を選択できます。圧縮された MusicXML ファイルには非圧縮の MusicXML と同じ情報が含まれますが、ファイルサイズが小さくなります。

2 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)

プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。

3 レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)

プロジェクトの各レイアウトを1つのファイルではなく個別のファイルとして書き出すことができます。

4 書き出しを行なうレイアウトを選択 (Select layouts to export)

プロジェクト内のすべてのレイアウトが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたレイアウトは書き出しされます。「レイアウトをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export layouts as separate files)」をオンにした場合のみ、レイアウトを書き出すことができます。

5 選択オプション

対応するリストのすべてのフロー/レイアウトの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。

6 ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)

選択したフローを書き出す際に、Dorico Pro が指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。フローの場所 Smyth - String Quintet のように、自動作成されるフォルダー名は、フローの場所のあとにプロジェクトファイル名が続きます。

7 「書き出し先 (Export to)」 フィールド

書き出すファイルの保存先が表示されます。

8 フォルダーを選択 (Choose Folder)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

MIDI の読み込み

MIDI ファイルは、たとえば楽曲のセクションの異なるバージョンに対して作業する場合など、個別のフローとして既存の Dorico Pro プロジェクトに読み込めます。

手順

1. 「**ファイル (File)**」 > 「**読み込み (Import)**」 > 「**MIDI**」を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、読み込む MIDI ファイルを探して選択します。
3. 「**開く (Open)**」をクリックして、最初に選択した MIDI ファイルのための「**MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)**」ダイアログを開きます。
4. 「**MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)**」ダイアログで、必要に応じて設定を変更します。
5. また、クオンタイズ設定をカスタマイズする場合は、「**クオンタイズオプション (Quantize Options)**」をクリックして、必要に応じて「**MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)**」ダイアログの設定を変更します。
6. それから「**OK**」をクリックしてクオンタイズ設定を保存し、「**MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)**」ダイアログに戻ります。
7. 「**OK**」をクリックして「**MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)**」ダイアログを閉じると、最初に選択した MIDI ファイルのための「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログが自動的に開きます。
8. 「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログの「**プレーヤーの処理方法 (Player handling)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**
 - **可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**
9. 「**OK**」をクリックすると選択したフローが読み込まれ、ダイアログが閉じます。
10. また、複数の MIDI ファイルを選択した場合は、必要に応じて各ファイルに手順 4 から 9 を繰り返します。「**MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)**」と「**フローの読み込みオプション (Flow Import Options)**」ダイアログが、ファイルごとに自動的に開きなおします。

結果

選択した MIDI ファイルが新規フローとしてプロジェクトに読み込まれます。Dorico Pro は読み込まれた MIDI ノートに対して、正しい異名同音を生成するアルゴリズムを使用します。

- MIDI ファイルに含まれるマーカーは一緒に読み込まれ、MIDI ファイルに SMPTE オフセット値が設定されている場合は、その値がフローの開始位置のタイムコード位置の設定に使用されます。
- 「**すべて新規のプレーヤーを作成 (Create All New Players)**」を選択している場合、それぞれの MIDI ファイルの読み込みに必要なだけの新規プレーヤーが追加されます。
- 「**可能な場合既存のプレーヤーとマージ (Merge with Existing Players Where Possible)**」を選択している場合、読み込まれた MIDI ファイルと既存のプロジェクト間で共通のプレーヤーはマージされます。たとえば、ピアノソロが含まれる MIDI ファイルをピアノとヴィオラが含まれるプロジェクトに読み込んだ場合、読み込まれた MIDI ファイルは既存のピアノプレーヤーに追加されます。

ヒント

MIDI ファイルを既存プロジェクト内の新規フローではなく、個別のプロジェクトとして開く場合は、MIDI ファイルを直接開くこともできます。

関連リンク

[プロジェクト/ファイルを開く \(72 ページ\)](#)

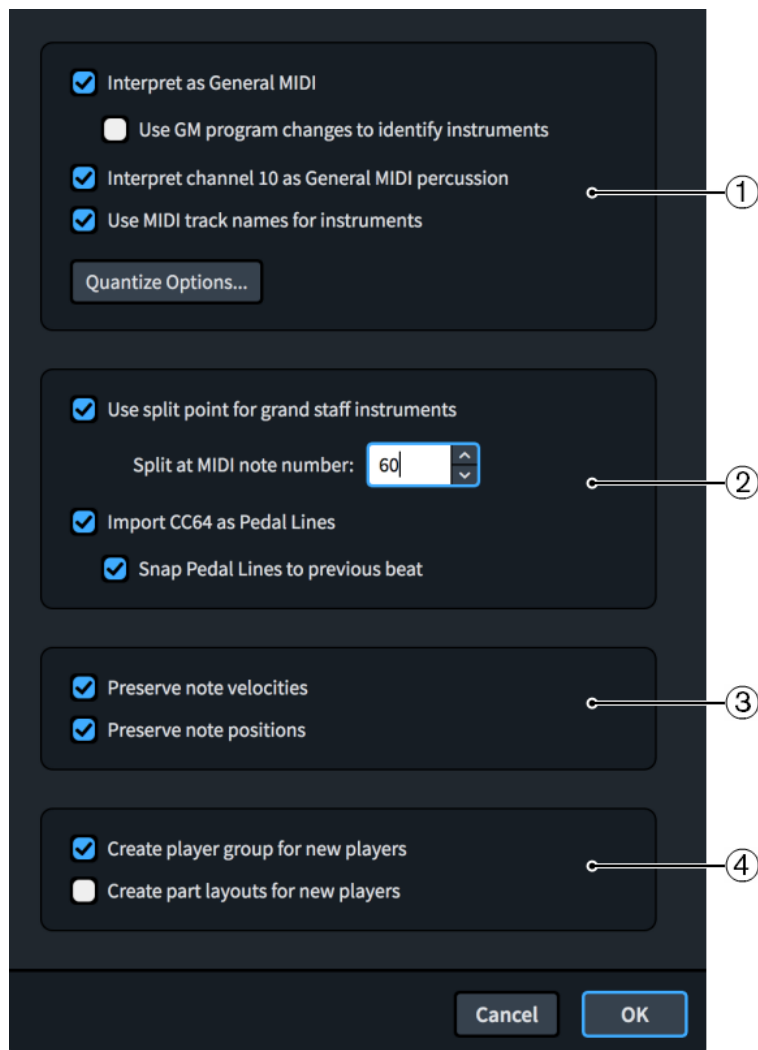
[音符の再クオンタイズ \(210 ページ\)](#)

[MIDI 録音/インポートでのサスティンペダルコントローラー設定の変更 \(213 ページ\)](#)

「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」 ダイアログ

「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」のダイアログでは、MIDI ファイル読み込み時に MIDI データを Dorico プロジェクトに変換するために Dorico Pro が使用する設定をカスタマイズできます。

- 「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」> 「読み込み (Import)」> 「MIDI」を選択して、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) から MIDI ファイルを開きます。



「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」 ダイアログ

「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログには以下のセクションがあります。

1 インストゥルメントの処理方法

このセクションのオプションでは、読み込まれた MIDI ファイルに基づき Dorico Pro がインストゥルメントを選択し命名する方法を指定します。

「クオンタイズオプション (Quantize Options)」ボタンは、クオンタイズ設定をカスタマイズできる「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログを開きます。

2 キーボードの処理方法

このセクションのオプションでは、読み込まれた MIDI ファイルに基づき Dorico Pro がキーボードの楽譜を解釈する方法を指定します。これには、右手の譜表と左手の譜表に音符を分割する位置の MIDI ノートナンバーや、CC64 がペダル線を示すかどうかなどが含まれます。

3 演奏の保存

このセクションのオプションでは、MIDI ファイルにおけるオリジナルの演奏を、再生のためにどれだけ保存するか指定できます。これは読み込まれた MIDI ノートの記譜方法に影響するものではありません。それについてはクオンタイズオプションの設定により制御されます。

4 プレーヤーの処理方法 (Player handling)

このセクションのオプションでは、MIDI ファイル内のインストゥルメントにどのプレーヤーとレイアウトを割り当てるか指定できます。たとえば、オーケストレーションのために MIDI ファイルを既存のプロジェクトに読み込む場合、「新規プレーヤーにプレーヤーグループを作成 (Create player group for new players)」をオンにして、「新規プレーヤーにパートレイアウトを作成 (Create part layouts for new players)」をオフにすることで、独立した 1 つのプレーヤーグループを追加し、追加のパートレイアウトは作成しないことをおすすめします。

関連リンク

[MIDI 録音/インポートでのサスティンペダルコントローラー設定の変更 \(213 ページ\)](#)

「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログ

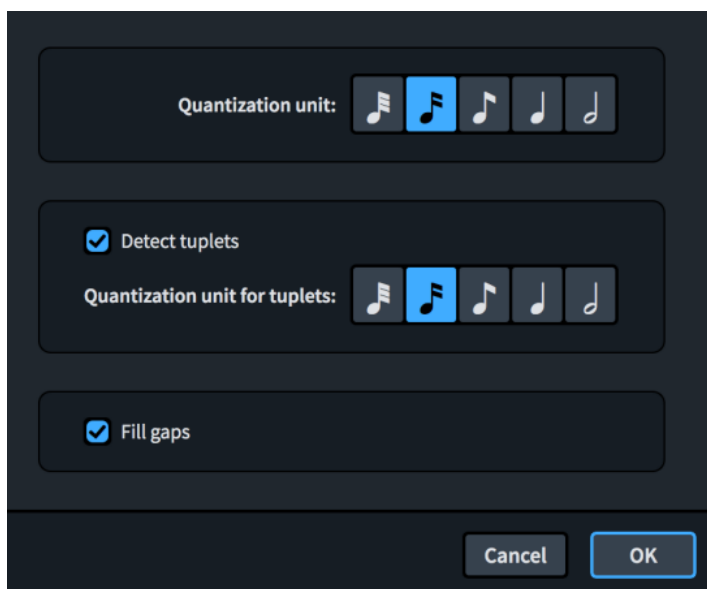
「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログでは、読み込まれた MIDI ファイルおよび MIDI デバイスを使用した録音による音符入力に適用するクオンタイズ設定をカスタマイズできます。

「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行います。

- 「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログの「クオンタイズオプション (Quantize Options)」をクリックします。
- 環境設定の「再生 (Play)」ページの「録音 (Recording)」サブセクションにある「クオンタイズオプション (Quantization Options)」をクリックします。

補足

このダイアログをいずれの方法で開いても設定内容はリンクしています。



「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログ

「MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)」ダイアログには以下のオプションがあります。

クオンタイズの単位 (Quantization unit)

音符をクオンタイズする際の拍の最小単位を設定できます。たとえば、読み込むファイルにおいて意図される音符の最小デュレーションが 8 分音符である場合、「**クオンタイズの単位 (Quantization unit)**」を 8 分音符に設定します。

連符を検出 (Detect tuplets)

拍から外れた音符を連符とみなすかどうか制御できます。読み込む MIDI ファイルに意図された連符が存在しないことがわかっている場合は、「**連符を検出 (Detect tuplets)**」をオフにすると、音符は連符として読み込まれません。

連符のクオンタイズの単位 (Quantization unit for tuplets)

連符の音符をクオンタイズする際の拍の最小単位を設定できます。たとえば、読み込むファイルにおいて意図される連符の音符の最小デュレーションが 4 分音符である場合、「**連符のクオンタイズの単位 (Quantization unit for tuplets)**」を 4 分音符に設定します。

間隔を埋める (Fill gaps)

Dorico Pro に短い音符の間隔を埋めさせるかどうか指定できます。すでに正確にクオンタイズされている楽曲データを読み込む場合は、「**間隔を埋める (Fill gaps)**」をオフにして、音符と休符がクオンタイズされた通りに記譜されるようにすることをおすすめします。

関連リンク

[MIDI 録音 \(208 ページ\)](#)

MIDI の書き出し

たとえば DAW でオーディオをさらに細かく編集するために、フローを個別の MIDI ファイルとして書き出せます。Dorico Pro から書き出した MIDI ファイルには、デフォルトでプロジェクト内のマーカーが含まれます。

前提条件

MIDI を書き出すプレーヤーが含まれているレイアウトを設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルの一番上に配置しておきます。

手順

1. 「**ファイル (File)**」 > 「**書き出し (Export)**」 > 「**MIDI**」を選択して「**MIDI を書き出し (Export MIDI)**」ダイアログを開きます。
2. 「**書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)**」リストで、書き出すフローに対応するチェックボックスをオンにします。リスト最下部には「**すべて選択 (Select All)**」または「**選択を解除 (Select None)**」ボタンもあります。
3. 「**書き出し先 (Export to)**」フィールドの横の「**フォルダーを選択 (Choose Folder)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。

4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
5. 「**フォルダーを選択 (Select Folder)**」 (Windows) / 「**開く (Open)**」 (macOS) をクリックして、「**書き出し先 (Export to)**」フィールドに新しいパスを指定します。
6. 「**ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)**」をオン/オフにします。
7. 「**OK**」をクリックすると、選択したフローが MIDI ファイルとして書き出されてダイアログが閉じます。

結果

選択したフローが MIDI ファイルとして書き出されます。このファイルには、設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」リストの一番上のレイアウトに割り当てられているすべてのプレーヤーの MIDI が含まれています。

関連リンク

[レイアウトのソート \(142 ページ\)](#)

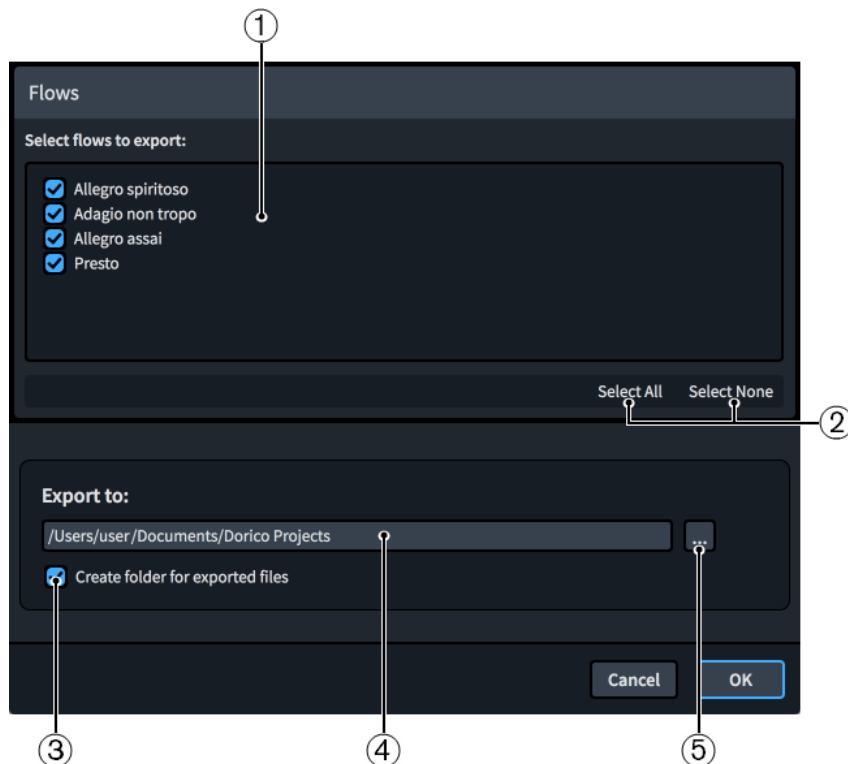
[「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(100 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたプレーヤーの変更 \(139 ページ\)](#)

「MIDI を書き出し (Export MIDI)」 ダイアログ

「MIDI を書き出し (Export MIDI)」 ダイアログでは、個々のフローを個別の MIDI ファイルに保存できます。

- 「MIDI を書き出し (Export MIDI)」 ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「MIDI」を選択します。



「MIDI を書き出し (Export MIDI)」 ダイアログ

「MIDI を書き出し (Export MIDI)」 ダイアログは以下で構成されます。

- 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)**
プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。
- 選択オプション**
プロジェクト内のすべてのフローの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。
- ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)**
選択したフローを書き出す際に、Dorico Pro が指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。フローの場所 Smyth - String Quintet のように、自動作成されるフォルダー名は、フローの場所のあとにプロジェクトファイル名が続きます。
- 「書き出し先 (Export to)」 フィールド**
書き出すファイルの保存先が表示されます。
- フォルダーを選択 (Choose Folder)**
エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

テンポトラックの読み込み

たとえば、映画音楽を作曲していて、フィルム長の変更によりテンポと拍子記号の変更が必要になった場合など、既存のプロジェクトの個々のフローにテンポトラックを読み込みます。これによりフローの音符や記譜記号が上書きされることはありません。

手順

1. 「**ファイル (File)**」 > 「**読み込み (Import)**」 > 「**Tempo Track**」 を選択してエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
2. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、テンポトラックを読み込む MIDI ファイルを探して選択します。
3. 「**開く (Open)**」 をクリックして 「**テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)**」 ダイアログを開きます。
4. 「**読み込み先のフロー (Import into flow)**」 リストから、テンポトラックを読み込む先のフローを選択します。
5. 「**読み込んだ内容で以下を置き換え (Import and replace)**」 のセクションで、読み込みに含めるテンポトラックの内容のチェックボックスをそれぞれオンにします。
6. また、「**マーカー (Markers as)**」 チェックボックスをオンにしている場合は、必要に応じて以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **マーカー**
 - **組段テキスト (System Text)**
7. 「**マーカー (Markers as)**」 で 「**組段テキスト (System Text)**」 を選択した場合は、必要に応じて 「**組段テキストマーカーの周囲に境界線を表示 (Show border around system text markers)**」 をオン/オフにします。
8. 「**OK**」 をクリックすると、テンポトラックが読み込まれてダイアログが閉じます。

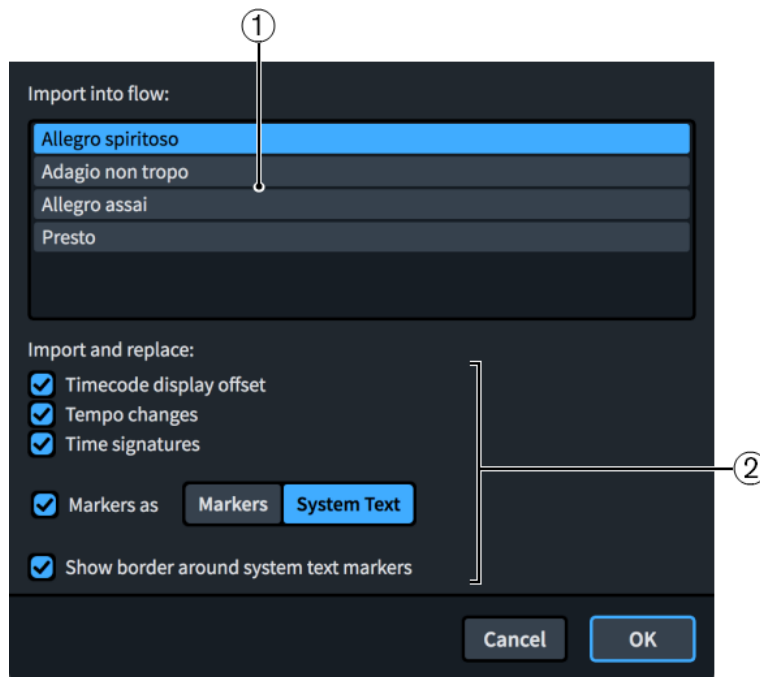
結果

選択したフローにテンポトラックが読み込まれます。選択した内容がすべて既存の楽譜に適用され、音符やテンポ記号が必要に応じて調整されます。

「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」 ダイアログ

「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」 ダイアログでは、プロジェクト中の個々のフローにテンポトラックを読み込んで、テンポトラックのどの内容をフローに適用するか制御できます。

- 「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」 ダイアログを開くには、「**ファイル (File)**」 > 「**読み込み (Import)**」 > 「**Tempo Track**」 を選択して、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) から MIDI ファイルを開きます。



「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」 ダイアログ

「テンポトラックの読み込み (Import Tempo Track)」 ダイアログは以下で構成されます。

1 読み込み先のフロー (Import into flow)

プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。現在選択中のフローは強調表示されます。

補足

テンポトラックは一度に1つのフローにしか読み込めません。

2 読み込んだ内容で以下を置き換え (Import and replace)

テンポトラックのどの内容を読み込み、選択したフローに適用するか制御できます。

- 「**タイムコード表示のオフセット (Timecode display offset)**」は、フローの開始位置の初期タイムコードポジションを設定します。
- 「**テンポ変更 (Tempo changes)**」は、フロー中のすべての即時テンポ変更および段階的テンポ変更を MIDI ファイルからのテンポ変更置き換えます。
- 「**拍子記号 (Time signatures)**」は、フロー中のすべての拍子記号を MIDI ファイルからの拍子記号に置き換えます。
- 「**マーカー (Markers as)**」は、MIDI ファイルからのすべてのマーカーを「**マーカー (Markers)**」と「**組段テキスト (System Text)**」のいずれかとしてフローに追加します。
マーカーを「**マーカー (Markers)**」として読み込むと、フローの既存のマーカーはすべて MIDI ファイルからのマーカーに置き換えられます。一方、マーカーを「**組段テキスト (System Text)**」として読み込むと、既存のマーカーまたは組段テキストオブジェクトは置き換えられません。
- 「**組段テキストマーカーの周囲に境界線を表示 (Show border around system text markers)**」をオンにすると、組段テキストオブジェクトとして読み込まれたマーカーに境界線が追加されます。このオプションは「**マーカー (Marker as)**」で「**組段テキスト (System Text)**」を選択している場合にのみ使用可能です。

テンポトラックの書き出し

たとえば、あるフローのテンポ記号と拍子記号を同じプロジェクトの別のフローに適用する場合、フローを個別のテンポトラックとして書き出せます。

手順

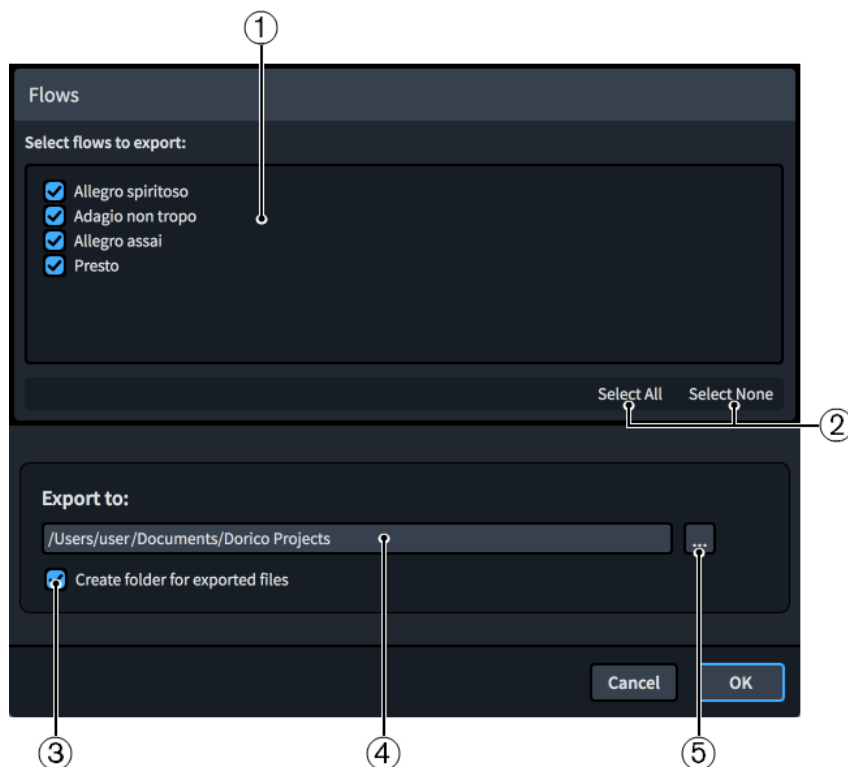
1. 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「Tempo Track」 を選択して、「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」 ダイアログを開きます。
2. 「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」 ダイアログで、テンポトラックとして書き出すフローそれぞれのチェックボックスをオンにします。リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」 ボタンもあります。
3. 「書き出し先 (Export to)」 フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」 をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。

4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
5. 「フォルダーを選択 (Select Folder)」 (Windows) / 「開く (Open)」 (macOS) をクリックして、「書き出し先 (Export to)」 フィールドに新しいパスを指定します。
6. 「ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)」 をオン/オフにします。
7. 「OK」 をクリックすると、選択したフローがテンポトラックとして書き出されてダイアログが閉じます。

「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」 ダイアログ

「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」 ダイアログでは、個々のフローを個別のテンポトラックとして、MIDI ファイル形式で保存できます。

- 「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」 ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「Tempo Track」 を選択します。



「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」 ダイアログ

「テンポトラックを書き出し (Export Tempo Track)」ダイアログは以下で構成されます。

1 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)

プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。

2 選択オプション

プロジェクト内のすべてのフローの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。

3 ファイル書き出し用フォルダーを作成 (Create folder for exported files)

選択したフローを書き出す際に、Dorico Pro が指定した書き出し先に新規フォルダーを作成するかどうかをコントロールします。フローの場所 Smyth - String Quintet のように、自動作成されるフォルダー名は、フローの場所のあとにプロジェクトファイル名が続きます。

4 「書き出し先 (Export to)」フィールド

書き出すファイルの保存先が表示されます。

5 フォルダーを選択 (Choose Folder)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。


オーディオの書き出し

プロジェクトを MP3 または WAV 形式のオーディオファイルとして書き出せます。各フローと各プレーヤーを個別のファイルに書き出すこともでき、たとえば、第2フローのソリストのパートのみのモックアップ音源を共有する場合などにこの機能を利用できます。

前提条件

オーディオの書き出し元となるフルスコアレイアウトを設定モードの「レイアウト (Layouts)」パネルの一番上に配置しておきます。

手順

- 「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「オーディオ (Audio)」を選択して「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログを開きます。
- 「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログで、以下のいずれかのファイル形式のオプションを選択します。
 - 圧縮された mp3 ファイル (.mp3) を書き出し (Export compressed mp3 (.mp3))
 - 非圧縮の WAV ファイル (.wav) を書き出し (Export uncompressed WAV (.wav))
- 「選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)」をオンまたはオフにします。
- 「書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)」リストで、オーディオファイルとして書き出すフローのチェックボックスをそれぞれオンにします。リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
- 「プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)」をオンまたはオフにします。
- また、「プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)」を選択した場合は、必要に応じて、「書き出しを行なうプレーヤーを選択 (Select players to export)」リストから書き出しを行なうプレーヤーそれぞれのチェックボックスをオンにします。リスト最下部には「すべて選択 (Select All)」または「選択を解除 (Select None)」ボタンもあります。
- 「書き出し先 (Export to)」フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。

- エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
- 「フォルダーを選択 (Select Folder)」 (Windows) / 「開く (Open)」 (macOS) をクリックして、「書き出し先 (Export to)」フィールドに新しいパスを指定します。

10. 「OK」をクリックすると、選択したフロー/プレーヤーの選択した形式によるオーディオファイルが書き出され、ダイアログが閉じます。

関連リンク

[レイアウトのソート \(142 ページ\)](#)

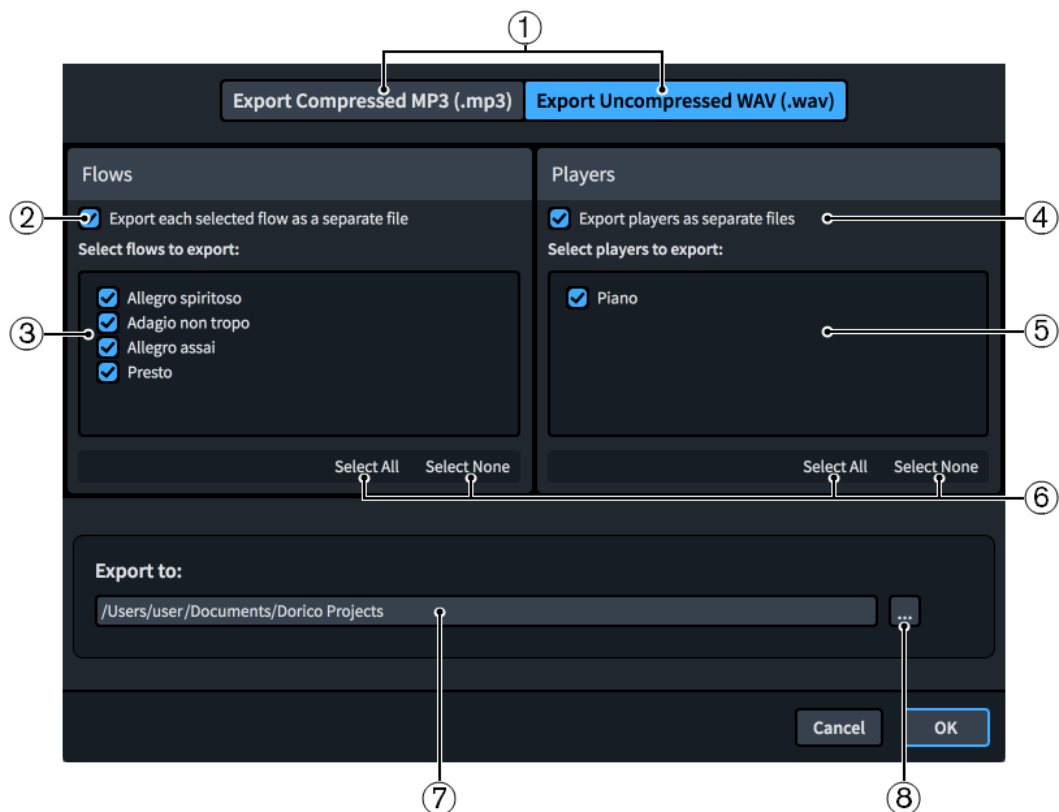
[「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(100 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたプレーヤーの変更 \(139 ページ\)](#)

「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログ

「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログでは、個々のフローおよびプレーヤーを、MP3 か WAV 形式による個別のオーディオファイルに保存できます。

- 「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログを開くには、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「Audio」を選択します。



「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログ

「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログには、以下のオプションとリストがあります。

1 ファイル形式オプション

書き出しを行なうオーディオファイルの形式を選択できます。圧縮された MP3 ファイルは WAV ファイルより小さくなりますが、その分オーディオ品質は低下します。

2 選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)

プロジェクトの各フローを 1 つのオーディオファイルではなく個別のオーディオファイルとして書き出しできます。

3 書き出しを行なうフローを選択 (Select flows to export)

プロジェクト内のすべてのフローのリストが表示されます。対応するチェックボックスをオンにしたフローは書き出しされます。

4 プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)

プロジェクトの全プレーヤーを1つのオーディオファイルに書き出すのではなく、各プレーヤーを個別のオーディオファイルに書き出しできます。

5 書き出しを行なうプレーヤーを選択 (Select players to export)

プロジェクト内のすべてのプレーヤーのリストが表示されます。チェックボックスをオンにしたプレーヤーが書き出し対象となります。「プレーヤーをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export players as separate files)」をオンにしている場合のみ利用できます。

6 選択オプション

対応するリストのすべてのフロー/プレーヤーの選択/選択解除ができます。たとえば、すべてのフローの選択を解除したあとに、書き出すフローのチェックボックスを1つだけ選択できます。

7 「書き出し先 (Export to)」フィールド

書き出したオーディオファイルが保存される現在の書き出しパスを表示します。

8 フォルダーを選択 (Choose Folder)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開いて、保存先を変更できます。

自動保存

自動保存機能は、まだ保存操作を行っていない新規プロジェクトも含め、現在アクティブなプロジェクトを定期的にバージョンとして保存します。これにより、誤って保存しないままプロジェクトを閉じてしまった場合や、万が一 Dorico Pro やコンピューターがクラッシュした場合でも、大量の作業成果を失う危険性を抑えられます。

自動保存されるプロジェクトは、ユーザーアカウントのアプリケーションデータフォルダー内にある「AutoSave」フォルダーに保存されます。この場所は変更できません。

補足

Dorico Pro は、特にサイズの大きいプロジェクトの場合、自動保存実行のために一時的に反応が遅くなる場合があります。

複数のプロジェクトを開いている場合の自動保存

複数のプロジェクトを開いている場合、自動保存間隔ごとに現在アクティブなプロジェクトのみ自動保存されます。これは、再生のためにアクティブにできるのは一度に1つのプロジェクトのみであるためです。複数のプロジェクトを頻繁に切り替える場合、自動保存間隔は短く設定することをおすすめします。

自動保存ファイルの削除

「AutoSave」フォルダーに保存してあるすべてのファイルは、対応するプロジェクトを閉じたとき、および Dorico Pro を終了したときに自動的に削除されます。削除された自動保存済みプロジェクトは、コンピューターのごみ箱の中にあります。ファイルを識別できるよう、自動保存されたプロジェクトファイルの名前の最後には [AutoSave] が自動的に追加されます。

重要

自動保存されるプロジェクトのみならず、「AutoSave」フォルダー内のすべてのファイルが自動的に削除されます。そのため、「AutoSave」フォルダーには手動でファイルを保存しないことが重要です。

ヒント

プロジェクトの以前のバージョンにアクセスする場合は、プロジェクトのバックアップを使用します。

関連リンク

[ツールバー \(42 ページ\)](#)

[プロジェクトのバックアップ \(94 ページ\)](#)

自動保存したプロジェクトの回復

Dorico Pro がクラッシュした場合、そのとき開いていたプロジェクトの自動保存した一番最近のバージョンを回復できます。

手順

1. Dorico Pro を再起動します。
2. Dorico Pro のスプラッシュスクリーンの後に開く「**自動保存したプロジェクトを回復 (Recover Auto-saved Projects)**」ダイアログで、自動保存したプロジェクトのうち回復するもののチェックボックスをそれぞれオンにします。

補足

回復を選択しなかった自動保存済みプロジェクトは、ダイアログを閉じるときすべて恒久的に削除されます。

3. 「**選択したプロジェクトを回復 (Recover Selected Projects)**」をクリックして、選択した自動保存済みプロジェクトを回復してダイアログを閉じます。

結果

選択した自動保存済みプロジェクトが回復され、個別のプロジェクトウィンドウで開きます。

手順終了後の項目

自動保存したプロジェクトは、必要に応じて任意の場所のフォルダーに新規ファイル名で恒久的に保存できます。

自動保存の頻度の変更

Dorico Pro によるプロジェクトの自動保存の頻度を変更できます。初期設定では、現在アクティブなプロジェクトに対する自動保存の間隔は5分です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**全般 (General)**」をクリックします。
3. 「**ファイル (Files)**」セクションで、「**自動保存の間隔 [n] 分 (Auto-save every [n] minutes)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

自動保存の無効化

たとえば、サイズの大きいプロジェクトでパフォーマンスに大きな影響が生じる場合などに、自動保存を完全に無効化できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**全般 (General)**」をクリックします。
3. 「**ファイル (Files)**」セクションで、「**自動保存の間隔 [n] 分 (Auto-save every [n] minutes)**」をオフにします。

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

プロジェクトのバックアップ

保存操作が行なわれるごとに、Dorico Pro はプロジェクトのバックアップバージョンを保存します。初期設定では、過去 5 件の保存内容がバックアップとして保管されます。

それぞれのデフォルトの場所は、ユーザーアカウントの「ドキュメント (Documents)」フォルダーを初期設定場所とする「Dorico プロジェクト (Dorico Projects)」フォルダー内の、「プロジェクトをバックアップ (Backup Projects)」フォルダー内に作成される、プロジェクトのファイル名に対応した名前のフォルダーの中になります。

削除されたプロジェクトのバックアップは、コンピューターのごみ箱の中にあります。

プロジェクトごとのバックアップ数の変更

保存する変更の範囲を拡げる場合は、プロジェクトごとに Dorico Pro が保存するバックアップの数を変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
 2. ページリストの「全般 (General)」をクリックします。
 3. 「ファイル (Files)」セクションで、「プロジェクトごとのバックアップ数 (Number of backups per project)」の値を変更します。
 4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

バックアップ場所の変更

Dorico Pro がプロジェクトのバックアップの保管に使用するフォルダーを変更できます。初期設定では、Dorico Pro はユーザーアカウントの「ドキュメント (Documents)」フォルダーを初期設定場所とする「Dorico プロジェクト (Dorico Projects)」フォルダー内の、「プロジェクトをバックアップ (Backup Projects)」フォルダーを使用します。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
 2. ページリストの「全般 (General)」をクリックします。
 3. 「ファイル (Files)」セクションで、「プロジェクトのバックアップフォルダー (Project backup folder)」フィールドの横の「選択 (Choose)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
 4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、プロジェクトのバックアップを保存するフォルダーの場所まで移動して選択します。
 5. 「フォルダーを選択 (Select Folder)」(Windows) / 「開く (Open)」(macOS) をクリックして、「プロジェクトのバックアップフォルダー (Project backup folder)」フィールドに新しいパスを指定します。
 6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

プロジェクトのバックアップのデフォルトのフォルダーが変更されます。指定したフォルダーが存在しない場合、Dorico Pro はこれを作成します。

設定モード

設定モードでは、インストゥルメントやそのインストゥルメントを割り当てるプレーヤー、フロー、レイアウト、ビデオなど、プロジェクトの基本的な要素を設定できます。また、たとえばレイアウトに割り当てられたプレーヤーを変更するなど、それらが互いにどのように作用するかも設定できます。

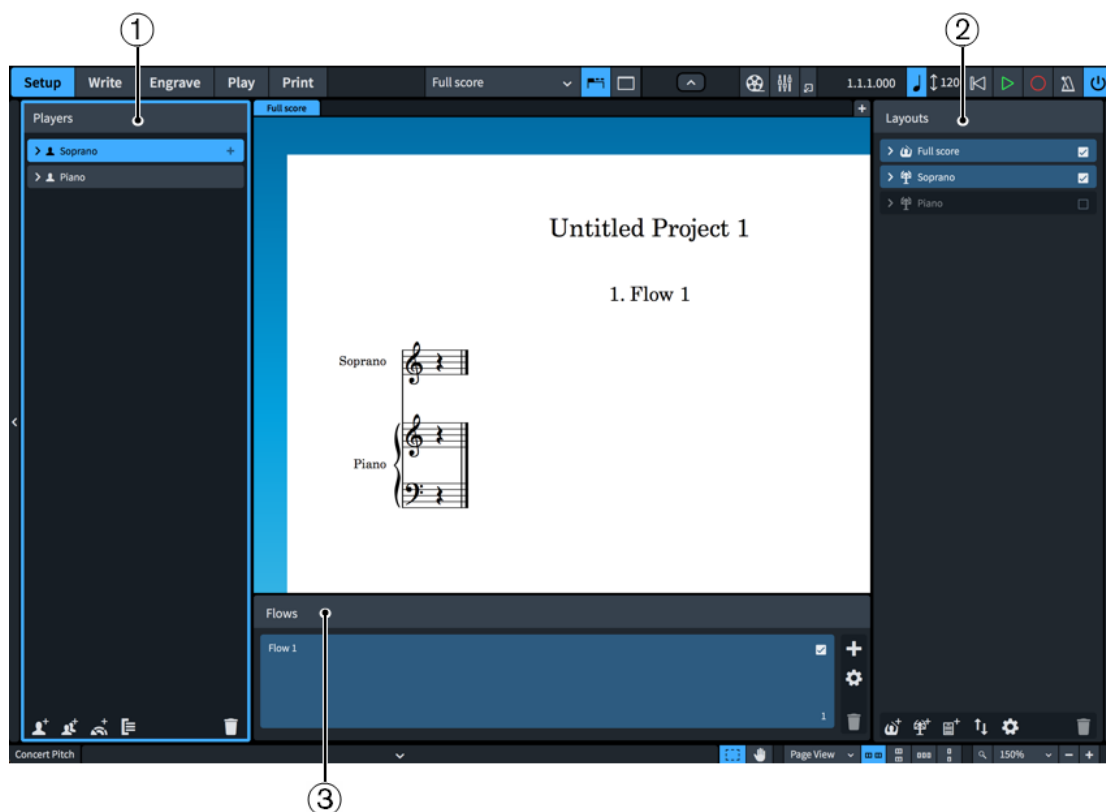
設定モードでは、楽譜領域の楽譜を表示したり、他のタブやレイアウト間で表示を切り替えたりできますが、楽譜領域内のアイテムを選択したり、編集したりすることはできません。

設定モードのプロジェクトウィンドウ

設定モードのプロジェクトウィンドウには、初期設定ツールバー、楽譜領域、ステータスバーが表示されます。また、プレーヤーやインストゥルメントの追加、プロジェクトのレイアウトやフローの作成を行なうためのすべてのツールと機能を備えたパネルが表示されます。

設定モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[1]** を押します。
- ツールバーで「**設定 (Setup)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**設定 (Setup)**」を選択します。



設定モードのパネル

設定モードには以下のパネルがあります。

1 プレーヤー (Players)

プロジェクトのプレーヤー、インストゥルメント、グループのリストを表示します。初期設定では、プレーヤーはフルスコアレイアウトとそのパートレイアウトの両方、およびすべてのフローに割り当てられます。

2 レイアウト (Layouts)

プロジェクト内のレイアウトのリストが表示されます。各プレーヤーに対してフルスコアレイアウトとパートレイアウトが1つずつ自動的に作成されますが、レイアウトは必要に応じて作成したり削除したりできます。初期設定では、レイアウトにはすべてのフローが含まれ、フルスコアレイアウトにはすべてのプレーヤーが含まれます。

3 フロー (Flows)

プロジェクト内のフローが左から右へと順番に表示されます。初期設定では、フローにはすべてのプレーヤーが含まれ、すべてのレイアウトにフローが割り当てられます。

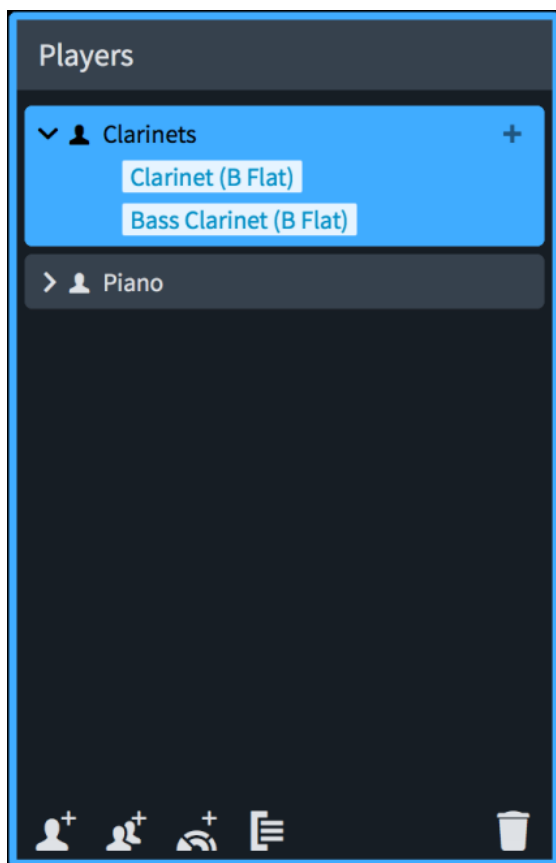
3つのパネルを組み合わせることで、プロジェクト内のプレーヤー、レイアウト、フローを使用する方法と場所を制御できます。いずれかのパネルでアイテムを選択すると、そのパネルと選択したアイテムが別の色で強調表示され、他のパネルのカードにチェックボックスが表示されます。これらのチェックボックスをオン/オフにすることで、プレーヤー、レイアウト、フローに内容をどのように割り当てるかを個別に変更できます。

プレーヤーパネル

「**プレーヤー (Players)**」パネルには、プロジェクト内のすべてのプレーヤーとグループがリスト表示されます。このパネルは設定モードのウィンドウの左側にあります。

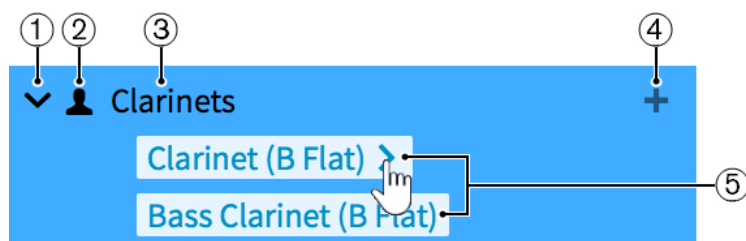
設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
- メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左のパネルを表示 (Show Left Panel)**」を選択します。



設定モードの「プレーヤー (Players)」パネル

「プレーヤー (Players)」パネルでは、各プレーヤーが、そのプレーヤーに割り当てられたインストゥルメントを含むカードとして表示されます。各プレーヤーカードには以下が表示されます。



1 展開矢印マーク

プレーヤーカードを展開したり、折りたたんだりします。

2 プレーヤーのタイプ

以下のいずれかのプレーヤータイプが表示されます。

- ソロプレーヤー



- セクションプレーヤー



3 プレーヤー名

プレーヤー名が表示されます。割り当てられたインストゥルメントの名前を Dorico Pro がプレーヤー名に自動的に追加します。必要に応じてプレーヤー名を変更できます。

4 インストゥルメントの追加アイコン

プレーヤーのインストゥルメントを選択するインストゥルメントピッカーを開きます。

5 インストゥルメントラベル

プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントにはそれぞれ独自のインストゥルメントラベルがあります。インストゥルメントラベルにマウスポインターを合わせると矢印が表示され、それをクリックするとインストゥルメント名の変更や別のプレーヤーへのインストゥルメントの移動などのオプションを含むメニューが開きます。



パネルの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

ソロプレーヤーを追加 (Add Solo Player)



プロジェクトにソロプレーヤーを追加します。また、「**レイアウト (Layouts)**」パネルにはそのプレーヤーのパートレイアウトも自動的に追加されます。

セクションプレーヤーを追加 (Add Section Player)



同じインストゥルメントを演奏する複数の演奏者を示すプレーヤーをプロジェクトに追加します。また、「**レイアウト (Layouts)**」パネルにはそのプレーヤーのパートレイアウトも自動的に追加されます。

アンサンブルを追加 (Add Ensemble)



楽器の基本的な組み合わせを示す複数のプレーヤーをプロジェクトに追加します。また、アンサンブルの各プレーヤーのパートレイアウトも自動的に「**レイアウト (Layouts)**」パネルに追加されます。

グループを追加 (Add Group)



プロジェクトグループをに追加します。グループには、すべてのタイプのプレーヤーを割り当てることができます。

プレーヤーを削除 (Delete Player)



選択したプレーヤーまたはグループをプロジェクトから削除します。プレーヤーを削除すると警告メッセージが表示され、プレーヤーだけ削除してプロジェクト内のパートレイアウトを残すか、プレーヤーとパートレイアウトの両方を削除するか、またはキャンセルするかを選択できます。

プレーヤーは、レイアウトに表示されるデフォルトの順番でパネルにリスト表示されます。各レイアウトのプレーヤーの順番は、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**プレーヤー (Players)**」ページにある「**プレーヤー (Players)**」セクションで個別に変更できます。

関連リンク

[プレーヤー \(110 ページ\)](#)

[「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(100 ページ\)](#)

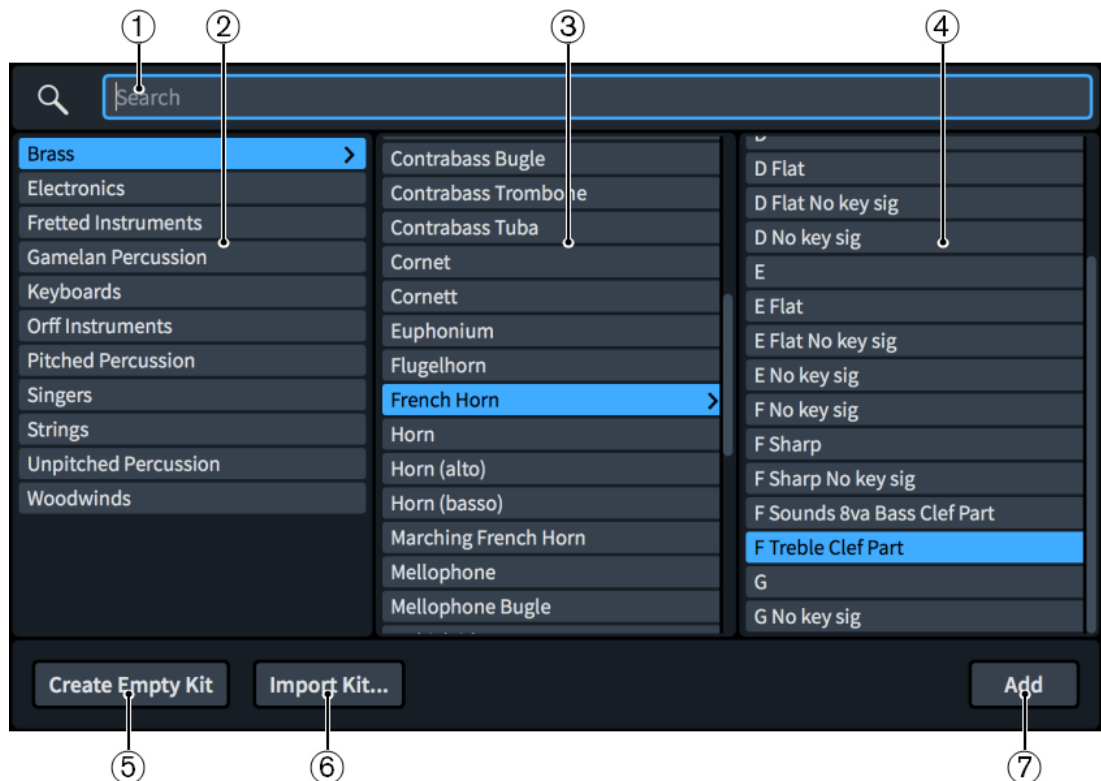
[「レイアウトオプション」ダイアログ \(106 ページ\)](#)

インストゥルメントピッカー

インストゥルメントピッカーを使用すると、インストゥルメントやアンサンブルを見つけてプロジェクトに追加できます。パートレイアウトが常にト音記号のバージョンがあるフレンチホルンなど、特定の形式設定とチューニングの要件があるインストゥルメントのバージョンが複数含まれています。

設定モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、インストゥルメントピッカーを開くことができます。

- 「プレイヤー (Players)」パネルでソロプレイヤーのカードのプラス記号をクリックします。
+
- 「プレイヤー (Players)」パネルでプレイヤーを選択して **[Shift]+[I]** を押します。
- 「プレイヤー (Players)」パネルでプレイヤーを右クリックして「**インストゥルメントをプレイヤーに追加 (Add Instrument to Player)**」を選択します。
- 新しいプレイヤーまたはアンサンブルを追加します。



インストゥルメントピッカー

インストゥルメントピッカーには以下のセクションおよびオプションがあります。

1 検索フィールド

検索するインストゥルメント名を直接入力します。Violoncello の場合は「cello」のように、インストゥルメント名の一部のみでも検索できます。

2 インストゥルメントファミリー列

インストゥルメント検索を絞り込むためのインストゥルメントファミリーを表示します。

3 インストゥルメント列

選択したインストゥルメントファミリーのインストゥルメントを表示します。

4 インストゥルメントタイプ列

選択したインストゥルメントのパートレイアウトで使用できる複数の移調、チューニング、調号オプション、または異なる動作のオプションが表示されます。使用可能なオプションがないインストゥルメントの場合、この列には何も表示されません。

5 空のキットを作成 (Create Empty Kit)

プレーヤーに空の打楽器キットを追加します。

6 キットを読み込む (Import Kit)

ライブラリーファイルとしてあらかじめ書き出した既存の打楽器キットを読み込みます。

7 追加 (Add)/スコアにアンサンブルを追加 (Add Ensemble to Score)

選択したインストゥルメント/アンサンブルをプロジェクトに追加します。アンサンブルを追加すると同時に複数のプレーヤーが追加されます。

「検索 (Search)」フィールドにインストゥルメント名やアンサンブル名を直接入力するだけでなく、インストゥルメントピッカー内のオプションをクリックして選択したり、**[↑]/[↓]** を押して同じ列の別のアイテムを選択したりできます。

[Tab] を押すと、インストゥルメントピッカー内で「検索 (Search)」フィールド、インストゥルメント、インストゥルメントタイプ、インストゥルメントファミリーの順にフォーカスが切り替わります。また、**[Shift]+[Tab]** を押すと逆方向に切り替わります。

キーボードを使用してインストゥルメントを選択する場合、囲み線がどのインストゥルメントのファミリーまたはインストゥルメントを選択しているかを示します。

関連リンク

[移調楽器 \(118 ページ\)](#)

[ソロプレーヤー/セクションプレーヤーの追加 \(111 ページ\)](#)

[アンサンブルの追加 \(114 ページ\)](#)

[プレーヤーへの空の打楽器キットの追加 \(120 ページ\)](#)

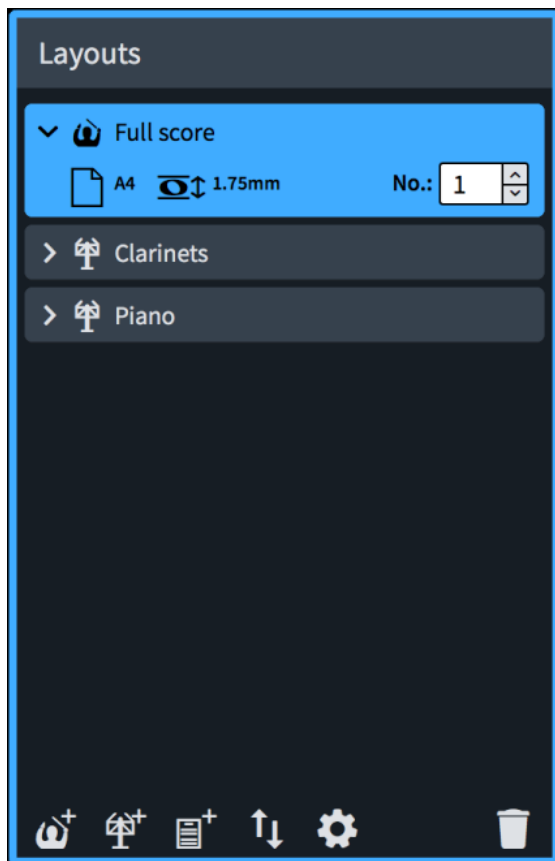
[打楽器キットの読み込み \(1291 ページ\)](#)

「レイアウト (Layouts)」 パネル (設定モード)

「レイアウト (Layouts)」パネルには、プロジェクト内のすべてのレイアウトがリスト表示されます。設定モードでは、このパネルはウィンドウの右側にあります。

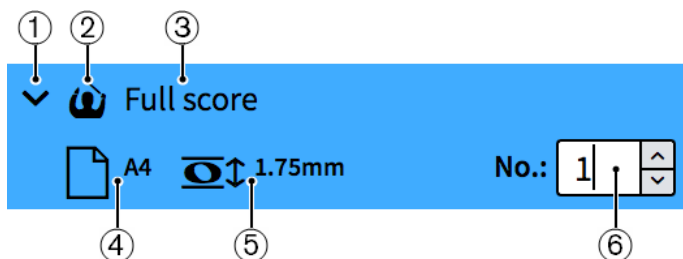
設定モードの「レイアウト (Layouts)」パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[9]** を押します。
- メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「右のパネルを表示 (Show Right Panel)」を選択します。



設定モードの「レイアウト (Layouts)」パネル

「レイアウト (Layouts)」パネルでは、各レイアウトがカードとして表示されます。各レイアウトカードには以下が表示されます。



1 展開矢印マーク

レイアウトカードを展開したり、折りたたんだりします。

2 レイアウトのタイプ

以下のいずれかのレイアウトのタイプが表示されます。

- フルスコアレイアウト



- パートレイアウト



- カスタムスコアレイアウト



3 レイアウト名

レイアウト名が表示されます。プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントの名前と追加されたレイアウトの種類にしたがって、Dorico Pro が自動的にデフォルト名を追加します。たとえば、プレーヤーにフルートを割り当てると、パートレイアウトは自動的に同じ名前となります。空白のパートレイアウトを追加すると、レイアウト名は「空白のパート譜 (Empty part)」と表示され、複数の空白のパートレイアウトを追加した場合は通し番号が表示されます。

4 ページのサイズと向き

「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定したレイアウトのサイズと向きが表示されます。

5 線間の高さ

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定したとおり、2本の譜表線の間の高さをポイントで表示します。これは、レイアウトの譜表のサイズを示します。

6 レイアウト番号

グラフィックとして書き出す際にファイル名の一部として使用できるレイアウトの一意的番号を設定できます。通常、オーケストラの順番はアルファベット順ではありません。そのため、この機能は書き出したパートレイアウトファイルをオーケストラの順番に整理するのに役立ちます。

パネルの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

フルスコアレイアウトを追加 (Add Full Score Layout)



プロジェクトにフルスコアレイアウトを追加します。初期設定では、個々のプレーヤーとフローは自動的にレイアウトに含まれます。

パートレイアウトを追加 (Add Instrumental Part Layout)



プロジェクトに空白のパートレイアウトを追加します。その後、レイアウトに1人以上のプレーヤーを追加できます。初期設定では、パートレイアウトにはプロジェクトで作成されたすべてのフローが含まれます。

カスタムスコアレイアウトを追加 (Add Custom Score Layout)



プレーヤーやフローが含まれないカスタムスコアレイアウトを追加します。

レイアウトをソート (Sort Layouts)



「レイアウト (Layouts)」パネルのすべてのレイアウトを、フルスコアレイアウト、パートレイアウト、カスタムスコアレイアウトの順番に種類別にソートします。パートレイアウトをオーケストラの順番にはソートできません。

レイアウトオプション (Layout Options)



選択した1つ以上のレイアウトの「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログを開きます。

レイアウトを削除 (Delete Layout)



選択したレイアウトをプロジェクトから削除します。

関連リンク

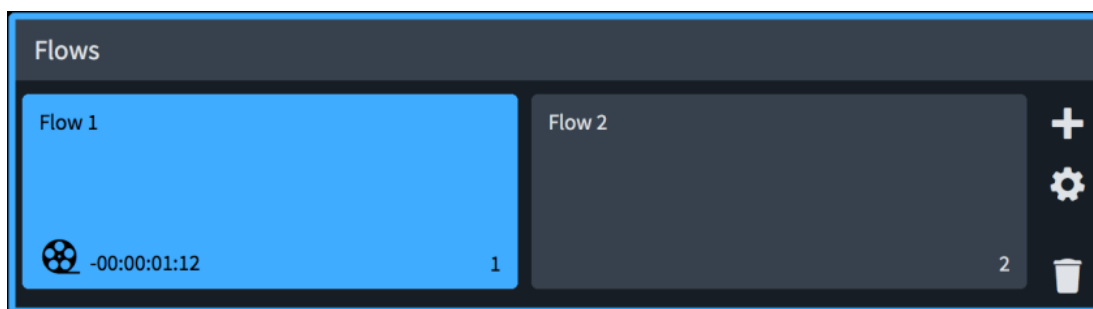
[レイアウト \(138 ページ\)](#)

フローパネル

「フロー (Flows)」パネルには、プロジェクト内のすべてのフローが横並びに表示されます。このパネルは設定モードのウィンドウの下にあります。

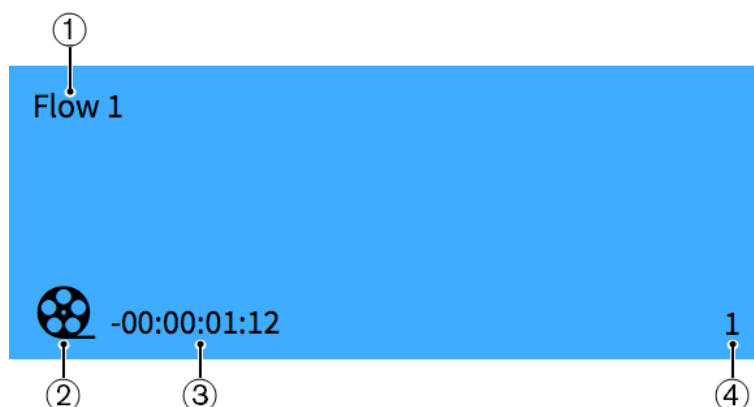
設定モードの「フロー (Flows)」パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行います。

- **[Ctrl]/[command]+[8]** を押します。
- メインウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)」を選択します。



設定モードの「フロー (Flows)」パネル

「フロー (Flows)」パネルでは、各フローがカードとして表示されます。各フローカードには以下が表示されます。



1 フロー名

フロー名を表示します。名前を変更せずに複数のフローを作成すると、新規フローを作成するたびに、名前の後ろに通し番号の数字を追加したフロー名が付けられます。また、通し番号は、レイアウト内のフローの位置を示します。

2 フィルムリールアイコン

フローにビデオが添付されていることを示します。

3 フロータイムコード

フローの開始タイムコードを表示します。

4 フロー番号

フローの通し番号を表示します。新規フローを作成するたびに通し番号の値が増加します。また、通し番号は、レイアウト内のフローの位置を示します。

「フロー (Flows)」パネルの右側には以下のオプションが表示されます。

フローを追加 (Add Flow)

プロジェクトに新規フローを追加します。初期設定では、すべての新規フローは自動的にすべてのレイアウトに含まれ、個々のプレーヤーは新規フローに追加されます。



記譜オプション (Notation Options)

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログを開きます。各フローの楽譜の記譜法に影響する変更を実施できる複数のオプションが表示されます。



フローを削除 (Delete Flow)

選択したフローをプロジェクトから削除します。



関連リンク

[フロー](#) (135 ページ)

[「記譜オプション」ダイアログ](#) (164 ページ)

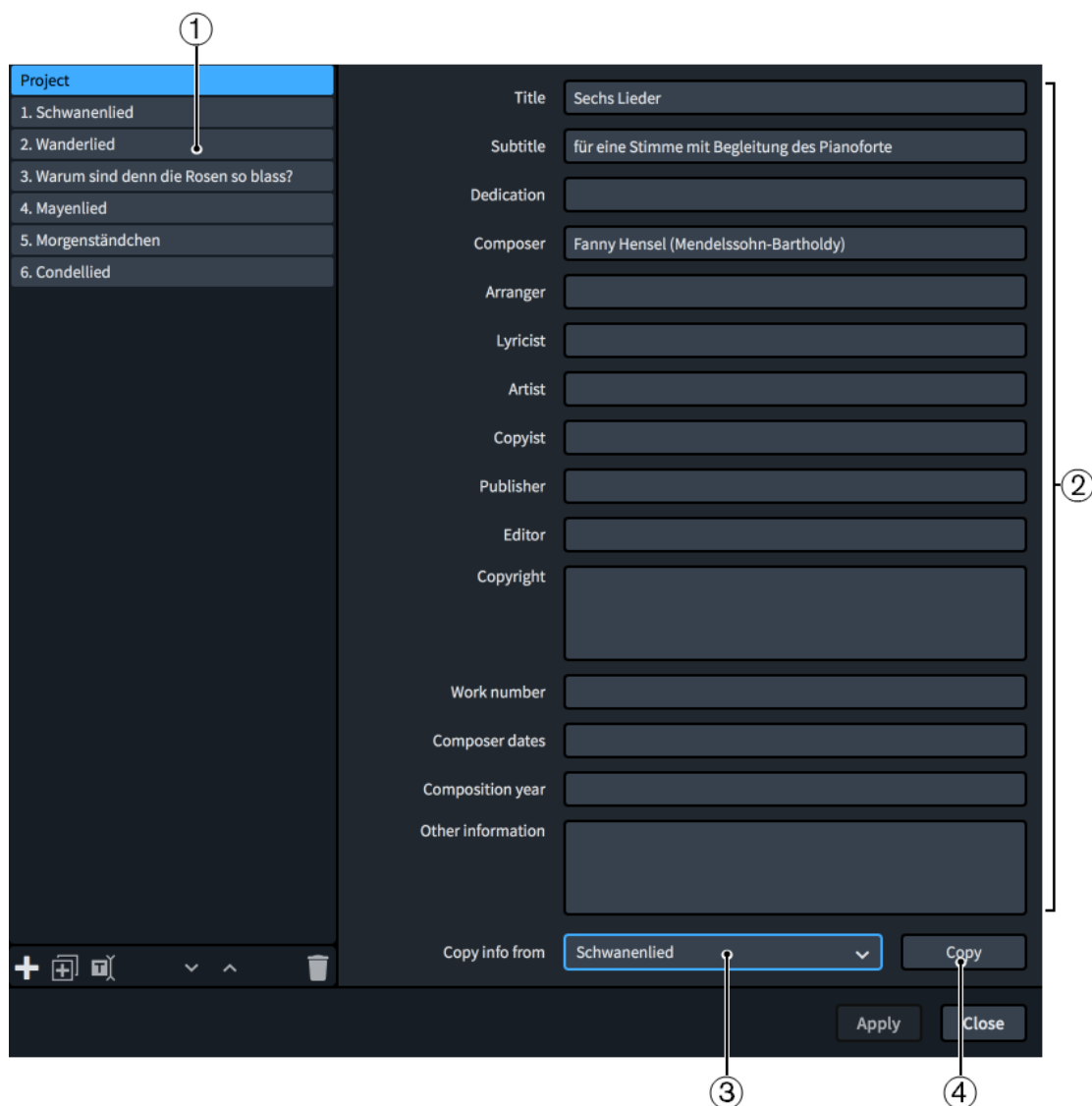
[ビデオ](#) (149 ページ)

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログ

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログでは、タイトル、作曲者、作詞者といった、プロジェクト全体に関する情報と、そのプロジェクト内の各フローに関する情報を個別に指定できます。これは、これらの情報がフローごとに異なる可能性があるためです。そのあと、テキストフレーム内のテキストトークンを使用してこれらのエントリを参照できます。

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログは、どのモードからでも、以下のいずれかの操作を行なって開くことができます。

- **[Ctrl]/[command]+[I]** を押します。
- 「ファイル (File)」 > 「プロジェクト情報 (Project Info)」を選択します。



「プロジェクト情報 (Project Info)」 ダイアログ

「プロジェクト情報 (Project Info)」 ダイアログは以下で構成されます。

1 フローリスト

プロジェクト内のすべてのフローが含まれています。プロジェクト全体の情報は、一番上に個別のエントリーとして表示されます。フローリストでは、個々のフローまたは複数のフローを選択できます。

補足

フローリストでは、設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルに表示されるフロー名が使用されますが、フロータイトルを変更した場合はフロー名が「**タイトル (Title)**」フィールドのエントリーと異なる場合があります。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規フロー (New Flow)**: 情報のない新規フローを作成します。デフォルト名は「**新規フロー (New Flow)**」です。



- **フローを複製 (Duplicate Flow)**: 選択したフローの情報がすべて含まれた新規フローを作成します。デフォルト名は「**コピー元 [選択したフロー] (Copy of [selected flow])**」です。



- **フロー名を変更 (Rename Flow):** フロー名を変更できる「**フロー名を変更 (Rename Flow)**」ダイアログを開きます。



補足

フロータイトルをすでに手動で変更している場合は、フロー名を変更してもフロータイトルは自動的に変更されません。

- **下へ移動 (Move Down):** 選択したフローを、フローリスト内の1つ下に移動します。これにより、プロジェクト内のフローの順番が変更されます。



- **上へ移動 (Move Up):** 選択したフローを、フローリスト内の1つ上に移動します。これにより、プロジェクト内のフローの順番が変更されます。



- **フローを削除 (Delete Flow):** 選択したフローを削除します。



2 情報フィールド

現在選択しているフローまたはプロジェクト全体に関する情報を「**作曲家 (Composer)**」や「**作詞者 (Lyricist)**」などの対応するフィールドに入力できます。作曲者が異なるフローなど、同じフィールドに異なる内容が入力された複数のフローを選択した場合、そのフィールドには「**ミックス (Mixed)**」と表示されます。

3 「次の楽譜から情報をコピー(Copy info from)」メニュー

作曲者と作詞者が同じ複数のフローを含むプロジェクトを作成する場合などに、別のフローまたはプロジェクト全体を情報のコピー元として選択できます。

4 コピー (Copy)

指定したフロー/プロジェクトから選択したフロー/プロジェクトにすべての情報をコピーします。

ヒント

- テキストフレーム内のトークンを使用して、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの情報を参照できます。
- 1行のフィールド内では改行は指定できません。ただし、「**著作権 (Copyright)**」や「**その他の情報 (Other information)**」などの大きなフィールドでは改行を入力でき、それをあとから1行のフィールドにコピーできます。

関連リンク

[テキストトークン \(401 ページ\)](#)

[フロー名とフロータイトル \(148 ページ\)](#)

「レイアウトオプション」ダイアログ

「**レイアウトオプション (Layout Options)**」ダイアログには、各レイアウトのページに配置された記譜法に影響する変更を行なえる複数のオプションが含まれます。

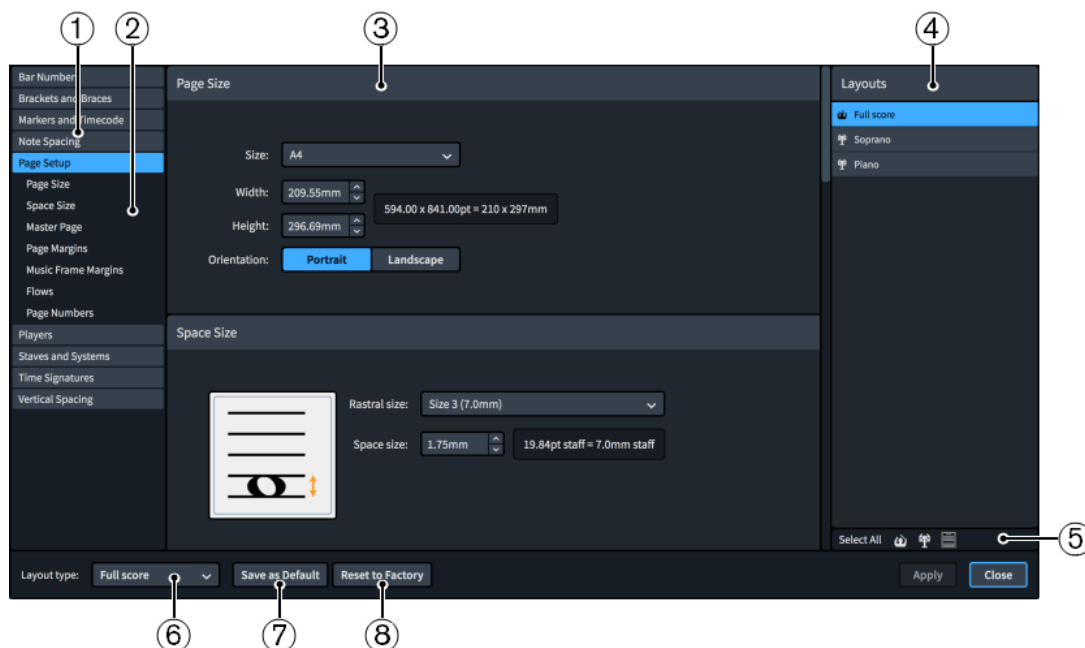
ページサイズ、譜表サイズ、余白などのレイアウトの特性と、音符のスペーシングや譜表ラベルなどの記譜法を変更できます。

ヒント

「レイアウトのタイプ (Layout type)」メニューからレイアウトタイプを選択して「デフォルトとして保存 (Save as Default)」をクリックすると、「レイアウトオプション (Layout Options)」で設定したすべてのオプションを新規プロジェクト用のデフォルトとして保存できます。

「レイアウトオプション (Layout Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 設定モードで「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」を選択します。
- 設定モードで、「レイアウト (Layouts)」パネルにある「レイアウトオプション (Layout Options)」をクリックします。



「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログ

「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログには以下のオプションが含まれます。

1 ページリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。リスト内のページをクリックすると、リストのページの下に使用可能なセクションのタイトルが表示されます。

2 セクションタイトル

選択したページのすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

3 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

4 「レイアウト (Layouts)」リスト

プロジェクト内のすべてのレイアウトが含まれています。1つ、複数、またはすべてのレイアウトを選択できます。複数のレイアウトを選択するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- アクションバーにあるいずれかの選択オプションをクリックします。
- **[Ctrl]/[command]** を押しながら複数のレイアウトをクリックします。

- **[Shift]** を押しながら複数の隣り合うレイアウトをクリックします。

5 アクションバー

「レイアウト (Layouts)」リストで、タイプに応じてレイアウトを選択できるオプションが含まれます。

- 「**すべて選択 (Select All)**」をクリックすると、タイプに関係なく、すべてのレイアウトが選択されます。
- 「**フルスコアのレイアウトをすべて選択 (Select All Full Score Layouts)**」を選択すると、すべてのフルスコアレイアウトが選択されます。
- 「**パート譜のレイアウトをすべて選択 (Select All Part Layouts)**」を選択すると、すべてのパートレイアウトが選択されます。
- 「**カスタムスコアのレイアウトをすべて選択 (Select All Custom Score Layouts)**」を選択すると、すべてのカスタムスコアレイアウトが選択されます。

6 レイアウトのタイプ

設定をデフォルトとして保存するレイアウトタイプを選択できます。たとえば、フルスコアレイアウトのデフォルト設定に影響を与えることなくパートレイアウトの新しいデフォルト設定を保存できます。

7 デフォルトとして保存 (Save as Default)/保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

選択しているレイアウトのタイプでデフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- 「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」は、新規プロジェクトで選択したレイアウトタイプ用に、ダイアログで設定したすべてのオプションをデフォルトとして保存します。
- 「**保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)**」は、現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のプロジェクトに選択しているレイアウトのタイプが含まれる際、そのタイプのすべてのレイアウトに出荷時の設定が使用されます。デフォルト設定を保存している場合は、**[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS)** を押すことで「**保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)**」を選択できます。

8 「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」 / 「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」

選択しているレイアウトのタイプでデフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- 選択しているレイアウトのタイプでデフォルト設定を保存していない場合は、このボタンは「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」となり、選択したレイアウトのタイプについて、ダイアログ内のすべてのオプションを出荷時の設定にリセットします。
- 選択しているレイアウトのタイプでデフォルト設定を保存している場合は、このボタンは「**保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)**」となり、選択したレイアウトのタイプについて、ダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットします。**[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS)** を押すことで「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」を選択できます。オプションを出荷時の設定にリセットすることで影響されるのは、現在のプロジェクトで選択しているレイアウトのタイプのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

関連リンク

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(39 ページ\)](#)

[譜表 \(1173 ページ\)](#)

「レイアウトオプション (Layout Options)」でのレイアウト固有の変更

「レイアウトオプション (Layout Options)」では、レイアウトごとにプロジェクト全体の変更を行なえます。

手順

1. 「レイアウトオプション (Layout Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押します (どのモードでも使用可)。
 - 設定モードで「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」を選択します。
 - 設定モードで「レイアウト (Layouts)」パネルの下部にある「レイアウトオプション (Layout Options)」をクリックします。



2. 以下のいずれかの操作を行なって、オプションを変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。
 - アクションバーの「すべて選択 (Select All)」をクリックします。
 - アクションバーの「フルスコアのレイアウトをすべて選択 (Select All Full Score Layouts)」をクリックします。
 - アクションバーの「パート譜のレイアウトをすべて選択 (Select All Part Layouts)」をクリックします。
 - アクションバーの「カスタムスコアのレイアウトをすべて選択 (Select All Custom Score Layouts)」をクリックします。
 - **[Shift]** を押しながらかつ接するレイアウトを選択します。
 - **[Ctrl]/[command]** を押しながらかつ個々のレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。

3. ページリストのページをクリックします。
4. 設定可能なオプションを確認して、必要に応じてオプションを変更します。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
変更を加えたあとに「適用 (Apply)」をクリックせずにダイアログを閉じると、変更を保存するか破棄するかを確認するメッセージが表示されます。

結果

選択したレイアウトに変更がすぐに適用されます。

プレーヤー、レイアウト、フロー

Dorico Pro ではプレーヤー、レイアウト、フローがすべて相互につながっています。これらは単一のスコアではなくプロジェクト内にあるため、フルスコアにプレーヤーやフローを表示することなくプロジェクト内に保存することもできます。

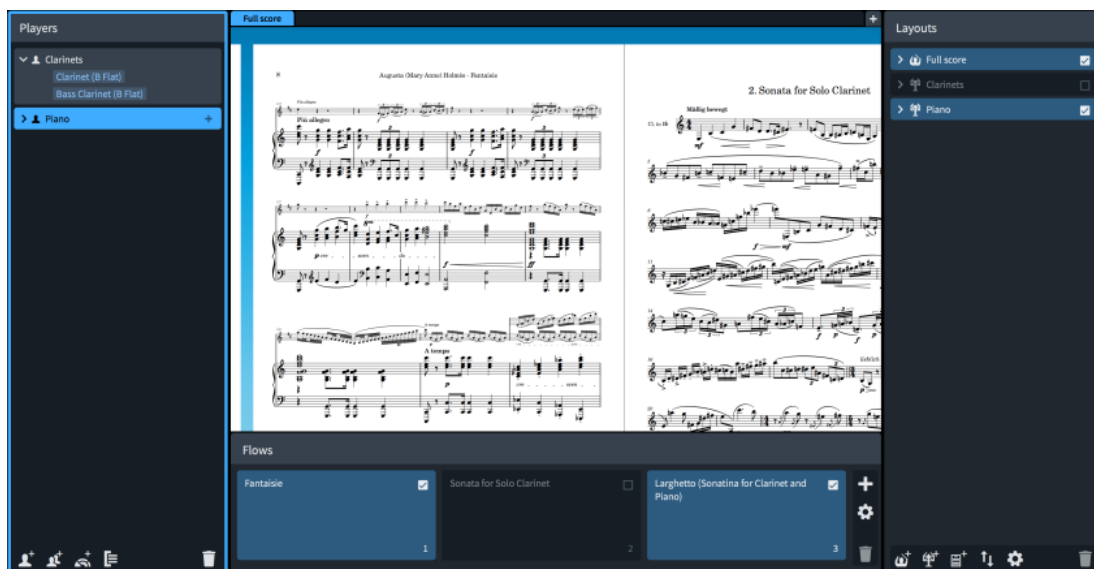
- プレーヤーはレイアウトとフローのあらゆる組み合わせに割り当てることができます。たとえば、フルスコアレイアウトとそのパートレイアウトの両方に1人のプレーヤーを割り当てたり、演奏をしないフローからプレーヤーを削除したりできます。初期設定では、プレーヤーはすべてのフルスコアレイアウト、それぞれのパートレイアウト、およびプロジェクトで作成されたすべてのフローに割り当てられます。
- レイアウトにはプレーヤーとフローのあらゆる組み合わせを含めることができます。たとえば、1つのパートレイアウトにすべての歌手を割り当てておいて、歌のないフローをレイアウトから削除できます。初期設定では、レイアウトにはすべてのフローが含まれ、フルスコアレイアウトにはすべてのプレーヤーが含まれます。

- フローにはプレーヤーのあらゆる組み合わせを含めることができるほか、フローをレイアウトに割り当てたりレイアウトから削除したりできます。初期設定では、フローにはすべてのプレーヤーが含まれ、すべてのレイアウトにフローが割り当てられます。

補足

- フローからプレーヤーを削除すると、そのフローで該当するプレーヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。
- レイアウトからフローを削除すると、そのフローから該当するレイアウトが自動的に削除されます。また、その逆も同様です。プレーヤーとレイアウト、プレーヤーとフローについても同じです。

設定モードのパネルでいずれかのカードを選択すると、ほかのパネルに含まれるそれぞれのカードにチェックボックスが表示されます。選択カードに対応するカードは強調表示され、チェックボックスがオンになります。それ以外のカードは強調表示されず、チェックボックスはオフのままです。たとえば、「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーカードを1つ選択すると、そのプレーヤーが割り当てられたすべてのフローが「**フロー (Flows)**」パネルで、すべてのレイアウトが「**レイアウト (Layouts)**」パネルで強調表示かつオンになります。



「**プレーヤー (Players)**」パネルでピアノプレーヤーを選択すると、対応するフローとレイアウトが「**フロー (Flows)**」パネルと「**レイアウト (Layouts)**」パネルにそれぞれ表示される

関連リンク

[設定モードのプロジェクトウィンドウ \(95 ページ\)](#)

[フロー \(135 ページ\)](#)

[レイアウト \(138 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(140 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたプレーヤーの変更 \(139 ページ\)](#)

[フローに割り当てられたプレーヤーの変更 \(137 ページ\)](#)

プレーヤー

Dorico Pro におけるプレーヤーとは、1人のミュージシャンまたは同じセクション内の複数のミュージシャンのことを指します。プレーヤーにはインストゥルメントを割り当てることができ、インストゥルメントを追加するにはプロジェクトに少なくとも1人のプレーヤーを追加しておく必要があります。

- ソロプレーヤーとは、1つ以上のインストゥルメントを演奏できる1人のプレーヤーを指します。たとえば、アルトサクソフォンも演奏するクラリネット奏者や、バスドラム、シンバル、トライアングルを演奏する打楽器奏者がソロプレーヤーです。

- セクションプレイヤーとは、全員が同じインストゥルメントを演奏する複数のプレイヤーを指します。たとえば、オーケストラの第1バイオリンセクションの8人のバイオリン奏者からなるバイオリンセクションプレイヤーや、混声合唱のソプラノパートのソプラノセクションプレイヤーなどがあります。

補足

セクションプレイヤーは、複数のインストゥルメントを演奏することはできませんが、分奏 (ディヴィジ) することはできます。つまり、セクションプレイヤーを小規模なユニットに分けることができます。これは、一般的に弦楽器で必要とされる機能です。

Dorico Pro でプレイヤーを追加すると、自動的に以下ようになります。

- パートレイアウトが作成され、そのレイアウトに新しいプレイヤーが割り当てられます。
- プレイヤーが既存のすべてのフルスコアレイアウトに追加されます。フルスコアレイアウトがない場合は、新規のフルスコアレイアウトが作成されます。
- プレイヤーがプロジェクトで作成された既存のすべてのフローに割り当てられます。プロジェクトに読み込んだフローには、プレイヤーは追加されません。

関連リンク

[プレイヤー、レイアウト、フロー \(109 ページ\)](#)

[フロー \(135 ページ\)](#)

[レイアウト \(138 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたプレイヤーの変更 \(139 ページ\)](#)

[フローに割り当てられたプレイヤーの変更 \(137 ページ\)](#)

[プレイヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(143 ページ\)](#)

[プレイヤー名の変更 \(146 ページ\)](#)

[コンデンス \(477 ページ\)](#)

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(696 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(115 ページ\)](#)

ソロプレイヤー/セクションプレイヤーの追加

ソロプレイヤーおよびセクションプレイヤーをプロジェクトに追加できます。ソロプレイヤーには複数のインストゥルメントを割り当てることができ、セクションプレイヤーは分奏ができます。

前提条件

プレイヤーパネルを開いておきます。

手順

1. 「プレイヤー (Players)」パネルで、以下のいずれかの操作を行なって楽器が関連付けられていないプレイヤーを追加します。
 - ソロプレイヤーを追加するには、**[Shift]+[P]** を押します。
 - セクションプレイヤーを追加するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[P]** を押します。
 - 新規プロジェクトを開始したあと、プロジェクト開始領域の「ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)」をクリックします。



- 新規プロジェクトを開始したあと、プロジェクト開始領域の「セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)」をクリックします。



- 「プレイヤー (Players)」パネルの下部で「ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)」をクリックします。



- 「プレイヤー (Players)」パネルの下部で「セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)」をクリックします。



インストゥルメントピッカーが開きます。

ヒント

また、「プレイヤー (Players)」パネルでプレイヤーを選択して **[Shift]+[I]** を押せば、インストゥルメントピッカーをいつでも開くことができます。

2. インストゥルメントピッカーで任意のインストゥルメントを選択します。
3. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを追加します。

結果

ソロプレイヤー/セクションプレイヤーがプロジェクトのすべてのフローに追加されます。選択したインストゥルメントに合わせてプレイヤーに自動的に名前が付けられます。

現在の再生テンプレートに応じて、インストゥルメントのサウンドが自動的に読み込まれます。

補足

- プロジェクトに読み込んだフローには、プレイヤーは自動的に追加されません。
- 複数のインストゥルメントをプロジェクトに同時に追加したい場合は、アンサンプルを追加するかプロジェクトテンプレートを使用します。

手順終了後の項目

追加したソロプレイヤーに複数のインストゥルメントを割り当てるには、ソロプレイヤーに他のインストゥルメントを追加します。

関連リンク

[インストゥルメントピッカー \(99 ページ\)](#)

[プレイヤー名の変更 \(146 ページ\)](#)

[プロジェクト開始領域 \(46 ページ\)](#)

[プレイヤーへのインストゥルメントの追加 \(119 ページ\)](#)

[アンサンプルの追加 \(114 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレートから新規プロジェクトを開始 \(70 ページ\)](#)

[再生テンプレート \(567 ページ\)](#)

プレイヤーの複製

プレイヤーは複製できます。複製を行なうと、元のプレイヤーと同じインストゥルメントが割り当てられた同じタイプのプレイヤーが追加されます。

手順

- 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、複製するプレイヤーを右クリックしてコンテキストメニューから「**プレイヤーを複製 (Duplicate Player)**」を選択します。

結果

元のプレイヤーと同じインストゥルメントを使用する新規プレイヤーが追加されます。元のプレイヤーと新規プレイヤーは、名前が区別されるように自動的に番号付けされます。ただし、元のプレイヤーに属する既存の楽譜は複製されません。

関連リンク

[プレイヤー名の変更 \(146 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(115 ページ\)](#)

プレイヤーのオーケストラの順番の変更

スコア上のプレイヤーの表示順を「**プレイヤー (Players)**」パネルで変更できます。

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、スコア上の位置を変更するプレイヤーのプレイヤーカードを選択します。
2. プレイヤーカードをクリックし、パネル内で上下にドラッグします。
挿入ラインはプレイヤーが配置される場所を示します。

プレイヤーの削除

プロジェクトからプレイヤーを削除できます。この操作を行なうと、削除したプレイヤーに割り当てられたインストゥルメントもすべて削除されます。

重要

インストゥルメントを削除すると、その譜表に入力した楽譜もすべて完全に削除されます。

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、削除するプレイヤーを選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
3. 表示される警告メッセージで、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「**プレイヤーのみを削除 (Delete Player Only)**」: プレイヤーとそのプレイヤーに属するインストゥルメント用に作成した楽譜を削除します。
 - 「**プレイヤーとパートレイアウトを削除 (Delete Player and Part Layouts)**」: プレイヤー、楽譜、プレイヤーが割り当てられているすべてのパートレイアウトを削除します。

補足

他のプレイヤーを含むパートレイアウトは削除できません。

関連リンク
[インストゥルメントの削除 \(122 ページ\)](#)

アンサンブル

Dorico Pro では、アンサンブルを追加すると、複数のプレイヤーが同時にプロジェクトに追加されます。

Dorico Pro には、複数のアンサンブルがあらかじめ定義されています。アンサンブルの追加は、楽器編成をすばやく作成する方法の 1 つです。Dorico Pro のあらかじめ定義されたアンサンブルには、フルート 2 人、オーボエ 2 人、クラリネット 2 人、ファゴット 2 人の二管編成など、基本的なパターンのアンサンブルが含まれています。

アンサンブルの追加

ストリングスセクションや四部合唱など、アンサンブルを追加することで複数のプレイヤーを同時に追加できます。

前提条件

プレイヤーパネルを開いておきます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、アンサンブル用のインストゥルメントピッカーを開きます。

- 新規プロジェクトを開始したあと、プロジェクト開始領域の「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」をクリックします。



- 「**プレイヤー (Players)**」パネルの下部で「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」をクリックします。



2. インストゥルメントピッカーで追加するアンサンブルを選択します。

3. 「**スコアにアンサンブルを追加 (Add Ensemble to Score)**」をクリックします。

結果

アンサンブルプレイヤーがソロプレイヤーまたはセクションプレイヤーとして「**プレイヤー (Players)**」パネルに追加されます。

ヒント

プロジェクトテンプレートを使用すれば、複数のインストゥルメントをプロジェクトに同時に追加することもできます。

関連リンク

[インストゥルメントピッカー \(99 ページ\)](#)

[プレイヤー名の変更 \(146 ページ\)](#)

[プロジェクト開始領域 \(46 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレートから新規プロジェクトを開始 \(70 ページ\)](#)

インストゥルメント

Dorico Pro における、インストゥルメントとは、ピアノ、フルート、バイオリンなど、個々の楽器を指します。またソプラノやテナーなどのボーカルもインストゥルメントと見なされます。

演奏者が楽器を持つと同じように、Dorico Pro ではプレーヤーがインストゥルメントを持ちます。セクションプレーヤーが持てるインストゥルメントは1つだけですが、ソロプレーヤーは複数のインストゥルメントを持つことができます。これにより、オーボエとイングリッシュホルンを持ち替えるプレーヤーのインストゥルメントを切り替える場合などに、インストゥルメントを簡単に変更できます。

これは、インストゥルメントを割り当てる前に、まずプレーヤーまたはアンサンブルを追加する必要があることを意味します。そのあと、必要に応じてプレーヤーやアンサンブルをグループに割り当てることもできます。アンサンブルを追加すると、そのアンサンブルに適したインストゥルメントがプレーヤーに自動的に追加されます。

各インストゥルメントには独自の譜表が自動的に割り当てられますが、インストゥルメントの変更を許可した場合は、音符が重ならない限り、同じソロプレーヤーに割り当てられた複数のインストゥルメントの楽譜が1つの譜表に表示されます。初期設定では、すべてのレイアウトでインストゥルメントの変更が許可されており、インストゥルメントの変更ラベルが自動的に表示されます。つまり、プレーヤーに割り当てられているインストゥルメントのうち、一番上のインストゥルメントのみが楽譜領域に自動的に表示されます。すべてのインストゥルメントの譜表はギャラリービューで表示でき、インストゥルメントの変更はレイアウトごとに個別に許可または禁止できます。また、空白の譜表の表示/非表示はレイアウトごとに個別に切り替えることができます。

Dorico Pro ではインストゥルメントの範囲が制限されておらず、各インストゥルメントのすべての音域にあらゆるピッチを記譜できます。ただし、再生モードのピアノロールエディターに表示できるのは0~127のMIDIノート範囲のピッチのみです。また、割り当てられたVSTインストゥルメントのサンプル範囲外のピッチを入力した場合、そのピッチは再生されません。

インストゥルメントはいつでも変更でき、プレーヤーへの追加やプレーヤーからの削除、プレーヤー間のインストゥルメントの移動も行なえます。

関連リンク

- [プレーヤー \(110 ページ\)](#)
- [ピアノロールエディター \(512 ページ\)](#)
- [VST および MIDI インストゥルメントパネル \(505 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(176 ページ\)](#)
- [プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(119 ページ\)](#)
- [プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(143 ページ\)](#)
- [インストゥルメント名の変更 \(147 ページ\)](#)
- [譜表ラベル \(1159 ページ\)](#)
- [アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(696 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの変更 \(120 ページ\)](#)
- [フレット楽器の開放弦のピッチの変更 \(131 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの移動 \(121 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの削除 \(122 ページ\)](#)
- [ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(59 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの変更の許可/禁止を切り替える \(117 ページ\)](#)
- [空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(446 ページ\)](#)
- [「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」 ダイアログ \(122 ページ\)](#)

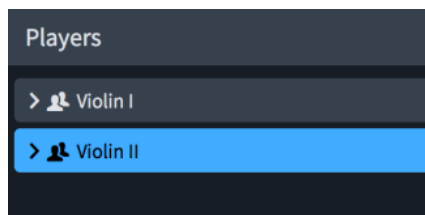
インストゥルメントのナンバリング

ホルン1とホルン2のように、同じインストゥルメントが複数ある場合には、簡単に識別できるようにインストゥルメントに番号を付けるのが慣例です。Dorico Pro では、1つのプロジェクトに同じタイプのインストゥルメントが複数ある場合、インストゥルメントに自動的に番号が付けられます。

たとえば、プロジェクトにフルートが1つのみの場合は「Flute」と表示されますが、3つある場合は自動的に「Flute 1」、「Flute 2」、「Flute 3」と表示されます。



バイオリンが1つの場合は番号なし



2つめのバイオリンを追加すると両方が自動的にナンバリングされる

インストゥルメントのナンバリングは、プレーヤーではなく個々のインストゥルメントに適用されます。たとえば、2人のフルート奏者とピッコロ奏者からなるアンサンブルで、2番フルートにはピッコロも割り当てられる場合、インストゥルメントには以下のように番号が振られます。

- Flute 1
- Flute 2 & Piccolo 1
- Piccolo 2

ヒント

それぞれのプレーヤーに割り当てられるインストゥルメントの番号を変更する場合は、個々のインストゥルメントを別のプレーヤーに移動できます。たとえば、2番フルートの持ち替え楽器を1番ピッコロではなく2番ピッコロにする場合、プレーヤー間でピッコロのインストゥルメントを交換できます。

以下の条件が満たされると、プレーヤーに対して自動的にインストゥルメント番号が生成されます。

- プロジェクト内に同じタイプのインストゥルメントが複数ある。
- インストゥルメント名が同じである。
- インストゥルメントの調性が同じである。
- インストゥルメントが割り当てられたプレーヤーが同じタイプである (ソロ/セクションにかかわらず)。
- プレーヤーが同じグループに属している。

たとえば、プロジェクト内に2つのフルートがあり、1つがセクションプレーヤーでもう1つがソロプレーヤーの場合、これらのフルートは自動的にナンバリングされません。同様に、2つのフルートが異なるプレーヤーグループに属している場合も自動的にナンバリングされません。

ヒント

たとえば、F調のホルンが2つとD調のホルンが2つあり、これらに1～4の番号を付けたい場合などに、同じタイプで調性の異なるインストゥルメントをまとめてナンバリングするかどうかを選択できます。初期設定では、これらは個別にナンバリングされます。

関連リンク

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(143 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(147 ページ\)](#)

[プレーヤーグループ \(133 ページ\)](#)

[譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調 \(1164 ページ\)](#)

[インストゥルメントの移動 \(121 ページ\)](#)

[移調の異なるインストゥルメントの番号の扱いの別個/一緒に切り替える \(1166 ページ\)](#)

[譜表ラベルに表示されるインストゥルメント名 \(1160 ページ\)](#)

[移調楽器 \(118 ページ\)](#)

インストゥルメントの変更

インストゥルメントの変更とは、複数のインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーが演奏するインストゥルメントを別のインストゥルメントに切り替えることです。インストゥルメントの変更は通常、フルスコアとパート譜で、変更前の最後の音符の後ろと変更後の最初の音符の位置の両方に、指示テキストを使って表示されます。

Dorico Pro では、同じソロプレーヤーに割り当てられた複数のインストゥルメントの譜表に音符を入力した場合、音符が重なっていない限り、インストゥルメントの変更が自動的に処理されます (適切なインストゥルメント変更ラベルの表示など)。

すべてのインストゥルメントの譜表はギャラリービューで表示でき、インストゥルメントの変更はレイアウトごとに個別に許可または禁止できます。

関連リンク

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(119 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(59 ページ\)](#)

インストゥルメントの変更の許可/禁止を切り替える

たとえば、スコア内では複数の打楽器をできるだけ少ない譜表に表示し、打楽器パートでは各打楽器の譜表を個別に表示したい場合などに、インストゥルメントの変更をレイアウトごとに許可/禁止できます。

インストゥルメントの変更を禁止すると、1人のソロプレーヤーに割り当てられた複数のインストゥルメントも含め、選択したレイアウトにすべてのインストゥルメントの譜表が表示されます。

ヒント

レイアウト内のインストゥルメントの変更を維持したままでソロプレーヤーに割り当てられた別のインストゥルメントの音符を入力したい場合は、ギャラリービューに切り替えてプロジェクト内のすべての譜表を表示します。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、インストゥルメントの変更を許可または禁止するレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**インストゥルメントの変更 (Instrument Changes)**」セクションで、「**インストゥルメントの変更を許可 (Allow instrument changes)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**インストゥルメントの変更を許可 (Allow instrument changes)**」をオンにすると、選択したレイアウトでインストゥルメントの変更が許可され、オフにすると禁止されます。

補足

インストゥルメントの変更がある同じ譜表に複数のインストゥルメントが表示されるのは、重なっている音符がない場合のみです。重なっている音符がある場合は、複数の譜表が表示されます。

関連リンク

[インストゥルメント \(115 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(446 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(59 ページ\)](#)

移調楽器

ほとんどのインストゥルメントは実音で音を出しますが、移調楽器は記譜された音とは異なる音を出します。たとえば、一般的な2つのオーケストラ移調楽器として、B \flat クラリネットとFホルンがあります。

B \flat クラリネットでCを演奏すると、1音下のB \flat の音が鳴ります。FホルンでCを演奏すると、5音下のFが鳴ります。記譜されたピッチと異なる音を出すその他の楽器には、ピッコロ (1オクターブ上の音が鳴る)、コントラバス (1オクターブ下の音が鳴る)、グロッケンシュピール (2オクターブ上の音が鳴る) などがあります。

Dorico Pro ではすべての音符情報が実音で保存され、インストゥルメントの移調に合わせて音符が自動的に移調されます。つまり、非移調レイアウトとは異なり、移調レイアウトでは音符、調号、コード記号が自動的に変更されます。また、インストゥルメントはいつでも変更でき、その場合は正しいピッチが表示されるように楽譜が自動的に調整されます。

関連リンク

[インストゥルメントピッカー \(99 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(115 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(141 ページ\)](#)

[レイアウトの移調/非移調の設定 \(140 ページ\)](#)

[実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(740 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(120 ページ\)](#)

[レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする \(741 ページ\)](#)

フレット楽器のチューニング

フレット楽器の弦とフレットの数は楽器によって異なります。Dorico Pro でフレット楽器のタブ譜を表示するには、フレット楽器のチューニングに関する情報を指定する必要があります。

Dorico Pro でタブ譜を表示するには以下の情報が必要です。

- インストゥルメントの弦の本数
- 各弦の開放弦のピッチ
- フレット数
- 各弦が始まるフレット番号 (バンジューの5弦など)
- フレット間のピッチの間隔

プレーヤーにフレット楽器を割り当てる場合や既存のインストゥルメントを変更する場合、そのインストゥルメントに使用できるチューニングはインストゥルメントピッカーに表示されます。

また、「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログでフレット楽器のすべての設定をカスタマイズできます。

補足

以前のバージョンの Dorico Pro で作成したプロジェクトにフレット楽器が含まれている場合、Dorico Pro 3 でそのプロジェクトを初めて開いたときに、そのインストゥルメントに関連付けられた弦とチューニングの標準セットが適用されます。チューニングを変更する最も簡単な方法は、インストゥルメントピッカーでインストゥルメントタイプを変更することです。

関連リンク

[インストゥルメントピッカー \(99 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(120 ページ\)](#)

[「弦とチューニングを編集 \(Edit Strings and Tuning\)」ダイアログ \(130 ページ\)](#)

プレイヤーへのインストゥルメントの追加

ソロプレイヤーとセクションプレイヤーの両方にインストゥルメントを追加できます。ソロプレイヤーには複数のインストゥルメントを追加できますが、セクションプレイヤーには1つのインストゥルメントのみ追加できます。

前提条件

ソロプレイヤーまたはセクションプレイヤーを追加しておきます。

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを追加するプレイヤーを選択します。

補足

インストゥルメントは一度に1人のプレイヤーにのみ追加できます。

2. **[Shift]+[I]** を押してインストゥルメントピッカーを開きます。
3. インストゥルメントピッカーで任意のインストゥルメントを選択します。
4. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを追加します。
5. 単一のソロプレイヤーに複数のインストゥルメントを追加する場合は、手順2から4を繰り返します。

補足

- 各セクションプレイヤーに追加できるのは1つのインストゥルメントのみです。
- 複数のインストゥルメントをプロジェクトに同時に追加したい場合は、アンサンブルを追加するかプロジェクトテンプレートを使用します。

結果

選択したインストゥルメントが選択したプレイヤーに追加されます。

現在の再生テンプレートに応じて、インストゥルメントのサウンドが自動的に読み込まれます。

補足

音符を入力する前は、ソロプレイヤーに割り当てられた最初のインストゥルメントのみがページビューのフルスコアに表示されます。ギャラリービューにはすべてのインストゥルメントの譜表が表示されるため、ソロプレイヤーに割り当てられた他のインストゥルメントに音符を入力する際はギャラリービューに切り替えることをおすすめします。

関連リンク

[インストゥルメントピッカー \(99 ページ\)](#)

[アンサンブルの追加 \(114 ページ\)](#)

[プロジェクトテンプレートから新規プロジェクトを開始 \(70 ページ\)](#)


[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(59 ページ\)](#)

[再生テンプレート \(567 ページ\)](#)

プレイヤーへの空の打楽器キットの追加

プレイヤーに空の打楽器キットを追加し、そこに無音程打楽器インストゥルメントを追加できます。

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行なって「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
 - ソロプレイヤーまたはセクションプレイヤーを選択し、**[Shift]+[I]** を押してインストゥルメントピッカーで「**空のキットを作成 (Create Empty Kit)**」をクリックします。
 - 追加したインストゥルメントが関連付けられていないプレイヤーの右側のプラス記号をクリックし、インストゥルメントピッカーで「**空のキットを作成 (Create Empty Kit)**」をクリックします。

 - プレイヤーを右クリックしてコンテキストメニューから「**空のキットを作成 (Create Empty Kit)**」を選択します。
2. 「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログで任意の打楽器をキットに追加します。

関連リンク

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(122 ページ\)](#)
[インストゥルメントピッカー \(99 ページ\)](#)

キットへの個別の打楽器インストゥルメントの結合

プレイヤーに個別の打楽器インストゥルメントが1つ以上含まれている場合、それらを打楽器キットに結合できます。

手順

1. キットに結合する打楽器インストゥルメントを含むプレイヤーのカードを右クリックして、コンテキストメニューから「**インストゥルメントでキットを編成 (Combine Instruments into Kit)**」を選択します。
2. 表示される「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログでキットを編集します。たとえば、グリッドまたは5線譜にインストゥルメントが表示される順番を変更できます。

結果

プレイヤーに割り当てられたすべてのインストゥルメントを含む新しいキットが作成されます。

補足

プレイヤーに1つ以上のキットインストゥルメントがすでに割り当てられている場合、すべての個別のインストゥルメントとその他のキットが最初のキットに結合されます。

インストゥルメントの変更

たとえばクラリネットのパートの音程が低いためバスクラリネットに変更する場合やギターチューニングを変更する場合など、譜表にすでに入力された楽譜に影響を与えることなく、プレイヤーに割り当てられたインストゥルメントを変更できます。

補足

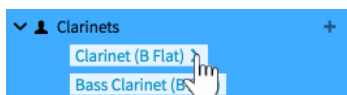
- 個別の無音程打楽器インストゥルメント以外のパーカッションキットは、他のインストゥルメントに変更できません。

- 有音程打楽器インストゥルメントを無音程打楽器インストゥルメントに、またその逆の変更はできません。
- 以下の手順は、フローの途中でインストゥルメントを変更する方法ではなく、インストゥルメントタイプを変更する方法について説明します。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを変更するプレーヤーのカードを展開します。

カードにはプレーヤーのインストゥルメントのリストが表示されます。



2. 変更するインストゥルメントのラベルにカーソルを合わせて、表示される矢印をクリックし、「**インストゥルメントを変更 (Change Instrument)**」を選択してインストゥルメントピッカーを開きます。



3. インストゥルメントピッカーで任意のインストゥルメントを選択します。
4. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを変更します。

結果

譜表上の楽譜に影響を与えることなく、選択したインストゥルメントが変更されます。

補足

適所に新しい音部記号が入力されます。つまり、新しい音部記号に応じて音符が正しく記譜されるように、音符の表示が変わる場合があります。

関連リンク

[インストゥルメントピッカー \(99 ページ\)](#)

[フレット楽器のチューニング \(118 ページ\)](#)

[移調楽器 \(118 ページ\)](#)

[「弦とチューニングを編集 \(Edit Strings and Tuning\)」ダイアログ \(130 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(117 ページ\)](#)

インストゥルメントの移動

インストゥルメントに対してすでに入力されている楽譜に影響を与えることなく、個別のインストゥルメントを移動できます。インストゥルメントをプレーヤー間で移動したり、ソロプレーヤーのインストゥルメントリスト内の別の位置に移動したりできます。これは、たとえばスコア内の譜表の順番を変える場合などに便利です。

手順

- 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行なってインストゥルメントを移動します。
 - 1人のプレーヤーのインストゥルメントの順番を変更するには、1つのインストゥルメントをクリックしてドラッグし、任意の位置で放します。
 - インストゥルメントを別のプレーヤーに移動するには、1つのインストゥルメントをクリックしてドラッグし、移動先のプレーヤーカード上で放します。
 - インストゥルメントを別のプレーヤーに移動するには、インストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**インストゥルメントをプレーヤーに移動 (Move Instrument to Player)**」 > **[プレーヤー名]** をクリックします。

補足

インストゥルメントは、プロジェクトにすでに追加されているプレーヤーにのみ移動できません。

関連リンク

[インストゥルメントの変更](#) (117 ページ)

[ソロプレーヤー/セクションプレーヤーの追加](#) (111 ページ)

インストゥルメントの削除

インストゥルメントが割り当てられたプレーヤーやそのプレーヤーのほかのインストゥルメントを削除することなく、個々のインストゥルメントを削除できます。

重要

インストゥルメントを削除すると、その譜表に入力した楽譜もすべて完全に削除されます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、削除するインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. インストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**インストゥルメントを削除 (Delete Instrument)**」を選択します。
3. 「**OK**」をクリックします。

結果

インストゥルメントがプレーヤーから削除されます。

ヒント

1人のプレーヤーに割り当てられたインストゥルメントをすべて削除する場合は、プレーヤーを削除してもかまいません。

関連リンク

[プレーヤーの削除](#) (113 ページ)

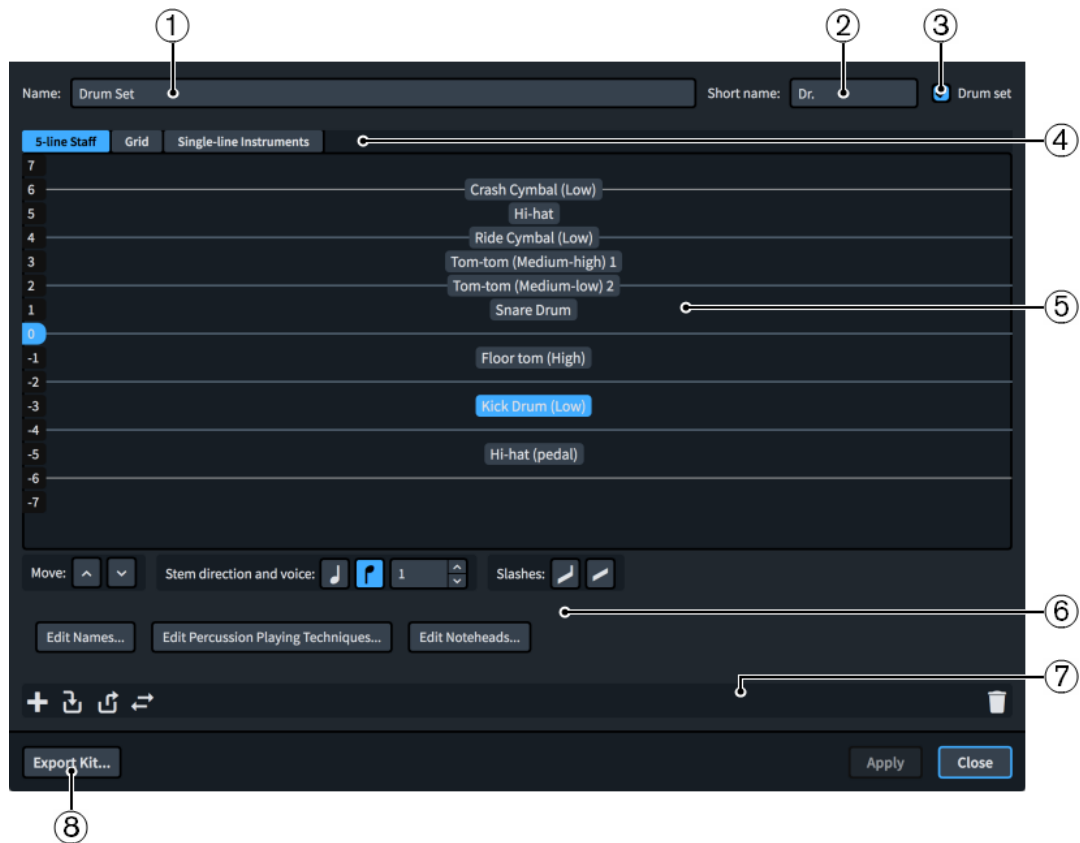
「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」 ダイアログ

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログでは、打楽器キットにどのインストゥルメントを含めるかやキットの表示タイプごとにインストゥルメントをどのように配置するかなど、打楽器キットに対する変更を行なえます。

- 空のキットを作成するか、既存のインストゥルメントをキットに結合すると自動的にダイアログが開きます。
- 既存の打楽器キットインストゥルメントに対して手動で「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開くこともできます。その場合は、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで打楽器キットを含むプレーヤーのプレーヤーカードを展開し、ラベルの矢印をクリックして「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択します。

補足

設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでは、打楽器キットインストゥルメントのラベルが緑色で表示されます。



「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログ

1 名前 (Name)

打楽器キットの正式名称の入力または変更ができます。これは、5 線譜表示を使用している打楽器キットの**完全な**譜表ラベルで使用されます。

2 略称 (Short name)

打楽器キットの略称を入力または変更できます。これは、5 線譜表示を使用している打楽器キットの**省略された**譜表ラベルで使用されます。

3 ドラムセット (Drum set)

チェックボックスがオンの場合は、打楽器キットはドラムセットとして定義されます。ドラムセットとして定義された打楽器キットは、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページのドラムセットの設定に従います。これには、声部の振り分けやデフォルトの符尾方向などが含まれます。

4 表示タイプ

選択した打楽器キットが、打楽器キットの表示タイプごとでどのように表示されるかを編集できます。

- **5 線譜 (5-line Staff):** キットのインストゥルメントは 5 線譜上に表示されます。譜表のそれぞれの線および間にどのインストゥルメントが表示されるか指定できます。キットの名前を示す 1 つの譜表ラベルが表示されます。
- **グリッド (Grid):** キットのインストゥルメントはグリッド上に表示され、それぞれのインストゥルメントに 1 本ずつの線が与えられます。各線間の間隔はカスタマイズできます。各インストゥルメントの譜表ラベルは、通常の譜表ラベルより小さなフォントで表示されます。
- **1 線譜を使用するインストゥルメント (Single-line Instruments):** キットのインストゥルメントは、それぞれの線上で個別のインストゥルメントとして表示されます。各インストゥルメントには標準サイズの譜表ラベルが表示されます。

5 エディター

選択した打楽器キットの表示タイプで、インストゥルメントの現在の配置が表示されます。コントロールを使用して、インストゥルメントの配置およびグリッド表示タイプの線と間隔のレイアウトを変更できます。

6 コントロール

選択した打楽器キットの表示タイプのインストゥルメントの配置および符尾の方向を変更できます。また、キットにスラッシュ付き声部を追加することもできます。

「**符頭を編集 (Edit Noteheads)**」をクリックすると、キット内の各インストゥルメントに使用される符頭を変更するダイアログを開くことができます。また、「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックすると、符頭とアーティキュレーションとトレモロとの組み合わせが再生にどのように影響するかを変更するダイアログが開きます。

さらに、打楽器キット内の個別のインストゥルメントの名前を変更することもできます。その場合は「**名前を編集 (Edit Names)**」をクリックして「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開きます。

補足

すべての表示タイプの打楽器インストゥルメント名の表示が変更されます。打楽器キットの表示タイプによっては、譜表ラベルはインストゥルメント名とは別の情報を使用する場合があります。

7 アクションバー

すべての表示タイプに適用されるオプションが含まれています。

- **新規インストゥルメントを追加 (Add New Instrument):**インストゥルメントピッカーを開き、キットに追加する新しい無音程打楽器インストゥルメントを選択できます。



- **プレーヤーから既存のインストゥルメントを追加 (Add Existing Instrument From Player):**キット内ではなく、個別の打楽器インストゥルメントを含むプロジェクト内の他のプレーヤーのリストが表示されます。別のプレーヤーの打楽器インストゥルメントを選択し、その打楽器インストゥルメントを楽譜とともに現在のキットに移動できます。



- **キットからインストゥルメントを削除 (Remove Instrument From Kit):**個別のインストゥルメントとして表示されるように、選択したインストゥルメントをキットから削除します。個別のインストゥルメントは他のプレーヤーまたは他のキットインストゥルメントに移動できません。



- **インストゥルメントを変更 (Change Instrument):**インストゥルメントピッカーを開き、新しい無音程楽器を選択して、楽譜を保持したまま選択したインストゥルメントと置き換えることができます。



- **インストゥルメントを削除 (Delete Instrument):**インストゥルメントを楽譜ごとキットから削除します。



8 キットを書き出す (Export Kit)

別のプロジェクトで使用できるように、打楽器キットをライブラリーファイルとして書き出せます。

関連リンク

[打楽器キットとドラムセット \(1290 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表ラベル \(1169 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプ \(1295 ページ\)](#)

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1297 ページ\)](#)
[無音程打楽器の演奏技法 \(1297 ページ\)](#)

打楽器キットへのインストゥルメントの追加

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログで、打楽器キットに新しいインストゥルメントを追加できます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを追加するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. 「**新規インストゥルメントを追加 (Add New Instrument)**」をクリックして、インストゥルメントピッカーを開きます。



4. インストゥルメントピッカーで任意の打楽器インストゥルメントを選択します。
5. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを追加します。
6. 「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したインストゥルメントが打楽器キットに追加されます。

打楽器キット内のインストゥルメントの変更

インストゥルメントの既存の楽譜はすべて保持したまま、打楽器キット内の既存のインストゥルメントを変更できます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントを変更するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. 変更するインストゥルメントをクリックします。
4. アクションバーの「**インストゥルメントを変更 (Change Instrument)**」をクリックしてインストゥルメントピッカーを開きます。



5. インストゥルメントピッカーで任意の打楽器インストゥルメントを選択します。
6. **[Return]** を押して、選択したインストゥルメントを変更します。
7. 「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

インストゥルメントがインストゥルメントピッカーで選択したものに変わります。前のインストゥルメントの入力した楽譜はすべて保持されます。

補足

演奏技法固有の符頭を使用して表現された演奏技法は保持されません。

打楽器キットをドラムセットとして定義

個別の打楽器キットをドラムセットとして定義できます。ドラムセットは、5線譜表示のドラムセットの声部の振り分けに対するフローごとの記譜オプションに従います。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、ドラムセットとして定義するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログの右上にある「**ドラムセット (Drum set)**」をオンにします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択した打楽器キットがドラムセットとして定義されます。5線譜表示タイプを使用している場合、キット内のインストゥルメントの声部の配置は「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページで設定したプロジェクト全体の設定に従います。

補足

打楽器キットをドラムセットとして定義しておく必要がなくなった場合は、そのキットの「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログで「**ドラムセット (Drum set)**」をオフにできます。

関連リンク

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1297 ページ\)](#)

グリッド表示の打楽器キット内でのインストゥルメントグループの作成

キット内のインストゥルメントを見やすくするために、グリッド表示タイプを使用する打楽器キット内でインストゥルメントグループを作成できます。

グリッド表示の打楽器キット内では、独自のインストゥルメントの名前が譜表ラベルに表示されます。たとえば「Wood Block (High)」、「Wood Block (Medium)」、「Wood Block (Low)」のかわりに「ウッドブロック」と表示するなど、グループを作成してグリッド表示の打楽器キットの譜表ラベルをシンプルにできます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、グリッド表示にグループを作成するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログの一番上にある「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
4. グループに含める最初のインストゥルメントをクリックします。
5. グループに含める最後のインストゥルメントを **[Shift]** を押しながらクリックします。

補足

グループに含めることができるのは隣り合うインストゥルメントのみです。

6. 「**追加 (Add)**」をクリックします。



結果

選択したインストゥルメントを含むグループが作成されます。グループにはデフォルト名が付けられますが、変更することもできます。

グリッド表示の打楽器キット内でのグループ名の変更

グループ名はインストゥルメントラベルとして表示されます。グリッド表示を使用している打楽器キット内のグループの名前を変更できます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、グリッド表示内のグループ名を変更するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログの一番上にある「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
4. 名前を変更するグループをダブルクリックして「**打楽器グリッドのグループ名を編集 (Edit Percussion Grid Group Names)**」ダイアログを開きます。
グループは、打楽器キットインストゥルメントのリストの左側の列に、色付きのブロックとして表示されます。
5. 「**打楽器グリッドのグループ名を編集 (Edit Percussion Grid Group Names)**」ダイアログの対応するフィールドに、グループに付ける名前を入力します。
 - **正式名称 (Full Name)**
 - **略称 (Short Name)**
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

グループ名が変更されます。また、グループの譜表ラベルも変更されます。

補足

グリッド表示の打楽器キットのグループの譜表ラベルには、グリッド表示の打楽器キットのグループ化されていないインストゥルメントの譜表ラベルとは異なるパラグラフスタイルが使用されます。

例

Ride Cymbal —
Hi-hat —
Wood Block 1 —
Wood Block 2 —
Wood Block 3 **■**
Tom 1 —
Tom 2 —
Kick Drum —

Ride Cymbal —
Hi-hat —
Wood blocks **■**
Tom 1 —
Tom 2 —
Kick Drum —

グループ化されていないグリッド表示の打楽器キット

ウッドブロックがグループ化されたグリッド表示の打楽器キット

関連リンク
[打楽器キットの譜表ラベル \(1169 ページ\)](#)

グリッド表示の打楽器キット内でのグループの削除

グリッド表示を使用している打楽器キット内で、グループ内のインストゥルメントを削除することなくグループを削除できます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、グリッド表示からグループを削除するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログの一番上にある「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
4. 削除するグループをクリックします。
グループは、打楽器キットインストゥルメントのリストの左側の列に、色付きのブロックとして表示されます。
5. 「**削除 (Delete)**」をクリックします。



結果

グループが削除されます。グループ内の各インストゥルメントの個別の譜表ラベルは復元されます。

打楽器キット内のインストゥルメントの位置の変更

すべての表示タイプの打楽器キット内で、インストゥルメントの位置を変更し、スコアとパートに表示されるインストゥルメントの順番を変更できます。また、5線譜表示タイプではスラッシュ付き声部の譜表上の位置も変更できます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、インストゥルメントの位置を変更するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. インストゥルメントの順番を変更するキットの表示タイプをクリックします。
たとえば、そのキットがグリッド表示タイプを使用している場合にインストゥルメントの順番を変更するには「**グリッド (Grid)**」をクリックします。
4. 位置を変更する打楽器インストゥルメントまたはスラッシュ付き声部をクリックします。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるインストゥルメント/スラッシュ付き声部は1つだけです。

5. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したインストゥルメント/スラッシュ付き声部の位置を変更します。
 - 上に移動するには、「**移動 (Move)**」の上矢印をクリックします。
 - 下に移動するには、「**移動 (Move)**」の下矢印をクリックします。
 - インストゥルメントを個別にクリックして上下にドラッグします (5線譜表示タイプのみ)。

- 必要に応じて、打楽器キット内の他のインストゥルメントおよび同じ打楽器キットのほかのキット表示タイプにこれらの手順を繰り返します。
 - 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

キット内の選択したインストゥルメントまたはスラッシュ付き声部の位置が変更されます。複数のインストゥルメントに同じ譜表上の位置を使用できますが、演奏者が見分けられるよう異なる符頭を使用することをおすすめします。

関連リンク

[打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動する \(1293 ページ\)](#)

打楽器グリッドの線の間隔の変更

グリッド表示タイプを使用している打楽器キットの線の間隔を変更できます。

手順

- 「プレーヤー (Players)」パネルで、グリッド表示の間隔の大きさを変更する打楽器キットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
 - キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」を選択して、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログを開きます。
 - ダイアログの一番上にある「グリッド (Grid)」をクリックします。
 - 下の間隔を変更するインストゥルメントをクリックします。
 - 「間隔 (Gap)」の値を変更します。
 - 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

選択したインストゥルメントの下の間隔が変更されます。

打楽器キットから個別のインストゥルメントを削除

インストゥルメントをある打楽器キットから別のプレーヤーに移動する場合などに、打楽器キットから個別のインストゥルメントを削除できます。

手順

- 「プレーヤー (Players)」パネルで、インストゥルメントを削除するキットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
- キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」を選択して、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログを開きます。
- キットから削除するインストゥルメントをクリックします。
- アクションバーの「キットからインストゥルメントを削除 (Remove Instrument From Kit)」をクリックします。



- 「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

選択したインストゥルメントは同じプレーヤーに属する個別のインストゥルメントとして表示されますが、打楽器キットからは切り離されます。

そのあと、必要に応じてそのインストゥルメントを別のプレーヤーに移動できます。

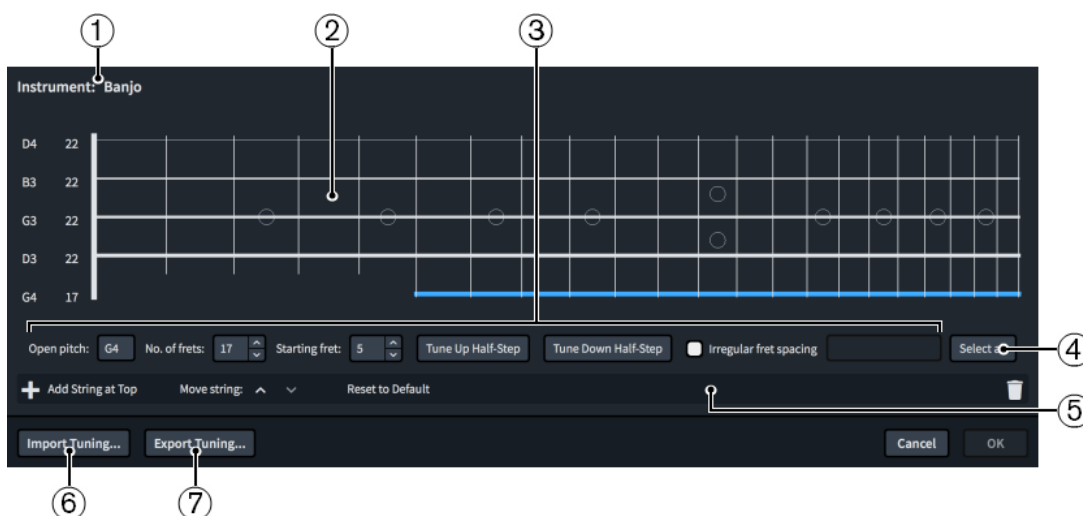
関連リンク

[インストゥルメントの移動 \(121 ページ\)](#)

「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」 ダイアログ

「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」 ダイアログでは、弦とフレットの数、開放弦のピッチ、フレットのスペーシングなどを変更することで個々のフレット楽器のチューニングをカスタマイズできます。

- 「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」 ダイアログを開くには、設定モードの「プレーヤー (Players)」パネルでフレット楽器が割り当てられたプレーヤーのプレーヤーカードを展開し、ラベルの矢印をクリックして「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」を選択します。



「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」 ダイアログ

「弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)」 ダイアログは以下で構成されます。

1 インストゥルメント (Instrument)

選択したフレット楽器の名前が表示されます。

2 弦エディター

フレット楽器の個々の弦またはすべての弦を選択して編集できます。エディターの弦の配置は実際の楽器の弦と一致します。各弦のピッチとフレットの総数が、ナットを表わす垂直線の左側に表示されます。

3 コントロール

個々の弦または複数の弦を編集できます。弦エディターで 1 本以上の弦が選択されている場合に、以下のコントロールを使用できます。

- **開放弦のピッチ (Open pitch):** 音符名とオクターブを使用して、その弦の開放弦のピッチを設定できます (ミドル C の場合は「C4」など)。必要に応じて、シャープの「#」やフラットの「b」を追加できます。
- **フレット数 (No. of frets):** 選択した弦のフレット数を設定できます。
- **開始フレット (Starting fret):** 選択した弦の最初のフレットの番号を設定できます。たとえば、バンジョーの 5 弦は第 5 フレットから始まります。
- **半ステップチューニング上げ (Tune Up Half-Step):** 選択した弦の開放弦のピッチを半ステップ (半音) 上げます。
- **半ステップチューニング下げ (Tune Down Half-Step):** 選択した弦の開放弦のピッチを半ステップ (半音) 下げます。

- **不規則なフレットの間隔 (Irregular fret spacing):** ダルシマーのように、別の音階に対応するフレットボードを持つ楽器の、半音階以外のフレット配置を設定できます。半ステップは「1」、全ステップは「2」として、各ステップをコンマで区切って入力します。たとえば、メジャースケールのパターンを設定するには「2,2,1,2,2,2,1」と入力します。

4 すべて選択 (Select all)

すべての弦を一度に選択します。

5 アクションバー

弦の数と配置を変更できるオプションがあります。

- **弦を追加 (Add String):** 現在選択している一番下の弦の下に新しい弦を追加します。新しい弦は、現在選択している一番下の弦を複製したものになります。
- **弦を一番上に追加 (Add String at Top):** フレットボードの一番上に新しい弦を追加します。新しい弦は、一番上の弦を複製したものになります。
- **「弦を移動 (Move string)」ボタン:** 現在選択している弦をフレットボード上で上下に移動します。
- **デフォルトにリセット (Reset to Default):** フレット楽器のすべての弦とそのチューニングを出荷時のデフォルト設定に戻します。
- **弦を削除 (Delete String):** 選択した弦を削除します。



6 チューニングを読み込み (Import Tuning)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、読み込んでフレット楽器に適用する .doricotuning ファイルを選択できます。

7 チューニングを書き出し (Export Tuning)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、フレット楽器の弦とチューニング設定を .doricotuning ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.doricotuning ファイルを別のインストゥルメントまたはプロジェクトに読み込んで別のユーザーと共有できます。

関連リンク

[タブ譜 \(1205 ページ\)](#)

[フレット楽器のチューニング \(118 ページ\)](#)

フレット楽器の開放弦のピッチの変更

インストゥルメントピッカーでインストゥルメントタイプとして選択できない例外的なチューニングがプロジェクトに必要な場合などに、フレット楽器の開放弦のピッチを個別に変更できます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、開放弦のピッチを変更するフレット楽器が割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. インストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」を選択して「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログを開きます。
3. 開放弦を変更する弦を選択します。
4. 「**開放弦のピッチ (Open pitch)**」の値を、たとえば「**G2**」などに変更します。
5. 必要に応じて、手順3と4を繰り返してほかの弦の開放弦のピッチを変更します。
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択した弦の開放弦のピッチが変更されます。これは、インストゥルメントのチューニングおよび変更した弦のすべてのフレット位置のピッチに影響します。

関連リンク

[フレット楽器のチューニング \(118 ページ\)](#)

フレット楽器のチューニングの読み込み

作成済みのフレット楽器のカスタムチューニングを読み込み、インストゥルメントに適用できます。これにより、チューニングを1から作り直すことなく再利用できます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、読み込んだチューニングを適用するフレット楽器が割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. インストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」を選択して「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログ下部の「**チューニングを読み込み (Import Tuning)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. 読み込む .doricotuning ライブラリーファイルを探して選択します。
5. 「**開く (Open)**」をクリックします。

結果

選択した .doricotuning ファイルがフレット楽器に適用されます。

フレット楽器のチューニングの書き出し

他のインストゥルメントや他のプロジェクトで再利用できるように、フレット楽器のチューニングを書き出すことができます。フレット楽器のチューニングは .doricotuning ライブラリーファイルとして書き出されます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、チューニングを書き出すフレット楽器が割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. インストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」を選択して「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログ下部の「**チューニングを書き出し (Export Tuning)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。
5. 「**保存 (Save)**」を選択します。

結果

選択したフレット楽器のチューニングが書き出され、.doricotuning ライブラリーファイルとして書き出されます。

手順終了後の項目

ライブラリーファイルを他のプロジェクトに読み込むと、フレット楽器のチューニングを再利用できます。

プレイヤーグループ

グループとは、二部合唱の一方の声部やオフステージアンサンブルなど、1つのまとまりとして扱われるミュージシャンの集合のことです。プレイヤーグループには個別の角括弧が付きます。

プレイヤーのグループ化とは、プレイヤーをまとめてスコア上に配置し、グループ外のプレイヤーとは別に通し番号を付け、各レイアウトに設定されたアンサンブルタイプに応じてそれらを括弧で括弧を意味します。

たとえば二部合唱 (SATB/SATB) 用のプロジェクトの場合、初期設定ではすべての声部が同じファミリーに含まれるため、単一の大括弧で結合されます。ただし、各合唱を独自のグループに追加した場合は、それぞれが個別に括弧で括弧されます。これは、3つの個別のグループを持つブリテンの『戦争レクイエム (War Requiem)』や2つの個別のオフステージ吹奏楽団を必要とするウォルトンの『ベルシャザールの饗宴 (Belshazzar's Feast)』のように、複数のグループを含む楽譜で便利です。

たとえば、演奏部隊を簡単に分割できるようにする場合や、インストゥルメントの変更に対応できるように複数の打楽器プレイヤーに同じインストゥルメントが割り当てられている場合に、打楽器に対してインストゥルメントのナンバリングが自動的に行われないうる場合などに、プレイヤーグループを必要な数だけ追加できます。

補足

グループ化したインストゥルメントがオーケストラの順番通りに並んでいない場合、プレイヤーグループを追加することで、スコア上のプレイヤーの順番をプロジェクト全体で変更できます。

関連リンク

[インストゥルメントのナンバリング \(115 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(694 ページ\)](#)

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(696 ページ\)](#)

プレイヤーグループを追加する

プレイヤーを括弧でくくりたい場合などに、プレイヤーをグループに分けることができます。異なるグループのプレイヤーは、番号付けも個別に行なわれます。

前提条件

プレイヤーパネルを開いておきます。

手順

1. 既存のプレイヤーを含むグループを追加する場合は、「**プレイヤー (Players)**」パネルでそれらのプレイヤーを選択します。
2. 「**プレイヤー (Players)**」パネルの下部で「**グループを追加 (Add Group)**」をクリックします。



結果

「**プレイヤー (Players)**」パネルに新しいプレイヤーグループが追加されます。プレイヤーを選択した場合は、それらのプレイヤーがグループに追加されます。プレイヤーを選択しなかった場合、新しいグループは空です。

手順終了後の項目

グループにプレイヤーを追加したり、グループ間でプレイヤーを移動したりできます。

関連リンク

[グループへのプレイヤーの追加 \(134 ページ\)](#)

[グループ間のプレイヤーの移動 \(135 ページ\)](#)

プレイヤーグループ名の変更

プレイヤーグループを追加後に名前を変更できます。

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルでグループ名をダブルクリックします。
 2. グループの新しい名前を入力するか、既存の名前を編集します。
 3. **[Return]** を押します。
-

プレイヤーグループの削除

たとえば、MIDI ファイルを読み込んだ際に作成したプレイヤーグループが不要になった場合、プレイヤーグループを削除できます。プレイヤーグループを削除する場合、そのグループに含まれるプレイヤーを保持するか、一緒に削除できます。

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、削除するグループを選択します。
 2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
 3. 表示される警告メッセージで、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「**プレイヤーを保持 (Keep Players)**」: グループは削除されますが、プレイヤーは保持されます。
 - 「**プレイヤーを削除 (Delete Players)**」: グループとそこに含まれるプレイヤーが削除されます。
-

グループへのプレイヤーの追加

既存または新規のプレイヤーをプレイヤーグループに追加できます。

前提条件

少なくとも 1 人のプレイヤー、1 つのアンサンブル、または 1 つのグループを追加しておきます。

手順

- 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 1 人以上のプレイヤーを選択し、「**グループを追加 (Add Group)**」をクリックします。
 - グループを選択し、「**ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)**」、「**セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)**」、または「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」を選択します。
-

結果

「**グループを追加 (Add Group)**」をクリックすると、新規グループが選択したプレイヤーに対して追加されます。

「**ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)**」、「**セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)**」、または「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」をクリックすると、新規プレイヤーまたはアンサンブルが選択したグループに追加されます。

関連リンク

[ソロプレイヤー/セクションプレイヤーの追加 \(111 ページ\)](#)

グループ間のプレイヤーの移動

1つのグループから別のグループにプレイヤーを移動できます。

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、別のグループに移動するプレイヤーを選択します。
2. 選択したプレイヤーをクリックし、移動先のグループ内の任意の位置にドラッグします。挿入ラインはプレイヤーが配置される場所を示します。

結果

プレイヤーが別のグループに移動します。

グループからのプレイヤーの削除

プレイヤーをグループから削除できます。

手順

- 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、以下のいずれかの操作を行なってプレイヤーを削除します。
 - 選択した複数のプレイヤーをクリックしてグループの外側へドラッグし、マウスを放します。
 - 1人のプレイヤーを右クリックして、コンテキストメニューから「**プレイヤーをグループから削除 (Remove Player from Group)**」を選択します。

補足

コンテキストメニューを使用する場合、グループから一度に削除できるのは1人のプレイヤーのみです。

結果

プレイヤーはグループからは削除されますが、プロジェクト内には個別のプレイヤーとして残ります。

フロー

フローとは、音楽コンテンツ内で完全に独立している個別の楽譜の範囲のことであり、フローごとに異なるプレイヤーを含めることができるほか、拍子記号や調号も個別に設定できます。1つのプロジェクトに複数のフローを含めることができます。

各プロジェクトの目的に応じて、たとえばアルバム内の1歌曲、ソナタや交響曲の1楽章、ステージミュージカルの1曲め、または数小節からなる短い音階練習曲や初見練習曲をフローとして作成できます。

1人以上のプレイヤーを追加すると、プロジェクトに自動的にフローが追加されます。少なくとも1人のプレイヤーをプロジェクトに追加するまで、フローを追加することはできません。

Dorico Pro でフローを追加すると、自動的に以下ようになります。

- プロジェクト内のすべてのフルスコアとパートレイアウトにフローが割り当てられます。
- すべてのプレイヤーが新規フローに割り当てられます。

初期設定では、すべてのレイアウトにプロジェクト内のすべてのフローが含まれます。フローを割り当てるレイアウトとフローに割り当てるプレイヤーは、必要に応じて変更できます。

重要

フローからプレイヤーを削除すると、そのフローで該当するプレイヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。

連桁のグループ化や臨時記号の有効範囲ルールなどの記譜オプションは、「**記譜オプション (Notation Options)**」ダイアログでフローごとに個別に変更できます。

関連リンク

[フローパネル \(103 ページ\)](#)

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

[プレイヤー \(110 ページ\)](#)

[レイアウト \(138 ページ\)](#)

[タッチェット \(474 ページ\)](#)

[フローに割り当てられたプレイヤーの変更 \(137 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(140 ページ\)](#)

[フローの読み込み \(75 ページ\)](#)

[フローの書き出し \(77 ページ\)](#)

フローの追加

新規フローをプロジェクトにいくつでも追加できます。

前提条件

少なくとも 1 人のプレイヤーをプロジェクトに追加しておきます。

手順

1. 「**フロー (Flows)**」パネルで、「**フローを追加 (Add Flow)**」をクリックします。



2. 必要に応じて、この手順を繰り返します。
-

結果

「**フローを追加 (Add Flow)**」をクリックするたびにプロジェクトに新規フローが追加されます。既存のすべてのプレイヤーが新規フローに割り当てられ、新規フローが既存のすべてのフルスコアとパートレイアウトに自動的に割り当てられます。

手順終了後の項目

フローカードをダブルクリックするとフロー名を変更できます。また、フローに割り当てるプレイヤーとフローを割り当てるレイアウトも変更できます。

関連リンク

[フローの読み込み \(75 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(140 ページ\)](#)

フローの複製

たとえば、元のフローに影響を与えることなくアイデアを試したい場合や、追加した小節線と一緒に音符や記譜記号をコピーしたい場合などにフローを複製できます。

手順

- 「**フロー (Flows)**」パネルで、複製するフローを右クリックしてコンテキストメニューから「**フローを複製 (Duplicate Flow)**」を選択します。

結果

元のフローのすべての楽譜とプレーヤーを含む新規フローが追加されます。新規フローは、すべてのフルスコアとパートレイアウトに自動的に追加されます。

関連リンク

[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(140 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたプレーヤーの変更 \(139 ページ\)](#)

フローに割り当てられたプレーヤーの変更

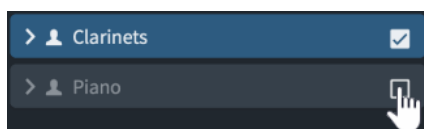
初期設定では、プロジェクトのすべてのプレーヤーがプロジェクトで作成されたすべてのフローに追加されます。たとえば、合唱の楽譜でソリストがそのフローを一切歌わない場合に、フローからプレーヤーを手動で削除したり、フローにプレーヤーを追加したりできます。

補足

フローからプレーヤーを削除すると、そのフローで該当するプレーヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。

手順

1. 「**フロー (Flows)**」パネルで、割り当てられたプレーヤーを変更するフローを選択します。
2. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで、フローに割り当てる各プレーヤーのプレーヤーカードのチェックボックスをオンにします。



ヒント

複数のプレーヤーカードのチェックボックスを同時にオン/オフするには、**[Shift]** を押しながらかlickします。

3. 必要に応じて、割り当てられたプレーヤーを変更するその他のフローに対して手順 1 と 2 を繰り返します。

結果

プレーヤーカードのチェックボックスをオンにした場合は選択したフローにプレーヤーが割り当てられ、チェックボックスをオフにした場合はフローからプレーヤーが除外されます。

関連リンク

[プレーヤー \(110 ページ\)](#)

[レイアウト \(138 ページ\)](#)

[タッチット \(474 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(140 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたプレーヤーの変更 \(139 ページ\)](#)

フローの削除

使用しなくなったフローを削除できます。フローを削除すると、そのフローのすべてのプレーヤーに属するすべてのインストゥルメントに関連する楽譜もすべて削除されます。

手順

1. 「**フロー (Flows)**」パネルで、削除するフローを選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

レイアウト

レイアウトでは、ページ形式および浄書のルールに従って、フローなどの音楽コンテンツを組み合わせることができます。また、レイアウトを使用すると、さまざまな形式での書き出しや印刷に利用できるページ番号付きの楽譜を作成できます。たとえば、パートレイアウトにはその演奏者の楽譜のみが含まれ、フルスコアレイアウトにはプロジェクト内のすべての譜表が含まれます。

Dorico Pro には以下のレイアウトタイプがあります。

フルスコア

初期設定では、フルスコアのレイアウトには、プロジェクトのすべてのプレーヤーとすべてのフローが含まれます。初期設定では、フルスコアレイアウトは実音です。

パート

プレーヤーをプロジェクトに追加すると、パートレイアウトが自動的に作成されます。空のパートレイアウトを作成して、プレーヤーを手動で割り当てることもできます。

初期設定では、パートレイアウトにはすべてのフローが含まれます。また、初期設定ではパートレイアウトは移調音です。

カスタムスコア

カスタムスコアレイアウトには、はじめ、プレーヤーやフローが含まれていません。そのため、スコアを手動で作成して、たとえばすべてのフローではなく 1 つのフローだけを割り当てたり、ボーカルとピアノのプレーヤーだけを割り当ててボーカルスコアを作成したりできます。初期設定では、カスタムスコアレイアウトは実音です。

ヒント

プレーヤー、レイアウト、フローは自由に組み合わせることができます。たとえば、演奏者がインストゥルメントの変更を自分で管理できるように、すべての打楽器プレーヤーを 1 つのパートレイアウトに追加できます。また、大規模なプロジェクトで合唱のリハーサル用にピアノリダクションを作成し、そのピアノプレーヤーをボーカルスコアだけに割り当てれば、オーケストラのフルスコアにはその楽譜が表示されません。

関連リンク

- [ページ形式設定 \(440 ページ\)](#)
- [フロー \(135 ページ\)](#)
- [プレーヤー \(110 ページ\)](#)
- [プレーヤー、レイアウト、フロー \(109 ページ\)](#)
- [レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(140 ページ\)](#)
- [レイアウトに割り当てられたプレーヤーの変更 \(139 ページ\)](#)
- [プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(143 ページ\)](#)
- [レイアウト名の変更 \(147 ページ\)](#)
- [アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(696 ページ\)](#)

レイアウトの作成

フルスコアレイアウトとパートレイアウトを複数作成できます。複数のカスタムスコアレイアウトも作成できます。

手順

- 「レイアウト (Layouts)」パネルの下部で、以下のレイアウトのタイプから1つをクリックします。

- フルスコアレイアウトを追加 (Add Full Score Layout)



- パートレイアウトを追加 (Add Instrumental Part Layout)



- カスタムスコアレイアウトを追加 (Add Custom Score Layout)



結果

「レイアウト (Layouts)」パネルのレイアウトのリストにレイアウトが追加されます。

手順終了後の項目

- レイアウトにプレーヤーやフローを割り当てることができます。
- レイアウトリスト内での新しいレイアウトの位置を変更したい場合は、レイアウトのソートや番号の付け直しを行いません。

関連リンク

[レイアウトのソート \(142 ページ\)](#)

[レイアウト番号の付け直し \(142 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(54 ページ\)](#)

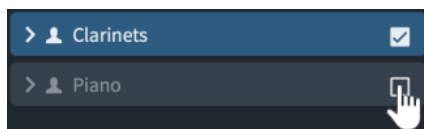
[新規タブを開く \(55 ページ\)](#)

レイアウトに割り当てられたプレーヤーの変更

初期設定では、フルスコアレイアウトにすべてのプレーヤーが含まれ、各プレーヤーに独自のパートレイアウトが自動的に割り当てられます。たとえば、フルスコアから不要なプレーヤーを削除したい場合や伴奏者のパートにソリストの楽譜を追加したい場合などに、プレーヤーを手動でレイアウトに割り当てたりレイアウトから除外したりできます。

手順

- 「レイアウト (Layouts)」パネルで、割り当てられたプレーヤーを変更するレイアウトを選択します。
- 「プレーヤー (Players)」パネルで、レイアウトに割り当てる各プレーヤーのプレーヤーカードのチェックボックスをオンにします。



ヒント

複数のプレーヤーカードのチェックボックスを同時にオン/オフするには、**[Shift]** を押しながらかlickします。

- 必要に応じて、割り当てられたプレーヤーを変更するその他のレイアウトに対して手順1と2を繰り返します。

結果

プレーヤーカードのチェックボックスをオンにした場合は選択したレイアウトにプレーヤーが割り当てられ、チェックボックスをオフにした場合はレイアウトからプレーヤーが除外されます。レイアウト名を変更していない場合は、レイアウトに含まれるプレーヤー名を反映する形で自動的に更新されます。

関連リンク

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(143 ページ\)](#)

[レイアウト名の変更 \(147 ページ\)](#)

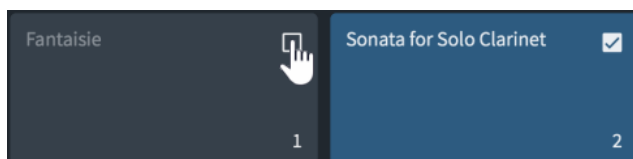
[フローに割り当てられたプレーヤーの変更 \(137 ページ\)](#)

レイアウトに割り当てられたフローの変更

初期設定では、プロジェクトのすべてのフローがすべてのレイアウトに追加されます。レイアウトに表示しないフローを除外できます。たとえば、プロジェクトのフローに弦楽器への演奏上の指示が含まれており、それを弦楽器のパートレイアウトだけに表示したい場合などに、フローを手動でレイアウトに割り当てたりレイアウトから削除したりできます。

手順

- 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、割り当てられたフローを変更するレイアウトを選択します。
- 「**フロー (Flows)**」パネルで、レイアウトに割り当てる各フローのフローカードのチェックボックスをオンにします。



ヒント

複数のフローカードのチェックボックスを同時にオン/オフするには、**[Shift]** を押しながらかlickします。

- 必要に応じて、割り当てられたフローを変更するその他のレイアウトに対して手順1と2を繰り返します。

結果

フローカードのチェックボックスをオンにした場合は選択したレイアウトにフローが割り当てられ、チェックボックスをオフにした場合はレイアウトからフローが除外されます。

関連リンク

[フローに割り当てられたプレーヤーの変更 \(137 ページ\)](#)

レイアウトの移調/非移調の設定

プロジェクト内の各レイアウトを移調するかしないかを変更できます。Dorico Pro の初期設定では、フルスコアレイアウトは移調されず、パートレイアウトは移調されます。

たとえば、フルスコアは音符を実音で表示するために移調されず、パートレイアウトは演奏者が求められるピッチで音を出すために演奏する音符を表示するよう移調されるのが一般的です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、移調/非移調の設定を行なうレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの**選択オプション**を使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**プレーヤー (Players)**」セクションで「**移調レイアウト (Transposing layout)**」のオン/オフを切り替えます。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**移調レイアウト (Transposing layout)**」をオンにすると選択したレイアウトが移調音になり、オフにすると実音になります。

ヒント

また、「**編集 (Edit)**」 > 「**移調音 (Transposed Pitch)**」を選択してレイアウトを移調表示に、「**編集 (Edit)**」 > 「**実音 (Concert Pitch)**」を選択してレイアウトを実音表示にできます。この操作によって、楽譜領域で現在開かれているレイアウトのみのレイアウトオプションが自動的に更新されます。

関連リンク

[移調楽器 \(118 ページ\)](#)

[「移調 \(Transpose\)」ダイアログ \(206 ページ\)](#)

[選択範囲の移調 \(206 ページ\)](#)

[実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(740 ページ\)](#)

[レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする \(741 ページ\)](#)

実音と移調音

Dorico Pro のレイアウトには実音と移調音を使用できます。これは、移調楽器に属する譜表上のピッチと調号に影響します。

楽譜が実音の場合、すべての音符は聴こえる音のとおり記譜されます。つまり、実音の楽譜を読む移調楽器のプレーヤーは楽譜を自分自身で移調する必要があります。たとえば、実音で C と記譜されている場合、B \flat クラリネットの奏者は C を出すためにインストゥルメントでは D を演奏する必要があります。

楽譜が移調音の場合、記譜される音符は、求められる音を出すために各楽器で演奏すべき音符です。たとえば、移調音で D と記譜されている場合、B \flat クラリネットから発せられる音は C です。

移調スコアおよび移調パートでは、インストゥルメントの移調に応じて調号も変更されます。

関連リンク

[選択した音符と同時に調号を移調する \(857 ページ\)](#)

[異名同音の調号 \(858 ページ\)](#)

レイアウトのソート

カスタムスコアレイアウトを追加して、フルスコアのすぐ下に表示したい場合に、「**レイアウト (Layouts)**」パネルとレイアウトセレクトアに表示されるレイアウトの順番を変更できます。

手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、レイアウトカードをクリックして別の位置にドラッグします。挿入ラインはプレーヤーが配置される場所を示します。
2. マウスを放します。

結果

選択した位置にレイアウトが移動します。

レイアウト番号の付け直し

設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルでは、レイアウトを異なる位置にドラッグした場合などに、プロジェクト内のすべてのレイアウトのレイアウト番号を現在の位置に従って付け直すことができます。

手順

- 「**レイアウト (Layouts)**」パネルでいずれかのレイアウトカードを右クリックして、コンテキストメニューから「**レイアウト番号の付け直し (Renumber Layouts)**」を選択します。

結果

すべてのレイアウトのレイアウト番号が現在の位置に従って付け直されます。フルスコアレイアウト、カスタムスコアレイアウト、そしてパートレイアウトはそれぞれ別に番号付けされます。

関連リンク

[「レイアウト \(Layouts\)」パネル \(設定モード\) \(100 ページ\)](#)

レイアウトの削除

プロジェクトのレイアウトを削除できます。たとえば、Violin I と Violin II が組み合わさったパートのみを使用する場合、それぞれの個別のパートレイアウトを削除できます。

手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、削除するレイアウトを選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

デフォルトレイアウトの復元

いくつかのパートレイアウトを誤って削除してしまった場合など、Dorico Pro に用意されているすべてのデフォルトのパートレイアウトを再作成できます。

手順

- 「**設定 (Setup)**」 > 「**デフォルトのパートレイアウトを作成 (Create Default Part Layouts)**」を選択します。

結果

デフォルトのパートレイアウトのセットが復元され、プロジェクトのすべてのフローを含む単一のパートレイアウトがプレーヤーごとに再作成されます。再作成されたパートレイアウトは、「**レイアウト**

(Layouts)」リストの一番下に追加されます。パートレイアウトの順序は、「プレイヤー (Players)」パネル内の対応するプレイヤーの順序に一致します。

プレイヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名

Dorico Pro では、状況に応じて同じプレイヤーを 3 種類の名前で呼ぶことができます。これにより、スコア上のさまざまな場所に関連情報を表示できます。

以下の名前はプレイヤーとインストゥルメントに関連付けられます。

プレイヤー名

「プレイヤー (Players)」パネルで各プレイヤーに表示される名前です。スコアには表示されませんが、譜表ラベルやレイアウト名に表示されるインストゥルメント名やプレイヤー名とは関係なく、ワークフローの一部として使用できます。{@playernames@} トークンを使用すると、テキストフレーム内のプレイヤー名を参照できます。

プレイヤー名はインストゥルメントを追加時に自動的に生成されます。

レイアウト名

「レイアウト (Layouts)」パネルで各レイアウトに表示される名前です。個々のパートレイアウトの一番上に表示されます。{@layoutname@} トークンを使用すると、テキストフレーム内のレイアウト名を参照できます。

レイアウト名はインストゥルメントを追加時に自動的に生成され、レイアウト名が変更されるまでプレイヤー名に関連付けられます。

インストゥルメント名

譜表ラベルで使用されます。つまり、各譜表のインストゥルメントラベルはそのプレイヤーが現在演奏しているインストゥルメントまたは打楽器キットに関連付けられており、そのプレイヤーがフロー内で演奏するすべてのインストゥルメントをリスト表示しているわけではありません。{@stafflabelsfull@} および {@stafflabelsshort@} のトークンを使用すると、テキストフレーム内のインストゥルメント名を参照できます。

たとえば、クラリネット奏者がバスクラリネットも演奏する場合、プレイヤーがクラリネットを演奏する場所の譜表ラベルには自動的に「Clarinet」と表示され、プレイヤーがバスクラリネットを演奏する場所の譜表ラベルには自動的に「Bass Clarinet」と表示されます。

Dorico Pro のすべてのインストゥルメントにはインストゥルメント名のセットが付随しており、同じインストゥルメントが割り当てられているプロジェクト内の別のプレイヤーとは無関係に、個々のインストゥルメントのインストゥルメント名を変更できます。また、インストゥルメント名をデフォルトとして保存することもできます。現在のプロジェクトおよびそれ以降のすべてのプロジェクトでそのインストゥルメントを再び追加すると、常にそのインストゥルメント名が使用されます。

補足

デフォルトのインストゥルメント名を変更しても、プロジェクト内にすでに存在する同じタイプのインストゥルメントのインストゥルメント名は変更されません。

関連リンク

[インストゥルメントのナンバリング](#) (115 ページ)

[テキストトークン](#) (401 ページ)

[譜表ラベル](#) (1159 ページ)

[コンデンシングされた譜表の譜表ラベル](#) (1170 ページ)

[ディヴィジの譜表ラベル](#) (1200 ページ)

[打楽器キットの譜表ラベル](#) (1169 ページ)

[打楽器のレジェンド](#) (1301 ページ)

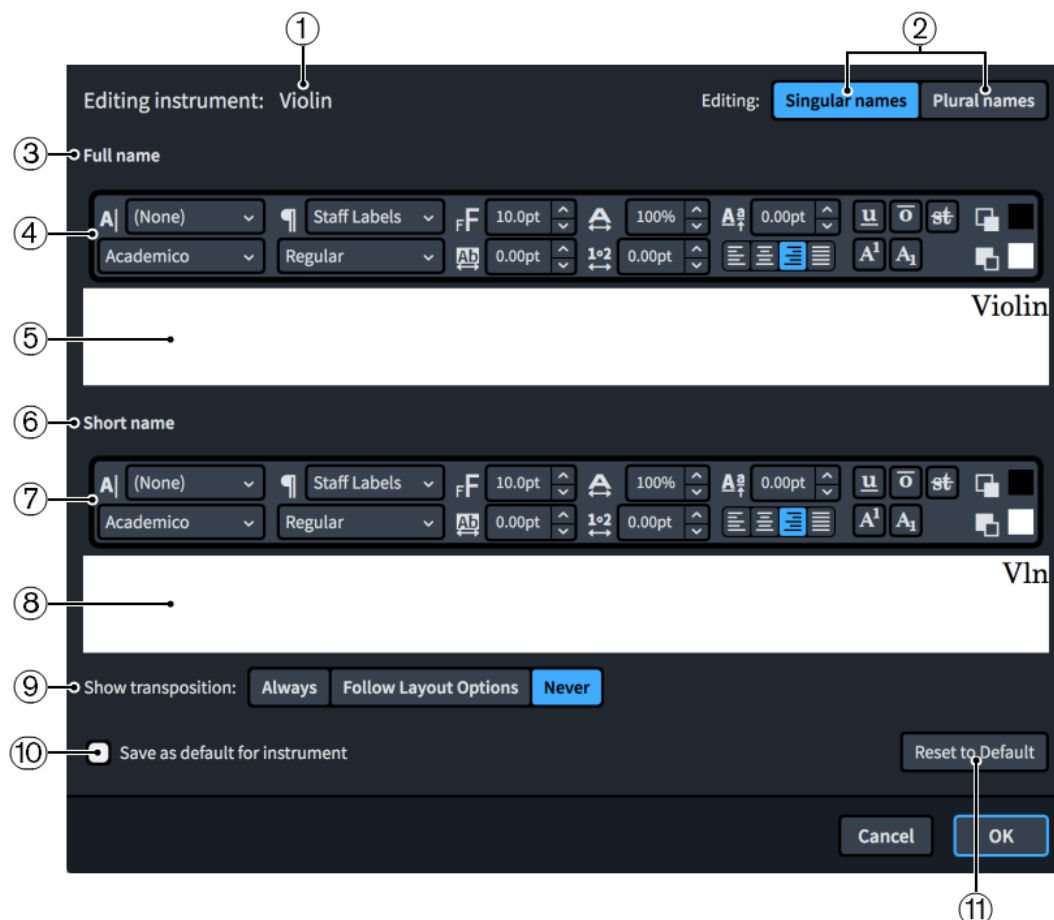
[プレイヤー](#) (110 ページ)

[レイアウト](#) (138 ページ)

「インストール名を編集 (Edit Instrument Names)」 ダイアログ

「インストール名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログでは、譜表ラベルと譜表の上に表示されるインストールの変更ラベルに使用される各インストール名の内容と形式設定を変更できます。インストールの単数形と複数形ごとに正式名称と略称の両方を編集できます。

- 設定モードで「インストール名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログを開くには、「プレイヤー (Players)」パネルでインストールラベルの矢印をクリックし、「名前を編集 (Edit Names)」を選択します。



「インストール名を編集 (Edit Instrument Names)」 ダイアログ

「インストール名を編集 (Edit Instrument Names)」ダイアログには以下のオプションとセクションがあります。

- 編集するインストール (Editing instrument)**
インストールの固定された基本の名前を表示します。
- 編集 (Editing)**
選択したインストールの「単数形 (Singular names)」と「複数形 (Plural names)」のどちらを編集するかを切り替えることができます。
「単数形 (Singular names)」は譜表ラベルがデフォルトで表示される場合に使用され、「複数形 (Plural names)」は譜表に複数のプレイヤーが含まれている場合に使用されます。
- 「正式名称 (Full name)」セクション**
インストールの正式名称の外観を編集するオプションが含まれています。
- 正式名称のテキストエディターオプション**
選択したインストールの長い譜表ラベルのフォント、サイズ、形式設定をカスタマイズできます。

補足

譜表ラベルの水平方向の配置は、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで設定された配置を使用せず、常にパラグラフスタイルの配置を使用します。

5 正式名称のテキスト編集領域

完全な譜表ラベルに表示される、選択したインストゥルメントの現在の長い名前が表示されます。インストゥルメント名の任意の部分を選択して、自由に編集できます。たとえば、新しい行にイタリック体で情報を追加できます。ただし、譜表の上に表示されるインストゥルメントの変更ラベルの場合、インストゥルメント名は常に1行で表示されます。

譜表ラベルは初期設定では右揃えになっているため、テキスト編集領域の右端に表示されます。

補足

譜表ラベルは常にパラグラフスタイルに設定された配置を使用し、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで設定した配置は使用しません。これにより、システム全体で一貫した配置が行われます。

6 「略称 (Short name)」セクション

インストゥルメントの略称の外観を編集するオプションが含まれています。

7 略称のテキストエディターオプション

選択したインストゥルメントの短い譜表ラベルのフォント、サイズ、形式設定をカスタマイズできます。

補足

譜表ラベルの水平方向の配置は、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで設定された配置を使用せず、常にパラグラフスタイルの配置を使用します。

8 略称のテキスト編集領域

省略された譜表ラベルに表示される、選択したインストゥルメントの現在の短い名前が表示されます。インストゥルメント名の任意の部分を選択して、自由に編集できます。たとえば、新しい行にイタリック体で情報を追加できます。ただし、譜表の上に表示されるインストゥルメントの変更ラベルの場合、インストゥルメント名は常に1行で表示されます。

譜表ラベルは初期設定では右揃えになっているため、テキスト編集領域の右端に表示されます。

補足

譜表ラベルは常にパラグラフスタイルに設定された配置を使用し、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで設定した配置は使用しません。これにより、システム全体で一貫した配置が行われます。

9 移調を表示 (Show transposition)

選択したインストゥルメントのインストゥルメント名に移調をいつ表示するかを選択できます。B♭クラリネットなどの移調楽器の名前には、移調が含まれているのが一般的です。

以下のオプションから、移調をいつ表示するかを選択できます。

- **常に表示 (Always):** 「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページで非表示を選択していても、インストゥルメントの移調が表示されます。
- **「レイアウトオプションに従う (Follow Layout Options):** 「レイアウトオプション (Layout Options)」のレイアウトごとの設定に応じてインストゥルメントの移調が表示/非表示にされます。
- **常に非表示 (Never):** 「レイアウトオプション (Layout Options)」で表示を選択していても、インストゥルメントの移調は表示されません。

10 インストゥルメントのデフォルトとして保存 (Save as default for instrument)

チェックボックスをオンにすると、ダイアログで加えた変更がデフォルトとして保存されます。これは、現在のプロジェクトおよびそれ以降のすべてのプロジェクトに追加する、そのタイプのすべての新規インストゥルメントに影響します。そのタイプの既存のインストゥルメントには影響しません。

11 デフォルトにリセット (Reset to Default)

選択したインストゥルメントタイプについて、譜表ラベルに加えた変更がすべて削除され、デフォルト設定に戻ります。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

[譜表ラベル \(1159 ページ\)](#)

[譜表ラベルを表示/非表示にする \(1162 ページ\)](#)

プレイヤー名の変更

プレイヤーのプレイヤー名を変更したり、名前を変更したプレイヤーをデフォルト名にリセットしたりできます。

補足

プレイヤー名はスコアの譜表ラベルやレイアウトの名前付けに使用されるものではなく、設定モードでの参照用です。

譜表ラベルには、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで各インストゥルメントに設定された名前セットが使用されます。

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、プレイヤー名を変更するプレイヤーカードを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、プレイヤー名のテキストフィールドを開きます。
 - プレイヤーカードのどこかをダブルクリックします。
 - プレイヤーカードを右クリックして、コンテキストメニューから「**名前の変更 (Rename)**」を選択します。
3. 新しい名前を入力するか、「**Reset to Default**」をクリックして名前をデフォルト名に戻します。



4. **[Return]** を押します。

結果

選択したプレイヤーのプレイヤー名が変更されます。

補足

スコアに表示される譜表ラベルは変更されません。譜表ラベルに使用される名前は「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで変更し、パートの上部に表示される名前を変更するにはレイアウト名を変更します。

レイアウト名の変更

レイアウト名は、たとえばパートの先頭に表示される名前など、個別のレイアウトを識別するために使用されます。プレイヤーのレイアウト名を変更したり、名前を変更したプレイヤーをデフォルト名にリセットしたりできます。

補足

レイアウト名は譜表ラベルには使用されません。譜表ラベルには、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで各インストゥルメントに設定された名前セットが使用されます。

手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、レイアウト名を変更するプレイヤーの名前を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、レイアウト名のテキストフィールドを開きます。
 - レイアウトカードのどこかをダブルクリックします。
 - レイアウトカードを右クリックして、コンテキストメニューから「**名前の変更 (Rename)**」を選択します。
3. 新しい名前を入力するか、「**デフォルトにリセット (Reset to Default)**」をクリックして名前をプレイヤー名に戻します。



4. **[Return]** を押します。
-

結果

選択したプレイヤーのレイアウト名が変更されるか、デフォルト名に戻ります。

補足

スコアに表示される譜表ラベルは変更されません。譜表ラベルに使用される名前は「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで変更し、パートの上部に表示される名前を変更するにはレイアウト名を変更します。

関連リンク

[インストゥルメントのナンバリング \(115 ページ\)](#)

インストゥルメント名の変更

インストゥルメント名は譜表ラベルと譜表の上に表示されるインストゥルメントの変更ラベルに使用されます。各インストゥルメントに使用されるインストゥルメント名は変更できます。

補足

インストゥルメント名を変更しても、パートレイアウトの上部に表示される名前は変更されません。パートレイアウトの上部に表示される名前を変更するには、レイアウト名を変更します。

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、名前を変更するインストゥルメントを含むプレイヤーカードの展開矢印マークをクリックします。
カードが展開され、プレイヤーに割り当てられたインストゥルメントが表示されます。
2. インストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**名前を編集 (Edit Names)**」を選択して「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開きます。
3. いずれかの名前フィールドに新しい名前を入力します。

- 必要に応じて、「**インストゥルメントのデフォルトとして保存 (Save as default for instrument)**」をオンにします。
 - 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

選択したインストゥルメントのインストゥルメント名が変更されます。

- 変更をデフォルトとして保存しなかった場合は、選択したインストゥルメントの名前だけが変更されます。現在のプロジェクトおよびそれ以降のプロジェクトにあとから追加される同じタイプのインストゥルメントは、元のデフォルト名を使用します。
- 変更をデフォルトとして保存した場合は、現在のプロジェクトおよびそれ以降のプロジェクトにあとから追加される同じタイプのすべてのインストゥルメントが新しいインストゥルメント名を使用します。そのタイプの既存のインストゥルメントには影響しません。

関連リンク

[インストゥルメント \(115 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(144 ページ\)](#)

フロー名とフロータイトル

プロジェクトにフローを追加する場合、初期設定では「**フロー (Flow)**」に通し番号が付いたフロー名となります。フロー名の変更は「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログおよび設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルでできます。

フローの名前を入力すると、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの該当するフローの「**タイトル (Title)**」フィールドに、入力した名前が自動的に追加されます。フローの名前をあとから変更した場合、対応するフロータイトルが更新されます。

スコアやパートに表示されるタイトルは、{@projectTitle@} と {@flowTitle@} のテキストトークンを使用して、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの各フローの「**タイトル (Title)**」フィールドにリンクされています。

「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでフローのタイトルを変更するとこのリンクが削除され、フローの名前を変更しても対応するフロータイトルが自動的に更新されなくなります。

これにより、フローのスケッチバージョンを区別したい場合などに、正式なタイトルとは異なる名前を使用してフローを整理できます。

ヒント

フロー名とフロータイトルは「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログで変更できるほか、フロー名は設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルでも変更できます。

関連リンク

[テキストトークン \(401 ページ\)](#)

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(104 ページ\)](#)

[フローパネル \(103 ページ\)](#)

フロー名の変更

フロー名は設定モードで変更できます。これにより、対応するフローのタイトルが自動的に更新され、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでタイトルを変更するまで維持されます。

手順

- 設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルで、名前を変更するフローカードをダブルクリックしてフロー名のテキストフィールドを開きます。

2. フローの新しい名前を入力するか、既存の名前を編集します。
 3. **[Return]** を押します。
-

結果

フロー名が変更されます。「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでフローに別の名前を入力していなければ、楽譜領域に表示されるタイトルが新しいフロー名に更新されます。

ヒント

フロー名は「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでも変更できます。

フロータイトルの変更

「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでフロータイトルを変更できます。一度この操作を行なうと、フロー名を変更してもフロータイトルは自動的に変更されなくなります。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[I]** を押して「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログを開きます。
 2. フローリストで、タイトルを変更するフローを選択します。
 3. 「**タイトル (Title)**」フィールドに新しいタイトルを入力します。
 4. 必要に応じて、プロジェクト内の他のフローに対して手順2と3を繰り返します。
 5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

選択したフローのタイトルが変更されます。

補足

これにより、フロー名と楽譜領域に表示されるタイトルの間のリンクが解除されます。

ビデオ

Dorico Pro は、プロジェクト内でのビデオの使用とそれに関連する記譜記号 (マーカーやタイムコードなど) をサポートしており、重要なマーカーが設定された位置に基づいて適切なテンポを見つけることができます。

ビデオは、連続する画像がすばやく切り替わることで画像が動いているという印象を与えます。ほんの数秒のものから数時間に及ぶ長編映画まで、ビデオの長さはさまざまです。

Dorico Pro 内のビデオは独立した「**ビデオ (Video)**」ウィンドウに表示され、楽譜と一緒に再生されます。また、ビデオに含まれているオーディオも再生されます。このオーディオの音量は楽譜の音量とは別に制御できます。

ヒント

プロジェクトのフレームレートの設定なども含むこれらの機能は、ビデオを添付しなくても使用できます。

関連リンク

- [ビデオの追加 \(151 ページ\)](#)
- [フレームレート \(154 ページ\)](#)
- [プロジェクトのフレームレートの変更 \(155 ページ\)](#)
- [タイムコード \(1079 ページ\)](#)

[マーカー \(1073 ページ\)](#)

[ビデオオーディオのボリュームの変更 \(154 ページ\)](#)

サポートされるビデオ形式

Dorico Pro は、2017 年に Cubase と Nuendo に採用されたものと同じビデオエンジンを使用しています。このビデオエンジンは、一般的に使用されているほとんどのビデオ形式をサポートしています。

以下のビデオ形式がサポートされます。

- MOV: H263、H264、Apple ProRes、DV/DVCPro、Avid DNxHR コーデックなど
- MP4: H263、H264 など
- AVI: DV/DVCPro、MJPEG/PhotoJPEG など

23.976、24、24.975、25、29.97、30fps などの一般的なフレームレートはすべて、Dorico Pro で完全にサポートされています。

補足

- 可変フレームレートのビデオはサポートされません。
- 将来のバージョンではより多くの形式がサポートされる予定です。

サポートされる形式の詳細情報およびビデオ形式の識別方法と変更方法については、Steinberg のサポートサイトを参照してください。

関連リンク

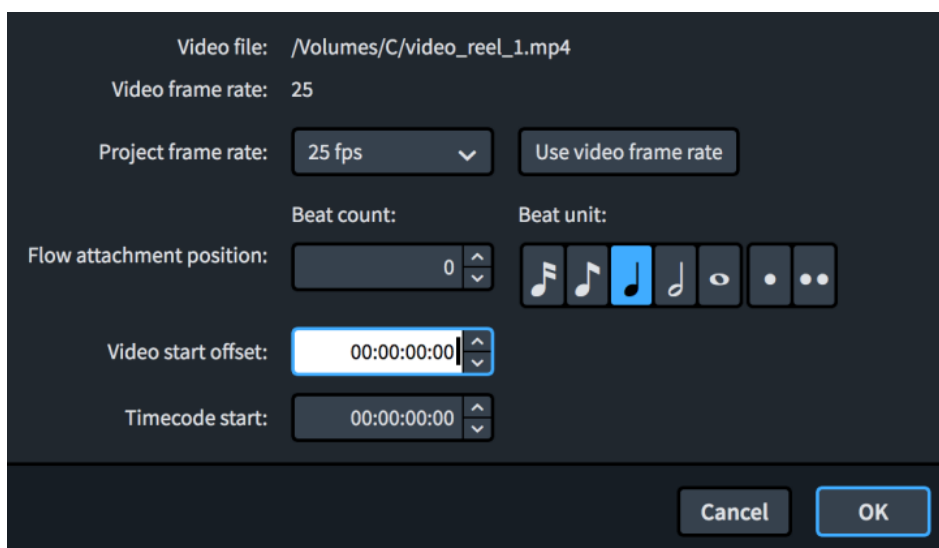
[フレームレート \(154 ページ\)](#)

「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログ

「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログでは、フレームレートや開始位置など、ビデオに関連する設定を変更できます。

- 設定モードで「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログを開くには、「フロー (Flows)」パネルでフローを右クリックして、コンテキストメニューから「ビデオ (Video)」>「プロパティ (Properties)」を選択します。

このダイアログは新しいビデオを追加した際にも自動的に開きます。



「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログ

「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログには以下のフィールドとオプションがあります。

ビデオファイル (Video file)

コンピューター上のビデオファイルの場所を表示します。このフィールドは読み取り専用です。

ビデオのフレームレート (Video frame rate)

ビデオファイルのフレームレートを表示します。このフィールドは読み取り専用です。

プロジェクトのフレームレート (Project frame rate)

プロジェクトのフレームレートをメニューから選択できます。設定できるフレームレートはプロジェクト全体で1つのみです。

ビデオのフレームレートを使用 (Use video frame rate)

プロジェクトのフレームレートをビデオファイルと同じに設定します。

フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)

ビデオを添付する位置を設定します。これは、8つの付点4分音符のように、「拍のカウント (Beat count)」設定と「拍の単位 (Beat unit)」設定を組み合わせることで設定します。

ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)

フローのアタッチメント位置に合わせてビデオ内の位置を設定できます。たとえば、ビデオの5秒目を第3小節の先頭に合わせるように設定できます。

タイムコードの開始位置 (Timecode start)

ビデオの開始位置のタイムコードを設定できます。これはフローのタイムコードにも影響しますが、フローの開始位置のタイムコードはビデオに合わせて調整されます。たとえば、ビデオの開始位置のタイムコードが 02:00:00:00 で、4/4 拍子のフローの第3小節の先頭までビデオが始まらない場合、フローの開始位置のタイムコードは 02:00:00:00 より 8 拍分短くなります。つまり、テンポが 60 bpm であればフローの開始位置のタイムコードは 01:59:52:00 になります。

補足

フローのタイムコードは「フロー (Flows)」パネルのフローカードに表示されます。

関連リンク

[タイムコード \(1079 ページ\)](#)

[フローパネル \(103 ページ\)](#)

ビデオの追加

プロジェクト内の各フローにビデオを追加できます。プロジェクトに以前追加したビデオを Dorico Pro が見つけられず、再読み込みする場合もこの手順を実行します。

フローに参照できないビデオが含まれている場合、「フロー (Flows)」パネルのフローカードにはビデオアイコンのかわりに警告アイコンが表示されます。これは、ビデオファイルなしでプロジェクトだけを誰かに送った場合に起こります。

前提条件

少なくとも 1 人のプレーヤーをプロジェクトに追加しておきます。

手順

1. 「フロー (Flows)」パネルで、ビデオを追加または再読み込みするフローを右クリックします。
2. コンテキストメニューから「ビデオ (Video)」 > 「添付 (Attach)」を選択すると エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) が開きます。
3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、追加するビデオファイルを探して選択します。

4. 「開く (Open)」をクリックして「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログを開きます。
 5. 「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログでプロジェクトに合わせてオプションを変更します。
 6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

選択したビデオファイルがフローに追加され、「ビデオ (Video)」ウィンドウに表示されます。「フロー (Flows)」パネルのフローカードにフィルムリールアイコンが表示され、その横に「ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)」と「タイムコードの開始位置 (Timecode start)」を組み合わせたタイムコードが表示されます。

ビデオを再読み込みした場合、前の設定はすべて保持されます。

関連リンク

[タイムコード \(1079 ページ\)](#)

[タイムコードの開始位置の値を変更する \(1080 ページ\)](#)

ビデオの開始位置の変更

ビデオが開始される楽譜領域の位置と、その位置に合わさるビデオ内の位置の両方を変更できます。たとえば、ビデオの開始から 5 秒めを楽譜の第 3 小節の先頭に合わせることができます。

手順

1. 設定モードで、以下のいずれかの操作を行なって「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログを開きます。
 - ビデオをフローに追加します。
 - 「フロー (Flows)」パネルで、フローを右クリックし、コンテキストメニューから「ビデオ (Video)」>「プロパティ (Properties)」を選択します。
 2. 「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログで、「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」と「ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)」の両方またはいずれか一方の値を変更します。
 3. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」の値を変更すると、ビデオが開始される楽譜内の位置が変更されます。

「ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)」の値を変更すると、「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」にあたるビデオ内の位置が変更されます。

たとえば、「ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)」を「00:00:05:00」に変更し、「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」を「8」に変更すると、ビデオの 5 秒めが楽譜の 8 拍めに一致します。

補足

- 最初に設定されている位置は 0 です。そのため、「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」を「8」に設定した場合、拍子記号が 4/4 であれば、第 3 小節の 1 拍めにフローのアタッチメントが行なわれます。
 - 「ビデオ開始位置のオフセット (Video start offset)」を変更すると、ビデオのどの部分が「フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)」に合わさるかが変更されますが、この位置より前のビデオが切り取られるわけではありません。フローの中に収まる限り、その位置より前のビデオ素材も表示されます。
-

関連リンク

[タイムコード \(1079 ページ\)](#)

[タイムコードの開始位置の値を変更する \(1080 ページ\)](#)

「ビデオ (Video)」 ウィンドウを表示/非表示にする

モードに関係なく、「ビデオ (Video)」 ウィンドウはいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば、楽譜領域で作業をしているときに、非表示にして視界に入らないようにできます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、「ビデオ (Video)」 ウィンドウの表示/非表示を切り替えます。
 - [F4]** を押します。
 - ツールバーの「ビデオを表示 (Show Video)」をクリックします。



- 「ウィンドウ (Window)」 > 「ビデオ (Video)」を選択します。

結果

「ビデオ (Video)」 ウィンドウの表示/非表示が切り替わります。このウィンドウは、「ウィンドウ (Window)」メニューの「ビデオ (Video)」の横にチェックマークがある場合は表示され、ない場合は表示されません。

関連リンク

[ツールバー \(42 ページ\)](#)

「ビデオ (Video)」 ウィンドウのサイズの変更

「ビデオ (Video)」 ウィンドウのサイズはいつでも変更できます。

前提条件

「ビデオ (Video)」 ウィンドウを表示しておきます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、「ビデオ (Video)」 ウィンドウのサイズを変更します。
 - 角または端をクリックして任意の方向にドラッグします。
 - 形を変えずにサイズを変更するには、**[Shift]** を押しながら角または端をクリックしてドラッグします。

結果

「ビデオ (Video)」 ウィンドウのサイズが変更されます。Dorico Pro に新しいサイズと形状が保存され、サイズを再び変更するまで、すべてのプロジェクトに対してこのサイズと形状が使用されます。

ビデオの削除

各フローからビデオを個別に削除できます。

手順

- 「フロー (Flows)」 パネルでビデオを削除するフローを右クリックして、コンテキストメニューから「ビデオ (Video)」 > 「添付解除 (Detach)」を選択します。

結果

選択したフローからビデオが削除されます。

ビデオオーディオのボリュームの変更

追加されたビデオに含まれるすべてのオーディオは、プロジェクト内の楽譜と一緒に再生されます。ビデオのボリュームは手動で変更できます。

前提条件

ミキサーウィンドウを表示しておきます。

手順

1. ミキサーウィンドウに**ビデオチャンネル**が表示されていない場合は、ミキサーツールバーで「**ビデオ (Video)**」をクリックします。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、**ビデオチャンネル**のボリュームを変更します。
 - **ビデオチャンネル**のフェーダーをクリックして上下にドラッグします。
 - **ビデオチャンネル**上部の**ミュート**ボタンをクリックします。

結果

プロジェクト内のビデオに含まれるオーディオのボリュームが変更されます。**ミュート**ボタンをクリックした場合は、再生時にビデオのオーディオが聴こえなくなります。

関連リンク

[ミキサーウィンドウの表示/非表示の切り替え](#) (565 ページ)

フレームレート

ビデオのフレームレートとは、画像が動いているという印象を与えるために単位時間ごとに使用される静止画像の数であり、一般的に1秒あたりのフレーム数、つまりfpsで表わされます。

画像が動いているという印象を与えるのに必要な1秒あたりのフレーム数は人間の目が動きを処理する速度によって決まり、最も一般的なフレームレートは24fps程度です。ただし、最近の主要な映画はより鮮明な映像を生み出す48fpsで公開されています。

Dorico Proは23.976fpsから60fpsまでのフレームレートをサポートしています。たとえば、米国とカナダの放送基準であるNTSCでは29.97fpsが使われています。

フレームレートはタイムコードと密接に関係しており、タイムコードには時間と現在のフレーム位置の両方が含まれています。

23.976、24、24.975、25、29.97、30fpsなどの一般的なフレームレートはすべて、Dorico Proで完全にサポートされています。

初期設定では、プロジェクトにもビデオファイルと同じフレームレートが使われますが、別のフレームレートを手動で選択することもできます。

関連リンク

[タイムコード](#) (1079 ページ)

プロジェクトのフレームレートの変更

初期設定では、ビデオのフレームレートがプロジェクトのフレームレートとして使われます。フレームレートの異なる複数のビデオがプロジェクトに含まれている場合など、プロジェクトのフレームレートは必要に応じて変更できます。

ヒント

フレームレートはプロジェクトにビデオが含まれていなくても変更できます。

手順

1. 設定モードで、以下のいずれかの操作を行なって「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログを開きます。
 - ビデオをフローに追加します。
 - 「**フロー (Flows)**」パネルで、フローを右クリックし、コンテキストメニューから「**ビデオ (Video)**」 > 「**プロパティ (Properties)**」を選択します。
 2. 「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログで、「**プロジェクトのフレームレート (Project frame rate)**」メニューからプロジェクトに使用するフレームレートを選択します。
 3. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

プロジェクトのフレームレートが変更されます。

記譜モード

記譜モードでは、楽譜を入力できます。また、アイテムの位置や音符のピッチを変更したり、音符やアイテムを削除したりして、楽譜を編集できます。ツールボックスとパネルを使用して、最も一般的に使用されるすべての音符および記譜項目を入力できます。

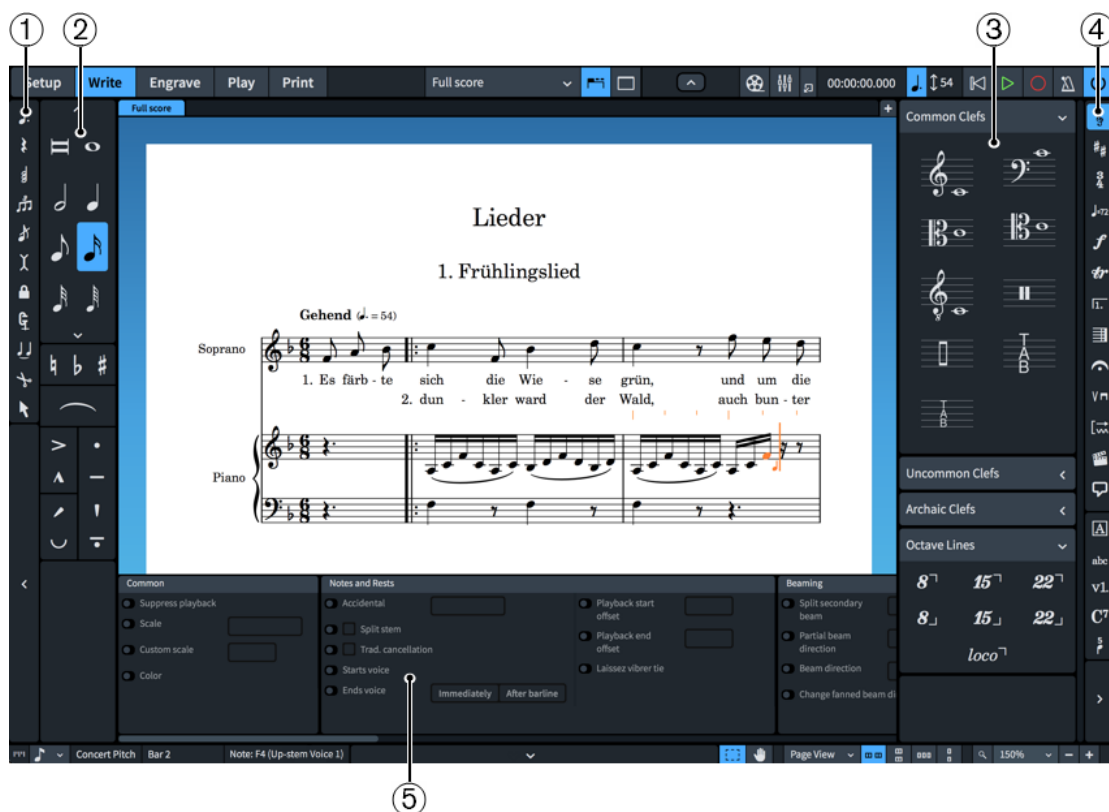
設計により、記譜モードで音符やアイテムの表示位置を動かすことはできません。表示位置の調整は浄書モードでのみ行なえます。

記譜モードのプロジェクトウィンドウ

記譜モードのプロジェクトウィンドウには、初期設定ツールバー、楽譜領域、およびステータスバーが表示されます。ここでは、楽譜を書くのに必要なツールや機能で構成されるツールボックスやパネルが表示されます。

記譜モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[2]** を押します。
- ツールバーで「**記譜 (Write)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**記譜 (Write)**」を選択します。



記譜モードのツールボックスとパネル

記譜モードでは、以下のパネルとツールボックスが表示されます。

1 音符ツールボックス

音符の入力に影響するツールが表示されます。

2 音符パネル

音符の入力で最も一般的に使用される音符のデュレーション、臨時記号、アーティキュレーションが表示されます。

3 記譜パネル

強弱記号や演奏技法など、楽譜に追加できる記譜項目がカテゴリ別に表示されます。表示される記譜項目は、記譜ツールボックスの現在の選択によって決まります。

4 記譜ツールボックス

記譜パネルにどの記譜項目を表示するかを決定できるほか、リハーサルマーク、コード記号、フィンガリングなどの特定のアイテムを直接入力できます。

5 プロパティパネル

プロジェクト全体の設定とは別に、現在選択している音符と記譜項目を個別に変更できるプロパティが表示されます。

補足

プロパティの多くはレイアウト固有のものです。あるレイアウトでアイテムのプロパティを変更しても、他のレイアウトにある同じアイテムには影響しません。ただし、プロパティの変更を他のレイアウトにコピーできます。

関連リンク

[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(501 ページ\)](#)

音符ツールボックス

音符ツールボックスのツールを使用すると、音符を修正したり入力する音符のタイプを変更したりできます。音符ツールボックスは、記譜モードのウィンドウの左側にあります。

付点音符 (Dotted Notes)



音符の入力中は、現在選択しているデュレーションに基づいて付点音符、付点休符、または付点和音を入力します。既存の音符を編集するときは、このツールを使用して既存の音符、休符、和音への付点の追加や削除を実行できます。

また、**[.]** (ピリオド) を押して「付点音符 (Dotted Notes)」のオン/オフを切り替えることもできます。**[Alt/Opt]+[.]** (ピリオド) を押して音符の付点の数を増やせます。

休符 (Rests)



このオプションをオンにすると、音符ではなく、現在選択しているデュレーションの休符を入力できます。

[,] (コンマ) を押して休符の入力を開始/終了することもできます。

和音 (Chords)



このオプションをオンにすると、同じ位置に複数の音符を追加して、和音を作成できます。この機能を使用すると、音符の入力後にキャレットが自動的に進まなくなります。既存の音符やアイテムを上書きすることなく音符やアイテムをコピーすることもできます。

[Q] を押して和音の入力を開始/終了することもできます。

連符 (Tuplets)



このオプションをクリックすると、指定された位置に、3連符の角括弧と対応する数の休符が入力されます。連桁で連結された音符には、角括弧は使用されません。

連符のポップオーバーを使用すると、5連符など、その他のタイプの連符を入力できます。

装飾音符 (Grace Notes)



このオプションをオンにすると、現在の位置に通常の音符のかわりに装飾音符を入力できます。

[/] を押して装飾音符の入力を開始/終了することもできます。

挿入 (Insert)



このオプションをオンにすると、音符を上書きするのではなく、入力した音符が既存の楽譜のキャレットの前に挿入されます。同様に、挿入モードがオンの状態で音符のデュレーションを短くすると、音符間に休符を残さずに音符同士を近づけます。また、挿入モードでは、拍子記号を入力または変更した場合に、小節を埋めるのに必要な拍が自動的に追加されます。

[I] を押して挿入モードのオン/オフを切り替えることもできます。

デュレーションをロック (Lock to Duration)



このオプションをオンにすると、音符を入力する際に既存の音符のデュレーションが使用されます。このツールを使用すると、音符のデュレーションを維持したままピッチを変更できます。

[L] を押して「デュレーションをロック (Lock to Duration)」のオン/オフを切り替えることもできます。

デュレーションを強制 (Force Duration)



このオプションをオンにすると、選択した明示的なデュレーションで常に音符/休符が入力されます。たとえば、「デュレーションを強制 (Force Duration)」をオンにすると、初期設定では、Dorico Pro がタイで結ばれた音符を分割し、4/4 の 2 つめの 4 分音符の拍に、付点 4 分音符を強制的に入力します。

重要

たとえば、音符のデュレーションを強制し、あとから拍子記号の変更や小節線の移動を行なうと、予期しない結果を招くことがあります。

入力中に「デュレーションを強制 (Force Duration)」をオンにした場合、影響を受ける楽譜の部分を選択し、「編集 (Edit)」 > 「表示をリセット (Reset Appearance)」を選択することで、Dorico Pro で楽譜を記譜する際の制限をなくすことができます。

[O] を押して「デュレーションを強制 (Force Duration)」のオン/オフを切り替えることもできます。

タイ (Tie)



音符の入力中は、入力する音符を同じピッチの前の音符とつなげます。既存の音符を編集するときは、このツールを使用して、異なる声部の同じピッチの音符をつなげたり、装飾音符をリズムを持つ音符につなげたりできます。

[T] を押して「タイ (Tie)」をオンにすることもできます。

補足

「**タイ (Tie)**」をオフにすることはできません。タイを削除するには、「**はさみ (Scissors)**」を使用する必要があります。

はさみ (Scissors)



音符の入力中は、音符、和音、明示的な休符をキャレットの位置で2つに分割します。既存の音符を編集するときは、タイのつながりの中のすべてのタイを削除します。

[U] を押して「**はさみ (Scissors)**」をオンにすることもできます。

選択 (Select)



マウス入力を有効化/無効化します。マウス入力を無効にすると、譜表をクリックして音符を入力することはできません。

関連リンク

[付点音符の入力 \(182 ページ\)](#)

[和音の入力 \(197 ページ\)](#)

[連符の入力 \(199 ページ\)](#)

[装飾音符の入力 \(197 ページ\)](#)

[マウス入力の有効化/無効化 \(179 ページ\)](#)

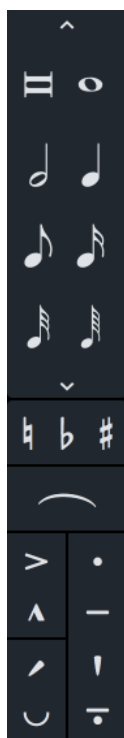
[拍子記号の入力方法 \(226 ページ\)](#)

音符パネル

音符パネルには、音符や休符のデューレーションを選択し、臨時記号、スラー、アーティキュレーションを入力できるボタンがあります。このパネルは記譜モードのウィンドウの左側にあります。

音符パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
- メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左のパネルを表示 (Show Left Panel)**」を選択します。



音符パネルの上部には、音符の入力または既存の音符のデュレーション変更のために選択できる音符のデュレーションが含まれます。初期設定では、最も一般的な音符のデュレーションだけが表示されます。このセクションの上下にある「**すべての音符を表示/非表示 (Show/Hide All Notes)**」展開矢印マークをクリックすると、すべての音符のデュレーションを表示できます。

音符パネルの中央部では、臨時記号の有効化/無効化、およびスラーの有効化を実行できます。ただし、スラーは無効化できないため削除する必要があります。

音符パネルの下部では、アーティキュレーションを有効化/無効化できます。

関連リンク

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[臨時記号の入力 \(192 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの入力 \(214 ページ\)](#)

[スラーの入力 \(216 ページ\)](#)

プロパティパネル (記譜モード)

記譜モードのプロパティパネルには、音符と記譜記号を変更できるクイックアクセスプロパティが表示されます。これは音符の入力中に行なうことも、既存の音符に対して行なうこともできます。このパネルは、記譜モードのウィンドウの下部にあります。

プロパティパネルには、各記譜項目のプロパティのグループが表示されます。楽譜領域で音符または項目を選択すると、選択した音符または項目の編集に必要なグループおよびオプションがプロパティパネルに表示されます。

補足

- タイプが異なる記譜項目を複数選択した場合、選択した項目すべてに共通するグループのみ表示されます。たとえば、スラーを選択した場合、プロパティパネルには「**一般 (Common)**」および「**スラー (Slurs)**」グループが表示されます。一方、スラーと音符を選択した場合は、「**一般 (Common)**」グループのみ表示されます。

- プロパティの多くはレイアウト固有のものです。あるレイアウトでアイテムのプロパティを変更しても、他のレイアウトにある同じアイテムには影響しません。ただし、プロパティの変更を他のレイアウトにコピーできます。
- タイのつながりの中の1つのタイのカーブ方向など、記譜記号の個々の部分を変更する必要がある場合は浄書モードに切り替えます。

記譜モードおよび浄書モードのプロパティパネルは、以下のいずれかの方法で表示/非表示を切り替えられます。

- **[Ctrl]/[command]+[8]** を押します。
- メインウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)」を選択します。



記譜モードのプロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループ

個々の音符とアイテムのプロパティを変更する

たとえば、デフォルトではクレッシェンドをヘアピンとして表示するように設定しておいて、1つのクレッシェンドのみテキストで表示する必要がある場合など、個々の音符と記譜記号のプロパティをプロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

補足

記譜モードで変更できるのは音符と記譜記号全体のプロパティのみです。たとえば、ペダル線が複数の組段をまたいでいる場合、一方の組段の線のスタイルを変更して、もう一方は元のスタイルを維持することはできません。浄書モードでは、音符と記譜記号の個々の部分を別々に変更できます。

手順

1. 楽譜領域で音符または記譜項目を選択します。
2. プロパティパネルが非表示になっている場合は、以下のいずれかの操作を行なって表示します。
 - **[Ctrl]/[command]+[8]** を押します。
 - ウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
 - 「ウィンドウ (Window)」 > 「下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)」を選択します。
3. プロパティパネルで任意のプロパティを変更します。

結果

音符または記譜項目全体が変更されます。変更内容は、すぐに楽譜領域に表示されます。

補足

- プロパティの多くはレイアウト固有です。たとえば、譜表に対するアイテムの位置をフルスコアレイアウトで変更しても、対応するパートレイアウトのアイテムの配置には影響しません。ただし、プロパティの設定は他のレイアウトにコピーできます。
- さまざまな拍子における音符と連符のデフォルトのグループ化など、音符の記譜方法のデフォルト設定は、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」でフローごとに個別に変更できます。
- すべての音符と記譜記号のデフォルトの外観と位置に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」で変更できます。

関連リンク

- [「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)
- [「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)
- [プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(501 ページ\)](#)
- [アイテムの外観のリセット \(333 ページ\)](#)
- [アイテムの位置をリセットする \(334 ページ\)](#)

記譜ツールボックス

記譜ツールボックスのオプションを使用すると、記譜パネルで使用できる記譜項目を決定できます。記譜ツールボックスは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

音部記号 (Clefs)



入力できるさまざまな音部記号とオクターブ線のセクションがある音部記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)



入力できるさまざまな調号、調性システム、臨時記号のセクションがある「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルの表示/非表示を切り替えます。このパネルでは、カスタムの調性システムの作成と編集も行なえます。

拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))



入力できるさまざまな拍子記号のセクションがある拍子記号 (拍子) パネルの表示/非表示を切り替えます。入れ替え可能な拍子の拍子記号や弱起 (アウフタクト) 付きの拍子記号といったカスタム拍子記号を作成できるセクションもあります。

テンポ (Tempo)



段階的テンポ変更、メトロノームマーク、テンポの等式など、入力できるさまざまなテンポ変更のセクションがあるテンポパネルの表示/非表示を切り替えます。

強弱記号 (Dynamics)



局部的強弱記号、段階的強弱記号、カスタムの結合式強弱記号など、入力できるさまざまな強弱記号のセクションがある強弱記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

装飾音 (Ornaments)



入力できるさまざまな装飾音とグリッサンドラインのセクションがある装飾音パネルの表示/非表示を切り替えます。

反復記号 (Repeat Structures)



リピート括弧とリピートセグメント、リピートマーカ、単音トレモロと重音トレモロ、小節リピート記号、スラッシュ領域など、さまざまな反復記号のセクションがある反復記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

小節と小節線 (Bars and Barlines)



小節の挿入やさまざまな小節線の入力ができる小節と小節線パネルの表示/非表示を切り替えます。

延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)



入力できるさまざまなフェルマータ、ブレス記号、中間休止記号のセクションがある延長記号と休止記号パネルの表示/非表示を切り替えます。

演奏技法 (Playing Techniques)



さまざまなインストゥルメントファミリーグループのセクションがある演奏技法パネルの表示/非表示を切り替えます。各セクションには、対応するインストゥルメントファミリーの演奏技法が含まれています。

ライン (Lines)



入力できるさまざまなラインのセクションがあるラインパネルの表示/非表示を切り替えます。

キュー (Cues)



キューに適した場所を探し、キューを入力できるキューパネルの表示/非表示を切り替えます。

ビデオ (Video)



「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログを開いたり、現在のフローにあるマーカ表示や編集を実行したりできるビデオパネルの表示/非表示を切り替えます。

リハーサルマーク (Rehearsal Marks)



選択した位置にリハーサルマークを挿入します。

テキスト (Text)



選択した位置にテキストを挿入するためのテキストエディターを開きます。

歌詞 (Lyrics)

v1.

譜表で選択した音符の上に、歌詞を入力できる歌詞のポップオーバーを開きます。

コード記号 (Chord Symbols)

C7

譜表で選択した音符の上に、コード記号を入力できるコード記号のポップオーバーを開きます。

フィンガリング (Fingering)

5
F

譜表で選択した音符の上に、フィンガリングを入力できるフィンガリングのポップオーバーを開きます。

関連リンク

[記譜記号の入力 \(214 ページ\)](#)

[記譜モードのテキストエディターオプション \(316 ページ\)](#)

[「ビデオのプロパティ \(Video Properties\)」ダイアログ \(150 ページ\)](#)

記譜パネル

記譜パネルには、記譜ツールボックスでの選択に応じて、楽譜に使用するさまざまな記譜項目が表示されます。記譜パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

入力する記譜記号を探し、その記譜記号を入力したあと楽譜領域のサイズを広げるなど、記譜パネルの表示/非表示はいつでも切り替えることができます。

関連リンク

[パネルの表示/非表示 \(23 ページ\)](#)

「記譜オプション」ダイアログ

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログには、各フローの楽譜のデフォルトの記譜法に影響する変更を実施できる複数のオプションが表示されます。

以下に影響する変更を行なうことができます。

- 音符と休符のグループ化 (シンクペーションのリズムや、さまざまな拍子記号でのさまざまなリズムの扱い方)
- 声部 (声部間での符頭の共有や、複数の声部をまとめる際の順序など)
- 臨時記号 (親切臨時記号の扱い方など)
- 移調 (移調楽器での調号の扱い方など)
- 打楽器キット (単一の打楽器キットにおける複数の声部の扱い方など)

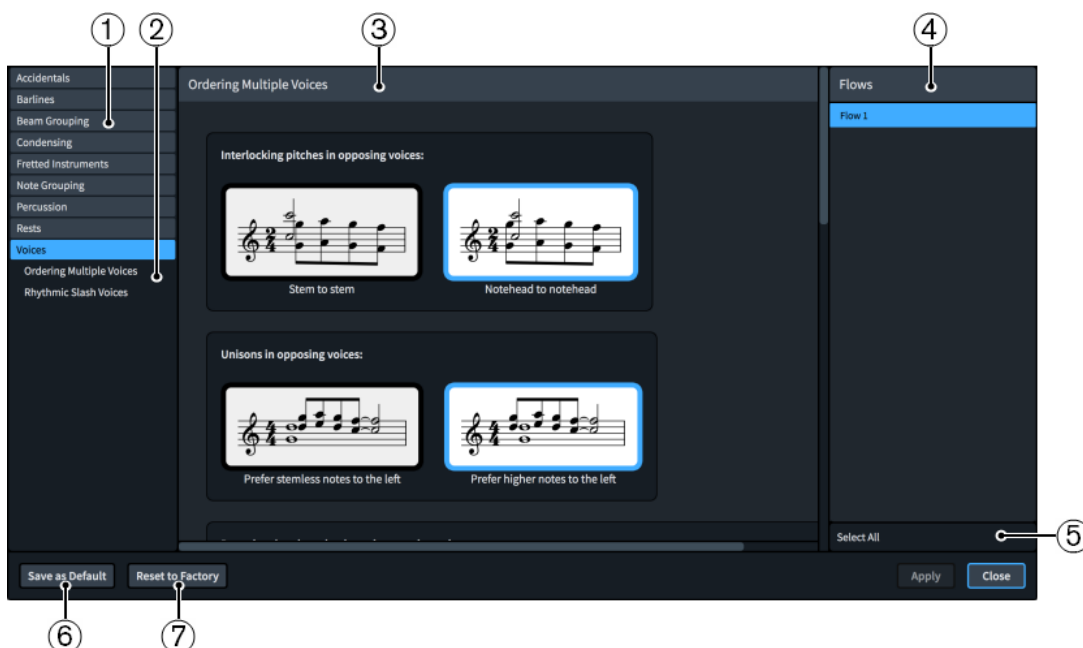
ヒント

音符や記譜記号に直接変更を加える場合は、プロパティパネルのさまざまなオプションを使用します。

「記譜オプション (Notation Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 記譜モードで「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」を選択するか、設定モードで「設定 (Setup)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」を選択します。

- 設定モードで、「フロー (Flows)」パネルにある「記譜オプション (Notation Options)」をクリックします。



記譜オプション (Notation Options)

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログには以下が含まれています。

1 ページリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。リスト内のページをクリックすると、リストのページの下に使用可能なセクションのタイトルが表示されます。

2 セクションタイトル

選択したページのすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

3 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

4 フローリスト

プロジェクト内のすべてのフローが含まれています。1つ、複数、またはすべてのフローを選択できます。複数のフローを選択するには、以下のいずれかの操作を行います。

- プロジェクト内のすべてのフローを選択するには、アクションバーの「すべて選択 (Select All)」をクリックします。
- 複数のフローを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。
- 複数の隣接するフローを選択するには **[Shift]** を押しながらかlickします。

5 すべて選択 (Select All)

「フロー (Flows)」のリストにあるすべてのフローを選択できます。

6 デフォルトとして保存 (Save as Default)/保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- 「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」は、ダイアログで現在設定されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。
 - 「**保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)**」は、現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。デフォルト設定を保存している場合は、**[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS)** を押すことで「**保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)**」を選択できます。
- 7 「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」 / 「**保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)**」
- デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。
- デフォルト設定を保存していない場合、「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」でダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。
 - デフォルト設定を保存している場合は、「**保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)**」でダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットできます。**[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS)** を押すことで「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」を選択できます。オプションを出荷時の設定にリセットすることで影響されるのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

関連リンク

[フロー \(135 ページ\)](#)

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(39 ページ\)](#)

「記譜オプション (Notation Options)」でフロー固有の変更を行なう

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログで、オプションをフローごとに個別に変更できます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、「記譜オプション (Notation Options)」を開きます。
 - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押します (どのモードでも使用可)。
 - 記譜モードで、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」を選択します。
 - 設定モードで、「フロー (Flows)」パネルにある「記譜オプション (Notation Options)」をクリックします。



2. 以下のいずれかの操作を行なって、「フロー (Flows)」のリストから変更を適用するフローを選択します。
 - **[Ctrl]/[command]** を押しながらフローを個別にクリックします。
 - **[Shift]** を押しながら隣接するフローをクリックします。
 - 「**すべて選択 (Select All)**」をクリックします。

初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。

3. ページリストのページをクリックします。
4. 設定可能なオプションを確認して、必要に応じてオプションを変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

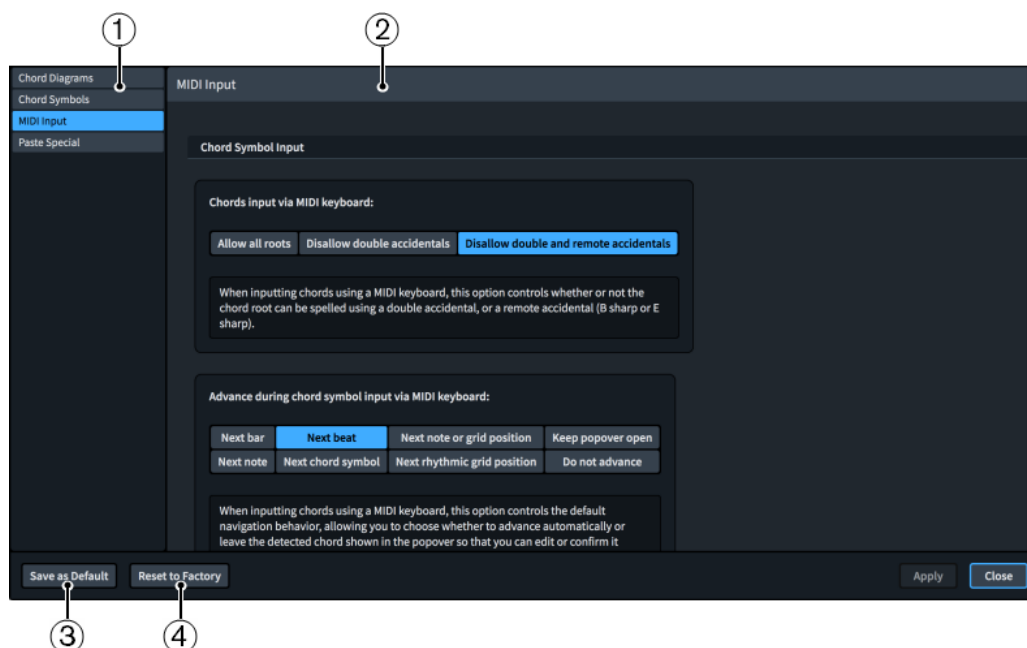
「音符入力オプション (Note Input Options)」 ダイアログ

「音符入力オプション (Note Input Options)」 ダイアログには、入力するデータや MIDI のデフォルトの解釈方法を設定できる複数のオプションがあります。

たとえば、MIDI キーボードを使用して音符を入力する際に、臨時記号と音符をどのように表記するかや、演奏内容に基づいてコード記号に含める項目、あるいは 11th と 13th のコードで 9th を省略するかどうかのように、コードダイアグラムのさまざまな要素をどのように反映するかを設定できるオプションなどがあります。

「音符入力オプション (Note Input Options)」 を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[I]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 記譜モードで、「記譜 (Write)」 > 「音符入力オプション (Note Input Options)」 を選択します。



音符入力オプション (Note Input Options)

1 ページリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。

2 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

3 デフォルトとして保存 (Save as Default)/保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- 「デフォルトとして保存 (Save as Default)」は、ダイアログで現在設定されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。
- 「保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)」は、現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。デフォルト設定を保存している場合は、**[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS)** を押すことで「保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)」を選択できます。

4 「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」 / 「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- デフォルト設定を保存していない場合、「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」でダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。
- デフォルト設定を保存している場合は、「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」でダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットできます。**[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS)** を押すことで「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」を選択できます。オプションを出荷時の設定にリセットすることで影響されるのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

関連リンク

[コード記号入力中のナビゲーション \(253 ページ\)](#)

[MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(193 ページ\)](#)

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(39 ページ\)](#)

入力と編集

Dorico Pro では、楽譜の入力と編集が区別されています。

入力

キャレットが表示されていれば、楽譜を新たに入力できます。音符と記譜記号を入力するにはキャレットを有効にする必要があります。キャレットを有効にするとデュレーション、付点、臨時記号、アーティキュレーションを指定できるため、音符ツールボックスと音符パネルでツールやアイテムを選択すると、入力しようとしている音符または和音に影響します。そのあと、スコアへ音符をクリックして入力するか、コンピューターキーボードで音符の文字名を押して入力するか、MIDI キーボードで音符または和音を演奏して、ピッチを指定します。

キャレットが有効になっている場合、音符と記譜記号はキャレットの位置に入力されます。

楽譜領域で音符や和音が選択されていない場合、キーボードショートカットを押すか音符パネルでクリックしてデュレーションを選択すると、マウス入力が無効になります。譜表上でマウスポインターを移動すると、シャドー音符が入力する位置に表示され、クリックすると実際に音符が入力されます。

補足

マウス入力を無効にすると、この状況でマウス入力が始まりなくなります。

編集 (Editing)

キャレットが表示されていなければ、既存の楽譜を編集できます。楽譜の編集には音符と記譜記号の削除が含まれます。これは記譜モードでのみ行なえますが、音符の削除は再生モードでも行なえます (記譜記号は削除できません)。入力と編集はいつでも切り替えることができます。

キャレットが有効になっていない場合、新しいアイテムは楽譜領域で選択されている最初のアイテムの位置に入力されます。アイテムが選択されていない場合は、マウスポインターに新しいアイテムが付随し、クリックした位置にアイテムが作成されます。

既存の音符と記譜記号を編集するには、楽譜領域でそれらを選択する必要があります。これにより、たとえば音符パネルで新しい音符のデュレーション、臨時記号、またはアーティキュレーションを選択した場合に、選択した音符やアイテムを更新できます。

少し時間を取って、キャレットが表示されている場合と表示されていない場合の Dorico Pro の動作の違いを理解しておくことをおすすめします。キャレットが表示されていない場合、すべての編集機能が楽譜領域で選択したアイテムに対して実行されます。

関連リンク

[編集と選択 \(322 ページ\)](#)

[キャレット \(171 ページ\)](#)

[音符の入力 \(171 ページ\)](#)
[記譜記号の入力 \(214 ページ\)](#)

マウス入力の設定

Dorico Pro のマウス入力機能を定めるいくつかの設定があります。

マウス入力の環境設定は、「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページにある「**編集 (Editing)**」セクションで設定できます。

マウス入力について、以下のいずれかのオプションを選択できます。

- **選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**: 楽譜領域で選択しているアイテムまたは音符の位置にアイテムが入力されます。
- **ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**: アイテムがマウスポインターに読み込まれるため、楽譜領域の任意の場所をクリックしてアイテムを入力できます。

「**マウスによる複数アイテムの作成を許可する (Allow multiple items to be created with the mouse)**」のオン/オフを切り替えることもできます。このオプションをオンにすると、マウスポインターにアイテムを読み込むことができ、入力するたびにアイテムを選択しなおすことなく、楽譜領域で同じアイテムを複数回入力できます。このオプションをオフにすると、マウスポインターに読み込まれたアイテムは一度だけ入力できます。アイテムを複数の場所に入力するには、入力するたびにアイテムを選択しなおす必要があります。

補足

環境設定を変更すると、現在のプロジェクトおよびすべての新規プロジェクトに対してその機能が永続的に変更されます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

マウス入力の設定の変更

たとえば、ポインターに演奏技法を一度読み込み、入力するたびに選択しなおすことなく複数の場所にその演奏技法を入力したい場合などに、マウス入力の設定を変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
 2. ページリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
 3. 「**編集 (Editing)**」セクションで、「**マウスによるアイテムの作成 (Creating items with the mouse)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**
 - **ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**
 4. 「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」を選択した場合は、必要に応じて「**マウスによる複数アイテムの作成を許可する (Allow multiple items to be created with the mouse)**」のオン/オフを切り替えます。
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

マウス入力の設定の変更は、現在のプロジェクトおよびそれ以降のすべてのプロジェクトに適用されます。

関連リンク

[記譜記号の入力 \(214 ページ\)](#)

リズムグリッド

リズムグリッドはデュレーションの単位であり、入力および編集の特定の性質、たとえばアイテムの移動量などに影響を与えます。ただし、入力する音符やアイテムのデュレーションには影響しません。



譜表の上に表示されたリズムグリッド (8分音符に設定)

現在のリズムグリッドの間隔はステータスバーに音価で示されるとともに、キャレットがアクティブな譜表上のルーラーの目盛りによっても示されます。リズムグリッドの長い線は拍の区切りを示し、短い線は分割された拍を示します。再生モードでは、リズムグリッドはイベントディスプレイの上部のルーラーおよびトラック上の垂直線の頻度で表わされます。

リズムグリッドは以下を制御します。

- キャレットまたはマウスを使用時、およびコピーアンドペーストをする際に入力できる位置。たとえば、リズムグリッドの間隔を32分音符に設定した場合、4分音符に設定した場合よりも多くの位置に音符やアイテムを入力できます。
- **[→]**/**[←]** 使用時のキャレットの移動幅
- 音符およびアイテムの長さを変更する際の幅
- 音符およびアイテムの移動幅

リズムグリッドの間隔はいつでも変更できます。

関連リンク

[位置](#) (38 ページ)

[キャレット](#) (171 ページ)

[手動でのキャレットの移動](#) (175 ページ)

[イベントディスプレイ](#) (510 ページ)

[トラック](#) (518 ページ)

[音符の入力](#) (176 ページ)

リズムグリッドの間隔の変更

リズムグリッドの間隔を変更できます。この間隔は、ステータスバーの音価のマークおよびキャレットの上に表示されるルーラー目盛りの拍の区切りと分割された拍によって表わされます。

初期設定では、リズムグリッドの間隔は8分音符に設定されています。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なってリズムグリッドの間隔を変更します。
 - リズムグリッドの間隔を減らすには **[Alt/Opt]+[]** を押します。
 - リズムグリッドの間隔を増やすには **[Alt/Opt]+[@]** を押します。
 - 「記譜 (Write)」 > 「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」 > 「グリッドの間隔を狭める (Decrease Grid Resolution)」を選択します。
 - 「記譜 (Write)」 > 「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」 > 「グリッドの間隔を広げる (Increase Grid Resolution)」を選択します。
 - 「記譜 (Write)」 > 「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」 > 「拍の区切り」を選択します。
 - ステータスバーの「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」セレクターで値を選択します。

結果

リズムグリッドの間隔を減らすと、音価が短くなりリズムグリッドの間隔が狭くなります。リズムグリッドの間隔を増やすと、音価が長くなりリズムグリッドの間隔が広がります。

ヒント

リズムグリッドの間隔を増やす/減らすキーボードショートカットを任意に割り当てることができます。

関連リンク

[ステータスバー \(51 ページ\)](#)

[キーボードショートカットの割り当て \(66 ページ\)](#)

音符の入力

Dorico Pro で音符を入力できるのは、キャレットが有効になっている音符入力時のみです。これにより音符の入力と同時に記譜記号をキャレットの位置に入力できます。また譜表に誤って音符を入力するリスクも低減できます。

以下のいずれかのデバイスを使用して、さまざまな方法で音符を入力できます。デバイスはいつでも切り替えることができます。

- MIDI キーボード
- コンピューターキーボード
- マウスまたはタッチパッド

ヒント

MIDI キーボードを使用すると、最も早く音符を入力できます。

関連リンク

[音符 \(898 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

キャレット

Dorico Pro では、キャレットは 5 線譜の上から下へと伸びる縦線として表示されます。ただし、打楽器の譜表およびタブ譜では短く表示されます。キャレットは、音符、和音、または記譜項目を入力できる位置を示します。

キャレットとは、一般的に、印刷されたテキストの校正に使用されるマークのことで、欠けている文字や文字列などを挿入または追加する位置を示します。ソフトウェアでは、キャレットは何かを挿入する位置を示します。この説明書では、音符の入力中に表示される線をキャレットと呼び、テキストの入力中に表示される線をカーソルと呼びます。

音符を入力している場合、キャレットは自動的に次の位置に進みます。タブ譜に和音や音符を入力している場合は、キャレットは自動的に移動しないため、手動で次の位置に移動させる必要があります。キャレットの横には、現在選択している声部の符尾の方向とタイプを示す音符記号が表示されます。その声部が新しい場合は一緒にプラス記号が表示されます。



キャレット

キャレットの外観は、入力モードと現在選択している声部の番号に応じて変わります。

複数の譜表

キャレットは、音符と記譜記号が入力されるすべての譜表をまたぐように垂直方向に伸びます。これにより、たとえば複数の譜表に同じ強弱記号や演奏技法を同時に入力したり、MIDI キーボードで和音を演奏してこれらの和音の音符を複数の譜表に振り分けたりできます。音符記号とリズムグリッドもそれぞれの譜表に表示されます。



複数の譜表に音符を入力中のキャレット

挿入 (Insert)

キャレットの上にV字、下に逆向きのV字が表示されます。挿入モードでは、音符を挿入すると、既存の音符が置き換わるのではなく、入力したデュレーションの分だけ現在の声部のキャレットの後ろに位置するすべての楽譜が移動します。同様に、挿入モードがオンの状態で音符のデュレーションを短くすると、音符間に休符を残さずに音符同士を近づけます。



挿入モードのキャレット

和音 (Chords)

キャレットの左上にプラス記号が表示されます。和音の入力中は、同じ位置に複数の音符を入力できます。



和音を入力中のキャレット

デュレーションをロック (Lock to Duration)

キャラットが破線になります。「デュレーションをロック (Lock to Duration)」をオンにすると、デュレーションやリズムを変えることなくノートのピッチを変更できます。



「デュレーションをロック (Lock to Duration)」をオンにしたときのキャラット

装飾音符 (Grace Notes)

キャラットが元の長さよりも短く表示されます。キャラットの位置に装飾音符を入力できます。



装飾音符を入力中のキャラット

声部

複数の声部を入力している場合、キャラットには以下が表示されます。

- 左下にプラス記号
- 音符を入力している声部の番号
- 声部の符尾の方向を示す、符尾が上向きまたは下向きの音符の記号



新規の符尾が下向きの声部に音符を入力中のキャラット



新規の符尾が上向きの声部 2 に音符を入力中のキャラット

スラッシュ付き声部

キャラットの横の音符はスラッシュ符頭を示します。

複数のスラッシュ付き声部を入力している場合、キャラットには以下が表示されます。

- 左下にプラス記号
- 音符を入力するスラッシュ付き声部の番号
- 声部の符尾の方向と有無を示す、符尾が上向き、下向き、または符尾のないスラッシュ音符の記号



符尾が上向きのスラッシュ付き声部に音符を入力中のキャラレット



新規の符尾が上向きのスラッシュ付き声部2に音符を入力中のキャラレット



新規の符尾なしのスラッシュ付き声部に音符を入力中のキャラレット

打楽器キット

打楽器キットに音符を入力しているときは、キャラレットが通常よりもかなり短く表示されます。現在音符を入力しているキットインストゥルメントの名前がリズムグリッドの上に表示されます。



打楽器キットに音符を入力中のキャラレット

タブ譜

タブ譜に音符を入力しているときは、キャラレットが通常よりもかなり短く表示されます。タブ譜でのキャラレットは、和音の入力が常に有効であるかのように動作します。つまり、キャラレットを進めたり別の譜表線に移動したりする場合は手動で操作する必要があります。



タブ譜に音符を入力中のキャラレット

関連リンク

[挿入モードでの音符の挿入 \(187 ページ\)](#)

[和音の入力 \(197 ページ\)](#)

[リズムを変えずに音符のピッチを変更する \(205 ページ\)](#)

[装飾音符の入力 \(197 ページ\)](#)

[複数の声部への音符の入力 \(183 ページ\)](#)

[打楽器キットの音符の入力 \(188 ページ\)](#)

[タブ譜への音符の入力 \(191 ページ\)](#)

キャラレットの有効化/無効化

キャラレットを有効にすると、たとえばタイのつながりの途中で強弱記号を入力する場合などに、キャラレットの位置に音符や記譜記号を入力できます。キャラレットを無効にすると、音符を入力できないかわりに、楽譜領域でアイテムの選択や編集を行なえます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、キャラレットを有効にします。

- アイテムを選択して **[Shift]+[N]** を押します。
- 譜表上の位置をダブルクリックします。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、 caret を無効にします。

- **[Shift]+[N]**、**[Return]**、または **[Esc]** を押します。
 - マウス入力を無効にしている場合は、楽譜領域の選択可能なアイテムをクリックします。
 - 別のモードに切り替えます。
-

関連リンク

[手動での caret の移動 \(175 ページ\)](#)

[モードの機能 \(21 ページ\)](#)

[マウス入力の有効化/無効化 \(179 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[記譜記号の入力 \(214 ページ\)](#)

複数の譜表に caret を伸ばす

複数の譜表をまたぐように caret を伸ばすことができます。これにより、音符や記譜記号を複数の譜表に同時に入力でき、MIDI キーボードで演奏した和音の音符を適切な譜表に自動的にエクスポートすることもできます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、 caret を有効にします。
 - アイテムを選択して **[Shift]+[N]** を押します。
 - 譜表上の位置をダブルクリックします。
 2. 以下のいずれかの操作を行なって、 caret を別の譜表まで伸ばします。
 - 上の譜表に伸ばすには、**[Shift]+[↑]** を押します。
 - 下の譜表に伸ばすには、**[Shift]+[↓]** を押します。
 3. 必要に応じて、手順 2 を何度でも繰り返します。
-

関連リンク

[複数の譜表に音符と記譜記号を入力する \(186 ページ\)](#)

手動での caret の移動

caret は音符を入力すると自動的に移動しますが、手動で移動することもできます。たとえば、和音を入力しているとき、 caret は自動的に移動しません。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、 caret を移動します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔に従って caret を移動するには、**[→]**/**[←]** を押します。
 - 現在選択中の音符の音価に従って caret を次の位置に進めるには、**[Space]** を押します。
 - 次/前の小節に caret を移動するには、**[Ctrl]/[command]+[→]** / **[Ctrl]/[command]+[←]** を押します。
 - 上/下の譜表に caret を移動するには、**[↑]**/**[↓]** を押します。
 - 組段の一番上/一番下の譜表に caret を移動するには、**[Ctrl]/[command]+[↑]** / **[Ctrl]/[command]+[↓]** を押します。
-

関連リンク

[和音の入力 \(197 ページ\)](#)

音符の入力

キュレットが有効になっている音符の入力中に、プロジェクトに音符を入力できます。音符を入力するには、コンピューターキーボードまたはマウスを使用するか、MIDI キーボードで音符を演奏します。

補足

- 音符の入力中は、音符を入力する前に、各音符のデュレーション、アーティキュレーション、および調号に含まれていない臨時記号を選択する必要があります。このことは、すべての入力方法に当てはまります。
- 入力した音符の間には適切なデュレーションの暗黙の休符が自動的に表示されるため、音符の間に休符を入力する必要はありません。同様に、音符は必要に応じて自動的にタイのつながりとして表示されるため、タイを入力する必要はありません。
- また、音符の入力を無効にすることなく、入力する音符と一緒に記譜記号も入力できます。

前提条件

- 適切なピッチの入力設定を選択しておきます。
- 1人のプレーヤーに割り当てられた複数のインストゥルメント、またはスコアのページビューでは非表示のインストゥルメントに音符を入力する場合は、「**ギャレービュー (Galley View)**」を選択しておきます。
- 楽譜に調号が必要な場合は、その調号を入力しておきます。
- MIDI デバイスを使用して音符を入力する場合は、使用する MIDI デバイスを接続しておきます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の入力を開始します。
 - 譜表上の音符を入力する位置にある音符または休符を選択して、**[Shift]+[N]** を押します。

補足

強弱記号などの記譜記号を選択した状態で **[Return]** を押すと、音符の入力は開始せず、選択に対応するポップオーバーが開きます。

- 音符を入力する譜表をダブルクリックします。
2. 複数の譜表に同時に音符を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符のデュレーションを選択します。
 - 入力するデュレーションに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。たとえば、4分音符の場合は **[6]** を押します。8分音符の場合は **[5]**、16分音符の場合は **[4]** のように、短いデュレーションを入力するには小さい数字を押します。2分音符の場合は **[7]** のように、長いデュレーションを入力するには大きい数字を押します。
 - ウィンドウの左側にある音符パネルで入力するデュレーションをクリックします。
4. 臨時記号が調号に含まれていないピッチを入力する場合は、適切な臨時記号を選択します。
5. 必要に応じて、使用するアーティキュレーションを選択します。
6. 以下のいずれかの操作を行なって、使用するピッチを入力します。
 - コンピューターのキーボードで対応する文字を押します。

ヒント

直前に入力した音符からの間隔が一番小さい音域の音符が自動的に選択されます。ただし、別の音域を強制することもできます。

- 直前に入力した音符の上に音符を入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[A]**)。

- 直前に入力した音符の下に音符を入力するには、**[Ctrl]+[Alt] (Windows) 又は [Ctrl] (macOS)** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)**)。
 - 音符を入力する位置の譜表をクリックします。
音符を入力する位置にマウスを合わせると、シャドー符頭が表示されます。
 - MIDI キーボードで音符を演奏します。
7. 必要に応じて、**[Space]** を押すと音符を入力することなくキャレットを進めることができます。

ヒント

別の方向および別の移動幅でキャレットを動かすこともできます。

8. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

初期設定では、音符はキャレットの位置またはクリックした位置に選択したデュレーションで入力され、入力に合わせて再生されます。ピッチは調号に従います。たとえば、G メジャーで **[F]** を押すと自動的に F# が入力されます。

付点またはアーティキュレーションを選択した場合は、それらを無効にするまでその設定で音符が入力されます。ただし、調号に含まれていない臨時記号は、選択したあとに入力する最初の音符にのみ追加されます。

Dorico Pro は、デュレーション、現在の拍子記号、小節内の音符の位置に応じて、自動的に音符を適切に記譜し、連桁で連結します。これには、必要に応じて音符をタイのつながりとして表示することも含まれます。

音符を入力せずにキャレットを進めると、Dorico Pro は音符間の間隔を適切なデュレーションの暗黙の休符で埋めます。

フレット楽器に属する音符の譜表に音符を入力すると、ナットに最も近い位置で演奏できる弦に自動的に音符が割り当てられます。この計算は音符ごとに個別に行なわれるため、複数の音符が同じ弦に割り当てられることがあります。このような場合、タブ譜では音符が隣り合わせに表示され、色は緑になります。これらの音符はあとから個別に選択して弦を独自に割り当てることができます。

ヒント

「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」では、デフォルトの連桁、音符、休符のグループ化の設定をフローごとに個別に変更できます。個々の拍子記号内のカスタム連桁グループを指定することもできます。

手順終了後の項目

入力したあとの音符は、別の位置や別の譜表に移動できます。

符頭に個別に括弧を表示することもできます。

関連リンク

[ピッチの入力設定の変更](#) (178 ページ)

[キャレット](#) (171 ページ)

[リズムグリッド](#) (170 ページ)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす](#) (175 ページ)

[手動でのキャレットの移動](#) (175 ページ)

[既存の音符の上/下に音符を追加](#) (201 ページ)

[音符の位置の移動](#) (913 ページ)

[譜表をまたぐ連桁の作成](#) (683 ページ)

[連桁のグループ化に関するフローごとの記譜オプション](#) (676 ページ)

[拍に従う連桁グループ](#) (676 ページ)

[音符と休符のグループ化](#) (692 ページ)

[拍子のカスタム連桁グループを作成する \(693 ページ\)](#)
[暗黙の休符と明示的な休符 \(1121 ページ\)](#)
[タイ \(1235 ページ\)](#)
[調号 \(851 ページ\)](#)
[ビュータイプ \(52 ページ\)](#)
[配置ツール \(339 ページ\)](#)
[音符の入力時/選択時に音符を再生/ミュートする \(330 ページ\)](#)
[タブ譜で音符に割り当てられた弦の変更 \(1208 ページ\)](#)
[休符の入力 \(194 ページ\)](#)
[MIDI 入力デバイスの無効化 \(214 ページ\)](#)
[括弧付きの符頭 \(918 ページ\)](#)

音符の入力中の音域の選択

Dorico Pro では音符の入力中にピッチの音域が自動的に選択されますが、これを上書きして音域を手動で選択できます。

音符の入力中は、直前に入力した音符からの間隔が一番小さい音域の音符が自動的に選択されます。たとえば、F を入力したあと **[A]** を押すと、F の 6 度下ではなく 3 度上に A が入力されます。

この自動音域選択は、以下のいずれかの方法で上書きできます。

- 直前に入力した音符の上に音符を入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[A]**)。
- 直前に入力した音符の下に音符を入力するには、**[Ctrl]+[Alt] (Windows) 又は [Ctrl] (macOS)** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)**)。

和音を入力中の音域の選択

和音の入力中は、キャラットの位置の一番高い音符の上に音符が自動的に入力されます。たとえば、**[A]**、**[E]**、**[A]** の順に押すと、キャラットの位置に A-E-A の和音が入力されます。

かわりに、**[Ctrl]+[Alt] (Windows) 又は [Ctrl] (macOS)** を押しながらノート名を表わすアルファベットを押すことで、最も低い音符よりも下にあるキャラットの位置に音符を入力できます (例: **[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)**)。

関連リンク

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)
[和音の入力 \(197 ページ\)](#)
[個々の音符のピッチの変更 \(203 ページ\)](#)

ピッチの入力設定の変更

現在のレイアウトごとに音符の入力/録音を記譜音とするか、演奏音とするかを変更できます。たとえば、移調するパートレイアウトでは、演奏音で音符を録音できます。

実音表示のレイアウトでは、記譜上のピッチと演奏上のピッチは同じです。

手順

- 以下のいずれかのピッチの入力設定を選択します。
 - 音符の入力/録音を記譜上のピッチで行なうには、「記譜 (Write)」 > 「ピッチの入力 (Input Pitch)」 > 「書き込まれたピッチ (Written Pitch)」を選択します。
 - 音符の入力/録音を演奏上のピッチで行なうには、「記譜 (Write)」 > 「ピッチの入力 (Input Pitch)」 > 「演奏されているピッチ (Sounding Pitch)」を選択します。
-

結果

記譜/録音したピッチの表示が変更されます。たとえば、ピッチの入力設定が「**演奏されているピッチ (Sounding Pitch)**」で、Fホルンの移調レイアウトでCを入力した場合、記譜される音符はGになります。

関連リンク

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[MIDI 録音を使用した音符の入力 \(208 ページ\)](#)

[レイアウトの移調/非移調の設定 \(140 ページ\)](#)

マウス入力の有効化/無効化

コンピューターキーボードまたは MIDI デバイスだけを使用して音符を入力したい場合などに、マウス入力を有効化/無効化できます。マウス入力を無効にすると、別のアイテムをクリックして音符の入力を終了できます。

手順

- 音符ツールボックスで、「**選択 (Select)**」をオン/オフにします。

結果

「**選択 (Select)**」をオフにすると、現在のプロジェクトのマウス入力が有効になります。「**選択 (Select)**」をオンにすると、現在のプロジェクトのマウス入力が無効になります。

ヒント

マウス入力を有効にするか無効にするかのデフォルト設定は、「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページにある「**マウスを使用した音符入力を有効にする (Enable note input using the mouse)**」のオン/オフを切り替えることで変更できます。

例



「**選択 (Select)**」をオフにした状態



「**選択 (Select)**」をオンにした状態

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

音符/休符のデュレーションの選択

音符パネルから、または割り当て済みのキーボードショートカットの1つを使って、音符/休符のさまざまなデュレーションを選択できます。これは音符の入力中に行なうことも、既存の音符/休符に対して行なうこともできます。

手順

1. 音符パネルに表示されていないデュレーションを選択するには、音符リストの上下にある「**すべての音符を表示/非表示 (Show/Hide All Notes)**」の展開矢印マークをクリックします。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符/休符のデュレーションを選択します。
 - 入力するデュレーションに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。

たとえば、4分音符の場合は **[6]** を押します。8分音符の場合は **[5]**、16分音符の場合は **[4]** のように、短いデュレーションを入力するには小さい数字を押します。2分音符の場合は **[7]** のように、長いデュレーションを入力するには大きい数字を押します。

- ウィンドウの左側にある音符パネルで入力するデュレーションをクリックします。

関連リンク

[音符パネル \(159 ページ\)](#)

[Dorico Pro のキーボードショートカット \(16 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

音符のデュレーションの変更

音符は入力後にデュレーションの長さを変更できます。

手順

1. デュレーションを変更する音符を選択します。

補足

現在選択しているアイテムの終わりまで音符を伸ばしたい場合は、その音符と音符を伸ばす先の位置にあるアイテムの両方を選択します。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、デュレーションを変更します。
 - 入力するデュレーションのキーボードショートカットを押します。たとえば、16分音符の場合は **[4]** を押します。
 - ウィンドウの左側にある音符パネルで入力するデュレーションをクリックします。
 - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 音符の長さを2倍にするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 音符の長さを半分にするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「グリッド値でデュレーションを延長 (Lengthen Duration by Grid Value)」を選択します。
 - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「グリッド値でデュレーションを短縮 (Shorten Duration by Grid Value)」を選択します。
 - 音符の長さを2倍にするには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「デュレーションを延長 (Lengthen Duration)」を選択します。
 - 音符の長さを半分にするには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「デュレーションを短縮 (Shorten Duration)」を選択します。
 - 音符をその声部内の次の音符まで伸ばすには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「次の音符まで延長 (Extend to Next Note)」を選択します。

補足

この操作は装飾音符には適用されません。

- 単一の音符を現在選択しているアイテムの終了位置まで伸ばすには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「選択範囲の終端まで延長 (Extend to End of Selection)」を選択します。

- 同じ声部内の重なり合う音符を短くして重ならないようにするには、「記譜 (Write)」 > 「デュレーションを編集 (Edit Duration)」 > 「次の音符まで短縮 (Shorten to Next Note)」を選択します。

結果

選択した音符のデュレーションが変更されます。Dorico Pro は、音符の新しいデュレーション、現在の拍子記号、小節内の音符の位置に応じて自動的に音符を適切に記譜し、連桁で連結します。

音符を伸ばすと、間にある休符はそのデュレーションで埋められます。現在選択しているアイテムの終わりまで音符を伸ばしても、間にある音符が削除されることはなく、伸ばした音符と組み合わせて必要な場所に和音が作成されます。

ヒント

任意の長さごとに音符のデュレーションを延長/短縮するキーボードショートカットや音符を伸ばすキーボードショートカットを割り当てることができます。これらのキーボードショートカットは「環境設定 (Preferences)」にある「キーボードショートカット (Key Commands)」のページで、「デュレーションを短縮 (Shorten duration by)」、「デュレーションを延長 (Lengthen duration by)」、および「まで延長 (Extend to)」と検索することで見つかります。

音符/休符のデュレーションの強制

Dorico Pro は、現在の拍子記号と小節内の音符/休符の位置に応じて、自動的に音符/休符を適切に記譜し、連桁で連結します。音符/休符のデュレーションを強制して記譜記号を指定できます。

たとえば、6/8 の小節の最初に 2 分音符を入力すると、符点 4 分音符と 8 分音符がタイでつながれて記譜されます。これは、表記規則によれば、6/8 の小節が 8 分音符 3 つからなる 2 つのグループに分割されるためです。これを 2 分音符 (8 分音符 4 つ) に反映するために、Dorico Pro は音符を自動的に分割して正しいグループを表示しますが、音符のデュレーションを強制して、かわりに 2 分音符を表示できます。

ヒント

たとえば、6/8 で 4 分音符のグループを 3 つ表示してヘミオラを表わすなど、譜表上のすべての音符のデュレーションを強制して別の拍子に見せたい場合は、それらの譜表だけに拍子記号を入力することで、その拍子に従って音符をグループ化することもできます。そのあと、必要に応じて拍子記号を非表示にできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - デュレーションを強制する音符を選択します。
2. デュレーションを強制された休符を入力するには、**[,]** (コンマ) を押して休符の入力をオンにします。
3. **[O]** を押して「デュレーションを強制 (Force Duration)」をオンにします。
4. 任意のデュレーションを選択します。

ヒント

タイのつながりとして記譜された既存の音符のデュレーションを強制する場合は、まずその音符のデュレーションを縮めたあと、希望するデュレーションまで伸ばす必要があります。

5. 音符/休符の入力中に、任意の音符または休符を入力します。

結果

音符/休符の入力中に入力した音符は、小節内の位置に関係なく、その音価全体を持つ音符として記譜されます。あとから音符を移動しても、同じ記譜記号が維持されます。休符は明示的な休符として入力されます。小節線をまたぐ音符はタイでつながれた音符として記譜されます。

既存の音符/休符のデュレーションを強制すると、現在のデュレーションもしくは変更したあとのデュレーションを保持します。

ヒント

- デュレーションを強制して休符を入力すると、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**強制位置およびデュレーション (Force position and duration)**」が自動的にオンになります。このプロパティを使用して休符のデュレーションと位置を強制することもできます。
- さまざまな状況で音符をどのようにグループ化するかは、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**音符のグループ化 (Note Grouping)**」ページでプロジェクト全体の設定を行なえます。

例



6/8 のデフォルトの記譜



符尾が下向きの声部の音符を、デュレーションを強制して記譜したもの

関連リンク

- [暗黙の休符と明示的な休符 \(1121 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(176 ページ\)](#)
- [休符の入力 \(194 ページ\)](#)
- [音符/休符のデュレーションの選択 \(179 ページ\)](#)
- [拍に従う連桁グループ \(676 ページ\)](#)
- [拍子のカスタム連桁グループを作成する \(693 ページ\)](#)
- [明示的な休符を暗黙の休符に変換する \(1123 ページ\)](#)

付点音符の入力

「**付点音符 (Dotted Notes)**」ツールを使用すると、付点音符の入力や既存の音符への付点の追加を行なえます。最大で4つの付点が付いた音符を入力できます。

手順

- 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 付点を追加する既存の音符を選択します。
- 複数の譜表に同時に付点音符を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
- 入力する音符の長さに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。
たとえば、8分音符の場合は **[5]**、4分音符の場合は **[6]**、2分音符の場合は **[7]** を押します。
- [.]** (ピリオド) を押して「**付点音符 (Dotted Notes)**」をオンにします。
- 必要に応じて、**[Alt/Opt]+[.]** (ピリオド) を押して付点の数を変更します。

音符ツールボックスの「付点音符 (Dotted Notes)」のマークは、現在の付点の数に応じて変化します。最大で4つの付点が付いた音符を入力できます。

- 必要に応じて、**[O]** を押して「デュレーションを強制 (Force Duration)」をオンにします。「デュレーションを強制 (Force Duration)」がオンになっていない場合、小節内の位置および現在の拍によっては、入力した音符が付点音符ではなくタイでつながれた音符として表示されることがあります。
- 使用する付点音符を入力します。「付点音符 (Dotted Notes)」ツールは、別の音符のデュレーションを選択する、またはツールをオフにするまで、有効な状態のままとなります。
- [.]** をもう一度押して「付点音符 (Dotted Notes)」をオフにします。
- [Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

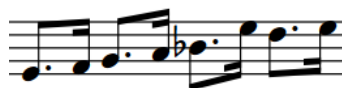
音符の入力中は、「付点音符 (Dotted Notes)」をオフにするか音符のデュレーションを変更するまで音符が付点音符として入力されます。

複数の既存の音符に付点を追加したことで音符同士が重なる場合、選択した最後の音符が削除されるのを防ぐため、選択した音符のデュレーションが Dorico Pro によって調整されます。

例



8分音符を含むフレーズの例



全体を選択して付点を追加後の例

関連リンク

- [音符と休符のグループ化 \(692 ページ\)](#)
- [キャレットの有効化/無効化 \(174 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)
- [挿入モードでの音符の挿入 \(187 ページ\)](#)

複数の声部への音符の入力

初期設定では、キャレットの横の符尾が上向きの4分音符記号で示されているように、符尾が上向きの最初の声部に音符が入力されます。音符の入力中は他の声部に直接音符を入力できるほか、必要に応じて声部を切り替えることができます。

また、すでに音符がある譜表上に新しい声部を作成し、その譜表上の別の任意の場所でこれらの声部に音符を入力することもできます。

手順

- 記譜モードで、複数の声部を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
- [Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
- [Shift]+[V]** を押して新しい声部を作成します。
新しい声部が追加されると、キャレットの横の4分音符記号の横にプラス記号が表示されます。この4分音符記号は符尾の方向を表わし、4分音符の横の数字は声部の番号を表わします (存在する場合)。



符尾が下向き
の1つめの声部
を追加したとき
のキャラット



符尾が上向き
の2つめの声部
を追加したとき
のキャラット

- 必要に応じて、手順3を何度でも繰り返します。
たとえば、音符が含まれていない譜表上に新しい声部を作成すると、符尾が下向きの1つめの声部に音符を入力できますが、譜表上の符尾が上向きの2つめの声部に音符を入力したければ、すぐに別の新しい声部を作成することもできます。
- 任意の音符を入力します。
- 必要に応じて、**[V]** を押して譜表上のすべてのアクティブな声部を順に切り替えます。
- [Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

キャラットの記号で示されているように、音符が新しい声部に入力されます。音符はキャラットの位置またはクリックした位置に入力されます。別の声部にすでに音符が含まれている譜表上で新しい声部に音符を入力した場合、同じ位置にすでに存在する音符の符尾の方向は、必要に応じて自動的に変更されます。

キャラットの横の4分音符記号は、現在選択されている声部を示すために変化します。入力した音符は、この記号で示されている声部に入力されます。

声部は何度でも切り替えることができます。

補足

- 1つの譜表に3つ以上の声部がある場合は、設定された順序でのみすべての声部を順に切り替えることができます。たとえば、符尾が上向きの2つの声部と符尾が下向きの2つの声部がある場合の順序は、符尾が上向きの声部1、符尾が下向きの声部1、符尾が下向きの声部2、符尾が上向きの声部2となります。
- どの音符がどの声部に含まれるかを確認するために声部のカラーを表示できます。個々の音符を選択し、ステータスバーの表示を見て声部を識別することもできます。

例



符尾が上向き
の声部1に音符
を入力中の
キャラット



符尾が下向き
の声部1に音符
を入力
中のキャラット



新規の符尾が
上向き
の声部2に音符
を入力中の
キャラット

関連リンク

[キャラット](#) (171 ページ)

[リズムグリッド](#) (170 ページ)

[音符の入力](#) (176 ページ)

[既存の音符の上/下に音符を追加](#) (201 ページ)

- 声部 (1308 ページ)
- ディヴィジ (1192 ページ)
- コンデンシング (477 ページ)
- 特定の声部に小節休符を入力する (195 ページ)
- 追加の声部内の小節休符を表示/非表示にする (1126 ページ)
- ステータスバー (51 ページ)
- 声部カラーを表示/非表示にする (1309 ページ)

スラッシュ付き声部への音符の入力

ピッチを指定せずに正確なリズムを指示したい場合など、複数のスラッシュ付き声部に音符を入力できます。初期設定では、最初のスラッシュ付き声部の符尾は上向きですが、符尾ありまたは符尾なしのスラッシュ付き声部を追加して何度でも切り替えることができます。

すでに音符がある譜表上の新規のスラッシュ付き声部に音符を入力することもできます。譜表のいずれかの場所にスラッシュ付き声部を作成すると、同じ譜表上の別の任意の場所に、そのスラッシュ付き声部の音符を入力できます。

手順

1. 記譜モードで、スラッシュ付き声部を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. **[Shift]+[Alt/Opt]+[V]** を押して新しいスラッシュ付き声部を作成します。

新しい声部が追加されると、キャラットの横の音符記号がスラッシュ音符に変わり、その横にプラス記号が表示されます。このスラッシュ音符記号は符尾の方向を表わし、スラッシュ音符記号の横の数字は声部の番号を表わします (存在する場合)。



符尾が下向きの1つめのスラッシュ付き声部を追加したときのキャラット



符尾なしの1つめのスラッシュ付き声部を追加したときのキャラット



符尾が上向きの2つめのスラッシュ付き声部を追加したときのキャラット

4. 必要に応じて、手順3を何度でも繰り返します。
たとえば、スラッシュ付き声部に音符が含まれていない譜表上に新しいスラッシュ付き声部を作成すると、符尾が上向きの1つめのスラッシュ付き声部に音符を入力できます。また、符尾が下向きのスラッシュ付き声部に音符を入力したければ、すぐに2つめの新しいスラッシュ付き声部を作成することも、符尾なしのスラッシュ付き声部に音符を入力したければ、3つめの新しいスラッシュ付き声部を作成することもできます。
5. 任意の音符を入力します。
スラッシュ付き声部の音符は、ピッチに関係なく譜表上の同じ位置に表示されます。初期設定では、これは譜表の第3線ですが、スラッシュ付き声部が複数ある場合は変化します。
6. 必要に応じて、**[V]** を押して譜表上のすべてのアクティブな声部を順に切り替えます。
7. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

キャラットの記号で示されているように、音符が新しいスラッシュ付き声部に入力されます。キャラットの横のスラッシュ音符記号は、現在選択されている、音符が入力される声部を示すために変化します。

声部は何度でも切り替えることができます。

補足

- 別の声部/スラッシュ付き声部にすでに音符が含まれている譜表上で新しいスラッシュ付き声部に音符を入力した場合、同じ位置にすでに存在する音符の符尾の方向とスラッシュ付き声部の譜表上の位置は、必要に応じて自動的に変更されます。
- 1つの譜表にいずれかのタイプの声部が3つ以上ある場合は、設定された順序ですべての声部を順に切り替える必要があります。たとえば、符尾が上向き2つの声部と符尾が下向き2つの声部とスラッシュ付き声部がある場合の順序は、符尾が上向きの声部1、符尾が下向きの声部1、符尾が下向きの声部2、符尾が上向きの声部2、スラッシュ付き声部となります。

例



符尾が上向きのスラッシュ付き声部1に音符を入力中のキャラット



符尾が下向きのスラッシュ付き声部1に音符を入力中のキャラット



新規の符尾が上向きのスラッシュ付き声部2に音符を入力中のキャラット

関連リンク

[スラッシュ付き声部 \(1312 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭 \(1109 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の入力 \(314 ページ\)](#)

複数の譜表に音符と記譜記号を入力する

音符や記譜記号を複数の譜表に同時に入力でき、MIDI キーボードで演奏した和音の音符を適切な譜表に自動的にエクスポードすることもできます。たとえば、ピアノの上下両方の譜表に音符を入力したい場合や複数のインストゥルメントに同じ強弱記号を入力したい場合などに便利です。

複数の譜表への音符と記譜記号の入力が最も便利なのは、単一声部で記譜される有音程インストゥルメントが複数隣接している場合です。

前提条件

音符の入力中に和音の個々の音符を複数の譜表にエクスポードする場合は、MIDI キーボードを接続しておきます。和音の個々の音符を個別の譜表に入力できるのは、MIDI キーボードを使用する場合のみです。

手順

1. 記譜モードで、複数の譜表に音符または記譜記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、キャラットを別の譜表まで伸ばします。
 - 上の譜表に伸ばすには、**[Shift]+[↑]** を押します。
 - 下の譜表に伸ばすには、**[Shift]+[↓]** を押します。
4. 必要に応じて、入力する譜表の数だけ手順3を繰り返します。
5. 任意の音符や記譜記号を入力します。

補足

音符はコンピューターキーボードまたはMIDIキーボードを使用して入力する必要があります。マウスを使用すると、音符はクリックした譜表にのみ入力されます。同様に、複数の譜表に記譜記号を入力するには、対応するポップオーバーを使用する必要があります。対応するパネルを使用して入力した記譜記号は、一番上の譜表にのみ入力されます。

6. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

入力した音符と記譜記号が、キャレットが伸びているすべての譜表のキャレットの位置に入力されます。ピアノの上下両方の譜表にキャレットが伸びている場合は、音符のピッチおよび「**環境設定 (Preferences)**」の「**再生 (Play)**」ページで設定した分割ポイントに応じて、上下どちらかの譜表に音符が入力されます。

MIDIキーボードを使用して音符を入力すると、入力した和音の個々の音符が各譜表に自動的にエクスポートされます。

ヒント

和音の音符を複数の譜表にエクスポートするか、すべての音符をすべての譜表に入力するかは、「**記譜 (Write)**」 > 「**音符入力オプション (Note Input Options)**」の「**MIDI入力 (MIDI Input)**」ページで変更できます。

関連リンク

[キャレット \(171 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[和音の入力 \(197 ページ\)](#)

[記譜記号の入力 \(214 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(167 ページ\)](#)

[複数の譜表への楽譜のエクスポート \(343 ページ\)](#)

挿入モードでの音符の挿入

挿入モードでは、音符を上書きすることなく既存の音符の前に音符を入力できます。この場合、1つ前の位置に新しい音符が入力されると同時に既存の音符が後ろに移動します。

補足

挿入モードでは和音を入力できません。

手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. 挿入モードで複数の譜表に同時に音符を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. 入力する音符の長さに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。
たとえば、8分音符の場合は **[5]**、4分音符の場合は **[6]**、2分音符の場合は **[7]** を押します。
4. **[I]** を押して挿入モードを有効にします。
挿入モードでは、キャレットの上にV字、下に逆向きのV字が表示されます。



- 以下のいずれかの操作を行なって、使用するピッチを入力します。
 - キーボードで対応する文字を押します。
 - 音符を入力する位置の譜表をクリックします。
音符を入力する位置にマウスを合わせると、シャドー符頭が表示されます。
 - MIDI キーボードで音符を演奏します。
- 必要に応じて、**[I]** をもう一度押して挿入モードを無効にし、通常の音符入力に戻ります。
- [Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

キャラットのあとの位置にある既存の音符を上書きすることなく、キャラットの位置またはクリックした位置の既存の音符の前に音符が入力されます。キャラットのあとの既存の音符は後ろに移動します。

関連リンク

[キャラット](#) (171 ページ)

[リズムグリッド](#) (170 ページ)

[和音の入力](#) (197 ページ)

打楽器キットの音符の入力

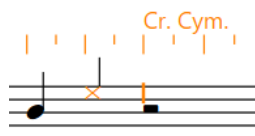
あらゆる表示タイプを使用する打楽器キットのすべての打楽器で音符を入力できます。打楽器キットに音符を入力するときのキャラットは、有音程楽器の譜表に音符を入力するときのキャラットよりも短く表示されます。

打楽器キットのキャラットは、譜表の高さ全体を占めるのではなく、譜表上の特定の位置に配置されます。

キャラットで現在選択している打楽器またはスラッシュ付き声部の名前と適用される演奏技法は、リズムグリッドディスプレイのすぐ上に表示されます。

補足

5 線譜表示を使用している場合は、打楽器キットのスラッシュ付き声部にのみ音符を入力できます。



5 線譜キット表示でのインストゥルメントの音符の追加

前提条件

キットのインストゥルメントで追加の演奏技法を使用したい場合は、「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログで使用する演奏技法を定義しておきます。

手順

- 記譜モードで、音符を入力する位置にある打楽器キットのアイテムを選択します。
- [Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。

- 以下のいずれかの操作を行なって、キャレットを上下に動かし、さまざまなインストゥルメントに音符を入力します。
 - 上に動かすには **[↑]** を押します。
 - 下に動かすには **[↓]** を押します。
- 音符を入力する前に、キャレットで現在選択されているインストゥルメントに適した演奏技法を選択します。
 - 演奏技法を上方向に順に切り替えるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
 - 演奏技法を下方向に順に切り替えるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
 - 使用する演奏技法のピッチを MIDI キーボードで演奏します。

補足

演奏技法の MIDI ピッチは、「環境設定 (Preferences)」の「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」ページで定義できます。

- 以下のいずれかの操作を行なって、音符を入力します。
 - 5 線譜表示: 「環境設定 (Preferences)」で設定した音部記号の譜表上の位置に従って、コンピューターキーボードの文字を押すか、MIDI キーボードで音符を演奏します。たとえば、「**ト音記号 (Treble G clef)**」が設定されているときに 5 線譜の第 3 線に割り当てられたインストゥルメントの音符を入力するには **[B]** を押します。
 - グリッドおよび 1 線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプ: 現在、線上にキャレットが配置されているインストゥルメントの音符を入力するには、コンピューターキーボードで **[A]** から **[G]** のいずれかの音符名の文字を押すか、MIDI キーボードでいずれかの音符を演奏します。

補足

「環境設定 (Preferences)」の「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」ページの「音符の入力 (Note Input)」セクションで、それぞれのキット表示タイプに「**パーカッションマップを使用 (Use percussion map)**」と「**譜表上の位置を使用 (Use staff position)**」のどちらが設定されているかに応じて、MIDI キーボードで演奏される音符の解釈が変わります。

- すべてのキット表示タイプ: リズムグリッドの上に表示されるインストゥルメントと演奏技法の音符を入力するには **[Y]** を押します。
 - すべてのキット表示タイプ: 音符を入力する譜表上の、音符を入力する位置をクリックします。
- [Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

関連リンク

[キャレット \(171 ページ\)](#)

[打楽器キットとドラムセット \(1290 ページ\)](#)

[打楽器キットの音符入力の設定 \(189 ページ\)](#)

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1297 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表で音符の演奏技法を変更する \(1292 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

打楽器キットの音符入力の設定

無音程打楽器の楽譜を入力するときの動作は、有音程楽器のときとは異なります。無音程打楽器の入力には一般的なあらゆる方法を使用できますが、MIDI キーボードまたはコンピューターキーボードを使用するのが最も効率的です。

- 打楽器の入力に関するオプションは、「環境設定 (Preferences)」の「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」ページの「音符の入力 (Note Input)」セクションにあります。

一方は 5 線譜への入力に関する一連のオプション、もう一方はグリッドと個々のインストゥルメントへの入力に関する一連のオプションです。

メインの選択は MIDI キーボードとコンピューターキーボードによる入力に影響します。

パーカッションマップを使用 (Use percussion map)

パーカッションマップは、どの MIDI ノートがサウンドライブラリーの特定のパッチのどのサウンドを生成するかを定義します。たとえば、General MIDI パーカッションでは、C2 (ノート 36) がバスドラムを生成し、D2 (ノート 38) がスネアドラムを生成します。

特定のマッピングに詳しい場合は、入力にマッピングを直接使用すると便利かもしれません。

譜表上の位置を使用 (Use staff position)

このオプションは、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログで定義した譜表上の位置を使用します。たとえば、ドラムセットでは通常、バスドラムは譜表の第 1 間に配置され、スネアドラムは第 3 間に配置されます。

ト音記号を使用した場合 (それぞれ F4 と C5) またはヘ音記号を使用した場合 (それぞれ A2 と E3) にどうなるかで譜表上の位置を考えることができます。

5 線譜の譜表上の位置を解釈するのに使用する音部記号を選択できます。

- ト音記号 (Treble G clef)
- ヘ音記号 (Bass F clef)

「**譜表上の位置を使用 (Use staff position)**」を選択した場合、MIDI キーボードの 1 オクターブを指定して演奏技法の入力に使用できます。

初期設定では、「**演奏技法を入力する MIDI キー (Input techniques from MIDI key)**」オプションが MIDI ノート 48 に設定されています。これはミドル C (C4 = MIDI ノート 60) の 1 オクターブ下の C にあたる C3 です。「MIDI Learn」ボタンを押したあと MIDI キーボードで音符を演奏すると、開始ピッチを変更できます。開始ピッチが C3 の場合、それより上の音符は以下のように機能します。

- C3 (48): 前の演奏技法
- C#3 (49): 次の演奏技法
- D3 (50): マッピングされた最初の演奏技法
- Eb3 (51): マッピングされた 2 番めの演奏技法
- E3 (52): マッピングされた 3 番めの演奏技法

以下まで、同じように続きます。

- B3 (59): マッピングされた 10 番めの演奏技法

一般に、打楽器の入力では「**譜表上の位置を使用 (Use staff position)**」に設定することをおすすめします。「**パーカッションマップを使用 (Use percussion map)**」は通常、ドラムセットに音符を入力する場合で、かつ General MIDI パーカッションマップを覚えている場合にのみ役立ちます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(122 ページ\)](#)

[打楽器キットの音符の入力 \(188 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表で音符の演奏技法を変更する \(1292 ページ\)](#)

打楽器キットの音符の入力中のデフォルトの音符選択

打楽器キットの音符の入力中は、5 線譜の表示タイプを使用するキットの譜表上の位置に対応するコンピューターキーボードの文字を押すことができます。たとえば、**[F]** を押して F の間または線に音符を入力できます。

「**環境設定 (Preferences)**」の「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」ページの「**音符の入力 (Note Input)**」セクションで、打楽器キットへの音符の入力に関するオプションを設定できます。たと

例えば、譜表上の位置を使用して音符を決定したい場合は、「**キットまたはグリッドへの入力 (Input onto kit or grid)**」で「**譜表上の位置を使用 (Use staff position)**」を選択します。

譜表上の位置を「**ト音記号 (Treble G clef)**」に関連付けるように設定した場合、F は譜表の第 1 間または第 5 線を表わします。つまり、標準のドラムセットの場合は、キックドラムが第 1 間に、ライドシンバルが第 5 線になります。

有音程楽器で音符を入力すると、Dorico Pro はキャレットの現在の位置にどちらが近いかに基づいて、上または下の譜表上の位置を選択します。

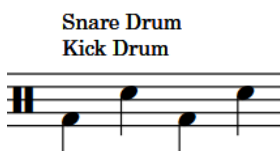
ただし、打楽器キットで音符を入力すると、Dorico Pro はキャレットの現在の位置に最も近い譜表上の位置ではなく、最後に入力した音符と符尾の方向が同じ音符の譜表上の位置を選択します。これにより、打楽器キットで使用される一般的な音符のパターンを簡単に入力できます。

たとえば、標準のドラムセットでキックドラムとスネアドラムの音符を入力するのは一般的なパターンです。キックドラムは第 1 間に、スネアドラムは第 3 間に入力されます。第 3 間は、第 1 間から 5 つめ、第 5 線から 4 つめの譜表上の位置です。

キックドラムは **[F]** を、スネアドラムは **[C]** を押して入力できます。

Dorico Pro でキットの音符を入力する際の符尾の方向のデフォルト設定は、**[F]** と **[C]** 交互に押すと、スネアドラムの入力後に第 5 線の方が近くても、キックドラムとスネアドラムの位置に音符が入力されるようになっています。

これは、キックドラムがスネアドラムと同じ符尾の向きと声部を使用するためです。



補足

Dorico Pro では、譜表上の 1 つの声部にのみ音符が含まれている場合、声部に関係なく、譜表上の音符の位置に応じて符尾の方向が自動的に変更されます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(1213 ページ\)](#)

タブ譜への音符の入力

標準の音符入力と同じ方法で、タブ譜に直接音符を入力できます。タブ譜に音符を入力する場合、キャレットは標準の 5 線譜に音符を入力するときよりも小さく表示され、和音の入力が常に有効であるかのように動作します。つまり、音符を別の位置に入力するにはキャレットを手動で進める必要があります。

手順

1. 記譜モードで、音符を入力する位置にあるタブ譜上のアイテムを選択します。

補足

現在のレイアウトに音符の譜表とタブ譜の両方が表示されている場合は、音符の譜表上のアイテムを選択し、音符の入力を開始したあとにキャレットをタブ譜に移動する必要があります。

2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符の値を選択します。
 - 次に長い音価を選択するには、**^** を押します。

- 次に短い音価を選択するには、**[-]** を押します。
 - ウィンドウの左側にある音符パネルで入力する音価を選択します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、現在の弦に使用するピッチを入力します。
- 入力するフレット番号に対応する数字キーを、コンピューターのキーボードまたはテンキーで押します。たとえば、第6フレットなら **[6]** を押します。
10以上のフレット番号の場合は、2つの数字をすばやく押します。
 - コンピューターのキーボードで対応する文字を押します。

補足

文字を使用する場合、対応する弦のナットに最も近いオクターブが自動的に選択されます。

- MIDI キーボードで音符を演奏します。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、キャレットを上下に動かし、同じ位置のさまざまな弦に音符を入力します。
- 上に動かすには **[↑]** を押します。
 - 下に動かすには **[↓]** を押します。
6. 以下のいずれかの操作を行なって、キャレットを別の位置に動かします。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従ってキャレットを移動するには、**[→]**/**[←]** を押します。
 - 現在選択中の音符の音価に従ってキャレットを次の位置に進めるには、**[Space]** を押します。
 - 次/前の小節にキャレットを移動するには、**[Ctrl]/[command]+[→]**/**[Ctrl]/[command]+[←]** を押します。

結果

初期設定では、音符はキャレットが表示された弦のキャレットの位置に選択したデュレーションで入力され、入力に合わせて再生されます。音符はキャレットを手動で移動するまでそのキャレットの位置に続けて入力され、同じ弦の前の音符は上書きされます。現在の弦で演奏できない音符を入力しようとすると、その音符を演奏できる最も近い弦に、既存の音符に追加される形で入力されます。

同じ位置で同じ弦に複数の音符を入力した場合、タブ譜では音符が隣り合わせに表示され、色は緑になります。これらの音符はあとから個別に選択して弦の割り当てを変更できます。

関連リンク

[キャレット \(171 ページ\)](#)

[手動でのキャレットの移動 \(175 ページ\)](#)

[タブ譜 \(1205 ページ\)](#)

[音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする \(1207 ページ\)](#)

[タブ譜で音符の囲み線を表示または非表示にする \(1209 ページ\)](#)

[タブ譜で音符に割り当てられた弦の変更 \(1208 ページ\)](#)

臨時記号の入力

臨時記号は音符の入力中に入力することも、既存の音符に追加することもできます。また、既存の音符の臨時記号を変更することもできます。

補足

調号の一部である臨時記号は自動的に入力されます。たとえば、Gメジャーで **[F]** を押すと自動的にF#が入力されます。臨時記号を指定する必要があるのは、たとえばF#を入力する場合などに限られません。

これはMIDIキーボードを使用しているときにも当てはまりますが、自動的に選択された音符が期待する音符でない場合は書き換えることもできます。

前提条件

入力するカスタムの臨時記号を、必要に応じてカスタムの調性システムに作成しておきます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 臨時記号を追加する、または臨時記号を変更する既存の音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、入力する臨時記号を選択します。
 - フラットを入力するには **[F]** を押します。
 - シャープを入力するには **[#]** を押します。
 - ナチュラルを入力するには **[0]** を押します。
 - 音符パネルで、入力する臨時記号をクリックします。

ヒント

ダブルシャープ、ダブルフラット、微分音の臨時記号などの珍しい臨時記号は、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルの「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションにあります。

3. 音符の入力中は、選択した臨時記号を使用して音符を入力します。

結果

選択した既存の音符に臨時記号が追加されます。臨時記号が異なる既存の音符を選択した場合、それらの音符には選択した臨時記号が適用されます。

音符の入力中は、次に入力する音符にのみ選択した臨時記号が入力されます。後続の音符には、その都度臨時記号を選択しなおす必要があります。

補足

- 臨時記号の有効範囲システムによっては、同じ音域の同じ音符の後続の臨時記号が同じ小節に表示されないことがあります。
- MIDI デバイスを使用して音符を入力すると、必要に応じて自動的に臨時記号が表示されます。調号とコンテキストに基づいてシャープ、フラット、またはナチュラルが選択されます。音符の表記はあとから変更して、臨時記号の異なる異名同音として表示できます。

関連リンク

[臨時記号 \(624 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[個々の音符のピッチの変更 \(203 ページ\)](#)

[カスタムの調性システム \(862 ページ\)](#)

[カスタムの臨時記号を作成/編集する \(864 ページ\)](#)

[カスタムの調性システムの作成 \(863 ページ\)](#)

[音符の書き換え \(204 ページ\)](#)

MIDI 入力中の臨時記号の選択

Dorico Pro は MIDI データを解釈して臨時記号を作成し、プリセットルールに従って音符の表記を決定します。

Dorico Pro では、必要に応じて臨時記号が自動的に表示されます。調号とコンテキストに基づいてシャープまたはフラットが選択されます。

このアルゴリズムには、連続する音符や和音の間隔と調号が反映されます。そのため、Dorico Pro はシャープの付いた調ではシャープの臨時記号を、フラットの付いた調ではフラットの臨時記号を優先

的に選択します。臨時記号の表記を変更した場合、スコア上でその音符を再び使用すると、Dorico Pro は常にその表記設定に従います。

調号の範囲外の臨時記号が付いた音符を入力した場合、数字が増えるとシャープが使用され、数字が減るとフラットが使用されます。また、表記も垂直方向に計算されます。つまり、ディミニッシュ 4th ではなくメジャー 3rd のように、できるだけシンプルな間隔が生成されます。

初期設定では、楽譜がどのように展開するかに応じて、臨時記号の表記がさかのぼって変更されます。たとえば、C メジャーで C-E-G# のピッチシーケンスを入力したあと Gb を入力すると、G# は Ab と表記されます。

この設定は無効にできます。

関連リンク

[音符の書き換え \(204 ページ\)](#)

臨時記号の自動書き換えの無効化

臨時記号がさかのぼって変更されないように、臨時記号の自動書き換えをオフにできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[I]** を押して「**音符入力オプション (Note Input Options)**」を開きます。
 2. ページリストで「**MIDI 入力 (MIDI Input)**」をクリックします。
 3. 「**音符の表記をさかのぼって自動調整する (Allow spelling of notes to be adjusted retrospectively)**」をオフにします。
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

休符の入力

Dorico Pro は、入力した音符の間隔に、必要に応じて自動的に休符を表示します。ただし、その小節に音符を入力することなくプレーヤーの特定の拍にフェルマータを表示する場合など、休符を手動で入力することもできます。

手順

1. 休符を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
 2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
 3. 複数の譜表に同時に休符を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
 4. **[,]** (コンマ) を押して休符の入力を開始します。
 5. 任意のデュレーションを選択します。
 6. **[O]** を押して「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」をオンにします。
 7. 以下のいずれかの操作を行なって、休符を入力します。
 - **[Y]** または **[A]** から **[G]** のいずれかの文字を押します。
 - MIDI キーボードで音符を演奏します。
 8. 必要に応じて、**[,]** (コンマ) をもう一度押して休符の入力を終了します。
 9. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。
-

結果

選択したデュレーションの休符が入力されます。「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」をオンにしていない場合、Dorico Pro は音符に対する位置に応じて、また現在の拍子に従って隣接する休符を自動的に結合します。

関連リンク

- [休符 \(Rests\) \(1120 ページ\)](#)
- [暗黙の休符と明示的な休符 \(1121 ページ\)](#)
- [複数の譜表にキャレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)
- [音符/休符のデュレーションの選択 \(179 ページ\)](#)
- [音符/休符のデュレーションの強制 \(181 ページ\)](#)
- [音符の入力 \(176 ページ\)](#)

特定の声部に小節休符を入力する

複声部に楽譜を入力した場合、第 2 声部に間隔があれば、通常は休符が自動的に作成されます。ただし、厳密な対位法による楽譜で第 2 声部を明示的な小節休符で始めたい場合は、それらの声部に小節休符を入力できます。

単一声部の楽譜では、キャレットを進めると新しい小節に自動的に小節休符が表示されるため、小節休符を入力する必要はありません。空白のすべての小節の小節休符をレイアウトごとに個別に表示/非表示にすることもできます。

手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. 声部の向き表示に正しい声部が表示されるまで **[V]** を押して、適切な第 2 声部を選択します。
または、新しい声部に小節休符を入力する場合は、声部の向き表示に正しい声部が表示されるまで **[Shift]+[V]** を押します。
3. **[Shift]+[B]** を押して小節や小節線のポップオーバーを開きます。
4. ポップオーバーに「rest」と入力して小節休符を追加します。
5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
6. **[Ctrl]/[command]+[→]** を押して、小節休符の次の小節の開始位置にキャレットを進めます。
7. 選択した声部の複数の小節に小節休符を表示する場合は、手順 3 から 6 を必要な回数だけ繰り返します。

ヒント

追加の声部に小節休符を表示するように記譜オプションが設定されている場合、小節休符を 1 つ入力すると、選択した声部のそれ以降の空白の小節すべてに小節休符が表示されます。

結果

選択した声部のキャレットの位置に小節休符が入力されます。選択した声部の音符を含む小節内にキャレットがある場合、これらの音符は小節休符で置き換えられます。

補足

また、音符の入力中に小節と小節線パネルの「**小節休符を挿入 (Insert Bar Rest)**」セクションで「**小節休符を挿入 (Insert Bar Rest)**」をクリックして小節休符を入力することもできます。

関連リンク

- [小節 \(642 ページ\)](#)
- [休符 \(Rests\) \(1120 ページ\)](#)
- [小節と小節線のポップオーバー \(237 ページ\)](#)
- [複数の声部への音符の入力 \(183 ページ\)](#)
- [キャレット \(171 ページ\)](#)
- [空白の小節で小節休符を表示/非表示にする \(1125 ページ\)](#)
- [追加の声部内の小節休符を表示/非表示にする \(1126 ページ\)](#)

タイの入力

Dorico Pro は、各拍子の音符のデュレーションに応じて自動的にタイを作成します。ただし、タイを手動で入力して同じピッチの2つの音符を連結することもできます。これは音符の入力中に行なうことも、既存の2つの音符をタイで連結することもできます。

たとえば、小節線をまたぐ2つの4分音符の間にタイを入力したい場合、最初の4分音符を入力したい位置に2分音符を入力します。すると、Dorico Pro は自動的に2分音符を2つの4分音符に分割して小節線の両側に配置し、それらをタイで連結します。

補足

これらの手順は、隣接していない音符の間や異なる声部の音符の間のタイの入力には適用されません。たとえば、異なる譜表上の同じピッチの2つの音符の間や装飾音符と通常の音符の間などです。

前提条件

既存の音符のデュレーションを保持する場合は、デュレーションを強制しておきます。たとえば、タイのつながりの中で現在の拍子とは異なる形で分割された拍を指定する場合などです。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - タイを開始する位置にある音符を選択します。
2. 必要に応じて、音符の入力中に、タイの開始位置にあたる音符を入力します。
3. **[T]** を押してタイを入力します。
4. 必要に応じて、音符の入力中に、タイの終了位置にあたる音符を入力します。

補足

2番めの音符は最初の音符と同じピッチでなければなりません。

結果

音符の入力中は、入力した2つの音符がタイで連結されます。

既存の音符の間にタイを入力した場合は、選択した音符が同じ声部および譜表上の同じピッチの次の音符とタイで連結されます。

補足

- 音符の入力中は、タイの入力後に初めて入力した音符と、同じ声部および譜表上の同じピッチの前の音符がタイで連結されます。これは、間に別のピッチの音符があったとしても同様です。
- 現在の拍子記号、小節内の音符の開始位置、および「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**音符のグループ化 (Note Grouping)**」ページの設定によっては、2つの音符の間にタイを入力すると、タイでつながれた2つの4分音符ではなく2分音符が入力されるなど、デュレーションの異なる単一の音符が作成されることがあります。デュレーションを強制することで、音符のグループ化設定を無効にし、記譜されたリズムを固定できます。そうすれば、Dorico Pro は音符が小節内に収まる限り、入力した音符を指定したデュレーションで記譜します。

関連リンク

[音符/休符のデュレーションの強制 \(181 ページ\)](#)

[タイ \(1235 ページ\)](#)

[音符と休符のグループ化 \(692 ページ\)](#)

[拍に従う連符グループ \(676 ページ\)](#)

[タイとスラー \(1238 ページ\)](#)

[隣接しない音符の間へのタイの入力 \(1240 ページ\)](#)

装飾音符の入力

装飾音符は通常の音符と同じ方法で入力でき、音価、臨時記号、アーティキュレーションを設定できます。装飾音符は音符の入力中のみ入力できます。

手順

1. 装飾音符を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. 複数の譜表に同時に装飾音符を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
4. **[/]** を押して装飾音符の入力を開始します。
5. 入力するデュレーションの番号を押します。たとえば、8分音符の装飾音符を入力するには **[5]** を押します。
6. 必要に応じて、**[Alt/Opt]+[/]** を押してスラッシュ付き装飾音符とスラッシュなしの装飾音符の入力を切り替えます。



スラッシュなしの装飾音符を入力しているときの「装飾音符 (Grace Notes)」ツールボックスボタン

7. 使用する装飾音符を入力します。
8. **[/]** をもう一度押すと、装飾音符の入力が終了して通常の音符入力に戻ります。

結果

入力したピッチがキュレットの位置に装飾音符として入力されます。

通常の音符を入力したあとに装飾音符を入力すると、装飾音符のデュレーションは最後に入力した通常の音符と同じになります。デュレーションは通常の音符と同じ方法で変更できます。

同じ位置に入力できる装飾音符の数に制限はありません。

ヒント

入力したあとに装飾音符のタイプを変更することもできます。

関連リンク

[装飾音符 \(837 ページ\)](#)

[複数の譜表にキュレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[臨時記号の入力 \(192 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの入力 \(214 ページ\)](#)

[装飾音符のタイプを個別に変更する \(840 ページ\)](#)

和音の入力

音符の入力と「和音 (Chords)」がどちらも有効になっていれば、音符の入力中に和音を入力できます。音符を入力するには、コンピューターキーボードまたはマウスを使用するか、MIDI キーボードで音符を演奏します。

補足

挿入モードでは和音を入力できません。

手順

1. 和音を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。

- 複数の譜表に同時に和音を入力する場合は、それらの譜表にカーレットを伸ばします。
- 入力する音符の長さに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。
たとえば、8分音符の場合は **[5]**、4分音符の場合は **[6]**、2分音符の場合は **[7]** を押します。
- [Q]** を押して和音の入力を開始します。
和音の入力中はカーレットの上にプラス記号が表示されます。これにより、カーレットの位置に複数の音符を入力できます。



- 以下のいずれかの操作を行なって、使用するピッチを入力します。

- キーボードで対応する文字を押します。

ヒント

「**和音 (Chords)**」が有効になっている場合、カーレットの位置の一番高い音符の上に音符が自動的に入力されます。

かわりに、**[Ctrl]+[Alt] (Windows) 又は [Ctrl] (macOS)** を押しながらノート名を表わすアルファベットを押すことで、最も低い音符よりも下にあるカーレットの位置に音符を入力できます (例: **[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)**)。

- 音符を入力する位置の譜表をクリックします。
音符を入力する位置にマウスを合わせると、シャドー符頭が表示されます。
 - MIDI キーボードで音符を演奏します。
- 必要に応じて、カーレットを進めて別の位置で和音を入力します。
和音の入力中は、カーレットを手動で進めるまで、音符は同じ位置の前に入力した音符の上に入力されます。
 - [Q]** を再度押して和音の入力を終了します。

結果

カーレットの位置に複数の音符が入力されます。

- マウスのクリックでピッチを入力する場合は、同じ線の上を再びクリックすることで、和音に同じピッチを2回入力できます。
- キーボードを使ってピッチを入力する場合は、繰り返された音符は自動的に1オクターブ上に入力されます。音符の音域は、音符の入力中に音域の選択を強制するか、入力後に音符を移調することで変更できます。

補足

- 和音の入力を終了してすぐ、前のように続けて音符を入力できます。音符は1つの位置に1つずつ入力され、カーレットは自動的に次の位置に進みます。
- 異なる臨時記号の付いた同じ音域の2つのピッチが和音に含まれていることを、オルタードユニゾンと呼びます。「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」ページの設定に応じて、オルタードユニゾンは1本の符尾または分割された符尾のいずれかで表示されます。

関連リンク

- [音符の入力中の音域の選択 \(178 ページ\)](#)
- [複数の譜表にカーレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)
- [手動でのカーレットの移動 \(175 ページ\)](#)

[オルタードユニゾン \(627 ページ\)](#)

連符の入力

すべてのタイプの連符は連符のポップオーバーを使用して入力できます。連符は通常の音符のように入力するため、音符の入力中のみ入力できます。

連符は、音符ツールボックスの「**連符 (Tuplets)**」をクリックして入力することもできます。ただしこの操作では、連符を一度に1つしか入力できません。

手順

1. 連符を入力する位置にある譜表上のアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. 複数の譜表に同時に連符を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
4. 連符のもとにする音符の長さに対応する数字キーをコンピューターのキーボードで押します。たとえば、8分音符の場合は **[5]**、4分音符の場合は **[6]**、2分音符の場合は **[7]** を押します。
5. **[:]** を押して連符のポップオーバーを開きます。
6. 使用する連符を比率としてポップオーバーに入力します。たとえば、「**3:2**」と入力して3連符を入力します。
7. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。連符が入力されます。
8. 必要に応じて、選択した音符のデュレーションを変更します。たとえば、8分音符をもとに連符を入力しておいて、その連符内に4分音符を入力できます。
9. 任意のピッチで入力または再生します。
10. 必要に応じて、**[Space]** を押してキュレットを進め、次の位置に同じ比率で連符を引き続き入力します。
11. 以下のいずれかの操作を行なって、連符の入力を終了します。
 - 標準の音符入力に戻るには、**+** を押すか矢印キーでキュレットを移動します。
 - 音符の入力を完全に停止するには、**[Esc]** を押します。

結果

入力または再生したピッチは、連符としてキュレットの位置から入力されます。

連符を入力した直後に別のタイプの連符を入力するには、最初のタイプの連符を終了してから2つめのタイプを入力する必要があります。最初のタイプを終了しないと、2つめのタイプが入れ子状の連符として入力されます。

関連リンク

[連符 \(1276 ページ\)](#)

[入れ子状の連符 \(1277 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[複数の譜表にキュレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

連符のポップオーバー

以下の表は、さまざまなタイプの連符を入力するために連符のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。連符のポップオーバーは音符の入力中にもみ開くことができます。

記譜モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、音符入力中に連符のポップオーバーを開くことができます。

- **[:]** を押します。

連符は 3:2 などの比率で記述されることが多いため、連符のポップオーバーを開くにはセミコロンキーを使用します。

- 「記譜 (Write)」 > 「連符を作成 (Create Tuplet)」 を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの左側にある音符ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された連符のポップオーバー



音符ツールボックスの「連符 (Tuplets)」ボタン

補足

音符ツールボックスの「連符 (Tuplets)」をクリックすると、連符が 1 つだけ入力されます。連符のポップオーバーは開きません。

キーボードを使って連符を入力すると、以下の操作が行なわれるまで、指定した連符として音符が入力されます。

- **+** を押して、標準の音符入力に戻る
- 矢印キーでキャレットを移動する
- 音符の入力を終了する

連符のタイプ

ポップオーバーエントリー

2 つ分のスペースに 3 つの音符が配置された 3 連符 「3」 または 「3:2」

4 つ分のスペースに 3 つの音符が配置された 3 連符 **3:4**

4 つ分のスペースに 5 つの音符が配置された 5 連符 **5:4**

2 つ分のスペースに 5 つの音符が配置された 5 連符 **5:2**

4 つ分のスペースに 7 つの音符が配置された 7 連符 **7:4**

2 つ分のスペースに 7 つの音符が配置された 7 連符 **7:2**

3 つ分のスペースに 2 つの音符が配置された 2 連符複合拍子によく使用されます。 **2:3**

6 つ分のスペースに 5 つの音符が配置された 5 連符複合拍子によく使用されます。 **5:6**

連符の拍の単位: 64 分音符 「z」 または 「2」

連符の拍の単位: 32 分音符 「y」 または 「3」

連符のタイプ	ポップオーバーエントリー
連符の拍の単位: 16 分音符	「x」または「4」
連符の拍の単位: 8 分音符	「e」または「5」
連符の拍の単位: 4 分音符	「q」または「6」
連符の拍の単位: 2 分音符	「h」または「7」
連符の拍の単位: 全音符	「w」または「8」
連符の拍の単位: 倍全音符	「2w」または「9」
連符の拍の単位: 付点 8 分音符	「e.」または「5.」
連符の拍の単位: 付点 4 分音符	「q.」または「6.」
4 つ分のスペースに 5 つの付点 4 分音符が配置された 5 連符	「5:4q.」または「5:4-6.」

補足

数字を使用して拍の単位を指定する場合は、スペースまたはハイフンを使用して連符の比率と拍の単位を区切る必要があります。

補足

エントリーで拍の単位を指定しない限り、連符の全体のデュレーションはポップオーバーを開いたときに選択していた音価によって決まります。たとえば、4 分音符が選択されている状態で 3 連符を入力すると、2 つ分のスペースに 3 つの 4 分音符が配置された 3 連符が入力されます。

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではありません。このリストは、さまざまな連符を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

関連リンク
[連符の入力 \(199 ページ\)](#)
[連符 \(1276 ページ\)](#)
[既存の音符を連符に変換する \(1278 ページ\)](#)
[音符/休符のデュレーションの選択 \(179 ページ\)](#)

既存の音符の上/下に音符を追加

既存の音符の上/下に音符を追加できます。既存の音符に対する音程に応じて、同時に複数の音符を追加できます。

手順

1. 音符を追加する音符を選択します。
2. **[Shift]+[I]** を押して音程追加のポップオーバーを開きます。
3. 追加する音符の、選択した音符に対する音程を入力します。たとえば、選択した音符のマイナーで 3 度下と 4 度上に音符を追加するには「-m3,4」と入力します。

4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

音程追加のポップオーバーに入力した音程に応じて、選択した音符に音符が追加されます。

関連リンク

[個々の音符のピッチの変更 \(203 ページ\)](#)

音程追加のポップオーバー

音程追加のポップオーバーでは、既存の音符の上下に音符を追加したり、既存の音符を移調したりできます。このポップオーバーを使用することで、「上/下に音符を追加 (Add Notes Above or Below)」ダイアログと「移調 (Transpose)」ダイアログの多くの機能にキーボードから直接アクセスできます。

記譜モードでは、音符の選択時 (音符入力中も含む) に以下のいずれかの操作を行なって、音程追加のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[I]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「音程追加のポップオーバー (Add Intervals Popover)」を選択します。

以下の表は、音符を移調したり既存の音符に音符を追加したりするために音程追加のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

アクションの例	ポップオーバーエントリー
音符を上を3度移調	t3
音符を下を6度移調	t-6
3度上に音符を追加	「3」または「3rd」
4度下に音符を追加	「-4」または「-4th」
複数の音符を追加	「3,6」または「-3,3,4」
補足	
音符はスペースではなくコンマで区切ります。	
選択した音符のすべての音符の上または下あるいはその両方に音符を追加	「3 all」または「-M2,m3 to all」
補足	
音符はスペースではなくコンマで区切ります。	
和音の一番上の音符にのみ音符を追加	「-3 top」または「dim5 top」
和音の一番下の音符にのみ音符を追加	「aug4 bottom」または「-2 bottom」
完全音程を指定	「p」、「per」、または「perf」
長音程を指定	「M」、「maj」、または「major」

アクションの例	ポップオーバーエントリー
短音程を指定	「m」、「min」、または「minor」
減音程を指定	「d」、「dim」、または「diminished」
増音程を指定	「a」、「aug」、または「augmented」
全音階的音程を指定	「diat」または「diatonic」
微分音程で音符を移調	t 3 8 qt

補足

最初の数字は音程の度数です。

2 番目の数字は 1/4 音の数です。

特に指定しない限り、音程は指定された譜表上の位置の数字の分だけ音符を追加または移調して計算されます。たとえば、C メジャーの場合、選択した音符が D₄ で 3 度上に追加するために 3 を指定すると、追加される音符は F₄ になります。音程のクオリティーは音程の前に含めることで指定できます。

選択した音符や記譜記号にすでに和音が含まれている場合、音符は和音の一番上の音符の上、および和音の一番下の音符の下に追加されます。エントリーの最後に「all」または「to all」を含めることで、選択した和音のすべての音符に音符を追加できます。

微分音の移調の場合、最初の数字は音程の度数、2 番目の数字は 1/4 音の数です。たとえば、C ナチュラルがあるところに「**T 3 8 qt**」を入力すると、C ナチュラルが E ナチュラルに変更されます。

関連リンク

[音程追加のポップオーバーで既存の音符を移調する \(205 ページ\)](#)

個々の音符のピッチの変更

個々の音符 (装飾音符を含む) を入力したあとに、それらのピッチと音域を、オクターブの分割、譜表上の位置、およびオクターブ単位で変更できます。

手順

1. 記譜モードで、ピッチを変更する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符のピッチを上げ下げします。
 - 音符の位置を 1 つ上げるには (C から D など)、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
 - 音符の位置を 1 つ下げるには (D から C など)、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
 - 音符をオクターブの分割 1 つ分上に移調するには (平均律 (12-EDO) で半音や平均律 (24-EDO) で 1/4 音など)、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
 - 音符をオクターブの分割 1 つ分下に移調するには (平均律 (12-EDO) で半音や平均律 (24-EDO) で 1/4 音など)、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
 - 音符を 1 オクターブ上に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
 - 音符を 1 オクターブ下に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。

結果

選択した音符のピッチまたは音域が変更されます。

一番低い弦のナットよりも下で演奏しなければならない音符など、現在そのピッチをフレット楽器で演奏できない場合、その音符はタブ譜上にクエスチョンマークとして表示されます。

補足

[Alt/Opt]+[↑] と **[Alt/Opt]+[↓]** を押すと、グリッドおよび5線譜の表示タイプを使用する打楽器キットの音符の譜表上の位置を変更できます。ただし、この操作ではその音符を演奏するインストゥルメントも変更されます。

関連リンク

[オクターブの均等な分割 \(EDO\) \(860 ページ\)](#)

[既存の音符の上/下に音符を追加 \(201 ページ\)](#)

[音程追加のポップオーバー \(202 ページ\)](#)

[臨時記号の入力 \(192 ページ\)](#)

音符の書き換え

たとえばフレーズ内のステップ移動を明確に表示したり、和音内のオルタードユニゾン回避したりするために、音符が異名同音で表示されるよう音符の異名同音表記を変更できます。これはすべてのレイアウト、またはパートレイアウトにのみ行なえます。

Dorico Pro は、調号とコンテキストに基づいてピッチの表記を自動的に決定するアルゴリズムを使用しています。

Dorico Pro では異名同音表記に臨時記号グリフを2つまで表示できるため、各ピッチには常に少なくとも3つのオプションがあります。つまり、元のピッチを2つ下または2つ上の音符のノート名で表記できれば、最大2つの臨時記号グリフを使用して、同じ音符を4つの方法で表記できます。たとえば、F \sharp は2つの臨時記号グリフを使用しますが、トリプルフラットの臨時記号グリフは1つのため、B \flat はG \sharp の異名同音表記として使用できます。

手順

1. 楽譜領域で、臨時記号の表記を書き換えるレイアウトを開きます。

補足

フルスコアレイアウトで臨時記号を書き換えると、パートレイアウトの表記にも影響します。ただし、パートレイアウトで臨時記号を書き換えると、そのパートレイアウトのみの表記に影響しません。

2. 書き換える音符を選択します。

補足

タイのつながりの中の個々の符頭の表記を書き換える場合は、浄書モードにする必要があります。

3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した音符を書き換えます。

- 上に書き換えるには **[Alt/Opt]+^** を押します。
- 下に書き換えるには **[Alt/Opt]+[-]** を押します。

結果

選択した音符の異名同音表記が変更されます。

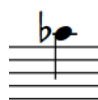
例



G シャープ



G シャープを下に書き換えた F のトリプルシャープ



G シャープを上書き換えた A フラット



G シャープを 2 回上に書き換えた B のトリプルフラット

関連リンク

[臨時記号 \(624 ページ\)](#)

[臨時記号の入力 \(192 ページ\)](#)

音程追加のポップオーバーで既存の音符を移調する

音程追加のポップオーバーを使用して、入力したあとの音符のピッチを変更できます。

手順

1. 移調する音符を選択します。
2. **[Shift]+[I]** を押して音程追加のポップオーバーを開きます。
3. 移調するピッチをポップオーバーに入力します。
たとえば、「**t3**」と入力すると音符が3度上に移調され、「**t-min6**」と入力すると音符がマイナー6th 下に移調されます。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

選択した音符が指定した度数だけ移調されます。

関連リンク

[音程追加のポップオーバー \(202 ページ\)](#)

リズムを変えずに音符のピッチを変更する

ピッチを変えてリズムを複製する場合など、音符を入力したあとにデュレーションを維持したまま音符のピッチを変更できます。

手順

1. ピッチを変更する最初の音符を選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. 複数の譜表の音符のピッチを同時に変更する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
4. **[L]** を押して「**デュレーションをロック (Lock to Duration)**」を有効にします。
5. ピッチを入力します。
6. 必要に応じて、**[L]** をもう一度押して「**デュレーションをロック (Lock to Duration)**」を無効にします。

補足

譜表上に存在する最後の音符に到達すると、「**デュレーションをロック (Lock to Duration)**」は自動的に無効になります。初期設定では、通常の音符入力の場合、「**デュレーションをロック (Lock to Duration)**」を有効にする前に選択していた音符の音価が引き続き使用されます。

結果

リズムを変えることなく、選択した譜表上の既存の音符のピッチが変更されます。たとえ譜表上の音符間に大きな休符があっても、キャレットは音符から音符へと自動的に進みます。

関連リンク

[キャレット \(171 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

選択範囲の移調

「**移調 (Transpose)**」ダイアログを使用すると、調号を含む選択範囲全体をまとめて移調できます。

手順

1. 記譜モードの楽譜領域で選択範囲を作成します。
2. 「**記譜 (Write)**」 > 「**移調 (Transpose)**」を選択して「**移調 (Transpose)**」ダイアログを開きます。
3. 音程や性質など、移調に必要なパラメーターを調節します。

ヒント

- たとえば G \flat メジャーから G メジャーに移動する場合など、「**間隔を算出 (Calculate interval)**」セクションを使用して必要な設定を判断することをおすすめします。
 - 音程が異なると使用できる性質が異なります。たとえば、メジャー 3 度は指定できますがメジャーオクターブは指定できません。そのため、移調パラメーターを手動で設定したい場合には、性質の前に音程を選択することをおすすめします。
4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

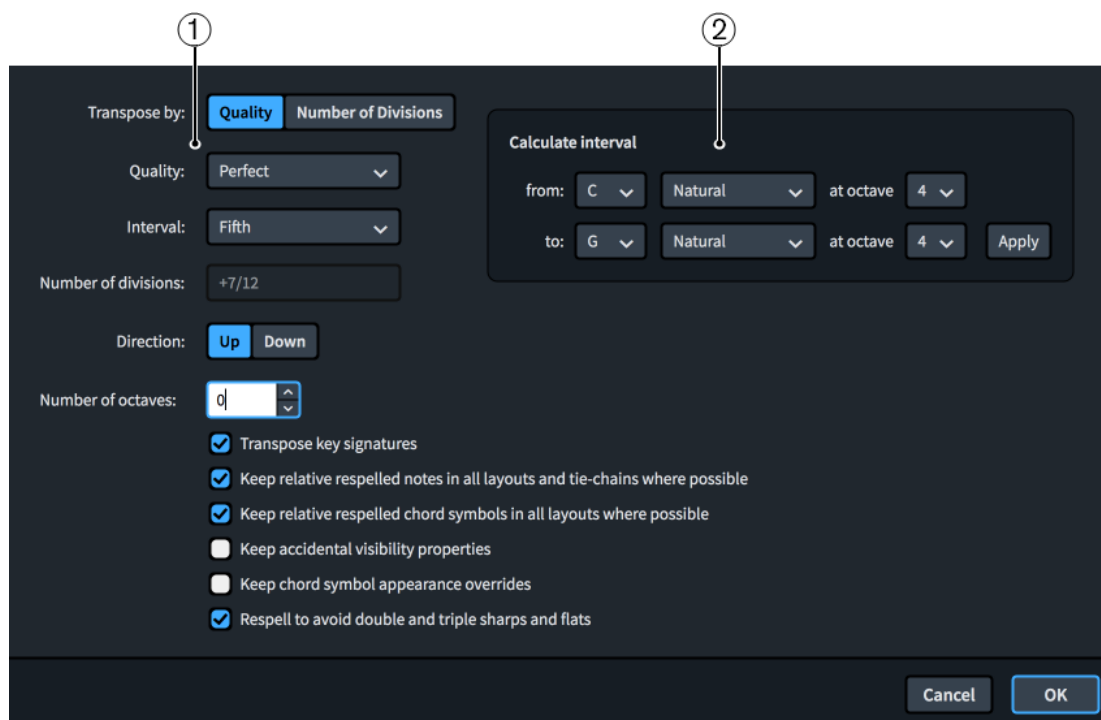
結果

選択範囲内のすべての音符が、「**移調 (Transpose)**」ダイアログで指定した音程またはオクターブの分割数に従い移調されます。選択範囲に調号が含まれており、「**調号を変更する (Transpose key signatures)**」をオンにしていた場合は、選択範囲内のすべての調号も移調されます。

「移調 (Transpose)」ダイアログ

「**移調 (Transpose)**」ダイアログを使用すると、選択した音符を調号も含めて同時に移調できます。音程や性質に応じて移調したり、設定したオクターブの分割数の分だけ移調したりできます。

- 「**移調 (Transpose)**」ダイアログは、記譜モードの楽譜領域で選択範囲を作成し、「**記譜 (Write)**」 > 「**移調 (Transpose)**」を選択すると開きます。



「移調 (Transpose)」 ダイアログ

「移調 (Transpose)」 ダイアログには以下のセクションがあります。

1 移調オプション

実行したい移調を指定できるオプションがあります。たとえば、メジャー 3 度などの音程の性質で移調するよう選択したり、設定したオクターブの分割数で移調するよう選択したりできます。移調の方向、オクターブを含めるかどうか、および選択範囲を移調する音程と性質または区切りの数を選択できます。

表記規則によれば、音程が異なると使用できる性質が異なります。たとえば、メジャー 3 度は指定できますがメジャーオクターブは指定できません。そのため、性質の前に音程を選択することをおすすめします。

その他のオプションでは、選択範囲に含まれる調号を移調したり、関連する変更された音符とコード記号を可能な限り保持したり、二重臨時記号や三重臨時記号を回避したりできます。

補足

「ダブルまたはトリプルシャープ/フラットを避けるように書き換え (Respell to avoid double and triple sharps and flats)」を使用できるのは、12-EDO と互換性のある調性システムで楽譜を移調する場合のみです。

2 間隔を算出 (Calculate interval)

開始位置の音符と移調後の音符に従って移調オプションを設定できます。たとえば、選択範囲が C ナチュラルから G# になるように移調したい場合、そのために必要な音程と性質がわからなければ、「間隔を算出 (Calculate interval)」セクションにこれら 2 つの音符を入力して「適用 (Apply)」をクリックすると、Dorico Pro が自動的に必要な移調オプションを設定してくれます。

補足

「移調 (Transpose)」 ダイアログでは、トリプルシャープよりもシャープが多くなるなど、記譜ができなくなる移調や、選択範囲の位置の調性システムに存在しない微分音の臨時記号が必要になる移調は行なえません。

関連リンク

[音程追加のポップオーバー \(202 ページ\)](#)

[オクターブの均等な分割 \(EDO\) \(860 ページ\)](#)
[調性システム \(859 ページ\)](#)

MIDI 録音

MIDI 録音は、MIDI デバイスでリアルタイムに音符を演奏することで Dorico Pro に音符を入力する方法です。この方法は、たとえばピッチや音符のデュレーションをあらかじめ計画するのではなく、楽譜を即興で作成したい場合に特に便利です。

Dorico Pro では、任意の MIDI デバイスを使用して MIDI ノートを記録できます。ただし、Dorico Pro を起動する前にデバイスをコンピューターに接続しておく必要があります。

音符入力以外では、MIDI デバイスで演奏した音符に対して、最後に選択したインストゥルメントのサウンドが使用されます。最後に選択したインストゥルメントは、再生モードでは、最後にクリックしたトラックヘッダーです。記譜モードでは、アイテムの選択、音符入力の開始、または MIDI 録音を最後に行なったインストゥルメントの譜表です。音符入力中は、常に音符を録音しているインストゥルメントのサウンドが使用されます。

ヒント

たとえば、MIDI キーボードでの演奏時に Dorico Pro でサウンドを再生したくない場合など、「**環境設定 (Preferences)**」の「**再生 (Play)**」のページで MIDI thru の有効/無効を切り替えることができます。

MIDI デバイスで音符を演奏する際に、Dorico Pro は演奏された音符に対して正しい異名同音を生成するアルゴリズムを使用します。

関連リンク

[MIDI 録音の最適化 \(212 ページ\)](#)
[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

MIDI 録音を使用した音符の入力

MIDI デバイスのリアルタイムの演奏を録音することで音符を入力できます。音符の録音は、実音または移調音のどちらでもできます。

前提条件

- 使用する MIDI デバイスを接続しておきます。
- 「**MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)**」ダイアログで、録音する楽譜に適したクオンタイズオプションを設定しておきます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**再生 (Play)**」ページにある「**録音 (Recording)**」サブセクションで、録音する楽譜に適したオプションを設定しておきます。
- 録音する楽譜の分量に対して十分な小節または空のスペースを入力しておきます。Dorico Pro は小節やスペースを自動的に追加しません。
- 録音中にクリックを再生するには、拍子記号を入力しておきます。拍子記号がない場合、または自由拍子の場合はクリックは鳴りません。
- 適切なピッチの入力設定を選択しておきます。

手順

1. 音符を録音する譜表トラックまたはインストゥルメントトラックで、録音を開始する位置の音符または休符を選択します。この操作は記譜モードおよび再生モードで行なえます。

補足

- 再生モードでは、休符は選択できません。つまり、少なくとも 1 つの音符がすでに含まれているインストゥルメントトラックにのみ録音できます。

- 音符の入力中に MIDI を録音することもできますが、この場合、大譜表を使用するインストゥルメントの 2 つの譜表を使用することはできません。
2. 譜表上の既存の音符を上書きすることなく音符を録音したい場合は、**[Q]** を押して「和音 (Chords)」をオンにします。
 3. 譜表上の特定の声部に録音したい場合は、**[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始したあと、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 録音する声部がすでに譜表上にある場合は、キャレットの横の音符記号が正しい声部を示すまで **[V]** を押します。
 - 録音する声部がまだ譜表上にない場合は、キャレットの横の音符記号が正しい声部を示すまで **[Shift]+[V]** を押します。
 4. **[Ctrl]/[command]+[R]** を押して録音を開始します。
録音中は再生ヘッドが赤で表示され、時間とともに移動します。初期設定では、再生ヘッドが選択したアイテムまたはキャレットの位置に到達するまでに 1 小節のカウントインがあります。
 5. 入力する音符を MIDI デバイスで演奏します。
記譜モードでは、録音を停止するまで譜表上に楽譜は表示されません。再生モードでは、音符がピアノロールにリアルタイムに表示されます。
 6. **[Space]** 又は **[Enter]** または **[Ctrl]/[command]+[R]** を押して録音を停止します。
-

結果

MIDI デバイスで演奏した音符が選択した譜表に入力されます。声部を指定しなかった場合、録音した音符は譜表上の最初の声部に録音されます。これは通常、符尾が上向きの最初の声部です。「和音 (Chords)」をオンにした場合、演奏した音符は既存の音符を上書きすることなく、譜表上の最初の声部に統合されます。

記譜される音符のデュレーションはクオンタイズ設定に従いますが、演奏時のデュレーションは再生用に保持されます。

手順終了後の項目

演奏した音符が意図したとおりに記譜されない場合は、それらを再クオンタイズできます。

関連リンク

- [MIDI 入力デバイスの無効化 \(214 ページ\)](#)
- [カウントインの長さの変更 \(211 ページ\)](#)
- [ピッチの入力設定の変更 \(178 ページ\)](#)
- [MIDI 録音/インポートでのサスティンペダルコントローラー設定の変更 \(213 ページ\)](#)
- [MIDI 録音のリピート \(210 ページ\)](#)
- [小節と小節線の入力方法 \(237 ページ\)](#)
- [拍子記号の入力方法 \(226 ページ\)](#)
- [複数の声部への音符の入力 \(183 ページ\)](#)
- [「MIDI クオンタイズオプション \(MIDI Quantize Options\)」ダイアログ \(84 ページ\)](#)

演奏時に録音しなかった音符を取得する

再生中、MIDI キーボードで音符を演奏し、それらをスコアに記録することなく聴くことができます。非録音時の MIDI 入力データを記録すると、音符を明示的に録音していなくても、演奏した音符を取得してプロジェクトに入力できます。

前提条件

再生を開始し、再生に合わせて MIDI デバイスで音符を演奏して、再生を停止しておきます。

手順

1. 取得した音符を入力する位置にある、譜表上の音符または休符を選択します。

2. 譜表上の既存の音符を上書きすることなく取得した音符を入力したい場合は、**[Q]** を押して「**和音 (Chords)**」をオンにします。
3. **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[R]** を押します。

結果

前回の再生中に MIDI デバイスで演奏したすべての音符が、選択した位置を開始点として選択した譜表に入力されます。初期設定では、これらの音符は譜表上の最初の声部に入力され、その声部の既存の音符は上書きされます。「**和音 (Chords)**」をオンにした場合、取得した音符は既存の音符を上書きすることなく、譜表上の最初の声部に統合されます。

補足

非録音時の MIDI 入力データの記録のバッファは再生を開始するたびに消去されるため、直前の再生より前に演奏した音符は取得できません。

関連リンク

[楽譜の再生](#) (550 ページ)

MIDI 録音のリピート

リピート小節線などの反復記号を含むフローに MIDI を録音すると、Dorico Pro はそれぞれのリピート中に演奏された音符を録音し、それらを同じ声部に統合します。

録音間で異なるリズムは、現在の拍子に従って記譜されます。

音符の再クオンタイズ

たとえば、MIDI の読み込みや MIDI デバイスを使用した音符の録音を行なったあとで、記譜されたリズムを変更する必要が生じた場合などに、さまざまなクオンタイズ設定を使用して音符を再クオンタイズできます。これは、再生時における音符の演奏されるデュレーションには影響しません。

手順

1. 再クオンタイズする音符をすべて選択します。この操作は記譜モードおよび再生モードで行なえます。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**再クオンタイズ (Requantize)**」を選択して「**MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)**」ダイアログを開きます。
3. 選択した音符に対して適切にクオンタイズ設定を変更します。
4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択したすべての音符の記譜されたデュレーションが、設定したクオンタイズオプションに従って変更されます。これは、再生時の演奏されるデュレーションには影響しません。

関連リンク

[「MIDI クオンタイズオプション \(MIDI Quantize Options\)」ダイアログ](#) (84 ページ)

クリック設定の変更

MIDI 録音中に常に使用されるメトロノームクリックのピッチ、音量、分割を変更できます。再生中は、メトロノームを有効にした場合のみクリックが鳴ります。

初期設定では、Dorico Pro はメトロノームクリックの拍を複合拍子でのみ分割し、メトロノームクリック音にはビーブを使用します。ビーブは小節の最初の拍のピッチが高く、2 拍め以降はピッチが低く、音量が小さくなります。分割された拍はピッチがさらに低くなります。

クリックは DoricoBeep と呼ばれるトーンジェネレーターによって発音されます。クリックに使用するデバイスは、再生モードの**タイムトラック**のヘッダーで変更できます。

補足

拍子記号がない場合、または自由拍子の場合にはクリックは鳴りません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. ページリストの「**クリック (Click)**」をクリックします。
3. 「**メトロノームクリック (Metronome Click)**」セクションの「**拍の分割 (Beat subdivisions)**」で、以下のオプションをオンまたはオフにします。
 - **単純拍子で拍を分割 (Subdivide beats in simple time signatures)**
 - **複合拍子で拍を分割 (Subdivide beats in compound time signatures)**
4. 「**クリック音 (Click sound)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **クリック (Click)** (無音程)
 - **ビーブ (Beep)** (有音程)
5. 「**ピッチとベロシティー (Pitch and velocity)**」で、以下のタイプの拍について、「**MIDI ピッチ (MIDI pitch)**」または「**ベロシティー (Velocity)**」あるいはその両方の値を変更します。
 - **1 拍目 (First beat)**
 - **2 拍目以降 (Subsequent beats)**
 - **分割された拍 (Beat subdivisions)**
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

現在のプロジェクトのメトロノームクリックのピッチ、音量、分割の設定が変更されます。

関連リンク

- [拍子記号のタイプ \(1253 ページ\)](#)
- [拍子記号の入力方法 \(226 ページ\)](#)
- [再生テンプレート \(567 ページ\)](#)
- [楽譜の再生 \(550 ページ\)](#)
- [タイムトラック \(538 ページ\)](#)

カウントインの長さの変更

プロジェクトごとに、録音を開始する前のカウントインに使用するデフォルトの小節数を変更できます。初期設定では、カウントインは 1 小節です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. ページリストの「**クリック (Click)**」をクリックします。
3. 「**カウントイン (Count-in)**」セクションで、「**カウントインの小節数 (Number of bars count-in)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

現在のプロジェクトのカウントインのデフォルトデュレーションが変更されます。

MIDI 録音の最適化

録音に使用するオペレーティングシステムや MIDI デバイスによっては、録音した音符が意図したデュレーションで、または意図した位置に記譜されないことがあります。MIDI 録音に関する設定を最適化することで、よりよい結果を得られる場合があります。

MIDI デバイスのキーを押してから Dorico Pro が音符を記譜するまでの間にレイテンシーが生じる場合があるため、たとえば 4/4 の拍子記号で 4 分音符を録音するなど、クリックに対して単純なリズムを入力してレイテンシーを確認することをおすすめします。

その結果に応じて、各種設定を変更します。

- 16 分音符が 8 分音符として記譜されるなど、音符が誤ったデュレーションで記譜される場合は、「**MIDI クオンタイズオプション (MIDI Quantize Options)**」ダイアログでクオンタイズ設定を変更することをおすすめします。
- 音符が拍より前に記譜される場合は、レイテンシーの補正の値を大きくすることをおすすめします。
- 音符が拍より遅れて記譜される場合は、ドロップアウトを起こすことなく安定した再生を行なえる範囲内で、オーディオデバイスのバッファサイズをできるだけ小さくすることをおすすめします。

補足

Windows コンピューター内蔵のオーディオデバイスでは、リアルタイムで安定した入力を行なうための十分な低レイテンシーを実現できない場合があります。そのような場合は、ASIO 対応の外付け USB オーディオインターフェースを使用することをおすすめします。

関連リンク

[「MIDI クオンタイズオプション \(MIDI Quantize Options\)」ダイアログ \(84 ページ\)](#)

[MIDI 録音/インポートでのサスティンペダルコントローラー設定の変更 \(213 ページ\)](#)

MIDI レイテンシーの補正の値を変更する

MIDI レイテンシーの補正の値を変更して、MIDI 録音中にキーを押したタイミングと、対応する音符の拍に対する記譜位置の差を補正できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**再生 (Play)**」をクリックします。
3. 「**録音 (Recording)**」サブセクションで、「**MIDI 入力 of レイテンシーの補正 (MIDI input latency compensation)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

レイテンシーの補正の値を大きくすると、キーを押してから記譜するまでの時間が長くなります。これは、録音する音符が拍より前に記譜されたことがある場合に便利です。

レイテンシーの補正の値を小さくすると、キーを押してから記譜するまでの時間が短くなります。これは、録音する音符が拍より後ろに記譜されたことがある場合に便利です。

オーディオデバイスのバッファサイズを変更する

現在のバッファサイズが原因で、MIDI 録音を使用した音符入力が拍から大幅に遅れて表示される場合などに、オーディオバッファサイズを変更できます。

補足

- MIDI 録音中に演奏した音符が拍より遅れて記譜される場合は、ドロップアウトを起こすことなく安定した再生を行なえる範囲内で、オーディオデバイスのバッファサイズをできるだけ小さくすることをおすすめします。
- Windows コンピューター内蔵のオーディオデバイスでは、リアルタイムで安定した入力を行なうための十分な低レイテンシーを実現できない場合があります。そのような場合は、ASIO 対応の外付け USB オーディオインターフェースを使用することをおすすめします。

手順

1. 「編集 (Edit)」 > 「デバイス設定 (Device Setup)」を選択して「デバイス設定 (Device Setup)」ダイアログを開きます。
2. 「デバイス設定 (Device Setup)」ダイアログで、バッファサイズを変更するオーディオデバイスを「ASIO ドライバー (ASIO Driver)」メニューから選択します。
3. 「デバイスコントロールパネル (Device Control Panel)」をクリックして、選択したオーディオデバイスのデバイス設定ダイアログを開きます。
4. オーディオデバイスの設定ダイアログで、お使いのオペレーティングシステムに応じて以下のいずれかの操作を行ない、バッファサイズを変更します。
 - Windows の場合は、「オーディオバッファサイズ (Audio buffer size)」セクションでスライダーを別の位置にドラッグするか、「手動設定 (User definable)」をオンにして「設定バッファサイズ (Selected buffer size)」フィールドの値を変更します。
 - macOS の場合は「Buffer Size」メニューからサンプリングレートを選択します。
5. 「OK」 (Windows)/ 「閉じる (Close)」 (macOS) を押してオーディオデバイスの設定ダイアログを閉じます。
6. 「閉じる (Close)」をクリックして「デバイス設定 (Device Setup)」ダイアログを閉じます。

MIDI 録音/インポートでのサスティンペダルコントローラー設定の変更

MIDI 録音時や MIDI ファイルのインポート時に、サスティンペダルコントローラーがペダル線として解釈されるかどうかのデフォルト設定を変更できます。

補足

以下のオプションは「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログでも使用可能で、設定内容はこのダイアログと「環境設定 (Preferences)」でリンクされます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. ページリストの「再生 (Play)」をクリックします。
3. 「録音 (Recording)」サブセクションで「CC64 をペダル線として読み込む (Import CC64 as pedal lines)」をオン/オフにします。
4. 「CC64 をペダル線として読み込む (Import CC64 as pedal lines)」をオンにした場合は、必要に応じて「ペダル線を前の拍にスナップする (Snap pedal lines to previous beat)」をオン/オフにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

「**CC64 をペダル線として読み込む (Import CC64 as pedal lines)**」がオンの場合は、MIDI コントローラー CC64 はペダル線として解釈されます。

「**ペダル線を前の拍にスナップする (Snap pedal lines to previous beat)**」がオンの場合は、ペダル線の開始位置が拍の最初に自動的に移動されます。

関連リンク

[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」ダイアログ \(83 ページ\)](#)

MIDI 入力デバイスの無効化

初期設定では、Dorico Pro は仮想 MIDI ケーブルやアプリケーション間バスを含め、接続されたすべての MIDI デバイスから MIDI 入力を受け入れます。たとえば、MIDI データを絶え間なく出力するデバイスを使用する場合や、特定のデバイスから別のアプリケーションへのルーティングを排他的に維持したい場合など、MIDI デバイスを個別に無効化できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
 2. ページリストの「**再生 (Play)**」をクリックします。
 3. 「**録音 (Recording)**」サブセクションで、「**MIDI 入力デバイス (MIDI Input Devices)**」をクリックします。
 4. 「**MIDI 入力デバイス (MIDI Input Devices)**」ダイアログで、無効にする MIDI 入力デバイスのチェックボックスをオフにします。
 5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
 6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

記譜記号の入力

さまざまな種類の記譜記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。Dorico Pro における記譜記号とは、アーティキュレーション、スラー、強弱記号などのさまざまなアイテムを指す幅広い用語です。

アーティキュレーションの入力

音符の入力中にアーティキュレーションの付いた音符を入力したり、音符の入力後にアーティキュレーションを追加したりできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - アーティキュレーションを追加する既存の音符を選択します。
 2. アーティキュレーションの付いた音符を複数の譜表に同時に入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
 3. 以下のいずれかの操作を行なって、入力するアーティキュレーションを選択します。
 - 入力するアーティキュレーションのキーボードショートカットを押します。
 - 音符パネルで、入力するアーティキュレーションをクリックします。
 4. 必要に応じて、選択したアーティキュレーションを追加する音符または和音を入力します。
-

結果

選択した音符に選択したアーティキュレーションが追加されます。アーティキュレーションは、符頭と連符の角括弧との間または符尾と連符の角括弧の間、つまり連符の角括弧または数や比率よりも音符の近くに配置されます。

音符の入力中は、アーティキュレーションをオフにするまで、入力するすべての音符に選択したアーティキュレーションが追加されます。

補足

アーティキュレーションには、同じ音符に追加できない組み合わせがあります。たとえば、スタッカートマークとスタッカティッシモマークはどちらも音符を短く演奏することを指示するため、これらのアーティキュレーションは同じ音符に追加できません。

手順終了後の項目

一方の声部にスラーがあり、もう一方の声部にスタッカートがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にできます。

関連リンク

[アーティキュレーション](#) (634 ページ)

[音符の入力](#) (171 ページ)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす](#) (175 ページ)

[声部の個別再生の有効化](#) (551 ページ)

アーティキュレーションのキーボードショートカット

音符パネルでアーティキュレーションをクリックするほかに、コンピューターのキーボードでキーボードショートカットを押すことでも、一般的なアーティキュレーションは入力できます。

キーボードで以下のキーボードショートカットを使って、アーティキュレーションを入力できます。

アーティキュレーションのタイプ	キーボードショートカット
アクセント: >	[@]
マルカート: ^	[:]
強勢: `	、
無強勢: ´	[*]
スタッカート: ~	[]
テヌート: -	[]
スタッカティッシモ: †、または ‡	[{}]
テヌートスタッカート: ~†	[{}]

関連リンク

[アーティキュレーション](#) (634 ページ)

スラーの入力

スラーは音符の入力中に入力することも、既存の音符に追加することもできます。複数の譜表にある既存の音符に同時にスラーを追加することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。
- スラーを追加する音符を選択します。

ヒント

- 複数の譜表の音符を選択して、スラーを同時に入力できます。
- 音符を1つだけ選択した場合、その音符と譜表上の次の音符がスラーでつながれます。

2. 複数の譜表に同時にスラーを入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。

3. **[S]** を押します。

ヒント

または、音符パネルで「スラー (Slur)」を選択し、クリックアンドドラッグで任意の長さのスラーを描きます。

4. 音符の入力中は、使用する音符を入力します。

入力する音符間に休符が含まれていたとしても、スラーは自動的に延びていきます。

5. 必要に応じて、音符の入力中に **[Shift]+[S]** を押すと、現在選択している音符でスラーが終了します。

結果

音符の入力中は、スラーはキャレットの位置からではなく、キャレットが伸びているすべての譜表上の現在選択している音符から始まります。音符を入力するとスラーが自動的に延長され、現在選択している音符で終了します。

既存の音符にスラーを追加すると、選択した音符がスラーでつながれます。たとえば、1つの譜表上の2つの音符と別の譜表上の2つの音符を選択した場合は、2つのスラーが入力されます。選択したそれぞれの譜表上で、音符がスラーでつながれます。

手順終了後の項目

一方の声部にスラーがあり、もう一方の声部にスタッカートがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にできます。

関連リンク

[スラー \(1132 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

[再生時のスラー \(1158 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

フィンガリングの入力

フィンガリングのポップオーバーを使用して、既存の音符にフィンガリングを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

補足

- 複数の位置にある音符に同時にフィンガリングを追加することはできません。また、入力できるフィンガリングの数は、その位置にある音符の数と同じです。たとえば、3つの音符を含む和音の位

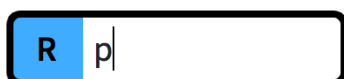
置には3つのフィンガリングを入力できますが、単一音符の位置に入力できるフィンガリングは1つのみです。

- 複数の声部の音符を選択した場合、フィンガリングは一番上の声部にのみ入力されます。
- 替え指のフィンガリングには2つの数字が含まれていますが、これらは1つのフィンガリングと見なされるため、1つの音符に追加できます。

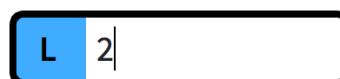
手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - フィンガリングを追加する既存の音符を選択します。
和音のすべての音符にフィンガリングを追加するには、和音のすべての音符を選択します。
2. **[Shift]+[F]** を押してフィンガリングのポップオーバーを開きます。
3. フレット楽器のフィンガリングを入力する場合、必要に応じて以下のいずれかの方法で手を変更します。
 - 右手に切り替えるには、**[↓]** を押します。
 - 左手に切り替えるには、**[↑]** を押します。

ポップオーバーのアイコンが更新され、現在の手が表示されます。



右手のフィンガリングを入力中のフィンガリングのポップオーバー



左手のフィンガリングを入力中のフィンガリングのポップオーバー

4. 使用するフィンガリングをポップオーバーに入力します。
例:
 - 第3指から第2指への替え指を指定するには「**3-2**」と入力します。
 - 和音を指定するには「**1,3,5**」と入力します。
 - バルブ式金管楽器で最初の2つのバルブを押さえることを示すには、「**12**」と入力します。
 - 右手の親指のフィンガリングは「**p**」、左手の親指のフィンガリングは「**t**」と入力します。
5. 既存の音符にフィンガリングを追加する場合、以下のいずれかの操作を行なってポップオーバーを移動します。
 - ポップオーバーを現在の声部の次の音符/和音に進めるには、**[Space]** を押します。
 - ポップオーバーを現在の声部の前の音符/和音に戻すには、**[Shift]+[Space]** を押します。
 - ポップオーバーを現在の声部の次の小節にある最初の音符/和音に進めるには、**[Tab]** を押します。
 - ポップオーバーを現在の声部の前の小節にある最初の音符/和音に戻すには、**[Shift]+[Tab]** を押します。
 - カーソルとポップオーバーを現在の声部の右/左および次/前の音符またはフィンガリングに移動するには、**[→]**/**[←]** を押します。
6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

選択した音符にフィンガリングが入力されます(音符の入力中も可)。キャレットが表示された声部、または最初に選択した声部内の音符間をポップオーバーが移動します。

関連リンク

[フィンガリング \(800 ページ\)](#)

[替え指のフィンガリングの位置の変更 \(802 ページ\)](#)

[バルブ式金管楽器のフィンガリング \(822 ページ\)](#)

[フィンガリングの削除 \(808 ページ\)](#)

フィンガリングのポップオーバー

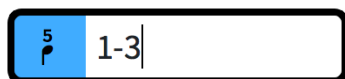
以下の表は、さまざまなタイプのフィンガリングを入力するためにフィンガリングのポップオーバーに入力できるエントリーの例です。フレット楽器とその他の楽器ではフィンガリングのポップオーバーの動作が異なるため、フレット楽器のフィンガリングは別の表に記載しています。

記譜モードでは、音符の選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、フィンガリングのポップオーバーを開くことができます。

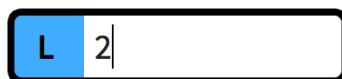
- **[Shift]+[F]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「フィンガリングを作成 (Create Fingerings)」を選択します。
- 記譜ツールボックスの「フィンガリング (Fingerings)」をクリックします。



フレット楽器以外の楽器のフィンガリングを入力する場合は、ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが記譜ツールボックスの対応するボタンと一致します。フレット楽器のフィンガリングを入力する場合は、ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが右手と左手のどちらのフィンガリングを入力しているかを示します。



フレット楽器以外の楽器のフィンガリングを入力するためのエントリーの例が入力されたフィンガリングのポップオーバー



左手のフレット楽器のフィンガリングのエントリーの例が入力されたフィンガリングのポップオーバー



記譜ツールボックスの「フィンガリング (Fingerings)」ボタン



右手のフレット楽器のフィンガリングのエントリーの例が入力されたフィンガリングのポップオーバー

鍵盤楽器と弦楽器

フィンガリングのタイプ

個々の音符用の単一のフィンガリング (金管楽器のバルブ番号やトロンボーンのスライドポジションを含む)

バルブ式金管楽器

ポップオーバーエントリーの例

「1」、「2」、「3」など

12

フィンガリングのタイプ	ポップオーバーエントリーの例
和音の各音符用の単一のフィンガリング	1,3,5
鍵盤楽器の場合、音符を演奏する指に応じて Dorico Pro が適切な番号を自動的に指示します。初期設定は以下のとおりです。	
<ul style="list-style-type: none"> • 上段の譜表は右手 • 下段の譜表は左手 	
左手のフィンガリング (フレット楽器以外)	「L2」、「G2」、「S5」、「I2」、または「H2」
右手のフィンガリング (フレット楽器以外)	「R5」、「D5」、または「M5」
親指の指示記号 (フレット楽器以外)	T
個々の音符に対する複数のフィンガリング (モルデントやターンなどの装飾音に使用)	2343
複数の音符に対する単一のフィンガリング: 隣接する2つの音符に同じフィンガリング番号を入力します。	1,1
たとえば、鍵盤楽器では親指で2つの鍵盤を同時に押すことがあります。	
代替フィンガリング	2(3)
補足	
代替フィンガリングを角括弧で表示するように選択している場合でも、ポップオーバーでは括弧を使用する必要があります。	
編者注によるフィンガリング	[4]
補足	
編者注によるフィンガリングを括弧で表示するように選択している場合でも、ポップオーバーでは角括弧を使用する必要があります。	
替え指	1-3
フレット楽器	
フィンガリングのタイプ	ポップオーバーエントリーの例
左手のフィンガリング	「0」、「1」、「2」、「3」、「4」、「5」
左手の親指	t

フィンガリングのタイプ	ポップオーバーエントリーの例
右手のフィンガリング	「1」、「2」、「3」、「4」、「5」 「p」、「i」、「m」、「a」、「e」
右手の親指	「p」、「t」、または「1」
右手の小指	「e」、「x」、「c」、「o」、または「5」

これらのリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くのフィンガリングがあります。このリストは、さまざまなタイプのフィンガリングを入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

補足

初期設定では、替え指はすぐ隣に表示されますが、据え置き of デュレーションを変更することで替え指の位置を変更できます。

フィンガリングのタイプごとの外観と位置は、「[浄書 \(Engrave\)](#)」 > 「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[フィンガリング \(Fingering\)](#)」ページで変更できます。

関連リンク

[フィンガリング \(800 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(801 ページ\)](#)

[替え指のフィンガリングの位置の変更 \(802 ページ\)](#)

[バルブ式金管楽器のフィンガリング \(822 ページ\)](#)

調号の入力方法

調号は、調号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、「[調号、調性システム、臨時記号 \(Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals\)](#)」パネルを使用してマウスで入力することもできます。

補足

特別な調号はパネルからのみ入力でき、ポップオーバーを使用して入力することはできません。

関連リンク

[調号 \(851 ページ\)](#)

調号のポップオーバー

以下の表は、さまざまな調号を入力するために調号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、調号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[K]** を押します。
- 既存の調号を選択して **[Return]** を押します。
- 「[記譜 \(Write\)](#)」 > 「[調号を作成 \(Create Key Signature\)](#)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された調号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」ボタン

調号のタイプ

オープンキーの調号または無調の調号

メジャーキー (大文字)

マイナーキー (小文字)

シャープの数

補足

このように多くのシャープを入力する場合はメジャーキーと見なされます。

フラットの数

補足

このように多くのフラットを入力する場合はメジャーキーと見なされます。

ポップオーバーエントリー

「open」または「atonal」

「C」、「D」、「G#」、「Ab」など

「g」、「d」、「f#」、「bb」など

「3s」、「2#」など

「4f」、「5b」など

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、他にも多くの調号を入力できます。このリストは、さまざまなタイプの調号を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

関連リンク

[調号 \(851 ページ\)](#)

調号、調性システム、臨時記号パネル

「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルでは、一般的な調号や特別な調号の作成と入力を行なえます。

- 「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」をクリックして表示/非表示にできます。

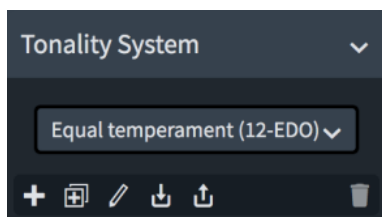


[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルには以下のセクションがあります。

調性 (Tonality System)

使用する調性システムを選択できるメニューと、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを開くオプションがあります。



調号、調性システム、臨時記号パネルの「調性 (Tonality System)」セクション

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規調性システム (New Tonality System):** カスタムの調性システムを新規作成して「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを開きます。

- **調性システムを複製 (Duplicate Tonality System):** 元のものとは別で編集できる既存の調性システムのコピーを作成し、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを開きます。

- **調性システムを編集 (Edit Tonality System):** 「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログを開き、選択した既存の調性システムを編集できます。

- **調性システムを読み込み (Import Tonality System):** エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、現在のプロジェクトに読み込む調性システムの .doricolib ファイルを選択できます。

- **調性システムを書き出し (Export Tonality System):** エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、選択した調性システムを .doricolib ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.doricolib ファイルを別のプロジェクトに読み込んで別のユーザーと共有できます。

- **調性システムを削除 (Delete Tonality System):** 選択した調性システムを削除します。


補足

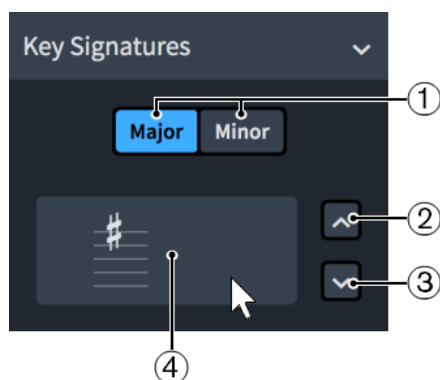
プリセットの調性システム、またはプロジェクト内で現在使用中の調性システムは削除できません。

フローで使用 (Used in This Flow)

フローで現在使用されているすべての調号が表示されます。

調号 (Key Signatures)

調号を作成できます。



調号、調性システム、臨時記号パネルの「調号 (Key Signatures)」セクション

「調号 (Key Signatures)」セクションには以下の部分があります。

1 長調 (Major)/短調 (Minor)

調号を「長調 (Major)」または「短調 (Minor)」のいずれかから選択できます。

2 シャープ増/フラット減 (More Sharps/Fewer Flats)

クリックするたびに調号にシャープの臨時記号が1つ追加されるか、調号からフラットの臨時記号が1つ削除されます。

3 シャープ減/フラット増 (Fewer Sharps/More Flats)

クリックするたびに調号からシャープの臨時記号が1つ削除されるか、調号にフラットの臨時記号が1つ追加されます。

4 調号の入力

調号が譜表上でどのように見えるかが表示されます。このボタンをクリックすると、表示されている調号が入力されます。プロジェクト内でなにも選択されていない場合は、調号はマウスポインターに読み込まれます。

特別な調号 (Custom Key Signatures)

現在選択している調性システムに対して作成した特別な調号が表示されます。

臨時記号 (Accidentals)

現在選択している調性システムで使用できるすべての臨時記号が表示されます。

関連リンク

[調号 \(851 ページ\)](#)

[カスタムの調性システム \(862 ページ\)](#)

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(866 ページ\)](#)

[カスタムの調性システムの作成 \(863 ページ\)](#)

ポップオーバーを使った調号の入力

調号のポップオーバーを使用して調号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。調号を1つの譜表だけに入力することもできます。

補足

- 特別な調号はポップオーバーを使用して入力することはできず、パネルからのみ入力できます。
- 移調レイアウトの移調楽器には適切な調号が自動的に表示されるため、移調楽器に別の調号を入力する必要はありません。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。

- 調号を入力する位置にあるアイテムを選択します。単一の譜表に調号を入力するには、その譜表に属するアイテムだけを選択します。
2. 特定の複数の譜表に同時に調号を入力する場合は、それらの譜表にカーレットを伸ばします。
 3. **[Shift]+[K]** を押して調号のポップオーバーを開きます。
 4. 使用する調号をポップオーバーに入力します。
たとえば、Gマイナーの場合は「g」、シャープ3つの場合は「3s」を入力します。

補足

「3s」を入力すると、F#マイナーではなくAメジャーの調号が作成されます。

5. 以下のいずれかの操作を行なって、調号を入力してポップオーバーを閉じます。
 - すべての譜表に調号を入力するには、**[Return]** を押します。
 - 選択した譜表またはカーレットが伸びている譜表にのみ調号を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。

結果

音符の入力中、小節の途中であっても、カーレットの位置に調号が入力されます。ただし、調号の変更は小節線の位置に入力することをおすすめします。

その後ろに入力した音符は、次の調号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した調号に従います。MIDI キーボードを使用して音符を再生した場合、調号に基づいて臨時記号が表記されます。

楽譜に調号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。調号は、小節の途中であっても、小節線と音部記号の右側、その他のアイテムの左側に表示されます。既存の調号を選択した場合、その調号が新しい調号に直接置き換わります。

補足

単一の譜表の個別の調号は、移調楽器用ではありません。移調楽器の場合、音符および調号の移調は自動的に行なわれます。

関連リンク

- [複数の譜表にカーレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)
- [調号のポップオーバー \(220 ページ\)](#)
- [MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(193 ページ\)](#)
- [調号 \(851 ページ\)](#)
- [プロジェクト全体における調号の間隔のスペーシング \(855 ページ\)](#)
- [調号の位置の移動 \(856 ページ\)](#)
- [移調楽器 \(118 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調/非移調の設定 \(140 ページ\)](#)
- [調性システムの変更 \(860 ページ\)](#)

パネルを使った調号の入力

「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルを使用して調号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。調号を1つの譜表だけに入力することもできます。


補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。
- 移調レイアウトの移調楽器には適切な調号が自動的に表示されるため、移調楽器に別の調号を入力する必要はありません。

前提条件

入力する特別な調号を、必要に応じてカスタムの調性システムに作成しておきます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 調号を入力する位置にあるアイテムを選択します。単一の譜表に調号を入力するには、その譜表に属するアイテムだけを選択します。
 2. 記譜ツールボックスで、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。

 3. 使用する調号を現在のフローでまだ使用していない場合は、調号、調性システム、臨時記号パネルの「**調号 (Key Signatures)**」エディターを使用して入力する調号を作成します。
 4. 以下のいずれかの操作を行なって、必要な調号を入力します。
 - すべての譜表に調号を入力するには、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルで入力する調号をクリックします。
 - 選択した譜表のみに調号を入力するには、**[Alt/Opt]** を押しながら「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」パネルで入力する調号をクリックします。
-

結果

音符の入力中、小節の途中であっても、キャレットの位置に調号が入力されます。ただし、調号の変更は小節線の位置に入力することをおすすめします。

その後ろに入力した音符は、次の調号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した調号に従います。MIDI キーボードを使用して音符を再生した場合、調号に基づいて臨時記号が表記されます。

楽譜に調号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。調号は、小節の途中であっても、小節線と音部記号の右側、その他のアイテムの左側に表示されます。既存の調号を選択した場合、その調号が新しい調号に直接置き換わります。

補足

単一の譜表の個別の調号は、移調楽器用ではありません。移調楽器の場合、音符および調号の移調は自動的に行なわれます。

関連リンク

- [調号 \(851 ページ\)](#)
- [調号、調性システム、臨時記号パネル \(221 ページ\)](#)
- [プロジェクト全体における調号の間隔のスペーシング \(855 ページ\)](#)
- [MIDI 入力中の臨時記号の選択 \(193 ページ\)](#)
- [調号の位置の移動 \(856 ページ\)](#)
- [マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)
- [移調楽器 \(118 ページ\)](#)
- [レイアウトの移調/非移調の設定 \(140 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システム \(862 ページ\)](#)
- [特別な調号 \(872 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システムの作成 \(863 ページ\)](#)
- [特別な調号を作成/編集する \(865 ページ\)](#)
- [調性システムの変更 \(860 ページ\)](#)

拍子記号の入力方法

拍子記号は、拍子記号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、拍子記号 (拍子) パネルを使用してマウスで入力することもできます。

補足

ほとんどのタイプのカスタム拍子記号は拍子記号 (拍子) パネルの「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」セクションを使用して作成できますが、拍子記号のポップオーバーでしか作成できない拍子記号もあります。たとえば、分割された拍は拍子記号のポップオーバーでしか指定できません。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

[拍子記号 \(1251 ページ\)](#)

[拍子記号のタイプ \(1253 ページ\)](#)

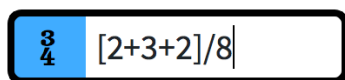
拍子記号のポップオーバー

以下の表は、さまざまなタイプの拍子記号を入力するために拍子記号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、拍子記号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[M]** を押します。
- 既存の拍子記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「**記譜 (Write)**」 > 「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された拍子記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「**拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))**」ボタン

拍子記号のタイプ

単純拍子の拍子記号

2/4、6/8、3/4、5/4 など。

弱起 (アフタクト) 付きの拍子記号

付点 4 分音符の弱起が付いた 4/4 の小節や、8 分音符 2 つ分の弱起が付いた 6/8 の小節など。

6/8+3/4 などの交互拍子の拍子記号

ポップオーバーエントリー

「2/4」、「6/8」、「3/4」、「5/4」など

「4/4,1.5」、「6/8,2」など

6/8 + 3/4

補足

プラス記号の両側にスペースを入れる必要があります。

拍子記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
コモンタイム (4/4 に相当)	c
カットコモンタイム (2/2 に相当)	「cutc」または「¢」
X で表示された自由拍子の拍子記号	「X」または「x」
表示のない自由拍子の拍子記号	open
補足	
自由拍子の位置に拍子記号ガイドが表示され ます。	
明示的な拍グループを使用した加算的な拍子記号	「3+2+2/8」、「3+2/4」など
拍のグループを指定するが拍子記号には表示し ない	[2+3+2]/8
たとえば、7/8 の拍子記号が表示されますが、 連符は 8 分音符 2+3+2 に分割されます。	
異なる拍子間の区切りを表わす破線の小節線が各 小節に表示された結合拍子の拍子記号	2/4 6/8
各小節に破線の小節線は表示されていない結合拍 子の拍子記号	2/4:6/8
さまざまなスタイル (括弧、スラッシュ、等号、ダ ッシュ) を使用した入れ替え可能な拍子の拍子記 号	「2/4 (6/8)」、「2/4 / 6/8」、「2/4 = 6/8」、または 「2/4 - 6/8」
補足	
スラッシュ、等号、ダッシュの両側および開始括 弧の前にはスペースを入れる必要があります。	

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くの拍子記号がありま
す。このリストは、さまざまな拍子記号を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すこ
とを目的としています。

関連リンク
[拍子記号 \(1251 ページ\)](#)

拍子記号 (拍子) パネル

拍子記号 (拍子) パネルでは、さまざまな拍子記号を入力できます。このパネルの「**拍子記号を作成
(Create Time Signature)**」セクションでは、珍しい拍子記号を作成できます。

- 拍子記号 (拍子) パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**拍子記号
(拍子) (Time Signatures (Meter))**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

拍子記号 (拍子) パネルには以下のセクションがあります。

フローで使用 (Used in This Flow)

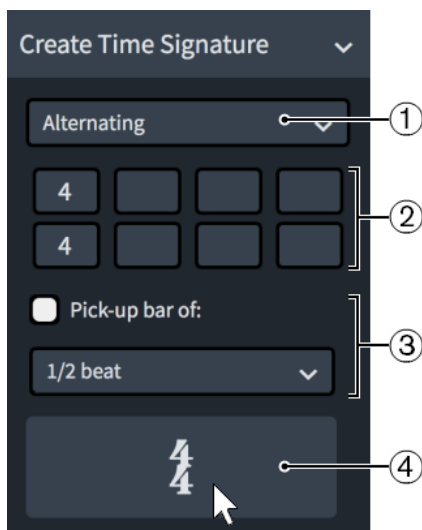
現在のフローで既に使用されている拍子記号が表示されます。

一般 (Common)

4/4、3/4、6/8、7/8 などの一般的な拍子記号が表示されます。

拍子記号を作成 (Create Time Signature)

交互拍子の拍子記号や結合拍子の拍子記号など、独自の拍子記号をデザインできます。



拍子記号 (拍子) パネルの「拍子記号を作成 (Create Time Signature)」セクション

「拍子記号を作成 (Create Time Signature)」セクションには以下の部分があります。

1 拍子記号のタイプメニュー

以下のいずれかの拍子記号タイプを選択できます。

- 「Regular」
- 入れ替え可能な拍子 (Interchangeable)
- 結合拍子 (Aggregate)
- 交互拍子 (Alternating)

2 拍子記号スペース

最大 4 つの拍子記号を組み合わせることができます。たとえば、標準拍子には 1 つの拍子記号しか指定できませんが、交互拍子の拍子記号には 3 つの拍子記号を指定しても構いません。

3 アウフタクトの拍数 (Pick-up bar of)

拍子記号の前に弱起 (アウフタクト) を含めることができます。弱起 (アウフタクト) は完全な小節ではないため、最初の完全な小節の前にいくつかの拍を含めることができます。

弱起 (アウフタクト) の拍数として、以下のいずれかのオプションを選択できます。

- 半拍 (1/2 beat)
- 1 拍 (1 beat)
- 2 拍 (2 beats)

4 拍子記号の入力ボタン

拍子記号が表示されたボタンをクリックすると、その拍子記号が入力されます。プロジェクトで何も選択されていない場合は、拍子記号がマウスポインターに読み込まれます。

関連リンク
[拍子記号 \(1251 ページ\)](#)

ポップオーバーを使った拍子記号の入力

拍子記号のポップオーバーを使用して拍子記号を入力できます (弱起 (アウフタクト) 付きの拍子記号を含む)。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。拍子記号を1つの譜表だけに入力することもできます。

補足

- 弱起 (アウフタクト) を入力するには、入力したい上拍を含む新しい拍子記号を入力する必要があります。たとえば、拍子記号のポップオーバーに「**4/4,1**」と入力すると、4分音符1つ分の上拍が付いた4/4の拍子記号が作成されます。

コンマのあとの数字は、拍子記号の分母で指定されたリズム単位の倍数を示します。たとえば、「**4/4,0.75**」と入力すると符点8分音符の上拍が作成され、「**6/8,2**」と入力すると8分音符2つ分の上拍が作成されます。

- 挿入モードがオンになっていない限り、新しい拍子記号に応じて小節を埋めるための拍が自動的に追加されることはありません。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 拍子記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。単一の譜表に拍子記号を入力するには、その譜表に属するアイテムだけを選択します。
2. 特定の複数の譜表に同時に拍子記号を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
3. 新しい拍子記号の影響を受ける領域の終わりに、必要に応じて拍が自動的に追加されるようにするには、**[I]** を押して挿入モードを有効にします。
4. **[Shift]+[M]** を押して拍子記号のポップオーバーを開きます。
5. 使用する拍子記号をポップオーバーに入力します。
たとえば、カスタム拍グループを使った7/8の拍子記号を入力するには「**[2+2+3]/8**」と入力し、4分音符1つ分の上拍が付いた4/4の拍子記号を入力するには「**4/4,1**」と入力します。
6. 以下のいずれかの操作を行なって、拍子記号を入力してポップオーバーを閉じます。
 - すべての譜表に拍子記号を入力するには、**[Return]** を押します。
 - 選択した譜表またはキュレットが伸びている譜表にのみ拍子記号を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。

結果

音符の入力中は、小節の途中であっても、キュレットの位置に拍子記号が入力されます。

楽譜に拍子記号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。拍子記号は、小節の途中であっても、小節線、調号、音部記号の右側、その他のアイテムの左側に表示されます。既存の拍子記号を選択した場合、その拍子記号が新しい拍子記号に直接置き換わります。

後続のすべての小節は、次の拍子記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した拍子記号に従います。Dorico Pro によって必要に応じて小節が自動的に入力および移動されるため、後続の楽譜の小節は正しくなります。

関連リンク
[拍子記号 \(1251 ページ\)](#)
[拍子記号のポップオーバー \(226 ページ\)](#)
[複数の譜表にキュレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

パネルを使った拍子記号の入力

拍子記号 (拍子) パネルを使用して拍子記号を入力できます (弱起 (アウフタクト) 付きの拍子記号を含む)。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。拍子記号を 1 つの譜表だけに入力することもできます。

補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。
- 挿入モードがオンになっていない限り、新しい拍子記号に応じて小節を埋めるための拍が自動的に追加されることはありません。

前提条件

必要に応じて、拍子記号 (拍子) パネルの「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」セクションで拍子記号を作成しておきます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 拍子記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。単一の譜表に拍子記号を入力するには、その譜表に属するアイテムだけを選択します。
2. 新しい拍子記号の影響を受ける領域の終わりに、必要に応じて拍が自動的に追加されるようにするには、**[I]** を押して挿入モードを有効にします。
3. 記譜ツールボックスで、「**拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))**」をクリックして拍子記号 (拍子) パネルを表示します。

3
4

4. 弱起 (アウフタクト) を入力する場合は、拍子記号 (拍子) パネルの「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」セクションで「**アウフタクトの拍数 (Pick-up bar of)**」をオンにして、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **半拍 (1/2 beat)**
 - **1 拍 (1 beat)**
 - **2 拍 (2 beats)**

補足

この方法ですべての長さの弱起 (アウフタクト) を入力できるわけではありません。たとえば、これら 3 つのオプションでは、6/8 の 8 分音符 1 つ分の上拍を作成することはできません。このような場合は、拍子記号のポップオーバーを使用する必要があります。

5. 以下のいずれかの操作を行なって、必要な拍子記号を入力します。
 - すべての譜表に拍子記号を入力するには、拍子記号 (拍子) パネルでその拍子記号をクリックします。
 - 選択した譜表のみに拍子記号を入力するには、**[Alt/Opt]** を押しながら拍子記号 (拍子) パネルでその拍子記号をクリックします。

結果

音符の入力中は、小節の途中であっても、キャレットの位置に拍子記号が入力されます。

楽譜に拍子記号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。拍子記号は、小節の途中であっても、小節線、調号、音部記号の右側、その他のアイテムの左側に表示されます。既存の拍子記号を選択した場合、その拍子記号が新しい拍子記号に直接置き換わります。

後続のすべての小節は、次の拍子記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置まで、入力した拍子記号に従います。Dorico Pro によって必要に応じて小節が自動的に入力および移動されるため、後続の楽譜の小節は正しくなります。

関連リンク

[拍子記号 \(1251 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[拍子記号 \(拍子\) パネル \(227 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

テンポ記号の入力方法

テンポ記号はテンポのポップオーバーを使用してキーボードで入力するか、テンポパネルを使用してマウスで入力するか、再生モードの**タイム**トラックで入力できます。テキストによる指示とメトロノームマークのいずれか、またはその2つを組み合わせたテンポ記号を入力できます。

関連リンク

[テンポ記号 \(1219 ページ\)](#)

[タイムトラック \(538 ページ\)](#)

[タイムトラックへのテンポ変更の入力 \(540 ページ\)](#)

テンポのポップオーバー

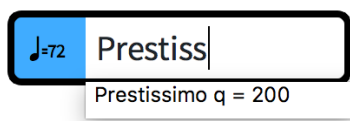
以下の表は、テンポ記号、テンポの等式、およびスウィング再生用のリズムフィールを入力するためにテンポのポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

テンポのポップオーバーにテンポを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれるテンポがメニューに予測表示されます。表示された提案のいずれかを選択するか、独自のテンポをポップオーバーに入力します。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、テンポのポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[T]** を押します。
- 既存のテンポ記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「テンポを作成 (Create Tempo)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



記譜ツールボックスの「テンポ (Tempo)」ボタン

エントリーの例が入力されたテンポのポップオーバー

テンポ記号

テンポ記号の例

Adagio

Presto♩ = 176

ポップオーバーエントリー

Adagio

「Presto q = 176」または「Presto q=176」

テンポ記号の例	ポップオーバーエントリー
Largo (♩= 52)	「Largo (q = 52)」または「Largo (q=52)」
♩= 96-112	「q = 96-112」、「q=96-112」、「6 = 96-112」、または「6=96-112」
♩.= 84	「q. = 84」、「q.=84」、「6. = 84」、または「6.=84」
♩.= 30	「w = 30」、「w=30」、「8 = 30」、または「8=30」
♩= 60	「h = 60」、「h=60」、「7 = 60」、または「7=60」
♩= 120	「e = 120」、「e=120」、「5 = 120」、または「5=120」
♩.= 90	「e. = 90」、「e.=90」、「5. = 90」、または「5.=90」
♩= 240	「x=240」、「x = 240」、「4=240」、または「4 = 240」
rit.	「rit.」または「rit」
accel.	「accel.」または「accel」
più	「più」または「piu」
meno	meno
Faster, with energy	Faster, with energy

テンポの等式

テンポの等式	ポップオーバーエントリー
♩=♩.	「e = e.」、「e=e.」、「5 = 5.」、または「5=5.」
♩=♩	「q = e」、「q=e」、「6 = 5」、または「6=5」

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くのメトロノームマーク、テンポ記号、テンポの等式があり、自由にテンポを入力できます。このリストは、さまざまなタイプのテンポ記号とメトロノームマークを入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

補足

テンポのポップオーバーでは大文字と小文字が区別されます。テンポ記号を大文字で始めるには、ポップオーバーに大文字を入力する必要があります。

スウィング再生用のリズムフィール

リズムフィール	ポップオーバーエントリー
16 分音符の軽いスウィング	light swing 16ths
8 分音符の軽いスウィング	light swing 8ths
16 分音符のミディアムスウィング	medium swing 16ths
8 分音符のミディアムスウィング	medium swing 8ths
16 分音符の重いスウィング	heavy swing 16ths
8 分音符の重いスウィング	heavy swing 8ths
ストレートなリズムフィール	straight (no swing)
16 分音符の 2:1 スウィング (一定)	2:1 swing 16ths (fixed)
8 分音符の 2:1 スウィング (一定)	2:1 swing 8ths (fixed)
16 分音符の 3:1 スウィング (一定)	3:1 swing 16ths (fixed)
8 分音符の 3:1 スウィング (一定)	3:1 swing 8ths (fixed)

ヒント

テンポのポップオーバーでは、「**リズムフィール (Rhythmic Feel)**」ダイアログで設定したリズムフィールの名前が使用されます。カスタムリズムフィールを作成した場合は、そのリズムフィールの名前をテンポのポップオーバーに入力できます。

関連リンク

[テンポ記号 \(1219 ページ\)](#)

[テンポ記号のタイプ \(1220 ページ\)](#)

[スウィング再生 \(557 ページ\)](#)

[特定のセクション/インストゥルメントにスウィング再生を適用する \(559 ページ\)](#)

[「リズムフィール \(Rhythmic Feel\)」ダイアログ \(561 ページ\)](#)

テンポパネル

テンポパネルには、Dorico Pro で使用できるさまざまなテンポ記号があり、各セクションにまとめられています。このパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

- テンポパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**テンポ (Tempo)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

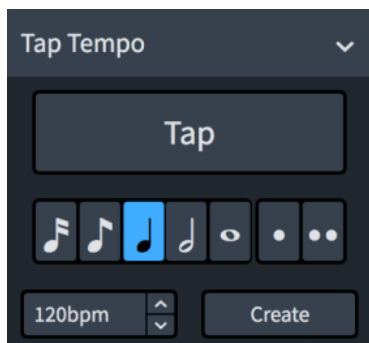
フローで使用 (Used in This Flow)

テンポのポップオーバーを使用して追加したカスタムテンポ記号を含め、フローですでに使用されているテンポ記号が表示されます。

タップテンポ入力 (Tap Tempo)

「タップ」ボタンをクリックして設定する速度に基づいて固定テンポ変更を作成できます。初期設定では、テキストのないメトロノームマークとして表示されます。メトロノームマークの値は、常に最も近い整数に丸められます。

用意されたオプションを使用して、入力するテンポのベースにする拍の単位を設定できます。



固定テンポ変更 (Absolute Tempo Change)

イタリア語のテンポ指示とメトロノームマークの両方を持つさまざまなテンポが表示されます。個々のテンポ記号に対してメトロノームマークを表示するかどうかはあとから選択できます。

一番上のスライダーを調節すると、リストに表示する範囲を変更できます。



段階的テンポ変更 (Gradual Tempo Change)

rallentando や accelerando など、指定した時間範囲におけるテンポの変更を示すテンポ記号が表示されます。

段階的テンポ変更には修飾語句を追加できます。使用できる修飾語句はこのセクションの一番上に表示されます。

相対テンポ変更 (Relative Tempo Change)

molto (変動、動きのある) など、前のテンポに対する相対的なテンポの変更を示すテンポ記号が表示されます。相対テンポ変更には、poco meno mosso (今までより少し遅く) のように、変化の度合いを表わす修飾語句が付く場合もあり、これにはメトロノームマークによる指定はありません。

相対テンポ変更には修飾語句を追加できます。使用できる修飾語句はこのセクションの一番上に表示されます。

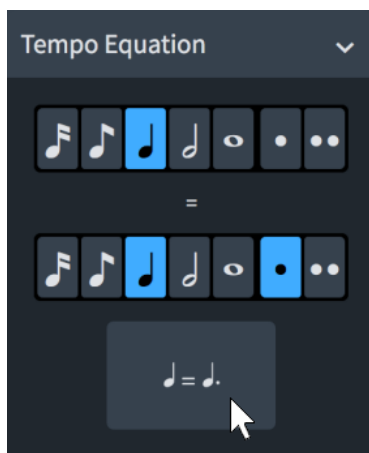
個々のテンポ記号に対して、前のメトロノームマークに対する割合の形でメトロノームマークの相対的な変化を設定できます。

テンポをリセット (Reset Tempo)

A tempo のように前のテンポに戻したり、Tempo primo のようにあらかじめ指定されたテンポに戻したりする指示を出すテンポ記号が表示されます。

テンポの等式 (Tempo Equation)

16分音符から全音符までの拍の単位と最大2個の付点を使用して、テンポの等式を入力できます。



関連リンク

[テンポ記号 \(1219 ページ\)](#)

[テンポ記号のタイプ \(1220 ページ\)](#)

[メトロノームマークの値の変更 \(1228 ページ\)](#)

[メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1230 ページ\)](#)

ポップオーバーを使ったテンポ記号の入力

テンポのポップオーバーを使用してテンポ記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

手順

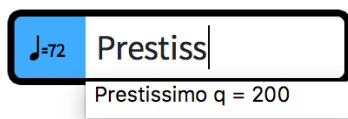
1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - テンポ記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。デュレーションにまたがる段階的テンポ変更を入力するには、そのデュレーションにまたがるアイテムを選択します。

2. **[Shift]+[T]** を押してテンポのポップオーバーを開きます。

3. 使用するテンポをポップオーバーに入力します。

たとえば、「**q=72**」または「**Allegretto**」と入力します。

テンポのポップオーバーにテンポを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれるテンポがメニューに予測表示されます。表示された提案のいずれかを選択するか、独自のテンポをポップオーバーに入力します。



補足

rit-e-nu-to のように、段階的テンポ変更の音節を分割し、デュレーション全体に広げて表示する場合は、提案されたエントリをメニューから選択することをおすすめします。有効なフルテキストを持つ段階的テンポ変更だけが音節に分割されて表示されます。

4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

音符の入力中は、キャレットの位置にテンポ記号が入力されます。rallentando などの段階的テンポ変更は、4分音符のデフォルトデュレーションでキャレットの位置に入力されます。段階的テンポ変更は音符を入力しても延長されません。

楽譜にテンポ記号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。段階的テンポ変更は選択したアイテムのデュレーションと同じ長さになります。

補足

初期設定では、メトロノームマークの値は、小数点以下を入力した場合でも小数点以下がない整数として表示されます。ただし、入力した正確なメトロノームマークの値は常に再生に反映されます。

手順終了後の項目

段階的テンポ変更の長さは変更できます。

関連リンク

[テンポ記号 \(1219 ページ\)](#)

[タイムトラック \(538 ページ\)](#)

[テンポ記号の要素 \(1226 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更 \(1231 ページ\)](#)

[メトロノームマーク \(1228 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更の長さの変更 \(1231 ページ\)](#)

[メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1230 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更のスタイルを個別に変更する \(1232 ページ\)](#)

パネルを使ったテンポ記号の入力

テンポパネルを使用してテンポ記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。
- パネルを使用してメトロノームマークに小数点以下を指定することはできません。小数点以下を指定するには、ポップオーバーを使用するか、既存のテンポ記号のメトロノームマークの値を変更します。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - テンポ記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。デュレーションにまたがる段階的テンポ変更を入力するには、そのデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「**テンポ (Tempo)**」をクリックしてテンポパネルを表示します。



3. テンポパネルで、入力するテンポ記号をクリックします。

ヒント

メトロノームマークの計算を自動で行なうには、「**タップテンポ入力 (Tap Tempo)**」セクションの「**タップ (Tap)**」を任意の速度で複数回クリックします。

4. 必要に応じて、用意されたオプションから修飾語句を選択します。

補足

修飾語句は「**段階的テンポ変更 (Gradual Tempo Change)**」または「**相対テンポ変更 (Relative Tempo Change)**」にのみ追加できます。

結果

音符の入力中は、キャレットの位置にテンポ記号が入力されます。rallentando などの段階的テンポ変更は、4分音符のデフォルトデュレーションでキャレットの位置に入力されます。段階的テンポ変更は音符を入力しても延長されません。

楽譜にテンポ記号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。段階的テンポ変更は選択したアイテムのデュレーションと同じ長さになります。

手順終了後の項目

段階的テンポ変更の長さは変更できます。

関連リンク

[テンポ記号 \(1219 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更の長さの変更 \(1231 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

[メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1230 ページ\)](#)

[メトロノームマークの値の変更 \(1228 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更のスタイルを個別に変更する \(1232 ページ\)](#)

小節と小節線の入力方法

小節と小節線は、小節と小節線のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、小節と小節線パネルのオプションを使用してマウスで入力することもできます。また、小節はシステムトラックを使用して入力することもできます。この操作では、その他のデュレーション、つまり指定した拍領域を入力できます。

Dorico Pro では楽譜を入力すると必要に応じて自動的に小節が作成されるため、通常、小節を作成する必要はありません。ただし、既存の楽譜をコピーしたり配置したりする場合などに、あらかじめ小節を追加できます。

関連リンク

[小節 \(642 ページ\)](#)

[小節線 \(647 ページ\)](#)

[システムトラック \(325 ページ\)](#)

[特定の声部に小節休符を入力する \(195 ページ\)](#)

小節と小節線のポップオーバー

以下の表は、小節や拍の追加や削除、またはさまざまな小節線の入力を行なうために小節と小節線のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、小節や小節線のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[B]** を押します。
- 「**記譜 (Write)**」 > 「**小節または小節線を作成 (Create Bar or Barline)**」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



小節を入力するためのエントリーの例が入力された小節と小節線のポップオーバー



小節線のエントリーの例が入力された小節と小節線のポップオーバー



記譜ツールボックスの「小節と小節線 (Bars and Barlines)」ボタン

小節

アクションの例	ポップオーバーエントリー
2 小節を追加	「2」または「+2」
14 小節を追加	「14」または「+14」
1 小節を削除	-1
6 小節を削除	-6
小節休符を追加	rest
フローの終了位置にある空白の小節を削除	trim

拍の数に続いて、拍の単位に対応する数字 (8 分音符の場合は「5」) または文字 (2 分音符の場合は「h」) を入力することで追加/削除する拍の数を指定できます。拍の数と拍の単位の両方で数字を使用する場合は、数字の間にスペースまたはハイフンを入力する必要があります。4 分の 3 拍は 3/4 のように、拍子記号の形式で指定することもできます。

拍

アクションの例	ポップオーバーエントリー
4 分音符拍を 2 つ追加	「2q」、「2-6」、「2 6」、または「2/4」
2 分音符拍を 2 つ追加	「2h」、「2-7」、「2 7」、「2/2」、または「4/4」
全音符拍を 1 つ追加	「1w」、「1-8」、「1 8」、または「4/4」
8 分音符拍を 4 つ追加	「4e」、「4-5」、「4 5」、「4/8」、または「2/4」
16 分音符拍を 2 つ追加	「2x」、「2-4」、「2 4」、「2/16」、または「1/8」
4 分音符拍を 2 つ削除	「-2q」、「-2-6」、「-2 6」、または「-2/4」

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではありません。音符の入力時にデュレーションを指定するのと同様に、1 から 9 の数字での拍の単位の指定など、ポップオーバーを使用して任意の数の小節/拍を入力または削除できます。このリストは、小節/拍の入力と削除、および小節休符の追加を行なうエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

小節線

小節線のタイプ	ポップオーバーエントリー
標準 (縦線)	「 」、「single」、または「normal」
複縦線	「 」または「double」
終止線	「 】」または「final」
破線	「:」、「dash」、または「dashed」
ティック	「 」または「tick」
短線	「 」または「short」
短線 (上)	shorttop
太線	thick
三重線	triple
反復開始線	「 :」または「start」
反復終了線	「 : 」または「end」
反復終了/反復開始線	「 : :」、「end-start」、または「endstart」

関連リンク

[特定の声部に小節休符を入力する \(195 ページ\)](#)

[小節 \(642 ページ\)](#)

[小節線 \(647 ページ\)](#)

[小節/拍の削除 \(642 ページ\)](#)

小節と小節線パネル

小節と小節線パネルでは、小節、小節休符、およびさまざまなタイプの小節線を入力できます。このパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

- 小節と小節線パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**小節と小節線 (Bars and Barlines)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

このパネルには以下のセクションがあります。

小節を挿入 (Insert Bars)

挿入する小節の数と挿入する位置 (フローの終了など) を指定できます。

小節休符を挿入 (Insert Bar Rest)

小節休符を挿入できます。

小節線を引く (Create Barline)

挿入できるさまざまな小節線が含まれています。

関連リンク

[パネルの表示/非表示 \(23 ページ\)](#)

ポップオーバーを使った小節/拍の入力

小節と小節線のポップオーバーを使用して小節や拍を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することも挿入することもできます。

前提条件

小節を入力するには、拍子記号を入力しておきます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 後ろに小節/拍を追加する位置にある小節線を選択します。
 - 前に小節/拍を入力する位置にあるアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[B]** を押して小節や小節線のポップオーバーを開きます。
3. 入力する小節/拍の数を選択します。
たとえば、「2」を入力して小節を2つ追加し、「2q」を入力して4分音符を2つ入力できます。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

指定した数の小節/拍が入力されます。

音符の入力中はキャレットの位置から小節/拍が入力されます。小節の入力中にキャレットが小節の途中にある場合は、作成される最後の小節に正しい数の拍が含まれるように十分な拍が追加されます。同じ位置から楽譜の入力を続けられるように、キャレットは前と同じ位置に表示されます。

既存の楽譜に小節/拍を追加した場合は、選択した小節線の後ろ、または拍子記号などの選択したアイテムの前に追加されます。

ヒント

小節は、音符の入力中に音価を選択し (4/4 拍子で全音符など)、**[Space]** を繰り返し押して追加することもできます。

関連リンク

[小節と小節線のポップオーバー \(237 ページ\)](#)

[小節 \(642 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った拍子記号の入力 \(229 ページ\)](#)

パネルを使った小節の入力

小節と小節線パネルを使用して小節を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

前提条件

拍子記号を入力しておきます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 後ろに新しい小節を入力する位置にある小節線を選択します。

- 前に新しい小節を入力する位置にある小節線を選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**小節と小節線 (Bars and Barlines)**」をクリックして、小節と小節線パネルを表示します。



3. 小節と小節線パネルの「**小節を挿入 (Insert Bars)**」セクションで、数値フィールドの数値を変更して入力する小節数を変更します。
4. 小節を入力する位置を以下のオプションから選択します。
 - 「**フローの開始 (Start of Flow)**」: フローの開始位置に小節が入力されます。
 - 「**選択の開始 (Start of Selection)**」: 選択した音符または休符の位置から小節が入力されます。
 - 「**フローの終了 (End of Flow)**」: フローの終了位置に小節が入力されます。

補足

キャレットの位置から小節を入力する場合は、このメニューで「**選択の開始 (Start of Selection)**」が選択されていることを確認してください。

5. 「**小節を挿入 (Insert Bars)**」をクリックします。

結果

指定した数の小節が入力されます。

音符の入力中はキャレットの位置から小節が入力されます。

「**選択の開始 (Start of Selection)**」を選択した場合は、選択した小節線の直後、あるいは選択した音符、小節、または拍子記号の直前に小節が入力されます。

ヒント

小節は、音符の入力中に音価を選択し (4/4 拍子で全音符など)、**[Space]** を繰り返し押して追加することもできます。

関連リンク

[小節 \(642 ページ\)](#)

[パネルを使った拍子記号の入力 \(230 ページ\)](#)

システムトラックを使った小節/拍の入力

次の楽節の前に複数の小節を繰り返す場合など、既存の楽譜に小節/拍を追加できます。小節全体を追加することも、いくつかの拍だけを追加することもできます。

補足

音符の入力中にシステムトラックを使用することはできません。

前提条件

システムトラックを表示しておきます。

手順

1. システムトラックで、挿入するデューレーション分の領域を選択します。
たとえば、2小節挿入する場合は、新しい2小節を入力する位置の直前の2小節をシステムトラックで選択します。
2. システムトラックの上にある**追加**ボタンをクリックします。



システムトラックの上にある**追加**ボタン



マウスを合わせると**追加**ボタンが強調表示されます。

結果

システムトラックで選択したデュレーションが、選択部分の終了位置の直後に追加されます。選択部分のあとの既存の楽譜は、挿入した小節/拍の後ろに移動します。

関連リンク

[システムトラック](#) (325 ページ)

ポップオーバーを使った小節線の入力

小節と小節線のポップオーバーを使用して小節線を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。既存の小節線のタイプを変更することもできます。

前提条件

1つの譜表だけに小節線を入力する場合は、それらの譜表に個別の調号を入力しておきます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 小節線を入力する位置にあるアイテムを選択します。単一の譜表に小節線を入力するには、その譜表のみに属するアイテムを選択します。
2. 特定の複数の譜表に同時に小節線を入力する場合は、それらの譜表にカーレットを伸ばします。
3. **[Shift]+[B]** を押して小節や小節線のポップオーバーを開きます。
4. 使用する小節線をポップオーバーに入力します。
たとえば、複縦線であれば「||」と入力します。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、小節線を入力してポップオーバーを閉じます。
 - すべての譜表に小節線を入力するには、**[Return]** を押します。
 - 選択した譜表またはカーレットが伸びている譜表にのみ小節線を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。

補足

小節線の入力は、個別に拍子記号が設定された1つの譜表のみにできます。

6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

音符の入力中は、カーレットの位置に小節線が入力されます。

楽譜に小節線を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。小節線は、音部記号の右側、その他のアイテムの左側に表示されます。既存の小節線を選択した場合、その小節線が新しい小節線に直接置き換わります。

小節線が収まるように周囲の楽譜が自動的に調整されます。音符のグループ、休符、タイでつながれた音符などはすべて、必要に応じて調整されます。

補足

既存の複縦線を置き換えるためなどに直接入力した標準の小節線も明示的な小節線と見なされ、長休符を分割します。小節線を削除すると完全にリセットされます。

関連リンク

[小節と小節線のポップオーバー \(237 ページ\)](#)

[小節線 \(647 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った拍子記号の入力 \(229 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

[小節線の削除 \(651 ページ\)](#)

パネルを使った小節線の入力

小節と小節線パネルを使用して小節線を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。既存の小節線のタイプを変更することもできます。

補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

前提条件

1 つの譜表だけに小節線を入力する場合は、それらの譜表に個別の調号を入力しておきます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 小節線を入力する位置にあるアイテムを選択します。単一の譜表に小節線を入力するには、その譜表のみに属するアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**小節と小節線 (Bars and Barlines)**」をクリックして、小節と小節線パネルを表示します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、必要な小節線を入力します。
 - すべての譜表に小節線を入力するには、小節と小節線パネルで入力する小節線をクリックします。
 - 選択した譜表だけに小節線を入力するには、**[Alt/Opt]** を押しながら小節と小節線パネルで入力する小節線をクリックします。

補足

小節線の入力は、個別に拍子記号が設定された 1 つの譜表のみにできます。

結果

音符の入力中は、キャレットの位置に小節線が入力されます。

楽譜に小節線を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に追加されます。小節線は、音部記号の右側、その他のアイテムの左側に表示されます。既存の小節線を選択した場合、その小節線が新しい小節線に直接置き換わります。

小節線が収まるように周囲の楽譜が自動的に調整されます。音符のグループ、休符、タイでつながれた音符などはすべて、必要に応じて調整されます。

補足

既存の複縦線を置き換えるためなどに直接入力した標準の小節線も明示的な小節線と見なされ、長休符を分割します。小節線を削除すると完全にリセットされます。

関連リンク

[小節線 \(647 ページ\)](#)

[小節と小節線のポップオーバー \(237 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

強弱記号の入力方法

強弱記号は、強弱記号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、強弱記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

関連リンク

[強弱記号 \(771 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った強弱記号の入力 \(247 ページ\)](#)

[パネルを使った強弱記号の入力 \(248 ページ\)](#)

[ニエンテのヘアピン \(780 ページ\)](#)

[既存の強弱記号に修飾語句を追加する \(782 ページ\)](#)

強弱記号のポップオーバー

以下の表は、さまざまな強弱記号を入力するために強弱記号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[D]** を押します。
- 既存の強弱記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「強弱記号を作成 (Create Dynamic)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された強弱記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「強弱記号 (Dynamics)」ボタン

強弱記号または修飾語句

ポップオーバーエントリー

pianissimo: *pp*

pp

piano: *p*

p

mezzo piano: *mp*

mp

mezzo forte: *mf*

mf

forte: *f*

f

fortissimo: *ff*

ff

強弱記号または修飾語句	ポップオーバーエントリー
subito	「 subito 」、「 sub 」、または「 sub. 」
possibile	「 possibile 」、「 poss 」、または「 poss. 」
poco	poco
molto	molto
più	「 piu 」または「 più 」
meno	meno
mosso	mosso
crescendo: <	<
cresc. (テキスト)	cresc
diminuendo: >	>
dim. (テキスト)	dim
crescendo から diminuendo へのメッサ・ディ・ ヴォーチェ: <>	
diminuendo から crescendo へのメッサ・ディ・ ヴォーチェ: ><	
小さい丸で始まる/終わる niente のヘアピン	「 o< 」または「 >o 」
n の文字で始まる/終わる niente のヘアピン	「 n< 」または「 >n 」
sforzando: sfz	sfz
rinforzando: rfz	rfz

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ポップオーバーでは任意の強弱記号の修飾語句を入力できます。このリストは、さまざまなタイプの強弱記号を入力するために、エントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

ヒント

ポップオーバーを使わず、ヘアピンをスコアに直接入力できます。クレッシェンドのヘアピンを入力するには **<** を、ディミヌエンドのヘアピンを入力するには **>** を押します。

段階的強弱記号の外観は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページでプロジェクト全体を通して変更できるほか、プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループで「**段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)**」をオンにし、いずれかのオプションを選択して個々に変更することもできます。

強弱記号のポップオーバーへの修飾語句の入力

poco、molto、subito、espressivo、dolce などの修飾語句を強弱記号のポップオーバーに入力できます。表現テキストは強弱記号の横に斜体フォントで表示されます。ただし、「p」や「f」などの付随する局所的強弱記号も入力し、「f molto」や「p espressivo」のように間にスペースを入れる必要があります。

修飾語句のみを表示したい場合は、局所的強弱記号を非表示にできます。

関連リンク

[強弱記号 \(771 ページ\)](#)

[強弱記号の修飾語句 \(782 ページ\)](#)

[ニエンテのヘアピン \(780 ページ\)](#)

[局所的強弱記号を非表示にする \(783 ページ\)](#)

強弱記号パネル

強弱記号パネルには、段階的強弱記号や強弱記号の修飾語句 (poco や possibile など) のように、Dorico Pro で使用できるさまざまな強弱記号が含まれています。

- 強弱記号パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**強弱記号 (Dynamics)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

強弱記号パネルには以下のセクションがあります。

局所的強弱記号 (Immediate Dynamics)

pp や *f* などの強弱記号と subito や possibile などの修飾語句があります。使用できる修飾語句は一番上のセクションにボックスとして表示されます。

修飾語句は強弱記号と一緒に入力する必要があります。

段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)

◀ や ▶ などの強弱記号と poco や niente などの修飾語句があります。使用できる修飾語句は一番上のセクションにボックスとして表示されます。

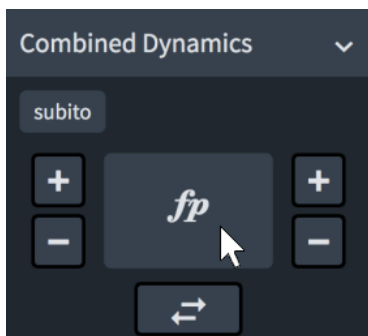
修飾語句は強弱記号と一緒に入力する必要があります。

アタックの強弱/強度レベル (Force/Intensity of Attack)

sfz や *ffz* などの強弱記号があります。

結合式強弱記号 (Combined Dynamics)

fffpp のように、独自に組み合わせた強弱記号を作成できます。コントロールを使用すると、それぞれの側の強弱記号を増減したり、順序を入れ替えたりできます。



強弱記号パネルの「**結合式強弱記号 (Combined Dynamics)**」セクション

ポップオーバーを使った強弱記号の入力

強弱記号のポップオーバーを使用して強弱記号や修飾語句を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。複声部においては、それぞれの声部に個別に異なる強弱記号を入力することもできます。

ヒント

また、変更したい強弱記号の位置にキャレットがあるときに以下の手順を実行すれば、音符の入力中に強弱記号を変更することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

補足

声部固有の強弱記号を入力する場合は、キャレットを有効にしておく必要があります。

- 強弱記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。デュレーションにまたがる強弱記号を入力するには、そのデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 複数の譜表に同時に強弱記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. **[Shift]+[D]** を押して強弱記号のポップオーバーを開きます。
4. 使用する強弱記号をポップオーバーに入力します。
たとえば、「p」、「p<f>p」、「f」などです。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号を入力してポップオーバーを閉じます。
- 譜表上のすべての声部に強弱記号を入力するには、**[Return]** を押します。
 - 音符の入力中に、**[Alt/Opt]+[Return]** を押すことで、キャレットが表示された声部のみに強弱記号を入力します。
- 「p<」のような開口型の強弱記号は、音符の入力中に音符の入力を続けるか、**[Space]** を押してキャレットを進めると自動的に延長されます。
6. 必要に応じて、音符の入力中に **[?]** を押すか強弱記号のポップオーバーをもう一度開いて別の局部的強弱記号 (f など) を入力して、開口型の強弱記号を終了します。

結果

指定した強弱記号が入力されます。強弱記号は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページの設定に従い配置されます。声部固有の強弱記号は、上向き声部に入力した場合でも、デフォルトで譜表の下に配置されます。

隣り合った強弱記号、つまり一緒にまたは連続して入力された強弱記号は自動的にグループ化されます。これは、強弱記号を音符の入力中に入力した場合も、既存の音符に追加した場合も同様です。

音符の入力中はキャレットの位置に強弱記号が入力され、開口型の段階的強弱記号の場合は自動的に延長されます。声部固有の強弱記号は、キャレットの横に4分音符記号で示されている声部に追加されます。

既存の音符に強弱記号を追加すると、選択範囲の最初の音符に局部的強弱記号が追加され、選択範囲全体に段階的強弱記号が追加されます。

補足

- 音符の入力中にポップオーバーに「p<f>p」などの強弱記号のフレーズを入力した場合、初期設定では、強弱記号とヘアピンはそれぞれ4分音符の分だけ継続します。段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さはあとから変更できます。
- molto などの一部の修飾語句は、局部的強弱記号の後ろに入力した場合でも前に表示されます。これは、そのテキストの配置の一般的な慣習に習っています。

既存の強弱記号の前後に修飾語句を追加できます。修飾語句のみを表示したい場合は、局部的強弱記号をあとから非表示にすることもできます。

手順終了後の項目

強弱記号のフレーズ内の強弱記号を移動したり、譜表に対する強弱記号の位置を変更したりできます。

関連リンク

[複数の譜表にキャレットを伸ばす](#) (175 ページ)

[強弱記号](#) (771 ページ)

[強弱記号レーン](#) (521 ページ)

[強弱記号のグループ](#) (793 ページ)

[声部固有の強弱記号](#) (780 ページ)

[強弱記号の修飾語句](#) (782 ページ)

[強弱記号の位置の移動](#) (774 ページ)

[段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更](#) (784 ページ)

[局部的強弱記号を非表示にする](#) (783 ページ)

[譜表に対するアイテムの位置の変更](#) (332 ページ)

パネルを使った強弱記号の入力

強弱記号パネルを使用して強弱記号や修飾語句を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。複声部においては、それぞれの声部に個別に異なる強弱記号を入力することもできます。

補足

- また、変更したい強弱記号の位置にキャレットがあるときに以下の手順を実行すれば、音符の入力中に強弱記号を変更することもできます。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

補足

声部固有の強弱記号を入力する場合は、キャレットを有効にしておく必要があります。

- 強弱記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。デュレーションにまたがる強弱記号を入力するには、そのデュレーションにまたがるアイテムを選択します。

2. 記譜ツールボックスで「**強弱記号 (Dynamics)**」をクリックして強弱記号パネルを表示します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、必要な強弱記号を入力します。

- 譜表上のすべての声部に強弱記号を入力するには、強弱記号パネルでその強弱記号をクリックします。
- 音符の入力中に、**[Alt]** を押しながら強弱記号パネルの強弱記号をクリックして、キャレットが表示された声部のみに強弱記号を入力します。

補足

- 強弱記号に表現テキストや修飾テキストを追加する場合は、強弱記号の選択を解除しないでください。

- 声部固有の強弱記号を入力する場合は、*f* などの強弱記号を入力したあと **[Alt]** を放します。
- 段階的強弱記号のデフォルトのデュレーションは 4 分音符分の長さです。段階的強弱記号の長さはあとから変更できます。

4. 必要に応じて、強弱記号パネルの「**局部的強弱記号 (Immediate Dynamics)**」セクションまたは「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」セクションで入力する表現テキストまたは修飾テキストをクリックします。

結果

指定した強弱記号が入力されます。強弱記号は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページの設定に従い配置されます。声部固有の強弱記号は、上向きの声部に入力した場合でも、デフォルトで譜表の下に配置されます。

隣り合った強弱記号、つまり一緒にまたは連続して入力された強弱記号は自動的にグループ化されます。これは、強弱記号を音符の入力中に入力した場合も、既存の音符に追加した場合も同様です。

音符の入力中は、キャレットの位置に強弱記号が入力されます。声部固有の強弱記号は、キャレットの横に 4 分音符記号で示されている声部に追加されます。

既存の音符に強弱記号を追加すると、選択範囲の最初の音符に局部的強弱記号が追加され、選択範囲全体に段階的強弱記号が追加されます。

補足

- *molto* などの一部の修飾語句は、局部的強弱記号の後ろに入力した場合でも前に表示されます。これは、そのテキストの配置の一般的な慣習に習っています。

既存の強弱記号の前後に修飾語句を追加できます。修飾語句のみを表示したい場合は、局部的強弱記号をあとから非表示にすることもできます。

- 段階的強弱記号は、楽譜領域で何も選択していないときに強弱記号パネルで段階的強弱記号をクリックして入力することもできます。そのあと、クリックして段階的強弱記号を入力し、ドラッグして任意の長さに調節します。

手順終了後の項目

強弱記号のフレーズ内の強弱記号を移動したり、譜表に対する強弱記号の位置を変更したりできます。

関連リンク

[強弱記号 \(771 ページ\)](#)

[局部的強弱記号を非表示にする \(783 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

コード記号の入力方法

Dorico Pro では、コンピューターキーボードや接続された MIDI キーボードでコード記号を入力できます。

関連リンク

[コード記号 \(706 ページ\)](#)

[コード記号の入力 \(254 ページ\)](#)

[浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(707 ページ\)](#)

[コード記号入力中のナビゲーション \(253 ページ\)](#)

コード記号のポップオーバー

以下の表は、さまざまなコード記号の構成要素を入力するためにコード記号のポップオーバーに入力できるエンタリーの例です。これらの構成要素は自由に組み合わせて入力できます。

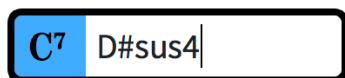
記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、コード記号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[Q]** を押します。
- 既存のコード記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「コード記号を作成 (Create Chord Symbol)」を選択します。
- 記譜ツールボックスにある「コード記号 (Chord Symbols)」を選択します。

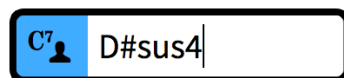


ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。

グローバルなコード記号を入力する場合は、ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが記譜ツールボックスの対応するボタンと一致します。ローカルなコード記号を入力する場合は、ポップオーバーの左側のアイコンが小さく表示され、その横にソロプレイヤーのアイコンが表示されます。



グローバルなコード記号のエンタリーの例が入力されたコード記号のポップオーバー



ローカルなコード記号のエンタリーの例が入力されたコード記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「コード記号 (Chord Symbols)」ボタン

補足

複数のタイプのエンタリーを組み合わせることで複雑なコード記号を作成できます。その場合、コード記号のポップオーバーにエンタリー間にスペースを入れずに続けて入力します。たとえば、以下のコード記号の場合は「**EbLocrian**」と入力します。

E^bLoc.

コード記号のルート

コード記号のルートのタイプ

音符名 (英語表記)

C、Db、F#、B など

音符名 (ドイツ語表記)

C、Db、F#、H など

固定ドソルフェージュ

C、Db、F、F#、B など

スケールディグリーを表わす Nashville 番号

Cメジャーの場合:

C、Db、F#、B など

ポップオーバーエンタリー

「C」、「Db」、「F#」、「B」など

「C」、「Des」、「Fis」、「H」など

「do」、「reb」、「fa」、「fa#」、「ti」など

「1」、「2b」、「4#」、「7」など

コード記号のクオリティ

コード記号のクオリティ	ポップオーバーエントリー
メジャー	「maj」、「M」、「ma」またはルートのあとに何も入力しない。
マイナー	「m」、「min」、または「mi」
ディミニッシュ	「dim」、「di」、または「o」
オーギュメント	「aug」、「au」、「ag」、または「+」
ハーフディミニッシュ	「half-dim」、「halfdim」、または「hd」
6/9	「6/9」、「69」、または「%」

コード記号の音程

音程	ポップオーバーエントリー
メジャー 7th	「^7」または「^」
メジャー 9th	「^9」、「maj9」、または「9maj7」

コード記号のオルタレーション

コード記号のオルタレーションのタイプ	ポップオーバーエントリー
オルタレーション	「b5」、「#9」など
付加音	「add#11」、「addF#」、「addBb」など
サスペンション	「sus4」、「sus9」など
オミット	「omit3」、「no7」など

オンコードのコード記号

オンコードのコード記号の例	ポップオーバーエントリー
G7/D	「G7,D」または「Gmaj7,D」
C(b5)/Eb	「CMb5/Eb」または「Cmajb5/Eb」
Fm/D#	「Fm/D#」または「Fmi/D#」

ポリコード記号

ポリコード記号の例	ポップオーバーエントリー
G/E	「G;E」または「Gmaj;E」
Cmaj7/D	「CM7 D」または「Cmaj7 D」
Fm/D#	「Fm D#」または「Fmi D#」

和音なしの記号

和音なしの記号	ポップオーバーエントリー
和音なし	「N.C.」、「NC」、「no chord」、または「none」

モーダルコード記号

モーダルコード記号	ポップオーバーエントリー
イオニアン	ionian
ドリアン	dorian
フリジアン	phrygian
リディアン	lydian
ミクソリディアン	mixolydian
エオリアン	aeolian
ロクリアン	locrian
メロディックマイナー	melodicminor
ハーモニックマイナー	harmonicminor
ホールトーン	wholetone
オクタトニックまたはディミニッシューフホル	「diminishedhalfwhole」、 「diminishedsemitonetone」、 「octatonichalfwhole」、または 「octatonicsemitonetone」
オクタトニックまたはディミニッシューフ	「diminishedwholehalf」、 「diminishedtonesemitone」、 「octatonicwholehalf」、または 「octatonictonesemitone」

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くのコード記号があります。このリストは、さまざまなコード記号の入力に使用できるさまざまな構成要素を示すことを目的としています。

補足

入力されるコード記号の外観は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページの設定によって異なります。コード記号のポップオーバーに入力したエントリーの構成は反映されません。たとえば、Cメジャーのコードを入力する際、「**C**」、「**Cmaj**」、「**CM**」のいずれを使用しても同じコード記号が入力されます。

関連リンク

[コード記号 \(706 ページ\)](#)

コード記号入力中のナビゲーション

ポップオーバーを毎回手動で別の位置に進めて開き直すことなく、複数のコード記号を入力できます。

コンピューターキーボードによるナビゲーション

コード記号のポップオーバーを毎回閉じて開き直すことなく、ポップオーバーを移動して別の音符にコード記号を入力できます。

ポップオーバーのナビゲーション

キーボードショートカット

ポップオーバーを次の拍に進める

[Space]

ポップオーバーを前の拍に戻す

[Shift]+[Space]

ポップオーバーを次の小節の最初に進める

[Tab]

ポップオーバーを前の小節の最初に戻す

[Shift]+[Tab]

以下のうち、最も近い位置にカーソルとポップオーバーを移動する

[→]/[←]

- 次/前の音符
- 次/前の休符
- 次/前のリズムグリッド位置

ポップオーバーを次/前のコード記号に移動する。

[Ctrl]/[command]+[→]/[Ctrl]/[command]+[←]

MIDI キーボードによるナビゲーション

MIDI キーボードを使用して和音を入力する場合、初期設定では、和音を演奏したあとにポップオーバーが自動的に次の拍に進みます。この動作は、「**記譜 (Write)**」 > 「**音符入力オプション (Note Input Options)**」の「**MIDI 入力 (MIDI Input)**」ページにある「**MIDI キーボードによるコード記号入力中の進み方 (Advance during chord symbol input via MIDI keyboard)**」オプションを使用して変更できます。

さまざまなナビゲーション動作を実行するように MIDI キーボードの特定のキーやボタンを定義することもできます。「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある「**MIDI Learn**」ボタンを使って、特定のキーを「**音符の入力 (Note Input)**」 > 「**コード記号の入力位置を進める (Advance Chord Symbol Input)**」コマンドに割り当てることができます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(62 ページ\)](#)

[MIDI コマンドの割り当て \(66 ページ\)](#)
[キーボードショートカットの割り当て \(66 ページ\)](#)

MIDI キーボードのコード記号の入力オプション

コード記号の入力中に MIDI キーボードで押したノートを Dorico Pro がどのように解釈するかについて、さまざまな設定を行なえます。

これらのオプションは、「記譜 (Write)」 > 「音符入力オプション (Note Input Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」ページにあります。以下のオプションを使用できます。

- 和音を転回形で演奏した場合にそれを反映するか、ルート位置で演奏したようにコード記号を記譜するか。
- オミットを記譜するかどうか。たとえば、C と E を演奏した場合、C または C(omit5) として記譜できます。
- 付加音とサスペンションをどのように記譜するか。
- ルート音とオンコードの間の複雑な異名同音の関係をどのように処理するか。

関連リンク

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(167 ページ\)](#)

コード記号の入力

コード記号のポップオーバーを使用してコード記号を入力できます。すべてのインストゥルメントに入力することも、個別のインストゥルメントに入力することもできます。音符の入力中にコード記号のポップオーバーを開くこともできますが、コード記号を入力すると音符の入力が終了します。

前提条件

MIDI デバイスを使用してコード記号を入力する場合は、使用する MIDI デバイスを接続しておきます。

手順

1. 記譜モードで、コード記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[Q]** を押してコード記号のポップオーバーを開きます。

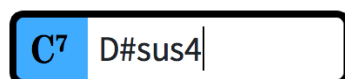
補足

選択した位置よりも前にローカルなコード記号のある譜表上のアイテムを選択した場合、コード記号のポップオーバーを開くと、ローカルなコード記号を入力するモードに自動的に設定されます。

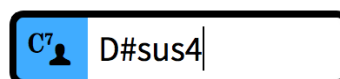
3. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なってコード記号のタイプを変更します。

- ローカルなコード記号を入力するには、**[Alt/Opt]+[L]** を押します。
- グローバルなコード記号を入力するには、**[Alt/Opt]+[G]** を押します。

ポップオーバーのアイコンが更新され、現在のタイプが表示されます。



グローバルなコード記号を入力する際のコード記号のポップオーバー



ローカルなコード記号を入力する際のコード記号のポップオーバー

4. 以下のいずれかの操作を行なって、コード記号のポップオーバーにコード記号を入力します。
 - コンピューターキーボードを使用して、適切な文字や数字を入力します。
 - MIDI キーボードを使用して和音を演奏します。
5. 必要に応じて、**[Space]** を押して現在の拍子記号に応じてポップオーバーを次の拍に進めます。

また、拍とは異なる単位でポップオーバーを前後に移動することもできます。

6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
-

結果

指定したコード記号が入力されます。コード記号を表示するように設定されていない譜表上のアイテムを選択した場合は、コード記号を表示するように譜表が自動的に更新されます。

グローバルなコード記号はプロジェクト内のすべてのインストゥルメントに適用され、コード記号を表示するように設定されているすべての譜表に表示されます。ローカルなコード記号は選択した譜表にのみ適用されます。同じ位置にグローバルなコード記号が存在していても、ローカルなコード記号は常に表示されます。

補足

コード記号の外観が、ポップオーバーに入力したものと異なる場合があります。たとえば、「D|C7」と入力した場合、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページの設定によっては、2つの和音が上下または左右に並んで表示されることがあります。

手順終了後の項目

特定の譜表の上にあるコード記号を表示/非表示にしたり、コード記号の横のコードダイアグラムを表示/非表示にしたりできます。

関連リンク

[コード記号 \(706 ページ\)](#)

[コード記号の再生の有効化 \(544 ページ\)](#)

[コード記号を表示/非表示にする \(717 ページ\)](#)

[コードダイアグラムを表示/非表示にする \(727 ページ\)](#)

[MIDI 入力デバイスの無効化 \(214 ページ\)](#)

ポリコード記号の入力

ポリコード記号は、複数の異なる和音 (通常は 2 つ) を同時に演奏することを指します。MIDI キーボードによるコード記号の入力中にポリコードを入力できます。

手順

1. 記譜モードでコード記号のポップオーバーを開きます。
 2. ポリコードの最初の和音を片手で演奏します。
最初の和音の鍵盤は押さえたままにします。
 3. もう一方の手で 2 番めの和音を演奏します。
-

結果

演奏した 2 つの和音はポリコード記号として入力されます。

ヒント

ポリコードの入力は、2 つの和音をセミコロンまたはパイプ文字で区切って、コード記号のポップオーバーに入力する方法でも行なえます。

関連リンク

[コード記号のポップオーバー \(250 ページ\)](#)

[MIDI キーボードのコード記号の入力オプション \(254 ページ\)](#)

コード記号のルート音の指示

MIDI キーボードでコード記号を入力する際に、コード記号のルート音を指示できます。

手順

1. 記譜モードでコード記号のポップオーバーを開きます。
2. MIDI キーボードの使用中に以下のいずれかの操作を行ない、コード記号のルート音を指示します。
 - まず 1 本の指でルート音を演奏し、ルート音を押さえたまま和音の残りの音符を演奏します。
 - 和音のすべての音符を同時に演奏し、それらをすべて放したあと、ルート音を再び演奏します。

ヒント

ルート音だけで構成されるコード記号を入力する際は、1 つの音符だけを演奏します。

関連リンク

[コード記号のポップオーバー \(250 ページ\)](#)

[MIDI キーボードのコード記号の入力オプション \(254 ページ\)](#)

コード記号のオンコードの指示

MIDI キーボードでコード記号を入力する際に、和音にオンコードが含まれていることを指示できます。

手順

1. 記譜モードでコード記号のポップオーバーを開きます。
2. MIDI キーボードで以下のいずれかの操作を行ない、どの音符が和音のオンコードであるかを指示します。
 - オンコードを一番低い音にして、和音のすべての音符を同時に演奏します。
 - 和音とオンノートを別々に演奏します。オンコード以外の和音の鍵盤を押さえ、それらの鍵盤を押さえたままオンコードを演奏します。

関連リンク

[コード記号のポップオーバー \(250 ページ\)](#)

[MIDI キーボードのコード記号の入力オプション \(254 ページ\)](#)

コード記号領域の入力

コード記号を表示する特定の領域を入力できます。たとえば、プロジェクトの大部分でコード記号が必要なインストゥルメントに、コード記号を表示する必要のある即興のセクションがある場合などに使用します。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - コード記号を表示する領域を選択します。
 2. 「記譜 (Write)」 > 「コード記号領域を作成 (Create Chord Symbol Region)」を選択します。
-

結果

音符の入力中は、コード記号領域は選択された音符またはアイテムの範囲全体に入力されます。この選択は一般的に最後に入力した音符です。既存の楽譜にコード記号領域を追加する際は、選択したデュレーションにかけて入力されます。

対応するインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーは、すべてのコード記号を非表示にするように設定されていても、コード記号領域およびスラッシュ領域にコード記号が表示されるよう自動的に設定されます。

関連リンク

[コード記号領域 \(719 ページ\)](#)

[コード記号を表示/非表示にする \(717 ページ\)](#)

音部記号とオクターブ線の入力方法

音部記号とオクターブ線は、音部記号とオクターブ線のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、音部記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

音部記号とオクターブ線はどちらも音符のピッチと音域に影響するため、同じポップオーバーとパネルを使用します。

関連リンク

[音部記号 \(736 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(743 ページ\)](#)

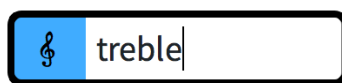
音部記号とオクターブ線のポップオーバー

以下の表は、さまざまな音部記号とオクターブ線の入力に使用できる音部記号とオクターブ線のポップオーバーのエントリーの例です。

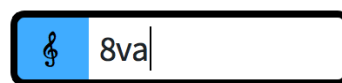
記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、音部記号とオクターブ線のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[C]** を押します。
- 既存の音部記号またはオクターブ線を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「音部記号を作成 (Create Clef)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



音部記号のエントリーの例が入力された音部記号とオクターブ線のポップオーバー



オクターブ線のエントリーの例が入力された音部記号とオクターブ線のポップオーバー



記譜ツールボックスの「音部記号 (Clefs)」ボタン

音部記号

音部記号のタイプ

ト音記号

ヘ音記号

テノール八音記号

ポップオーバーエントリー

「g」、「G」、「sol」、または「treble」

「f」、「F」、「fa」、または「bass」

「ct」、「CT」、「ut4」、または「tenor」

音部記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
アルト八音記号	「ca」、「CA」、「ut3」、または「alto」
ト音記号、1 オクターブ下	「g8ba」、「G8ba」、「g8d」、「G8d」、「treble8ba」、 または「treble8d」
ト音記号、2 オクターブ下	「g15ba」、「G15ba」、「g15d」、「G15d」、 「treble15ba」、または「treble15d」
ト音記号、1 オクターブ上	「g8va」、「G8va」、「g8u」、「G8u」、「treble8va」、 または「treble8u」
ト音記号、2 オクターブ上	「g15ma」、「G15ma」、「g15u」、「G15u」、 「treble15ma」、または「treble15u」
アルト八音記号、1 オクターブ下	「ca8ba」、「CA8ba」、「ca8d」、「CA8d」、 「alto8ba」、または「alto8d」
テノール八音記号、1 オクターブ下	「ct8ba」、「CT8ba」、「ct8d」、「CT8d」、 「tenor8ba」、または「tenor8d」
ヘ音記号、1 オクターブ下	「f8ba」、「F8ba」、「f8d」、「F8d」、「bass8ba」、 または「bass8d」
ヘ音記号、2 オクターブ下	「f15ba」、「F15ba」、「f15d」、「F15d」、 「bass15ba」、または「bass15d」
ヘ音記号、1 オクターブ上	「f8va」、「F8va」、「f8u」、「F8u」、「bass8va」、 または「bass8u」
ヘ音記号、2 オクターブ上	「f15ma」、「F15ma」、「f15u」、「F15u」、 「bass15ma」、または「bass15u」
無音程打楽器	perc
4 弦タブラチュア	tab4
6 弦タブラチュア	tab6
バリトンバス記号	baritonebass
バリトン記号	「baritone」または「ut5」
メゾソプラノ記号	「mezzo」または「ut2」
ソプラノ八音記号	「soprano」または「ut1」
低バス記号	subbass
非表示の記号	invisible

補足

音部記号パネルには、インド太鼓記号や長方形のパーカッション記号などの音部記号もあります。

オクターブ線

オクターブ線の機能

音符を 1 オクターブ上に移動

音符を 2 オクターブ上に移動

音符を 3 オクターブ上に移動

音符を 1 オクターブ下に移動

音符を 2 オクターブ下に移動

音符を 3 オクターブ下に移動

Loco の指示

オクターブ線の終了

たとえば、音符の入力中にオクターブ線が終了する位置を指定するには「**stop**」と入力します。

ポップオーバーエントリー

「8va」、「8」、「8u」、または「1u」

「15ma」、「15」、「15u」、または「2u」

「22ma」、「22」、「22u」、または「3u」

「8ba」、「8vb」、「8d」、または「1d」

「15ba」、「15vb」、「15d」、または「2d」

「22ba」、「22vb」、「22d」、または「3d」

loco

「|」または「stop」

関連リンク

[音部記号 \(736 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(743 ページ\)](#)

音部記号パネル

音部記号パネルには、珍しい音部記号や古楽の音部記号を含め、Dorico Pro で使用できるさまざまな音部記号とオクターブ線が含まれています。

- 音部記号パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**音部記号 (Clefs)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

音部記号パネルには以下のセクションがあります。

一般的な音部記号 (Common Clefs)

ト音記号やバス記号など、最もよく使われる音部記号が含まれています。

その他の音部記号 (Uncommon Clefs)

非表示の記号や小バイオリン記号など、使用頻度の低い音部記号が含まれています。

古楽の音部記号 (Archaic Clefs)

メゾソプラノ記号や低バス記号など、現在はほとんど使用されない音部記号が含まれていません。

オクターブ線 (Octave Lines)

最大3オクターブ上または下を指示するオクターブ線と loco 線が含まれています。

ポップオーバーを使った音部記号の入力

音部記号とオクターブ線のポップオーバーを使用して音部記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。このポップオーバーを使用して既存の音部記号のタイプを変更することもできます。

補足

- Dorico Pro では、音部記号を非表示にはできません。したがって、音部記号を表示させない場合、不可視の音部記号を入力する必要があります。
- Dorico Pro の多くのインストゥルメントには、デフォルトで代替の音部記号を表示する別のタイプがあります。インストゥルメントを追加または変更する際は、インストゥルメントピッカーから適切なインストゥルメントタイプを選択できます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 音部記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。
2. 複数の譜表に同時に音部記号を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
3. **[Shift]+[C]** を押して音部記号やオクターブ線のポップオーバーを開きます。
4. 使用する音部記号のエントリーをポップオーバーに入力します。
たとえば、「bass」または「G8ba」と入力します。
5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

音符の入力中は、キュレットの位置に音部記号が入力されます。音部記号の入力後は音符の入力状態になるため、続けて音符と音部記号を必要なだけ入力できます。

楽譜に音部記号を入力すると、選択した符頭のすぐ前に音部記号が追加されます。追加した音部記号は、次の音部記号の位置またはフローの終わりまでにある譜表のすべての音符に適用されます。

音部記号は、次の音部記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置までにある譜表のすべての音符に適用されます。

関連リンク

[音部記号 \(736 ページ\)](#)

[複数の譜表にキュレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

[実音と移調音で異なる音部記号を設定する \(740 ページ\)](#)

[レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする \(741 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(120 ページ\)](#)

[プレイヤーへのインストゥルメントの追加 \(119 ページ\)](#)

パネルを使った音部記号の入力

音部記号パネルを使用して音部記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

補足

- Dorico Pro では、音部記号を非表示にはできません。したがって、音部記号を表示させない場合、不可視の音部記号を入力する必要があります。

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。
 - Dorico Pro の多くのインストゥルメントには、デフォルトで代替の音部記号を表示する別のタイプがあります。インストゥルメントを追加または変更する際は、インストゥルメントピッカーから適切なインストゥルメントタイプを選択できます。
-

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 音部記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**音部記号 (Clefs)**」をクリックして、音部記号パネルを表示します。



3. 音部記号パネルで入力する音部記号をクリックします。
-

結果

音符の入力中は、キャレットの位置に音部記号が入力されます。音部記号の入力後は音符の入力状態になるため、続けて音符と音部記号を必要なだけ入力できます。

楽譜に音部記号を入力すると、選択した符頭のすぐ前に音部記号が追加されます。追加した音部記号は、次の音部記号の位置またはフローの終わりまでにある譜表のすべての音符に適用されます。

音部記号は、次の音部記号またはフローの終わりのいずれか早い方の位置までにある譜表のすべての音符に適用されます。

関連リンク

[音部記号 \(736 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

ポップオーバーを使ったオクターブ線の入力

音部記号とオクターブ線のポップオーバーを使用してオクターブ線を入力できます。音符の入力中行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。複声部においては、特定の声部にのみオクターブ線を入力することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - オクターブ線を追加する音符を選択します。単一の声部にオクターブ線を追加するには、その声部の音符のみを選択します。
2. 複数の譜表に同時にオクターブ線を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. **[Shift]+[C]** を押して音部記号やオクターブ線のポップオーバーを開きます。
4. 使用するオクターブ線のエントリーをポップオーバーに入力します。
たとえば、音符を 1 オクターブ上げるオクターブ線の場合は「**8va**」と入力します。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、オクターブ線を入力してポップオーバーを閉じます。
 - 譜表のすべての声部にオクターブ線を入力するには、**[Return]** を押します。
 - 現在選択している声部だけにオクターブ線を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。
6. 必要に応じて、音符の入力中に **[Space]** を押すと、キャレットが進みオクターブ線が延長されます。
また、音符を続けて入力するとオクターブ線は自動的に延長されます。

- 必要に応じて、音符の入力中に音部記号とオクターブ線のポップオーバーをもう一度開き、「|」または「stop」を入力するとオクターブ線が停止します。

結果

音符の入力中はキャラットの位置からオクターブ線が入力されます。オクターブ線を停止すると、オクターブ線はキャラットの位置で終了します。

既存の音符にオクターブ線を追加する場合、オクターブ線が音符を記譜の上または下のどちらで演奏するよう指示しているかによって、選択範囲の上または下のいずれかに追加されます。

ヒント

オクターブ線は入力後に長さを変更することもできます。

関連リンク

[音部記号とオクターブ線のポップオーバー \(257 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(743 ページ\)](#)

[オクターブ線の長さの変更 \(744 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャラットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

パネルを使ったオクターブ線の入力

音部記号パネルを使用してオクターブ線を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。複声部においては、特定の声部にのみオクターブ線を入力することもできます。

補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

手順

- 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - オクターブ線を追加する音符を選択します。単一の声部にオクターブ線を追加するには、その声部の音符のみを選択します。
- 記譜ツールボックスの「**音部記号 (Clefs)**」をクリックして、音部記号パネルを表示します。



- 以下のいずれかの操作を行なって、必要なオクターブ線を入力します。
 - 譜表のすべての声部にオクターブ線を入力するには、音部記号パネルでそのオクターブ線をクリックします。
 - 現在選択している声部だけにオクターブ線を入力するには、**[Alt]** を押しながら音部記号パネルでそのオクターブ線をクリックします。

また、既存の音符にオクターブ線を追加する場合は、音部記号パネルでまず使用するオクターブ線をクリックしたあと、クリックアンドドラッグで任意の長さのオクターブ線を引くこともできます。

結果

音符の入力中は、キャラットの位置にオクターブ線が入力されます。ただし、マウスを使って音符を入力する場合、音符を続けて入力してもオクターブ線は自動的に延長されません。

既存の音符にオクターブ線を追加する場合、オクターブ線が音符を記譜の上または下のどちらで演奏するよう指示しているかによって、選択範囲の上または下のいずれかに追加されます。

ヒント

オクターブ線は入力後に長さを変更することもできます。

関連リンク

[オクターブ線 \(743 ページ\)](#)

[オクターブ線の長さの変更 \(744 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

延長記号と休止記号の入力方法

延長記号と休止記号は、記譜モードで延長記号と休止記号のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、延長記号と休止記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

関連リンク

[延長記号と休止記号 \(844 ページ\)](#)

[中間休止記号を入力するときの正しい配置 \(267 ページ\)](#)

延長記号と休止記号のポップオーバー

以下の表は、さまざまな延長記号と休止記号を入力するために延長記号と休止記号のポップオーバーに入力できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、延長記号と休止記号のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[H]** を押します。
- 既存の延長記号または休止記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「延長記号または休止記号を作成 (Create Hold or Pause)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力された延長記号と休止記号のポップオーバー



記譜ツールボックスの「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」ボタン

延長記号と休止記号のタイプ

フェルマータ



非常に長いフェルマータ



長いフェルマータ



ポップオーバーエントリー

「fer」または「fermata」

fermataverylong

fermatalong

延長記号と休止記号のタイプ

ポップオーバーエントリー

短いフェルマータ

fermatashort



非常に短いフェルマータ

fermataveryshort



短いフェルマータ (Henze)

fermatashorthenze



長いフェルマータ (Henze)

fermatalonghenze



カーリュー (Britten)

curlew



中間休止記号 (Caesura)

「**caesura**」または「//」



太い中間休止記号 (Thick caesura)

caesurathick



婉曲した中間休止記号 (Curved caesura)

caesuracurved



短い中間休止記号 (Short caesura)

caesurashort



ブレス記号 (コンマ)

「**breathmarkcomma**」、**「comma**」、または「,」
(コンマ)



ブレス記号 (チェックマーク)

breathmarktick



ブレス記号 (上げ弓)

breathmarkupbow



ブレス記号 (Salzedo)

breathmarksalzedo



補足

カーリユー記号は元々、Benjamin Britten が日本の能楽に着想を得て作曲した教会上演用寓話カーリユー・リヴァーのために考案したものです。この記号は、異なるテンポの音楽において、音符または休符をタイミングが揃うまで伸ばすようプレイヤーに指示します。

関連リンク

- [延長記号と休止記号 \(844 ページ\)](#)
- [フェルマータのタイプ \(844 ページ\)](#)
- [中間休止記号のタイプ \(846 ページ\)](#)
- [ブレス記号のタイプ \(845 ページ\)](#)

延長記号と休止記号パネル

延長記号と休止記号パネルでは、フェルマータの代替バージョンを含め、Dorico Pro で使用できるさまざまなタイプの延長記号と休止記号を入力できます。

- 延長記号と休止記号パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

延長記号と休止記号パネルには以下のセクションがあります。

- フェルマータ (Fermatas)
- ブレス記号 (Breath Marks)
- 中間休止記号 (Caesuras)

補足

延長記号と休止記号は今のところ再生時の効果を持ちませんが、将来のバージョンでは効果が与えられることが予定されています。

ポップオーバーを使った延長記号と休止記号の入力

延長記号と休止記号のポップオーバーを使用して延長記号と休止記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

手順

- 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 延長記号または休止記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。

補足

一度に入力できる延長記号または休止記号は1つのみです。

- 複数の譜表に同時にブレス記号を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。
- [Shift]+[H]** を押して延長記号や休止記号のポップオーバーを開きます。
- 使用する延長記号または休止記号をポップオーバーに入力します。
たとえば、休止記号の場合は「**fermata**」、延長記号の場合は「**caesura**」と入力します。
- [Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

音符の入力中は、キャレットの位置に、指定した延長記号または休止記号が入力されます。楽譜に延長記号または休止記号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に入力されます。

- フェルマータは、すべての譜表のフェルマータの終了位置にある音符、和音または休符の位置に表示されます。
- ブレス記号は、キャレットまたは選択した音符の右側に表示されます。
- 中間休止記号は、すべての譜表のキャレットまたは選択した音符の左側に表示されます。

関連リンク

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

[延長記号と休止記号 \(844 ページ\)](#)

パネルを使った延長記号と休止記号の入力

延長記号と休止記号パネルを使用して延長記号と休止記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 延長記号または休止記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。

補足

一度に入力できる延長記号または休止記号は1つのみです。

2. 記譜ツールボックスで「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」をクリックして延長記号と休止記号パネルを表示します。



3. 延長記号と休止記号パネルで、入力する延長記号または休止記号をクリックします。

結果

音符の入力中は、キャレットの位置に、指定した延長記号または休止記号が入力されます。楽譜に延長記号または休止記号を追加する場合、最初に選択したアイテムの位置に入力されます。

- フェルマータは、すべての譜表のフェルマータの終了位置にある音符、和音または休符の位置に表示されます。
- ブレス記号は、キャレットまたは選択した音符の右側に表示されます。
- 中間休止記号は、すべての譜表のキャレットまたは選択した音符の左側に表示されます。

関連リンク

[延長記号と休止記号 \(844 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

中間休止記号を入力するときの正しい配置

中間休止記号は通常、小節の終了位置、小節線の前に配置されます。Dorico Pro では、中間休止記号はその記号を表示する位置の直後の音符に連結する必要があります。そうすることで、Dorico Pro は中間休止記号を自動的に正しく配置できます。

マウス入力の環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、中間休止記号を小節線の左側に入力するには次の小節の最初の音符をクリックする必要があります。または、小節線を直接クリックします。



正しく入力された中間休止記号の例。点線の連結線が小節線のあとの符頭に連結されており、中間休止記号が小節線の前に正しく配置されていることが分かる



正しく入力されていない中間休止記号の例。小節線の左側をクリックしたことで、中間休止記号がその小節の最後の8分音符に連結されてしまっている

正しく入力すると、点線の連結線によって中間休止記号と小節線の直後の符頭が連結されます。

点線の連結線によって中間休止記号と小節線の直後の符頭が連結されない場合は、中間休止記号を削除して入力しなおしてください。中間休止記号が正しく入力されないとき、スペーシングの問題が生じる場合があります。

関連リンク

[延長記号と休止記号 \(844 ページ\)](#)

[中間休止記号のタイプ \(846 ページ\)](#)

装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法

アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションなどの装飾音は、装飾音のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、装飾音パネルを使用してマウスで入力することもできます。

装飾音とアルペジオ記号は音符の入力中に入力することも、既存の音符に追加することもできますが、グリッサンドラインとギターバンドを音符の入力中に入力することはできません。グリッサンドラインとギターバンドは既存の音符への追加によってのみ入力できます。

ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは装飾音パネルから指定できますが、装飾音ポップオーバーからは指定できません。

関連リンク

[装飾音 \(936 ページ\)](#)

[アルペジオ記号 \(953 ページ\)](#)

[グリッサンドライン \(962 ページ\)](#)

[ギターバンド \(970 ページ\)](#)

[ジャズアーティキュレーション \(979 ページ\)](#)

[ジャズの装飾音 \(980 ページ\)](#)

[ライン \(1046 ページ\)](#)

[ラインの入力方法 \(293 ページ\)](#)

装飾音のポップオーバー

以下の表は、さまざまな装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ジャズアーティキュレーションの入力に使用できる、装飾音のポップオーバーのエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャラットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、装飾音のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[O]** を押します。
- 既存の装飾音を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「装飾音を作成 (Create Ornament)」を選択します。






ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



記譜ツールボックスの「装飾音 (Ornaments)」ボタン

エントリーの例が入力された装飾音のポップオーバー

装飾音

装飾音のタイプ	ポップオーバーエントリー
トリル: 	「tr」または「trill」
ショートトリル: 	shorttr
モルデント: 	「mor」または「mordent」
ターン: 	turn
逆ターン: 	「invturn」または「invertedturn」

トリル音程

トリル音程	ポップオーバーエントリー
メジャー 2nd	「tr 2」または「tr M2」
マイナー 3rd	tr m3
パーフェクト 5th	tr p5
オーギュメント 4th	tr aug4
ディミニッシュ 5th	tr dim5

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くのトリルの音程があります。このリストは、さまざまなタイプのトリルの音程を入力するために、エントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

ジャズの装飾音

ジャズの装飾音のタイプ	ポップオーバーエントリー
フリップ ↘	flip
スミア ~	smear
ジャズターン ~	「jazz」または「shake」
バンド U	brassbend

アルペジオ記号

アルペジオ記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
上向アルペジオ記号	「arp」、「arpup」、または「arpeggioup」
下向アルペジオ記号	「arpdown」または「arpeggiodown」
ノンアルペジオ記号	「nonarp」または「nonarpeggio」
曲線のアルペジオ記号	slurarp

グリッサンドライン

グリッサンドライン/ギターバンドのタイプ	ポップオーバーエントリー
グリッサンド (直線)	gliss
グリッサンド (波線)	glisswavy
ギターバンド	bend

ジャズアーティキュレーション

ジャズアーティキュレーションのタイプ	ポップオーバーエントリー
プロップ (バンド)	plop
プロップ (スムーズ)	plopsmooth
スクープ	scoop
ドイト (バンド)	doit

ジャズアーティキュレーションのタイプ	ポップオーバーエントリー
ドイト (スムーズ)	doitsmooth
フォール (バンド)	fall
フォール (スムーズ)	fallsmooth

ヒント

記譜モードのウィンドウの右側にある装飾音パネルでは、その他の装飾音も使用できます。

ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは装飾音パネルから指定できますが、装飾音ポップオーバーからは指定できません。

関連リンク

- [ポップオーバーを使ったアルペジオ記号の入力 \(272 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったグリッサンドラインの入力 \(274 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったジャズアーティキュレーションの入力 \(276 ページ\)](#)
- [ポップオーバーを使ったギターバンドの入力 \(277 ページ\)](#)
- [装飾音 \(936 ページ\)](#)
- [トリル音程 \(944 ページ\)](#)
- [アルペジオ記号 \(953 ページ\)](#)
- [グリッサンドライン \(962 ページ\)](#)
- [ギターバンド \(970 ページ\)](#)
- [ジャズアーティキュレーション \(979 ページ\)](#)
- [ジャズの装飾音 \(980 ページ\)](#)

装飾音パネル

装飾音パネルでは、ジャズアーティキュレーション、アルペジオ記号、ギターバンド、グリッサンドラインなど、さまざまなタイプの装飾音を入力できます。

- 装飾音パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

装飾音パネルには以下のセクションがあります。

ジャズ (Jazz)

バンド、スクープ、フォールなど、ジャズ音楽で一般的に使用される装飾音とピッチオルタレーションがあります。

バロックと古典派 (Baroque and Classical)

モルデント、ターン、トリルなど、バロック音楽やクラシック音楽で一般的に使用される装飾音があります。

アルペジオ (Arpeggiation)

さまざまなタイプのアルペジオ記号があります。

補足

音符の入力中にマウスを使ってアルペジオ記号を入力することはできません。

グリッサンド (Glissandi)

さまざまなタイプのグリッサンドラインがあります。

ギター (Guitar)

ギターバンドやピブラートバーなど、ギターで一般的に使用される演奏技法やピッチオルタレーションがあります。

ポップオーバーを使った装飾音の入力

装飾音のポップオーバーを使用して装飾音とジャズの装飾音を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。
- 装飾音を追加する音符を1つ選択します。
- トリルを追加する音符を選択します。

補足

装飾音は一度に1つの音符にしか追加できません。

2. 複数の譜表に同時に装飾音を入力する場合は、それらの譜表にキュレットを伸ばします。

3. **[Shift]+[O]** を押して装飾音のポップオーバーを開きます。

4. 使用する装飾音のエントリーをポップオーバーに入力します。

たとえば、マイナー 3rd の音程を持つトリルの場合は「**tr m3**」、モルデントの場合は「**mor**」と入力します。

5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

音符の入力中は、キュレットの位置に装飾音が入力されます。トリルはキュレットの位置に入力された音符の音価の分だけ継続し、状況によってデフォルトの音程はメジャー 2nd またはマイナー 2nd のどちらかになります。トリルの音程を指定した場合、選択範囲の最初の音符にのみ音程は適用されず。ただし、トリルの途中で音程を変更することもできます。

既存の音符に装飾音を追加する場合、装飾音は選択した音符の上に追加されます。トリルは最初に選択した音符の上に入力され、選択した後続の音符をまたがって延長線が表示されます。

関連リンク

[装飾音 \(936 ページ\)](#)

[トリル \(941 ページ\)](#)

[トリルの音程の外観 \(947 ページ\)](#)

[ジャズの装飾音 \(980 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[トリルの途中でトリルの音程を変更する \(946 ページ\)](#)

[複数の譜表にキュレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

パネルを使った装飾音の入力

装飾音パネルを使用して装飾音とジャズの装飾音を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。
- 装飾音を追加する音符を1つ選択します。
- トリルを追加する音符を選択します。

補足

装飾音は一度に1つの音符にしか追加できません。

2. 記譜ツールボックスの「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして、装飾音パネルを表示します。



3. 装飾音パネルで、入力する装飾音をクリックします。

結果

音符の入力中は、キャレットの位置に装飾音が入力されます。トリルは、デフォルトの4分音符のデュレーションで入力されます。

既存の音符に装飾音を追加する場合、装飾音は選択した音符の上に追加されます。トリルは最初に選択した音符の上に入力され、選択した後続の音符をまたがって延長線が表示されます。

関連リンク

[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

ポップオーバーを使ったアルペジオ記号の入力

装飾音のポップオーバーを使用してアルペジオ記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。複数の声部の音符や、ピアノやハーブといった同じインストゥルメントに属する異なる譜表上の音符にかかるようにアルペジオ記号を入力することもできます。

補足

一度に入力できるアルペジオ記号は1つのみです。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。
- アルペジオ記号を追加する声部ごとに少なくとも1つの音符を選択します。

補足

- ピアノやハーブなど、複数の譜表を使用するインストゥルメントでは、複数の譜表にある音符を選択して、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できます。ただし、インストゥルメントが異なる場合、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できません。

- 選択した声部の選択した位置にあるすべての音符にアルペジオ記号が追加されます。

2. 音符の入力を開始したら、**[Q]** を押して和音の入力を開始します。

補足

アルペジオ記号を入力できるのは和音の入力中のみです。

3. **[Shift]+[O]** を押して装飾音のポップオーバーを開きます。
4. 使用するアルペジオ記号のエントリーをポップオーバーに入力します。
たとえば、上向アルペジオ記号の場合は「arpup」、下向アルペジオ記号の場合は「arpdown」と入力します。
5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
6. 和音の入力中は、使用する音符を入力します。

結果

和音の入力中は、キャレットの位置にアルペジオ記号が入力されます。

既存の音符にアルペジオ記号を追加した場合は、選択した音符の左側にアルペジオ記号が入力されます。

和音の入力中は、現在の声部のその位置にあるすべての音符のピッチ範囲にかかるように、また、既存の音符にアルペジオ記号を追加した場合は、選択した声部/譜表のすべての音符のピッチ範囲にかかるようにアルペジオ記号が自動的に調整されます。

関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(268 ページ\)](#)

[アルペジオ記号 \(953 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[和音の入力 \(197 ページ\)](#)

パネルを使ったアルペジオ記号の入力

装飾音パネルを使用して、既存の音符にアルペジオ記号を入力できます。複数の声部の音符や、ピアノやハーブといった同じインストゥルメントに属する異なる譜表上の音符にかかるようにアルペジオ記号を入力することもできます。

補足

- 一度に入力できるアルペジオ記号は1つのみです。また、音符の入力中にマウスを使ってアルペジオ記号を入力することはできません。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、譜表および声部をまたぐアルペジオ記号は作成できません。

手順

1. 記譜モードで、アルペジオ記号を追加する声部ごとに少なくとも1つの音符を選択します。

補足

- ピアノやハーブなど、複数の譜表を使用するインストゥルメントでは、複数の譜表にある音符を選択して、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できます。ただし、インストゥルメントが異なる場合、譜表をまたぐアルペジオ記号を作成できません。
- 選択した声部の選択した位置にあるすべての音符にアルペジオ記号が追加されます。

2. 記譜ツールボックスの「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして、装飾音パネルを表示します。



3. 装飾音パネルの「アルペジオ (Arpeggiation)」セクションで、使用するアルペジオ記号をクリックします。

結果

選択した音符または和音の左側に、指定したアルペジオ記号が入力されます。アルペジオ記号は、その位置にある選択した声部/譜表のすべての音符のピッチ範囲にかかるように自動的に調整されます。

関連リンク

[アルペジオ記号 \(953 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

ポップオーバーを使ったグリッサンドラインの入力

装飾音のポップオーバーを使用して、既存の音符の間にグリッサンドラインを入力できます。隣接する音符間にも隣接しない音符間にもグリッサンドラインを入力できます。

補足

音符の入力中はグリッサンドラインを入力できません。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。

- グリッサンドラインを開始する音符
- グリッサンドラインにつなげる音符 2 つ

ヒント

2 つの音符は声部が異なってもかまいません。

2. **[Shift]+[O]** を押して装飾音のポップオーバーを開きます。
3. 使用するグリッサンドラインのエントリーをポップオーバーに入力します。
 - 直線のグリッサンドラインを使用するには「**gliss**」と入力します。
 - 波線のグリッサンドラインを使用するには「**glisswavy**」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

2 つの音符を選択した場合、それらの音符の間に、指定したグリッサンドラインが入力されます。

1 つの音符を選択した場合は、選択したノートの位置からグリッサンドラインが始まり、その譜表の同じ声部の次の音符で終わります (休符はまたぎます)。

補足

- 譜表の最後の音符にグリッサンドラインを入力することはできません。
- グリッサンドラインを入力した場合、周辺の音符や、選択した音符と音符の間にある休符は自動的に調整されません。グリッサンドテキストが表示される場合、テキストが音符や休符に重なる可能性があります。その場合、グリッサンドラインのグリッサンドテキストの表示をオフにするなどの設定を行なうことをおすすめします。

関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(268 ページ\)](#)

[グリッサンドライン \(962 ページ\)](#)

[グリッサンドのテキストを個別に変更する \(964 ページ\)](#)

[グリッサンドラインのテキストの表示条件を変更する \(965 ページ\)](#)

パネルを使ったグリッサンドラインの入力

装飾音パネルを使用して、既存の音符の間にグリッサンドラインを入力できます。隣接する音符間にも隣接しない音符間にもグリッサンドラインを入力できます。

補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、クリックした音符とその直後の音符との間にのみグリッサンドラインを入力できます。

- 音符の入力中はグリッサンドラインを入力できません。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。

- グリッサンドラインを開始する音符
- グリッサンドラインにつなげる音符 2つ

ヒント

2つの音符は声部が異なってもかまいません。

2. 記譜ツールボックスの「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして、装飾音パネルを表示します。



3. 装飾音パネルで、使用するグリッサンドラインのスタイルをクリックします。

- **グリッサンド (直線) (Glissando (Straight))**



- **グリッサンド (波線) (Glissando (Wavy))**



結果

2つの音符を選択した場合、それらの音符の間に、指定したグリッサンドラインが入力されます。

1つの音符を選択した場合は、選択したノートの位置からグリッサンドラインが始まり、その譜表の同じ声部の次の音符で終わります (休符はまたぎます)。

補足

- 譜表の最後の音符にグリッサンドラインを入力することはできません。
- グリッサンドラインを入力した場合、周辺の音符や、選択した音符と音符の間にある休符は自動的に調整されません。グリッサンドテキストが表示される場合、テキストが音符や休符に重なる可能性があります。その場合、グリッサンドラインのグリッサンドテキストの表示をオフにするなどの設定を行なうことをおすすめします。

関連リンク

[グリッサンドライン \(962 ページ\)](#)

マウス入力の設定 (169 ページ)

ポップオーバーを使ったジャズアーティキュレーションの入力

装飾音のポップオーバーを使用してジャズアーティキュレーションを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

補足

フリップやジャズターンなどのジャズの装飾音は、他の装飾音と同じ方法で入力できます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - ジャズアーティキュレーションを追加する音符を選択します。
2. 必要に応じて、音符の入力中に音符を1つ以上入力します。
3. 複数の譜表に同時にジャズアーティキュレーションを入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
4. **[Shift]+[O]** を押して装飾音のポップオーバーを開きます。
5. 使用するジャズアーティキュレーションのエントリーをポップオーバーに入力します。たとえば、スクープの場合は「**scoop**」、フォールの場合は「**fall**」と入力します。
6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

指定したジャズアーティキュレーションが選択したすべての音符に入力されます。音符の入力中、通常これは前に入力した音符になります。

補足

ポップオーバーを使用すると、すべてのジャズアーティキュレーションは線のスタイルに関するプロジェクト全体の設定に従います。タイプや長さは入力したあとでも変更できます。

パネルを使用すると、ジャズアーティキュレーションを入力するときに線のスタイルを指定できます。

関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(268 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った装飾音の入力 \(271 ページ\)](#)

[ジャズアーティキュレーション \(979 ページ\)](#)

[既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する \(983 ページ\)](#)

[スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルを変更する \(984 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

パネルを使ったジャズアーティキュレーションの入力

装飾音パネルを使用してジャズアーティキュレーションを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

補足

- フリップやジャズターンなどのジャズの装飾音は、他の装飾音と同じ方法で入力できます。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - ジャズアーティキュレーションを追加する音符を選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして、装飾音パネルを表示します。



3. 装飾音パネルで、「**ジャズ (Jazz)**」セクションから使用するジャズアーティキュレーションをクリックします。

結果

指定したジャズアーティキュレーションが選択したすべての音符に入力されます。音符の入力中、通常これは前に入力した音符になります。

関連リンク

[パネルを使った装飾音の入力 \(272 ページ\)](#)
[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

ポップオーバーを使ったギターベンドの入力

装飾音のポップオーバーを使用して、既存の音符の間にギターベンドを入力できます。隣接する音符間にも隣接しない音符間にもギターベンドを入力できます。

補足

音符の入力中はギターベンドを入力できません。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
 - ギターベンドを開始する音符

補足

譜表の最後の音符にギターベンドを入力することはできません。

- ギターベンドにつなげる音符 2 つ

ヒント

2 つの音符は声部が異なってもかまいません。

2. **[Shift]+[O]** を押して装飾音のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「**bend**」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

2 つの音符を選択した場合、それらの音符の間にギターベンドが入力されます。

1 つの音符を選択した場合は、選択したノートの位置からギターベンドが始まり、その譜表の同じ声部の次の音符で終わります (休符はまたぎます)。

ヒント

ギターベンドの入力にキーボードショートカットを設定できます。このキーボードショートカットは「**ギターベンドを作成 (Create Guitar Bend)**」と呼ばれ、「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページの「**音符の入力 (Note Input)**」カテゴリにあります。

関連リンク

[ギターベンド \(970 ページ\)](#)

[装飾音のポップオーバー \(268 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(62 ページ\)](#)

パネルを使ったギターベンドの入力

装飾音パネルを使用して、既存の音符の間にギターベンドを入力できます。隣接する音符間にも隣接しない音符間にもギターベンドを入力できます。

補足

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、クリックした音符とその直後の音符との間のみギターベンドを入力できます。

- 音符の入力中はギターベンドを入力できません。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。

- ギターベンドを開始する音符

補足

譜表の最後の音符にギターベンドを入力することはできません。

- ギターベンドにつなげる音符 2 つ

ヒント

2 つの音符は声部が異なってもかまいません。

2. 記譜ツールボックスの「**装飾音 (Ornaments)**」をクリックして、装飾音パネルを表示します。



3. 装飾音パネルの「**ギター (Guitar)**」セクションで「**ギターベンド (Guitar Bend)**」をクリックします。



結果

2 つの音符を選択した場合、それらの音符の間にギターベンドが入力されます。

1 つの音符を選択した場合は、選択したノートの位置からギターベンドが始まり、その譜表の同じ声部の次の音符で終わります (休符はまたぎます)。

ヒント

ギターベンドの入力にキーボードショートカットを設定できます。このキーボードショートカットは「**ギターベンドを作成 (Create Guitar Bend)**」と呼ばれ、「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページの「**音符の入力 (Note Input)**」カテゴリにあります。

関連リンク

[ギターベンド \(970 ページ\)](#)

[装飾音パネル \(270 ページ\)](#)

ベンディングの入力

ベンディングは、フレット楽器に属する既存の音符にのみ入力できます。

手順

1. 前にベンディングを入力する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」グループで、「**ベンディングの音 (Pre-bend interval)**」をオンにします。
3. 必要に応じて音程を変更します。

結果

指定した音程のベンディングが選択した音符の前に入力されます。

関連リンク

[ギターベンド \(970 ページ\)](#)

演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法

演奏技法は、演奏技法のポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、演奏技法パネルを使用してマウスで入力することもできます。ペダル線と演奏技法はどちらもインストゥルメントによって生成されるサウンドに影響を与えるため、Dorico Pro ではペダル線を演奏技法と見なします。

演奏技法のポップオーバーまたは演奏技法パネルを使用して、同じ方法で譜表の外側に弦の指示記号を入力できます。ただし、ハープペダルダイアグラムの入力は演奏技法のポップオーバーからのみ行なえます。

プロパティパネルの「**弦の指示記号 (String Indicators)**」グループのプロパティを使用して、譜表の内側に弦の指示記号を入力できます。

関連リンク

[演奏技法 \(1021 ページ\)](#)

[ペダル線 \(1000 ページ\)](#)

[ハープのペダリング \(991 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(825 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使った演奏技法の入力 \(284 ページ\)](#)

[パネルを使った演奏技法の入力 \(285 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ってペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示を入力する \(286 ページ\)](#)

[パネルを使ってペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示を入力する \(287 ページ\)](#)

[ハープペダルダイアグラムの入力 \(289 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する \(290 ページ\)](#)

[パネルを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する \(291 ページ\)](#)

[譜表の内側に弦の指示記号を入力する \(292 ページ\)](#)

演奏技法のポップオーバー

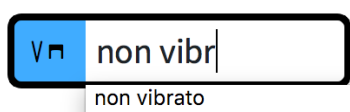
以下の表は、演奏技法、ペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示の入力に使用できる演奏技法のポップオーバーのエントリーの例です。

演奏技法のポップオーバーに演奏技法を入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効な演奏技法がメニューに予測表示されます。そこから使用する演奏技法を選択できます。

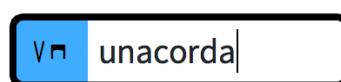
記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、演奏技法のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[P]** を押します。
- 既存の演奏技法を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「演奏技法を作成 (Create Playing Technique)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



演奏技法を入力するためのエントリーの例が入力された演奏技法のポップオーバー



ペダル線を入力するためのエントリーの例が入力された演奏技法のポップオーバー



記譜ツールボックスの「演奏技法 (Playing Techniques)」ボタン

演奏技法

演奏技法	ポップオーバーエントリー
ビブラート	vibrato
センツァ・ビブラート	senza vibrato
ナトゥラーレ (nat.)	nat
コン・ソルディーノ	con sord
息を強く吹き込む	strong air pressure
ダブルタンギング	double-tongue
下げ弓	downbow
上げ弓	upbow
スル・ポンティチェッロ	sul pont
スル・タスト	sul tasto
ポコ・スル・タスト	pst
ピチカート	pizz

演奏技法	ポップオーバーエントリー
スピッカート	spicc
アルコ	arco
舌を鳴らす (Stockhausen)	tongue click
指を鳴らす (Stockhausen)	finger click
ビブラフォンモーターオン	motor on
ビブラフォンモーターオフ	motor off
オープン	open
ダンブ	damp
ダンブ (大)	damp large
フルバレ	full barre
ハーフバレ	half barre
ストラムアップ	strum up
ストラムダウン	strum down
左手	lh
右手	rh

このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、ほかにも多くの有効な演奏技法があります。このリストは、さまざまなタイプの一般的な演奏技法を入力するためにエントリーをどのように構成するかを示すことを目的としています。

演奏技法の正しいエントリーがわからない場合は、演奏技法の一部を入力してみて、ポップオーバーメニューにその演奏技法が表示されるかを確認してください。

補足

- 演奏技法にデュレーションを持たせるには、「**vibrato->**」のように、エントリーの最後に「->」を追加します。音符の入力中に、続けて音符を入力するかキャレットを進めると演奏技法のデュレーションが延長されます。既存の音符に複数の演奏技法を追加すると、グループとして追加されず。
 - 演奏技法は特定の例に対応するため、上記のように入力するか、ポップオーバーメニューから選択する必要があります。
-

ペダル線

ペダル線、リテイク、またはペダルの強さの変更 ポップオーバーエントリー
指示のタイプ

サスティンペダル線	ped
サスティンペダルの強さを 1/4 に設定	1/4
サスティンペダルの強さを 1/2 に設定	r
サスティンペダルの強さを 3/4 に設定	3/4
サスティンペダルを完全に踏み込む	1
サスティンペダル線のリテイク	「 ^ 」、 「notch」 、または 「retake」
サスティンペダル線のリテイクを削除	nonotch
サスティンペダル線を終了	*
ソステヌートペダル線	sost
ソステヌートペダル線を終了	s*
ウナコルダペダル線	unacorda
ウナコルダペダル線を終了	u*

ハーブのペダリング

ハーブのペダリングの例 ポップオーバーエントリー

D、C、Bb、Eb、F、G、A 「**DCBbEbFGA**」、**「BbEb」**、または **「--^|^---**」

D、C \sharp 、B、E、F \sharp 、G \sharp 、A **「DC \sharp BEF \sharp G \sharp A**」、**「C \sharp F \sharp G \sharp 」**、または **「-v-|-vv-**」

ヒント

パイプ文字は任意です。

譜表の外側の弦の指示記号

弦の指示記号の例 ポップオーバーエントリー

1 **string1**

3 **string3**

関連リンク

[演奏技法 \(1021 ページ\)](#)

[演奏技法のグループ \(1033 ページ\)](#)

- ペダル線 (1000 ページ)
- サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 (1001 ページ)
- ハープのペダリング (991 ページ)
- ポップオーバーを使用して既存のペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加する (287 ページ)
- ハープペダルダイアグラムの入力 (289 ページ)
- ポップオーバーを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する (290 ページ)

演奏技法パネル

演奏技法パネルには、Dorico Pro で使用できるさまざまな演奏技法がインストゥルメントファミリーごとに表示されます。ペダル線は「**キーボード (Keyboard)**」セクションにあります。

- 演奏技法パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**演奏技法 (Playing Techniques)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

演奏技法パネルには以下のセクションがあります。

一般 (Common)

ミュート (mute) やレガード (legato) など、他の複数のインストゥルメントファミリーにも適用できる一般的な演奏技法が含まれています。

木管楽器 (Wind)

キークリック (key clicks) や笛のような音 (whistle tone) など、通常は木管楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

金管楽器 (Brass)

カップミュート (cup mute) やストップ (stopped) など、通常は金管楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

無音程打楽器 (Unpitched Percussion)

リム (rim) やなぞる (scrape) など、通常は無音程打楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

有音程打楽器 (Pitched Percussion)

ビブラフォン用のモーター・オン (motor on) やハーフペダル (½ Ped.) など、通常は有音程打楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

キーボード (Keyboard)

サスティンペダル (Ped.) やペダルの踏み込みの強さなど、通常は鍵盤楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

合唱 (Choral)

口を開く (mouth open) や舌を鳴らす (tongue click) など、通常は声にのみ使用する演奏技法が含まれています。

弦楽器 (Strings)

コル・レーニョ・バットウト (col legno battuto) や下げ弓 (down bow) など、通常は弦楽器にのみ使用される演奏技法が含まれています。

ギター (Guitar)

弦の指示記号、ハーフバレー (half barré)、ストラムアップ (strum up) など、通常はギターにのみ使用される演奏技法が含まれています。

ヒント

- 各セクションのオプションにマウスポインターを合わせると、演奏技法の名前が表示されます。

- 各セクションの下部にあるアクションバーを使用して「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」ダイアログにアクセスできます。

関連リンク

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(1035 ページ\)](#)
[パネルを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する \(291 ページ\)](#)

ポップオーバーを使った演奏技法の入力

演奏技法のポップオーバーを使用して演奏技法を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

補足

音符の入力中にポップオーバーに入力できる演奏技法は1つのみです。選択した音符に演奏技法を追加する際は、「->」で区切ると2つの演奏技法を入力できます。

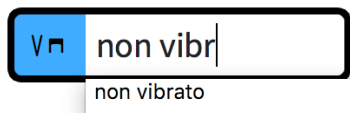
前提条件

入力するカスタムの演奏技法を作成しておきます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 演奏技法を入力する位置にあるアイテムを選択します。デュレーションを持つ演奏技法を入力するには、そのデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 複数の譜表に同時に演奏技法を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
3. **[Shift]+[P]** を押して演奏技法のポップオーバーを開きます。
4. 使用する演奏技法のエントリーをポップオーバーに入力します。
たとえば、「**pizz**」または「**non vibrato->**」と入力します。

演奏技法のポップオーバーに演奏技法を入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効な演奏技法がメニューに予測表示され、そこから使用する演奏技法を選択できます。演奏技法にデュレーションを持たせるには、最後に「->」を追加します。



5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
「**non vibrato->**」のような開口型の演奏技法は、音符の入力中に音符の入力を続けるか、**[Space]** を押してキャレットを進めると自動的に延長されます。
6. 必要に応じて、音符の入力中に演奏技法のポップオーバーをもう一度開き、以下のいずれかのエントリーを入力すると開口型の演奏技法が停止します。
 - 現在の演奏技法を終了して別の演奏技法を入力するには、新しく演奏技法を入力します。たとえば、「**vibrato**」と入力します。これにより、現在の演奏技法と次の演奏技法が延長線で結合されます。
 - 現在の演奏技法を終了して別の開口型の演奏技法を入力するには、その演奏技法に続けて「->」と入力します。たとえば、「**vibrato->**」と入力します。これにより、現在の演奏技法と次の演奏技法が延長線で結合されます。
 - 別の演奏技法を入力せず現在の演奏技法を終了するには、ポップオーバーに **[?]** と入力します。これにより、延長線ではなくデュレーション線が付いた状態で現在の演奏技法が残ります。

結果

指定した演奏技法が入力されます。初期設定では、これらは声部固有と見なされ、ステップ入力中にキャラットが表示されていた声部または既存の音符に演奏技法を追加するときに選択していた声部にのみ表示されます。これらは、符尾が上向きの声部では譜表の上に、符尾が下向きの声部では譜表の下に自動的に表示されます。

隣り合った演奏技法、つまり一緒にまたは連続して入力された演奏技法は自動的にグループ化されます。これは、演奏技法を音符の入力中に入力した場合も、既存の音符に追加した場合も同様です。

音符の入力中はキャラットの位置に演奏技法が入力され、デュレーションを持つ開口型の演奏技法の場合は自動的に延長されます。

単一の音符に演奏技法を追加すると、演奏技法は選択した音符にのみ追加され、デュレーションは与えられません。音符の範囲に演奏技法を追加すると、演奏技法は選択範囲の最初の音符に追加され、選択範囲の最後まで適用されるデュレーションが与えられます。延長線タイプが線を表示するように設定されている演奏技法の場合は、適切な延長線タイプが表示されます。

手順終了後の項目

- 演奏技法グループ内の演奏技法の移動、演奏技法の長さの変更、演奏技法の延長線の表示/非表示を行なえます。
- 個々のインストゥルメントに声部の個別再生を有効にして、異なる演奏技法を異なる声部で同時に鳴らすこともできます。

関連リンク

[演奏技法の位置の移動 \(1022 ページ\)](#)

[演奏技法のグループ \(1033 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線 \(1029 ページ\)](#)

[演奏技法のデュレーション線を表示/非表示にする \(1031 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャラットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

[カスタムの演奏技法の作成 \(1043 ページ\)](#)

パネルを使った演奏技法の入力

演奏技法パネルを使用して演奏技法を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

補足

- パネルを使用する場合、デュレーションを持つ演奏技法を連続で入力することはできません。連続で入力すると、それらの演奏技法は自動的にグループ化されます。デュレーションを持つ演奏技法を連続で入力したい場合は、ポップオーバーを使用します。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

同じ演奏技法を複数の場所に入力する場合は、マウス入力の環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に変更すると、音符ごとに演奏技法を選択しなおす必要がありません。

前提条件

入力するカスタムの演奏技法を作成しておきます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 演奏技法を入力する位置にあるアイテムを選択します。デュレーションを持つ演奏技法を入力するには、そのデュレーションにまたがるアイテムを選択します。

2. 記譜ツールボックスの「演奏技法 (Playing Techniques)」をクリックして、演奏技法パネルを表示します。



3. 演奏技法パネルで、入力する演奏技法をクリックします。

結果

指定した演奏技法が入力されます。初期設定では、これは声部固有と見なされ、ステップ入力中にキャレットが表示されていた声部または既存の音符に演奏技法を追加するときに選択していた声部にのみ表示されます。これは、符尾が上向きの声部では譜表の上に、符尾が下向きの声部では譜表の下に自動的に表示されます。

音符の入力中は、環境設定を「ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)」に設定している場合でも、演奏技法がキャレットの位置に入力されます。

単一の音符に演奏技法を追加すると、演奏技法は選択した音符にのみ追加され、デュレーションは与えられません。音符の範囲に演奏技法を追加すると、演奏技法は選択範囲の最初の音符に追加され、選択範囲の最後まで適用されるデュレーションが与えられます。延長線タイプが線を表示するように設定されている演奏技法の場合は、適切な延長線タイプが表示されます。

手順終了後の項目

- 演奏技法の間に変移線を表示するには、演奏技法をグループ化します。
- 個々のインストゥルメントに声部の個別再生を有効にして、異なる演奏技法を異なる声部で同時に鳴らすこともできます。

関連リンク

- [マウス入力の設定の変更 \(169 ページ\)](#)
- [演奏技法をグループ化する \(1034 ページ\)](#)
- [声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)
- [カスタムの演奏技法の作成 \(1043 ページ\)](#)

ポップオーバーを使ってペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示を入力する

演奏技法のポップオーバーを使用してペダル線を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。音符の入力中に音符を入力するとペダル線は自動的に延長されるため、適切な位置に到達したときにリテイクおよびペダルの強さの変更指示を入力できます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 入力するペダル線に必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[P]** を押して演奏技法のポップオーバーを開きます。
3. 使用するペダル線のエントリーをポップオーバーに入力します。
たとえば、サスティンペダル線であれば「ped」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
ペダル線が入力されます。
5. 必要に応じて、音符の入力中に **[Space]** を押してキャレットを進め、ペダル線を延長します。
また、音符を続けて入力するとペダル線は自動的に延長されます。
6. 必要に応じて、音符の入力中に適切な位置で演奏技法のポップオーバーをもう一度開き、入力するリテイクまたはペダルの強さの変更指示のエントリーをポップオーバーに入力してリテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力します。
たとえば、リテイクの場合は「^」または「retake」と入力します。

- 必要に応じて、音符の入力中に演奏技法のポップオーバーをもう一度開き、適切なエントリーをポップオーバーに入力してペダル線を終了します。
たとえば、サスティンペダル線を終了するには「*」と入力します。
 - [Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
-

結果

音符の入力中は、キャレットの位置でペダル線が始まり、キャレットの位置で終了します。
既存の音符にペダル線を追加すると、選択したアイテム全体にペダル線が追加されます。

関連リンク

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1001 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使用して既存のペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加する \(287 ページ\)](#)

[ペダル線の位置 \(1006 ページ\)](#)

ポップオーバーを使用して既存のペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加する

演奏技法のポップオーバーを使用して、既存のサスティンペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加できます。

補足

ソステヌートまたはウナコルダのペダル線にはリテイクおよびペダルの強さの変更指示を追加できません。

前提条件

サスティンペダル線を入力しておきます。

手順

- 記譜モードで、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力する位置にあるアイテムを 1 つ選択します。
 - [Shift]+[P]** を押して演奏技法のポップオーバーを開きます。
 - 任意のリテイクまたはペダルの強さの変更指示に対応する文字列をポップオーバーに入力します。たとえば、リテイクの場合は「^」または「retake」と入力します。
 - [Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
-

結果

選択位置にリテイクまたはペダルの強さの変更指示が入力されます。

関連リンク

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1001 ページ\)](#)

[演奏技法のポップオーバー \(280 ページ\)](#)

パネルを使ってペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示を入力する


演奏技法パネルを使用して、ペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示を入力できます。

補足

- このパネルを使用する場合、音符の入力中にペダル線、リテイク、ペダルの強さの変更指示の入力はできません。

- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

手順

1. 記譜モードで、ペダル線を適用する音符を選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」をクリックして、演奏技法パネルを表示します。

3. 演奏技法パネルで、「**キーボード (Keyboard)**」セクションを展開します。
4. 入力するペダル線をクリックします。
または、何も選択していない状態で、演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションで入力するペダル線をクリックし、スコア上でクリックアンドドラッグすると任意の長さのペダル線を作成できます。
5. 必要に応じて、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力する位置にあるアイテムを選択します。
6. 必要に応じて、演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションで、入力するリテイクまたはペダルの強さの変更指示をクリックします。

結果

選択範囲全体にかけてペダル線が入力されます。

関連リンク

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1001 ページ\)](#)

[パネルを使用して既存のペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加する \(288 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

パネルを使用して既存のペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加する

演奏技法パネルを使用して、既存のサスティンペダル線にリテイクやペダルの強さの変更指示を追加できます。

補足

ソステヌートまたはウナコルダのペダル線にはリテイクおよびペダルの強さの変更指示を追加できません。

前提条件

サスティンペダル線を入力しておきます。

手順

1. 記譜モードで、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力する位置にあるアイテムを 1 つ選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を入力します。
 - 演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションで、入力するリテイクまたはペダルの強さの変更指示をクリックします。
 - 「**編集 (Edit)**」 > 「**ペダル線 (Pedal Lines)**」 > 「**リテイクまたはペダルの強さの変更**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択位置にリテイクまたはペダルの強さの変更指示が入力されます。

ヒント

または、スコア上で何も選択されていない場合は、演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」セクションでリテイクまたはペダルの強さの変更指示をクリックしてからスコア上の位置をクリックすることで、それを入力できます。

関連リンク

[サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示 \(1001 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

ハープペダルダイアグラムの入力

演奏技法のポップオーバーを使用してハープペダルダイアグラムを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

ハープのペダリングを入力しなかった場合、すべてのハープペダルはナチュラル設定と見なされ、Cメジャーになります。範囲外の音符に色を表示した場合、ハープの現在のペダリングに一致しないピッチは赤で表示されます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - ハープの譜表で音符の入力を開始します。
 - ハープの譜表でハープペダルダイアグラムを入力する位置にあるアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[P]** を押して演奏技法のポップオーバーを開きます。
3. 使用するハープペダルのエントリーを入力します。
たとえば、AメジャーなどでC♯、F♯、G♯のペダルを使用する場合は「**C♯F♯G♯**」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

対応するハープペダルダイアグラムが選択した位置に入力されます。音符名を使用したダイアグラムとして表示されるか、ダイアグラムのかわりにガイドが表示されるかはレイアウトごとの設定によって決まります。

音符の入力中は、キャレットの位置にハープペダルダイアグラムが入力されます。

関連リンク

[ハープのペダリング \(991 ページ\)](#)

[レイアウト内のハープのペダリングを表示または非表示にする \(993 ページ\)](#)

[ハープペダルダイアグラムの外観の変更 \(992 ページ\)](#)

[音域外の音符のカラーを表示/非表示にする \(917 ページ\)](#)

既存の楽譜に基づくハープペダルダイアグラムの計算

すでに入力されている音符に基づいて適切なハープペダルダイアグラムを自動的に計算できます。これは、単一のポイント以降、または選択した領域内のいずれかに対して実行できます。

ハープのペダリングを入力しなかった場合、すべてのハープペダルはナチュラル設定と見なされ、Cメジャーになります。初期設定では、ハープの現在のペダリングに一致しないピッチは赤で表示されません。

手順

1. 記譜モードで以下のいずれかの操作を行なって、ハープのペダリングの計算に使用する領域を選択します。

- ハープのペダリングの計算を始める既存の単一の音符を選択します。
- ハープのペダリングを計算する音符の範囲を選択します。

2. 「記譜 (Write)」 > 「ハープペダルを解析 (Calculate Harp Pedals)」を選択します。

結果

選択部分の最初にハープペダルダイアグラムが入力されます。音符名を使用したダイアグラムとして表示されるか、ダイアグラムのかわりにガイドが表示されるかはレイアウトごとの設定によって決まります。

ポップオーバーを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する

演奏技法のポップオーバーを使用して、譜表の外側に弦の指示記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 譜表の上に弦の指示記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。デュレーション線の付いた弦の指示記号を入力するには、そのデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
 2. 複数の譜表に同時に弦の指示記号を入力する場合は、それらの譜表にキャレットを伸ばします。
 3. **[Shift]+[P]** を押して演奏技法のポップオーバーを開きます。
 4. 使用する弦の指示記号のエントリーをポップオーバーに入力します。
たとえば、単に1弦の指示記号を入力するには「**string1**」と入力し、デュレーションを持つ3弦の指示記号を入力するには「**string3->**」と入力します。
 5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
「**string3->**」のような開口型の弦の指示記号は、音符の入力中に音符の入力を続けるか、**[Space]** を押してキャレットを進めると自動的に延長されます。
 6. 必要に応じて、音符の入力中に演奏技法のポップオーバーをもう一度開き、ポップオーバーに **[?]** と入力すると開口型の弦の指示記号が停止します。
これにより、デュレーション線が付いた状態で現在の弦の指示記号が残ります。ポップオーバーに別の弦の指示記号を入力することもできますが、そうすると現在の弦の指示記号と次の弦の指示記号がデュレーション線ではなく延長線で結合されます。これは一般的な記譜方法ではありません。
-

結果

指定した弦の指示記号が入力されます。初期設定では、これらは声部固有と見なされ、ステップ入力中にキャレットが表示されていた声部または既存の音符に弦の指示記号を追加するときに選択していた声部にもみ表示されます。これらは、符尾が上向きの声部では譜表の上に、符尾が下向きの声部では譜表の下に自動的に表示されます。

音符の入力中はキャレットの位置に弦の指示記号が入力され、デュレーションを持つ開口型の弦の指示記号の場合は自動的に延長されます。

単一の音符に弦の指示記号を追加すると、弦の指示記号は選択した音符にのみ追加され、デュレーションは与えられません。音符の範囲に弦の指示記号を追加すると、弦の指示記号は選択範囲の最初の音符に追加され、選択範囲の最後まで適用されるデュレーションが与えられます。

初期設定では、弦の指示記号には終端にフックのキャップが付いた破線のデュレーション線が表示されます。

手順終了後の項目

- デュレーションのない弦の指示記号を入力したあとに破線のデュレーション線を表示する場合は、あとから追加できます。
- 弦の指示記号の譜表に対する位置を変更できます。

関連リンク

[演奏技法のポップオーバー \(280 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(825 ページ\)](#)

[弦の指示記号の長さを変更する \(827 ページ\)](#)

[複数の譜表にキャレットを伸ばす \(175 ページ\)](#)

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(332 ページ\)](#)

パネルを使用して譜表の外側に弦の指示記号を入力する


演奏技法パネルを使用して、譜表の外側に弦の指示記号を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

補足

- 音符の入力中にパネルを使用してデュレーションを持つ弦の指示記号を入力することはできません。この操作はポップオーバーからのみ行なえます。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

同じ弦の指示記号を複数の場所に入力する場合は、マウス入力の環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に変更すると、音符ごとに弦の指示記号を選択しなおす必要がありません。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 譜表の上に弦の指示記号を入力する位置にあるアイテムを選択します。デュレーション線の付いた弦の指示記号を入力するには、そのデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」をクリックして、演奏技法パネルを表示します。
3. 演奏技法パネルで、「**ギター (Guitar)**」セクションを展開します。
4. 入力する弦の指示記号をクリックします。

結果

指定した弦の指示記号が入力されます。初期設定では、これは声部固有と見なされ、ステップ入力中にキャレットが表示されていた声部または既存の音符に弦の指示記号を追加するときに選択していた声部にのみ表示されます。これは、符尾が上向きの声部では譜表の上に、符尾が下向きの声部では譜表の下に自動的に表示されます。

音符の入力中は、環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合でも、弦の指示記号がキャレットの位置に入力されます。

単一の音符に弦の指示記号を追加すると、弦の指示記号は選択した音符にのみ追加され、デュレーションは与えられません。音符の範囲に弦の指示記号を追加すると、弦の指示記号は選択範囲の最初の音符に追加され、選択範囲の最後まで適用されるデュレーションが与えられます。

初期設定では、弦の指示記号には終端にフックのキャップが付いた破線のデュレーション線が表示されます。

手順終了後の項目

- デュレーションのない弦の指示記号を入力したあとに破線のデュレーション線を表示する場合は、あとから追加できます。
- 弦の指示記号の譜表に対する位置を変更できます。

関連リンク
[演奏技法パネル \(283 ページ\)](#)

譜表の内側に弦の指示記号を入力する

フレット楽器の各音符について、譜表の内側に弦の指示記号を表示できます。各ピッチを演奏できる弦は自動的に検出されますが、弦を手動で指定することもできます。

補足

- これらの手順は、フレット楽器の音符にのみ適用されます。
- 弦の指示記号は現在のレイアウトの譜表の内側にのみ表示されますが、プロパティの設定は他のレイアウトにコピーできます。

手順

1. 横に弦の指示記号を表示する、フレット楽器に属する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**弦の指示記号 (String Indicators)**」グループで、「**表示 (Show)**」をオンにします。

結果

譜表の内側の、選択した音符の横に弦の指示記号が表示されます。音符ごとに弦を指定していない限り、弦の指示記号に表示される弦番号は自動的に計算されます。譜表の内側の開放弦の指示記号は、丸の囲み線のない太字の数字 0 として表示されます。

初期設定では、左手のフィンガリングがない場合には弦の指示記号が符頭の左側に表示され、左手のフィンガリングがある場合には符頭の右側に表示されます。

手順終了後の項目

- 音符を演奏する弦を指定できます。これは、対応する弦の指示記号に表示される番号に影響しません。
- 符頭に対する弦の指示記号の位置を変更できます。
- 開放弦の指示記号のデフォルトの外観を変更できます。
- 選択した音符のプロパティ設定をコピーして、該当するすべてのレイアウトに弦の指示記号を表示できます。

関連リンク

[弦の指示記号 \(825 ページ\)](#)
[フレット楽器のフィンガリング \(812 ページ\)](#)
[フレット楽器のチューニング \(118 ページ\)](#)
[個々の音符に弦を指定する \(916 ページ\)](#)
[符頭に対する弦の指示記号の位置を変更する \(831 ページ\)](#)
[開放弦の指示記号の外観を変更する \(826 ページ\)](#)
[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(501 ページ\)](#)

ラインの入力方法

横棒線と垂直線は、どちらもラインパネルを使用して入力できます。ライン用のポップオーバーはありません。

ヒント

再生に影響する固有の記譜記号を表わすラインを入力したい場合は、かわりにこれらの記譜記号を直接入力できます。たとえば、強弱記号、アルペジオ、グリッサンド、トリルはすべて専用の機能が Dorico Pro に用意されています。

関連リンク

[ライン \(1046 ページ\)](#)

[強弱記号の入力方法 \(244 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(257 ページ\)](#)

[テンポ記号の入力方法 \(231 ページ\)](#)

[リピートとトレモロの入力方法 \(303 ページ\)](#)

ラインパネル

ラインパネルには、Dorico Pro で使用できるさまざまなラインが含まれています。このパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

- ラインパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**ライン (Lines)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

ラインパネルには以下のセクションがあります。

水平 (Horizontal)

使用できるさまざまな横棒線が含まれています。このセクションの上部のオプションを使用すると、それ以降に入力する横棒線の始めと終わりの連結の種類を設定できます。横棒線は符頭、小節線、または位置に連結でき、始めと終わりには異なる連結の種類を設定できます。



垂直 (Vertical)

使用できるさまざまな垂直線が含まれています。

関連リンク

[ライン \(1046 ページ\)](#)

[ラインの構成要素 \(1048 ページ\)](#)

横棒線の入力

ラインパネルを使用して、既存の音符間に横棒線を入力したり指定したデュレーションにかかるように横棒線を入力したりできます。横棒線は符頭、小節線、または位置に連結でき、開始位置と終了位置にはそれぞれ異なる種類の連結を設定できます。

すべての譜表に適用される、小節線または位置に連結されたラインを入力することもできます。

補足

- 横棒線を入力したあとに連結の種類を変更することはできません。
- 符頭に連結された横棒線を入力してグリッサンドを表わしたい場合は、かわりにグリッサンドラインを直接入力できます。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。

- 符頭に連結されたラインを入力するには、ラインで連結する音符を選択します。

ヒント

異なる声部や異なる譜表の音符、同じプレーヤーに割り振られたインストゥルメントに属する音符を選択できます。

- 小節線または位置に連結されたラインを入力するには、入力するラインに必要なデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
- 一方の端が符頭に連結され、もう一方の端が小節線または位置に連結された横棒線を入力するには、連結先の音符と、もう一方の端の位置にある任意のアイテムを選択します。

2. 記譜ツールボックスの「**ライン (Lines)**」をクリックして、ラインパネルを表示します。



3. 「**水平 (Horizontal)**」のセクションの「**開始 (Start)**」と「**終了 (End)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。

- **符頭に配置 (Attach to notehead)**



- **小節線に配置 (利用可能な場合) (Attach to barline (where available))**



- **リズムの位置に配置 (Attach to rhythmic position)**



4. 以下のいずれかの操作を行なって、指定した連結のラインを入力します。

- 符頭に連結されたライン、あるいは小節線または位置に連結されたラインを選択した譜表だけに入力するには、「**水平 (Horizontal)**」セクションでそのラインをクリックします。
- すべての譜表に適用される小節線または位置に連結されたラインを入力するには、**[Alt]** を押しながら「**水平 (Horizontal)**」セクションでそのラインをクリックします。

結果

指定した連結の横棒線が入力されます。横棒線は、連結の種類と位置に応じて配置されます。

すべての譜表に適用される横棒線は組段オブジェクトに分類されます。そのため、これらのラインは組段オブジェクトの表示と配置に関するレイアウトごとの設定に従います。

手順終了後の項目

- 小節線または位置に連結されたラインの配置と譜表上の位置を変更できます。
- ラインにテキストを追加できます。

関連リンク

[ライン \(1046 ページ\)](#)

[ラインの位置 \(1049 ページ\)](#)

[ラインの長さ \(1055 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

[ラインへのテキストの追加 \(1059 ページ\)](#)

[横棒線の配置の変更 \(1051 ページ\)](#)

[マウス入力の設定 \(169 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったグリッサンドラインの入力 \(274 ページ\)](#)

垂直線の入力

ラインパネルを使用して、既存の音符に垂直線を入力できます。複数の声部の音符や、ピアノやハーブといった同じインストゥルメントに属する異なる譜表上の音符にかかるように入力することもできます。

補足

- 垂直線を入力してアルペジオを表わしたい場合は、かわりにアルペジオ記号を直接入力できます。
- 一度に入力できる垂直線は1つのみです。
- 以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

環境設定を「**ポインターにアイテムを乗せる (Load pointer with item)**」に設定している場合、譜表および声部をまたぐ垂直線は作成できません。

手順

1. 記譜モードで、垂直線を追加する声部ごとに、同じ位置にある音符を少なくとも1つ選択します。

補足

- ピアノやハーブなど、複数の譜表を使用するインストゥルメントでは、複数の譜表にある音符を選択して、譜表をまたぐ垂直線を作成できます。ただし、たとえそれらのインストゥルメントが同じプレーヤーに割り振られていても、異なるインストゥルメント間で譜表をまたぐ垂直線を作成することはできません。
- 選択した声部の選択した位置にあるすべての音符に垂直線が追加されます。

2. 記譜ツールボックスの「**ライン (Lines)**」をクリックして、ラインパネルを表示します。



3. 「**垂直 (Vertical)**」セクションで入力するラインをクリックします。

結果

選択した音符の左側に、指定した垂直線が入力されます。垂直線の長さは、選択した声部または譜表のその位置にあるすべての音符の範囲全体にかかるように自動的に調整されます。

手順終了後の項目

- 同じ位置に複数のラインがある場合にラインの順序を変更したり、垂直線を音符の右側に表示したりできます。

- ラインにテキストを追加できます。

関連リンク

[ライン](#) (1046 ページ)

[ラインの長さ](#) (1055 ページ)

[ラインへのテキストの追加](#) (1059 ページ)

[垂直線を音符の右または左に表示する](#) (1050 ページ)

[垂直線の水平方向の順序を変更する](#) (1050 ページ)

[ポップオーバーを使ったアルペジオ記号の入力](#) (272 ページ)

歌詞の入力

歌詞のポップオーバーにテキストを入力して歌詞を入力できます。また、音符ごとに歌詞のポップオーバーを閉じて開き直すことなく、譜表上の次の音符に歌詞のポップオーバーを進めることができます。

手順

1. 記譜モードで、歌詞を入力する最初の音符を選択します。
2. **[Shift]+[L]** を押して歌詞のポップオーバーを開きます。
初期設定では、歌詞のラインの入力が選択された状態で歌詞のポップオーバーが開きます。
3. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって歌詞のタイプを変更します。
 - 歌詞のライン番号を変更するには、**[↓]** を押します。
 - 譜表の上に歌詞を入力するには、**[Shift]+[↑]** を押します。
 - コーラスのラインを入力するには、**[↑]** を押します。
 - 訳詞のラインを入力するには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
4. 選択した音符に追加する文字列または音節をポップオーバーに入力します。
 - 単一の音符に複数の文字列を入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[Space]** を押します。
 - 単一の文字列または音節内にハイフンを含めるには、**[Alt/Opt]+[-]** (ハイフン) を押します。
 - 歌詞にスラーを含めるには、**[_]** (アンダースコア) を押します。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、ポップオーバーを次の音符に進めます。
 - 単語全体、または多音節語の最後の音節を入力した場合は、**[Space]** を押します。
 - 多音節語の音節のうち最後の音節以外の1つを入力した場合は、**[-]** (ハイフン) を押します。
 - 音節のあとに延長線またはハイフンを表示しない場合は、**[→]** を押します。
6. 歌詞を入力する残りの音符に対して、文字列や音節を引き続きポップオーバーに入力します。
7. **[Return]** または **[Esc]** を押してポップオーバーを閉じます。
譜表の最後の音符に到達すると、ポップオーバーは自動的に閉じます。

結果

ポップオーバーに入力したテキストが、ポップオーバーの左側のアイコンで示されたタイプの歌詞として入力されます。

[-] を押してポップオーバーを次の音符に進めると、最後に入力した歌詞のあとにハイフンが表示されます。これは、複数の音符にまたがる多音節語に使用します。

[Space] を押してポップオーバーを進めると、最後に入力した歌詞のあとに間隔が表示されます。これは、多音節語の最後の音節や単音節語に使用します。

補足

歌詞の間に間隔とハイフンのどちらを表示するかは、音節のタイプを変更することであとから変更できます。

関連リンク

- [歌詞 \(Lyrics\) \(875 ページ\)](#)
- [歌詞入力中のナビゲーション \(298 ページ\)](#)
- [歌詞のタイプ \(877 ページ\)](#)
- [歌詞の音節のタイプ \(879 ページ\)](#)
- [歌詞のライン番号 \(891 ページ\)](#)
- [歌詞のハイフンと歌詞の延長線 \(889 ページ\)](#)

歌詞のポップオーバー

歌詞のポップオーバーを使用して、コーラスのラインや訳詞のラインを含む歌詞を入力できます。入力する歌詞のタイプはキーボードショートカットを使用していつでも変更できます。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャラットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、歌詞のポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[L]** を押します。
- 既存の歌詞を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「歌詞を作成 (Create Lyrics)」を選択します。
- 記譜ツールボックスの「歌詞 (Lyrics)」をクリックします。

v1.

歌詞のライン

既存の歌詞を変更する場合を除き、ポップオーバーはライン 1 に歌詞を入力できる状態で自動的に開きます。

歌詞のポップオーバーの左側に表示される数字は、歌詞を入力する歌詞のラインを示しています。

1 when|

ライン 1 にエンタリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

歌詞のポップオーバーが開いているときに **[↓]** を押すと、歌詞のライン番号が変更されません。

2 Now|

ライン 2 にエンタリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

譜表の上の歌詞のライン

歌詞のポップオーバーが開いているときに **[Shift]+[↑]** を押すと、譜表の上のラインに歌詞を入力できます。

そのあと、**[↑]** と **[↓]** を押すと、譜表の上の歌詞のライン番号を変更できます。

コーラスのライン

歌詞のポップオーバーが開いているときに **[↑]** を押すと、コーラスのラインを入力できます。この操作は、譜表の上下に歌詞を入力しているときに行なえます。

コーラスのラインの場合はポップオーバーの左側に「c」が表示されます。

c Ooh,|

コーラスのラインにエンタリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

訳詞のライン

歌詞のポップオーバーが開いているときに **[Alt/Opt]+[↓]** を押すと、訳詞のラインを入力できます。

ポップオーバーの左側には、訳詞のラインを追加する歌詞のライン番号の横にアスタリスク (*) が表示されます。



訳詞のラインにエントリーの例が入力された歌詞のポップオーバー

関連リンク

[歌詞の入力](#) (296 ページ)

[歌詞 \(Lyrics\)](#) (875 ページ)

[歌詞のタイプ](#) (877 ページ)

歌詞入力中のナビゲーション

歌詞のポップオーバーを閉じて開き直すことなく、歌詞のポップオーバーを移動して新しい歌詞を入力したり既存の歌詞を編集したりできます。

ポップオーバーのナビゲーション

キーボードショートカット

現在の文字列を終了し、ポップオーバーを次の音符または和音に進める。 **[Space]**

現在の音節を終了し、ポップオーバーを次の音符または和音に進める。 **[-]** (ハイフン)

延長線またはハイフンを表示せずにポップオーバーを次の音符に進める。 **[→]**

カーソルを次/前の文字に進める。次/前の文字が別の歌詞にある場合は、ポップオーバーがその歌詞に進む。 **[→]/[←]**

歌詞のライン内でポップオーバーを音節から音節に早送り/巻き戻しする。 **[Alt/Opt]+[→]/[Alt/Opt]+[←]**

ポップオーバーを進めずに文字列または音節内にスペースを追加する。 **[Shift]+[Alt/Opt]+[Space]**

ポップオーバーを進めずに単一の文字列または音節内にハイフンを追加する。 **[Alt/Opt]+[-]** (ハイフン)

文字列または音節内にスラーを追加する。 **[_]** (アンダースコア)

関連リンク

[歌詞 \(Lyrics\)](#) (875 ページ)

[歌詞の入力](#) (296 ページ)

リハーサルマークの入力

マウスやキーボードを使ってリハーサルマークを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜にあとから追加することもできます。

補足

以下の手順は、環境設定でマウス入力のデフォルト設定が「**選択位置にアイテムを作成 (Create item at selection)**」に設定されている場合について説明します。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - リハーサルマークを入力する位置にあるアイテムを選択します。たとえば、小節線や音符などです。

補足

複数のアイテムを選択していても、入力できるリハーサルマークは一度に1つのみです。

2. **[Shift]+[A]** を押します。
または、記譜ツールボックスの「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」をクリックします。



結果

リハーサルマークは、選択した小節線の位置、あるいは音符、休符、またはオブジェクトの開始位置に入力されます。

リハーサルマークの順序は自動的に更新されるため、既存のリハーサルマークの前や間など、どのような順序で入力しても構いません。

関連リンク

[リハーサルマーク \(Rehearsal Marks\)](#) (1064 ページ)

[マウス入力の設定](#) (169 ページ)

マーカー/タイムコードの入力

特定の位置にマーカーを入力できます。プロジェクト全体の設定に応じて、マーカーと一緒にタイムコードも表示できます。

手順

1. 記譜モードで、マーカーを入力する位置に再生ヘッドを移動します。
2. **[Shift]+[Alt/Opt]+[M]** を押します。

結果

再生ヘッドの位置にマーカーが入力されます。Marker というデフォルトテキストが表示されます。マーカーにタイムコードを表示するように選択している場合は、その位置を反映したタイムコードも表示されます。

ヒント

ビデオパネルの「マーカー (Markers)」セクションにある「**マーカーを追加 (Add Marker)**」をクリックしてマーカーを入力することもできます。この方法では再生ヘッドの位置にマーカーを入力するの

ではなく「**マーカーを追加 (Add Marker)**」ダイアログにタイムコードを直接入力できるため、各マーカーのタイムコードがすでにわかっている場合などに便利です。

また、再生モードの**マーカー**トラックにマーカーを入力することもできます。

手順終了後の項目

マーカーテキストは編集できます。

関連リンク

[マーカー \(1073 ページ\)](#)

[タイムコード \(1079 ページ\)](#)

[再生ヘッドの移動 \(548 ページ\)](#)

[マーカーのタイムコードを表示/非表示にする \(1081 ページ\)](#)

[マーカーのテキストを編集する \(1075 ページ\)](#)

[マーカートラック \(545 ページ\)](#)

[マーカートラックでのマーカーの入力 \(545 ページ\)](#)

ビデオパネルの「マーカー (Markers)」セクション

記譜モードのビデオパネルにある「**マーカー (Markers)**」セクションでは、マーカーおよびタイムコードの入力と編集を行なえるほか、マーカーが重要であると定義できます。

- ビデオパネルは、記譜ツールボックスの「**ビデオ (Video)**」をクリックして表示/非表示にできません。

ビデオパネルの「**マーカー (Markers)**」セクションには、以下の列からなるマーカーの表があります。

タイムコード (Timecode)

マーカーのタイムコードが表示されます。フィールドをダブルクリックしてタイムコードを編集できます。

テキスト (Text)

マーカーのテキストが表示されます。フィールドをダブルクリックしてテキストを編集できます。

重要 (Imp.)

この列のチェックボックスをオンにすると、マーカーが重要であると定義できます。

マーカーを重要であると定義すると、そのマーカーのエントリは表内に太字で表示され、「**テンポを検出 (Find Tempo)**」ダイアログで適切なテンポを検出する際の対象となります。

関連リンク

[マーカー \(1073 ページ\)](#)

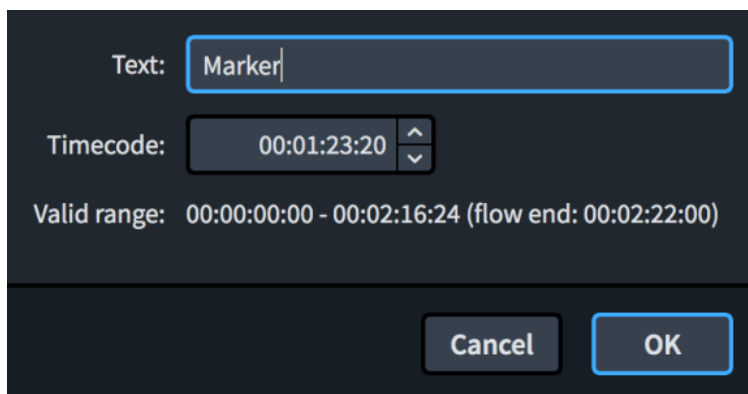
[タイムコード \(1079 ページ\)](#)

「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログ

「**マーカーを追加 (Add Marker)**」ダイアログでは、特定のタイムコードにカスタムテキスト付きのマーカーを入力できます。

- 「**マーカーを追加 (Add Marker)**」ダイアログを開くには、記譜モードでビデオパネルの「**マーカー (Markers)**」セクションにある「**マーカーを追加 (Add Marker)**」をクリックします。





「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログ

「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログには以下のオプションがあります。

テキスト (Text)

マーカーに表示されるカスタムテキストを入力できます。

タイムコード (Timecode)

マーカーを入力するタイムコードを指定できます。

有効範囲 (Valid range)

フローのタイムコードの範囲が表示されます。

関連リンク

[マーカー \(1073 ページ\)](#)

[タイムコード \(1079 ページ\)](#)

[マーカー/タイムコードの入力 \(299 ページ\)](#)

[ビデオパネルの「マーカー \(Markers\)」セクション \(300 ページ\)](#)

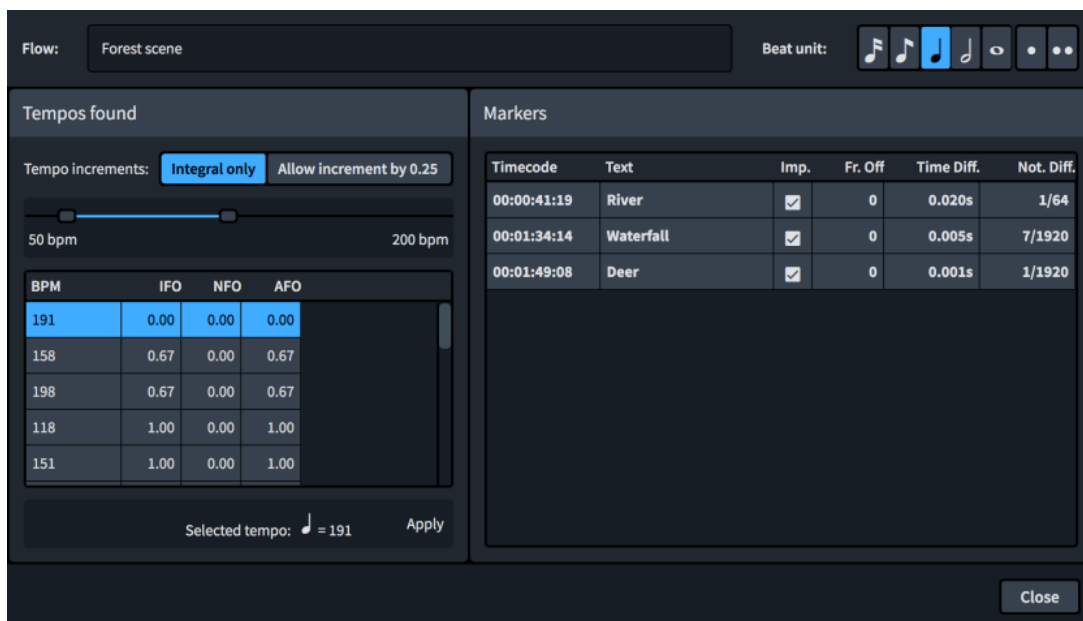
「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログ

「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログでは、マーカーができるだけ強拍に近づくテンポを識別するなどして、重要なマーカーが最もうまく収まるテンポを計算できます。

- 「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログを開くには、記譜モードでビデオパネルの「マーカー (Markers)」セクションにある「テンポを検出 (Find Tempo)」をクリックします。

補足

- 「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログでは、単一のフローに含まれるマーカーだけが対象となります。対象となるフローは、テンポを設定するフローのアイテムを選択してダイアログを開くことで変更できます。
- 「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログを使用するには、テンポを設定するフローに少なくとも1つのマーカーを入力し、少なくとも1つのマーカーを重要であると定義しておく必要があります。



「テンポを検出 (Find Tempo)」 ダイアログ

「テンポを検出 (Find Tempo)」 ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

フロー (Flow)

テンポを設定するフローの名前が表示されます。このフィールドは読み取り専用です。

拍の単位 (Beat unit)

テンポの対象となる拍の単位を変更できます。たとえば、フローの拍子記号が 6/8 の場合、拍の単位を付点 4 分音符に変更するといいでしょう。

テンポ範囲 (Tempo range)

対象とする最小/最大テンポを設定できます。

テンポの増加 (Tempo increments)

精度に応じて提案されたテンポをフィルタリングできます。

- **整数のみ (Integral only):** 整数のテンポ、つまり小数点以下がないテンポだけが提案されます。
- **0.25 ずつの増加を許可 (Allow increment by 0.25):** 小数点以下が 0.25、0.5、0.75 のテンポの提案を許可します。

検出されたテンポ (Tempos found)

拍に対するマーカーの位置にどのように影響するかを確認するために選択できるテンポのリストが表示されます。このリストは、「テンポ範囲 (Tempo range)」や「拍の単位 (Beat unit)」などのオプションを変更すると自動的に更新されます。

このリストには、以下の情報を表示する列があります。

- **BPM:** 1 分あたりの拍数 (beats per minute) の略です。メトロノームマークの値に応じてさまざまなテンポが表示されます。
- **IFO:** Important Frames Off の略です。前後いずれかに関わらず、重要なマーカーが重要な拍から外れる平均フレーム数を示します。
- **NFO:** Non-important Frames Off の略です。前後いずれかに関わらず、重要ではないマーカーが重要な拍から外れる平均フレーム数を示します。
- **AFO:** All Frames Off の略です。前後いずれかに関わらず、フロー内のすべてのマーカーが重要な拍から外れる平均フレーム数を示します。

検出されたテンポは、重要なマーカーが拍から外れた平均フレーム数の降順でリストに表示されます。

マーカー

「検出されたテンポ (Tempos found)」リストで現在選択しているテンポが、フロー内の各マーカーにどのような影響を与えるかがより詳しく表示されます。

- **タイムコード (Timecode):** 各マーカーの正確なタイムコードが表示されます。
- **テキスト (Text):** マーカーの識別に役立つ各マーカーのマーカーテキストが表示されません。
- **重要 (Imp.):** マーカーが重要として定義されているかどうかが表示されます。
- **Fr. Off:** Frames Offの略です。各マーカーが拍から外れる平均フレーム数が表示されません。
- **時間差 (Time Diff.):** 時間差 (time difference)の略です。マーカーの位置と一番近い拍の位置との間の時間差が小数の秒単位で表示されます。
- **記譜差 (Not. Diff.):** 記譜差 (notated difference)の略です。マーカーの位置と一番近い拍の位置との間の記譜差が全音符に対する分数で表示されます。

選択したテンポ (Selected tempo)

そのフローに対して現在選択しているテンポが表示されます。

適用 (Apply)

選択したテンポをフローの最初にテンポ記号として入力することで、フローにテンポを適用します。フロー内のその他のテンポ記号は自動的に削除されます。

関連リンク

[マーカーを重要なマーカーに指定する \(1077 ページ\)](#)

[メトロノームマーク \(1228 ページ\)](#)

リピートとトレモロの入力方法

リピート括弧、リピートマーカー、スラッシュ符頭などのリピートとトレモロは、リピートのポップオーバーを使用してキーボードで入力することも、反復記号パネルを使用してマウスで入力することもできます。

トレモロが反復記号パネルに含まれるのは、トレモロでは単音のトレモロとして個別に、または重音のトレモロとして順々にのいずれかで、音符が反復されるためです。

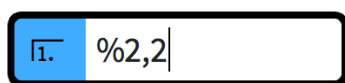
リピートのポップオーバー

以下の表は、さまざまなトレモロ、小節リピート記号、スラッシュ符頭領域、リピートマーカー、リピート括弧を入力するのに、リピートのポップオーバーで利用できるエントリーの例です。

記譜モードでは、アイテムの選択時またはキャレットの有効時に以下のいずれかの操作を行なって、リピートのポップオーバーを開くことができます。

- **[Shift]+[R]** を押します。
- 既存のリピートマーカー、スラッシュ領域、または小節リピート記号を選択して **[Return]** を押します。
- 「記譜 (Write)」 > 「リピートを作成 (Create Repeat)」を選択します。

ポップオーバーの左側に表示されたアイコンが、ウィンドウの右側にある記譜記号ツールボックスの対応するボタンと一致します。



エントリーの例が入力されたリピートのポップオーバー



記譜ツールボックスの「反復記号 (Repeat Structures)」ボタン

リピート括弧

リピート括弧のタイプ	ポップオーバーエントリー
リピート括弧全体	「end」または「ending」
追加のリピート括弧セグメント	add

リピートマーカー

リピートマーカーのタイプ	ポップオーバーエントリー
D.C.	「dc」、「D.C.」、「da capo」など
D.C. al Fine	「dcalf」、「DC al Fine」、「D.C. al Fine」など
D.C. al Coda	「dcalc」、「DC al Coda」、「D.C. al Coda」など
D.S.	「ds」、「D.S.」、「dal segno」など
D.S. al Fine	「dsalf」、「DS al Fine」、「D.S. al Fine」など
D.S. al Coda	「dsalc」、「DS al Coda」、「D.S. al Coda」など
to Coda	「toc」、「tc」、「to coda」、「To Coda」など
Segno	「s」、「seg」、「segno」など
Fine	「f」、「fin」、「fine」など
Coda	「c」、「co」、「coda」など

このリストには、リピートマーカーのすべてのエントリーが含まれているわけではありません。リピートのポップオーバーは柔軟で、入力したいリピートマーカータイプの適当なバージョンや略語を入力すれば、ほとんどの場合認識されます。

単音のトレモロ

トレモロのタイプ	ポップオーバーエントリー
1 ストローク	「/」、「\」、または「1」
2 ストローク	「//」、「\\」、または「2」
3 ストローク	「///」、「\\\」、または「3」
4 ストローク	「////」、「\\\\」、または「4」
符尾上の Z マーク (バズロール)	「z」または「zonstem」
すべてのトレモロを削除	「0」または「clear」

重音のトレモロ

トレモロのタイプ	ポップオーバーエントリー
1 ストローク	「/2」、「\2」、または「12」
2 ストローク	「//2」、「\\2」、または「22」
3 ストローク	「///2」、「\\\2」、または「32」
4 ストローク	「////2」、「\\\\2」、または「42」
符尾上の Z マーク (バズロール)	「z」または「zonstem」
すべてのトレモロを削除	「0」または「clear」

スラッシュ領域

スラッシュ領域	ポップオーバーエントリー
新規スラッシュ領域	slash

小節リピート記号

小節リピート記号のタイプ	ポップオーバーエントリー
1 小節リピート	「%」または「%1」
2 小節リピート	%2
4 小節リピート	%4
1 小節リピート、2 小節ごとにグループ化	%1,2
1 小節リピート、4 小節ごとにグループ化	%1,4
2 小節リピート、2 小節ごとにグループ化	%2,2
4 小節リピート、4 小節ごとにグループ化	%4,4

関連リンク

[ポップオーバーを使ったリピートマーカーの入力 \(310 ページ\)](#)

[ポップオーバーを使ったトレモロの入力 \(311 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の入力 \(314 ページ\)](#)

[小節リピート記号の入力 \(314 ページ\)](#)

[リピート括弧 \(1083 ページ\)](#)

[トレモロ \(Tremolos\) \(1268 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭 \(1109 ページ\)](#)

[小節リピート記号 \(1099 ページ\)](#)

反復記号パネル

反復記号パネルには、リピート括弧、リピートマーカー、トレモロ、スラッシュ符頭、小節リピート記号などのさまざまなリピート記号が含まれています。

トレモロが反復記号パネルに含まれるのは、トレモロでは単音のトレモロとして個別に、または重音のトレモロとして順々にのいずれかで、音符が反復されるためです。

- 反復記号パネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**反復記号 (Repeat Structures)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

反復記号パネルには以下のセクションがあります。

リピート括弧 (Repeat Endings)

新しいリピート括弧を入力したり、既存のリピート括弧に括弧を追加したりできるオプションがあります。

ジャンプ記号 (Repeat Jumps)

「D.S. al Coda」など、楽曲の特定のポイントにジャンプするようプレーヤーに指示するさまざまなリピートマーカーがあります。

リピートセクション (Repeat Sections)

「Coda」など、ジャンプ記号と一緒に使用するさまざまなセクションがあります。

トレモロ (Tremolos)

さまざまタイプの単音トレモロと重音トレモロがあります。

スラッシュ符頭 (Rhythm Slashes)

スラッシュ符頭を表示する領域を入力できます。スラッシュ符頭の形式は、現在の拍子記号に合わせて自動的に設定されます。

小節リピート記号 (Bar Repeats)

小節を繰り返し記譜することなく、設定した数だけ小節が繰り返されることを示す領域を入力できます。

ポップオーバーを使ったリピート括弧の入力

リピートのポップオーバーを使用してリピート括弧を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- 1 番のリピート括弧に含めるアイテムを各小節で少なくとも 1 つ選択します。
2. **[Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「end」または「ending」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

リピート括弧が入力されます。1 番のリピート括弧のセグメントは選択したアイテムの小節に作成され、2 番のリピート括弧のセグメントは次の小節に自動的に作成されます。

終わりのリピート線は、1 番のリピート括弧の終わりに作成されます (ない場合)。

関連リンク

[リピートのポップオーバー \(303 ページ\)](#)

[リピート括弧 \(1083 ページ\)](#)

ポップオーバーを使ったリピート括弧の追加

リピートのポップオーバーを使ってセグメントを追加することで、各リピート括弧構造の中に3つ以上の括弧を含めることができます。リピート括弧のセグメントの追加は、音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- 追加のリピート括弧に含める小節を選択します。

補足

前のリピート括弧のセグメントのあとに続く最初の小節から選択する必要があります。

2. **[Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。

3. ポップオーバーに「add」と入力します。

4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

5. 必要に応じて、追加する括弧の数だけこれらの手順を繰り返します。

結果

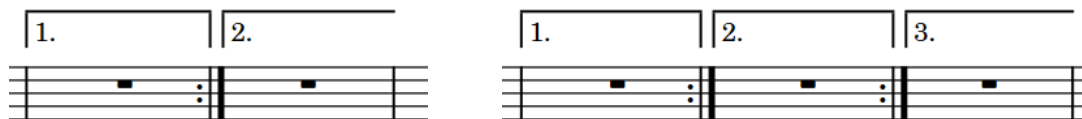
新しいリピート括弧のセグメントが追加されます。前にある既存のリピート括弧のセグメントは終端が閉じ、必要に応じて終わりのリピート線が作成されます。

ヒント

リピート括弧を選択し、プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」の「**括弧の数 (No. endings)**」の値を変更して、リピート括弧のセグメントを追加することもできます。

ただし、「**括弧の数 (No. endings)**」を使用した場合、1 小節を含むリピート括弧のセグメントしか追加されず、また自動的にリピート線が入力されたり、位置が変更されたりしません。反復記号は必要に応じて手動で入力する必要があります。

例



括弧が2つの場合のデフォルトのリPEAT括弧

3番括弧が追加されたリPEAT括弧

関連リンク

[リPEAT括弧 \(1083 ページ\)](#)

[リPEATのポップオーバー \(303 ページ\)](#)

パネルを使ったリPEAT括弧の入力

反復記号パネルを使用してリPEAT括弧を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

ヒント

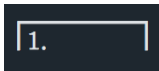
音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- 1番のリPEAT括弧に含めるアイテムを各小節で少なくとも1つ選択します。

2. 記譜ツールボックスの「反復記号 (Repeat Structures)」をクリックして、反復記号パネルを表示します。



3. 反復記号パネルの「リPEAT括弧 (Repeat Endings)」セクションで「リPEAT括弧を作成 (Create Repeat Ending)」をクリックします。



結果

リPEAT括弧が入力されます。1番のリPEAT括弧のセグメントは選択したアイテムの小節に作成され、2番のリPEAT括弧のセグメントは次の小節に自動的に作成されます。

終わりのリPEAT線は、1番のリPEAT括弧の終わりに作成されます (ない場合)。

関連リンク

[リPEAT括弧 \(1083 ページ\)](#)

パネルを使ったリピート括弧の追加

反復記号パネルを使ってセグメントを追加することで、各リピート括弧構造の中に3つ以上の括弧を含めることができます。リピート括弧のセグメントの追加は、音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- 追加のリピート括弧に含める小節を選択します。

補足

前のリピート括弧のセグメントのあとに続く最初の小節から選択する必要があります。

2. 記譜ツールボックスの「反復記号 (Repeat Structures)」をクリックして、反復記号パネルを表示します。

1.

3. 反復記号パネルの「リピート括弧 (Repeat Endings)」セクションで「リピート括弧にセクションを追加 (Add Section To Repeat Ending)」をクリックします。

+

補足

括弧の数が増えたことでリピート括弧が別のリピート括弧の一部に重なる場合、もう一方のリピート括弧は削除されます。ただし、その反復記号は削除されません。

4. 必要に応じて、追加する括弧の数だけこれらの手順を繰り返します。

結果

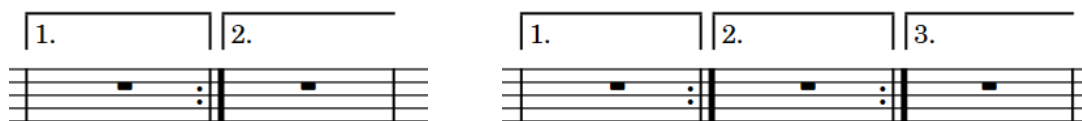
新しいリピート括弧のセグメントが追加されます。前にある既存のリピート括弧のセグメントは終端が閉じ、必要に応じて終わりのリピート線が作成されます。

ヒント

リピート括弧を選択し、プロパティパネルの「リピート括弧 (Repeat Endings)」の「括弧の数 (No. endings)」の値を変更して、リピート括弧のセグメントを追加することもできます。

ただし、「括弧の数 (No. endings)」を使用した場合、1小節を含むリピート括弧のセグメントしか追加されず、また自動的にリピート線が入力されたり、位置が変更されたりしません。反復記号は必要に応じて手動で入力する必要があります。

例



括弧が2つの場合のデフォルトのリピート括弧

3番括弧が追加されたリピート括弧

関連リンク

[リピート括弧](#) (1083 ページ)

ポップオーバーを使ったリピートマーカースの入力

リピートのポップオーバーを使用して、ジャンプ記号やリピートセクションなどのリピートマーカースを入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の楽譜に追加することもできます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、カーレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- リピートマーカースを入力する位置にあるアイテムを選択します。
リピートジャンプの場合、ジャンプ指示の終了位置を合わせる位置にある小節線を選択することをおすすめします。リピートセクションの場合、セクションマーカースの開始位置を合わせる位置にある小節線を選択することをおすすめします。
2. **[Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。
3. 使用するリピートマーカースのタイプのエントリをポップオーバーに入力します。
たとえば、コーダセクションを入力する場合は「**coda**」、セーニョを入力する場合は「**\$**」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

音符の入力中は、カーレットの位置にリピートマーカースが入力されます。コーダセクションが自動的に作成され、コーダと前にあるアイテムの間に間隔が空けられます。

楽譜にリピートマーカースを追加する場合、リピートマーカースは最初に選択したアイテムの位置に入力されます。

Fine や D.C. al Coda など、セクションの終わりを示すリピートマーカースは、選択した位置の右側に揃えられます。

関連リンク

[リピートのポップオーバー](#) (303 ページ)

[リピートマーカース](#) (1090 ページ)

補足

重音のトレモロを入力する場合、少なくとも2つの音符(連符でも可)を選択する必要があります。

2. **[Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。
3. 使用するトレモロのタイプのエントリーをポップオーバーに入力します。
たとえば、3ストロークの重音トレモロを入力するには「**///**2****」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
5. 必要に応じて、手順2と3を繰り返して、選択した音符に別のトレモロを入力します。
たとえば、音符に単音トレモロと重音トレモロを両方入力する場合などです。

結果

単音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した音符に入力されます。

重音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した個々の音符と直後の音符の間、または選択した音符のペアの間に入力されます。

連符を選択した場合、重音のトレモロが選択した連符をまたがって入力されます。トレモロストロークは、連符のすべての音符の中央に配置されます。連符の角括弧が非表示になり、各連符の開始位置に、比率を示すガイドが表示されます。

補足

2分音符の重音トレモロの符尾の外観は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページの設定に従います。

例



トレモロストローク数が3で連符をまたがる重音のトレモロ

手順終了後の項目

一方の声部にトレモロがあり、もう一方の声部にスラーがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にできます。

関連リンク

[リピートのポップオーバー \(303 ページ\)](#)

[トレモロ \(Tremolos\) \(1268 ページ\)](#)

[再生時のトレモロ \(1274 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

パネルを使ったトレモロの入力

反復記号パネルを使用して単音トレモロと重音トレモロの両方を入力できます。音符の入力中に行なうことも、既存の音符に追加することもできます。

トレモロが反復記号パネルに含まれるのは、トレモロでは単音のトレモロとして個別に、または重音のトレモロとして順々にのいずれかで、音符が反復されるためです。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符の入力を開始します。

ヒント

音符の入力中に、**[Shift]+[→]** または **[Shift]+[←]** を押すことで、キャレットを有効にしたまま直前に入力した音符の前後に音符を追加できます。

- トレモロを追加する音符を選択します。

補足

重音のトレモロを入力する場合、少なくとも2つの音符 (連符でも可) を選択する必要があります。

2. 記譜ツールボックスの「**反復記号 (Repeat Structures)**」をクリックして、反復記号パネルを表示します。

1.

3. 反復記号パネルの「**トレモロ (Tremolos)**」セクションで、入力する単音トレモロまたは重音トレモロのストローク数のボタンをクリックします。

たとえば、ストロークが2本の単音トレモロを入力するには「**単音トレモロ (2 ストローク) (Two Strokes Single-note Tremolo)**」をクリックし、ストロークが3本の重音トレモロを入力するには「**重音トレモロ (3 ストローク) (Three Strokes Multi-note Tremolo)**」をクリックします。



「単音トレモロ (2 ストローク) (Two Strokes Single-note Tremolo)」ボタン



「重音トレモロ (3 ストローク) (Three Strokes Multi-note Tremolo)」ボタン

結果

単音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した音符に入力されます。

重音のトレモロの場合、指定した数のトレモロストロークで、選択した個々の音符と直後の音符の間、または選択した音符のペアの間に入力されます。

連符を選択した場合、重音のトレモロが選択した連符をまたがって入力されます。トレモロストロークは、連符のすべての音符の中央に配置されます。連符の角括弧が非表示になり、各連符の開始位置に、比率を示すガイドが表示されます。

補足

2分音符の重音トレモロの符尾の外観は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページの設定に従います。

例



トレモロストローク数が3で連符をまたがる重音のトレモロ

手順終了後の項目

一方の声部にトレモロがあり、もう一方の声部にスラーがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にできます。

関連リンク

- [トレモロ \(Tremolos\) \(1268 ページ\)](#)
- [トレモロの削除 \(1271 ページ\)](#)
- [2分音符の重音トレモロの外観に関するプロジェクト全体の設定を変更する \(1273 ページ\)](#)
- [再生時のトレモロ \(1274 ページ\)](#)
- [声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

スラッシュ領域の入力

リピートのポップオーバーを使用してスラッシュ領域を入力できます。

手順

- 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - スラッシュ符頭を表示するデューレーションにまたがるアイテムを選択します。
- [Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。
- ポップオーバーに「slash」と入力します。
- [Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

音符の入力中は、スラッシュ領域は選択された音符またはアイテムの範囲全体に入力されます。この選択は一般的に最後に入力した音符です。既存の楽譜にスラッシュ領域を追加する際は、選択したデューレーションにかけて入力されます。

スラッシュ領域は拍子に合うように自動的に作成されます。拍子記号をあとから変更した場合、スラッシュ領域のデューレーションはそのまま維持されますが、スラッシュの外観は自動的に更新されます。

ヒント

また、スラッシュ領域は反復記号パネルの「スラッシュ符頭 (Rhythm Slashes)」グループにある「スラッシュ領域を作成 (Create Slash Region)」をクリックして入力することもできます。

関連リンク

- [リピートのポップオーバー \(303 ページ\)](#)
- [スラッシュ符頭 \(1109 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域 \(1109 ページ\)](#)
- [スラッシュ付き声部 \(1312 ページ\)](#)

小節リピート記号の入力

その領域の前の少なくとも1つの小節に音符が含まれている場合、小節リピート領域を入力できます。

手順

- 記譜モードで、小節リピート記号として表示する小節を選択します。

補足

- フローの最初の小節には、小節リピート領域を入力できません。
 - 1つの譜表に同時に入力できる小節リピート領域は1つのみです。
-
- [Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。
 - 使用する小節リピート領域のタイプのエントリーをポップオーバーに入力します。
たとえば、「%2,2」と入力すると、前の2つの小節が2つにグループ化されて繰り返されます。

4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

選択したデュレーションの領域が入力され、その中で、指定した間隔の譜表に指定したタイプの小節リピート記号が表示されます。

補足

- 音符の入力中に小節リピート領域を入力することもできますが、その場合は現在選択している音符を含む小節から小節リピート領域が入力されます。小節リピート記号はほとんどの場合空白の小節に表示されるため、この操作を行なうと意図しない結果になる恐れがあります。
- 小節リピート領域は、反復記号パネルの「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」グループにある「**小節リピート領域を作成 (Create Bar Repeat Region)**」をクリックして入力することもできます。ただし、この操作で入力できるのは単一小節のリピートを含む小節リピート領域のみです。

手順終了後の項目

小節リピート記号をどのようにグループ化するかを変更できます。

関連リンク

[リピートのポップオーバー \(303 ページ\)](#)

[小節リピート記号 \(1099 ページ\)](#)

[小節リピート記号のグループ化 \(1107 ページ\)](#)

[小節リピート記号のグループ化を変更する \(1107 ページ\)](#)


テキストの入力

スコア上の特定の位置にテキストを入力できます。単一の譜表にテキストを入力したり、すべての譜表に適用される組段テキストを入力したりできます。

補足

譜表上の位置とは関係なく、特定のページに連結されたテキストを挿入したい場合は、テキストフレームを使用できます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - テキストを入力する位置にあるアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってテキストエディターを開きます。
 - 譜表テキストを入力するには、**[Shift]+[X]** を押すか、記譜ツールボックスの「**テキスト (Text)**」をクリックします。

 - 特定の段落スタイルを適用した譜表テキストを入力するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**テキストを作成 (Create Text)**」 > **[段落スタイル]** を選択します。
 - 組段テキストを入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[X]** を押します。
 - 特定の段落スタイルを適用した組段テキストを入力するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**組段テキストを作成 (Create System Text)**」 > **[段落スタイル]** を選択します。
3. 任意のテキストを入力します。
4. 必要に応じて、**[Return]** を押してライン区切りを挿入します。
5. 必要に応じて、テキストエディターのオプションを使用してテキストの書式を設定します。

6. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command] + [Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

結果

音符の入力中は、テキストエディターに入力したテキストがキャレットの位置に入力されます。テキストは、デフォルトのパラグラフスタイルを使用して、そのテキストが適用される譜表の上に自動的に配置され、テキストの垂直位置はプロジェクト全体の設定に従います。

既存の楽譜にテキストを追加した場合は、最初に選択したアイテムの位置にテキストが入力されます。

補足

- Dorico Pro では、組段テキストは組段オブジェクトに分類されます。そのため、組段テキストは組段オブジェクトの表示と配置に関するレイアウトごとの設定に従います。
- 譜表とその他のアイテムの外側のすべてのテキストアイテムのデフォルトの位置、およびテキストアイテムの衝突をデフォルトで回避するかどうかは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テキスト (Text)**」ページで変更できます。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、「**テキストを作成 (Create Text)**」と「**組段テキストを作成 (Create System Text)**」(特定のパラグラフスタイルを適用したテキストを入力するためのオプション)にキーボードショートカットを割り当てることができます。

関連リンク

[テキストフレーム \(400 ページ\)](#)

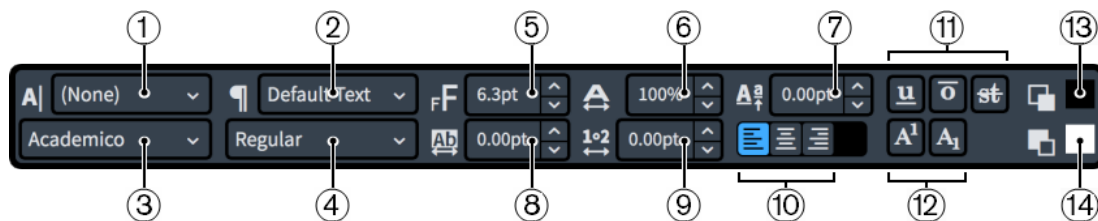
[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(332 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

記譜モードのテキストエディターオプション

テキストエディターを使用すると、テキストの追加や形式設定を行なえます。記譜モードでは、譜表テキストまたは組段テキストの追加または変更を行なうとテキストエディターが開きます。



記譜モードのテキストエディター

テキストエディターには以下のオプションがあります。

1 文字スタイル (Character Style)

パラグラフ内の選択したテキストの外観を変更できます。該当のパラグラフに適用されているパラグラフスタイルより優先されます。

2 パラグラフスタイル (Paragraph Style)

パラグラフ全体に適用されるパラグラフスタイルを変更できます。これによって、テキストの外観、書式、および配置が変わります。

譜表テキストと組段テキストは常に単一のパラグラフとして扱われます。

3 フォント (Font)

選択したテキストのフォントファミリーを変更できます。

4 フォントスタイル (Font Style)

選択したテキストのフォントスタイルを変更できます。

補足

- 選択したフォントによっては、一部のフォントスタイルを使用できない場合があります。
- フォントスタイルは、以下の標準キーボードショートカットを使用して変更することもできます。
 - 太字は **[Ctrl]/[command]+[B]**
 - 斜体は **[Ctrl]/[command]+[I]**

5 フォントサイズ (Font Size)

選択したテキストのサイズを変更できます。

ヒント

フォントサイズは、以下のキーボードショートカットを使用して変更することもできます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[.]**: フォントサイズを大きくする
- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[,]**: フォントサイズを小さくする

6 フォント幅 (Font Stretch)

選択したテキストの幅を広げたり狭めたりできます。

7 ベースラインの移動 (Baseline Shift)

選択したテキストのベースラインを上下に少しずつ移動できます。

8 文字のスペーシング (Letter Spacing)

選択したテキストの文字間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。

9 単語のスペーシング (Word Spacing)

選択したテキストの単語間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。

10 配置 (Alignment)

スコア内の位置に対する選択したテキストの配置を選択できます。テキストフレーム内のテキストの場合、テキストフレームの左余白に揃います。

以下の配置から選択できます。

- 左揃え (Align Left)
- 中央揃え (Align Center)
- 右揃え (Align Right)

11 線のタイプ

選択したテキストに、以下のタイプの線を組み合わせて付けられます。

- 下線 (Underline)

ヒント

[Ctrl]/[command]+[U] を押すことで選択したテキストに下線を付けることもできます。

- 上線 (Overline)
- 取り消し線 (Strikethrough)

12 上付き/下付き

選択したテキストを、ベースラインに対して以下のいずれかの位置に配置できます。

- 上付き (Superscript)
- 下付き (Subscript)

13 文字色 (Foreground Color)

選択したテキストの色を変更できます。

14 背景色 (Background Color)

選択したテキストの背景色を変更できます。

関連リンク

[テキストフレームへのテキストの入力 \(406 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

[「文字スタイル \(Character Styles\)」ダイアログ \(418 ページ\)](#)

[「存在しないフォント \(Missing Fonts\)」ダイアログ \(73 ページ\)](#)

テキストの編集

譜表に追加したテキストオブジェクト、またはテキストフレームに表示されるテキストは、テキストを変更したり書式を変更したりして、いつでも編集できます。

手順

1. 編集するテキストをダブルクリックしてテキストエディターを開きます。

ヒント

テキストオブジェクトまたは組段テキストオブジェクトを選択して **[Return]** を押してもかまいません。

2. 必要に応じて、テキストフレームまたはオブジェクト内のテキストを変更します。
3. 必要に応じて、テキストエディターのオプションを使用してテキストの書式を設定します。
4. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command] + [Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

関連リンク

[テキストオブジェクトとテキストフレーム内のテキスト \(420 ページ\)](#)

キューの入力

キューのポップオーバーを使用してキューを入力できます。

手順

1. キューを入力する譜表で、キューを表示するデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[U]** を押してキューのポップオーバーを開きます。
3. キューに楽譜を表示するインストゥルメントの名前を入力しはじめます。
ポップオーバーの下にインストゥルメントの候補メニューが現れ、選択できる元インストゥルメントが表示されます。
4. インストゥルメントの候補メニューから、キューに楽譜を表示するインストゥルメントを選択します。

補足

- プロジェクトに存在するインストゥルメントの名前を入力しなければ、キューは作成されません。
- インストゥルメントの正式名称を自分でポップオーバーに入力した場合、そのインストゥルメントを使用するキューを入力するには **[Return]** を 2 回押す必要があります。
- 同じタイプのインストゥルメントがプロジェクトに複数ある場合、番号を指定しなければ最初のプレーヤーの楽譜がキューとして入力されます。たとえば、プロジェクトに Violin I と Violin II があり、キューのポップオーバーに **「violin」** と入力すると、キューには Violin I の譜表の楽譜が表示されます。

結果

選択した譜表にキューが入力され、そこにキューのポップオーバーで選択したインストゥルメントの楽譜が表示されます。

ページビューでフルスコアレイアウトにキューを入力すると、初期設定では、元インストゥルメントの名前を表示するガイドとしてキューが表示されます。これは、フルスコアレイアウトではキューを表示せず、パートレイアウトでは表示するようにデフォルトで設定されているためですが、キューの表示/非表示はレイアウトごとに選択できます。

関連リンク

[キュー \(752 ページ\)](#)

[レイアウト内のキューを表示/非表示にする \(756 ページ\)](#)

[キューの長さの変更 \(759 ページ\)](#)

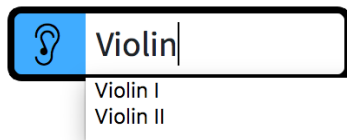
[キューの移動 \(758 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(54 ページ\)](#)

キューのポップオーバー

キューのポップオーバーでは、お使いのプロジェクトと言語で設定されたインストゥルメントの名前を使用して、プロジェクト内の別のインストゥルメントを参照するキューを入力できます。

プロジェクトに存在するインストゥルメントの名前をキューのポップオーバーに入力しはじめると、キューに表示できる元インストゥルメント (出力先インストゥルメントは除く) が表示された候補メニューが現れます。



エンタリーの例が入力され、インストゥルメントの候補メニューが表示されたキューのポップオーバー

大譜表や複数の譜表を使用するインストゥルメントの各譜表は「**Piano (a)**」と「**Piano (b)**」のように、個別に表示されます。

無音程打楽器のインストゥルメントはそれぞれ個別に表示されます。プロジェクト内にドラムセットがある場合、ドラムセットに含まれるインストゥルメントはキューの候補として個別に表示されます。たとえば、キューにキックドラムだけを表示できます。

補足

- 打楽器キット全体をキューに使用することはできません。キット内の個々のインストゥルメントを選択する必要があります。
- 既存のキューと同じ位置にキューを直接入力すると、既存のキューは新しいキューで上書きされ、既存のキューは削除されます。ただし、別の小節にキューを作成しておいて、あとから移動するか長さを変更すれば、同じ位置に複数のキューを配置できます。

キューパネル

キューパネルでは、キューを入力したりキューの入力に適した場所を見つけたりできます。

- キューパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**キュー (Cues)**」をクリックして表示/非表示にできます。



[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。

キューパネルには以下のセクションがあります。

キューを作成 (Create Cue)

「**キューを作成 (Create Cue)**」 ボタンをマウスでクリックしてキューのポップオーバーを開くことができます。

キューを提案 (Suggest Cues)

プレイヤーの休止の長さに基づいてキューの提案箇所を生成できます。

関連リンク

[キュー \(752 ページ\)](#)

キューの提案

キューの提案とは、現在のフロー内でプレイヤーが一定の間演奏していない箇所のうち、Dorico Pro がキューを入力するのに適していると識別した場所のことです。

キューパネルの「**キューを提案 (Suggest Cues)**」セクションは以下のセクションに分かれており、これらはキューの入力に適した場所を見つけるのに役立ちます。

休符時間 (Resting for)

キューを入力するまでのプレイヤーの休止時間を指定できます。

休止時間は小節や拍ではなく絶対時間で指定します。拍子やテンポはフローの中で何度も変更される場合があるほか、楽譜の一部または全体に拍子がないことがあるのに対し、1秒は常に同じ長さであるためです。Dorico Pro はプロジェクトのメトロノームマークを使用して時間を計算します。

絶対時間を指定することで、キューに適した場所を見つけるアプローチの一貫性を確保できます。

リハーサルマーク (Rehearsal Marks)

休止時間を決定する際にリハーサルマークを考慮/無視できます。

リハーサルマークは楽譜の新しいセクションやその他の目印と同じ位置にあることが多く、これらはキューを追加しなくてもプレイヤーには明らかな場合があります。リハーサルマークは必ずしも音楽構造のガイドとして機能するわけではないため、初期設定では無視されます。

キュー

休止時間を決定する際に、出力先プレイヤーが演奏する音符の間にすでに存在するキューを考慮/無視できます。

出力先インストゥルメントのエントリーの直前にあるキューは常に無視され、たとえキューを考慮するように設定していても、提案箇所に含まれることはありません。

ただし、キューを考慮するように設定した場合、延長された休符の間プレイヤーが自分の場所を分かりやすく示し、エントリーの直前にないキューは、タイマーをリセットします。

更新 (Update)

「**休符時間 (Resting for)**」の長さやリハーサルマークとキューの設定を変更してこのボタンを押すと、これらの設定に基づいてキューの提案が再計算されます。

「**更新 (Update)**」ボタンの下には、キューの提案のリストを前回更新したときにアクティブだったフローとレイアウトの名前が表示されます。これにより、表に表示された提案が適用されるフローとレイアウトを一目で確認できます。

キューの提案の表

提案されたキューが表に表示されます。この表には以下の列があります。

- 「**インストゥルメント (Instr.)**」: 指定した最小デューレーションより長く休止している出力先インストゥルメント。クリックすると、キューの提案があるインストゥルメントがスコアに登場する順に表示されます。
- 「**小節 (Bar)**」: 休止時間のあとに出力先インストゥルメントの最初のエントリーが含まれている小節。クリックすると、エントリーが昇順、つまり登場が早い小節から順に上から下へと表示されます。
- 「**秒 (Sec.)**」: 「**小節 (Bar)**」列に表示されたエントリーの前に出力先インストゥルメントが休止している時間の長さ (秒)。クリックすると、休止時間の長さが降順、つまり最も長いものから順に上から下へと表示されます。

キューの提案の表で行をクリックすると、その場所に直接移動します。初期設定では、出力先インストゥルメントのエントリーの前に5～10秒に相当するデューレーションがある領域が強調表示されます。強調された領域はキューの長さの具体的な提案ではありませんが、楽譜の前後関係によってはよい目安になります。

キューの提案の表で提案された場所にキューを作成すると、その提案はリストから自動的に削除されます。

表の一番下のアクションバーにある「無視 (Ignore)」をクリックすると、キューが適切だとは思わない提案を非表示にできます。

補足

あとから「更新 (Update)」をクリックしてリストを再生成すると、非表示になっていた提案が再度表示されます。

キューの提案箇所を強調 (Highlight suggestions)

「キューの提案箇所を強調 (Highlight suggestions)」をオンにすると、元インストゥルメントのエントリーの前の強調された領域が表示され、オフにすると非表示になります。

「演奏中のインストゥルメント (Playing instruments)」リスト

キューの提案の表で現在選択している出力先インストゥルメントのエントリーの前の5～10秒に演奏しているインストゥルメントが表示されます。このリストは、キューの元インストゥルメントとして使用するインストゥルメントを判断するのに役立ちます。


関連リンク

[キュー \(752 ページ\)](#)

キューの提案を使用したキューの入力

記譜モードのキューパネルにある「キューを提案 (Suggest Cues)」セクションを使用して、キューの入力に適した場所を見つけることができます。そのあと、キューのポップオーバーを使用してキューを入力できます。

手順

1. 記譜モードの楽譜領域で、キューに適した場所を見つけるレイアウトを開きます。
たとえば、楽譜領域でフルスコアレイアウトを開いている場合はすべてのインストゥルメントについてキューに適した場所が提案されますが、単一のパートレイアウトを開いている場合は個々のインストゥルメントについてのみキューに適した場所が提案されます。
2. 記譜ツールボックスで「キュー (Cues)」をクリックしてキューパネルを表示します。

3. キューパネルの「キューを提案 (Suggest Cues)」セクションで、「休符時間 (Resting for)」の値を変更して、キューを入力するまでの休符時間を指定します。
4. 「リハーサルマーク (Rehearsal marks)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 考慮 (Consider)
 - 無視 (Ignore)
5. 「キュー (Cues)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 考慮 (Consider)
 - 無視 (Ignore)
6. 「更新 (Update)」をクリックします。
7. キューの提案のコンテキストを確認するには、キューの提案の表で行をクリックし、レイアウト内のその位置に直接移動します。

キューの提案は、5～10秒に相当するデュレーションが強調表示されます。「**キューの提案箇所を強調 (Highlight suggestions)**」をオフにすることで、強調された領域を非表示にすることもできます。

8. キューを入力する譜表で、キューを表示するデュレーションにまたがるアイテムを選択します。
9. **[Shift]+[U]** を押してキューのポップオーバーを開きます。
10. ポップオーバーで、キューに楽譜を表示するインストゥルメントの名前を入力しはじめます。ポップオーバーの下にインストゥルメントの候補メニューが表示されます。キューパネルの「**演奏中のインストゥルメント (Playing instruments)**」リストを使用すると、キューに適した元インストゥルメントを選択できます。
11. インストゥルメントの候補メニューから、キューに楽譜を表示するインストゥルメントを選択します。

補足

- プロジェクトに存在するインストゥルメントの名前を入力しなければ、キューは作成されません。
- インストゥルメントの正式名称を自分でポップオーバーに入力した場合、そのインストゥルメントを使用するキューを入力するには **[Return]** を2回押す必要があります。
- 同じタイプのインストゥルメントがプロジェクトに複数ある場合、番号を指定しなければ最初のプレーヤーの楽譜がキューとして入力されます。たとえば、プロジェクトに Violin I と Violin II があり、キューのポップオーバーに「**violin**」と入力すると、キューには Violin I の譜表の楽譜が表示されます。

結果

選択した譜表にキューが入力され、そこにキューのポップオーバーで選択したインストゥルメントの楽譜が表示されます。

ページビューでフルスコアレイアウトにキューを入力すると、初期設定では、元インストゥルメントの名前を表示するガイドとしてキューが表示されます。これは、フルスコアレイアウトではキューを表示せず、パートレイアウトでは表示するようにデフォルトで設定されているためですが、キューの表示/非表示はレイアウトごとに選択できます。

関連リンク

[キュー \(752 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(54 ページ\)](#)

編集と選択

Dorico Pro では、アイテムを個別に選択したり複数の譜表を含む大きな選択範囲を作成したりするなど、さまざまな方法でプロジェクト内のアイテムの選択と編集を行なえます。

関連リンク

[フィルター \(328 ページ\)](#)

[選択ツール \(52 ページ\)](#)

音符とアイテムを個々に選択/選択解除する

選択した音符にアーティキュレーションを追加したり短い楽節を削除したりするなど、楽譜領域内で既存の音符やその他の記譜項目を個別に選択/選択解除できます。

ヒント

多くの音符やアイテムを選択する場合は、より広範囲な選択方法を使用することをおすすめします。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、楽譜領域内の個々の音符やアイテムを選択します。
 - **[Ctrl]/[command]** を押しながら個々の音符またはアイテムをクリックします。
 - **[Shift]** を押しながら隣接する音符またはアイテムをクリックします。
 - 音符またはアイテムを 1 つクリックします。

ヒント

選択したいアイテムが別のアイテムの後ろにある場合は、**[Shift] + [Alt/Opt]** を押しながらそのアイテムをクリックします。

- 複数の音符またはアイテムを範囲選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在選択されているすべてのアイテムの選択を解除します。
 - **[Ctrl]/[command]+[D]** を押します。
 - 楽譜領域内の譜表の外側をクリックします。

関連リンク

[範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(324 ページ\)](#)

[音符の入力時/選択時に音符を再生/ミュートする \(330 ページ\)](#)

[フィルター \(328 ページ\)](#)

同じタイプのアイテムをより多く選択する

同じタイプのアイテムや同じ声部上の音符など、現在の選択を徐々に増加できます。この機能は、強弱記号や歌詞など。複数の異なるアイテムを一度に選択する場合に特に役立ちます。

手順

1. 選択箇所を増やす音符やアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

ヒント

4 つの譜表上の符尾が上向きの声部に含まれる音符のみを選択するなど、複数の譜表や特定の声部上の音符やアイテムを選択できます。

2. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[A]** を押して、選択箇所を拡大します。
3. 必要に応じて、再度 **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[A]** を押して選択箇所をさらに拡大します。

結果

元の選択箇所と同じ声部に含まれる同じタイプのアイテムや音符がさらに選択されます。キーボードショートカットを押すたびに、選択されるアイテムの範囲が拡大し、1 回めは小節内、2 回めは組段内、そして最後はフロー全体に選択範囲が広がります。ほかに選択できるアイテムが小節内に含まれていない場合は、自動的に 2 回めの拡大範囲に移ります。ギャラリービューには組段が 1 つしかないため、2 回めの拡大でフロー全体が選択範囲になります。

複数の小節や組段にまたがるアイテムは、含まれている最初の小節/組段のアイテムとして選択されません。

補足

以下のアイテムは 1 つのみ選択すると、Dorico Pro 通常とは異なる方法で選択されます。

- 歌詞: 元の選択した歌詞と同じライン番号、配置、およびラインタイプの歌詞にのみ選択範囲が拡大します。

- 強弱記号: 1 回目の拡大範囲は元の選択した強弱記号と同じグループ内および同じ譜表上の強弱記号で、それ以降の拡大範囲はほかのグループ内の強弱記号に広がります。
- 演奏技法: **弦楽器**や**合唱**のような、同じカテゴリーの演奏技法にのみ選択範囲が拡大します。また、上げ弓もしくは下げ弓の演奏技法を選択した場合は、選択範囲はほかの上げ弓もしくは下げ弓の演奏技法にしか拡大しません。これ以外の演奏技法は選択されません。

範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択

記譜モード、浄書モード、および再生モードでは、範囲選択ツールを使用して、特定の範囲内の複数の音符や記譜記号を一度に選択できます。

手順

1. ステータスバーで「**範囲選択ツール (Marquee Tool)**」をクリックします。



2. 楽譜領域をクリックして、選択する範囲を囲むようにドラッグします。

選択される音符と記譜記号を示す灰色の長方形が表示されます。選択する範囲のいずれかの角をクリックし、対角にドラッグすることをおすすめします。

結果

灰色の長方形の範囲に含まれるすべての音符と記譜記号が選択されます。

補足

長方形の範囲内に完全に収まっているアイテムのみが選択されます。ただし、音符またはタイのつながりが部分的に範囲に含まれている場合は、音符またはタイのつながり全体が選択されます。

関連リンク

[ステータスバー \(51 ページ\)](#)

[選択ツール \(52 ページ\)](#)

大きな選択範囲

譜表全体またはフロー全体のコンテンツの選択など、大きな範囲を選択できます。

特定の領域内のすべてを選択する

「**範囲選択ツール (Marquee Tool)**」を使用して、すべてを選択する領域を指定できます。

フロー内のすべてを選択する

- **[Ctrl]/[command]+[A]** を押します。
- 「**編集 (Edit)**」 > 「**すべて選択 (Select All)**」を選択します。

単一の譜表上のすべてを選択する

- 譜表の最初の音符を選択して、**[Shift]** を押しながらか譜表の最後の音符を選択します。
- 譜表の最初の音符を選択して、「**編集 (Edit)**」 > 「**組段の端末まで選択 (Select To End Of System)**」または「**編集 (Edit)**」 > 「**フローの最後まで選択 (Select To End Of Flow)**」を選択します。
- 選択したい譜表を囲むように範囲を選択します。

複数の隣接する譜表上のすべてを選択する

- 選択したい譜表範囲の一番上または一番下の 1 つの譜表全体を選択して、選択したいすべての譜表が選択されるまで **[Shift]+[↑]** または **[Shift]+[↓]** を押します。

- 選択したい譜表範囲の一番上または一番下の1つの譜表全体を選択して、選択したい譜表範囲の反対側の端の譜表を **[Shift]** を押しながらかクリックします。
- 選択したい譜表を囲むように範囲を選択します。

現在選択しているアイテムと同じタイプをさらに選択する

「編集 (Edit)」 > 「さらに選択 (Select More)」 (**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[A]**) を使用して、記譜モードおよび浄書モードにおいて、現在の選択を同じタイプまたは選択した声部内のほかのアイテムへと水平方向に徐々に拡大できます。複数の小節や組段にまたがるアイテムは、含まれている最初の小節/組段のアイテムとして選択されます。

- 1 1 回目の拡大は、現在の小節領域内に左右に広がります。4/4 の小節内の全音符を選択するなどして、小節内にほかに選択できるアイテムがない場合は、自動的に2回目の拡大範囲に移ります。
- 2 ページビューでの2回目の拡大は、現在の組段領域内に左右に広がります。ギャラリービューには組段が1つしかないため、2回目の拡大でフロー全体が選択範囲になります。
- 3 ページビューでは、3回目の拡大でフロー全体が選択範囲になります。

拍/小節の範囲内の組段のすべてを選択する

システムトラックを使用して拍/小節の領域を選択したあと、その領域内の組段のすべての譜表上のすべてを選択できます。

ヒント

歌詞や強弱記号など、特定のタイプのアイテムのみを選択したい場合は、対応するフィルターを使用できます。

関連リンク

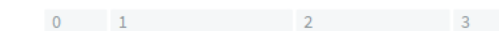
[フィルター \(328 ページ\)](#)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(322 ページ\)](#)

[同じタイプのアイテムをより多く選択する \(323 ページ\)](#)

システムトラック

システムトラックとは、記譜モードで各組段の上に表示される半透明のラインです。システムトラックを使用すると、小節と拍の追加や削除を行ったり、組段内のすべての譜表上のすべてのアイテムを選択したりできます。



譜表上のシステムトラックに小節が表示されている例



譜表上のシステムトラックに、現在のリズムグリッドの間隔を反映した拍の単位が表示されている例

システムトラックの色は、操作に応じて変化します。

- マウスポインターを合わせると不透明になります。
- システムトラックで領域を選択すると強調表示されます。



システムトラックで領域を選択すると、以下のオプションを使用できるようになります。



1 削除 (Delete)

選択した領域を削除できます。

補足

削除にマウスポインターを合わせると、選択した領域の強調色が変わります。

2 システムトラックの選択

選択した領域全体で、組段内のすべての譜表上のすべてのアイテムを選択できます。

3 追加 (Add)

システムトラックで選択した範囲と同じデュレーションの小節または拍を追加できます。選択範囲の直後に追加の時間が挿入されます。

補足

別の種類の選択を行なうか、レイアウトを切り替えるとシステムトラックでの選択はクリアされます。ただし、ページビューとギャラリービューを切り替えてもシステムトラックでの選択は保持されません。

関連リンク

[システムトラックを使った小節/拍の入力 \(241 ページ\)](#)

[システムトラックを使用して小節/拍を削除する \(642 ページ\)](#)

システムトラックの表示/非表示の切り替え

初期設定では、新規プロジェクトにシステムトラックが表示されますが、システムトラックの表示/非表示はいつでも切り替えることができます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、システムトラックの表示/非表示を切り替えます。
 - [Alt/Opt]+[T]** を押します。
 - 「**ビュー (View)**」 > 「**システムトラック (System Track)**」を選択します。

結果

「**ビュー (View)**」メニューの「**システムトラック (System Track)**」の横にチェックが付いている場合はシステムトラックが表示され、付いていない場合は非表示になります。

ヒント

以後のすべてのプロジェクトでデフォルトとしてシステムトラックを非表示にするには、「環境設定 (Preferences)」の「全般 (General)」ページの「ビュー (View)」セクションにある「新規プロジェクトにシステムトラックを表示 (Show system track in new projects)」をオフにします。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

システムトラックを使った小節の選択

システムトラックを使用すると、選択した小節全体で組段内のすべての譜表を選択できます。

前提条件

システムトラックを表示しておきます。

手順

1. システムトラックの小節をクリックします。
2. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行ない、最初に選択した小節の左右にある複数の小節を選択します。
 - **[Shift]** を押しながら、システムトラック上の左右の小節をクリックします。
 - システムトラック上をクリックして左右にドラッグします。
3. システムトラックで「**System Track Select**」をクリックします。選択範囲が狭い場合、システムトラックの上にボタンが表示される場合があります。



システムトラックのシステムトラックの選択ボタン



システムトラックの選択ボタンにマウスポインターを合わせると、ボタンが塗りつぶされて表示される

結果

選択した小節のすべての譜表上のすべてのアイテムが選択され、強調表示されます (記譜記号とガイドを含む)。

補足

選択範囲を削除した場合、そこに含まれるガイドも削除されます。これによってページレイアウトが影響を受ける可能性があります。たとえば、選択範囲にガイドが含まれるオssia譜表を削除した場合です。

関連リンク

[システムトラックの表示/非表示の切り替え \(326 ページ\)](#)

[小節内のコンテンツの削除 \(643 ページ\)](#)

[システムトラックを使用して小節/拍を削除する \(642 ページ\)](#)

システムトラックを使った拍の選択

システムトラックを使用すると、選択した拍全体で組段内のすべての譜表を選択できます。

前提条件

システムトラックを表示しておきます。

手順

1. **[Alt/Opt]** を押したままにします。
現在のリズムグリッドの間隔に一致するグリッドラインがシステムトラックに表示されます。
2. **[Alt/Opt]** を押したまま、システムトラック上をクリックして左右にドラッグします。

補足

[Shift] を押しながらかlickする操作では、拍の選択は行なえません。

3. システムトラックで「**System Track Select**」をクリックします。選択範囲が狭い場合、システムトラックの上にボタンが表示される場合があります。



システムトラックの**システムトラックの選択**ボタン



システムトラックの選択ボタンにマウスポインターを合わせると、ボタンが塗りつぶされて表示される

結果

選択した拍のすべての譜表上のすべてのアイテムが選択され、強調表示されます (記譜記号とガイドを含む)。

補足

選択範囲を削除した場合、そこに含まれるガイドも削除されます。これによってページレイアウトが影響を受ける可能性があります。たとえば、選択範囲にガイドが含まれるオssia譜表を削除した場合です。

関連リンク

[システムトラックの表示/非表示の切り替え \(326 ページ\)](#)

[小節内のコンテンツの削除 \(643 ページ\)](#)

[システムトラックを使用して小節/拍を削除する \(642 ページ\)](#)

フィルター

Dorico Pro のフィルターを使用すると、多くのアイテムの中から特定のタイプのアイテムのみを選択できます。Dorico Pro にはすべての記譜項目に対してフィルターが用意されています。

- フィルターを使用するには、「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > [**アイテム**] > [**アイテムのタイプ**] を選択します。

フィルターはコンテキストメニューでも選択できます。

アルペジオ記号、コード記号、調号、演奏技法など、すべての重要な記譜項目には固有のフィルターがあります。また、音符のスペーシングの変更もフィルタリングできます。

以下のアイテムには複数のタイプがあるため、複数のフィルターがあります。

音符

音符、装飾音符、和音をフィルタリングできます。臨時記号、ピッチ、和音内の位置に応じて音符をフィルタリングできます。

声部

符尾の方向に応じて声部をフィルタリングできます。スラッシュ付き声部もフィルタリングできます。

強弱記号

すべての強弱記号、あるいは段階的強弱記号または局部的強弱記号だけをフィルタリングできます。

テンポ

すべてのテンポ記号、あるいは固定テンポ変更、相対テンポ変更、または段階的テンポ変更だけをフィルタリングできます。

歌詞 (Lyrics)

すべての歌詞、あるいは特定のライン番号、タイプ、または譜表に対する位置の歌詞だけをフィルタリングできます。

補足

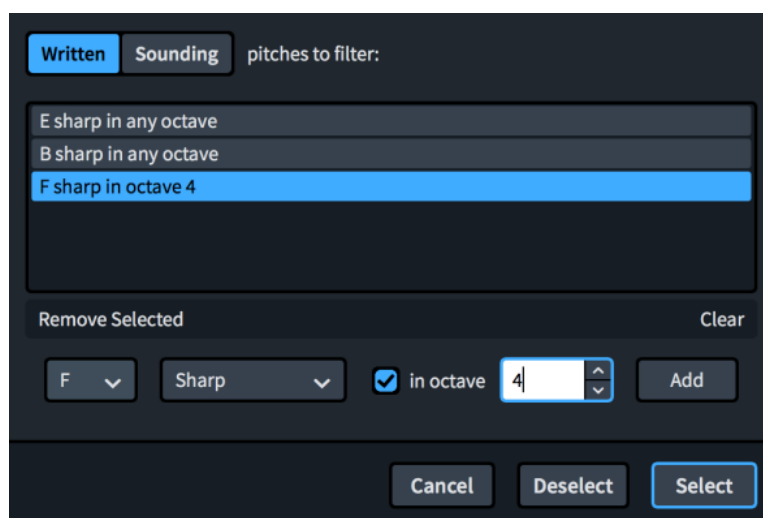
小節線に対するフィルターはありません。また、フィンガリング、連符、アーティキュレーション、トレモロは、これらが適用される音符の一部と見なされるためフィルタリングはできません。

関連リンク

[歌詞のフィルター \(876 ページ\)](#)

「ピッチで音符をフィルター (Filter Notes by Pitch)」ダイアログ

「ピッチで音符をフィルター (Filter Notes by Pitch)」ダイアログでは、より大きな選択範囲からフィルタリングする音符をピッチで指定できます。単一のオクターブまたはすべてのオクターブのピッチを指定できます。



「ピッチで音符をフィルター (Filter Notes by Pitch)」ダイアログ

「ピッチで音符をフィルター (Filter Notes by Pitch)」ダイアログは以下で構成されます。

移調音/実音 (Written/Sounding) のフィルターする音程 (pitches to filter)

「移調音 (Written)」のピッチと「実音 (Sounding)」のピッチのどちらに応じて音符をフィルタリングするかを選択できます。

ピッチフィルターリスト

選択範囲に適用されるさまざまなピッチフィルターが表示されます。

選択した音程を削除 (Remove Selected)

選択したピッチフィルターのみを削除します。

クリア (Clear)

リスト内のすべてのピッチフィルターを削除します。

音符名メニュー

フィルタリングする音符の名前を選択できます (「E」や「G」など)。

臨時記号メニュー

ピッチを指定する臨時記号を選択できます (「Eb」や「G#」など)。

オクターブを指定 (in octave)

ピッチをフィルタリングするオクターブを選択できます。

- 「オクターブを指定 (in octave)」をオンにすると、フィルターが単一のオクターブにのみ適用されます。値フィールドを使用してオクターブを指定できます。
- 「オクターブを指定 (in octave)」をオフにすると、フィルターがすべてのオクターブに適用されます。

追加 (Add)

現在設定されているパラメーターをフィルターとして追加します。

関連リンク

[大きな選択範囲](#) (324 ページ)

フィルターを選択/選択解除に変更する

用意されたフィルターオプションで指定したアイテムを選択するのか、選択を解除するのかを変更できます。初期設定では、フィルターはアイテムを選択します。つまり、結果として表示される項目には、フィルタリングされたアイテムのみが含まれます。

フィルターを選択解除に設定すると、結果として表示される項目には、フィルタリングされたアイテム以外のすべてが含まれます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、フィルターの動作を変更します。
 - フィルターを選択に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「フィルター (Filter)」 > 「選択のみ (Select Only)」を選択します。
 - フィルターを選択解除に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「フィルター (Filter)」 > 「選択解除のみ (Deselect Only)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

関連リンク

[歌詞のフィルター](#) (876 ページ)

音符の入力時/選択時に音符を再生/ミュートする

音符の入力に合わせて音符が再生されるかどうかのデフォルト設定を変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
 2. ページリストの「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」をクリックします。
 3. 「音符の入力 (Note Input)」セクションの「試聴 (Auditioning)」サブセクションにある「音符の入力中および選択中に音符を再生 (Play notes during note input and selection)」をオン/オフにします。
 4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

このオプションがオンの場合は、音符の入力時および選択時に音符が再生されます。オフの場合は、音符は再生されません。

関連リンク

[音符の入力](#) (176 ページ)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する](#) (322 ページ)

音符入力時/選択時に和音の音符をすべて/個別に再生する

和音のいずれかの音符を選択時に、すべての音符が再生されるか選択した音符のみが再生されるかのデフォルト設定を変更できます。

前提条件

音符の入力時/選択時に音符が再生されることとします。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
3. 「**音符の入力 (Note Input)**」セクションの「**試聴 (Auditioning)**」サブセクションにある「**選択されている和音のすべての音符再生 (Play all notes in chord when any is selected)**」をオン/オフにします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

このオプションがオンの場合は、和音のいずれかの音符が選択されると和音のすべての音符が再生されます。オフの場合は、選択された音符のみが再生されます。

貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする

初期設定では、強弱記号とスラーをほかの譜表の同じ位置にコピーすると自動的にリンクされます。この機能はオフにすることで、デフォルトで強弱記号とスラーがリンクされなくなります。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**音符の入力と編集 (Note Input and Editing)**」をクリックします。
3. 「**編集 (Edit)**」セクションの「**貼り付け時は強弱記号とスラーを既存のアイテムにリンクさせる (Link dynamics and slurs to existing items when pasting)**」をオフにします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

関連リンク

[リンクされた強弱記号](#) (794 ページ)

[リンクされたスラー](#) (1141 ページ)

既存のアイテムの変更

ポップオーバーが割り当てられているアイテムは、削除して新しくアイテムを入力するかわりに変更することができます。たとえば、8va のオクターブ線を 15va に変更したり、短いフェルマータを長いフェルマータに変更したりできます。

手順

1. 変更するアイテムまたはアイテムのガイドを選択します。
2. **[Return]** を押して、選択したアイテムのポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに入力されている内容を変更します。
コード記号については、MIDI キーボードで新しい和音を演奏することもできます。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

ポップオーバーに入力した新しいエントリーに従って、選択したアイテムが変更されます。アイテムに応じて変化するパラメーターも異なります。たとえば、延長記号や休止記号だとデュレーションが変化し、強弱記号だとボリュームが変化します。

補足

- フェルマータをプレス記号に変更すると、一番上の譜表のみに変更が適用されます。中間休止記号をプレス記号に変更すると、一番上の譜表にある中間休止記号が配置されている小節の最後にプレス記号が挿入されます。ただし、既存の中間休止記号はすべての譜表に残ります。
- この方法で演奏技法のポップオーバーを開いた場合、既存の演奏技法は削除されず、新しいエントリーは別の演奏技法として入力されます。
- *f* を *fp* にするなど、局部的強弱記号を結合式強弱記号に変更した場合、既存の強弱記号は削除されず、新しいエントリーは別の強弱記号として入力されます。この逆も同様です。
- *mf* を *f* にするなど、強弱記号のポップオーバーを開き直すことなく局部的強弱記号の強さを増減するコマンドにキーボードショートカットを割り当てることができます。

関連リンク

[既存の歌詞の編集 \(882 ページ\)](#)

[キーボードショートカットの割り当て \(66 ページ\)](#)

譜表に対するアイテムの位置の変更

音符の符尾の方向をすばやく変更したい場合など、譜表の上下どちらにも配置できるアイテムを反転して、アイテムの譜表に対する位置を変更できます。

補足

この手順はテキストフレーム内のテキストやペダル線には適用されません。

手順

1. 反転するアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

- 音符の入力中はアイテムを反転できません。テキストエディターが開いているときはテキストアイテムを反転できません。
- アーティキュレーション、タイのつながりの中の単一の符頭、単一のフェルマータなど、アイテムの一部を選択したい場合は浄書モードにする必要があります。

2. **[F]** を押します。

結果

選択したアイテムの譜表に対する位置を変更するには、プロパティパネルの対応するグループで「**位置 (Placement)**」、「**位置 (Position)**」、または「**方向 (Direction)**」のプロパティを適切に設定します。これらのプロパティをオフにすると、アイテムはデフォルトの位置に配置されます。

補足

- フックの方向が異なる連符の角括弧または複数セグメントによるスラーを同時に複数反転すると、それらすべてに矛盾しない方向が元々設定されていない限り、選択したすべてのアイテムが譜表の上下どちらかに設定されます。
- 多くのアイテムの譜表に対するデフォルトの位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の各ページで変更できます。

手順終了後の項目

アイテムの表示位置を変更する必要がある場合は、浄書モードでできます。

関連リンク

[譜表に対する連符の位置の変更 \(679 ページ\)](#)

[譜表に対するフィンガリングの位置の変更 \(804 ページ\)](#)

[譜表に対する連符の角括弧の位置を変更する \(1284 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更 \(408 ページ\)](#)

[歌詞の位置 \(884 ページ\)](#)

アイテムの外観のリセット

アイテムに個別に加えたすべての外観の変更をリセットして、デフォルトの設定に戻すことができます。アイテムの外観に関連するプロパティには、外観のスタイルやタイプを変更するものや poco a poco などのテキストを強弱記号に追加するものが含まれます。

手順

1. 外観をリセットするアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**外観をリセット (Reset Appearance)**」を選択します。

結果

選択したアイテムの外観に影響するすべてのプロパティがデフォルトの設定にリセットされます。レイアウト固有またはフレームのつながりに固有のプロパティについては、現在のレイアウトおよびフレームのつながり内で選択したアイテムの外観のみを更新します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(501 ページ\)](#)

アイテムの位置をリセットする

表示位置を個別に変更したアイテムの位置をリセットして、デフォルトの位置に戻すことができます。アイテムの位置に関連するプロパティには、水平方向/垂直方向のオフセット、拍相対位置、譜表に対する位置が含まれます。

手順

1. 位置をリセットするアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「ポジションをリセット (Reset Position)」を選択します。

結果

選択したアイテムの位置に影響するすべてのプロパティがデフォルトの設定にリセットされます。レイアウト固有またはフレームのつながりに固有のプロパティについては、現在のレイアウトおよびフレームのつながり内で選択したアイテムの位置のみを更新します。

ナビゲーション

別のアイテムに選択を切り替えたり、特定の小節番号やページを表示したりするなど、楽譜領域で現在開いているレイアウト内をさまざまな方法でナビゲーションできます。ナビゲーション方法の多くは複数のモードで機能します。

アイテムを選択している場合、別の音符やアイテムに移動することで、その音符またはアイテムに選択を切り替えることができます。

関連リンク

[ワークスペースの設定 \(54 ページ\)](#)

楽譜領域内の別のアイテムに移動する

たとえば、マウスを使わず譜表に沿って別の音符に選択を切り替えるなど、音符やアイテムを選択したあとに、楽譜領域内で別の音符やアイテムに移動できます。

補足

浄書モードでは、別のアイテムに移動すると、次または前の同じタイプのアイテムではなく、表示上最も近い位置にあるアイテムに選択が切り替わります。

手順

1. 楽譜領域でアイテムを選択します。
 - 音符間を移動する場合は音符を選択します。
 - リハーサルマークなど、特定のタイプのアイテム間を移動するには、そのタイプのアイテムを選択します。

補足

同じ譜表上にあるアイテム間でのみ前または後ろに移動できます。同じタイプであっても、別の譜表上のアイテムに移動することはできません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、別の音符またはアイテムに移動します。
 - 同じ声部の次のアイテムまたは音符に移動するには、**[→]** を押します。
 - 同じ声部の前のアイテムまたは音符に移動するには、**[←]** を押します。
 - 現在選択しているアイテムから上方向に最も近い音符に移動するには、**[↑]** を押します。

この操作では、まず同じ譜表に存在する音符に移動し、次に上の譜表の一番下の音符/休符に移動します。

- 現在選択しているアイテムから下方向に最も近い音符に移動するには、**[↓]** を押します。
この操作では、まず同じ譜表に存在する音符に移動し、次に下の譜表の一番上の音符/休符に移動します。
 - 次の小節の最初の音符/休符に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[→]** を押します。
 - 前の小節の最初の音符/休符に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[←]** を押します。
 - 組段の一番上の譜表に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[↑]** を押します。
 - 組段の一番下の譜表に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[↓]** を押します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、同じ位置にある別のタイプのアイテムに選択を切り替えることもできます。
- **[Tab]** を押すと、アイテムが順番に切り替わります。
 - **[Shift]+[Tab]** を押すと、アイテムが逆順で切り替わります。

補足

組段テキストやリハーサルマークなどの組段オブジェクトに選択を切り替えることはできません。ただし、組段オブジェクトを直接選択して移動することはできます。

4. 別のタイプのアイテムに選択を切り替えたあと、必要に応じてそのタイプの別のアイテムに移動します。
-

関連リンク

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

フローに移動する

現在のレイアウト内の前または次のフローに移動できます。この場合、そのフローの開始位置が自動的に楽譜領域に表示されます。これは、多くのフローが含まれているレイアウト内を移動するときに特に便利です。

これらの手順は、設定モード、記譜モード、浄書モードで機能します。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、別のフローに移動します。
 - レイアウト内の前のフローに移動するには、「編集 (Edit)」 > 「移動 (Go To)」 > 「前のフローに移動 (Go To Previous Flow)」を選択します。
 - レイアウト内の次のフローに移動するには、「編集 (Edit)」 > 「移動 (Go To)」 > 「次のフローに移動 (Go To Next Flow)」を選択します。

結果

楽譜領域が更新され、対応するフローの開始位置が表示されます。一番上の譜表が自動的に楽譜領域の左上に配置されます。

ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「前のフローに移動 (Go To Previous Flow)」と「次のフローに移動 (Go To Next Flow)」のどちらにもキーボードショートカットを割り当てることができます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(62 ページ\)](#)

ページに移動する

たとえば、楽譜の編集集中に変更が必要なページにすばやくジャンプするなど、ページ番号を使用して現在のレイアウト内の指定したページに移動できます。

これらの手順は、設定モード、記譜モード、浄書モードで機能します。

手順

1. 「編集 (Edit)」 > 「移動 (Go To)」 > 「ページの移動 (Go To Page)」を選択して「ページの移動 (Go To Page)」ダイアログを開きます。
2. 移動先のページ番号を「ページ (Page)」フィールドに入力します。
3. 「OK」をクリックします。

結果

楽譜領域が更新され、対応するページの開始位置が表示されます。ページの上部が自動的に楽譜領域の中央に配置されます。

ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「ページの移動 (Go To Page)」にキーボードショートカットを割り当てることができます。

小節への移動

たとえば、楽譜の編集集中に変更が必要な小節にすばやくジャンプするなど、現在のレイアウト内の指定した小節に移動できます。

これらの手順は、設定モード、記譜モード、浄書モード、再生モードで機能します。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[G]** を押して「小節に移動 (Go To Bar)」ダイアログを開きます。
2. 移動先の小節が含まれているフローを「フロー (Flow)」メニューから選択します。
3. 移動先の小節番号を「小節 (Bar)」フィールドに入力します。
4. 「OK」をクリックします。

結果

楽譜領域が更新され、選択した小節が表示されます。一番上の譜表が自動的に楽譜領域の左上に配置されます。

再生モードでは、再生ヘッドがその小節の始めに移動します。再生ヘッドが自動的にルーラーの始めに配置されます。

楽譜領域でのページのドラッグ

記譜モードと浄書モードでは、楽譜の別の部分を表示するために楽譜領域でページをドラッグできます (ギャラリービューも含む)。

手順

1. ステータスバーで「ハンドツール (Hand Tool)」をクリックします。



2. 楽譜領域で、楽譜の境界内の空白部分をクリックしてドラッグします。
ビューを動かしている間は、マウスポインターが手のアイコンに変わります。
-

関連リンク

[ステータスバー](#) (51 ページ)

[選択ツール](#) (52 ページ)

楽譜領域でのズームイン/ズームアウト

楽譜領域でのズームレベルを変更できます。たとえば、音符の入力時には全体を見やすくし、外観を調整する際には音符や記譜記号を拡大して表示できます。

前提条件

ズームイン/ズームアウトを行なう際に特定のアイテムが楽譜領域の中央に常に表示されるようにするには、そのアイテムを選択しておきます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、ズームインします。
 - **[Z]** 又は **[Ctrl]/[command]+^** を押します。
 - タッチパッドでピンチアウトします。
 - マウスホイールで上方向にスクロールします。
 - ステータスバーのズームオプションを使用します。
 2. 以下のいずれかの操作を行なって、ズームアウトします。
 - **[Ctrl]/[command]+[-]** 又は **[X]** を押します。
 - タッチパッドでピンチインします。
 - マウスホイールで下方向にスクロールします。
 - ステータスバーのズームオプションを使用します。
-

結果

楽譜領域のズームレベルが変更されます。何かを選択している場合は、Dorico Pro は選択部分をズームの中心とします。何も選択していない場合は、Dorico Pro はビューの中央部分をズームの中心とします。

関連リンク

[ズームオプション](#) (53 ページ)

[イベントディスプレイのトラックのズームイン/ズームアウト](#) (517 ページ)

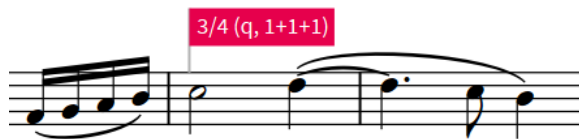
[ワークスペースの設定](#) (54 ページ)

ガイド

Dorico Pro では、ガイドは臨時記号が付かない調号、非表示のアイテム、音符のスペーシングの変更など、スコア上に表示できない重要なアイテムや変更指示の位置を示します。

非表示の小節番号や拍子記号など、多くのアイテムにガイドを表示できるため、どのアイテムを示すかに応じてガイドはさまざまな色で表示されます。ガイドは選択でき、たとえば組段区切りのガイドを選択してその位置から譜表サイズを変更するなど、ガイドを使用して非表示のアイテムのプロパティを変更できます。

ガイドには、非表示のアイテムを識別するためのテキストの概要が表示されます。たとえば、拍子記号のガイドには、分数で表わされた拍子記号と分割された拍が表示されます。

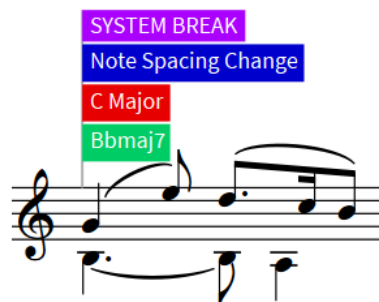


非表示の拍子記号のガイド

以下のアイテムのガイドを表示/非表示にできます。

- 臨時記号
- コード記号
- 大括弧と小節線の変更
- 音部記号
- キュー
- 強弱記号
- フレーム区切り
- 調号
- 「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを使用して入力した音符のスペーシングの変更
- ペダル線
- 組段区切り
- テンポ記号
- テキスト (組段と譜表のどちらも)
- 打楽器のレジェンド
- 拍子記号
- 連符

1つの位置に複数のガイドが存在する場合は、ガイドが重なって読みづらくなならないように、縦に重ねて表示されます。



同じ位置にある異なるアイテムの複数のガイド

補足

初期設定では、印刷やグラフィックファイルの書き出しにはガイドは含まれません。

関連リンク

[注釈 \(621 ページ\)](#)

ガイドの表示/非表示の切り替え

設定モード、記譜モード、浄書モードでは、すべてのガイドまたは特定のアイテムのガイドをいつでも表示/非表示にできます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、ガイドを表示/非表示にします。
 - すべてのガイドを表示/非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**ガイドを非表示にする (Hide Signposts)**」を選択します。
 - 特定のアイテムのガイドを表示/非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > [**アイテムのタイプ**] を選択します。

結果

メニュー内の対応するアイテムの横にチェックが付いている場合はそのアイテムのガイドが表示され、付いていない場合は非表示になります。

メニュー内の「**ガイドを非表示にする (Hide Signposts)**」の横にチェックが付いていない場合は選択しているすべてのガイドが表示され、付いている場合は非表示になります。

配置ツール

Dorico Pro の配置ツールを使用すると、異なる譜表や声部に音符を素早く効率的に割り当てることができます。

配置ツールでは、音符やアイテムを複数の譜表に同時にコピーする、選択した範囲に複数回コピーする、譜表間で音符を移動する、音符の声部を変更するなどの操作を行なえます。また、多くの譜表に音符を展開したり、少ない譜表に音符をリデュースしたりすることもできます。

関連リンク

[フィルター \(328 ページ\)](#)

[コンデンシング \(477 ページ\)](#)

音符とアイテムの削除

括弧内の音符を削除することなくリピート括弧だけを削除するなど、プロジェクトに入力した音符やアイテムはそれぞれ個別に削除できます。ただし、記譜モードにしておく必要があります。設定モード、浄書モード、または印刷モードで音符やアイテムを削除することはできません。

音符は再生モードでも削除できますが、その他の記譜項目は削除できません。

手順

- 記譜モードで、削除する音符/アイテムを選択します。
- [Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択したすべての音符/アイテムがプロジェクトから削除されます。削除した音符は、必要に応じて暗黙の休符に置き換えられます。選択箇所は、削除したアイテムに対して最も自然かつ近い位置に移ります。たとえば音符を削除した場合、選択箇所は同じ声部の最も近い位置の音符に移ります。

スラーの開始位置または終了位置の音符が削除された場合、スラーは自動的に次または前の符頭に再配置されます。スラーがかかる音符が1つだけになった場合、スラーは自動的に削除されます。

音符を削除する際、延長記号と休止記号は選択しなければ自動的に削除されません。それらはその位置に最も近い音符または休符の上に配置されるか、小節内のすべての音符が削除された場合は、小節休符の上に配置されます。

リピート括弧を削除する際、その一部として入力されていたリピート小節線は自動的に削除されません。

ヒント

マーカーの削除は、ビデオパネルの「**マーカー (Markers)**」セクションで該当のマーカーを選択し、アクションバーの「**削除 (Delete)**」をクリックして行なうこともできます。

関連リンク

[小節線の削除 \(651 ページ\)](#)

アイテムのコピーと貼り付け

音符や記譜記号などのアイテムをさまざまな方法でコピーして、別の位置や譜表に貼り付けることができます。

手順

1. 記譜モードで、コピーするアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したアイテムを別の位置にコピーします。
 - **[Alt/Opt]** を押しながら貼り付ける位置をクリックします。
 - **[R]** を押すと、音符とアーティキュレーションが選択した音符の直後に追加されます。
 - **[Ctrl]/[command]+[C]** を押し、貼り付ける位置を選択して **[Ctrl]/[command]+[V]** を押しします。
 - アイテムを上級の譜表にコピーするには、アイテムを選択して「**編集 (Edit)**」 > 「**特殊な貼り付け (Paste Special)**」 > 「**上の譜表に複製 (Duplicate to Staff Above)**」を選択します。
 - アイテムを下級の譜表にコピーするには、アイテムを選択して「**編集 (Edit)**」 > 「**特殊な貼り付け (Paste Special)**」 > 「**下の譜表に複製 (Duplicate to Staff Below)**」を選択します。

結果

選択したアイテムが、元の位置から削除されることなくコピーされます。

関連リンク

[オートメーションポイントのコピーと貼り付け \(535 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(322 ページ\)](#)

[音符を別の譜表に移動する \(342 ページ\)](#)

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(331 ページ\)](#)

[リズムを変えずに音符のピッチを変更する \(205 ページ\)](#)

複数の声部に音符をコピーアンドペーストする

音符は、元の声部とは異なる声部 (スラッシュ付き声部を含む) にコピーアンドペーストできます。たとえば、ある譜表の符尾が上向き声部から音符をコピーして、別の譜表の符尾が下向き声部に貼り付けることができます。

手順

1. 記譜モードで、コピーする音符を選択します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択した音符をコピーします。
3. 音符を貼り付ける譜表で音符の開始位置を選択します。

4. 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「声部に貼り付け (Paste Into Voice)」 > 「既存または新規の声部」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できません。

結果

選択した音符が選択した譜表および声部に貼り付けられます。

複数の譜表にアイテムをコピーアンドペーストする

木管楽器をユニゾンで演奏する際にすべての木管楽器の譜表に単一のフレーズをコピーする場合など、音符やその他のアイテムを複数の譜表に同時にコピーアンドペーストできます。

手順

1. 記譜モードで、複数の譜表にコピーするアイテムを選択します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択したアイテムをコピーします。
3. コピーしたアイテムを貼り付ける各譜表上のアイテムを選択します。
4. **[Ctrl]/[command]+[V]** を押してコピーしたアイテムを貼り付けます。

結果

選択したアイテムが選択したすべての譜表にコピーされます。

ヒント

各譜表上でアイテムの範囲を選択した場合、コピーしたアイテムも選択した範囲を埋めるように複数回貼り付けられます。

関連リンク

[大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(331 ページ\)](#)

アイテムをコピーアンドペーストして 選択範囲を埋める

複数の小節を同じフレーズで埋めたい場合などに、音符や記譜記号などのアイテムを、選択範囲内で一度に複数回コピーアンドペーストできます。

補足

コピーアンドペーストできるのは、選択範囲を埋めるデューレーションを持つアイテムだけです。たとえば、段階的強弱記号をコピーアンドペーストして選択範囲を埋めることはできませんが、局部的強弱記号ではできません。

手順

1. 記譜モードで、範囲全体にコピーするアイテムを選択します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択したアイテムをコピーします。
3. コピーしたアイテムを全体に貼り付ける範囲を選択します。
4. **[Ctrl]/[command]+[V]** を押してコピーしたアイテムを貼り付けます。

結果

選択した範囲を超えることなく、その範囲に収まる回数だけ、コピーしたアイテムが貼り付けられます。

ヒント

複数の譜表にまたがる範囲を選択した場合は、コピーしたアイテムも複数の譜表に貼り付けられます。

関連リンク

[大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)

音符を別の譜表に移動する

たとえば、MIDI ファイルからキーボードパートを読み込んだあとに、キーボードの譜表の個々の音符を別の譜表に移動するなど、音符をあらゆるタイプの別の譜表に移動できます。

手順

1. 記譜モードで、別の譜表に移動する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を別の譜表に移動します。
 - 上の譜表に移動するには、**[Alt/Opt]+[N]** を押します。
 - 下の譜表に移動するには、**[Alt/Opt]+[M]** を押します。

結果

元の譜表から切り取った音符を新しい譜表に貼り付けるという方法で、選択した音符が別の譜表に移動します。初期設定では、譜表上のアクティブな最初の声部に貼り付けられます。

補足

連符内の音符を別の譜表に移動すると、連符の角括弧、連符の数や比率、または連符のガイドを一緒に選択していない限り、移動する音符は連符から外れます。

関連リンク

[譜表をまたぐ連符の作成 \(683 ページ\)](#)

[複数の譜表にアイテムをコピーアンドペーストする \(341 ページ\)](#)

譜表の内容の入れ替え

和音のエキスプロードで作成した特定の2つの小節のデフォルトの声部をすばやく変更したい場合や、楽曲内の各旋律を担当するプレーヤーを変更したい場合など、2つの譜表の選択した範囲の内容を入れ替えることができます。

手順

1. 記譜モードで、入れ替える2つの譜表の楽譜の範囲を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「入れ替え (Swap)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した譜表の選択したデュレーションの内容が入れ替わります。

関連リンク

[声部の内容の入れ替え \(344 ページ\)](#)

少ない譜表への楽譜のリデュース

たとえば合唱用の楽曲をピアノ用の楽譜に再編成するなど、元々記譜された譜表よりも少ない譜表に楽譜をリデュースできます。

手順

1. 記譜モードで、リデュースする楽譜を選択します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して楽譜をコピーします。
3. 選択した楽譜をリデュースする譜表を選択します。
4. 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「リデュース (Reduce)」 を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した楽譜が選択した譜表にリデュースされます。

リズムが一致する場合は、楽譜が単一の声部に結合されます。同じピッチの音符は1つの位置に1つだけ貼り付けられるように、ユニゾンの音符は削除されます。また、音部変更記号、オクターブ線、キューも削除されます。

譜表の貼り付け先には、少なくとも1つのインストゥルメントの楽譜が配置されます。リデュースされる楽譜の分割は、選択した譜表の上から下へと順に計算されます。たとえば、5つのインストゥルメントの音符や記譜記号を3つの譜表にリデュースする場合、選択したうちの1番上の譜表には1番めと2番めのインストゥルメントが割り当てられ、2番めの譜表には3番めと4番めのインストゥルメントが割り当てられ、3番めの譜表には5番めのインストゥルメントが割り当てられます。

関連リンク

[音符を別の譜表に移動する \(342 ページ\)](#)

[コンデンシング \(477 ページ\)](#)

複数の譜表への楽譜のエキスプロード

たとえば、密集したピアノの和音の音符をすべての木管楽器の譜表に素早く配置するなど、元々記譜された譜表よりも多くの譜表に楽譜をエキスプロードできます。

手順

1. 記譜モードで、エキスプロードする楽譜を選択します。
2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して楽譜をコピーします。
3. 選択した楽譜をエキスプロードする譜表を選択します。
4. 「編集 (Edit)」 > 「特殊な貼り付け (Paste Special)」 > 「エキスプロード (Explode)」 を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した楽譜が選択した譜表にエキスプロードされます。エキスプロード先の譜表には、元の和音の音符が少なくとも1つ配置されます。音符は、選択したインストゥルメントの譜表の上から下へと順に割り当てられます。

- 和音に含まれる音符の数がエキスプロード先の譜表の数と一致する場合は、各インストゥルメントに1つずつ音符が配置されます。
- 和音に含まれる音符の数がエキスプロード先の譜表の数より少ない場合は、複数の譜表に同じ音符が割り当てられます。スラーや強弱記号などの記譜記号は、エキスプロード先の各譜表に複製されます。
- 和音に含まれる音符の数がエキスプロード先の譜表の数より多い場合は、音符が譜表全体にわたって可能な限り等しく配置されます。和音に含まれる音符の数が奇数の場合、Dorico Pro は上段の譜表に追加の音符を割り当てようとします。

既存の音符の声部を変更する

音符の声部は、音符を入力したあとでも変更できます(スラッシュ付き声部の音符を含む)。たとえば、声部の音符の符尾の方向を上向きから下向きに変更できます。

手順

1. 記譜モードで、声部を変更する音符を選択します。

ヒント

大きな選択範囲やフィルターを使用して、同じ声部のたくさんの音符を選択します。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、声部を変更します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > [声部] を選択します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > [スラッシュ付き声部] を選択します。

ヒント

- このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 譜表上に声部が1つしかない場合は、選択した音符用に新しい声部を作成できます。

結果

選択した音符の声部が変更されます。これにより、譜表上で選択した音符や他の音符の符尾の方向が自動的に変更され、表記規則に基づいて正しく記譜されるようにするために暗黙の休符が自動で追加される場合があります。

手順終了後の項目

休符の削除や非表示、および音符の符尾の方向の変更は、あとから手動で行なえます。声部全体をスラッシュ付き声部に変更することもできます。

関連リンク

[声部カラーを表示/非表示にする \(1309 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)

[フィルター \(328 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(1122 ページ\)](#)

[休符の削除 \(1124 ページ\)](#)

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(1215 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭の声部のタイプを変更する \(1313 ページ\)](#)

声部の内容の入れ替え

2つの声部の内容が空白ではない場合、その内容を入れ替えることができます。

手順

1. 記譜モードで、内容を入れ替える2つの声部に含まれる音符を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「声部の内容を入れ替え (Swap Voice Contents)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

声部の内容が入れ替わります。たとえば、元は符尾が上向きの声部に属していた音符は符尾が下向きの声部に移り、元は符尾が下向きの声部に属していた音符は符尾が上向きの声部に移ります。

補足

入れ替わるピッチや符尾の方向によって、音符が重なる場合があります。音符の垂直のスペースを最小限にして楽譜を見やすくするため、Dorico Pro は自動的に音符の符頭が部分的に重なるように音符を配置します。この配置を変更する場合は、声部の順番を変更するか、声部列の並び順を変更します。

例



E が上向き、F が下向きの声部



声部の内容を入れ替え後、E が下向き、F が上向きの声部

関連リンク

[声部の順番の入れ替え \(1311 ページ\)](#)

[声部列の並び順 \(1311 ページ\)](#)

フローの分割

特定の位置でフローを分割できます。Dorico Pro のフローは互いに独立しており、それぞれに異なるプレーヤー、拍子記号と調号、さらには記譜オプション (音符のグループ化や臨時記号の有効範囲ルールなど) を設定できます。

前提条件

楽譜領域で現在開いているレイアウトには、フルスコアレイアウトのように、フロー内に楽譜があるすべてのプレーヤーを含めておきます。

重要

フローの分割は、すべてのプレーヤーが含まれているレイアウトでのみ行なうことを強くおすすめします。

手順

1. 記譜モードで、フローを分割する位置にある音符またはアイテムを選択します。
2. 「記譜 (Write)」 > 「フローを分割 (Split Flow)」を選択します。

結果

フローが2つのフローに分割されます。1つは既存のフロー、もう1つは選択したアイテムの位置から始まる新しいフローです。初期設定では、フルスコアレイアウトの新しいフローはページビューでは新しいページから始まり、ギャラリービューでは別の背景の上に表示されます。

手順終了後の項目

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログで、オプションをフローごとに個別に設定できます。

関連リンク

[フロー \(135 ページ\)](#)

[フローの追加 \(136 ページ\)](#)

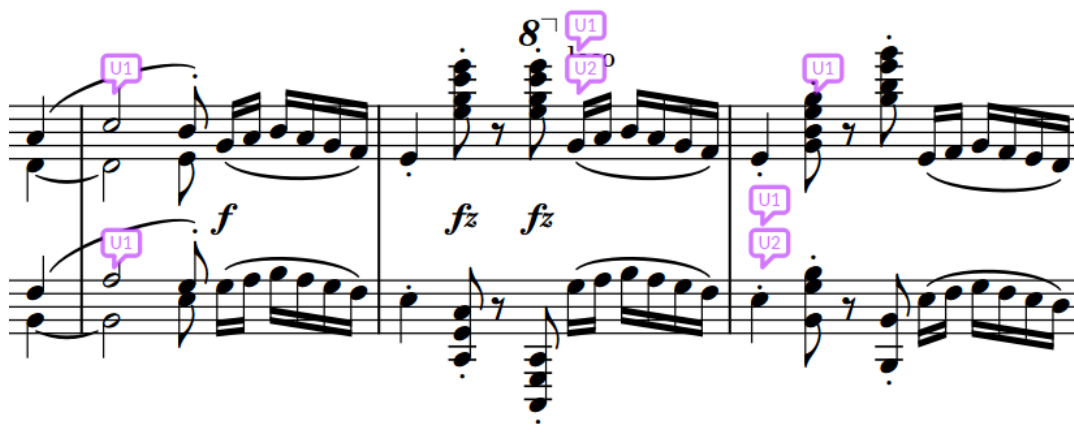
[フローの削除 \(138 ページ\)](#)

「記譜オプション」ダイアログ (164 ページ)
フローの終了位置にある空白の小節を削除する (643 ページ)
同じページに複数のフローを表示する/表示しない (449 ページ)
ギャラリービューまたはページビューへの切り替え (59 ページ)

コメント

コメントを使用すると、楽譜に影響を与えることなくプロジェクト内の正確な位置にメモや指示を追加できます。Dorico Pro では、コメントは注釈として扱われ、初期設定では印刷はされません。

コメントは楽譜の外側に配置されるため、音符のスペーシング、垂直方向のスペーシング、または配置設定に影響しません。ただし、各コメントの対象をはっきり示すために、コメントは特定のアイテムや譜表に添付します。



コメントと返信が表示された楽節

初期設定では、コメントは楽譜領域内に配置されます。コメントは、添付された位置のできるだけ近くに吹き出し記号として表示されます。返信コメントは元のコメントの真下に並んで表示されます。

現在のフロー内のすべてのコメントは、記譜モードのコメントパネルにリスト表示されます。コメントパネルまたは楽譜領域でコメントをクリックすると、ビューが自動的に移動して、コメントのある位置がフォーカスされます。

コメントの内容に加え、各コメントには以下が表示されます。

- コメント作成者 (現在のユーザーアカウント名またはカスタム名)
macOS では、ユーザーアカウント名には長いアカウント名が使用され、Windows では、アカウントに関連付けられているフルネームが使用されます。Dorico Pro がアカウント名を判別できない場合、コメントに使用する名前とイニシャルを追加できるダイアログが表示されます。これらは「環境設定 (Preferences)」で変更することもできます。
- コメントが追加された日付
- コメントが適用されたインストゥルメント
- コメントが適用された小節

補足

楽譜領域では、作成者のイニシャルだけが表示されます。コメントパネルでは、すべての情報が表示されます。

コメントの表示/非表示はいつでも切り替えることができ、ほかの表示オプションと同様、レイアウトの印刷/書き出し時にコメントを含めるかどうかを選択できます。

関連リンク

[音符とアイテムの削除 \(339 ページ\)](#)

[コメントパネル \(348 ページ\)](#)

[コメントに使用する作成者名の変更 \(351 ページ\)](#)

[注釈 \(621 ページ\)](#)

コメントの追加

プロジェクト内の任意の位置にコメントを追加できます。また、複数の譜表の同じ位置に異なるコメントを追加することもできます。

手順

1. 記譜モードで、コメントを追加する位置にある譜表上のアイテムを選択します。コメントを範囲に対して適用する場合は、複数のアイテムを選択します。
2. **[Alt/Opt]+[C]** を押して「**コメント (Comment)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログにコメントを入力します。
4. 「**OK**」をクリックすると、ダイアログが閉じてコメントが追加されます。

結果

ダイアログに入力したテキストがコメントとして保存されます。楽譜領域では、コメントはイニシャルを含む吹き出し記号として表示されます。コメントパネルでは、入力したテキストと一緒に、フルネームのユーザー名、日付、コメントを追加したインストゥルメントおよび小節番号が表示されます。

ヒント

コメントパネルのアクションバーで「**コメントを作成 (Create Comment)**」をクリックするか、「**記譜 (Write)**」 > 「**コメントを作成 (Create Comment)**」を選択してコメントを追加することもできます。

例

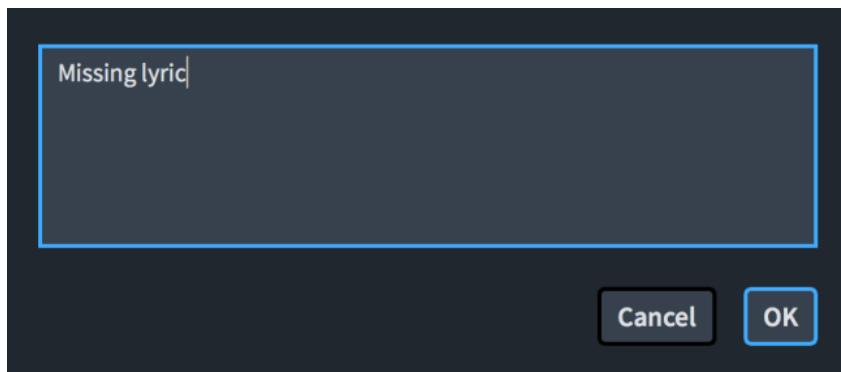


楽譜領域のコメント

「コメント (Comment)」ダイアログ

「コメント (Comment)」ダイアログでは、テキストをコメントとして入力したり編集したりできます。

- 「コメント (Comment)」ダイアログを開くには、楽譜領域またはコメントパネルで、コメントの追加、コメントに返信、または既存のコメントのダブルクリックのいずれかの操作を行ないます。



「コメント (Comment)」ダイアログ

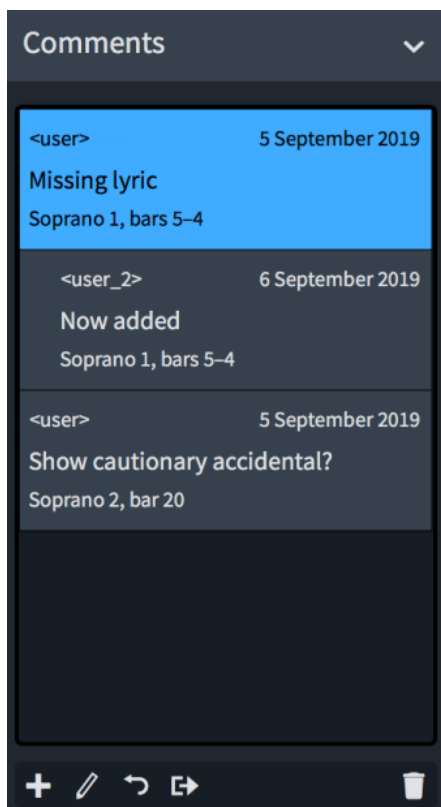
コメントパネル

コメントパネルには、現在のフロー内のすべてのコメントがリスト表示されます。返信コメントは、元のコメントとの関係を示すためにインデントされます。コメントパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にあります。

- コメントパネルは、記譜モードのウィンドウの右側にある記譜ツールボックスで「**コメント (Comments)**」をクリックして表示/非表示にできます。

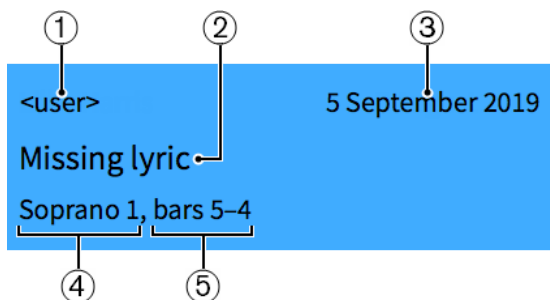


[Ctrl]/[command]+[9] を押すかウィンドウの右にある展開矢印マークをクリックして、記譜ツールボックスで現在選択しているアイコンのパネルの表示/非表示を切り替えることもできます。



コメントパネル

パネル内の各コメントには以下が表示されます。



1 作成者名

作成者名には、コメントを追加したときの環境設定に応じて、現在のユーザーアカウント名またはカスタム名が使用されます。

2 コメントの内容

3 プロジェクトにコメントが追加された日付

4 コメントが適用されたインストゥルメント

5 コメントが適用された小節

パネルの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

コメントを作成 (Create Comment)



選択した譜表の選択した位置にコメントを追加します。

コメントを編集 (Edit Comment)



選択したコメントを「コメント (Comment)」ダイアログで開き、内容を変更できます。

コメントに返信 (Reply to Comment)



選択したコメントへの返信コメントを追加します。返信コメントは、コメントパネルではインデントして表示され、楽譜領域では元のコメントの真下に並んで表示されます。

コメントを書き出し (Export Comments)



プロジェクト内のすべてのコメントを HTML ファイルとして書き出し、デフォルトの Web ブラウザーで開きます。書き出された HTML ファイルはプロジェクトと同じ場所に自動的に保存されます。

コメントを削除 (Delete Comment)



選択したコメントを削除します。

関連リンク

[コメントに使用する作成者名の変更 \(351 ページ\)](#)

[コメントの書き出し \(351 ページ\)](#)

コメントへの返信

既存のコメントに返信を追加できます。この機能を使用すると、コメントパネルのコメントリストが整理されるため、別のユーザーと共同で作業を行なう場合に便利です。

手順

1. 記譜モードで、返信するコメントを選択します。楽譜領域とコメントパネルのどちらで行なっても構いません。
2. **[Alt/Opt]+[R]** を押して「**コメント (Comment)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログに返信を入力します。
4. 「**OK**」をクリックすると、ダイアログが閉じて返信が追加されます。

結果

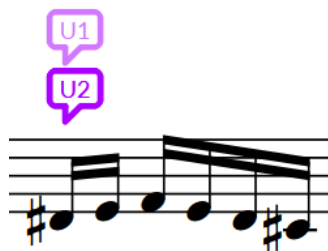
ダイアログに入力したテキストが、選択したコメントへの返信として保存されます。楽譜領域では、返信はイニシャルを含む吹き出し記号として、選択したコメントのすぐ下に表示されます。

コメントパネルでは、返信は選択したコメントの下にインデントされて表示されます。

ヒント

コメントパネルのアクションバーで「**コメントに返信 (Reply to Comment)**」をクリックするか、「**記譜 (Write)**」 > 「**コメントに返答 (Reply to Comment)**」を選択してコメントに返信することもできます。

例



選択したコメントの下に並べられた返信

既存のコメントの編集

文字の誤植の修正や情報の追加を行なう場合など、コメントを追加したあとに既存のコメントの内容を変更できます。

手順

1. 編集するコメントをダブルクリックして「**コメント (Comment)**」ダイアログを開きます。楽譜領域とコメントパネルのどちらで行なっても構いません。
2. ダイアログでテキストを変更します。
3. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

コメントに使用する作成者名の変更

コメントに使用する作成者名を、ユーザーアカウント名またはカスタム名に変更できます。この操作は、今後プロジェクトに追加されるコメントに影響するもので、既存のコメントに使用されている作成者名は変更されません。

カスタム名については、コメントパネルに表示されるフルネームと楽譜領域に表示されるイニシャルの両方を指定できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
 2. ページリストの「**全般 (General)**」をクリックします。
 3. 「**コメント (Comments)**」サブセクションで、「**コメントの作成者名: (Author name for comments:)**」を以下のいずれかのオプションから選択します。
 - **ユーザー名 (User Name)**
 - **カスタム名 (Custom Name)**
 4. 「**カスタム名 (Custom Name)**」を選択した場合は、必要に応じて、使用するフルネームを「**フルネーム (Full name)**」フィールドに入力します。
 5. 「**カスタム名 (Custom Name)**」を選択した場合は、必要に応じて、使用するイニシャルを「**イニシャル (Initials)**」フィールドに入力します。
 6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

コメントの書き出し

コメントをまとめて確認したい場合などに、プロジェクト内のすべてのフローのすべてのコメントを HTML ファイルとして書き出すことができます。

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで「**コメント (Comments)**」をクリックして、コメントパネルを表示します。



2. 「**コメント (Comments)**」セクションのアクションバーで「**コメントを書き出し (Export Comments)**」をクリックします。



結果

プロジェクト内のすべてのコメントが HTML ファイルとして書き出され、デフォルトの Web ブラウザーで開かれます。コメントは表形式で表示されます。書き出された HTML ファイルはプロジェクトと同じ場所に自動的に保存されます。

コメントの表示/非表示

たとえば、記譜中はコメントを非表示にして、浄書中は表示したい場合などに、楽譜内のコメントを表示/非表示にできます。

手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**コメント (Comments)**」を選択します。
-

結果

メニュー内の「**コメント (Comments)**」の横にチェックマークがあるときはコメントが吹き出しとして楽譜内に表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

浄書モード

浄書モードでは、アイテムを削除したり、位置を動かしたり、音符のピッチを変更したりすることなく、プロジェクトで使用するすべてのアイテムの操作や変更を行なえます。また、印刷時や書き出し時に使用する、プロジェクトの各レイアウトのページの形式を指定することもできます。

浄書モードのプロジェクトウィンドウ

浄書モードのプロジェクトウィンドウには、初期設定ツールバー、楽譜領域、およびステータスバーが表示されます。スコアに含まれるページ、組段、および個別の記譜記号のプロパティの形式を設定するためのツールと機能をすべて使用できます。

浄書モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[3]** を押します。
- ツールバーで「**浄書 (Engrave)**」をクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**浄書 (Engrave)**」を選択します。



浄書モードのツールボックスとパネル

浄書モードのプロジェクトウィンドウには以下のコンテンツが含まれています。

1 浄書ツールボックス

形式設定パネルにどの形式設定オプションを表示するかを設定するオプションと、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」および「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにするオプションがあります。

2 形式設定パネル

組段とフレームに楽譜をどのように配置するかを制御したり、フレームを挿入したり、フレーム制限を編集したりできる形式設定オプションがあります。浄書ツールボックスでの現在の選択に応じて、表示される形式設定オプションが決まります。「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」または「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」を選択すると、パネルが自動的に非表示になります。

3 ページパネル

楽譜のページの形式を設定できます。これは、DTP ソフトウェアで使用されている一般的な手法をベースにしています。

4 プロパティパネル

クイックアクセスプロパティから、音符や記譜記号の個別の部位に特定の変更を加えることができます。

関連リンク

[ウィンドウ \(41 ページ\)](#)

浄書ツールボックス

浄書ツールボックスでは、形式設定パネルで使用できるオプションを変更したり、音符や譜表のスペーシングを有効にしたりできます。浄書ツールボックスは、浄書モードのウィンドウの左側にあります。

グラフィックの編集 (Graphic Editing)



楽譜領域またはマスターページエディターのアイテムの選択や編集を行ったり、組段、フレーム、大括弧、中括弧、小節線の結合などの形式を編集できる形式設定パネルのセクションを開いたりできます。

フレーム



楽譜領域またはマスターページエディターのフレームの選択や編集を行ったり、フレームの挿入やフレームの制限の編集を行なえる形式設定パネルのセクションを開いたりできます。

譜表のスペーシング (Staff Spacing)



個々の譜表と組段を垂直方向に移動できます。

音符のスペーシング (Note Spacing)



個々の音符やその他のアイテム (音部記号や調号など) の水平方向の表示位置を編集できます。

関連リンク

[フレーム \(390 ページ\)](#)

[フレーム制限 \(410 ページ\)](#)

[譜表のスペーシング \(462 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

形式設定パネル

浄書モードの形式設定パネルでは、ページにさまざまなフレームを挿入したり、ページ上のフレームを整列させる方法を指定したりできます。また、大括弧と中括弧を手動で追加するなど、ページ上の組段とフレームの形式設定を変更することもできます。

形式設定パネルは、浄書モードのウィンドウの左側にあります。形式設定パネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
- メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左のパネルを表示 (Show Left Panel)**」を選択します。

浄書ツールボックスで何を選択しているかによって、形式設定パネルで使用できる形式設定オプションは異なります。

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択している場合は、以下のセクションを使用できます。

楽曲フレームの形式設定 (Format Music Frames)

「**楽曲フレームの形式設定 (Format Music Frames)**」セクションでは、楽譜領域で現在開いているレイアウト内の楽譜がどのようにフレームに配置されるかを変更できます。

フレーム区切りを挿入 (Insert Frame Break)



選択したアイテムから先の楽譜を強制的に次のフレーム (多くの場合、次のページ) に移動します。これにより、各ページにどの楽譜を表示するかを制御できます。

フレームをロック (Lock Frame)



選択したフレームの形式設定を固定します。ロックしたフレームは、周囲のフレームの形式設定を変更しても影響を受けません。

フレームに変換 (Make into Frame)



選択したアイテムの間のすべての楽譜を強制的に同じフレームに変換します。このオプションを使うと、楽譜を1ページにまとめることができます。

組段の形式設定 (Format Systems)

「**組段の形式設定 (Format Systems)**」セクションでは、楽譜領域で現在開いているレイアウト内の楽譜がどのように組段に配置されるかを変更できます。

組段区切りを挿入 (Insert System Break)



選択したアイテムから先の楽譜を強制的に次の組段に移動します。譜表サイズやその他の設定によっては、楽譜が次のページに移動することもあります。

組段をロック (Lock System)



選択した組段の形式設定を固定します。ロックした組段は、周囲の音符や記譜記号、組段などの形式設定を変更しても影響を受けません。

組段に変換 (Make into System)



選択したアイテムの間のすべての楽譜を強制的に同じ組段に変換します。

括弧 (Bracketing)

「括弧 (Bracketing)」セクションでは、楽譜領域で現在開いているレイアウト内の譜表を大括弧または中括弧でどのように括るか、どの譜表を小節線で結合するかを組段ごとに個別に変更したりできます。

大括弧を挿入 (Insert bracket)



アイテムを選択している譜表を大括弧で結合します。また、初期設定では、大括弧で結合されるグループ全体に小節線が引かれます。

副括弧を挿入 (Insert sub-bracket)



アイテムを選択している譜表を副括弧で結合します。

補足

選択する譜表は同じ大括弧内に含まれている必要があります。

小副括弧を挿入 (Insert sub-sub-bracket)



アイテムを選択している譜表を小副括弧で結合します。

補足

選択する譜表は同じ大括弧および副括弧内に含まれている必要があります。

中括弧を挿入 (Insert brace)



アイテムを選択している譜表を中括弧で結合します。

補足

中括弧と副括弧または中括弧と小副括弧で同時に譜表を結合することはできません。

小節線の結合を変更 (Change barline joins)



アイテムを選択している譜表全体の小節線を結合します。

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択している場合は、以下のセクションを使用できません。

フレームを挿入 (Insert Frames)

「**フレームを挿入 (Insert Frames)**」セクションでは、レイアウト内のページやマスターページに新しいフレームを作成できます。

楽曲フレームを挿入 (Insert Music Frame)



楽曲フレームを挿入できます。レイアウト内のページでは、レイアウトフレームチェーンに属する楽曲フレームが挿入されます。マスターページエディターのマスターページでは、マスターページフレームチェーンに属するフレームが挿入されます。

テキストフレームを挿入 (Insert Text Frame)



テキストやテキストトークンを入力するフレームを挿入できます。

グラフィックフレームを挿入 (Insert Graphics Frame)



イメージや図を表示するフレームを挿入できます。

制限 (Constraints)

ページ余白に固定するフレームの辺を指定できます。

関連リンク

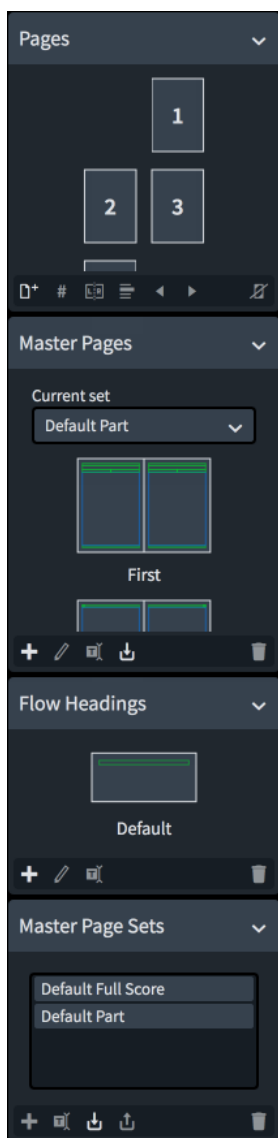
- [フレーム \(390 ページ\)](#)
- [楽曲フレーム \(393 ページ\)](#)
- [テキストフレーム \(400 ページ\)](#)
- [グラフィックフレーム \(409 ページ\)](#)
- [マスターページ \(364 ページ\)](#)
- [楽曲フレームチェーン \(395 ページ\)](#)
- [大括弧と中括弧 \(694 ページ\)](#)
- [フレーム制限 \(410 ページ\)](#)
- [フレーム区切り \(469 ページ\)](#)

ページパネル

浄書モードのページパネルには複数のセクションがあり、楽譜のページ形式を指定できます。これは、DTP ソフトウェアで使用されている一般的な手法をベースにしています。

ページパネルは、浄書モードのウィンドウの右側にあります。ページパネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行います。

- **[Ctrl]/[command]+[9]** を押します。
- メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「右のパネルを表示 (Show Right Panel)」を選択します。



浄書モードのページパネル

ページパネルは以下のセクションに分かれています。

ページ

レイアウト内のページが表示され、その中央にはページ番号が表示されます。現在選択されているページは、枠が強調表示されます。ページの優先が設定されているページには、左上角と右下角にマークが付きます。マスターページの変更が適用されているページには、ページの上または左に枠線が付きます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **ページを挿入 (Insert Pages):** レイアウトの既存のページの前後いずれかに、選択したマスターページに基づいたページを挿入できます。



- **ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change):** レイアウト内のページのページ番号を変更できます。



- **マスターページの変更を挿入 (Insert Master Page Change):** 選択したページまたは選択したページから先に異なるマスターページを割り当てることができます。



- **フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change):** 選択したページまたは選択したページから先に異なるフロー見出しを割り当てることができます。



- **前ページと入れ替え (Swap with Previous Page):** 選択したページとその前ページの順番を入れ替えます。



- **次ページと入れ替え (Swap with Next Page):** 選択したページとその次ページの順番を入れ替えます。



- **上書きを解除 (Remove Overrides):** 選択したページからページの優先を削除します。



マスターページ (Master Pages)

レイアウトで使用されている見開きのマスターページが表示されます。現在選択されているマスターページは、枠が強調表示されます。「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択すると、そのページで使用されている見開きのマスターページが、マスターページセクションで強調表示されます。

「**現在のセット (Current set)**」メニューでは、楽譜領域で現在開いているレイアウトで使用されているマスターページのセットを表示したり変更したりできます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規マスターページ (New Master Page):** マスターページのセットに新規マスターページを追加できます。



- **マスターページを編集 (Edit Master Page):** マスターページの形式設定を変更するためのマスターページエディターを開きます。マスターページエディターは、「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションでマスターページをダブルクリックして開くこともできます。



- **マスターページ名を変更 (Rename Master Page):** 選択したマスターページの名前を変更できます。



- **マスターページの読み込み (Import Master Page):** プロジェクト内の他のマスターページのセットから個々のマスターページを読み込むことができます。



- **マスターページを削除 (Delete Master Page):** 選択したマスターページが削除されます。



フロー見出し (Flow Headings)

現在選択しているマスターページのセットで使用できるフロー見出しが表示されます。現在選択されているフロー見出しは、枠が強調表示されます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規フロー見出し (New Flow Heading)**: マスターページのセットに新規フロー見出しを追加できます。



- **フロー見出しを編集 (Edit Flow Heading)**: フロー見出しの形式設定を変更するためのフロー見出しエディターを開きます。フロー見出しエディターは、「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションでフロー見出しをダブルクリックして開くこともできます。



- **フロー見出し名を変更 (Rename Flow Heading)**: 選択したフロー見出しの名前を変更できます。



- **フロー見出しを削除 (Delete Flow Heading)**: 選択したフロー見出しが削除されます。



マスターページのセット (Master Page Sets)

プロジェクトで使用できるマスターページのセットが表示されます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規マスターページのセット (New Master Page Set)**: リストで選択したマスターページのセットをもとに、新規マスターページのセットを作成します。新規マスターページのセットは「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューへ自動的に追加されます。



- **マスターページのセット名を変更 (Rename Master Page Set)**: 選択したマスターページのセットの名前を変更できます。



- **マスターページのセットを読み込み (Import Master Page Set)**: エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、現在のプロジェクトに読み込むマスターページのセットの .doricolib ファイルを選択できます。



- **マスターページのセットを書き出し (Export Master Page Set)**: エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、選択したマスターページのセットを .doricolib ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.doricolib ファイルを別のプロジェクトに読み込んで別のユーザーと共有できます。



- **マスターページのセットを削除 (Delete Master Page Set)**: 選択したマスターページのセットをプロジェクトから削除します。



関連リンク

[マスターページ \(364 ページ\)](#)

[マスターページのセット \(365 ページ\)](#)

[マスターページエディター \(374 ページ\)](#)

[フロー見出し \(386 ページ\)](#)
[フロー見出しエディター \(386 ページ\)](#)

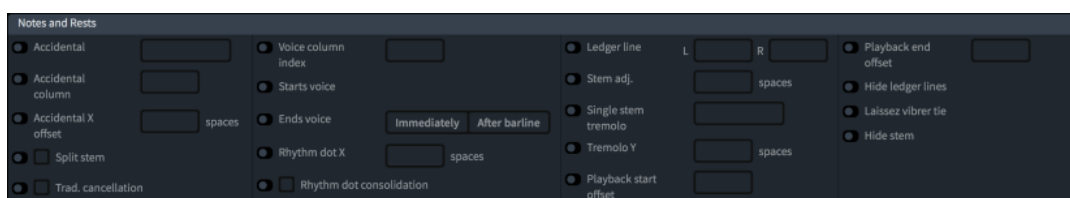
プロパティパネル (浄書モード)

浄書モードのプロパティパネルには、個々の音符や記譜記号を編集するオプションが表示されます。記譜モードのプロパティパネルにあるプロパティはすべて浄書モードにもありますが、浄書モードの追加プロパティを使用するとアイテムをより細かく編集できます。

記譜モードおよび浄書モードのプロパティパネルは、以下のいずれかの方法で表示/非表示を切り替えられます。

- **[Ctrl]/[command]+[8]** を押します。
- メインウィンドウ最下部の展開矢印マークをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)**」を選択します。

プロパティパネルには、各記譜項目のプロパティのグループが表示されます。楽譜領域で音符または項目を選択すると、選択した音符または項目の編集に必要なグループおよびオプションがプロパティパネルに表示されます。



浄書モードのプロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループ

補足

- タイプが異なる記譜項目を複数選択した場合、選択した項目すべてに共通するグループのみ表示されます。たとえば、スラーを選択した場合、プロパティパネルには「**一般 (Common)**」および「**スラー (Slurs)**」グループが表示されます。一方、スラーと音符を選択した場合は、「**一般 (Common)**」グループのみ表示されます。
- プロパティの多くはレイアウト固有のものです。あるレイアウトでアイテムのプロパティを変更しても、他のレイアウトにある同じアイテムには影響しません。ただし、プロパティの変更を他のレイアウトにコピーできます。

関連リンク

[個々の音符とアイテムのプロパティを変更する \(161 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(501 ページ\)](#)

[アイテムの外観のリセット \(333 ページ\)](#)

[アイテムの位置をリセットする \(334 ページ\)](#)

アイテムのハンドルの選択

浄書モードでは、段階的強弱記号の開始位置を動かさずに終了位置だけを動かしたい場合などに、アイテムの個々のハンドルを選択できます。

補足

これらの手順は、フレーム、音符のスペーシング、譜表のスペーシングのハンドルには使用できません。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なってハンドルを選択します。

- アイテム全体を選択し、目的のハンドルが選択されるまで **[Tab]** を押します。
- 目的のハンドルをクリックします。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 必要に応じて、**[Ctrl]/[command]** を押しながら別のアイテムのハンドルをクリックして選択します。

補足

別のアイテムを選択して **[Tab]** を押しても、そのアイテムの次のハンドルを選択することはできません。

「浄書オプション」ダイアログ

「**浄書オプション (Engraving Options)**」ダイアログに表示されるさまざまなオプションを使って、アイテムの外観や位置などをプロジェクト全体で変更できます。

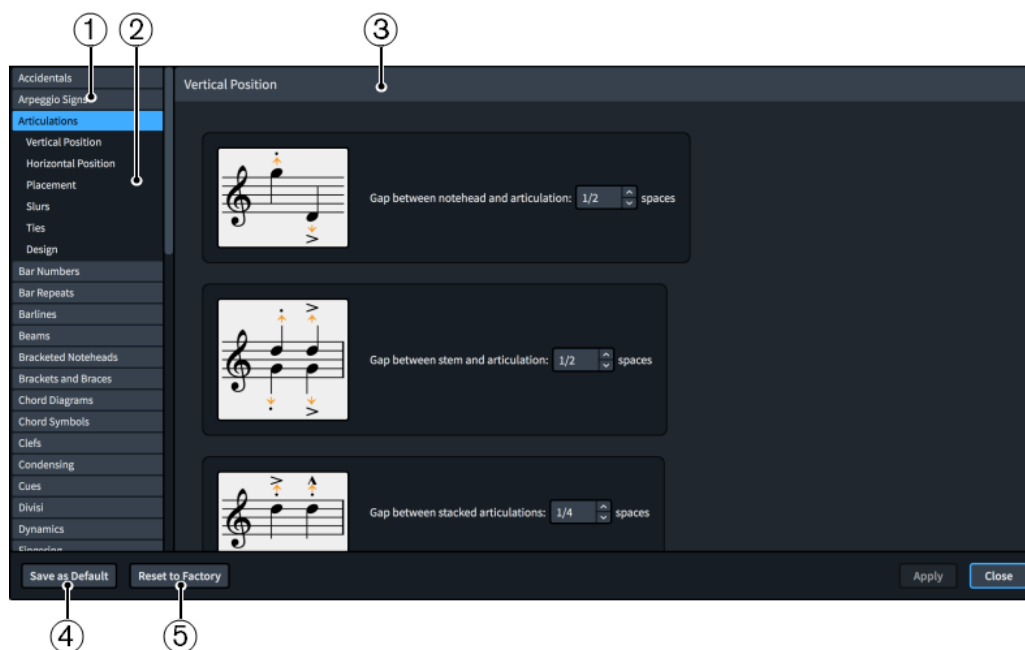
たとえば、記譜項目の線の太さ、延長スタイル、譜表に対するデフォルトの位置、譜表やその他のアイテムからの最小距離などを変更できます。

ヒント

- 「**デフォルトとして保存 (Save As Default)**」をクリックすると、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定したすべてのオプションを、新規プロジェクト用のデフォルトとして保存できます。
- 個々の音符や記譜記号を変更する場合は、プロパティパネルのプロパティを使用します。

「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」を選択します。



浄書オプション (Engraving Options)

「浄書オプション (Engraving Options)」ダイアログには以下が含まれています。

1 ページリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。リスト内のページをクリックすると、リストのページの下に使用可能なセクションのタイトルが表示されます。

2 セクションタイトル

選択したページのすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

3 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

4 デフォルトとして保存 (Save as Default)/保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- 「デフォルトとして保存 (Save as Default)」は、ダイアログで現在設定されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。
- 「保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)」は、現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。デフォルト設定を保存している場合は、**[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS)** を押すことで「保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)」を選択できます。

5 「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」 / 「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- デフォルト設定を保存していない場合、「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」でダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。
- デフォルト設定を保存している場合は、「保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)」でダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットできます。**[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS)** を押すことで「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」を選択できます。オプションを出荷時の設定にリセットすることで影響

されるのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

関連リンク

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(39 ページ\)](#)

[アイテムの外観のリセット \(333 ページ\)](#)

[アイテムの位置をリセットする \(334 ページ\)](#)

浄書オプションでのプロジェクト全体の変更

「**浄書オプション (Engraving Options)**」では、音符や記譜記号の外観、配置、デフォルトの位置をプロジェクト全体で変更できます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 - [Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押します (どのモードでも使用可)。
 - 浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」を選択します。
- ページリストのページをクリックします。
- 設定可能なオプションを確認して、必要に応じてオプションを変更します。
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

補足

変更を加えたあとに「**適用 (Apply)**」をクリックせずにダイアログを閉じると、変更を保存するか破棄するかを確認するメッセージが表示されます。

結果

すべてのレイアウトとフローを含め、プロジェクト内のすべての楽譜に変更が適用されます。

マスターページ

マスターページは Dorico Pro のテンプレートのように機能し、同じページの形式設定を別のレイアウトの複数の別のページに適用できます。

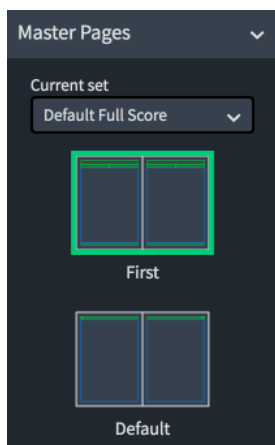
補足

すべてのレイアウトのページのサイズ、余白、向き、および譜表サイズは、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で指定します。

スコアとパートの全ページには、マスターページのレイアウト形式が引き継がれます。マスターページを作成したり何らかの変更を加えたりすると、そのマスターページを使用するページに自動で反映されます。たとえば、新規フレームをマスターページに挿入すると、ページの優先が設定されているページ以外の、そのマスターページを使用するすべてのページに対応するフレームが表示されます。

Dorico Pro では、マスターページは見開きページで構成されています。すべての見開きページには左右のマスターページがあるため、プロジェクト内のページが左ページであれば見開きのマスターページの左ページの形式設定が使用され、右ページであれば右ページの形式設定が使用されます。ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションとマスターページエディターは、どちらも見開きページが左右に並んで表示されます。

Dorico Pro には、最初のページ用（「**最初 (First)**」）とそれ以降のページ用（「**デフォルト (Default)**」）のデフォルトのマスターページがあります。これにより、後続のページとは異なる形式を最初のページに設定できます。マスターページは、フルスコアとパートレイアウトのマスターページのセットに含まれます。マスターページのセットは、作成するすべてのレイアウトに自動的に適用されます。



浄書モードのページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションで、「デフォルトのフルスコア (Default Full Score)」のマスターページのセットに2つのデフォルトマスターページが表示されている図

マスターページのセットの変更またはマスターページの形式の変更は、以下のいずれかの方法で行なえます。

- マスターページおよびマスターページのセットを新規作成します。
- マスターページエディターを使用して、マスターページのセット内のデフォルトマスターページを編集します。

補足

Dorico Pro では、レイアウト内の個々のページを変更すると、ページの形式変更の一種であるページの優先が設定されます。これは、たとえばマスターページエディターでの編集ではなく、1つのページのタイトルや欄外見出しを編集した場合などです。ページの優先が設定されたページはマスターページを変更しても更新されず、レイアウトが短くなり空になっても自動的に削除されません。

関連リンク

- [ページパネル](#) (358 ページ)
- [マスターページエディター](#) (374 ページ)
- [ページの形式変更](#) (376 ページ)
- [「レイアウトオプション」ダイアログ](#) (106 ページ)

マスターページのセット

Dorico Pro では、マスターページがマスターページのセットの一部として提供されます。マスターページのセットはマスターページの形式をグループ化し、どのような状況においてもプロジェクト内に対応するマスターページがあるようにします。

デフォルトのマスターページのセットには、最初の見開きページ用 (「**最初 (First)**」) とそれ以降の見開きページ用 (「**デフォルト (Default)**」) にあらかじめ定義されたマスターページが含まれています。これにより、左右どちらのページかに関係なく、各フローの最初のページおよびそれ以降のページにマスターページの形式を使用できます。

初期設定では、新規プロジェクトに以下のマスターページセットが含まれています。

- **デフォルトのフルスコア (Default Full Score)**: 初期設定では、フルスコアレイアウトに使用されます。
- **デフォルトのパート譜 (Default Part)**: 初期設定では、パートレイアウトに使用されます。

マスターページのセットには、フローのタイトルの開始位置が前のフローと同じページにある場合にそのフローのタイトルの形式を設定できるフロー見出しも含まれています。デフォルトのマスターページのセットには、それぞれ1つのフロー見出しが含まれています。

プロジェクトを作成するとデフォルトのマスターページのセットが自動的に適用されるため、最初にマスターページのセットを作成したりカスタマイズしたりする必要はありません。セットを変更する必要がある場合は、以下のいずれかの操作を行ないます。

- デフォルトのセットをもとに新しいカスタムマスターページのセットを作成します。
- 現在のプロジェクト用に、必要に応じてデフォルトのセットを変更します。

ヒント

マスターページを読み込むことにより、マスターページのセット間でマスターページを共有できます。たとえば、「**デフォルトのフルスコア (Default Full Score)**」のマスターページセットでタイトルページ用のマスターページを新たに作成した場合、それを「**デフォルトのパート譜 (Default Part)**」のマスターページセットに読み込めば、そのマスターページをパートレイアウトでも使用できます。

また、マスターページのセットを書き出したり読み込んだりして、異なるプロジェクト間でそれらを共有することもできます。

関連リンク

[マスターページのタイプ \(368 ページ\)](#)

[フロー見出し \(386 ページ\)](#)

[マスターページのセットの読み込み \(366 ページ\)](#)

[マスターページのセットの書き出し \(367 ページ\)](#)

[マスターページの読み込み \(371 ページ\)](#)

マスターページのセットの作成

新しいマスターページのセットを作成できます。Dorico Pro に用意されているセットまたは自分で作成した既存のカスタムマスターページのセットをベースとして使用できます。

手順

1. ページパネルの「**マスターページのセット (Master Page Sets)**」セクションで、新しいマスターページのセットのもとにするマスターページのセットをクリックします。
2. アクションバーで「**新規マスターページのセット (New Master Page Set)**」をクリックします。



結果

選択したデフォルトのマスターページのセットをもとに、新しいマスターページのセットが作成されます。作成されたセットは、マスターページのセットのリストにすぐに表示されます。

手順終了後の項目

新しいマスターページのセットは、名前を変更したり新しいマスターページを追加したりできます。

関連リンク

[マスターページの追加 \(369 ページ\)](#)

マスターページのセットの読み込み

たとえば作成したマスターページのセットを別のコンピューターで使用したい場合や、そのマスターページのセットに使用したいマスターページが含まれている場合などに、マスターページのセットをプロジェクトに読み込むことができます。マスターページのセットは .doricolib ファイルとして保存されます。

手順

1. ページパネルで、「**マスターページのセット (Master Page Sets)**」アクションバーの「**マスターページのセットを読み込み (Import Master Page Set)**」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。



2. 読み込むマスターページのセットのファイルを探して選択します。
3. 「**開く (Open)**」をクリックします。

結果

選択したマスターページが読み込まれます。これは現在のプロジェクトでのみ利用できるようになります。

手順終了後の項目

マスターページのセットの個々のマスターページをプロジェクト内の別のマスターページのセットに読み込むことができます。

関連リンク

[マスターページの読み込み \(371 ページ\)](#)

[ページパネル \(358 ページ\)](#)

マスターページのセットの書き出し

マスターページのセットを書き出して、他のユーザーに送信したり他のプロジェクトで使用したりできます。初期設定では、作成または編集したマスターページのセットは現在のプロジェクトでのみ使用できます。

手順

1. ページパネルの「**マスターページのセット (Master Page Sets)**」セクションで、書き出すマスターページのセットを選択します。
2. 「**マスターページのセットを書き出し (Export Master Page Set)**」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。



3. マスターページのセットのファイルの名前と場所を指定します。
4. 「**保存 (Save)**」を選択します。

結果

選択したマスターページのセットが書き出され、選択した場所に .doricolib ファイルとして書き出されます。

マスターページのセット名の変更

作成したマスターページのセット名を変更できます。デフォルトのマスターページのセット名を変更することはできません。

手順

1. ページパネルの「**マスターページのセット (Master Page Sets)**」セクションで、名前を変更するマスターページのセットをダブルクリックします。
または、マスターページのセットを選択し、アクションバーで「**マスターページのセット名を変更 (Rename Master Page Set)**」をクリックしてもかまいません。



2. 新しい名前を入力します。

3. **[Return]** を押します。
-

マスターページのセットの削除

デフォルトのマスターページのセットを含め、不要になったマスターページのセットを削除できます。

手順

1. ページパネルの「**マスターページのセット (Master Page Sets)**」セクションで、削除するマスターページのセットをクリックします。
2. アクションバーで「**マスターページのセットを削除 (Delete Master Page Set)**」をクリックします。



レイアウトへのマスターページのセットの適用

さまざまなマスターページのセットをプロジェクト内の各レイアウトに適用できます。

手順

1. 楽譜領域で、マスターページのセットを適用するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、「**現在のセット (Current set)**」メニューからマスターページのセットを選択します。

結果

選択したマスターページのセットがレイアウトに適用されます。

手順終了後の項目

マスターページのセット内の異なるマスターページを個別のページに割り当てるなど、レイアウトに対してさらなる変更を行なえます。また、最初のページのフレーム余白をマスターページの設定から変える必要がある場合など、現在のレイアウト内のページにのみ適用されるページの優先を個別に設定することもできます。

関連リンク

[ページへのマスターページの割り当て \(381 ページ\)](#)

[ページの形式変更 \(376 ページ\)](#)

マスターページのタイプ

マスターページのセットに新規マスターページを追加する場合、追加するマスターページのタイプを指定する必要があります。

以下のタイプのマスターページを追加できます。

最初 (First)

通常、レイアウト内の楽譜の最初のページに使用される見開きページです。初期設定では、「**最初 (First)**」のマスターページには、楽譜に加えてプロジェクトタイトル、作曲者、作詞者を表示するトークンが含まれています。

各マスターページセットに含めることができる「**最初 (First)**」のマスターページは1つのみです。

補足

「**First (最初)**」の見開きページを作成しない場合、レイアウト内の最初のページには「**デフォルト (Default)**」の見開きページが使用されます。

デフォルト (Default)

通常、レイアウト内の最初のページのあとに続くページに使用される見開きページです。初期設定では、「デフォルト (Default)」のマスターページには、楽譜に加えてフロータイトルとページ番号を表示するトークンが含まれています。

すべてのマスターページのセットには、「デフォルト (Default)」のマスターページを含める必要がありますが、含めることができる「デフォルト (Default)」のマスターページは1つのみです。

カスタム (Custom)

あらゆるレイアウトを含めることができる見開きページです。カスタムマスターページを使用すると、各パートレイアウトの最後のページのみ同じ位置に画像を表示したい場合など、複数のページ (ただしすべてのページではない) に適用するレイアウトを作成できます。

補足

カスタムマスターページを使用してレイアウトにページを挿入すると、そのページには優先が設定されます。つまり、カスタムマスターページを使用してレイアウトの途中または最後にページを挿入後、ページの優先を解除すると、挿入したページには「デフォルト (Default)」のマスターページが自動的に割り当てられます。

関連リンク

[マスターページのセット \(365 ページ\)](#)

[ページの形式変更 \(376 ページ\)](#)

[「最初 \(First\)」のマスターページをいつ使用するかの変更 \(450 ページ\)](#)

マスターページの追加

マスターページのセットに新しいマスターページを追加できます。各マスターページのセットには「カスタム (Custom)」のマスターページを複数登録できますが、「最初 (First)」のマスターページと「デフォルト (Default)」のマスターページはそれぞれ1つしか登録できません。

ヒント

マスターページを読み込むことにより、マスターページのセット間でマスターページを共有できます。たとえば、「デフォルトのフルスコア (Default Full Score)」のマスターページセットでタイトルページ用のマスターページを新たに作成した場合、それを「デフォルトのパート譜 (Default Part)」のマスターページセットに読み込めば、そのマスターページをパートレイアウトでも使用できます。

手順

1. 楽譜領域で、マスターページを追加するマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションの「現在のセット (Current set)」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルで、「マスターページ (Master Pages)」アクションバーの「新規マスターページ (New Master Page)」をクリックして「新規マスターページ (New Master Page)」ダイアログを開きます。



3. 「名前 (Name)」フィールドに新しいマスターページの名前を入力します。
4. 「もとにするページ (Based on)」メニューから、新しいマスターページのもとにする既存のマスターページを選択します。

補足

- 既存のマスターページをベースに作成したマスターページは、「もとにするページ (Based on)」で選択したマスターページにリンクされます。たとえば、既存のテキストフレーム内のテキストを変更するなど、マスターページ間で共有されているフレームへの変更は、両方のマスターページに反映されます。フレームを削除したり新しいフレームを入力したりすると、このリンクが解除されます。
- 「(なし (None))」を選択すると、形式設定がされていないマスターページが作成されます。

5. 新しいマスターページに対し、以下のいずれかのマスターページタイプを選択します。

- **最初 (First)**
- **デフォルト (Default)**
- **カスタム (Custom)**

補足

各マスターページのセットには「最初 (First)」のマスターページと「デフォルト (Default)」のマスターページをそれぞれ1つしか登録できないため、「最初 (First)」または「デフォルト (Default)」を選択した場合、既存のマスターページは新しいマスターページで置き換えられます。

既存のマスターページを置き換えずに新しいマスターページを作成するには、「カスタム (Custom)」を選択します。

6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択したマスターページのセットに選択したタイプの新しいマスターページが追加されます。

手順終了後の項目

- そのマスターページが登録されたマスターページのセットを使用しているレイアウト内の個々のページにマスターページを適用できます。
- 新規マスターページをカスタマイズできます。
- 新規マスターページを現在のプロジェクトの他のマスターページのセットに読み込むことができます。

関連リンク

[マスターページのセット \(365 ページ\)](#)

[マスターページのカスタマイズ \(375 ページ\)](#)

[レイアウトへのマスターページのセットの適用 \(368 ページ\)](#)

[ページへのマスターページの割り当て \(381 ページ\)](#)

「新規マスターページ (New Master Page)」ダイアログ

「新規マスターページ (New Master Page)」ダイアログでは、現在のマスターページセットに新規マスターページを追加したり、新規マスターページのタイプを設定したり、既存のマスターページをもとにして新規マスターページを作成したりできます。

- 「新規マスターページ (New Master Page)」ダイアログを開くには、浄書モードでページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションにある「新規マスターページ (New Master Page)」をクリックします。



「新規マスターページ (New Master Page)」ダイアログ

「新規マスターページ (New Master Page)」ダイアログには以下のオプションがあります。

名前 (Name)

新規マスターページの名前を入力できます (「タイトルページ」など)。

もとにするページ (Based on)

新しいマスターページのもとにする既存のマスターページを選択できます。「もとにするページ (Based on)」で選択したマスターページと同じフレームと形式設定を持つ新しいマスターページが作成されます。

補足

既存のマスターページをベースに作成したマスターページは、「もとにするページ (Based on)」で選択したマスターページにリンクされます。たとえば、既存のテキストフレーム内のテキストを変更するなど、マスターページ間で共有されているフレームへの変更は、両方のマスターページに反映されます。フレームを削除したり新しいフレームを入力したりすると、このリンクが解除されます。

タイプ (Type)

新しいマスターページのタイプを選択できます。

補足

各マスターページのセットには「最初 (First)」のマスターページと「デフォルト (Default)」のマスターページをそれぞれ1つしか登録できないため、「最初 (First)」または「デフォルト (Default)」を選択した場合、既存のマスターページは新しいマスターページで置き換えられます。

関連リンク

[マスターページのタイプ \(368 ページ\)](#)

[ページパネル \(358 ページ\)](#)

マスターページの読み込み

たとえば、フルスコア用にカスタムのタイトルページ用マスターページを作成し、それをパートレイアウトでも使用したい場合などに、プロジェクト内の他のマスターページのセットから現在のマスターページのセットに個々のマスターページを読み込むことができます。

前提条件

現在のプロジェクトにないマスターページのセットからマスターページを読み込む場合は、そのマスターページのセットを読み込んでおきます。

手順

1. 楽譜領域で、マスターページの読み込み先となるマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルで、「**マスターページ (Master Pages)**」アクションバーの「**マスターページの読み込み (Import Master Page)**」をクリックして「**マスターページの読み込み (Import Master Page)**」ダイアログを開きます。



3. 「**マスターページのセット (Master page set)**」メニューから、読み込むマスターページを含むマスターページのセットを選択します。
4. 「**読み込むマスターページ (Master page to import)**」リストで、読み込むマスターページを選択します。

補足

選択して読み込むことのできるマスターページは一度に1つのみです。

5. 「**OK**」をクリックすると選択したマスターページが読み込まれ、ダイアログが閉じます。

結果

選択したマスターページが、楽譜領域で現在開いているレイアウトで使用されているマスターページのセットに読み込まれます。読み込まれたマスターページは、そのマスターページのセットを使用しているすべてのレイアウトで使用できるようになります。

各マスターページのセットには「**最初 (First)**」のマスターページと「**デフォルト (Default)**」のマスターページをそれぞれ1つしか登録できないため、「**最初 (First)**」または「**デフォルト (Default)**」のマスターページを読み込んだ場合、既存のマスターページは新しいマスターページで置き換えられます。読み込み元のマスターページセットで元々割り当てられていたフレームチェーンに関係なく、楽曲フレームが独自のフレームチェーンに自動的に割り当てられます。

補足

マスターページに対して行なわれるそれ以降の変更は、そのマスターページを読み込んだ他のマスターページのセットには自動的に反映されません。1つのマスターページのセットで行なった変更をそのマスターページを含むすべてのマスターページのセットに反映させたい場合は、マスターページを再度読み込みます。

手順終了後の項目

読み込んだマスターページで楽曲フレームが割り当てられているフレームチェーンを変更できます。

関連リンク

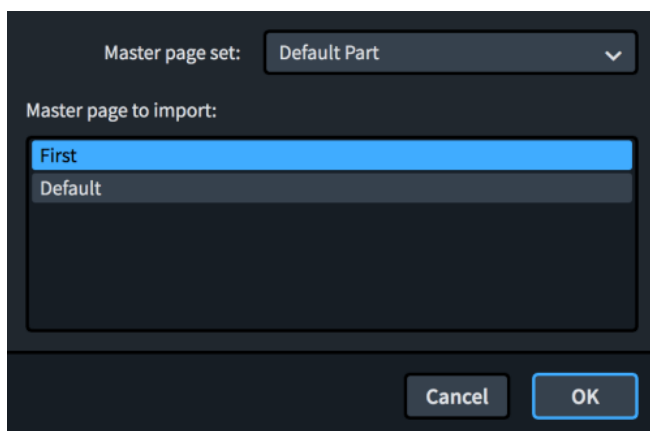
[マスターページのセットの読み込み \(366 ページ\)](#)

[フレームチェーンへの楽曲フレームの割り当て \(397 ページ\)](#)

[マスターページのカスタマイズ \(375 ページ\)](#)

「マスターページの読み込み (Import Master Page)」ダイアログ

「マスターページの読み込み (Import Master Page)」ダイアログを使用すると、プロジェクト内の他のマスターページセットから現在のマスターページセットに個々のマスターページを読み込むことができます。



「マスターページの読み込み (Import Master Page)」ダイアログ

「マスターページの読み込み (Import Master Page)」ダイアログは以下で構成されます。

「マスターページのセット (Master page set)」メニュー

マスターページの読み込み元となるマスターページセットを選択できます。選択できるのはすでに現在のプロジェクトにあるマスターページセットのみです。

読み込むマスターページ (Master page to import)

選択したマスターページセット内のマスターページがリスト表示されます。選択して読み込むことのできるマスターページは一度に1つのみです。

関連リンク

[マスターページ \(364 ページ\)](#)

[マスターページのセット \(365 ページ\)](#)

[マスターページのセットの読み込み \(366 ページ\)](#)

マスターページ名の変更

デフォルトマスターページやカスタムマスターページなど、マスターページの名前を変更できます。

手順

1. 楽譜領域で、名前を変更するマスターページを含むマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、名前を変更する見開きのマスターページをクリックします。
3. アクションバーで、「**マスターページ名を変更 (Rename Master Page)**」をクリックして「**マスターページ名を変更 (Rename Master Page)**」ダイアログを開きます。



4. 「**名前 (Name)**」フィールドに新しい名前を入力します。

5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

マスターページの削除

マスターページのセットからマスターページを削除できます。

補足

「デフォルト (Default)」のマスターページは削除できません。すべてのマスターページのセットには、少なくとも「デフォルト (Default)」のマスターページを含める必要があります。マスターページを追加する際にそのタイプを「デフォルト (Default)」に設定することで、「デフォルト (Default)」のマスターページを置き換えることができます。

手順

1. 楽譜領域で、削除するマスターページを含むマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションの「現在のセット (Current set)」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションで、削除する見開きのマスターページをクリックします。
3. アクションバーで「マスターページを削除 (Delete Master Page)」をクリックします。



結果

選択した見開きのマスターページが削除されます。マスターページを誤って削除した場合、この動作は元に戻せます。

マスターページエディター

マスターページエディターを使用して、マスターページの形式設定を表示したり、変更したりできます。

マスターページエディターを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- ページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションで見開きページをダブルクリックします。
- ページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションで見開きページを選択し、「マスターページを編集 (Edit Master Page)」をクリックします。

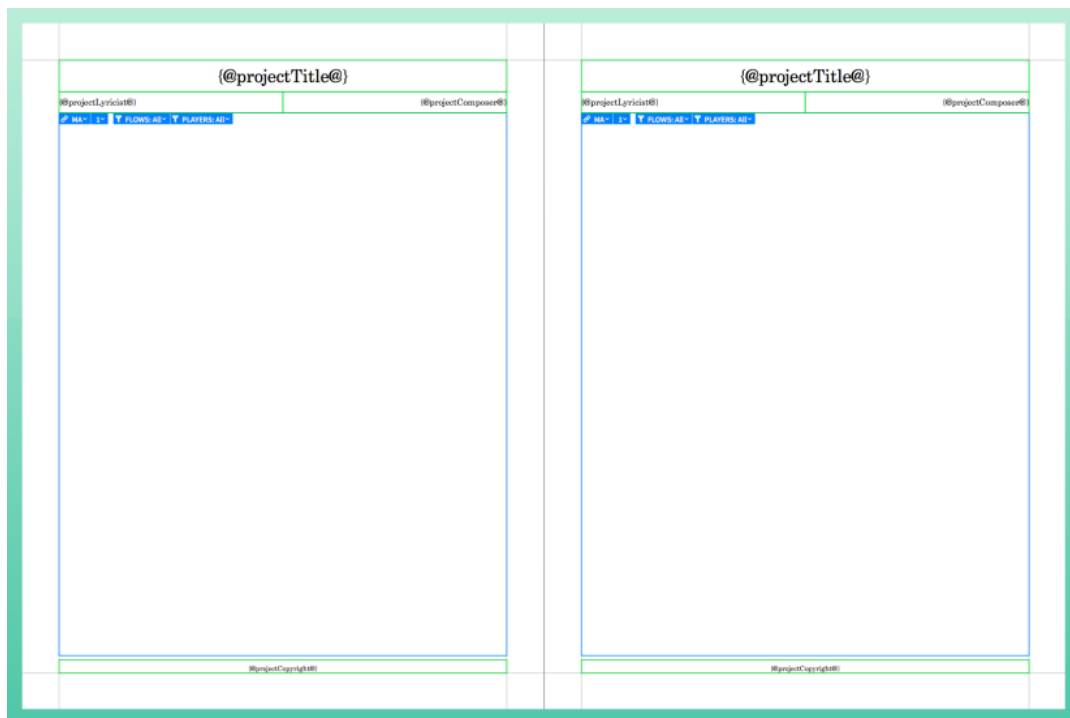


マスターページエディターでは、追加フレームの挿入や既存フレームの編集/移動など、必要に応じてマスターページをカスタマイズできます。また、楽曲フレームが割り当てられているフレームチェーンを変更したり、フレームに割り当てるフローやプレーヤーを変更したりすることもできます。

補足

テキストフレーム内のトークンと楽曲フレーム内の楽譜は、各レイアウトに適した形で自動的に更新されます。ただし、グラフィックフレームはすべてのレイアウトに単一のイメージを表示します。1つの

レイアウトでグラフィックフレーム内のイメージを変更すると、マスターページが更新され、すべてのレイアウトに変更が反映されます。



マスターページエディターで開いた見開きのマスターページの例

関連リンク

[ページパネル](#) (358 ページ)

マスターページのカスタマイズ

必要に応じて、マスターページエディターでマスターページをカスタマイズできます。マスターページを変更すると、そのマスターページを使用しているすべてのレイアウトの外観に反映されます。

補足

- レイアウトのページのサイズ、余白、向き、および譜表サイズは「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**ページ設定 (Page Setup)**」ページで指定する必要があります。
- 既存のマスターページをベースに作成したマスターページは、「**もとにするページ (Based on)**」で選択したマスターページにリンクされます。たとえば、既存のテキストフレーム内のテキストを変更するなど、マスターページ間で共有されているフレームへの変更は、両方のマスターページに反映されます。フレームを削除したり新しいフレームを入力したりすると、このリンクが解除されます。

前提条件

デフォルトのマスターページではなく新規マスターページをカスタマイズしたい場合は、適切なマスターページのセットに新規マスターページを追加しておきます。

手順

- ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、見開きのマスターページをダブルクリックしてマスターページエディターを開きます。
- 選択した見開きのマスターページのいずれかのページのレイアウトを変更します。たとえば、フレームのサイズや形状を変更できます。

3. 左右のページのレイアウトを同じにする場合は、どちらのページを変更したかに応じて、楽譜領域の上部にある以下のいずれかの「**ページレイアウトをコピー (Copy Page Layout)**」ボタンをクリックします。

- **左から右にコピー (Left to Right)**



- **右から左にコピー (Right to Left)**



補足

- マスターページのレイアウトは、反転されることなくページからページにそのままコピーされます。たとえば、ページ番号用のテキストフレームが外側の端に自動的に配置されることはありません。
- テキストフレームの内容を含め、左右のページ間でコピーしたフレームはリンクされます。フレームを削除したり新しいフレームを入力したりすると、このリンクが解除されません。

4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択した見開きのマスターページが変更されます。

関連リンク

- [フレームの入力 \(390 ページ\)](#)
- [テキストフレームへのテキストの入力 \(406 ページ\)](#)
- [フレームの移動 \(391 ページ\)](#)
- [フレームのサイズ/形状の変更 \(392 ページ\)](#)
- [マスターページの追加 \(369 ページ\)](#)
- [マスターページエディター \(374 ページ\)](#)

ページの形式変更

ページの形式変更とは、マスターページセットによって決まる個々のレイアウトの特定のページの形式やデザインへの変更であり、基本となるマスターページには影響しません。たとえば、パートレイアウトの1つのページのフレームを小さくしたり、選択したページから先のページ番号を変更したりする場合に使用します。

ページの形式変更のタイプは、浄書モードのページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで個々のページに表示されるマークで識別できます。

ページの優先

個々のページの形式に対する変更は、マスターページエディターではなく、楽譜領域内で直接行ないます。たとえば、楽曲フレームのサイズ変更、脚注用のテキストフレームの追加、空白ページの挿入などはすべてページの優先となります。

ページの優先が設定されたページは、マスターページを変更したときに、その変更内容が自動的に引き継がれません。優先されているページをマスターページの形式に戻すには、ページの優先を解除する必要があります。

ページの優先が設定されたページは、左上角にマークが表示されます。

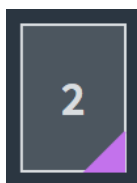


ページの優先

ページ番号の変更

序文ページにローマ数字の番号を付けるといった、デフォルトのページ番号のシーケンスへの変更です。

ページ番号の変更が設定されたページは、マスターページに対して行なわれるそれ以降の変更をすべて引き継ぎます。これらのページは右下角にマークが表示されます。



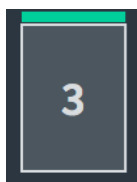
ページ番号の変更

マスターページの変更

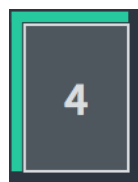
個々のページまたは特定のポイントから先のすべてのページに割り当てられるマスターページへの変更です。たとえば、タイトルページ用のマスターページをすべてのパートレイアウトの最初のページに割り当てることができます。

マスターページの変更が設定されたページは、対応するマスターページに対して行なわれるそれ以降の変更をすべて引き継ぎます。これらのページには、以下の場所にマークが表示されます。

- 現在のページのみマスターページを変更: 上の端
- 現在のページ以降のマスターページを変更: 左上の端



単一のページへのマスターページの変更



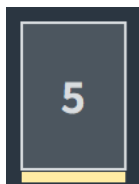
選択したページ以降へのマスターページの変更

フロー見出しの変更

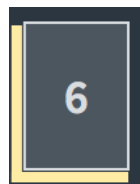
個々のページまたは特定のポイントから先のすべてのページに割り当てられるフロー見出しへの変更です。たとえば、他のページよりも多くの譜表を含むページでフロー見出しの上下の余白を狭くしたい場合などです。

フロー見出しの変更が設定されたページは、マスターページに対して行なわれるそれ以降の変更をすべて引き継ぎます。これらのページには、以下の場所にマークが表示されます。

- 現在のページのみフロー見出しを変更: 下の端
- 現在のページ以降のフロー見出しを変更: 左と下の端



単一のページへのフロー見出しの変更



選択したページ以降へのフロー見出しの変更

補足

- カスタムマスターページを使用してレイアウトの途中または最後にページを挿入後、ページの優先を解除すると、そのページにはマスターページのセットの「**デフォルト (Default)**」のマスターページが自動的に割り当てられます。
- 個別のページに対して作成したページの優先をマスターページとして保存することはできません。複数のページに同じ形式設定を使用することがわかっている場合は、新規マスターページを作成することをおすすめします。

関連リンク

- [ページの挿入 \(447 ページ\)](#)
- [ページ番号 \(986 ページ\)](#)
- [マスターページ \(364 ページ\)](#)
- [マスターページエディター \(374 ページ\)](#)
- [マスターページの追加 \(369 ページ\)](#)
- [マスターページのカスタマイズ \(375 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(386 ページ\)](#)


ページの優先の解除

個別のページに対して作成したページの優先を解除し、マスターページの形式に戻すことができます。

レイアウト内のページにページの優先が含まれている場合、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、該当するページの左上角に色付きの三角形が表示されます。ページの優先には、マスターページまたはフロー見出しの形式から引き継がれたフレームのサイズ/形状の変更、ページへの追加フレームの入力、新しい空白ページの入力などがあります。

空白ページの優先を解除すると、レイアウトからそのページが削除されます。

手順

1. 楽譜領域で、ページの優先を解除するレイアウトを開きます。
2. ページの優先を解除するページを個別に選択する場合は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで該当のページを選択します。
隣接するページを選択するには **[Shift]** を押しながらクリックし、個別のページを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なってページの優先を解除します。
 - 選択したページのみからページの優先を解除するには、「**ページ (Pages)**」セクションのアクションバーで「**優先を解除 (Remove Overrides)**」をクリックします。

 - すべてのページの優先を解除するには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックして、コンテキストメニューから「**すべてのページの優先を解除 (Remove All Page Overrides)**」を選択します。

結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページから、マスターページの形式に対して作成したページの優先がすべて解除されます。ページの優先が作成された空白ページが削除されます。

選択したページのみ優先を解除した場合、ページの優先が設定されたレイアウト内のその他のページは影響を受けません。

関連リンク

[フレーム](#) (390 ページ)

ページ番号の変更の挿入

プロジェクトに含まれる各レイアウトのページのページ番号を変更できます。ページ番号の変更を挿入すると、表示するページ番号やページ番号のスタイルを変更できるほか、レイアウトの最初のページを左右どちらのページにするかを指定することもできます。

たとえば、前付きページには「ii」や「iv」のようなローマ数字を使用し、楽譜ページには「1」や「3」のような数字を使用できます。

補足

- レイアウトの最初のページを偶数に変更すると、そのページが自動的に左側のページになります。これは、偶数ページは常に左側のページに置き、奇数ページは常に右側のページに置くという慣習があるためです。そのため、レイアウトの最初のページが左側に置かれている場合、そのページを1ページと表示することはできず、必ず2ページと表示されます。
- レイアウトを左ページから始めたい場合は、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」に専用のオプションがあるため、ページ番号の変更を挿入することはおすすめしません。

手順

1. 楽譜領域で、ページ番号を変更するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、ページ番号の変更を開始するページを選択します。
3. アクションバーで「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」をクリックして「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを開きます。

#

4. 「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログの「**開始ページ (From page)**」フィールドに、ページ番号の変更を開始するページの番号を入力します。
たとえば、現在の3ページのページ番号を変更するには「**3**」を入力します。
5. 「**開始ページ番号 (First page number)**」フィールドに、選択したページに使用する新しいページ番号を入力します。たとえば、現在の3ページを5ページに変更するには「**5**」を入力します。
6. 「**シーケンスタイプ (Sequence type)**」で以下のいずれかの数字スタイルを選択します。
 - **数字 (Number)**
 - **ローマ数字 (Roman numeral)**
7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択したページのページ番号が変更されます。これに応じて、次のページ番号の変更がある位置もしくはプロジェクトの終了位置のいずれか早い方まで、後続のすべてのページが変更されます。

ヒント

「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログでは、ページ番号の外観のその他の設定も変更できます。たとえば、サブ番号を大文字または小文字で表示できます。

関連リンク

[左側のページからレイアウトを始める \(449 ページ\)](#)

「ページ番号の変更 (Page Number Change)」ダイアログ

「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログでは、各レイアウトの既存のページに表示されるページ番号を変更できます。ページ番号を非表示にしたり、変更したりできます。

たとえば、数字のタイプを以下のいずれかに変更できます。

- **ローマ数字 (Roman numeral)** (「iii」や「iv」など)
- **数字 (Number)** (「5」や「19」など)

ページ番号の表示タイプも変更できます。たとえば、表示タイプを「**最初のページ以外 (Not on first page)**」に設定すると、序文ページのページ番号を非表示にできます。

「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを開くには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択して以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」を選択します。
- 「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」をクリックします。

#

「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログには以下のオプションがあります。

開始ページ (From page)

ページ番号の変更を開始するページを選択できます。この番号は、レイアウト内の位置を示します。

「**現在のページ番号 (Displayed)**」オプションには、選択したページの現在のページ番号がどのように表示されるかがプレビューされます。

開始ページ番号 (First page number)

選択したページの新しいページ番号を指定できます。後続のページは、次のページ番号の変更がある位置かプロジェクトの終了位置まで、新しいシーケンスに従います。

シーケンスタイプ (Sequence type)

選択したページと後続のページで使用する番号のタイプを選択できます。

表示タイプ (Visibility)

ページ番号の表示/非表示を指定できます。ページ番号の変更が始まるページのページ番号を非表示にするよう指定することもできます。

サブ番号のタイプ (Subordinate number type)

ページ番号にサブ番号を追加し、タイプを指定できます。

サブ番号 (Subordinate number)

サブ番号の開始番号を指定できます。

ページ番号の変更を挿入すると、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションのページの右下角にマークが表示されます。新しいページ番号は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションの各ページにも、適切な数字スタイルで表示されます。

関連リンク

[ページ番号 \(986 ページ\)](#)

ページ番号の変更の解除

個々のページに行なったページ番号の変更を解除して、デフォルトのページ番号に戻すことができます。

ページ番号が変更されている場合、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、該当するページの右下角に色付きの三角形が表示されます。

手順

1. 楽譜領域で、ページ番号の変更を解除するレイアウトを開きます。
2. 個々のページのページ番号の変更を解除する場合は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで該当のページを選択します。
隣接するページを選択するには **[Shift]** を押しながらかリックし、個別のページを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらかリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なってページ番号の変更を解除します。
 - 選択したページのみからページ番号の変更を解除するには、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を解除 (Remove Page Number Change(s))**」を選択します。
 - すべてのページのページ番号の変更を解除するには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックして、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更をすべて解除 (Remove All Page Number Changes)**」を選択します。

結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページのページ番号の変更が解除されます。

すべてのページのページ番号の変更を解除した場合、すべてのページでデフォルトのページ番号のシーケンスが復元されます。

選択したページのみでのページ番号の変更を解除した場合、選択したページから次のページ番号の変更がある位置がプロジェクトの終了位置のいずれか早い方まで、デフォルトのページ番号が復元されます。ページ番号の変更があるレイアウト内のその他のページは影響を受けません。

関連リンク


[「ページ番号の変更 \(Page Number Change\)」ダイアログ \(380 ページ\)](#)

[ページ番号の変更の挿入 \(379 ページ\)](#)

ページへのマスターページの割り当て

マスターページのセットに含まれるさまざまなマスターページを、プロジェクト内の各レイアウトの各ページに割り当てることができます。割り当て先には、個々のページおよび選択したページ以降のすべてのページを選択できます。

手順

1. 楽譜領域で、ページに割り当てられたマスターページを変更するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、マスターページの割り当てを変更するページをクリックします。
3. アクションバーで、「**マスターページの変更を挿入 (Insert Master Page Change)**」をクリックして「**マスターページの変更を挿入 (Insert Master Page Change)**」ダイアログを開きます。

4. 必要に応じて、「**開始ページ (From page)**」オプションを使用して、マスターページの変更を開始するページを変更します。
5. 「**マスターページを使用 (Use master page)**」メニューから、割り当てるマスターページを選択します。

6. 「**範囲 (Range)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **現在のページのみ (Current Page Only)**
選択したページにのみ異なるマスターページが割り当てられます。
 - **現在のページ以降 (From this Page Onwards)**
選択したページと後続のすべてのページに異なるマスターページが割り当てられます。
 7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

「**現在のページのみ (Current Page Only)**」を選択した場合、選択したページにのみ選択したマスターページが割り当てられます。

「**現在のページ以降 (From This Page Onwards)**」を選択した場合、選択したマスターページは選択したページとレイアウト内の後続のすべてのページ、または次にマスターページの変更が挿入されている箇所まで割り当てられます。

マスターページの変更の解除

個々のページに割り当てたマスターページの変更を解除して、レイアウトに適用されているマスターページ全体の形式に戻すことができます。

マスターページを変更したページは、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページの上の端または上と左の端にマークが表示されます。

手順

1. 楽譜領域で、マスターページの変更を解除するレイアウトを開きます。
 2. 個別のページからマスターページの変更を解除する場合は、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで該当のページを選択します。
隣接するページを選択するには **[Shift]** を押しながらかリックし、個別のページを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらかリックします。
 3. 以下のいずれかの操作を行なってマスターページの変更を解除します。
 - 選択したページのみからマスターページの変更を解除するには、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**マスターページの変更を解除 (Remove Master Page Change(s))**」を選択します。
 - すべてのページからマスターページの変更を解除するには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックして、コンテキストメニューから「**マスターページの変更をすべて解除 (Remove All Master Page Changes)**」を選択します。
-

結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページから、マスターページの変更がすべて解除されます。ページは、レイアウトに適用されているマスターページ全体の形式に戻ります。

選択したページのみからマスターページの変更を解除した場合、マスターページの変更が挿入されたレイアウト内のその他のページは影響を受けません。

関連リンク

[ページの形式変更 \(376 ページ\)](#)

フロー見出しの変更の挿入

フロー見出しの変更を挿入すると、フロー見出しに使用されている形式に加えて、フロー見出しの上下の余白を変更できます。フロー見出しの変更は、各レイアウトの各ページに個別に挿入できます。

手順

1. 楽譜領域で、フロー見出しを変更するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、フロー見出しの変更を挿入するページまたはフロー見出しの変更を開始するページをクリックします。
3. アクションバーで、「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」をクリックして「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」ダイアログを開きます。



4. 必要に応じて、「**開始ページ (From page)**」オプションを使用して、フロー見出しの変更を開始するページを変更します。
5. 「**フロー見出しを使用 (Use flow heading)**」メニューから挿入するフロー見出しを選択します。
6. 「**範囲 (Range)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **現在のページのみ (Current Page Only)**
 - **現在のページ以降 (From this Page Onwards)**
7. 必要に応じて、「**見出しの上側余白 (Heading Top Margin)**」または「**見出しの下側余白 (Heading Bottom Margin)**」あるいはその両方をオンにして値を変更し、選択したページのフロー見出しの上下の余白を変更します。
8. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

「**現在のページのみ (Current Page Only)**」を選択した場合、選択したフロー見出しは選択したページのすべてのフロー見出しにのみ適用されます。

「**現在のページ以降 (From This Page Onwards)**」を選択した場合、選択したフロー見出しは選択したページとレイアウト内の後続のすべてのページのすべてのフロー見出し、または次にフロー見出しの変更が挿入されている箇所まで適用されます。

関連リンク

[フロー見出し \(386 ページ\)](#)

[同じページに複数のフローを表示する/表示しない \(449 ページ\)](#)

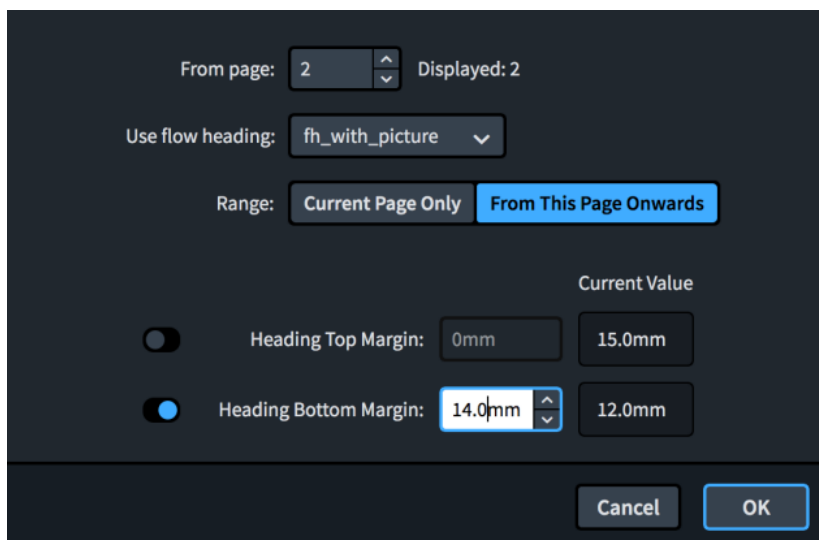
「フロー見出しの変更を挿入」ダイアログ

「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」ダイアログでは、各レイアウト内の指定したページのすべてのフロー見出しに使用されている形式を変更できます。フロー見出しの変更は、個々のページに適用することも、後続のすべてのページに適用することもできます。

「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」ダイアログを開くには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択して以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「**ページ (Pages)**」セクションを右クリックして、コンテキストメニューから「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」を選択します。
- 「**フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)**」をクリックします。





「フロー見出しの変更を挿入 (Insert Flow Heading Change)」ダイアログには以下のオプションがあります。

開始ページ (From page)

フロー見出しの形式の変更を開始するページを選択できます。この番号は、レイアウト内の位置を示します。

「現在のページ番号 (Displayed)」には、選択したページの現在のページ番号と、その番号がどのように表示されるかがプレビューされます。レイアウト内にページ番号の変更を挿入している場合、この番号と「開始ページ (From page)」が異なる可能性があります。

フロー見出しを使用 (Use flow heading)

適用するフロー見出しのデザインを指定できます。このメニューには、現在のマスターページのセット内のすべてのフロー見出しが含まれています。

範囲 (Range)

フロー見出しの変更を適用する範囲を指定できます。

- 「現在のページのみ (Current Page Only)」は、選択したページにのみフロー見出しの変更を適用します。
- 「現在のページ以降 (From This Page Onwards)」は、選択したページとレイアウト内の後続のすべてのページ、または次にフロー見出しの変更が挿入されている箇所までフロー見出しの変更を適用します。

見出しの上側余白 (Heading Top Margin)

影響を受けるフロー見出しの上部と1つ前のフローの終了位置との間の間隔を、レイアウトのデフォルト設定とは別に設定できます。

見出しの下側余白 (Heading Bottom Margin)

影響を受けるフロー見出しの下部と次のフローの開始位置との間の間隔を、レイアウトのデフォルト設定とは別に設定できます。

フロー見出しの変更を挿入すると、ページパネルの「ページ (Pages)」セクションのページの下端末または下と左の端にマークが表示されます。

関連リンク

[フロー見出しの上下の余白を変更する \(451 ページ\)](#)

フロー見出しの変更の解除

個々のページに割り当てたフロー見出しの変更を解除して、「デフォルト」のフロー見出しに戻すことができます。

フロー見出しを変更したページは、ページパネルの「ページ (Pages)」セクションでページの下の方または下と左の端にマークが表示されます。

手順

1. 楽譜領域で、フロー見出しの変更を解除するレイアウトを開きます。
2. 個々のページからフロー見出しの変更を解除する場合は、ページパネルの「ページ (Pages)」セクションで該当のページを選択します。
隣接するページを選択するには **[Shift]** を押しながらかリックし、個別のページを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらかリックします。
3. 以下のいずれかの操作を行なってフロー見出しの変更を解除します。
 - 選択したページのみからフロー見出しの変更を解除するには、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**フロー見出しの変更を解除 (Remove Flow Heading Change(s))**」を選択します。
 - すべてのページからフロー見出しの変更を解除するには、ページパネルの「ページ (Pages)」セクションで右クリックして、コンテキストメニューから「**フロー見出しの変更をすべて解除 (Remove All Flow Heading Changes)**」を選択します。

結果

楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択したページまたはすべてのページから、フロー見出しの変更がすべて解除されます。そのレイアウトに適用されているマスターページのセットで、ページに使用されているフロー見出しが「デフォルト」のフロー見出しに戻ります。

選択したページのみからフロー見出しの変更を解除した場合、レイアウトにフロー見出しの変更が挿入されたその他のページは影響を受けません。



関連リンク

[フロー見出し](#) (386 ページ)

ページの入れ替え

優先が設定されたページは、隣り合うページと入れ替えることができます。

手順

1. 楽譜領域で、ページを入れ替えるレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「ページ (Pages)」セクションで、優先を別のページと入れ替える優先されたページを選択します。
優先が設定されたページの左上角にはマークが表示されます。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したページを別のページと入れ替えます。
 - アクションバーで、「**前ページと入れ替え (Swap with Previous Page)**」をクリックします。

 - アクションバーで、「**次ページと入れ替え (Swap with Next Page)**」をクリックします。


結果

レイアウト内のページの並び順に基づいて、選択したページの位置が前ページまたは次ページと入れ替わります。

フロー見出し

フロー見出しを使用すると、最初の組段のすぐ上にフローのタイトルを自動的に表示できます。フロー見出しはマスターページとほぼ同じで、テンプレートのように機能します。

フロー見出しはマスターページのセットの一部です。初期設定では、各マスターページのセットに1つのフロー見出しがあり、そこにはフロー番号とフロータイトルを表示するトークンが含まれています。新規プロジェクトでは、これは1. Flow 1として表示されます。これはすべてのフロー見出しに自動的に使用されますが、個々のページおよびページ範囲にフロー見出しの変更を挿入することもできます。

フロー見出しは、フロー見出しを適用するフローの最初の組段の上に自動的に挿入されるため、ほかのフレームのようにページ上の固定の垂直位置はなく、楽譜が移動するとそれに追従します。また、フロー見出しは楽曲フレーム内の垂直方向のスペースも使用します。フロー見出しの変更を挿入することで、レイアウトごとまたはページごとにフロー見出しの上下のスペースの余白を変更できます。

浄書のツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択すると、フロー見出しのフレームは、見分けやすいように実線ではなく破線で表示されます。フロー見出しのフレームは他のフレームと同じ方法で移動できますが、この操作を行なうと、ページの形式変更の一種であるページの優先が設定されます。



フロー見出しのテキストフレームの端を表わす破線

関連リンク

- [タチェット \(474 ページ\)](#)
- [フロー見出しを表示/非表示にする \(451 ページ\)](#)
- [フロー見出しの上下の余白を変更する \(451 ページ\)](#)
- [マスターページのセット \(365 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(376 ページ\)](#)
- [テキストトークン \(401 ページ\)](#)
- [フロー見出しの変更の挿入 \(383 ページ\)](#)

フロー見出しエディター

フロー見出しエディターを使用して、フロー見出しの形式を表示したり変更したりできます。

機能はマスターページエディターと似ていますが、何を編集しているかを見分けやすいようにフロー見出しエディターは背景色が異なります。

フロー見出しエディターを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、フロー見出しをダブルクリックします。
- ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションでフロー見出しを選択し、「**フロー見出しを編集 (Edit Flow Heading)**」をクリックします。



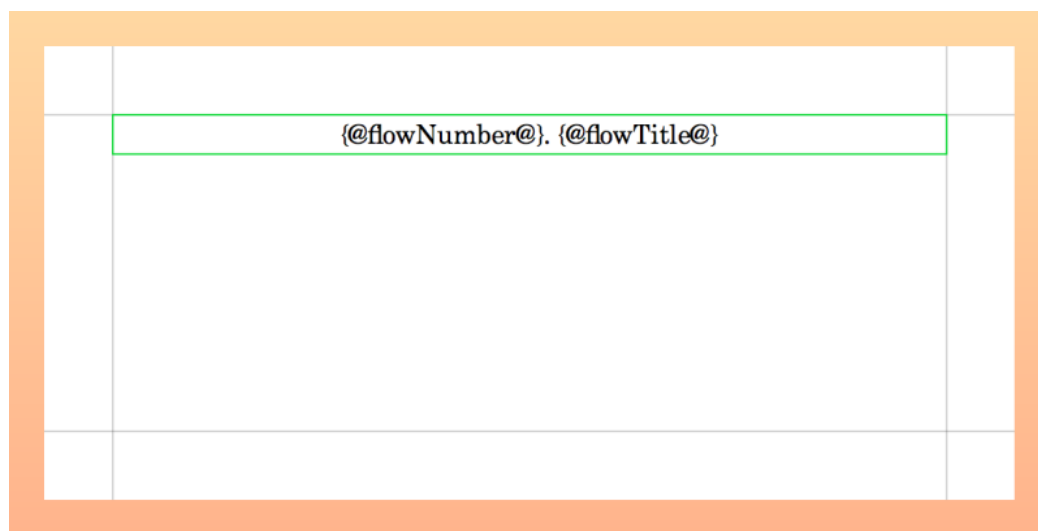
追加フレームの入力、テキストフレームの内容の変更、既存のテキストおよびグラフィックフレームの編集や移動など、フロー見出しのカスタマイズはフロー見出しエディターで行なえます。また、テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置を変更したり、テキストエディターオプションを使ってテキストフレーム内のテキストの外観や水平方向の配置を設定したりできます。

補足

- フロー見出し内に楽曲フレームを入力することはできません。
- フロー見出しのフレームに設定できるのは左右の端の制限のみで、上下の制限は設定できません。これは、フロー見出しに固定の垂直位置がないためです。

Dorico Pro では、フロー見出しの範囲を決める際、エディター内のページ上の一番上のフレームの上部と一番下のフレームの下部が常に使用されるため、フレームはフロー見出しエディター内の任意の場所に配置できます。ただし、結果的に楽曲フレーム内で動かす楽譜が少なくなるよう、フロー見出し全体の高さはできるだけ小さく抑えることをおすすめします。

マスターページとは異なり、フロー見出しは右ページでも左ページでも同じように表示されるため、フロー見出しエディターには 1 ページのみが表示されます。



フロー見出しエディターで開かれたフロー見出しの例

関連リンク

[ページパネル \(358 ページ\)](#)

[浄書モードのテキストエディターオプション \(420 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更 \(408 ページ\)](#)

フロー見出しのカスタマイズ

グラフィックフレームの入力や既存のテキストフレーム内のトークンの変更など、フロー見出しは必要に応じてフロー見出しエディターでカスタマイズできます。フロー見出しを変更すると、そのフロー見出しを使用しているすべてのレイアウトでフロー見出しの外観が変わります。

手順

1. ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、フロー見出しをダブルクリックします。
楽譜領域にフロー見出しエディターが開きます。
2. フロー見出しエディターで、フロー見出しのレイアウトを変更します。たとえば、グラフィックフレームを入力したり、テキストフレームでテキストの垂直方向の配置を変更したりできます。
3. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

関連リンク

[フレームの入力 \(390 ページ\)](#)

[テキストフレームへのテキストの入力 \(406 ページ\)](#)

[フレームの移動 \(391 ページ\)](#)

[フレームのサイズ/形状の変更 \(392 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更 \(408 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

フロー見出しの追加

マスターページのセットに新しいフロー見出しを追加できます。各マスターページのセットには「カスタム」のフロー見出しを複数登録できますが、「デフォルト」のフロー見出しは1つしか登録できません。

手順

1. 楽譜領域で、フロー見出しを追加するマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルで、「**フロー見出し (Flow Headings)**」アクションバーの「**新規フロー見出し (New Flow Heading)**」をクリックして「**新規フロー見出し (New Flow Heading)**」ダイアログを開きます。



3. 「**新規フロー見出し (New Flow Heading)**」ダイアログで、「**名前 (Name)**」フィールドに新しいフロー見出しの名前を入力します。
4. 「**もとにするフロー見出し (Based on)**」メニューから、新しいフロー見出しのもとにする既存のフロー見出しを選択します。

補足

- 既存のフロー見出しをベースに作成したフロー見出しは、「**もとにするフロー見出し (Based on)**」で選択したフロー見出しとのリンクを保ちます。つまり「**もとにするフロー見出し (Based on)**」で選択したフロー見出しでテキストフレーム内のテキストのフォントサイズを変更すると、そのフロー見出しをベースに作成した新しいフロー見出しも影響を受け、その逆の場合も同じです。
- 「**(なし (None))**」を選択すると、ページ余白以外の形式設定がされていないフロー見出しが作成されます。

5. 新しいフロー見出しに適用する以下のいずれかのフロー見出しタイプを選択します。

- **デフォルト (Default)**
- **カスタム (Custom)**

補足

各マスターページのセットには「デフォルト」のフロー見出しを1つしか登録できないため、「**デフォルト (Default)**」を選択した場合、既存の「デフォルト」のフロー見出しは新しいフロー見出しで置き換えられます。

既存のフロー見出しを置き換えることなく新しいフロー見出しを作成するには、「**カスタム (Custom)**」を選択します。

6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

選択したマスターページのセットに選択したタイプの新しいフロー見出しが追加されます。

手順終了後の項目

新規フロー見出しをカスタマイズできます。そのフロー見出しが登録されたマスターページのセットを使用しているレイアウト内の個々のページにフロー見出しを適用できます。

関連リンク

[マスターページのセット \(365 ページ\)](#)

[フロー見出しの変更の挿入 \(383 ページ\)](#)

[フロー見出しを表示/非表示にする \(451 ページ\)](#)

フロー見出し名の変更

「デフォルト」のフロー見出しや「カスタム」のフロー見出しなど、フロー見出しの名前を変更できません。

手順

1. 楽譜領域で、名前を変更するフロー見出しを含むマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、名前を変更するフロー見出しをクリックします。
3. アクションバーで「**フロー見出し名を変更 (Rename Flow Heading)**」をクリックして「**フロー見出しの名前を変更 (Rename Flow Heading)**」ダイアログを開きます。



4. 「**名前 (Name)**」フィールドに新しい名前を入力します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

フロー見出しの削除

マスターページのセットからフロー見出しを削除できます。

補足

「デフォルト」のフロー見出しは削除できません。すべてのマスターページのセットには、少なくとも「デフォルト」のフロー見出しを含める必要があります。新しいフロー見出しを追加する際にそのタイプを「**デフォルト (Default)**」に設定することで、「デフォルト」のフロー見出しを置き換えることができます。

手順

1. 楽譜領域で、削除するフロー見出しを含むマスターページのセットを使用しているレイアウトを開きます。

補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**フロー見出し (Flow Headings)**」セクションで、削除するフロー見出しをクリックします。
3. アクションバーで「**フロー見出しを削除 (Delete Flow Heading)**」をクリックします。



結果

選択したフロー見出しが削除されます。フロー見出しを誤って削除した場合、この動作は元に戻せません。

フレーム

フレームは、楽譜、テキスト、グラフィックを、ページ余白の内側の任意の場所に配置するためのボックスです。

フレームは、レイアウトで定義されたページ余白の内側に配置できます。浄書モードでは、必要に応じてフレームを表示したり調節したりできます。Dorico Pro には、以下のタイプのフレームがあります。

- 選択したプレーヤーおよびフローの楽譜を表示する楽曲フレーム
- テキストおよびテキストトークンを入力できるテキストフレーム
- さまざまな形式のイメージや図を読み込めるグラフィックフレーム

すべてのフレームに、フレームの 4 辺と対応するページ余白の関係を定義する制限を指定できます。

関連リンク

[Dorico のフロー \(35 ページ\)](#)

[Dorico のレイアウト \(38 ページ\)](#)

[フレーム制限 \(410 ページ\)](#)

[楽曲フレーム \(393 ページ\)](#)

[テキストフレーム \(400 ページ\)](#)

[グラフィックフレーム \(409 ページ\)](#)

[フレーム区切り \(469 ページ\)](#)

[テキストトークン \(401 ページ\)](#)

フレームの入力

マスターページエディターの個々のページとマスターページの両方に、フレームを手動で入力できます。入力できるのは楽曲フレーム、テキストフレーム、グラフィックフレームです。

前提条件

マスターページにフレームを入力する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**フレーム (Frames)**」をクリックして形式設定パネルを表示します。
2. 「**フレームを挿入 (Insert Frames)**」セクションで、以下のいずれかのフレームタイプを選択します。

- 楽曲フレームを挿入 (Insert Music Frame)



- テキストフレームを挿入 (Insert Text Frame)



- グラフィックフレームを挿入 (Insert Graphics Frame)



3. 楽譜領域でクリックアンドドラッグし、選択したフレームタイプを入力します。
ページ余白の内側に収まる限り、任意のサイズおよび形状のフレームを描画できます。
-

結果

マウスを放すと、選択したタイプのフレームがページに挿入されます。

手順終了後の項目

フレームのサイズを変更したり、制限を定義したりできます。

楽曲フレームを挿入した場合、スコアのどのパートをフレームに表示するかを指定できます。テキストフレームを挿入した場合、テキストを入力できます。グラフィックフレームを挿入した場合、グラフィックファイルを読み込みます。

関連リンク

- [フレーム制限 \(410 ページ\)](#)
- [楽曲フレーム \(393 ページ\)](#)
- [テキストフレーム \(400 ページ\)](#)
- [テキストフレームへのテキストの入力 \(406 ページ\)](#)
- [グラフィックフレーム \(409 ページ\)](#)
- [楽曲フレームセレクター \(396 ページ\)](#)
- [マスターページエディター \(374 ページ\)](#)

フレームの移動

マスターページを含む各ページ上で、挿入した個々のフレームを移動できます。ただし、ページ余白にはみだしてフレームを移動することはできません。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
 - マスターページのフレームを移動する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。
-

手順

1. 移動するフレームを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なってフレームを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。
-

フレームのサイズ/形状の変更

マスターページを含む各ページ上で、挿入した個々のフレームのサイズと形状を変更できます。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
 - マスターページのフレームのサイズや形状を変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。
-

手順

1. 変更するフレームの端の中央のハンドルを選択します。

補足

一度に選択できるハンドルは、フレームにつき 1 つです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- ハンドルをクリックして上下左右にドラッグします。

補足

フレームの左右の端のハンドルは左右にのみ移動できます。フレームの上下の端のハンドルは上下にのみ移動できます。たとえば、フレームの幅を広げるには、フレームの右端の中央のハンドルを選択して右に動かします。

3. 必要に応じて、動かしたいフレームの他の端に対して手順 1 と 2 を繰り返し、サイズと形状を変更します。
-

関連リンク

[マスターページエディター \(374 ページ\)](#)

フレームハンドルの選択

フレームの個々のハンドルを選択できます。また、ハンドルが選択された状態とフレーム全体が選択された状態を切り替えることができます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、フレームハンドルを選択します。
 - フレームのいずれかのハンドルを選択し、**[→]/[←]/[↑]/[↓]**を押すとフレームの周囲の別のハンドルを選択できます。
 - フレームを選択し、**[Tab]**を押すと左上角のハンドルが選択された状態になり、**[→]/[←]/[↑]/[↓]**を押すとフレームの周囲の別のハンドルを選択できます。
 - フレームのハンドルをクリックします。

補足

一度に選択できるハンドルは、フレームにつき1つです。

2. 必要に応じて、**[Tab]**を押すといつでもフレーム全体が選択された状態に戻ります。
-

フレームのコピー

たとえば、同じフレームを複数のページのまったく同じ位置に表示したい場合などに、個々のフレームをレイアウト内の別のページにコピーできます。また、ページ上でフレームを複製したい場合などには、フレームを同じページにコピーすることもできます。

補足

以下の手順は、マスターページ上のフレームには適用されません。マスターページ上のフレームをコピーは、マスターページをカスタマイズする際にできます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。

手順

1. 楽譜領域で、フレームを別のページにコピーするレイアウトを開きます。
 2. コピーするフレームを選択します。複数のページ上のフレームを選択しても構いません。
 3. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、選択したフレームのコピー先となるページを**[Ctrl]/[command]**を押しながらクリックします。
 4. 「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**選択したフレームを選択したページにコピー (Copy Selected Frames to Selected Pages)**」を選択します。
-

結果

選択したすべてのフレームが、選択したページの同じ位置にコピーされます。フレームを同じページにコピーした場合は、コピーしたフレームが元のフレームに完全に重なります。

楽曲フレーム

楽曲フレームには、プロジェクト内の楽譜が指定した順番で表示されます。マスターページの楽曲フレームとレイアウトの楽曲フレームを使用して、プロジェクトのどの部分を表示するかを制御できます。

どちらのタイプの楽曲フレームも、選択したプレーヤーまたはフローのみをフィルタリングするなど、プロジェクトに入力した楽譜と記譜記号を楽曲フレームセクターに応じて表示します。



マスターページの楽曲フレーム

マスターページの楽曲フレーム

マスターページの楽曲フレームはマスターページにのみ存在しています。つまり、マスターページの楽曲フレームの入力と編集はマスターページエディターでのみ行なえます。マスターページの楽曲フレームはマスターページフレームチェーンにのみ割り当てることができます。そのため、レイアウト内の個々のページでは、マスターページの楽曲フレームのフローセクターとプレーヤーセクターはグレー表示されます。



マスターページの楽曲フレームでグレー表示されたフローセクターとプレーヤーセクター

初期設定では、Dorico Pro に用意されたマスターページのセットに含まれるマスターページには、1つのマスターページフレームチェーンに割り当てられたマスターページの楽曲フレームが含まれています。このフレームチェーンは、各レイアウト内のすべてのフローのすべてのプレーヤーを表示するように設定されています。初期設定では、これらのマスターページはレイアウトタイプに応じてプロジェクト内のすべてのレイアウトのすべてのページに適用されるように設定されています。

マスターページの楽曲フレームは1つのマスターページに複数入力できるほか、そのサイズと形状を任意に変更できます。個別のマスターページの楽曲フレームを同じページに関連付けたい場合は、それらの楽曲フレームを同じフレームチェーンに割り当てることができます。

レイアウトの楽曲フレーム

レイアウトの楽曲フレームは、レイアウト内の個々のページにのみ存在しています。つまり、レイアウトの楽曲フレームの入力と編集は楽譜領域の個々のレイアウトでのみ行なえます。レイアウトの楽曲フレームは、マスターページフレームチェーンとレイアウトフレームチェーンの両方に割り当てることができます。ただし、レイアウトフレームをマスターページフレームチェーンに割り当ててもマスターページには影響しません。

レイアウトの楽曲フレームは1つのページに複数入力できるほか、そのサイズと形状を任意に変更できます。たとえば、レイアウトの楽曲フレームを使用すると、脚注またはインデックス内の異なるフローから楽譜を一部抜粋して挿入できます。

個別のレイアウトの楽曲フレームを同じページに関連付けたい場合は、それらの楽曲フレームを同じフレームチェーンに割り当てることができます。

重要

レイアウトの楽曲フレームは、マスターページより優先されます。レイアウトページの優先をすべて解除すると、レイアウトの楽曲フレームがすべて削除されます。

関連リンク

[楽曲フレームセクター \(396 ページ\)](#)

[マスターページ \(364 ページ\)](#)

[ページの形式変更 \(376 ページ\)](#)

[マスターページエディター \(374 ページ\)](#)
[フレームのサイズ/形状の変更 \(392 ページ\)](#)

楽曲フレームチェーン

楽曲フレームチェーンは、楽譜の同じ選択部分をあらかじめ定義した順番で (多くの場合連続で) 表示する楽曲フレームの集合のことです。ページに楽曲フレームを作成すると、楽曲フレームチェーンが自動的に作成されます。楽曲フレームチェーンには楽曲フレームをいくつでも含めることができます (1つのみでもかまいません)。

楽曲フレームセクターを使用して、各楽曲フレームチェーンに表示される楽譜をプレーヤーやフローによって制御できます。

Dorico Pro にはさまざまなタイプのフレームチェーンがあります。

マスターページフレームチェーン

マスターページフレームチェーンの作成と詳細な編集は、マスターページエディターのマスターページでのみ行なえます。個々のレイアウト内でマスターページフレームチェーンのフローフィルターおよびプレーヤーフィルターを変更することはできません。マスターページに楽曲フレームを作成すると、フレームチェーンが自動的に開始されます。

MAのようにMで始まるフレームチェーンはマスターページフレームチェーンです。MAとMHのように、各ページに複数のマスターページフレームチェーンを作成できます。

デフォルトのマスターページには、レイアウト内のすべてのフローとプレーヤーを表示するよう設定されたフレームチェーンが1つ含まれています。そのため、これらのマスターページを使用するすべてのレイアウト内のすべてのフローを表示するのに必要なページとフレームが Dorico Pro によって自動的に作成されます。

補足

- スコアが自動的に後続のページに続くようにするには、少なくとも「**最初 (First)**」および「**デフォルト (Default)**」のマスターページに楽曲フレームを作成する必要があります。
- 同じ楽曲のフレームチェーンに含まれるフレームは同じフローとプレーヤーを表示する必要があります。たとえば、フレームチェーンの最初のフレームにはバイオリンのみを表示し、2番めのフレームにはすべてのインストゥルメントを表示する、といったことはできません。
- Dorico Pro では、レイアウト内のフローを一度だけでなく何度でも表示させることができます。そのため、マスターページフレームチェーンではなくレイアウトフレームチェーンにフローを表示するなど、特定のレイアウト内のいくつかのフローの形式設定を変更する一方で、これらのフローを一度しか表示させたくない場合、マスターページフレームチェーンの「**フローでフィルター (Filter by Flows)**」リストからこれらのフローを削除する必要があります。これは同じマスターページを使用しているすべてのレイアウトに自動的に表示されるフローに影響するため、このような場合には形式設定を変更したいレイアウトに対してマスターページを個別に作成することをおすすめします。

レイアウトフレームチェーン

レイアウトフレームチェーンの作成と編集は、個々のレイアウトのページ上でのみ行なえます。楽曲フレームを作成してレイアウト内のレイアウトフレームチェーンに割り当てた場合、その楽曲フレームはそのレイアウト内のそのページにのみ表示され、独自のフレームチェーンを開始します。楽曲フレームが後続のページに続くようにするには、チェーンを表示するレイアウト内のすべてのページに楽曲フレームを作成し、これらすべてのフレームを同じレイアウトフレームチェーンに割り当てる必要があります。

LAのようにLで始まるフレームチェーンはレイアウトフレームチェーンです。LAとLBのように、各ページに複数のレイアウトフレームチェーンを作成できます。

補足

- 同じ楽曲のフレームチェーンに含まれるフレームは同じフローとプレーヤーを表示する必要があります。たとえば、フレームチェーンの最初のフレームにはバイオリンのみを表示し、2 番めのフレームにはすべてのインストゥルメントを表示する、といったことはできません。
- レイアウトフレームチェーンにフローを割り当てても、レイアウトに適用されているマスターページ内のフレームチェーンがこれらのフローを含むように設定されている場合は、マスターページフレームチェーンにもこれらのフローが表示されます。初期設定では、マスターページフレームチェーンはプロジェクト内のすべてのフローを表示するように設定されています。

関連リンク

[マスターページ \(364 ページ\)](#)

[マスターページエディター \(374 ページ\)](#)

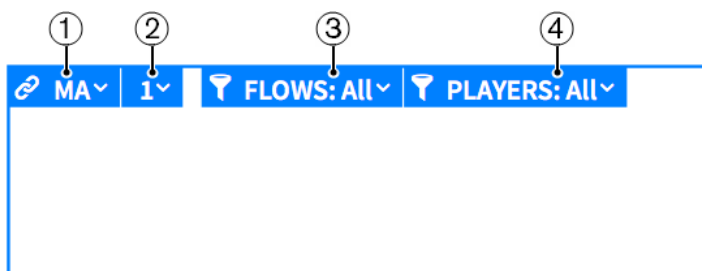
[Dorico のレイアウト \(38 ページ\)](#)

楽曲フレームセクター

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択している場合、楽曲フレームには、各フレームチェーンに割り当てるフローとプレーヤーを変更するなどして、表示する楽譜を変更できるセクターが表示されます。

楽曲フレームのセクターを使用すると、フレームチェーンに表示するフローとプレーヤー、および選択した楽曲をページのフレームに表示する順番を制御できます。フレームチェーンにはフレームをいくつでも含めることができます (1 つのみでもかまいません)。

各楽曲フレームには、以下のセクターが表示されます。



1 フレームチェーン (Frame Chain)

フレームの現在のフレームチェーンが表示され、フレームが割り当てられているフレームチェーンを変更できます。M で始まるフレームチェーンはマスターページフレームチェーン、L で始まるフレームチェーンはレイアウトフレームチェーンです。

2 番めの文字は、同じタイプの異なるフレームチェーンを識別するためのものです。これは自動的に生成され、フレームチェーンを作成した順番が反映されます。たとえば、LA はレイアウト内で作成した最初のレイアウトフレームチェーンで、LB は 2 番めに作成したレイアウトフレームチェーンです。

2 フレームの順番 (Frame Order)

同じページと同じフレームチェーンに属する複数の楽曲フレームがある場合、このオプションを使用してフレーム内に表示される楽譜の順番を指定できます。たとえば、「**フレームの順番 (Frame Order)**」を「1」にすると、そのフレームはフレームチェーン内の最初のフレームになります。

3 フローでフィルター (Filter by Flow)

プロジェクトに複数のフローが存在する場合、フレームチェーンに表示するフローを指定できます。たとえば、1 つのフローのみ、選択したフロー、すべてのフローなどを表示できます。

4 プレーヤーでフィルター (Filter by Player)

プロジェクトに複数のプレーヤーが存在する場合、フレームチェーンに表示するプレーヤーを指定できます。たとえば、1 人のプレーヤーのみ、複数のプレーヤー、すべてのプレーヤーなどを表示できます。

補足

マスターページの楽曲フレームにある「**フローでフィルター (Filter by Flow)**」セクターと「**プレーヤーでフィルター (Filter by Player)**」セクターは、マスターページエディターのマスターページでのみ編集できます。

関連リンク

[フレーム制限 \(410 ページ\)](#)

[フレームのサイズ/形状の変更 \(392 ページ\)](#)

フレームチェーンへの楽曲フレームの割り当て

たとえば、特定の楽曲フレームに表示する楽譜を制御する場合など、楽曲フレームが属するフレームチェーンを変更できます。これはマスターページの楽曲フレームとレイアウトの楽曲フレームの両方に当てはまります。

補足

ページに新規楽曲フレームを作成すると、そのタイプに関係なく、常に新規のフレームチェーンが開始されます。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
 - 楽曲フレームをマスターページのフレームチェーンに割り当てる場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。
-

手順

1. フレームチェーンを変更する楽曲フレームで、「**フレームチェーン (Frame Chain)**」をクリックします。



2. 楽曲フレームを割り当てるフレームチェーンを選択します。

補足

- マスターページエディターのフレームにレイアウトフレームチェーンを選択することはできません。
 - いずれのフレームチェーンも使用しない場合は、「**リンクを解除 (Unlink)**」をクリックします。
-

3. セクターの枠外をクリックしてセクターを閉じます。
-

結果

楽曲フレームが選択したフレームチェーンに割り当てられます。表示するプレーヤーやフローなど、フレームチェーンのすべての設定がフレームに適用されます。

関連リンク

[マスターページエディター \(374 ページ\)](#)

[フレームチェーンへのフローの割り当て \(399 ページ\)](#)

[フレームチェーンへのプレーヤーの割り当て \(399 ページ\)](#)

フレームチェーンから楽曲フレームのリンクを解除

たとえば、楽曲フレームを削除することなく新規のフレームチェーンに楽曲フレームを割り当てる場合などに、フレームチェーンから楽曲フレームのリンクを解除できます。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページの楽曲フレームチェーンからフレームのリンクを解除する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. リンクを解除する楽曲フレームで、「**フレームチェーン (Frame Chain)**」をクリックします。



2. 「**リンクを解除 (Unlink)**」をクリックします。

結果

前のフレームチェーンから楽曲フレームのリンクが解除されます。リンクを解除したフレームに、新しいフレームチェーンが自動的に作成されます。

- レイアウトフレームチェーンからレイアウトの楽曲フレームのリンクを解除すると、新規のレイアウトフレームチェーンに変更されます。
- マスターページフレームチェーンからレイアウトの楽曲フレームのリンクを解除すると、新規のレイアウトフレームに変更されます。
- マスターページフレームチェーンからマスターページの楽曲フレームのリンクを解除すると、新規のマスターページフレームチェーンに変更されます。

楽曲フレームの順番の変更

1つのページの同じフレームチェーンに同じタイプの楽曲フレームが複数ある場合、フレームに表示する楽譜の順番を変更できます。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページの楽曲フレームの順番を変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. 順番を変更する楽曲フレームのいずれかで、「**フレームの順番 (Frame Order)**」をクリックします。



2. 「**フレームの順番 (Frame Order)**」メニューから、このフレームの序数を選択します。
3. セレクターの枠外をクリックしてセレクターを閉じます。

結果

前にその番号が割り当てられていたフレームと序数を入れ替えることで、選択したフレームのフレームチェーン内の位置が変更されます。たとえば、フレームチェーン内の2番めのフレームの番号を「**1**」に変更すると、元々「**1**」の番号が割り当てられていたフレームのフレームチェーン内の番号が「**2**」になります。

フレームチェーンへのフローの割り当て

たとえば、一部のフローをマスターページフレームチェーンではなくレイアウトフレームチェーンに表示するためにマスターページフレームチェーンから除外したい場合など、各フレームチェーンに含めるフローを変更できます。


補足

- マスターページフレームチェーンとレイアウトフレームチェーンの両方にフローを割り当てることができます。ただし、レイアウトフレームチェーンに割り当てられたフローは個々のレイアウトでのみ変更でき、マスターページフレームチェーンに割り当てられたフローはマスターページエディターでのみ変更できます。
- 割り当てられたフローを変更すると、フレームチェーン内のすべてのフレームに影響します。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページの楽曲フレームチェーンに割り当てられたフローを変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. 割り当てられたフローを変更するフレームチェーンに属する楽曲フレームで、「**フロー (Flows)**」をクリックします。

2. 「**フローでフィルター (Filter by Flow)**」メニューから、フレームチェーンに表示するフローを選択します。
3. セレクターの枠外をクリックしてセレクターを閉じます。

結果

フレームチェーン内のすべてのフレームが更新され、選択したフローが表示されます。マスターページの楽曲フレームに割り当てられたフローを変更した場合、そのマスターページが適用されているレイアウト内のページ数が自動的に更新されます。たとえば、マスターページフレームチェーンに追加のフローを割り当てた場合、そのフローを表示するのに必要な追加のページとフレームが、対応するレイアウトに追加されます。

フレームチェーンへのプレーヤーの割り当て

たとえば、ピアノの二重奏を記譜する際に一方のピアノを左ページに、もう一方のピアノを右ページに表示する場合など、各フレームチェーンに含めるプレーヤーを変更できます。

補足

- マスターページフレームチェーンとレイアウトフレームチェーンの両方にプレーヤーを割り当てることができます。ただし、レイアウトフレームチェーンに割り当てられたプレーヤーは個々のレイアウトでのみ変更でき、マスターページフレームチェーンに割り当てられたプレーヤーはマスターページエディターでのみ変更できます。
- 割り当てられたプレーヤーを変更すると、フレームチェーン内のすべてのフレームに影響します。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページの楽曲フレームチェーンに割り当てられたプレーヤーを変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. 割り当てられたプレーヤーを変更するフレームチェーンに属する楽曲フレームで、「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。

 PLAYERS: All

2. 「**プレーヤーでフィルター (Filter by Player)**」メニューから、楽曲フレームに表示するプレーヤーを選択します。
3. セレクターの枠外をクリックしてセレクターを閉じます。

結果

フレームチェーン内のすべてのフレームが更新され、選択したプレーヤーが表示されます。

補足

譜表サイズは自動的に変更されません。つまり、フレームチェーン内の小さなフレーム内で譜表が重なる可能性があります。

関連リンク

[譜表サイズ \(458 ページ\)](#)

テキストフレーム

テキストフレームを使用すると、トークンを含むテキストを、スコア上の位置とは関係なくプロジェクトに追加できます。マスターページではなく個々のページにテキストフレームを追加すると、ページの優先が設定されます。

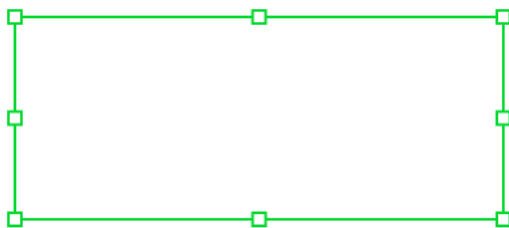
フレームごとのテキストエディターを開くには、以下のいずれかの操作を行います。

- 形式設定パネルの「**フレーム (Frames)**」をオンにして、テキストフレームを選択し、**[Return]** を押します。

ヒント

フレームハンドルの選択とフレーム全体の選択は、**[Tab]** を押して切り替えることができます。

- テキストフレームの内側でダブルクリックします。



テキストフレーム

関連リンク

[フレームの入力 \(390 ページ\)](#)

[テキストフレームへのテキストの入力 \(406 ページ\)](#)

[テキストの形式設定 \(412 ページ\)](#)

[テキストスタイルのデフォルトの水平方向の配置を変更する \(417 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更 \(408 ページ\)](#)

[ページの形式変更 \(376 ページ\)](#)

[フレームのサイズ/形状の変更 \(392 ページ\)](#)

テキストトークン

テキストトークンは、プロジェクトに保存されたタイトル、作曲者、日時などの情報の代用として使用できるコードです。これにより、プロジェクトに誤った情報や古い情報を表示するリスクを減らすことができます。

たとえば、プロジェクトのタイトルにトークンを使用した場合、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログでプロジェクトタイトルを何度でも変更でき、そのたびにプロジェクト内のすべてのレイアウトのプロジェクトタイトルが自動的に更新されます。

トークンは「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの情報を参照でき、プロジェクト全体の情報を参照することも、フローごとの情報を個別に参照することもできます。また、現在の日時やプロジェクトが最後に保存された日時を参照することもできます。

補足

- テキストトークンはテキストフレームでのみ使用できます。テキスト/組段テキストオブジェクトでトークンを使用することはできません。
- フロートークンは、テキストフレームの上辺より下にある一番近いフローを参照します。フロートークンが含まれているテキストフレームの上部が組段内の最初の譜表の第5線に揃っているかそれより上にある場合、フロートークンはそのフローを参照します。

{@flow2title@}のように、フロートークンが参照するフロー番号を指定することもできます。この場合、トークンの位置に関係なく、常に指定したフローが表示されます。

タイトルページのように楽譜が含まれていないページでフロー情報を参照するトークンを使用するには、トークンでフロー番号を指定する必要があります。たとえば、楽曲フレームが含まれていないタイトルページで{@flowtitle@}を使用するとトークンは情報を表示しませんが、{@flow1title@}はプロジェクトの最初のフローのタイトルを表示します。

各フローのフロー番号は、設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルで確認できます。

Dorico Pro では以下のトークンを使用できます。

ヒント

カーソルがテキストフレーム内にある場合、コンテキストメニューから利用できるすべてのトークンにアクセスできます。コンテキストメニュー内のトークンはサブメニューにまとめられています。

全般トークン

説明	トークン
ページ番号	{@page@}
プレーヤーリスト	{@playerlist@}
プレーヤー名	{@playernames@}
レイアウト名	{@layoutname@}
設定モードの「 レイアウト (Layouts) 」パネルで設定したレイアウト番号	{@layoutnumber@}

譜表ラベルのトークン

音楽記号	トークン
現在のレイアウト内のプレーヤーの完全な譜表ラベル	{@staffLabelsFull@}
現在のレイアウト内のプレーヤーの省略された譜表ラベル	{@staffLabelsShort@}

たとえば、パートレイアウトの名前を表示する代替の方法として、パートレイアウトの最初のページの左上に表示されるデフォルトの {@layoutName@} トークンを使用するかわりに、譜表ラベルのトークンを使用できます。

補足

譜表ラベルのトークンは、最初の小節線の前に表示される表示ラベルの外観とまったく同じにはならない可能性があります。ただし、譜表ラベルのトークンには、譜表ラベルへの移調の表示方法に関するレイアウトごとのオプションが反映されます。

音楽記号のトークン

音楽記号	トークン
フラット記号: b	{@flat@}
シャープ記号: #	{@sharp@}
ナチュラル記号: ♮	{@natural@}
ト音記号	{@U+E050@}
フェルマータ (上)	{@U+E4C0@}

ヒント

- このリストにはすべてのエントリーが含まれているわけではなく、トークン内にはあらゆる SMuFL 記号のコードポイントを入力できます。必要なコードポイントは、オンラインの SMuFL 仕様情報で確認できます。
- テキストフレームに入力された音楽記号のトークンは、自動的に **音楽テキスト** の文字スタイルを使用します。音楽テキストは、初期設定では Bravura Text に設定されています。
- 「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログのフィールドに音楽記号のトークンを含めることができます。たとえば、「**タイトル (Title)**」フィールドに「**B{@flat@} メジャーの交響曲**」と入力すると、対応するタイトルトークンを使用したテキストフレームに表示されるタイトルは「B♭メジャーの交響曲」となります。

プロジェクト/フロー固有の情報トークン

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログのフィールド	プロジェクトページのトークン	フローページのトークン
タイトル (Title)	{@projecttitle@}	{@flowtitle@}

「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログのフィールド	プロジェクトページのトークン	フローページのトークン
サブタイトル (Subtitle)	{@projectsubtitle@}	{@flowsubtitle@}
献呈 (Dedication)	{@projectdedication@}	{@flowdedication@}
作曲者 (Composer)	{@projectcomposer@}	{@flowcomposer@}
編曲者 (Arranger)	{@projectarranger@}	{@flowarranger@}
作詞者 (Lyricist)	{@projectlyricist@}	{@flowlyricist@}
アーティスト (Artist)	{@projectartist@}	{@flowartist@}
写譜者 (Copyist)	{@projectcopyist@}	{@flowcopyist@}
出版社 (Publisher)	{@projectpublisher@}	{@flowpublisher@}
編集者 (Editor)	{@projecteditor@}	{@floweditor@}
著作権 (Copyright)	{@projectcopyright@}	{@flowcopyright@}
作品番号 (Work number)	{@projectworknumber@}	{@flowworknumber@}
作曲者の生没年 (Composer dates)	{@projectcomposerdates@}	{@flowcomposerdates@}
作曲年 (Composition year)	{@projectcompositionyear@}	{@flowcompositionyear@}
その他の情報 (Other information)	{@projectotherinfo@}	{@flowotherinfo@}

フローごとのトークン

フローごとのトークンの機能	トークン
設定モードの「フロー (Flows)」パネルでの位置に応じた、現在のフローのフロー番号	{@flownumber@}
現在のレイアウトでの位置に応じた、現在のフローのフロー番号	{@flowInLayoutNumber@}
小文字のローマ数字 (iii や xvi など) で表示された、現在のフローのフロー番号	{@flowNumberRomanLower@}
大文字のローマ数字 (III や XVI など) で表示された、現在のフローのフロー番号	{@flowNumberRomanUpper@}
現在のフロー内のこのページの番号 (最初は 1)	{@flowPage@}

フローごとのトークンの機能	トークン
現在のフロー内のページの総数	{@flowPageCount@}
指定したフロー n が始まる表示ページ番号 (例: {@flow3PageCount@})	{@flownPageCount@}
現在のフローのデュレーション (単位: 分および秒)	{@flowDuration@}
指定したフロー n のデュレーション (単位: 分および秒、例: {@flow3Duration@})	{@flownDuration@}

ページ番号のトークン

ページ番号のトークンの機能	トークン
レイアウト内のページの総数	{@pageCount@}
現在のフロー内のこのページの番号 (フローの最初のページを 1 とし、表示ページ番号のないページも含む)	{@flowPage@}
現在のフロー内のページの総数	{@flowPageCount@}
設定モードの「フロー (Flows)」パネルでの位置に応じた、指定したフロー n が始まるページの表示ページ番号 ({@flow5FirstPage@} など)	{@flownFirstPage@}

補足

トークン {@flowPage@} および {@flowPageCount@} には、そのトークンが使用されているページの左上角に一番近い楽曲フレームの最初の組段の開始位置で有効になっているフローのみが反映されます。

プロジェクトが最後にいつ保存されたかを表示する日時のトークン

日時の説明	日時の例	トークン
日時の標準文字列 (ロケールに依存)	12/31/17 11:10:12	{@projectdate@}
4桁の西暦	2017	{@projectdateyear@}
西暦の下2桁	17	{@projectdateyearshort@}
月の正式名称 (ロケールに依存)	October	{@projectdatemonth@}
月の略称 (ロケールに依存)	Oct	{@projectdatemonthshort@}
月の10進数表記 (01 ~ 12)	10	{@projectdatemonthnum@}

日時の説明	日時の例	トークン
曜日の正式名称 (ロケールに依存)	Friday	{@projectdateday@}
曜日の略称 (ロケールに依存)	Fri	{@projectdatedayshort@}
日付の 10 進数表記 (1 ~ 31)	24	{@projectdatedaynum@}
ISO 8601 形式の日付	2017-12-31	{@projectdateymd@}
月、日付、年	December 31, 2017	{@projectdatemdy@}
日付、月、年	31 December 2017	{@projectdatedmy@}
時刻表示 (ロケールに依存)	11:10:12	{@projectdatetime@}
時:分 (24 時間表記)	23:10	{@projectdatetimeHHMM@}
時:分:秒 (24 時間表記)	13:02:24	{@projectdatetimeHHMMSS@}
時 (24 時間表記)	23	{@projectdatetimehour24@}
時 (12 時間表記)	11	{@projectdatetimehour12@}
分の 10 進数表記 (00 ~ 59)	10	{@projectdatetimeminute@}
秒の 10 進数表記 (00 ~ 59)	44	{@projectdatetimesecond@}

現在の日時を表示する日時のトークン

日時の説明	日時の例	トークン
日時の標準文字列 (ロケールに依存)	12/31/17 11:10:12	{@date@}
4 桁の西暦	2017	{@dateyear@}
西暦の下 2 桁	17	{@dateyearshort@}
月の正式名称 (ロケールに依存)	October	{@datemonth@}
月の略称 (ロケールに依存)	Oct	{@datemonthshort@}
月の 10 進数表記 (01 ~ 12)	10	{@datemonthnum@}
曜日の正式名称 (ロケールに依存)	Friday	{@dateday@}
曜日の略称 (ロケールに依存)	Fri	{@datedayshort@}

日時の説明	日時の例	トークン
日付の 10 進数表記 (1 ~ 31)	24	{@datedaynum@}
ISO 8601 形式の日付	2017-12-31	{@dateymd@}
月、日付、年	December 31, 2017	{@datemdy@}
日付、月、年	31 December 2017	{@datedmy@}
時刻表示 (ロケールに依存)	11:10:12	{@datetime@}
時:分 (24 時間表記)	23:10	{@datetimeHHMM@}
時:分:秒 (24 時間表記)	13:02:24	{@datetimeHHMMSS@}
時 (24 時間表記)	23	{@datetimehour24@}
時 (12 時間表記)	11	{@datetimehour12@}
分の 10 進数表記 (00 ~ 59)	10	{@datetimeminute@}
秒の 10 進数表記 (00 ~ 59)	44	{@datetimesecond@}

関連リンク

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(104 ページ\)](#)
[プレーヤー名、レイアウト名、インストール名 \(143 ページ\)](#)
[フロー名とフロータイトル \(148 ページ\)](#)
[レイアウト番号の付け直し \(142 ページ\)](#)
[譜表ラベルに表示されるインストールの移調 \(1164 ページ\)](#)

テキストフレームへのテキストの入力

テキストフレームへのテキストの入力、テキストの形式設定、個々のパラグラフやライン区切りの挿入を行なえます。また、あとからテキストを太字ではなく斜体にしたくなった場合など、テキストフレーム内のテキストはいつでも編集できます。

前提条件

マスターページのテキストフレームにテキストを入力する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. テキストを入力するテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。
 2. 任意のテキストを入力します。
 3. トークンを挿入するには、テキストフレームを右クリックして、コンテキストメニューから使用するトークンを選択します。
 4. 新しいパラグラフを挿入するには、**[Return]** を押します。
 5. ライン区切りを挿入するには、**[Shift] + [Return]** を押します。
 6. 必要に応じて、テキストエディターオプションを使用してテキストの形式設定を行ないます。
 7. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command] + [Return]** を押してテキストエディターを閉じます。
-

結果

テキストフレームにテキストが入力されます。トークンはカーソルの位置に挿入されます。
新しいパラグラフまたはラインを挿入すると、新しいパラグラフまたはラインの最初にカーソルが移動します。

関連リンク

[浄書モードのテキストエディターオプション \(420 ページ\)](#)

テキストフレームへの枠線の追加

テキストフレームの境界を明確にしたい場合などに、テキストフレームに個別に枠線を追加できます。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページのテキストフレームに枠線を追加する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. 枠線を追加するテキストフレームを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで「**境界線を表示 (Show border)**」をオンにします。

結果

選択したテキストフレームに枠線が追加されます。

手順終了後の項目

テキストフレームの枠線の太さおよび枠線とテキストフレームの内容との間の余白を変更できます。

テキストフレームの枠線の太さを変更する

テキストフレームの枠線の太さを個別に変更できます。テキストフレームの枠線の太さのデフォルト設定はありません。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページのテキストフレームの枠線の太さを変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. 枠線の太さを変更するテキストフレームを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで、「**境界線の太さ (Border thickness)**」の値を変更します。

関連リンク

[テキストオブジェクトの枠線の太さを変更する \(425 ページ\)](#)

テキストフレーム内の余白を変更する

フレームの端とフレーム内のテキストとの間の距離に影響する余白をテキストフレームごとに変更できます。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。

- マスターページのテキストフレームの余白を変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. 余白を変更するテキストフレームを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで「**余白 (Padding)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択したテキストフレームのすべての端とフレーム内のテキストとの間の余白が変更されます。

テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更

テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置を変更できます。この変更はマスターページおよび個々のページで行なえます。マスターページでは、選択したテキストの配置はその形式を使用するすべてのページで変更され、個々のページでは、選択したテキストの配置はそのページにおいてのみ変更されます。

前提条件

- 浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。
- マスターページのテキストの垂直方向の配置を変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. テキストの垂直方向の配置を変更するフレームを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで、「**整列 (垂直方向) (Vertical alignment)**」のメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **上 (Top)**
 - **中央 (Center)**
 - **下 (Bottom)**

結果

選択したテキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置が変更されます。

補足

テキストの垂直方向の配置の変更は、パラグラフスタイルより優先されるわけではありません。垂直方向の配置を変更したテキストのパラグラフスタイルにあとから変更を加えると、変更がテキストに反映されません。

関連リンク

[マスターページエディター \(374 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更

テキストフレーム内のテキストスタイルの水平方向の配置を、そのテキストのパラグラフスタイルとは関係なく変更できます。

マスターページ上でテキストフレーム内のテキストの配置を変更すると、そのマスターページ形式を使用しているすべてのページでテキストの水平方向の配置が変更されます。

個々のページ上でテキストフレーム内のテキストの配置を変更した場合、この変更はそのテキストのパラグラフスタイルやマスターページの形式とは関係なく行なわれます。あとから個々のページに設定されたページの優先を解除すれば、マスターページの形式に戻すことができます。

補足

- マスターページのテキストフレーム内のテキストへ加えた変更はリセットできません。
- ページの優先を解除すると、テキストフレーム内のテキストの配置の変更だけでなく、個々のページへのすべての変更が削除されます。

前提条件

マスターページのテキストの水平方向の配置を変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. テキストフレームをダブルクリックして、そのフレームのテキストエディターを開きます。
2. 水平方向の配置を変更するテキストフレーム内のテキストを選択します。

ヒント

同じテキストフレーム内の個々のパラグラフに異なるパラグラフスタイルを適用できます。

3. テキストエディターで、希望する水平方向の配置を選択します。
4. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command] + [Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

結果

選択したテキストの水平方向の配置が変更されます。

ヒント

プロジェクト全体のテキストスタイルの水平方向の配置は、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで変更できます。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

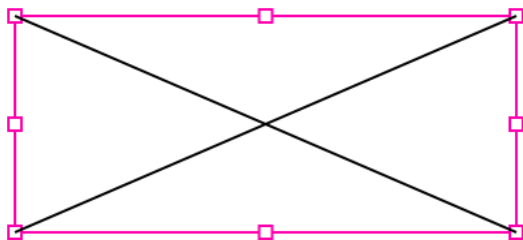
[パラグラフスタイルの上書き \(422 ページ\)](#)

グラフィックフレーム

グラフィックフレームを使用すると、さまざまな形式のイメージや図をスコアに読み込めます。

以下の形式のグラフィックファイルを読み込めます。

- .jpg または .jpeg
- .png
- .svg



グラフィックフレーム

補足

マスターページ上のグラフィックフレームは、すべてのレイアウトにイメージを1つのみ表示できます。1つのレイアウトでグラフィックフレーム内のイメージを変更すると、マスターページが更新され、すべてのレイアウトに変更が反映されます。

関連リンク

[フレームのサイズ/形状の変更](#) (392 ページ)

グラフィックフレームへのイメージの読み込み

スコアには、コンピューターまたはサーバーから画像を読み込めます。

前提条件

マスターページまたは個々のレイアウトにグラフィックフレームを追加しておきます。

手順

1. グラフィックフレーム内をダブルクリックして エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
 2. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、グラフィックフレームに読み込むファイルを探して選択します。
 3. 「開く (Open)」をクリックします。
-

結果

選択した画像がフレームに読み込まれます。

補足

マスターページ上のグラフィックフレームは、すべてのレイアウトにイメージを1つのみ表示できます。1つのレイアウトでグラフィックフレーム内のイメージを変更すると、マスターページが更新され、すべてのレイアウトに変更が反映されます。

フレーム制限

Dorico Pro では、制限を設定することでフレームの4辺とそれぞれに対応するページ余白の関係を定義します。

フレーム制限を設定すると、フレームの各辺に対応するページ余白にロックできます。これにより、フレームの比率を維持したまま、ページサイズを変更したりページ余白で定義される領域を変更したりできます。たとえば、1つの楽曲フレームがページの高さや幅の全体を埋めるように配置されている場合、4辺すべてに制限が設定されます。つまり、すべての辺のインセットが0となり、フレームの端とページ余白が接します。たとえば、ページサイズを変更すると、現在のページサイズに関係なく、常にページ全体を埋めるようにフレームサイズも変更されます。

補足

ページサイズと余白は、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」でレイアウトごとに設定します。

フレームの1辺の制限を解除する場合 (ページ余白からフレームの1辺のロックを解除する場合)、固定の幅や高さを指定することで、ページサイズが変更されてもフレームの辺が調整されないようにできます。

例

ヘッダーにフレームを配置している場合、左右の辺をページの左右の余白位置にロックできます。フレームの上側の辺を上側の余白位置にロックすることもできますが、ヘッダーの高さを固定する必要があります。この場合、下側の余白のロックを解除してフレームの1辺を動かすか、プロパティパネルのいずれかの数値フィールドに値を入力すると、固定の高さを指定できます。

形式設定パネルの「**フレーム (Frames)**」セクションでは、Dorico Pro で使用できるすべてのタイプのフレームに制限を定義できます。新規フレームを作成すると、デフォルトですべての辺の制限が有効になります。フレームの2辺のロックを解除すると、固定の幅と高さを指定できます。たとえば、上側の余白のロックを解除すると、左右の余白のロックも解除できます。

関連リンク

[「レイアウトオプション」ダイアログ \(106 ページ\)](#)

フレーム制限の定義

制限を適用するフレームの辺を指定できます。

前提条件

マスターページでフレームの制限を定義する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**フレーム (Frames)**」をクリックして形式設定パネルを表示します。
2. 楽譜領域で、制限を定義するフレームを選択します。
3. 形式設定パネルの「**制限 (Constraints)**」セクションで、制限を変更するフレームの辺に対応する制限をクリックします。



ロックされた制限



ロックされていない制限

4. フレームのロックされていない辺を任意の位置に動かします。

ヒント

プロパティパネルの「**フレーム (Frames)**」グループにある「**高さ (Height)**」または「**幅 (Width)**」に固定の値を入力することもできます。

関連リンク

[形式設定パネル \(355 ページ\)](#)

[マスターページエディター \(374 ページ\)](#)

[マスターページのカスタマイズ \(375 ページ\)](#)

テキストの形式設定

Dorico Pro には、テキストの外観に関するさまざまな設定があり、フォントやテキストの形式設定を、それぞれの機能に応じて異なる場所で行なえます。

たとえば、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログでプロジェクト内のすべてのテキストに使用するフォントファミリーを変更し、そのあと「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログでそのフォントをいつタイトルに使用するかを個々に変更できます。

パラグラフスタイルは、テキストフレーム全体または1つのテキストオブジェクト内のすべてのテキストに適用されます。文字スタイルは個々の選択部分に適用されます。つまり、同じテキストフレーム内の各単語に異なる文字スタイルを適用できます。

フォントスタイルは、テンポ記号や強弱記号のように、テキストフレームやテキストオブジェクトとは異なる、テキストを使用するアイテムに適用されます。

コンピューターにインストールされていないフォントを含むプロジェクトを開くと、「**存在しないフォント (Missing Fonts)**」ダイアログが開き、置換フォントを代替フォントとして選択できます。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

[「文字スタイル \(Character Styles\)」ダイアログ \(418 ページ\)](#)

[浄書モードのテキストエディターオプション \(420 ページ\)](#)

[「存在しないフォント \(Missing Fonts\)」ダイアログ \(73 ページ\)](#)

[テキストフレーム \(400 ページ\)](#)

[テキストフレームへのテキストの入力 \(406 ページ\)](#)

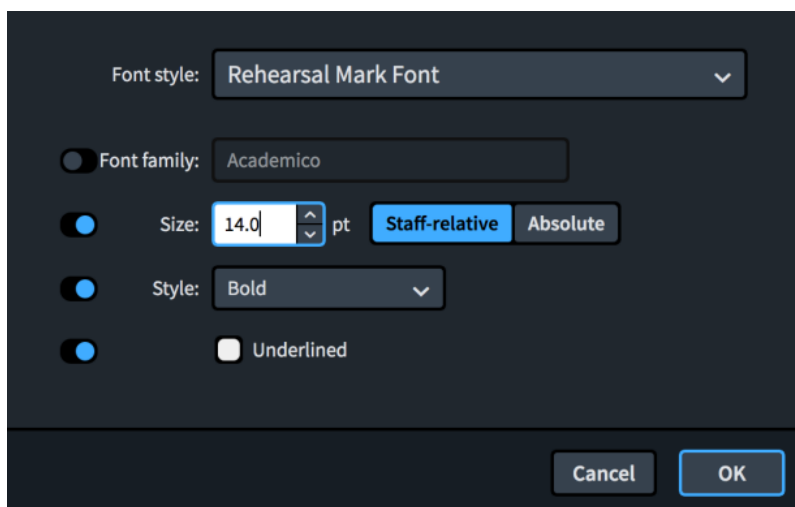
[テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更 \(408 ページ\)](#)

「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログ

「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログでは、リハーサルマーク、強弱記号、テンポ記号のフォントサイズなど、テキストエディターで編集できないアイテムに使用されているフォントの形式設定を編集できます。

- 「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」のダイアログは、浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」>「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択すると開きます。

「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログには、テキストエディターで編集できるテキストフレーム内のテキストオブジェクトやテキストとは異なり、楽譜領域で直接編集できない Dorico Pro 内のフォントが含まれています。



「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログ

フォントスタイル (Font style)

フォントの外観を変更するためのさまざまなフォントスタイルを選択できます。同じセッションですでに「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開いた場合は、そのときに選択したフォントスタイルが保持されています。

フォントファミリー (Font family)

フォントスタイル全体を設定します。

サイズ (Size)

フォントのサイズを設定します。

譜表との相対値/絶対値 (Staff-relative/Absolute)

レイアウトの譜表サイズに応じてフォントサイズを変更するか、設定したサイズを常に維持するかを選択できます。

スタイル (Style)

以下のオプションから、フォントの外観を設定します。

- 「Regular」
- 「Italic」
- 「Bold」
- 「Bold Italic」

下線 (Underlined)

「**下線 (Underlined)**」に対応するチェックボックスを両方オンにすると、フォントに下線が表示されます。

補足

- オプションを変更するには、そのオプションをオンにする必要があります。
- フォントスタイルへの変更は、パートレイアウトを含むプロジェクト全体に適用されます。
- 特定のフォントスタイルが見つからない場合は、パラグラフスタイルである可能性があります。

関連リンク

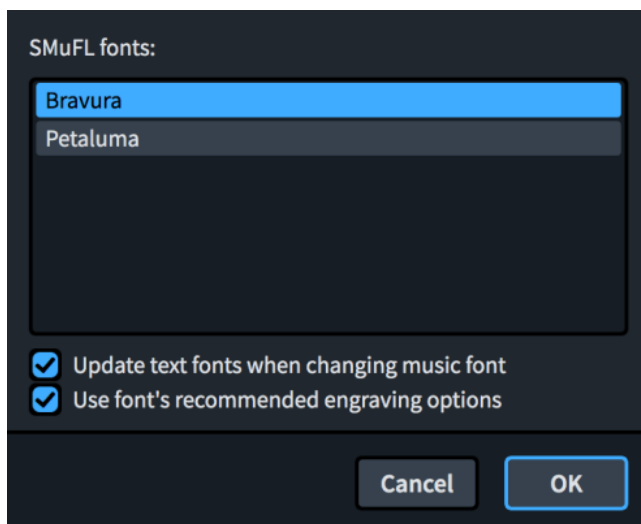
[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

[「存在しないフォント \(Missing Fonts\)」ダイアログ \(73 ページ\)](#)

音楽フォントダイアログ

音楽フォントダイアログでは、プロジェクト全体で記譜記号やグリフに使用するフォントを変更できません。記譜記号やグリフに使用するフォントは SMuFL 準拠である必要があります。

- 音楽フォントダイアログは、浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**音楽フォント (Music Fonts)**」を選択すると開きます。



音楽フォントダイアログ

このダイアログには、Dorico Pro が認識できる適切なメタデータを持ち、コンピューターにインストールされているすべての SMuFL フォントが含まれています。初期設定では、Dorico Pro には以下の SMuFL 準拠フォントが用意されています。

- **Bravura:** 伝統的なクラシック音楽の浄書に着想を得た、デフォルトの音楽フォントです。
- **Petaluma:** ジャズ音楽に使用される伝統的なスタイルに似た、手書きの音楽フォントスタイルです。

音楽フォントダイアログで音楽フォントを変更すると、音部記号、強弱記号、連符の数や比率を示す数字など、テキスト以外の記譜記号、グリフ、およびその他のアイテムに使用されるフォントが変更されます。

ヒント

これらのアイテムに使用されるフォントを個別に変更するには、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで「**デフォルトのテキスト用フォント (Default Text Font)**」を変更し、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで「**デフォルトのテキスト (Default Text)**」のパラグラフスタイルを変更します。

音楽フォントダイアログには以下のオプションもあります。

音楽フォントを変更するときはテキストフォントを更新 (Update text fonts when changing music font)

音楽フォントを変更する際にテキストフォントを含めるか除外するかを指定できます。たとえば、このオプションをオフにすると、フローのタイトルや譜表ラベルの外観に影響を与えることなく音符や記譜記号の外観を変更できます。

- Bravura 音楽フォントに対応するテキストフォントは Academico です。
- Petaluma 音楽フォントに対応するテキストフォントは Petaluma Script です。

フォントのおすすめの浄書オプションを使用 (Use font's recommended engraving options)

フォントにデフォルトで付属する設定を読み込むことができます。

補足

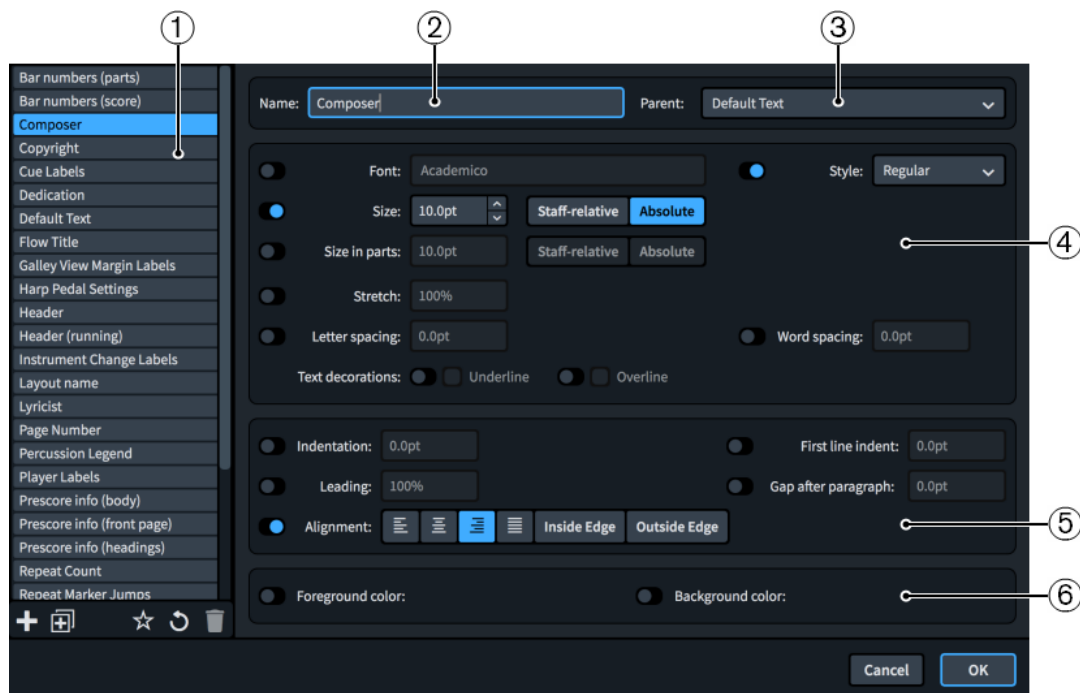
音部変更記号や太字でない連符の数や比率を示す数字など、SMuFL フォントでオプションとして設定されている特定のアイテムは影響を受けません。

「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」 ダイアログ

「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログでは、テキストのパラグラフスタイルを変更したり、新しいスタイルを作成したりできます。そのあと、テキストエディターでその文字スタイルを選択することで、プロジェクト内の別の場所でさまざまなパラグラフスタイルを使用できます。

たとえば、レイアウト名のパラグラフスタイルをカスタマイズし、そのあとレイアウト名を表示するすべてのテキストフレームにそのレイアウト名のパラグラフスタイルを適用できます。これにより、さまざまなタイプの表示をプロジェクト全体で統一できます。

- 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」のダイアログは、浄書モードで「浄書 (Engrave)」 > 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」を選択すると開きます。



「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログ

「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

1 パラグラフスタイルリスト

プロジェクト内のすべてのパラグラフスタイルが表示されます。テキストアイテムを選択した状態でダイアログを開くと、選択している最初のアイテムのパラグラフスタイルがパラグラフスタイルリストでデフォルトで選択されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New):** デフォルト値を持つ新しいパラグラフスタイルを作成します。



- **選択から新規作成 (New from Selection):** 既存のパラグラフスタイルのコピーを作成し、元のパラグラフスタイルとは別の設定に編集できます。



- **デフォルトとして保存 (Save as Default):** 選択したスタイルをライブラリーにコピーし、別のプロジェクトで使用できるようにします。



- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory)**: 選択したパラグラフスタイルについて、あらかじめ定義されたパラグラフスタイルへのすべての変更を削除し、工場出荷時の設定に戻します。



- **削除 (Delete)**: 選択したスタイルを削除します。



補足

あらかじめ定義されたパラグラフスタイルや、プロジェクト内で現在使用されているパラグラフスタイルは削除できません。

2 名前 (Name)

新しいパラグラフスタイルの名前を入力したり、既存のパラグラフスタイルの名前を編集したりできます。

3 元 (Parent)

選択したパラグラフスタイルに設定を引き継ぐ元のパラグラフスタイルを選択できます。

4 フォントの外観オプション

フォントの変更、太字の設定、フォントサイズの変更、文字や単語のスペーシングの変更など、パラグラフスタイルフォントの外観のパラメーターを変更できます。また、パラグラフスタイル内のフォントに下線や取り消し線を付けることもできます。

5 パラグラフのレイアウトオプション

各パラグラフの1行めのインデントの設定やテキストの配置の変更など、パラグラフスタイルのレイアウトを変更できます。

6 カラーオプション

パラグラフスタイルの文字色や背景色を変更できます。

関連リンク

[「存在しないフォント \(Missing Fonts\)」ダイアログ \(73 ページ\)](#)

パラグラフスタイルの作成

たとえば、複数のテキストフレームでテキストに一貫した形式設定を行なう場合などに、パラグラフスタイルを1から新しく作成したり、既存のパラグラフスタイルを複製して設定を編集したりできます。

手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」を選択して、「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいパラグラフスタイルを作成します。
 - まったく新しいパラグラフスタイルを作成する場合は、アクションバーの「新規 (New)」をクリックします。



- 既存のパラグラフスタイルのコピーを作成する場合は、パラグラフスタイルリストからコピーするパラグラフスタイルを選択し、アクションバーの「選択から新規作成 (New From Selection)」をクリックします。



3. 「名前 (Name)」フィールドにスタイルの名前を入力します。
4. 必要に応じて、「元 (Parent)」メニューから利用できるいずれかのスタイルを選択します。

補足

元スタイルを選択した場合、すべてのオプションの設定が自動的に引き継がれた状態で、スライダーはオフになります。パラグラフスタイルのスライダーがオンになっており元スタイルより優先されている場合は、スライダーをオフにすることで元スタイルの設定にリセットできます。

5. 必要に応じて、オプションをオンにして変更します。
 6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

テキストスタイルのデフォルトの水平方向の配置を変更する

さまざまなテキストタイプに使用されるパラグラフスタイルのデフォルトの水平方向の配置を変更できます。これにより、対応するテキストスタイルの水平方向の配置がプロジェクト全体で変更されません。

手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」を選択して、「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログを開きます。
 2. パラグラフスタイルリストで、デフォルトの配置を変更するテキストスタイルを選択します。
 3. 希望する「配置 (Alignment)」オプションを選択します。
 4. 必要に応じて、水平方向の配置を変更するその他のパラグラフスタイルに手順2と3を繰り返します。
 5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

選択したテキストスタイルのデフォルトの配置が変更されます。

ヒント

テキストの水平方向の配置は、個々のテキストフレームで上書きもできます。

関連リンク

[テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更](#) (408 ページ)

パラグラフスタイルの削除

作成したパラグラフスタイルを削除できます。ただし、デフォルトのパラグラフスタイルは削除できません。

手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」を選択して、「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」ダイアログを開きます。
2. パラグラフスタイルリストで、削除するスタイルを選択します。

補足

デフォルトのパラグラフスタイルは削除できません。

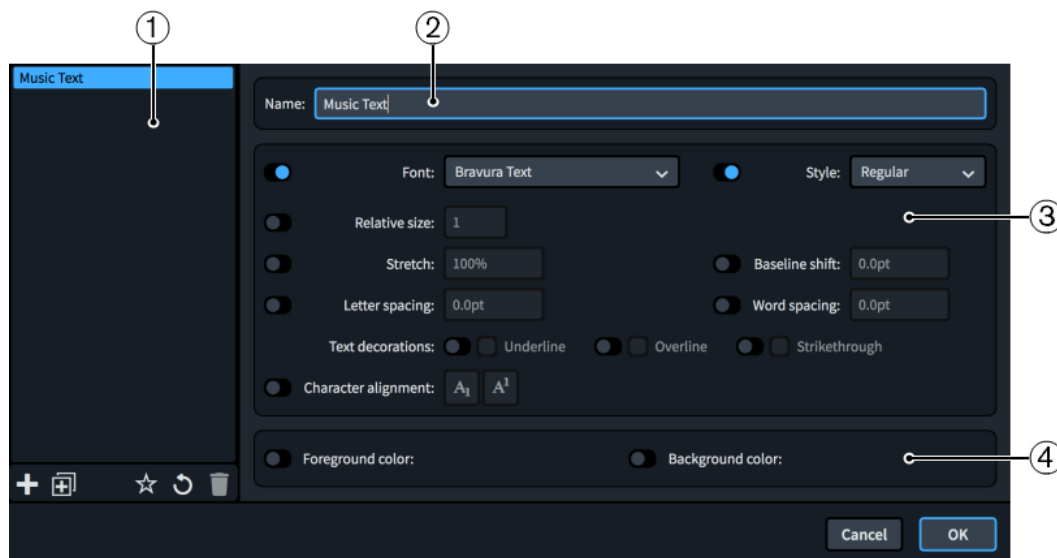
3. 「削除 (Delete)」をクリックします。
 4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

「文字スタイル (Character Styles)」 ダイアログ

「文字スタイル (Character Styles)」 ダイアログでは、文字スタイルを変更したり新しいスタイルを作成したりできます。そのあと、テキストエディターでその文字スタイルを選択することで、プロジェクト内のさまざまな場所にある個々の文字や単語にそのスタイルを適用できます。

たとえば、特定の単語の文字間のスペーシングを広げたカスタム文字スタイルを作成したあと、選択した単語にその文字スタイルを適用できます。パラグラフスタイルとは異なり、文字スタイルはテキストフレームやテキストオブジェクト全体に適用する必要はありません。

- 「文字スタイル (Character Styles)」 ダイアログは、浄書モードで「浄書 (Engrave)」 > 「文字スタイル (Character Styles)」 を選択すると開きます。



「文字スタイル (Character Styles)」 ダイアログ

「文字スタイル (Character Styles)」 ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

1 文字スタイルリスト

プロジェクト内のすべての文字スタイルが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New):** デフォルト値を持つ新しい文字スタイルを作成します。



- **選択から新規作成 (New from Selection):** 既存の文字スタイルのコピーを作成し、元の文字スタイルとは別の設定に編集できます。



- **デフォルトとして保存 (Save as Default):** 選択したスタイルをライブラリーにコピーし、別のプロジェクトで使用できるようにします。



- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory):** 選択した文字スタイルについて、あらかじめ定義された文字スタイルへのすべての変更を削除し、工場出荷時の設定に戻します。



- **削除 (Delete):** 選択したスタイルを削除します。



補足

あらかじめ定義された文字スタイルや、プロジェクト内で現在使用されている文字スタイルは削除できません。

2 名前 (Name)

新しい文字スタイルの名前を入力したり、既存のパラグラフスタイルの名前を編集したりできます。

3 文字スタイルオプション

フォントの変更、太字の設定、フォントサイズの変更、文字や単語のスペーシングの変更など、文字スタイルのパラメーターを変更できます。また、パラグラフスタイル内のフォントに下線や取り消し線を付けたり、文字の垂直方向の配置を変更したりもできます。

4 カラーオプション

文字スタイルの文字色や背景色を変更できます。

関連リンク

[「存在しないフォント \(Missing Fonts\)」ダイアログ \(73 ページ\)](#)

文字スタイルの作成

文字スタイルを 1 から新しく作成するか、既存の文字スタイルを複製して設定を編集できます。

手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**文字スタイル (Character Styles)**」を選択して、「**文字スタイル (Character Styles)**」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しい文字スタイルを作成します。

- まったく新しい文字スタイルを作成する場合は、アクションバーの「**新規 (New)**」をクリックします。



- 既存の文字スタイルのコピーを作成する場合は、文字スタイルリストからコピーする文字スタイルを選択し、アクションバーの「**選択から新規作成 (New From Selection)**」をクリックします。



3. 「**名前 (Name)**」フィールドにスタイルの名前を入力します。
4. 必要に応じて、オプションをオンにして変更します。

重要

オンにしたオプションだけがテキストに反映されます。オプションをオフにすると、設定がリセットされます。

5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

文字スタイルの削除

文字スタイルを削除できます。

手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**文字スタイル (Character Styles)**」を選択して、「**文字スタイル (Character Styles)**」ダイアログを開きます。
2. 文字スタイルリストで削除するスタイルを選択します。

3. 「削除 (Delete)」をクリックします。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

テキストオブジェクトとテキストフレーム内のテキスト

Dorico Pro のテキストは、個々の譜表に追加されるか組段テキストとして追加されるテキストオブジェクトか、楽譜ではなくページに固定されるテキストフレーム内のテキストになります。

テキストをクリックすれば、テキストオブジェクトとテキストフレーム内のテキストとの違いが分かります。テキストが譜表に連結線につながって強調表示された場合、組段テキストです。テキストが強調表示されない、または連結線が付かない場合は、テキストフレームです。

いずれのタイプのテキストも同じ方法で編集できますが、テキストトークンはテキストフレームでのみ使用できます。譜表または組段に追加されたテキストではトークンを使用できません。

関連リンク

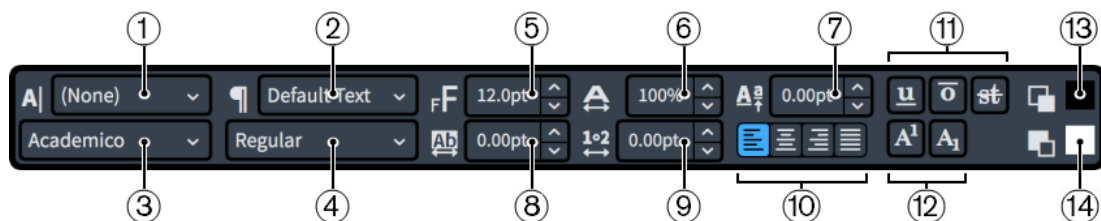
[テキストトークン \(401 ページ\)](#)

[浄書モードのテキストエディターオプション \(420 ページ\)](#)

[テキストフレームへのテキストの入力 \(406 ページ\)](#)

浄書モードのテキストエディターオプション

テキストエディターを使用すると、テキストの追加や形式設定を行なえます。テキストエディターは、浄書モードでテキストフレームにテキストを入力するかテキストフレームのテキストを編集すると開きます。



浄書モードのテキストエディター

テキストエディターには以下のオプションがあります。

1 文字スタイル (Character Style)

パラグラフ内の選択したテキストの外観を変更できます。該当のパラグラフに適用されているパラグラフスタイルより優先されます。

2 パラグラフスタイル (Paragraph Style)

パラグラフ全体に適用されるパラグラフスタイルを変更できます。これによって、テキストの外観、書式、および配置が変わります。

譜表テキストと組段テキストは常に単一のパラグラフとして扱われます。

3 フォント (Font)

選択したテキストのフォントファミリーを変更できます。

4 フォントスタイル (Font Style)

選択したテキストのフォントスタイルを変更できます。

補足

- 選択したフォントによっては、一部のフォントスタイルを使用できない場合があります。
- フォントスタイルは、以下の標準キーボードショートカットを使用して変更することもできます。
 - 太字は **[Ctrl]/[command]+[B]**

- 斜体は **[Ctrl]/[command]+[I]**

5 フォントサイズ (Font Size)

選択したテキストのサイズを変更できます。

ヒント

フォントサイズは、以下のキーボードショートカットを使用して変更することもできます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[.]**: フォントサイズを大きくする
- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[,]**: フォントサイズを小さくする

6 フォント幅 (Font Stretch)

選択したテキストの幅を広げたり狭めたりできます。

7 ベースラインの移動 (Baseline Shift)

選択したテキストのベースラインを上下に少しずつ移動できます。

8 文字のスペーシング (Letter Spacing)

選択したテキストの文字間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。

9 単語のスペーシング (Word Spacing)

選択したテキストの単語間のスペーシングを広げたり狭めたりできます。

10 配置 (Alignment)

スコア内の位置に対する選択したテキストの配置を選択できます。テキストフレーム内のテキストの場合、テキストフレームの左余白に揃います。

以下の配置から選択できます。

- 左揃え (Align Left)
- 中央揃え (Align Center)
- 右揃え (Align Right)
- 両端揃え (Justify)

11 線のタイプ

選択したテキストに、以下のタイプの線を組み合わせて付けられます。

- 下線 (Underline)

ヒント

[Ctrl]/[command]+[U] を押すことで選択したテキストに下線を付けることもできます。

- 上線 (Overline)
- 取り消し線 (Strikethrough)

12 上付き/下付き

選択したテキストを、ベースラインに対して以下のいずれかの位置に配置できます。

- 上付き (Superscript)
- 下付き (Subscript)

13 文字色 (Foreground Color)

選択したテキストの色を変更できます。

14 背景色 (Background Color)

選択したテキストの背景色を変更できます。

関連リンク

[テキストの入力 \(315 ページ\)](#)

[テキストフレームへのテキストの入力 \(406 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

[「文字スタイル \(Character Styles\)」 ダイアログ \(418 ページ\)](#)
[「存在しないフォント \(Missing Fonts\)」 ダイアログ \(73 ページ\)](#)

テキストのパラグラフスタイルの変更

マスターページも含め、譜表に追加されたテキストおよび個々のテキストフレーム内のテキストに適用されるパラグラフスタイルを変更できます。これは、たとえば、フルスコアレイアウトのページ番号とパートレイアウトのページ番号に異なるパラグラフスタイルを使用したい場合などで役立ちます。

前提条件

- デフォルトで用意されているものとは異なるパラグラフスタイルを使用する場合は、新しいパラグラフスタイルを作成しておきます。
- マスターページのテキストのパラグラフスタイルを変更する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。

手順

1. パラグラフスタイルを変更するテキストオブジェクトまたはテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。

補足

テキストオブジェクトのテキストエディターを開くには、記譜モードにする必要があります。テキストフレームの場合は記譜モードや浄書モードでも構いません。

2. パラグラフスタイルを変更するテキストを選択します。

ヒント

同じテキストフレーム内の個々のパラグラフに異なるパラグラフスタイルを適用できます。

3. テキストエディターのパラグラフスタイルメニューからパラグラフスタイルを選択します。
4. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command] + [Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

結果

選択したパラグラフのパラグラフスタイルが変更されます。たとえば、単語を 1 つ選択した場合、その単語を含むパラグラフ全体が変更されます。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」 ダイアログ \(415 ページ\)](#)
[パラグラフスタイルの作成 \(416 ページ\)](#)
[マスターページエディター \(374 ページ\)](#)

パラグラフスタイルの上書き

テキストフレーム内のテキストのパラグラフスタイルのサイズは変更せずにテキストのサイズだけを変更するなど、個々のページのテキストフレーム内のテキストのパラグラフスタイルを上書きした場合、あとからそのパラグラフスタイルに対して行なう変更は、上書きされたテキストには適用されません。

変更をリセットして、個々のページをマスターページの形式に戻すことができます。ただし、これらのページに加えた変更はすべて削除されます。

補足

マスターページのテキストフレーム内のテキストへの変更はリセットできません。

関連リンク
[ページの優先の解除 \(378 ページ\)](#)

テキストオブジェクトの表示位置の移動

浄書モードでは、記譜モードで入力したテキストオブジェクトの表示位置を、適用されるリズム上の位置を変えることなく移動できます。譜表テキストと組段テキスト (組段テキストの個々のインスタンスも含む) はどちらも、別の譜表位置に表示されるその他のインスタントと関係なく個別に移動できます。

補足

これらの手順はテキストフレームのテキストには適用されません。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 移動するテキストオブジェクトを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、テキストオブジェクトを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。
-

結果

選択したテキストオブジェクトが新しい位置に移動します。

ヒント

テキストオブジェクトを移動すると、プロパティパネルの「**一般 (Common)**」グループにある「**オフセット (Offset)**」が自動的にオンになります。

- 「**オフセット X (Offset X)**」を指定すると、オブジェクトが水平方向に移動します。
- 「**オフセット Y (Offset Y)**」を指定すると、オブジェクトが垂直方向に移動します。

このプロパティの数値フィールドの値を変更することでも、テキストオブジェクトを移動できます。

プロパティをオフにすると、選択したアイテムがデフォルト位置にリセットされます。

関連リンク

[浄書モードのテキストエディターオプション \(420 ページ\)](#)
[フレームの移動 \(391 ページ\)](#)

テキストの衝突回避の有効化/無効化

衝突を回避するために個々のテキストオブジェクトを自動的に動かすかどうかを、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。衝突回避がオフになったテキストオブジェクトは、譜表のスペーシングの自動計算の対象になりません。

補足

これらの手順はテキストフレームのテキストには適用されません。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、衝突回避を有効化/無効化するテキストオブジェクトを選択します。
 2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで「**衝突を回避 (Avoid collisions)**」をオンにします。
 3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
-

結果

チェックボックスをオンにすると選択したテキストオブジェクトは衝突を回避し、オフにすると回避しません。

このプロパティをオフにすると、テキストオブジェクトはテキストの衝突回避に対するプロジェクト全体の設定に従います。

ヒント

プロジェクト全体のすべてのテキストオブジェクトに対するテキストの衝突回避は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テキスト (Text)**」ページで有効化/無効化できます。

テキストオブジェクトへの枠線の追加

テキストオブジェクトの境界を明確にしたい場合など、テキストオブジェクトや組段テキストオブジェクトに枠線を個別に追加できます。

手順

1. 枠線を追加するテキストオブジェクトを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで「**枠線 (Border)**」をオンにします。
-

結果

選択したテキストオブジェクトに枠線が追加されます。

ヒント

- テキストオブジェクトは、背景を消して枠線を表示できます。
 - 「**枠線 (Border)**」をオフにすると、選択したテキストオブジェクトから枠線が削除されます。
-

例

Text

枠線のないテキスト

Text

枠線が表示されたテキスト

手順終了後の項目

テキストオブジェクトと枠線の各辺の間の余白を変更できます。

テキストオブジェクトの枠線の太さを変更する

個々のテキストオブジェクトの枠線の太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できません。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、枠線の太さを変更するテキストオブジェクトを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで、「**境界線の太さ (Border thickness)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択したテキストオブジェクトを囲む枠線の太さを変更されます。

ヒント

プロジェクト全体のすべてのテキストオブジェクトのデフォルトの境界線の太さは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テキスト (Text)**」ページで変更できません。

関連リンク

[テキストフレームの枠線の太さを変更する \(407 ページ\)](#)

テキストオブジェクトの周囲の余白の変更

テキストオブジェクトは、四方それぞれの余白を個別に変更できます。これは、テキストと塗りつぶした背景および枠線との間の距離に影響します。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、余白を変更するテキストオブジェクトを選択します。
2. プロパティパネルの「**テキスト (Text)**」グループで、「**塗りつぶしの余白 (Erasure padding)**」のプロパティを片方または両方ともオンにします。
 - 「**左 (L)**」を指定すると、テキストオブジェクトと左の辺の間の余白が変更されます。
 - 「**右 (R)**」を指定すると、テキストオブジェクトと右の辺の間の余白が変更されます。

- 「上 (T)」を指定すると、テキストオブジェクトと上の辺の間の余白が変更されます。
 - 「下 (B)」を指定すると、テキストオブジェクトと下の辺の間の余白が変更されます。
3. 余白を変更する辺の数値フィールドの値を変更します。
-

結果

選択したテキストオブジェクトの周囲の余白が変更されます。値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。

ヒント

プロジェクト全体のすべてのテキストのデフォルトの余白は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「テキスト (Text)」ページで変更できます。ただし、この方法では各辺の余白を個別に変更することはできません。

テキストオブジェクトの背景の塗りつぶし

たとえば、小節線と重なったテキストを読みやすくするために、テキストオブジェクトや組段テキストオブジェクトの背景を個別に塗りつぶすことができます。

前提条件

浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、背景を塗りつぶすテキストオブジェクトを選択します。
 2. プロパティパネルの「テキスト (Text)」グループで「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオンにします。
-

結果

選択したテキストオブジェクトの背景が塗りつぶされます。

ヒント

- テキストオブジェクトは、背景を消して枠線を表示できます。
 - 「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオフにすると、選択したテキストオブジェクトは背景が塗りつぶされていないデフォルトの状態に戻ります。
-

例



背景が塗りつぶされていないテキスト



背景が塗りつぶされたテキスト

手順終了後の項目

テキストオブジェクトと塗りつぶされる領域の各辺の間の余白を変更できます。

音楽記号

Dorico Pro における音楽記号とは、符尾の符鉤、音部記号、アーティキュレーション、長休止や拍子記号に使われる太字の数字など、記譜に使われるさまざまな要素を指す幅広い用語です。

Dorico Pro では、音楽記号によっては専用のエディターダイアログがあり、それらの記号のカスタムバージョンを作成したり編集したりできます。それ以外のすべて音楽記号は、「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログでプロジェクト全体の外観を編集できます。

関連リンク

「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログ (869 ページ)

「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログ (712 ページ)

「符頭を編集 (Edit Notehead)」ダイアログ (907 ページ)

「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログ (1038 ページ)

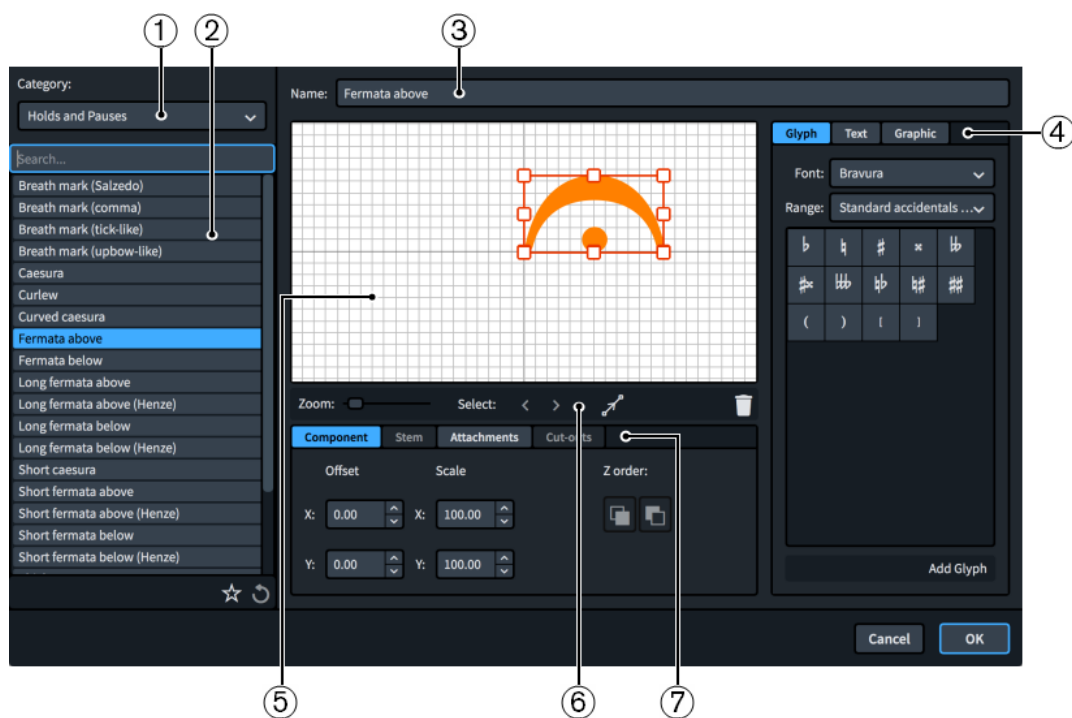
「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログ

「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログでは、コード記号、臨時記号、符頭、演奏技法のような専用エディターのない Dorico Pro で使用されるさまざまな音楽記号の外観を編集できます。

- 「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログは、浄書モードで「浄書 (Engrave)」 > 「音楽記号 (Music Symbols)」を選択すると開きます。

補足

「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログでは、既存の音楽記号のみ編集でき、新しい音楽記号は作成できません。



「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログ

「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

- 「カテゴリ (Category)」メニュー
メニューからカテゴリを選択することで、音楽記号のリストをフィルタリングできます。
- 音楽記号リスト

選択中のカテゴリーに属する、プロジェクト中のすべての音楽記号が表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **デフォルトとして保存 (Save as Default):**現在選択している音楽記号を、現在の状態で以後のすべてのプロジェクトのデフォルトとして保存します。



- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory):** 選択中の音楽記号に加えた編集をすべて削除し、元の設定と外観に戻します。



3 名前 (Name)

選択した音楽記号のデフォルト名が表示されます。

4 構成要素セレクター

音楽記号に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や#を追加できます。メニューからフォントや範囲を選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフを音楽記号に追加します。

補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFLのWebサイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したテキスト、または入力したテキストを音楽記号に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNGまたはJPG形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを音楽記号に追加します。

5 エディター

音楽記号を形作る要素の配置と編集を行ないます。要素の配置と編集は、エディター内で要素をクリックしてドラッグするか、ダイアログ下部のコントロールを使用して行なえます。各要素のハンドルを使用してサイズを変更することもできます。

6 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom):** エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select):** 次/前の要素を選択できます。
- **アタッチメントの表示 (Show Attachments):** エディターのすべての要素のアタッチメントをすべて表示します。



- **削除 (Delete):** 選択した要素を削除します。



7 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。音楽記号で利用できるタブは「**要素**

「Component)」と「アタッチメント (Attachments)」だけです。これ以外のタブはダイアログ内の記号には当てはまらないためです。

「要素 (Component)」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset)**: 選択した要素の位置をコントロールします。「X」で水平方向、「Y」で垂直方向に移動します。
- **スケール (Scale)**: 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「X」で幅、「Y」で高さをコントロールします。

補足

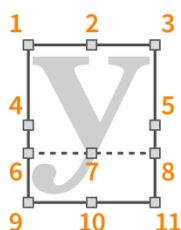
一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- **前後の順序 (Z order)**: 要素が重なった場合、「前面へ移動 (Bring Forward)」または「背面へ移動 (Send Backward)」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。

「アタッチメント (Attachments)」タブは、音楽記号が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from)**: 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「連結元 (Attachment from)」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to)**: 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「連結先 (Attachment to)」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「音楽記号を編集 (Edit Music Symbol)」ダイアログでは、アタッチメントポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

音符のスペーシング

音符や休符の位置は互いに関連付けられており、それらの間の自動間隔を音符のスペーシングと呼びます。

プロジェクトの音符のスペーシングをさまざまなレベルで変更できます。

- 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で、各レイアウトのデフォルトの音符のスペーシングを変更します。
- 個々のレイアウトに含まれる個々のフレームチェーン内の指定したポイントから音符のスペーシングを変更します。
- 個々の位置にある音符のスペーシングおよび個々の音符のスペーシングを変更します。

ヒント

- Dorico Pro では、ほとんどの場合、個々の音符を移動しなくても適切な結果が得られるため、個々の音符を移動する前に、デフォルトの音符のスペーシングの値を調整したり、特定のセクションの音符のスペーシングを変更したり、譜表サイズを変更したりすることをおすすめします。
- 小節線や拍子記号などのさまざまなアイテムと音符との間の間隔を制御するその他のオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページにあります。

関連リンク

[任意の位置から音符のスペーシングを変更する \(432 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(435 ページ\)](#)

[組段の開始位置/終了位置の変更 \(438 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション」ダイアログ \(106 ページ\)](#)

[譜表のスペーシング \(462 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表サイズの変更 \(443 ページ\)](#)

デフォルトの音符のスペーシングを変更する

デフォルトの音符のスペーシングをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトの音符のスペーシングをパートレイアウトよりも狭くできます。使用できるオプションには、4分音符のデフォルトのスペースの変更や、装飾音符とキューのスペースの比率の変更などがあります。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 音符のスペーシングを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をクリックします。
4. オプションの値を任意に変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトに対するデフォルトの音符のスペーシングが変更されます。

関連リンク

[最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(455 ページ\)](#)

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページ

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページでは、ノートのスペーシングのデフォルト値をレイアウトごとに個別に変更できます。また、フローの最後の組段が全体の何 % を超えたら自動的に両端揃えを適用するかも変更できます。

- 「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページを開くには、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」を選択し、ページリストで「音符のスペーシング (Note Spacing)」をクリックします。

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」には以下のオプションがあります。

4分音符のデフォルトのスペーシング (Default space for crotchet/quarter note)

4分音符のデフォルトのスペーシングを設定します。他のデュレーションのスペーシングは比率に合わせて調整されます。値を増やすと音符のスペーシングが広がり、減らすと音符のスペーシングが狭まります。値を変更するとプレビューに反映されます。

短音符のスペーシング最小値 (Minimum space for short notes)

デュレーションが短い音符のスペーシングの最小値を設定します。この値はデフォルトのスペーシングの値とは独立して設定できます。

スペーシングの比率

音価に従って、他の音符との関係に応じて音符のスペーシングを設定します。たとえば、「**スペーシングの比率 (Custom spacing ratio)**」を「2」に設定すると、2分音符には4分音符の2倍のスペースが与えられ、8分音符には4分音符の半分のスペースが与えられます。

装飾音符のスペーシング (Scale space for grace notes by)

装飾音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100%を超える値は設定できません。値を増やすと装飾音符のスペーシングが広がり、値を減らすと装飾音符のスペーシングが狭まります。

キュー音符のスペーシング (Scale space for cue notes by)

キュー音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100%を超える値は設定できません。値を増やすとキュー音符のスペーシングが広がり、値を減らすとキュー音符のスペーシングが狭まります。

歌詞用のスペースを作成 (Make space for lyrics)

音符のスペーシングの計算に歌詞を含めるかどうかを制御します。オフにすると音符のスペーシングの計算から歌詞が除外され、歌詞がそこにならないかのように音符がスペーシングされた結果が生成されます。

このオプションは、間隔の狭い賛美歌などで、歌詞のスペースを手動で設定する場合にのみ注意して使用することをおすすめします。

フローの最後の組段に両端揃えを適用 [n] % 以上の場合 (Only justify final system in flow when more than [n] % full)

各フローの最後の組段が全体の何 % を超えたらフレームの幅に合わせて両端揃えを適用するかを変更できます。初期設定では、最後の組段が全体の 50% 以下の場合には両端揃えが適用されません。

2つの譜表間の連桁にオプティカルスペーシングを使用 (Use optical spacing for beams between staves)

オンにすると、譜表をまたぐ連桁の符尾の間隔が均一になります。この場合、符頭の間隔は均一にならないことがあります。オフにすると、譜表をまたぐ連桁の符頭の間隔が均一になります。この場合、符尾の間隔は均一にならないことがあります。

関連リンク

[譜表をまたぐ連桁にオプティカルスペーシングを使用する \(684 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連桁の作成 \(683 ページ\)](#)

任意の位置から音符のスペーシングを変更する

個々のレイアウトの選択した位置から先の音符のスペーシングの値 (装飾音符とキューの倍率など) を変更できます。

手順

1. 楽譜領域で、音符のスペーシングを変更するレイアウトを開きます。
 2. 音符のスペーシングの変更を適用するフレームチェーン内の、変更を開始する位置のアイテムを選択します。
 3. 「浄書 (Engrave)」 > 「音符のスペーシングを変更 (Note Spacing Change)」を選択して「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを開きます。
 4. 変更する音符のスペーシングのオプションをオンにします。
 5. オンにしたオプションで「変更 (Change)」を選択します。
 6. 音符のスペーシングの各オプションの値を任意に変更します。
 7. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

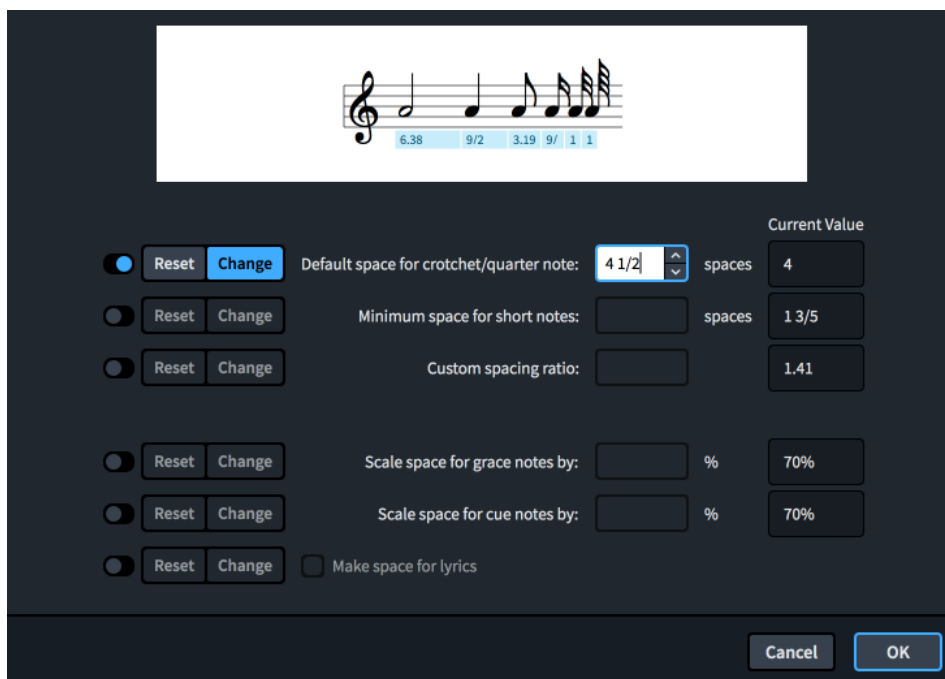
選択した位置から先の音符のスペーシングが変更されます。これは、選択したアイテムを含むフレームチェーンと、楽譜領域で現在開いているレイアウトに適用されます。

音符のスペーシングを変更した位置には、ガイドが表示されます。

「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログ

「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを使用すると、装飾音符とキューの倍率など、音符のスペーシングや倍率に影響する値を、レイアウトの選択した位置から変更したりリセットしたりできます。

- 「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログは、浄書モードで浄書ツールボックスの「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」が選択された状態で楽譜領域のアイテムを選択し、「浄書 (Engrave)」 > 「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」を選択すると開きます。



「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログ

「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログには以下のオプションがあります。

4分音符のデフォルトのスペーシング (Default space for crotchet/quarter note)

4分音符のデフォルトのスペーシングを設定します。他のデュレーションのスペーシングは比率に合わせて調整されます。値を増やすと音符のスペーシングが広がり、減らすと音符のスペーシングが狭まります。値を変更するとプレビューに反映されます。

短音符のスペーシング最小値 (Minimum space for short notes)

デュレーションが短い音符のスペーシングの最小値を設定します。この値はデフォルトのスペーシングの値とは独立して設定できます。

スペーシングの比率

音価に従って、他の音符との関係に応じて音符のスペーシングを設定します。たとえば、「**スペーシングの比率 (Custom spacing ratio)**」を「2」に設定すると、2分音符には4分音符の2倍のスペースが与えられ、8分音符には4分音符の半分のスペースが与えられます。

装飾音符のスペーシング (Scale space for grace notes by)

装飾音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100%を超える値は設定できません。値を増やすと装飾音符のスペーシングが広がり、値を減らすと装飾音符のスペーシングが狭まります。

キュー音符のスペーシング (Scale space for cue notes by)

キュー音符のスペーシングを、そのデュレーションの音符に通常使用されるスペーシングに対する割合で設定します。100%を超える値は設定できません。値を増やすとキュー音符のスペーシングが広がり、値を減らすとキュー音符のスペーシングが狭まります。

歌詞用のスペースを作成 (Make space for lyrics)

音符のスペーシングの計算に歌詞を含めるかどうかを制御します。オフにすると音符のスペーシングの計算から歌詞が除外され、歌詞がそこがないかのように音符がスペーシングされた結果が生成されます。

このオプションは、間隔の狭い賛美歌などで、歌詞のスペースを手動で設定する場合にのみ注意して使用することをおすすめします。

各オプションにはアクティベーションスイッチがあり、変更を選択したオプションの値のみできます。以下のいずれかのオプションを選択して音符のスペーシングを変更できます。

リセット (Reset)

「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」で設定した、レイアウトのデフォルト設定に音符のスペーシングをリセットします。

変更 (Change)

レイアウトの音符のスペーシングを設定した値に変更します。

関連リンク

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」の「音符のスペーシング \(Note Spacing\)」ページ \(431 ページ\)](#)

任意の位置から音符のスペーシングをリセットする

「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログで行なった音符のスペーシングの値への変更をリセットできます。これは、楽譜領域で現在開いているレイアウトの選択した位置から先に適用されます。

手順

1. 楽譜領域で、特定のポイントから音符のスペーシングをリセットするレイアウトを開きます。
2. 音符のスペーシングの変更を適用するフレームチェーン内の、リセットを開始する位置のアイテムを選択します。
3. 「浄書 (Engrave)」 > 「音符のスペーシングを変更 (Note Spacing Change)」を選択して「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログを開きます。
4. リセットしたい音符のスペーシングのオプションをオンにします。
5. オンにしたオプションで「リセット (Reset)」を選択します。
6. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択した位置からフローの終わりまで、オンにしたオプションの音符のスペーシングがレイアウトのデフォルト設定にリセットされます。これは、選択したアイテムを含むフレームチェーンと、楽譜領域で現在開いているレイアウトに適用されます。

音符のスペーシングを変更した位置には、ガイドが表示されます。

音符のスペーシングの変更の削除

「音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)」ダイアログで行なった音符のスペーシングの変更を削除し、音符のスペーシングをそのフローの以前の既存の音符のスペーシングの変更またはレイアウトのデフォルト設定に戻すことができます。

手順

1. 削除する音符のスペーシングの変更のガイドを選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

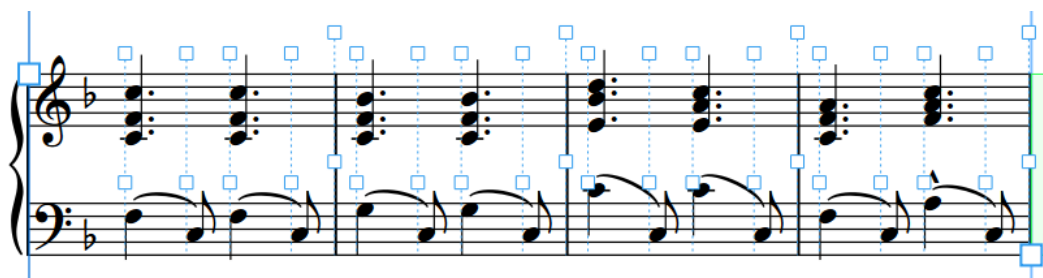
選択した音符のスペーシングの変更が削除されます。音符のスペーシングは、そのフローの以前の既存の音符のスペーシングの変更 (存在する場合)、またはレイアウトのデフォルトの設定に戻ります (以前の既存の音符のスペーシングの変更がない場合)。これは、次の音符のスペーシングの変更がある位置からフローの終了位置のいずれか早い方まで適用されます。

個々の位置にある音符のスペーシングの調節

プロジェクト全体の設定とは別に、個々の位置の音符のスペーシングを調節できます。

浄書ツールボックスの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにすると、以下が表示されます。

- スペーシングコラムを表わす破線
- 音符のスペーシング用ハンドル: 音符、装飾音符、休符、音部記号、調号、拍子記号など、スペーシング用の各アイテムの四角いハンドルがすべての譜表に表示されます。
- 組段ハンドル: 各組段の始めと終わりに大きな四角いハンドルが表示され、個々の組段の始めと終わりの水平方向の位置を制御できます。組段ハンドルは各組段の左上角と右下角にあります。



「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」がオン時に、ハンドルと破線が表示される例

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. スペーシングを調節する位置の破線上にある四角いハンドルを選択します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
 - 選択したハンドルの左側のスペースを増やすには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 選択したハンドルの左側のスペースを減らすには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

結果

選択した音符のスペーシングのハンドルが移動し、元の位置の左側のスペーシングが広くまたは狭くなります。この操作は、組段のすべての譜表の選択した位置のスペーシングにも影響します。ハンドルを移動したことが分かるようにハンドルの色が変わります。

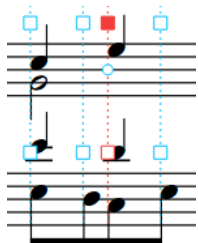
音符のスペーシングを調節した各組段の最初または最後に、組段区切りが自動的に挿入されます。

補足

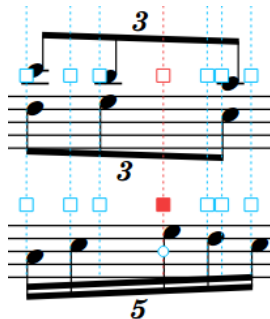
- 音符を元の位置から離し過ぎると、プレーヤーが楽譜を読む上で混乱が生じる恐れがあります。
- 個々の音符/アイテムのスペーシングをそれぞれの位置とは関係なく調節することもできます。

- 「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにすると、音符のスペーシングのハンドル以外には選択したり編集したりできません。通常の実行や編集を再開するには、浄書ツールボックスの「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」をクリックするか記譜モードに戻ります。

例



音符のスペーシングのハンドルを左に動かすと、その位置の左側のスペーシングが狭くなる



音符のスペーシングのハンドルを右に動かすと、その位置の左側のスペーシングが広くなる

関連リンク

[浄書ツールボックス \(354 ページ\)](#)

[デフォルトの音符のスペーシングを変更する \(430 ページ\)](#)

[任意の位置から音符のスペーシングを変更する \(432 ページ\)](#)

[組段の開始位置/終了位置の変更 \(438 ページ\)](#)

[個々の音符/アイテムのスペーシングをそれぞれの位置とは関係なく調節する \(437 ページ\)](#)

[音符のスペーシングの変更を個別に削除する \(439 ページ\)](#)

[組段区切り \(471 ページ\)](#)

[ガイド \(337 ページ\)](#)

組段密度表示

組段密度表示は、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」が有効なとき、ページの右余白に表示されるハイライトがかかった領域です。組段密度表示は、色とパーセンテージで組段の密度を示します。

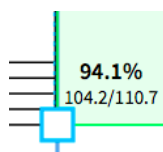
組段密度表示には、以下の色が使われます。

- 緑: 組段の密度が適切。音符には判読に十分な水平方向のスペースがあり、離れ過ぎていません。幅全体に占める割合が 60 ~ 100% の組段は密度が適切であると見なされます。
- 紫: 組段の密度が低い。音符の間隔が広くなりすぎている可能性があります。幅全体に占める割合が 60% 未満の組段は密度が低いと見なされます。
- 赤: 組段の密度が高い。音符の間に十分な水平方向のスペースがなく、音符が詰まり過ぎている可能性があります。幅全体に占める割合が 100% 超の組段は密度が高いと見なされます。

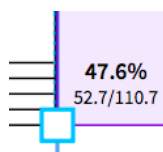
組段の密度はパーセンテージでも表示されます。表示されるパーセンテージは、組段内で使用されているスペースの数を、組段内で使用できるスペースの総数で割って計算されます。スペースの総数は、最初の音部記号/拍子記号/調号の右側のスペースの開始位置から組段の終止線までの間で測定されます。

組段密度表示の色とパーセンテージは、どちらも組段の音符のスペーシングを調節するとリアルタイムで更新されます。

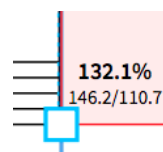
組段の密度が適切



組段の密度が低い



組段の密度が高い



関連リンク

[浄書ツールボックス \(354 ページ\)](#)

[デフォルトの音符のスペーシングを変更する \(430 ページ\)](#)

[フレーム密度表示 \(466 ページ\)](#)

個々の音符/アイテムのスペーシングをそれぞれの位置とは関係なく調節する

それぞれの声部に応じた音符の表示位置、および調号、拍子記号、音部記号などのアイテムの表示位置を、それぞれの位置とは関係なく変更できます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. 表示位置を移動する音符/アイテムの位置にある四角いハンドルを選択します。



各声部/アイテムの横に丸いハンドルが表示されます。

3. **[Tab]** を押して丸いハンドルを選択します。



4. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

結果

その位置の音符のスペーシングを変更することなく、選択した音符/アイテムの表示位置が変更されます。同じ声部の同じ位置にほかの音符がある場合は、それらも移動します。

個々の音符/アイテムの位置を調節した各組段の最初または最後に、組段区切りが自動的に挿入されます。

例



組段の開始位置/終了位置の変更

1つの組段にインデントを適用する場合や個々のコーダセクションの前の間隔を広げる場合など、各組段の水平方向の開始位置/終了位置を個別に変更できます。

補足

- 譜表ラベルの前の間隔を広げる場合は、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「譜表と組段 (Staves and Systems)」ページで、譜表ラベルの付いた組段の最小インデントをレイアウトごとに個別に変更できます。
- 組段がページの幅全体に広がるように組段の終了位置を変更する場合は、「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページで、組段が全体の何 % を超えたら両端揃えを適用するかを変更できます。
- ページ上のすべての組段の幅を同じだけ変更する場合は、楽曲フレームの幅を変更できます。

手順

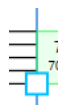
1. 浄書ツールボックスで、「音符のスペーシング (Note Spacing)」をオンにします。



2. 開始位置/終了位置を変更する組段の開始位置/終了位置にある組段ハンドルを選択します。



組段の開始位置にある組段ハンドル



組段の終了位置にある組段ハンドル

3. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

結果

選択した組段の開始位置/終了位置が変更されます。組段ハンドルの移動で組段が広がったか狭くなったかによって、選択した組段上の音符の間隔が広くまたは狭くなります。

関連リンク

[組段のインデント \(1190 ページ\)](#)

[最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(455 ページ\)](#)

[最初の組段のインデントの変更 \(1191 ページ\)](#)

[譜表ラベルの付いた組段の最小インデントの変更 \(1163 ページ\)](#)

[リピートマーカの位置 \(1095 ページ\)](#)

[楽曲フレーム \(393 ページ\)](#)

音符のスペーシングの変更を個別に削除する

個々の位置で音符のスペーシングに対して行なった変更を削除し、音符のスペーシングのハンドルを元のデフォルトの位置にリセットできます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. 元の位置に復元する音符のスペーシングのハンドルを選択します。
3. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択した位置がデフォルトの位置にリセットされます。

ヒント

また、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」メニューからいずれかのオプションを選択すると、選択した組段またはフレーム内のすべての音符のスペーシングの変更、あるいはレイアウト内のすべての音符のスペーシングの変更をリセットすることもできます。

ページ形式設定

Dorico Pro のページ形式設定は、レイアウトの譜表サイズ、ページの余白、適用されるマスターページ、適用される配置設定の値、組段区切りとフレーム区切り、フレーム余白などのさまざまな要素によって決まります。

Dorico Pro のページ形式設定を決める最も重要な要素は以下のとおりです。

譜表サイズ

譜表サイズとは、譜表の一番上の線から一番下の線までの距離を意味します。最適な譜表サイズはレイアウトの用途と内容により異なります。多くの場合、読みやすいレイアウトを作成する最も簡単な方法は譜表サイズを変更することです。

譜表のスペーシング

譜表のスペーシングには、ほとんどの場合、譜表の高さおよび譜表と組段との間に必要な間隔が含まれます。

配置設定

配置設定とは、組段ごとの小節数やページごとの組段数を設定する処理を意味し、レイアウト全体の規則的な外観を固定できます。

組段区切りとフレーム区切り

組段区切りとフレーム区切りを使って、各組団に表示する小節を指定したり、楽譜を次のフレームに切り替える位置を決めたりなど、レイアウトを局所的に調節できます。

ページ余白

ページ余白によって、レイアウト内のページの範囲が決まります。フレームはレイアウトの余白によって設定された境界を越えることはできません。この余白は、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで変更できます。各ページの各辺の余白のサイズを変更できます。

マスターページ

レイアウトの全ページには、マスターページのレイアウト形式が引き継がれます。マスターページを作成したり何らかの変更を加えたりすると、そのマスターページを使用するページに自動で反映されます。最初のページに作曲者名を表示したり、後続のすべてのページの上部の欄外見出しにフロータイトルを表示したりするなど、プロジェクト内のページに情報を表示する場合、ほとんどのケースでは関連するマスターページを編集する方法が最も簡単です。

ヒント

作曲者、台本の作者、フロータイトル、またはプロジェクトタイトルなどの情報を表示する場合、「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログ内のフィールドを参照するトークンを使用することをおすすめします。

フロー見出し

フロー見出しは、最初の組段のすぐ上に各フローの番号とタイトルを自動的に表示します。フロー見出しには固定の垂直位置はなく、楽譜が移動するとそれに追従します。デフォルトのフロー見出しには、フロー番号とフロータイトルを表示するためのトークンが含まれています。新規プロジェクトでは、これは 1. Flow 1 として表示されます。

フロー見出しはレイアウトごとに表示/非表示を切り替えることができます。追加フレームの入力、テキストフレームの内容の変更、既存のテキストおよびグラフィックフレームの編集や移動など、フロー見出しのカスタマイズはフロー見出しエディターで行なえます。個々のフロー見出しを削除または編集すると、ページの形式変更の一種であるページの優先が設定されます。

楽曲フレームの余白

楽曲フレームの上下には余白があります。楽曲フレームの余白は、フレーム内に表示される音符や記譜記号がページに収まるようにするためのものです。たとえば、楽曲フレームに余白がない場合、フレームの一番上の譜表の第5線がフレームの最上部に配置されます。譜表の上に加線を必要とする音符は、ページの最上部より上に配置される場合があります。レイアウトごとにデフォルトの楽曲フレーム余白を変更でき、個々の楽曲フレームの余白は浄書モードでプロパティパネルのプロパティを使用して変更できます。

フレーム制限

フレーム制限は、フレームの端をページの端にロックします。これにより、比率を維持したまま、1つのマスターページを用紙サイズの異なるレイアウトに適用できます。

適切に形式設定されたレイアウトを作成するために、これらのコンセプトと、それらを組み合わせるさまざまなコンテキストで使用方法を理解しておくことをおすすめします。

関連リンク

- [譜表サイズ \(458 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシング \(462 ページ\)](#)
- [配置設定 \(457 ページ\)](#)
- [組段区切り \(471 ページ\)](#)
- [フレーム区切り \(469 ページ\)](#)
- [フレーム制限 \(410 ページ\)](#)
- [マスターページ \(364 ページ\)](#)
- [マスターページエディター \(374 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(386 ページ\)](#)
- [フロー見出しを表示/非表示にする \(451 ページ\)](#)
- [フロー見出しエディター \(386 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(376 ページ\)](#)
- [タチエット \(474 ページ\)](#)
- [レイアウト \(138 ページ\)](#)
- [フロー \(135 ページ\)](#)
- [プレーヤー \(110 ページ\)](#)
- [「プロジェクト情報 \(Project Info\)」 ダイアログ \(104 ページ\)](#)
- [テキストトークン \(401 ページ\)](#)

ページのサイズと向きの変更

ページのサイズと向きをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトには横向きの大きなページを使用し、パートレイアウトには縦向き的小きなページを使用するなどできます。

手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
- ページのサイズや向きを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
- ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
- 「**ページサイズ (Page Size)**」セクションで、「**サイズ (Size)**」メニューからページサイズを選択します。たとえば、「**A3**」や「**Letter**」などの固定ページサイズを選択したり、「**カスタム (Custom)**」を選択して独自のページサイズを定義したりできます。

5. 「**カスタム (Custom)**」を選択した場合は、数値フィールドの値を変更してページの「**幅 (Width)**」と「**高さ (Height)**」を変更します。
 6. 「**向き (Orientation)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **縦 (Portrait)**
 - **横 (Landscape)**
 7. 必要に応じて、ページのサイズおよび向きを変更するその他のレイアウトに対して手順2から6を繰り返します。
 8. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

選択したすべてのレイアウトのページサイズが変更されます。

補足

レイアウトのページサイズを変更しても、印刷モードの印刷オプションパネルでこれらのレイアウトに対して自動的に選択される用紙サイズが変更されない場合があります。たとえば、デフォルトのプリンターではレイアウトに対して選択されたページサイズを印刷できない場合、そのプリンターが対応している最大の用紙サイズが選択されます。同様に、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」でページサイズを変更する前に印刷レイアウトのオプションをすでに設定している場合、Dorico Pro は元の印刷オプションを保持しようとします。

同様に、ページの向きは用紙の向きとは関係ありません。横向きのレイアウトを縦向きの用紙に印刷してしまったり、その逆も起こり得るため、印刷や書き出しの前には、印刷モードの印刷オプションパネルでレイアウトのページの向きに合った用紙の向きが設定されていることを確認することをおすすめします。

関連リンク

[ページサイズと用紙サイズ \(618 ページ\)](#)

[用紙の向き \(618 ページ\)](#)

[用紙のサイズと向きの設定 \(619 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(444 ページ\)](#)

ページ余白の変更

らせん綴じにするプロジェクトでレイアウトの余白を広くしたい場合など、ページ余白をレイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. ページ余白を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**ページ余白 (Page Margins)**」セクションの「**ページ余白 (Page margins)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **共通 (Same)**: 選択したレイアウトのすべてのページに同じ余白を設定します。
 - **個別指定 (Different)**: 選択したレイアウトの左右のページに異なる余白を設定します。
 - **見開き (Mirrored)**: 選択したレイアウトの左右のページに同じ余白の値を使用しますが、ページの内側同士と外側同士が同じ値になります。

5. 必要に応じて、数値フィールドの値を変更して余白を変更します。
 6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトのページ余白が変更されます。固定された制限を持つ選択したレイアウト内のフレームは、必要に応じて自動的に移動またはサイズ変更されます。

関連リンク

[フレーム制限 \(410 ページ\)](#)

デフォルトの譜表サイズの変更

デフォルトの譜表サイズをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは譜表サイズを小さくしつつ、パートレイアウトでは譜表サイズを大きくすることができます。

補足

組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「**絶対値 (Absolute)**」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 譜表サイズを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**線間の高さ (Space Size)**」セクションで、「**5線のサイズ (Rastral size)**」メニューから任意の譜表サイズを選択します。

補足

「**カスタム (Custom)**」を選択した場合、カスタム値は「**線間の高さ (Space size)**」のフィールドに、優先する基準単位で設定できます。

「**5線のサイズ (Rastral size)**」が選択されている場合でも、数値を変更することによって「**カスタム (Custom)**」の値を設定できます。

5. 必要に応じて、他のレイアウトにも手順2から4を繰り返します。
 6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウト全体で譜表サイズが変更されます。

ヒント

レイアウト内の選択した位置から先の譜表サイズを変更することも、個々の譜表のサイズを変更することもできます。

関連リンク

[譜表サイズ \(458 ページ\)](#)

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(694 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[個々の譜表のサイズの変更 \(460 ページ\)](#)

[組段/フレーム区切りからの譜表サイズの変更 \(459 ページ\)](#)

デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する

デフォルトの譜表間や組段間の間隔をレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトではより多くの譜表を配置できるように譜表間の間隔を小さくしたり、パートレイアウトでは演奏者があとで書き込めるように組段間の間隔を大きくしたりできます。

ヒント

- レイアウトの譜表が非常に近い場合は、譜表サイズを小さくすることで良い結果を得られることもあります。
- Dorico Pro は自動的に余ったスペースを組段オブジェクトや強弱記号などのアイテムに振り分けたり、上下の譜表の音符との衝突を解消したりするため、最適間隔は許容範囲内の最小値に設定することをおすすめします。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)」をクリックします。
4. 必要に応じて、「最適間隔 (Ideal Gaps)」セクションでそれぞれの組み合わせの値を変更します。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

譜表間および組段間の組み合わせの最小間隔が変更されます。この設定は、Dorico Pro が譜表/組段の配置に使用できるスペースおよび垂直方向の調整を自動的に行なうフレームの使用率であるかの基準に影響します。

関連リンク

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(462 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

[デフォルトの音符のスペーシングを変更する \(430 ページ\)](#)

譜表/組段の両端揃え (垂直方向) を変更する

Dorico Pro が自動的に譜表間および組段間の垂直方向の調整を行なうフレーム使用率の最小しきい値を変更できます。垂直方向の調整では、フレームの高さに合わせて譜表または組段が等しく配置されます。譜表と組段の垂直方向が調整されるのか、組段のみの垂直方向が調整されるのかを選択することもできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 譜表間/組段間の垂直方向の自動調整の設定を変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)」をクリックします。
4. 「最適間隔 (Ideal Gaps)」セクションの「ディヴィジ譜表が使用する間隔 (Gap to use for divided staves)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 譜表から譜表まで (Staff to staff)
 - 連合譜表から連合譜表 (Braced staff to braced staff)
5. 「両端揃え (垂直方向) (Vertical Justification)」セクションで、以下のオプションのいずれかまたは両方を変更します。
 - 「譜表間および組段間の距離を調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance between staves and systems when frame is at least [n] % full)」
 - 「組段間の距離のみを調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance only between systems when frame is at least [n] % full)」
6. 「単一の段組のフレームがこのしきい値を超えた場合に譜表間の距離を調整する (Justify staves when frame with single system is above this threshold)」をオン/オフにします。
7. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したレイアウトに含まれる譜表間/組段間の垂直方向の自動調整の設定が変更されます。連合譜表には垂直方向の調整が行われません。

例

A musical score for a string quartet (Violin I, Violin II, Viola, Cello/Double Bass) with lyrics. The score is divided into three systems. The spacing between staves within each system and between the systems themselves is adjusted to be wider than the default.

譜表間と組段間の間隔を調整したページ

A musical score for a string quartet, identical to the first example. In this version, only the spacing between the three systems is adjusted to be wider, while the spacing between staves within each system remains the same as the default.

組段間のみを調整した左と同じページ

関連リンク

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(462 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(444 ページ\)](#)

空白の譜表の表示/非表示を切り替える

プロジェクト内の各レイアウトで空白の譜表を個別に表示/非表示にできます。たとえば、指揮者用のフルスコアレイアウトでは空白の譜表を含むすべての譜表を表示し、参照のみに使用するフルスコアレイアウトでは空白の譜表を非表示にできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、空白の譜表を表示/非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」をクリックします。
4. 「**空白の譜表を隠す (Hide Empty Staves)**」セクションで、「**空白の譜表を非表示 (Hide empty staves)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 2 番めの組段から (After first system)
 - すべての組段 (All systems)
 - 常に表示 (Never)
5. 「**複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)**」をオンまたはオフにします。

- 必要に応じて、「**空白の譜表を非表示**」を適用しないプレーヤー (**Players excluded from Hide Empty Staves**) で、「**空白の譜表を非表示 (Hide empty staves)**」の選択に関係なく表示したいインストゥルメントに対応するチェックボックスをオンにします。
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウト内の空白の譜表が、選択に応じて表示/非表示になります。「**複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)**」をオンにすると、ピアノやハーブといった複数の譜表を持つインストゥルメントの単一の空白の譜表を、選択したレイアウトで非表示にできます。

補足

- 余分な譜表が追加されたインストゥルメントは、たとえ空白の譜表があっても「**複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)**」の影響を受けません。
- ディヴィジ作成を含む組段は、たとえ譜表が空白でも表示されます。
- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページにある「**位置 (Position)**」セクションでコード記号を譜表間に表示するよう設定した場合は、複数の譜表を持つインストゥルメントの単一の譜表を非表示にできません。

関連リンク

[追加の譜表 \(1175 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(444 ページ\)](#)

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(462 ページ\)](#)

ページの挿入

たとえば、タイトルページを追加する場合など、空白ページまたは異なるマスターページを使用するページをプロジェクトの各レイアウトに追加できます。

手順

- ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションのアクションバーで、「**ページを挿入 (Insert Pages)**」をクリックして「**ページを挿入 (Insert Pages)**」ダイアログを開きます。



- 「**挿入するページ数 (Number of pages to insert)**」フィールドに、挿入するページの数を入力します。
- ページを挿入する位置を選択します。たとえば、8 ページの後にページを挿入するには、「**ページの後 (After page)**」を選択して「**8**」を入力します。
- 必要に応じて、「**マスターページを使用 (Use master page)**」メニューから、挿入するページに割り当てるマスターページを選択します。
- 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

指定したページ数が選択した位置に挿入されます。挿入したページは、左上角に色付きの三角形がついた状態でページパネルに表示されます。マスターページを割り当てていなければ、挿入したページは空白です。

レイアウト内の後続のページにページの形式変更がある場合は、それに応じて移動します。たとえば、2 ページにフロー見出しの変更が設定されており、レイアウトの始めに 1 ページ挿入した場合、フロー見出しの変更は 3 ページに移動します。

手順終了後の項目

空白ページに情報を追加したい場合は、そのページを編集するか、あるいはプロジェクト内のすべてのパートに使用したいタイトルページ用のマスターページを作成している場合などには、そのページにマスターページを割り当てることもできます。

関連リンク

[ページの形式変更](#) (376 ページ)

[ページへのマスターページの割り当て](#) (381 ページ)

[フレーム](#) (390 ページ)

ページの削除

空白のページやレイアウトに追加した余分なページを削除できます。

レイアウトに割り当てられたフローに合わせて、Dorico Pro は各レイアウトのページ数を自動的に変更します。特定のフローを非表示にするためにページを削除する場合は、レイアウトからフローを削除することをおすすめします。


ページを手動で削除する必要があるのは、空白のページとしてページを挿入した場合と、レイアウトのページに設定したページの優先が必要なくなり現在は空白のページとして表示されている場合のみです。たとえば、レイアウトの最終ページにページの優先が設定されている場合、レイアウトが短くなくても最終ページとそれ以前のページは自動的に削除されません。

手順

1. 楽譜領域で、ページを削除するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、削除するページを **[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。

補足

ページの優先が設定されたページのみ削除できます。

3. すべてのページの優先を解除して、選択したページを削除します。
 - 選択したページのうち左上角に色付きの三角形が表示されているページがある場合は、「**ページ (Pages)**」セクションのアクションバーで「**優先を解除 (Remove Overrides)**」をクリックします。
 - 選択したページのうち右下角に色付きの三角形が表示されているページがある場合は、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を解除 (Remove Page Number Change(s))**」を選択します。
 - 選択したページのうち上辺または上辺と左辺に色付きのマークが表示されているページがある場合は、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**マスターページの変更を解除 (Remove Master Page Change(s))**」を選択します。
 - 選択したページのうち下辺または下辺と右辺に色付きのマークが表示されているページがある場合は、いずれかのページを右クリックして、コンテキストメニューから「**フロー見出しの変更を解除 (Remove Flow Heading Change(s))**」を選択します。

結果

削除するページからページの優先をすべて解除すると、空白のページであれば削除されます。空白のページではない場合は、ページの優先をすべて解除することでデフォルトのマスターページに戻ります。

関連リンク

[ページの形式変更](#) (376 ページ)

[マスターページ](#) (364 ページ)

レイアウトに割り当てられたフローの変更 (140 ページ)

左側のページからレイアウトを始める

奇数ページは常に右側のページに置くという慣習があるため、初期設定ではすべてのレイアウトが右側のページから始まります。ただし、そのレイアウトでページめくりをやすくするために、個々のレイアウトが左側のページから始まるように設定できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 左側のページから開始するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「ページ設定 (Page Setup)」をクリックします。
4. 「ページ番号 (Page Numbers)」セクションで、「開始ページ番号 (Initial page number)」の値を偶数に変更します。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

開始ページ番号を偶数にすると、選択したレイアウトの最初のページが左側のページに表示されます。

同じページに複数のフローを表示する/表示しない

たとえば複数の楽章からなる楽譜で、パートに必要なページ数を減らしたい場合など、スペースがあれば新しいフローを前のフローと同じページに表示させるかどうかを設定できます。初期設定では、パートレイアウトでは同じページに新しいフローが表示されますが、フルスコアレイアウトでは表示されません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 各ページに複数のフローを表示させるレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「ページ設定 (Page Setup)」をクリックします。
4. 「フロー (Flows)」セクションの「新規フロー (New flows)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 常に新規ページに作成 (Always start new page)
 - 既存ページ上での作成を許可 (Allow on existing page)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

「常に新規ページに作成 (Always start new page)」を選択すると、選択したレイアウトのフローが、常に前のフローの終了位置のあとの次のページの開始位置から始まります。

「既存ページ上での作成を許可 (Allow on existing page)」を選択すると、選択したレイアウトのフローが、前のフローのすぐあとに続けて表示されます。十分なスペースがある場合は、同じ楽曲フレーム内に表示されます。選択したレイアウトにフロー見出しを表示するように選択している場合は、フローの開始位置の上にフロー見出しが自動的に表示されます。

補足

フローが自動的に別の楽曲フレームに分割されることはありません。フローを別の楽曲フレームに分割するには、フレーム区切りを手動で挿入する必要があります。

関連リンク

[テキストトークン \(401 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(390 ページ\)](#)

[配置設定 \(457 ページ\)](#)

[レイアウトに割り当てられたフローの変更 \(140 ページ\)](#)

[フローに割り当てられたプレーヤーの変更 \(137 ページ\)](#)

[フロー見出しの上の欄外見出しの情報の表示/非表示を切り替える \(453 ページ\)](#)

「最初 (First)」のマスターページをいつ使用するかの変更

「最初 (First)」のマスターページをいつ使用するかをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトではすべてのフローの最初に使用し、パートレイアウトではたとえ後続のフローがページの一番上で始まっていても最初のフローにのみ使用する場合などに便利です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストで、「最初 (First)」のマスターページをいつ使用するかを変更するレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「ページ設定 (Page Setup)」をクリックします。
4. 「フロー (Flows)」セクションで、「最初」のマスターページを使用 (Use 'First' master page) に以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 常に表示 (Never)
 - 最初のフローのみ (First flow only)
 - ページの一番上で開始するフローすべて (Any flow starting at top of page)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

- 「常になし (Never)」を選択した場合、「最初 (First)」のマスターページは選択したレイアウト内のどのページにも使用されません。
- 「最初のフローのみ (First flow only)」を選択した場合、「最初 (First)」のマスターページはレイアウト内の最初のページに使用され、たとえ後続のフローがページの一番上で始まっていても他のページには使用されません。
- 「ページの一番上で開始するフローすべて (Any flow starting at top of page)」を選択すると、「最初 (First)」のマスターページはフローが一番上で始まるレイアウト内のすべてのページに使用されます。

関連リンク

[「レイアウトオプション」ダイアログ \(106 ページ\)](#)

フロー見出しを表示/非表示にする

たとえばプロジェクトにフローが1つだけ含まれており、プロジェクトタイトルだけを表示したい場合などに、各レイアウトのフロー見出しを個別に表示/非表示にできます。また、最初のフローの見出しを非表示にして、後続のフローのフロー見出しを表示することもできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、フロー見出しを表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**フロー (Flows)**」セクションで、「**フロー見出しを表示 (Show flow headings)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **常に表示 (Never)**
 - **最初のフロー以外 (Not for first flow)**
 - **すべてのフロー (For all flows)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**すべてのフロー (For all flows)**」を選択すると、選択したレイアウトの各フローの最初の組段の上にフロー見出しが表示されます。「**常になし (Never)**」を選択するとフロー見出しが非表示になります。「**最初のフロー以外 (Not for first flow)**」を選択すると、最初のフローの最初の組段の上のフロー見出しは非表示になりますが、その他のすべてのフローの上には表示されます。

フロー見出しは、各レイアウトに設定された余白に応じて、各フローと1つ前のフローとの間に自動的に配置されます。

関連リンク

[フロー見出し \(386 ページ\)](#)

[フロー見出しのカスタマイズ \(387 ページ\)](#)

[同じページに複数のフローを表示する/表示しない \(449 ページ\)](#)

フロー見出しの上下の余白を変更する

フロー見出しの上下の余白を変更して、1つ前のフローとフロー見出しとの間の間隔およびフロー見出しと次のフローの開始位置との間隔を制御できます。

前提条件

フロー見出しの上下の余白を変更するレイアウトにフロー見出しを表示しておきます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。

2. 「レイアウト (Layouts)」 リストで、フロー見出しの上下の余白を変更するレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「ページ設定 (Page Setup)」 をクリックします。
4. 「フロー (Flows)」 セクションで、「フロー見出しの上側余白 (Flow heading top margin)」 または 「フロー見出しの下側余白 (Flow heading bottom margin)」 あるいはその両方の値を変更します。
5. 「適用 (Apply)」 をクリックしてから 「閉じる (Close)」 をクリックします。

結果

「フロー見出しの上側余白 (Flow heading top margin)」 の値を変更すると、フロー見出しの上部と 1 つ前のフローの終了位置との間の間隔が増減します。

「フロー見出しの下側余白 (Flow heading bottom margin)」 の値を変更すると、フロー見出しの下部と次のフローの開始位置との間の間隔が増減します。たとえば、下側余白を「0」に設定した場合、フロー見出しの一番下のフレームの下部が、フロー見出しの下にあるフローの最初の組段の第 5 線に重なります。

補足

- 個々のフロー見出しの上下の余白を変更するには、フロー見出しの変更を挿入し、その位置で余白を変更します。
- 個々のフロー見出しを上下に移動するには、フロー見出しを適用するフローの最初の組段の組段ハンドルを動かします。フロー見出しのフレームを個別に移動することもできますが、そうするとページの優先が設定されるため、あとでマスターページの形式を変更した場合などにページが更新されなくなります。

例



The image shows a musical score with two staves. The top staff is a piano accompaniment with chords and a dynamic marking of *ff*. The bottom staff is a vocal line with a melodic line and a dynamic marking of *p*. A green box highlights the section between the two staves, labeled "2. Andante maestoso". The flow heading "2. Andante maestoso" is positioned between the two staves with a significant amount of white space (margin) above and below it.

上下の余白がデフォルトのフロー見出し



The image shows the same musical score as the previous example. The green box highlights the section between the two staves, labeled "2. Andante maestoso". The flow heading "2. Andante maestoso" is positioned between the two staves with significantly reduced white space (margin) above and below it, making it appear more compact.

上下の余白を減らしたフロー見出し

関連リンク

- [フロー見出し \(386 ページ\)](#)
- [フロー見出しのカスタマイズ \(387 ページ\)](#)
- [フロー見出しの変更の挿入 \(383 ページ\)](#)
- [個々の譜表/組段の垂直方向の移動 \(464 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(376 ページ\)](#)

フロー見出しの上の欄外見出しの情報の表示/非表示を切り替える

新規ページのフロー見出しの上にフロータイトル、ページ番号、フローページ番号が表示された場合、レイアウトごとにこれらの表示/非表示を個別に切り替えられます。印刷される楽譜では、欄外見出しの情報を非表示にすることが一般的です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、フロー見出しの上の欄外見出しの情報を表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**フロー (Flows)**」セクションの「**ヘッダーのフロータイトル (Flow title in header)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - フロー見出しの上に表示 (Show above flow heading)
 - フロー見出しの上では非表示 (Hide above flow heading)
5. 「**ヘッダーのページ番号 (Page number in header)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - フロー見出しの上に表示 (Show above flow heading)
 - フロー見出しの上では非表示 (Hide above flow heading)
6. 「**ヘッダーのフローページ番号 (Flow page number in header)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - フロー見出しの上に表示 (Show above flow heading)
 - フロー見出しの上では非表示 (Hide above flow heading)
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

対応する情報がページ上部のフロー見出しの上に表示される際の、表示または非表示が切り替わります。

補足

欄外見出しの情報を非表示にするには、フロー見出しのフレームを含む楽曲フレームの上部が対応する情報を含んだテキストフレームの上部よりも低い位置に配置される必要があります。楽曲フレームの上部が欄外見出しのテキストフレームと同じ高さに配置されている場合、設定に関係なく、テキストフレーム内の情報は表示されます。

関連リンク

[フレーム \(390 ページ\)](#)

[マスターページ \(364 ページ\)](#)

[マスターページの欄外見出しを編集する \(836 ページ\)](#)

デフォルトの楽曲フレームの余白を変更する

すべての楽曲フレームのデフォルトの余白をレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、譜表の上にとくさんの音符があるパートレイアウトで楽曲フレームの上部の余白を広げたい場合などに便利です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 楽曲フレームの余白を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**楽曲フレームの余白 (Music Frame Margins)**」セクションで、「**上 (Top)**」または「**下 (Bottom)**」あるいはその両方の値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトのすべての楽曲フレームの余白が変更されます。

関連リンク

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(444 ページ\)](#)

楽曲フレームの余白を個別に変更する

個々の楽曲フレームの上部/下部の余白を、レイアウトの楽曲フレームの余白の設定とは別に変更できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**フレーム (Frames)**」を選択しておきます。

手順

1. 余白を変更する楽曲フレームを選択します。
2. プロパティパネルの「**楽譜 (Music)**」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
 - **上余白 (Top padding)**
 - **下余白 (Bottom padding)**
3. 数値フィールドの値を変更して余白を変更します。
たとえば、「**上余白 (Top padding)**」に「**0**」を入力すると、フレーム内の1番上の譜表の第5線と楽曲フレームの上部が重なります。

結果

選択した楽曲フレームの上部/下部の余白が変更されます。これは、楽譜領域で現在開いているレイアウトにのみ適用されます。

プロパティをオフにすると、選択した楽曲フレームが、レイアウトの楽曲フレームの余白の設定に戻ります。

最後の組段の両端揃え (水平方向) の変更

フローの最後の組段を常にフレームの幅全体に広げるか、特定のフレーム使用率のしきい値を超えた場合にのみそうするかをレイアウトごとに個別に変更できます。Dorico Pro の初期設定では、フローの最後の組段は、フレームの幅全体に占める割合が 50% を超えた場合のみ両端揃えが適用されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. フローの最後の組段の両端揃えを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をクリックします。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、フローの最後の組段の両端揃えを変更します。
 - 常にフローの最後の組段を両端揃えにするには、「**フローの最後の組段に両端揃えを適用 [n] % 以上の場合 (Only justify final system in flow when more than [n] % full)**」をオフにします。
 - 最後の組段が全体の何 % を超えたら両端揃えを適用するかを変更するには、「**フローの最後の組段に両端揃えを適用 [n] % 以上の場合 (Only justify final system in flow when more than [n] % full)**」の値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトのフローの最後の組段の自動両端揃えが変更されます。

ヒント

組段の開始位置/終了位置を変更することで、デフォルト設定とは別に、個々の組段の幅を変更することもできます。

関連リンク

[組段の開始位置/終了位置の変更 \(438 ページ\)](#)

[最初の組段のインデントの変更 \(1191 ページ\)](#)

[組段あたりの小節数を固定 \(457 ページ\)](#)

コンデンシングの有効化/無効化

コンデンシングをレイアウトごとに個別に有効または無効にできます。たとえば、大規模なオーケストラや合唱の楽譜を作成する際、フルスコアにはコンデンシングされた声楽の譜表を表示し、カスタムボーカルスコアにはコンデンシングされていない声楽の譜表を表示できます。

重要

プロジェクト内のいずれかのレイアウトでコンデンシングを有効にすると、多くの計算が必要になるため、Dorico Pro の動作が遅くなることがあります。そのため、音符や記譜記号の入力、あるいはフローの追加など、必要な作業の大半を終わらせてからコンデンシングを有効にすることをおすすめします。

前提条件

各インストゥルメントの音符と記譜記号を個別の譜表に入力しておきます。複数のパートの楽譜を同じ譜表に入力している場合は、楽譜をエクスポートできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、コンデンシングを有効または無効にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**コンデンシング (Condensing)**」セクションで、「**コンデンシングを有効にする (Enable condensing)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトのチェックボックスがオンになっているときはコンデンシングが有効になり、オフになっているときは無効になります。

補足

- 記譜モードでは、コンデンシングされた譜表では何も選択できません。浄書モードでは、コンデンシングされた譜表上の音符やアイテムを選択できますが、編集できるのは表示上の要素のみです。
- たとえば間隔の小さい音符の幅に合わせる必要があるなど、コンデンシングされた楽譜に必要なスペーシングは、多くの場合、コンデンシングされていない楽譜とは異なります。そのため、コンデンシングを有効にするとレイアウト内の配置設定が変化することがあります。
- コンデンシングはギャラリービューでは有効になりません。現在のレイアウトでコンデンシングを無効にすることなくすべての譜表を別々に表示するには、ギャラリービューに切り替えます。
- 「**編集 (Edit)**」 > 「**コンデンシング (Condensing)**」を選択して現在のレイアウトのコンデンシングを有効または無効にすることもできます。「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、このコマンドにキーボードショートカットを割り当てることもできます。

手順終了後の項目

- レイアウトごとにカスタムコンデンシンググループを作成し、まとめてコンデンシングする譜表を制御できます。また、コンデンシンググループを個別に含めたり除外したりすることもできます。
- コンデンシング結果をより詳細に制御したい場合は、選択したい位置から先のコンデンシングを手動で変更できます。

関連リンク

[コンデンシング \(477 ページ\)](#)

[カスタムコンデンシンググループの作成 \(485 ページ\)](#)

[コンデンシンググループを含める/除外する \(486 ページ\)](#)

[任意の位置からコンデンシングオプションを変更する \(487 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(62 ページ\)](#)

[ギャラリービューまたはページビューへの切り替え \(59 ページ\)](#)

[音符の入力 \(171 ページ\)](#)

[記譜記号の入力 \(214 ページ\)](#)

[複数の譜表への楽譜のエクスプロード \(343 ページ\)](#)

[複数の譜表に音符と記譜記号を入力する \(186 ページ\)](#)

配置設定

配置設定とは、ページあたりの組段数の設定など、楽譜のページレイアウトの固定を示す言葉です。Dorico Pro では、組段あたりの小節数と楽曲フレームあたりの組段数の両方をレイアウトごとに個別に固定できます。

関連リンク

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(462 ページ\)](#)

[長休符の分割 \(1130 ページ\)](#)

組段あたりの小節数を固定

プロジェクト内の各レイアウトの各組段に含める固定の小節数を定義できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、組段あたりの小節数を固定するレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**配置設定 (Casting Off)**」セクションで、「**組段あたりの小節数を固定 (Fixed number of bars per system)**」をオンにします。
5. 数値フィールドの値を変更して、各組段に固定する小節数を変更します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトの各組段に自動的に配置される小節数が変更されます。いずれかのレイアウトに 2 小節リピート領域または 4 小節リピート領域が含まれている場合、自動的に配置が調整され、フレーズが組段をまたいで分割されるのを防ぎます。

関連リンク

[小節リピート記号 \(1099 ページ\)](#)

[組段区切りの挿入 \(472 ページ\)](#)

[フレーム区切りの挿入 \(470 ページ\)](#)

[最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(455 ページ\)](#)

フレームあたりの組段数の固定

プロジェクト内の各レイアウトの各楽曲フレームに含める固定の組段数を定義できます。デフォルトのマスターページには、1 ページあたり 1 つの楽譜が含まれているため、通常はフレームあたりの組段数を固定するとページあたりの組段数も固定されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、フレームあたりの組段数を固定するレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイ

ウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
 4. 「**配置設定 (Casting Off)**」セクションで、「**フレームあたりの組段数を固定 (Fixed number of systems per frame)**」をオンにします。
 5. 数値フィールドの値を変更して、各フレームに固定する組段数を変更します。
 6. 「**フレームの高さに合わせて組段の数を増減する (Scale number of systems by frame height)**」をオン/オフにします。
 7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトの各楽曲フレームに自動的に配置される組段数が変更されます。

「**フレームの高さに合わせて組段の数を増減する (Scale number of systems by frame height)**」をオンにすると、各フレームに含まれる組段数が楽曲フレームのサイズに応じて調整されます。

譜表サイズ

譜表サイズとは、譜表の一番上の線から一番下の線までの距離を意味し、ポイントか、あるいはミリメートルなどのサポートされている別の基準単位で表現されます。個々の譜表については、レイアウトのデフォルトの譜表サイズに対する倍率によるサイズを使用できます。最適な譜表サイズはレイアウトの用途により異なります。

たとえば、個々のパートレイアウトは演奏者が読みやすいように音符を十分大きく表示しなければなりません。非常に密度の高いフルオーケストラのスコアでは譜表サイズを小さくする必要があります。密度の高いスコアで譜表サイズが大きすぎる場合、譜表が重なり合っただけで楽譜が読めないものになってしまう。

Dorico Pro では、譜表サイズの設定には、五線のサイズと線間の高さのうち、選択中のレイアウトに適切な方を使用できます。

- 五線のサイズとは、譜表の一番下の線から一番上の線までの全体のサイズです。
- 線間の高さとは、譜表線 2 本の間の距離です。

「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で各レイアウトの譜表サイズを変更するとき、プリセットの五線のサイズからいずれか 1 つを使用することをおすすめします。これらは伝統的で一般的とされ、楽譜の浄書において広く使用されている譜表サイズに基づいているからです。

補足

譜表のサイズは組段オブジェクトのサイズにも影響を与える場合があります。

関連リンク

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[優先する基準単位の変更 \(61 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表サイズの変更 \(443 ページ\)](#)

組段/フレーム区切りからの譜表サイズの変更

レイアウト内の組段/フレーム区切りの位置から先のすべての譜表の譜表サイズを変更できます。たとえば、譜表が多いページだけ小さな譜表を使用し、他の譜表が少ないページでは大きな譜表を使用するなどできます。

補足

組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サイズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「**絶対値 (Absolute)**」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

前提条件

- 譜表サイズの変更を開始する位置に、組段/フレーム区切りを挿入しておきます。
 - 組段/フレーム区切りの位置にはガイドが表示されます。
-

手順

1. 浄書モードで、譜表サイズの変更を開始する位置の組段/フレーム区切りのガイドを選択します。
 2. プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループで、「**線間の高さ (Space size)**」をオンにします。
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

次の譜表サイズ変更がある位置かフローの終了位置のいずれか早い方まで、レイアウト内のすべての譜表の譜表サイズが変更されます。「**線間の高さ (Space size)**」を大きくすると譜表サイズが大きくなります。値を小さくすると、譜表サイズが小さくなります。

初期設定では、プロジェクトの次のフローでは現在のレイアウトにおけるプロジェクト全体の譜表サイズが使用されます。

関連リンク

- [デフォルトの譜表サイズの変更 \(443 ページ\)](#)
- [組段区切りの挿入 \(472 ページ\)](#)
- [フレーム区切りの挿入 \(470 ページ\)](#)
- [組段区切りガイドの表示/非表示の切り替え \(473 ページ\)](#)
- [フレーム区切りガイドの表示/非表示 \(471 ページ\)](#)
- [「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)
- [大括弧と中括弧 \(694 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

個々の譜表のサイズの変更

各フローの個々の譜表のサイズは、他の譜表やレイアウトの設定から独立した形で変更できます。たとえばピアノの伴奏パートには、ピアノが伴奏を行なうインストゥルメントのソロラインが小さな譜表で表示されることがよくあります。



ピアノパートの上に小さくヴィオラの譜表が付いた例

個々の譜表のサイズは、レイアウトの標準の譜表サイズに対する割合で表現される一定の縮尺サイズ、またはカスタム尺度に変更できます。

ヒント

パッセージの代替バージョンを表現するために譜表サイズを変更する場合は、この機能のかわりに、特定の領域に表示できるオシリア譜表を追加します。

手順

1. サイズを変更する譜表からアイテムを1つ選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

譜表のサイズは一度に1つずつしか変更できません。

2. 「編集 (Edit)」 > 「譜表サイズ (Staff Size)」 > [譜表サイズ] を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」を選択した場合、それに応じて開く「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログを使用して譜表サイズを設定する必要があります。

結果

現在のフローの選択した譜表のサイズが変更されます。これは、レイアウト内すべての譜表サイズ変更や、特定のポイントからの譜表サイズ変更など、他の譜表サイズ変更の方法と組み合わせても使用できます。

補足

- 個々の譜表の譜表サイズを変更すると、そのプレーヤーに含まれるすべてのインストゥルメントの譜表サイズが変更されます。
- 個々の譜表の譜表サイズを変更すると、フロー全体にわたるサイズが変更されます。
- 組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「譜表との相対値 (Staff-relative)」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サ

イズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「絶対値 (Absolute)」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

関連リンク

[組段/フレーム区切りからの譜表サイズの変更 \(459 ページ\)](#)

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(694 ページ\)](#)

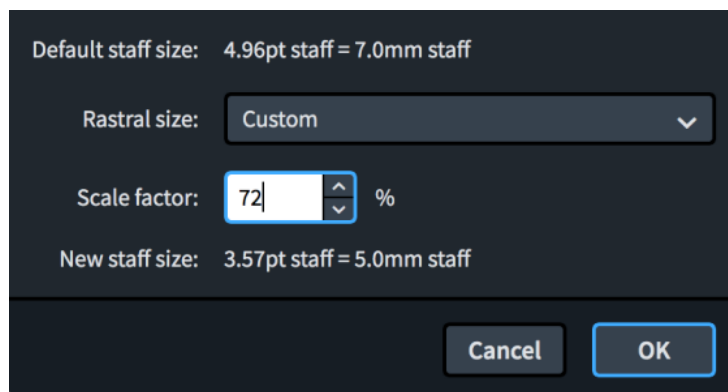
[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[オssia譜表の追加 \(1180 ページ\)](#)

「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログ

「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログでは、個々の譜表のサイズをカスタムの倍率で変更できます。

- 「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログを開くには、楽譜領域でアイテムを 1 つ選択して「編集 (Edit)」 > 「譜表サイズ (Staff Size)」 > 「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」を選択します。



「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」ダイアログ

「カスタムの譜表サイズ (Custom Staff Size)」のダイアログには以下のオプションがあります。

デフォルトの譜表サイズ (Default staff size)

現在のレイアウトの譜表のデフォルトのサイズを表示します。このサイズは、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定されます。

デフォルトの譜表サイズは、ポイントと優先する基準単位の両方で表現されます。

5 線のサイズ (Rastral size)

カスタムの譜表サイズの基礎となる 5 線のサイズを選択できます。

倍率

選択した 5 線のサイズに対する割合でカスタムの譜表サイズを設定します。

新規の譜表サイズ

ダイアログで行なった変更の結果として得られた、選択した譜表の新規の譜表サイズを表示します。

新規の譜表サイズは、ポイントと優先する基準単位の両方で表現されます。

関連リンク

[優先する基準単位の変更 \(61 ページ\)](#)

譜表のスペーシング

フレーム内の譜表や組段の垂直位置は、譜表のスペーシングと呼ばれます。譜表のスペーシングの計算には、譜表の高さおよび譜表と組段との間に必要な間隔が考慮されます。

プロジェクトの譜表のスペーシングをさまざまなレベルで変更できます。

- 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」で、各レイアウトのデフォルトの譜表のスペーシングを変更します。
- 個々の譜表間の譜表のスペーシングを変更します。

ヒント

Dorico Pro では、ほとんどの場合、個々の譜表を移動しなくても適切な結果が得られるため、個々の譜表を移動する前に、デフォルトの譜表のスペーシングの値を調整したり、レイアウト内の譜表サイズを変更したりすることをおすすめします。

関連リンク

[譜表サイズ \(458 ページ\)](#)

[譜表 \(1173 ページ\)](#)

[浄書ツールボックス \(354 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(444 ページ\)](#)

[ギャラリービューでの譜表のスペーシングを変更する \(464 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表サイズの変更 \(443 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション

Dorico Pro には、デフォルトの垂直方向のスペーシングと譜表の両端揃えをレイアウトごとでコントロールできるオプションが複数備わっています。

- レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプションを開くには、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を選択し、ページリストで「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」をクリックします。

「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」ページには、以下のセクションとオプションが含まれます。

最適間隔 (Ideal Gaps)

譜表や組段などの複数の組み合わせが含まれており、組み合わせごとに使用する間隔を設定できます。Dorico Pro のギャラリービューでは譜表とアイテムの衝突を自動的に解消しないため、ギャラリービューでの譜表間隔のデフォルトの拡大率も設定できます。オプションと一緒に表示される図は、オプションが適用される組み合わせを示します。

Dorico Pro は、設定された最適間隔よりも譜表間の間隔を狭めないため、許容範囲内の最小値に設定することをおすすめします。設定値が小さければ小さいほど、Dorico Pro が譜表のスペーシングを決定する際に柔軟に対応できます。これはたとえば、強弱記号が含まれている譜表間の間隔をより広く取るために、強弱記号が含まれていない譜表間の間隔を狭める場合など、内容の多いフレームで特に役立ちます。また、オプションの設定時にプロジェクト全体を考慮できるため、垂直方向のスペーシングの設定は音符やアイテムの入力後がおすすめです。

譜表や組段の組み合わせによっては、異なる方法で垂直方向の調整が行なわれます。

- 「**譜表から譜表まで (Staff to staff)**」、「**譜表グループから譜表まで Staff group to staff**」、「**譜表から譜表グループ (Staff to staff group)**」、「**譜表グループから譜表グループ (Staff group to staff group)**」、「**組段内の間隔 (Inter-system gap)**」、「**タイムコード譜表から譜表まで (Timecode staff to staff)**」

これらの組み合わせの間隔は、垂直方向の調整が行なわれるフレーム内では適用されません。

- 「**連合譜表から連合譜表 (Braced staff to braced staff)**」、「**オssia譜表から譜表まで (Ossia staff to staff)**」
連合譜表とオssia譜表は垂直に揃えられないため、垂直方向の調整が行なわれるフレーム内でも間隔が常に適用されます。追加の譜表も含まれます。

補足

- 「**譜表から譜表まで (Staff to staff)**」の間隔を使用している場合、ディヴィジ譜表は垂直に揃えられます。「**連合譜表から連合譜表 (Braced staff to braced staff)**」の間隔を使用している場合、各ディヴィジセクションの譜表は連合譜表に設定された間隔のみを使用し、垂直には揃えられません。
- レイアウトの譜表が非常に近い場合は、譜表サイズを小さくすることで良い結果を得られることもあります。
- レイアウトの各フレームに含めることのできる組段数を決定する際には、譜表の高さ、譜表間の最小間隔、位置が極端に高い/低い音符と譜表の最大距離、ペダル線やテンポ記号といった垂直方向のスペースを必要とするその他のアイテムなどが反映されます。ただし、この計算は垂直方向のスペーシングが決定する前に実行されるため、最終的には最適な数よりも多いまたは少ない組段数がフレームに割り当てられる場合があります。このような場合、固定の配置設定と組段/フレーム区切りを使用してフレーム内に表示される組段を変更できます。

最小値 (Minimum Gaps)

アイテムを伴う譜表の最小間隔に関するオプションが含まれます。

- 「**隣り合う譜表と組段の衝突を自動的に解消する (Automatically resolve collisions between adjacent staves and systems)**」: このオプションがオンの場合は、Dorico Pro が譜表と組段の間にスペースを追加することで衝突を自動的に解消します。オフの場合は、垂直方向のスペーシングで設定した間隔のみが使用されるため譜表や組段は等しく配置されますが、アイテムの衝突が起こる可能性があります。
- 「**内容を伴う譜表間の最小間隔 (Minimum inter-staff gap with content)**」: アイテムが含まれる譜表間で使用可能にするスペースを設定できます。
- 「**内容を伴う組段間の最小間隔 (Minimum inter-system gap with content)**」: アイテムが含まれる組段間で使用可能にするスペースを設定できます。

両端揃え (垂直方向)

譜表または組段において、自動的に垂直方向の調整が行なわれるフレーム使用率のしきい値の上限を設定するオプションが含まれます。

- 「**譜表間および組段間の距離を調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance between staves and systems when frame is at least [n]% full)**」: フレームの使用率がこのしきい値を超えた場合、フレームに含まれるすべての譜表と組段が自動的に垂直方向に調整され、フレームの高さに合わせて等しく配置されます。フレームの使用率がこのしきい値より低い場合は、自動的に調整されず、譜表は最適間隔の設定に従います。これにより、一番下の譜表/組段とフレームの下部との間に間隔が空く場合があります。
- 「**組段間の距離のみを調整する [n] % 以上のフレーム使用率の場合 (Justify distance only between systems when frame is at least [n]% full)**」: フレームの使用率がこのしきい値を超えた場合、フレームに含まれる組段間の距離のみが調整されます。譜表はレイアウトごとの最適間隔の設定に従います。これにより、非常に混み合ったページでも組段間に十分な距離が保たれます。
- 「**単一の段組のフレームがこのしきい値を超えた場合に譜表間の距離を調整する (Justify staves when frame with single system is above this threshold)**」: このオプションがオンの場合、単一の組段に含まれる譜表において、設定したしきい値よりを超えるすべての譜表が垂直方向に調整され、フレームの高さに合わせて等しく配置されます。

空白の譜表を隠す (Hide Empty Staves)

レイアウト内の空白の譜表のうち、どの譜表をどこから非表示にするかを設定するオプションが含まれます。

- 「空白の譜表を非表示 (Hide empty staves)」: 空白の譜表をどこから非表示にするかを選択できます。たとえば、一般的には最初の組段では空白の譜表を含むすべての譜表を表示しますが、これは必ずしも必須ではありません。
- 「複数の譜表を持つインストゥルメントの個々の譜表を非表示にする (Allow individual staves of multi-staff instruments to be hidden)」: 複数の譜表を持つインストゥルメントに含まれる個々の空白の譜表を非表示にするか、複数の譜表を持つインストゥルメントのすべての譜表を常に表示するかを選択できます。
- 「「空白の譜表を非表示」を適用しないプレイヤー (Players excluded from Hide Empty Staves)」: プレイヤーに非表示になるはずの空白の譜表が組段に含まれている場合でも、すべての譜表を常に表示する特定のプレイヤーを選択できます。

関連リンク

[ページ形式設定 \(440 ページ\)](#)

[配置設定 \(457 ページ\)](#)

[譜表サイズ \(458 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(694 ページ\)](#)

[譜表 \(1173 ページ\)](#)

[オssia譜表 \(1179 ページ\)](#)

[タブ譜 \(1205 ページ\)](#)

[譜表/組段の両端揃え \(垂直方向\) を変更する \(444 ページ\)](#)

[マーカーの垂直位置の変更 \(1074 ページ\)](#)

[タイムコードの垂直位置を変更する \(1080 ページ\)](#)

ギャラリービューでの譜表のスペーシングを変更する

設定された最適間隔の拡大率として表示された、ギャラリービューでのレイアウトごとの譜表間の垂直方向の間隔を変更できます。Dorico Pro はギャラリービューではアイテムの衝突を自動的に解消しないため、非常に高い/低い音符が含まれるレイアウトの譜表間の間隔を広げるのは効果的です。

手順

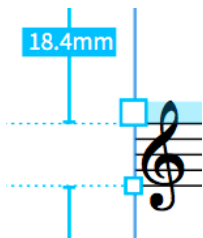
1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
 2. ギャラリービューでの譜表間のスペーシングを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
 3. ページリストの「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」をクリックします。
 4. 「**最適間隔 (Ideal Gaps)**」セクションで「**ギャラリービューでの譜表間隔の拡大率 (In galley view, expand ideal staff gaps to)**」の値を変更します。
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

個々の譜表/組段の垂直方向の移動

個々の譜表と組段の垂直方向の位置をプロジェクト全体の設定とは別に動かすことで、Ossia譜表を含む個々の譜表のスペーシングを変更できます。

浄書ツールボックスの「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにすると、以下が表示されます。

- 組段のスペーシングのハンドル: 各組段の一番上の譜表の左上角に表示される大きな四角形のハンドル。組段のスペーシングのハンドルは、組段全体の垂直方向の位置を制御します。
- 譜表のスペーシングのハンドル: 各譜表の左下角に表示される小さな四角形の譜表ハンドル。譜表のスペーシングのハンドルは、個々の譜表の垂直方向の位置を制御します。
- 間隔の寸法: 譜表と組段の間の距離を示すラインと強調表示された数字が、優先する基準単位を使用して表示されます。



浄書モードで「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにしたときの組段のスペーシングのハンドル、譜表のスペーシングのハンドル、間隔の寸法

重要

譜表を個別に動かす前に、別のページを追加してページの配置を完成させることをおすすめします。なぜなら、個別の譜表のスペーシング変更があるフレームが変更されると、譜表のスペーシングの変更は自動的に削除されるからです。たとえば、譜表を個別に移動したあとにレイアウトの最初に空白のページを追加すると、レイアウト内の個別の譜表のスペーシングの変更はすべて削除されます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにします。



2. 垂直方向に移動する譜表/組段の以下のいずれかを選択します。

- 譜表のスペーシングのハンドル



- 組段のスペーシングのハンドル



補足

- 選択している譜表または組段のスペーシングのハンドルを、**[Tab]** を押して切り替えることができます。
 - マウスを使用する場合、一度に移動できる譜表/組段は1つだけです。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した譜表/組段を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 譜表/組段のスペーシングのハンドルをクリックして上下にドラッグします。

結果

選択した譜表/組段の垂直方向の位置が変更されます。ハンドルを移動したことが分かるようにハンドルの色が変わります。組段ハンドルを動かすと、組段上部の強調表示された細長い部分と四角いハンドルの色が変わります。

補足

- 「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにすると、譜表または組段のスペーシングのハンドル以外は選択したり編集したりできません。通常の実行や編集を再開するには、浄書ツールボックスの「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」をクリックするか記譜モードに戻ります。
- 間隔の寸法の数字をクリックすることで値と単位 (ポイント、ミリメートル、センチメートル、インチ) を変更することもできます。

Dorico Pro で優先的に使用される基準単位は、「**環境設定 (Preferences)**」の「**全般 (General)**」ページで変更できます。

例



デフォルトの位置にある譜表のスペーシングのハンドルの例

2 番目の譜表を上を移動後の例

手順終了後の項目

個々のページの譜表のスペーシングに対して行なった手動の変更を、レイアウト内の別のページにコピーできます。

関連リンク

- [複数の組段を同時に移動する \(467 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシングの変更を別のページにコピーする \(468 ページ\)](#)
- [優先する基準単位の変更 \(61 ページ\)](#)

フレーム密度表示

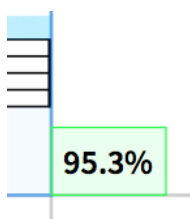
フレーム密度表示は、「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」が有効なとき、フレームの右下角に表示されるハイライトがかかった領域です。フレーム密度表示は、色とパーセンテージでフレームの密度を示します。ほとんどの場合、フレームはページ全体を表わします。

フレーム密度表示には、以下の色が使われます。

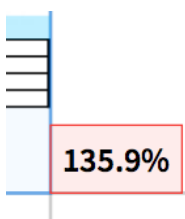
- 緑: フレームの密度が適切。譜表と組段には判読に十分な垂直方向のスペースがあり、離れ過ぎていません。高さ全体に占める割合が 60 ~ 100% のフレームは密度が適切であると見なされます。
- 赤: フレームの密度が高い。譜表と組段の間に十分な水平方向のスペースがなく、詰まり過ぎている可能性があります。高さ全体に占める割合が 100% 超のフレームは密度が高いと見なされます。

フレームの密度はパーセンテージでも表示されます。表示されるパーセンテージは、フレーム内で使用されているスペースの数を、フレーム内で使用できるスペースの総数で割って計算されます。スペースの総数は、楽曲フレームの上部と下部の余白の間の垂直距離を使用して測定されます。

フレームの密度が適切



フレームの密度が高い



関連リンク

- [浄書ツールボックス \(354 ページ\)](#)
- [レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(462 ページ\)](#)
- [デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(444 ページ\)](#)
- [組段密度表示 \(436 ページ\)](#)
- [デフォルトの楽曲フレームの余白を変更する \(454 ページ\)](#)

譜表のスペーシングの変更を個別に削除する

譜表/組段のスペーシングに対して行なった変更を削除し、譜表/組段のスペーシングのハンドルを元のデフォルトの位置にリセットできます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにします。



2. 元の位置にリセットする譜表/組段のハンドルを選択します。
3. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択した譜表/組段のハンドルが元の位置にリセットされます。

ヒント

また、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」メニューからいずれかのオプションを選択すると、選択した組段またはフレーム内のすべての譜表のスペーシングの変更、あるいはレイアウト内のすべての譜表のスペーシングの変更をリセットすることもできます。

複数の組段を同時に移動する

組段同士の間隔を均等に保ったまま複数の組段を同時に移動できます。これは折りたたみ式ドラッグとも呼ばれます。

重要

譜表を個別に動かす前に、別のページを追加してページの配置を完成させることをおすすめします。個別の譜表のスペーシング変更があるフレームが変更されると、譜表のスペーシングの変更は自動的に削除されます。

補足

- この方法は複数の組段を近づける場合のみ使用でき、組段同士を離すことはできません。
- これらの手順はタッチット上の譜表のスペーシングのハンドルには使用できません。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」をオンにします。



2. 移動する一番上の組段の組段ハンドルを選択します。



3. **[Alt/Opt]** を押しながら組段ハンドルをクリックして下にドラッグします。

結果

選択した組段から楽曲フレームの一番下までのすべての組段と一緒に移動します。組段同士の間隔は均等なままです。

関連リンク

[譜表のスペーシング \(462 ページ\)](#)

[タチェット \(474 ページ\)](#)

譜表のスペーシングの変更を別のページにコピーする

個々のページで行なった手動による譜表のスペーシングの変更を、レイアウト内の別のページにコピーできます。

補足

譜表のスペーシングの変更をコピーするには、コピー先のページとコピー元のページで、組段あたりの譜表数とフレームあたりの組段数が同じである必要があります。

手順

1. 楽譜領域で、譜表のスペーシングを別のページにコピーするレイアウトを開きます。
2. 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」 > 「**譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)**」を選択して「**譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)**」ダイアログを開きます。
3. 「**開始ページ (From page)**」の値を変更して譜表のスペーシングのコピー元となるページを変更します。
4. 「**ページ指定 (開始) (To page start)**」の値を変更して、譜表のスペーシングのコピー先となる最初のページを変更します。
5. 「**ページ指定 (終了) (To page end)**」の値を変更して、譜表のスペーシングのコピー先となる範囲の最後のページを変更します。
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

関連リンク

[個々の譜表/組段の垂直方向の移動 \(464 ページ\)](#)

「譜表のスペーシングをコピー」ダイアログ

「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログでは、個々の譜表のスペーシングの変更をどのページからコピーするかを選択できます。また、譜表のスペーシングの変更のコピー先となるレイアウト内のページも指定できます。

- 「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログを開くには、浄書モードで「浄書 (Engrave)」>「譜表のスペーシング (Staff Spacing)」>「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」を選択します。

ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログを開く操作にキーボードショートカットを割り当てることができます。

「譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)」ダイアログには以下のオプションがあります。

開始ページ (From page)

ページ番号を指定して、譜表のスペーシングの変更のコピー元となるページを変更できます。

ページ指定 (開始) (To page start)

譜表のスペーシングの変更のコピー先となるレイアウト内の最初のページを設定できます。

ページ指定 (終了) (To page end)

譜表のスペーシングの変更のコピー先となるレイアウト内の最後のページを設定できます。

たとえば、最初のページに対して行なった譜表のスペーシングの変更を次の3ページ、つまり2ページめ、3ページめ、4ページめにコピーして、5ページめ以降にはコピーしない場合は、「開始ページ (From page)」に「1」、「ページ指定 (開始)」に「2」、「ページ指定 (終了)」に「4」を設定します。

数値フィールドの横には表示ページ番号がプレビューされるため、レイアウト内のページの表示ページ番号を変更していても、譜表のスペーシングの変更のコピー先となるページを識別できます。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(62 ページ\)](#)

フレーム区切り

Dorico Pro では、フレーム区切りを使って音符や記譜記号を次のフレームに移動できます。次のフレームは大抵次のページにあるため、フレーム区切りを使ってページ区切りを作成できます。たとえば、フレーム区切りを使い、パートレイアウトの特定の位置にページめくりを挿入できます。

フレーム区切りを示すガイドはいつでも表示/非表示にできます。また、フレーム区切りはレイアウト固有であり、レイアウトごとに異なる位置に挿入できます。

補足

- 初期設定では、「フレームに変換 (Make into Frame)」を使用して作成されたフレームの開始位置にあるフレーム区切りは、プロパティパネルの「形式 (Format)」グループの「次のフレーム区切りまで待機 (Wait for next frame break)」がオンになっています。このプロパティがオンになっている場合、そのフレーム区切りと次のフレーム区切りの間のすべての素材を含むフレームが自動的に作成されます。後続のフレーム区切りをあとから削除した場合、組段同士の間隔が狭い、または組段が重なった、非常に混み合ったフレームが作成されます。たとえば、後続のフレーム区切りをすべて削除した場合、フローの終わりまでのすべての楽譜が1つのフレームにまとめられます。
- 各レイアウトの楽曲フレームごとの組段の数を固定することによって、楽曲フレームのコンテンツを制御することもできます。ca

関連リンク

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(462 ページ\)](#)

フレーム区切りの挿入

現在のレイアウトの適切な場所にページめくりを作成するなど、任意の位置にフレーム区切りを挿入できます。

手順

1. フレーム区切りを挿入する位置の音符やアイテムを選択します。
たとえば、音部記号を選択すると、その音部記号がフレームの終わりに配置され、後続のすべての音符が次の楽曲フレームの最初に移動します。
2. **[Shift]+[F]** を押します。

結果

最初に選択したアイテムの直前にフレーム区切りが挿入されます。フレーム区切り後の記譜記号はすべて次の楽曲フレームに移動します。

補足

2 小節リピート領域または 4 小節リピート領域内のフレーズ中にフレーム区切りを挿入した場合、Dorico Pro はフレーム区切りを自動的にフレーズの前/後ろに移動しません。つまり、フレーズはフレーム区切りによって分割されません。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(354 ページ\)](#)

選択部分をフレームに変換

選択した 2 つの位置の間のすべての音符や記譜記号を含むフレームを作成できます。

手順

1. フレームを開始する位置のアイテムを選択します。

補足

符頭または小節線を選択することをおすすめします。スラーなどのその他のアイテムを選択すると、意図した位置より前または後ろにフレーム区切りが挿入されることがあります。

2. **[Ctrl]/[command]** を押しながら以下のいずれかをクリックします。
 - フレームの終了位置にする符頭
 - 次のフレームの開始位置にするアイテム
3. 浄書ツールボックスで、「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」をクリックして形式設定パネルを表示します。
4. 「**楽曲フレームの形式設定 (Format Music Frames)**」セクションで、「**フレームに変換 (Make into Frame)**」をクリックします。



結果

選択部分の始めまたは終わりにフレーム区切りを挿入することで、固定されたフレームが作成されます。このフレームには、選択した 2 つのアイテムの間のすべての音符や記譜記号が含まれます。

- 小節線やスラーなどのアイテムを選択した場合、選択した最初のアイテムの開始部分がフレームの始めに配置され、選択した最後のアイテムの終わりが次のフレームの始めに配置されます。
- 符頭を選択した場合、選択した最後の符頭は次のフレームの始めに配置されるのではなく、選択部分内のフレームに含まれます。
- タイを選択した場合、タイのつながりのどこを選択したかに関係なく、タイでつながれた最初と最後の音符の間のすべての音符や記譜記号がフレームに含まれます。

補足

初期設定では、選択部分の始めに挿入されたフレーム区切りは、プロパティパネルの「形式 (Format)」グループの「次のフレーム区切りまで待機 (Wait for next frame break)」がオンになっています。このプロパティは、次のフレーム区切りまですべての楽譜をフレームに含めるように Dorico Pro に指示するため、後続のフレーム区切りをあとから削除した場合、組段同士の間隔が狭い、または組段が重なった、非常に混み合ったフレームが作成されることがあります。

「次のフレーム区切りまで待機 (Wait for next frame break)」をオフにすると、後続の楽譜が通常通りに配置されます。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(354 ページ\)](#)

フレーム区切りガイドの表示/非表示

フレーム区切りガイドはいつでも表示/非表示にできます。

手順

- 「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「フレーム区切り (Frame Breaks)」を選択します。
-

結果

メニュー内の「フレーム区切り (Frame Breaks)」の横にチェックが付いている場合はフレーム区切りのガイドが表示され、付いていない場合は非表示になります。

フレーム区切りの削除

挿入したフレーム区切りを削除できます。

前提条件

フレーム区切りガイドを表示しておきます。

手順

1. 削除するフレーム区切りのフレーム区切りガイドを選択します。
 2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
-

組段区切り

組段区切りとは、音符や記譜記号がページの右余白に到達する位置のことで、それ以降の音符や記譜記号は、通常、同じページの前の組段の下か新しいページに配置された新しい組段に続きます。Dorico Pro では、音符が正しくスペーシングされ、判読できるように組段をまたいで楽譜が自動的に配置されますが、組段区切りを手動で制御することもできます。

組段区切りを示すガイドはいつでも表示/非表示にできます。また、組段区切りはレイアウト固有であり、レイアウトごとに異なる位置に挿入できます。

補足

- 初期設定では、「**組段に変換 (Make into System)**」を使用して作成された組段の開始位置にある組段区切りは、プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループの「**次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)**」がオンになっています。このプロパティがオンになっている場合、その組段区切りから次の組段区切りまたはフローの終了位置のいずれか早い方までの間にあるすべての音符や記譜記号を含む組段が作成されます。後続の組段区切りをあとから削除した場合、間隔が狭い、非常に混み合った組段が作成されます。たとえば、後続の組段区切りをすべて削除した場合、フローの終わりまでのすべての楽譜が1つの組段にまとめられます。
- 各レイアウトの組段ごとの小節数を固定することによって、組段のコンテンツを制御することもできます。

関連リンク

[組段あたりの小節数を固定 \(457 ページ\)](#)

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(462 ページ\)](#)

[長休符の分割 \(1130 ページ\)](#)

組段区切りの挿入

どの位置にでも組段区切りを挿入できます。

前提条件

長休符の途中で組段区切りを挿入したい場合は、レイアウト内の長休符を非表示にしておくか、長休符を任意の位置で分割しておきます。

手順

1. 組段区切りを挿入する位置の音符やアイテムを選択します。
たとえば、音部記号を選択すると、その音部記号が組段の終わりに配置され、音符が次の組段の最初に移動します。
2. **[Shift]+[S]** を押します。

結果

最初に選択したアイテムの直前に組段区切りが挿入されます。組段区切り後の記譜記号はすべて次の組段に移動します。

補足

2小節リピート領域または4小節リピート領域内のフレーズ中に組段区切りを挿入した場合、Dorico Pro は組段区切りを自動的にフレーズの前/後ろに移動しません。つまり、フレーズは組段区切りによって分割されません。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(354 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1127 ページ\)](#)

[長休符の分割 \(1130 ページ\)](#)

選択部分を組段に変換

選択した2つの位置の間のすべての音符や記譜記号を含む組段を作成できます。

手順

1. 組段を開始する位置のアイテムを選択します。

補足

符頭または小節線を選択することをおすすめします。スラーなどのその他のアイテムを選択すると、意図した位置より前または後ろに組段区切りが挿入されることがあります。

2. **[Ctrl]/[command]** を押しながら以下のいずれかをクリックします。
 - 組段の終了位置にする符頭
 - 次の組段の開始位置にするアイテム
3. 浄書ツールボックスで、「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」をクリックして形式設定パネルを表示します。
4. 「**組段の形式設定 (Format Systems)**」セクションの「**組段に変換 (Make into System)**」をクリックします。



結果

選択部分の始めまたは終わりに組段区切りを挿入することで、固定された組段が作成されます。この組段には、選択した2つのアイテムの間のすべての音符や記譜記号が含まれます。

- 小節線やスラーなどのアイテムを選択した場合、選択した最初のアイテムの開始部分が組段の始めに配置され、選択した最後のアイテムの終わりが次の組段の始めに配置されます。
- 符頭を選択した場合、選択した最後の符頭は次の組段の始めに配置されるのではなく、組段に含まれます。
- タイを選択した場合、タイのつながりのどこを選択したかに関係なく、タイでつながれた最初と最後の音符の間にあるすべての音符や記譜記号が組段に含まれます。

補足

初期設定では、選択部分の始めに挿入された組段区切りは、プロパティパネルの「**形式 (Format)**」グループの「**次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)**」がオンになっています。このプロパティは、次の組段区切りまたはフローの終了位置まですべての楽譜を組段に含めるように Dorico Pro に指示するため、後続の組段区切りをあとから削除した場合、間隔が狭い、非常に混み合った組段が作成されることがあります。

「**次の組段区切りまで待機 (Wait for next system break)**」をオフにすると、後続の楽譜が通常通りに配置されます。

関連リンク

[浄書ツールボックス \(354 ページ\)](#)

組段区切りガイドの表示/非表示の切り替え

組段区切りガイドはいつでも表示/非表示にできます。

手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**組段区切り (System Breaks)**」を選択します。

結果

メニュー内の「**組段区切り (System Breaks)**」の横にチェックが付いている場合は組段区切りのガイドが表示され、付いていない場合は非表示になります。

組段区切りの削除

挿入した組段区切りを削除できます。

前提条件

組段区切りガイドを表示しておきます。

手順

1. 削除する組段区切りの組段区切りガイドを選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

タチエット

タチエットとは、プレーヤーがフロー全体で何も演奏しないことを表わす指示で、交響曲の楽章や映画スコアのキューなどに使用されます。Dorico Pro では、タチエットを自動的に生成できます。

Dorico Pro では、以下の条件が満たされるとパートレイアウトのフローにタチエットが表示されます。

- 演奏がないフローからプレーヤーが削除されている。
- パートレイアウトにフローが割り当てられている。
- パートレイアウトのマスターページフレームチェーンにフローが割り当てられている。
- パートレイアウトにタチエットを表示するように選択している。

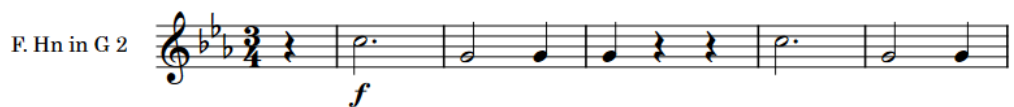


2. Andante

Tacet

3. Menuetto

Allegretto



2 番めのフローでプレーヤーがタチエットになっているパートレイアウトの抜粋

浄書モードでは、タチエットは組段のように機能します。つまり、「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」がオンになっている場合、譜表のスペーシングのハンドルが独自に表示されます。これにより、個々のタチエットとそのフロー見出しを上下に動かすことができます。また、タチエットの最初に組段区切りやフレーム区切りを挿入することもできます。

補足

フレームの最初または最後の組段がタチエットのページで「**譜表のスペーシングをコピー (Copy Staff Spacing)**」や「**フレームをロック (Lock Frame)**」を使用することをおすすめしません。これは、タチエットには小節が含まれておらず、フレームコンテンツをロックするための組段区切りやフレーム区切りをタチエットの終わりに挿入できないためです。

タレットに表示されるテキストとタレットの上下の余白は、レイアウトごとに個別に変更できません。

また、タレットのプロジェクト全体の外観とデザインは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タレット (Tacets)」ページ、および「浄書 (Engrave)」 > 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」でパラグラフスタイルの「タレット (Tacets)」の形式設定を行なうことでさらにカスタマイズできます。

関連リンク

- [フローに割り当てられたプレーヤーの変更 \(137 ページ\)](#)
- [フレームチェーンへのフローの割り当て \(399 ページ\)](#)
- [同じページに複数のフローを表示する/表示しない \(449 ページ\)](#)
- [譜表のスペーシング \(462 ページ\)](#)
- [組段区切りの挿入 \(472 ページ\)](#)
- [フレーム区切りの挿入 \(470 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)
- [「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)
- [フロー見出し \(386 ページ\)](#)

タレットの表示/非表示の切り替え

たとえば、いくつかのレイアウトに空白の小節や長休止符を表示してプレーヤーがあとからこれらの譜表に音符を追加できるようにしたい場合など、タレットをレイアウトごとに個別に表示/非表示にできます。

前提条件

- 演奏がないフローからプレーヤーが削除されている。
- パートレイアウトにフローが割り当てられている。
- パートレイアウトのマスターページフレームチェーンにフローが割り当てられている。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストで、タレットを表示/非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**タレット (Tacets)**」セクションで、「**プレーヤーが割り当てられていないフローにタレットを表示 (Show tacet for flows where no players are assigned)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**プレーヤーが割り当てられていないフローにタレットを表示 (Show tacet for flows where no players are assigned)**」がオンで、前提条件も満たされている場合、選択したレイアウトにタレットが表示されます。

オフの場合、プレーヤーが割り当てられていないフローはレイアウトに表示されません。フローにプレーヤーが割り当てられている場合、パートにはフロー内のすべての小節が、そのフローに適した形で空白の小節や長休止符に分割されて表示されます。

ヒント

プロジェクトに短いフローが多く含まれており、それがパートレイアウトでは Tacet という長休止符として 1 小節に表示される場合は、すべての小節を表示することでフローの長さを見やすくできます。この操作を行なうには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「休止符 (Rests)」ページにある「フローに「Tacet」を表示する小節数の最小値 (Minimum number of bars in flow to show 'Tacet')」の値を大きくします。

関連リンク

[タレット \(474 ページ\)](#)

[長休止符 \(1126 ページ\)](#)

[フローに割り当てられたプレーヤーの変更 \(137 ページ\)](#)

[長休止符を表示/非表示にする \(1127 ページ\)](#)

タレットのテキストの編集

タレットに表示されるテキストは、レイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. タレットのテキストを編集するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「プレーヤー (Players)」をクリックします。
4. 「タレット (Tacet)」セクションで、表示するテキストを「タレットのテキスト (Tacet text)」フィールドに入力します。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したマーカーに表示されるテキストが変更されます。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タレット (Tacet)」ページで、タレットの左右の余白、境界線の表示/非表示、境界線の太さを変更できます。

タレットの上下の余白を変更する

たとえば、いくつかのレイアウトでページめくりをしやすいするためにフロー見出しとタレットの間隔を狭くしたい場合など、タレットの上下の余白をレイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストで、タレットの上下の余白を変更するレイアウトを選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
 4. 「**タチェット (Tacets)**」セクションで、「**タチェットの上側余白 (Margin above tacet)**」または「**タチェットの下側余白 (Margin below tacet)**」あるいはその両方の値を変更します。
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

「**タチェットの上側余白 (Margin above tacet)**」の値を変更すると、タチェットとその前のアイテムの間の最小間隔が増減します。

「**タチェットの下側余白 (Margin below tacet)**」の値を変更すると、タチェットとそのあとのアイテムの間の最小間隔が増減します。

ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タチェット (Tacets)**」ページで、タチェットの左右の余白、境界線の表示/非表示、境界線の太さを変更できます。

関連リンク

[フロー見出し \(386 ページ\)](#)

コンデンシング

コンデンシングとは、複数のプレーヤーの楽譜を通常より少ない譜表に表示する処理のことです。通常は、フルート1と2やホルン1～4など、同じタイプの複数のインストゥルメントが譜表を共有できるようにすることでコンデンシングを行ないます。Dorico Pro では、自動処理によってフルスコアレイアウトなどの一部のレイアウトにはコンデンシングした譜表を表示し、パートレイアウトなどのその他のレイアウトにはコンデンシングしていない譜表を表示できます。

コンデンシングが最もよく使われるのは大規模なオーケストラのスコアです。これは、ページ上の譜表が少ない場合に譜表サイズを大きくし、指揮者にとって読みやすいスコアを作成できるためです。一般にオーケストラに必要とされるすべての譜表を指揮者用のスコア用紙に収めようとする、譜表サイズは3.5mmにまで小さくなる場合があります。可読性を維持するため、通常、インストゥルメントパートの譜表サイズは7mm以上で作成されます。

複数のプレーヤーの楽譜を同じ譜表に収め、各プレーヤーがどの音符を演奏するのかを明確にすることは容易ではありません。たとえば、コンデンシングされた譜表にラベルの付いていない音符が1つだけ表示されている場合、その音符を演奏するのが1人のプレーヤーなのか全員なのかははっきりしません。コンデンシングされたそれぞれの譜表で、譜表ラベルにプレーヤーを正しく表示することも大切です。

The image shows a musical score for a woodwind section, including Piccolo, Flute 1 & 2, Oboe 1 & 2, Clarinet in A, Clarinet in Bb 1 & 2, and Bassoon 1 & 2. The score is in 3/4 time and features a tempo change to 'allargando.. a tempo'. Condensing annotations are present, such as 'cresc.' and 'f' markings, and some notes are marked with 'a2' and '2'. The score is presented in a condensed format, with some notes and rests appearing as single stems or simplified symbols.

コンデンスされた楽譜とコンデンスされていない楽譜を含むオーケストラスコアの木管楽器セクション

コンデンスされた楽譜を作成するためには、数多くの複雑な計算と考慮事項が必要となることから、コンデンスは従来から、時間のかかる難しい作業とされてきました。特に、ほかの楽譜作成ソフトウェアでは、コンデンスされたフルスコアから個別のインストゥルメントパートを作成する際に、楽譜や譜表を手動で複製する必要があります。

Dorico Pro は独自の方法でプレーヤーやレイアウトを扱うため、楽譜や譜表を手動で複製することなく、同じプロジェクト内に個別のインストゥルメントパートとコンデンスされたフルスコアを作成できます。コンデンスされた譜表上の譜表ラベルは譜表上のすべてのプレーヤーを自動的に参照し、プレーヤーラベルにはどの音符がどのプレーヤーに属するのかが表示されます。

コンデンスを有効にしたときに明確な結果を得られるよう、Dorico Pro ではプレーヤーごとに楽譜を個別に入力する必要があります。コンデンスされた譜表に楽譜を入力したあとで個別のインストゥルメントパートとしてエクスポートする方法とは異なり、この方法ならユーザーが楽譜をどのように分割したいかを Dorico Pro が常に正確に把握できるため、Dorico Pro では複雑なインストゥルメントでもコンデンスできます。

コンデンスに際して Dorico Pro が行なう計算と考慮事項、そしてコンデンス結果のカスタマイズにどのようなオプションを使用できるのかを理解しておくことをおすすめします。

補足

- 記譜モードでは、コンデンスされた譜表では何も選択できません。浄書モードでは、コンデンスされた譜表上の音符やアイテムを選択できますが、編集できるのは表示上の要素のみです。

コンデンスされた譜表に対して表示上の編集を行っても、ほとんどの場合元の楽譜には影響しませんが、スラーやタイのスタイル属性のように一部例外もあります。

- ギャラービューではコンデンスが有効にならないため、ギャラービューに切り替えることですべての譜表を個別に表示できます。ギャラービューに切り替えても現在のレイアウトのコンデンスが無効になることはありません。

重要

プロジェクト内のいずれかのレイアウトでコンデンスを有効にすると、多くの計算が必要になるため、Dorico Pro の動作が遅くなることがあります。そのため、音符や記譜記号の入力、あるいはフローの追加など、必要な作業の大半を終わらせてからコンデンスを有効にすることをおすすめします。

関連リンク

[コンデンスの有効化/無効化 \(455 ページ\)](#)

任意の位置からコンデンシングオプションを変更する (487 ページ)
プレーヤーラベル (493 ページ)
コンデンシングされた譜表の譜表ラベル (1170 ページ)
コンデンシングされた楽譜の色を表示/非表示にする (497 ページ)
ギャラリービューまたはページビューへの切り替え (59 ページ)
ディヴィジ (1192 ページ)

コンデンシングのフローごとの記譜オプション

「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「コンデンシング (Condensing)」ページには、コンデンシングをフローごとに個別に制御するためのオプションがあります。

「コンデンシング (Condensing)」ページには以下のオプションがあります。

フレーズ全体でのユニゾン方法 (Whole-phrase unison approach)

完全に一致するフレーズをコンデンシングされた譜表上でどのように表示するかを選択できます。

- **単一の符尾でのユニゾンを許可 (Allow single-stem unison):** ユニゾンフレーズは単一の符尾を持つ単一の符頭として表示され、任意の数のプレーヤーを表わすことができます。
- **単一の符尾でのユニゾンを禁止 (Prevent single-stem unison):** ユニゾンフレーズはプレーヤーごとに個別の符頭と符尾で表示されます。

フレーズの一部でのユニゾン方法 (Mid-phrase unison approach)

完全に一致しないフレーズ内の個々のユニゾンの音符をどのように表示するかを選択できます。

- **フレーズの一部でのユニゾンを許可 (Allow mid-phrase unisons):** フレーズの一部でのユニゾンの音符を単一の符尾で表示します。
- **フレーズの一部でのユニゾンを禁止 (Prevent mid-phrase unisons):** フレーズの一部でのユニゾンの音符を個別の符尾で表示します。

ピッチまたぎの方法 (Pitch crossing approach)

ピッチまたぎが起こるのは、符尾が上向きの声部の音符のピッチが符尾が下向きの声部の音符のピッチよりも低くなる場合です。このオプションは、いくつかの音符のピッチが交差する場合でも複数のプレーヤーで譜表を共有できるようにするか、あるいはフレーズにピッチまたぎが含まれる場合にそのプレーヤーのコンデンシングを無効にするかを選択するものです。

- **あらゆるピッチまたぎを許可 (Allow unlimited pitch crossing):** ピッチまたぎの有無に関係なく、コンデンシングを常に許可します。
- **ピッチまたぎを制限 (Limit pitch crossing):** ピッチまたぎの数が設定した値よりも少ない領域でのみコンデンシングを許可します。

領域内でのピッチまたぎの最大数 (Maximum number of pitch crosses in region)

各領域でコンデンシングを許可するピッチまたぎの最大数を設定できます。初期設定では、「1」に設定されています。

音符とコードのアマルガメーション方法 (Amalgamation approach for notes and chords)

プレーヤー同士のリズムが一致する部分と異なる部分が混在する場合に、コンデンシングされた譜表上の音符とコードを、符尾が上向きの1つの声部に結合するかどうかを選択できます。

- **アマルガメーションを許可 (Allow amalgamation):** プレーヤー同士のリズムが一致する場合に、符尾が上向きの1つの声部に音符とコードを結合します。
- **アマルガメーションを禁止 (Prevent amalgamation):** プレーヤー同士のリズムが一致しても、音符とコードを結合せず、2つの声部に分かれたままにします。

スラーのアマルガメーション方法 (Amalgamation approach for slurs)

2つの声部の同じ位置に同じデュレーションのスラーが存在する場合に、それらのスラーを結合するかどうかを選択できます。

- **スラーのアマルガメーションを許可 (Allow amalgamation of slurs):** 一致するスラーが結合され、2つの声部のスラーが単一のスラーとして表示されます。
- **符尾が下向きの声部でのスラーのアマルガメーションを禁止 (Prevent amalgamation for slurs in down-stem voice):** スラーは声部ごとに個別に表示されます。
- **すべてのスラーのアマルガメーションを禁止 (Prevent amalgamation for all slurs):** スラーは声部ごとに個別に表示されます。符尾が上向きの声部に部分的に結合されていた音符は、強制的に符尾が下向きの声部に表示されます。

演奏技法のアマルガメーション方法 (Amalgamation approach for playing techniques)

2つの声部の同じ位置に同じ演奏技法が使われている場合に、その演奏技法を結合するかどうかを選択できます。

- **アマルガメーションを許可 (Allow amalgamation):** 2つの声部に対して演奏技法を1つ表示します。演奏技法は、演奏技法のデフォルトの位置に応じて譜表の上または下に表示されます。
- **アマルガメーションを禁止 (Prevent amalgamation):** 譜表の上下両方に演奏技法を表示します。

組段の一部でサイレントのプレイヤーのコンデンス (Condensing for players inactive for some of the system)

同じ組段内にアクティブのプレイヤーとサイレントのプレイヤーがいて、コンデンスグループ内のほかのプレイヤーに音符がある場合に、サイレントのプレイヤーをどのようにコンデンスして表示するかを選択できます。

- **休符を非表示にし、アクティブのプレイヤーをラベル付け (Hide rests and label active player):** アクティブのプレイヤーの楽譜だけが、アクティブのプレイヤー用のプレイヤーラベルが表示された状態でコンデンスされた譜表上に表示されます。サイレントのプレイヤーの休符は表示されません。
- **休符を表示し、ラベルを非表示 (Show rests and omit labels):** コンデンスされた譜表上にサイレントのプレイヤーの休符を表示しますが、追加のプレイヤーラベルは表示しません。

サイレントのプレイヤーの休符を非表示にする場合 (When hiding rests for inactive players)

どのような状況でサイレントのプレイヤーの休符を非表示にするかを選択できます。このオプションは、「組段の一部でサイレントのプレイヤーのコンデンス (Condensing for players inactive for some of the system)」に「休符を非表示にし、アクティブのプレイヤーをラベル付け (Hide rests and label active player)」を選択した場合にのみ適用されます。

- **小節の開始位置と終了位置にある休符のみを非表示 (Hide rests only at the start or end of bars):** 小節線の位置で範囲が開始または終了する休符のみが非表示になります。出版社によってはこの表記規則を採用しているところがあります。休符の数は増えますが、プレイヤーラベルの数は少なくなります。
- **すべての休符を非表示 (Hide rests at any position):** すべての休符が非表示になります。休符の数は少なくなります。プレイヤーラベルの数は増えます。

非表示を許可する休符の範囲の最小値 (Minimum length of range of rests to allow hiding)

その値を超える場合に休符を非表示にするデュレーションのしきい値を設定できます。出版社によっては、音符間の2拍の休符のようにデュレーションの短い休符は表示し、デュレーションの長い休符は非表示にするという表記規則を採用しているところがあります。

組段全体でサイレントのプレイヤーのコンデンス (Condensing for players inactive for the whole system)

サイレントのプレイヤーが組段全体を通してサイレントであり、コンデンスグループ内のほかのプレイヤーに音符がある場合に、そのサイレントのプレイヤーをどのようにコンデンスして表示するかを選択できます。

- **アクティブのプレーヤーと合わせる (Pair with active player):** コンデンシングされた譜表上に、少なくとも 1 人のアクティブプレーヤーと一緒に (ただし異なる声部に) サイレントのプレーヤーを表示します。サイレントのプレーヤーには、必要に応じて休符が表示されます。
- **譜表ラベルに含む (Include in staff label):** コンデンシングされた譜表上の譜表ラベルにはサイレントのプレーヤーの数を含めますが、サイレントのプレーヤーの休符は表示されません。コンデンシングされた譜表にはアクティブのプレーヤーの楽譜だけが表示されます。
- **コンデンシングしない (Do not condense):** 範囲全体にわたって演奏しないプレーヤーは、組段のコンデンシングから除外され、コンデンシングされていない個別の譜表に表示されます。これらの譜表は空白と見なされ、空白の譜表の表示/非表示に関するレイアウトごとの設定に従います。

補足

これらのオプションは選択したフロー全体に適用されます。ただし、コンデンシング方法の変更を使用すれば、選択した位置から先や選択したコンデンシンググループだけそれらを上書きできます。

関連リンク

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(446 ページ\)](#)

[任意の位置からコンデンシングオプションを変更する \(487 ページ\)](#)

[「コンデンシング方法の変更 \(Condensing Change\)」ダイアログ \(488 ページ\)](#)

[休符 \(Rests\) \(1120 ページ\)](#)

コンデンシングの計算と考慮事項

明瞭で読みやすいスコアを作成するために、Dorico Pro は音符のリズムやピッチ、さらにはインストゥルメントのタイプなど、さまざまな要因を考慮してコンデンシングの計算を行いません。

重要

プロジェクト内のいずれかのレイアウトでコンデンシングを有効にすると、多くの計算が必要になるため、Dorico Pro の動作が遅くなることがあります。そのため、音符や記譜記号の入力、あるいはフローの追加など、必要な作業の大半を終わらせてからコンデンシングを有効にすることをおすすめします。

コンデンシングの計算には、以下の考慮事項と処理が含まれます。

インストゥルメントとプレーヤー

プロジェクト内のソロプレーヤーはコンデンシングの対象となります。類似のインストゥルメントを持つ隣接するプレーヤーは、自動的にコンデンシンググループに割り当てられます。

補足

- 混声四部合唱などのボーカルプレーヤーを除き、セクションプレーヤーは対象になりません。
- ソロプレーヤーが複数のインストゥルメントを持つ場合は、最初のインストゥルメントのみ対象となります。その他のインストゥルメントは常に別の譜表に表示されます。
- すでに複数の声部にまたがっている楽譜はコンデンシング結果が不明瞭になるため、一般に 1 つの譜表に単一声部で記譜されるインストゥルメントのみコンデンシングできます。大譜表を使用するインストゥルメントはコンデンシングできません。
- 無音程打楽器はコンデンシングできません。無音程打楽器をフルスコアにどのように表示するかは、利用できる打楽器キットの表示を使って変更できます。
- デヴィジ譜表は今のところコンデンシングできません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。

コンデンスグループ

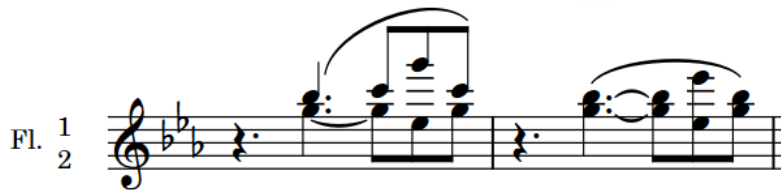
コンデンスグループ内のプレーヤーはまとめてコンデンスされ、それぞれの楽譜と設定した記譜オプションに応じてすべてのプレーヤーが1つの譜表を共有できます。

初期設定では、フルート1と2のように、類似のインストゥルメントが隣接する場合は自動的に同じコンデンスグループに割り当てられます。また、独自のカスタムコンデンスグループを作成し、まとめてコンデンスするプレーヤーを指定することもできます。

フレーズ

求められるコンデンス結果は1つの曲の途中で変化する楽曲の構造や密度に応じて変化するため、Dorico Proは各フレーズを複数のフレーズに分割します。最適なコンデンス結果が得られるよう、各フレーズは個別に計算されます。

Dorico Proは、休符と休符の間の一連の音符を1つのフレーズと見なします。ただし、スラー、段階的強弱記号、デュレーションを持つ演奏技法などのアイテムが休符にかかっている場合、その休符でフレーズが分割されることはありません。コンデンスは、組段区切りまたはフレーム区切りをまたぐフレーズ内でのみ変更できます。



休符で分割された2つのフレーズ。最初のフレーズはパートのリズムが異なるため、これらのフレーズはコンデンス結果が異なります。

最適なコンデンス結果を計算するために、コンデンスされた各譜表上のすべてのプレーヤーに属するフレーズは、たとえば複数のフレーズで1本の符尾を共有するか、または個別の声部が必要かなどについて、まとめて考慮されます。

リズムとピッチ

それぞれのフレーズ内で、音符のリズムとピッチが考慮されます。リズムとピッチがどちらも同じ場合、コンデンス結果がユニゾンになることがあります。リズムとピッチがどちらも異なる場合は、同じ譜表の異なる声部にコンデンス結果が表示されます。

記譜

音符だけでなく、アーティキュレーション、強弱記号、スラー、装飾音符、演奏技法、歌詞、装飾音など、その他の記譜記号もすべて考慮されます。たとえば、リズムとピッチが同じ2つのパートでスラーが別の音符にかかっている場合、異なるスラーが明確に記譜されるように、これらのパートは個別の声部を持つ共有の譜表にコンデンスされます。また、アーティキュレーションが異なるパートも個別の声部にコンデンスされます。

補足

音部記号とオクターブ線はコンデンス結果には影響しません。インストゥルメントの音部記号とオクターブ線が異なっても、プレーヤーがまとめてコンデンスされることがあります。コンデンスされた譜表は、その譜表の最初のプレーヤーに属する音部記号とオクターブ線のみを使用します。

プロパティ

音符の符尾の方向が強制されているかやスラーが反転されているかなど、音符やアイテムのプロパティも考慮されます。プロパティが異なるパートは同じ声部にはコンデンスされません。

拍子記号と調号

拍子記号または調号が異なるプレーヤーをまとめてコンデンスすることはできません。

補足

ユニゾンのコンデンス結果を得るには、フレーズが同じ位置で始まっている必要があります。

符尾の共有

リズムが同じでピッチが異なり、ピッチが交差しておらず、コンデンスする譜表上の各パートに単一の符尾を共有する個別の符頭があるフレーズの場合です。



補足

符尾を共有するコンデンス結果を得るには、フレーズが同じ位置で始まっている必要があります。

譜表を共有

すべてのプレイヤーのリズムとピッチがどちらも異なり、ピッチまたぎの数が設定した値を超えておらず、コンデンスする譜表上のパートが符尾が上向きの声部と下向きの声部に分かれているフレーズの場合です。

フレーズが同じ位置で始まっている場合、同じデュレーションを持つこれらのフレーズ内の個々の音符と連符/連符は、これらのフレーズ内のその他の記譜記号や設定した記譜オプションに応じて、すべて単一の声部に結合されます。



コンデンスなし

すべてのプレイヤーのリズムとピッチがどちらも異なり、ピッチまたぎの数が設定した値を超えるフレーズの場合、コンデンスは行なわれずパートは個別の譜表に表示されたままになります。



補足

- リズムとピッチに加え、Dorico Pro は最適なコンデンス結果を計算するために、スラーや強弱記号などのその他すべての記譜記号を考慮します。たとえば、リズムとピッチが同じ2つのパートでスラーが別の音符にかかっている場合、異なるスラーが明確に記譜されるように、これらのパートは個別の声部を持つ共有の譜表にコンデンスされます。ただし、音部記号とオクターブ線は考慮されず、コンデンス結果には影響しません。

- コンデンスされた譜表が使用する声部の最大数は常に2つで、1つは符尾が上向きの声部、もう1つは符尾が下向きの声部です。各声部には複数のプレーヤーのパートが含まれる場合があります。
 - 自動コンデンスの結果を変更したい場合、コンデンス方法の変更を使用すれば、選択した位置から先の結果を変更できます。コンデンス方法の変更を使用して新しいフレーズを開始するだけで、期待するコンデンス結果を実現できることもあります。
-

関連リンク

[任意の位置からコンデンスオプションを変更する \(487 ページ\)](#)

[「コンデンス方法の変更 \(Condensing Change\)」ダイアログ \(488 ページ\)](#)

コンデンスグループ

コンデンスグループには、楽譜を同じ譜表または少ない譜表にコンデンスでき、通常はスコア上で隣接しているソロプレーヤーが含まれます。コンデンスグループに含まれるプレーヤーは最大で16人です。

通常、コンデンスグループには、同じタイプのインストゥルメントを持つプレーヤーが含まれます。ただし、これには一般的な例外もあります。たとえば、トロンボーンとチューバは別のインストゥルメントですが、オーケストラのスコアでは譜表を共有することが少なくありません。もう1つの例として、ときには交互にペアを作るホルンがあります。つまり、ホルン1と3、ホルン2と4がそれぞれ譜表を共有します。

Dorico Pro は、移調が同じで同じタイプのインストゥルメントを持つ隣接するソロプレーヤーのコンデンスグループを自動的に作成します。コンデンスグループは、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**プレーヤー (Players)**」ページにある「**コンデンス (Condensing)**」セクションで確認できます。

たとえば、移調の異なるトランペットをまとめてコンデンスしたい場合などに、カスタムコンデンスグループを作成できます。また、コンデンスから除外するグループを指定することもできます。除外したグループに属するプレーヤーの譜表は常に個別に表示されます。

各レイアウト内で設定したコンデンスグループは、それ以降「**コンデンス方法の変更 (Condensing Change)**」ダイアログで使用できるようになり、選択した位置から先のこれらのコンデンスグループのオプションをそのダイアログで変更できます。

関連リンク

[任意の位置からコンデンスオプションを変更する \(487 ページ\)](#)

[「コンデンス方法の変更 \(Condensing Change\)」ダイアログ \(488 ページ\)](#)

カスタムコンデンスグループの作成

カスタムコンデンスグループをレイアウトごとに個別に作成できます。これは、たとえばホルン1と2およびホルン3と4ではなく、ホルン1と3およびホルン2と4をまとめてコンデンスしたい場合などに行ないます。コンデンスグループに含まれるプレーヤーは最大で16人です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、カスタムコンデンスグループを作成するレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。

4. 「**コンデンシング (Condensing)**」セクションで、「**グループを新規作成 (New Group)**」をクリックして「**カスタムのコンデンシングのグループを編集 (Edit Custom Condensing Group)**」ダイアログを開きます。



5. カスタムコンデンシンググループに含めるプレーヤーを選択します。
隣接するプレーヤーを選択するには **[Shift]** を押しながらクリックし、個別のプレーヤーを選択するには **[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
7. 必要に応じて、手順4～6を繰り返してほかのカスタムコンデンシンググループを作成します。
8. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトにコンデンシンググループが追加されます。コンデンシンググループは、これらのレイアウトでどのプレーヤーをまとめてコンデンシングするかに影響します。

デフォルトのコンデンシンググループに含まれていたプレーヤーをカスタムコンデンシンググループに含めた場合、そのプレーヤーはデフォルトのコンデンシンググループから削除されます。

補足

その他のコンデンシングの計算と考慮事項および設定した記譜オプションは、特定のポイントでプレーヤーをコンデンシングするかどうか引き続き影響します。

手順終了後の項目

必要に応じて、選択した位置から先のこれらのコンデンシンググループのオプションを変更し、コンデンシング結果を変更できます。

関連リンク

[コンデンシングの計算と考慮事項 \(481 ページ\)](#)

[コンデンシングのフローごとの記譜オプション \(479 ページ\)](#)

[コンデンシングの有効化/無効化 \(455 ページ\)](#)

[任意の位置からコンデンシングオプションを変更する \(487 ページ\)](#)

コンデンシンググループを含める/除外する

たとえば、Dorico Pro によって自動的にコンデンシンググループに追加される2つのホルンを常に個別の譜表に表示したい場合など、コンデンシングの計算に含めるまたは除外するコンデンシンググループを個別に指定できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、コンデンシングの計算にコンデンシンググループを含めるまたは除外するレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**コンデンシング (Condensing)**」セクションの「**コンデンシングから除外するグループ (Groups to exclude from condensing)**」リストで、コンデンシングから除外するコンデンシンググループのチェックボックスをオンにします。

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

チェックボックスをオンにすると、コンデンシンググループはコンデンシングから除外されます。つまり、そのコンデンシンググループに含まれるプレーヤーは常に個別の譜表に表示されます。チェックボックスをオフにすると、コンデンシンググループはコンデンシングに含まれます。

関連リンク

[ディヴィジ](#) (1192 ページ)

任意の位置からコンデンシングオプションを変更する

個々のレイアウト内の選択した位置から先について、個々のコンデンシンググループにおけるコンデンシングの記譜オプションの設定を変更できます。

ヒント

フローごとのデフォルトのコンデンシングオプションの変更、カスタムコンデンシンググループの作成、および選択した位置からの新規フレーズの開始で期待するコンデンシング結果を得られなかった場合にのみ、必要最小限のコンデンシングオプションの変更を行なうことをおすすめします。

前提条件

現在のレイアウトでコンデンシングを有効にしておきます。

手順

1. 楽譜領域で、コンデンシングを変更するレイアウトを開きます。
2. 浄書モードで、コンデンシング結果を変更する位置にあるアイテムを選択します。

ヒント

アイテムはコンデンシングされた譜表上にある必要はありません。一箇所に存在できるコンデンシング方法の変更は1つのみですが、変更やリセットは複数のコンデンシンググループの異なるオプションに対して行なえます。

3. 「浄書 (Engrave)」 > 「コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)」を選択して「コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)」ダイアログを開きます。
4. コンデンシンググループリストで、コンデンシング方法の変更に含めるコンデンシンググループのチェックボックスをオンにします。
コンデンシンググループに含めると、選択した位置から新しいフレーズが始まります。
5. コンデンシングオプションを変更するコンデンシンググループを選択します。

補足

オプションを変更またはリセットできるコンデンシンググループは一度に1つのみです。

6. 「記譜オプション (Notation Options)」セクションで、変更するオプションを選択します。
7. オンにしたオプションで「変更 (Change)」を選択します。
8. 有効にしたオプションの設定を必要に応じて変更します。

補足

コンデンシングオプションの設定には、前のコンデンシング方法の変更 (存在する場合) または「記譜オプション (Notation Options)」で設定されたそのフローのデフォルト設定が反映されます。

9. 必要に応じて、選択した位置から先のコンデンシングオプションを変更するコンデンシンググループごとに手順5から8を繰り返します。

10. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

現在のレイアウトの選択した位置から先のコンデンシング結果が変更されます。チェックボックスをオンにした各コンデンシンググループについて、コンデンシング方法の変更の前後のコンデンシング結果が再計算されます。コンデンシング方法の変更の位置は新しいフレーズの始まりとして扱われます。変更した記譜オプションは、これらのオプションを変更またはリセットする次のコンデンシング方法の変更がある位置 (存在する場合)、またはフローの終了位置のいずれか早い方まで対応するコンデンシンググループに適用されます。

コンデンシング方法の変更の位置にはガイドが表示されます。

関連リンク

[コンデンシングのフローごとの記譜オプション \(479 ページ\)](#)

[コンデンシング結果 \(483 ページ\)](#)

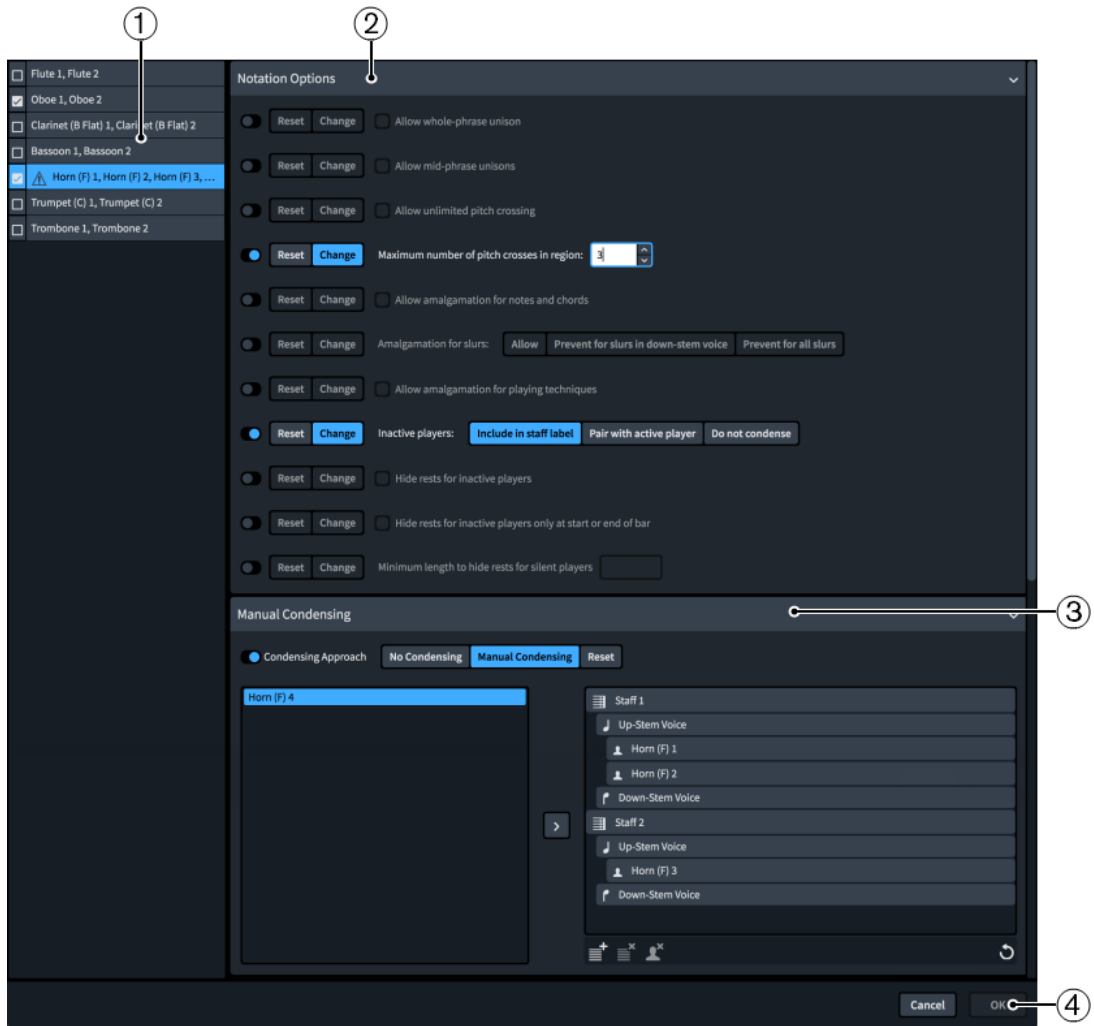
[コンデンシンググループ \(485 ページ\)](#)

[カスタムコンデンシンググループの作成 \(485 ページ\)](#)

「コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)」ダイアログ

「コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)」ダイアログを使用すると、レイアウトの選択した位置から先のコンデンシングの記譜オプションを変更したりリセットしたりできます。また、コンデンシンググループ内のプレーヤーを特定の声部や譜表に手動で割り当てることもできます。

- 「コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)」ダイアログは、浄書モードで浄書ツールボックスの「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」が選択された状態で楽譜領域のアイテムを選択し、「浄書 (Engrave)」 > 「コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)」を選択すると開きます。



「コンデンス方法の変更 (Condensing Change)」 ダイアログ

「コンデンス方法の変更 (Condensing Change)」 ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

1 コンデンスグループリスト

現在のレイアウト内のすべてのコンデンスグループが表示されます。

コンデンスグループを有効にするとそのグループがコンデンス方法の変更に含まれ、コンデンス方法の変更の位置から新しいフレーズが開始されます。これにより、たとえその位置に休符がなくても、Dorico Pro はコンデンス方法の変更の前と後ろのコンデンス結果を個別に再計算できます。

手動コンデンスを有効にした上で、すべてのプレーヤーを声部または譜表にまだ割り当てていないコンデンスグループには警告アイコンが表示されます。



警告アイコン

2 「記譜オプション (Notation Options)」 セクション

「記譜オプション (Notation Options)」 ダイアログのすべてのコンデンスオプションが表示され、コンデンス方法の変更の位置から先の選択したコンデンスグループの記譜オプションを変更したりリセットしたりできます。

コンデンスオプションの設定には、前のコンデンス方法の変更 (存在する場合) または「記譜オプション (Notation Options)」 で設定されたそのフローのデフォルト設定が反映されます。

補足

- 各コンデンシング方法の変更ですべてのオプションを変更する必要はないため、コンデンシングオプションの設定には、先行する複数のコンデンシング方法の変更から設定が累積的に反映される場合があります。
- より簡潔にするために、いくつかの記譜オプションの正確な表記は「**コンデンシング方法の変更 (Condensing Change)**」ダイアログと「**記譜オプション (Notation Options)**」ダイアログで異なります。

3 「手動でコンデンシング (Manual Condensing)」 セクション

選択したコンデンシンググループ内のプレーヤーを特定の声部や譜表に割り当てることができます。

コンデンシンググループの手動コンデンシングを有効にすると、そのグループ内のプレーヤーが「**手動でコンデンシング (Manual Condensing)**」セクションの左側のプレーヤーリストに表示されます。その後、プレーヤーを右側のリストの声部または譜表に割り当てることができます。割り当てたプレーヤーはプレーヤーリストから削除されます。

右側のリストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **譜表を追加 (Add Staff):** 譜表を追加します。プレーヤーリストの一番上のプレーヤーが、新しい譜表の符尾が上向きの声部に自動的に割り当てられます。



- **譜表を削除 (Remove Staff):** 選択した譜表を削除します。譜表に割り当てられているプレーヤーはプレーヤーリストに戻されます。



- **プレーヤーを削除 (Remove Player):** 選択したプレーヤーを削除してプレーヤーリストに戻します。



- **クリア (Clear):** 手動コンデンシングへのすべての変更を削除してすべてのプレーヤーをプレーヤーリストに戻します。



重要

手動コンデンシングの選択については慎重に検討することをおすすめします。Dorico Pro は、たとえあいまいな結果が生成されるとしても、手動コンデンシングの設定に正確に従います。

補足

- 譜表の符尾が上向きの声部には、少なくとも 1 人のプレーヤーを必ず割り当てる必要があります。符尾が下向きの声部のみプレーヤーを割り当てることはできません。
- コンデンシンググループ内のプレーヤーの数よりも多い譜表を作成することはできません。
- プレーヤーは単一のコンデンシンググループにのみ割り当てることができます。異なるコンデンシンググループ間でプレーヤーを共有することはできません。
- 組段の途中に挿入され、コンデンシンググループに必要な譜表の数を変更するコンデンシング方法の変更や、別の譜表に切り替わるプレーヤーを含むコンデンシング方法の変更は、次の組段まで効果を発揮しません。

4 「OK」 ボタン

変更を確定してダイアログを閉じます。手動コンデンシングが有効になっているすべてのコンデンシンググループのすべてのプレーヤーを声部または譜表に割り当てていないとダイアログは確定できません。

関連リンク

[コンデンスのフローごとの記譜オプション \(479 ページ\)](#)

[コンデンス結果 \(483 ページ\)](#)

[コンデンスグループ \(485 ページ\)](#)

プレーヤーを手動でコンデンスする

個々のレイアウト内の選択した位置から先について、各コンデンスグループ内の声部および譜表へのプレーヤーの割り当てを手動で変更できます。

重要

フローごとのデフォルトのコンデンスオプションの変更、カスタムコンデンスグループの作成、選択した位置からの新規フレーズの開始、および選択したコンデンスオプションの上書きで期待するコンデンス結果を得られなかった場合にのみ、手動によるプレーヤーのコンデンスを行なうことをおすすめします。

このような場合は、手動コンデンスの選択について慎重に検討することをおすすめします。Dorico Pro は、たとえあいまいな結果が生成されるとしても、手動コンデンスの設定に正確に従います。たとえば、リズムが大きく異なる 2 人のプレーヤーを同じ譜表の同じ声部に割り当てた場合、生成される譜表では多くの音符がタイで連結され、個別の声部に記譜されていたときよりも読みづらくなります。

手順

1. 楽譜領域で、プレーヤーを手動でコンデンスするレイアウトを開きます。
2. 浄書モードで、そこから先のコンデンスを手動で変更する位置にあるアイテムを選択します。

ヒント

アイテムはコンデンスされた譜表上にある必要はありません。一箇所に存在できるコンデンス方法の変更は 1 つのみですが、オプションの変更やリセットは複数の譜表に対して行なえます。

3. 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**コンデンス方法の変更 (Condensing Change)**」を選択して「**コンデンス方法の変更 (Condensing Change)**」ダイアログを開きます。
4. コンデンスグループプリストで、コンデンス方法の変更を含めるコンデンスグループのチェックボックスをオンにします。
コンデンスグループに含めると、選択した位置から新しいフレーズが始まります。
5. コンデンスを手動で変更するコンデンスグループを選択します。

補足

オプションを変更またはリセットできるコンデンスグループは一度に 1 つのみです。

6. 「**手動でコンデンス (Manual Condensing)**」セクションで、「**コンデンス方法 (Condensing Approach)**」を有効にします。
7. 「**手動でコンデンス (Manual Condensing)**」を選択します。
8. プレーヤーリストでプレーヤーを選択します。
9. 以下のいずれかの操作を行なって、プレーヤーを声部や譜表に割り当てます。
 - プレーヤーをクリックして右側のリストにドラッグします。
 - 「**声部に追加 (Add to Voice)**」をクリックします。初期設定では、最初のプレーヤーが最初の譜表の符尾が上向きの声部に割り当てられます。
10. 次のプレーヤーを別の譜表に割り当てるには、右側のリストの下部にあるアクションバーの「**譜表を追加 (Add Staff)**」をクリックします。

初期設定では、プレーヤーリストの一番上のプレーヤーが、新しい譜表の符尾が上向きの声部に自動的に割り当てられます。

11. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって、引き続き声部または譜表にプレーヤーを割り当てます。
 - プレーヤーをクリックして、右側のリストの任意の声部や譜表にドラッグします。挿入ラインはプレーヤーが割り当てられる場所を示します。
 - プレーヤーリストでプレーヤーを選択し、右側のリストで割り当て先の声部や譜表を選択して「**声部に追加 (Add to Voice)**」をクリックします。

補足

- ダイアログを確定して閉じるには、コンデンスグループ内のすべてのプレーヤーを声部または譜表に割り当てる必要があります。すべてのプレーヤーを割り当てるまで、コンデンスグループリストのコンデンスグループの横に警告アイコンが表示されます。
- 譜表の符尾が上向きの声部には、少なくとも1人のプレーヤーを必ず割り当てる必要があります。符尾が下向きの声部にのみプレーヤーを割り当てることはできません。

12. 必要に応じて、選択した位置から先を手動でコンデンスするコンデンスグループごとに手順5から11を繰り返します。
13. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

現在のレイアウトの選択した位置から先のコンデンス結果が変更されます。チェックボックスをオンにした各コンデンスグループについて、コンデンス方法の変更の前後のコンデンス結果が再計算されます。コンデンス方法の変更の位置は新しいフレーズの始まりとして扱われます。手動コンデンスを変更したコンデンスグループは、指定した割り当てを変更またはリセットする次のコンデンス方法の変更がある位置 (存在する場合)、またはフローの終了位置のいずれか早い方までそれらの割り当てに従います。

コンデンス方法の変更の位置にはガイドが表示されます。

関連リンク

- [コンデンスのフローごとの記譜オプション \(479 ページ\)](#)
- [コンデンス結果 \(483 ページ\)](#)
- [コンデンスグループ \(485 ページ\)](#)
- [カスタムコンデンスグループの作成 \(485 ページ\)](#)
- [任意の位置からコンデンスオプションを変更する \(487 ページ\)](#)

任意の位置からコンデンス方法の変更をリセットする

コンデンスに対して行なった変更をフローごとのデフォルトにリセットできます。選択した記譜オプションのみをリセットすることも、個々のレイアウト内の選択した位置から先をリセットすることもできます。

手順

1. 楽譜領域で、コンデンス方法の変更をリセットするレイアウトを開きます。
2. 浄書モードで、コンデンスをリセットする位置にあるアイテムを選択します。

ヒント

アイテムはコンデンスされた譜表上にある必要はありません。一箇所に存在できるコンデンス方法の変更は1つのみですが、オプションの変更やリセットは複数の譜表に対して行なえます。

3. 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**コンデンス方法の変更 (Condensing Change)**」を選択して「**コンデンス方法の変更 (Condensing Change)**」ダイアログを開きます。

4. コンデンシンググループリストで、コンデンシング方法の変更に含めるコンデンシンググループのチェックボックスをオンにします。
コンデンシンググループに含めると、選択した位置から新しいフレーズが始まります。
5. コンデンシングをリセットするコンデンシンググループを選択します。

補足

オプションを変更またはリセットできるコンデンシンググループは一度に1つのみです。

6. 以下のいずれかの操作を行なって、コンデンシングをリセットします。
 - コンデンシングオプションへの以前の変更をリセットするには、「**記譜オプション (Notation Options)**」セクションで、リセットするオプションを有効にして「**リセット (Reset)**」を選択します。
 - 以前の手動によるコンデンシング方法の変更をリセットするには、「**手動でコンデンシング (Manual Condensing)**」セクションで、「**コンデンシング方法 (Condensing Approach)**」を有効にして「**リセット (Reset)**」を選択します。
 7. 必要に応じて、コンデンシングをリセットするコンデンシンググループごとに手順5と6を繰り返します。
 8. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

有効にしたオプションのフローごとの記譜オプションに従うようにコンデンシング結果がリセットされます。手動によるコンデンシング方法の変更の場合は、コンデンシング結果が完全にリセットされます。これは、選択した位置から次のコンデンシング方法の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか早い方まで適用されます。

コンデンシング方法の変更の位置にはガイドが表示されます。

コンデンシング方法の変更の削除

手動によるコンデンシング方法の変更を削除して、フロー内の前のコンデンシング方法の変更 (存在する場合) やそのレイアウトのデフォルトのコンデンシング設定に戻すことができます。

手順

1. 削除するコンデンシング方法の変更のガイドを選択します。
 2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
-

結果

選択したコンデンシング方法の変更が削除されます。コンデンシング結果が、フロー内の前のコンデンシング方法の変更 (存在する場合) またはそのレイアウトのデフォルト設定に戻ります。これは、次のコンデンシング方法の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか早い方まで適用されます。

プレーヤーラベル

プレーヤーラベルには、コンデンシングされた譜表上の音符が属するプレーヤーが表示されます。これは通常、楽譜のコンデンシング方法が変化することを示すのに使用されます。たとえば、別々のパートがユニゾン演奏に移行する場合や、個別の符尾を持つプレーヤーの一部が符尾を共有する場合などで

す。プレーヤーラベルには、対応する声部に含まれている楽譜が属するプレーヤーの番号が表示されません。符尾が上向きの声部ではプレーヤーラベルが譜表の上に配置され、符尾が下向きの声部では譜表の下に表示されます。初期設定では、垂直方向のスペーシングの圧迫感が軽減されるよう、プレーヤーラベルの位置の左側にわずかに水平方向のオフセットが設定されています。

各譜表上の楽譜が第1プレーヤー(1)と第2プレーヤー(2)のどちらに属しているかを示すプレーヤーラベル(丸付き)

Dorico Pro では、コンデンスが前のフレーズと異なるフレーズの開始位置および新しい組段の開始位置にプレーヤーラベルが自動的に表示されます。また、複数のプレーヤーが同じ音符を演奏する場合、初期設定では、「へ」を表わす標準の指示記号「a」が使われます。

- 音符が1人のプレーヤーだけに属している場合、プレーヤーラベルにはそのプレーヤーの番号が表示されます。また、別のインストゥルメントと一緒にコンデンスされた番号の付いていないプレーヤーにはインストゥルメントの略称が表示されます。
- 音符がその譜表上のすべてのプレーヤーに属している場合、プレーヤーラベルには「へ」を表わす指示記号のあとに譜表上のプレーヤーの数が表示されます(例: 「a 3」)。
- 音符がその譜表上の複数のプレーヤー(ただし全員ではない)に属している場合、プレーヤーラベルにはこれらのプレーヤーの番号のあとに「へ」を表わす指示記号が表示されます(例: 「1.2 a 2」)。別のインストゥルメントと一緒にコンデンスされた番号の付いていないプレーヤーのプレーヤーラベルには、インストゥルメントの略称のあとに「へ」を表わす指示記号が表示されます(例: 「Fl. Ob. a2」)。

ヒント

- オフセットと「へ」の指示記号を含むプレーヤーラベルの外観と位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コンデンス (Condensing)**」ページで変更できます。
- プレーヤーラベルには、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで編集できる「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」のパラグラフスタイルが使用されます。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

[コンデンスされた譜表の譜表ラベル \(1170 ページ\)](#)

[コンデンスされた譜表ラベルの番号をスタックする方法の変更 \(1171 ページ\)](#)

浄書オプションでプレーヤーラベルの設定をプロジェクト全体に適用する

プロジェクト全体のプレーヤーラベルの外観と配置のオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コンデンス (Condensing)**」ページにあります。

「**コンデンス (Condensing)**」ページのオプションを使用すると、プレーヤーラベルと譜表およびその他のアイテムとの間の正確な距離を設定したり、背景を塗りつぶすかどうかを選択したり、プレーヤー番号をピリオドで区切るかどうかを変更したり、「へ」を表わす指示記号として表示するテキストを変更したりできます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

プレーヤーラベルを表示/非表示にする

たとえば、同じページに複数の組段がある場合に組段の最初に自動的に表示されるプレーヤーラベルを非表示にしたい場合など、プレーヤーラベルを個別に表示/非表示にできます。

手順

1. 浄書モードで、表示/非表示を切り替えるプレーヤーラベルを選択します。
2. プロパティパネルの「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」グループで、「**非表示 (Hide)**」をオンまたはオフにします。

結果

「**非表示 (Hide)**」をオンにすると選択したプレーヤーラベルが非表示になり、オフにすると表示されます。

非表示にした各プレーヤーラベルの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

補足

- これは現在のレイアウトのプレーヤーラベルにのみ影響しますが、プロパティの設定は他のレイアウトにコピーできます。
- プレーヤーラベルのガイドを表示しない場合は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」を選択します。メニュー内の「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」の横にチェックマークがあるときはプレーヤーラベルのガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

関連リンク

[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(501 ページ\)](#)

[ガイドの表示/非表示の切り替え \(339 ページ\)](#)

[注釈 \(621 ページ\)](#)

プレーヤーラベルのテキストを編集する

たとえば、デフォルトで表示される形式とは異なる形式で譜表のコンデンスを表わしたい場合などに、プレーヤーラベルに表示されるテキストを個別に上書きできます。

手順

1. 浄書モードで、テキストを編集するプレーヤーラベルを選択します。
2. プロパティパネルの「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」グループで、「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオンにします。
3. 対応するプレーヤーラベルに表示するテキストを値フィールドに入力します。
4. **[Return]** を押します。

結果

選択したプレーヤーラベルが、入力したテキストを表示するように変更されます。

「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオフにすると、対応するプレーヤーラベルがデフォルトのテキストに戻ります。

補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

プレーヤーラベルを 1 行または 2 行で表示する

初期設定では、プレーヤーラベルは 1 行で表示されます。個々のプレーヤーラベルに改行を挿入して、インストゥルメント番号と「a2」の指示を 2 行に表示できます。これにより、多くのインストゥルメント番号が含まれるプレーヤーラベルの水平方向に占めるスペースを削減できます。

手順

1. 浄書モードで、改行を挿入するプレーヤーラベルを選択します。
2. プロパティパネルの「プレーヤーラベル (Player Labels)」グループで、「改行 (Line break)」をオンまたはオフにします。

結果

「改行 (Line break)」をオンにすると現在のレイアウトの選択したプレーヤーラベルが 2 行で表示され、オフにすると 1 行で表示されます。

補足

これは現在のレイアウトのプレーヤーラベルにのみ影響しますが、プロパティの設定は他のレイアウトにコピーできます。

例



1 行で表示されたプレーヤーラベル



2 行で表示されたプレーヤーラベル

プレーヤーラベルの表示位置を移動する

たとえば、ほかのアイテムの影響で遠くに表示されているプレーヤーラベルを譜表に近づけたい場合などに、プレーヤーラベルの表示位置を個別に移動できます。

手順

1. 浄書モードで、移動するプレーヤーラベルを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、プレーヤーラベルを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらかーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したプレーヤーラベルが新しい表示位置に移動します。初期設定では、プレーヤーラベルを譜表内に配置するとその部分の背景が塗りつぶされるため、プレーヤーラベルと譜表線が重なることはありません。

ヒント

プレーヤーラベルを移動すると、プロパティパネルの「**一般 (Common)**」グループにある「**オフセット (Offset)**」が自動的にオンになります。

- 「**オフセット X (Offset X)**」はプレーヤーラベルを水平に移動させます。
- 「**オフセット Y (Offset Y)**」は、プレーヤーラベルを垂直に移動させます。

このプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更してプレーヤーラベルを移動させることもできます。

プロパティをオフにすると、選択したプレーヤーラベルが初期設定の位置にリセットされます。

プレーヤーラベルの背景の塗りつぶし

Dorico Pro の初期設定では、密度の高いスコアでプレーヤーラベルを譜表内に配置しなければならない場合に、プレーヤーラベルと譜表線が重ならないようプレーヤーラベルの背景が塗りつぶされます。塗りつぶしの余白の変更を含め、すべてのプレーヤーラベルに適用されるデフォルト設定を変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**コンデンス (Condensing)**」をクリックします。
3. 「**プレーヤーラベル (Player Labels)**」サブセクションで、「**背景を余白で塗りつぶし (Erase background with padding)**」をオンまたはオフにします。
4. 「**背景を余白で塗りつぶし (Erase background with padding)**」をオンにした場合は、必要に応じて値フィールドの値を変更してプレーヤーラベルの周囲の塗りつぶしの余白を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**背景を余白で塗りつぶし (Erase background with padding)**」をオンにすると、プロジェクト全体のすべてのプレーヤーラベルの背景が塗りつぶされ、オフにすると塗りつぶされません。背景が塗りつぶされる場合、塗りつぶしの余白は設定された値によって決まります。

コンデンスされた楽譜の色を表示/非表示にする

コンデンスされた楽譜を見分けられるよう、コンデンスされた譜表上の音符と休符をグレーで表示できます。コンデンスされた楽譜を直接選択したり編集したりすることはできません。

コンデンスされた楽譜の色は注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。

補足

コンデンシングされた楽譜の色は、コンデンシングを有効にしたレイアウトにのみ表示されます。

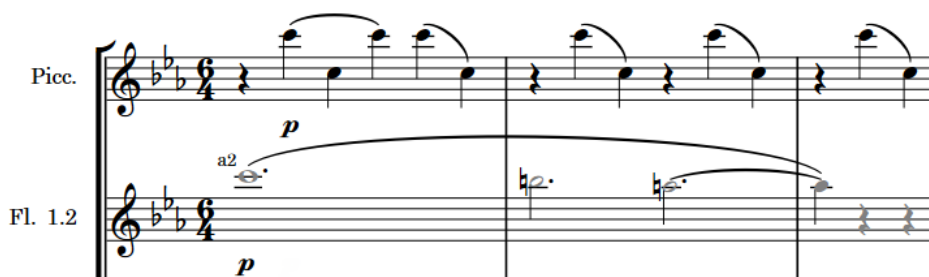
手順

- 「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)」 > 「コンデンシングした楽譜 (Condensed Music)」 を選択します。

結果

このメニューの「コンデンシングした楽譜 (Condensed Music)」にチェックマークがあるときはコンデンシングされた譜表上の音符と休符がグレーで表示され、チェックマークがないときは黒で表示されます。

例



The image shows a musical score for Piccolo (Picc.) and Flute 1 & 2 (Fl. 1.2). The Piccolo part is written in black ink, while the Flute 1 & 2 part is written in gray ink. This visual distinction indicates that the Flute parts are condensed. The score includes dynamic markings such as *p* and *a2*.

コンデンシングされた楽譜の色を表示した状態。コンデンシングされていないピッコロの譜表では音符と休符が黒で表示され、コンデンシングされたフルート1と2の譜表ではグレーで表示されています。

関連リンク

[コンデンシングの有効化/無効化 \(455 ページ\)](#)

[注釈 \(621 ページ\)](#)

パート形式のコピー

パート形式のコピーは、特定のパートレイアウトのページのレイアウトを決めるレイアウトオプションと組段の形式をコピーし、それらを別のパートレイアウトに適用します。これにより、似たパートの形式設定を行なう際の時間を短縮できます。

組段の形式設定には、組段区切りとフレーム区切りの位置に加え、音符に必要な水平方向のスペースに影響する音符のスペーシングの変更も含まれます。

Dorico Pro では、レイアウトオプションと組段の形式設定を、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへまとめてコピーしたり、別々にコピーしたりできます。たとえば、コピー元のレイアウトの形式設定が主に「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「配置設定 (Casting Off)」の設定に依存している場合、コピー先のレイアウトで各組段に組段区切りとフレーム区切りを追加することなく必要な形式設定を作成するには、レイアウトオプションだけをコピーすれば十分でしょう。

また、レイアウト固有のプロパティ設定を、楽譜領域で現在開いているレイアウトから、それらのアイテムが表示される他のすべてのレイアウトにコピーすることもできます。

補足

- パート形式のコピーはパートレイアウトにのみ使用できます。フルスコアレイアウトまたはカスタムスコアレイアウトをパート形式のコピー元またはコピー先として使用することはできません。
- 予期しない結果を招くことがあるため、複数の楽曲フレームチェーンを持つレイアウトをコピー元またはコピー先のレイアウトとして使用することはおすすめしません。

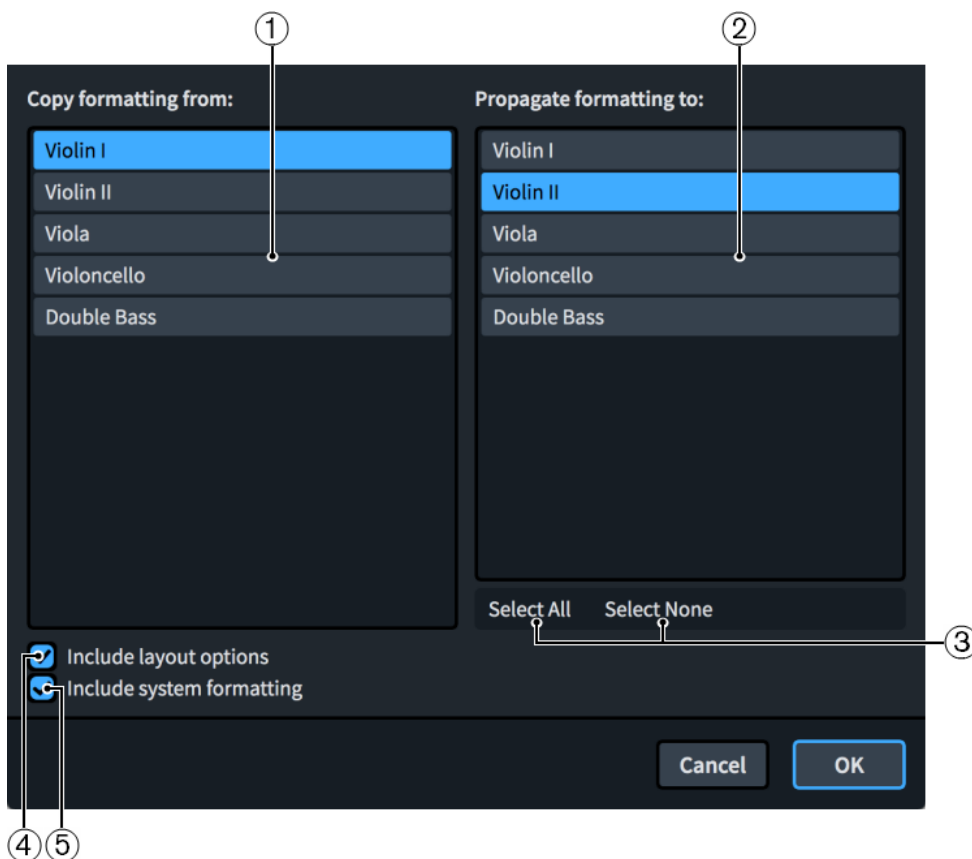
- パート形式のコピーには、浄書モードで設定した個々のページへのページの優先は含まれません。

「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」 ダイアログ

「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」ダイアログでは、ページの形式設定とレイアウトのオプションを、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーできます。

設定モードでは、以下のいずれかの操作を行なって、「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」ダイアログを開くことができます。

- 「レイアウト (Layouts)」パネルでパートレイアウトを右クリックして、コンテキストメニューから「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」を選択します。「次の形式設定からコピー (Copy formatting from)」リストには、右クリックしたレイアウトがコピー元のレイアウトとして自動的に選択されます。
- 「設定 (Setup)」 > 「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」を選択します。



「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」ダイアログ

「パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)」ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。

- 「次の形式設定からコピー (Copy formatting from)」リスト**
プロジェクト内のすべてのパートレイアウトが表示されます。コピー元のレイアウトとして選択できるパートレイアウトは1つのみです。
- 「形式設定のコピー先 (Propagate formatting to)」リスト**
プロジェクト内のすべてのパートレイアウトが表示されます。複数のパートレイアウトをコピー先のレイアウトとして選択できます。
- 選択オプション**
「形式設定のコピー先 (Propagate formatting to)」リストですべてのパートレイアウトを選択/選択解除できます。

4 レイアウトオプションを含める (Include layout options)

パート形式に関するレイアウトオプションをコピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーできます。これらのオプションには、ページサイズ、ページ余白、デフォルトのマスターページのセット、線間の高さ、垂直方向のスペーシング、音符のスペーシング、配置設定、長休符の設定、譜表ラベルなどが含まれます。

5 組段の形式設定を含める (Include system formatting)

組段内の小節、ページ内の組段、および音符のスペーシングの変更の配置を、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーできます。Dorico Pro では、組段区切り、フレーム区切り、音符のスペーシングの変更をコピーし、必要に応じて追加の組段区切りとフレーム区切りを入力し、コピー先のレイアウトに存在する組段区切り、フレーム区切り、音符のスペーシングの変更を削除することでこれを実行します。

パート形式を別のレイアウトにコピーする

プロジェクトの複数のパートレイアウトに類似の形式設定を行なう時間を節約したい場合など、すべての形式設定をパートレイアウトからパートレイアウトへとコピーできます。ページサイズや余白のほか、組段区切りやフレーム区切りといったその他のページの形式設定など、レイアウトオプションを含めることができます。

補足

- パート形式のコピーはパートレイアウトにのみ使用できます。フルスコアレイアウトまたはカスタムスコアレイアウトをパート形式のコピー元またはコピー先として使用することはできません。
- 予期しない結果を招くことがあるため、複数の楽曲フレームチェーンを持つレイアウトをコピー元またはコピー先のレイアウトとして使用することはおすすめしません。

手順

1. 設定モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルでパート形式をコピーするパートレイアウトのカードを右クリックして、コンテキストメニューから「**パート形式をコピーする (Propagate Part Formatting)**」を選択します。
2. 「**次の形式設定からコピー (Copy formatting from)**」リストで、パート形式のコピー元となるパートレイアウトを選択します。
デフォルトでは、ダイアログを開く際に右クリックしたカードが選択されています。
3. 「**形式設定のコピー先 (Propagate formatting to)**」リストで、パート形式のコピー先となるパートレイアウトを選択します。
アクションバーで選択オプションを使用できます。また、**[Shift]** を押しながらクリックすると隣接するレイアウトを選択でき、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックすると個々のレイアウトを選択できます。
4. 「**レイアウトオプションを含める (Include layout options)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**組段の形式設定を含める (Include system formatting)**」をオンまたはオフにします。
6. 「**OK**」をクリックすると、選択したレイアウトにパート形式がコピーされ、ダイアログが閉じます。

結果

選択したコピー元のレイアウトから選択したコピー先のレイアウトにパート形式がコピーされます。ただし、浄書モードで設定した個々のページへのページの優先はコピーされません。

- 「**レイアウトオプションを含める (Include layout options)**」をオンにすると、コピー元レイアウトからコピー先レイアウトへとレイアウトオプションがコピーされます。
- 「**組段の形式設定を含める (Include system formatting)**」をオンにすると、組段内の小節、ページ内の組段、および音符のスペーシングの変更の配置が、コピー元のレイアウトからコピー先のレイアウトへコピーされます。

ヒント

コピー元のレイアウトの形式設定が主に「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**配置設定 (Casting Off)**」の設定に依存している場合、コピー先のレイアウトで各組段に組段区切りとフレーム区切りを追加することなく非常によく似た形式設定を作成するには、「**レイアウトオプションを含める (Include layout options)**」だけをオンにすれば十分でしょう。

プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする

プロパティの多くはレイアウト固有です。つまり、楽譜領域で現在開いているレイアウトにのみ影響します。音符とアイテムに設定されたプロパティを、それらが表示される他のすべてのレイアウトにコピーできます。たとえば、フルスコアレイアウトで段階的強弱記号のスタイルを変更したあと、同じスタイルを持つ段階的強弱記号をパートレイアウトに表示できます。

手順

1. 別のレイアウトにプロパティをコピーする音符またはアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

コピーされるプロパティは現在のモードによって決まります。たとえば記譜モードの場合、記譜モードで使用できるプロパティだけがコピーされます。

2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**レイアウトをコピー (Propagate Properties)**」を選択します。
-

結果

選択した音符/アイテムに設定された、現在のモードで使用できるすべてのプロパティが、それらの音符/アイテムが表示されるすべてのレイアウトにコピーされます。たとえば、記譜モードでスラーを選択した場合、譜表に対する位置とデザインの設定がコピーされます。浄書モードでスラーを選択した場合は、スラーの終了位置と制御ポイントの位置もコピーされます。

関連リンク

[大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)

[アイテムの外観のリセット \(333 ページ\)](#)

[アイテムの位置をリセットする \(334 ページ\)](#)

再生モード

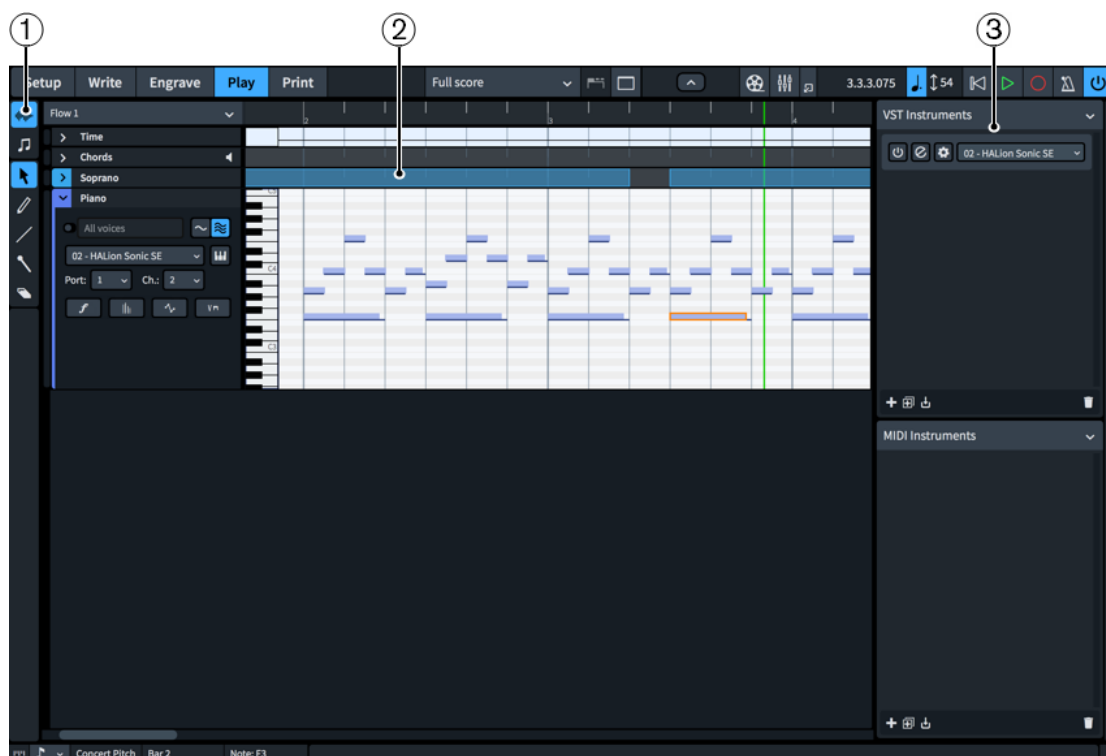
再生モードでは、再生時に楽譜をどのように発音するかを変更できます。たとえば、再生テンプレートの変更や VST インストゥルメントの割り当て、オートメーションの入力、ミキシングの調節などを行なえるほか、再生時に記譜上のデュレーションに影響を与えずに音を発音するデュレーションを変更することもできます。

再生モードのプロジェクトウィンドウ

再生モードのプロジェクトウィンドウには、初期設定ツールバーとイベントディスプレイに加え、プロジェクトの再生の設定に必要なすべてのツールと機能を含むツールボックスとパネルが表示されます。

再生モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[4]** を押します。
- ツールバーで「再生 (Play)」をクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「再生 (Play)」を選択します。



再生モードのプロジェクトウィンドウ

補足

再生モードにプロパティパネルはありません。

再生モードのプロジェクトウィンドウには、以下のセクションが含まれます。

1 再生ツールボックス

イベントディスプレイで音符イベントを選択したり編集したりできるツールが含まれます。

2 イベントディスプレイ

プロジェクトの各フローの再生を確認したり、音符を入力したりできます。また、演奏される音符のデュレーションの変更や、任意の位置でのテンポの変更など、再生を編集することができます。

3 VST および MIDI インストゥルメントパネル

新しい VST インストゥルメントや MIDI インストゥルメントをロードできます。また、既存の VST インストゥルメントや MIDI インストゥルメントを選択して、設定を編集することもできます。

再生ツールボックス

再生ツールボックスには、再生モードのイベントディスプレイで音符イベントを選択したり編集したりできるツールが含まれます。このツールボックスは、再生モードのウィンドウの左側に配置されています。

演奏されるデュレーション (Played Durations)



音符の記譜されたデュレーションに影響を与えずに、音符の再生の開始位置や終了位置を変更できます。「**演奏されるデュレーション (Played Durations)**」を選択すると、音符の記譜されたデュレーションを示す細い線の上に、演奏されるデュレーションのイベントが淡い色で表示されます。

記譜されたデュレーション (Notated Durations)



音符のデュレーションを変更できます。これによって音符の位置や記譜項目に影響を受けます。「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」を選択すると、ピアノロールエディターに、音符の完全な記譜されたデュレーションがそれぞれ1つのイベントとして表示されます。

オブジェクトの選択 (Object Selection)



ピアノロールエディターやドラムエディター上の音符、オートメーションレーンや強弱記号レーン上のポイントなどのイベントを選択できます。

[S] を押しても **オブジェクトの選択** ツールを選択できます。

鉛筆 (Draw)



ピアノロールエディターとドラムエディター上でノートの入力と編集を行なえます。ピアノロールエディター上でクリックアンドドラッグして、任意のデュレーションの音符を入力できます。入力した音符の終了位置は、現在のリズムグリッドの間隔に従って、適切な拍の位置にスナップします。

また、**タイムトラック**、オートメーションレーン、ベロシティーレーンにポイントを追加することもできます。**ライン** ツールのかわりに **鉛筆** ツールを使用すると、現在のリズムグリッドの間隔に従って一定間隔でポイントが追加されます。

[D] を押しても **鉛筆** ツールを選択できます。

ライン (Line)



タイムトラック、オートメーションレーン、ベロシティーレーン上の2つのポイント間に直線を描くことができます。ポイント間には他の値は追加されません。

パーカッションの鉛筆 (Draw Percussion)



ドラムエディター上の打楽器の譜表に、クリックするだけで音符を追加できます。「**パーカッションの鉛筆 (Draw Percussion)**」の使用時は、デューションを入力するのにドラッグする必要はありません。

削除 (Erase)



音符を削除できます。「**削除 (Erase)**」を選択した状態で範囲選択すると、複数の音符を削除できます。

[E] を押しても **削除** ツールを選択できます。

ヒント

「**削除 (Erase)**」の選択を解除するには、「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択します。

関連リンク

[イベントディスプレイでの音符の入力 \(513 ページ\)](#)

[イベントディスプレイでの音符の削除 \(517 ページ\)](#)

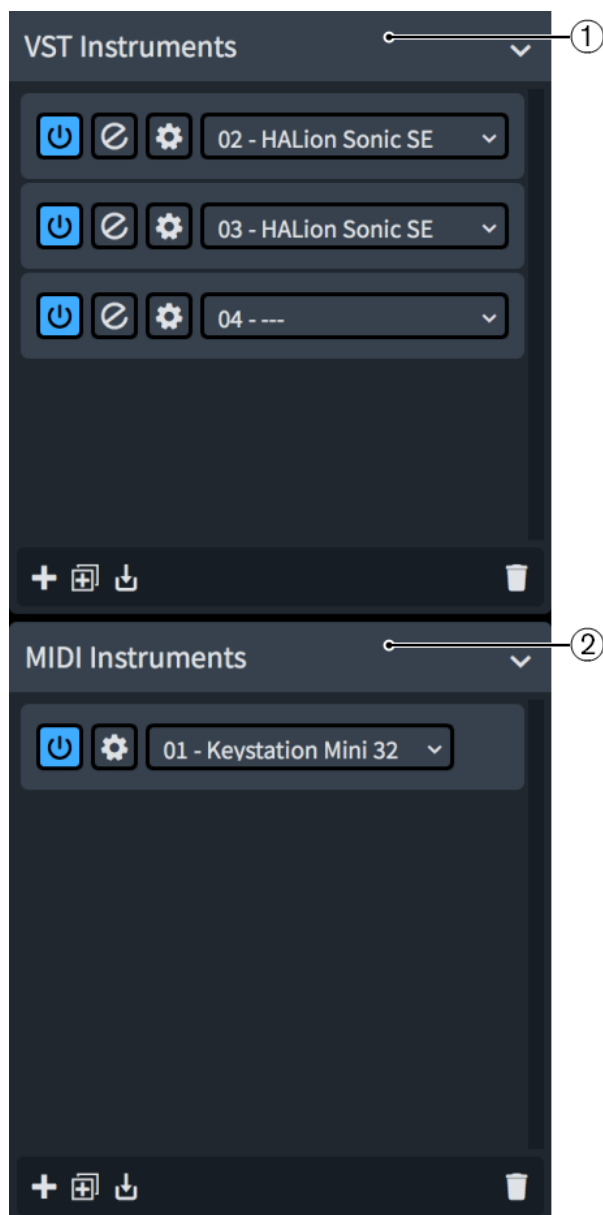
[タイムトラック \(538 ページ\)](#)

[オートメーションレーン \(531 ページ\)](#)

[ベロシティレーン \(528 ページ\)](#)

VST および MIDI インストゥルメントパネル

VST および MIDI インストゥルメントパネルには、プロジェクトで使用可能もしくは使用されている VST インストゥルメントおよび MIDI インストゥルメントが含まれ、各インストゥルメントの設定を編集できます。このパネルは、再生モードのウィンドウの右側に配置されています。



VST および MIDI インストゥルメントパネル

VST および MIDI インストゥルメントパネルには、以下のセクションが含まれます。

- 1 VST インストゥルメント (VST Instruments)
- 2 MIDI インストゥルメント (MIDI Instruments)

VST インストゥルメント

このパネルの「VST インストゥルメント (VST Instruments)」セクションには、VST インストゥルメントが含まれているプラグインが表示されます。Dorico Pro では、現在の再生テンプレートに応じて、プロジェクトに追加したインストゥルメントに必要なプラグインが自動的にロードされますが、VST インストゥルメントを手動でロードすることもできます。

同じプラグインが複数ある場合にプラグインを区別できるよう、プラグインは自動的に番号付けされま
す。

補足





初期設定では、「**VST インストゥルメント (VST Instruments)**」セクションには、VST 3 インストゥル
メントのみが表示されます。VST 2 インストゥルメントも使用できるようにするには、ホワイトリスト
に設定する必要があります。初期設定では、Kontakt のみが使用できます。



各プラグインには以下のセクションが含まれます。

- 1 インストゥルメントを有効化 (Activate Instrument)**
プラグインを有効化/無効化します。
- 2 インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)**
VST インストゥルメントウィンドウを開いたり閉じたりします。
- 3 エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**
対応するプラグインの「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを開きます。
- 4 VST インストゥルメントメニュー**
プラグインに現在ロードされている VST インストゥルメントが表示され、メニューからは別の VST
インストゥルメントを選択できます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **追加 (Add):** 空の新規プラグインを追加します。

- **複製 (Duplicate):** 選択したプラグインのコピーを作成し、元のプラグインとは別の設定に編集でき
ます。

- **エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration):** セクション内のすべてのプラグイ
ンの現在の状態をカスタムエンドポイント設定として保存します。

- **削除 (Delete):** 選択したプラグインを削除します。


MIDI インストゥルメント

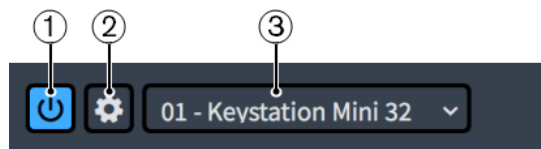
このパネルの「**MIDI インストゥルメント (MIDI Instruments)**」セクションには、再生中の出力に使用
する MIDI デバイスが含まれているプラグインが表示されます。使用できる MIDI デバイスはオペレー
ティングシステムによって異なります。

- Windows の場合、コンピューターに接続されている任意の MIDI デバイスを選択できます。
- macOS の場合は、コンピューターに接続されている任意の MIDI デバイス、または「Audio MIDI
設定」アプリケーションで設定した他の任意のデバイスを選択できます。これにより、たとえば
MIDI デバイスを複数のアプリケーションで使用できます。

ヒント

Dorico Pro を起動する前に MIDI デバイスをコンピューターに接続することをおすすめします。また、デバイスが認識されない場合は Dorico Pro を再起動することをおすすめします。

同じプラグインが複数ある場合にプラグインを区別できるよう、プラグインは自動的に番号付けされます。



各 MIDI には以下のセクションが含まれます。

- 1 インストゥルメントを有効化 (Activate Instrument)**
プラグインを有効化/無効化します。
- 2 エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**
対応するプラグインの「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを開きます。
- 3 MIDI インストゥルメントメニュー**
プラグインに現在ロードされている MIDI デバイスが表示され、メニューから別の MIDI デバイスを選択できます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **追加 (Add):** 空の新規プラグインを追加します。
- **複製 (Duplicate):** 選択したプラグインのコピーを作成し、元のプラグインとは別の設定に編集できます。
- **エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration):** セクション内のすべてのプラグインの現在の状態をカスタムエンドポイント設定として保存します。
- **削除 (Delete):** 選択したプラグインを削除します。

関連リンク

[再生テンプレート \(567 ページ\)](#)

[エンドポイント \(576 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)

VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする

Dorico Pro では、現在の再生テンプレートに応じて、プロジェクトに必要なプラグインが自動的にロードされます。ただし、VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードすることもできます。新しいプラグインにロードすることも、既存のプラグインにロードして既存の VST/MIDI インストゥルメントを置き換えることもできます。

前提条件

- 使用する VST インストゥルメントをコンピューター上に保存しておきます。
- 使用する MIDI デバイスを接続しておきます。

ヒント

Dorico Pro を起動する前に MIDI デバイスをコンピューターに接続することをおすすめします。また、デバイスが認識されない場合は Dorico Pro を再起動することをおすすめします。

手順

1. VST/MIDI インストゥルメントを新規プラグインにロードする場合は、VST および MIDI インストゥルメントパネルの対応するセクションで「追加 (Add)」をクリックします。



2. 新しい VST/MIDI インストゥルメントをロードするプラグインで、ロードする VST/MIDI インストゥルメントをメニューから選択します。
-

関連リンク

[再生テンプレート](#) (567 ページ)

VST インストゥルメントをホワイトリストに設定する

Dorico Pro で使用する VST 2 インストゥルメントはすべて、ホワイトリストに設定する必要があります。一度ホワイトリストに設定したプラグインは、すべてのプロジェクトで使用できるようになります。

Dorico Pro には、デフォルトで vst2whitelist.txt ファイルが含まれています。このテキストファイルには、Steinberg 社によって Dorico Pro との使用が認定された VST 2.x プラグインがリスト表示されています。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
2. ページリストの「**再生 (Play)**」をクリックします。
3. 「**VST プラグイン (VST Plug-ins)**」サブセクションで、「**VST2 のホワイトリストを編集 (Edit VST2 Whitelist)**」をクリックして vst2whitelist.txt ファイルをテキストエディターで開きます。
4. ホワイトリストに設定する VST プラグインの名前を入力します。

補足

- プラグインは、1 行につき 1 つのみ入力します。
 - プラグインファイルの拡張子 (Windows の場合は .dll、macOS の場合は .vst) は含めないでください。
-

5. テキストファイルを保存して閉じます。
 6. 「**閉じる (Close)**」をクリックして「**環境設定 (Preferences)**」ダイアログを閉じます。
 7. Dorico Pro を終了します。
-

結果

Dorico Pro の次回起動時に、ホワイトリストに設定した VST プラグインがプログラムで使用できるようになります。

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ](#) (61 ページ)

「再生オプション」ダイアログ

「再生オプション (Playback Options)」ダイアログには、記譜した楽譜の再生方法をプロジェクト全体で変更できるオプションがあります。これらのオプションは、エクスプレッションマップやパッチに関係なく、再生に影響を与えます。

「再生オプション (Playback Options)」ダイアログでは、強弱記号、ペダル線、およびさまざまな記譜記号が再生時にどのように反映されるかを変更できます。

たとえば、小節の1拍目の音符の音量を他の拍の音符と比べて大きくしたり、それぞれのペダルのリテイクが続く長さを変更したり、スタッカティッシモやテヌートなどのさまざまなアーティキュレーションがどれだけ音符のデュレーションに影響するかを変更したりできます。

「再生オプション (Playback Options)」を開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押します (どのモードでも使用可)。
- 再生モードで「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」を選択します。



「再生オプション (Playback Options)」ダイアログ

「再生オプション (Playback Options)」ダイアログには以下のセクションが含まれます。

1 ページリスト

ダイアログで表示および変更できるオプションのカテゴリーが、ページ別に表示されます。リスト内のページをクリックすると、リストのページの下に使用可能なセクションのタイトルが表示されます。

2 セクションタイトル

選択したページのすべてのセクションのタイトルが表示されます。セクションタイトルをクリックすると、そのセクションを直接開けます。

3 セクション

ページ内のセクションが表示されます。各セクションには複数のオプションが含まれます。多くのオプションが含まれるセクションはサブセクションに分割されます。複数の設定から選択できるオプションは、現在の設定が強調表示されます。

4 デフォルトとして保存 (Save as Default)/保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- 「**デフォルトとして保存 (Save as Default)**」は、ダイアログで現在設定されているすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルトとして保存します。
 - 「**保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)**」は、現在のプロジェクトのオプションをリセットすることなく、最後に保存したデフォルト設定を削除します。保存したデフォルト設定を削除すると、以後のすべてのプロジェクトで出荷時の設定が使用されます。デフォルト設定を保存している場合は、**[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS)** を押すことで「**保存したデフォルト設定を削除 (Remove Saved Defaults)**」を選択できます。
- 5 「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」 / 「**保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)**」

デフォルト設定を保存しているかどうかで、このボタンの機能が変化します。

- デフォルト設定を保存していない場合、「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」でダイアログのすべてのオプションを出荷時の設定にリセットできます。
- デフォルト設定を保存している場合は、「**保存したデフォルト設定にリセット (Reset to Saved Defaults)**」でダイアログ内のすべてのオプションを保存したデフォルト設定にリセットできます。**[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS)** を押すことで「**出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)**」を選択できます。オプションを出荷時の設定にリセットすることで影響されるのは、現在のプロジェクトのみです。保存したデフォルト設定は影響されないため、以後のプロジェクトには保存したデフォルト設定が使用されます。

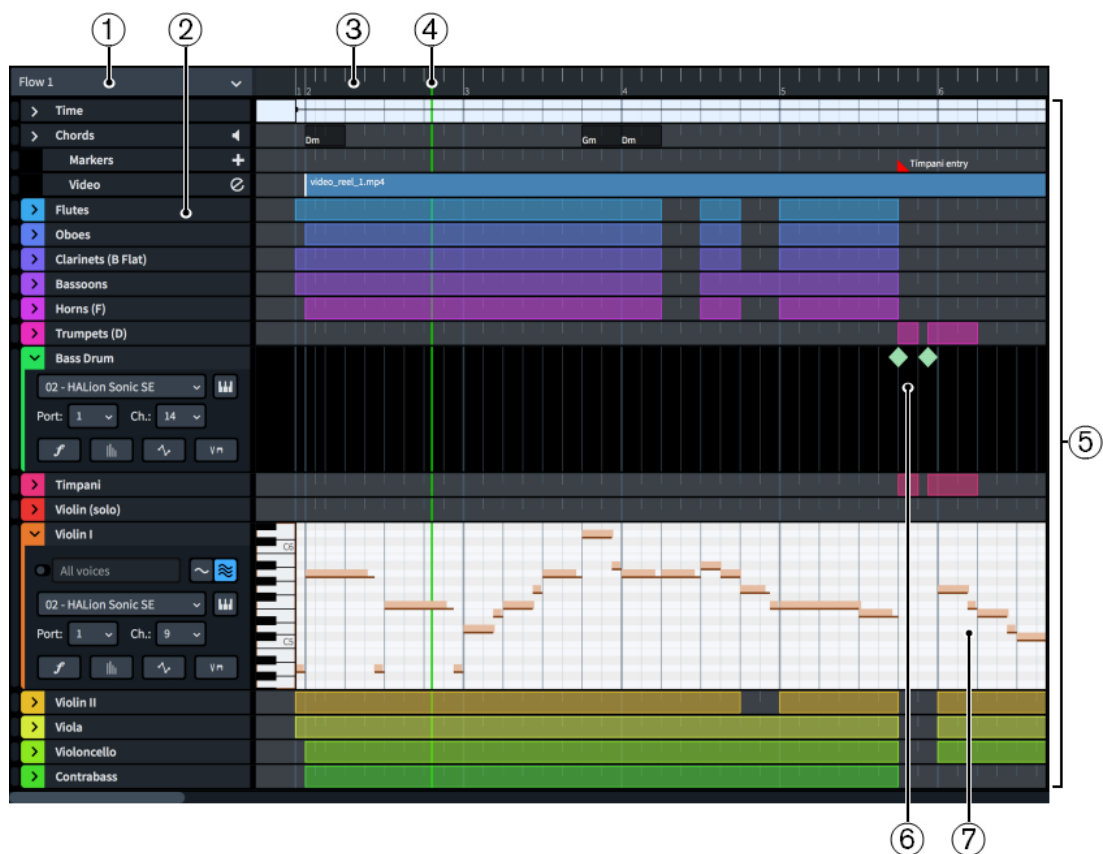
関連リンク

[エクスペリションマップ \(582 ページ\)](#)

[Dorico Pro のオプションダイアログ \(39 ページ\)](#)

イベントディスプレイ

再生モードのイベントディスプレイは、記譜モードの楽譜領域に相当します。イベントディスプレイでも楽譜を確認したり編集したりできますが、楽譜の記譜作業より楽譜の再生方法に重点が置かれています。イベントディスプレイでは、Cubase などの DAW と同じような方法でプロジェクトが表示されません。



再生モードのイベントディスプレイ

イベントディスプレイには以下のセクションが含まれます。

- 1 フローメニュー**
イベントディスプレイに表示するフローを選択できます。一度に1つのフローのみが表示されます。
- 2 トラックヘッダー**
各トラックの名前が表示され、トラックタイプに応じたオプションが含まれます。トラックタイプによっては、トラックヘッダーを展開して詳細なオプションを表示できます。
- 3 ルーラー**
小節番号が表示され、現在のリズムグリッドの間隔に従って拍の区切りが示されます。
- 4 再生ヘッド**
現在の再生位置が表示されます。
- 5 トラック**
音楽要素が含まれる行です。左から右に向かって時間を表わします。
- 6 ドラムエディター**
無音程打楽器の音符が表示されます。
- 7 ピアノロールエディター**
有音程楽器の音符が表示されます。

再生ツールボックスのツールとオプションを使用すると、イベントディスプレイ内で音符やテンポ変更などのイベントを入力したり、編集したり、削除したりできます。

関連リンク

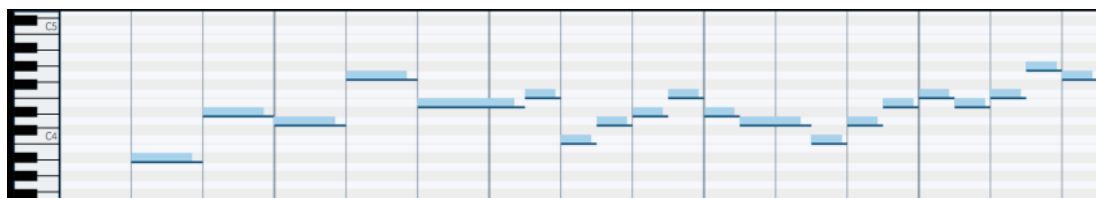
[再生ヘッド](#) (548 ページ)

[トラック](#) (518 ページ)

ピアノロールエディター

ピアノロールエディターには有音程楽器の MIDI ノートがシーケンスで表示され、音符イベントの垂直方向の位置はそれぞれのピッチを示します。

Dorico Pro では、有音程楽器のインストゥルメントトラックが、個別のピアノロールエディターで表示されます。有音程楽器の音符の垂直方向の位置は、ピアノロールエディターの左端のピアノキーボードで表わされるピッチに従って配置されます。音符の水平方向の位置は、音符のリズムとデュレーションに従って配置されます。



ピアノロールエディター

設定モードでインストゥルメントを追加すると、各インストゥルメントには自動的に色が付けられるため、再生モードでインストゥルメントを簡単に見分けられます。この色は、インストゥルメントトラックのピアノロールエディター上の音符に使用されるのに加えて、インストゥルメントトラックヘッダーのストリップとして表示されます。

ピアノロールエディター上の音符は動かしたり移調したりして、編集できます。

補足

- インストゥルメントトラックで声部の個別再生が有効になっている場合は、すべての声部の音符または単一の声部の音符だけをピアノロールエディターに表示できます。初期設定では、対応するインストゥルメントのすべての声部に属するすべての音符がピアノロールエディターに表示されます。
- 音符の演奏されるデュレーションを編集すると、ピアノロールエディター上の表示色が、演奏されるデュレーションを変更していない音符と比べて濃くなります。

関連リンク

[インストゥルメントトラック \(519 ページ\)](#)

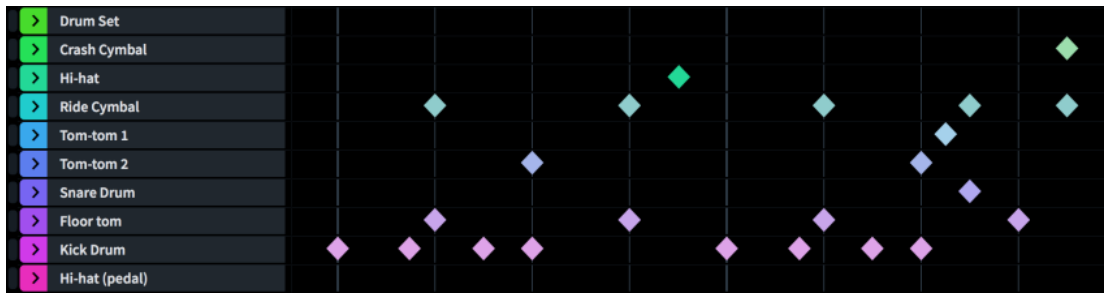
[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(600 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

ドラムエディター

ドラムエディターには無音程打楽器の MIDI ノートが、シーケンスで表示されます。ドラムエディターの外観および機能は、ピアノロールエディターとは異なります。

ピアノロールエディターにピアノロールが表示されるかわりに、ドラムエディターには各打楽器の各音符の開始位置が表示されます。音符のデュレーションによって音符イベントの幅が変わるピアノロールとは異なり、各音符は同じサイズのイベントとして表示されます。



ドラムエディター

無音程打楽器は、打楽器キットに含まれている場合でも、個別のインストゥルメントトラックがあります。他のインストゥルメントトラックと同様に、無音程打楽器のインストゥルメントトラックを展開して、インストゥルメントを他の再生エンドポイントに割り当てるなどの変更を加えることができます。

補足

無音程打楽器のエンドポイントを変更した場合、そのエンドポイントには適切なパーカッションマップが選択されている必要があります。選択されていない場合、Dorico Pro ではそのインストゥルメントの楽譜が適切に再生されません。

ドラムエディターの音符は別の位置に移動できます。無音程打楽器の音符はピッチが固定のため、ドラムエディターの音符を移調することはできません。

関連リンク

[インストゥルメントトラック \(519 ページ\)](#)

[トラックの展開/折りたたみ \(547 ページ\)](#)

イベントディスプレイでの音符の入力



再生モードのイベントディスプレイで、プロジェクトのインストゥルメントに音符を入力できます。音符を入力する手順は、有音程楽器も無音程楽器も同じです。

前提条件

インストゥルメントの特定の声部に音符を入力するには、以下の操作をしておきます。

- 記譜モードでその声部を作成して少なくとも1つの音符を入力する。
- そのインストゥルメントの声部の個別再生を有効にする。

手順

1. 有音程楽器の音符を入力する場合は、その楽器のインストゥルメントトラックを展開します。
2. 特定の声部に音符を入力する場合は、**声部**メニューからその声部を選択します。
3. インストゥルメントタイプに応じて、以下のツールのいずれかを選択します。
 - 有音程楽器のインストゥルメントトラックに音符を入力するには、**[D]** を押して**鉛筆**ツールを選択するか、再生ツールボックスの「**鉛筆 (Draw)**」をクリックします。
 - 無音程打楽器のインストゥルメントトラックに音符を入力するには、再生ツールボックスの「**パーカッションの鉛筆 (Draw Percussion)**」をクリックして**パーカッションの鉛筆**ツールを選択します。
4. インストゥルメントタイプに応じて、以下のいずれかの方法で音符を入力します。

- 有音程楽器の場合は、音符を入力するピッチの位置をクリックし、音符のデュレーションの長さを水平にドラッグします。
 - 無音程打楽器の場合は、ドラムエディター内で音符を入力する位置をクリックします。
-

結果

ピアノロールエディターでは、左側にあるピアノキーボードが示すピッチに音符が入力されます。声部メニューから声部を選択した場合は音符がその声部に入力され、選択しなかった場合はそのインストゥルメントの最初の声部に入力されます。

ドラムエディターでは、クリックするたびにに対応するインストゥルメントに音符が入力されます。音符のデュレーションは、現在のリズムグリッドの間隔に従います。トラックで強調表示された部分が、音符のデュレーションを示します。ドラムエディターに表示される音符イベントの形状は、すべてのデュレーションで同じです。

手順終了後の項目

音符の記譜されたデュレーションおよび演奏されるデュレーションは、両方変更できます。スコアの音符のデュレーションは、記譜モードでも変更できます。

関連リンク

- [インストゥルメントトラック \(519 ページ\)](#)
- [トラックの展開/折りたたみ \(547 ページ\)](#)
- [音符の演奏されるデュレーションの変更 \(600 ページ\)](#)
- [音符のデュレーションの変更 \(180 ページ\)](#)
- [複数の声部への音符の入力 \(183 ページ\)](#)
- [既存の音符の声部を変更する \(344 ページ\)](#)
- [声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

イベントディスプレイでの音符の移動

イベントディスプレイで、音符の位置を移動できます。この操作は関連するスコアおよびパートレイアウトで、選択した音符がどのように記譜されるかにも影響します。

前提条件

- 再生ツールボックスの「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」を選択しておきます。
 - 再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択しておきます。
-

手順

1. 有音程楽器に属する音符を移動する場合は、その楽器のインストゥルメントトラックを展開します。
無音程打楽器に属する音符はインストゥルメントトラックを展開することなく移動できます。
2. ピアノロール/ドラムエディターで、位置を移動する音符を選択します。

補足

インストゥルメントトラックで声部の個別再生が有効になっている場合は、現在選択している声部の音符だけがピアノロールエディターに表示されます。トラックヘッダーの**声部**メニューで「**すべての声部 (All voices)**」を選択すると、対応するインストゥルメントに属するすべての音符が表示されます。

3. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従い選択した音符を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - クリックして左右にドラッグします。
-

結果

選択した音符が新しい位置に移動します。複数の音符を選択した場合、音符はブロックとして一緒に移動します。

補足

キーボードを使用する場合、ピアノロールエディターで音符の移調と移動の両方を一連の操作で行なえます。マウスを使用する場合、移調と移動の間でマウスを放す必要があります。

関連リンク

[トラックの展開/折りたたみ \(547 ページ\)](#)

[再生ツールボックス \(503 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

ピアノロールエディター上の音符のデュレーションの変更

再生モードのピアノロールエディターで、有音程楽器の音符のデュレーションを変更できます。これによって、関連するスコアおよびパートレイアウトの音符の記譜されたデュレーションも自動的に変更されます。

前提条件

- 再生ツールボックスの「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」を選択しておきます。
 - 再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択しておきます。
-

手順

- デュレーションを変更する音符が含まれるインストゥルメントトラックを展開します。
- ピアノロールエディターで、デュレーションを変更する音符を選択します。

補足

インストゥルメントトラックで声部の個別再生が有効になっている場合は、現在選択している声部の音符だけがピアノロールエディターに表示されます。トラックヘッダーの**声部**メニューで「**すべての声部 (All voices)**」を選択すると、対応するインストゥルメントに属するすべての音符が表示されます。

- 以下のいずれかの操作を行なって、音符のデュレーションを変更します。
 - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 音符を現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 音符の長さを2倍にするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 音符の長さを半分にするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 選択した音符の右端をクリックし、目的の長さまでドラッグします。
-

結果

選択した音符のデュレーションが変更されます。

補足

終了位置が異なる複数の音符を選択してデュレーションを変更した場合、すべての音符の終了位置が強制的に同じになります。

関連リンク

[トラックの展開/折りたたみ \(547 ページ\)](#)

[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(600 ページ\)](#)

- [音符の演奏されるデュレーションの変更 \(600 ページ\)](#)
- [音符のデュレーションの変更 \(180 ページ\)](#)
- [再生ツールボックス \(503 ページ\)](#)
- [声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

ピアノロールエディター 上の音符の移調

ピアノロールエディター 上の音符の位置を垂直方向に移動して、音符を移調できます。ドラムエディターでは音符の移調をしたり、他の無音程打楽器に音符を移動したりすることはできません。

前提条件

再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択しておきます。

手順

1. 移調する音符が含まれるインストゥルメントトラックを展開します。
2. ピアノロールエディターで、移調する音符を選択します。

補足

インストゥルメントトラックで声部の個別再生が有効になっている場合は、現在選択している声部の音符だけがピアノロールエディターに表示されます。トラックヘッダーの**声部**メニューで「**すべての声部 (All voices)**」を選択すると、対応するインストゥルメントに属するすべての音符が表示されます。

3. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を移調します。
 - 音符の位置を 1 つ上げるには (C から D など)、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
 - 音符の位置を 1 つ下げるには (D から C など)、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
 - 音符をオクターブの分割 1 つ分上に移調するには (平均律 (12-EDO) で半音や平均律 (24-EDO) で 1/4 音など)、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
 - 音符をオクターブの分割 1 つ分下に移調するには (平均律 (12-EDO) で半音や平均律 (24-EDO) で 1/4 音など)、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
 - 音符を 1 オクターブ上に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
 - 音符を 1 オクターブ下に移調するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
 - 選択対象をクリックして上下にドラッグします。
-

結果

選択した音符が、ピアノロールエディター 上の新しいピッチに従い移調されます。

補足

- この操作は関連するスコアおよびパートレイアウトで、選択した音符がどのように記譜されるかにも影響します。
 - キーボードを使用する場合、ピアノロールエディターで 音符の移調と移動の両方を一連の操作で行なえます。マウスを使用する場合、移調と移動の間でマウスを放す必要があります。
-

関連リンク

- [イベントディスプレイでの音符の移動 \(514 ページ\)](#)
- [オクターブの均等な分割 \(EDO\) \(860 ページ\)](#)
- [再生ツールボックス \(503 ページ\)](#)
- [声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

イベントディスプレイでの音符の削除

再生モードのイベントディスプレイで、音符を削除できます。これによって、関連するスコアおよびパートレイアウトの音符も削除されます。

補足

インストゥルメントトラックで声部の個別再生が有効になっている場合は、現在選択している声部の音符だけがピアノロールエディターに表示されます。トラックヘッダーの**声部**メニューで「**すべての声部 (All voices)**」を選択すると、対応するインストゥルメントに属するすべての音符が表示されます。

手順

1. 有音程楽器の音符を削除する場合は、その楽器のインストゥルメントトラックを展開します。
2. 声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントトラックの場合は、トラックヘッダーの**声部**メニューから以下のいずれかを選択します。
 - 1つの声部の音符のみを削除するには、その声部を選択します。
 - 複数の声部の音符を削除するには、「**すべての声部 (All voices)**」を選択します。
3. **[E]** を押して、**削除**ツールを選択します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を削除します。
 - 個々の音符をクリックします。
 - 範囲選択して複数の音符を一度に削除します。

補足

範囲選択による削除は、打楽器キット内の打楽器を含め、単一のインストゥルメントのみで行なえます。

結果

クリックした音符または範囲選択内に含まれた音符が削除されます。

ヒント

再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択し、削除する音符をクリックして **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押すことでも音符を削除できます。

関連リンク

[範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(324 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

イベントディスプレイのトラックのズームイン/ズームアウト

イベントディスプレイのトラックのズームレベルを変更して、音符を拡大または縮小して表示できます。この場合、トラックの高さは変更されません。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、ズームレベルを変更します。
 - 音符の幅の表示を拡大するには、**[Z]** 又は **[Ctrl]/[command]+^** を押します。
 - 音符の幅の表示を縮小するには、**[Ctrl]/[command]+[-]** 又は **[X]** を押します。
 - 音符の高さの表示を拡大するには、**[Shift]** を押しながらイベントディスプレイの左端にあるピアノキーボードを上方向にドラッグします。

- 音符の高さの表示を縮小するには、**[Shift]** を押しながらイベントディスプレイの左端にあるピアノキーボードを下方方向にドラッグします。
 - 音符の幅および高さの表示を拡大するには、タッチパッドでピンチアウトします。
 - 音符の幅および高さの表示を縮小するには、タッチパッドでピンチインします。
 - 音符の幅の表示を拡大するには、イベントディスプレイのルーラー上をクリックして下方方向にドラッグします。
 - 音符の幅の表示を縮小するには、イベントディスプレイのルーラー上をクリックして上方方向にドラッグします。
-

関連リンク

[トラックの高さの変更 \(547 ページ\)](#)

トラック

トラックはイベントディスプレイに表示される行で、左から右に向かって時間を表わします。トラックを使用すると、プロジェクト内の複数の音楽要素を同時に、かつ個別にコントロールできます。

かつてテープでオーディオミキシングが行なわれ、多重録音により曲の複数のパートが独立して録音および編集され、最終的な楽曲が作成されていた時代に、トラックという用語が生まれました。

Cubase のような近代的なプログラムでは、オーディオ録音やソフトウェアインストゥルメントなど、さまざまな種類のサウンドをトラックに含めることができます。多くの場合、オーディオ録音を含むトラックにはオーディオの波形が表示され、ソフトウェアインストゥルメントを含むトラックでは、ピアノロール上に、水平位置が時間、垂直位置がピッチを示す長方形の音符イベントが表示されます。

Dorico Pro では、以下の種類のトラックが再生モードのイベントディスプレイに表示されます。

インストゥルメントトラック

インストゥルメントの種類に応じて、ピアノロールエディターまたはドラムエディターにインストゥルメントの音符が表示されます。単一のプレーヤーに複数の楽器が関連付けられている場合も含めて、プロジェクト内の楽器ごとに個別のインストゥルメントトラックが表示されます。

各インストゥルメントトラックには、強弱記号レーン、ベロシティーレーン、オートメーションレーン、演奏技法レーンもあります。

タイムトラック

記譜モードで入力したテンポ記号や「Time」トラックで加えたテンポ変更入力など、フローのテンポの変更が表示されます。

コードトラック

フロー内のコード記号が表示されます。

マーカートラック

マーカーテキストを含むフローのマーカーが表示されます。

ビデオトラック

フロー内のビデオ領域が、ファイル名も含めて表示されます。

関連リンク

[イベントディスプレイ \(510 ページ\)](#)

[タイムトラック \(538 ページ\)](#)

[コードトラック \(543 ページ\)](#)

[マーカートラック \(545 ページ\)](#)

[ビデオトラック \(546 ページ\)](#)

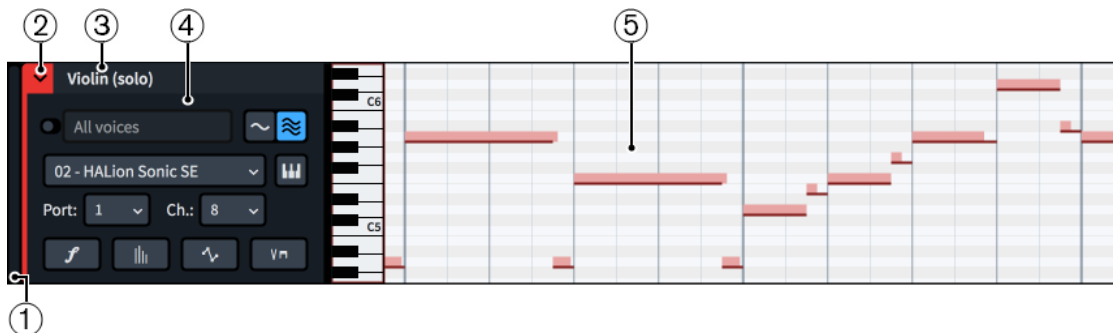
[トラックの展開/折りたたみ \(547 ページ\)](#)

インストゥルメントトラック

インストゥルメントトラックは、対応するインストゥルメントの音符の確認、入力、および編集に使用できます。音符はインストゥルメントの種類に応じて、ピアノロールエディターまたはドラムエディターに表示されます。

再生モードのイベントディスプレイには、単一のプレーヤーに複数の楽器が関連付けられている場合も含めて、プロジェクト内の楽器ごとに個別のインストゥルメントトラックが表示されます。インストゥルメントトラックには、各インストゥルメントに設定されたインストゥルメントの正式名称を使用したラベルが付けられます。

設定モードでインストゥルメントを追加すると、各インストゥルメントトラックには自動的に色が付けられるため、再生モードでインストゥルメントを簡単に見分けられます。この色は、展開したインストゥルメントトラックのストリップとしてトラックの展開矢印マークの周囲に表示されるほか、イベントディスプレイ内の音符やレーン内のイベントにも使用されます。



各インストゥルメントトラックには以下のセクションが含まれます。

1 トラックの高さの調節

トラックの左下角をドラッグして、トラックの高さを変更できます。

2 トラック展開矢印マーク/カラーストリップ

トラック展開矢印マークを使用すると、トラックを展開したり折りたたんだりできます。カラーストリップにはトラックに割り当てられた色が表示されます。この色は、ピアノロールエディター/ドラムエディター上の音符、折りたたんだインストゥルメントトラックのカラー領域、およびそのトラックのレーン内のイベントにも使用されます。

- インストゥルメントトラックを折りたたむと、そのインストゥルメントの音符がある場所にあたるイベントディスプレイにカラー領域が表示されます。カラー領域は選択したり、移動したりできません。
- インストゥルメントトラックを展開すると、インストゥルメントの種類に応じて、ピアノロールエディターまたはドラムエディターのいずれかに音符が表示されます。

3 トラック名

トラックの名前が表示されます。インストゥルメントトラック名には、「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで設定したインストゥルメントの正式名称が使用されます。

4 トラックヘッダー

VST や MIDI ポート/チャンネルメニューなど、インストゥルメントトラックの対応するオプションが含まれます。

5 ピアノロールエディター/ドラムエディター

インストゥルメントの種類に応じて、ピアノロールエディターまたはドラムエディターにインストゥルメントの音符を表示します。

インストゥルメントトラックのヘッダー



各インストゥルメントトラックのヘッダーには以下のセクションが含まれます。

1 声部の個別再生を許可 (Enable independent playback of voices)

インストゥルメントトラックの声部の個別再生を有効または無効にできます。有効にすると、そのインストゥルメントに属するすべての声部を再生できるよう、必要な数の追加エンドポイントと追加プラグインが自動的にロードされます。

2 声部メニュー

そのインストゥルメントに属する個々の声部またはすべての声部を選択できます。声部の個別再生を有効にしたときのみ使用できます。選択する声部に応じて、ピアノロールエディターまたはドラムエディターに表示される音符が決まります。

3 このフローに設定 (Set for This Flow)/すべてのフローに設定 (Set for All Flows)

選択した声部のエンドポイントの変更を、現在のフローのエンドポイントにのみ反映するか、プロジェクトのすべてのフローのエンドポイントに反映するかを設定できます。この選択は、「このフローに設定 (Set for This Flow)」または「すべてのフローに設定 (Set for All Flows)」を選択した直後に行なう変更により 1 回のみ適用されます。

4 プラグインインスタンスメニュー

インストゥルメントトラックまたは選択した声部に使用する VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのプラグインを選択できます。声部の個別再生が有効になっていて、「すべての声部 (All voices)」が選択されている場合は使用できません。

5 インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)

対応する VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントが開き、設定を編集できます。

6 ポートメニュー

16 チャンネルでポートが複数あるプラグインを使用する場合に、使用するポートを選択して、インストゥルメントまたは声部を割り当てるエンドポイントを変更できます。声部の個別再生が有効になっていて、「すべての声部 (All voices)」が選択されている場合は使用できません。

7 チャンネルメニュー

インストゥルメントトラックに使用する選択した VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのチャンネルを指定して、インストゥルメントまたは声部を割り当てるエンドポイントを変更できます。声部の個別再生が有効になっていて、「すべての声部 (All voices)」が選択されている場合は使用できません。

8 強弱記号レーンを表示 (Show the dynamics lane)

インストゥルメントトラックの下の強弱記号レーンの表示/非表示を切り替えます。声部の個別再生が有効になっていて、「すべての声部 (All voices)」が選択されている場合は使用できません。

9 MIDI ノートベロシティーエディターを表示 (Show the MIDI note velocity editor)

インストゥルメントトラックの下のベロシティーレーンの表示/非表示を切り替えます。

10 オートメーションレーンを表示 (Show the automation lane)

インストゥルメントトラックの下のオートメーションレーンの表示/非表示を切り替えます。声部の個別再生が有効になっていて、「すべての声部 (All voices)」が選択されている場合は使用できません。

11 演奏技法レーンを表示 (Show the playing techniques lane)

インストゥルメントトラックの下の演奏技法レーンの表示/非表示を切り替えます。声部の個別再生が有効になっていて、「すべての声部 (All voices)」が選択されている場合は使用できません。

関連リンク

[トラックの展開/折りたたみ \(547 ページ\)](#)

[イベントディスプレイ \(510 ページ\)](#)

[ピアノロールエディター \(512 ページ\)](#)

[ドラムエディター \(512 ページ\)](#)

[演奏技法レーン \(537 ページ\)](#)

[オートメーションレーン \(531 ページ\)](#)

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(143 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(147 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

[エンドポイントへのインストゥルメント/声部の割り当て \(580 ページ\)](#)

強弱記号レーン

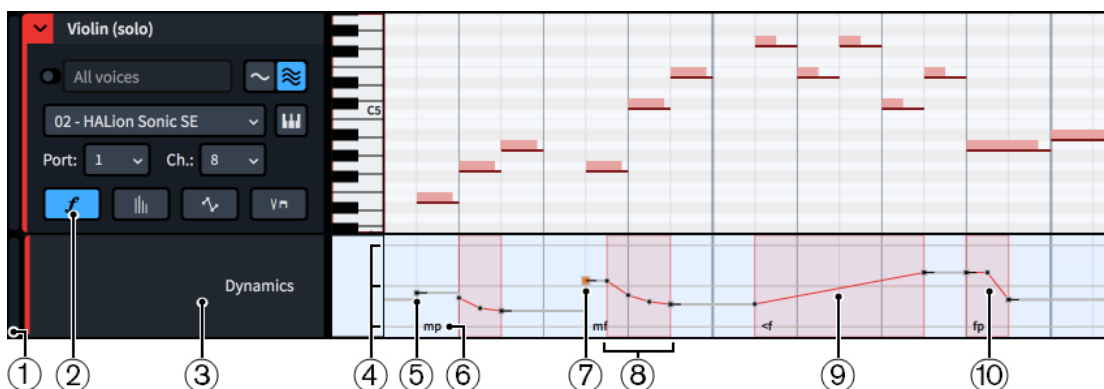
強弱記号レーンは、対応するインストゥルメント/声部に適用される強弱記号の確認、入力、および編集に使用できます。強弱記号レーンはすべてのインストゥルメントトラックにあり、イベントディスプレイで表示できます。

- インストゥルメントトラック/声部の強弱記号レーンの表示/非表示を切り替えるには、インストゥルメントトラックのヘッダーにある「強弱記号レーンを表示 (Show the dynamics lane)」をクリックします。



補足

声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントトラックでは、単一の声部が選択されている場合にのみ強弱記号レーンを表示できます。「すべての声部 (All voices)」の強弱記号レーンを表示することはできません。



インストゥルメントトラックの下に表示された強弱記号レーン

強弱記号レーンには以下のセクションがあります。

1 レーンの高さの調節

トラックの左下角をドラッグして、レーンの高さを変更できます。

2 強弱記号レーンを表示 (Show the dynamics lane)

強弱記号レーンの表示/非表示を切り替えます。このボタンは対応するインストゥルメントトラックのトラックヘッダーにあります。

3 レーンヘッダー

レーンの名前が表示されます。

4 参照ライン

最も一般的な強弱記号レベルの垂直位置を示しています。強弱記号レベルの最大範囲は 8 (最大音量) から -8 (最小音量) です。

- 一番上のライン: レベル 3。強弱記号 *ppp* に相当。
- 中央のライン: レベル 0。強弱記号 *mf* に相当。
- 一番下のライン: レベル -3。強弱記号 *fff* に相当。

5 強弱記号イベント

強弱記号の局所的な変化。記譜モードで入力するか、強弱記号レーンで鉛筆ツールを使用して入力します。初期設定では、局所的強弱記号イベントには 1 つの一定ポイントが含まれます。

6 強弱記号テキスト

対応する強弱記号のテキストが表示されます (存在する場合)。異なる強弱記号の識別やフロー内での位置の確認に役立ちます。また、そのポイントが記譜モードで入力された強弱記号を表わしているのか、強弱記号レーンで直接入力されたものかを識別する際にも役立ちます。これは、記譜モードで入力された強弱記号のポイントが、たとえば強弱記号ポイントの移動や削除を行なう際などに異なる動作をするためです。

7 選択した強弱記号ポイント

現在選択している強弱記号ポイントは、大きく強調されて表示されます。

ヒント

強弱記号レーンで強弱記号ポイントをクリックしてドラッグすると、一時的に強弱記号レベルが表示されます。

8 強弱記号イベント領域

複数の強弱記号ポイントを含むハイライトがかかった領域です。鉛筆ツールまたはラインツールを使用して、強弱記号レーンでクリックアンドドラッグすることで入力します。初期設定では、鉛筆ツールを使用した場合の強弱記号イベント領域内のポイントは一定になります。ラインツールを使用した場合、強弱記号イベント領域の開始位置にはリニアポイント、終了位置には一定ポイントが入力されます。

補足

強弱記号レーンで入力した強弱記号イベント領域は、ヒューマナイズやアクセントの付いた音符の強弱記号の増加など、強弱記号のデフォルトの再生調整を上書きします。ただし、強弱のカーブの設定は強弱記号イベント領域にそのまま適用されます。

9 段階的強弱記号

2 つの強弱記号ポイントの間のなめらかな強弱記号の変化です。記譜モードで入力した段階的強弱記号を表わします。段階的強弱記号の開始位置にはリニアポイントが、終了位置には一定ポイントが入力され、ハイライトがかかった領域として表示されます。段階的強弱記号イベントである *Messa di voce* の中央には、追加のリニアポイントがあります。

補足

ヒューマナイズやアクセントの付いた音符の強弱記号の増加といった強弱記号のデフォルトの再生調整は、記譜モードで入力した段階的強弱記号内の音符にそのまま適用されます。

10 結合式/強制強弱記号

fp や *sfz* など、記譜モードで入力した結合式強弱記号や強制強弱記号を表わす、複数の強弱記号ポイントを含むハイライトがかかった領域です。結合式/強制強弱記号には、エンベロープを制御

する複数のポイントが含まれています。結合式強弱記号には3つのポイントがあり、強制強弱記号には4つのポイントがあります。

補足

結合式/強制強弱記号のポイントはエンベロープのパラメーターに対応しているため、これらは他の強弱記号ポイントとは異なる動作をします。たとえば、強制強弱記号の2つめのポイントの値を変更すると、3つめのポイントも移動します。これは、3つめのポイントが2つめのポイントのデューレーションを制御するためです。

関連リンク

[強弱記号ポイントを一定/リニアにする \(524 ページ\)](#)

[強弱記号 \(771 ページ\)](#)

[強弱記号のタイプ \(771 ページ\)](#)

[段階的強弱記号 \(783 ページ\)](#)

[強弱記号の入力方法 \(244 ページ\)](#)

[再生ツールボックス \(503 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(170 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

強弱記号レーンを表示する

各インストゥルメントトラックの強弱記号レーンを個別に表示できます。

手順

1. 表示する強弱記号レーンが含まれるインストゥルメントトラックを展開します。
2. 声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントトラックの場合は、**声部**メニューから声部を選択します。
3. インストゥルメントトラックのヘッダーで、「**強弱記号レーンを表示 (Show the dynamics lane)**」をクリックします。



結果

強弱記号レーンを表示すると「強弱記号レーンを表示 (Show the dynamics lane)」ボタンが強調表示されます。声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントトラックでは、現在選択している声部の強弱記号だけが強弱記号レーンに表示されます。

ヒント

「**強弱記号レーンを表示 (Show the dynamics lane)**」を再びクリックすると強弱記号レーンが非表示になり、ボタンの強調表示が解除されます。

強弱記号ポイントの入力

各インストゥルメントトラックの強弱記号レーンで、段階的強弱記号イベントを含む強弱記号ポイントを入力できます。強弱記号レーンに入力した強弱記号ポイントはレイアウトには表示されません。

前提条件

強弱記号ポイントを追加するインストゥルメントの強弱記号レーンを表示しておきます。

手順

1. 入力する強弱記号ポイントの種類に応じて、以下のツールのいずれかを選択します。

- 単一の強弱記号ポイントまたは複数の強弱記号ポイントを含む強弱記号イベント領域を一定間隔ごとに入力するには、**[D]**を押すか、再生ツールボックスの「**鉛筆 (Draw)**」をクリックして、**鉛筆ツール**を選択します。



- 段階的な強弱記号イベントを入力するには、再生ツールボックスの「**ライン (Line)**」をクリックして**ラインツール**を選択します。



2. 以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号ポイントを入力します。

- 単一の強弱記号ポイントを入力するには、強弱記号レーン内のポイントを追加する位置でクリックします。
- 複数の強弱記号ポイントを含む強弱記号イベント領域を一定間隔ごとに入力するには、強弱記号レーン内でクリックアンドドラッグします。
- 段階的な強弱記号イベントを入力するには、強弱記号レーン内のイベントの開始位置でクリックして、終了位置までドラッグします。

結果

強弱記号ポイントが入力されます。**鉛筆ツール**を使用した場合は、クリックした位置それぞれに個別の強弱記号ポイントが入力されます。**鉛筆ツール**を使用してクリックアンドドラッグした場合は、16分音符の間隔、またはリズムグリッドの間隔が16分音符よりも細かい場合はその間隔で強弱記号ポイントが入力されます。**ラインツール**を使用した場合は、範囲の両端に1つずつ、合わせて2つの強弱記号ポイントが入力されます。

初期設定では、**鉛筆ツール**を使用して入力した強弱記号ポイントは一定になりますが、段階的な強弱記号イベントは開始位置がリニアポイント、終了位置が一定ポイントになります。

段階的な強弱記号イベントと強弱記号イベント領域は、ハイライトがかかった領域として強弱記号レーンに表示されます。

強弱記号レーンで入力した強弱記号ポイントは、再生には反映されますがレイアウトには表示されません。

補足

記譜モードで入力した強弱記号の位置に強弱記号ポイント/イベントを入力すると、それらの強弱記号のデフォルトの再生調整は上書きされます。単一の強弱記号ポイントは強弱記号のレベルのみを上書きします。強弱記号イベント領域は、たとえばヒューマニズやアクセントの付いた音符の強弱記号の増加なども上書きします。ただし、強弱のカーブの設定は強弱記号イベント領域にそのまま適用されます。

関連リンク

[再生ツールボックス \(503 ページ\)](#)

[強弱記号ポイントの移動 \(526 ページ\)](#)

[強弱記号の入力方法 \(244 ページ\)](#)

強弱記号ポイントを一定/リニアにする

たとえば、ポイント間がなめらかに変移するように、**鉛筆ツール**でクリックアンドドラッグして入力した一定ポイントをリニアにしたい場合など、強弱記号ポイントを入力したあとに、個々の強弱記号ポイントを一定またはリニアに変更できます。

初期設定では、強弱記号レーンで**鉛筆ツール**を使用して入力した強弱記号ポイントは一定になり、**ラインツール**を使用して入力した場合の最初のポイントはリニアになります。

補足

これらの手順は、記譜モードで入力した強弱記号のポイントには適用されません。

前提条件

強弱記号ポイントを一定/リニアにするインストゥルメントの強弱記号レーンを表示しておきます。

手順

1. **[S]** を押して「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、一定/リニアにする強弱記号ポイントを選択します。
 - 単一の強弱記号ポイントをクリックします。
 - 複数の強弱記号ポイントを範囲選択します。

補足

複数の強弱記号レーンのポイントを一度に一定/リニアにすることはできません。

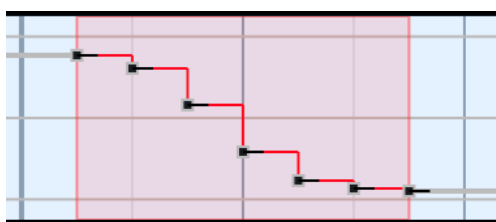
3. 強弱記号レーンを右クリックして、コンテキストメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 選択したポイントを一定にするには、「**次のイベントまで一定に保持 (Make Points Constant)**」を選択します。
 - 選択したポイントをリニアにするには、「**次のイベントまで段階的に変更 (Make Points Linear)**」を選択します。

結果

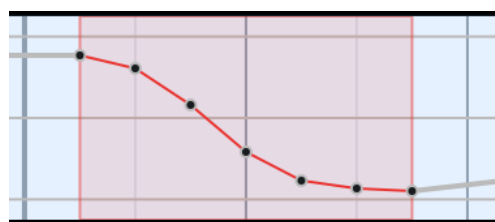
選択した強弱記号ポイントが一定またはリニアになります。一定ポイントは、その値が続くことを示す短い横棒線が右側に伸びた四角形として表示されます。リニアポイントは丸で表示されます。

一定ポイントのあとの値ラインは、常に水平に表示されます。次のポイントの値が異なる場合、リニアポイントのあとの値ラインは、ポイント間がなめらかに変移することを示す斜めの線として表示されます。

例



強弱記号レーンの一定ポイント



強弱記号レーンのリニアポイント

強弱記号ポイントのコピーと貼り付け

強弱記号ポイントをコピーして貼り付けることができます。別の強弱記号レーンへのコピーや、同じ強弱記号レーン内での反復コピーを実行することもできます。

前提条件

強弱記号ポイントのコピー/貼り付けを行なうインストゥルメントの強弱記号レーンを表示しておきます。

手順

1. **[S]** を押して「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、コピーする強弱記号ポイントを選択します。
 - 単一の強弱記号ポイントをクリックします。
 - 複数の強弱記号ポイントを範囲選択します。

補足

複数の強弱記号レーンのポイントを一度にコピーして貼り付けることはできません。

3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した強弱記号ポイントをコピーします。
 - **[Ctrl]/[command]+[C]** を押します。
 - 「**編集 (Edit)**」 > 「**コピー (Copy)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
4. 選択した強弱記号ポイントを貼り付ける位置に再生ヘッドを移動します。
5. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した強弱記号ポイントを貼り付けます。
 - 貼り付け先の強弱記号レーンのヘッダーを選択して **[Ctrl]/[command]+[V]** を押します。
 - 貼り付け先の強弱記号レーンを右クリックして、コンテキストメニューから「**貼り付け (Paste)**」を選択します。

結果

選択した強弱記号ポイントが、元の位置から削除されることなく選択した位置や強弱記号レーンにコピーされます。

補足

- ポイントを1つだけ選択した場合でも、記譜モードで入力した強弱記号のポイントがすべてコピーされます。
- **[R]** を押すと、選択した複数の強弱記号ポイントを、そのすぐあとに続けて反復コピーすることもできます。反復コピーした強弱記号ポイントは、前のコピーの最後のポイントと同じ位置から始まります。ただし、単一の強弱記号ポイントや、記譜モードで入力した局部的強弱記号、結合式強弱記号、強制強弱記号のポイントを反復コピーすることはできません。

関連リンク

[再生ヘッドの移動 \(548 ページ\)](#)

[強弱記号のコピー \(779 ページ\)](#)

強弱記号ポイントの移動

強弱記号ポイントは個別に移動できます。たとえば、上下に移動して値を変更することで強弱記号のレベルを変更できます。これは、特定の既存の強弱記号のボリュームを調節する場合などに行ないます。

前提条件

強弱記号ポイントを移動するインストゥルメントの強弱記号レーンを表示しておきます。

手順

1. **[S]** を押して「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、移動する強弱記号ポイントを選択します。
 - 単一の強弱記号ポイントをクリックします。
 - 複数の強弱記号ポイントを範囲選択します。

補足

- 記譜モードで入力された強弱記号を移動するには、開始ポイントのみを選択します。これには、複数のポイントを持つ段階的強弱記号や結合式/強制強弱記号も含まれます。強弱記号の移動は一度に1つずつ行なうことをおすすめします。
- 記譜モードで入力した強弱記号のポイントのみ、または強弱記号レーンで入力したポイントのみを選択することをおすすめします。
- 複数の強弱記号レーンのポイントを一度に移動することはできません。

3. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した強弱記号ポイントを移動します。

- 強弱記号レーンで入力したポイントを左右のみに移動するには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら左右にドラッグします。
- 強弱記号レーンで入力したポイントを上下のみに移動するには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら上下にドラッグします。

補足

- 強弱記号ポイントを上下に細かく移動したい場合は、**[Alt]** を押しながらドラッグします。
- マウスを使用する場合、1回の操作で既存の強弱記号ポイントを越えるポイントの移動はできません。マウスを放したあと、強弱記号ポイントを再度選択してさらに移動する必要があります。
- 記譜モードで入力した1つの強弱記号を次の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 記譜モードで入力した1つの強弱記号を前の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 記譜モードで入力した強弱記号のポイントを現在のリズムグリッドの間隔に従って右に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 記譜モードで入力した強弱記号のポイントを現在のリズムグリッドの間隔に従って左に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

複数の強弱記号を選択している場合、強弱記号の移動は現在のリズムグリッドの間隔にのみ従います。

結果

選択した強弱記号ポイントが新しい位置に移動します。左右の移動は楽譜内の位置に影響します。上下の移動は強弱記号のレベルに影響します。

段階的強弱記号の終了ポイントを左右に移動すると、対応する段階的強弱記号のリズム上の長さが変更されず、該当するすべてのレイアウトで、その段階的強弱記号の記譜上の長さが自動的に更新されます。

補足

- リンクされた強弱記号の強弱記号ポイントを移動すると、リンクされたすべての強弱記号に影響します。
- 記譜モードで入力した1つの強弱記号が移動する際に記譜モードで入力した他の強弱記号の上を通過した場合、強弱記号は複数と同じ位置に存在できるため、そこにあった強弱記号に影響はありません。ただし、記譜モードで入力した複数の強弱記号を同時に移動した場合、それらが通過した場所にあった記譜モードで入力した強弱記号は削除されます。

この動作内容はもとに戻せますが、この過程で削除された強弱記号が復元されるのは、強弱記号の移動にキーボードを使用していた場合のみです。

関連リンク

[段階的強弱記号 \(783 ページ\)](#)

[段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更 \(784 ページ\)](#)

[強弱記号の位置の移動 \(774 ページ\)](#)

[リンクされた強弱記号 \(794 ページ\)](#)

強弱記号ポイントの削除

単一または複数の強弱記号ポイントを削除できます。

前提条件

強弱記号ポイントを削除するインストゥルメントの強弱記号レーンを表示しておきます。

手順

1. **[E]** を押して、**削除ツール**を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した強弱記号ポイントを削除します。
 - 削除する強弱記号ポイントをクリックします。
 - 削除する強弱記号ポイントを範囲選択します。

結果

クリックした強弱記号ポイントまたは範囲選択内に含まれた強弱記号ポイントが削除されます。記譜モードで入力した強弱記号に上書きされたポイントを削除すると、この強弱記号はデフォルトのポイントに戻ります。記譜モードで入力された強弱記号のポイントを削除すると、対応する強弱記号も削除されます。

ヒント

再生ツールボックスの**オブジェクトの選択ツール**を選択し、削除する強弱記号ポイントをクリックして **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押すことでも強弱記号レーンで入力した強弱記号ポイントを削除できます。

関連リンク

[強弱記号レーンを表示する \(523 ページ\)](#)

ベロシティーレーン

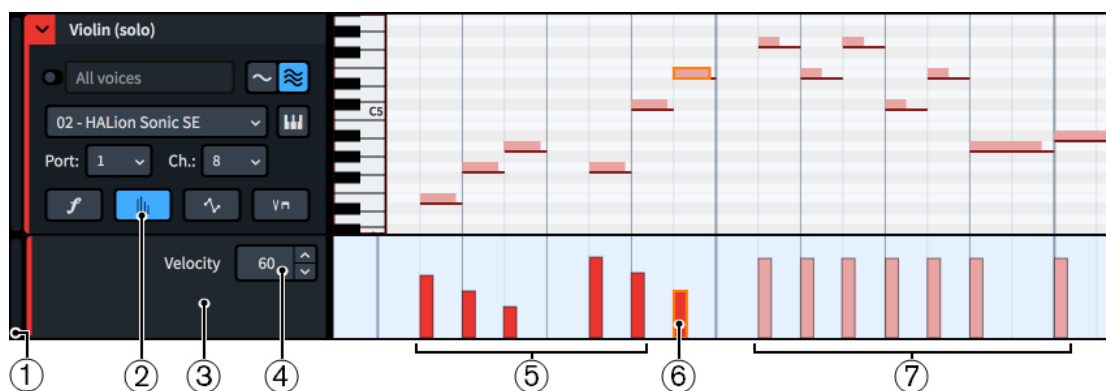
ベロシティーレーンは、対応するインストゥルメントの各音符の確認および編集に使用できます。ベロシティーレーンはすべてのインストゥルメントトラックにあり、イベントディスプレイで表示できます。

- ベロシティーレーンの表示/非表示を切り替えるには、インストゥルメントトラックのヘッダーにある「**MIDI ノートベロシティーエディターを表示 (Show the MIDI note velocity editor)**」をクリックします。



多くの場合、ベロシティーは非サスティン楽器の強弱の制御に使用されます。

ベロシティーは、垂直のバーとしてベロシティーレーンに表示されます。各インストゥルメントに属する音符には、それぞれ個別のベロシティーがあります。和音などで複数の音符が同じ位置にある場合は、すべての音符のベロシティーが重なって表示されます。インストゥルメントトラックの対応する音符を選択することで、個々のベロシティーを選択できます。



インストゥルメントトラックの下に表示されたベロシティーレーン

ベロシティーレーンには以下のセクションがあります。

- 1 レーンの高さの調節**
トラックの左下角をドラッグして、レーンの高さを変更できます。
- 2 MIDI ノートベロシティーエディターを表示 (Show the MIDI note velocity editor)**
ベロシティーレーンの表示/非表示を切り替えます。このボタンは対応するインストゥルメントトラックのトラックヘッダーにあります。
- 3 レーンヘッダー**
ベロシティー数値フィールドがあります。
- 4 ベロシティー数値フィールド**
現在選択している音符のベロシティー値が表示されます。この値は、数値フィールドの値を変更することで変更できます。
- 5 値が変更されたベロシティー**
音符のベロシティーを編集すると、ベロシティーレーン内のベロシティーの色が濃くなります。
- 6 選択された音符とベロシティー**
現在選択している音符とそのベロシティーはすべて強調表示されます。
- 7 デフォルト値のベロシティー**
すべての音符のデフォルトのベロシティー値は 100 です。

関連リンク

[再生ツールボックス \(503 ページ\)](#)

[インストゥルメントトラック \(519 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[イベントディスプレイでの音符の入力 \(513 ページ\)](#)

ベロシティーレーンを表示する

各インストゥルメントトラックのベロシティーレーンを個別に表示できます。

手順

- 表示するベロシティーレーンが含まれるインストゥルメントトラックを展開します。
- 各インストゥルメントトラックのヘッダーで、「**MIDI ノートベロシティーエディターを表示 (Show the MIDI note velocity editor)**」をクリックします。



結果

ベロシティーレーンを表示すると「**MIDI ノートベロシティーエディターを表示 (Show the MIDI note velocity editor)**」ボタンが強調表示されます。

ヒント

「MIDI ノートベロシティエディターを表示 (Show the MIDI note velocity editor)」を再びクリックするとベロシティレーンが非表示になり、ボタンの強調表示が解除されます。

音符のベロシティの変更

各音符のベロシティを変更できます。和音内の単一の音符のベロシティを変更することも、一連の音符のベロシティをまとめて増減することもできます。

前提条件

ノートベロシティを変更するインストゥルメントのベロシティレーンを表示しておきます。

手順

1. ベロシティを変更する方法に応じて、以下のいずれかのツールを選択します。

- 一度に1つの音符のベロシティを変更するには、**[S]**を押すか、再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」をクリックして**オブジェクトの選択**ツールを選択します。



- 自由な形状を使用してベロシティを変更するには、**[D]**を押すか、再生ツールボックスの「**鉛筆 (Draw)**」をクリックして**鉛筆**ツールを選択します。



- 傾きが一定の直線を使用してベロシティを変更するには、再生ツールボックスの「**ライン (Line)**」をクリックして**ライン**ツールを選択します。



2. 和音内の単一の音符のベロシティをドラッグする場合は、ピアノロールエディターでその音符を選択します。この操作でベロシティバーも選択されます。

3. 以下のいずれかの操作を行なって、ベロシティを変更します。

- オブジェクトの選択**ツールを選択した場合は、ベロシティバーの上部をクリックして上下にドラッグします。
- 鉛筆**ツールを選択した場合は、ベロシティレーン内の任意の範囲に形状を描きます。
- ライン**ツールを選択した場合は、ベロシティレーン内の任意の範囲にドラッグでラインを描きます。

結果

影響を受ける音符のベロシティが変更されます。**鉛筆**ツールまたは**ライン**ツールを使用した場合は、マウスを放した時点で範囲内のすべての音符のベロシティが更新されます。

ノートベロシティに加えた変更の削除

個々の音符のベロシティに加えた変更を削除して、デフォルトのベロシティにリセットできます。

手順

- ピアノロール/ドラムエディターで、ノートベロシティをリセットする音符を選択します。
- 「再生 (Play)」 > 「再生の上書き情報をリセット (Reset Playback Overrides)」を選択します。

結果

選択した音符のベロシティーに加えた変更がすべてリセットされます。

補足

選択した音符のその他の再生の上書き情報もすべてリセットされます。

オートメーションレーン

オートメーションレーンは、対応するインストゥルメント/声部に適用される MIDI コントローラーデータの確認、入力、および編集に使用できます。オートメーションレーンはすべてのインストゥルメントトラックにあり、イベントディスプレイで表示できます。

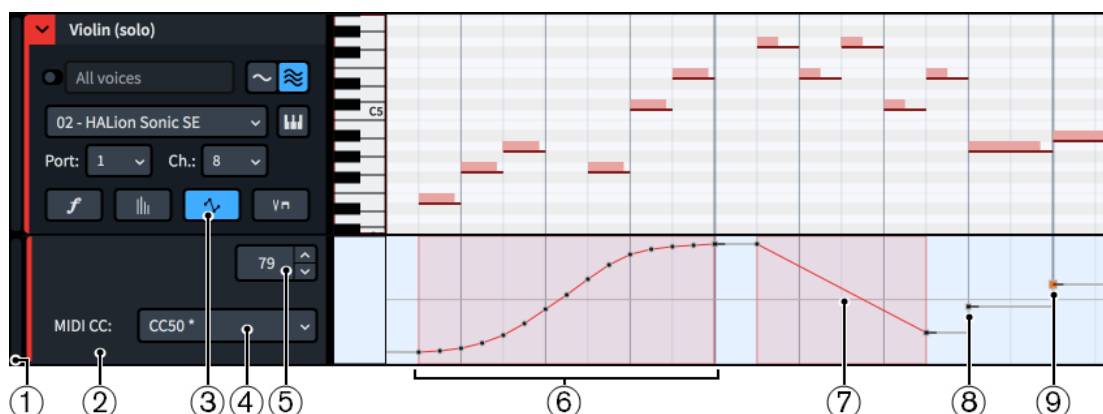
- インストゥルメントトラック/声部のオートメーションレーンの表示/非表示を切り替えるには、インストゥルメントトラックのヘッダーにある「**オートメーションレーンを表示 (Show the automation lane)**」をクリックします。



補足

声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントトラックでは、単一の声部が選択されている場合にのみオートメーションレーンを表示できます。「**すべての声部 (All voices)**」のオートメーションレーンを表示することはできません。

- オートメーションレーンにデータが表示されている MIDI コントローラーは、オートメーションレーンのヘッダーにあるポップアップメニューからコントローラーを選択することで変更できます。



インストゥルメントトラックの下に表示されたオートメーションレーン

オートメーションレーンには以下のセクションがあります。

1 レーンの高さの調節

トラックの左下角をドラッグして、レーンの高さを変更できます。

2 レーンヘッダー

MIDI コントローラーメニューと MIDI 数値フィールドが表示されます。

3 オートメーションレーンを表示 (Show the automation lane)

オートメーションレーンの表示/非表示を切り替えます。このボタンは対応するインストゥルメントトラックのトラックヘッダーにあります。

4 MIDI コントローラーメニュー

オートメーションレーンで確認または編集するオートメーションデータが含まれる MIDI コントローラーを選択できます。オートメーションデータが含まれているコントローラーには、メニュー内の名前の横にアスタリスクが表示されます。

5 オートメーション数値フィールド

現在選択しているオートメーションポイントの値が表示されます。この値は、数値フィールドの値を変更することで変更できます。指定できる範囲はコントローラーのタイプによって異なります。たとえば、MIDI CC には 0~127 の値があります。

6 オートメーションイベント領域

各イベント間がなめらかに変移する複数のオートメーションポイントを含むハイライトがかかった領域です。**鉛筆**ツールを使用して、オートメーションレーンでクリックアンドドラッグすることで入力します。初期設定では、領域内のオートメーションポイントはリニアで、最後のポイントが一定になります。

7 段階的なオートメーションイベント

2つのオートメーションポイントの間のなめらかな値の変化です。**ライン**ツールを使用して入力します。段階的なオートメーションイベントの開始位置にはリニアポイントが、終了位置には一定ポイントが入力され、ハイライトがかかった領域として表示されます。

8 オートメーションポイント

オートメーション値の単一の変化です。**鉛筆**ツールを使用して入力します。初期設定では、オートメーションポイントは一定です。

9 選択したオートメーションポイント

現在選択しているオートメーションポイントは、大きく強調されて表示されます。

ヒント

オートメーションレーンでオートメーションポイントをクリックしてドラッグすると、一時的にオートメーションポイントの値が表示されます。

オートメーションレーンは 1 つしか表示できませんが、同じレーンに複数の MIDI コントローラーのデータを作成できます。

MIDI ファイルを書き出すとオートメーションデータが含まれます。

関連リンク

[再生ツールボックス \(503 ページ\)](#)

[インストゥルメントトラック \(519 ページ\)](#)

[オートメーションポイントを一定/リニアにする \(534 ページ\)](#)

[MIDI の書き出し \(85 ページ\)](#)

オートメーションレーンを表示する

各インストゥルメントトラックのオートメーションレーンを個別に表示できます。

手順

1. 表示するオートメーションレーンが含まれるインストゥルメントトラックを展開します。
2. 声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントトラックの場合は、**声部**メニューから声部を選択します。
3. インストゥルメントトラックのヘッダーで、「**オートメーションレーンを表示 (Show the automation lane)**」をクリックします。



結果

オートメーションレーンを表示すると「オートメーションレーンを表示 (Show the automation lane)」ボタンが強調表示されます。声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントトラックでは、現在選択している声部のオートメーションだけがオートメーションレーンに表示されます。

ヒント

「オートメーションレーンを表示 (Show the automation lane)」を再びクリックするとオートメーションレーンが非表示になり、ボタンの強調表示が解除されます。



オートメーションデータの入力

各インストゥルメントトラックのオートメーションレーンで、ピッチバンドを含む複数の MIDI コントローラーのオートメーションデータを入力できます。

前提条件

オートメーションを追加するインストゥルメントのオートメーションレーンを表示しておきます。

手順

1. オートメーションレーンのヘッダーの **MIDI コントローラー**メニューから、オートメーションを入力する MIDI コントローラーを選択します。
2. 入力するオートメーションの種類に応じて、以下のツールのいずれかを選択します。
 - 単一のオートメーションポイントまたは複数のオートメーションポイントを含むオートメーションイベント領域を一定間隔ごとに入力するには、**[D]** を押すか、再生ツールボックスの「**鉛筆 (Draw)**」をクリックして、**鉛筆ツール**を選択します。

 - 段階的なオートメーションイベントを入力するには、再生ツールボックスの「**ライン (Line)**」をクリックして**ラインツール**を選択します。

3. 以下のいずれかの操作を行なって、オートメーションを入力します。
 - 単一のオートメーションポイントを入力するには、オートメーションレーン内のポイントを追加する位置でクリックします。
 - 複数のオートメーションポイントを含むオートメーションイベント領域を一定間隔ごとに入力するには、オートメーションレーン内でクリックアンドドラッグします。
 - 段階的なオートメーションイベントを入力するには、オートメーションレーン内のイベントの開始位置でクリックして、終了位置までドラッグします。

補足

ピッチバンドデータの入力を最初に開始したとき、オートメーションレーンの中央の水平線は変更されていないピッチを表わしています。

結果

選択した MIDI コントローラーにオートメーションが入力されます。**鉛筆ツール**を使用した場合は、クリックした位置それぞれに個別のオートメーションポイントが入力されます。**鉛筆ツール**を使用してクリックアンドドラッグした場合は、16 分音符の間隔、またはリズムグリッドの間隔が 16 分音符よりも細かい場合はその間隔でオートメーションポイントが入力されます。**ラインツール**を使用した場合は、範囲の両端に 1 つずつ、合わせて 2 つのオートメーションポイントが入力されます。

初期設定では、単一のオートメーションポイントは一定、領域内のオートメーションポイントはリニア、領域内の最後のオートメーションポイントは一定になります。また、段階的なオートメーションイベントの開始位置にはリニアポイント、終了位置には一定ポイントが入力されます。

段階的なオートメーションイベントとオートメーションイベント領域は、ハイライトがかかった領域としてオートメーションレーンに表示されます。

関連リンク

[オートメーションポイントの移動](#) (536 ページ)

オートメーションポイントを一定/リニアにする

たとえば、ポイント間がなめらかに変移するように一定ポイントをリニアにしたい場合など、オートメーションポイントを入力したあとに、個々のオートメーションポイントを一定またはリニアにできません。

初期設定では、オートメーションポイントを個別に入力した場合は一定になり、クリックアンドドラッグで入力した場合はリニアになります。ただし、クリックアンドドラッグした領域内の最後のオートメーションポイントは一定になります。

前提条件

オートメーションポイントを一定/リニアにするインストゥルメントのオートメーションレーンを表示しておきます。

手順

1. オートメーションレーンのヘッダーの **MIDI コントローラー**メニューから、オートメーションポイントを一定/リニアにする MIDI コントローラーを選択します。
2. **[S]** を押して「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、一定/リニアにするオートメーションポイントを選択します。
 - 単一のオートメーションポイントをクリックします。
 - 複数のオートメーションポイントを範囲選択します。

補足

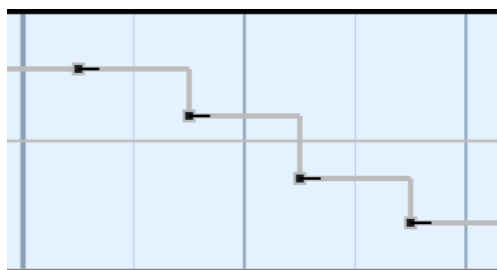
複数のオートメーションレーンのポイントを一度に一定/リニアにすることはできません。

4. オートメーションレーンを右クリックして、コンテキストメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 選択したポイントを一定にするには、「**次のイベントまで一定に保持 (Make Points Constant)**」を選択します。
 - 選択したポイントをリニアにするには、「**次のイベントまで段階的に変更 (Make Points Linear)**」を選択します。

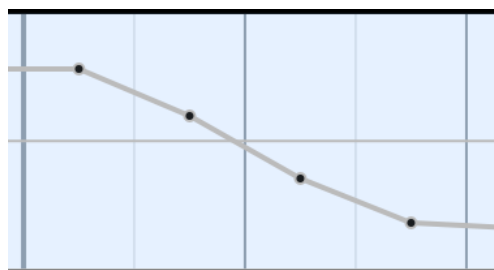
結果

選択したオートメーションポイントが一定またはリニアになります。一定ポイントは、その値が続くことを示す短い横棒線が右側に伸びた四角形として表示されます。リニアポイントは丸で表示されます。一定ポイントのあとの値ラインは、常に水平に表示されます。次のイベントの値が異なる場合、リニアポイントのあとの値ラインは、ポイント間がなめらかに変移することを示す斜めの線として表示されません。

例



オートメーションレーンの一定ポイント



オートメーションレーンのリニアポイント

オートメーションポイントのコピーと貼り付け

オートメーションポイントをコピーして貼り付けることができます。別のオートメーションレーンへのコピーや、同じオートメーションレーン内での反復コピーを実行することもできます。

前提条件

オートメーションポイントのコピー/貼り付けを行なうインストゥルメントのオートメーションレーンを表示しておきます。

手順

1. オートメーションレーンのヘッダーの **MIDI コントローラー** メニューから、オートメーションポイントをコピーする MIDI コントローラーを選択します。
2. **[S]** を押して「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、コピーするオートメーションポイントを選択します。
 - 単一のオートメーションポイントをクリックします。
 - 複数のオートメーションポイントを範囲選択します。

補足

複数のオートメーションレーンのポイントを一度にコピーして貼り付けることはできません。

4. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したオートメーションポイントをコピーします。
 - **[Ctrl]/[command]+[C]** を押します。
 - 「**編集 (Edit)**」 > 「**コピー (Copy)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
 5. 選択したオートメーションポイントを貼り付ける位置に再生ヘッドを移動します。
 6. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したオートメーションポイントを貼り付けます。
 - 貼り付け先のオートメーションレーンのヘッダーを選択して **[Ctrl]/[command]+[V]** を押します。
 - 貼り付け先のオートメーションレーンを右クリックして、コンテキストメニューから「**貼り付け (Paste)**」を選択します。
-

結果

選択したオートメーションポイントが、元の位置から削除されることなく選択した位置やオートメーションレーンにコピーされます。

補足

オートメーションポイントを選択して **[R]** を押すと、そのオートメーションポイントのすぐあとに続けて反復コピーすることもできます。コピーを繰り返すたびに、オートメーションレーン上の選択範囲の最初のポイントで最後のポイントが置き換えられます。

関連リンク

[オートメーションレーンを表示する \(532 ページ\)](#)

[再生ヘッドの移動 \(548 ページ\)](#)

[アイテムのコピーと貼り付け \(340 ページ\)](#)

オートメーションポイントの移動

オートメーションポイントは個別に移動できます。たとえば、上下に移動して値を変更できます。

前提条件

オートメーションポイントを移動するインストゥルメントのオートメーションレーンを表示しておきます。

手順

1. オートメーションレーンのヘッダーの **MIDI コントローラー** メニューから、オートメーションポイントを移動する MIDI コントローラーを選択します。
2. **[S]** を押して「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、移動するオートメーションポイントを選択します。
 - 単一のオートメーションポイントをクリックします。
 - 複数のオートメーションポイントを範囲選択します。

補足

複数のオートメーションレーンのポイントを一度に移動することはできません。

4. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したオートメーションポイントを移動します。
 - オートメーションポイントを左右のみに移動するには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら左右にドラッグします。
 - オートメーションポイントを上下のみに移動するには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら上下にドラッグします。

ヒント

- オートメーションポイントを上下に細かく移動したい場合は、**[Alt]** を押しながらドラッグします。
- マウスを使用する場合、1回の操作で既存のオートメーションポイントを越えるポイントの移動はできません。マウスを放したあと、オートメーションポイントを再度選択してさらに移動する必要があります。

オートメーションポイントの削除

単一または複数のオートメーションポイントを削除できます。

前提条件

オートメーションポイントを削除するインストゥルメントのオートメーションレーンを表示しておきます。

手順

1. オートメーションレーンのヘッダーの **MIDI コントローラー** メニューから、オートメーションポイントを削除する MIDI コントローラーを選択します。
2. **[E]** を押して、**削除ツール** を選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、オートメーションポイントを削除します。
 - 削除するオートメーションポイントをクリックします。
 - 削除するオートメーションポイントを範囲選択します。

結果

クリックしたオートメーションポイントまたは範囲選択内に含まれたオートメーションポイントが削除されます。

ヒント

再生ツールボックスの**オブジェクトの選択ツール**を選択し、削除するオートメーションポイントをクリックして **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押すことでもオートメーションポイントを削除できます。

演奏技法レーン

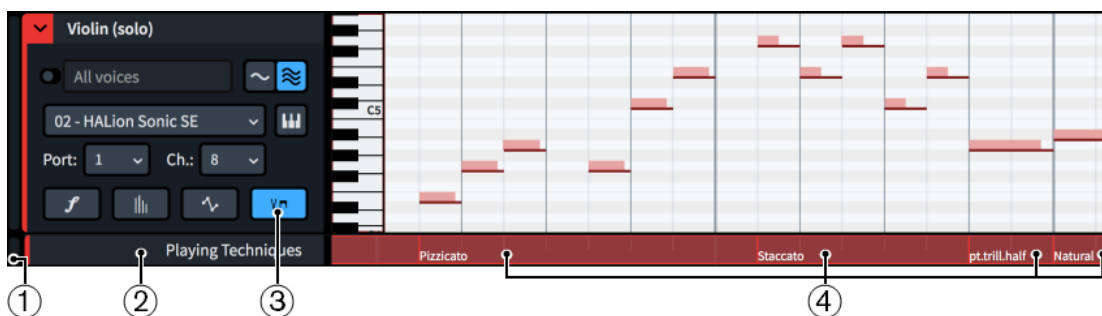
演奏技法レーンには、対応するインストゥルメントに入力した演奏技法の位置が表示されます。演奏技法レーンはすべてのインストゥルメントトラックにあり、イベントディスプレイで表示できます。

- インストゥルメントトラックまたは声部の演奏技法レーンの表示/非表示を切り替えるには、インストゥルメントトラックのヘッダーにある「**演奏技法レーンを表示 (Show the playing techniques lane)**」をクリックします。



補足

声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントトラックでは、単一の声部が選択されている場合のみ演奏技法レーンを表示できます。「**すべての声部 (All voices)**」の演奏技法レーンを表示することはできません。



インストゥルメントトラックの下に表示された演奏技法レーン

演奏技法レーンには以下のセクションがあります。

1 レーンの高さの調節

トラックの左下角をドラッグして、レーンの高さを変更できます。

2 レーンヘッダー

レーンの名前が表示されます。

3 演奏技法レーンを表示 (Show the playing techniques lane)

演奏技法レーンの表示/非表示を切り替えます。このボタンは対応するインストゥルメントトラックのトラックヘッダーにあります。

4 演奏技法領域

音符に適用されている演奏技法が表示されます。レーンの演奏技法領域上にマウスカーソルを合わせると、以下の関連情報を確認できます。

- エクスプレッションマップで使用される演奏技法/演奏技法の組み合わせ
- 領域で使用される VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメント
- 領域で使用される VST インストゥルメントのチャンネル
- 領域で使用されるエクスプレッションマップ

補足

演奏技法レーンでは演奏技法を変更できません。演奏技法は記譜モードでのみ変更できます。

関連リンク

[インストゥルメントトラック \(519 ページ\)](#)

[イベントディスプレイ \(510 ページ\)](#)

[エクスプレッションマップ \(582 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

演奏技法レーンを表示する

各インストゥルメントトラックの演奏技法レーンを個別に表示できます。

手順

1. 表示する演奏技法レーンが含まれるインストゥルメントトラックを展開します。
2. 声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントトラックの場合は、**声部メニュー**から声部を選択します。
3. 各インストゥルメントトラックのヘッダーで、「**演奏技法レーンを表示 (Show the playing techniques lane)**」をクリックします。



結果

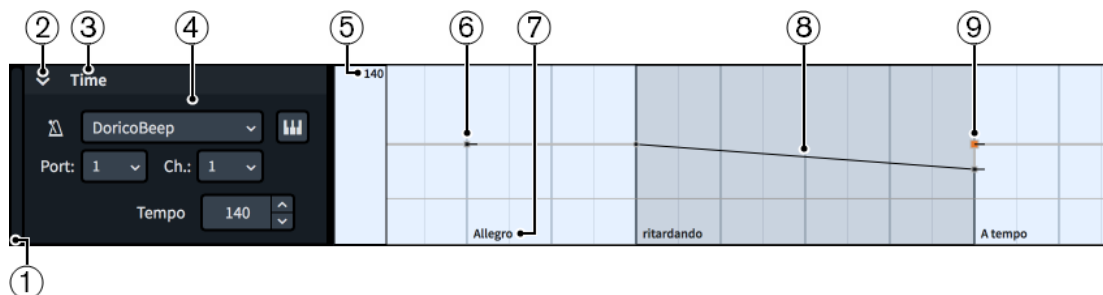
演奏技法レーンを表示すると「演奏技法レーンを表示 (Show the playing techniques lane)」ボタンが強調表示されます。声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントトラックでは、現在選択している声部の演奏技法だけが演奏技法レーンに表示されます。

ヒント

「演奏技法レーンを表示 (Show the playing techniques lane)」を再びクリックすると演奏技法レーンが非表示になり、ボタンの強調表示が解除されます。

タイムトラック

タイムトラックでは、プロジェクトのテンポを確認したり、新しくテンポ変更を加えるなどしてテンポを編集したりできます。このトラックは、再生モードのイベントディスプレイで一番上のインストゥルメントトラックの上に表示され、表示/非表示を切り替えられます。



タイムトラックには以下のセクションが含まれます。

- 1 **トラックの高さの調節**
トラックの左下角をドラッグして、トラックの高さを変更できます。
- 2 **トラック展開矢印マーク**
トラックを展開したり折りたたんだりできます。
- 3 **トラック名**
トラックの名前が表示されます。
- 4 **トラックヘッダー**

クリックの音源を選択するメニューなど、そのトラックで使用できるオプションが含まれます。

5 固定テンポ値

タイムトラックのマウスポインターの位置に対応するテンポが表示されます。

6 固定テンポ変更

テンポの局所的な変化。記譜モードで入力するか、**タイムトラック**で鉛筆ツールを使用して入力します。固定テンポ変更には1つの一定ポイントが含まれます。

7 テンポ記号テキスト

対応するテンポ変更のテキストが表示されます (存在する場合)。異なるテンポ記号の識別やフロア内での位置の確認に役立ちます。

8 段階的テンポ変更

時間の経過に伴うなめらかなテンポの変化です。記譜モードで入力するか、**タイムトラック**でラインツールを使用して入力します。段階的テンポ変更の開始位置にはリニアポイントが、終了位置には一定ポイントが入力され、ハイライトがかかった領域として表示されます。

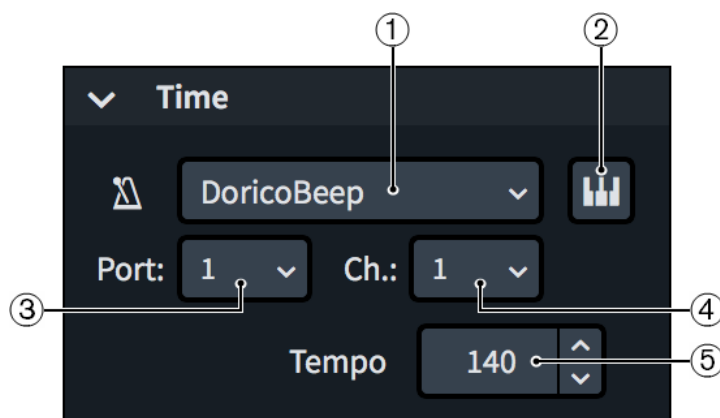
9 選択したテンポ変更

現在選択しているテンポ変更は、大きく強調されて表示されます。

ヒント

タイムトラックでクリックやドラッグをしてテンポを変更すると、一時的に正確なテンポ値が表示されます。

タイムトラックのヘッダー



タイムトラックのヘッダーには以下のセクションが含まれます。

1 プラグインインスタンスメニュー

クリックに使用する VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのプラグインを選択できます。

2 インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)

対応する VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントが開き、設定を編集できます。

3 ポートメニュー

16 チャンネルでポートが複数あるプラグインを使用する場合に、使用するポートを選択して、**タイムトラック**を割り当てるエンドポイントを変更できます。

4 チャンネルメニュー

クリックに使用する選択した VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのチャンネルを指定して、**タイムトラック**を割り当てるエンドポイントを変更できます。

5 テンポ

現在選択しているテンポ変更のメトロノームマークの値が、小数点以下なしで表示されます。この値は、数値フィールドの値を変更することで変更できます。

再生モードの**タイムトラック**で入力したテンポ変更は、デフォルトでは記譜モードでガイドとして表示されます。これは印刷した楽譜の外観が変更されないようにするためです。初期設定では、ガイドは印刷されません。そのため、テンポ変更をテンポ記号として楽譜に印刷したい場合は、ガイドを表示することをおすすめします。

タイムトラックに入力したすべてのテンポ変更は、書き出した MIDI ファイルに含まれます。

関連リンク

[再生ツールボックス \(503 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(170 ページ\)](#)

[テンポ記号 \(1219 ページ\)](#)

[テンポ記号の入力方法 \(231 ページ\)](#)

[固定テンポ変更のタイプと外観の変更 \(1227 ページ\)](#)

[ガイド \(337 ページ\)](#)

[クリック設定の変更 \(210 ページ\)](#)

[テンポ記号の表示/非表示 \(1225 ページ\)](#)

[メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1230 ページ\)](#)

[MIDI の書き出し \(85 ページ\)](#)

タイムトラックへのテンポ変更の入力

再生モードの**タイムトラック**には、段階的テンポ変更などのテンポ変更を入力できます。**タイムトラック**に入力したテンポ変更は、テンポ変更としてではなく、ガイドとしてレイアウトに表示されます。

前提条件

タイムトラックを表示して展開しておきます。

手順

1. 入力するテンポ変更の種類に応じて、以下のツールのいずれかを選択します。

- 一定間隔ごとに単一または複数の固定テンポ変更を入力するには、**[D]** を押すか、再生ツールボックスの「**鉛筆 (Draw)**」をクリックして、**鉛筆ツール**を選択します。



- 段階的なテンポ変更を入力するには、再生ツールボックスの「**ライン (Line)**」をクリックして**ラインツール**を選択します。



2. 以下のいずれかの操作を行なって、テンポ変更を入力します。

- 単一の固定テンポ変更を入力するには、**タイムトラック**内のテンポ変更を追加する位置でクリックします。
- 一定間隔ごとに複数の固定テンポ変更を入力するには、**タイムトラック**内でクリックアンドドラッグします。
- 段階的なテンポ変更を入力するには、**タイムトラック**内のテンポ変更の開始位置でクリックして、終了位置までドラッグします。

ヒント

マウスポインターの現在の垂直位置に対応するメトロノームの値が、**タイムトラック**のヘッダーに表示されます。

結果

テンポ変更が入力されます。**鉛筆ツール**を使用した場合は、クリックした位置それぞれに個別のテンポ変更が入力されます。**鉛筆ツール**を使用してクリックアンドドラッグした場合は、8分音符の間隔、ま

たはリズムグリッドの間隔が8分音符よりも細かい場合はその間隔でテンポ変更が入力されます。**ラインツール**を使用した場合は、範囲の両端に1つずつ、合わせて2つのテンポ変更が入力されます。**タイムトラック**上にハイライトがかかった領域として範囲が表示されます。

これにより再生速度が変更されますが、レイアウトにはテンポ変更が表示されません。かわりにガイドとして表示されます。

テンポ変更は書き出した MIDI ファイルに含まれます。

関連リンク

[トラックを表示/非表示にする \(547 ページ\)](#)

[テンポ記号の表示/非表示 \(1225 ページ\)](#)

[ガイド \(337 ページ\)](#)

[リズムグリッドの間隔の変更 \(170 ページ\)](#)

タイムトラックのテンポ変更の移動

タイムトラックのテンポ変更を別の位置に移動できます。これは、該当するすべてのレイアウトでの位置に影響します。

前提条件

タイムトラックを表示して展開しておきます。

手順

1. **[S]** を押して「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択します。
2. **タイムトラック**で、以下のいずれかの操作を行なって、移動するテンポ変更を選択します。
 - 単一のテンポ変更を選択します。
 - 複数の固定テンポ変更を範囲選択します。

補足

段階的テンポ変更の場合、一度に移動できるポイントは1つのみです。

3. テンポを変更することなく選択したテンポ変更を移動するには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら、選択したテンポ変更を左右にドラッグします。

補足

1回の操作で既存のテンポ変更を越えるテンポ変更の移動はできません。マウスを放すと、既存のテンポ変更が移動したテンポ変更置き換えられます。移動したオートメーションイベントを再度選択して、さらに移動できます。

結果

選択したテンポ変更の位置が変更されます。選択した複数の固定テンポ変更を移動した場合、互いの相対位置は維持されます。この変更は、移動したテンポ変更が含まれるすべてのレイアウトにも反映されます。

手順終了後の項目

テンポ変更を上下に移動することで、テンポの値を変更することもできます。

関連リンク

[タイムトラック \(538 ページ\)](#)

[トラックを表示/非表示にする \(547 ページ\)](#)

[テンポ記号の表示/非表示 \(1225 ページ\)](#)

[範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(324 ページ\)](#)

タイムトラックでのテンポの変更

タイムトラックでは、1分あたりの拍数で表わされる個々のテンポ変更のテンポを変更できます。

前提条件

タイムトラックを表示して展開しておきます。

手順

1. **[S]** を押して「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択します。
2. タイムトラックで、以下のいずれかの操作を行なって、変更するテンポが含まれるテンポ変更を選択します。
 - 単一のテンポ変更を選択します。
 - 複数の固定テンポ変更を範囲選択します。

補足

段階的テンポ変更の場合、一度にテンポを変更できるポイントは1つのみです。

3. 選択したテンポ変更の位置を移動することなくテンポを変更するには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら、選択したテンポ変更を上下にドラッグします。
マウスポインターの横にテンポ値が表示され、テンポを視覚的に確認できます。

ヒント

テンポを細かく変更したい場合は、**[Alt]** を押しながらドラッグします。

結果

選択したテンポ変更のテンポが変更されます。この変更は、再生速度やレイアウトに表示されるすべてのテンポ変更のメトロノームマークに影響します。

ヒント

テンポ変更のテンポは、そのテンポ変更を選択し、タイムトラックのヘッダーで「**Tempo**」の値を変えることでも変更できます。

関連リンク

[トラックを表示/非表示にする \(547 ページ\)](#)

[メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1230 ページ\)](#)

タイムトラックのテンポ変更の削除

タイムトラックのテンポ変更を削除できます。

前提条件

タイムトラックを表示して展開しておきます。

手順

1. **[E]** を押して、**削除ツール**を選択します。
 2. 以下のいずれかの操作を行なって、テンポ変更を削除します。
 - 削除する各テンポ変更をクリックします。
 - 削除するテンポ変更を範囲選択します。
-

結果

クリックしたテンポ変更または範囲選択内に含まれたテンポ変更が削除されます。これによって、レイアウトの対応するテンポ記号やテンポ記号ガイドも削除されます。

ヒント

再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択し、削除するテンポ変更をクリックして **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押すことでもテンポ変更を削除できます。

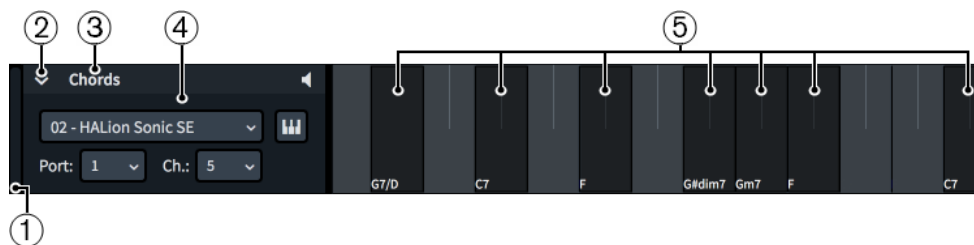
関連リンク

[範囲選択ツールを使った複数アイテムの選択 \(324 ページ\)](#)

コードトラック

コードトラックはすべてのプロジェクトに含まれます。コードトラックを独自のエンドポイントに割り当てて、スコアにコード記号として入力した和音を再生できます。

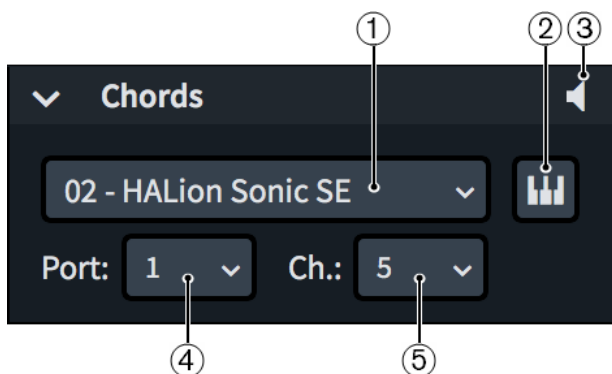
コードトラックは、イベントディスプレイで一番上のインストゥルメントトラックの上に表示され、表示/非表示を切り替えられます。



コードトラックには以下のセクションが含まれます。

- 1** **トラックの高さの調節**
トラックの左下角をドラッグして、トラックの高さを変更できます。
- 2** **トラック展開矢印マーク**
トラックを展開したり折りたたんだりできます。
- 3** **トラック名**
トラックの名前が表示されます。
- 4** **トラックヘッダー**
和音の再生のオン/オフを切り替えるボタンなど、そのトラックで使用できるオプションが含まれます。
- 5** **和音**
フローにあるコード記号の位置と名前を示します。

コードトラックのヘッダー



コードトラックのヘッダーには以下のセクションが含まれます。

1 プラグインインスタンスメニュー

和音の再生に使用する VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのプラグインを選択できます。

2 インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)

対応する VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントが開き、設定を編集できます。

3 和音の再生を有効にする (Enable Chords Playback)

再生に和音を含めるかどうかを切り替えることができます。

4 ポートメニュー

16 チャンネルなどの複数のポートを持つプラグインを使用する場合に、使用するポートを選択してコードトラックを割り当てるエンドポイントを変更します。

5 チャンネルメニュー

和音の再生に使用する選択した VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントのチャンネルを指定して、コードトラックを割り当てるエンドポイントを変更できます。

プロジェクトにサウンドをロード済みの既存のチャンネルを使用するか、和音の再生専用新しいサウンドをロードした新規チャンネルを使用できます。

補足

- 再生で和音を聴けるようにするには、コードトラックに VST インストゥルメントまたは MIDI インストゥルメントと、チャンネルを割り当てる必要があります。
- コードトラックに選択したチャンネルにサウンドを手動でロードしたあと、プロジェクトに他のインストゥルメントを追加した場合、そのチャンネルに手動でロードしたサウンドが新しいインストゥルメントのサウンドで上書きされます。

関連リンク

[コード記号 \(706 ページ\)](#)

[VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする \(507 ページ\)](#)

[トラックを表示/非表示にする \(547 ページ\)](#)


コード記号の再生の有効化

再生にコード記号を含めることができます。コード記号は伸ばした和音として再生され、そのデュレーションは次のコード記号との間隔によって決められます。MIDI キーボードを使って入力したコード記号には、コード記号の入力時に使用したのと同じボイスイングが使用されますが、コンピューターのキーボードを使って入力したコード記号にはデフォルトのボイスイングが使用されます。

前提条件

コードトラックを表示しておきます。

手順

1. コードトラックのヘッダーで、「**和音の再生を有効にする (Enable Chords Playback)**」をクリックします。

 2. 和音の再生に特定のサウンドを使用する場合は、**コードトラック**を展開します。
 3. **コードトラック**のヘッダーで、「**ポート (Port)**」および「**チャンネル (Channel)**」メニューを使ってエンドポイントを選択します。
-

関連リンク

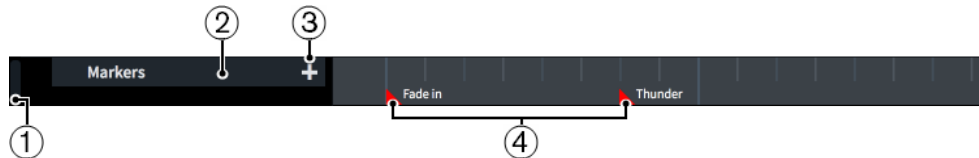
[トラックを表示/非表示にする \(547 ページ\)](#)

[エンドポイント \(576 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)

マーカートラック

マーカートラックでは、プロジェクトのマーカを確認したり、新しいマーカを挿入したりできます。このトラックは、再生モードのイベントディスプレイで一番上のインストゥルメントトラックの上に表示され、表示/非表示を切り替えられます。



マーカートラックには以下のセクションが含まれます。

- 1 **トラックの高さの調節**
トラックの左下角をドラッグして、トラックの高さを変更できます。
- 2 **トラックヘッダー**
トラック名と使用できるオプションが表示されます。
- 3 **マーカを追加 (Add Marker)**
現在の再生ヘッドの位置に、新しいマーカを追加できます。
- 4 **マーカ**
マーカテキストと一緒にフローの各マーカの位置が表示されます。

関連リンク

[マーカ \(1073 ページ\)](#)

[ビデオ \(149 ページ\)](#)

[トラックを表示/非表示にする \(547 ページ\)](#)

[マーカのテキストを編集する \(1075 ページ\)](#)

マーカートラックでのマーカの入力

再生モードのマーカートラックに、マーカを直接入力できます。

前提条件

マーカートラックを表示しておきます。

手順

1. マーカを入力する位置に再生ヘッドを移動します。

補足

時間がマイナスの位置にはマーカを入力できません。たとえば、ビデオがフローの3小節めから開始される場合、フローの最初のタイムコードはマイナスになります。

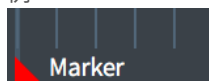
2. マーカートラックのヘッダーで、「**マーカを追加 (Add Marker)**」をクリックします。



結果

再生ヘッドの位置にマーカが入力されます。デフォルトのマーカテキストである「Marker」が表示されます。

例



マーカートラックに表示されたマーカ

手順終了後の項目

マーカテキストは変更できます。

関連リンク

[ビデオの開始位置の変更 \(152 ページ\)](#)

[マーカのテキストを編集する \(1075 ページ\)](#)

[再生ヘッドの移動 \(548 ページ\)](#)

ビデオトラック

ビデオトラックには、楽譜に対するフローでのビデオの位置が表示されます。このトラックは、再生モードのイベントディスプレイで一番上のインストゥルメントトラックの上に表示され、表示/非表示を切り替えられます。



ビデオトラックには以下のセクションが含まれます。

1 トラックの高さの調節

トラックの左下角をドラッグして、トラックの高さを変更できます。

2 トラックヘッダー

トラック名と使用できるオプションが表示されます。

3 ビデオを表示 (Show Video)

ビデオウィンドウの表示/非表示を切り替えられます。このボタンの機能は、ツールバーの「**ビデオを表示 (Show Video)**」と同じです。

4 ビデオファイル名

ビデオファイル名とファイルの拡張子が表示されます。

5 ビデオ領域

楽譜に対するビデオファイルの位置と長さが表示されます。

関連リンク

[ビデオ \(149 ページ\)](#)

[ビデオの追加 \(151 ページ\)](#)

[「ビデオ \(Video\)」ウィンドウを表示/非表示にする \(153 ページ\)](#)

[ビデオの開始位置の変更 \(152 ページ\)](#)

[ツールバー \(42 ページ\)](#)

トラックの展開/折りたたみ

再生モードのトラックは個別に展開したり折りたたんだりできます。また現在のフローのすべてのインストゥルメントトラックを同時に展開または折りたたみできます。トラックを展開すると、トラックヘッダーのコントロールを操作できるほか、ピアノロールエディターの音符や**タイムトラック**のテンポ変更など、トラックの内容を入力したり編集したりできます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、トラックを展開/折りたたみを切り替えます。
 - 展開矢印マークをクリックして、個別のトラックを展開/折りたたみを切り替えます。
 - **[Ctrl]/[command]** を押しながらいずれかのインストゥルメントトラックの展開矢印マークをクリックして、すべてのインストゥルメントトラックを展開/折りたたみを切り替えます。

トラックの高さの変更

すべてのタイプのトラックの高さはいつでも変更できます。たとえば、1つのトラックをイベントディスプレイに一時的に大きく表示して、より細かい作業をすることができます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、トラックの高さを変更します。
 - トラックの高さを高くするには、トラックを選択して **[Shift]+[H]** を押します。
 - トラックの高さを低くするには、トラックを選択して **[Shift]+[G]** を押します。
 - いずれかのトラックの左下の角をクリックし、上下にドラッグします。

ヒント

マウスポインターを適切な位置に合わせると、上下の矢印のアイコンに変わります。

関連リンク

[イベントディスプレイのトラックのズームイン/ズームアウト \(517 ページ\)](#)

トラックを表示/非表示にする

再生モードのイベントディスプレイで一番上のインストゥルメントトラックの上に表示されるトラックは、表示/非表示を切り替えることができます。

初期設定では、**タイムトラック**と**コードトラック**のみが表示されます。初期設定では、プロジェクトのフローに1つでもビデオを追加していれば、**マーカートラック**と**ビデオトラック**も表示されます。

補足

プレーヤートラックおよびインストゥルメントトラックは、表示/非表示を切り替えることができません。

手順

- 「再生 (Play)」 > 「トラック (Tracks)」 > [トラックタイプ] を選択します。
たとえば、「再生 (Play)」 > 「トラック (Tracks)」 > 「タイムトラック (Time Track)」 を選択して、タイムトラックの表示/非表示を切り替えます。

結果

サブメニュー内の項目の横にチェックが付いているトラックタイプは表示され、付いていないトラックタイプは非表示になります。

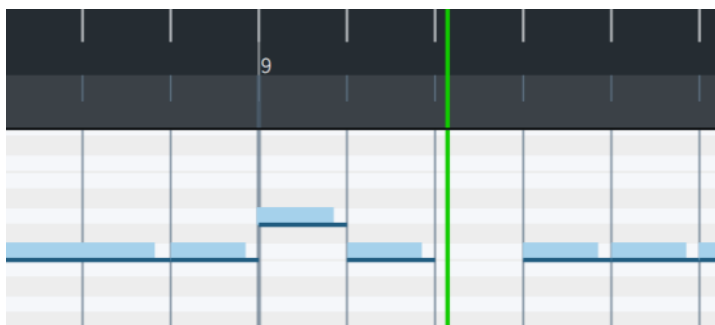
関連リンク

[トラック \(518 ページ\)](#)

再生ヘッド

再生ヘッドは、再生時に移動して現在の再生位置を示す垂直の線です。再生ラインとも呼ばれます。

再生ヘッドは、再生モードでは常に表示され、その他のモードでは再生時に表示されます。また、再生ヘッドの現在の位置は「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウとツールバーのミニトランスポートの両方に表示されます。他のモードでの再生停止時にも再生ヘッドが表示されるように設定することもできます。



再生モードの再生ヘッド

Dorico Pro では、再生ヘッドが再生中に楽譜に沿って移動し、常に表示され続けますが、再生ヘッドを手動で動かすこともできます。再生ヘッドに沿ってスクロールする際、可能な限り組段が画面上の同じ位置に表示されるため、一貫性を保ちながら楽譜を追うことができます。

補足

再生ヘッドは印刷モードでは表示されません。

関連リンク

[トランスポートウィンドウ \(565 ページ\)](#)

[ミニトランスポート \(43 ページ\)](#)

再生ヘッドの移動

再生ヘッドは、再生中に楽譜に沿って自動的に移動しますが、すべてのモードで再生ヘッドを手動で移動することもできます。

再生ヘッドは、停止時と再生中の両方で移動できますが、再生中はすべての移動方法が使用できるわけではありません。

初期設定では、再生ヘッドは再生時にのみ表示されますが、再生ヘッドを常に表示するように選択できます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、再生ヘッドを移動します。
 - 再生ヘッドを進めるには、テンキーの **テンキー [+]** (プラス) を押します。
 - 再生ヘッドを戻すには、テンキーの **テンキー [-]** (マイナス) を押します。
 - 再生ヘッドをフローの最初に移動するには、テンキーの **テンキー [.]** (ピリオド) を押します。
 - 再生ヘッドを選択したアイテムの先頭に移動するには、**[Alt/Opt]+[P]** を押します。
 - 再生ヘッドをフレーム単位を進めるには、**[Ctrl]/[command]+テンキー [+]** 又は **[Ctrl]/[command]+[F9]** を押します。
 - 再生ヘッドをフレーム単位で戻すには、**[Ctrl]/[command]+テンキー [-]** 又は **[Ctrl]/[command]+[F7]** を押します。
 - 再生ヘッドを早送りするには、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウで「**高速早送り (Fast Forward)**」をクリックします。
 - 再生ヘッドを巻き戻すには、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウで「**巻き戻し (Rewind)**」をクリックします。
 - フローの最初に移動するには、「**トランスポート (Transport)**」ウィンドウで「**フローの最初に巻き戻し (Rewind to Beginning of Flow)**」をクリックします。
 - 再生モードで、ルーラー上の任意の場所をクリックします。

補足

再生中は、ルーラー上をクリックして再生ヘッドを移動することはできません。

関連リンク

- [トランスポートウィンドウ \(565 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)
- [フレームレート \(154 ページ\)](#)

再生ヘッドを表示/非表示にする

再生停止時の再生ヘッドの表示/非表示を切り替えることができます。これは、たとえばタイムコードやビデオを使用する作業のときに楽譜の位置を合わせるのに役立ちます。初期設定では、再生ヘッドが常に表示される再生モードを除き、再生停止時の再生ヘッドは非表示になっています。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** (コンマ) を押して「**環境設定 (Preferences)**」を開きます。
 2. ページリストの「**再生 (Play)**」をクリックします。
 3. 「**再生ヘッド (Playhead)**」サブセクションで、「**停止時に再生ヘッドを表示 (Show playhead when stopped)**」をオンまたはオフにします。
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

「**停止時に再生ヘッドを表示 (Show playhead when stopped)**」をオンにすると再生停止時の再生ヘッドが表示され、オフにすると非表示になります。

補足

これは、再生モードと印刷モードには適用されません。再生ヘッドは再生モードでは常に表示され、印刷モードでは表示されません。

楽譜の再生

記譜した楽譜は、プロジェクトの最初または任意の位置から再生できます。またどのモードでも、再生のキーボードショートカットを使用できます。

前提条件

- プロジェクト内のインストゥルメントのサウンドを含む再生テンプレートをプロジェクトに適用しておきます。
- 声部ごとに異なるサウンドを使用する場合は、そのインストゥルメントの声部の個別再生を有効にしておきます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、再生を開始します。

- 選択位置からすべてのインストゥルメントを再生するには、単一の音符を選択して **[P]** を押します。
- 選択位置からすべてのインストゥルメントを再生するには、単一の音符を選択して「再生 (Play)」 > 「選択範囲から再生 (Play From Selection)」を選択します。
- 単一の譜表のみを再生するには、譜表上の複数のアイテムを選択して **[P]** を押します。

補足

再生モードでソロやミュートにされるチャンネルは影響を受けません。

- 複数の譜表を再生するには、それらの譜表上のアイテムを選択して **[P]** を押します。

補足

再生モードでソロやミュートにされるチャンネルは影響を受けません。

- 再生ヘッド位置から再生を続行するには、**[Space]** 又は **[Enter]** を押します。
 - 直前の再生と同じ位置から再生するには、**[Shift]+[Space]** を押します。これは、直前の再生位置のアイテムの選択を解除した場合でも機能します。
 - フローの最初から再生を開始するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[Space]** を押します。
 - 「トランスポート (Transport)」ウィンドウの「再生ヘッドの位置から再生 (Play From Playhead Position)」をクリックします。
 - 「トランスポート (Transport)」ウィンドウの「選択位置から再生 (Play From Selection)」をクリックします。
 - 「再生 (Play)」 > 「再生ヘッドの位置から再生 (Play From Playhead Position)」を選択します。
 - 「再生 (Play)」 > 「最後に開始した位置から再生 (Play From Last Start Position)」を選択します。
 - 「再生 (Play)」 > 「フローの最初から再生 (Play From Start of Flow)」を選択します。
 - 「再生 (Play)」 > 「プロジェクトの最初から再生 (Play From Start of Project)」を選択します。
2. 必要に応じて、再生中に再生ヘッドを前後に移動します。
3. メトロノームクリックを有効または無効にするには、ミニトランスポートの「クリック (Click)」をクリックします。



ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、再生中のメトロノームクリックの有効化/無効化にキーボードショートカットを割り当てることもできます。

4. 以下のいずれかの操作を行なって、再生を停止します。
 - **[Space]** 又は **[Enter]** または **[P]** を押します。
 - **テンキー [0]** (テンキーの 0) を押します。
 - 「トランスポート (Transport)」ウィンドウで「停止 (Stop)」をクリックします。

ヒント

再生の停止時に音に変化する場合は、「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページで「再生を停止するとき、コントローラーをリセットして「All Notes Off」を送信 (Reset controllers and send 'all notes off' when stopping playback)」をオフにできます。

関連リンク

- [再生テンプレート \(567 ページ\)](#)
- [再生テンプレートの適用/リセット \(573 ページ\)](#)
- [声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)
- [トラックをミュート/ソロにする \(552 ページ\)](#)
- [「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)
- [ミニトランスポート \(43 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(62 ページ\)](#)
- [ステータスバー \(51 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

声部の個別再生の有効化

初期設定では、ディヴィジ譜表を含め、単一のインストゥルメントに属するすべての声部は再生に同じエンドポイントを使用します。声部の個別再生を有効にすると、たとえば pizzicato と arco のパートがある弦楽器のディヴィジを再生する際に、それぞれを異なる演奏技法で再生できます。

補足

無音程打楽器キットで声部の個別再生を有効にすることはできません。

手順

1. 個別再生を有効にするインストゥルメントトラックを展開します。
2. 各インストゥルメントトラックのヘッダーで、「声部の個別再生を許可 (Enable independent playback of voices)」を有効にします。

結果

各インストゥルメントの声部の個別再生が有効になります。プロジェクト全体の対応するインストゥルメントに属するすべての声部を再生できるよう、必要な数の追加チャンネルと追加プラグインが自動的にロードされます。

声部メニューでの順番に応じて、声部が自動的にエンドポイントに割り当てられます。声部メニューで個々の声部を選択すると、対応する音符だけがピアノロールエディターに表示されます。

補足

声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントトラックでは、単一の声部が選択されている場合にのみ強弱記号レーン、オートメーションレーン、演奏技法レーンを表示できます。

手順終了後の項目

たとえば、いくつかのフロー内の一部の声部にアンサンブルサウンドではなくソロサウンドが必要な場合など、各フロー内の各声部のエンドポイントを個別に変更できます。

関連リンク

[再生テンプレート \(567 ページ\)](#)

[エンドポイント \(576 ページ\)](#)

[インストゥルメントトラック \(519 ページ\)](#)

[強弱記号レーン \(521 ページ\)](#)

[オートメーションレーン \(531 ページ\)](#)

[演奏技法レーン \(537 ページ\)](#)

[ピアノロールエディター \(512 ページ\)](#)

[エンドポイントへのインストゥルメント/声部の割り当て \(580 ページ\)](#)

トラックをミュート/ソロにする

トラックは個別にミュート/ソロにできます。これによって再生中に音を出すグループを固定できます。たとえば、特定のプレーヤーのグループのみを同時に聴くことができます。

手順

1. ツールバーの「**ミキサーを表示 (Show Mixer)**」をクリックして、ミキサーを表示します。



2. ミキサーで、ミュート/ソロにする各チャンネルの上の対応するボタンをクリックします。

- **ミュート (Mute)**



- **ソロ (Solo)**



結果

対応するボタンがオンになり、各トラックがミュート/ソロになります。

ミュート/ソロにするトラックを変更するまで、再生するトラックの設定は維持されます。つまり、再生するたびにトラックを再選択する必要はありません。たとえば、トラックが8つあり、4つをソロにした場合、その4つのトラックのみが再生されます。2つのトラックをミュートした場合、その2つは再生されず、他の6つのトラックが再生されます。

補足

- トラックをソロにすると、他のすべてのトラックがミュートされます。ミュートされたトラックをソロにすると、自動的にミュートが解除されます。
- トラックまたは譜表の音符やアイテムを選択して、特定のトラックや譜表のみを再生することもできます。

例



オンのときの「ミュート (Mute)」



オンのときの「ソロ (Solo)」

関連リンク

[トラックの展開/折りたたみ \(547 ページ\)](#)

[音符/アイテムを個別にミュートする \(554 ページ\)](#)

インストゥルメントのミュート/ソロ

現在選択しているインストゥルメントをソロにすることで、自動的に他のすべてのインストゥルメントをミュートできます。この機能はプロジェクトの特定のセクションでの作業時に、限定したインストゥルメントのみを再生する場合に役立ちます。

手順

1. ソロにする各インストゥルメントに含まれている音符を少なくとも1つ選択します。この操作は記譜モード、浄書モード、再生モードで行なえます。
2. **[Alt/Opt]+[S]** を押します。

結果

選択したインストゥルメントはソロになり、他のすべてのインストゥルメントはミュートされ、それぞれのミュート/ソロ状態がミキサー内で変更されます。対象のインストゥルメントのミュート/ソロ状態を解除するまで、インストゥルメントのミュート/ソロは継続します。

ヒント

また、ミキサーでインストゥルメントの状態を変更することなく、再生される譜表を再生ごとに指定できます。

関連リンク

[ミキサー \(563 ページ\)](#)

インストゥルメントのミュート/ソロ状態の解除

たとえば、一部のインストゥルメントをソロにしたあとで、すべてのインストゥルメントを再生する場合に、プロジェクト内のすべてのインストゥルメントのミュート/ソロ状態を解除できます。この操作はどのモードでも行なえます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、インストゥルメントのミュート/ソロ状態を解除します。
 - すべてのインストゥルメントのミュート状態を解除するには、**[Alt/Opt]+[U]** を押します。
 - すべてのインストゥルメントのソロ状態を解除するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[S]** を押します。
 - ミキサーで、「**ミュート状態をすべて解除する (Deactivate All Mute States)**」をクリックします。
 - ミキサーで、「**ソロ状態をすべて解除する (Deactivate All Solo States)**」をクリックします。

結果

プロジェクト内のすべてのインストゥルメントの対応する状態が解除されます。たとえばミュート状態とソロ状態の両方を解除すると、すべてのインストゥルメントがデフォルトの状態に戻り、再生にすべてのインストゥルメントが含まれるようになります。

関連リンク

[ミキサー \(563 ページ\)](#)

音符/アイテムを個別にミュートする

音符やアイテムを個別にミュートすることで、それらを削除せずに再生から除外できます。これにより、たとえば、アルペジオなしで和音を聴いたり、複数の強弱記号があるパッセージを単一の音量レベルで聴いたり、テンポ記号の位置からテンポ変更が行なわれないようにしたりできます。

手順

1. 記譜モードで、再生時にミュートまたは抑制する音符/アイテムを選択します。
 2. プロパティパネルの「一般 (Common)」グループで、「再生を抑制 (Suppress playback)」をオンにします。
-

ボリュームフェーダーの変更のリセット

ミキサーでボリュームフェーダーに加えた変更をリセットして、デフォルトレベルに戻すことができます。

前提条件

ミキサーウィンドウを表示しておきます。

手順

- ミキサーで、**[Ctrl]/[command]** を押しながりリセットする各ボリュームフェーダーをクリックします。
-

関連リンク

[ミキサーウィンドウの表示/非表示の切り替え \(565 ページ\)](#)

[ミキサー \(563 ページ\)](#)

テンポモードの変更

テンポモードは、単一の固定テンポと追従テンポ変更の間でいつでも切り替えられます。たとえば、複数のテンポ変更が含まれるプロジェクトで、MIDI の録音時に単一の固定テンポを使用できます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、テンポモードを変更します。
 - いずれかのモードで、ツールバーの「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」をクリックします。
 - 再生モードで、「再生 (Play)」 > 「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」を選択します。
2. 「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」がオンの場合は、ツールバーの「固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)」の数字をクリックして上下にドラッグすることでメトロノームマークの値を変更します。

ヒント

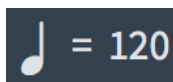
メトロノームマークの値を細かく変更したい場合は、**[Shift]** を押しながらかlickしてドラッグします。

結果

追従テンポモードでは、再生と録音のテンポがプロジェクトのテンポ記号によって設定されます。ツールバーの「**固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)**」が点灯しているか、「**再生 (Play)**」メニューの「**固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)**」の横にチェックが付いていないときは、追従テンポモードがオンになっています。

固定テンポモードでは、再生と録音のテンポは「**固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)**」メトロノームマークの値で設定した単一のテンポです。ツールバーの「**固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)**」が消灯しているか、「**再生 (Play)**」メニューの「**固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)**」の横にチェックが付いているときは、固定テンポモードがオンになっています。

例



固定テンポモードがオンのときの「**固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)**」



追従テンポモードがオンのときの「**固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)**」

関連リンク

[テンポ記号 \(1219 ページ\)](#)

[タイムトラック \(538 ページ\)](#)

[MIDI 録音 \(208 ページ\)](#)

[楽譜の再生 \(550 ページ\)](#)

プリロールの長さの変更

Dorico Pro においてプリロールとは、各フローの最初の小節に含まれる最初の拍が再生されるよりも前に追加される時間のことです。たとえば、プロジェクト内に装飾音符で開始するフローがある場合などにプリロールの長さを変更します。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「**再生オプション (Playback Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**タイミング (Timing)**」をクリックします。
3. 「**フロー (Flows)**」セクションで、「**フローの前のプリロール (Pre-roll before flow)**」の値を変更します。
たとえば、単一の装飾音符で始まるフローの場合は、**0.25** 秒あれば十分です。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

秒数で表わされる、再生時のフローの前のプリロールの長さを変更されます。

再生時のチューニングの変更

ミドル C の上の A を基本とする、再生時に使用されるチューニングを変更できます。たとえば、A=415 Hz とするバロックピッチで楽譜を再生できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. ページリストの「チューニング (Tuning)」をクリックします。
3. 「A4 のピッチ (Pitch of A4)」の値を変更します。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

プロジェクト全体の音符のチューニングピッチが変更され、再生時に演奏されるピッチに影響します。

ヒント

現在の再生デバイスのサンプリングレートも再生時のチューニングに影響します。

再生時の反復

リピートジャンプやリピート領域が適切な位置にある場合、Dorico Pro はリピート括弧、リピート小節線、およびリピートマーカを含む反復記号の再生をサポートします。

単一のフロー内に含むことのできる反復記号に上限はなく、いくつ設定しても正しく再生されます。

初期設定では、「D.S. al Coda」などのリピートジャンプの場合を除き、Dorico Pro はリピートを再生に含めます。これらの両オプションは「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「反復 (Repeats)」ページで変更できます。

反復記号の再生中にミニトランスポートと「トランスポート (Transport)」ウィンドウに表示される小節/拍のディスプレイおよびタイムディスプレイには、再生ヘッドの現在の位置が反映されます。

強弱記号やテンポ記号はリピート内で反映されます。また、リピートはオーディオまたは MIDI の書き出しにも含まれます。

関連リンク

[トランスポートウィンドウ \(565 ページ\)](#)

[ミニトランスポート \(43 ページ\)](#)

スウィング再生

スウィングとは、音価の等しい音符が一定のパターンで長くまたは短く再生される演奏スタイルです。一般的に、2つの8分音符が4分音符の3連符とそれに続く8分音符の3連符として演奏されます。



シンプルなストレート記譜でのスウィングフレーズ

2:1 スウィングでの同じスウィングフレーズ

スウィング再生により、たとえ2つめの8分音符が16分音符2つに分割されても、シンプルな記譜を保ったまま、不統一なリズムで楽譜を再生できます。Dorico Proでは、スウィング再生を、プロジェクト全体、特定のセクション、または個別のインストゥルメントのみに適用できます。「**リズムックフィール (Rhythmic Feel)**」ダイアログでデフォルトのスウィングパターンを編集して、好みのリズムックフィールをカスタマイズできます。8分音符または16分音符をスウィング再生できます。

学術研究に基づいてミュージシャンがスウィングをレンダリングした結果、Dorico Proのスウィングパターンはデフォルトでテンポに依存しています。つまり、遅いテンポではスウィングがより強調され、速いテンポではよりストレートに感じられます。「**リズムックフィール (Rhythmic Feel)**」ダイアログで、すべてのテンポで同じスウィング比率を再生するリズムックフィールを設定できます。

関連リンク

[特定のセクション/インストゥルメントにスウィング再生を適用する](#) (559 ページ)

[「リズムックフィール \(Rhythmic Feel\)」ダイアログ](#) (561 ページ)

スウィング比率とリズムックフィール

スウィング比率は、拍子単位を使用してスウィングの強さを表わします。たとえば、2:1のスウィング比率は、連符の最初の音符の長さが2番めの音符の2倍になり、3連符のスウィングが作成されることを意味します。

スウィング比率が1:1の場合、楽譜はストレートに再生され、スウィング比率が5:1の場合、各連符は6連符のように演奏されます。6連符のうち、最初の音符は6分割された拍の5拍分の長さで、2番めの音符は残りの1拍分の長さで演奏されます。



スウィング比率 1:1



スウィング比率 5:1

Dorico Proには、以下のリズムックフィールがデフォルトで用意されています。

16分音符の2:1 スウィング (一定) (2:1 swing 16ths (fixed))

16分音符の連符の最初の音符を2番めの音符の2倍の長さにするすることで、2:1比率の3連符が作成されます。これは3連符スウィングとも呼ばれます。この比率はデフォルトでテンポにかかわらず維持されます。

8 分音符の 2:1 スウィング (一定) (2:1 swing 8ths (fixed))

8 分音符の連符の最初の音符を 2 番めの音符の 2 倍の長さにするので、2:1 比率の 3 連符が作成されます。これは 3 連符スウィングとも呼ばれます。この比率はデフォルトでテンポにかかわらず維持されます。

16 分音符の 3:1 スウィング (一定) (3:1 swing 16ths (fixed))

16 分音符の連符の最初の音符を 2 番めの音符の 3 倍の長さにするので、付点 16 分音符と 32 分音符の比率が作成されます。この比率はデフォルトでテンポにかかわらず維持されます。

8 分音符の 3:1 スウィング (一定) (3:1 swing 8ths (fixed))

8 分音符の連符の最初の音符を 2 番めの音符の 3 倍の長さにするので、付点 8 分音符と 16 分音符の比率が作成されます。この比率はデフォルトでテンポにかかわらず維持されます。

16 分音符の重いスウィング (Heavy swing 16ths)

遅いテンポでは 3:1、速いテンポでは 1.5:1 のテンポによって可変する 16 分音符のスウィング比率が作成されます。

8 分音符の重いスウィング (Heavy swing 8ths)

遅いテンポでは 3:1、速いテンポでは 1.5:1 のテンポによって可変する 8 分音符のスウィング比率が作成されます。

16 分音符の軽いスウィング (Light swing 16ths)

遅いテンポでは 1.5:1、速いテンポでは 1:1 のテンポによって可変する 16 分音符のスウィング比率が作成されます。

8 分音符の軽いスウィング (Light swing 8ths)

遅いテンポでは 1.5:1、速いテンポでは 1:1 のテンポによって可変する 8 分音符のスウィング比率が作成されます。

16 分音符のミディアムスウィング (Medium swing 16ths)

遅いテンポでは 2:1、速いテンポでは 1.5:1 のテンポによって可変する 16 分音符のスウィング比率が作成されます。

8 分音符のミディアムスウィング (Medium swing 8ths)

遅いテンポでは 2:1、速いテンポでは 1.5:1 のテンポによって可変する 8 分音符のスウィング比率が作成されます。

ストレート (スウィング無し) (Straight (no swing))

スウィングは作成されません。つまり、すべてのテンポで 8 分音符が 1:1 の比率で等しく演奏されます。

使用するスウィング比率は、プロジェクト全体、特定のセクション、および個別のプレーヤーで変更できます。「リズムフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログでは、これらの設定を編集して独自のスウィング比率を作成できます。

関連リンク

[「リズムフィール \(Rhythmic Feel\)」ダイアログ \(561 ページ\)](#)

プロジェクト全体にスウィング再生を適用する

いずれかのデフォルトのスウィング比率またはプロジェクトで作成したカスタムスウィング比率を使用して、プロジェクト全体にスウィング再生を適用できます。

前提条件

スウィング再生にカスタムリズムフィールを使用する場合は、あらかじめ作成しておきます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。

2. ページリストの「**タイミング (Timing)**」をクリックします。
3. 「**リズムックフィール (Rhythmic Feel)**」セクションで、「**デフォルトのリズムックフィール (Default rhythmic feel)**」のメニューから使用するリズムックフィールを選択します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択した比率のスウィングの単位に応じて、プロジェクト内の8分音符または16分音符の連符すべてが、選択したスウィング比率で再生されます。これには、8分音符が2つの16分音符に分割されるなど、2つめの拍が2つに分割されるかどうかも含まれます。

関連リンク

[「再生オプション」ダイアログ \(509 ページ\)](#)

[スウィング再生用のカスタムリズムックフィールの作成 \(560 ページ\)](#)

[「リズムックフィール \(Rhythmic Feel\)」ダイアログ \(561 ページ\)](#)

特定のセクション/インストゥルメントにスウィング再生を適用する

プロジェクトの特定のセクションや個別のインストゥルメントにスウィング再生を適用できます。たとえば、ソリストの12小節分のセクションのみでスウィングできます。

手順

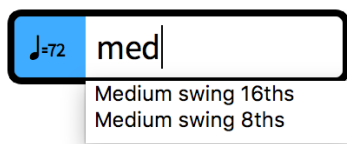
1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
 - 特定のポイント以降のスウィング再生を有効にするには、スウィング再生または異なるリズムックフィールを適用する小節の先頭のアイテムを1つ選択します。
 - セクション内のスウィング再生を有効にしたあとにストレート再生に戻すには、スウィング再生または異なるリズムックフィールを適用するデュレーションにまたがる複数のアイテムを選択します。

補足

- 1つのインストゥルメントのスウィング再生を有効にするには、そのインストゥルメントにのみ属するアイテム (1つまたは複数) を選択します。
- 小節の先頭以外のアイテムを選択した場合、リズムックフィールの変更は次の小節の最初から適用されます。

2. **[Shift]+[T]** を押してテンポのポップオーバーを開きます。
3. 使用するリズムックフィールのエントリーをポップオーバーに入力します。

テンポのポップオーバーにリズムックフィールを入力しはじめると、入力した文字や単語が含まれる有効なリズムックフィールがメニューに予測表示され、そこから使用するリズムックフィールを選択できます。



補足

プロジェクトに存在するリズムックフィールの名前を入力しなければ、ポップオーバーに入力したテキストがテンポ記号として入力され、スウィング再生は有効になりません。

4. 以下のいずれかの操作を行なって、リズムックフィールの変更を入力し、ポップオーバーを閉じます。
 - すべての譜表にリズムックフィールの変更を入力するには、**[Return]** を押します。

- 選択したインストゥルメントにのみリズムフィールドの変更を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。
-

結果

スウィング再生に使用されるリズムフィールドは、選択した最初のアイテムを含む小節の最初から変更されます。小節の先頭以外のアイテムを選択した場合、リズムフィールドの変更は次の小節の最初から適用されます。複数のアイテムを選択した場合、リズムフィールドは選択した最後のアイテムの位置で自動的にリセットされます。**[Alt/Opt]+[Return]** を押した場合、リズムフィールドの変更は、アイテムを選択した譜表上のインストゥルメントにのみ適用されます。1つのインストゥルメントに追加されたリズムフィールドは、そのインストゥルメントに属するすべての譜表に適用されます。

入力したリズムフィールドの名前を示すガイドが表示されます。すべての譜表に適用されるリズムフィールドの変更のガイドは、組段全体の一番上の譜表の上に表示され、1つのインストゥルメントに適用されるリズムフィールドの変更のガイドは、そのインストゥルメントの一番上の譜表の上に直接表示されます。

関連リンク

[テンポのポップオーバー](#) (231 ページ)

リズムフィールドの変更の削除

特定のセクションや個別のプレーヤーのみに適用したリズムフィールドの変更を削除できます。

前提条件

リズムフィールドの変更のガイドを表示しておきます。

手順

1. 記譜モードで、削除するリズムフィールドの変更のガイドを選択します。
 2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
-

結果

リズムフィールドの変更が削除されます。影響を受けていた譜表の再生は、次のリズムフィールドの変更のガイドまで (存在する場合)、プロジェクト全体の設定に戻ります。

関連リンク

[ガイドの表示/非表示の切り替え](#) (339 ページ)

スウィング再生用のカスタムリズムフィールドの作成

デフォルトのリズムフィールドに含まれていないスウィング比率を使用したい場合に、カスタムリズムフィールドを作成してスウィング再生に使用できます。まったく新しいリズムフィールドを作成したり、既存のリズムフィールドをベースにして新しいリズムフィールドを作成したりできます。

手順

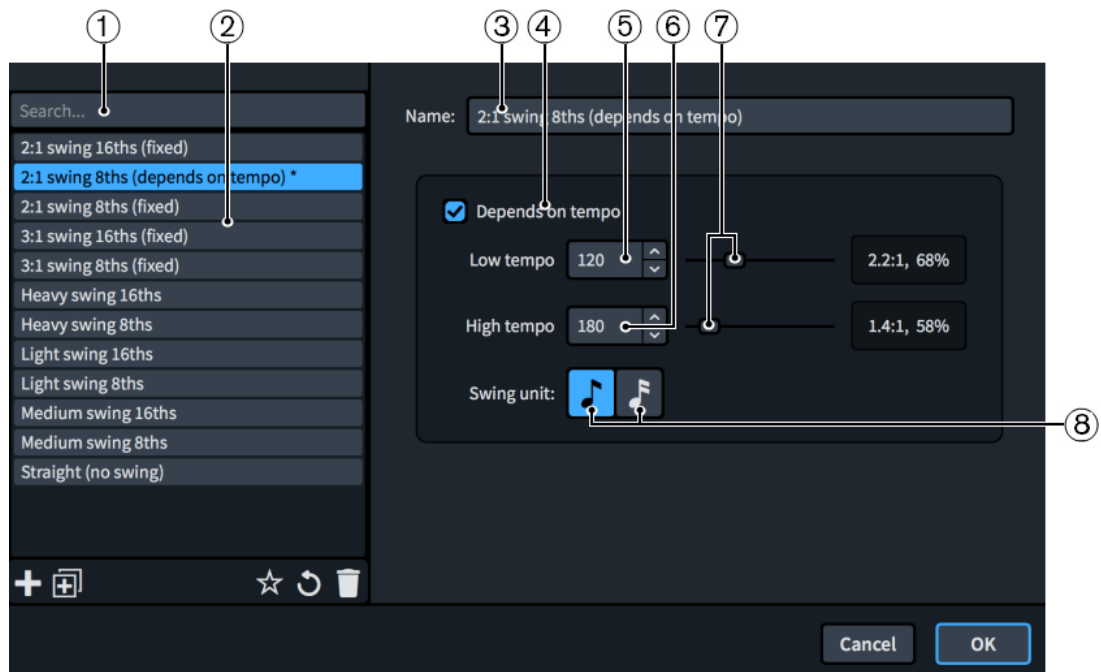
1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. ページリストの「タイミング (Timing)」をクリックします。
3. 「リズムフィールド (Rhythmic Feel)」セクションで、「編集 (Edit)」をクリックして「リズムフィールド (Rhythmic Feel)」ダイアログを開きます。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいリズムフィールドを作成します。
 - まったく新しいリズムフィールドを作成する場合は、「新規 (New)」をクリックします。

- 既存のリズミックフィールをベースにして新しいものを作成する場合は、リズミックフィールリストから既存のものを選択し、「**選択から新規作成 (New from Selection)**」をクリックします。
5. 「名前 (Name)」フィールドにリズミックフィールの名前を入力します。
 6. 「遅いテンポ (Low tempo)」スライダーを任意のスウィング比率の位置に移動します。
 7. カスタムリズミックフィールのスウィング比率をテンポによって変化させる場合は、「**テンポにより可変 (Depends on tempo)**」をオンにします。
 8. 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオンにした場合は、必要に応じて「**遅いテンポ (Low tempo)**」と「**速いテンポ (High tempo)**」のいずれかまたは両方の bpm の値を変更します。
 9. 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオンした場合は、「**速いテンポ (High tempo)**」スライダーを任意のスウィング比率の位置に移動します。
 10. 「スウィングの単位 (Swing unit)」で以下のいずれかを選択します。
 - 8 分音符 (8th (Quaver))
 - 16 分音符 (16th (Semiquaver))
 11. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
 12. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

「リズミックフィール (Rhythmic Feel)」 ダイアログ

「リズミックフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログでは、スウィング再生に使用されるデフォルトのリズミックフィール設定を編集してカスタムのリズミックフィールを作成できます。

- 「リズミックフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログを開くには、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」を選択して表示されるダイアログの「**タイミング (Timing)**」ページの「**リズミックフィール (Rhythmic Feel)**」セクションにある「**編集 (Edit)**」をクリックします。



「リズミックフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログ

「リズミックフィール (Rhythmic Feel)」ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

- 1 検索フィールド
テキストを入力してリズミックフィールをフィルタリングできます。
- 2 リズミックフィールのリスト

プロジェクトで使用できるリズムフィールドが表示されます。
リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New):** デフォルト値で新規のリズムフィールドを作成します。



- **選択から新規作成 (New from Selection):** リストで選択したリズムフィールドをもとに新規のリズムフィールドを作成します。デフォルトでは値は上書きされませんが、新規のリズムフィールドのオプションは変更できます。



- **デフォルトとして保存 (Save as Default):** 他のプロジェクトでも使用できるように、選択したリズムフィールドをライブラリーにコピーします。



- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory):** 選択したリズムフィールドに加えた変更をすべて削除し、出荷時の設定に戻します。



- **削除 (Delete):** 選択したリズムフィールドを削除します。



補足

プリセットのリズムフィールドやプロジェクトで現在使用しているリズムフィールドは削除できません。

3 名前 (Name)

新規のリズムフィールドの名前を入力したり、既存のリズムフィールドの名前を編集したりできます。

4 テンポにより可変 (Depends on tempo)

スウィングのパターンが、すべてのテンポで固定の比率であるか、テンポに応じて変化するかをコントロールします。

- 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオンにすると、スウィング比率はテンポに応じて変化します。「**速いテンポ (High tempo)**」用のスライダーが追加で表示され、「**遅いテンポ (Low tempo)**」と「**速いテンポ (High tempo)**」の両方の値を変更できます。
- 「テンポにより可変 (Depends on tempo)」をオフにすると、単一のスライダーのスウィング比率の値がすべてのテンポに使用されます。

5 遅いテンポ (Low tempo)

設定した値以下のテンポ (1 分間あたりの 4 分音符の数) で、スウィング比率が変化します。使用するスウィング比率は、右にあるスライダーでコントロールします。

6 速いテンポ (High tempo)

設定した値以上のテンポ (1 分間あたりの 4 分音符の数) で、スウィング比率が変化します。「**テンポにより可変 (Depends on tempo)**」がオンの場合、使用するスウィング比率は、右にあるスライダーでコントロールします。

7 スウィング比率のスライダー

「**遅いテンポ (Low tempo)**」の値以下のテンポと「**速いテンポ (High tempo)**」の値以上のテンポで使用されるスウィング比率を設定します。設定可能な範囲は、1:1 (ストレート) から 5:1 (2 番めの 8 分音符が 6 連符の最後の分割で演奏される) までです。

現在のスウィング比率とスウィングの割合の値が、スライダーの右に表示されます。

8 スウィングの単位 (Swing unit)

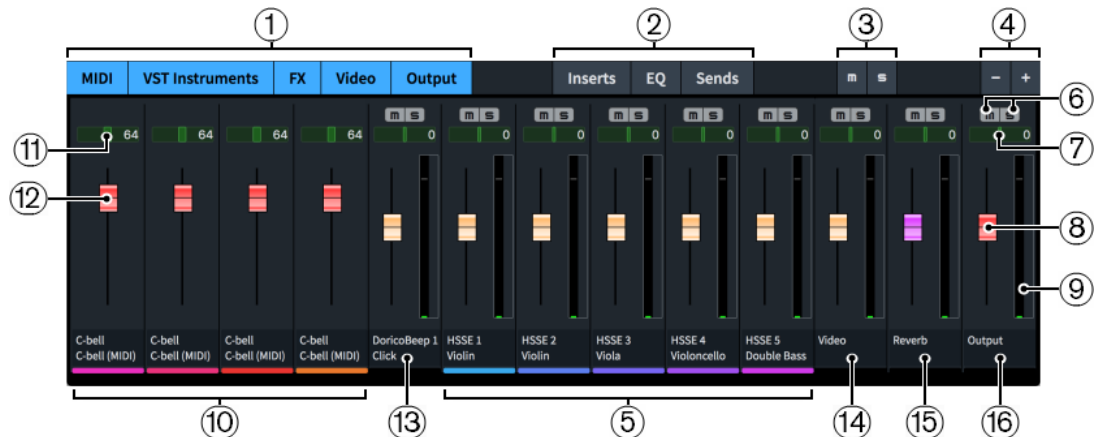
選択した比率でスウィングさせるデュレーションを選択できます。8分音符または16分音符をスウィング再生できます。

関連リンク

[「再生オプション」ダイアログ \(509 ページ\)](#)

ミキサー

ミキサーでは、再生中に出力されるサウンドを、マスター出力と個々のチャンネルの両方でコントロールできます。



ミキサーは以下で構成されます。

1 チャンネルタイプボタン

チャンネルのタイプに応じて、ミキサーに表示/非表示にするチャンネルを自由に組み合わせて選択できます。

2 チャンネルコントロール

チャンネルコントロールのタイプに応じて、チャンネルストリップに表示/非表示にするコントロールを自由に組み合わせて選択できます。

3 ミュート状態をすべて解除する (Deactivate All Mute States)/ソロ状態をすべて解除する (Deactivate All Solo States)

対応するボタンをクリックして、すべてのミュート/ソロを解除できます。

4 ズーム

チャンネルの幅を拡大/縮小できます。

5 VST チャンネル

プロジェクトに含まれる各 VST インストゥルメントの各ステレオ出力用にミキサーチャンネルがあります。インストゥルメントが複数の VST インストゥルメントインスタンスにまたがる場合でも、プロジェクトのインストゥルメントはすべて表示されます。デフォルトでチャンネルはステレオに設定されています。

6 ミュート/ソロ

トラックを個別にミュート/ソロにできます。

7 バランスパンナー

各トラックのサウンドを、ステレオ再生のステレオスペクトラムでパンニングできます。

8 フェーダー

各トラックのボリュームレベルをコントロールできます。

MIDI チャンネルには MIDI フェーダーがあります。

9 チャンネルメーター

各チャンネルの出力ボリュームをリアルタイムに示します。

10 MIDI チャンネル

プロジェクトのすべての VST インストゥルメントには、VST チャンネルに加えて MIDI チャンネルもあります。MIDI チャンネルでは、各インストゥルメントの MIDI ボリュームと MIDI パンを変更できます。

11 MIDI パン

チャンネルの MIDI 出力を、ステレオ再生のステレオスペクトラムでパンニングできます。

12 MIDI フェーダー

チャンネルの MIDI ボリュームを変更できます。

MIDI フェーダーは一部のプラグインに必要です。多くの場合、再生に MIDI デバイスを使用する場合に MIDI フェーダーが役立ちます。

13 クリックチャンネル

メトロノームクリックのボリュームをコントロールできます。

14 ビデオチャンネル

ビデオオーディオのボリュームをコントロールできます。

15 FX Send チャンネル

リバーブなどの Send エフェクトのボリュームをコントロールできます。デフォルトでは、このチャンネルに REVerence が自動的に読み込まれています。

16 出力チャンネル

マスター出力ボリュームをコントロールできます。

補足

プロジェクトのボリュームレベルをコントロールするために、トラックフェーダーを使用する前に強弱記号を入力して、強弱のカーブをプロジェクトに合わせて調整することをおすすめします。

ミキサー で加えた変更は自動的に保存され、プロジェクトに適用されます。

関連リンク

[ミキサーウィンドウの表示/非表示の切り替え \(565 ページ\)](#)

[トラックをミュート/ソロにする \(552 ページ\)](#)

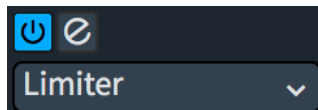
[ボリュームフェーダーの変更のリセット \(554 ページ\)](#)

ミキサーのチャンネルストリップ

ミキサーの各チャンネルには、チャンネルコントロールが含まれる固有のチャンネルストリップがあります。各タイプのチャンネルコントロールは、ミキサーの一番上の対応するボタンをクリックして表示/非表示を切り替えられます。

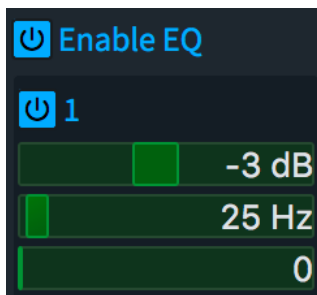
各チャンネルストリップには、以下のタイプのコントロールが含まれています。

インサート (Inserts)



各チャンネルには、Insert を読み込むことができるスロットが 4 つ備わっています。メニュー内の使用可能なオプションから Insert を選択できます。

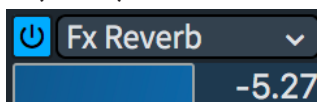
EQ



各チャンネルには、EQ のバンドが4つ備わっています。

チャンネルの EQ バンドを変更するには、まず「EQ を有効にする (Enable EQ)」をクリックする必要があります。この機能を使用すると、設定を保持したままチャンネルの EQ をバイパスできます。

センド (Sends)



各チャンネルには、Send 用のスロットが4つ備わっています。デフォルトでは、各チャンネルの最初のスロットが、リバーブが読み込まれている FX チャンネルに送られます。

ミキサーウィンドウの表示/非表示の切り替え

ミキサーウィンドウはいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば、楽譜領域で作業をしているときに非表示にできます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行なって、ミキサー ウィンドウの表示/非表示を切り替えます。

- **[F3]** を押します。
- ツールバーの「ミキサーを表示 (Show Mixer)」をクリックします。



- 「ウィンドウ (Window)」 > 「ミキサー (Mixer)」を選択します。
メニュー内の「ミキサー (Mixer)」の横にチェックが付いている場合はミキサー ウィンドウが表示され、付いていない場合は非表示になります。

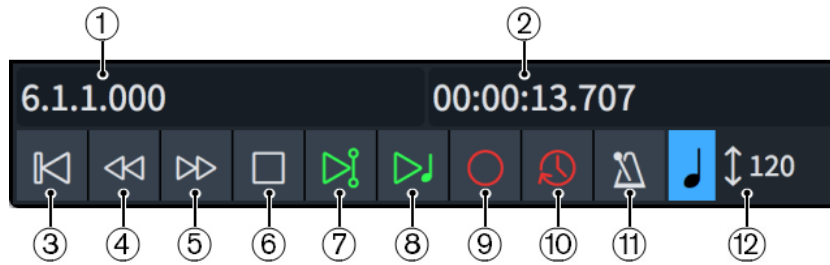
トランスポートウィンドウ

トランスポートウィンドウには、Dorico Pro のすべてのトランスポート機能が含まれます。トランスポートウィンドウには、ツールバーのトランスポートより詳細なトランスポート機能や、ツールバーにはないトランスポート機能が含まれています。

以下のいずれかの操作を行なって、トランスポートウィンドウの表示/非表示を切り替えます。

- **[F2]** を押します。
- ツールバーの「トランスポートバーを表示 (Show Transport Bar)」をクリックします。





トランスポートウィンドウ

トランスポートウィンドウには、以下の情報と機能が含まれます。

1 小節/拍ディスプレイ

現在のフローの小節と拍に対する再生ヘッドの位置が、小節、拍、16分音符、16分音符テンポ120の順で表示されます。

2 タイムディスプレイ

再生ヘッドの位置が、経過時間(時間、分、秒、ミリ秒の順)で表示されます。または、現在のフローの再生ヘッドのタイムコード位置を、時間、分、秒、フレームの順で表示できます。

タイムディスプレイに経過時間とタイムコードのどちらを表示するかを切り替えるには、タイムディスプレイをクリックします。

3 フローの最初に巻き戻し (Rewind to Beginning of Flow)

フローの最初に再生位置を移動します。

4 巻き戻し (Rewind)

クリックするたびに、再生ヘッドが2分音符分巻き戻しされます。

5 高速早送り (Fast Forward)

クリックするたびに、再生ヘッドが2分音符分早送りされます。

6 停止 (Stop)

再生を停止します。

7 再生ヘッドの位置から再生 (Play From Playhead Position)

現在の再生ヘッドの位置から再生を開始します。

8 選択位置から再生 (Play from Selection)

楽譜領域で選択している最初のアイテムの位置から再生を開始します。

複数の譜表上のアイテムを選択するか、単一の譜表上の複数のアイテムを選択した場合は、アイテムを選択している譜表のみが再生されます。

9 録音 (Record)

MIDI録音を開始/停止します。

10 非録音時のMIDI入力データを記録 (Retrospective Record)

明示的にMIDI入力データを録音していなかった場合でも、直前の再生中に演奏したMIDIデータを取得して、任意の譜表に入力できます。

11 クリック (Click)

再生および録音中にメトロノームクリックを再生/ミュートします。

12 固定テンポモード (Fixed Tempo Mode)

再生と録音の両方に使用されるテンポが表示されます。再生ヘッドの現在の位置に従って値が、現在のモードに従って外観が変化します。

関連リンク

[ミニトランスポート \(43 ページ\)](#)

[テンポモードの変更 \(554 ページ\)](#)

トランスポートディスプレイに表示する内容の変更

ツールバーのミニトランスポートとトランスポートウィンドウの両方で、表示をタイムコード、合計経過時間、および再生ヘッドの現在の位置 (小節、拍、ティックで表わされる) で切り替えることができます。

手順

- ツールバーのミニトランスポートまたはトランスポートウィンドウのいずれかで、目的の内容が表示されるまでトランスポートディスプレイをクリックします。
トランスポートウィンドウの場合、右側にあるディスプレイをクリックします。

結果

ミニトランスポートディスプレイをクリックするたびに、表示形式が再生ヘッドの位置、経過時間、タイムコードに切り替わります。

トランスポートウィンドウでは、再生ヘッドの位置がウィンドウの左側に常に表示されているため、タイムコードと経過時間のみで切り替わります。

ヒント

「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページで、以後のすべてのプロジェクトのミニトランスポートにデフォルトで表示される内容を変更できます。

関連リンク

- [ツールバー \(42 ページ\)](#)
- [ミニトランスポート \(43 ページ\)](#)
- [タイムコード \(1079 ページ\)](#)
- [「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

再生テンプレート

Dorico Pro は、再生テンプレートを使用して VST インストゥルメントおよび MIDI デバイスのサウンドをプロジェクト内のインストゥルメントに割り当てます。

再生テンプレートは、以下の情報を組み合わせて正しい再生を行ないます。

- VST インストゥルメントなどのプラグインによって提供されるインストゥルメントサウンド、アーティキュレーション、演奏技法の再生効果
- これらのサウンドの再生に必要なエクスプレッション/パーカッションマップ
- 各インストゥルメントのサウンドに必要なエンドポイント設定

プロジェクト内のプレーヤーにインストゥルメントを追加すると、Dorico Pro が現在の再生テンプレートに応じてそのインストゥルメントのプラグインを自動的にロードし、必要に応じてエクスプレッションマップとパーカッションマップの設定を行ないます。また、多くのプラグインは限られた数のサウンドしかロードできないため、Dorico Pro は自動的に必要な数だけプラグインをロードします。

エンドポイントに割り当てられているエクスプレッションマップを変更するなどして、プロジェクト内のインストゥルメントが使用しているサウンドに手動で独自の変更を加えたり、再生テンプレートを上書きしたりできます。そのあと、これらの変更を、独自のカスタム再生テンプレートに含めることができるカスタムエンドポイント設定として保存できます。

また、たとえば他のユーザーと共有するために、カスタム再生テンプレートを書き出すこともできます。再生テンプレートは .dorico_pt ファイルとして保存されます。

補足

- 再生テンプレートは、コンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できます。つまり、再生テンプレートに対して行なう変更は、その再生テンプレートを使用しているすべてのプロジェクトに影響します。
- Dorico Pro は、現在の再生テンプレートに含まれているサウンドを使用して、プロジェクトに追加された新しいインストゥルメントのサウンドを自動的にロードします。そのため、すべてのインストゥルメントにサウンドが割り当てられるよう、カスタム再生テンプレートが一番下に代替テンプレートとして出荷時のデフォルトの再生テンプレートを常に含めておくことをおすすめします。
- プロジェクトを保存するとプラグイン内で行なった変更が保存されますが、Dorico Pro には変更が伝えられません。この場合、Dorico Pro は元のサウンドのエクスペッションマップまたはパーカッションマップを引き続き使用するため、再生時に予期せず低い音が鳴ることがあります。プラグインで変更を行なった場合は、適切なエンドポイントに正しいエクスペッションマップまたはパーカッションマップを手動で割り当てる必要があります。

関連リンク

- [「再生テンプレートを編集 \(Edit Playback Template\)」ダイアログ \(570 ページ\)](#)
- [再生テンプレートの適用/リセット \(573 ページ\)](#)
- [カスタム再生テンプレートを作成する \(573 ページ\)](#)
- [再生テンプレートの書き出し \(575 ページ\)](#)
- [「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)
- [エンドポイントへのエクスペッションマップ/パーカッションマップの割り当て \(581 ページ\)](#)
- [エンドポイント \(576 ページ\)](#)
- [カスタムエンドポイント設定 \(578 ページ\)](#)

「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログ

「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログを使用すると、現在のプロジェクトに適用されている再生テンプレートの変更や、再生テンプレートの読み込み/書き出しなどを行なえます。また、「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログを開くこともできます。

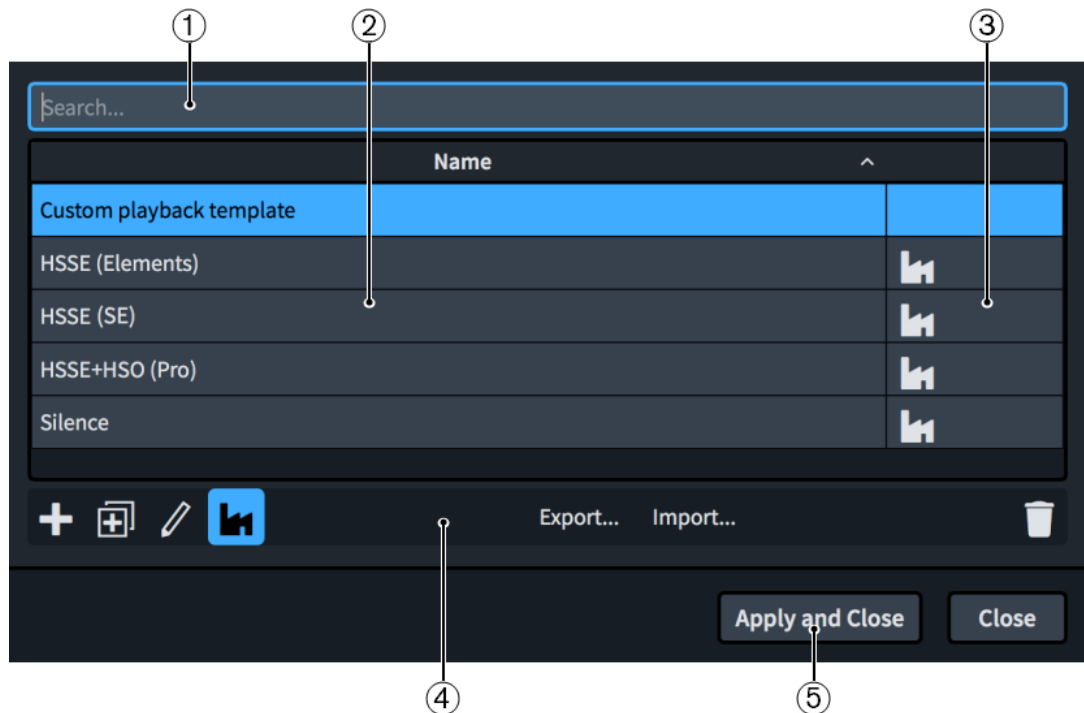
- 「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログは、再生モードで「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」を選択すると開きます。

「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログには、お使いのコンピューターで使用できるすべての再生テンプレートが一覧で表示されます。Dorico Pro には、出荷時のデフォルトとして、以下の再生テンプレートが用意されています。

- **HSSE (Elements):** HALion Sonic SE で使用できます。
- **HSSE+HSO (Pro):** HALion Sonic SE と HALion Symphonic Orchestra の両方で使用できます。
- **Silence:** Dorico Pro がサウンドをロードしないようにします。

ヒント

たとえば、Dorico Pro のプロジェクトファイルを電子的に送信する場合などに、「Silence」テンプレートを選択すると、ファイルサイズを大幅に抑えることができます。



「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログ

「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログは以下で構成されます。

1 検索フィールド

探している再生テンプレートの名前を直接入力してリストをフィルタリングできます。

2 「名前 (Name)」列

お使いのコンピューターで使用できる再生テンプレートのリストです。列のヘッダーをクリックしてソート順を変更できます。

3 出荷時のデフォルト列

その行の再生テンプレートが出荷時のデフォルトの再生テンプレートの場合、工場のマークが表示されます。列のヘッダーをクリックしてソート順を変更できます。

4 アクションバー

再生テンプレートに関する以下のオプションがあります。

- **再生テンプレートを追加 (Add Playback Template): 「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログを開き、新しい再生テンプレートを作成できます。**



- **再生テンプレートを複製 (Duplicate Playback Template): 「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログを開き、選択した再生テンプレートの複製を元に新しい再生テンプレートを作成できます。**



- **再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template): 「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログを開き、選択した既存の再生テンプレートを編集できます。**



補足

出荷時のデフォルトの再生テンプレートを編集することはできません。

- **出荷時設定を表示 (Show Factory):** 出荷時のデフォルトの再生テンプレートを表に表示するかどうかを切り替えます。



- **書き出し (Export):** エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、現在選択している再生テンプレートを .dorico_pt ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.dorico_pt ファイルを別のコンピューターの Dorico Pro に読み込んで他のユーザーと共有できます。
- **読み込み (Import):** エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、再生テンプレートとして読み込む .dorico_pt ファイルを選択できます。
- **削除 (Delete):** 選択した再生テンプレートを削除します。



補足

出荷時のデフォルトの再生テンプレートを削除することはできません。

5 適用して閉じる (Apply and Close)

選択した再生テンプレートをプロジェクトに適用してダイアログを閉じます。

関連リンク

[カスタム再生テンプレートを作成する \(573 ページ\)](#)

[再生テンプレートの適用/リセット \(573 ページ\)](#)

[再生テンプレートの読み込み \(575 ページ\)](#)

[再生テンプレートの書き出し \(575 ページ\)](#)

「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログ

「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログでは、新しいカスタム再生テンプレートの作成や既存のテンプレートの編集を行なえます。カスタムエンドポイント設定と既存の再生テンプレートを自由に組み合わせて使用し、それらをどのような順番で使用するかを指定できます。

再生テンプレートは、コンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できません。

- 「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログを開くには、再生モードで「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログの「再生テンプレートを追加 (Add Playback Template)」、「再生テンプレートを複製 (Duplicate Playback Template)」、または「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」をクリックします。

Entries	
Pianoteq	Manual
HSSE+HSO (Pro)	Auto
NotePerformer	Auto

Family Overrides	
Woodwinds	

Instrument Overrides	

「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」 ダイアログ

「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」 ダイアログには以下のセクションがあります。

1 再生テンプレートのデータ

選択したカスタム再生テンプレートに以下の識別情報を指定できます。

- **名前 (Name):** プログラムの「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログなどに表示される再生テンプレートの名前を設定できます。
- **ID:** 再生テンプレートの固有 ID を設定できます。「ID」フィールドには、「名前 (Name)」フィールドに入力した情報が自動的に入力されます。
- **作成者 (Creator):** 再生テンプレートを他のユーザーと共有する場合に、作成者の名前を付けることができます。
- **バージョン (Version):** 最新のバージョンを識別できるように、再生テンプレートのバージョンを表示できます。たとえば、再生テンプレートに変更を加えるたびに「バージョン (Version)」番号の数字を大きくするなどします。
- **説明 (Description):** 再生テンプレートに関するその他のあらゆる情報を追加できます。

補足

再生テンプレートのデータセクションにある「名前 (Name)」以外のすべてのフィールドは、「情報をロック (Lock Info)」ボタンでロックされています。これらのフィールドの情報を変更するには、このボタンをクリックする必要があります。

2 エントリー (Entries)

選択したカスタム再生テンプレートに使用されている、すべてのカスタムエンドポイント設定と既存の再生テンプレートの表です。エントリーは優先順位順に表示され、一番上のエントリーから順にサウンドが割り当てられます。すべてのインストゥルメントにサウンドが割り当てられるよう、リストの一番下に代替テンプレートとして出荷時のデフォルトの再生テンプレートを常に含めておくことをおすすめします。

ほとんどの場合、「エントリー (Entries)」セクションに任意の順序でエントリーをリストしておけば希望通りに再生できます。ただし、カスタム再生テンプレートの複数のエントリーに同じインストゥルメントのサウンドが含まれている場合は、ファミリーの上書きやインストゥルメントの上書きを設定する必要があります。たとえば、最初のエントリーからは木管楽器のサウンドのみを使用し、他のすべてのサウンドは2つめのエントリーから使用するなどです。

右側の列には、その行のエントリーのタイプが表示されます。

- **手動 (Manual):** サウンドを自動的にロードできないエントリー (カスタムエンドポイント設定など)
- **自動 (Auto):** サウンドを自動的にロードできるエントリー (出荷時のデフォルトの再生テンプレート)

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **手動を追加 (Add Manual):** 再生テンプレートに手動エントリーを追加できます。
- **自動を追加 (Add Automatic):** 再生テンプレートに自動エントリーを追加できます。
- **上へ移動 (Move up):** 選択したエントリーを1つ上に移動します。



- **下へ移動 (Move down):** 選択したエントリーを1つ下に移動します。



- **削除 (Delete):** 選択したエントリーを再生テンプレートから削除します。



3 ファミリーの上書き (Family Overrides)

選択したエントリーに適用されるファミリーの上書きのリストです。上書きの追加や削除を行なえます。ファミリーの上書きを使用すると、たとえば金管楽器や弦楽器のサウンドも含まれるエントリーから、木管楽器のサウンドだけを使用したい場合などに、使用するインストゥルメントファミリーサウンドを指定できます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **インストゥルメントファミリーを追加 (Add Instrument Family):** 選択したエントリーに上書きとして適用するインストゥルメントファミリーを選択できます。



- **インストゥルメントファミリーを削除 (Delete Instrument Family):** 選択したファミリーの上書きを選択したエントリーから削除します。



4 インストゥルメントの上書き (Instrument Overrides)

選択したエントリーに適用されるインストゥルメントの上書きのリストです。上書きの追加や削除を行なえます。インストゥルメントの上書きを使用すると、たとえばアンサンブル弦楽器のサウンドも含まれるエントリーから、ソロバイオリンのサウンドだけを使用したい場合などに、使用する個々のインストゥルメントサウンドを指定できます。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **インストゥルメントを追加 (Add Instrument):** 選択したエントリーに上書きとして適用するインストゥルメントを選択できます。



- **インストゥルメントを削除 (Delete Instrument):** 選択したインストゥルメントの上書きを選択したエントリーから削除します。



関連リンク

[「再生テンプレートを適用 \(Apply Playback Template\)」ダイアログ \(568 ページ\)](#)

[エンドポイント \(576 ページ\)](#)

[カスタムエンドポイント設定 \(578 ページ\)](#)

再生テンプレートの適用/リセット

現在のプロジェクトに適用されている再生テンプレートを変更できます。たとえば、再生が必要がない場合に、Dorico Pro によってサウンドがロードされるのを防ぐことができます。再生テンプレートを再選択すると、テンプレートはデフォルト設定にリセットされます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」を選択して「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログを開きます。
2. 使用する再生テンプレートを選択します。
3. 「適用して閉じる (Apply and Close)」をクリックします。

結果

現在のプロジェクトに適用されている再生テンプレートが変更されます。使用中の再生テンプレートを再選択した場合、再生テンプレートがリセットされます。

サウンドは、スコア順にプラグインにロードされます。

ヒント

- 「環境設定 (Preferences)」の「再生 (Play)」ページで、以降のすべてのプロジェクトで使用するデフォルトの再生テンプレートを変更できます。
- 「再生 (Play)」 > 「未割当のインストゥルメントにサウンドをロード (Load Sounds for Unassigned Instruments)」を選択して、サウンドが割り当てられていないインストゥルメントにのみサウンドをロードすることもできます。

関連リンク

[再生テンプレート \(567 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

カスタム再生テンプレートを作成する

出荷時のデフォルトの再生テンプレート、カスタムエンドポイント設定、およびサウンドを自動的にロードできない出荷時のデフォルト以外の再生テンプレートを組み合わせて、カスタム再生テンプレートを作成できます。

手順

1. 再生モードで、「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」を選択して「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログを開きます。

- 以下のいずれかの操作を行なって「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログを開いて新しい再生テンプレートを作成します。
 - 空の再生テンプレートを作成するには、アクションバーにある「再生テンプレートを追加 (Add Playback Template)」をクリックします。



- 既存の再生テンプレートのコピーを作成するには、その再生テンプレートを選択して、アクションバーにある「再生テンプレートを複製 (Duplicate Playback Template)」をクリックします。



- 「再生テンプレートを編集 (Edit Playback Template)」ダイアログで、「情報をロック (Lock Info)」をクリックしてデータフィールドのロックを解除します。



ロックされた状態



ロックが解除された状態

- 関連するフィールドに再生テンプレートの情報を入力します。
- 「エントリー (Entries)」セクションで、使用するカスタムエンドポイント設定や出荷時のデフォルトの再生テンプレートを追加します。
 - カスタムエンドポイント設定または出荷時のデフォルト以外の再生テンプレートを追加するには、「手動を追加 (Add Manual)」をクリックして、メニューから使用するものを選択します。
 - 出荷時のデフォルトの再生テンプレートを追加するには、「自動を追加 (Add Automatic)」をクリックして、メニューから使用するものを選択します。

ヒント

すべてのインストゥルメントにサウンドが割り当てられるよう、リストの一番下に代替テンプレートとして出荷時のデフォルトの再生テンプレートを常に含めておくことをおすすめします。

- 必要に応じて、エントリーの順番および再生テンプレートにおける優先順位を変更するには、エントリーを選択して、アクションバーにある以下のいずれかのオプションをクリックします。
 - 選択したエントリーを上へ移動するには、「上へ移動 (Move up)」をクリックします。
 - 選択したエントリーを下へ移動するには、「下へ移動 (Move down)」をクリックします。
- 必要に応じて、すべてのエントリーが正しい順番に並ぶまで、手順6を繰り返します。
- 必要に応じて、インストゥルメントファミリーの上書きを指定するエントリーを選択します。
- 「ファミリーの上書き (Family Overrides)」セクションのアクションバーで、「インストゥルメントファミリーを追加 (Add Instrument Family)」をクリックして、メニューから使用するものを選択します。

たとえば、弦楽器のサウンドも含まれるサウンドライブラリーから木管楽器のサウンドのみを使用するには、「木管楽器 (Woodwinds)」を選択します。
- 必要に応じて、個々のインストゥルメントの上書きを指定するエントリーを選択します。
- 「インストゥルメントの上書き (Instrument Overrides)」セクションのアクションバーで、「インストゥルメントを追加 (Add Instrument)」をクリックして、インストゥルメントピッカーで使用するものを選択します。

たとえば、他の鍵盤楽器のサウンドも含まれるサウンドライブラリーからピアノサウンドのみを使用するには、「Piano」を選択します。
- 必要に応じて、インストゥルメントファミリーおよびインストゥルメントの上書きを指定する他のエントリーに対して手順8から11を繰り返します。
- 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

新しいカスタム再生テンプレートが作成されます。このカスタム再生テンプレートは、現在のプロジェクトおよびコンピューター上で開いた、または作成した他のすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

関連リンク

[「再生テンプレートを適用 \(Apply Playback Template\)」ダイアログ \(568 ページ\)](#)

[「再生テンプレートを編集 \(Edit Playback Template\)」ダイアログ \(570 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)

[カスタムエンドポイント設定 \(578 ページ\)](#)

[カスタムエンドポイント設定を保存する \(579 ページ\)](#)

再生テンプレートの読み込み

共同で作業している他のユーザーが書き出したカスタム再生テンプレートを使用する場合などに、再生テンプレートをプロジェクトに読み込むことができます。再生テンプレートは .dorico_pt ファイルとして保存されます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」を選択して「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログを開きます。
2. 「読み込み (Import)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、読み込む再生テンプレートファイルを探して選択します。
4. 「開く (Open)」をクリックします。

結果

選択した再生テンプレートが読み込まれます。この再生テンプレートは、現在のプロジェクトおよびコンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

ヒント

Dorico Pro のプロジェクトウィンドウに .dorico_pt ファイルをドラッグして再生テンプレートを読み込むこともできます。

再生テンプレートの書き出し

再生テンプレートを書き出して、他のユーザーに送信したり他のコンピューターで使用したりできます。初期設定では、作成したすべての再生テンプレートをコンピューター上のすべてのプロジェクトで使用できます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「再生テンプレート (Playback Template)」を選択して「再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)」ダイアログを開きます。
 2. 書き出す再生テンプレートを選択します。
 3. 「書き出し (Export)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
 4. 再生テンプレートファイルの名前と場所を指定します。
 5. 「保存 (Save)」を選択します。
-

結果

選択した再生テンプレートが書き出され、選択した場所に個別の .dorico_pt ファイルとして保存されます。

エンドポイント

エンドポイントとは、各インストゥルメントに対して正しいサウンドを再生できるようにするための入力と出力の固有の組み合わせを指す言葉です。

Dorico Pro では、各エンドポイントが以下をまとめます。

- VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイス
- 上記 VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイスの特定のチャンネル
- 上記チャンネルに割り当てられたパッチまたはプログラム
- 上記パッチまたはプログラムで演奏できるインストゥルメントを示すエクスプレッションマップまたはパーカッションマップ、および提供された演奏技法の再生効果とアーティキュレーション

プロジェクト内の各インストゥルメントは、特定のエンドポイントにリンクされています。エクスプレッションマップまたはパーカッションマップを同じエンドポイントに割り当てることで、Dorico Pro は再生時にそのインストゥルメントに必要なサウンドを生成するためのキースイッチやコントローラースイッチに入力されたアーティキュレーションや演奏技法の変更を解釈できるようになります。

出荷時のデフォルトの再生テンプレートを使用すると、エンドポイントとエクスプレッションマップまたはパーカッションマップは自動的に設定されます。別のプラグインをロードする場合や HALion Sonic SE 内のパッチを変更する場合は、「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログで行ないます。

補足

たとえば、エクスプレッションマップで強弱記号にモジュレーションホイールを使用することになっているサウンドを、かわりにノートベロシティを使用するサウンドに変更するなど、プラグイン内で行なった変更は Dorico Pro には伝えられません。この場合、Dorico Pro は元のサウンドのエクスプレッションマップまたはパーカッションマップを引き続き使用するため、再生時に予期せず低い音が鳴ることがあります。プラグインで変更を行なった場合は、適切なエンドポイントに正しいエクスプレッションマップまたはパーカッションマップを手動で割り当てる必要があります。

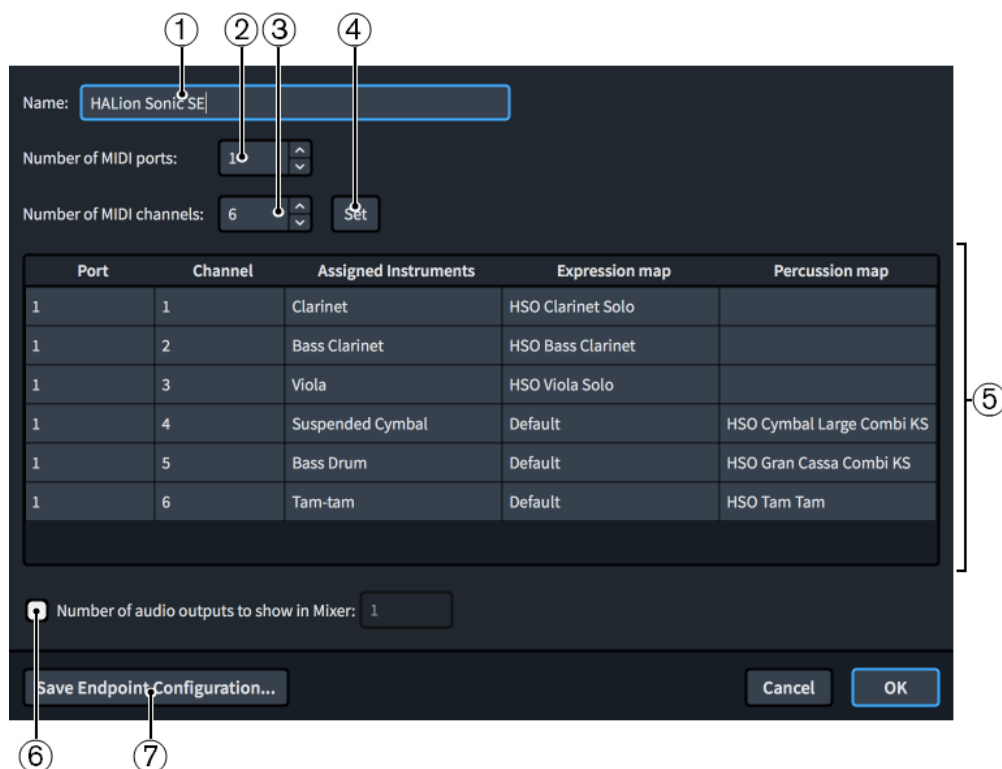
そのあと、他のプロジェクトにそれらを再利用したい場合は、変更をカスタムエンドポイント設定として保存できます。

「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログ

「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログでは、対応するプラグインの各エンドポイントにリンクされているエクスプレッションマップおよびパーカッションマップが表示され、これらの設定を変更できます。このダイアログでは、現在の設定を後からカスタム再生テンプレートに含めることができるカスタムエンドポイント設定として保存することもできます。

- 「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを開くには、VST および MIDI インストゥルメントパネルの各プラグインの「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」をクリックします。





「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」 ダイアログ

「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」 ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

1 名前 (Name)

選択したプラグインの名前を変更できます。これは、VST および MIDI インストゥルメントパネルとミキサーに表示される名前に影響します。

2 MIDI ポート数 (Number of MIDI ports)

対応するプラグインで現在使用されている MIDI ポートの数が表示されます。

たとえば、複数のポートを使用するプラグインを使用している場合などに、MIDI ポートの数を変更できます。Dorico Pro の初期設定では、複数の MIDI ポートはロードされません。

3 MIDI チャンネル数 (Number of MIDI channels)

対応するプラグインで現在使用されている MIDI チャンネルの数が表示されます。

MIDI チャンネルが 1 つしかないピアノサンプラーなどのモノティンバープラグインや、16 個の MIDI チャンネルと 16 個のオーディオ出力を持つマルチティンバープラグインなどを使用する場合は、チャンネルの数を変更できます。

4 設定 (Set)

「MIDI ポート数 (Number of MIDI ports)」および「MIDI チャンネル数 (Number of MIDI channels)」数値フィールドで指定した MIDI ポートまたは MIDI チャンネルの数をプラグインに設定します。これにより、表内の行数が変更されます。

5 エンドポイント設定の表

対応するプラグインの設定が含まれます。以下のコラムがあります。

- **ポート (Port):** 対応する列のインストゥルメントに使用されるポートが表示されます。

補足

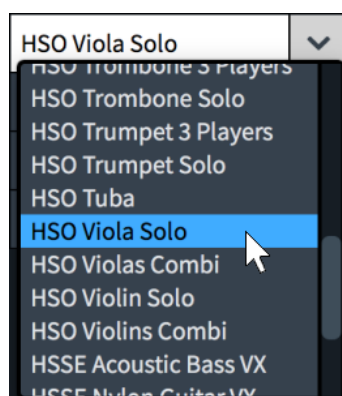
「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」 ダイアログでポートを変更することはできません。ポートはインストゥルメントトラックヘッダーで変更する必要があります。

- **チャンネル (Channel):** 対応する列のインストゥルメントに使用されるチャンネルが表示されます。

補足

「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログでチャンネルを変更することはできません。チャンネルはインストゥルメントトラックヘッダーで変更する必要があります。

- **割り当てられたインストゥルメント (Assigned Instruments):** 「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログでそのインストゥルメントに設定された対応する列のインストゥルメントの正式名称が表示されます。
- **エクスペッションマップ (Expression map):** 対応する列のインストゥルメントに現在割り当てられているエクスペッションマップが表示されます。エクスペッションマップは、ダブルクリックしてメニューから別のエクスペッションマップを選択することで変更できます。



- **パーカッションマップ (Percussion map):** 対応する列のインストゥルメントに現在割り当てられているパーカッションマップが表示されます。パーカッションマップは、ダブルクリックしてメニューから別のパーカッションマップを選択することで変更できます。

6 ミキサーに表示するオーディオ出力の数 (Number of audio outputs to show in Mixer)

Dorico Pro で使用するよりもオーディオ出力の多いプラグインを使用していて、使用しない出力を非表示にしたい場合などに、ミキサーに表示されるオーディオ出力の数を変更できます。

7 エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)

現在のエンドポイント設定の名前を入力してカスタムエンドポイント設定として保存できる「**エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)**」ダイアログを開きます。

関連リンク

[再生テンプレート \(567 ページ\)](#)

[「エクスペッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(583 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(144 ページ\)](#)

カスタムエンドポイント設定

カスタムエンドポイント設定には、ロードされている VST/MIDI インストゥルメントの数とタイプ、エンドポイントに割り当てられているエクスペッション/パーカッションマップなど、プロジェクト内のプラグインの現在の状態と設定が保存されます。

現在ロードされているすべてのプラグインまたは単一のプラグインのみの設定を含むカスタムエンドポイント設定を保存できます。

カスタムエンドポイント設定は、コンピューター上で開いた、または作成したすべてのプロジェクトで使用できます。

補足

Dorico Pro 内でカスタムエンドポイント設定を削除することはできません。

関連リンク

[再生テンプレート \(567 ページ\)](#)

[「再生テンプレートを編集 \(Edit Playback Template\)」ダイアログ \(570 ページ\)](#)

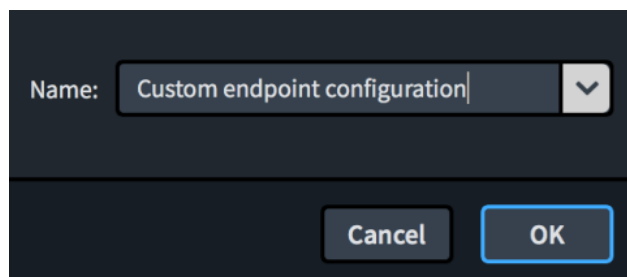
[カスタム再生テンプレートを作成する \(573 ページ\)](#)

「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」ダイアログ

「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」ダイアログでは、プロジェクト内のプラグインの現在の状態と設定を保存できます。カスタムエンドポイント設定を保存すると、その設定を別のプロジェクトで再利用したりカスタム再生テンプレートに含めたりできます。

「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」ダイアログを開くには、再生モードで以下のいずれかの操作を行ないます。

- VST および MIDI インストゥルメントパネルの「VST インストゥルメント (VST Instruments)」セクションまたは「MIDI インストゥルメント (MIDI Instruments)」セクションのアクションバーにある「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」をクリックします。そのパネルの対応するセクションのすべてのプラグインの現在の状態が保存されます。
- 「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログで、「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」をクリックします。選択したプラグインの現在の状態のみが保存されます。



「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」ダイアログ

「エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)」ダイアログには「名前 (Name)」フィールドがあり、保存するエンドポイント設定の名前を入力できます。このフィールドの右端の矢印をクリックすると、既存のカスタムエンドポイント設定を選択してフィールドに名前を入力できます。

すでに存在する名前を入力すると、既存のカスタムエンドポイント設定を上書きできます。既存のカスタムエンドポイント設定を上書きすると、前のバージョンはごみ箱に移されます。

関連リンク

[再生テンプレート \(567 ページ\)](#)

カスタムエンドポイント設定を保存する

特定のエンドポイントに割り当てられたインストゥルメントやエクスプレッションマップの変更など、エンドポイント設定に対して行なった上書きを保存できます。これにより、カスタム再生テンプレートにこれらの上書きを使用したり、同じエンドポイント設定を他のプロジェクトに再利用したりできます。

前提条件

- カスタムエンドポイント設定に必要なすべてのインストゥルメントとプラグインを含むプロジェクトを開いておきます。

- 必要なエクスプレッションマップと演奏技法の再生効果の組み合わせを作成しておきます。
- 必要なカスタム演奏技法を作成しておきます。

手順

1. 使用するプラグインをロードします。
これは、再生テンプレートを適用するか、VST および MIDI インストゥルメントパネルの「**VST インストゥルメント (VST Instruments)**」セクションでプラグインを手動で追加することで行なえます。
2. 必要に応じてエンドポイントの設定を変更します。
たとえば、各エンドポイントに割り当てられているインストゥルメントまたはエクスプレッションマップを変更します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって「**エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)**」ダイアログを開きます。
 - 単一のプラグインのみのカスタムエンドポイント設定を保存するには、そのプラグインの「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを開いて「**エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)**」をクリックします。
 - すべてのプラグインを含むカスタムエンドポイント設定を保存するには、VST および MIDI インストゥルメントパネルの「**VST インストゥルメント (VST Instruments)**」セクションのアクションバーにある「**エンドポイントの設定を保存 (Save Endpoint Configuration)**」をクリックします。
4. 「**名前 (Name)**」フィールドにカスタムエンドポイント設定の名前を入力します。

補足

すでに存在する名前を入力した場合やメニューから既存のカスタムエンドポイント設定を選択した場合は、既存のカスタムエンドポイント設定が上書きされます。

5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択したプラグインまたはセクション内のすべてのプラグインの現在の状態がカスタムエンドポイント設定として保存されます。これには、エクスプレッションマップおよびパーカッションマップに含まれているすべてのカスタム演奏技法が含まれます。

関連リンク

- [再生テンプレート \(567 ページ\)](#)
- [カスタム再生テンプレートを作成する \(573 ページ\)](#)
- [新しいエクスプレッションマップの作成 \(590 ページ\)](#)
- [演奏技法の再生効果の組み合わせを作成する \(592 ページ\)](#)
- [カスタムの演奏技法 \(1035 ページ\)](#)

エンドポイントへのインストゥルメント/声部の割り当て

インストゥルメントは、任意のエンドポイントに割り当てることができます。たとえば、複数のポートがあるプラグインをロードし、既存のインストゥルメントのエンドポイントを新しいポートの1つに変更できます。声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントの場合は、各声部を異なるエンドポイントに割り当てることができます。

前提条件

- 同じインストゥルメントに属する各声部を異なるエンドポイントに割り当てたい場合は、声部の個別再生を有効にしておきます。

- インストゥルメントを特定のプラグインのエンドポイントに割り当てたい場合は、そのプラグインをロードしておきます。これは、適切な再生テンプレートを適用するか、VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードすることで行なえます。

手順

1. エンドポイントの割り当てを変更するインストゥルメントトラックを展開します。
2. 声部の個別再生が有効になっているインストゥルメントの場合は、エンドポイントの割り当てを変更する声部を**声部メニュー**から選択します。
3. 必要に応じて、変更を適用するフローを以下のいずれかの方法で変更します。
 - 選択した声部のエンドポイントの割り当てを現在のフローでのみ変更するには、「**このフローに設定 (Set for This Flow)**」をクリックします。
 - 選択した声部のエンドポイントの割り当てをすべてのフローで変更するには、「**すべてのフローに設定 (Set for All Flows)**」をクリックします。

補足

これは、声部のタイプごとではなく、**声部メニュー**の同じ位置にあるすべての声部に影響します。

4. インストゥルメント/声部を別のプラグインのエンドポイントに割り当てるには、トラックヘッダーのメニューからそのプラグインを選択します。
5. インストゥルメントトラックのヘッダーで、以下のいずれかまたは両方のメニューに新しいオプションを選択します。
 - **ポート (Port)**
 - **Ch.**

結果

インストゥルメント/声部が割り当てられるエンドポイントが変更されます。

- 「**Ch.**」の値のみを変更すると、対応するインストゥルメントで使用されるプラグインのチャンネルが変更されます。
- 「**ポート (Port)**」と「**Ch.**」の両方の値を変更すると、対応するインストゥルメントで使用されるプラグインのポートと、そのポートのチャンネルの両方が変更されます。

関連リンク

[「エクスペッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(583 ページ\)](#)

[インストゥルメントトラック \(519 ページ\)](#)

[再生テンプレートの適用/リセット \(573 ページ\)](#)

[VST/MIDI インストゥルメントを手動でロードする \(507 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

エンドポイントへのエクスペッションマップ/パーカッションマップの割り当て

プロジェクトのエンドポイントにエクスペッションマップ/パーカッションマップを割り当てることができます。たとえば、カスタムのパーカッションマップを作成して、対応する VST パッチのエンドポイントにリンクできます。

前提条件

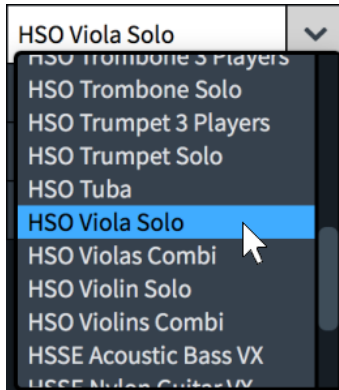
必要なエクスペッションマップ/パーカッションマップがコンピューター上に存在しない場合は、作成するか読み込んでおきます。

手順

1. VST および MIDI インストゥルメントパネルで、エンドポイントに割り当てられたエクスプレッションマップ/パーカッションマップを変更するプラグインの「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」をクリックして、「**エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)**」ダイアログを開きます。



2. 変更するエクスプレッションマップ/パーカッションマップをダブルクリックします。
3. フィールドの右にある展開矢印マークをクリックします。
ポップアップメニューが開き、プロジェクトに現在ロードされている同じタイプのマップがすべて表示されます。



4. ポップアップメニューから、使用するエクスプレッションマップ/パーカッションマップを選択します。
5. **[Return]** を押します。
6. 必要に応じて他のエンドポイントに手順2~5を繰り返して、割り当てられたエクスプレッションマップ/パーカッションマップを変更します。
7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

関連リンク

[パーカッションマップ \(593 ページ\)](#)

エクスプレッションマップ

エクスプレッションマップは、プロジェクトにロードした VST インストゥルメントのパッチやサウンドを適切に使用方法を Dorico Pro に伝えるためのものです。

インストゥルメントの強弱の幅を表現するということは、音符のボリュームやアタックを変更することです。アタックの強さは音の立ち上がりの特徴とボリュームを左右するため、多くの場合、大きい音にはアタックを強く、静かなサウンドにはアタックを弱くする必要があります。

パッチおよびインストゥルメントは、それぞれが異なるアプローチで再生時に強弱やボリュームを変更します。たとえば、ペロシティーのみを変更するパッチのほかに、ペロシティーの変更とコントローラーを組み合わせるパッチもあります。

Dorico Pro では、エクスプレッションマップを使用して、プロジェクトの各パッチでサポートされている演奏技法の再生効果を指定することもできます。たとえば、バイオリンのような弦楽器には arco、pizzicato、col legno などのさまざまな演奏技法があり、さらに弾く際の弦の位置も sul ponticello から sul tasto まであります。

Dorico Pro では、以下の方法で VST インストゥルメントに情報を送れます。

- キースイッチ
- コントローラー

- プログラムチェンジ
- チャンネル変更

Dorico Pro には HALion Symphonic Orchestra のエクスプレッションマップに加え、さらに以下のエクスプレッションマップがあります。

- **CC11 ダイナミクス (CC11 Dynamics)**: 強弱記号の演奏に MIDI コントローラー 11 を使用します。

補足

これはバイオリンやフルートのような、演奏中に強弱を変更できるインストゥルメントにのみ適用されます。

- **デフォルト (Default)**: 強弱のボリュームのコントロールに、ノートベロシティを使用します。
- **モジュレーションホイールダイナミクス (Modulation Wheel Dynamics)**: 強弱のボリュームのコントロールに、モジュレーションホイールを使用します。
- **1 オクターブ下に移調 (Transpose down 1 octave)**: フルレンジキーボードなしでも演奏できるように、記譜された音符より 1 オクターブ高く演奏する一部のインストゥルメントのパッチに使用されます。
- **1 オクターブ移調 (Transpose up 1 octave)**: キーボードの一番下のオクターブを音符ではなくキースイッチに使用できます。ただし、一番下のオクターブは、記譜された音符より 1 オクターブ低く演奏することでフルレンジキーボードなしでも演奏できる一部のベースインストゥルメントのパッチに使用されることもあります。

「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログでは、エクスプレッションマップを編集、作成、および読み込み/書き出しできます。エクスプレッションマップは .doricolib ファイルとして保存されます。

関連リンク

[パーカッションマップ \(593 ページ\)](#)

「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログ

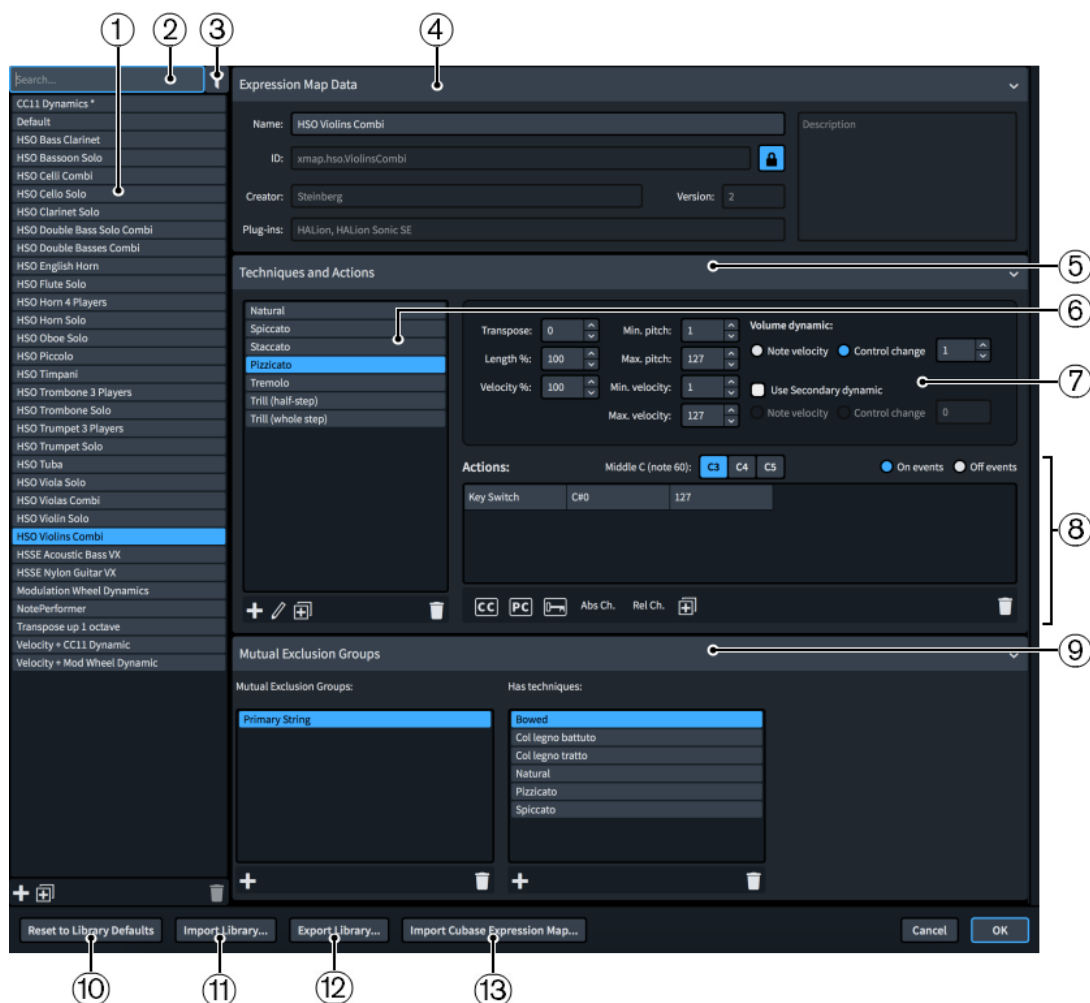
「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログでは、新しいエクスプレッションマップを作成したり、既存のエクスプレッションマップを編集したり、エクスプレッションマップを読み込んだり書き出したりできます。Cubase で作成したエクスプレッションマップを読み込むこともできます。

- 「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」のダイアログは、再生モードで「**再生 (Play)**」>「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」を選択すると開きます。

Dorico Pro のエクスプレッションマップの形式は Cubase の形式に似ていますが、エクスプレッションマップの扱いは完全に同じではありません。たとえば、Dorico Pro の方が使用できる演奏技法の再生効果は多いですが、Cubase では多様な組み合わせによってより多くの効果を再現できます。

補足

Dorico Pro では、再生中、Cubase から読み込まれる一部の設定を含め、「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログのフィールドの一部が現在サポートされていません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。



「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 ダイアログ

「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」 ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

1 エクスプレッションマップのリスト

プロジェクトで現在使用できるエクスプレッションマップが表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **エクスプレッションマップを追加 (Add Expression Map):** 設定を含まない新しいエクスプレッションマップを追加します。



- **複製 (Duplicate):** 既存のエクスプレッションマップのコピーを作成し、元のエクスプレッションマップとは別の設定に編集できます。



- **エクスプレッションマップを削除 (Delete Expression Map):** 選択したエクスプレッションマップを削除します。



補足

カスタムのエクスプレッションマップのみ削除できます。デフォルトのエクスプレッションマップは削除できません。

2 検索フィールド

エクスプレッションマップを名前で検索できます。

3 プロジェクトで使用中的エクスプレッションマップのみを表示 (Show only expression maps used in this project)

現在のプロジェクトで使用中的エクスプレッションマップのみが表示されるように、エクスプレッションマップのリストをフィルタリングできます。

4 「エクスプレッションマップデータ (Expression Map Data)」セクション

選択したエクスプレッションマップについて、以下の識別情報を指定できます。

- **名前 (Name): 「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」** ダイアログなど、プログラムで表示されるエクスプレッションマップの名前を設定できます。
- **ID:** エクスプレッションマップの一意の ID を設定できます。「ID」フィールドには、文字列を自由に入力できます。
xmap.user.paulsmith.hso.violinpizz のように、作成したマップのインストゥルメントとサウンドライブラリーに、自分の名前を含めると使いやすくなります。
- **作成者 (Creator):** 他のユーザーとエクスプレッションマップを共有する場合のために、作成者名を指定できます。
- **バージョン (Version):** 最新版が分かるようにエクスプレッションマップのバージョンを指定できます。
- **プラグイン (Plug-ins):** エクスプレッションマップが適用されるプラグイン名のリストを記載できます。プラグインの名前はコンマで区切られます。このフィールドは空白のままでも構いません。
- **説明 (Description):** エクスプレッションマップに関するその他のあらゆる情報を追加できます。

補足

「エクスプレッションマップデータ (Expression Map Data)」セクションのすべてのフィールドは「情報をロック (Lock Info)」ボタンでロックされています。これらのフィールドの情報を変更するには、このボタンをクリックする必要があります。

「エクスプレッションマップデータ (Expression Map Data)」セクションは、セクションヘッダーをクリックして表示/非表示を切り替えることができます。

5 「演奏技法と動作内容 (Techniques and Actions)」セクション

選択したエクスプレッションマップ内の演奏技法の再生効果を表示、編集、コントロールできるサブセクションがあります。

「演奏技法と動作内容 (Techniques and Actions)」セクションは、セクションヘッダーをクリックして表示/非表示を切り替えることができます。

6 演奏技法のリスト

選択したエクスプレッションマップの演奏技法の再生効果のリストが表示されます。

単純な例では、**Staccato** や **Accent** といった個別の演奏技法の再生効果が演奏技法のリストに含まれます。ただし、演奏技法の再生効果の組み合わせごとに個別のサンプルが備わっているプラグインでは、複数の効果を組み合わせる場合があります。たとえば、**Staccato + Accent** の組み合わせでは、**Staccato** と **Accent** に個別のキースイッチのセットが必要になる場合があります。

補足

ほとんどのインストゥルメントには、最も一般的な演奏技法の再生効果である「Natural」が用意されています。Dorico Pro では、すべてのインストゥルメントに「Natural」の演奏技法の再生効果を定義する必要があります。

演奏技法のリストで演奏技法の再生効果を選択すると、そのコントロールと動作内容を編集できます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **演奏技法を追加 (Add Technique): 「演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)」** ダイアログの使用できる演奏技法の再生効果の中から、新しい効果または効果の組み合わせをエクスプレッションマップに追加できます。



- **演奏技法を編集 (Edit Technique): 「演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)」** ダイアログを開き、選択した演奏技法の再生効果で使用されている効果の組み合わせを編集できます。



演奏技法のリストで演奏技法の再生効果をダブルクリックして編集することもできます。

- **複製 (Duplicate):** 既存の演奏技法の再生効果のコピーを作成し、元のものとは別の設定に編集できます。



- **演奏技法を削除 (Delete Technique):** 選択した演奏技法の再生効果を削除します。



補足

演奏技法のリストでは、演奏技法の再生効果を一度に1つしか選択できません。

7 演奏技法のコントロール

「ベロシティ (Velocity)」など、演奏技法リストで選択した演奏技法の再生効果に影響を及ぼすコントロールが含まれます。また、選択した演奏技法の再生効果のボリュームの強弱を「ノートベロシティ (Note velocity)」と「コントロールチェンジ (Control change)」のどちらでコントロールするかを選択できる「ボリュームの強弱 (Volume dynamic)」もあります。両方を使用するサウンドライブラリーの場合は、「第2の強弱を使用 (Use Secondary dynamic)」を使用して追加のボリュームコントロールを定義できます。

補足

「ボリュームの強弱 (Volume dynamic)」に「コントロールチェンジ (Control change)」を選択した場合は、コントローラーを番号で指定する必要があります。どれが適切なコントローラー番号かは、使用する VST インストゥルメントまたは MIDI コントローラーのマニュアルを参照してください。

8 「動作内容 (Actions)」サブセクション

各演奏技法の再生効果の実行に必要なスイッチのコントロール方法を指定できます。このサブセクションには、選択した演奏技法の再生効果を再現するのに必要な既存の動作内容の詳細も含まれます。

動作内容には、以下のタイプがあります。

- コントロールチェンジ
- プログラムチェンジ
- キースイッチ

補足

プラグインによっては、個々の演奏技法の再生効果を変更するのに複数タイプの動作が必要な場合があります。

3つのコラムの表に動作内容が表示されます。

Key Switch	C#0	127
Control Change	1	64
Program Change	1	

動作内容の表

最初のコラムには動作のタイプが表示されます。

2つめのコラムでは MIDI イベントの最初のパラメーターがコントロールされます。ノートイベントの場合、ピッチを示します。コントロールチェンジの場合は、コントロールチェンジ番号を示します。プログラムチェンジの場合は、プログラム番号を示します。

3つめのコラムでは MIDI イベントの2番めのパラメーターがコントロールされます。ノートイベントの場合、ベロシティを示します。コントロールチェンジの場合は、コントロールチェンジの度合いを 0~127 の範囲で示します。プログラムチェンジの場合、2番めのパラメーターはありません。

サブセクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **コントロールチェンジの動作を追加 (Add Control Change Action):** デフォルト設定のコントロールチェンジの動作を追加します。



- **プログラムチェンジの動作を追加 (Add Program Change Action):** デフォルト設定のプログラムチェンジの動作を追加します。



- **ノートイベントの動作を追加 (Add Note Event Action):** デフォルト設定のキースイッチの動作を追加します。



- **絶対値によるチャンネル変更の動作を追加 (Add Absolute Channel Change Action):** デフォルト設定の絶対値によるチャンネル変更の動作を追加します。

- **相対値によるチャンネル変更の動作を追加 (Add Relative Channel Change Action):** デフォルト設定の相対値によるチャンネル変更の動作を追加します。

- **動作の複製 (Duplicate Action):** 既存の動作のコピーを作成し、元の動作とは別の設定に編集できます。



- **動作を削除 (Delete Action):** 選択した動作を削除します。



補足

動作内容の表では、動作を一度に1つしか選択できません。

「動作内容 (Actions)」サブセクションでは、イベント発生時に影響を与える動作内容と、イベント非発生時に影響を与える動作内容を指定することもできます。たとえば、演奏技法の再生効果を通常に戻すイベントを、音符の終了位置にのみ適用できます。

- 「**イベント発生時 (On events)**」を選択すると、音符の開始部分が影響されます。
- 「**イベント非発生時 (Off events)**」を選択すると、ノートの終了部分が影響されます。

ミドルCにはさまざまな表記規則が存在するため、「**ミドルC (ノート 60) (Middle C (note 60))**」を使用してピッチを選択することもできます。サウンドライブラリーのマニュアルでそれぞれがミドルCをC3、C4、C5のいずれと見なすかを確認し、それに応じてこの設定を変更することをおすすめします。

9 「両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)」セクション

相互に排他的な演奏技法の再生効果、つまり同時に使用できない効果を指定できます。たとえば、ビブラートとビブラートなしを同時に演奏することはできません。演奏技法の再生効果と同じ排他グループに入れると、一度に使用できる演奏技法はそのうちの1つだけになります。

両立しない演奏技法のグループは、選択したエクスプレッションマップにのみ適用されます。これにより、たとえば、サウンドライブラリーの1つがあるインストゥルメントの演奏技法の再生効果の特定の組み合わせをサポートしており、別のサウンドライブラリーがサポートしていない場合などに、各エクスプレッションマップに異なる両立しない演奏技法のグループを設定できます。

「**両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)**」コラムでは、両立しない演奏技法のグループの追加と削除を行なえます。コラムの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **追加 (Add):** 両立しない演奏技法のグループを新規作成し、グループの名前を入力できるダイアログを開きます。



- **削除 (Delete):** 選択した両立しない演奏技法のグループを削除します。



補足

両立しない演奏技法のグループは一度に1つしか選択できません。

「**次の演奏技法を含む (Has techniques)**」コラムでは、選択した両立しない演奏技法のグループに含まれる演奏技法の再生効果を変更できます。コラムの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **追加 (Add):** 選択した両立しない演奏技法のグループに追加する演奏技法の再生効果を選択できる「**演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)**」ダイアログを開きます。



- **削除 (Delete):** 両立しない演奏技法のグループから選択した演奏技法の再生効果を削除します。



補足

演奏技法の再生効果は一度に1つしか選択できません。

「**両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)**」セクションは、セクションヘッダーをクリックして表示/非表示を切り替えることができます。

10 デフォルトのライブラリーにリセット (Reset to Library Defaults)

デフォルトのライブラリーのエクスプレッションマップに加えた変更をすべて元に戻します。

11 ライブラリーを読み込む (Import Library)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、エクスプレッションマップとして読み込む .doricolib ファイルを選択できます。

12 ライブラリーを書き出す (Export Library)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、現在選択しているエクスプレッションマップを .doricolib ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.doricolib ファイルを別のプロジェクトに読み込んで別のユーザーと共有できます。

13 Cubase エクスプレッションマップを読み込む (Import Cubase Expression Map)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、読み込む Cubase 形式のエクスプレッションマップを選択できます。

補足

現在、演奏技法の再生効果の組み合わせの一部がサポートされていません。多くの場合、Dorico Pro に読み込んだ Cubase のエクスプレッションマップを正常に機能させるために、編集が必要になります。

ただし、スイッチデータは保持されます。

関連リンク

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)

[「演奏技法の再生効果を編集 \(Edit Playback Playing Techniques\)」ダイアログ \(1041 ページ\)](#)

「演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)」ダイアログ

「演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)」ダイアログでは、同時に適用する演奏技法の再生効果の組み合わせを作成できます。演奏技法の再生効果は、楽譜中の演奏技法に必要とされる正しいサウンドを割り当てるために、エクスプレッションマップによって使用されます。

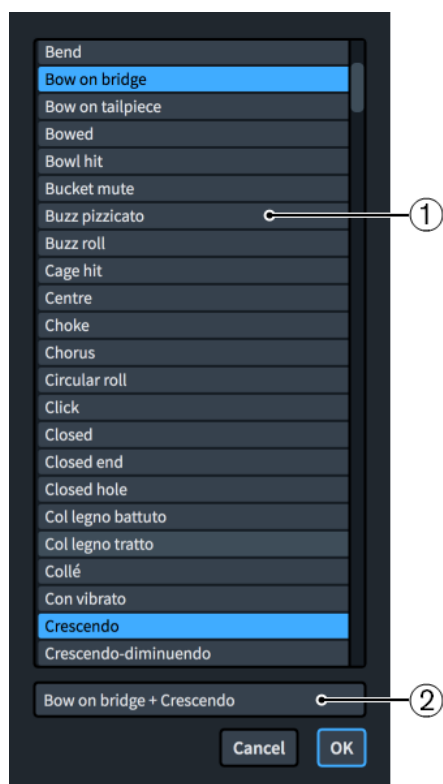
以下のいずれかの操作を行なって、「演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)」ダイアログを開きます。

- 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログで、「演奏技法 (Techniques)」セクションのアクションバーにある「演奏技法を追加 (Add Technique)」をクリックします。



- 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログで、演奏技法リストの既存の演奏技法の再生効果を選択し、「演奏技法 (Techniques)」セクションのアクションバーにある「演奏技法を編集 (Edit Technique)」をクリックします。演奏技法の再生効果をダブルクリックすることもできます。





「演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)」ダイアログ

1 演奏技法のリスト

新しい演奏技法の再生効果に含める既存の効果を選択したり、既存の効果を編集したりできます。複数の演奏技法の再生効果を選択して組み合わせるには、**[Ctrl]/[command]** を押しながら各効果をクリックします。

2 名前 (Name)

選択した演奏技法の再生効果の名前が表示されます。演奏技法の再生効果を複数選択した場合、それぞれの名前が「+」記号で自動的に区切られます。

演奏技法の再生効果の名前は変更できません。

関連リンク

[演奏技法の再生効果の組み合わせを作成する \(592 ページ\)](#)

[「演奏技法の再生効果を編集 \(Edit Playback Playing Techniques\)」ダイアログ \(1041 ページ\)](#)

新しいエクスプレッションマップの作成

たとえば、エクスプレッションマップが提供されていないサードパーティー製のサウンドライブラリーや MIDI デバイスを使用する場合などに、エクスプレッションマップを 1 から新しく作成したり、既存のエクスプレッションマップを複製して設定を編集したりできます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」を選択して、「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいエクスプレッションマップを作成します。
 - 空白のエクスプレッションマップを作成するには、アクションバーの「エクスプレッションマップを追加 (Add Expression Map)」をクリックします。



- 既存のエクスプレッションマップのコピーを作成するには、エクスプレッションマップのリストでそのエクスプレッションマップを選択し、アクションバーの「**エクスプレッションマップを複製 (Duplicate Expression Map)**」をクリックします。



3. 「**エクスプレッションマップデータ (Expression Map Data)**」セクションで、「**情報をロック (Lock Info)**」をクリックしてフィールドのロックを解除します。



ロックされた状態



ロックが解除された状態

4. 「**エクスプレッションマップデータ (Expression Map Data)**」セクションで、関連のフィールドにエクスプレッションマップの情報を入力します。
5. 必要に応じて、「**演奏技法と動作内容 (Techniques and Actions)**」セクションの演奏技法のリストで、以下のいずれかの操作を行なって新しい演奏技法の再生効果を追加します。
 - 「**演奏技法を追加 (Add Technique)**」をクリックします。



- 既存の演奏技法の再生効果を選択して「**演奏技法を複製 (Duplicate Technique)**」をクリックします。



6. 必要な演奏技法の再生効果の組み合わせがエクスプレッションマップにない場合は、「**演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)**」ダイアログで作成します。
7. 演奏技法のリストで演奏技法の再生効果を選択します。
8. 「**演奏技法と動作内容 (Techniques and Actions)**」セクションで、選択した演奏技法の再生効果に関連するオプションを変更します。

たとえば、選択した演奏技法のボリュームを「**ノートベロシティ (Note velocity)**」と「**コントロールチェンジ (Control change)**」のどちらでコントロールするかを選択します。
9. 「**動作内容 (Actions)**」サブセクションで、以下のいずれかの操作を行なって、現在選択している演奏技法の再生効果に動作内容を追加します。
 - 「**ノートイベントを追加 (Add Note Event)**」をクリックします。
 - 「**コントロールチェンジを追加 (Add Control Change)**」をクリックします。
 - 「**プログラムチェンジを追加 (Add Program Change)**」をクリックします。
 - 既存の動作内容を選択して「**複製 (Duplicate)**」をクリックします。
10. イベントのタイプを以下のいずれかのオプションから選択します。
 - **イベント発生時 (On events)**
 - **イベント非発生時 (Off events)**
11. 他の演奏技法に動作内容を追加するには、手順9と10を繰り返します。
12. 動作内容の値を変更するには、値をダブルクリックして変更します。
13. 新しいエクスプレッションマップで両立しない演奏技法のグループを定義するには、「**両立しない演奏技法のグループ (Mutual Exclusion Groups)**」セクションで定義するグループを追加します。
14. 両立しない演奏技法のグループを追加した場合は、それぞれのグループに必要な演奏技法の再生効果を追加します。
15. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

関連リンク

[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(583 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)

[「演奏技法の組み合わせ \(Playing Technique Combinations\)」ダイアログ \(589 ページ\)](#)

演奏技法の再生効果の組み合わせを作成する

たとえば、**Staccato** と **Accent** とは別に、**Staccato + Accent** に異なるキースイッチのセットが必要な場合など、単一のエクスペッションマップ用に演奏技法の再生効果の組み合わせを作成できます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「エクスペッションマップ (Expression Maps)」を選択して、「エクスペッションマップ (Expression Maps)」ダイアログを開きます。
2. エクスペッションマップのリストから、新しい演奏技法の再生効果の組み合わせを追加するエクスペッションマップを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、「演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)」ダイアログを開き、演奏技法の再生効果の組み合わせを変更します。

- 新しい演奏技法の再生効果を作成する場合は、演奏技法のリストのアクションバーにある「演奏技法を追加 (Add Technique)」をクリックします。



- 既存の演奏技法の再生効果の組み合わせを変更する場合は、演奏技法の再生効果を選択して、演奏技法のリストのアクションバーにある「演奏技法を編集 (Edit Technique)」をクリックします。



4. 「演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)」ダイアログで、組み合わせる演奏技法の再生効果を選択します。

[Ctrl]/[command] を押しながら複数の演奏技法の再生効果を選択できますが、単一の演奏技法の再生効果を選択することもできます。

5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

「演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)」ダイアログが閉じます。

結果

新しい演奏技法の再生効果の組み合わせが作成され、「エクスペッションマップ (Expression Maps)」ダイアログで選択したエクスペッションマップの演奏技法のリストで使用できるようになります。

関連リンク

[「演奏技法の組み合わせ \(Playing Technique Combinations\)」ダイアログ \(589 ページ\)](#)

[「エクスペッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(583 ページ\)](#)

エクスペッションマップの読み込み

プロジェクトにエクスペッションマップを読み込むことができます。エクスペッションマップは .doricolib ファイルとして保存されます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「エクスペッションマップ (Expression Maps)」を選択して、「エクスペッションマップ (Expression Maps)」ダイアログを開きます。
2. 「ライブラリーを読み込む (Import Library)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、読み込むエクスペッションマップを探して選択します。

4. 「開く (Open)」をクリックします。

結果

選択したエクスペッションマップがプロジェクトに読み込まれ、エクスペッションマップのリストに表示されます。

エクスペッションマップの書き出し

エクスペッションマップを書き出して、他のプロジェクトで使用できます。エクスペッションマップは .doricolib ファイルとして保存されます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「エクスペッションマップ (Expression Maps)」を選択して、「エクスペッションマップ (Expression Maps)」ダイアログを開きます。
 2. エクスペッションマップのリストで、書き出すエクスペッションマップを選択します。
 3. 「ライブラリーを書き出す (Export Library)」をクリックして エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
 4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。
 5. 「保存 (Save)」を選択します。
-

結果

選択したエクスペッションマップが、ライブラリーファイルとして選択した場所に書き出されます。

パーカッションマップ

無音程打楽器は、無音程のサウンドが別々の MIDI ノートにマッピングされたパッチを使用して再生されます。異なる無音程のサウンドを生成するのに必要なピッチは、デバイス、サウンドライブラリー、メーカーなどによって変わります。また、ピッチと 5 線譜上の打楽器の位置は関係ありません。

General MIDI パーカッションマップの無音程打楽器の例を以下に示します。

- バスドラム: C2 (MIDI ノート 36、ミドル C の 2 オクターブ下)
- キックドラム: D2 (MIDI ノート 38)
- ハイハット (クローズ): F#2 (MIDI ノート 42)
- カウベル: G#3 (MIDI ノート 56)
- トライアングル (オープン): A5 (MIDI ノート 81)

Dorico Pro では、パーカッションマップを使用して、打楽器の記譜された音符の表現と演奏技法が、そのサウンドの再生に必要なサンプルに紐付けられます。

補足

パーカッションマップでは、特定のパッチにどの無音程打楽器および演奏技法の再生効果があるかと、それらを再生する方法が記述されます。たとえば、どの MIDI ノートを演奏するか、特定の演奏技法をトリガーするのにキースイッチとして別の MIDI ノートが必要か、などが記述されます。

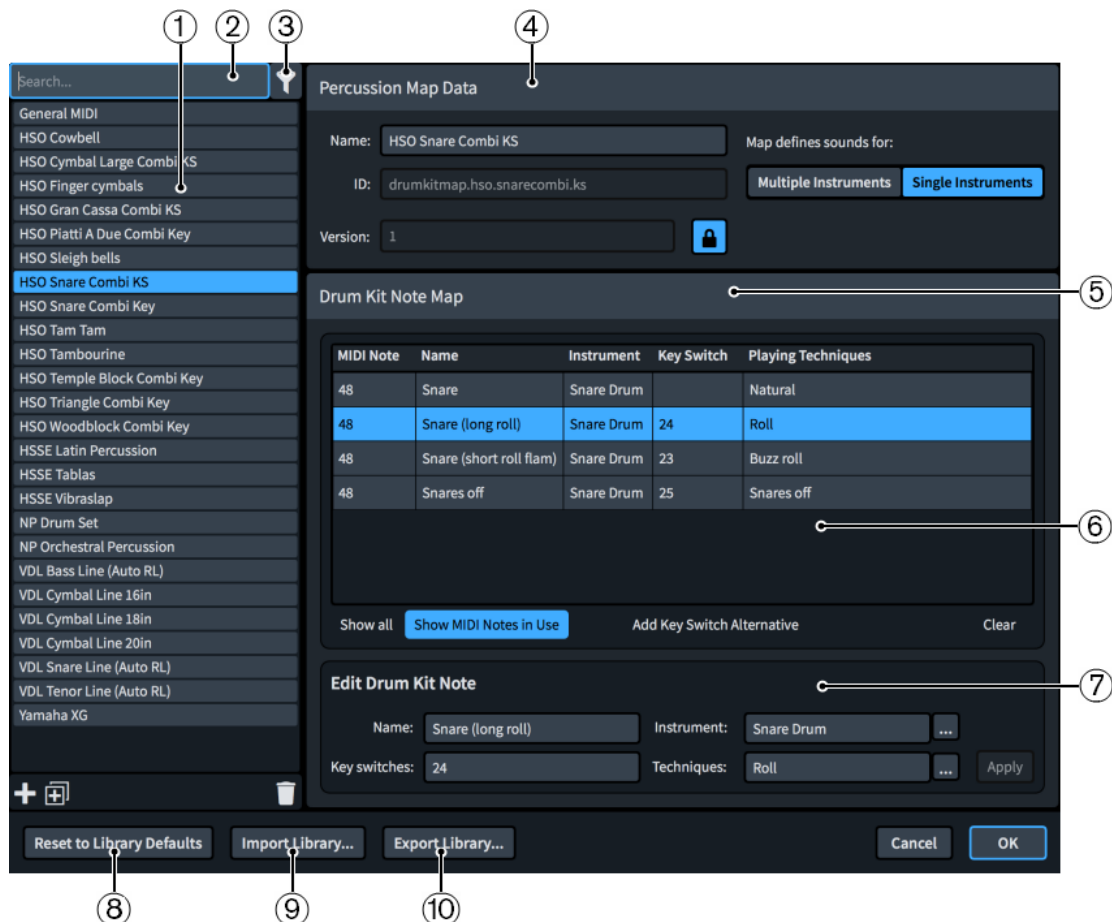
Dorico Pro には、HALion Symphonic Orchestra と HALion Sonic SE ファクトリーライブラリーに含まれる無音程打楽器のパーカッションマップのセットが用意されています。プロジェクトに打楽器を追加すると、これらのパーカッションマップが自動的に選択されます。

正確なサウンドを再生するために、「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログで、サードパーティー製のサウンドライブラリーまたは MIDI デバイス用のカスタムパーカッションマップを定義できます。

「パーカッションマップ (Percussion Maps)」 ダイアログ

正確なサウンドを再生するために、「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログで、サードパーティー製のサウンドライブラリーまたは MIDI デバイス用のカスタムパーカッションマップを定義できます。

- 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログは、再生モードで「再生 (Play)」 > 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」を選択して開けます。



「パーカッションマップ (Percussion Maps)」 ダイアログ

「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログは、以下のセクションに分かれています。

1 パーカッションマップのリスト

プロジェクトで現在使用できるパーカッションマップが含まれます。

パーカッションマップのリストの一番下にあるアクションバーに含まれる以下のボタンを使用して、パーカッションマップを追加または削除できます。

- **パーカッションマップを追加 (Add Percussion Map):** 設定を含まない新しいパーカッションマップを追加します。



- **複製 (Duplicate):** 既存のパーカッションマップのコピーを作成し、元のパーカッションマップとは別の設定に編集できます。



- **パーカッションマップを削除 (Delete Percussion Map):** 選択したパーカッションマップを削除します。



補足

カスタムのパーカッションマップのみ削除できます。デフォルトのパーカッションマップは削除できません。

2 検索フィールド

パーカッションマップを名前で検索できます。

3 プロジェクトで使用中のパーカッションマップのみを表示 (Show only percussion maps used in this project)

現在のプロジェクトで使用中のパーカッションマップのみが表示されるように、パーカッションマップのリストをフィルタリングできます。

4 「パーカッションマップデータ (Percussion Map Data)」 セクション

選択したパーカッションマップについて、以下の識別情報を指定できます。

- **名前 (Name): 「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」** ダイアログに表示されるパーカッションマップの名前を指定できます。
- **ID:** パーカッションマップの一意的 ID を設定できます。「ID」フィールドには、文字列を自由に入力できます。
xmap.user.paulsmith.hso.cowbell のように、作成したマップのインストゥルメントとサウンドライブラリーに、自分の名前を含めると使いやすくなります。
- **バージョン (Version):** 最新版が分かるようにパーカッションマップのバージョンを指定できます。

補足

- 「パーカッションマップデータ (Percussion Map Data)」 セクションのすべてのフィールドは「情報をロック (Lock Info)」ボタンでロックされています。これらのフィールドの情報を変更するには、このボタンをクリックする必要があります。
- 「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」 ダイアログでは、VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイスの各チャンネルに使用されるパーカッションマップを設定します。

「マップに定義される音色 (Map defines sounds for)」には、現在のパーカッションマップに適切なオプションを選択します。

- **マルチインストゥルメント (Multiple Instruments):** マップを作成するパッチに、General MIDI ドラムマップのようにさまざまな打楽器が含まれている場合に、このオプションを選択します。
- **シングルインストゥルメント (Single Instruments):** マップを作成するパッチに、打楽器が1つのみ (演奏技法の再生効果は複数の場合あり) 含まれている場合に、このオプションを選択します。たとえば、Virtual Drumline のスネアドラムラインパッチや他のスペシャリストのサウンドライブラリーが挙げられます。

使用している VST インストゥルメントと同じ演奏技法の再生効果がマッピングされたパッチが複数ある場合も、このオプションが役立ちます。たとえば、HALion Symphonic Orchestra には、通常の叩いた音を出す大きなシンバルのパッチと、ロール音を出す小さなシンバルのパッチがあります。シングルインストゥルメントのパーカッションマップを作成すると、複数のパッチのサウンドに同じマッピングを使用できます。

5 「ドラムキットのノートマップ (Drum Kit Note Map)」 セクション

選択したパーカッションマップ内のドラムキットのノートを表示、編集、コントロールできるサブセクションがあります。

6 ドラムキットのノートマップの表

初期設定では、選択したパーカッションマップで使用されているドラムキットのノートが番号順に表示されます。また、この表には以下の列が含まれており、選択したドラムキットのノートに関するデータが表示されます。

- **MIDI ノート (MIDI Note)**
- **名前 (Name)**
- **インストゥルメント (Instrument)**
- **キースイッチ (Key Switch)**
- **演奏技法 (Playing Techniques)**

表の一番下には以下のオプションがあります。

- **すべてを表示 (Show all):** 0~127 の MIDI ノートのリストが表示されます。
- **使用中の MIDI ノートを表示 (Show MIDI Notes in Use):** 選択したパーカッションマップで使用されている MIDI ノートのみを表示します。
- **代替キースイッチを追加 (Add Key Switch Alternative):** 選択したドラムキットのノートを複製します。
- **クリア (Clear):** 選択したドラムキットのノートを削除します。

現在選択しているドラムキットのノートのデータは、「**ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)**」サブセクションで変更できます。

7 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」サブセクション

ドラムキットのノートマップの表で現在選択しているドラムキットのノートの以下のフィールドにデータを指定できます。

- **名前 (Name):** インストゥルメントと演奏技法の再生効果の特定の組み合わせ用の表示名です。たとえば、VST インストゥルメントまたは MIDI 出力デバイスのメーカーマニュアルに記載された名前を入力できます。
- **インストゥルメント (Instrument):** Dorico Pro で作成できるすべての無音程打楽器のリストから、「**ドラムキットのノートマップ (Drum Kit Note Map)**」セクションで選択したドラムキットのノート用のインストゥルメントを選択できます。
- **キースイッチ (Key switches):** このサウンドでインストゥルメントと演奏技法の再生効果の固有の組み合わせをトリガーするために別の MIDI ノートを演奏する必要がある場合は、キースイッチとして使用するキーの MIDI ノートナンバーを指定します。

補足

キースイッチは必須項目ではありません。

- **演奏技法 (Techniques):** 使用できる演奏技法の再生効果のリストから、「**インストゥルメント (Instrument)**」フィールドで選択したインストゥルメントに適用する演奏技法の再生効果を選択できます。

8 デフォルトのライブラリーにリセット (Reset to Library Defaults)

デフォルトのライブラリーのパーカッションマップに加えた変更をすべて元に戻します。

9 ライブラリーを読み込む (Import Library)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、パーカッションマップとして読み込む .doricolib ファイルを選択できます。

10 ライブラリーを書き出す (Export Library)

エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開き、現在選択しているパーカッションマップを .doricolib ファイルとして書き出す場所を選択できます。そのあと、.doricolib ファイルを別のプロジェクトに読み込んで別のユーザーと共有できます。

新しいパーカッションマップの作成

たとえば、サードパーティー製のサウンドライブラリーや MIDI デバイスを使用する場合などに、正確なサウンドを再生するために、パーカッションマップを 1 から新しく作成したり、既存のパーカッションマップを複製して設定を編集したりできます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」を選択して、「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログを開きます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、新しいパーカッションマップを作成します。

- 空白のパーカッションマップを作成するには、アクションバーの「パーカッションマップを追加 (Add Percussion Map)」をクリックします。



- 既存のパーカッションマップのコピーを作成するには、パーカッションマップのリストでそのパーカッションマップを選択し、アクションバーの「パーカッションマップを複製 (Duplicate Percussion Map)」をクリックします。





3. 「パーカッションマップデータ (Percussion Map Data)」セクションで、「情報をロック (Lock Info)」をクリックしてフィールドのロックを解除します。



ロックされた状態



ロックが解除された状態

4. 「名前 (Name)」フィールドに、パーカッションマップに使用する表示名を入力します。
入力した名前は「エンドポイントの設定 (Endpoint Setup)」ダイアログに表示されます。
5. 「ID」フィールドに、任意の一意の識別名を入力します。
xmap.user.paulsmith.hso.cowbell のように、作成したマップのインストゥルメントとサウンドライブラリーに、自分の名前を含めると使いやすくなります。
6. 「マップに定義される音色 (Map defines sounds for)」に、現在のパーカッションマップに適切なオプションを選択します。
 - マルチインストゥルメント (Multiple Instruments)
 - シングルインストゥルメント (Single Instruments)
7. 「ドラムキットのノートマップ (Drum Kit Note Map)」セクションで、「すべてを表示 (Show all)」をクリックしてマッピングされていないノートを表示します。
8. 新しいマッピングを作成する MIDI ノートに対応する行を選択します。
9. 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」サブセクションで、「インストゥルメント (Instrument)」フィールドの右に表示される以下のボタンをクリックして打楽器のリストを含むダイアログを開きます。

10. 選択した MIDI ノートで再生されるサウンドに対応するインストゥルメントを選択します。
11. 「OK」をクリックします。
12. 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」サブセクションで、「演奏技法 (Techniques)」フィールドの右に表示される以下のボタンをクリックして「演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)」ダイアログを開きます。

13. 選択した MIDI ノートで再生されるサウンドに適した演奏技法の再生効果を選択します。
たとえば、**[Ctrl]/[command]** を押しながら「Buzz roll」と「Rim」をクリックします。

14. 「OK」をクリックします。
 15. 「ドラムキットのノートを編集 (Edit Drum Kit Note)」サブセクションの「名前 (Name)」フィールドに、このインストゥルメントと演奏技法の組み合わせに使用する表示名を入力します。
 16. 「キースイッチ (Key switches)」フィールドに、必要に応じてキースイッチの MIDI ノートナンバーを指定します。
 17. 「適用 (Apply)」をクリックします。
 18. 必要に応じて、他の MIDI ノートにこれらの手順を繰り返し、プロジェクトに必要なマッピングをすべて作成します。
 19. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

新しいパーカッションマップが作成されます。

手順終了後の項目

パーカッションマップは、対応するパッチを提供する VST インストゥルメントまたは MIDI デバイスと同じエンドポイントに割り当てる必要があります。

他のプロジェクトで使用するために、パーカッションマップを書き出せます。

関連リンク

[パーカッションマップ \(593 ページ\)](#)

[エンドポイントへのエクスプレッションマップ/パーカッションマップの割り当て \(581 ページ\)](#)

[「エンドポイントの設定 \(Endpoint Setup\)」ダイアログ \(576 ページ\)](#)

パーカッションマップの読み込み

プロジェクトにパーカッションマップを読み込むことができます。パーカッションマップは .doricolib ファイルとして保存されます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」を選択して、「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログを開きます。
 2. 「ライブラリーを読み込む (Import Library)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
 3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、読み込むパーカッションマップを探して選択します。
 4. 「開く (Open)」をクリックします。
-

結果

選択したパーカッションマップがプロジェクトに読み込まれ、パーカッションマップのリストに表示されます。

パーカッションマップの書き出し

パーカッションマップを書き出して、他のプロジェクトで使用できます。パーカッションマップは .doricolib ファイルとして保存されます。

手順

1. 「再生 (Play)」 > 「パーカッションマップ (Percussion Maps)」を選択して、「パーカッションマップ (Percussion Maps)」ダイアログを開きます。
2. パーカッションマップのリストで、書き出すパーカッションマップを選択します。
3. 「ライブラリーを書き出す (Export Library)」をクリックしてエクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。

4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。
 5. 「保存 (Save)」を選択します。
-



結果

選択したパーカッションマップが、ライブラリーファイルとして選択した場所に書き出されます。

アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する

無音程打楽器の演奏技法固有の符頭について、アーティキュレーションと単音のトレモロの特定の組み合わせにおける再生動作を定義できます。

手順

1. 設定モードで、以下のいずれかの操作を行なって「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログを開きます。
 - 個別の打楽器インストゥルメントの場合、「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーのカードを展開し、インストゥルメントラベルの矢印をクリックして、メニューから「**打楽器演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」を選択します。
 - 打楽器キットに属する打楽器インストゥルメントの場合、「**プレーヤー (Players)**」パネルでキットのインストゥルメントラベルの矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開き、メイン編集領域で演奏技法を編集するインストゥルメントを選択して、「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックします。
 2. ダイアログ上部のリストで、再生動作を定義する演奏技法固有の符頭を選択します。
 3. ダイアログの左下のアクションバーにある「**演奏技法を追加 (Add Technique)**」をクリックします。

 4. 「**演奏技法の再生効果 (Choose Playing Techniques)**」フィールドの右にある「**演奏技法を選択 (Choose Playing Techniques)**」をクリックします。

 5. 開いたダイアログのリストから、使用する演奏技法の再生効果を選択します。
[Ctrl]/[command] を押しながら使用する演奏技法の再生効果をクリックすると、複数の効果を選択できます。
 6. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **置き換え (Replace)**: 現在の符頭と譜表からの位置の組み合わせに、定義されたデフォルトの演奏技法のかわりに、選択した演奏技法を使用できます。
 - **追加 (Add)**: 現在の符頭と譜表からの位置の組み合わせに、定義されたデフォルトの演奏技法の上に、選択した演奏技法を追加できます。
 7. 選択できるオプションから、任意のアーティキュレーションおよびトレモロストロークを選択します。
 8. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

選択した演奏技法の再生での動作が変更されます。

関連リンク

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1297 ページ\)](#)
[無音程打楽器の演奏技法固有の符頭の作成 \(1300 ページ\)](#)

演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション

再生モードのピアノロールエディターでは、演奏されるデュレーションまたは記譜されたデュレーションで音符を表示できます。

演奏されるデュレーション

再生ツールボックスで「**演奏されるデュレーション (Played Durations)**」を選択した場合、ピアノロールエディターの音符イベントは以下の2つの構成要素で表示されます。

- 音符の演奏されるデュレーションを示す、明るい色で塗りつぶされた長方形
- 音符の記譜されたデュレーションを示す、暗い色の細い線

たとえば、スタッカートが付いた音符は記譜されたデュレーションより短く演奏され、スラーで結ばれた音符は記譜されたデュレーションより長く演奏されます。

Dorico Pro のデフォルトでは、再生モードのピアノロールエディター上の音符は演奏されるデュレーションで表示されます。

補足

音符の演奏されるデュレーションを編集すると、ピアノロールエディター上の表示色が、演奏されるデュレーションを変更していない音符と比べて濃くなります。

記譜されたデュレーション

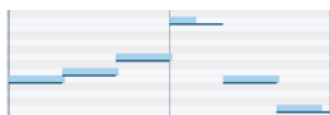
再生ツールボックスで「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」を選択すると、音符の記譜されたデュレーションと同じ幅の単一の長方形として音符イベントが表示されます。

「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」を選択した場合、ピアノロールエディター上で音符の記譜されたデュレーションを変更できます。

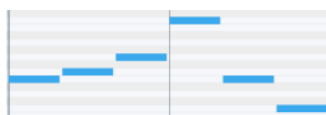
例

以下の例では、同じフレーズを異なる方法で表示しています。

演奏されるデュレーション



記譜されたデュレーション



スコア上



関連リンク

[再生時のスラー](#) (1158 ページ)

音符の演奏されるデュレーションの変更

個別の音符の演奏されるデュレーションは、音符の開始位置と終了位置の両方で変更できます。たとえば、音符をより長く演奏させたり、開始を遅らせたりできます。

前提条件

- 再生ツールボックスの「**演奏されるデュレーション (Played Durations)**」を選択しておきます。
- 再生ツールボックスの「**オブジェクトの選択 (Object Selection)**」を選択しておきます。

手順

1. ピアノロールエディターで、演奏されるデュレーションを変更する音符を選択します。
 2. いずれかの音符の終了位置をクリックし、左右にドラッグします。
マウスポインターを適切な位置に合わせると、左右の矢印のアイコンに変わります。
 3. 必要に応じて、音符の開始位置に手順2を繰り返します。
-

結果

選択した音符の演奏されるデュレーションが変更されます。

関連リンク

[再生ツールボックス \(503 ページ\)](#)

再生の上書きのリセット

個々の音符の再生方法に加えた変更はすべて削除できます。たとえば、演奏されるデュレーションを変更した音符の開始位置、長さ、およびベロシティーをデフォルトに戻せます。

再生の上書き情報を削除すると、音符位置が保持された MIDI ファイルから読み込まれた音符の開始位置および終了位置のオフセットも削除されます。

補足

たとえば、読み込まれた MIDI ファイルや MIDI 録音の音符に設定されているノートベロシティーは再生に反映されます。かわりに、記譜モードで入力した強弱記号を再生に反映させるには、再生の上書き情報を削除する必要があります。

手順

1. ピアノロールエディターまたはドラムエディターで、再生の上書きをリセットする音符を選択します。
 2. 「再生 (Play)」 > 「再生の上書き情報をリセット (Reset Playback Overrides)」を選択します。
-

結果

選択した音符から再生の上書きがすべて削除されます。

補足

最初は、選択した音符の演奏されるデュレーションの幅が、記譜されたデュレーションと同じになります。ただし、再生を開始したり、モードを切り替えたりすると、外観がデフォルトの演奏されるデュレーションに戻ります。たとえば、音符にスタッカートが付いている場合、演奏されるデュレーションはデフォルトで記譜されたデュレーションの半分になります。

関連リンク

[ベロシティーレーン \(528 ページ\)](#)

[MIDI 録音 \(208 ページ\)](#)

[MIDI の読み込み \(82 ページ\)](#)

[「MIDI インポートオプション \(MIDI Import Options\)」ダイアログ \(83 ページ\)](#)

印刷モード

印刷モードでは、レイアウトを印刷したり、PDF や SVG などのグラフィックファイルとして書き出したりできます。

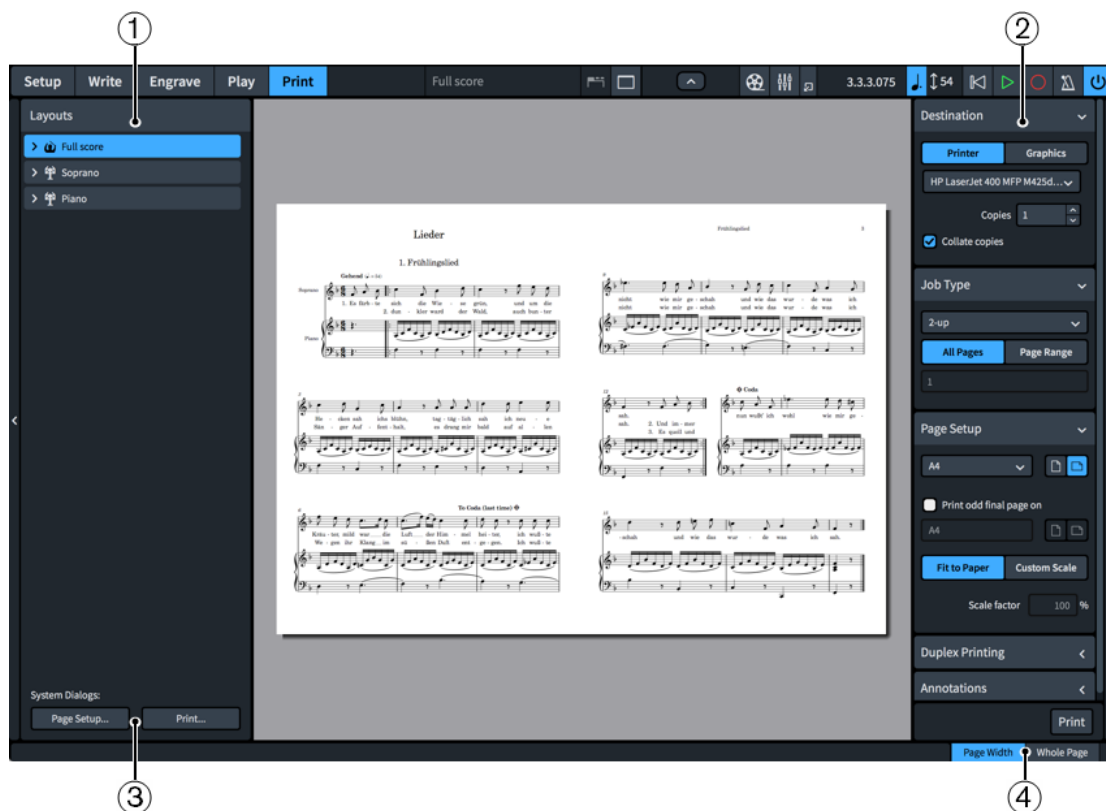
- レイアウトの印刷時に、用紙サイズのほか、両面印刷や冊子印刷などのオプションを指定できます。
- レイアウトの書き出し時にさまざまな画像ファイル形式を指定できるほか、書き出す際のファイル名に含める情報も設定できます。

印刷モードのプロジェクトウィンドウ

印刷モードのプロジェクトウィンドウは、初期設定ツールバー、印刷プレビュー領域に加え、レイアウトの印刷や書き出しの準備に必要なすべてのツールと機能を含むパネルとセクションで構成されています。

印刷モードに切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[5]** を押します。
- ツールバーで「印刷 (Print)」をクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「印刷 (Print)」を選択します。



印刷モードのパネルとセクション

印刷モードには以下のパネルとセクションがあります。

1 「レイアウト (Layouts)」 パネル

プロジェクトのすべてのレイアウトのリストが表示され、印刷または書き出しを行なう対象を選択できます。

補足

印刷モードでは、ツールバーのレイアウトセクターが無効になります。印刷プレビュー領域で異なるレイアウトを確認する場合は、「**レイアウト (Layouts)**」パネルで選択します。

2 印刷オプションパネル

レイアウトの印刷または書き出しのオプションで構成されています。

3 システムダイアログ (macOS のみ)

macOS 固有の印刷オプションが含まれます。

4 ビューオプション

印刷プレビュー領域でのページの表示方法を変更できます。

- **ページの幅 (Page Width)**: 印刷プレビュー領域の幅に合わせてページが表示されます。ページの向きや形式によっては、ページ全体が表示されない場合があります。
- **全ページ (Whole Page)**: 印刷プレビュー領域にページ全体が表示されます。

ヒント

[Home] を押して先頭ページに、**[End]** を押して最終ページに直接移動できます。これらのキーボードショートカットは「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで変更できます。

関連リンク

[ツールバー \(42 ページ\)](#)

[印刷プレビュー領域 \(48 ページ\)](#)

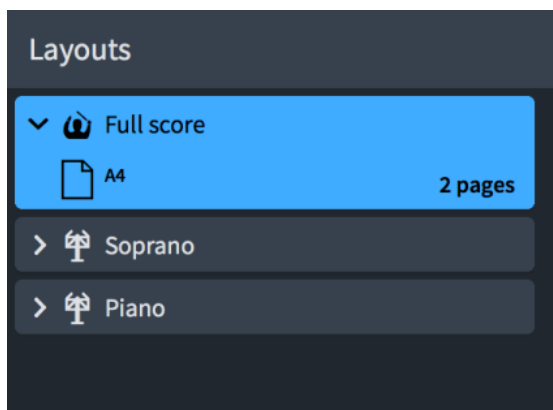
[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(62 ページ\)](#)

印刷モードの「レイアウト (Layouts)」パネル

印刷モードでは、「**レイアウト (Layouts)**」パネルにプロジェクトの全レイアウトがリスト表示されます。ここからレイアウトを選択して、印刷や書き出しを行なえます。このパネルは、印刷モードのウィンドウの左側に配置されています。

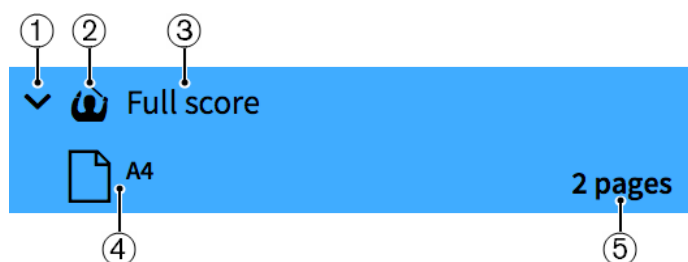
印刷モードの「**レイアウト (Layouts)**」パネルは、以下のいずれかの方法で表示/非表示を切り替えられます。

- **[Ctrl]/[command]+[7]** を押します。
- メインウィンドウの左端にある展開矢印ボタンをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左のパネルを表示 (Show Left Panel)**」を選択します。



印刷モードの「レイアウト (Layouts)」パネル

「レイアウト (Layouts)」パネルには、プロジェクト内のすべてのレイアウトが表示されます (カードといます)。各レイアウトカードには以下が表示されます。



1 展開矢印マーク

レイアウトカードを展開したり、折りたたんだりします。

2 レイアウトのタイプ

以下のいずれかのレイアウトのタイプが表示されます。

- フルスコアレイアウト



- パートレイアウト



- カスタムスコアレイアウト



3 レイアウト名

レイアウト名が表示されます。プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントの名前と追加されたレイアウトの種類にしたがって、Dorico Pro が自動的にデフォルト名を追加します。たとえば、プレーヤーにフルートを割り当てると、パートレイアウトは自動的に同じ名前となります。空白のパートレイアウトを追加すると、レイアウト名は「空白のパート譜 (Empty part)」と表示され、複数の空白のパートレイアウトを追加した場合は通し番号が表示されます。

4 ページのサイズと向き

「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「ページ設定 (Page Setup)」ページで設定したレイアウトのサイズと向きが表示されます。

5 レイアウトの長さ

レイアウトのページ数が表示されます。このページ数とページのサイズと向きによって、印刷や書き出しに最適なジョブタイプを決定します。

ヒント

2 ページで構成されるレイアウトは、2 ページを 1 ページに集約して印刷することをおすすめします。5 ページあるレイアウトの場合は、見開きで印刷して、最後のページを異なるページサイズで印刷することをおすすめします。12 ページあるレイアウトは、冊子として印刷することをおすすめします。

「印刷 (Print)」または「書き出し (Export)」をクリックすると、ここで選択した部数のレイアウトの印刷または書き出しが行なわれます。レイアウトの一部を印刷に、一部をグラフィック書き出しに設定している場合、ボタンには「印刷と書き出し (Print and Export)」と表示されます。

関連リンク

[印刷/書き出し用のページ配置 \(615 ページ\)](#)

[冊子印刷 \(616 ページ\)](#)

印刷オプションパネル

印刷オプションパネルは、レイアウトの印刷または書き出し用のオプションで構成されています。このパネルは、印刷モードのウィンドウの右側に配置されています。

印刷オプションパネルの表示/非表示を切り替えるには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- **[Ctrl]/[command]+[9]** を押します。
- メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「右のパネルを表示 (Show Right Panel)」を選択します。

The image shows a vertical print options panel with the following sections:

- Destination:** Includes tabs for 'Printer' and 'Graphics'. The printer selected is 'Phaser 7100N (13:9c:aa)'. There are 2 copies, and 'Collate copies' is checked.
- Job Type:** Includes a '2-up' dropdown, tabs for 'All Pages' and 'Page Range', and a page number '1'.
- Page Setup:** Includes paper size options 'A3' and 'A4', a 'Print odd final page on' checkbox, and scaling options 'Fit to Paper' and 'Custom Scale'. The scale factor is set to 100%.
- Duplex Printing:** Includes 'Print on' options 'One side only', 'Flip automatically', and 'Reverse order of outward pages' (unchecked).
- Annotations:** Includes checkboxes for 'Crop marks', 'Border', 'Date and time', 'Watermark', and 'View options'.

A 'Print' button is located at the bottom of the panel.

印刷オプションパネルで設定するすべてのオプションはプロジェクトに保存されます。パネルに含まれるオプションは、以下のセクションに分かれています。

出力先 (Destination)

印刷する際の物理プリンターを選択したり、グラフィックファイルを書き出す際のファイルの保存場所を選択できます。楽譜を印刷する場合は印刷部数を選択できます。グラフィックファイルの書き出しを選択した場合、保存ファイルの形式、ファイル名、および出力先を指定できます。

選択した出力先によって、パネルの一番下にあるボタンの表示が「印刷 (Print)」 / 「書き出し (Export)」の間で切り替わります。レイアウトの一部を印刷に、一部をグラフィック書き

出しに設定している場合、ボタンには「印刷と書き出し (Print and Export)」と表示されま
す。

ジョブタイプ (Job Type)

印刷または書き出しを行なうページの範囲と、どのように編集するかを選択できます。

ページ設定 (Page Setup)

用紙のサイズと向きを設定できます。印刷または書き出しを行なうイメージの倍率を指定で
きます。

両面印刷 (Duplex Printing)

用紙の片面に印刷するか、両面に印刷するかを選択できます。このオプションは、「出力先
(Destination)」セクションで「プリンター (Printer)」を選択した場合にのみ使用できます。

注釈

通常、出版社や印刷所で必要とされる、トンボや印刷するイメージを囲む枠線などのオプシ
ョンをオンにできます。

「印刷 (Print)」 ボタン

印刷オプションパネルの設定に基づいて、選択したレイアウトの印刷または書き出しを行な
います。

選択した設定に応じて、ボタンの表示が以下のいずれかに変更します。

- 印刷 (Print)
- 書き出し (Export)
- 印刷と書き出し (Print and Export)

たとえば、選択したすべてのレイアウトが印刷に設定されている場合は、「印刷 (Print)」が
表示されます。レイアウトの一部を印刷に、一部をグラフィック書き出しに設定している場
合は、「印刷と書き出し (Print and Export)」と表示されます。

関連リンク

[両面印刷 \(617 ページ\)](#)

[印刷/書き出し用のページ配置 \(615 ページ\)](#)

レイアウトの印刷

レイアウトごとに個別に印刷するか、複数のレイアウトを同時に印刷できます。レイアウトごとに異
なる印刷設定を行なえます。たとえば、同じプロジェクトのレイアウトごとにプリンターを変更でき
ます。

Dorico Pro では、レイアウトの設定に基づいて印刷設定が自動的に行なわれます。そのため、印刷設定
の多くはそのままでもレイアウトを適切に印刷できる場合があります。たとえば、A3 用紙を印刷でき
るプリンターに接続しており、「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログでフルスコアレ
イアウトのページサイズを A3 に設定している場合、印刷オプションパネルの「ページ設定 (Page
Setup)」セクションは自動的に「A3」が選択されます。

手順

1. 「レイアウト (Layouts)」 パネルで、印刷するレイアウトを選択します。

補足

印刷モードでは、ツールバーのレイアウトセレクターが無効になります。印刷プレビュー領域で異
なるレイアウトを確認する場合は、「レイアウト (Layouts)」 パネルで選択します。

2. 印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで、「部数 (Copies)」フィールドに
印刷部数を入力します。

補足

- 「部数 (Copies)」の値を変更すると、現在選択しているすべてのレイアウトの印刷部数が増減されます。ただし、レイアウトごとに印刷部数を変更することもできます。たとえば、パートレイアウトは1部のみ印刷するように設定したまま、フルスコアレイアウトを選択して3部印刷するように設定できます。そのあとすべてのレイアウトを選択して、設定した値が反映された状態で一緒に印刷できます。
 - 設定値が異なるレイアウトを選択すると、「部数 (Copies)」フィールドが空白になります。
3. 「ページ順に並べる (Collate copies)」をオン/オフにします。
 4. 「出力先 (Destination)」セクションで「プリンター (Printer)」を選択して、メニューからプリンターを選択します。
 5. 「ジョブタイプ (Job Type)」セクションで、メニューから任意のページ構成を選択します。
 6. 特定のページ範囲のみを印刷する場合は、「ジョブタイプ (Job Type)」セクションで「ページ範囲 (Page Range)」を選択します。
 7. 「ページ範囲 (Page Range)」を選択した場合、必要に応じて、数値フィールドにページ番号を入力します。
 - 範囲を指定するには、1-4のように最初と最後のページ番号の間にハイフンを入力します。
 - 個別のページや範囲を指定するには、1,3,5-8のようにそれぞれのページまたは範囲をカンマで区切ります。
 8. 「ページ設定 (Page Setup)」セクションで、メニューから用紙サイズを選択します。
 9. 印刷する用紙の向きを選択します。
 10. ジョブタイプに「見開き (Spreads)」または「2ページを1ページに集約 (2-up)」を選択した場合は、必要に応じて「最後の奇数ページの設定 (Print odd final page on)」をオンにして、奇数ページで終わるレイアウトの最終ページの用紙サイズを指定します。
 11. 最後の奇数ページの用紙サイズと用紙の向きを選択します。
 12. 以下のいずれかの用紙サイズオプションを選択します。
 - 用紙サイズに合わせる (Fit to Paper)
 - カスタム尺度 (Custom Scale)
 13. 「カスタム尺度 (Custom Scale)」を選択した場合、必要に応じて「倍率 (Scale factor)」フィールドに倍率を入力します。
 14. 「両面印刷 (Duplex Printing)」セクションで、「印刷面 (Print on)」メニューからいずれかの印刷オプションを選択します。
 15. 両面印刷オプションを選択した場合、必要に応じてその下の2つのメニューで、用紙の裏面の印刷の向きを選択します。
 16. 「注釈 (Annotations)」セクションで、選択したレイアウトに追加する注釈をチェックします。
 17. 「印刷 (Print)」をクリックします。

結果

適用した印刷設定に従って、選択したレイアウトが印刷されます。

選択範囲に含まれるパートレイアウトが実音に設定されている場合は警告が表示され、印刷/書き出し前に選択範囲のすべてを移調に切り替えることができます。移調するレイアウトまたは変更を加えずにそのまま続行するレイアウトを選択することもできます。

ヒント

- 個別のレイアウトを選択して印刷オプションを設定したあと、すぐに印刷しなくてもかまいません。複数のレイアウトに印刷オプションを設定したら、印刷するすべてのレイアウトを選択して「印刷 (Print)」をクリックできます。選択したレイアウトに印刷設定が異なるものが含まれる場合でも、既存の印刷設定が適用されます。

- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、さまざまな印刷/書き込みコマンドのキーボードショートカットを設定できます。
-

関連リンク

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(62 ページ\)](#)

[プリンター \(615 ページ\)](#)

[用紙のサイズと向きの設定 \(619 ページ\)](#)

[「書き出し用ファイル名」ダイアログ \(612 ページ\)](#)

[印刷/書き出し用のページ配置 \(615 ページ\)](#)

[印刷オプションパネル \(605 ページ\)](#)

[両面印刷 \(617 ページ\)](#)

[注釈 \(621 ページ\)](#)

[ページのサイズと向きの変更 \(441 ページ\)](#)

ページ範囲の印刷/書き出し

デフォルトでは、選択したレイアウトのすべてのページが印刷/書き出しされます。印刷/書き出しを行なう特定のページ範囲を指定できます。

補足

冊子印刷を行なう際は、範囲には全ページしか使用できません。ページ範囲は指定できません。

手順

1. 「レイアウト (Layouts)」パネルで、印刷/書き出しを行なうページ範囲が含まれるレイアウトを選択します。
2. 「出力先 (Destination)」セクションで、必要に応じてレイアウトの出力先が適切なプリンターまたはグラフィックファイル形式に設定されているかを確認します。
3. 「ジョブタイプ (Job Type)」セクションで、「ページ範囲 (Page Range)」を選択します。
4. 入力フィールドに印刷/書き出しするページを入力します。
 - 範囲を指定するには、**1-4**のように最初と最後のページ番号の間にハイフンを入力します。
 - 個別のページや範囲を指定するには、**1,3,5-8**のようにそれぞれのページまたは範囲をカンマで区切ります。

補足

複数の選択範囲がある場合、別々のファイルに書き出されます。

5. 「印刷 (Print)」 / 「書き出し (Export)」 / 「印刷と書き出し (Print and Export)」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトの指定したページが印刷/書き出しされます。書き出されたファイルには、「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログでグラフィックファイル形式ごとに指定されたファイル名生成用文字列が使用されます。

関連リンク

[「書き出し用ファイル名」ダイアログ \(612 ページ\)](#)

[印刷/書き出し用のページ配置 \(615 ページ\)](#)

印刷オプションの指定 (macOS のみ)

Dorico Pro では、お使いのオペレーティングシステムの標準印刷オプションにアクセスできます。

補足

オペレーティングシステムの標準印刷オプションを使用する場合、印刷オプションパネルの設定は無視されます。macOS 固有の印刷設定はプロジェクトに保存されません。そのため、印刷するたびに設定する必要があります。一方、Dorico Pro の印刷オプションは必ずプロジェクトに保存されます。

手順

1. 「レイアウト (Layouts)」パネルの「OS X ダイアログ (OS X Dialogs)」セクションで、「ページ設定 (Page Setup)」をクリックし、macOS 「ページ設定 (Page Setup)」ダイアログを開きます。
 2. 「ページ設定 (Page Setup)」ダイアログで、用紙サイズを設定します。
 3. 「OK」をクリックします。
 4. 「OS X ダイアログ (OS X Dialogs)」セクションで、「印刷 (Print)」をクリックして macOS 「印刷 (Print)」ダイアログを開きます。
 5. 「印刷 (Print)」ダイアログで、任意の印刷オプションを設定します。
-

グラフィックファイルとしての書き出し

個別のレイアウトを PDF や PNG などのさまざまなグラフィックファイルとして書き出すことができます。

手順

1. 「レイアウト (Layouts)」パネルで、書き出すレイアウトを選択します。
2. 印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで、「グラフィック (Graphics)」を選択します。
3. カラーモードを選択します。
 - 「白黒 (Mono)」では、白黒でグラフィックを書き出します。
 - 「カラー (Color)」では、フルカラーでグラフィックを書き出します。

補足

- グラフィックファイルを解像度 72dpi で書き出す場合は、「カラー (Color)」をおすすめします。「白黒 (Mono)」を選択すると、線が消える可能性があります。
 - 透かしを含めてレイアウトを書き出すには、「カラー (Color)」を選択する必要があります。
-

4. メニューからグラフィックファイル形式を選択します。
5. 「PNG」または「TIFF」を選択した場合は、必要に応じて、「解像度 (Resolution)」メニューから解像度を選択します。

ヒント

「PDF」と「SVG」はベクター形式のため、「解像度 (Resolution)」設定はこれらのファイルには影響しません。

6. 必要に応じて、書き出しパスを指定します。
7. ファイルの命名規則を変更する場合、「ファイル名オプション (File Name Options)」をクリックして「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログを開きます。
8. 「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログで、必要に応じて、選択したグラフィックファイル形式のファイルの命名規則を変更します。

9. 特定のページ範囲のみを書き出す場合は、「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションで「**ページ範囲 (Page Range)**」を選択します。
10. 「**ページ範囲 (Page Range)**」を選択した場合、必要に応じて、数値フィールドにページ番号を入力します。
 - 範囲を指定するには、**1-4**のように最初と最後のページ番号の間にハイフンを入力します。
 - 個別のページや範囲を指定するには、**1,3,5-8**のようにそれぞれのページまたは範囲をカンマで区切ります。

補足

複数の選択範囲がある場合、別々のファイルに書き出されます。

11. 「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションで、ページの向きを選択します。
12. 「**注釈 (Annotations)**」セクションで、選択したレイアウトに追加する注釈をチェックします。

補足

透かしは**カラー**のグラフィックとして書き出されるレイアウトにのみ含まれます。

13. 「**書き出し (Export)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトがグラフィックファイル形式として書き出されます。ファイル名には「**書き出し用ファイル名 (Export File Names)**」ダイアログでグラフィックファイル形式ごとに指定されたファイル名生成用文字列が使用されます。書き出されたファイルは、「**保存先のフォルダー (Destination folder)**」フィールドに指定したフォルダーに保存されます。指定したフォルダーにアクセスできない場合は、プロジェクトファイルと同じフォルダーに保存されます。

選択範囲に含まれるパートレイアウトが実音に設定されている場合は警告が表示され、印刷/書き出し前に選択範囲のすべてを移調に切り替えることができます。移調するレイアウトまたは変更を加えずにそのまま続行するレイアウトを選択することもできます。

ヒント

「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページで、さまざまな印刷/書き込みコマンドのキーボードショートカットを設定できます。

関連リンク

[ページ範囲の印刷/書き出し \(609 ページ\)](#)

[「書き出し用ファイル名」ダイアログ \(612 ページ\)](#)

[グラフィックファイルの形式 \(620 ページ\)](#)

[画像解像度 \(620 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログの「キーボードショートカット \(Key Commands\)」ページ \(62 ページ\)](#)


[注釈 \(621 ページ\)](#)

グラフィックファイルの書き出しパスの指定

グラフィックファイルの書き出し先フォルダーのパスを指定できます。レイアウトごとに異なる書き出しパスを指定した場合でも、すべてのレイアウトを同時に書き出すことができます。

デフォルトでは、グラフィックファイルはプロジェクトファイルと同じフォルダーに書き出されます。プロジェクトをまだ保存していない場合、グラフィックファイルはお使いのオペレーティングシステムのデフォルトのユーザーフォルダーに保存されます。

手順

1. 「レイアウト (Layouts)」 リストから、書き出しパスを変更するレイアウトを選択します。
2. 印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」 セクションで、「保存先のフォルダー (Destination folder)」 フィールドの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」 をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。

3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、保存先のフォルダーを探して選択します。
4. 「フォルダーを選択 (Select Folder)」 (Windows) / 「開く (Open)」 (macOS) をクリックして、「保存先のフォルダー (Destination folder)」 フィールドに新しいパスを指定します。
5. 必要に応じて、書き出しパスを変更する他のレイアウトにも手順 1 から 4 を繰り返します。
6. ファイルの命名規則を変更する場合、「ファイル名オプション (File Name Options)」 をクリックして「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」 ダイアログを開きます。
7. 「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」 ダイアログで、必要に応じて、選択したグラフィックファイル形式のファイルの命名規則を変更します。

結果

選択したレイアウトの書き出しパスが変更されます。書き出されたファイルには、「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」 ダイアログでグラフィックファイル形式ごとに指定されたファイル名生成用文字列が使用されます。

補足

使用するオペレーティングシステムが違うユーザーから受け取ったプロジェクトなどでは、指定された書き出しパスにアクセスできない場合があります。その場合、Dorico Pro によって書き出しパスがプロジェクトファイルと同じフォルダーに自動的に変更されます。

「書き出し用ファイル名」 ダイアログ

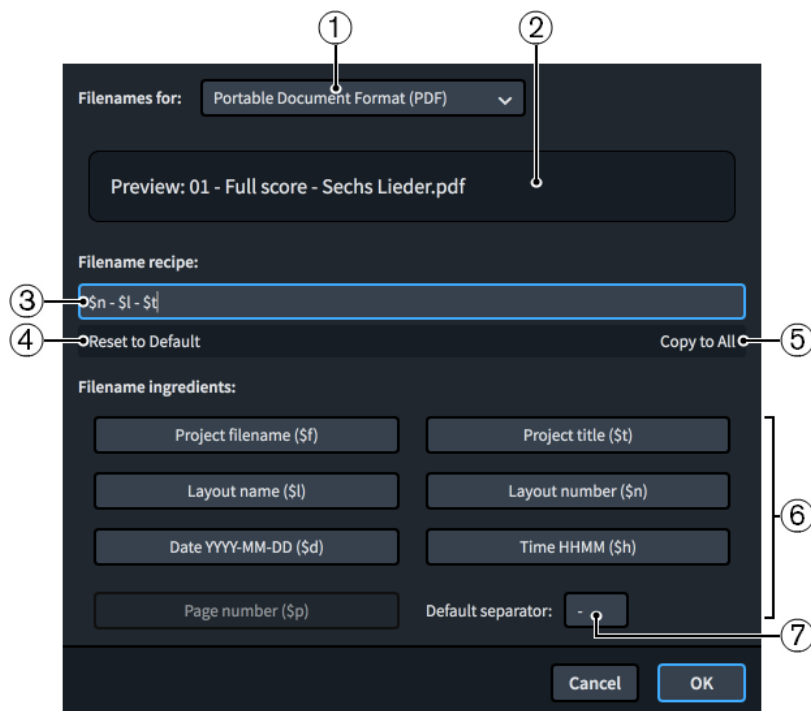
「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」 ダイアログでは、グラフィックファイル形式ごとに、ファイル名に含める文字列を指定できます。普遍的な構成要素を使用して、各レイアウトの情報がファイル名に自動的に反映されるようにできます。また、すべてのレイアウトに同じテキストを入力できます。

「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」 ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行います。

- 印刷モードで、選択しているレイアウトの印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」 セクションで「グラフィック (Graphics)」 を選択した状態で、「ファイル名オプション (File Name Options)」 をクリックします。
- 「環境設定 (Preferences)」 の「全般 (General)」 ページの「ファイルの書き出し (Exporting Files)」 サブセクションにある「編集 (Edit)」 をクリックします。

補足

行なった設定はいずれの方法で開くダイアログに反映され、以降のすべてのプロジェクトのデフォルトとして保存されます。



「書き出し用ファイル名 (Export File Names)」ダイアログには、以下のオプションが含まれます。

1 ファイル名を使用する形式 (File names for)

グラフィックファイル形式を選択します。グラフィックファイル形式ごとに個別のファイル名生成用文字列を設定できます。

2 プレビュー: (Preview:)

現在の生成用文字列に基づいたファイル名の例が表示されます。このプレビューには、ツールバーのレイアウトセレクターに表示されているレイアウトが使用されます。

たとえば、フルスコアの PDF ファイル名にデフォルトの生成用文字列が使用されている場合、プレビューは 01 - Full score - Lieder.pdf のようになります。

3 ファイル名生成用文字列 (File name recipe)

選択したグラフィックファイル形式の生成用文字列が表示されます。このフィールドに文字を直接入力できます。また、構成要素のボタンをクリックして情報を自動的に追加させることができます。

たとえば、PDF ファイルのデフォルトのファイル名生成用文字列は **\$n - \$l - \$t** です。

4 デフォルトにリセット (Reset to Default)

選択したグラフィックファイル形式のファイル名生成用文字列をデフォルトにリセットします。

5 すべてにコピー (Copy to All)

現在表示しているファイル名生成用文字列をプロジェクトのすべてのレイアウトにコピーします。

6 ファイル名の構成要素 (File name ingredients)

ファイル名生成用文字列に構成要素を簡単に追加できます。これによって各レイアウトの適切な情報が自動的に反映されます。たとえば、構成要素 **\$l** を使用してピアノパートのレイアウトを書き出すと、構成要素の部分が Piano に変換されます。

各構成要素のボタンには、参照元の情報と変数の文字列が表示されます。

ファイル名の構成要素のボタンをクリックすると、ファイル名生成用文字列フィールドの末尾に追加されます。追加した構成要素は、デフォルトの区切り文字で前の構成要素と自動的に区切られます。

補足

PDF ファイルは複数ページの形式のため、ページ番号の構成要素を使用できません。

7 デフォルトの区切り文字 (Default separator)

ファイル名生成用文字列の構成要素を区切るのに使用するデフォルトの文字を設定できます。

関連リンク

[グラフィックファイルとしての書き出し \(610 ページ\)](#)

白黒とカラーのグラフィック処理

Dorico Pro では、白黒とカラーのグラフィックの書き出し時に異なる設定が適用されます。グラフィックファイルの用途によって、最適な設定が異なります。

多くの楽譜は白黒のため、黒インクのみを使用し、通常は白または白に近い色の紙に印刷します。一部の教則本では、音部記号を分類する、ピッチに従って音符に色を付けるなど、特定の記譜を強調するためにカラーを使用する場合があります。グラフィックファイルを書き出して、手元のプリンターで印刷する場合、「出力先 (Destination)」セクションで「カラー (Color)」を選択したままにできます。

しかし、グラフィックファイルを PDF 形式で書き出して、プレートセッターで直接印刷したり、ページレイアウトプログラムでさらに制作作業を行なう場合は、レイアウトにカラーの要素が含まれていなければ、「白黒 (Mono)」を選択します。「白黒 (Mono)」を選択すると、Dorico Pro では印刷するイメージに確実に黒インクのみが使用されるよう、別のカラースペースを使用して PDF が書き出されます。「カラー (Color)」を選択すると、レイアウトの黒の要素をリッチブラックとして書き出します。その結果、黒は複数のカラーインクを掛け合わせて作成されます。これにより、プリプレス段階で色分解を行なう際、制作物に問題が発生する可能性があります。

Dorico Pro では、プレートセッターやその他の業務用印刷機械で使用されている CMYK カラーモデルではなく、RGB カラーモデルを使用してカラーが指定されます。レイアウトにカラーオブジェクトがあり、レイアウトを業務用として印刷する場合、Dorico Pro から別のグラフィックアプリケーションに書き出されたグラフィックファイルをポストプロセスして、RGB から CMYK に変換する必要があります。

関連リンク

[グラフィックファイルとしての書き出し \(610 ページ\)](#)

PDF ファイルと SVG ファイルでのフォントの埋め込み

PDF ファイルと SVG ファイルでフォントをどのように扱うかは、主にプロジェクトで使用するフォントによって決まります。

PDF ファイル

Dorico Pro に付属している音楽フォントとテキストフォントおよびそのサブセットは、書き出し中に PDF ファイルに埋め込まれます。別のコンピューターで PDF ファイルを開くと、ドキュメントで使用されているフォントがコンピューターにインストールされていないとしても、同じ見た目で表示されます。別のフォントを使用している場合は、そのフォントが埋め込み可能であることを確認してください。

SVG ファイル

SVG (Scalable Vector Graphics) ファイルには、フォントを直接埋め込むことはできません。符頭、アーティキュレーション、臨時記号といった一部のフォント文字はアウトライン化されるので、元のフォントには依存しません。拍子記号や連符の数字などその他のフォントは、元のフォントへの参照を使用しのみエンコードされます。この仕組みは、譜表ラベル、テンポの指示、強弱記号などの通常のテキストでも同様です。そのため、使用されているフォントがインストールされていないコンピューターの Web ブラウザーでレンダリングした場合、SVG ファイルでは正確な見た目が再現されません。SVG ファイルがどのように表示されるかは、ブラウザーやレンダリングソフトウェア、コンピューターにインストールされているフォントによって異なります。

Web サイトに埋め込まれた SVG ファイルを正しく表示するには、SVG ファイルをイラストレーションプログラムで開き、すべてのフォント文字をアウトライン化してから、再度 SVG

ファイルに書き出して、そのファイルを埋め込みます。または、Web フォントを使用して、必要なフォントを確実に Web サーバーで表示することもできます。

Dorico Pro から書き出した SVG グラフィックは、完全な SVG 仕様に含まれる機能のサブセットを定義する SVG Tiny 1.1 仕様に適合します。

SVG での Web フォントの使用については、Steinberg Web サイトのサポートを参照してください。

プリンター

Dorico Pro プロジェクトのレイアウトは、コンピューターに接続されたプリンターで印刷できます。

プロジェクトのレイアウトごとに、別々のプリンターを選択できます。これによりレイアウトの印刷要件に最適なプリンターを選択できます。プリンターの選択は、印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで「プリンター (Printer)」が選択されている場合に行なうことができます。

Dorico Pro では、別のプリンターを指定しない限り、オペレーティングシステムで指定されたデフォルトのプリンターが使用されます。この場合、印刷オプションパネルの以下のセクションの設定が変わる可能性があります。

- 「ページ設定 (Page Setup)」セクションでは、使用できる用紙サイズのリストには、選択されたプリンターが対応する用紙サイズのみ表示されます。
- 「両面印刷 (Duplex Printing)」セクションでは、選択されたプリンターが自動両面印刷機能に対応している場合のみ、この機能のオプションが表示されます。

補足

現在選択しているすべてのレイアウトを同じプリンターで印刷するよう設定した場合のみ、「出力先 (Destination)」セクションのプリンターポップアップメニューにプリンター名が表示されます。メニューから新しいプリンターを選択すると、選択したすべてのレイアウトがそのプリンターで印刷されるよう設定されます。

関連リンク

[印刷オプションパネル \(605 ページ\)](#)

[レイアウトの印刷 \(607 ページ\)](#)

印刷/書き出し用のページ配置

Dorico Pro には、レイアウトの印刷/書き出しに使用できるページ配置が複数あります。

印刷オプションパネルの「ジョブタイプ (Job Type)」セクションでは、レイアウトをどのように印刷/書き出しするかを指定できます。「ジョブタイプ (Job Type)」セクションのメニューから、以下のジョブタイプのいずれかを選択できます。

標準 (Normal)

1 ページを 1 枚の用紙に印刷します。この場合、ページが片面に印刷されます。たとえば、定期的なページめくりが不要で、楽譜を横につなぎ合わせる必要があるパート譜に使用されます。

見開き (Spreads)

2 ページを 1 枚の用紙に印刷します。奇数ページは右側に、偶数ページは左側に印刷されます。

印刷するレイアウトが 5 ページなどの場合に、最後の奇数ページの用紙サイズも指定できます。

2 ページを 1 ページに集約 (2-up)

2 ページを 1 枚の用紙に印刷します。範囲の最初のページは、最初の用紙の左側に印刷されます。この場合、ページを半分に折り曲げられるため、用紙の端をつなぎ合わせる必要がある数が減り、パート譜の印刷に便利です。

印刷するレイアウトが 5 ページなどの場合に、最後の奇数ページの用紙サイズも指定できます。

冊子印刷 (Booklet)

面付けの要件に従って、2 ページを 1 枚の用紙に印刷します。用紙を折り曲げると本のように見えるようにページが配置されます。このページ配置は、一般的にパート譜よりページ数が多いスコアや合唱パートで特に役立ちます。

補足

冊子印刷を行なう際は、範囲には全ページしか使用できません。ページ範囲は指定できません。

補足

- Dorico Pro では、選択したジョブタイプに応じて、ページの向きが自動的に切り替わります。向きが変更されると、すぐに楽譜領域に表示されます。表示された結果を変更したい場合、「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションで向きを設定を上書きできます。
- すべてのジョブタイプは、片面印刷、両面印刷のどちらにも対応しています。
- 「冊子印刷」、「見開き」、「2 ページを 1 ページに集約」は、通常横向きで印刷されます。1 ページを 1 枚に印刷する場合は、レイアウト自体で横向きを使用していない限り、通常縦向きになります。

「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションでは、印刷/書き出しするページも選択できます。

全ページ (All Pages)

選択したレイアウトの全ページの印刷/書き出しを行ないます。

ページ範囲 (Page Range)

印刷するページの範囲を設定できます。「**ページ範囲 (Page Range)**」を選択すると、値フィールドが有効になります。

- 範囲を指定するには、**1-4** のように最初と最後のページ番号の間にハイフンを入力します。
- 個別のページや範囲を指定するには、**1,3,5-8** のようにそれぞれのページまたは範囲をカンマで区切ります。

関連リンク

[用紙のサイズと向きの設定 \(619 ページ\)](#)

[ページ範囲の印刷/書き出し \(609 ページ\)](#)

冊子印刷

冊子は、用紙の両面に印刷され、折り曲げると本のように見えるドキュメントのことです。冊子印刷を行なうと、印刷されたページを折り曲げて読んだときにプロジェクトでの順序と同じになるように、ページの順番が変更されます。

冊子印刷したレイアウトの製本は、片面印刷や両面印刷した場合より非常に簡単です。たとえば、20 ページのフルスコアを両面印刷した場合、すべてのページをまとめるには用紙のいずれかの端をつなぎ合わせる必要があります。それに対して、同じフルスコアを冊子印刷すると、用紙の中央で折り曲げるだけですべてのページをまとめられます。

冊子印刷を設定すると、印刷されたページの順序が正しく表示されるように、ページの順番が変更されます。たとえば、4 ページのレイアウトを冊子印刷する場合、以下のようなページ配置になります。

- 表面: 左側に 4 ページめ、右側に 1 ページめ
- 裏面: 左側に 2 ページめ、右側に 3 ページめ

冊子印刷するレイアウトのページ数が半端な場合、冊子の最後に空白ページが自動的に配置されます。この場合、奇数ページが右側に表示される規則に従います。たとえば、6 ページのレイアウトを冊子印刷した場合、合計で 8 ページ分が印刷され、冊子の最後の 2 ページが空白ページとなります。空白ページの配置を変更するには、レイアウトにタイトルページなどのページを追加します。

補足

- 冊子印刷を行なう際は、範囲には全ページしか使用できません。ページ範囲は指定できません。
- 手動での両面印刷で冊子印刷を行なう際に表面側のページの印刷順が間違っている場合は、印刷オプションパネルの「両面印刷 (Duplex Printing)」セクションにある「外側ページの印刷順を逆にする (Reverse order of outward pages)」をオンにすることで、表面側に印刷されるページの順番が逆になります。

関連リンク

[レイアウトの印刷 \(607 ページ\)](#)

[両面印刷 \(617 ページ\)](#)

両面印刷

Dorico Pro は両面印刷に対応しており、用紙の両面に印刷できます。

自動両面印刷対応のプリンターであれば、Dorico Pro でこの機能を使用できます。用紙の片面にしか印刷できないプリンターであっても、手動の両面印刷オプションを使用できます。

印刷オプションパネルの「両面印刷 (Duplex Printing)」セクションにある「印刷面 (Print on)」メニューには、以下のオプションが含まれます。

片側のみ (One side only)

用紙の片面にのみ印刷します。

両側 (手動) (Both sides manually)

用紙の両面に印刷します。プリンターに自動両面印刷機能が搭載されていない場合は、このオプションを使用します。すべての表面側のページがプリンターに送信されたあと、印刷済みのページのまとまりを裏返して、プリンターに戻すことを促すメッセージボックスが表示されます。「OK」をクリックして裏面側のページの印刷を続行します。

両側 (自動) (Both sides automatically)

自動的に用紙の両面に印刷します。このオプションは、プリンターが自動両面印刷機能に対応している場合にのみ有効になります。

「両面印刷 (Duplex Printing)」セクションの他のメニューでは、用紙の裏面に印刷したときの印刷の反転方向を設定できます。

印刷の反転 (縦向き)



縦向きの用紙の裏面に印刷する場合の、印刷の反転方向を設定します。

- 「自動反転 (Flip automatically)」では、プリンターの初期設定を使用して裏面が印刷されます。期待とは異なる向きに反転される場合は、他のいずれかのオプションを使用します。
- 「長辺とじ (Flip long side)」では、ページが横向きに反転されます。
- 「短辺とじ (Flip short side)」では、ページが縦向きに反転されます。

印刷の反転 (横向き)



横向き用の紙の裏面に印刷する場合の、印刷の反転方向を設定します。

- 「**自動反転 (Flip automatically)**」では、プリンターの初期設定を使用して裏面が印刷されます。期待とは異なる向きに反転される場合は、他のいずれかのオプションを使用します。
- 「**長辺とじ (Flip long side)**」では、ページが横向きに反転されます。
- 「**短辺とじ (Flip short side)**」では、ページが縦向きに反転されます。

セクションの下部にある「**外側ページの印刷順を逆にする (Reverse order of outward pages)**」をオンにすると、手動での両面印刷で冊子印刷を行なう際に、表面側に印刷されるページの順番が逆になります。プリンターの種類によっては、このオプションをオンにすることで裏面の印刷用に用紙をプリンターに戻す前に、手動でページの順番を逆にする必要があります。

関連リンク

[レイアウトの印刷 \(607 ページ\)](#)

ページサイズと用紙サイズ

Dorico Pro では、ページサイズと用紙サイズに別々の設定が使用されます。つまり、任意のページサイズのレイアウトをページサイズと異なるサイズの用紙に印刷できます。

プロジェクトの各レイアウトに対して、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**ページ設定 (Page Setup)**」ページでページサイズを定義できます。これはつまり、レイアウトの範囲を定義するということです。レイアウトを印刷するには、通常、使用するプリンターがサポートする用紙サイズを選択する必要があります。

通常、レイアウトのページサイズと印刷する用紙サイズは同一です。しかし、10" x 13" (パート用の標準ページサイズの1つ) といった、プリンターがサポートしていない特殊なページサイズをレイアウトで定義した場合、レイアウトを異なる用紙サイズに印刷しなくてはならない場合があります。必要に応じて、印刷オプションパネルの「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションで用紙サイズを変更できます。設定したページサイズに対して十分な大きさの用紙をプリンターがサポートしており、ページサイズが標準用紙サイズに合っている限り、メニューに寸法が表示されます。用紙サイズを変更しても、レイアウトのページサイズには影響しないため、楽譜内の配置は変更されません。

特定の用紙サイズを選択していない場合、コンピューターのロケール設定に基づいた用紙サイズが自動的に選択されます。たとえば、これらがヨーロッパの国に設定されていると、A4 などの ISO 規格が使用されます。また、北米の国に設定されていると、US レターなどの一般的な規格が使用されます。

一般的な規格よりも大きいページサイズを定義した場合、プリンターがサポートする一段階大きい用紙サイズが自動的に選択されます。たとえば、レイアウトのページサイズが A4/US レターよりも大きい場合、A3/タブロイドが使用されます。

レイアウトのページサイズと異なる用紙サイズに印刷する場合、イメージが用紙に合わせて自動的に拡大縮小されます。「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションでカスタム尺度の倍率を指定することで、この設定を変更できます。

用紙の向き

用紙の向きとは、楽譜をプレビューおよび印刷をする際の用紙の方向のことです。用紙は横向きまたは縦向きに設定できます。

多くの場合、パート譜は縦向きで印刷されます。これは、一般的な譜面台に一度に楽譜を 2、3 ページ広げることができるためです。

指揮者用のフルスコアも、縦向きの方が横向きより多くの譜表が 1 ページに収まるため、縦向きで印刷されるのが一般的です。ただし、小編成のアンサンブルなどのフルスコアでは、ページに含める譜表の数が少ないため横向きで印刷される場合があります。ページの横幅が長ければ各ページに多くの小節が収まり、ページをめくる回数も少なくなります。

Dorico Pro では、用紙の向きに関係なく、ページの向きを設定できます。たとえば、縦向きのページを横向きの用紙に印刷できます。また、「見開き (Spreads)」や「2 ページを 1 ページに集約 (2-up)」のページ配置を使って、レイアウトの最後の奇数ページの用紙の向きを個別に設定することもできます。

関連リンク

[ページのサイズと向きの変更 \(441 ページ\)](#)

用紙のサイズと向きを設定

レイアウトごとに異なる用紙のサイズと向きを設定できます。

補足

印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで「グラフィック (Graphics)」を選択している場合、用紙の向きのみが変更でき、他のオプションは利用できません。

印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで「プリンター (Printer)」を選択している場合、「ページ設定 (Page Setup)」セクションには以下のオプションが含まれます。

用紙サイズ

いずれかの使用できる用紙サイズをメニューから選択できます。使用可能な用紙サイズは、選択したプリンターの印刷可能な用紙によって異なります。

用紙の向き

以下のいずれかの用紙の向きを選択できます。

- 縦 (Portrait)



- 横 (Landscape)



最後の奇数ページの設定 (Print odd final page on)

「見開き (Spreads)」および「2 ページを 1 ページに集約 (2-up)」のジョブタイプでのみ設定できます。この設定有効になっている場合、最後の奇数ページに対して、各種用紙サイズや印刷の向きを選択できます。

この設定は、ページ数が奇数のレイアウトを A3 用紙に横向きに印刷する場合に役立ちます。たとえば、5 ページのレイアウトでは、最初の 4 ページは A3 用紙 2 枚に印刷され、5 ページめは 3 枚めの左側に印刷されます。この設定を使用すると、最後の奇数ページを A4 用紙に縦向きで印刷することもできます。

用紙サイズに合わせる (Fit to Paper)

選択した用紙サイズに合わせてページ全体が拡大または縮小されます。たとえば、ページサイズが A4 のレイアウトで、A3 の用紙サイズを選択した場合、レイアウトのページは大きい用紙サイズに合うように拡大されます。

カスタム尺度 (Custom Scale)

元のサイズに対する倍率でレイアウトのページが拡大または縮小されます。たとえば、ページサイズが A3 のレイアウトを印刷する場合に、用紙サイズに A4 を選択して、「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」を **100** に設定すると、ページの元のサイズが保持されて A4 用紙からはみ出てしまいます。

関連リンク

[印刷/書き出し用のページ配置 \(615 ページ\)](#)

[ページのサイズと向きの変更 \(441 ページ\)](#)

グラフィックファイルの形式

Dorico Pro では、レイアウトの書き出しに複数のグラフィックファイルの形式がサポートされています。

PDF

Portable Document Format (ポータブル・ドキュメント・フォーマット) の略称です。レイアウトを PDF ファイルに書き出すと、各レイアウトが固定されたプラットフォーム非依存文書を作成できます。これによってたとえば、Dorico Pro を所有していないユーザーに送信できます。

PNG

Portable Network Graphics (ポータブル・ネットワーク・グラフィックス) の略称です。PNG ファイルは可逆圧縮されるため、高画質です。

SVG

Scalable Vector Graphics (スケーラブル・ベクター・グラフィックス) の略称です。SVG は XML ベースのテキスト形式であるため、画質を損なうことなく任意のサイズに拡大縮小できます。Dorico Pro は SVG グラフィックをラスタライズするのではなく描画命令でレンダリングするため、より高解像度で小さいファイルサイズとなります。

TIFF

Tagged Image File Format の略称です。TIFF ファイルは圧縮されないため、ファイルサイズは他の形式より大きくなる可能性はありますが、画質は劣化しません。

関連リンク

[グラフィックファイルとしての書き出し \(610 ページ\)](#)

画像解像度

画像解像度は、画像に含まれるピクセルの数を表わします。ピクセルの数が大きいほど、画像は鮮明になります。

Dorico Pro では、PNG ファイルと TIFF ファイルを書き出す際に別の解像度を選択できます。画像解像度の単位は、dpi (dots per inch) です。

- 72
- 150
- 300
- 600
- 1200

補足

解像度 72dpi は画面での表示に適しており、グラフィックを電子メールや Web サイトに埋め込む場合に使用できます。300dpi、600dpi、または 1200dpi を選択すると解像度の高いイメージが保存され、ワードプロセッシングや DTP ドキュメントに掲載する図として使用できます。

関連リンク

[グラフィックファイルとしての書き出し \(610 ページ\)](#)

注釈

注釈を使って、印刷/書き出しされた文書に対して、印刷された日時などの情報を追加できます。出版社や印刷所は注釈を使用して、印刷イメージを正確に特定したり、登録したり、書き出されたグラフィックファイルを DTP アプリケーションに組み込んだりします。

出版用にレイアウトを印刷/書き出しする場合に、一般的な注釈を追加できます。また、Dorico Pro では、プロジェクトで有効にしたすべての表示オプションを印刷または書き出すことができます。

補足

トンボと枠線は、ページサイズが用紙サイズよりも小さい場合にのみ印刷されます。

印刷オプションパネルの「**注釈 (Annotations)**」セクションには、以下のオプションが含まれます。

トンボ (Crop marks)

ページの 4 つの角に、短い縦横線を追加します。

枠線 (Border)

ページ範囲の端に輪郭線を追加します。

日時 (Date and time)

各ページの一番下に印刷した日時を追加します。

透かし (Watermark)

各ページの中央部分に大きい半透明のテキストを追加します。現在のバージョンが草稿、校正刷り、精査用のスコアであることを示す場合に便利な機能です。

セクションの一番下の「**透かし (Watermark)**」フィールドに、各ページに表示するテキストを入力できます。

ヒント

- 透かしには、「**印刷透かし用フォント (Print Watermark Font)**」のフォントスタイルが使用されます。フォントサイズを変更したい場合など、このフォントの形式設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。
- 透かしは**カラー**のグラフィックとして書き出されるレイアウトにのみ含まれます。

オプションを表示 (View options)

ガイド、コメント、音符や休符のカラーなど、ビューモードでオンになっているオプションを、印刷結果や書き出したグラフィックに追加します。

関連リンク

[ガイド \(337 ページ\)](#)

[コメント \(346 ページ\)](#)

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

[レイアウトの印刷 \(607 ページ\)](#)

[グラフィックファイルとしての書き出し \(610 ページ\)](#)

記譜に関するリファレンス

はじめに

本書「記譜に関するリファレンス」は、さまざまな記譜記号の一般的な表記規則と、Dorico Pro におけるその外観や配置の個別変更およびデフォルト設定編集を通した変更の方法について説明しています。

また、たとえば譜表をまたいだグリッサンドなどの複雑な記譜記号の入力に関する手引きも、それぞれ対応する章で説明しています。

記譜に関するリファレンスにおける課題で概説するのは、アイテムに対して行なうデフォルトの変更であり、この変更はフローごと、レイアウトごと、またはプロジェクトごとに適用できます。たとえば、ペダル線のスペーシング間隔やプロジェクト全体の外観の変更など、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」から行なえるプロジェクト全体の変更などです。また、プロパティパネルのプロパティを使用して行なうことが多い、デフォルト設定とは別に行なえる個々の変更についても説明します。

記譜に関する基本的な入力方法については、記譜モードの章を参照してください。

関連リンク

[記譜モード \(156 ページ\)](#)

臨時記号

臨時記号は音符の横に表示され、それぞれのピッチを示します。臨時記号は譜表上に記譜される場合も、テキストに書き出される場合でも同様に音符の横に配置されます。洋式の調性に従う楽譜では通常、臨時記号は音符が現在の調号に合致しないピッチに変更されていることを示します。

Dorico Pro では、それぞれの音符は現在の調号から独立した固有の固定されたピッチを持ち、臨時記号は必要に応じて自動的に表示または非表示になります。たとえば F₄ を入力したあと、その前の位置に D メジャーの調号を追加した場合、音符は F₄ に変わるのではなく F₄ のままで、ナチュラルの臨時記号が表示されます。しかし D メジャーの調号を最初に入力すると、そのあと臨時記号を指定せずに入力した F はすべて F₄ として入力されます。

臨時記号の有効範囲ルールには、たとえば同じ小節の同じピッチを持つ後続の音符には同じ臨時記号を繰り返し表示しないなど、さまざまな表記規則が存在します。調号を持たない譜面では、使用する表記規則に応じて一部または全部の音符に臨時記号を付ける必要が生じる場合があります。

臨時記号の有効範囲ルールは、どの場合には臨時記号を表示するか決定し、複雑な和音ではどのように臨時記号を配置するかを制御するために使用できます。

関連リンク

[臨時記号の有効範囲ルール \(630 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[臨時記号の入力 \(192 ページ\)](#)

臨時記号の削除

臨時記号は種類に従って削除できます。また、異なる臨時記号を持つ複数の音符を選択して、一度にすべての臨時記号を削除できます。これにより、選択した音符のピッチが変更されます。

補足

これらの手順は、臨時記号を伴う音符の後にオクターブの異なるナチュラルの同じ音符に表示されるような親切臨時記号には適用されません。Dorico Pro では、フローごとおよび音符ごとに、親切臨時記号を表示したり、非表示にしたり、括弧を付けたりできます。

手順

1. 記譜モードで、臨時記号を削除する音符を複数選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、臨時記号を削除します。
 - ナチュラルを削除する場合、**[0]** を押します。
 - フラットを削除する場合、**[-]** を押します。
 - シャープを削除する場合、**^** を押します。
 - 音符パネルで臨時記号のボタンをクリックします。

結果

選択した音符から対応する臨時記号が削除されます。これにより音符のピッチが変更されます。たとえば G₄ からシャープを削除すると G₄ に変化します。

補足

- フローに適用された臨時記号の有効範囲ルールの設定によっては、臨時記号を削除することで、同じ小節の同じピッチを持つ後続の音符に臨時記号が表示される場合があります。音符のピッチは、音符を選択するとステータスバーの表示で確認できます。
- 異なる臨時記号を持つ複数選択された音符から臨時記号を削除する場合は、**[0]** を押すか、音符パネルで「**ナチュラル (Natural)**」をクリックして、すべての音符をナチュラルに戻すことをおすすめします。これは、異なる臨時記号を持つ選択された音符に臨時記号を再入力すると、選択範囲内のすべての音符にその臨時記号が追加されるためです。たとえば、複数選択した音符が2つのG#と2つのGbで構成されている場合、シャープを再入力すると4つのG#となります。「**シャープ (Sharp)**」をクリックするか **^** を2回押すと、すべての臨時記号が削除されます。

関連リンク

- [臨時記号の入力 \(192 ページ\)](#)
- [親切臨時記号を表示/非表示にする \(632 ページ\)](#)
- [個々の音符のピッチの変更 \(203 ページ\)](#)
- [臨時記号の有効範囲ルール \(630 ページ\)](#)
- [ステータスバー \(51 ページ\)](#)

臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける

初期設定で表示される親切臨時記号を含め、臨時記号は個別に丸括弧または角括弧付きで表示したり、個別に表示/非表示を切り替えたりできます。たとえば、臨時記号を丸括弧付きで表示することで、組段やフレーム区切りをまたぐタイのつながりに含まれる音符の親切臨時記号を表示できます。

手順

1. 臨時記号の表示/非表示を切り替える、または臨時記号に括弧を付ける音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

浄書モードでは、タイでつながれた個別の符頭のみを選択できます。

2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**臨時記号 (Accidental)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **非表示 (Hide)**
 - **表示 (Show)**
 - **丸括弧 (Round brackets)**
 - **角括弧 (Square brackets)**

結果

選択した音符の臨時記号が、表示、非表示、丸括弧付きまたは角括弧付きで表示されます。

補足

- 臨時記号を非表示にしても再生時の音程には影響しません。
- 多くの臨時記号の表示/非表示を切り替える場合は、臨時記号の有効範囲ルールの変更を検討することをおすすめします。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある異なる臨時記号の表示、非表示、括弧付けコマンドに対して、キーボードショートカットを割り当てることができます。

手順終了後の項目

また、押さえるピッチを示す通常の符頭とは個別に、菱形の符頭で表示されるアーティフィシャルハーモニクスの臨時記号を表示/非表示にしたり、括弧を付けたりすることもできます。

関連リンク

[臨時記号の有効範囲ルール \(630 ページ\)](#)

[「環境設定 \(Preferences\)」ダイアログ \(61 ページ\)](#)

[ハーモニクスの臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(931 ページ\)](#)

[臨時記号の削除 \(624 ページ\)](#)

浄書オプションで臨時記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「臨時記号 (Accidentals)」ページで、臨時記号の外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「臨時記号 (Accidentals)」ページでは、コード内の臨時記号の順番や、符頭と臨時記号、加線と臨時記号、括弧と臨時記号の間隔を詳細に設定できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

臨時記号のスタック

単一の声部における和音、または同じ位置にある複声部の音符に対し複数の臨時記号が必要な場合、臨時記号は和音の左側に複数の列にスタックされます。

複数の臨時記号を持つ和音では、臨時記号は通常以下のようにスタックされます。

1. 一番上の臨時記号は1列目、音符のすぐ左側に配置されます。
2. 一番下の臨時記号は、1番めの臨時記号と重ならない限りは、同じ列に追加されます。
3. 残りの臨時記号は、和音のさらに左に位置する連続した列に交互に追加されます。

Dorico Pro には、列をできるだけ増やさずに臨時記号をスタックするための追加ルールが設定されています。以下に、追加ルールの一部を例示します。

- 音符に近い列ほど、音符から遠い列より多くの臨時記号を含む。
- 1オクターブ離れた音符同士の臨時記号は同じ列にスタックされる。これは、臨時記号の組み合わせにより、6度以上離れた臨時記号にも適用される。
- 同じ列の臨時記号は重なってはいけない。重ならないようにするために必要な臨時記号間の最小間隔は、臨時記号の種類によって異なる。
- 2度離れた臨時記号は隣接する列に配置され、右側の列に高音の臨時記号が配置される。

これらのルールにより、連続する音符や和音の間に必要なスペースが最小限となり、臨時記号がそれぞれの属する符頭に可能な限り接近した状態が表示されます。同時に、臨時記号は和音の左側でCのようなカーブを描くように配置されます。

ヒント

臨時記号のスタックのデフォルト設定をプロジェクト全体でカスタマイズするには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「臨時記号 (Notes)」ページにある「スタック (Stacking)」セクションで設定を行ないます。たとえば、臨時記号を散りばめることなくスタックし、左下がりの斜線状に表示できます。

関連リンク

[浄書オプションで臨時記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(626 ページ\)](#)

密集和音における臨時記号のスタックのルール

Dorico Pro は、多数の臨時記号を伴う密集和音においては、可読性を確保するために、スタックに特別な計算を使用します。密集和音とみなされるのは、オクターブの範囲に 6 つ以上の臨時記号が存在する和音です。

密集和音においては、臨時記号は以下のようにスタックされます。

1. 一番上にある臨時記号が音符左の最初の列に配置されます。
2. 次に、一番上の音符より 7 度以上低い位置の音符の臨時記号が同じ列にスタックされます。残りの音符に対しても、1 列目に入る臨時記号がなくなるまでこれを繰り返します。
3. 以降の列についても、すべての臨時記号がスタックされるまで手順 1 と 2 を繰り返します。
4. 列がグループ化され、散りばめられ、再度スタックされます。これにより、調号で臨時記号を配置するときと同様の、臨時記号が交互に配置されたスタックが作成されます。

補足

Dorico Pro の初期設定では、密集和音の臨時記号に使用されるのは格子状配列で、標準のジグザグ配列ではありません。非常に密集度の高い和音では、格子状配列の方が幅が広くなり、列を多く必要とする場合があります。すべての密集和音のデフォルトの配列をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」ページにある「**スタック (Stacking)**」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[浄書オプションで臨時記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(626 ページ\)](#)

臨時記号列のカーニング

Dorico Pro には、臨時記号列にカーニングを適用し、和音の左側の列ができるだけ水平方向のスペースを取らないようにする機能があります。

活字印刷の分野では、カーニングは個々の文字の間隔を調整して読みやすくするために使用されます。Dorico Pro では、一般的な楽譜の浄書と同様、カーニングによって臨時記号の位置を周囲と連動させることができます。

例

低い音のあとに臨時記号を伴う高い音が続く場合、臨時記号を低い音の上に配置して、音符のスペーシングを乱さないようにします。

同様に、和音に複数列の臨時記号がある場合、たとえば 2 列目のフラットをカーニングして 3 度上の音符に属する 1 列目のシャープの下に配置することで、臨時記号スタック全体の幅を縮めることができます。これにより、音符のスペーシングを乱さずに臨時記号を適切な位置に配置することもできます。

オルタードユニゾン

D \sharp とD \flat のように、同じオクターブ内で同じノート名の 2 つ以上の音符が、同じコード内で異なる臨時記号を持つ場合、音符はオルタードユニゾンとして表示されます。

Dorico Pro の初期設定では、これは分割符尾で記譜されます。分割符尾は、和音本体の符尾から枝分かれした符尾がオルタードユニゾンの符頭を和音につなぐ形で表示されます。これにより、すべての音符には対応する臨時記号が真横に表示されます。

個々のオルタードユニゾンは、単一の符尾による表示にも変更できます。この場合、符頭同士が隣接した状態で音符が表示され、2 つの臨時記号はコードの左側に隣接した状態で表示されます。

また、各フローごとにすべてのオルタードユニゾンのデフォルトの外観を変更するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」のページで設定を行ないます。

補足

コードに含まれる音符の音程が2度で、それらの音符のいずれかにオルタードユニゾンがある場合、設定に関わらず、コードは常に符尾が分割されて表示されます。これによって、クラスターコードが分かりやすくなります。

例



単一の符尾



分割された符尾

関連リンク

[和音の入力](#) (197 ページ)

オルタードユニゾンの外観を変更する

オルタードユニゾンの外観は、他のオルタードユニゾンが同じ和音内に存在する場合も含めて、フローごとの設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 外観を変更するオルタードユニゾンの音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**符尾を分割 (Split stem)**」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

チェックボックスがオンのときは選択したオルタードユニゾンの音符は分割符尾で表示され、オフのときは単一の符尾で表示されます。

ヒント

- 「**符尾を分割 (Split stem)**」は音符ごとに個別に適用されます。個別にプロパティを設定することで、同じコード内のオルタードユニゾンをそれぞれ異なる外観にできます。
- 各フローごとにすべてのオルタードユニゾンのデフォルトの外観を変更するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」ページの「**オルタードユニゾン (Altered unisons)**」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[「記譜オプション」ダイアログ](#) (164 ページ)

微分音の臨時記号

微分音の臨時記号は、洋式の調性で一般的に使用される半音階よりも細かい、クォーターシャープやクォーターフラットのようなピッチを示します。

「**平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))**」などの微分音の臨時記号を使用する調性を選択すると、微分音の臨時記号を使用できるようになります。

デフォルトの調性は「**平均律 (12-EDO) (Equal temperament (12-EDO))**」であり、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルの「**調性 (Tonality System)**」セクションで確認できます。このオプションが選択されている場合、パネルの「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションで使用できる臨時記号は、半音 (セミトーン) の臨時記号 (シャープ、フラット、ダブルフラットなど) のみです。「**平均律 (12-EDO) (Equal temperament (12-EDO))**」には微分音の臨時記号は含まれません。

楽譜の特定のパッセージの調性を変更して、使用できる微分音の臨時記号を変えることができます。オクターブの分割法、調号および臨時記号をカスタマイズして、独自の調性を定義することもできます。

補足

従来の調号を使用しない場合でも、調性を変更して微分音の臨時記号を使用するためには、オープンキーマたは無調の調号を入力する必要があります。

関連リンク

- [調性システム \(859 ページ\)](#)
- [調性システムの変更 \(860 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システム \(862 ページ\)](#)
- [カスタムの臨時記号 \(869 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システムの再生 \(874 ページ\)](#)

微分音の臨時記号の入力

1/4 音フラットや 3/4 音シャープといった微分音の臨時記号をプロジェクトに入力できます。

前提条件

プロジェクトの、微分音の臨時記号を入力するセクションに調号を入力し、その調号に対し「**平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))**」など微分音の臨時記号を使用できる調性を選択しておきます。

手順

1. 記譜モードで、微分音の臨時記号を適用する音符を選択します。
2. 調号、調性システム、臨時記号パネルの「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションで、任意の微分音の臨時記号をクリックします。

結果

選択した微分音の臨時記号が、選択した音符の横に表示されます。

補足

一度に入力できる臨時記号の種類は 1 種類のみです。

関連リンク

- [調性システム \(859 ページ\)](#)
- [調性システムの変更 \(860 ページ\)](#)
- [調号の入力方法 \(220 ページ\)](#)

臨時記号の有効範囲ルール

臨時記号の有効範囲ルールは、臨時記号が適用される範囲を決定します。たとえば、小節内、異なるオクターブ、またはその1音だけなどです。

Dorico Pro では、さまざまな臨時記号の有効範囲ルールを使用できます。

一般的な慣習 (Common Practice)

Dorico Pro では、これがデフォルトの臨時記号の有効範囲ルールです。一般的な慣習では、臨時記号はその小節のデュレーション内で臨時記号の付いているピッチのみに適用されます。つまり、異なるオクターブの音符には個別に臨時記号を付ける必要があります。

新ウィーン楽派 (Second Viennese School)

新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルールでは、すべての音符にナチュラルを含むすべての臨時記号を付ける必要があります。

モダニスト (Modernist)

モダニストの臨時記号の有効範囲ルールでは、調号のピッチから変更された音符にのみ臨時記号が表示されます。ナチュラルは表示されません。

関連リンク

[一般的な臨時記号の有効範囲ルール \(631 ページ\)](#)

[新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルール \(632 ページ\)](#)

[モダニストの臨時記号の有効範囲ルール \(632 ページ\)](#)

臨時記号の有効範囲ルールの変更

臨時記号の有効範囲ルールは、プロジェクトのフローごとに最適なものに変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 「**フロー (Flows)**」リストから、臨時記号の有効範囲ルールを変更するフローを選択します。
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。
3. ページリストの「**臨時記号 (Accidentals)**」をクリックします。
4. 「**基本 (Basic)**」セクションの「**臨時記号の有効範囲ルール (Accidental duration rule)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **一般的な慣習 (Common Practice)**
 - **新ウィーン楽派 (Second Viennese School)**
 - **モダニスト (Modernist)**
5. 必要に応じて、選択した臨時記号の有効範囲ルールのオプションをカスタマイズします。

ヒント

「**基本 (Basic)**」セクションのオプションは、すべての臨時記号の有効範囲ルールに適用できます。

6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

関連リンク

[一般的な臨時記号の有効範囲ルール \(631 ページ\)](#)

[新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルール \(632 ページ\)](#)

[モダニストの臨時記号の有効範囲ルール \(632 ページ\)](#)

二重臨時記号の打ち消し

二重臨時記号の打ち消しに一般的に使用される方法には、古式と近代式の2つがあります。Dorico Proではいずれの方法も、各フローごとに個別に使用できます。

Dorico Proの初期設定では、近代式の打ち消しを使用されます。つまり、ダブルシャープがシャープで打ち消される場合、またはダブルフラットがフラットで打ち消される場合、これらの臨時記号の意味は明確なため、シャープやフラット記号の前にナチュラル記号は表示されません。

二重臨時記号の打ち消し方法を各フローごとに個別に変更するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」ページにある「**基本 (Basic)**」セクションで設定を行ないます。このオプションは、どの臨時記号の有効範囲ルールにも使用できます。

- 「**古式の臨時記号打ち消し (Use archaic cancellation)**」を選択すると、二重臨時記号のあとに来る新規臨時記号の前にはナチュラル記号が表示されます。
- 「**近代式の臨時記号打ち消し (Use modern cancellation)**」を選択すると、二重臨時記号は新規臨時記号によって置き換えられるため、新規臨時記号の前にナチュラル記号は表示されません。

例



古式の臨時記号打ち消し



近代式の臨時記号打ち消し

関連リンク

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

一般的な臨時記号の有効範囲ルール

一般的に、臨時記号は同じ小節の同じオクターブ上にある同じピッチのすべての音符に影響します。これは他の臨時記号に上書きされない限り有効です。他の臨時記号に上書きされない場合でも、次の小節に移ると自動的に臨時記号の効果が取り消されます。

補足

臨時記号の効果が取り消されたことを明確にするため、次の小節の同じピッチの1音めには、親切臨時記号を追加するのが慣習となっています。

Dorico Proの初期設定では、一般的な臨時記号の有効範囲ルールが使用されます。臨時記号の有効範囲ルールの変更は、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**臨時記号 (Accidentals)**」ページで行なえます。

一般的に、ある小節の音符に付いている臨時記号は次の小節では自動的に取り消されます。たとえばGメジャーのキーで、ある小節にF#がある場合、調号によってシャープがすでに暗示されているとしても、次の小節のFにはシャープ記号が表示されます。

初期設定で一般的な臨時記号の有効範囲ルールを使用している場合、親切臨時記号も表示されます。親切臨時記号は、先に現れた臨時記号を宣言しなおすものです。親切臨時記号は任意の記号とみなされます。つまり、確定や取り消しを明確に示すものではなく、あくまであいまいさを排除するためのものです。

親切臨時記号は以下の場合に表示されます。

- 同じ小節内の後続の音符が、異なるオクターブの同じノート名を持つ場合。
- 次の小節の後続の音符が、同じオクターブの同じノート名を持つ場合。

- 次の小節の1音めがオクターブは問わず同じノート名を持つ場合。
- 同じ小節内に複数のオーギュメント/ディミニッシュ音程またはダブルディミニッシュ/ダブルオーギュメント音程がある場合。

それぞれの状況に応じて、親切臨時記号を括弧に入れて表示するか、括弧なしで表示するか、あるいは表示しないかを選択できます。

関連リンク

[臨時記号の有効範囲ルールの変更 \(630 ページ\)](#)

親切臨時記号を表示/非表示にする

一般的な臨時記号の有効範囲ルールを使用する場合、親切臨時記号の表示/非表示を切り替えることができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 「**フロー (Flows)**」リストから、親切臨時記号を表示または非表示にするフローを選択します。初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。
3. ページリストの「**臨時記号 (Accidentals)**」をクリックします。
4. 「**基本 (Basic)**」セクションで、「**臨時記号の有効範囲ルール (Accidental duration rule)**」に「**一般的な慣習 (Common practice)**」を選択します。
5. 「**親切臨時記号 (Cautionary accidentals)**」セクションで、選択したフローに適用するオプションを選択します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

関連リンク

[一般的な臨時記号の有効範囲ルール \(631 ページ\)](#)

新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルール

新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルールでは、臨時記号はそれが記譜される音符にのみ適用されます。調号に関わらず、すべての音符に臨時記号が表示されます。つまり、変更のない音符にもナチュラルが表示されます。

この臨時記号の有効範囲ルールは、Schoenberg (シェーンベルク) などの新ウィーン楽派の作曲家によって使用されました。

臨時記号の有効範囲ルールを変更するとき、新ウィーン学派の臨時記号の有効範囲ルールのオプションをカスタマイズできます。たとえば同じ小節内の同じ音符の直後の繰り返しにおいて、臨時記号を再表示するかどうか選択できます。

関連リンク

[臨時記号の有効範囲ルールの変更 \(630 ページ\)](#)

モダニストの臨時記号の有効範囲ルール

モダニストの臨時記号の有効範囲ルールでは、調号のピッチから変更された音符にのみ臨時記号が表示されます。ナチュラルは表示されません。ただし、新ウィーン楽派の有効範囲ルールと同様、表示されている臨時記号は、臨時記号が付いている音符に対してのみ適用されます。

この表記法は、Charles Ives (チャールズ・アイヴズ) や Robert Crumb (ロバート・クラム) によって使用されました。

臨時記号の有効範囲ルールを変更するとき、モダニストの臨時記号の有効範囲ルールのオプションをカスタマイズできます。たとえば、1つの小節内で同じピッチの同じ臨時記号を再表示するかどうかを、後続の音符が直後にある場合と、別の音符を挟んでいる場合について、それぞれ選択できます。同様に、同じ小節および後続の小節内の異なるオクターブの音符の臨時記号を設定するオプションもあります。連桁グループ内の臨時記号の再表示を制御するオプションもあります。

関連リンク

[臨時記号の有効範囲ルールの変更 \(630 ページ\)](#)

アーティキュレーション

アーティキュレーションは、音符および和音の上下に記譜される記号のことを指します。アーティキュレーションを使用すると、音符のアタックや、記譜されたデュレーションに対して実際に音を出す長さを演奏者に指示することができます。

Dorico Pro では、アーティキュレーションは、あらゆるインストゥルメントに共通する形で音符の演奏方法を変化させるものと定義しています。

ボウイング指示、ハーモニクスやタンギングなどの指示は、個別のインストゥルメントグループに適用されるため、Dorico Pro では演奏技法と位置づけられています。演奏技法はウィンドウ右側の記譜パネルに表示されます。

アーティキュレーションは以下のタイプに分類されます。

アーティキュレーション (強弱)

音符の最初にかかる強いアタックを示します。アクセントとマルカートがこれにあたります。マルカートは強アクセントとも呼ばれ、Dorico Pro の初期設定では、これらのアーティキュレーションを音符またはタイのつながりの開始位置に表示します。

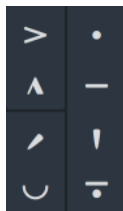
アーティキュレーション (デュレーション)

記譜された音符よりも短いデュレーションを示します。スタッカティッシモ、スタッカート、テヌート、スタッカートテヌートがこれにあたります。スタッカートテヌートはルレ (louré) とも呼ばれます。Dorico Pro の初期設定では、音符にタイが付いている場合、デュレーションのアーティキュレーションをタイでつながれた最後の音符の上に表示します。

アーティキュレーション (強調)

現在の拍子に反する場所での強調や無強調を記号で示します。Dorico Pro の初期設定では、アーティキュレーションを音符またはタイのつながりの開始位置に表示します。

アーティキュレーションは、記譜モードの音符パネル下部に表示されます。



Dorico Pro では、アーティキュレーションは、楽譜の前後関係に従って音符や和音の符頭側または符尾側に自動的に配置されます。音符または和音には、3種類のアーティキュレーションからそれぞれ1つずつを選択して表示できます。

インストゥルメントのタイプと使用する再生デバイスの両方に基づいてアーティキュレーションの再生時の効果を変更するには、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページにある「音符の強弱 (Note Dynamics)」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[アーティキュレーションの入力 \(214 ページ\)](#)

[「再生オプション」ダイアログ \(509 ページ\)](#)

浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「アーティキュレーション (Articulations)」ページで、アーティキュレーションの外観と配置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションでは、それぞれのアーティキュレーションの表示位置 (譜表の上にするか、符頭の横にするか) や、タイやスラーに対するアーティキュレーションの位置、さらにアーティキュレーションと音符や他のアーティキュレーションとの間の垂直方向の間隔などを詳細に変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

アーティキュレーションのコピー

音符をコピーするとアーティキュレーションも自動的にコピーされますが、音符とは個別にコピーアンドペーストすることはできません。

手順

1. 記譜モードで、アーティキュレーションの付いた音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符をコピーします。
 - **[R]** を押すと、音符とアーティキュレーションが選択した音符の直後に追加されます。
 - **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択した音符をコピーし、貼り付ける位置を選択してから **[Ctrl]/[command]+[V]** を押します。
 - **[Alt/Opt]** を押しながら任意の位置をクリックします。選択した音符とアーティキュレーションがそのまま貼り付けられます。

手順終了後の項目

コピーした音符のリズムはそのまま異なるピッチを持たせる場合は、音符のピッチを変更できます。

関連リンク

[リズムを変えずに音符のピッチを変更する \(205 ページ\)](#)

アーティキュレーションの変更

音符に付けたアーティキュレーションは、あとから変更できます。

手順

1. 記譜モードで、アーティキュレーションを変更する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、アーティキュレーションを変更します。
 - 新しいアーティキュレーションのキーボードショートカットを押します。たとえば、アーティキュレーションをスタッカートに変更する場合は、**[[]]** を押します。
 - 音符パネルで、新しいアーティキュレーションをクリックします。

結果

新しいアーティキュレーションが追加されます。これにより、同じタイプの既存のアーティキュレーションが置き換えられます。

関連リンク

[アーティキュレーションの入力 \(214 ページ\)](#)

[アーティキュレーションのキーボードショートカット \(215 ページ\)](#)

アーティキュレーションの削除

記譜モードでは、アーティキュレーションを個別に選択して削除することができないため、アーティキュレーションの付いた音符を選択してからアーティキュレーションを解除する必要があります。

手順

1. 記譜モードで、削除したいアーティキュレーションの付いた音符を選択します。
 2. 以下のいずれかの操作を行なって、アーティキュレーションを解除します。
 - 削除するアーティキュレーションのキーボードショートカットを押します。
 - 音符パネルで、削除するアーティキュレーションをクリックします。
-

アーティキュレーションの位置

アーティキュレーションの位置に関しては音符、譜表、および譜表線に対する配置規則が確立されており、これによりアーティキュレーションは常に見やすい位置に配置されます。スタッカートのようなサイズの小さいアーティキュレーションは、譜表線に対する正確な配置が特に重要です。

アーティキュレーションは、初期設定で符頭側に配置されますが、以下の場合には例外となります。

- 単一の声部では、使用される音符や和音の符尾の方向に関わらず、マルカートは常に譜表の上に配置されます。複声部では、マルカートは譜表の下に配置される場合もあります。
- 複声部がオンになっている場合、アーティキュレーションは音符か和音の符尾側の末尾に配置されます。これにより、符尾が上向きの音符に付くアーティキュレーションと、符尾が下向きの音符に付くアーティキュレーションが明確になります。
- 音符が第3線またはそのすぐ上やすぐ下の間(第2間または第3間)に位置する場合、第1間の縦幅より小さいアーティキュレーションは、1つ隣の空いているスペースの中央に配置されます。これは通常スタッカートおよびテヌートにのみ適用されます。譜表の中央部にある音符にスタッカートテヌートが付く場合、アーティキュレーションを構成する部分が分割され、それぞれ別のスペースに配置されます。
- アーティキュレーションが譜表内に収まらない場合や、音符が譜表の上下に位置する場合は、アーティキュレーションは譜表の外側に配置されます。
- 音符または和音がタイでつながれ、タイが符頭の上または下に配置される場合、音符または和音の符頭側に配置されるアーティキュレーションは、タイの終端と重ならないように、1/4スペースのオフセットが追加されます。

符頭側のアーティキュレーションは常に符頭に水平方向に中央揃えされます。これは符尾側のアーティキュレーションにも適用されます。ただし、アーティキュレーションがスタッカートまたはスタッカティッシモのみの場合は例外となり、このときアーティキュレーションは符尾に中央揃えされます。

関連リンク

[浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(635 ページ\)](#)

[スタッカート記号の水平位置の変更 \(638 ページ\)](#)

[アーティキュレーションを個別に垂直移動する \(638 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの位置を個別に変更する \(639 ページ\)](#)

アーティキュレーションの順番

複数のアーティキュレーションが同じ音符に付いている場合、符頭または符尾に対する垂直位置と距離はアーティキュレーションのタイプによって異なります。

アーティキュレーションは以下の順番で配置されます。

1. デュレーションのアーティキュレーションは、符頭または符尾に一番近い位置に配置されます。
2. 強弱のアーティキュレーションは、デュレーションのアーティキュレーションの外側に配置されます。
3. 強調のアーティキュレーションは、符頭または符尾から一番遠い位置に配置されます。

アーティキュレーションとスラーとの相対的な順番

デュレーションのアーティキュレーションは、以下のように配置されます。

- アーティキュレーションが付く音符または和音から開始/終了するスラーの内側
- スラーのカーブの内側
- 連符の角括弧の内側

強弱のアーティキュレーションは以下のように配置されます。

- アーティキュレーションが付く音符または和音から開始/終了するスラーの外側。ただし譜表内に配置できる場合は除く
- スラーとそれが属する音符または符尾との間に重なることなく収まる場合は、スラーのカーブの内側
- 連符の角括弧の外側



強弱と強調のアーティキュレーションはスラーの外側に配置



デュレーションのアーティキュレーションはスラーの内側に配置

タイのつながりのアーティキュレーションの位置を変更する

タイのつながりのどこでアーティキュレーションが表示されるかを、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。初期設定では、強弱のアーティキュレーションと強調のアーティキュレーションはタイでつながれた1つめの音符または和音の上に表示され、デュレーションのアーティキュレーションは最後の音符またはコードの上に表示されます。

手順

1. アーティキュレーションの位置を変更する、タイでつながれた音符/和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**アーティキュレーション (Articulations)**」グループで、位置を変更するアーティキュレーションに対応したヘッダーに属する「**タイのつながりでの位置 (Pos. in tie chain)**」をオンにします。
たとえば、アクセントの位置を変更するには、「**アーティキュレーション (強弱) (Articulations of force)**」ヘッダーの下にある「**タイのつながりでの位置 (Pos. in tie chain)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **最初の音符 (First note)**

- 最後の音符 (Last note)

結果

選択したタイのつながりのアーティキュレーションの位置が変更されます。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」にある「アーティキュレーション (Articulations)」ページの「タイ (Ties)」セクションでは、すべてのタイのつながりに対するそれぞれのアーティキュレーションのデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(635 ページ\)](#)

スタッカート記号の水平位置の変更

スタッカートやスタッカティッシモが音符の符尾側にあるときは、初期設定の水平位置をプロジェクト全体で変更できます。初期設定では、スタッカートとスタッカティッシモが符尾側にあるときは符尾を中心にしてアーティキュレーションが配置されます。

ほとんどのアーティキュレーションの水平位置は、符尾か符頭を中央にして配置されます。ただし、アーティキュレーションがスタッカートまたはスタッカティッシモのみで、それが符尾側に配置される場合、水平位置を符頭の中心と符尾との中間に設定することもできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
 2. ページリストの「アーティキュレーション (Articulations)」をクリックします。
 3. 「水平位置 (Horizontal Position)」セクションの「符尾側のスタッカートの水平位置 (Horizontal position of staccato on stem side)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 符頭に中央揃え (Center on notehead)
 - 符尾に中央揃え (Center on stem)
 - 符頭の中心と符尾との中間位置 (Half-center)
 4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

選択したオプションに応じて、プロジェクト全体のスタッカート記号の位置が変更されます。

アーティキュレーションを個別に垂直移動する

アーティキュレーションは、表示位置を個別に上下に移動して音符に近づけたり離したりできます。

手順

1. 浄書モードで、移動させるアーティキュレーションを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、アーティキュレーションを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。
-

結果

選択したアーティキュレーションが垂直に移動します。

ヒント

- アーティキュレーションを垂直に移動させると、プロパティパネルの「アーティキュレーション (Articulations)」グループで、対応するアーティキュレーションタイプの「オフセット Y (Offset Y)」がオンになります。たとえば、アクセントを移動させると、「アーティキュレーション (強弱) (Articulations of force)」ヘッダーの下にある「オフセット Y (Offset Y)」がオンになります。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、アーティキュレーションを垂直に移動させることもできます。

プロパティをオフにすると、選択したアーティキュレーションが初期設定の位置にリセットされます。

- すべてのアーティキュレーションと符頭および他のアーティキュレーションとの間隔を初期設定から変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「アーティキュレーション (Articulations)」ページで設定を行ないます。
-

関連リンク

[浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(635 ページ\)](#)

アーティキュレーションの位置を個別に変更する

アーティキュレーションの位置は、符頭側と符尾側のどちらにするかを個別に変更できます。

手順

1. アーティキュレーションの位置を変更する音符/和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「アーティキュレーション (Articulations)」グループで、位置を変更するアーティキュレーションに対応したヘッダーに属する「位置 (Placement)」をオンにします。
たとえば、アクセントの位置を変更するには、「アーティキュレーション (強弱) (Articulations of force)」ヘッダーの下にある「位置 (Placement)」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 符頭側 (Notehead side)
 - 符尾側 (Stem side)
-

結果

アーティキュレーションが、音符または和音の選択した側に配置されます。これにより演奏技法などの他の記号との衝突が起こった場合、すべての記号がはっきりと読みやすくなるように Dorico Pro が自動的に配置を調節します。

関連リンク

[アーティキュレーションを個別に垂直移動する \(638 ページ\)](#)

アーティキュレーションのデフォルトの位置を変更する

すべてのアーティキュレーションのデフォルトの位置をタイプに応じて変更できます。たとえば、強調のアーティキュレーションを常に譜表の上に配置し、デュレーションのアーティキュレーションを譜表の上下にかかわらず符頭に隣接して配置できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**アーティキュレーション (Articulations)**」をクリックします。
3. 「**位置 (Placement)**」セクションで、各アーティキュレーションタイプについて以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **常に上に配置 (Always above)**
 - **自然な位置に配置 (Natural placement)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

対応するタイプのアーティキュレーションのデフォルトの位置がプロジェクト全体で変更されます。「**自然な位置に配置 (Natural placement)**」に設定されたアーティキュレーションは音符の符頭側に配置されます。

ヒント

また、符頭/符尾とアーティキュレーションの間、およびスタック状のアーティキュレーションのデフォルトの間隔を、「**アーティキュレーション (Articulations)**」ページの「**垂直位置 (Vertical Position)**」セクションで変更できます。

アーティキュレーションを譜表内に表示することを許可する/許可しない

各タイプのアーティキュレーションを譜表内に表示するかどうかをプロジェクト全体で選択できます。たとえば、すべてのスタッカート記号を譜表の外側に表示したい場合などに使用します。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**アーティキュレーション (Articulations)**」をクリックします。
3. 「**垂直位置 (Vertical Position)**」セクションで「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックして使用できるオプションを表示します。
4. 「**譜表に対するアーティキュレーションの位置 (Position of articulations relative to the staff)**」で、各アーティキュレーションタイプについて以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **譜表の内側に許可 (Allow inside staff)**
 - **譜表の内側に許可しない (Do not allow inside staff)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

対応するアーティキュレーションタイプの譜表に対する位置がプロジェクト全体で変更されます。

再生時のアーティキュレーション

アーティキュレーションを追加すると、再生時の音符のサウンドが変化します。

サウンドライブラリーがない場合でも、Dorico Pro ではアーティキュレーションを追加することで、再生時の音符のサウンドを変化させることができます。たとえば、スタッカート記号は音符のサウンドを通常より短くし、アクセントは音符のサウンドを通常より大きくします。

サウンドライブラリーがある場合、インストゥルメント用のサウンドライブラリーにアーティキュレーション固有のサンプルが含まれていれば、そのサンプルが Dorico Pro に読み込まれます。

アーティキュレーションは 音符全体に適用されるため、サンプルは音符の開始位置から再生されません。タイでつながれた音符の場合も同様です。

ヒント

- 「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」 の 「タイミング (Timing)」 ページでは、デュレーションのアーティキュレーションの効果の初期設定を変更できます。「強弱記号 (Dynamics)」 ページでは、強弱のアーティキュレーションの設定を変更できます。
- 一方の声部にスラーがあり、もう一方の声部にスタッカートがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にできます。

関連リンク

[「再生オプション」ダイアログ \(509 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

小節

小節は通常、拍数に応じた規則的な時間の区切りを示し、通常は拍子記号によって規定されます。小節は垂直に引かれた小節線によって、他の小節と区切られます。

小節は通常、すべてのプレーヤー間で共通の長さや位置を使用しますが、中には異なる長さの小節が同時に存在するような楽譜もあります。また、一部のプレーヤーの楽譜に小節がまったく表示されない場合もあります。

各小節には番号が付けられます。これにより、プレーヤーは自分の楽譜上の位置を常に把握でき、リハーサルを行なう際の助けとしても使用できます。これは、複数のプレーヤーが利用する楽譜では特に重要な機能と言えます。

関連リンク

[小節番号 \(657 ページ\)](#)

[小節と小節線の入力方法 \(237 ページ\)](#)

小節/拍の削除

小節と小節線ポップオーバーを使用すると、プロジェクトから小節全体および特定の拍を完全に削除できます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
 - 削除する最初の小節か、その小節内の最初の音符または休符
 - 拍の削除を開始する位置のアイテム
2. **[Shift]+[B]** を押して小節や小節線のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに **-** (マイナス記号) を入力し、続けて削除する小節数または拍数を入力します。たとえば、6 小節 (選択した小節とそれ以降の 5 小節) を削除するには **-6** を入力し、選択した位置から 4 分音符 2 つ分の拍を削除するには **-2q** を入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

指定した数の小節または拍が削除されます。

関連リンク

[小節と小節線のポップオーバー \(237 ページ\)](#)

システムトラックを使用して小節/拍を削除する

システムトラックを使用して、小節全体および選択した拍をプロジェクトから完全に削除できます。たとえば、アウフタクトで始まるフローの最終小節の最後の拍を削除したりできます。

前提条件

システムトラックを表示しておきます。

手順

1. 記譜モードのシステムトラックで削除する領域を選択します。

2. システムトラックで「削除 (Delete)」をクリックします。選択範囲が狭い場合、システムトラックの上にボタンが表示される場合があります。



システムトラックの「削除 (Delete)」ボタン



「削除 (Delete)」ボタンにマウスを合わせると、システムトラックの色が変わります。

結果

選択した範囲が削除されます。挿入モードがオンになっているときと同様、選択範囲の右側の楽譜が空白を埋める形で左に移動します。

補足

選択範囲内のガイドもすべて削除されます。これによってページの形式設定が影響を受ける可能性があります。たとえば、選択範囲にガイドが含まれるオシタ譜表を削除した場合です。

関連リンク

[システムトラック \(325 ページ\)](#)

[システムトラックの表示/非表示の切り替え \(326 ページ\)](#)

フローの終了位置にある空白の小節を削除する

楽譜の終わりに残っている空白の小節を削除することで、フローをトリムできます。

手順

1. 記譜モードで、トリミングするフローにあるアイテムを選択します。
2. **[Shift]+[B]** を押して小節や小節線のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「trim」と入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

選択したフローの終了位置にある空白の小節が削除されます。

関連リンク

[小節と小節線のポップオーバー \(237 ページ\)](#)

[フローの分割 \(345 ページ\)](#)

小節内のコンテンツの削除

小節線や小節自体はそのままの状態にして、小節内のコンテンツだけを削除できます。

手順

1. 記譜モードで、削除する小節内のコンテンツを選択します。

ヒント

選択すると、音符、休符、およびその他のアイテムがオレンジ色で強調表示されます。

2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択した小節内のコンテンツが削除されます。

関連リンク

[大きな選択範囲](#) (324 ページ)

[フィルター](#) (328 ページ)

小節の長さの変更

小節の長さを変更することで、デュレーションを長くしたり、短くしたりできます。

小節の長さは、拍子記号を変更することで変更できます。たとえば不規則な拍子の楽譜を作成するとき、小節線は音符をグループ分けするためだけに必要で拍数を示す必要がない場合、拍子記号をあとから非表示にすることもできます。

関連リンク

[拍子記号の入力方法](#) (226 ページ)

[拍子記号の表示/非表示](#) (1265 ページ)

空白の小節の幅を変更する

空白の小節の幅は、浄書モードで個別に変更できます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. 幅を変更する空白小節の始めまたは終わりの小節線の位置にある四角いハンドルを選択します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、スペーシングを調節します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して、選択したハンドルの左側のスペースを増やします。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して、選択したハンドルの左側のスペースを減らします。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

結果

空白の小節の幅が変更されます。

たとえば、小節の右側の小節線のハンドルを左に動かすと、小節の幅が狭くなります。小節の右側の小節線のハンドルを右に動かすと、小節の幅が広がります。

関連リンク

[音符のスペーシング](#) (430 ページ)

[空白の小節で小節休符を表示/非表示にする](#) (1125 ページ)

[長休符を表示/非表示にする](#) (1127 ページ)

小節の分割

各小節の拍数を変更することで、リズムを基準にして小節を分割できます。また、組段またはフレーム区切りをまたいで小節を視覚的に分割することもできます。これは不規則な拍子や多拍子のパッセージを持つ楽譜で必要になる場合があります。

拍子記号を新規に挿入して小節を分割する

拍子記号を変更すると、小節を2つ以上に分割できます。新しい拍子記号は、次の既存の拍子記号の位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。

新しい拍子記号がこのスペースにぴったり当てはまらない場合、たとえば4/4の小節2つ(4分音符8つ)を3/4の小節2つか3つ(4分音符6つまたは9つ)のいずれかで置き換える場合、既存の拍子記号は上書きされません。かわりに最終小節が短くなります。

たとえば下の例のように、既存の拍子記号の2小節前の拍子記号を4/4から3/4に変更すると、3/4の小節が2つと2/4の小節を作成します。



ただし挿入モードでは、新規の拍子記号によって作成された最後の小節の終わりに Dorico Pro が拍を挿入することで、最後の小節が正しい長さになるように調整されます。たとえば上の例と同じ状況で「挿入 (Insert)」モードをオンにした場合、4/4の小節2つが3/4の小節3つになり、3番めの3/4の小節の最後に拍が追加されます。



小節線を新規に挿入して小節を分割する

標準の小節線(縦線)以外の小節線を小節の途中のどこかに新規に挿入する場合も、拍子記号に影響を与えずに小節を分割できます。

ただし、標準の小節線(縦線)を既存の小節の途中のどこかに挿入すると、その位置以降の拍子パターンがリセットされます。

たとえば、4/4の小節の3つめの4分音符を選択して新規に小節線を挿入すると、追加した小節線の位置から開始する4/4の小節が作成されます。これにより、小節線の左側に拍子記号が付かない2/4の1小節相当の小節が残りますが、追加した小節線より右の小節は、次の拍子記号の位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで、すべて4/4の小節となります。

標準の小節線(縦線)を挿入すると、それがどのように拍子に影響を与えたかを示すガイドが表示されます。



4/4 拍子の 2 小節

最初の 4/4 の途中で標準の小節線が挿入されたため、その位置から新たに 4/4 の小節が開始される

関連リンク

- [拍子記号の入力方法 \(226 ページ\)](#)
- [小節と小節線の入力方法 \(237 ページ\)](#)
- [組段区切りの挿入 \(472 ページ\)](#)
- [フレーム区切りの挿入 \(470 ページ\)](#)
- [挿入モードでの音符の挿入 \(187 ページ\)](#)

小節の結合

2 つ以上の小節がある場合、間にある小節線を削除することで小節を 1 つの長い小節に結合できます。

手順

1. 記譜モードで、削除する小節線を選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

削除された小節線の両側にある小節が結合されて 1 つの小節になります。必要に応じて、小節内の音符の連桁が自動的に付けなおされます。

補足

小節線を削除しても拍子記号は自動的に変わりません。混乱を避けるために、拍子記号を新たに入力して小節に新たなデュレーションを反映させることをおすすめします。

関連リンク

- [小節線の削除 \(651 ページ\)](#)
- [拍子記号の入力方法 \(226 ページ\)](#)
- [長休符を表示/非表示にする \(1127 ページ\)](#)

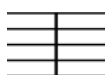
小節線

小節線は譜表を区切る垂直の線で、楽譜を拍子記号に応じて小節に分割します。

小節線にはさまざまな種類があり、それぞれ異なる状況において使用されます。

標準 (縦線)

譜表の高さ全体に引かれる標準の縦線です。初期設定では、1 線譜の小節線は譜表線の上下に 1 スペース分突き出します。



複縦線

複縦線は、縦線と同じ太さの 2 本の線からなり、初期設定では 1/2 スペースの間隔で配置されます。これは通常、楽譜中に大きな変化があることを示したり、リハーサルマーク、調号の変更やテンポの変更に印を付けたりする際に使用されます。



三重線

三重線は、縦線と同じ太さの 3 本の線からなり、初期設定では 1/2 スペースの間隔で配置されます。楽曲分析において、構造単位の区切りを示すために縦線のかわりに使用されることがあります。



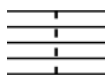
終止線

終止線は 2 本の線からなり、1 本は通常の細さ、もう 1 本は太く描かれます。終止線は楽譜の終わりを示します。



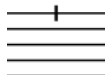
破線

破線は通常の小節線と同じ太さですが、線中に間隔があり、破線として表示されます。破線は小節を細かく分割して複雑な拍子記号の楽譜を読みやすくするため、または譜面に元からある小節線と編集上の小節線を区別するために使用されます。



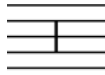
ティック

ティックは譜表の第 5 線上に引かれる短い線です。ティックは単旋聖歌を記譜する際に便利で、息やフレーズ間の短い間、または独特な韻律の構造を持つような楽譜の表記に使用されます。

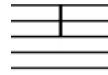


短線

短線は譜表の中央、5線譜の第2線と第4線の間、または譜表の上半分、5線譜の第3線と第5線の間にかかれます。5線譜より線の少ない譜表では、短線は譜表の比率に合わせて縮小されます。短線は単旋聖歌を記譜する際に便利で、ティックよりも長いフレーズ間を表記するために使用されます。



短線



短線 (上)

太線

太線は、通常の縦線と太さの違いをわかりやすくするため、初期設定ではスペース半分の太さで表記されます。これにより大きな視覚効果が得られます。

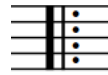


反復開始線

反復開始線は、左から順に、太い小節線、通常の小節線、以下のいずれかの点が並んで構成されています。

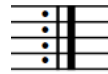
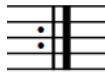
- 2つの点 (5線譜の第2間と第3間に点が1つつ入る)
- 4つの点 (5線譜の4つの間に点が1つつ入る)

リピートセクションの開始位置を示します。リピートセクションの終了位置を示す反復終了線とともに使用されます。



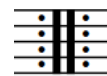
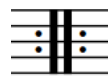
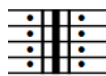
反復終了線

反復終了線は反復開始線を鏡写しにしたものです。つまり2つまたは4つの点のあとに通常の小節線、そのあとに太線が続きます。リピートセクションの終了位置を示します。リピートセクションの開始を示す反復開始線とともに使用されます。



反復終了/反復開始線

反復終了/反復開始線は反復開始線と反復終了線を組み合わせたもので、2本の縦線の中に1本の太線が挟まれる形のもの、2本の太線を使用し縦線は使用しないものがあります。2つまたは4つの反復点は線の両側に付けられます。反復終了/反復開始線は、反復セクションの直後に別の反復が続く場合に使用されます。



関連リンク

[小節と小節線の入力方法 \(237 ページ\)](#)

[再生時の反復 \(556 ページ\)](#)

浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節線 (Barlines)**」ページで小節線の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**小節線 (Barlines)**」ページのオプションを使用すると、小節線の外観と線の太さを変更したり、楽譜の内容に合わせて小節線を変更したりできます。たとえば、リピート小節線のデフォルトの外観や、コーダの前に表示されるデフォルトの小節線、声楽の譜表やオッサ譜表の小節線を結合するかどうかなどを変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[小節線のスペーシング \(651 ページ\)](#)

[オッサ譜表の小節線 \(1185 ページ\)](#)

[コーダの前に表示される小節線の変更 \(1094 ページ\)](#)

小節線のフローごとの記譜オプション

「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」にある「**小節線 (Barlines)**」のページには、小節線の外観をフローごとに設定できるオプションがあります。

たとえば、各フローの終了位置に表示する小節線の初期設定を変更できます。また、各組段の終端の小節線およびフローの最後の組段の終端の小節線で、譜表をすべて結合するかどうか選択できます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

関連リンク

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

調号の変更位置の小節線を変更する

すべての調号の変更位置にデフォルトで表示される小節線をプロジェクト全体で変更できます。初期設定では、Dorico Pro は調号の変更位置に複縦線を表示します。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストの「**小節線 (Barlines)**」をクリックします。
 3. 「**調号 (Key Signatures)**」セクションの「**小節開始位置の調号の変更 (Changes of key signature at the start of a bar)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「**複縦線を描く (Draw double barline)**」
 - 「**縦線を描く (Draw single barline)**」
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

小節開始位置の調号の変更位置に表示される小節線が、プロジェクト全体で変更されます。

フローの終了位置で使用する初期設定の小節線を変更する

各フローの終了位置にどのタイプの小節線を自動的に使用するか選択できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「記譜オプション (Notation Options)」を開きます。
2. 終了位置の小節線のデフォルトを変更するフローを「フロー (Flows)」リストから選択します。
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。
3. ページリストの「小節線 (Barlines)」をクリックします。
4. 「フローの終了位置に自動で描く小節線 (Automatic barline at end of flow)」セクションで以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 終止線 (Final barline)
 - 複縦線 (Double barline)
 - 縦線 (通常) (Normal barline)
 - 小節線 (破線) (Dashed barline)
 - 小節線 (太線) (Thick barline)
 - 小節線なし (No barline)

結果

選択されているフローの終了位置のデフォルトの終止線が変更されます。

ヒント

終止線のタイプを変更して終止線を個別に上書きすることはできますが、終止線を個別に削除することはできません。

関連リンク

[小節と小節線の入力方法 \(237 ページ\)](#)

単一譜表の組段で組段の小節線を表示/非表示にする

初期設定では、組段の小節線は2つ以上の譜表を持つ組段の開始位置に表示され、単一譜表の組段では非表示になっています。最初の組段より後の単一譜表の組段で組段の小節線を表示/非表示にできません。

単一譜表の組段に組段の小節線を表示するのは、手写のリードシートにおける慣習です。通常、この場合は音部記号を表示しません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「記譜オプション (Notation Options)」を開きます。
2. 「フロー (Flows)」リストで、最初の組段より後で組段の小節線を表示/非表示にするフローを選択します。
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。
3. ページリストの「小節線 (Barlines)」をクリックします。
4. 「組段の小節線 (Systemic Barline)」サブセクションの「最初の組段以外の組段の開始位置の小節線 (Barline at start of systems following first system)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 1つ以上の譜表で表示 (Show for one or more staves)
 - 2つ以上の譜表で表示 (Show for two or more staves)

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

小節線の削除

音符の位置に影響を与えずに小節線を削除できます。たとえば小節線の開始位置を変更する場合は、既存の小節線を削除して新しい小節線を入力できます。

手順

1. 記譜モードで、削除する小節線を選択します。

補足

ガイドではなく小節線そのものを直接選択する必要があります。

2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
-

結果

小節線が削除されます。小節線の両側にある小節が1つにまとめられ、同じ拍数を含む小節になります。このとき、拍子記号は変更されません。これにより、音符、休符および連符のグループが変化することがあります。

手順終了後の項目

- 混乱を避けるために、拍子記号を新たに追加して小節に新たなデュレーションを反映することもできます。
- 小節線の開始位置を変更するために小節線を削除した場合は、別の位置に新しい小節線を入力します。

関連リンク

[拍子記号の入力方法 \(226 ページ\)](#)

[小節と小節線の入力方法 \(237 ページ\)](#)

小節線のスペーシング

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「間隔のスペーシング (Spacing Gaps)」ページで、すべての小節線のデフォルトのスペーシングを設定しプロジェクト全体に適用できます。

「浄書オプション (Engraving Options)」の「間隔のスペーシング (Spacing Gaps)」ページでは、小節線の前後のスペースや、小節線と他の譜表オブジェクト (音部記号、拍子記号、調号など) との間のスペースに関するプロジェクト全体の値を変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する \(649 ページ\)](#)

小節線の表示位置の移動

隣接する音符、拍子記号、調号、または休符と小節線の間スペースを調節できます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「音符のスペーシング (Note Spacing)」をオンにします。



2. 小節内に表示される音符のスペーシングハンドルを選択します。



3. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

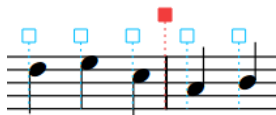
補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 音符のスペーシングのハンドルはマウスでは移動できません。移動にはキーボードのみ使用できます。

結果

小節線の左右のスペーシングが広くまたは狭くなります。

例



小節線の左のスペーシングを狭くした後の新しい配置の例

譜表グループをまたぐ小節線

スコア内の特定のインストゥルメントを見つけやすくするために、小節線をインストゥルメントおよび譜表のグループをまたいで延長できます。

デフォルトの譜表グループをまたぐ小節線

小節線が個別の譜表にのみ表示される場合、それぞれのラインの位置を一目で判別することが非常に難しくなります。ところが、スコアにインストゥルメントグループをまたぐ小節線を引くと、インストゥルメントのファミリーがブロックとして表示されるため、インストゥルメントを判別しやすくなります。

個別の小節線

インストゥルメントグループをまたぐ小節線

グループを大括弧で結合すると、譜表グループをまたぐ小節線が自動的に引かれるようになります。大括弧内に含まれる譜表は楽器編成と状況によって異なりますが、通常は木管楽器や弦楽器といった同じファミリーのインストゥルメントの譜表が大括弧で結合されます。

Dorico Pro は、各レイアウトに設定されたアンサンブルタイプに応じて自動的に譜表を括弧でくくります。

大譜表を使用するインストゥルメントの小節線

Dorico Pro では、大譜表を使用するインストゥルメントの譜表には中括弧が付くと同時に、譜表間的小節線は自動的に結合されます。譜表に大括弧と中括弧が同時に付くことはないため、大譜表を使用するインストゥルメントは大括弧から除外されます。従って他のいかなる譜表の小節線とも結合されることはありません。

小節線のグループ化のカスタマイズ

複数のプレーヤーを手動でグループとしてまとめることで、カスタム的小節線の結合と大括弧のグループを作成できます。グループ内の1人以上のプレーヤーが以前別のグループに入っていた場合、以前のグループに残されたインストゥルメントはグループ化されたままとります。

単一のプレーヤーを固有のプレーヤーグループに追加して個別に表示できます。たとえば、コンチェルトでソリストをアンサンブルの他のプレーヤーと分けて表示できます。

カスタム的小節線の結合を入力して、個々の小節線が延長される譜表の範囲を決定することもできます。

関連リンク

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(696 ページ\)](#)

[プレーヤーグループを追加する \(133 ページ\)](#)

[グループへのプレーヤーの追加 \(134 ページ\)](#)

[プレーヤーグループの削除 \(134 ページ\)](#)

拍子記号が変更される場所ですべての譜表をまたいで小節線を表示する

括弧のスタイルに関わらず、個々のレイアウトの拍子記号が変更される場所で、すべての譜表の小節線を結合できます。

手順

1. 譜表の小節線を結合させる拍子記号の変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「すべての譜表の小節線を結合 (Barline joins all staves)」をオンにします。

結果

選択された拍子記号の変更の位置で、楽譜領域で選択されているレイアウト内のすべての譜表の小節線が結合されます。

カスタム的小節線の結合を入力する

カスタム的小節線の結合を任意の位置に入力できます。これにより、どの譜表が小節線により結合されるか変更できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、その開始位置から変更を適用する組段の、小節線で結合する一番上の譜表のアイテムを選択します。
2. 小節線で結合する一番下の譜表のアイテムを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。
3. 形式設定パネルで、「括弧 (Bracketing)」グループの「小節線の結合を変更 (Change barline joins)」をクリックします。

結果

アイテムを選択した譜表とその間のすべての譜表が小節線で結合され、次の大括弧と小節線の変更がある位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。アイテムを選択していた組段の開始位置にガイドが表示されます。

既存の小節線の結合は、新しい小節線の結合を表示できるように、必要に応じて調整されます。

補足

大括弧と小節線の変更のガイドは、組段の開始位置に適用されるものであるため移動できません。ただし、たとえば組段区切りを移動したような場合は、組段の途中に表示されることもあります。大括弧と小節線の変更のガイドが組段の途中に位置する場合、対応する変化の効果は次の組段の開始位置まで現れません。

例

デフォルトの譜表のグループ化によるチェロのディヴィジの譜表

インストゥルメントごとに小節線の結合を分割したチェロのディヴィジの譜表

関連リンク

[ガイド \(337 ページ\)](#)

[大括弧と小節線の変更のリセット \(704 ページ\)](#)

[大括弧と小節線の変更の削除 \(704 ページ\)](#)

小節線の結合を個別に削除する

個々の小節線の結合は、リズム上の同じ位置にある他の小節線の結合および大括弧/中括弧によるグループ分けの変更とは別個に削除できます。これにより選択した小節線の結合が解除され、それぞれの譜表の個別の小節線として表示されるようになります。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、削除する小節線の結合を選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

カスタムの小節線の結合の長さを変更する

カスタムの小節線の結合は、垂直方向の長さを変更して譜表の範囲を変更できます。たとえば小節線の結合の下に新しくプレーヤーを追加して、その譜表まで小節線を延長する場合などに使用できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、長さを変更する小節線の結合の上端か下端いずれかのハンドルを選択します。

ヒント

大括弧と小節線の変更は、ガイドの位置から次の既存の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されるため、1回の変更につき選択する小節線の結合のハンドルは1つだけで構いません。

- 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
 - [Alt/Opt]+[↑]** を押して1つ上の譜表へ移動します。
 - [Alt/Opt]+[↓]** を押して1つ下の譜表へ移動します。
-

結果

選択した小節線の結合の長さが変わって、上か下につながる譜表の範囲が変更されます。これは、対応する大括弧と小節線の変更が適用されるすべての組段の、小節線の結合に含まれる譜表に影響します。

補足

各譜表に小節線の結合は1つしか存在できず、重なり合うこともできません。選択した小節線の結合の長さを変更した結果、一部が他の小節線の結合に重なった場合、他の小節線の結合はそれに合わせて短縮されます。

この動作は元に戻せます。このとき影響された他の小節線の結合の長さは復元されます。

小節番号

小節番号は複数のプレーヤーが含まれる楽譜において重要な参照ポイントであり、楽譜の時間的順序が明確になります。小節番号はプレーヤーが曲中の今どこにいるかを示し、リハーサルやコンサートで全体との調和をとりやすくなります。

小節番号はパートレイアウトとフルスコアレイアウトを作成する際にも役立ちます。小節番号とリハーサルマークを使用すると、パートレイアウトとフルスコアレイアウトを素早く比較して、楽譜が正しいかどうかをチェックできます。

Dorico Pro では、小節番号が自動的に表示され、初期設定では最も一般的な慣習に従って、すべてのレイアウトの各組段の開始位置に表示されます。小節番号の表示/非表示はレイアウトごとに個別に切り替えることができます。映画音楽のスコアでよく見られるように、すべての小節に表示したり、指定した一定の間隔で表示したりすることもできます。

ヒント

小節番号に関するオプションの多くは、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「小節番号 (Bar Numbers)」ページにあります。これは、フルスコアレイアウトではすべての小節に小節番号を表示し、パートレイアウトでは各組段の開始位置にのみ表示するなど、レイアウトごとに異なる形で小節番号を表示するのが非常に一般的なためです。

関連リンク

[小節番号のパラグラフスタイル \(662 ページ\)](#)

[小節番号の位置 \(664 ページ\)](#)

[「レイアウトオプション」ダイアログ \(106 ページ\)](#)

小節番号を表示/非表示にする

小節番号の表示/非表示をレイアウトごとに個別に切り替えることができるほか、表示する間隔も指定できます。たとえば、フルスコアのレイアウトではすべての小節に小節番号を表示し、パートのレイアウトでは組段ごとに小節番号を表示する、といった設定ができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、小節番号を表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「小節番号 (Bar Numbers)」を選択します。
4. 「頻度 (Frequency)」サブセクションで、「小節番号を表示 (Show bar numbers)」に対する以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 組段ごと (Every system)
 - n 小節ごと (Every n bars)
 - 1 小節ごと (Every bar)
 - なし (None)

5. 「**n 小節ごと (Every n bars)**」を選択した場合、必要に応じて「**間隔 (Interval)**」の値を変更し、小節番号の表示頻度を設定します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**なし (None)**」を選択すると選択したレイアウトの小節番号が非表示になり、その他のオプションを選択すると対応する間隔で小節番号が表示されます。

小節番号の表示間隔は「**間隔 (Interval)**」の値に応じて変化します。たとえば間隔を「**10**」にすると、小節番号が 10 小節ごとに表示されます。

ヒント

小節番号が表示されたレイアウトで小節番号を個別に非表示にすることもできます。その場合は、非表示にする小節番号を選択して、プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループで「**小節番号を非表示 (Hide bar number)**」をオンにします。

関連リンク

[長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(661 ページ\)](#)

[特定の譜表の上に小節番号を表示する \(665 ページ\)](#)

[ガイド小節番号の表示/非表示 \(662 ページ\)](#)

[小節番号のパラグラフスタイル \(662 ページ\)](#)

[小節番号の位置 \(664 ページ\)](#)

小節番号の囲み線を表示/非表示にする

たとえば、指揮者が見やすいようにフルスコアレイアウトでは小節番号に長方形の囲み線を表示し、ページがそれほど混み合わないパートレイアウトでは囲み線を表示しないなど、必要に応じて小節番号に長方形または円形の囲み線をレイアウトごとに個別に表示できます。

小節番号に囲み線を付けると、背景が自動的に塗りつぶされます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号の囲み線のタイプを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**外観 (Appearance)**」サブセクションで、「**囲み線のタイプ (Enclosure type)**」を以下のいずれかのオプションから選択します。
 - なし (None)
 - 長方形 (Rectangle)
 - 丸 (Circle)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトの小節番号の囲み線が、選択したタイプに変更されます。囲み線のサイズは小節番号のサイズに応じて変わりますが、余白の値を指定してサイズと形を変更することもできます。

例

10

囲み線なし

10

長方形

10

丸

関連リンク

[「レイアウトオプション」ダイアログ \(106 ページ\)](#)

小節番号の囲み線のサイズと余白の値

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節番号 (Bar Numbers)」ページにある「囲み線 (Enclosure)」サブセクションには、小節番号の囲み線の形状とサイズを制御する複数のオプションがあります。

長方形の小節番号の囲み線

以下の図は、小節番号の長方形の囲み線 (デフォルト設定) を示します。最小高さとも最小幅はいずれも 2 スペース、左右の余白は 1/2 スペース、上下の最小余白はいずれも 1/8 スペースです。

10

デフォルト値では、中に入る小節番号のサイズや形状によって小節線の囲み線のサイズが大幅に変わる場合があるため、プロジェクト全体の一貫性を高めるために最小値を調節することをおすすめします。これにより、幅の狭い小節番号が指揮者に見えにくくなる場合もあります。サイズの違いを抑えるために**最小幅を増やす**ことで、一貫性をもった見た目になります。

3

280

3

280

最小幅をデフォルトにした場合の、長方形の囲み線付き小節番号

最小幅を 5 に増やした場合の、長方形の囲み線付き小節番号

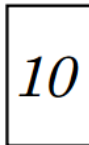
最小幅 (Minimum width)

囲み線の幅の最小値を設定します。以下の例では、値を 2 スペースから 6 スペースに増やしています。

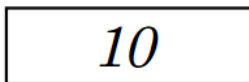
10

最小高さ (Minimum height)

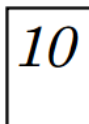
囲み線の高さの最小値を設定します。以下の例では、値を 2 スペースから 6 スペースに増やしています。

**最小余白 (左右) (Minimum horizontal padding)**

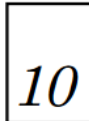
囲み線の両辺と中の小節番号の間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/2 スペースから 4 スペースに増やしています。

**最小余白 (下部) (Minimum bottom padding)**

囲み線の下辺と中の小節番号の間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/8 スペースから 2 スペースに増やしています。

**最小余白 (上部) (Minimum top padding)**

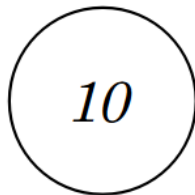
囲み線の上辺と中の小節番号の間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/8 スペースから 2 スペースに増やしています。

**丸の小節番号の囲み線**

以下の図は、小節番号の丸の囲み線 (デフォルト設定) を示します。最小直径は 2 スペースで、最小余白は 1/6 スペースです。

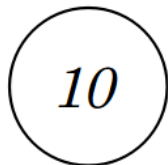
**最小直径 (Minimum diameter)**

囲み線の直径の最小値を設定します。以下の例では、値を 2 スペースから 8 スペースに増やしています。



最小余白 (Minimum padding)

囲み線と中の小節番号の間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/6 スペースから 1 スペースに増やしています。



すべての囲み線

囲み線の太さ (Enclosure line thickness)

長方形と丸の両方のタイプについて、囲み線の太さを設定します。デフォルトは 1/8 スペースです。以下の例は 1/2 スペースの太さです。



補足

「**囲み線の太さ (Enclosure line thickness)**」を変更すると、プロジェクト内のすべてのレイアウトで、小節番号の囲み線の太さが変更されます。長方形の囲み線の余白の値を変更すると、すべてのレイアウトの長方形の囲み線が影響され、丸の囲み線の余白の値を変更すると、すべてのレイアウトの丸の囲み線が影響されます。

長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする

長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にできます。これにより、たとえばパートレイアウトでプレイヤーが演奏しない小節がわかりやすくなります。空白の小節と併せて小節リピート領域も長休符に統合することを選択している場合、長休符に小節リピート領域を含めることができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
 2. 長休符で小節番号の範囲表示を表示/非表示にするレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
 3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
 4. 「**表示/非表示 (Showing and Hiding)**」サブセクションで、「**長休符および統合された小節リピート記号の下に小節番号の範囲を表示 (Show ranges of bar numbers under multi-bar rests and consolidated bar repeats)**」をオンまたはオフにします。
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトでオプションがオンのときは、長休符および統合された小節リピート記号の下に小節番号の範囲が表示され、オフのときは非表示になります。

ヒント

小節番号の範囲表示の区切り文字と、小節番号の範囲表示の譜表からのデフォルト距離は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページにある「**長休符 (Multi-bar Rests)**」セクションで変更できます。

関連リンク

[小節番号を表示/非表示にする \(657 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1127 ページ\)](#)

ガイド小節番号の表示/非表示

ページビューとギャラリービューでそれぞれ個別に、すべての組段のすべての小節でガイド小節番号を表示/非表示にできます。これにより、たとえば譜表が多いスコアで小節番号が確認しやすくなります。ガイド小節番号は印刷されません。

手順

- ガイド小節番号の表示/非表示は以下のいずれかの方法で行なえます。
 - ページビューでガイド小節番号を表示/非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**小節番号 (Bar Numbers)**」 > 「**ページビュー (Page View)**」を選択します。
 - ギャラリービューでガイド小節番号を表示/非表示にするには、「**ビュー (View)**」 > 「**小節番号 (Bar Numbers)**」 > 「**ギャラリービュー (Galley View)**」を選択します。
-

結果

メニューの対応するオプションの横にチェックマークがあるときは対応するビュータイプのすべての小節、すべての譜表の上にガイド小節番号が表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

小節番号のパラグラフスタイル

Dorico Pro では、小節番号にパラグラフスタイルを使用するため、レイアウトごとに異なるパラグラフスタイルを使用できます。特に、パートレイアウトには多くの場合、フルスコアレイアウトとは異なる形式の小節番号が必要になります。

初期設定では、小節番号用に以下のパラグラフスタイルが用意されています。

- **小節番号 (パート) (Bar numbers (parts))**: パートレイアウトに使用される
- **小節番号 (スコア) (Bar numbers (score))**: フルスコアレイアウトとカスタムスコアレイアウトに使用される

最初はどちらのパラグラフスタイルも設定は同じですが、各パラグラフスタイルの設定を個別に変更できます。たとえば、パートレイアウトの小節番号には太字の斜体フォントを使用し、フルスコアレイアウトの小節番号にはフォントサイズが非常に大きいプレーンフォントを使用する、といった設定ができます。

そのあと、レイアウトごとに使用するパラグラフスタイルを変更できます。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

小節番号のパラグラフスタイルを編集する

たとえば、フォントサイズを大きくしたい場合などに、小節番号に使用されるパラグラフスタイルの形式設定を編集できます。初期設定では、フルスコアレイアウトの小節番号用と、パートレイアウトの小節番号用の2つのパラグラフスタイルが用意されています。

前提条件

デフォルトで用意されているものとは異なる小節番号のパラグラフスタイルを使用する場合は、新しいパラグラフスタイルを作成しておきます。

手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」を選択して、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログを開きます。
2. パラグラフスタイルのリストから、小節番号に関する以下のいずれかのパラグラフスタイルを選択します。
 - **小節番号 (パート)**
 - **小節番号 (スコア)**
3. 必要に応じて、「**元 (Parent)**」メニューから利用できるいずれかのスタイルを選択します。元スタイルが選択されている場合、選択したパラグラフスタイルの元スタイルから変更されているすべてのオプションの横に、操作可能なスイッチが表示されます。
4. 選択したパラグラフスタイルの任意のオプションをオンにして変更します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択した小節番号のパラグラフスタイルが変更されます。これは選択したスタイルを使用するすべてのレイアウトの小節番号の外観に影響を与えます。

ヒント

小節番号のパラグラフスタイルを追加作成して、レイアウトごとに異なる小節番号のパラグラフスタイルを使用できるようにすることもできます。

関連リンク

[パラグラフスタイルの作成](#) (416 ページ)

レイアウトで使用する小節番号のパラグラフスタイルの変更

小節番号に使用するパラグラフスタイルは、レイアウトごとに個別に選択できます。初期設定では、フルスコアレイアウトとパートレイアウトでは小節番号に異なるパラグラフスタイルが使用されます。

前提条件

一部のレイアウトの小節番号にカスタムのパラグラフスタイルを使用する場合、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで作成しておきます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号に使用するパラグラフスタイルを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイア

ウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
 4. 「**外観 (Appearance)**」サブセクションで、「**パラグラフスタイル (Paragraph style)**」メニューからパラグラフスタイルを選択します。
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

選択したパラグラフスタイルが、選択したレイアウトのすべての小節番号に使用されます。

小節番号の位置

通常、小節番号は各組段の開始位置の譜表上部に、最初の小節線に揃えて表示されます。

小節番号のデフォルトの位置と表示頻度は、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**小節番号 (Bar Numbers)**」ページで、レイアウトごとに個別に変更できます。また、浄書モードで小節番号の位置を個別に変更することもできます。たとえば、フルスコアのレイアウトではすべての小節に小節番号を表示し、パートのレイアウトでは組段ごとに小節番号を表示する、といった設定ができます。

小節番号の水平位置の変更

小節番号の水平位置は、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは小節番号を小節の中央に配置しつつ、パートレイアウトでは小節線上に配置するということもできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
 2. 小節番号の水平位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
 3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
 4. 「**水平位置 (Horizontal Position)**」サブセクションで、「**水平位置 (Horizontal Position)**」を以下のいずれかのオプションから選択します。
 - **小節線上に配置 (Centered on barline)**
 - **小節の中央に配置 (Centered on bar)**
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトの小節番号の水平位置が変更されます。

- 「**小節線上に配置 (Centered on barline)**」を選択すると、小節番号が小節線上 (小節の左上) に表示されます。
- 「**小節の中央に配置 (Centered on bar)**」を選択すると、小節番号が譜表上 (小節の中央) に表示されます。

関連リンク

[特定の譜表の上に小節番号を表示する \(665 ページ\)](#)

[小節番号の表示位置の変更 \(666 ページ\)](#)

特定の譜表の上に小節番号を表示する

どの譜表の上に小節番号を表示するかを変更できます。これにより、各組段の複数の垂直位置に小節番号を表示できます。たとえば、大規模なオーケストラのスコアで、組段の上部と弦楽器セクションの上の両方に小節番号を表示する場合などに便利です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号の垂直位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**位置 (Placement)**」サブセクションの「**特定のプレイヤーの上に表示 (Show above specific players)**」リストで、一番上の譜表の上に小節番号を表示するプレイヤーのチェックボックスをオンにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトの小節番号の垂直位置が変更されます。複数のインストゥルメントが割り当てられているプレイヤーについては、一番上のインストゥルメントの譜表の上に小節番号が表示されます。

補足

小節番号と譜表またはその他のオブジェクトとの間の距離を変更できるほか、小節番号が譜表間に収まるように、譜表間の間隔の垂直方向のスペーシング設定も変更できます。

関連リンク

[デフォルトの譜表/組段のスペーシングを変更する \(444 ページ\)](#)

[レイアウトごとの垂直方向のスペーシングオプション \(462 ページ\)](#)

[インストゥルメントの移動 \(121 ページ\)](#)

小節番号の譜表やその他のオブジェクトからの距離を変更する

小節番号の譜表からの最小距離、および小節番号のその他のオブジェクトからの最小距離には、それぞれ異なる値をレイアウトごとに個別に設定できます。たとえば、フルスコアレイアウトではパートレイアウトよりも、小節番号を譜表やその他のオブジェクトから遠ざけて配置できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号の譜表からの最小距離を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 必要に応じて、「**位置 (Placement)**」サブセクションで、「**譜表からの最小距離 (Minimum distance from staff)**」の値を変更します。
デフォルト値は 2 スペースです。

5. 必要に応じて、「位置 (Placement)」サブセクションで、「**その他のオブジェクトからの最小距離 (Minimum distance from other objects)**」の値を変更します。
デフォルト値は 3/4 スペースです。
 6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

値を大きくすると、小節番号は譜表やその他のオブジェクトから離れた位置に配置されます。上下の配置は「**譜表に対する位置 (Placement relative to staff)**」の設定に従います。値を小さくすると、小節番号は譜表やその他のオブジェクトに近い位置に配置されます。

補足

上記のオプションに影響されるのは、小節番号と譜表やその他のオブジェクトとの最小距離であるため、衝突を回避するために設定値より遠くに小節番号が配置される場合もあります。

組段に対する小節番号の位置を変更する

小節番号は、レイアウトごとに組段の上または下のいずれかに表示できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは小節番号を組段の下に、パートレイアウトでは組段の上に表示できます。

補足

これは、特定の譜表の上に表示される小節番号の位置には影響しません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
 2. 小節番号の位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
 3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
 4. 「位置 (Placement)」サブセクションの「**組段に対する位置 (Placement relative to system)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **組段の一番上の譜表の上に表示 (Show above top staff of system)**
 - **組段の一番下の譜表の下に表示 (Show below bottom staff of system)**
 5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトで、組段に対する小節番号の位置が変更されます。

小節番号の表示位置の変更

小節番号の表示位置は、対応する小節を変更することなく個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更する小節番号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、小節番号の表示位置を変更します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。

- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

結果

選択した小節番号の表示位置が変更されます。

ヒント

小節番号の位置を移動すると、プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- **小節番号 X (Bar number X)**: 小節番号の水平位置を移動します。
- **小節番号 Y (Bar number Y)**: 小節番号の垂直位置を移動します。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、小節番号の表示位置を移動することもできます。

プロパティをオフにすると、選択した小節番号が初期設定の位置にリセットされます。

関連リンク

[小節番号の変更の追加 \(669 ページ\)](#)

[小節番号の水平位置の変更 \(664 ページ\)](#)

[小節番号の譜表やその他のオブジェクトからの距離を変更する \(665 ページ\)](#)

組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では小節番号を非表示にする

組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では、リズム上の同じ位置にある小節番号を非表示にするよう設定できます。これは小節番号が小節線上に配置されている場合、見やすい形で衝突を回避することが困難であるためです。

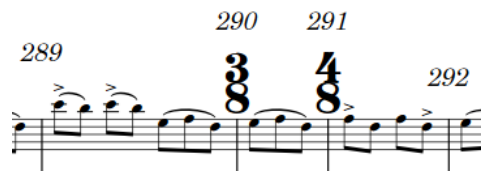
手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
 2. 組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では、小節番号を非表示にするレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
 3. ページリストの「小節番号 (Bar Numbers)」を選択します。
 4. 「表示/非表示 (Showing and Hiding)」サブセクションで、「組段オブジェクト位置に拍子記号がある場所では小節番号を表示 (Show bar numbers at time signatures at system object positions)」をオンまたはオフにします。
 5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

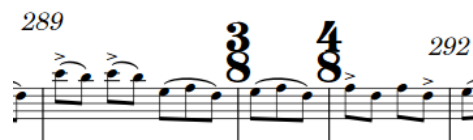
結果

組段オブジェクトの位置に拍子記号を表示する場所での小節番号は、オプションをオンにすると表示され、オフにすると非表示になります。

例



組段オブジェクト位置に拍子記号がある場所に表示されている小節番号



組段オブジェクト位置に拍子記号がある場所で非表示になっている小節番号

関連リンク

[拍子記号 \(1251 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(1256 ページ\)](#)

浄書オプションで小節番号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節番号 (Bar Numbers)」ページには、プロジェクト全体に適用される小節番号の外観、囲み線、内容に関するオプションがあります。

「小節番号 (Bar Numbers)」ページのオプションを使用すると、リピートセクションを小節番号に含めるかどうかの選択、サブ小節番号の大文字/小文字の切り替え、すべての小節番号の囲み線の太さと余白の値の変更をプロジェクト全体で行なえます。

関連リンク

[小節番号の囲み線を表示/非表示にする \(658 ページ\)](#)

[小節番号の囲み線のサイズと余白の値 \(659 ページ\)](#)

[小節番号とリピート \(671 ページ\)](#)

小節番号の変更

小節番号は連続するシーケンスに従い、各小節には前の小節番号に続く一意の小節番号が付きます。ここで、小節番号のシーケンスは手動で変更でき、サブシーケンスに変更することもできます。

「小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)」ダイアログを使用して、小節番号のシーケンスに以下のタイプの変更を加えられます。

プライマリー (Primary)

メイン小節番号のシーケンス (デフォルトで存在し、プロジェクトの各小節がフローごとに個別の連続したシーケンスに従うもの) に変更を加えます。

サブ (Subordinate)

小節番号の補助的なシーケンスを追加します。これには数字ではなく文字が使用されます。サブは、楽曲の新しいバージョンを作成して小節を追加したものに、元の小節番号を残す必要がある場合などに役立ちます。

選択中の小節は含まない (Don't Include)

選択した小節を現在の小節番号のシーケンスから除外します。すべての小節に小節番号が表示される場合でも、「**選択中の小節は含まない (Don't Include)**」が選択された小節には小節番号が表示されません。

プライマリーを継続 (Continue Primary)

小節番号のシーケンスを「**プライマリー (Primary)**」シーケンスに戻します。間にある小節はカウントされません。たとえば、「**サブ (Subordinate)**」シーケンスに従う小節セクションのあとに使用します。

関連リンク

[サブ小節番号 \(670 ページ\)](#)

小節番号の変更の追加

小節番号のシーケンスに手動で小節番号の変更を追加できます。たとえば、プロジェクトの2番めのフローを再度小節1から開始するのではなく、1番めのフローから連続したシーケンスとして表示する場合などに使用できます。

手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
 - そこから小節番号のシーケンスを変更したい小節内の項目
 - そこから小節番号のシーケンスを変更したい小節の小節番号または小節線
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**小節番号 (Bar Numbers)**」 > 「**小節番号の変更を追加 (Add Bar Number Change)**」を選択して「**小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)**」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「**タイプ (Type)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **プライマリー (Primary)**
 - **サブ (Subordinate)**
 - **選択中の小節は含まない (Don't Include)**
 - **プライマリーを継続 (Continue Primary)**
4. 必要に応じて、「**プライマリー (Primary)**」または「**サブ (Subordinate)**」を選択して、対応する数値フィールドの値を変更することにより、小節番号の新しいシーケンスが開始する際の小節番号を指定します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択した項目が含まれる小節、または選択した小節番号か小節線の位置から、小節番号のシーケンスが変更されます。

この変更は、次に小節番号の変更到達するまで、またはフローの終了位置に達するまで、変更した小節番号以降の小節番号のシーケンスに適用されます。

小節番号の変更の削除

追加した小節番号の変更を削除できます。

手順

1. 記譜モードで、削除する番号の変更を選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

小節番号の変更が削除されます。後続の小節は、次の小節番号の変更到達するまで、またはフローの終了位置に到達するまで、1つ前の小節番号に従って変化します。

サブ小節番号

サブ小節番号はリピート括弧にナンバリングする場合や、楽譜に変更を加えたが元の小節番号を変更できない場合などに役立ちます。

たとえば、以前に短いバージョンでリハーサルをしたことがある場合に、楽譜を追加した場所を示すためにサブ小節番号を使用できます。このような状況では、多くの場合プレイヤーはすでに曲の特定の部分を特定の小節番号に関連付けています。そのため、**10** 小節めのあとに 4 小節を追加する必要がある場合、追加の小節の番号を **10a** から **10d** にすれば、後続の小節の番号は小節を追加する前と同じく **11** から続きます。

サブ小節番号は、リピート括弧に異なる小節番号を付ける場合にも役立ちます。

サブ小節番号は小文字で表示されるのがデフォルトですが、大文字でも小文字でも表示できます。



小文字によるサブ小節番号



大文字によるサブ小節番号

関連リンク

[サブ小節番号の外観を変更する \(671 ページ\)](#)

サブ小節番号を追加する

サブ小節番号のシーケンスは、プライマリー小節番号のシーケンスとは独立させて作成できます。これは新しい小節を追加したときに、後続の既存の小節の小節番号を変更したくない場合に役立ちます。

手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
 - そこからサブ小節番号を開始したい小節内の項目
 - そこからサブ小節番号を開始したい小節の小節番号または小節線
2. 「編集 (Edit)」 > 「小節番号 (Bar Numbers)」 > 「小節番号の変更を追加 (Add Bar Number Change)」を選択して「小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「タイプ (Type)」に「サブ (Subordinate)」を選択して「サブ (Subordinate)」の数値フィールドをオンにします。
4. 「サブ (Subordinate)」の数値フィールドの値を変更して、サブ小節番号のシーケンスの 1 文字めを変更します。
対応するアルファベットが数値フィールドの右側に表示されます。たとえば、数値フィールドに **1** を入力すると **a** が表示され、**2** を入力すると **b** が表示され、以降同様に続きます。
5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択した項目が含まれる小節、または選択した小節番号か小節線の位置から、サブ小節番号のシーケンスが開始されます。小節番号は追加直前と同じものにアルファベットが付きます。

たとえば、元々 5 小節めであった小節からサブ小節番号のシーケンスを開始した場合、シーケンスは 4a から始まり、次の小節番号の変更に到達するまで、またはフローの終了位置に到達するまで続きます。

プライマリー小節番号のシーケンスに戻す

サブ小節番号のセクションのあと、プライマリー小節番号のシーケンスに戻す場所を指定できます。

手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
 - そこからプライマリー小節番号のシーケンスに戻したい小節内の項目
 - そこからプライマリー小節番号シーケンスに戻したい小節の小節番号または小節線
2. 「編集 (Edit)」 > 「小節番号 (Bar Numbers)」 > 「小節番号の変更を追加 (Add Bar Number Change)」を選択して「小節番号の変更を挿入 (Insert Bar Number Change)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
3. 「タイプ (Type)」に「プライマリーを継続 (Continue Primary)」を選択します。「プライマリー (Primary)」および「サブ (Subordinate)」の数値フィールドの下に、ここからの小節番号を示すテキストが表示されます。たとえば、「プライマリー番号は 5 小節目から継続します。」のように表示されます。
4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択した項目が含まれる小節、または選択した小節番号か小節線の位置から、プライマリー小節番号のシーケンスに戻ります。

ヒント

サブ小節番号の変更を追加する場合、順序どおりにする必要はありません。まずプライマリー小節番号のシーケンスに戻してから、サブ小節番号のシーケンスを追加しても構いません。

サブ小節番号の外観を変更する

サブ小節番号は、小文字または大文字にできます。

手順

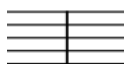
1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. ページリストの「小節番号 (Bar Numbers)」を選択します。
3. 「シーケンス (Sequence)」サブセクションでサブ番号の外観を選択します。
 - 小文字 (Lower case) (初期設定)
 - 大文字 (Upper case)

小節番号とリピート

Dorico Pro の初期設定では、小節番号のカウントにリピートは含まれません。たとえば、リピートの 1 番括弧が 10 小節めで終わる場合、2 番括弧の始まりは 11 小節めになります。1 つめのセクションが繰り返されることで、実際は 10 小節より多く演奏されているにもかかわらずです。

小節番号のカウントにリピートを含めて、ページに書かれている小節の数ではなく、演奏される小節の総数を小節番号に反映することで、複数回演奏する部分がある楽譜をわかりやすくできます。これにより、各周回の特定の位置を 3 回めの 8 小節めなどと指定するかわりに、具体的な小節番号で指定できます。

2 (12)



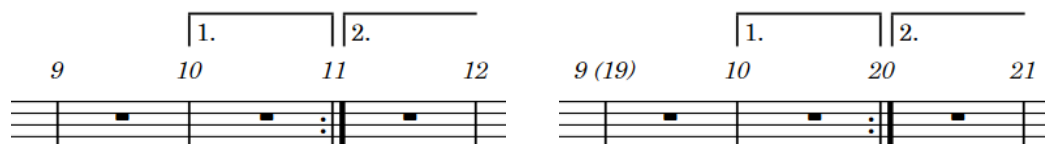
1 回目の小節番号の隣に括弧付きで表示されるリピートの 2 回目の小節番号

Dorico Pro では、小節番号のカウントにリピートを自動的に含めることができます。小節番号の変更を手動で入力する必要はありません。これはリピート括弧や「D.C. al Coda」といったリピートマーカーなど、同じ範囲を複数回通して演奏するなどの形態に対しても適用されます。

すべてのプレイヤーが同じ小節番号を参照することが重要であるため、これはプロジェクト全体のすべてのレイアウトに影響します。

小節番号のカウントにリピートを含める場合、記譜上の同じ小節に複数の小節番号が適用されることとなります。これを反映する上で、Dorico Pro の初期設定では、1 回目の小節番号を通常どおり表示し、2 回目以降の小節番号を右側に追加していく形になります。小節番号の表示に使用されるリピートの周回や、リピートの 2 回目以降の小節番号の外観は、レイアウトごとに個別に変更できます。初期設定では、これは括弧付きで表示されます。

例



リピートをカウントせず、1 回目の小節番号のみ表示する小節番号の例

リピートをカウントし、リピートの 2 回目以降の小節番号を 1 回目の小節番号の横に表示する小節番号の例

関連リンク

[リピートの 2 回目以降の小節番号の外観を変更する \(673 ページ\)](#)

[小節番号の変更の追加 \(669 ページ\)](#)

小節番号のカウントにリピートを含めるまたは除外する

小節番号のカウントにリピートを含めるか除外するか選択して、プロジェクト全体のすべてのレイアウトに反映できます。初期設定では、リピートは小節番号のカウントから除外されています。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
3. 「**リピート (Repeats)**」サブセクションの「**リピートセクションの小節番号 (Bar numbering for repeated sections)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **リピートをカウント (Count repeats)**
 - **リピートをカウントしない (Do not count repeats)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**リピートをカウント (Count repeats)**」を選択すると小節番号のカウントにリピートが含まれ、「**リピートをカウントしない (Do not count repeats)**」を選択すると除外されます。

小節番号の表示に使用するリピートの周回を変更する

リピートが含まれるプロジェクトでは、リピートのどの周回が小節番号の表示に使用されるかをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、一部のプレイヤーのパートにはすべての周回の小節番号を表示し、他のプレイヤーには最後の周回のみ表示するといったことができます。

補足

これは小節番号のカウンタ全体には影響せず、どの小節番号を表示するかにのみ影響します。

前提条件

小節番号のカウンタにリピートセクションを含めておきます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 小節番号の表示に使用するリピートの周回を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**小節番号 (Bar Numbers)**」を選択します。
4. 「**リピート (Repeats)**」サブセクションの「**リピートをカウント (Count repeats)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **すべてのリピート (All repeats)**
 - **最初のリピートのみ (First repeat only)**
 - **最後のリピートのみ (Last repeat only)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトの小節番号の表示に使用するリピートの周回が変更されます。

例

		
すべてのリピートを表示する小節番号	最初のリピートのみ表示する小節番号	最後のリピートのみ表示する小節番号

リピートの2回め以降の小節番号の外観を変更する

小節番号のカウンタにリピートを含めるとき、リピートの2回め以降の小節番号は1回めの小節番号の横に表示されます。これには初期設定では括弧が付きませんが、リピートの2回め以降の小節番号の先頭テキストと末尾テキストは、レイアウトごとに個別に変更できます。

前提条件

小節番号のカウンタにリピートセクションを含めておきます。

手順


1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. リピートの2回め以降の小節番号の外観を変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「小節番号 (Bar Numbers)」を選択します。
4. 必要に応じて、「リピート (Repeats)」サブセクションで、「先頭テキスト (Prefix)」フィールドに任意の先頭テキストを入力します。
このフィールドの1文字めは、初期設定では半角スペースになっています。これは1回めと2回め以降の小節番号に間隔を作るためです。
5. 必要に応じて、「末尾テキスト (Suffix)」フィールドに任意の末尾テキストを入力します。
6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したレイアウトのリピートの2回め以降の小節番号の外観が変更されます。たとえば、同じ小節上の複数の小節番号を縦線で区切る場合は、「先頭テキスト (Prefix)」フィールドに「|」を入力し、「末尾テキスト (Suffix)」フィールドには何も入力しません。


例

2 (12)



リピートの2回め以降の小節番号の先頭テキストと末尾テキストに括弧を使用したもの

2 | 12



リピートの2回め以降の小節番号の先頭テキストに縦線を使用したもの

連桁

連桁は、音符を符尾で連結してリズムのグループを示すもので、現在の拍子記号の拍節構造に従って変化します。

このように音符がグループ化されると、演奏者は記されたリズムの正確な演奏方法を素早く計算でき、自分のパートや指揮者に合わせやすくなります。

長さが 8 分音符以下の音符または和音を 2 つ以上隣接するように入力すると、現在の拍子と小節内の位置が適切な場合に Dorico Pro が自動的に連桁を作成します。



6/8 拍子における複数の連桁グループ

連桁の表記規則は正解が 1 つではないため、Dorico Pro にはいくつかのカスタマイズオプションがあります。これらのオプションは「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連桁 (Beams)」ページにあります。

音符を連桁グループにグループ化する方法のフローごとのデフォルトは、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで確認できます。

関連リンク

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[連桁のグループ化に関するフローごとの記譜オプション \(676 ページ\)](#)

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

連桁グループ

音符は拍を反映するために、通常は標準的なグループに分かれて連桁されます。Dorico Pro では、音符の連桁を制御する複数の方法があります。

- 「記譜オプション (Notation Options)」を使用すると、プロジェクトのフローごとに連桁グループの初期設定を指定できます。
- また、拍子記号の細分化した区切りを制御することで、連桁グループを設定できます。
- 連桁グループを個別に変更するには、プロパティパネルで連桁グループのプロパティを変更するか、「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」メニューからいずれかのオプションを選択します。

関連リンク

[手動で音符に連桁を付ける \(678 ページ\)](#)

連符のグループ化に関するフローごとの記譜オプション

「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「連符のグループ化 (Beam Grouping)」のページには、連符のグループ化ルールの初期設定をフローごとに個別に制御できるオプションがあります。

Dorico Pro には、4/4 拍子などでは半小節で区切りを入れる、3/4 拍子では 8 分音符をすべて 1 つの連符で結ぶ、連符を含むグループを連符する、といった音楽理論の一般的な慣習に従う、連符のグループ化に関する高度な基本ルールが定義されています。

これらのルールには別の慣習も存在し、「記譜オプション (Notation Options)」の「連符のグループ化 (Beam Grouping)」のページでフローごとに個別に変更できます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

関連リンク

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

拍に従う連符グループ

一般的な表記規則に従い、拍が明確で分かりやすくなるように、拍子記号に応じて異なる形で音符が連符で連結されます。Dorico Pro では、デフォルトの連符グループは拍子記号によって決定されます。

Dorico Pro には、一般的な表記規則とユーザーが選択した設定に基づいて、一般的な拍子記号に対する連符のデフォルトが設定されています。たとえば、3/4 と 6/8 の拍子記号には同じ数の拍が含まれますが、これらは異なる拍子を示しているため、異なる形の連符で連結されます。初期設定では、3/4 拍子の場合、8 分音符のフレーズは各小節内で連符で連結され、他のデュレーションのフレーズは 4 分音符にグループ化されますが、6/8 拍子の場合には付点 4 分音符にグループ化されます。



3/4 におけるデフォルトの 8 分音符の連符グループ



6/8 におけるデフォルトの 8 分音符の連符グループ

Dorico Pro では、5/8 や 7/8 のような変拍子について、その拍子記号において最も一般的な慣習に従って音符がグループ化され、連符で連結されます。



5/8 におけるデフォルトの連符グループ



7/8 におけるデフォルトの連符グループ

拍のグループ化に対するより詳細な制御が必要な状況では、リズムの分割が明示されたカスタムの拍子記号を入力できます。これにより Dorico Pro はこの分割に従って自動的にフレーズを連符で連結します。たとえば、拍子記号ポップオーバーに「[7]/8」と入力すると、7つの8分音符すべてがグループ化されます。「[2+2+3]/8」と入力すると、7つの8分音符は2、2、3のように分割された連符にグループ化されます。

補足

連符のグループのデュレーションは、現在の拍子記号における拍のグループ化、および「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」のフローごとの連符グループ化の設定に従います。

関連リンク

[音符と休符のグループ化 \(692 ページ\)](#)

[拍子のカスタム連桁グループを作成する \(693 ページ\)](#)

連桁グループの分割

連桁と第 2 連桁は、特定の位置で 2 つの連桁グループに分割できます。また、連桁グループ内の第 2 連桁を分割することもできます。

手順

1. 連桁を分割する位置の右にある符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、連桁または第 2 連桁を分割します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「連桁を分割 (Split Beam)」を選択します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「第 2 連桁を分割 (Split Secondary Beam)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択したそれぞれの音符の左側で連桁/第 2 連桁が分割されます。分割後のどちら側でも、音符が 2 つ以上あり、その音符を連桁に含めることができる場合は、連桁グループが維持されます。

補足

選択した連桁全体を解除し、グループ内のすべての音符に個別に符尾を付けるには、すべての音符の連桁を解除します。

関連リンク

[音符の連桁の解除 \(678 ページ\)](#)

連桁グループのリセット

音符や和音の連桁グループに対する変更は、すべてリセットできます。これは、たとえばインポートした MusicXML ファイルに不正確な連桁がある場合にも役立ちます。

手順

1. リセットする連桁の音符/和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「連桁をリセット (Reset Beaming)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
-

結果

連桁グループが、現在のフローと拍子記号の初期設定 (「記譜オプション (Notation Options)」で設定) に戻ります。

手動で音符に連桁を付ける

音符には手動で連桁を付けられます。これは小節線をまたぐ音符や組段/フレーム区切りをまたぐ音符でも同様です。これはたとえば、現在の拍子における通常の方法とは異なる形でフレーズに連桁を付ける場合に役に立ちます。

連桁は初期設定では小節や組段内にとどまるため、連桁が小節線、組段区切り、またはフレーム区切りをまたぐには、フレーズを強制的に連桁で連結させる必要があります。

手順

1. 連桁で連結させる音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「連桁を連結 (Beam Together)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した音符が小節線や組段/フレーム区切りをまたぐ場合であっても、連桁で連結されます。

新しい連桁グループの左右いずれかに、選択した音符の一部または全部と元々は連桁で連結されていた音符がある場合、別の連桁として改めて連結されるか、連桁なしで表示されます。これは小節内の左右いずれかにいくつの音符が残っているかと、フローの連桁のグループ化の設定によって変わります。

補足

連桁グループの一部に以前は中央配置の連桁がかかっていたとしても、新しい連桁は中央配置になりません。

関連リンク

[扇形連桁を作成する \(690 ページ\)](#)

[連桁が小節線をまたぐことの許可/禁止を切り替える \(1279 ページ\)](#)

音符の連桁の解除

連桁グループ内の音符の連桁をすべて解除し、各音符に符尾を付けることができます。これはたとえば、速いリズムに音節のテキストが設定されている場合などに便利です。

手順

1. 連桁を解除する音符をすべて選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「連桁を解除 (Make Unbeamed)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

不完全連桁の方向を変更する

Dorico Pro では、必要に応じて不完全連桁が自動的に入力されます。個々の不完全連桁を符尾のどちら側に表示するかを変更できます。

手順

1. 不完全連桁の方向を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「連桁 (Beaming)」グループで「不完全連桁の方向 (Partial beam direction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 左 (Left)

- 右 (Right)

結果

選択した方向に不完全連桁が表示されます。

例



不完全連桁の方向が左



不完全連桁の方向が右

譜表に対する連桁の位置

連桁の譜表に対するデフォルト位置は、連桁グループに属する音符の譜表位置と符尾の方向により決定されます。

これは、譜表の第3線から一番離れた音符が連桁の位置を決定することを意味します。ただしこのルールには例外や、譜表に対する連桁の位置に影響する別の判断基準が存在します。

譜表に対する連桁の位置を変更するには、連桁内の符尾の方向を変更します。そのため Dorico Pro では、譜表に対する連桁の位置の変更は、符尾の変更として分類されています。

譜表に対する連桁の位置の変更

譜表の上側と下側のどちらに連桁を表示するかは、符尾の方向を強制的に変更することで指定できません。

手順

1. 譜表に対する位置を変更する連桁でつながれたフレーズそれぞれについて、音符を1つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した連桁の符尾の方向を強制します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「符尾を強制的に上向き (Force Stem Up)」を選択します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「符尾を強制的に下向き (Force Stem Down)」を選択します。

ヒント

- このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
 - **[F]** を押して、選択した連桁の譜表に対する位置を変更することもできます。
-

結果

選択した符尾の方向に応じて、連桁が譜表の上側または下側に表示されます。

連桁の位置の変更を解除する

譜表に対する連桁の位置に加えた変更を元に戻すと、変更された符尾の方向を元に戻すことができます。これにより、選択した連桁が初期設定の位置に戻ります。

手順

1. 譜表に対する位置の変更を元に戻す連桁でつながれたフレーズそれぞれについて、音符を1つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「符尾の強制を削除 (Remove Forced Stem)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した連桁が譜表に対するデフォルトの位置に戻ります。

連桁の傾斜

連桁の傾斜は、連桁グループ内の音符の音程に従って、連桁を水平からどれだけ傾かせるかを制御します。

- フレーズの最後の音符の音程が最初の音符より高い場合、連桁は上向きに傾斜します。
- フレーズの最後の音符の音程が最初の音符より低い場合、連桁は下向きに傾斜します。
- 連桁グループの真ん中がくぼんだ形、つまり連桁の内側の音符が左右外側の音符より連桁に近い場合、初期設定では連桁が水平になります。
すべての音程が同じ場合、または特定のパターンで音程が反復する場合も、連桁は水平になりません。

連桁が譜表の内側にある場合、連桁の両端つまり両端にある音符の符尾の先端は、譜表の線にスナップする必要があります。連桁線は譜表線の上に乗せるか、中央揃えにするか、ぶら下げるかのいずれかにできます。Ted Ross氏は、著書『Teach Yourself the Art and Practice of Music Engraving』において、これら3種類の位置をそれぞれ「sit (座る)」、「straddle (またがる)」、および「hang (ぶらさがる)」と説明しています。



傾斜と方向が異なる複数の連桁を含むフレーズ

連桁の傾斜角度は通常、連桁内の音符がパターンを踏んで水平にならない限り、連桁グループの最初と最後の音符の音程差によって決まります。音程差が小さいほど傾斜はゆるく、差が大きいほど傾斜はきつくなります。

ただし、考慮すべきは適切な傾斜角度だけではありません。一番内側の連桁線が一番内側の符頭に近づきすぎないようにし、また連桁そのものも、できるだけ譜表線に対してくさび形にならないように配置する必要があります。くさび形とは水平な譜表線と垂直な符尾、そして傾斜した連桁線によって作られる小さい三角形のことであり、視覚的に混乱の原因となります。

連桁の傾斜を決定することは、適切な傾斜角度、連桁の両端それぞれのスナップ位置、連桁に一番近い音符と一番内側の連桁線の距離を保つ、できるだけくさび型を作らないようにする、という複数の要素のバランスを取りながら決める作業です。

連桁の表示方法に関するプロジェクト全体のデフォルト設定を変更できます。

- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページでは、デュレーションが異なる音符の符尾の長さの最小値を指定できます。

- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連桁 (Beams)」ページでは、最適な連桁の傾斜を設定できます。

個々の連桁についても連桁の傾斜を変更できます。

連桁の傾斜を個別に変更する

連桁の傾斜や角度は、個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、傾斜を変更する連桁の角にある四角いハンドルを選択します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

先に連桁を選択してからハンドルを選択することもできます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

3. 必要に応じて手順 1 と 2 を繰り返し、もう一方のハンドルを移動します。

結果

選択した連桁の傾斜が変更されます。

ヒント

- プロパティパネルの「連桁 (Beaming)」グループで「連桁の方向 (Beam direction)」の設定を変更することでも連桁の傾斜を変更できます。連桁グループに属する符頭を選択しているときプロパティが利用できます。プロパティのオプションはすべて、連桁の終端の譜表線に対する正しい配置を確保しています。
- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連桁 (Beams)」ページでは、プロジェクト全体のすべての連桁の最適な傾斜を設定できます。

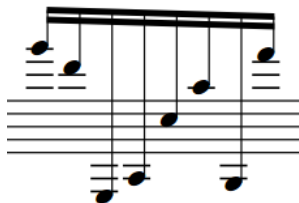
中央配置の連桁

中央配置の連桁は、同じ連桁グループ内で音程が高い音符と低い音符の間に配置され、通常これは譜表の中間または大譜表インストゥルメントの 2 つの譜表の間に描写されます。



連桁が付いたフレーズの音程の幅が大きい場合、標準の連桁であれば、一部の音符が非常に近くなる一方で一部の音符からは非常に遠くなり、符尾が非常に長くなってしまいます。音程の幅が大きいフレーズ

ズに中央配置の連桁を使用すると、符頭と連桁の最大距離を縮めることができますが、譜表内に連桁が配置され、譜表の線が見えにくくなる場合もあります。



音程に高低差があるフレーズの標準の連桁



同じ高低差があるフレーズの中央配置の連桁

関連リンク

[譜表に対する連桁の位置の変更 \(679 ページ\)](#)

連桁を中央に配置する

連桁は、譜表の中央に表示できます。このとき、高音の音符は連桁の上に、低音の音符は連桁の下に表示されます。

補足

連桁を中央に配置するには、一部の符尾の方向を変更して適切に表示されるようにする必要があります。このとき、「編集 (Edit)」メニューの「連桁 (Beaming)」サブメニューではなく「符尾 (Stem)」サブメニューを使用します。

手順

1. 中央揃えを行なう連桁それぞれについて、音符を 1 つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「連桁を強制的に中央に配置 (Force Centered Beam)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

連桁が選択した連桁グループ内の音符の中央に配置されます。

複数の連桁の音符を選択した場合、各連桁が個別に中央に配置されます。中央に配置された単一の連桁を作成する場合は、各連桁グループの音符をまとめて連桁でつなぎます。この操作は、連桁を中央に配置する前でも後でも行なえます。

補足

Dorico Pro では、フレーズの形に基づいて連桁に自動的に角度が付けられますが、連桁の角度や傾斜は手動でも変更できます。

関連リンク

[手動で音符に連桁を付ける \(678 ページ\)](#)

[連桁の傾斜を個別に変更する \(681 ページ\)](#)

連桁の中央配置の解除

連桁の中央配置を解除して、フレーズの上下いずれかの初期設定の位置に戻すことができます。

手順

1. 初期設定の位置に戻す中央配置の連桁それぞれについて、音符を1つ以上選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「連桁の中央配置を解除 (Remove Centered Beam)」 このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
-

結果

中央に配置された連桁が初期設定の位置に戻ります。

譜表をまたぐ連桁の作成

譜表をまたぐ連桁は、通常の連桁と同じように動作するほか、幅広いピッチで構成されるフレーズを2つの譜表に表示できます。譜表をまたぐ連桁を作成するには、フレーズのすべての音符を1つの譜表に入力して、一部の音符を別の譜表に表示されるよう伸ばします。

前提条件

1つの譜表にフレーズを入力しておきます。

手順

1. 別の譜表まで伸ばす音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

音符を他の譜表まで伸ばして配置できるのは、複数の譜表を使用するインストゥルメントだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、音符を別の譜表まで伸ばします。
 - 音符を上譜表に伸ばすには、**[N]** を押します。
 - 音符を下譜表に伸ばすには、**[M]** を押します。
-

結果

選択した音符が別の譜表に表示され、音符が連桁グループに含まれる場合は、譜表をまたぐ連桁が表示されます。音符が属する譜表はこれにより変更されません。

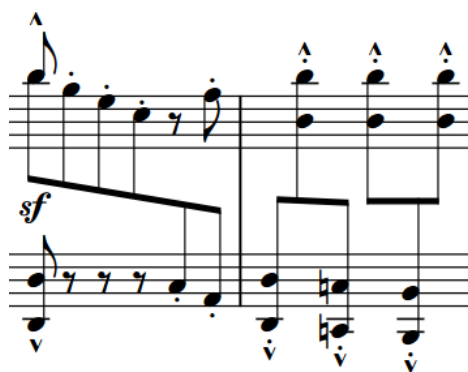
補足

- すでに音符が置かれている譜表に音符を伸ばすと、譜表にもとからあった音符の符尾の方向が変わる場合があります。これは、同じ位置に複数の声部がある場合の処理方法によるものです。従って、音符の符尾の方向を手動で変更しなければならない場合もあります。
 - 音符を元の譜表に表示させるには、リセットする音符を選択して「編集 (Edit)」 > 「譜表まで伸ばす (Cross Staff)」 > 「元の譜表にリセット (Reset to Original Staff)」をクリックします。
 - 音符を他の譜表に移動して、他の譜表に属させることもできます。
-

例



本来の譜表に表示されている音符



一部の音符を他の譜表に伸ばしてできた譜表をまたぐ連桁

関連リンク

[音符を別の譜表に移動する \(342 ページ\)](#)

[他の声部の音符がすでにある譜表に伸びた音符 \(1312 ページ\)](#)

[複声部の音符位置 \(1308 ページ\)](#)

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(1215 ページ\)](#)

譜表をまたぐ連桁にオプティカルスペーシングを使用する

通常、人間の目は符頭間の幅に応じて音符のスペーシングが均一であるかを判断します。ただし、譜表をまたぐ連桁の場合は、符頭間ではなく符尾間の距離をもとに、音符のスペーシングが均一であるか、不均一であるかを判断します。



デフォルトのスペーシングを使用: 符頭間の距離が最適化される



譜表をまたぐ連桁に最適なスペーシングを使用: 符尾間の距離が最適化される

譜表をまたぐ連桁をオプティカルスペーシングに変更する

レイアウトごとに個別に、譜表をまたぐ連桁について符頭のかわりに符尾の間隔を均一するよう変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストで、譜表をまたぐ連桁をオプティカルスペーシングに変更するレイアウトを選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストの「音符のスペーシング (Note Spacing)」をクリックします。
4. 「2つの譜表間の連桁にオプティカルスペーシングを使用 (Use optical spacing for beams between staves)」をオンにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

譜表が複数ある場合の譜表をまたぐ連桁の配置

インストゥルメントに3つ以上の譜表がある場合、譜表をまたぐ連桁は何通りかが考えられます。たとえば、連桁が一番上と2番目の譜表の間に配置される場合や、2番目と一番下の譜表の間に配置される場合もあります。

連桁がまたがる譜表が2つだけの場合、譜表をまたぐ連桁はこの2つの譜表の間に配置されます。

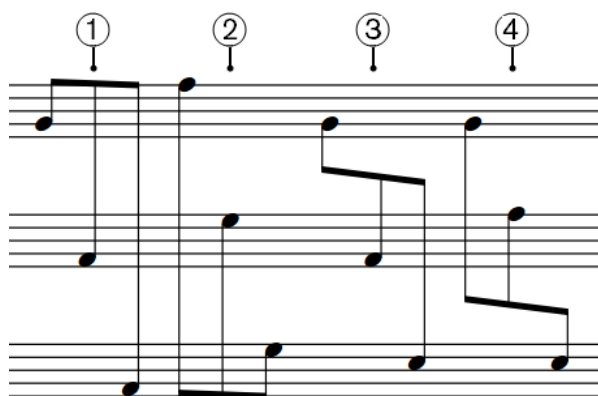


譜表が3つあるインストゥルメントで、上の2つの譜表をまたぐ連桁



譜表が3つあるインストゥルメントで、下の2つの譜表をまたぐ連桁

連桁グループの音符が3つの譜表すべてに乗っている場合、連桁の位置は各譜表の音符の符尾の方向に基づいて決定されます。



- 1 連桁グループのすべての音符の符尾が上向きであれば、連桁が一番上の譜表の上に配置されます。
- 2 連桁グループのすべての音符の符尾が下向きであれば、連桁が一番下の譜表の下に配置されます。
- 3 一番上の譜表の音符の符尾が下向きで、下の2つの譜表の音符の符尾が上向きの場合、連桁が一番上と2番目の譜表の間に配置されます。
- 4 上の2つの譜表の音符の符尾が下向きで、一番下の譜表の音符の符尾が上向きの場合、連桁は2番目と一番下の譜表の間に配置されます。

補足

符尾の方向を指定していない場合、連桁を配置したい場所ではなく、音符が入力された譜表の上または下に連桁が配置されることがあります。

連桁を特定の譜表の間に配置するには、連桁グループの音符の符尾の方向を変更します。

関連リンク

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(1215 ページ\)](#)

連桁のでっぱり

連桁の途中で符尾の方向が変わり、これが第2連桁グループの区切りと組み合わせたとき、連桁のでっぱりが生じる場合があります。これは分割の終わりまたはリズム値の変更位置で生じる可能性があります。

連桁のでppりは、第2連桁の並び順やリズム上の意味に関するルールに従っておらず、演奏者を混乱させる原因となります。



Dorico Pro ではフレーズ中の音程や符尾を分析して、連桁のでppりが発生しないように符尾の方向が調節されます。

第2連桁

第2連桁とは、リズムの分割が細かくなった際に、第1連桁と符頭の間追加される線です。

第1連桁は、連桁グループ内の音符すべてを連結する、一番外側にある連桁線です。連桁グループ内の音符のデュレーションが16分音符以下である場合、第1連桁の線は2本以上になることがあります。

第2連桁は、グループ内の一部の音符だけを連結した追加の連桁線で、これにより連桁が分割され、連桁の拍のグループ分けが明確になります。



第2連桁によって16分音符と8分音符のグループに分割されて表示された64分音符のフレーズ

「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで、第2連桁の表示方法をフローごとに設定できます。

第2連桁の連桁線の数を変更する

第2連桁に表示される連桁線の数を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

手順

1. 連桁線の数を変更する第2連桁の右側にある音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

- もしも選択した音符がいずれも第2連符の既存の分割位置のすぐ後ろにない場合、必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって第2連符を分割します。

- プロパティパネルの「**連符 (Beaming)**」グループで「**第2連符を分割 (Split secondary beam)**」をオンにします。

補足

音符しか選択していない場合、「**連符 (Beaming)**」グループはプロパティパネルにのみ表示されます。

- 「**編集 (Edit)**」 > 「**連符 (Beaming)**」 > 「**第2連符を分割 (Split Secondary Beam)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- プロパティパネルで、「**第2連符を分割 (Split secondary beam)**」メニューから表示させたい連符線の数に一致する音価を選択します。

結果

選択した音符のすぐ左側にある連符線の数を変更されます。

補足

- 第2連符の分割位置に表示される連符線の数は、第2連符の連符数より少ない数にしか設定できません。たとえば、64分音符で構成される第2連符を分割する場合、分割位置に表示される連符線の最大数は、32分音符の音価を示す3本となります。
- 各フローで表示される第二連符の連符線のデフォルトの数字を個別に変更するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」にある「**連符のグループ化 (Beam Grouping)**」ページで設定を行ないます。

第2連符の線の数への変更をリセットする

第2連符に表示される連符線の数への変更は、リセットして初期設定の外観に戻すことができます。

手順

- 第2連符の線の数をリセットする位置の右にある音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- 以下のいずれかの操作を行なって、第2連符の線の数への変更をリセットします。
 - プロパティパネルの「**連符 (Beaming)**」グループで「**第2連符を分割 (Split secondary beam)**」をオフにします。
 - 「**編集 (Edit)**」 > 「**連符 (Beaming)**」 > 「**連符をリセット (Reset Beaming)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

連符内の連符

連符になる音符が含まれる連符も連符で連結されますが、連符以外の音符も含まれる連符内の連符には、特別な連符のグループ化ルールが適用されます。

第2連符がある連符グループに連符が含まれる場合、初期設定では第2連符が分割され、連符に角括弧が付きます。第1連符は分割されません。

角括弧の外観を変更するには、角括弧を選択して、プロパティパネルの「**連符 (Tuplets)**」グループで関連するプロパティを変更します。



第2連符がある連符グループ内の連符が、初期設定により分割された第2連符と一緒に連符でグループ化されている

連符に第1連符しかない場合、初期設定では連符全体がグループから分けられます。ただしこの設定は、「記譜オプション (Notation Options)」の「連符のグループ化 (Beam Grouping)」ページで変更できます。



初期設定により、8分連符は後続の連符でない8分音符とは連符でグループ化されない

関連リンク

[連符 \(1276 ページ\)](#)

ステムレット

ステムレットは連符グループ内で連符から休符に伸びる短い符尾です。これを使用すると楽譜が読みやすくなるとともに、連符内の符尾の規則的なパターンを維持できます。

下の例では、すべての音符と休符を連符でつなげて4分音符の長さにまとめることで、音符のシンコペーションを見やすくしています。休符にステムレットが付くことで4分音符の長さの中で音符がどの位置にあるかが明確になります。



ステムレットを使用していないシンコペーション



ステムレットを使用したシンコペーション

ステムレットのデフォルトの外観は各フローで変更でき、個々の連符でステムレットを表示することもできます。

連符グループ内のステムレットを個別に表示する

ステムレットは、連符グループ内の休符に個別に表示できます。この場合、フローに設定されたステムレットの表示の初期設定は無視されます。

手順

1. グループ化する音符と休符のステムレットを選択します。
たとえば、2つの音符の間にある休符にステムレットを表示するには、両方の音符を選択します。連符でつながれたフレーズの最後にある休符にステムレットを表示するには、連符内のすべての音符に加え、休符を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「連符 (Beaming)」 > 「ステムレット (Stemlets)」 > 「連符に強制的にステムレットを作成 (Force Stemlet Beam)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した音符は、連符グループ内にある休符のステムレットにグループ化されます。

補足

- 選択した連桁グループの連桁をあとからリセットした場合、ステムレットの表示はフローに設定された初期設定に戻ります。
- 各フローのすべての連桁グループ内にある休符のステムレットを表示するには、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで設定を行ないます。

例



特定の休符のみを選択した場合のステムレット



両側の音符を選択した場合のステムレット



連桁グループ内のすべての音符と休符を選択した場合のステムレット

ステムレットを連桁グループ内から個別に削除する

ステムレットは、連桁グループ内の休符から個別に削除できます。この場合、フローに設定されたステムレットの表示の初期設定は無視されます。

手順

1. 休符のステムレットを削除する連桁グループそれぞれについて、音符を1つ以上選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「ステムレット (Stemlets)」 > 「連桁にステムレットを作成しない (Suppress Stemlet Beam)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した連桁内のすべての休符からステムレットが削除されます。

補足

- 連桁からステムレットを削除しても、選択した連桁はフローの初期設定の連桁グループに戻りません。
- 各フローのすべての連桁グループ内にある休符のステムレットを非表示にするには、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで設定を行ないます。

例



ステムレットのある連桁グループ



ステムレットのない連桁グループ

関連リンク

[連桁グループのリセット \(677 ページ\)](#)

扇形連桁

扇形連桁は、複数の連桁線が反対側の単一の連桁線に向かって広がる場合はアツチェレランドを示し、反対側の連桁線に収束する場合はラレンタンドを示します。

1つの扇形連桁内で傾斜方向を複数回変更できます。

連桁には線を2本か3本使用できます。2本より3本の方が大きな速度の変化を表わします。連桁線の収束した部分が最も遅く、広がりきった部分が最も速くなります。

例



3本線のアツチェレランドの扇形連桁



2本線のアツチェレランドの扇形連桁



3本線のラレンタンドの扇形連桁



2本線のラレンタンドの扇形連桁

扇形連桁を作成する

8分音符、16分音符、32分音符といった連桁を作成できる音符であれば、どのようなグループにでも扇形連桁を作成できます。

手順

1. 扇形連桁に含める音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「扇形連桁を作成 (Create Fanned Beam)」 > 「向きと線の本数」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
たとえば、3本線のアツチェレランドの扇形連桁を作成するには、「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「扇形連桁を作成 (Create Fanned Beam)」 > 「アツチェレランド (三本線) (Accelerando (Three Lines))」を選択します。

結果

選択した音符が、元のデュレーションが何であるにかかわらず、ひとつながりの扇形連桁で連結されます。

扇形連桁の方向を変更する

フレーズ内で扇形連桁の方向を変更して、テンポの変更を指示できます。

手順

1. 浄書モードで、扇形連桁の傾斜方向を変更する位置にある音符の符頭を選択します。フレーズ内の位置は複数選択できます。
2. プロパティパネルの「連桁 (Beaming)」グループで「扇形連桁の方向を変更 (Change fanned beam direction)」をオンにします。

例

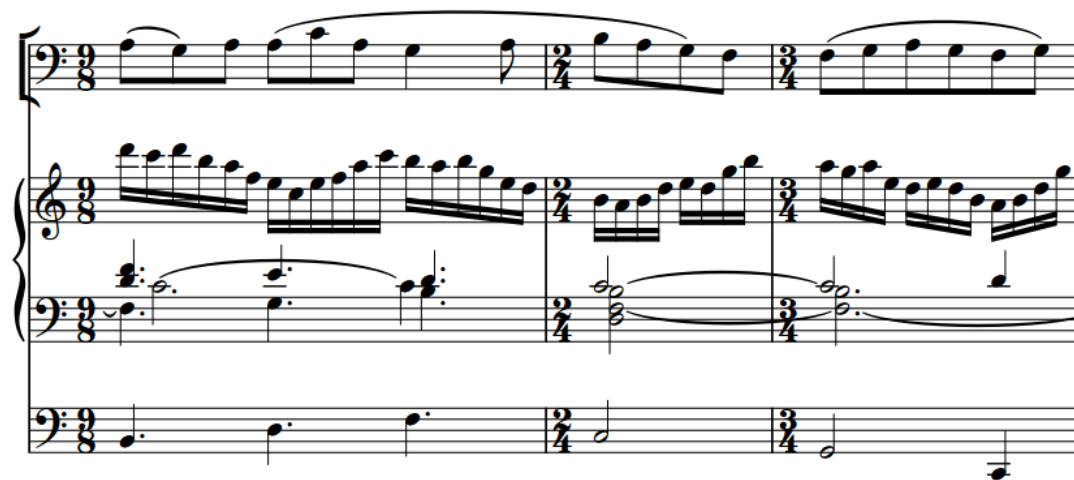


方向を複数回変更した扇形連桁

音符と休符のグループ化

さまざまなデュレーションによる音符と休符の、さまざまな拍子および前後関係におけるグループ化と記譜の方法については、一般的な表記規則があります。Dorico Pro では、音符は小節に収まるように自動的に調整されて記譜され、フローごとの設定に従ってグループ化されます。

一般的な拍子記号に応じて、さまざまな方法で音符が連桁が連結されます。たとえば、3/4 拍子のように半分に割れない、またはまったく割れない拍子記号においては、小節内のすべての音符を連桁で連結するのが適切な場合があります。



異なる拍子を使用するパッセージ。異なる拍子では音符の連桁のグループ化の形も変わります。タイでつながれた音符のデュレーションが2本めの小節線をまたぐ場合は自動的に修正されます。

タイでつながれた音符は、音符と休符のグループ化設定に影響されます。これは、小節内の重要な拍の境界を示すためにタイで連結された音符を分割する方法、および拍の境界をまたいでもよい状況について、さまざまな表記規則が存在するためです。

同様のオプションは付点音符にも適用されます。付点音符は多くの場合、小節の冒頭から始まる場合は付点音符1つで記譜されますが、小節の途中から始まる場合は、拍の境界を明確に示すためにタイによる連結で記譜されます。

ヒント

「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「音符のグループ化 (Note Grouping)」および「連桁のグループ化 (Beam Grouping)」ページで、プロジェクトの音符のグループ化および連桁のグループ化に関するデフォルト設定を変更できます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

関連リンク

[連桁 \(675 ページ\)](#)

[拍に従う連桁グループ \(676 ページ\)](#)

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

[連桁のグループ化に関するフローごとの記譜オプション \(676 ページ\)](#)

拍子のカスタム連桁グループを作成する

使用中の楽譜の特定の拍子で、デフォルトと異なる連桁のグループ化の設定が必要な場合、拍子記号に対して特定の連桁のグループ化を指定できます。拍子記号に指定したカスタム連桁グループを表示するかを設定できます。

補足

連桁のグループのデューレーションは、現在の拍子記号における拍のグループ化、および「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」のフローごとの連桁グループ化の設定に従います。たとえば、拍子記号のポップオーバーに「**[1+1+1+1]/4**」と入力すると、4分音符のグループが4つの拍子記号を挿入します。これは半小節の拍子記号を作成するため、半小節の拍子記号の連桁グループオプションが適用されます。

手順

1. 記譜モードで、カスタム連桁グループありの拍子記号を入力したい位置にある項目を選択します。
2. **[Shift]+[M]** を押して拍子記号のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーの角括弧に分割した値を入力します。
たとえば、7/8 の拍子記号を 2+3+2 に分割するには、ポップオーバーに「**[2+3+2]/8**」と入力します。5/4 の拍子記号を 3+2 ではなく 2+3 に分割するには、ポップオーバーに「**[2+3]/4**」と入力します。
4. 以下のいずれかの操作を行なって、拍子記号を入力してポップオーバーを閉じます。
 - すべての譜表に拍子記号を入力するには、**[Return]** を押します。
 - 選択した譜表のみに拍子記号を入力するには、**[Alt/Opt]+[Return]** を押します。

結果

指定した拍子記号が入力され、以降の小節においては、指定した分割に従って連桁と拍がグループ化されます。「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページの設定に応じて、拍子記号は 7/8 のような単一の数字、もしくは 2+3+2/8 のような拍のグループで表示されます。

ヒント

個々の拍子記号の分子の外観は、プロジェクト全体の設定とは別に、単一の数字を表示させるか拍のグループを表示させるかを変更できます。

関連リンク

[拍に従う連桁グループ \(676 ページ\)](#)

[連桁のグループ化に関するフローごとの記譜オプション \(676 ページ\)](#)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1252 ページ\)](#)

[拍子記号のスタイル \(1258 ページ\)](#)

[拍子記号の分子スタイルを個別に変更する \(1259 ページ\)](#)

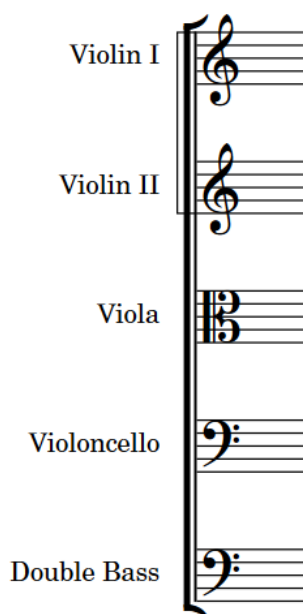
大括弧と中括弧

大括弧と中括弧は左側の余白にそれぞれ太い直線と曲線で描画され、インストゥルメントのグループを表わします。

大括弧

大括弧は連符と同じ太さの太い黒線で、一般的にインストゥルメントのファミリー別にインストゥルメントをグループ化します。多くの場合、両端がスコア側に向かって羽根のように伸びています。

大括弧は常に組段の小節線の左側に直接配置されます。大括弧に追加して第2括弧が使用された場合、1つめの括弧からスペースを空けて、組段の開始位置からさらに離れた位置に配置されます。



弦楽器のインストゥルメントを大括弧でくくった例。副括弧で2つのバイオリンの譜表がくくられています。

Dorico Pro では、大括弧および中括弧でくくられた譜表が小節線によっても連結されます。つまり大括弧でくくられた複数の譜表や中括弧でくくられた複数の譜表は、グループ全体が小節線で連結されます。

中括弧

中括弧は波線または曲線で、同じインストゥルメントに属する複数の譜表をくくります。通常はピアノやハーブなどの大譜表を使用するインストゥルメントに使用されます。中括弧は必要に応じて3つ以上の譜表にまたがることもできますが、2つが最も一般的です。

大括弧でくくられたインストゥルメントファミリーの譜表の中で、同じインストゥルメントのグループを表わすために副括弧のかわりに使用される場合もあります。

中括弧は組段の小節線の外側に配置され、副括弧として使用される場合は大括弧の外側に配置されます。



中括弧でピアノの譜表2つをくくった例

補足

- 譜表に大括弧と中括弧が同時に付くことはありません。そのため、中括弧の付いた譜表は大括弧のグループからは除外されます。また、中括弧の付いた譜表に副括弧や小副括弧は表示できません。
- 組段オブジェクトは、大括弧または中括弧によって括られたインストゥルメントファミリーの上のみ表示されます。

関連リンク

- [譜表グループをまたぐ小節線 \(652 ページ\)](#)
- [プレーヤーグループ \(133 ページ\)](#)
- [プレーヤーグループを追加する \(133 ページ\)](#)
- [アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(696 ページ\)](#)
- [アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更 \(695 ページ\)](#)
- [カスタムの譜表のグループ化 \(700 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更

レイアウトごとにアンサンブルタイプを変更することで、大括弧にどの譜表を含めるかを変更できます。たとえば、すべての打楽器プレーヤーを含むパートレイアウトの括弧のくくり方をフルスコアレイアウトの打楽器の譜表と変える必要がある場合などに便利です。

初期設定では「オーケストラ (Orchestral)」が選択されています。小アンサンブル用のプロジェクトでは、この設定を変更することをおすすめします。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. ブラケットのグループ化のアンサンブルタイプを変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストで「大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)」を選択します。
4. 「アンサンブルタイプ (Ensemble type)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 大括弧なし (No brackets)
 - オーケストラ (Orchestral)
 - 小アンサンブル (Small ensemble)
 - 吹奏楽 (Wind band)
 - ビッグバンド (Big band)
 - 英国式ブラスバンド (British brass band)

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したレイアウトの大括弧のグループ化に関するデフォルトが変更されます。

ヒント

- 大括弧のグループ内にインストゥルメントが1つしかない場合の大括弧の表示/非表示を切り替えたり、譜表が1つだけ表示されている場合の中括弧の表示/非表示を切り替えたりするなど、「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」ページには括弧に関するより詳細なオプションが用意されています。
- また、そのレイアウトの大括弧のグループ化に関する設定より優先される形で、特定の譜表にカスタムの大括弧/中括弧のグループを設定することもできます。

アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化

Dorico Pro では、デフォルトの譜表のグループ化は、レイアウトごとに選択したアンサンブルタイプによって決まります。これは、どの譜表が大括弧でくくられ、小節線で結合されるかに影響します。

「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」ページで、以下のアンサンブルタイプから選択できます。

大括弧なし (No brackets)

大括弧を使用せずに、すべての譜表が別々に表示されます。大譜表を使用するインストゥルメントには中括弧が表示されます。

これは、「ソロ (Solo)」および小編成の「ジャズ (Jazz)」プロジェクトテンプレートから開始したプロジェクトのフルスコアレイアウトのデフォルト設定です。

オーケストラ (Orchestral)

譜表はインストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられます。たとえば、隣接する弦楽器は、隣接する木管楽器とは別の大括弧でくくられます。ただし、声部の譜表は小節線で結合されません。

これは、新規プロジェクトおよび「オーケストラ (Orchestral)」、「合唱および声楽 (Choral and Vocal)」、「コンサートバンド (Concert band)」プロジェクトテンプレートから開始したプロジェクト、そしてその他のすべてのプロジェクトテンプレートから開始したプロジェクトのカスタムスコアレイアウトおよびパートレイアウトのデフォルト設定です。

小アンサンブル (Small ensemble)

インストゥルメントファミリーに関係なく、中括弧が付く譜表を除いたプロジェクトのすべての譜表が大括弧でくくられます。

これは、「室内楽 (Chamber)」および「ピットバンド (Pit band)」プロジェクトテンプレートから開始したプロジェクトのフルスコアレイアウトのデフォルト設定です。

吹奏楽 (Wind band)

譜表はインストゥルメントタイプごとに大括弧でくくられます。たとえば、フルート1とフルート2は大括弧でくくられますが、ほかの木管楽器とは別になります。

ビッグバンド (Big band)

譜表はインストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられますが、例外で金管楽器はインストゥルメントタイプごとに大括弧でくくられます。

リズムセクションのインストゥルメントは大括弧でくくられます。

打楽器とティンパニは大括弧でくくられます。

英国式ブラスバンド (British brass band)

金管楽器はインストゥルメントタイプごとに大括弧でくくられますが、例外でホルンとトランペットは一緒に大括弧でくくられます。

スコア内のその他すべてのインストゥルメントは、インストゥルメントファミリーごとに大括弧でくくられます。

打楽器とティンパニは個別に大括弧でくくられます。

これは、「ビッグバンド (Big band)」プロジェクトテンプレートから開始したプロジェクトのフルスコアレイアウトのデフォルト設定です。

補足

- 譜表に大括弧と中括弧が同時に付くことはありません。そのため、ピアノや大譜表を使用するその他のインストゥルメントなどの連合譜表は大括弧から除外されます。またそれらの楽器が大括弧でくくられたグループ内に配置された場合は、別の大括弧でくくられます。
- 初期設定では、大括弧を表示するには、隣接する楽器が少なくとも2つは必要です。「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」ページで、単一のインストゥルメントに大括弧を表示するかどうかをレイアウトごとに選択できます。
- 声部の譜表は、たとえ大括弧でくくられていても小節線では結合されません。
- 組段オブジェクトは、大括弧または中括弧によって括られたインストゥルメントファミリーの上のみ表示されます。

関連リンク

[プロジェクトテンプレートのカテゴリー \(71 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[カスタムの譜表のグループ化 \(700 ページ\)](#)

第2括弧

第2括弧は第2レベルの譜表のグループ化です。これらは大括弧の左側に配置され、大括弧でくくられたグループ内の譜表グループにマークを付けることができます。Dorico Pro では、第2括弧を中括弧または副括弧として表示できます。

初期設定では第2括弧は副括弧として表示され、大括弧の外側に細い線の角括弧で表わされます。第2括弧の外観を変更したり、大括弧のグループ内の隣接する同一のインストゥルメントの第2括弧の表示/非表示をレイアウトごとに切り替えたりできます。



副括弧としての第2括弧



中括弧としての第2括弧

補足

中括弧に加えて小副括弧を表示することはできません。小副括弧は副括弧にのみ追加できます。

カスタムの大括弧/中括弧のグループを使用すると、選択した位置から先に副括弧を入力したり削除したりできます。

「浄書オプション (Engraving Options)」の「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「副括弧 (Sub-brackets)」サブセクションで、副括弧を組段の小節線まで伸ばすか、あるいは大括弧までにするかなど、第2括弧の位置と外観のさまざまな設定を変更できます。

関連リンク

[カスタムの譜表のグループ化 \(700 ページ\)](#)

第2括弧の表示/非表示を切り替える

大括弧のグループ内の隣接する同一のインストゥルメントの第2括弧の表示/非表示をレイアウトごとに個別に切り替えることができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストで、第2括弧を表示/非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストで「大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)」を選択します。
4. 「大括弧グループ内の同じ種類の楽器 (Instruments of the same kind within a bracketed group)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 第2括弧を使用 (Use secondary brackets)
 - 第2括弧を使用しない (No secondary brackets)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

「第2括弧を使用 (Use secondary brackets)」を選択すると、選択したレイアウトに第2括弧が表示され、「第2括弧を使用しない (No secondary brackets)」を選択すると非表示になります。

ヒント

カスタムの大括弧/中括弧のグループを使用すると、選択した位置から先に副括弧を表示できます (初期設定では非表示になっているレイアウトを含む)。

第2括弧を副括弧/中括弧として表示する

第2括弧は大括弧の範囲を超えて表示されるため、大括弧内のグループに含まれる譜表にマークを付けられます。第2括弧は大括弧の外に表示される中括弧、または副括弧として、レイアウトごとに個別に表示できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 第2括弧の外観を変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストで「大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)」を選択します。
4. 「第2括弧の外観 (Secondary bracket appearance)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 中括弧 (ブレイス) (Brace)
 - 副括弧 (Sub-bracket)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したレイアウトのすべての第2括弧の外観が変更されます。これには、カスタムの大括弧/中括弧のグループの第2括弧も含まれます。

補足

中括弧に加えて小副括弧を表示することはできないため、副括弧が中括弧として表示されるレイアウトには小副括弧が表示されません。

小副括弧

小副括弧は譜表のグループ化の第3階層で、副括弧と同じデザインを使用します。これは大括弧と副括弧より外側に位置し、大括弧と副括弧によるグループ内にさらに譜表のグループを作成できます。Dorico Pro では、小副括弧は角括弧の外観しか使用できません。

小副括弧はそれが属する副括弧の外側に延ばすことはできず、中括弧の付く譜表には、中括弧が第1グループまたは第2グループのいずれであっても表示できません。



カスタムの大括弧/中括弧のグループを使用すると、選択した位置から先に小副括弧を入力したり削除したりできます。

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「小副括弧 (Sub-sub-brackets)」サブセクションでは、小副括弧の線の太さ、幅およびデザインを変更できます。

浄書オプションで大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)」ページで大括弧と中括弧の外観を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」ページのオプションを使用すると、大括弧の終端の羽根の表示/非表示を切り替えたり、大括弧、中括弧、副括弧、小副括弧、および組段の小節線などのその他

のアイテムの間隔を調節したりするなどして、大括弧のデザインを変更できます。また、異なるデザインの中括弧を自動的に適用するためのスパンのしきい値を設定することもでき、平坦な中括弧を表示しないようにすることもできます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更 \(695 ページ\)](#)

大括弧の終端の外観を変更する

大括弧の終端の外観を変更して、プロジェクト全体に適用できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストで「**大括弧 (ブラケット) と中括弧 (ブレイス) (Brackets and Braces)**」を選択します。
3. 「**デザイン (Design)**」セクションの「**大括弧の終端のデザイン (Bracket end design)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。

- **羽根付き (Wings)** (初期設定)



- **横棒線 (Horizontal line)**



- **なし (None)**



カスタムの譜表のグループ化

Dorico Pro では、デフォルトの括弧設定には含まれない譜表グループがプロジェクトに必要な場合、カスタムの譜表のグループ化を使用して、大括弧、中括弧、副括弧、小副括弧、または小節線で、どの譜表を結合するか変更できます。

デフォルトの譜表グループに対する変更はすべて大括弧と小節線の変更のガイドとして表示されます。これには変更の適用が開始される位置も表示されます。これらは現在のレイアウトの譜表のグループ化にのみ影響します。

大括弧と小節線の変更のガイドが組段の開始位置に配置されている場合、対応する譜表のグループ化の変更は、その組段以降に適用されます。ガイドが組段の途中に配置されている場合、変更は次の組段から適用されます。

Bracket and Barline Change

チェロのディヴィジのパートを分割する小副括弧が追加されたことと、小節線が弦楽器全体ではなく同じインストゥルメントタイプの譜表のみ結合することを示す大括弧と小節線の変更のガイド

補足

最良の結果を得るために、大括弧/中括弧のグループ化や小節線の結合の変更は、追加の譜表、オプション譜表、または追加のインストゥルメントを追加してから入力すること、またその際はレイアウト中のすべての譜表を表示しておくことをおすすめします。空白の譜表は、変更を入力したあとに再度非表示にできます。

また、大括弧/中括弧のグループ化や小節線の結合の変更はすべてフローの開始位置に入力しつつ、曲中の変更があれば時系列順に追加することをおすすめします。フローの終わり側から入力を開始することはおすすめしません。

関連リンク

[ガイド \(337 ページ\)](#)

[カスタムの小節線の結合を入力する \(654 ページ\)](#)

[譜表グループをまたぐ小節線 \(652 ページ\)](#)

カスタムの大括弧/中括弧のグループを入力する

カスタムの大括弧/中括弧のグループ化の変更はどの位置にでも入力できます。これは大括弧、副括弧、小副括弧および中括弧でどの譜表をグループ化するか変更するものです。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、その開始位置から変更を適用する組段の、大括弧/中括弧でグループ化する一番上の譜表のアイテムを選択します。

2. 大括弧/中括弧でグループ化する一番下の譜表のアイテムを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。
3. 形式設定パネルで、「括弧 (Bracketing)」グループから以下のいずれかをclickします。

- 大括弧を挿入 (Insert bracket)



- 副括弧を挿入 (Insert sub-bracket)



- 小副括弧を挿入 (Insert sub-sub-bracket)



- 中括弧を挿入 (Insert brace)



結果

アイテムを選択した譜表とその間のすべての現在のレイアウトの譜表が選択した大括弧または中括弧で結合されます。これは次の大括弧と小節線の変更がある位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。アイテムを選択していた組段の開始位置にガイドが表示されます。

大括弧/中括弧は重なり合えないため、既存の大括弧または中括弧のグループ化がある場合、新しいグループを表示できるように必要に応じて調整されます。

補足

- 大括弧と小節線の変更のガイドは、組段の開始位置に適用されるものであるため移動できません。ただし、たとえば組段区切りを移動したような場合は、組段の途中に表示されることもあります。大括弧と小節線の変更のガイドが組段の途中に位置する場合、対応する変化の効果は次の組段の開始位置まで現れません。
 - 第2括弧の外観のレイアウトごとの設定によっては、副括弧が中括弧として表示される場合があります。中括弧に加えて小副括弧を表示することはできないため、副括弧が中括弧として表示されるレイアウトには小副括弧が表示されません。
 - 譜表に大括弧と中括弧が同時に付くことはありません。そのため、中括弧の付いた譜表は大括弧のグループからは除外されます。
-

例

デフォルトの譜表のグループ化によるチェロのディヴィジの譜表

小副括弧が追加されたディヴィジ譜表

関連リンク

[第2 括弧を副括弧/中括弧として表示する \(698 ページ\)](#)

カスタムの大括弧/中括弧の長さを変更する

カスタムの大括弧/中括弧は、垂直方向の長さを変更して譜表の範囲を変更できます。たとえば大括弧のグループの下に新しくプレイヤーを追加して、その譜表まで大括弧を延長する場合などに使用できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、長さを変更する大括弧/中括弧の上端か下端いずれかのハンドルを選択します。

ヒント

大括弧/中括弧の変更は、ガイドの位置から次の既存の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されるため、1回の変更につき選択する大括弧/中括弧のハンドルは1つだけで構いません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して1つ上の譜表へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して1つ下の譜表へ移動します。
- ハンドルをクリックして上か下の譜表に向かって上か下にドラッグします。

結果

選択した大括弧/中括弧の長さが変わって、上か下につながる譜表の範囲が変更されます。これは、対応する大括弧と小節線の変更が適用されるすべての組段の、大括弧/中括弧に含まれる譜表に影響します。

補足

各譜表に大括弧/中括弧は1つしか存在できず、重なり合うこともできません。選択した大括弧/中括弧の長さを変更した結果、一部が他の大括弧/中括弧に重なった場合、他の大括弧/中括弧はそれに合わせて短縮されます。

この動作は元に戻せますが、このとき影響された他の大括弧/中括弧の長さを復元できるのは、キーボードを使用して大括弧/中括弧の長さを変更した場合のみです。

大括弧と小節線の変更のリセット

大括弧/中括弧のグループ化および小節線の結合のカスタムの変更はリセットできます。これはカスタムのグループ化/結合を使用したパッセージのあとで、それ以降の組段からプロジェクト全体の譜表のグループ化の設定を復元させるものです。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、譜表のグループ化をリセットする位置にあるアイテムを選択します。
 2. 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**大括弧と小節線のリセットを作成 (Reset Bracketing)**」を選択します。
-

結果

大括弧/中括弧のグループ化の変更と小節線の結合の変更のいずれも含む譜表のグループ化が、プロジェクト全体の譜表のグループ化の設定にリセットされます。これはリズム上の選択位置から、次の既存の大括弧と小節線の変更がある位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。選択したアイテムの位置にガイドが表示されます。

組段の途中でアイテムを選択していた場合、次の組段の開始位置まで譜表のグループ化はリセットされません。

ヒント

また、プロパティパネルの「**大括弧と小節線の変更 (Bracket and Barline Changes)**」グループの「**大括弧を変更 (Change bracketing)**」および「**小節線を変更 (Change barlines)**」プロパティを使用すると、大括弧/中括弧のグループ化の変更と小節線の結合の変更を、それぞれ個別にリセットできます。これらのプロパティを「**自動 (Auto)**」に設定すると、選択した変更の対応する部分がリセットされます。

大括弧と小節線の変更の削除

たとえば大括弧/中括弧のグループ化をリセットする位置に関して変更を要する場合など、大括弧/中括弧のグループ化および小節線の結合のカスタムの変更は削除できます。

手順

1. 削除する大括弧と小節線の変更のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
-

結果

選択した大括弧と小節線の変更が削除されます。対応する組段すべての譜表のグループ化は、その位置より前の大括弧と小節線の変更か、それがなければプロジェクト全体の譜表のグループ化の設定に従います。

ヒント

- 浄書モードでは、削除する大括弧/中括弧も選択できます。
 - また個々の小節線の結合は、リズム上の同じ位置にある他の小節線の結合および大括弧/中括弧のグループ化の変更とは個別に削除できます。
-

関連リンク

[アンサンブルタイプによる大括弧でのグループ化 \(696 ページ\)](#)

[小節線の結合を個別に削除する \(655 ページ\)](#)

コード記号

コード記号とは、楽譜上の特定の瞬間における縦のハーモニーを記述するものです。コード記号は、プレイヤーがコード進行に合わせて即興演奏を行なうジャズやポップスでは多く使用されます。

The image shows a musical score in 4/4 time with a key signature of one flat (B-flat). The score consists of two systems. The top system has a clarinet staff with a melody and a piano staff with chords. The bottom system has a piano staff with chords. Chord symbols are placed above the clarinet staff and below the piano staff. The symbols are: C7, G7/D, C7, F, G#dim7, Gm7, F, C7, F, C7. The piano staff in the bottom system shows the corresponding chord voicings for these symbols.

クラリネットとピアノの譜表のスラッシュの上にあるコード記号は、記譜されたホルネットのメロディに合わせてプレイヤーが即興で演奏するのを補助します。

Dorico Pro の初期設定では、コード記号はプロジェクト全体において入力された位置で存在します。つまり、コード記号の入力が必要なのは一度だけで、あとは必要に応じて複数の譜表の上に表示したり、すべての譜表で非表示にしたりできるという意味です。ただし、状況によっては同じ位置の異なるプレイヤーに対して異なるコード記号を表示する必要がある場合もあります。このような場合には、ローカルなコード記号を入力できます。

コード記号の表示/非表示は特定のインストゥルメントの譜表に対して切り替えることができ、これはプロジェクト全体に反映されます。これは複数のインストゥルメントが同じプレイヤーに割り当てられている場合でも、異なるレイアウトでも同様です。またコード記号をコード記号領域/スラッシュ領域の中でのみ表示させることも、それぞれのコード記号の表示/非表示を切り替えることもできます。

コード記号が入力してあっても、現在のレイアウトにコード記号を表示する設定のプレイヤーがない場合は、コード記号はガイドとして表示されます。

音楽のスタイルに応じて、コード記号の表示に関するさまざまな表記規則が存在します。

Dorico Pro には、コード記号の外観に幅広く対応し選択できるプリセット一式が用意され、各コンポーネントの外観を個別にカスタマイズすることもできます。さらに、Gmaj7 のような各種のコード記号の外観について、あるコード記号に属するすべてのインスタンスにプロジェクト全体で編集を反映させることも、コード記号単体で編集することもできます。

関連リンク

[コード記号の入力方法 \(249 ページ\)](#)

[コード記号の外観のプリセット \(707 ページ\)](#)

[コード記号を表示/非表示にする \(717 ページ\)](#)

[ガイドの表示/非表示の切り替え \(339 ページ\)](#)

コードの構成要素

コード記号はルートとクオリティーによって構成され、これに必要なに応じて音程、オルタレーション、オンコードが加わります。

ルート

コードのルート音は、ノート名またはスケール上の特定の度数のいずれかによって表現されます。

クオリティー

メジャー、マイナー、ディミニッシュ、オーギュメント、ハーフディミニッシュ、または6や9などの音を加えることで、コードのタイプを定義します。

音程

コード記号には、メジャー 7th や 9th といった追加の音程を 1 つ以上含められます。コード記号内に記される音程は、テンションとも呼ばれます。

オルタレーション

通常コードに予測されるものとは異なるコードの構成音を定義します。たとえば、シャープ 5th、フラット 9th、sus や omit があります。

オンコード

コードの最低音がルート音とは異なる場合、コード記号は Cm7b5/Eb のようにオンコードとして記されます。

浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」ページで、コード記号の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「コード記号 (Chord Symbols)」ページのオプションでは、臨時記号やオルタレーションの順番や配置、およびそのデフォルト位置を含めた、各種コードの外観を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

コード記号の外観のプリセット

コード記号の外観にはさまざまな規則があるため、Dorico Pro では、そのまま使用または編集して使用できる規則のプリセットが提供されています。

たとえば、初期設定のコード記号のプリセットを編集したり、初期設定の外観を変更することなくコード記号を個別に編集したり、コード記号内の要素を個別に編集したりできます。

コード記号のプリセットは「浄書オプション (Engraving Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」ページ上部で選択できます。

コード記号のプリセットの例

Bbmaj7(#11)/F

コード記号のプリセット名

デフォルト (Default)

コード記号のプリセットの例	コード記号のプリセット名
$B^b\text{maj}7(\#9 \#11)/F$	Boston
$B^b\text{MA}7(\#9 \#11)/F$	Brandt-Roemer
$B^b\Delta_{+9}^{+11}/F$	Indiana
$B^b\text{Maj}7_{+9}^{+11}/F$	New York
$\frac{b7\Delta_{\#9}^{\#11}}{4}$	Nashville
$B^b\text{MA}7(\#9 \#11)/F$	Jazz Standards
$\frac{B^b\text{maj}7_{+9}^{+11}}{F}$	Ross
$B^b\text{M}7(\#9 \#11)_{on}F$	日本語

これらのプリセットは「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページにある特定のオプションを組み合わせたものです。これらのオプションはユーザーの要求にあうように個別に調節できます。

「**デフォルト (Default)**」を選択すると、できるだけ明確になるよう調節された記号のセットが使用されます。たとえば、「**デフォルト (Default)**」では、メジャー 7th、オーギュメント、ディミニッシュ、およびハーフディミニッシュの記号はできるだけ使用しません。新規プロジェクトを作成すると、初期設定で「**デフォルト (Default)**」が使用されます。

「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページでプリセットのオプションを変更すると、自動的に「**カスタム (Custom)**」が選択されます。

関連リンク

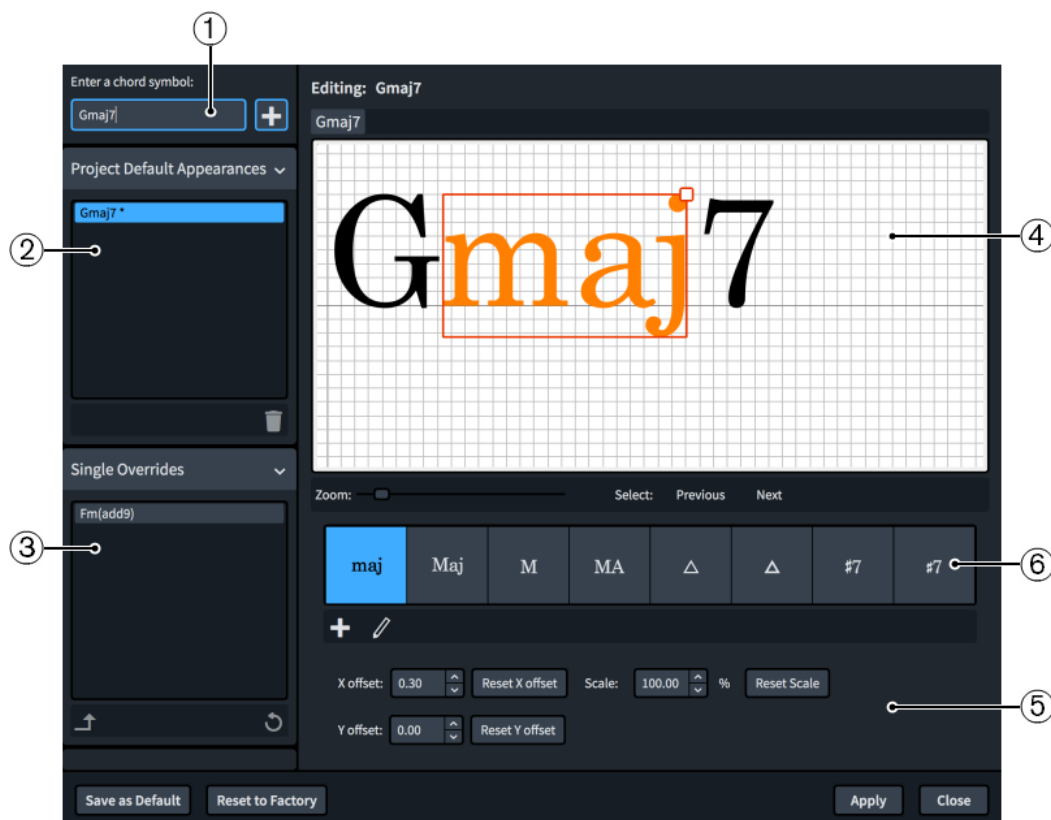
[「コード記号の外観を編集 \(Edit Chord Symbol Appearance\)」ダイアログ \(711 ページ\)](#)

[「コード記号要素の編集 \(Edit Chord Symbol Component\)」ダイアログ \(712 ページ\)](#)

「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」 ダイアログ

「プロジェクトにおけるコード記号のデフォルトの外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを使用すると、コード記号のデフォルトの外観を編集できます。これによってプロジェクト全体のコード記号の外観が変更されます。

- 「プロジェクトのデフォルトのコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを開くには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」ページの「プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)」セクションにある「編集 (Edit)」をクリックします。



「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログ

「プロジェクトのデフォルトのコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログには以下のセクションがあります。

1 コード記号を入力 (Enter a chord symbol)

プロジェクト全体のデフォルトの外観を編集するコード記号を入力できます。「プロジェクトのデフォルトを追加 (Add Project Default)」をクリックするか、[Return] を押して「プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)」リストにコード記号を追加すると、エディターでコード記号を編集できるようになります。

2 「プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)」リスト

プロジェクト内でプロジェクトのデフォルトの外観が編集されているコード記号が表示されます。コード記号のプロジェクトのデフォルトの外観に加えた変更を削除するには、アクションバーの「削除 (Delete)」をクリックします。



3 「個別に上書き (Single Overrides)」リスト

プロジェクト内で個別の外観が上書きされているコード記号が表示されます。

個別のコード記号に加えた編集を、そのコードのプロジェクトのデフォルトの外観に設定するには、アクションバーの「プロジェクトのデフォルトに設定 (Promote to Project Default)」をクリックします。



コード記号のプロジェクトのデフォルトの外観に対する個別の上書きをリセットするには、アクションバーの「上書きを解除 (Remove Overrides)」をクリックします。



4 エディター

コード記号の構成要素の配置と編集を行なえます。ダイアログ下部のコントロールを使用するか、またはエディター内で要素を選択してから以下のいずれかの操作を行なうと、個々の構成要素を移動できます。

- 項目を移動する標準のキーボードショートカットを押します。たとえば、構成要素を右に移動するには **[Alt/Opt]+[→]**、構成要素を大きく移動するには **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 各構成要素をクリックしてドラッグします。

補足

コード記号の最初の構成要素は移動できません。

「スケール (Scale)」を使用するほかに、エディターで構成要素を選択してから右上角の四角いハンドルをクリックしてドラッグすることでも、構成要素のサイズを変更できます。

5 コントロール

- 「**X オフセット (X offset)**」は構成要素を水平に移動させます。値を増やすと構成要素が右に移動し、減らすと左に移動します。
- 「**Y オフセット (Y offset)**」は構成要素を垂直に移動させます。値を増やすと構成要素が上に移動し、減らすと下に移動します。
- 「**スケール (Scale)**」は構成要素のサイズを変更します。値を増やすと構成要素のサイズが比率に合わせて大きくなり、値を減らすと比率に合わせてサイズが小さくなります。
- 「**X オフセットをリセット (Reset X offset)**」は選択した構成要素の水平位置をリセットします。
- 「**Y オフセットをリセット (Reset Y offset)**」は選択した構成要素の垂直位置をリセットします。
- 「**スケールをリセット (Reset Scale)**」は選択した構成要素のサイズをリセットします。

6 構成要素の代替表示

エディターで選択した構成要素の代替の表示方法を表示します。

アクションバーの対応するボタンをクリックすることで、構成要素の新規作成および既存の要素の編集が行なえます。

- **要素の追加 (Add Component)**



- **要素の編集 (Edit Component)**



いずれかのボタンをクリックすると「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログが開き、コード記号の構成要素を新規作成したり、既存のコード記号の構成要素を編集したりできます。

関連リンク

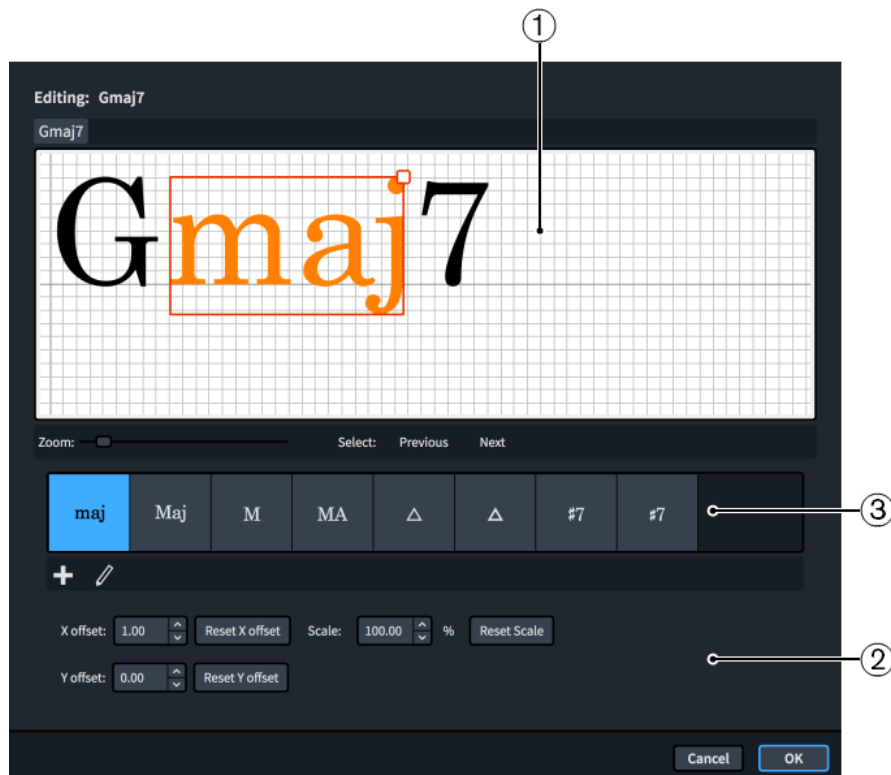
[コード記号の外観のプリセット \(707 ページ\)](#)

[「コード記号要素の編集 \(Edit Chord Symbol Component\)」ダイアログ \(712 ページ\)](#)

「コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)」ダイアログ

「コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)」ダイアログを使用すると、そのコード記号に対するプロジェクトのデフォルトの外観を変更することなく、個々のコード記号の外観と配置を編集できます。

- 「コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)」ダイアログを開くには、浄書モードでコード記号を選択して **[Return]** を押すか、コード記号をダブルクリックします。



「コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)」ダイアログ

「コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)」ダイアログには以下のセクションがあります。

1 エディター

コード記号の構成要素の配置と編集を行なえます。

ダイアログ下部のコントロールを使用するか、またはエディター内で要素を選択してから以下のいずれかの操作を行なうと、個々の構成要素を移動できます。

- 項目を移動する標準のキーボードショートカットを押します。たとえば、構成要素を右に移動するには **[Alt/Opt]+[→]**、構成要素を大きく移動するには **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 各構成要素をクリックしてドラッグします。

補足

コード記号の最初の構成要素は移動できません。

「スケール (Scale)」を使用するほかに、エディターで構成要素を選択してから右上角の四角いハンドルをクリックしてドラッグすることでも、構成要素のサイズを変更できます。

2 コントロール

個々の構成要素を移動したりサイズを変更したりできます。またそれらの位置とサイズのリセットも行なえます。

- 「**X オフセット (X offset)**」は構成要素を水平に移動させます。値を増やすと構成要素が右に移動し、減らすと左に移動します。
- 「**Y オフセット (Y offset)**」は構成要素を垂直に移動させます。値を増やすと構成要素が上に移動し、減らすと下に移動します。
- 「**スケール (Scale)**」は構成要素のサイズを変更します。値を増やすと構成要素のサイズが比率に合わせて大きくなり、値を減らすと比率に合わせてサイズが小さくなります。
- 「**X オフセットをリセット (Reset X offset)**」は選択した構成要素の水平位置をリセットします。
- 「**Y オフセットをリセット (Reset Y offset)**」は選択した構成要素の垂直位置をリセットします。
- 「**スケールをリセット (Reset Scale)**」は選択した構成要素のサイズをリセットします。

3 構成要素の代替表示

アクションバーの対応するボタンをクリックすることで、構成要素の新規作成および既存の要素の編集が行なえます。

- **要素の追加 (Add Component)**



- **要素の編集 (Edit Component)**



いずれかのボタンをクリックすると「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログが開き、構成要素を新規作成したり、既存の構成要素を編集したりできます。

関連リンク

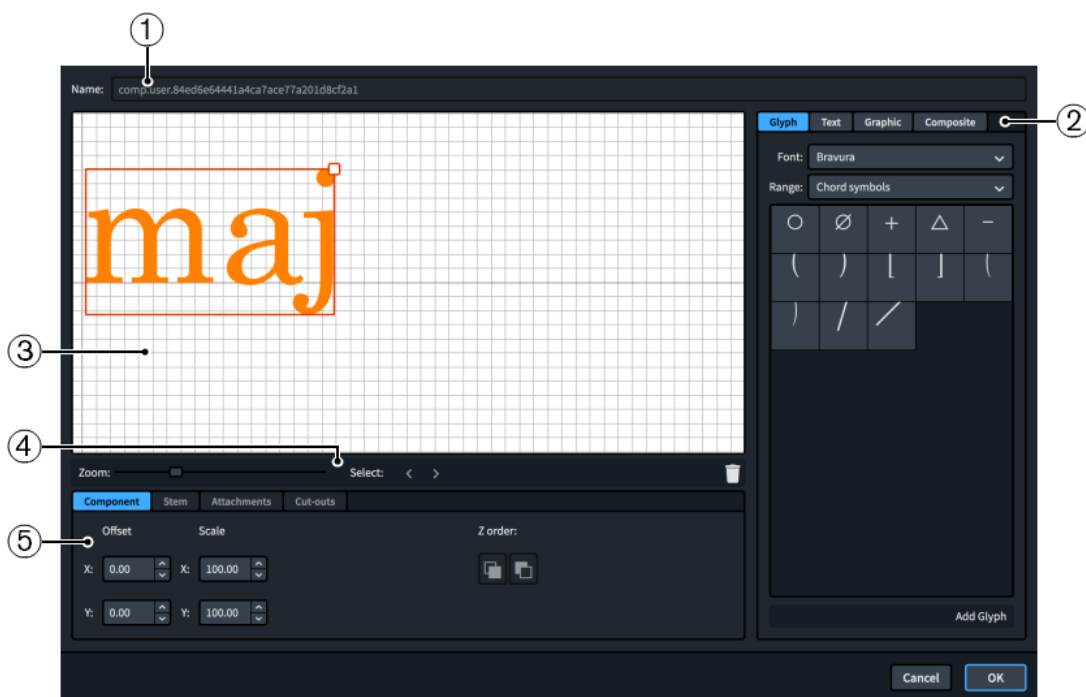
[コード記号の外観のプリセット \(707 ページ\)](#)

「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログ

「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログを使用すると、個別のコード記号とプロジェクトのデフォルトのコード記号の両方に対し、カスタム要素の作成や既存要素の編集が行なえます。

「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログを開くには、以下のダイアログにある構成要素の代替表示アクションバーで「**要素の追加 (Add Component)**」または「**要素の編集 (Edit Component)**」をクリックします。

- 「**プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)**」ダイアログ
- 「**コード記号の外観を編集 (Edit Chord Symbol Appearance)**」ダイアログ



「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログ

「コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)」ダイアログには以下のセクションがあります。

1 名前 (Name)

コード記号の構成要素に対し自動生成された名前が表示されます。この名前は変更できません。

2 構成要素セレクター

コード記号の構成要素に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や#を追加できます。メニューからフォントや範囲を選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフをコード記号の構成要素に追加します。

補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFLのWebサイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したテキスト、または入力したテキストをコード記号の構成要素に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNGまたはJPG形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックをコード記号の構成要素に追加します。
- **組み合わせ (Composite):** リストから組み合わせを選択できます。「**組み合わせを追加 (Add Composite)**」をクリックして、選択した組み合わせをコード記号の構成要素に追加します。

3 エディター

コード記号の構成要素を形作る要素の配置と編集を行なます。ダイアログ下部のコントロールを使用して構成要素の配置および編集が行なえます。

4 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom):** エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select):** 次/前の要素を選択できます。
- **削除 (Delete):** 選択した要素を削除します。



5 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。コード記号で利用できるタブは「**要素 (Component)**」と「**アタッチメント (Attachments)**」だけです。これ以外のタブはコード記号には当てはまらないためです。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **「スケール (Scale)」:** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。

補足

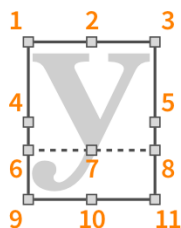
一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- **「前後の順序 (Z order)」:** 要素が重なった場合、「**前面へ移動 (Bring Forward)**」または「**背面へ移動 (Send Backward)**」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。

「**アタッチメント (Attachments)**」タブは、コード記号の構成要素が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from):** 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to):** 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「**コード記号要素の編集 (Edit Chord Symbol Component)**」ダイアログでは、アタッチメントポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)

- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

関連リンク

[コード記号の外観のプリセット \(707 ページ\)](#)

[「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 \(Project Default Chord Symbol Appearances\)」ダイアログ \(709 ページ\)](#)

[「コード記号の外観を編集 \(Edit Chord Symbol Appearance\)」ダイアログ \(711 ページ\)](#)

個別に上書きされたコード記号をプロジェクトの初期設定として使用する

コード記号を個別に上書きした場合、上書き後のコード記号をプロジェクトの初期設定の外観として使用できます。

手順

1. 「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを開きます。
2. 「個別に上書き (Single Overrides)」リストからプロジェクトの初期設定として使用するコード記号を選択します。
3. 「プロジェクトのデフォルトに設定 (Promote to Project Default)」をクリックします。



結果

選択したコード記号の設定がプロジェクトの初期設定の外観として使用されるようになります。

補足

この操作は取り消しできません。変更内容を元に戻すには、「プロジェクトのデフォルトの外観 (Project Default Appearances)」リストからコード記号を削除する必要があります。

関連リンク

[「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 \(Project Default Chord Symbol Appearances\)」ダイアログ \(709 ページ\)](#)

個別に上書きされたコード記号の外観をリセットする

コード記号の外観を個別に上書きしてプロジェクトの初期設定から変更した場合、その外観をリセットできます。

手順

1. 「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 (Project Default Chord Symbol Appearances)」ダイアログを開きます。
2. 「個別に上書き (Single Overrides)」リストからリセットするコード記号を選択します。
3. 「上書きを解除 (Remove Overrides)」をクリックします。



結果

コード記号に対する個別の変更がすべて解除されます。選択したコード記号の外観がプロジェクトの初期設定に戻ります。

関連リンク

[「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観 \(Project Default Chord Symbol Appearances\)」ダイアログ \(709 ページ\)](#)

コード記号のフォントの編集

コード記号に使用するテキストフォントの形式設定を編集して、プロジェクト全体に適用できます。

手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択して、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開きます。
2. 「**フォントスタイル (Font style)**」メニューから、以下のいずれかのフォントを選択します。
 - **コード記号とオンコードの区切り用文字フォント (Chord Symbols Altered Bass Separator Font)**
 - **コード記号のフォント (Chord Symbols Font)**
 - **コード記号の音楽テキスト用フォント (Chord Symbols Music Text Font)**

補足

- 「**コード記号の音楽テキスト用フォント (Chord Symbols Music Text Font)**」の初期設定 (Bravura Text) から変更しないことをおすすめします。テキストベースのアプリケーションで使用できる SMuFL 対応のフォントのみ設定できます。
 - 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号とオンコードの間の区切り用文字 (Separator between chord symbol and altered bass note)**」オプションで「**スラッシュまたは線を使用 (Use slash or line)**」ではなく「**文字を使用 (Use text)**」を選択している場合、「**コード記号とオンコードの区切り用文字フォント (Chord Symbols Altered Bass Separator Font)**」を選択すると、区切り用文字 (on) のフォントを変更できます。
3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
 - **フォントファミリー (Font family)**
 - **サイズ (Size)**
 - **スタイル (Style)**
 - **下線 (Underlined)**
 4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

コード記号の移調

コード記号を入力したあと、音符ごとに個別にコード記号を移調できます。

補足

移調レイアウトの移調楽器に適切なコード記号が自動的に表示されます。

手順

1. 記譜モードで、移調するコード記号を選択します。
2. 「**記譜 (Write)**」 > 「**移調 (Transpose)**」を選択して「**移調 (Transpose)**」ダイアログを開きます。
3. 音程や性質など、移調に必要なパラメーターを調節します。

ヒント

- たとえば G \flat メジャーから G メジャーに移動する場合など、「**間隔を算出 (Calculate interval)**」セクションを使用して必要な設定を判断することをおすすめします。
- 音程が異なると使用できる性質が異なります。たとえば、メジャー 3 度は指定できますがメジャーオクターブは指定できません。そのため、移調パラメーターを手動で設定したい場合には、性質の前に音程を選択することをおすすめします。

4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択したコード記号が移調されます。

関連リンク

[「移調 \(Transpose\)」ダイアログ \(206 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(141 ページ\)](#)

[レイアウトの移調/非移調の設定 \(140 ページ\)](#)

[コード記号の表記の変更 \(723 ページ\)](#)

コード記号を表示/非表示にする

コード記号は特定の譜表のみ、またはコード記号領域/スラッシュ領域の中のみ条件でプレーヤーごとに表示/非表示を切り替えて、プロジェクト全体に適用できます。初期設定では、コード記号はキーボード、ギター、ベースギターなどリズムセクションのインストゥルメントの譜表の上に表示されません。

手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、コード記号の表示/非表示を切り替えるプレーヤーを選択します。
2. プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - プレーヤーに割り当てられたすべてのインストゥルメントの譜表の上にコード記号を表示するには、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**すべてのインストゥルメントに表示 (Show For All Instruments)**」を選択します。
 - プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントのうち、リズムセクションのインストゥルメントの譜表の上にのみコード記号を表示するには、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**リズムセクションのインストゥルメントに表示 (Show For Rhythm Section Instruments)**」を選択します。
 - プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントの譜表のうち、コード記号領域/スラッシュ領域の中でのみコード記号を表示するには、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**コード記号領域とスラッシュ領域に表示 (Show in Chord Symbol and Slash Regions)**」を選択します。
 - プレーヤーに割り当てられたすべてのインストゥルメントの譜表でコード記号を非表示にするには、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**すべてのインストゥルメントに非表示 (Hide For All Instruments)**」を選択します。

結果

選択したプレーヤーのコード記号を表示するレイアウトに関するプロジェクトの設定に従いつつ、選択したプレーヤーに割り当てられたインストゥルメントの譜表で、コード記号の表示/非表示が切り替えられます。

ヒント

- コード記号をピアノなどの大譜表インストゥルメントの2つの譜表の間に表示させる場合、これは「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページにある「**位置 (Position)**」セクションで選択できます。
- コード記号が表示されるレイアウトでは、コード記号の表示/非表示を個別に切り替えることもできます。その場合はコード記号を選択して、プロパティパネルにある「**コード記号 (Chord Symbols)**」のグループで「**非表示 (Hidden)**」をオンにします。非表示にした各コード記号の位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

コード記号、演奏技法、および拍子記号に適用される、「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある「**アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)**」にキーボードショートカットを設定できます。

関連リンク

[コード記号領域 \(719 ページ\)](#)

[コード記号領域の入力 \(256 ページ\)](#)

[ガイド \(337 ページ\)](#)

[コードダイアグラムを表示/非表示にする \(727 ページ\)](#)

レイアウトでコード記号を表示/非表示にする

レイアウトのタイプ別にコード記号の表示/非表示を切り替えられます。初期設定では、コード記号はリズムセクションのインストゥルメントに該当するすべてのレイアウトに表示されます。

補足

現在のレイアウトのすべてのインストゥルメントでコード記号が非表示に設定されている場合、一番上の譜表の上にガイドが表示されます。

手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーを選択します。
2. プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 選択したプレーヤーにすべてのレイアウトでコード記号を表示する場合は、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**フルスコアとパートに表示 (Show in Full Score and Parts)**」を選択します。
 - 選択したプレーヤーにコード記号を表示するのはフルスコアまたはカスタムのスコアレイアウトのみとし、パートレイアウトには表示させない場合は、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**フルスコアにのみ表示 (Show in Full Score Only)**」を選択します。
 - 選択したプレーヤーにコード記号を表示するのはパートレイアウトのみとし、フルスコアまたはカスタムのスコアレイアウトには表示させない場合は、「**コード記号 (Chord Symbols)**」 > 「**パートにのみ表示 (Show in Parts Only)**」を選択します。

コード記号のルートとクオリティーを表示/非表示にする

コード記号のあとにルートとクオリティーが同じでオンコードが異なるコード記号が続く場合、後続のコード記号のルートとクオリティーを非表示にできます。

手順

1. ルートとクオリティーを非表示にするコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「ルートおよびクオリティーを隠す (Hide root and quality)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

チェックボックスをオンにすると選択したコード記号のルートとクオリティーが非表示になり、オフにするとルートとクオリティーが表示されます。

プロパティがオフの場合、コード記号はプロジェクト全体の設定に従います。

ヒント

あとに続くコード記号のルートおよびクオリティーが同じ場合でも常にそれらを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」にある「コード記号 (Chord Symbols)」ページの「オンコード (Altered Bass Notes)」セクションで設定を行ないます。

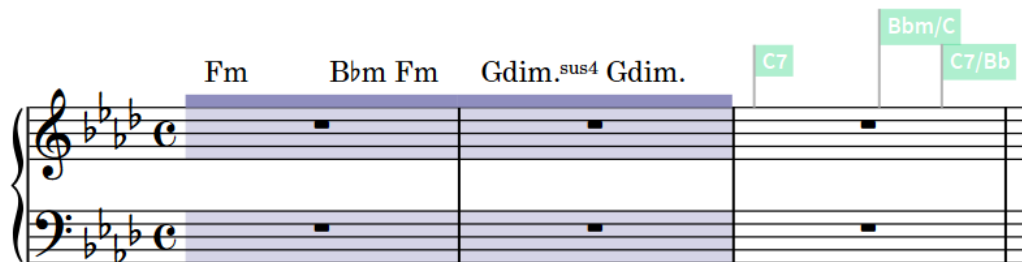
コード記号領域

コード記号領域は、コード記号を表示するパッセージを指定するのに使用します。プロジェクトの大半ではコード記号を必要としないものの、即興のセクションではコード記号を表示する必要があるというプレーヤーやレイアウトにおいて特に役立ちます。

コード記号領域は、プレーヤーが必要とする範囲のみにコード記号を表示させることができます。これにより、プロジェクト全体にわたってコード記号を表示させ、不要な範囲は手動で非表示にするという作業を省略できます。

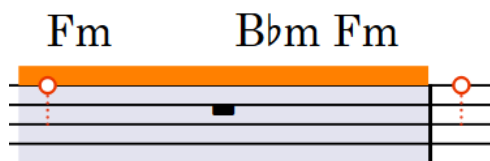
Dorico Pro では、コード記号領域を入力すると、対応するプレーヤーは自動的にコード記号領域とスラッシュ領域にコード記号を表示する設定に切り替わります。これは、即興のセクションでは、プレーヤーを支援するためにスラッシュとコード記号の両方を使用するのが一般的なためです。コード記号領域またはスラッシュ領域以外の範囲にあるコード記号はすべて自動的に非表示となり、ガイドで位置が示されます。

初期設定では、コード記号領域には第5線の上に色付きの実線が付くとともに、色付きの背景で強調表示されます。ズームアウトすると、色付きの背景の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで見るとき特に便利です。このような強調表示は注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。また画面上の表示/非表示も切り替えられます。



コード記号領域と、領域が終了した後に表示されるコード記号のガイド

記譜モードでは、それぞれの領域の開始位置と終了位置にハンドルがあり、これを使用して領域の移動や長さの変更が行なえます。



選択中のコード記号領域のハンドル

関連リンク

- [コード記号領域の入力 \(256 ページ\)](#)
- [コード記号を表示/非表示にする \(717 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域 \(1109 ページ\)](#)
- [ガイドの表示/非表示の切り替え \(339 ページ\)](#)
- [注釈 \(621 ページ\)](#)

コード記号領域の移動

コード記号領域は入力後に別の位置へ移動できます。

手順

1. 記譜モードで、移動するコード記号領域を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるコード記号領域は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、コード記号領域を前後の小節に移動させます。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - コード記号領域をクリックして、任意の水平位置にドラッグします。

結果

選択したコード記号領域が、現在のリズムグリッドの間隔に従って異なる位置に移動します。

補足

コード記号領域はそれぞれの位置に1つしか存在できません。選択したコード記号領域の位置を変更して、他のコード記号領域の部分に重ねた場合、他のコード記号領域はそれに合わせて短縮されます。

この動作は元に戻せます。その場合、影響された他のコード記号領域の長さは復元されます。ただし、コード記号領域の位置の変更にマウスを使用して、もう1つのコード記号領域を完全に上書きした場合、そのコード記号領域は完全に削除されます。

コード記号領域の長さの変更

コード記号領域は入力後に長さを変更できます。

手順

1. 記譜モードで、長さを変更するコード記号領域を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるコード記号領域は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、コード記号領域の長さを変更します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。

- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。
-

結果

選択したコード記号領域の長さが変更されます。

補足

コード記号領域はそれぞれの位置に1つしか存在できません。選択したコード記号領域の長さを変更して、他のコード記号領域の部分に重ねた場合、他のコード記号領域はそれに合わせて短縮されます。

この動作は元に戻せます。その場合、影響された他のコード記号領域の長さは復元されます。ただし、コード記号領域の長さの変更にはマウスを使用して、他のコード記号領域を完全に上書きした場合、そのコード記号領域は完全に削除されます。

コード記号領域の強調表示を表示/非表示にする

コード記号領域の背景色による強調表示はいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば記譜中は強調表示をオンにして、浄書中はオフにするといったことができます。

補足

コード記号領域内の譜表の上に表示される実線はそもそも非表示にできないため、これに対しては効果がありません。

手順

- 「ビュー (View)」 > 「コード記号領域を強調 (Highlight Chord Symbol Regions)」を選択します。
-

結果

メニューの「コード記号領域を強調 (Highlight Chord Symbol Regions)」の横にチェックマークがあるときはコード記号領域が強調表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

コード記号の位置

初期設定では、コード記号は入力された位置で、最初の声部列の正面の符頭に左右中央揃えで配置されます。

補足

正面の符頭とは、その位置で符尾の正しい側にある符頭のことです。

コード記号がフルスコアの何段めに表示されるかは、どの譜表にコード記号を表示するかの設定と、どの譜表にコード記号領域を入力したかによって決定されます。これはコード記号がどのパートレイアウトに表示されるかにも影響を与えます。

音符と和音に対するコード記号の配置

コード記号のテキストを符頭上で左揃え、中央揃え、右揃えのどれにするかを変更できます。ただし一般的に右揃えは分かりづらくなります。

コード記号の水平方向の配置を変更するには、「浄書オプション (Engraving Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」のページの「位置 (Position)」セクションにある「音符、コードまたは休符に対する水平位置 (Horizontal alignment relative to note, chord or rest)」のオプションを選択します。

プロパティパネルで「コード記号 (Chord Symbols)」グループの「配置 (Alignment)」をオンにし、メニューからオプションを選択することで、個別に選択したコード記号の配置を上書きすることもできます。

組段をまたぐコード記号の配置

コード記号は、初期設定では組段の幅全体を通して同じ垂直位置に整列されます。それぞれのコード記号を独立させて譜表の上に配置させたい場合は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「コード記号 (Chord Symbols)」ページにある「位置 (Position)」セクションの「組段幅に合わせてコード記号を整列 (Align chord symbols across width of system)」をオフにします。

関連リンク

[浄書オプションでコード記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(707 ページ\)](#)

[コード記号領域 \(719 ページ\)](#)

[コード記号を表示/非表示にする \(717 ページ\)](#)

[レイアウトでコード記号を表示/非表示にする \(718 ページ\)](#)

コード記号の位置を移動する

コード記号の位置は、あとから移動することができます。

手順

1. 記譜モードで、移動するコード記号を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるコード記号は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従いコード記号を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - コード記号をクリックして、任意の水平位置にドラッグします。

結果

選択したコード記号が新しい位置に移動します。

補足

コード記号はそれぞれの位置に1つしか存在できません。コード記号が移動する際に他のコード記号の上を通過した場合、そこにあったコード記号は削除されます。

この操作は元に戻すことができますが、削除したコード記号を復元できるのはキーボードを使用してコード記号を移動した場合のみです。

コード記号の表示位置の変更

コード記号の表示位置は、対応する拍に影響することなく個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、位置を変更するコード記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、コード記号を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。
-

結果

選択したコード記号の表示位置が対応する拍に影響することなく変更されます。

ヒント

コード記号を移動すると、プロパティパネルの「**コード記号 (Chord Symbols)**」グループにある「**開始オフセット (Start offset)**」が自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」の「**X**」の値を変更すると、コード記号の水平位置が変更されます。
- 「**開始オフセット (Start offset)**」の「**Y**」の値を変更すると、コード記号の垂直位置が変更されます。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、コード記号の表示位置を移動することもできます。

プロパティをオフにすると、選択したコード記号が初期設定の位置にリセットされます。

コード記号の表記の変更

移調楽器のコード記号の異名同音の表記を変更することで、異名同音の表記のシンプルな方を選択したりできます。これは、すべての移調レイアウトと移調が同じすべてのインストゥルメントでコード記号の異名同音の表記を変更します。

手順

1. 記譜モードで、コード記号の表記を変更する移調を持つレイアウトを開きます。
たとえば、B \flat のすべてのインストゥルメントのコード記号の表記を変更するには、B \flat のインストゥルメントのパートレイアウトを開きます。
 2. 表記を変更するコード記号を選択します。
 3. **[Return]** を押して、選択したコード記号のコード記号ポップオーバーを開きます。
ポップオーバーにはコード記号に対応したテキストがすでに入力されています。
 4. コードのルート名を変更します。クオリティー、音程、オルタレーションなどの詳細はそのままにします。
たとえば、Dbmaj13のルート名のみを変更する場合は、**Db**を**C#**に変更します。
-

結果

移調レイアウトで移調が同じすべてのインストゥルメントのコード記号の表記が変更されます。たとえば、B \flat クラリネットのコード記号の表記を変更すると、B \flat トランペットのパートレイアウトのコード記号の表記も変更されます。

関連リンク

[コード記号のポップオーバー \(250 ページ\)](#)

[コード記号の移調 \(716 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(141 ページ\)](#)

[レイアウトの移調/非移調の設定](#) (140 ページ)

コード記号をモードとして表示する

個々のコード記号を、対応するモードが存在する場合にモードとして表示できます。

手順

1. モードとして表示するコード記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループで「モードで表示 (Show as mode)」をオンにします。
3. メニューから目的のコードを選択します。

結果

選択したコード記号の表記が、選択したモードに従って変更されます。これにより、コード記号に含まれる音符は影響を受けません。

コード記号の異名同音の表記をリセットする

表記の変更によってコード記号に上書きされた異名同音の表記を削除して、デフォルトの表記に戻すことができます。Bbのように単一の移調を持つインストゥルメントの上書きだけを削除したり、すべてのインストゥルメントの移調の上書きを削除したりできます。

手順

1. 記譜モードで、表記をリセットするコード記号を選択します。
 - 単一のインストゥルメントの移調のコード記号の異名同音の表記だけをリセットするには、その移調を持つインストゥルメントに属する譜表上のコード記号を選択します。たとえば、Bbのすべてのインストゥルメントのコード記号をリセットするには、Bbのインストゥルメントの譜表上のコード記号を選択します。
 - すべてのインストゥルメントの移調のコード記号の異名同音の表記をリセットするには、移調インストゥルメントに属する譜表上のコード記号を選択します。
2. **[Return]** を押して、選択したコード記号のコード記号ポップオーバーを開きます。ポップオーバーにはコード記号に対応したテキストがすでに入力されています。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、コード記号の異名同音をリセットします。
 - 選択した移調を含むインストゥルメントのコード記号の異名同音の表記だけをリセットするには、コード記号のポップオーバーに **[Alt/Opt]+[S]** と入力します。
 - すべてのインストゥルメントの移調のコード記号の異名同音の表記をリセットするには、ポップオーバーに **[Shift]+[Alt/Opt]+[S]** と入力します。

結果

指定した移調を含むインストゥルメントのみ、またはすべての移調楽器について、移調レイアウトで選択したコード記号の異名同音の表記がリセットされます。

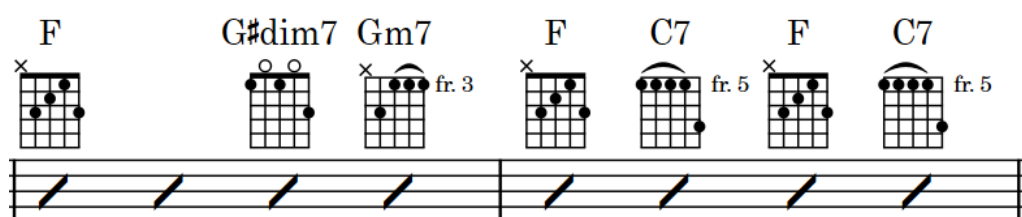
MusicXML ファイルから読み込まれたコード記号

コード記号は、MusicXML ファイルから読み込むことができます。ただし、要素の種類として Neapolitan、Italian、French、German、Pedal、Tristan、および Other の値を指定しているコードは読み込まれません。なぜなら、これらのコード記号が表わしている音符を指定する情報がないためです。

コードダイアグラム

コードダイアグラムはフレット楽器の弦とフレットのパターンを表わすもので、対応するコードを演奏する際に指で押さえる位置を丸で示します。コードの特定のシェイプをコンパクトに表示でき、特定のボーイングが必要な場合に便利です。

Dorico Pro では、コードダイアグラムはコード記号の一部であり、コード記号を表示しているときはいつでもその下にコードダイアグラムを表示できます。ギターやバイオリンの DADGAD チューニングなどのさまざまなチューニングや弦の配置を含め、あらゆるフレット楽器にコードダイアグラムシェイプを表示できます。たとえば、ベースの譜表の上にスタンダードギターチューニングのコードダイアグラムシェイプを表示したい場合など、下に表示される楽器とは異なるコードダイアグラムシェイプを表示することもできます。



バンジョーのコードダイアグラムが表示された一連のコード記号

Dorico Pro では、押さえるフレットの相互の位置関係をシェイプと呼びます。演奏できるすべてのシェイプは、新たに作成したコードダイアグラムシェイプを含め、ピッチが一致する他のコードに再利用できます。つまり、別の楽器、別のチューニング、フレットボードの別の位置 (シェイプに含まれる開放弦を別のフレット位置でバレーを使って演奏できる場合) などにシェイプを利用できるということです。

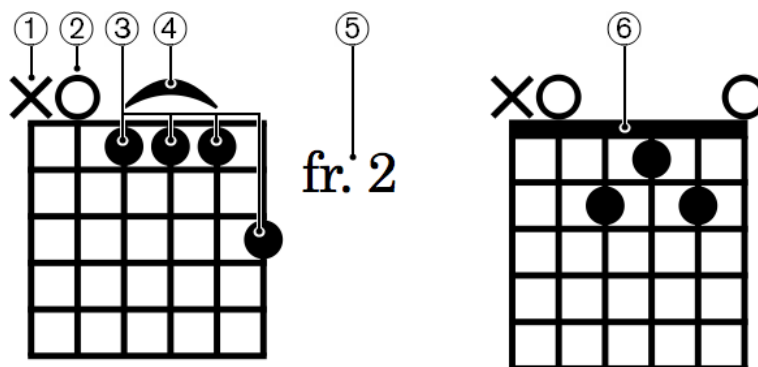
1つのコードに対して、異なる楽器やチューニングのコードダイアグラムシェイプを表示できます。これは、開放弦のピッチと弦の数がそれぞれ異なるためです。

関連リンク

[コードダイアグラムを表示/非表示にする \(727 ページ\)](#)

コードダイアグラムの構成要素

コードダイアグラムは、対応するコードを演奏するのに必要な弦、フレット位置、指の位置に関する情報を、記号、丸、線を組み合わせて表わします。



1 省略弦

鳴らさない弦を表わします。

2 開放弦

開放した状態で鳴らす、つまり押さえずに鳴らす弦を表わします。

3 丸

弦を押さえるフレット位置を表わします (通常は左手の指を使う)。

4 バレー

同じ指で複数の弦を押さえることを表わします。通常は、弦をフレットボードに均一に押し付けます。

5 開始フレット番号

コードダイアグラムの一番上のフレットが第1フレット以外の場合、そのフレット番号を表わします。

6 ナット

フレットボードの最上部、つまりナットを表わし、一番上のフレットが第1フレットのコードダイアグラムに表示されます。

関連リンク

[コードダイアグラムシェイプを変更する \(728 ページ\)](#)

浄書オプションでコードダイアグラムの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」ページで、コードダイアグラムの外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」ページの各オプションを使用すると、コードダイアグラムに表示されるデフォルトのフレット番号、コード記号に対するコードダイアグラムの倍率、コードダイアグラム内の各部分の正確な寸法 (弦と線の太さや丸のサイズなど) を変更できます。また、フレット番号の外観と位置も変更できます (ローマ数字で表示するなど)。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[開始フレット番号の水平位置の変更 \(735 ページ\)](#)

[コードダイアグラムの向きを変更する \(735 ページ\)](#)

コードダイアグラムのプロジェクト全体の音符入力オプション

「**記譜 (Write)**」 > 「**音符入力オプション (Note Input Options)**」の「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」ページには、コードダイアグラムおよびコードダイアグラム内の各構成要素をプロジェクト全体で操作するためのオプションが用意されています。

「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」ページには、コードダイアグラムにルート音を含めるかどうか (ベース奏者がいるアンサンブルのギター奏者用にコードダイアグラムのルート音を省略する場合などに便利) や、コード記号に応じて特定のスケールディグリーを含めるかどうか (ドミナント 7th コードで 5th を省略するなど) などのオプションがあります。

関連リンク

[「音符入力オプション \(Note Input Options\)」ダイアログ \(167 ページ\)](#)

コードダイアグラムを表示/非表示にする

あらゆるタイプのフレット楽器のコードダイアグラムを、コード記号と一緒に表示したり、非表示にしたりできます。また、コードダイアグラムを表示するフレット楽器またはチューニングを変更することもできます。ただし、コード記号が非表示になっている場合はコードダイアグラムを表示できません。

前提条件

- コードダイアグラムを表示するコード記号を入力しておきます。
- コードダイアグラムを表示する譜表の上にコード記号が表示されていることとします。

手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、コードダイアグラムの表示/非表示を切り替えるプレーヤーを選択します。
2. プレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - コードダイアグラムを表示するには、「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」 > [フレット楽器とチューニング]を選択します。たとえば、DADGAD チューニングのギターにコードダイアグラムを表示するには、「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」 > 「**D-A-D-G-A-D ギターチューニング (DADGAD guitar tuning)**」を選択します。
 - コードダイアグラムを非表示にするには、「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」 > 「**コードダイアグラムなし (No Chord Diagrams)**」を選択します。


結果

選択したプレーヤーのすべてのコード記号と一緒に、選択したフレット楽器とチューニングに適したコードダイアグラムが表示されます。Dorico Pro では、各コードに使用できるダイアグラムのうち、最もシンプルなものが表示されます。つまり、開放弦が最も多く、指の位置が最もナットに近い形です。そのコード記号に使用できるコードダイアグラムがない場合は、空のコードダイアグラムが表示されません。

ヒント

空のコードダイアグラムを編集して新しいコードダイアグラムシェイプを保存できます。

例



The image shows two musical examples side-by-side. Both examples are in the key of D major (two sharps) and feature the lyrics "hum of the bee, The wind". The first example shows the chord notation Bmaj7, E, and A above the notes, but no chord diagrams are present. The second example shows the same chord notation, but with chord diagrams for Bmaj7, E, and A displayed above the notes. The diagrams for Bmaj7 and A have an 'x' over the first string, while the diagram for E has an 'o' over the first string.

コード記号を表示し、コードダイアグラムを非表示にした状態

コードダイアグラムを表示した状態 (スタンダードギターチューニング)

関連リンク

- [コード記号の入力 \(254 ページ\)](#)
- [コード記号を表示/非表示にする \(717 ページ\)](#)

コードダイアグラムシェイプを変更する

個別の位置に表示されるコードダイアグラムのシェイプは、たとえば異なるボイスイングによるシェイプが必要な場合には変更できます。多くのコードには、演奏するためのシェイプが複数あります。

互換性のあるチューニングを持つインストゥルメントの同じコードのほかのすべてのインスタンスに変更を適用することもできます。

手順

1. シェイプを変更するコードダイアグラムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

コードダイアグラムのシェイプは一度に1つずつしか変更できません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、シェイプを変更します。
 - 選択したコードに使用できるすべてのシェイプを順に切り替えるには、**[Alt/Opt]+[Q]** を押します。
 - 「**コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)**」ダイアログを開いて、選択したコードに使用できるすべてのシェイプを一度に表示するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[Q]** を押します。
3. 必要に応じて、「**コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)**」ダイアログで、使用するシェイプを選択します。

ヒント

求めているシェイプがない場合は、「**編集 (Edit)**」をクリックして新しいシェイプを作成できます。

4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
 5. 互換性のあるチューニングを持つインストゥルメントの同じコードのほかのインスタンスに新しいシェイプを適用するには、「**編集 (Edit)**」 > 「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」 > 「**マッチするコード記号に形をコピー (Copy Shape to Matching Chord Symbols)**」を選択します。
-

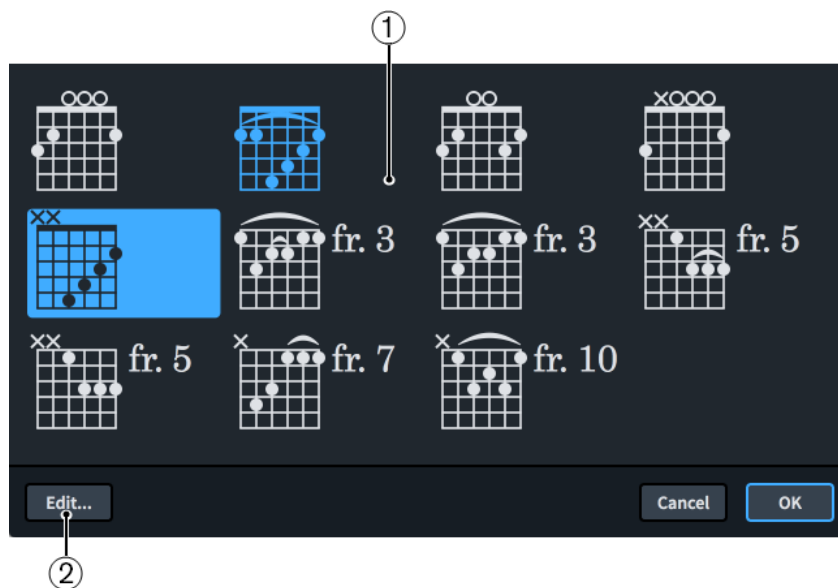
結果

選択したコードダイアグラムのシェイプが変更されます。これは楽譜の同じ位置にあり、同じフレット楽器のチューニングを使用するコードダイアグラムをすべて同時に更新させます。

「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」ダイアログ

「**コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)**」ダイアログを使用すると、選択したコードに使用できるすべてのコードダイアグラムシェイプを表示し、使用するものを選択できます。

- 「**コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)**」ダイアログを開くには、記譜モードでコードダイアグラムを選択して **[Shift]+[Alt/Opt]+[Q]** を押します。



「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」ダイアログ

「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」ダイアログは以下で構成されます。

1 使用できるコードダイアグラム

選択したコードに使用できるすべてのコードダイアグラムシェイプが表示され、選択した位置に表示するシェイプを選択できます。独自に作成したシェイプは異なる色で表示されます。

2 「編集 (Edit)」

表示するフレットの数、押さえるフレットの位置、開始フレット番号の変更を含め、コードダイアグラムのシェイプを編集できる「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」ダイアログを開きます。

新しいコードダイアグラムシェイプを作成する

別のボイスिंगが必要な場合やバレーを表示する場合などに、既存のコードダイアグラムシェイプを編集して新しいコードダイアグラムシェイプを作成できます。既存のコードダイアグラムシェイプへの変更内容は新しいシェイプとして保存され、既存のシェイプが上書きされることはありません。

ヒント

複数の新しいコードシェイプを一度に定義したい場合や新しいシェイプをゼロから作成したい場合は、「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)」を使用してこれを実行できます。

手順

1. 浄書モードで、編集するシェイプのコードダイアグラムをダブルクリックして「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」ダイアログを開きます。
2. 必要に応じて、コードダイアグラムのシェイプと設定を編集します。
たとえば、開放弦を省略弦に変更したり、弦を押さえるフレットの位置を変更して対応する弦のピッチを変更したりできます。
3. フレット開始位置の異なるコードにそのシェイプを使用できるようにするには、「コードがネックに沿って移動することを許可 (Chord may be moved along the neck)」をオンにします。
4. 「保存 (Save)」をクリックし、「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

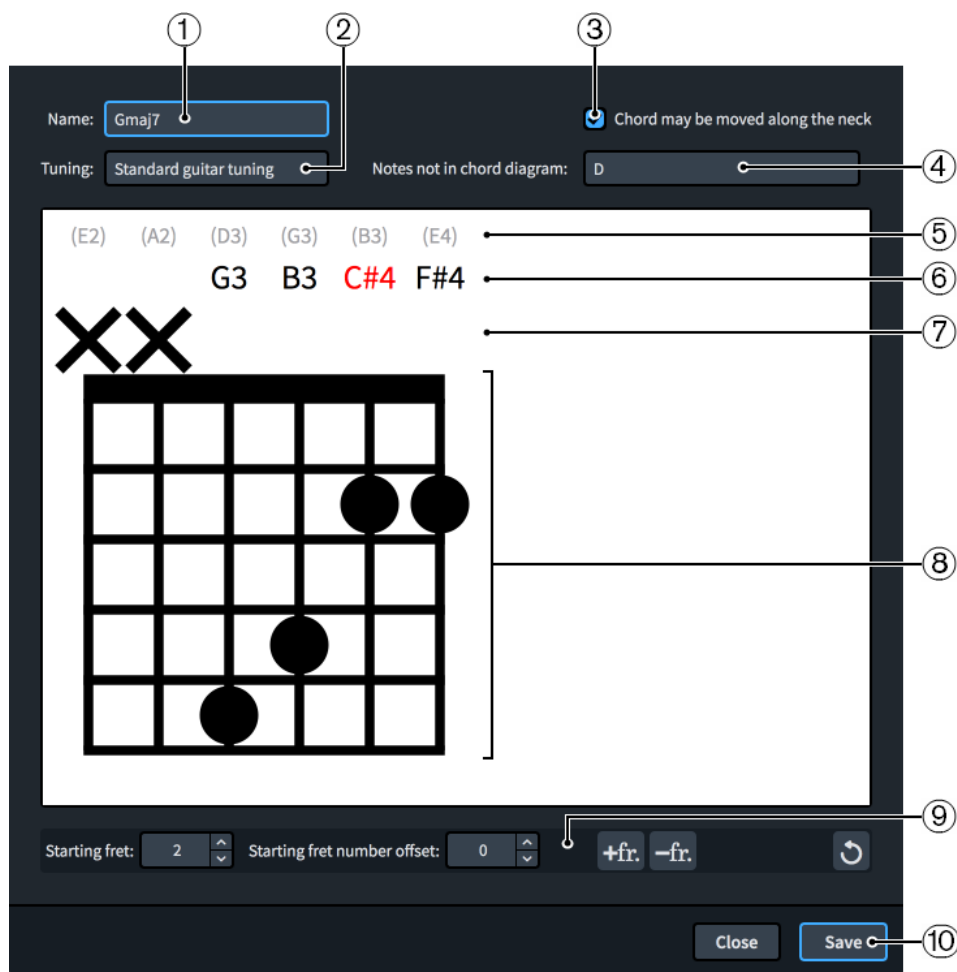
新しいシェイプが保存され、選択したコードダイアグラムに適用されます。新しいシェイプは、そのシェイプを適用できる他のコードにも使用できるようになります。

「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」 ダイアログ

「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」 ダイアログを使用すると、表示するフレットの数、押さえるフレットの位置、開始フレット番号を含め、コードダイアグラムのシェイプを個別に編集できます。

「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」 ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 記譜モードで、「コードダイアグラムを選択 (Choose Chord Diagram)」 ダイアログを開いてシェイプを編集するコードダイアグラムを選択し、「編集 (Edit)」 をクリックします。
- 浄書モードで、コードダイアグラムをダブルクリックするか、コードダイアグラムを選択して **[Return]** を押します。



「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」 ダイアログ

「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagram)」 ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

1 名前 (Name)

ダイアログで編集中のコードダイアグラムのコード名が表示されます。この名前は変更できません。

2 チューニング (Tuning)

現在のコードダイアグラムのフレット楽器とチューニングが表示されます。

3 コードがネックに沿って移動することを許可 (Chord may be moved along the neck)

たとえば、より高いフレット位置でバレーを使って開放弦を演奏するなど、コードダイアグラムのシェイプを別のフレット位置で再利用できるようにするかどうかを指定できます。

4 コードダイアグラムにない音符 (Notes not in chord diagram)

コードの一部でありながら、現在はコードダイアグラムに含まれていないピッチが表示されます。

5 開放弦のピッチ

各弦の開放ピッチが参照用に表示されます。

6 現在の弦のピッチ

開放弦または押さえる弦について、各弦の現在のピッチが表示されます。弦のピッチがコードに含まれていない場合は、弦のピッチが赤で表示されます。

7 弦の状態

各弦の現在の使用状態が表示されます。この行をクリックすると、個々の弦の状態を開放と省略の間で切り替えることができます。

- **O**: 開放弦
- **X**: 省略弦
- **記号なし**: 押さえる弦

8 コードダイアグラムシェイプエディター

押さえるフレットの現在の配置を丸を使って表わします。任意の位置をクリックすることで、コードダイアグラムシェイプを変更したり、押さえるフレットの位置を移動したりできます。押さえるフレットの位置は、各弦に1つのみ設定できます。

同じフレットで複数の弦を押さえる場合、そのフレット位置のいずれかの丸をクリックしてバレーの表示/非表示を切り替えることができます。

9 アクションバー

フレットの数編集できるオプションが用意されています。

- **開始フレット (Starting fret)**: コードダイアグラムの一番上のフレットのフレット番号を変更します。
- **開始フレット番号のオフセット (Starting fret number offset)**: 開始フレット番号のオフセットを変更します。たとえば、バレーを含めるために開始フレットのラベルをコードダイアグラムの第2フレットの横に表示する場合などに使用します。
- **フレットを追加 (Add fret)**: コードダイアグラムの一番下にフレットを追加します。



- **フレットを削除 (Remove fret)**: コードダイアグラムの一番下のフレットを削除します。



- **コードダイアグラムをリセット (Reset Chord Diagram)**: コードダイアグラムに対して行なった変更を削除し、デフォルトのシェイプにリセットします。



10 保存 (Save)

コードダイアグラムシェイプを保存し、楽譜領域で選択したコードダイアグラムを更新します。保存されたシェイプは、互換性のある他のコードの代替シェイプとしても使用できるようになります。

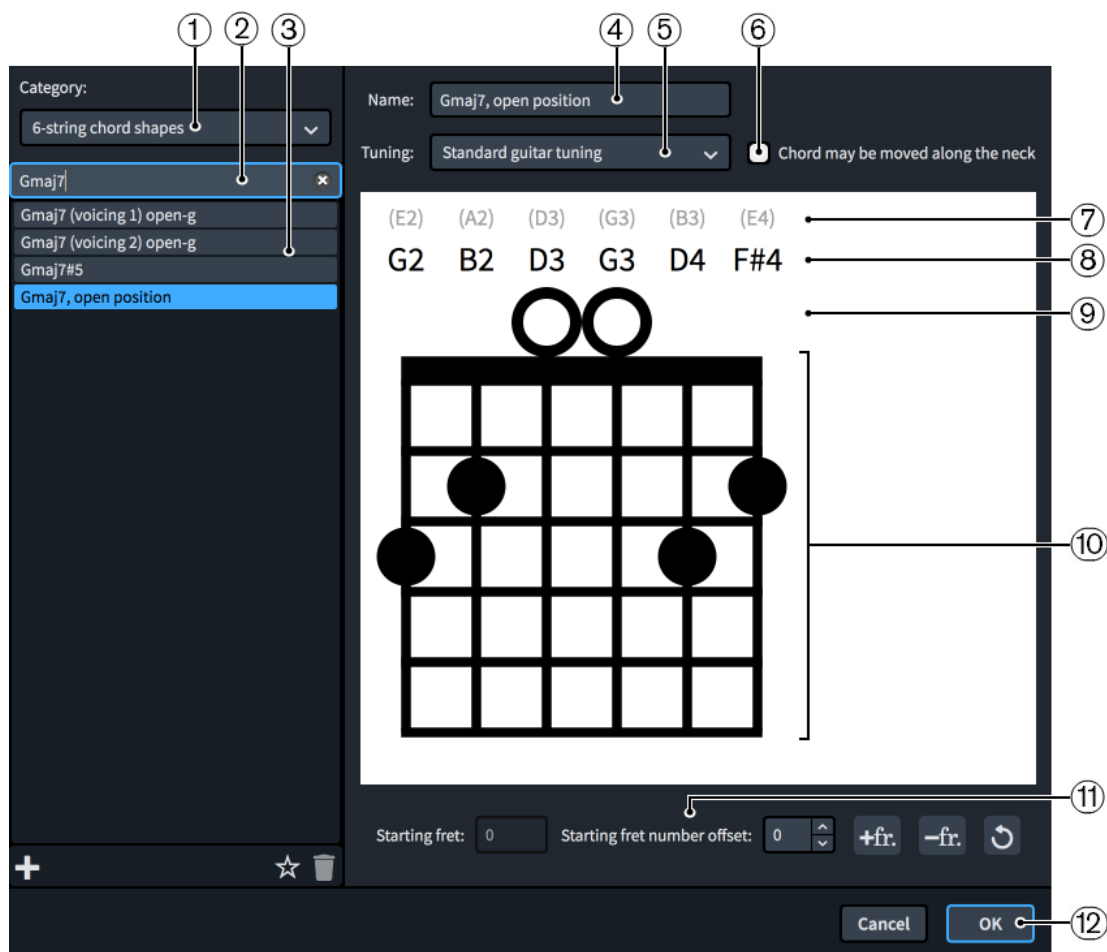
「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)」 ダイアログ

「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)」 ダイアログを使用すると、空白のコードダイアグラムシェイプを新規に作成するか、既存のコードダイアグラムシェイプを編集するかして、コードダイアグラムシェイプを独自にデザインできます。

補足

既存のコードダイアグラムを編集すると、そのコードダイアグラムの複製が変更内容と一緒に保存されます。元のコードダイアグラムは常に保持されます。

- 「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)」 ダイアログは、浄書モードで「浄書 (Engrave)」 > 「コードダイアグラム (Chord Diagrams)」 を選択すると開きます。



「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)」 ダイアログ

「コードダイアグラムの編集 (Edit Chord Diagrams)」 ダイアログには、以下のオプションとセクションがあります。

- 「カテゴリ (Category)」メニュー**
必要な楽器の弦の本数を選択することで、コードダイアグラムシェイプリストで使用できるシェイプを選択できます。
- 検索フィールド**
テキストを入力してコードダイアグラムをフィルタリングできます。
- コードダイアグラムシェイプリスト**
現在選択しているカテゴリと検索フィルター (該当する場合) に含まれるすべてのコードダイアグラムシェイプが表示されます。

補足

シェイプは、最もシンプルな使用方法、またはナットに最も近い位置の名前でコードダイアグラムシェイプリストに表示されます。多くのさまざまなコードを生成する移動できるコードダイアグラムシェイプは1回だけ表示されます。たとえば、「E, open position」シェイプの開放弦をバレを使って置き換え、ネックにそってシェイプを移動すると複数のメジャーコードを生成できます。そのため、「E, open position」のように同じシェイプでフレット位置の異なるコードはリストには表示されません。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New):** 新しい空白のコードダイアグラムを追加します。



- **デフォルトとして保存 (Save as Default):** 選択中のコードダイアグラムシェイプをユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。デフォルトとして保存したコードダイアグラムシェイプのアイコンは塗りつぶされて表示されます。「デフォルトとして保存 (Save as Default)」をもう一度クリックすると、そのコードダイアグラムシェイプがユーザーライブラリーから削除されます。



- **削除 (Delete):** 選択したコードダイアグラムシェイプを削除します。



補足

プリセットのコードダイアグラムシェイプは削除できません。デフォルトとして保存した独自のコードダイアグラムシェイプを削除するには、「削除 (Delete)」を2回クリックする必要があります。

4 名前 (Name)

ダイアログで編集中のコードダイアグラムのコード名が表示されます。必要に応じて、「movable」や「open-g」など、関連するその他の識別情報を含めることもできます。プリセットのコードダイアグラムおよびデフォルトとして保存したコードダイアグラムの名前は変更できません。

5 チューニング (Tuning)

現在のコードダイアグラムのフレット楽器とチューニングが表示されます。別のチューニングを選択すると、異なるチューニングおよび異なるインストゥルメントで現在のシェイプが生成するコードを確認できます。別のチューニングを選択すると、開放弦のピッチと現在の弦のピッチが更新されます。

6 コードがネックに沿って移動することを許可 (Chord may be moved along the neck)

たとえば、より高いフレット位置でバレを使って開放弦を演奏するなど、コードダイアグラムのシェイプを別のフレット位置で再利用できるようにするかどうかを指定できます。

通常、別のフレット位置で4本以上の弦を押さえるコードダイアグラムシェイプは再利用できないため、4本以上の弦を押さえるコード記号に対してこのオプションをオンにすると警告アイコンが表示されます。



警告アイコン

7 開放弦のピッチ

現在選択しているチューニングに応じて、各弦の開放ピッチが参照用に表示されます。

8 現在の弦のピッチ

現在選択しているチューニングに応じて、開放弦または押さえる弦について、各弦の現在のピッチが表示されます。弦のピッチがコードに含まれていない場合は、弦のピッチが赤で表示されます。

9 弦の状態

各弦の現在の使用状態が表示されます。この行をクリックすると、個々の弦の状態を開放と省略の間で切り替えることができます。

- O: 開放弦
- X: 省略弦
- 記号なし: 押さえる弦

10 コードダイアグラムシェイプエディター

押さえるフレットの現在の配置を丸を使って表わします。任意の位置をクリックすることで、コードダイアグラムシェイプを変更したり、押さえるフレットの位置を移動したりできます。押さえるフレットの位置は、各弦に1つのみ設定できます。

同じフレットで複数の弦を押さえる場合、そのフレット位置のいずれかの丸をクリックしてバレの表示/非表示を切り替えることができます。

11 アクションバー

フレットの数を編集できるオプションが用意されています。

- **開始フレット (Starting fret):** コードダイアグラムの一番上のフレットのフレット番号を変更します。
- **開始フレット番号のオフセット (Starting fret number offset):** 開始フレット番号のオフセットを変更します。たとえば、バレを含めるために開始フレットのラベルをコードダイアグラムの第2フレットの横に表示する場合などに使用します。
- **フレットを追加 (Add fret):** コードダイアグラムの一番下にフレットを追加します。



- **フレットを削除 (Remove fret):** コードダイアグラムの一番下のフレットを削除します。



- **コードダイアグラムをリセット (Reset Chord Diagram):** コードダイアグラムに対して行なった変更を削除し、デフォルトのシェイプにリセットします。



12 OK

「OK」をクリックすると、このダイアログで行なったすべての変更が保存されます。

コードダイアグラムのフォントスタイルを編集する

コードダイアグラムのフレット番号に使用するテキストフォントの形式設定をプロジェクト全体で編集できます。たとえば、コードダイアグラムのフレット番号をより大きく表示したい場合は、フォントサイズを大きくします。

手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
2. 「フォントスタイル (Font style)」メニューから「コードダイアグラムのフレット番号のフォント (Chord Diagram Fret Number Font)」を選択します。
3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
 - フォントファミリー (Font family)
 - サイズ (Size)
 - スタイル (Style)
 - 下線 (Underlined)

4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

プロジェクト内のコードダイアグラムのすべてのフレット番号に使用されているフォントの形式設定が変更されます。

開始フレット番号の水平位置の変更

コードダイアグラムのすべての開始フレット番号をダイアグラムの右側に表示するか左側に表示するかを選択できます。初期設定では、開始フレット番号は右側に表示されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストの「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」をクリックします。
 3. 「**フレット番号 (Fret Numbers)**」のセクションの「**水平位置 (Horizontal position)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 左 (Left)
 - 右 (Right)
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

コードダイアグラムに対する開始フレット番号の位置がプロジェクト全体で変更されます。

ヒント

「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」ページには、フレット番号の外観と正確な位置を制御するその他のオプションがあります。

コードダイアグラムの向きを変更する

すべてのコードダイアグラムのデフォルトの向きをプロジェクト全体で変更できます。たとえば、教材用にコードダイアグラムを水平に表示したい場合などに使用します。初期設定では、コードダイアグラムは垂直に表示されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストの「**コードダイアグラム (Chord Diagrams)**」をクリックします。
 3. 「**デザイン (Design)**」のセクションの「**向き (Orientation)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 垂直 (Vertical)
 - 水平 (Horizontal)
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

プロジェクト全体のすべてのコードダイアグラムの向きが変更されます。

音部記号

音部記号は、各組段の開始位置にあつて譜表上の音符にコンテキストを付与する記号です。つまり、音部記号は譜表のそれぞれの線および間に音階のどの音が当てはまるのかを伝えます。

たとえば、高音部記号はト音記号とも呼ばれますが、これは中央のらせん形の中心がGの音に重なっているからです。これは通常ミドルCの1つ上のGです。



その他の一般的な音部記号には以下があります。

- バス記号 (ヘ音記号) では、2つの点がFの音に対応する線の両側に記されます。これは通常ミドルCの1つ下のFです。
ミドルCは、ト音記号では譜表の下の1つめの加線、ヘ音記号では譜表の上の1つめの加線を使用します。
- 八音記号は、太い垂直線とその右側の括弧状の曲線で構成され、曲線の中央がC (通常はミドルC) に対応する線上に配置されます。

現在、八音記号は一般的に譜表上の2つの位置で使用されます。

- 譜表の第3線に配置されるものは、一般的にアルト記号と呼ばれます。
- 譜表の第4線に配置されるものは、一般的にテノール記号と呼ばれます。

これらの音部記号は、必要な加線の数を最小化するため、対象とする楽器の音域を合わせるのに使用されます。



ト音記号で表示するミドルCの下のE

バス記号で表示するミドルCの下のE

八音 (アルト) 記号で表示するミドルCの下のE

八音 (テノール) 記号で表示するミドルCの下のE

Dorico Pro では、音部記号とオクターブ線はどちらも、ウィンドウ右側の音部記号パネルに収められています。パネルのうち3つのセクションは音部記号のもので、

- 「一般的な音部記号 (Common Clefs)」には、ト音記号、バス記号、アルト記号、テノール記号、タブ記号、パーカッション記号などが含まれます。
- 「その他の音部記号 (Uncommon Clefs)」には、インド太鼓記号、小バイオリン記号、ト音記号1オクターブ上、ト音記号1オクターブ下などが含まれます。
- 「古楽の音部記号 (Archaic Clefs)」には、バリトンバス記号、メゾソプラノ記号、ソプラノ記号などが含まれ、これらは今は一般的には使用されません。

関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(257 ページ\)](#)

音部記号の一般的な配置規則

音部記号はすべての組段の開始位置に配置され、譜表の開始位置と音部記号の左端の間に小さい間隔が空けられます。譜表に記された音符のピッチを表わすため、音部記号の垂直の位置は正確である必要があります。

楽譜の途中にある音部変更記号は、通常、各組段の開始位置に表示される音部記号より小さく表示されます。音部記号の変更が新しい組段またはページの開始位置から行なわれる場合、演奏者に変更を知らせるために、直前の組段の終了位置に親切音部記号が配置されます。

音部変更記号は、できるだけタイのつながりの途中には配置しないようにします。音部の変更はタイでつながれた音符の譜表上の位置を変えてしまうため、演奏者がタイをスラーと読み違えて異なる2音を演奏してしまうことが容易に起こり得ます。Dorico Pro ではタイのつながりの途中に音部変更記号を配置することはできませんが、音部変更記号はタイのつながりの前後に配置することをおすすめします。

関連リンク

[タイ \(1235 ページ\)](#)

プロジェクト全体における音部の間隔のスペーシング

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「間隔のスペーシング (Spacing Gaps)」ページでは、音部記号も含めたすべてのオブジェクトの最小間隔を変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

以下に挙げる最小値は、音部記号に直接関係します。

- 小節線から音部記号、調号記号、または拍子記号の前までの間隔 (Gap after barline before clef, key or time signature)
- 最初の音部記号の後の間隔 (Gap after initial clef)
- 音部記号、ナチュラル、または音符/小節線の前に付く装飾記号の左側の間隔 (Gap to the left of clef, cancellation naturals or grace notes before note or barline)
- 音部記号変更後の間隔 (Gap after clef change)

その他の値は、音部記号の位置にも影響を及ぼす場合がありますが、それ以外のオブジェクトにも影響するものです。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

音部記号の位置の移動

音部記号は入力後に別の位置へ移動できます。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「間隔のスペーシング (Spacing Gaps)」で、間隔のスペーシングに関するプロジェクト全体の値を変更することにより、音符や小節線に対する音部記号のデフォルト位置を変更できます。

手順

1. 記譜モードで、移動する音部記号を選択します。

補足

- フローの最初にある音部記号や、組段の開始位置に表示される音部記号は選択できません。

- マウスを使用する場合、一度に移動できる音部記号は1つだけです。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従い音部記号を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - 音部記号をクリックして、任意の水平位置にドラッグします。
-

結果

選択した音部記号が新しい位置に移動します。これは新しい位置から次の音部記号がある位置、またはフローの終わりのいずれかに至るまで効果を及ぼします。

補足

- 音部記号は譜表に沿ってしか移動できません。譜表をまたいで音部記号を移動させる場合は、この音部記号をいったん削除してから新しい音部記号を別の譜表に入力します。
- 同じ位置に2つ以上の音部記号は存在できません。音部記号が移動する際に他の音部記号の上を通過した場合、そこにあった音部記号は削除されます。

この動作内容はもとに戻せますが、この過程で削除された音部記号が復元されるのは、音部記号の移動にキーボードを使用していた場合のみです。

音部記号の表示位置の移動

個々の音部記号の表示位置を、他のアイテムの位置に影響を与えず変更できます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. 移動させる音部記号の上の四角いハンドルを選択します。



音部記号の横に丸いハンドルが表示されます。

3. **[Tab]** を押して丸いハンドルを選択します。



4. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
 - 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。
-

結果

音部記号の表示位置が左右に移動します。この際、同じ位置にある他のアイテムには影響しません。

ヒント

またプロパティパネルの「音部記号 (Clefs)」グループにある「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」を変更することで、音部記号を水平に移動できます。ただしこれは、音部記号周辺の全体的な音符のスペーシングに影響を与えます。

プロパティパネルの「音部記号 (Clefs)」グループにある「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」プロパティは、「音符のスペーシング (Note Spacing)」がオンになっているときは使用できません。

関連リンク

[音符のスペーシング](#) (430 ページ)

音部記号の削除

音符のピッチに影響を与えずに音部記号を削除できます。音符譜表の先の位置にある音部記号に従い、音符は自動的に書き換えられます。

補足

フローの最初にある音部記号や、組段の開始位置に表示される音部記号は削除できません。譜表に一切の音部記号を表示させない場合は、非表示の記号を入力できます。

手順

1. 記譜モードで、削除する音部記号または音部記号のガイドを選択します。
 2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
-

結果

選択した音部記号が削除されます。譜表上の音符は、先の位置にある音部記号に従い、次に存在する音部記号またはフローの終わりまで書き換えられます。

関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法](#) (257 ページ)

音部記号の変更におけるデフォルトのサイズ

プロジェクト全体に対し、すべての音部記号の変更におけるデフォルトの倍率を変更できます。

デフォルトの「音部記号の変更倍率 (Clef change scale factor)」は $2/3$ です。音部記号の変更におけるデフォルトのサイズの変更は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音部記号 (Clefs)」ページで行なえます。

倍率を大きくすると音部記号の変更の表示が大きくなり、倍率を小さくすると音部記号の変更の表示が小さくなります。これは各組段の開始位置にある音部記号のサイズには影響しません。

入力できる最小の倍率は $1/8$ です。最大値に制限はありません。ただし、たとえば倍率を 30 倍以上にすると、1 つの音部記号が A4 1 ページの面積のほとんどを占めてしまいます。

音部記号を装飾音符のあとに表示

表記規則によれば、音部記号は装飾音符の前に配置されるため、Dorico Pro ではこれがデフォルトになっています。ただし、状況によっては音部記号を装飾音符と通常の音符の間に配置することが必要な場合もあります。

手順

1. 装飾音符のあとに表示する音部記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「音部記号 (Clef Position)」 > 「装飾音符の後 (After Grace Notes)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した音部記号が通常の音符と装飾音符の間に配置されます。

補足

装飾音符に対する音部記号の位置をリセットするには、位置を元に戻す音部記号を選択して「編集 (Edit)」 > 「音部記号 (Clef Position)」 > 「音部記号の位置をリセット (Reset Clef Position)」をクリックします。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

例



装飾音符の前に配置されたト音記号



へ音記号と揃えるために装飾音符のあとに配置されたト音記号

関連リンク

[音部記号の一般的な配置規則 \(737 ページ\)](#)

実音と移調音で異なる音部記号を設定する

音部変更記号には、実音レイアウトと移調音レイアウトで異なる音部記号を表示するよう設定できます。たとえば、バスクラリネットの譜表における音部変更記号を、パートレイアウトではト音記号で表示しつつ、フルスコアレイアウトではバス記号で表示するといったことができます。

補足

- これらの手順はユーザーが入力した音部記号にのみ該当します。最初の音部記号や各組段の開始位置に自動的に表示される音部記号は選択できないため、設定もできません。
- Dorico Pro では、フルスコア/カスタムスコアのレイアウトとパートレイアウトでそれぞれ異なる音部記号を初期設定で表示するインストゥルメントが多数あります。インストゥルメントを追加または変更する際は、インストゥルメントピッカーから適切なインストゥルメントタイプを選択できます。

手順

1. 実音または移調音のレイアウトにおける表示を変更する音部記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 選択した音部記号の実音レイアウトにおける表示を変更するには、「編集 (Edit)」 > 「音部記号 (Clef)」 > 「実音 (Concert Pitch)」 > [音部記号] を選択します。
 - 選択した音部記号の移調音レイアウトにおける表示を変更するには、「編集 (Edit)」 > 「音部記号 (Clef)」 > 「移調音 (Transposed Pitch)」 > [音部記号] を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した音部記号の実音/移調音いずれかに対応する側のレイアウトにおける表示が変更されます。これは次の既存の音部変更記号の位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。

手順終了後の項目

一部のレイアウトでは音部記号を表示しつつ他では非表示にする場合、レイアウトの移調に従い音部記号の表示/非表示を切り替えられます。

関連リンク

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(119 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(120 ページ\)](#)

[インストゥルメントピッカー \(99 ページ\)](#)

レイアウトの移調に従い音部記号を表示/非表示にする

個々の音部記号を、実音と移調音のレイアウトのどちらか一方にのみ表示するよう設定できます。たとえば一部の移調楽器は、実音のスコアでは加線が多くなりすぎることを避けるため、音部記号の変更が必要となりますが、移調音によるそれぞれのパート譜では、音部記号の変更は必要ありません。

初期設定では、すべての音部記号がすべてのレイアウトに表示されます。

手順

1. レイアウトの移調に従って表示/非表示を切り替える音部記号または音部記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「音部記号 (Clefs)」グループで、「移調に対して表示 (Show for transposition)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 実音 (Concert Pitch)
 - 移調音 (Transposing Pitch)

結果

選択した音部記号は、対応する移調のレイアウトにのみ表示されます。音部記号が表示されないレイアウトでは、ガイドで表示されます。

非表示になった音部記号は、音符と譜表のスペーシングに影響を与えません。

関連リンク

[レイアウトの移調/非移調の設定 \(140 ページ\)](#)

[ガイド \(337 ページ\)](#)

音部記号の移調

音部記号の移調は、記譜された音域とは別の音域で演奏することを示します。音部記号の上の数字は、音符が記譜の内容よりも高い音域で演奏されることを示し、音部記号の下の数字は、音符が記譜の内容よりも低い音域で演奏されることを示します。

これらの音部記号の中では、唯一 1 オクターブ下のト音記号がテノールボーカルパート用として今も一般的に使用されています。



関連リンク

[移調楽器 \(118 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(141 ページ\)](#)

オクターブ線

オクターブ線は、音符がスコアまたはパートに表示されるよりも高い、または低いピッチで演奏されることを示します。

オクターブ線は破線または点線による水平線で、開始位置に斜体の数字が記されています。数字はフレーズのピッチが変更される数を示し、たとえば1オクターブは8、2オクターブは15となります。

オクターブ線は、記譜よりも高いピッチの演奏を示す場合は譜表の上に、記譜よりも低いピッチの演奏を示す場合は譜表の下に配置されます。



そのままのピッチで演奏されるト音記号のフレーズ



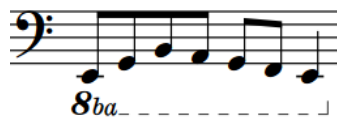
1オクターブ上のオクターブ線が付いたト音記号のフレーズ



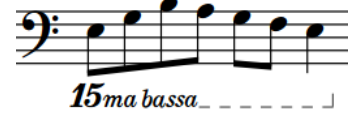
2オクターブ上のオクターブ線が付いたト音記号のフレーズ



そのままのピッチで演奏されるバス記号のフレーズ



1オクターブ下のオクターブ線が付いたバス記号のフレーズ



2オクターブ下のオクターブ線が付いたバス記号のフレーズ

Dorico Pro では、オクターブ線が付いているとピッチが自動的に調整されます。線の中にある音符の音域を変更する必要はありません。

オクターブ線は数個の音符、1つのフレーズ、または複数のフレーズのうちいずれにも使用できますが、楽譜の流れを混乱させるものであってはなりません。オクターブ線の使いすぎや不適切な部分への使用は、元のメロディーの形を見えにくくしてしまいます。しかしオクターブ線を丁寧に使用すれば、加線の使用が減り、楽譜が演奏者に一目で読みやすいものになります。



ピッチ差の大きいフレーズにオクターブ線を使用しない例



同じフレーズにオクターブ線をつけすぎて、フレーズの全体的な形状が歪められている例



同じフレーズに、加線を減らすためにオクターブ線を2つだけ付けた例
フレーズの全体的な形状は変わらないままです。

楽器に対し適切であればフレーズ全体に異なる音部記号を使用するか、またはフレーズ全体にオクターブ線を入れて形状と音域が演奏者に明確に伝わるようにするのが一般的にはベストです。

オクターブ線は水平に伸び、垂直方向のスペースを大きく占めることがあるため、通常は他のすべての記譜記号より外側に配置されます。ただし、スラーや連符の角括弧がオクターブ線より長い場合は、オクターブ線をその内側に配置できます。

オクターブ線は組段やページの区切りをまたいで続く場合もあります。慣例としては、組段の開始位置ごとに新たに数字を表示して、オクターブ線であることを分かりやすくします。親切オクターブ線番号は通常括弧が付き、必要に応じて末尾テキストが選択できます。

関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(257 ページ\)](#)

[ライン \(1046 ページ\)](#)

浄書オプションでオクターブ線の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**オクターブ線 (Octave Lines)**」ページで、オクターブ線の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションでは、延長線や延長ラベルの外観、オクターブ線の開始位置の数字、臨時記号や符頭に対するオクターブ線の位置、および譜表に対する配置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

オクターブ線の長さの変更

オクターブ線は入力後に長さを変更できます。

手順

1. 記譜モードで長さを変更するオクターブ線を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるオクターブ線は1本だけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したオクターブ線の長さを変更します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 1本のオクターブ線の終端を次の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 1本のオクターブ線の終端を前の符頭までスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

- 複数のオクターブ線が選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔による長さの変更のみ行なえます。
- キーボードを使用しているときは、オクターブ線の終端しか動かさせません。オクターブ線の始端は、オクターブ線全体を移動させるか、開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。

- 1本のオクターブ線の開始位置または終了位置にある丸いハンドルをクリックして、左右の符頭に向けてドラッグします。

結果

オクターブ線1つの長さが、現在のリズムグリッドの間隔または前後の符頭の位置のいずれか近い方に従い変更されます。

複数のオクターブ線の長さが、現在のリズムグリッドの間隔に従い変更されます。

オクターブ線の角度の変更

オクターブ線の角度を複数の位置で変更できます。これによりたとえば、ピッチ差の大きいフレーズに沿うようにオクターブ線にコーナーを追加して、垂直方向のスペースを節約できます。

手順

1. 記譜モードまたは浄書モードで、以下のいずれかを選択します。

- オクターブ線の範囲内の、単一のコーナーを追加する位置にある個々の音符/和音。

補足

オクターブ線の破線がゆがむ場合があるため、隣接する音符を選択することはおすすめしません。

- オクターブ線に角度を付ける範囲にまたがる偶数個の隣接する音符。

2. 以下のいずれかの方法で角度を変更します。

- 選択した各音符の位置に単一のコーナーを追加する場合は、「編集 (Edit)」 > 「オクターブ線 (Octave Line)」 > 「コーナーを追加 (Add Corner)」を選択します。
- 選択した音符の範囲でオクターブ線に角度を付ける場合は、「編集 (Edit)」 > 「オクターブ線 (Octave Line)」 > 「角度をつける (Make Angled)」を選択します。

ヒント

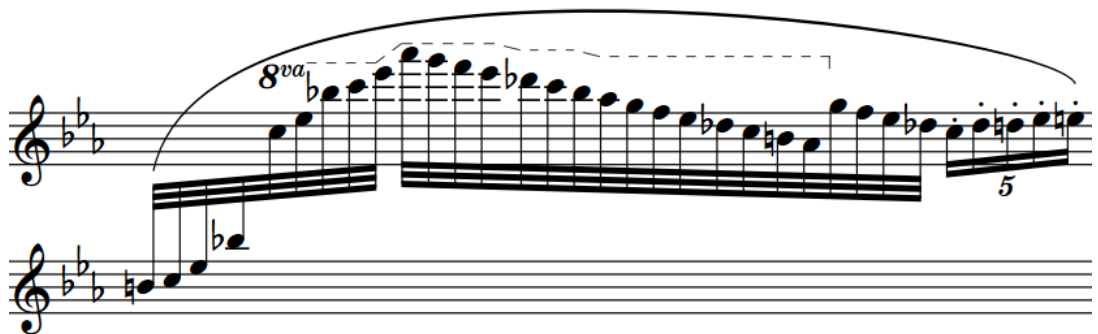
このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

個々の音符にコーナーを追加した場合は、Dorico Pro は各選択位置における譜表から最も遠い音符を前の音符/和音の高さと比較して、適切な角度のコーナーを追加します。

選択した音符の範囲でオクターブ線に角度を付けた場合、Dorico Pro は選択した範囲の高さの変化に合うように、オクターブ線の角度を調整します。

例



スラーの下にコンパクトに収まった、複数のコーナーを持つオクターブ線

オクターブ線の角度のリセット

オクターブ線の角度とコーナーをリセットして、1本の水平線に戻せます。

手順

1. オクターブ線の範囲内の、リセットする角度/コーナーの位置の音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「オクターブ線 (Octave Line)」 > 「コーナー/角度を削除 (Remove Corner/Angle)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した音符の上/下のオクターブ線の角度およびコーナーがリセットされます。これは、同じオクターブ線の選択されていない音符の上/下の角度には影響しません。

オクターブ線の位置

初期設定では、記譜上の音符より高いピッチの演奏を示す場合にはオクターブ線は譜表の上に、記譜上の音符より低いピッチの演奏を示す場合には譜表の下に配置されます。

オクターブ線の位置は記譜モードで移動できます。これらは「浄書オプション (Engraving Options)」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

オクターブ線の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置はこれによって変更されません。

プロジェクト全体のすべてのオクターブ線のデフォルト位置は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「オクターブ線 (Octave Lines)」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでオクターブ線の設定をプロジェクト全体に適用する \(744 ページ\)](#)

[タッキングインデックスのプロパティ \(750 ページ\)](#)

オクターブ線の位置の移動

オクターブ線の位置は入力後に移動できます。

手順

1. 記譜モードで、移動するオクターブ線を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるオクターブ線は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、全体のデュレーションを維持したまま、オクターブ線を譜表上の次または前の符頭の位置に移動します。
 - 1本のオクターブ線を同じ譜表の次の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 1本のオクターブ線を同じ譜表の前の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔に従って右に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔に従って左に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

複数のオクターブ線が選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔による移動のみ行なえます。

- オクターブ線をクリックして、任意の水平位置にドラッグします。

結果

オクターブ線が異なる位置に移動します。オクターブ線は更新された位置の音符に適用されています。

補足

- 1本のオクターブ線が移動する際に他のオクターブ線の上を通過した場合、オクターブ線は複数と同じ位置に存在できるため、そこにあったオクターブ線に影響はありません。ただし、複数のオクターブ線を一緒に移動すると、選択したオクターブ線を移動する場所に応じて、既存のオクターブ線が短くなったり削除されたりします。
- オクターブ線を符頭が存在しない位置に移動させた場合、楽譜領域には表示されなくなります。ふたたび表示させるためには、次の符頭がある位置まで左右に移動を続ける必要があります。
- オクターブ線は譜表に沿ってしか移動できません。譜表をまたいでオクターブ線を移動させる場合は、オクターブ線をいったん削除してから新しいオクターブ線を別の譜表に入力します。

関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(257 ページ\)](#)

オクターブ線の表示位置の移動

オクターブ線の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。オクターブ線の終端は個別に移動でき、これはオクターブ線個別の表示上の長さも調節できることを意味します。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- オクターブ線全体
- オクターブ線の開始位置または終了位置の個々のハンドル

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、オクターブ線またはハンドルを移動させます。

- オクターブ線またはハンドルを右に移動するには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- オクターブ線またはハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- オクターブ線またはハンドルを上を移動するには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
- オクターブ線またはハンドルを下に移動するには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。

補足

- オクターブ線終了位置のハンドルは上下には動かさず、左右にしか移動できません。オクターブ線の開始位置のハンドルは上下に移動できますが、これは同時にオクターブ線全体を移動させます。
- アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オクターブ線全体をクリックして上下にドラッグします。

- オクターブ線のハンドルをクリックして、左右にドラッグします。
-

結果

選択したオクターブ線またはハンドルの移動により、表示位置が更新されます。

ヒント

オクターブ線の位置を移動すると、プロパティパネルの「オクターブ線 (Octave Lines)」グループにある以下の対応するプロパティが自動的にオンになります。

- **開始 X オフセット (Start X offset)**: オクターブ線の開始位置を水平に移動します。
- **終了 X オフセット (End X offset)**: オクターブ線の終了位置のフックを水平に移動します。
- **Y オフセット (Y offset)**: オクターブ線全体を垂直に移動します。

たとえば、オクターブ線全体を右に移動した場合、両方のハンドルが移動するため、「開始 X オフセット (Start X offset)」と「終了 X オフセット (End X offset)」がオンになります。3 つすべてのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、オクターブ線を移動したり、長さを調節したりできます。

プロパティをオフにすると、選択したオクターブ線がデフォルトの位置に戻ります。

オクターブ線の数字の配置を音符に対して個別に変更する

個々のオクターブ線が適用される範囲の最初の音符に揃える位置を、オクターブ線の数字の左端、中央、右端から選んで変更できます。

手順

1. 数字の音符に対する配置を変更するオクターブ線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「オクターブ線 (Octave Lines)」グループで、「**L 整列 (L alignment)**」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **左 (Left)**
 - **中央 (Center)**
 - **右 (Right)**
-

結果

選択したオクターブ線の数字の配置が変更されます。たとえば「**右 (Right)**」を選択した場合、選択したオクターブ線の数字の右端が、オクターブ線が適用される範囲の最初の符頭に揃えられます。

オクターブ線の数字の配置を臨時記号に対して個別に変更する

プロジェクト全体の設定より優先される形で、それぞれのオクターブ線の開始位置にある数字の配置を、符頭の上または臨時記号の上に変更できます。

手順

1. 数字の臨時記号に対する配置を変更するオクターブ線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「オクターブ線 (Octave Lines)」グループで、「**L 位置 (L position)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **符頭 (Notehead)**

- 臨時記号 (Accidental)

結果

選択したオクターブ線の数字の配置が変更されます。たとえば「臨時記号 (Accidental)」を選択した場合、オクターブ線の数字が、オクターブ線が適用される範囲の最初の符頭に付く臨時記号に揃って整列されます。

ヒント

オクターブ線の数字のデフォルトの配置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」>「浄書オプション (Engraving Options)」の「オクターブ線 (Octave Lines)」ページにある「水平位置 (Horizontal Position)」セクションで設定を行ないます。

オクターブ線の削除

音符や他のアイテムは削除せずに、オクターブ線だけを削除できます。

手順

1. 記譜モードで、削除するオクターブ線を選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択したオクターブ線が削除されます。削除されたオクターブ線が適用されていた音符は、レイアウトの現在の設定に従い、実音または移調音のいずれかで表示されます。

関連リンク

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(257 ページ\)](#)

[レイアウトの移調/非移調の設定 \(140 ページ\)](#)

浄書モードのオクターブ線

浄書モードでは、オクターブ線には3つの四角いハンドルが付いています。これらのハンドルを動かすことで、オクターブ線の始端および終端の表示位置の移動、およびオクターブ線のフックの長さの変更が行なえます。



浄書モードのオクターブ線

- 開始位置のハンドルは、オクターブ線始端の表示位置を移動させます。このハンドルは左右に動かさせます。

補足

キーボードを使用しているときは、このハンドルを上下にも移動できます。これはオクターブ線全体を移動させます。

- 終了位置上部のハンドルは、オクターブ線終端の表示位置を移動させます。このハンドルは左右に動かさせます。
- 終了位置下部のハンドルは、フックの長さを変更します。このハンドルは上下に動かさせます。

オクターブ線が組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側のオクターブ線の分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。

関連リンク

[オクターブ線の表示位置の移動 \(747 ページ\)](#)

[オクターブ線の長さの変更 \(744 ページ\)](#)

[浄書オプションでオクターブ線の設定をプロジェクト全体に適用する \(744 ページ\)](#)

オクターブ線のフックの長さを個別に変更する

個々のオクターブ線のフックの長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、フックの長さを変更するオクターブ線のフックのハンドルを選択します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

結果

選択したオクターブ線のフックの長さが変更されます。

ヒント

- オクターブ線のフックを移動すると、プロパティパネルの「**オクターブ線 (Octave Lines)**」グループにある「**フックの長さ (Hook length)**」が自動的にオンになります。このプロパティの数値フィールドの数値を変更することでも、オクターブ線のフックの長さを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したオクターブ線が初期設定のフックの長さにリセットされます。

- 「**オクターブ線のフックの長さ (Octave line hook length)**」の値を変更すると、すべてのオクターブ線のデフォルトのフックの長さをプロジェクト全体で変更できます。このオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**オクターブ線 (Octave Lines)**」ページの「**外観 (Appearance)**」セクションにある「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックして表示できます。

タッキングインデックスのプロパティ

記譜記号のタッキングインデックスは、複数の記譜記号が同じ位置に存在する場合に、垂直スタッキングの順番における他の記譜記号に対する位置を決定します。

出版された楽譜のほとんどにおいて、アイテムが記譜される相互の順番は一定となっています。Dorico Pro は一般的な表記規則を使用して、記譜記号の位置や配置を自動的に決定します。たとえば、スラーと連符の角括弧が同じ位置に存在する場合、Dorico Pro はそれぞれの長さを比較して配置を決定しま

す。スラーが連符の角括弧より長い場合、スラーは連符の角括弧より外側に配置されます。連符の角括弧がスラーより長い場合、スラーは連符の角括弧より内側に配置されます。

ただし、アーティキュレーション、スラー、連符およびオクターブ線の順番と配置に関するルールは、それぞれの長さや音楽的な状況により、多くの変化や例外を生じます。そのため、特定の状況における配置の順番は、自動生成された順番を上書きして手動で変更できます。

この柔軟性を可能とするために、スラー、オクターブ線および連符にはすべて、プロパティパネルのそれぞれ対応するグループ内に「**タッキングインデックス (Tucking index)**」プロパティが用意されています。

補足

アーティキュレーションは、スタックの順番を算出する際には上記の記譜記号と同様に考慮されますが、タッキングインデックスのプロパティは持ちません。

「**タッキングインデックス (Tucking index)**」が **0** である場合、アイテムは音符の 1 番近くに配置されます。数字が大きくなるほど、アイテムはスタックの順番の中で音符から離れた位置に配置されます。

オクターブ線の垂直スタックの順番を変更する

個々のオクターブ線のタッキングインデックス値を変更して、垂直スタック内での他のオブジェクトに対する位置を変更できます。

慣例に従い、オクターブ線は他のすべてのオブジェクトより外側に配置されますが、他のオブジェクトの内側に入る状況もあります。たとえばスラーがオクターブ線より長い場合、オクターブ線はスラーの内側に入ります。

手順

1. 浄書モードで、垂直スタック内の位置を変更するオクターブ線を選択します。
2. プロパティパネルの「**オクターブ線 (Octave Lines)**」グループで、「**タッキングインデックス (Tucking index)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。
0 ではアイテムが音符に 1 番近い位置に配置されます。数字が大きくなるほど、アイテムはスタックの順番の中で音符から離れた位置に配置されます。

結果

選択したオクターブ線の垂直スタックの順番の中での位置が変更されます。

キュー

キューとは、インストゥルメントのパートに異なるプレーヤーが演奏する楽譜のパスセージが表示されるもので、通常は長い休止に続く演奏部分やソロの前に、演奏を開始する時点プレーヤーに示すためのものです。

キューはまた、プレーヤー間の協調や音程合わせの補助や、プレーヤーによって別のパートの演奏を求める内容の指示にも使用されます。

Dorico Pro では、キューのポップオーバーを使用して簡単に正しい形式のキューを入力できます。キューは自動的に新規の声部に入力され、キューを読むプレーヤーがその音符を演奏しないことを必ず理解できるように、小節休符を伴って表示されます。キューには音部記号が、復帰のための音部記号も含めて、必要に応じて自動的に入力されます。



バイオリンパートに1番ファゴットパートからの楽譜を表示するキュー

Dorico Pro では動的なキューが参照元の内容にリンクされており、元の内容が変更されるとリアルタイムでキューが更新されます。

キューの中にその楽譜が引用されるインストゥルメントは、元インストゥルメントと呼ばれます。他のインストゥルメントからのキューが書き込まれるパートのインストゥルメントは、出力先インストゥルメントと呼ばれます。

初期設定では、キューはフルスコア/カスタムスコアのレイアウトには表示されず、パートレイアウトには表示されます。キューが表示されないレイアウトでは、ガイドで表示されます。

補足

記譜モードでは、キューに含まれるものは何も選択できません。浄書モードでは、キューの音符やアイテムを選択できますが、編集できるのは表示上の要素のみです。

関連リンク

[キューの入力 \(318 ページ\)](#)

[レイアウト内のキューを表示/非表示にする \(756 ページ\)](#)

[キューの内容 \(760 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

[任意の位置から音符のスペーシングを変更する \(432 ページ\)](#)

[キューの表示オプション \(768 ページ\)](#)

[ガイド \(337 ページ\)](#)

キューの配置と記譜に関する一般的な表記規則

キューは通常、パスセージの開始位置に元インストゥルメントの名前を伴い、標準の音符より小さい音符を使用して記譜されます。

キューの上か下には縮小なしの休符を配置して、キューを読むプレーヤーがその音符を演奏しないことを強調するのが一般的です。

元インストゥルメントに存在する記譜記号の一部は、キューでは省略される場合があります。ただし、スラー、アーティキュレーションおよび強弱記号は、プレーヤーがキューに目を通す際にパッセージを識別しやすくなるが多いため、通常はキューに表示されます。

キューの元インストゥルメントの音域およびキューのパッセージそれぞれの範囲によっては、キューの開始位置に音部変更記号が必要となる場合もあります。

関連リンク

[キューラベル \(761 ページ\)](#)

[キューの音部変更記号 \(767 ページ\)](#)

[キューの記譜記号 \(763 ページ\)](#)

[キューに表示される記譜記号を変更する \(763 ページ\)](#)

浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**キュー (Cues)**」ページで、キューの外観、コンテンツおよび位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**キュー (Cues)**」ページのオプションを使用すると、キューのサイズ、外観、配置および詳細な位置を変更できます。また、すべてのキューに表示する記譜記号の決定、キューのデフォルトのスペーシングの設定、およびリズムによるキューや元インストゥルメントが無音程打楽器のキューの譜表に対するデフォルト位置の設定も行なえます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

[既存のキューをリズムによるキューに変換 \(754 ページ\)](#)

リズムによるキュー

リズムによるキューは、元インストゥルメントのピッチの有無に関わらずそのリズムのみ表示し、初期設定では譜表の上に配置されます。初期設定では、無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューは、リズムによるキューとして入力されます。

リズムによるキューは音部変更記号、臨時記号、および加線を表示しません。また、出力先がオクターブ移調インストゥルメントの場合でも、キューラベルにオクターブの移調は表示されません。デフォルト位置が譜表線の外側となっていることで、ピッチのある音符として読み違えることがなくなります。

既存のキューをリズムによるキューに変更することも、その逆も行なえます。これにより、ピッチのある元インストゥルメントによるキューはリズムのみ表示するようになります。これは、大規模なユニゾンや和音のあるビッグバンドの楽譜のように、複数のインストゥルメントが同時に同じリズムを演奏しつつピッチが異なる場合に有効です。この状況においては、グループのうち1つのインストゥルメントのピッチを表示することは、それが全体を代表するメロディーであると出力先インストゥルメントの演奏者に勘違いさせる恐れがあります。この場合はキューラベルを変更して、キューのリズムを演奏するインストゥルメント全体に関する情報を表示できます。

初期設定では、無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューは、リズムによるキューとして入力されます。垂直方向のスペースを節約する場合は、これを無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューに変更できます。これによりキューは、初期設定では譜表の第3線に配置されるようになります。

リズムによるキューおよび無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表に対するデフォルトの位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**キュー (Cues)**」のページにある「**リズムによるキュー (Rhythmic Cues)**」および「**無音程楽器 (Unpitched Instruments)**」のセクションで変更できます。

また、リズムによるキューや無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表に対する位置は、個別に変更もできます。



リズムによるキュー



無音程打楽器を元とするキュー

関連リンク

[キューラベルのテキストの編集 \(762 ページ\)](#)

[無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表上の位置を変更する \(755 ページ\)](#)

既存のキューをリズムによるキューに変換

キューは通常、特定のインストゥルメントが演奏する、ピッチのある楽譜を表示します。しかし、ピッチのある楽譜を表示する既存のキューは、元の楽譜のリズムしか表示しないリズムによるキューに変更できます。これは、たくさんのインストゥルメントが同じ特徴的なリズムと一緒に演奏するようなパッセージの表示に便利です。

手順

1. リズムによるキューに変更するキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「リズムによるキュー (Rhythmic cue)」をオンにします。

結果

選択したキューがリズムによるキューとして表示されます。これは「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「キュー (Cues)」ページの「リズムによるキュー (Rhythmic Cues)」セクションにある「譜表の上第 1 間からの距離 (Distance from space above staff)」の設定に従い、自動的に譜表の上に配置されます。

補足

「リズムによるキュー (Rhythmic cue)」をオフにすると、選択したキューが標準のキューに戻ります。これには、自動的にリズムによるキューとして入力される、無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューも含まれます。

無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューにおいて「リズムによるキュー (Rhythmic cue)」をオフにした場合は、初期設定ではキューは譜表の第 3 線に配置されます。

関連リンク

[キューの入力 \(318 ページ\)](#)

リズムによるキューと譜表と間の距離を変更する

個々のリズムによるキューと譜表との間の距離は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 譜表からの距離を変更するリズムによるキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「距離 (Distance)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択したキューの位置が、新しい値によって変更されます。たとえば0と入力すると、リズムによるキューは譜表の第5線のすぐ上の間に配置されます。値を大きくするほど、リズムによるキューと譜表との距離は大きくなります。

ヒント

すべてのリズムによるキューと譜表第5線との距離のプロジェクト全体のデフォルトは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「キュー (Cues)」のページで変更できません。

関連リンク

[浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する \(753 ページ\)](#)

無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表上の位置を変更する

無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表上の位置を、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

初期設定では、リズムによるキューになっていない無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューは、譜表の第3線に配置されます。

手順

1. 譜表上の位置を変更する無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「無音程音の位置 (Unpitched notes pos.)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択したキューの譜表上の位置が、新しい値によって変更されます。たとえば、0は譜表の第3線、4は譜表の第5線、-4は譜表の第1線を意味します。

ヒント

すべての無音程打楽器を元インストゥルメントとするキューの譜表上の位置のプロジェクト全体のデフォルトは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「キュー (Cues)」のページで変更できます。

例



譜表の第3線に配置された無音程のキュー (デフォルト) 譜表の高い位置に配置された無音程のキュー

レイアウト内のキューを表示/非表示にする

キューはどのレイアウトにでも入力できますが、通常はインストゥルメントパートでのみ表示されるものであるため、初期設定ではキューはフルスコアレイアウトに表示されません。キューを表示するか非表示にするかは、プロジェクトの各レイアウトごとに個別に切り替えることができます。

ページビューでは、初期設定ではフルスコアレイアウトにキューのガイドが表示されます。ギャラリービューでは、キューのガイドに加えてキュー元の楽譜が表示されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、キューを表示または非表示にするレイアウトを選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**キュー (Cues)**」セクションで、「**キューを表示 (Show cues)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトのチェックボックスがオンになっているときは、すべてのキューが表示され、オフになっているときは非表示になります。

キューが表示されないレイアウトでは、ガイドで表示されます。

補足

- キューが表示されるレイアウトにおいては個々のキューを非表示にできますが、キューが非表示になっているレイアウトで個々のキューを表示させることはできません。
- キューのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**キュー (Cues)**」を選択して切り替えられます。メニュー内の「**キュー (Cues)**」の横にチェックマークがあるときはキューのガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

関連リンク

[ガイド \(337 ページ\)](#)

個別にキューを非表示にする

キューを表示しているレイアウトでは、キューを個別に非表示にできます。ただし、キューを表示していないレイアウトに、キューを個別に表示させることはできません。

手順

1. 楽譜領域で、個別のキューを非表示にするレイアウトを開きます。
2. 非表示にするキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
3. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、「**非表示 (Hide)**」をオンにします。

結果

「**非表示 (Hide)**」をオンにすると、選択したキューが非表示になります。非表示にした各キューの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

「**非表示 (Hide)**」をオフにすると、選択したキューが再度表示されます。

キューのオクターブを変更する

出力先インストゥルメントの譜表に収まりがよくなるように、キューの表示されるオクターブを変更できます。これは、元インストゥルメントが出力先インストゥルメントとは大幅に異なるオクターブで演奏しているときに有効な場合があります。

手順

1. 楽譜領域で、キューのオクターブを変更するレイアウトを開きます。
2. オクターブを変更するキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
3. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「オクターブシフト (Octave shift)」をオンにします。
4. 数値フィールドの値を変更します。

結果

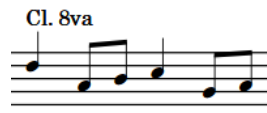
選択したキューのオクターブが変更されます。たとえば、**1** のときはキューが1オクターブ上に移動し、**-1** のときはキューが1オクターブ下に移動します。

オクターブの移調がキューラベルに表示されている場合、これは自動的に更新されます。

例



オクターブ変更がないキュー



オクターブ線 (上) が付いたキュー

キューラベルのオクターブ移調を表示/非表示にする

初期設定では、キューの表示オクターブを変化させると、キューラベルにオクターブの移調が表示されます。個々のキューラベルにおけるオクターブの移調の表示/非表示は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に切り替えられます。

手順

1. オクターブの移調を表示または非表示にするキューラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「オクターブ移調を表示 (Show octave transposition)」をオンまたはオフにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

選択したキューラベルのチェックボックスがオンになっているときはオクターブの移調が表示され、オフになっているときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、キューラベルはプロジェクト全体の設定に戻ります。

ヒント

プロジェクト全体のすべてのキューラベルにおけるオクターブの 移調の表示/非表示は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**キュー (Cues)**」ページで切り替えられます。

関連リンク

[キューラベルに含まれる情報をプロジェクト全体で変更する \(761 ページ\)](#)

キューの移動

キューは入力後に別の位置へ移動できます。これにより、元インストゥルメントの同じ位置にある内容を反映する形で、キューの表示内容が変化します。

手順

1. 記譜モードで、移動するキューのラベルを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるキューは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、キューを移動します。

- 1つのキューを元インストゥルメントのリズムに従って右に移動させるには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 1つのキューを元インストゥルメントのリズムに従って左に移動させるには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従って右に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従って左に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

複数のキューを選択している場合、キューの移動は現在のリズムグリッドの間隔にのみ従います。

- キューをクリックして左右にドラッグし、元インストゥルメントのリズムに従って移動します。
-

結果

選択したキューが新しい位置に移動します。キューの内容は、そのデュレーションの範囲に収まる元インストゥルメントの楽譜の内容を反映する形で更新されます。

関連リンク

[キューの重ね合わせ \(764 ページ\)](#)

[レイアウト内のキューを表示/非表示にする \(756 ページ\)](#)

キューの長さの変更

キューの長さは、キューを入力したあとでも変更できます。これにより、元インストゥルメントの同じ位置にある内容を反映する形で、キューの表示内容が変化します。

手順

1. 記譜モードで、長さを変更するキューのラベルを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるキューは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、キューの長さを変更します。

- 現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 1つのキューを元インストゥルメントの次の符頭まで伸ばすには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 1つのキューを元インストゥルメントの前の符頭まで縮めるには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

- 複数のキューが選択されている場合は、キューの長さの変更は、現在のリズムグリッドの間隔によってのみ行なえます。
 - キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。
-
- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。

結果

選択したキューの長さが変更されます。

補足

キューは同じ位置に複数存在できるため、他のキューに重なる位置まででも長さを変更できます。ただし、キューの符尾の方向の自動調整は行なわれないため、手動による変更が必要となる場合があります。

関連リンク

[キューの重ね合わせ \(764 ページ\)](#)

[声部が1つのキューのデフォルトの符尾の方向を上書きする \(765 ページ\)](#)

[キューの移動 \(758 ページ\)](#)

キューの削除

個々のキューは、元インストゥルメントや同じキューを表示する他インストゥルメントの対応する音符を削除することなく削除できます。

手順

1. 記譜モードで、削除するキューのラベル/ガイドを選択します。
 2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
-

結果

選択したキューが、影響されるインストゥルメントが含まれるすべてのレイアウトから削除されます。たとえば、ピアノパートのキューを削除すると、フルスコアレイアウトのピアノ 譜表からも対応するキューが削除されます。

関連リンク

[レイアウト内のキューを表示/非表示にする](#) (756 ページ)

[ガイド](#) (337 ページ)

キューの内容

個々のキューにはレイアウトごとに異なる内容を表示できます。元インストゥルメントを含むレイアウトに変更を加えない限りは、それぞれ他のレイアウトに影響を与えることも、元の内容を変化させることもありません。

キューに含まれる音符は、元インストゥルメントの音符に動的にリンクされています。元の楽譜に変更を加えると自動的にキューに表示されますが、キューの中では音符のピッチやデュレーションを変更できません。これにより、元インストゥルメントが演奏する音符をキューが忠実に反映することが保証されます。

キューに含まれる楽譜は、元インストゥルメントの対応する楽譜に影響することなく表示内容を変更できます。たとえば、スラーの位置やグリッサンドの角度の調節、キュー内の符尾の長さの変更、および臨時記号の表記変更などが行なえます。また、すべてのレイアウトについて、および個別レイアウトの選択した位置から先について、キューの音符のスペーシングの倍率を変更できます。

補足

キューの表示内容の変更はレイアウト固有のものとなります。たとえば、元インストゥルメントも含まれるフルスコアレイアウト中のキューに変更を加えた場合、キューへの変更は元インストゥルメント中の対応する内容とともに、レイアウト中の同じキューを使用する他のインストゥルメントにも影響を与えます。一方、キューの出力先インストゥルメントしか含まれないパートレイアウトの中でキューに変更を加えた場合、元インストゥルメントのパートレイアウト内の対応する内容に影響はありません。

また浄書モードでは、キュー内の音符の異名同音の表記を変更できます。これは通常の音符における異名同音の変更と同じ手順となります。出力先インストゥルメントのパートレイアウト内のキューの音符の表記を変更しても、元インストゥルメントの音符の表記に影響はありません。たとえば、移調楽器レイアウトにおいて二重臨時記号を避けるために、キューの音符の異名同音の表記を変更できます。

重要

元インストゥルメントを含むレイアウトでキューの音符の表記を変更した場合は、元インストゥルメントの異名同音の表記も同様に変更されます。

関連リンク

[音符の書き換え](#) (204 ページ)

[浄書モードのスラー](#) (1143 ページ)

[符尾の長さを個別に変更する](#) (1217 ページ)

[音符のスペーシング](#) (430 ページ)

[「音符のスペーシングの変更 \(Note Spacing Change\)」ダイアログ](#) (432 ページ)

[任意の位置から音符のスペーシングを変更する](#) (432 ページ)

キューラベル

キューラベルは、通常は楽譜を引用した元インストゥルメントを示しますが、移調楽器の移調するピッチなど、その他の情報も表示できます。この情報により、アンサンブルのどこから音が出ているか、注意して聴くのはどの種類の音か、プレイヤーが特定できるようになります。

初期設定では、Dorico Pro のキューラベルは省略されたインストゥルメント名を使用し、インストゥルメントの移調は除外し、オクターブの移調は含め、プレイヤーがキューのあと演奏を開始する位置を示すキュー終端の追加ラベルは表示しません。ジャズのスコアでは、キューに伴う小節休符を表示しないのが慣例となっており、キュー終端にPlayと表示する追加ラベルを使用する場合があります。また映画音楽でも、プレイヤーが場合によって演奏することを要求されるオプションとしてキューがパートに記されることが多く、キュー終端の追加ラベルが役に立つ場合があります。

Dorico Pro では、キューラベルに表示する情報やテキストは、プロジェクト全体および個別の設定どちらでも変更できます。

補足

キューの開始位置または終了位置のキューラベルの表示/非表示を個別に設定する場合、プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」のグループから以下のプロパティを使用できます。

- 「**開始テキスト (Start text)**」は、キューの開始位置にラベルを追加します。
- 「**終了テキスト (End text)**」は、キューの終了位置にラベルを追加します。

キューラベルに含まれる情報をプロジェクト全体で変更する

キューラベルにテキストとして含まれる情報をプロジェクト全体で変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**キュー (Cues)**」をクリックします。
3. 「**キューラベル (Cue Labels)**」のセクションで、以下のいずれかのオプションを変更します。
 - **ラベルに表示されるインストゥルメント名 (Instrument name in label)**
 - **インストゥルメントの音程または移調 (Instrument pitch or transposition)**
 - **オクターブの移調 (Octave transposition)**
 - **キュー終わりの追加ラベル (Additional label at end of cue)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

キューラベルに含まれる情報がプロジェクト全体で変更されます。

ヒント

キューラベルは個別にも編集できます。たとえば、2つのインストゥルメントがユニゾンで演奏している場合、一方のインストゥルメント名が表示されているところを、両方表示するようにキューラベルを編集できます。

キューラベルのテキストの編集

キューラベルに表示されるテキストを個別に上書きできます。たとえば、2つのインストゥルメントがユニゾンで演奏している場合、一方のインストゥルメント名が表示されているところを、両方表示するようにキューラベルを変更できます。

また、プロジェクト全体の設定が追加ラベルを表示しない設定になっている場合でも、個々のキューには終了位置に追加ラベルを表示できます。

手順

1. テキストを編集するキューラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」のグループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
 - **開始テキスト (Start text)**
 - **終了テキスト (End text)**
3. 対応するキューラベルに表示させるテキストを各フィールドに入力します。
たとえば、バイオリン奏者2名が同じ譜面を1オクターブ間隔で演奏することを示す場合、「**開始テキスト (Start text)**」の値フィールドに「**Vln.I & Vln.II coll'ottava**」と入力します。
4. **[Return]** を押します。

結果

選択したキューのキューラベルが、入力テキストを表示するように変更されます。

プロパティをオフにすると、選択したキューの対応するキューラベルが元のテキストに戻ります。

補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

キューラベルの表示位置を移動する

キューラベルの表示位置は、キューの対応する拍に影響することなく個別に変更できます。キューの開始位置と終了位置のキューラベルは、それぞれ別個に移動できます。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更するキューラベルを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、キューラベルを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したキューラベルが新しい表示位置に移動します。

ヒント

キューラベルを移動すると、プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループにある「**オフセット (Offset)**」が自動的にオンになります。

- 「**オフセット X (Offset X)**」はキューラベルを水平に移動させます。
- 「**オフセット Y (Offset Y)**」は、キューラベルを垂直に移動させます。

このプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更してキューラベルを移動させることもできます。同じプロパティを使用して、キュー開始位置と終了位置のキューラベルをそれぞれ別個に移動できます。

プロパティをオフにすると、選択したキューラベルが初期設定の位置にリセットされます。

キューの記譜記号

音楽的に意義の大きい記譜記号は、プレーヤーがキューの楽譜を容易に識別できるようになるため、元インストゥルメントから引用してキューに表示すると効果的です。ただし、情報過多でプレーヤーに負担をかけることを避けるため、キューには一部の記譜記号しか表示されません。

初期設定では、Dorico Pro は以下の記譜記号をキューに表示します。

- スラー
- アーティキュレーション
- 装飾音
- 演奏技法
- 歌詞 (ボーカルの楽譜の場合)

キューには強弱記号やテキストも表示できますが、キューの内容を特定するために通常は必要とされないため、初期設定ではこれらは表示されません。

補足

弦楽器プレーヤーのためのボウイング記号のように、元インストゥルメントにとってのみ重要な情報を示す演奏技法は、キューには表示されません。

演奏技法は、キューに表示するには、キュー内容の範囲内に入っている必要があります。たとえば、スラーをキューに表示するには、スラーの開始と終了がキューの範囲内に収まっている必要があります。

同様に、ピチカート記号がキューの第1音より先に入力されていた場合、これはキューに表示されません。しかし、弦楽器のピチカートのサウンドは弓で演奏した場合とは大きく異なるため、この情報が省略されると、キューを読むプレーヤーがこれを識別しづらくなる場合があります。

補足

重要な演奏技法がキュー内容の範囲内がない場合、この情報を対応するキューラベルに含めることをおすすめします。

キューに表示される記譜記号を変更する

スラーや演奏技法など、個々のキューに表示する記譜記号は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 表示する記譜記号を変更するキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、選択したキューに表示する、または非表示にする記譜記号それぞれのプロパティをオンにします。
 3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
-

結果

チェックボックスをオンにすると対応する記譜記号がキューに表示され、チェックボックスをオフにすると非表示になります。

補足

- 弦楽器プレーヤーのためのボウイング記号のように、元インストゥルメントにとってのみ重要な情報を示す演奏技法は、キューには表示されません。
 - すべてのキューに表示される記譜記号に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**キュー (Cues)**」ページで変更できます。
-

関連リンク

[浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する \(753 ページ\)](#)

[キューラベルのテキストの編集 \(762 ページ\)](#)

キューの符尾の方向

キューは通常 1 つだけの声部による旋律を取り上げることから、キューの音符は符尾の方向がすべて同じになるのが普通です。キューは初期設定では小節休符を伴って表示され、これはキューを読むプレーヤーがこの音符を演奏しないことを示しています。

キューが複声部による楽譜で構成される場合、元の音符の符尾の方向が使用されます。1 つの声部によるキューにおいては、Dorico Pro はキュー内のピッチに従ってデフォルトの符尾の方向を決定します。キューの音符の大部分が譜表の第 3 線より下に位置する場合は符尾が下向きになり、キューの音符の大部分が譜表の第 3 線より上に位置する場合は符尾が上向きになります。

ヒント

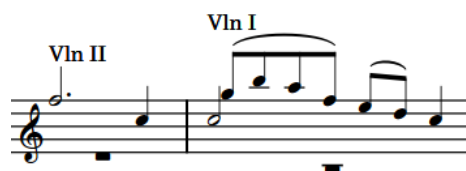
声部が 1 つのキューの音符の符尾の方向は、個別に上書きできます。

キューの重ね合わせ

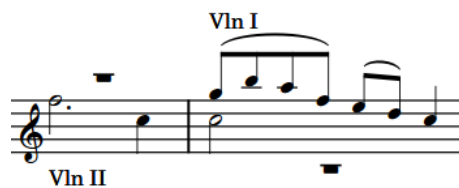
複数の連続するキューをプレーヤーに提示することで、音楽の流れを追いやすくなる場合があります。Dorico Pro は、キューの有用な情報を柔軟にプレーヤーに伝えるために、キューが重なり合うことを認めています。

ただし、キューが他のキューと同じ位置に存在する場合、それぞれの符尾の方向の自動調整は行なわれません。たとえば、Violin 1 から Violin 2 に受け渡されるメロディーを表示し、この 2 つのキューが重なり合う場合で、どちらのインストゥルメントも符尾が上向きに表示されるのがデフォルトである場合、キューは 2 つとも符尾が上向きの音符で表示されます。

キューの符尾の方向のデフォルトを個別に上書きして、重なり合うキューを読みやすくなります。



2つの重なり合うキューのデフォルトの符尾の方向



下向きになるよう上書きされた符尾の方向 (低い音符を持つ方のキュー)

声部が1つのキューのデフォルトの符尾の方向を上書きする

声部が1つのキューのデフォルトの符尾の方向は個別に上書きできます。

手順

1. 楽譜領域で、選択したキューのデフォルトの符尾の方向を上書きするレイアウトを開きます。
2. 符尾の方向を変更するキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
3. プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループで、「声部の向き (Voice direction)」をオンにします。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 符尾を強制的に上向き (Force stems up)
 - 符尾を強制的に下向き (Force stems down)

結果

選択したキューのすべての音符の符尾の方向が変更されます。

「声部の向き (Voice direction)」をオフにすると、選択したキューがデフォルトの符尾の方向に戻ります。

キューのタイ

伸ばされた音符の途中でキューが始まる場合、キューの最初の音につながる形でタイが表示されます。同様に、伸ばされた音符の途中でキューが終わる場合、キューの最後の音から伸びる形でタイが表示されます。

単音のインストゥルメントの場合、これらのタイは通常初期設定で正しく配置されます。しかし、キューに和音が含まれるといった複雑なケースにおいては、これらのタイの配置に調整が必要となる場合があります。

キューの前後に付くタイの編集は、浄書モードで標準のタイと同じ手順で行なえます。

関連リンク

[タイの形状と角度の変更](#) (1242 ページ)

キューの休符

小節の途中でキューが開始または終了する場合、キューは小節線または次の演奏される内容のいずれか先に来る方に至るまで、キューに合わせた大きさの休符で埋められます。これにより、キューのリズムが現在の拍子にどう当てはまるか、また既存の楽譜とどのような関係になるか、プレーヤーに明確に伝わります。

初期設定では、キューのパッセージ全体に縮小なしの小節休符も表示されます。これにより、キューの音符を演奏者が演奏しないことが明確になります。

縮小なしの小節休符の配置は、キューの音符の符尾の方向に従い自動的に行なわれます。キューの音符の符尾が上向きの場合、小節休符はキューの音符の下に配置されます。キューの音符の符尾が下向きの場合、小節休符はキューの音符の上に配置されます。

キューに伴う小節線を表示しないことも選択できます。これは、一部のジャズスコアや、他のパートを演奏する場合のあるパッセージとしてキューが表示されるスコアなどに適しています。

ヒント

プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**休符の位置 (Rest pos.)**」を使用して、縮小なしの小節休符の垂直位置を個別に調節できます。

関連リンク

[休符を垂直に移動する \(1130 ページ\)](#)

キューの余白を埋める休符を表示/非表示にする

個々のキューの周辺を埋める休符を表示または非表示にできます。余白を埋める休符は、キューが小節の途中で開始または終了する場合に小節を埋め、各小節の完全なデュレーションを明確にします。

手順

1. 余白を埋める休符を表示または非表示にするキューのラベルまたはガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**キュー (Cues)**」グループで、「**キュー周辺の休符を非表示 (Hide rests around cue)**」をオンまたはオフにします。
-

結果

「**キュー周辺の休符を非表示 (Hide rests around cue)**」がオンのときは選択したキューの余白を埋める休符が非表示となり、オフのときは表示されます。

関連リンク

[暗黙の休符と明示的な休符 \(1121 ページ\)](#)

キューの小節休符を表示/非表示にする

プロジェクトのフローごとに、すべてのキューに伴う小節休符の表示/非表示を切り替えられます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
 2. 「**フロー (Flows)**」リストから、小節休符を表示または非表示にするフローを選択します。
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。
 3. ページリストの「**休符 (Rests)**」をクリックします。
 4. 「**追加の声部内の休符 (Rests in additional voices)**」セクションの「**キューの小節休符 (Bar rests in cues)**」で、以下のオプションからいずれかを選択します。
 - **小節休符を表示 (Show bar rests)**
 - **小節休符を省略 (Omit bar rests)**
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

プロジェクトの選択したフローのすべてのレイアウトにおいて、キューに伴う小節休符が表示または非表示になります。

キューの音部変更記号

元インストゥルメントの楽譜の音部が出力先インストゥルメントと異なる場合、Dorico Pro はキューの開始位置に自動的に音部変更記号を入力して、元インストゥルメントが使用する音部に合致させるとともに、キューの終了位置には復帰のための音部変更記号を入力して、出力先インストゥルメントに本来使用されていた音部に合致させます。

キュー開始位置の音部変更記号は、通常の音部変更記号とは異なる位置に配置されます。

小節の始めから開始するキュー

音部変更記号は小節線の右側に表示されます。

キュー終了位置の復帰のための音部変更記号は、通常の音部変更記号と同様の位置に配置されます。

組段区切りをまたぐキュー

新しい組段の開始位置では、出力先パート本来の音部記号が通常の配置で表示されます。

キューに必要な音部記号は、新しい組段の最初の音符の直前、調号および拍子記号の右側に表示されます。

複数のキューが隣接する場合、音部変更記号は必要な数だけ作成されます。

- 隣接する2つのキューが、出力先インストゥルメント本来の音部記号とは異なる、同じ音部記号を使用する場合、1つめのキューの開始位置に音部変更記号が1つ、2つめのキューの終了位置に復帰のための音部変更記号が1つ表示されます。
- キューが重なり合い、2つめのキューが1つめとは異なる音部記号を必要とする場合、Dorico Pro は2つめのキューの開始位置に音部変更記号を作成します。
- 隣接する2つのキューがあり、1つめのキューが出力先インストゥルメントとは異なる音部記号を使用し、2つめのキューの音部のプロパティが「なし (None)」に設定されている場合、出力先インストゥルメント本来の音部に復帰するための音部変更記号は、1つめのキューの終了位置に表示されます。

この自動的な動作は、個々の音部記号に対し、プロパティパネルの「キュー (Cues)」グループの「コンサートクレフ (Concert clef)」または「移調クレフ (Transposed clef)」で上書きできます。利用できるプロパティは、楽譜領域に現在開いているレイアウトが実音か移調音いずれを使用するかによって変わります。

Dorico Pro はキューに以下の音部記号を表示できます。

- なし (None)
- トレブル (Treble)
- アルト (Alto)
- テナー (Tenor)
- バス記号 (低音部記号) (Bass)

補足

- 「なし (None)」を選択した場合は、元インストゥルメントの音部記号のかわりに出力先インストゥルメントの音部記号が使用されます。
- キューの途中で元インストゥルメントに発生した音部の変更は、出力先インストゥルメントのキューには表示されません。

キューに表示される音部記号を個別に変更する

キューに表示される音部記号を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

同じキューに対してでも、表示されるレイアウトごとに異なる音部記号を表示できます。たとえば、フルスコアレイアウトではキューにト音記号を表示しつつ、同じキューのパートレイアウトにはヘ音記号を表示させられます。

手順

1. 楽譜領域で、キューに表示される音部記号を変更するレイアウトを開きます。
 2. 音部記号を変更するキューのラベルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 3. プロパティパネルで、「**キュー (Cues)**」グループから以下のいずれかのプロパティをオンにします。
 - **コンサートクレフ (Concert clef)**: レイアウトが実音を使用する場合に表示されます。
 - **移調クレフ (Transposed clef)**: レイアウトが移調音を使用する場合に表示されます。
 4. メニューから以下のいずれかの音部記号を選択します。
 - **なし (None)**: 元インストゥルメントの音部記号のかわりに出力先インストゥルメントの音部記号を使用します。
 - **トレブル (Treble)**
 - **アルト (Alto)**
 - **テナー (Tenor)**
 - **バス記号 (低音部記号) (Bass)**各プロパティには同じ音部記号が使用できます。
-

結果

選択したキューに表示される音部記号が変更されます。

ヒント

キューに使用される音部記号に、もとのインストゥルメントの音部記号を使用するか、表示先のインストゥルメントを使用するかを、プロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**キュー (Cues)**」ページで設定を行ないます。

関連リンク

[浄書オプションでキューの設定をプロジェクト全体に適用する \(753 ページ\)](#)

キューの表示オプション

プロジェクト全体でキューを強調表示したり、キューの内容を標準の音符とは異なるカラーで表示したりすることで、作業中のキューの識別を容易に行なえます。

補足

キューが表示されないレイアウトでは、ガイドで表示されます。キューのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**キュー (Cues)**」を選択して切り替えられます。メニュー内の「**キュー (Cues)**」の横にチェックマークがあるときはキューのガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

関連リンク

[ガイド \(337 ページ\)](#)

[キューの音符のカラーを表示/非表示にする \(769 ページ\)](#)

キューの強調表示を表示/非表示にする

キューが存在する小節の強調表示を表示/非表示にできます。これにより、キューがどこに追加されているか、およびどのインストゥルメントがキューの元として使用されているかを概観できます。

出力先インストゥルメントの譜表上のキューが含まれる小節は黄色い半透明で強調表示され、元インストゥルメントの譜表上の対応する小節は青い半透明で強調表示されます。

ズームアウトすると、強調表示の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで閲覧するとき特に便利です。

補足

キューによる小節の強調表示は、キューが表示されるレイアウトにしか表示されません。

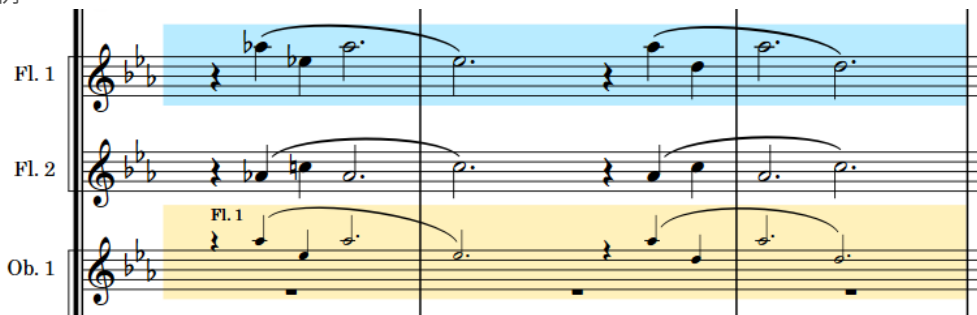
手順

- 「ビュー (View)」 > 「キューを強調 (Highlight Cues)」を選択します。

結果

メニュー内の「キューを強調 (Highlight Cues)」の横にチェックマークがあるときは、キューが含まれている小節の強調表示が表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

例

The image shows a musical score for three instruments: Fl. 1, Fl. 2, and Ob. 1. The Fl. 1 and Fl. 2 parts are on the top two staves, and the Ob. 1 part is on the bottom staff. A blue highlight covers the first two measures of the Fl. 1 and Fl. 2 parts. A yellow highlight covers the first two measures of the Ob. 1 part. The Ob. 1 part is labeled 'Fl. 1' in the first measure, indicating it is the source instrument for the cue.

元の譜表と出力先の譜表に表示されるキューの強調表示

キューの音符のカラーを表示/非表示にする

キューを識別しやすいように、キューの内容 (音符や休符など) をグレー表示にできます。キューの内容を直接編集することはできません。

キューの音符のカラーは注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。

補足

キューの音符のカラーは、キューが表示されるレイアウトにしか表示されません。

手順

- 「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)」 > 「キュー (Cues)」を選択します。

結果

メニュー内の「キュー (Cues)」の横にチェックマークがあるときはキューがグレーで表示され、チェックマークがないときは黒で表示されます。

例



カラー表示されたキューの音符

強弱記号

強弱記号は音の大きさを表わし、他の指示と組み合わせることで、解釈の余地も残しつつ、演奏者が楽譜の演奏方法を詳細に理解できるようにします。

強弱記号は音量の瞬間的な変化や、指定のデュレーションによる段階的な変化を指示します。初期設定では、強弱記号は、楽器の場合は譜表の下、歌の場合は譜表の上に配置されます。

強弱記号に修飾語句を追加して、音量レベルとともにスタイルに関する指示を与えることができます。たとえば *f* *espressivo* は、音量を大きくするだけではなく、感情を込めてパッセージを演奏することを示します。

表現テキストの大部分はイタリック体で記される一方、*ff* や *pp* などの強弱記号はボールドイタリック体のフォントを使用します。

関連リンク

[強弱記号の入力方法 \(244 ページ\)](#)

[強弱記号の位置 \(772 ページ\)](#)

[強弱記号レーン \(521 ページ\)](#)

強弱記号のタイプ

Dorico Pro では、強弱記号はそれぞれの機能に従い異なるグループに分類されます。

局部的強弱記号

局部的強弱記号は、それが属する音符から次の強弱記号が現れる位置まで適用され、それ以前の音の強さから局部的に変化させることを指示します。局部的強弱記号には *pp* や *f* などの強弱記号、そして subito や molto などの修飾テキストがあります。

段階的強弱記号とヘアピン

段階的強弱記号はヘアピンの形で表示されることが多いですが、テキストを使用する場合もあります。Dorico Pro では、段階的強弱記号テキストを以下の方法で表示させられます。

- *cresc.* または *dim.:* 省略テキスト、延長線なし
- *cresc...* または *dim...:* 省略テキストに点線による延長線
- *cre-scen-do* または *di-mi-nuen-do*: ハイフンで区切られた正式名称が段階的強弱記号のデュレーション全体に広がる

段階的強弱記号には、*poco*、*molto*、*poco a poco*、*niente* などの修飾テキストが付く場合もあります。

Dorico Pro では、ヘアピンは *messa di voce* によるヘアピンのペアによる表示もできません。状況によっては、個別のヘアピンでペアを作るよりもこの方が簡単です。

アタックの強弱/強度レベル

fz や *sffz* などの強弱記号は、アクセントのアーティキュレーションと同様、現在の強弱で通常表現されるよりも強いアタックで音符を演奏することを指示します。

結合式強弱記号

fp や *p-mf* などの結合式強弱記号は、強弱の突然の変化を指示します。

Dorico Pro では、強弱記号パネルの「**結合式強弱記号 (Combined Dynamics)**」のセクションで、カスタムの結合式強弱記号を作成して、ペアを構成するそれぞれの強弱記号の強度レベルを管理できます。たとえば、*pppf*、*fff-mp* や *ffffpppp* のような強弱記号を作成できます。

関連リンク
[段階的強弱記号 \(783 ページ\)](#)

浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページで、強弱記号の外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**強弱記号 (Dynamics)**」ページのオプションでは、強弱記号および段階的強弱記号の外観や、符頭、小節線および組段の終端に対するデフォルト位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク
[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

強弱記号の位置

強弱記号は、楽器の場合は譜表の下に音符と並んで読めるように配置され、歌の場合は譜表の上に配置されます。こうすることにより、譜表の下に配置される歌詞と衝突を避けつつ、同時に読むべき音符に十分近く配置できます。

pp や *f* といった局部的強弱記号は、適用される符頭に中央揃えで配置されます。段階的強弱記号の開始位置は、それが開始する拍の符頭に中央揃えで、または同位置の局部的強弱記号の直後に配置されます。段階的強弱記号の終了位置は、それが終了する拍の符頭に中央揃えで、または同位置の局部的強弱記号の直前に配置されます。

譜表に対する強弱記号の位置は、それぞれの機能およびプレーヤーのタイプによって多様に変化します。たとえば、強弱記号は初期設定では楽器の譜表の下、歌の譜表の上に配置されます。これにより、強弱記号は読みやすさのためにできるだけ譜表に近い位置を維持し、歌の譜表では符頭と歌詞の間に配置されません。ピアノやハープなど大譜表のインストゥルメントにおいては、強弱記号は通常2つの譜表の間に配置されますが、それぞれの譜表が異なる音の強さで演奏される場合は、それぞれの譜表の上下に配置できます。

強弱記号は総じて、特にヘアピンは非常に読みづらくなるため、譜表内には配置されません。また、連符の角括弧の内側に配置されることも通常ありません。強弱記号はスラーなど符頭に近い位置を維持する必要がある記譜記号よりも外側に配置されますが、符頭から離れて配置されても明確に読み取れるペダル線よりも内側に配置されます。

強弱記号の位置は記譜モードで移動できます。強弱記号は符頭にスナップし、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

強弱記号の表示位置は浄書モードで移動できます。これにより適用されるリズム上の位置は変更されません。

すべての強弱記号のデフォルト位置や、拍、小節線、組段の終端、譜表、その他のオブジェクトに対する位置のプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページで変更できます。

関連リンク
[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(332 ページ\)](#)
[強弱記号の位置の移動 \(774 ページ\)](#)
[強弱記号の表示位置の移動 \(775 ページ\)](#)

強弱記号の水平方向の拍相対位置を変更する

個々の強弱記号を拍の前または後に配置できます。

手順

1. 拍相対位置を変更する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「拍相対位置 (Beat-relative position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 前 (Before)
 - 後 (After)

例



拍の前に配置された強弱記号



拍の後に配置された強弱記号

局部的強弱記号の符頭に対する整列を変更する

ff や *mp* といった局部的強弱記号は、通常は符頭の視覚上の中央位置で水平方向に整列していますが、局部的強弱記号の水平方向の配置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 符頭に対する配置を変更する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「テキストの整列 (Text alignment)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- 中央位置を符頭に合わせる (Align optical center with notehead)



- 符頭に合わせて左寄せ (Left-align with notehead)



- 中央位置を符頭の左側に合わせる (Align optical center with left of notehead)



結果

選択した局部的強弱記号の配置が変更されます。

ヒント

すべての局部的強弱記号の符頭に対するデフォルトの配置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」ページにある「**水平位置 (Horizontal Position)**」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(772 ページ\)](#)

強弱記号の位置の移動

強弱記号は、タイのつながりの中にある場合でも、入力後に別の位置へ移動できます。

補足

グループの中の強弱記号を1つだけ移動させる場合は、マウスでクリックしてドラッグする必要があります。キーボードショートカットを使用した場合は、グループ全体が移動します。

手順

1. 記譜モードで、移動する強弱記号を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に位置を移動できる強弱記号は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号を移動します。

- 1つの強弱記号を次の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 1つの強弱記号を前の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従って右に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従って左に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

複数の強弱記号を選択している場合、強弱記号の移動は現在のリズムグリッドの間隔にのみ従います。

- 強弱記号をクリックして左右の符頭にドラッグします。
-

結果

選択した強弱記号が新しい位置に移動します。

補足

1つの強弱記号が移動する際に他の強弱記号の上を通過した場合、強弱記号は複数と同じ位置に存在できるため、そこにあった強弱記号に影響はありません。ただし、複数の強弱記号を同時に移動した場合、それらが通過した場所にあった強弱記号は削除されます。

この動作内容はもとに戻せますが、この過程で削除された強弱記号が復元されるのは、強弱記号の移動にキーボードを使用していた場合のみです。

関連リンク

[強弱記号ポイントの移動 \(526 ページ\)](#)

強弱記号の表示位置の移動

強弱記号の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。浄書モードでヘアピンを選択すると、両端に調節ハンドルが3つずつ表示されます。このハンドルを使用すると、段階的強弱記号の表示上の長さを変更できます。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- 局部的強弱記号、または段階的強弱記号の全体
- 段階的強弱記号の個々のハンドル

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、強弱記号またはハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択した強弱記号またはハンドルの表示位置が、適用されるリズム上の位置に影響することなく移動します。

ヒント

強弱記号の位置を移動すると、プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」のグループにある以下の対応するプロパティが自動的にオンになります。

- 「開始オフセット (Start offset)」: 局部的強弱記号、および段階的強弱記号の開始位置を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「終了オフセット (End offset)」: 段階的強弱記号の終了位置を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

たとえば、段階的強弱記号全体を上へ移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更して強弱記号を移動させることもできます。

プロパティをオフにすると、選択した強弱記号が初期設定の位置にリセットされます。

関連リンク

[段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更 \(784 ページ\)](#)

強弱記号の整列

選択した強弱記号の表示位置を、グループ化やグループ解除を要さず個別に整列できます。たとえばパートレイアウトの組段区切りがフルスコアレイアウトとは異なり、強弱記号の異なるグループの部分同士を整列する必要が生じた場合でも、それぞれのグループ化設定を変更しないまま整列を行なえます。

手順

1. 浄書モードで、整列する強弱記号を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号を整列 (Align Dynamics)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した強弱記号は、選択範囲内で譜表から最も遠かった強弱記号と1列に整列します。これは強弱記号のグループ化の状態にも、他のレイアウトでの整列の状態にも影響しません。

小節線に対するヘアピンの一般的な配置規則

Dorico Pro では、ヘアピンの終端はその右にある音符の左端に揃えられます。このためヘアピンが小節線をまたいで伸びる場合もあります。

小節の最初の音符で終了するヘアピンは、以下の条件では直前の小節線をまたいで延長されます。

- 次の小節の最初の音に局部的強弱記号が付かない場合。
- 小節線に拍子や調号の変化記号が付くことで、現在の小節の終わりりと次の小節の最初の音符との間隔が広がっている場合。

Dorico Pro は、ヘアピンが少しだけ小節線に重なるのは視覚的に明瞭さを欠くことから、これを避けようとしています。しかしこれは、2つの異なる譜表の一方が下の譜表と結合する小節線を延ばしていない場合、同じ強弱記号でも両者で表示が異なる場合があることを意味します。

ヘアピンが次の小節の最初の音符で終了する場合、ヘアピンが小節線をまたぐことの許可と禁止を切り替えられます。小節線をまたぐヘアピンを禁止すると、すべての譜表でヘアピンが同じ長さで表示されるようになります。また、ヘアピンが小節線をまたぐことが許可される最小距離の変更も行なえます。



組段の一番下の譜表には小節線が延長されないため、デュレーションが同一にも関わらず2つのヘアピンの終端が揃わない例。

小節線をまたぐヘアピンの許可/禁止を切り替える

ヘアピンが次の小節の最初の音符で終了するとき、小節線をまたぐことを許可または禁止できます。これによりたとえば、一部の小節線が結合されていない複数の譜表において、すべてのヘアピンが同じ長さで表示されるようになります。

手順

1. 小節線をまたぐことの許可/禁止を切り替えるヘアピンを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」のグループで、「小節線との交差 (Barline interaction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 手前で停止 (Stop before)
 - 継続 (Continue)

結果

「継続 (Continue)」を選択すると、選択したヘアピンが現在のレイアウトでは小節線をまたげるようになりますが、「手前で停止 (Stop before)」を選択すると、小節線またぎが禁止されます。

プロパティをオフにすると、選択中のヘアピンはプロジェクト全体に設定された状態に戻ります。

補足

- 個々の段階的強弱記号の外観を変更したとき、影響されるのは現在のレイアウトの外観のみですが、プロパティの設定を他のレイアウトにコピーすることもできます。
- すべてのヘアピンに対し小節線をまたぐことの許可/禁止を切り替えるプロジェクト全体のオプションは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」のページにある「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」のセクションで、「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると表示されます。また「強弱記号 (Dynamics)」のページの「水平位置 (Horizontal Position)」のセクションでは、ヘアピンが小節線をまたぐことが許可される最小距離の変更も行なえます。

関連リンク

[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(501 ページ\)](#)

括弧付きの強弱記号の表示

たとえば元の譜面にはない編者注の強弱記号を表示する場合など、個々の強弱記号を括弧つきで表示できます。

手順

1. 括弧つきで表示する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「括弧つき (Parenthesized)」をオンにします。

結果

選択した強弱記号がそれぞれ個別に括弧つきで表示されます。

「括弧つき (Parenthesized)」をオフにすると、選択した強弱記号が括弧なしの表示に戻ります。

強弱記号の背景の塗りつぶし

強弱記号は、たとえば小節線をまたぐときの読みやすさを確保するために、個別に背景を空白で塗りつぶせます。背景の塗りつぶしは、どのタイプの強弱記号でも行なえます。

手順

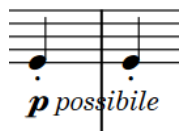
1. 浄書モードで、背景を塗りつぶす強弱記号を選択します。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオンにします。

結果

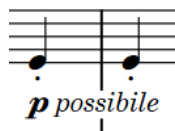
選択した強弱記号の背景が削除されます。

「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオフにすると、選択した強弱記号がデフォルトの背景の塗りつぶしがない状態に戻ります。

例



背景の塗りつぶしなしの強弱記号



背景の塗りつぶしありの強弱記号

手順終了後の項目

強弱記号の塗りつぶしの余白の幅は、四方それぞれについて変更できます。

強弱記号の塗りつぶしの余白を変更する

強弱記号の塗りつぶしの余白を個別に変更できます。余白の幅は強弱記号の四方それぞれについて個別に変更できます。

背景の塗りつぶしでは、先頭テキストと末尾テキストは局部的強弱記号と別々に扱われ、またテキストのアセンダーとディセンダーが反映されます。これにより、たとえば *espressivo* の場合は *p* の影響で、背景の塗りつぶしが上より下に広く表示されます。このような場合は、影響される端部の余白を変更して、塗りつぶしの外観を対称にできます。

手順

1. 浄書モードで、塗りつぶしの余白を変更する強弱記号を選択します。
 2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「塗りつぶしの余白 (Erasure padding)」の2つのプロパティの一方または両方をオンにします。
 - 「L」は強弱記号の左側の余白の幅を変更します。
 - 「R」は強弱記号の右側の余白の幅を変更します。
 - 「上 (T)」は強弱記号の上側の余白の幅を変更します。
 - 「下 (B)」は強弱記号の下側の余白の幅を変更します。
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。これは衝突回避で使用される領域にも影響します。

ヒント

すべての強弱記号の塗りつぶしの余白のデフォルトに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページにある「外観 (Appearance)」セクションで変更できます。ただし、この方法では各辺の余白を個別に変更することはできません。

強弱記号のコピー

強弱記号は入力後に別の位置にコピーできます。1つの譜表で強弱記号を選択して別の1つの譜表にコピー、または複数の譜表にわたり強弱記号を選択して同じ数の譜表にわたってコピーできます。

手順

1. 記譜モードで、コピーする強弱記号を選択します。

ヒント

多数の強弱記号をコピーする場合や、たとえば段階的強弱記号のみをコピーする場合は、フィルターを使用できます。

2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して強弱記号をコピーします。
3. 強弱記号をコピーする位置の符頭を選択します。
4. **[Ctrl]/[command]+[V]** を押して強弱記号を貼り付けます。

結果

選択した強弱記号が新たな位置に貼り付けられます。強弱記号を別の譜表の元と同じ位置にコピーした場合、コピー元とコピー先の強弱記号はすべて自動的にリンクされます。

異なる位置にある複数の強弱記号を選択した場合、新しく貼り付けられる位置には元のスペーシングが反映されます。

ヒント

- 強弱記号を選択して、**[Alt/Opt]** を押しながらコピー先の符頭を1つ1つクリックすることでも、クリップボードを経由することなく強弱記号をコピーできます。
- 強弱記号のフレーズを元の入力位置の直後にコピーする場合は、フレーズを選択して **[R]** を押します。1つの局部的強弱記号を選択している場合は、強弱記号は同じ位置にコピーされます。

関連リンク

[リンクされた強弱記号 \(794 ページ\)](#)

[フィルター \(328 ページ\)](#)

強弱記号の削除

プロジェクトから強弱記号を削除できます。他の譜表にリンクされている強弱記号のグループから一部の強弱記号を削除した場合、同じ位置にあるリンクされた強弱記号は、すべての譜表から同様に削除されます。

手順

1. 記譜モードで、削除する強弱記号を選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択した強弱記号が削除されます。ヘアピン直前または直後の局部的強弱記号を削除した場合、状況に応じてヘアピンの長さが自動的に調整される場合があります。

補足

他の譜表にリンクされた強弱記号を削除すると、リンクされたすべての譜表からも選択した強弱記号が削除される場合があります。グループ内の強弱記号を一部だけ選択して削除した場合、選択した強弱記

号はリンクされたすべての譜表からも削除されます。ただし、1つの譜表から強弱記号のグループ全体を選択して削除した場合、他の譜表の強弱記号は削除されません。

関連リンク

[強弱記号のグループ \(793 ページ\)](#)

[リンクされた強弱記号 \(794 ページ\)](#)

声部固有の強弱記号

声部固有の強弱記号は譜表の単一の声部にのみ適用されます。これにより複声部において、各声部に異なる強弱記号を指定できます。

声部固有の強弱記号を入力することにより、譜表の複声部に異なる強弱記号を表示したり、ピアノのテクスチャーでメロディーを担当する声部を強調させたりできます。これは再生時に各声部のダイナミクスを変化させます。

補足

- 声部固有の強弱記号は、音符の入力中など、キャレットがアクティブなときにのみ入力できます。声部固有の強弱記号は、キャレットの横に4分音符記号で示されている声部に適用されます。
- 声部固有の強弱記号は、ベロシティーを使用して強弱を制御するサウンドの再生にのみ自動的に影響します。CCなどの別の方法で強弱を制御する再生デバイスを使用している場合、同じインストゥルメントの異なる声部の異なる強弱を聴くには、声部の個別再生を有効にする必要があります。

関連リンク

[強弱記号の入力方法 \(244 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

[強弱記号レーン \(521 ページ\)](#)

ニエンテのヘアピン

ニエンテ記号は、段階的強弱記号の開始位置または終了位置に付き、音量の変化が静寂から始まるか、静寂で終わることを指示します。

このエフェクトは弦楽器や、歌手が母音で歌唱するときは非常に効果的ですが、常にそのまま演奏できるとは限りません。たとえば、歌手が子音から始まる単語の歌詞を歌う場合、静寂から始めることはできません。リード楽器や金管楽器も、音符を発音する前に一定の空気圧を必要とするため同様です。

ニエンテ記号には2つの表示形式があります。ヘアピンの端に丸を付ける形式と、ヘアピンの直前または直後にテキストを表示する形式です。Dorico Pro では、ニエンテ記号のいずれの形式でも、強弱記号ポップオーバーを使用するか、強弱記号パネルの「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」セクションにある「**niente**」をクリックすることで入力できます。

ヒント

既存のヘアピンをニエンテのヘアピンに変換するには、ヘアピンを選択して、強弱記号パネルの「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」セクションにある「**niente**」をクリックするか、プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループにある「**Niente**」をオンにします。

例



「ヘアピン記号に丸 (Circle on hairpin)」で表示されるニエンテ
「テキスト (Text)」で表示されるニエンテ

関連リンク

[段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更 \(784 ページ\)](#)

[強弱記号の入力方法 \(244 ページ\)](#)

ニエンテのヘアピンの外観を個別に変更する

Dorico Pro では、ニエンテのヘアピンの表示形式は 2 種類あり、表示形式は個別に、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。

手順

1. ニエンテスタイルを変更するヘアピンを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「ニエンテスタイル (Niente style)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- ヘアピン記号に丸 (Circle on hairpin)



- テキスト (Text)



結果

選択したヘアピンのニエンテスタイルが変更されます。

ヒント

すべてのニエンテのヘアピンの表示形式をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページにある「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」セクションで設定を行ないます。

例



「ヘアピン記号に丸 (Circle on hairpin)」で表示されるニエンテ
「テキスト (Text)」で表示されるニエンテ

関連リンク

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(772 ページ\)](#)

強弱記号の修飾語句

修飾語句は、強弱記号に単なる音量レベル以上の詳細を追加し、音符やフレーズをどのように演奏するかを指示します。修飾語句には poco a poco、molto や subito などがあります。これらは表現テキストとも呼ばれます。

Dorico Pro では、修飾語句は必ず *p* や *f* などの強弱記号に付随します。

補足

強弱記号の修飾語句を単独では入力できません。ただし、修飾語句の前後の局部的強弱記号を非表示にはできます。

強弱記号の修飾語句の入力は、強弱記号ポップオーバーに局部的強弱記号と併せて入力するか、強弱記号パネルの「**局部的強弱記号 (Immediate Dynamics)**」のセクションで、利用可能なオプションをクリックすることによって行なえます。また、プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」のグループにある以下のプロパティのいずれかに入力することによって、既存の強弱記号にテキストを追加できます。

- **先頭テキスト (Prefix)**: 既存の強弱記号の前に修飾語句を追加します。
- **末尾テキスト (Suffix)**: 既存の強弱記号の後に修飾語句を追加します。

関連リンク

[局部的強弱記号を非表示にする \(783 ページ\)](#)

既存の強弱記号に修飾語句を追加する

強弱記号を入力したあと、強弱記号の前後両方に修飾語句を追加できます。たとえば複数のフレーズにわたって強弱記号を繰り返すかわりに、sim. を追加できます。

手順

1. 修飾語句を追加する強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」のグループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
 - **先頭テキスト (Prefix)**
 - **末尾テキスト (Suffix)**
3. 対応する入力フィールドに追加するテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

結果

入力したテキストが、選択した強弱記号に修飾語句として追加されます。「**先頭テキスト (Prefix)**」のフィールドに入力したテキストは強弱記号の前に表示され、「**末尾テキスト (Suffix)**」のフィールドに入力されたテキストは強弱記号の後に表示されます。修飾語句は、譜表の下に配置されたヘアピンの下、または譜表の上に配置されたヘアピンの上に表示され、ヘアピンの開始位置に揃えられます。プロパティをオフにすると、選択した強弱記号から対応する修飾語句が削除されます。

補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

手順終了後の項目

ヘアピンに修飾語句を追加した場合、修飾語句はヘアピンの内側に表示させることもできます。

関連リンク

[ニエンテのヘアピン \(780 ページ\)](#)

[強弱記号の入力方法 \(244 ページ\)](#)

[段階的強弱記号に poco a poco のテキストを追加する \(790 ページ\)](#)

[ヘアピンの内側に中央揃えされた修飾語句 \(791 ページ\)](#)

局部的強弱記号を非表示にする

たとえば *sim.* など強弱記号の修飾語句を、強弱記号を伴わない形で表示させる場合などには、*f* や *pp* などの局部的強弱記号を非表示にできます。

手順

1. 非表示にする局部的強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「強弱記号を非表示 (Hide intensity marking)」をオンにします。

結果

選択した局部的強弱記号が非表示になります。同じ位置に他の強弱記号がない場合、非表示になった位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

「強弱記号を非表示 (Hide intensity marking)」をオフにすると、選択した局部的強弱記号が再度表示されます。

段階的強弱記号

段階的強弱記号は、指定のデュレーションにわたって徐々にボリュームを変化させることを指示します。これらは通常ヘアピン、または *cresc.* や *dim.* のようなテキストによる指示で表示されます。

ヘアピン2つがペアとなり、中央に局部的強弱記号を記さないものはメッサ・ディ・ヴォーチェと呼ばれます。

Dorico Pro の初期設定では、段階的強弱記号はヘアピンとして表示されます。段階的強弱記号の外観は、個別に変更することも、プロジェクト全体で外観のデフォルトを変更することもできます。たとえば、特に長いクレッシェンドにヘアピンではなく *cresc.* のテキストを使用して表示することができます。

また、間に局部的強弱記号を挟む形で2つ以上連続する同じ向きのヘアピンを、ひと続きのヘアピンとして表示することもできます。

補足

個々の段階的強弱記号の外観を変更したとき、影響されるのは現在のレイアウトの外観のみですが、プロパティの設定を他のレイアウトにコピーすることもできます。

浄書モードでは、ヘアピンには開始位置と終了位置の両方にそれぞれ3つの四角いハンドルが表示されます。

- 開始位置と終了位置の中央のハンドルは、ヘアピンの開始位置と終了位置のオフセット位置を変化させます。
- 開始位置と終了位置の上下一対のハンドルは、ヘアピンの対応する側の開きの幅を調節します。



浄書モードでヘアピン開始位置中央のハンドルを選択した状態

これらのハンドルを使用してヘアピンの角度を変化させられます。

関連リンク

[強弱記号のタイプ \(771 ページ\)](#)

[ヘアピンの角度の変更 \(787 ページ\)](#)

[ヘアピンの開きの幅の変更 \(788 ページ\)](#)

段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更

段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さは、入力後に変更できます。

補足

段階的強弱記号または強弱記号のグループの長さの変更は、1 度に 1 つずつしか行なえません。

手順

1. 記譜モードで、長さを変更する強弱記号を以下のいずれかから選択します。
 - 1 つの段階的強弱記号
 - 1 つの段階的強弱記号のグループ
2. 以下のいずれかの操作を行なって、段階的強弱記号または強弱記号のグループの長さを変更します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔に従う位置と、次の符頭の位置のうち、いずれか近い方まで延長するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔に従う位置と、前の符頭の位置のうち、いずれか近い方まで短縮するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 次の符頭の位置まで延長するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 前の符頭の位置まで短縮するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

キーボードを使用しているときは、強弱記号の終端しか動かさせません。強弱記号の始端は、強弱記号全体を移動させるか、開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。

- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。
-

結果

個々の段階的強弱記号の長さが、現在のリズムグリッドの間隔または前後の符頭の位置のいずれかに従って変更されます。

強弱記号のグループは、グループ内の段階的強弱記号の長さを変更するか、グループ内のその他の強弱記号の位置を移動させると、全体の長さが比率を保って変更されます。これにより、グループ内の段階的強弱記号の相対的なデュレーションが維持されます。

例においては、終端の *p* は右に 4 分音符 2 つ分移動していますが、真ん中の *f* は右に 4 分音符 1 つ分しか移動していません。これにより、段階的強弱記号の長さが均等なままになります。

例



元の強弱記号のフレーズ



伸ばした強弱記号のフレーズ

関連リンク

[強弱記号のグループ \(793 ページ\)](#)

[強弱記号の位置 \(772 ページ\)](#)

[強弱記号のグループ化の解除/グループからの強弱記号の削除 \(794 ページ\)](#)

段階的強弱記号の外観を変更する

段階的強弱記号の外観は個別に変更できます。たとえば、クレッシェンドのヘアピンをメッサ・ディ・ヴォーチェ (互い違いのヘアピンのペア) に変更したり、特に長いクレッシェンドをヘアピンではなくテキストの *cresc.* を使用して表示したりできます。

手順

1. 外観を変更する段階的強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」のグループで、「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - ヘアピン
 - *cresc./dim.*
 - *cresc...*
 - *cre - scen - do*
4. 必要に応じて、「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」の設定に従い以下のいずれかの操作を行なって、選択した段階的強弱記号の外観をカスタマイズします。
 - 「ヘアピン (Hairpin)」を選択している場合、「ヘアピン線スタイル (Hairpin line style)」をオンにして、利用できるオプションのいずれかを選択します。
 - 「*cresc./dim.*」、「*cresc...*」または「*cre - scen - do*」を選択している場合、「ディミヌエンドスタイル (Diminuendo style)」をオンにして、メニューから利用できるオプションのいずれかを選択します。
 - 「*cresc...*」を選択している場合、「延長線のスタイル (Continuation line style)」をオンにして、利用できるオプションのいずれかを選択します。
5. 必要に応じて、ヘアピンの段階的強弱記号の「タイプ (Type)」に、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - クレッシェンドまたはディミヌエンド (Cresc. or dim.)
 - *Messa di voce*


結果

選択中の段階的強弱記号の外観が、現在のレイアウトで変更されます。

補足

- 個々の段階的強弱記号の外観を変更したとき、影響されるのは現在のレイアウトの外観のみですが、プロパティの設定を他のレイアウトにコピーすることもできます。
- すべての段階的強弱記号の外観に関するプロジェクト全体のデフォルトは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」のページで変更できます。

例

	<i>cresc.</i>	<i>cresc.</i>	<i>cre - scen - do .</i>
ヘアピン	cresc./dim.	cresc....	cre - scen - do

関連リンク

[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(501 ページ\)](#)

連続したヘアピンをひと続きとして表示する

間に局部的強弱記号を挟む形で2つ以上連続する同じ向きのヘアピンは、局部的強弱記号を通過するひと続きのヘアピンとして表示させることもできます。これにより、強弱をそれぞれ個別の変化としてではなく、1つのなめらかな変化として表現できます。

前提条件

ヘアピンをグループ化しておきます。

手順

1. 浄書モードで、つなげて表示するヘアピンをグループごとに1つ以上選択します。
2. プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」のグループで「**ヘアピンの延長表示 (Hairpin shown as continuation)**」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオンにします。

結果

選択したグループの2つ以上連続する同じ向きのヘアピンが、現在のレイアウトではひと続きのヘアピンとして表示されます。

補足

これに影響されるのは現在のレイアウトのヘアピンの外観のみですが、プロパティの設定を他のレイアウトにコピーすることもできます。

例



ひと続きとして表示されていないヘアピン



ひと続きとして表示されたヘアピン

関連リンク
[強弱記号のグループ化 \(794 ページ\)](#)

ヘアピンの角度の変更

初期設定では、ヘアピンは水平に伸ばされ、符頭やスラーといった他のオブジェクトとの衝突を回避するために自動調整されます。個々のヘアピンは、必要に応じてその角度を変更できます。

補足

キーボードを使用するか、「**開始オフセット (Start offset)**」をオンにするかして、ヘアピンの開始位置のオフセットのみを変更しても、ヘアピン全体の垂直位置が変化するだけで、角度は変わりません。ヘアピンの角度を変更するには、終了オフセット位置を変更するか、「**終了オフセット (End offset)**」をオンにすることも必要となります。

ハンドルをマウスでドラッグすると、常に角度が変化します。

手順

1. 浄書モードで、角度を変更するヘアピンの中央のハンドルを選択します。

ヒント

- 複数のヘアピンを選択する場合、それらは同じ方向である必要も、同じ譜表上にある必要もありません。
- 選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

結果

選択したヘアピンの角度が変更されます。終端はそれぞれ個別に移動できます。

ヒント

ヘアピンの対応するハンドルを垂直に移動すると、プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット Y (Start offset Y)**」:ヘアピンの開始ハンドルを垂直に移動します。
- 「**終了オフセット Y (End offset Y)**」:ヘアピンの終了ハンドルを垂直に移動します。

たとえば、ヘアピン全体を上へ移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することによりヘアピンの角度を変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したヘアピンが初期設定の位置にリセットされます。

ヘアピンの開きの幅の変更

個々のヘアピンにより指示される音量の変更は、ヘアピンを構成する2本の線の開いた側の距離によって示されます。ヘアピンの開きの幅は個別に変更できます。

ヘアピンは通常一端が閉じ、一端が開いています。ヘアピンが組段かフレームの区切りをまたぐ場合、閉じた側に小さな隙間を作り、2つの別個のヘアピンと間違われないようにできます。

Dorico Pro では、浄書モードでヘアピンの開始位置および終了位置に現れる上下一対のハンドルを使用して開きの幅を変更できます。これらのハンドルはそれぞれ鏡合わせにリンクされています。一方のハンドルを動かすと、もう一方も同じだけ反対方向に動きます。これによりヘアピンの対称性が維持されます。



浄書モードでヘアピンの上下のハンドルを選択した状態

手順

1. 浄書モードで、開きの幅を変更するヘアピンの上下いずれかのハンドルを選択します。

ヒント

- 複数のヘアピンを選択する場合、それらは同じ方向である必要も、同じ譜表上にある必要もありません。
- 選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドル間の距離を変更します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

結果

選択したヘアピンの開きが変更されます。

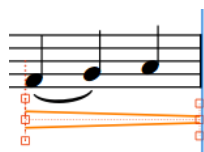
ヒント

- また個々のヘアピンの開きの幅は、プロパティパネルの「**強弱記号 (Dynamics)**」グループにある「**ヘアピン開口部 (Hairpin open aperture)**」および「**ヘアピン閉口部 (Hairpin closed aperture)**」をオンにしても変更できます。

値を大きくすると、対応する開きの幅が広くなります。値を小さくすると、対応する開きの幅が狭くなります。

- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**強弱記号 (Dynamics)**」のページで、「**段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)**」のセクションのサブセクション「**ヘアピン (Hairpins)**」にある「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすることで、組段やページの区切りをまたぐヘアピンも含めて、ヘアピンの開き幅のプロジェクト全体に対する最小値および最大値を設定できます。

例



組段区切りをまたぐディミヌエンド。開始側が開き、終了側に向かって閉じています。終端が少し開いていることで、組段区切りの向こうまでディミヌエンドが続くことを示しています。



次の組段に入った続きのディミヌエンド。開始側が開き、終了側で閉じています。

ヘアピンの終端の広がりを表示/非表示にする

終端の広がり通常クレッシェンドのヘアピンの終端に表示され、クレッシェンドの終わりに急激に音量を上げることが示されます。ヘアピンはいずれも終端の広がり表示/非表示を切り替えられます。

補足

終端の広がり実線のヘアピンにしか表示できません。

手順

1. 終端の広がり表示または非表示にするヘアピンを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「終端の広がり (Flared end)」をオンまたはオフにします。

結果

「終端の広がり (Flared end)」がオンのときは選択した強弱記号に終端の広がりが表示され、オフのときは非表示になります。

例



終端の広がりが非表示のクレッシェンドのヘアピン



終端の広がりが表示されたクレッシェンドのヘアピン

ヘアピンの終端の広がりサイズを変更する

個々のヘアピンの終端の広がり高さを変更できます。

手順

1. 浄書モードで、終端の広がりサイズを変更する広がり付きのヘアピンを選択します。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「広がりサイズ (Flare size)」をオンにします。
3. 「幅 (W)」の値を変更して終端の広がり幅を変更します。
4. 「高さ (H)」の値を変更して終端の広がり高さを変更します。

結果

「幅 (W)」の値を大きくすると、選択した終端の広がりやの角度が付き始める位置が移動して幅が広くなり、値を小さくすると幅が狭くなります。

「高さ (H)」の値を大きくすると、選択した終端の広がりが高くなり、値を小さくすると低くなります。これらの値をもう一方の値と別に変更すると、終端の広がりやの角度が変わります。たとえば、「高さ (H)」の値を変更せずに「幅 (W)」の値を大きくすると、角度が小さくなります。

ヒント

すべての終端の広がりやのデフォルトのデザインとサイズをプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページにある「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(772 ページ\)](#)

[ヘアピンの開きの幅の変更 \(788 ページ\)](#)

段階的強弱記号に poco a poco のテキストを追加する

段階的強弱記号は、入力後に個別に poco a poco のテキストを追加できます。

手順

1. poco a poco を追加する段階的強弱記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」グループで、「Poco a poco (少しずつ) (Poco a poco (little by little))」をオンにします。

結果

poco a poco は段階的強弱記号のテキストの直後、譜表の下に配置されたヘアピンの下、および譜表の上に配置されたヘアピンの上に表示されます。

「Poco a poco (少しずつ)」をオフにすると、選択した段階的強弱記号から poco a poco のテキストが削除されます。

例



poco a poco を伴う、テキストによる段階的強弱記号

poco a poco を伴う、ヘアピンによる段階的強弱記号

手順終了後の項目

poco a poco のテキストは、ヘアピンの内側に中央揃えで表示することもできます。

ヘアピンの内側に中央揃えされた修飾語句

ヘアピンに追加した poco a poco や molto などの修飾語句は、ヘアピンの内側に、水平垂直の両方向に中央揃えされた形で表示できます。初期設定では、修飾語句はヘアピンの開始位置の上または下に表示されます。

手順

1. ヘアピンの内側に中央揃えで修飾語句を表示させるヘアピンを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」のグループで、「修飾子の位置 (Modifier position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上または下 (Above or Below)
 - 内側 (Inside)

結果

選択したヘアピンの修飾語句が、ヘアピンの内側に中央揃えで表示されます。修飾語句の背景は自動的に白で塗りつぶされ、テキストとヘアピンの線が重ならないようにします。

補足

- これに影響されるのは現在のレイアウトの修飾語句の位置のみですが、プロパティの設定を他のレイアウトにコピーすることもできます。
- ヘアピンに対するすべての修飾語句のデフォルト位置を変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」のページにある「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」のセクションで設定を行ないます。
- ヘアピンの内側に中央揃えされた修正語句の塗りつぶしの余白は、個別にでもデフォルト設定の変更によっても変更できます。

例



ヘアピンの下の修飾語句 (molto)



ヘアピンの内側に中央揃えされた修飾語句 (molto)

関連リンク

[既存の強弱記号に修飾語句を追加する \(782 ページ\)](#)

[浄書オプションで強弱記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(772 ページ\)](#)

[強弱記号の塗りつぶしの余白を変更する \(778 ページ\)](#)

[プロパティ設定を別のレイアウトにコピーする \(501 ページ\)](#)

段階的強弱記号のスペーシング

Dorico Pro では、常に他の記号から明確に区別されるように、ヘアピンには長さの最小値のデフォルトが設定されています。しかしこれは音符のスペーシングに影響を与えます。

ヘアピンの長さの最小値のデフォルトは3スペースです。ヘアピンがこれより短くなると、アーティキュレーション記号のアクセントと見間違えられる恐れがあります。そのため、ヘアピンの長さが3スペ

ースより短くなるような音符にヘアピンを追加した場合、ヘアピンが最小値の長さを維持できるように音符のスペーシングが変更されます。

ヘアピンの長さの最小値を変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページにある、「段階的強弱記号 (Gradual Dynamics)」セクションのサブセクション「ヘアピン (Hairpins)」の中の「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると表示される「ヘアピンの長さの最小値 (Minimum length for hairpins)」の数値を変更します。

音符の途中で開始または終了する段階的強弱記号

段階的強弱記号の開始位置または終了位置が音符に連結されていない場合、その開始位置または終了位置の移動には制限が生じます。

たとえば、強弱記号のポップオーバーに2つのヘアピンをスペースで区切って「<>」と入力した場合、外見上はメッサ・ディ・ヴォーチェに似た1対のヘアピンが作成されますが、これは2つの個別のヘアピンで構成されており、オプションで生成された組み合わせではありません。このヘアピンそれぞれの開いた側はいずれも特定の符頭に接続されておらず、ヘアピンのペアの中央は移動できません。2つのヘアピンは全体としての長さは変更できますが、ヘアピンそれぞれの長さの個別の変更はできません。



ただし、強弱記号ポップオーバーに2つのヘアピンをスペースの区切りを入れずに入力した場合、ヘアピンのペアはその真ん中も両端も位置を変更できますが、符頭に沿ってしか移動できません。それぞれのヘアピンは現在のリズムグリッドの間隔に従って個別に長さを変更できます。

浄書モードでは、個々のヘアピンを任意の表示位置に移動できます。ポップオーバーにスペースで区切られたヘアピンを入力した場合、それぞれのヘアピンは個別に移動できます。これによりたとえば、1対のヘアピンの表示上のピークの位置を調整できます。メッサ・ディ・ヴォーチェのヘアピンの表示上のピークの位置は、音符のスペーシングを調整すること以外では移動できません。ただし、強弱記号の表示位置を移動しても、再生時の強弱には影響がありません。

関連リンク

[段階的強弱記号および強弱記号のグループの長さの変更 \(784 ページ\)](#)

[強弱記号の表示位置の移動 \(775 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(435 ページ\)](#)

局部的強弱記号によって切り詰められる段階的強弱記号

ヘアピンは、その入力前か入力後かに関わらず、範囲内に局部的強弱記号が配置された場合、自動的に切り詰められます。

ヘアピンは表示上短くなってはいても、本来指定された位置への結びつきを維持しています。そのため、ヘアピンの表示を切り詰めている局部的強弱記号が削除されると、ヘアピンはその終了位置または範囲内の次の局部的強弱記号の位置まで延長されます。

例として、2つの強弱記号によって切り詰められているヘアピンが、強弱記号が削除されるに従って本来の長さまで延長される様子を示します。点線による連結線は、ヘアピンと、その本来の終端が結びついているリズム上の位置とのリンクを表示しています。



pによって切り詰められている長いヘアピン

pが削除されたあとも、**f**によって切り詰められているヘアピン

局部的強弱記号を2つとも削除したことで、本来の長さまで延ばされたヘアピン

強弱記号のグループ

強弱記号のグループは自動的に垂直位置を揃えられ、グループ単位で移動および編集ができるようになります。グループ内の局部的強弱記号を移動すると、釣り合いを取るために両側のヘアピンの長さが自動的に調整されます。



強弱記号のグループの例



同じグループに属する強弱記号は、真ん中の強弱記号を移動させると、それに付き従う形で調整されます。

1つの強弱記号は、局部的強弱記号と段階的強弱記号のいずれであっても、それ自体がグループとして見なされます。

2つ以上の強弱記号が譜表で水平方向に隣り合い、同時にまたは続けて入力され、局部的強弱記号の間に段階的強弱記号がある場合、これらは自動的にグループ化されます。

グループに属するいずれかの強弱記号が選択されると、グループ全体の強弱記号が強調表示されます。



補足

- 強弱記号のグループはプロジェクト全体に適用されます。つまり、レイアウトによって異なる形で強弱記号をグループ化することはできません。ただし、選択した強弱記号の表示をグループと関係なく揃えることはできます。
- 強弱記号を水平方向にグループ化するだけでなく、強弱記号のグループを譜表間でリンクさせ、複数の譜表に同じ強弱記号を表示できます。これは、複数のインストゥルメントが同時に同じ強弱記号を演奏するとき、クレッシェンドのピークを後ろの拍に移動したり、**f**を**fff**に変更したりといった変化を、すべての譜表に同様に与える場合に便利です。

関連リンク

[リンクされた強弱記号 \(794 ページ\)](#)

[強弱記号の整列 \(776 ページ\)](#)

強弱記号のグループ化

入力時に自動でグループ化されなかった強弱記号を手動でグループ化できます。グループ化された強弱記号は自動的に垂直位置を揃えられ、グループ単位で移動および編集ができるようになります。

手順

1. 記譜モードで、グループ化する強弱記号を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号のグループ化 (Group Dynamics)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した強弱記号がグループ化されます。グループの最初の強弱記号が他の譜表にリンクされている場合、グループのすべての強弱記号はリンクされた譜表にも追加されます。これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

関連リンク

[リンクされた強弱記号 \(794 ページ\)](#)

強弱記号のグループ化の解除/グループからの強弱記号の削除

強弱記号のグループ化を解除して、グループ内のすべての強弱記号をグループ化されていない状態にできます。また、選択した強弱記号のみをグループから削除して、選択していない強弱記号はグループに残すこともできます。

これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

手順

1. 記譜モードで、グループ化を解除する、またはグループから削除する強弱記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 選択したグループ内のすべての強弱記号のグループ化を解除するには、「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号のグループ化を解除 (Ungroup Dynamics)」を選択します。
 - 選択した強弱記号だけをグループから削除するには、「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「グループから削除 (Remove from Group)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

リンクされた強弱記号

複数の譜表で同じ位置にある同じ強弱記号はリンクすることができます。強弱記号を譜表間でコピーアンドペーストした場合、このリンクは自動的に行われます。

リンクされたグループのうち1つの強弱記号を選択すると、リンクに属する他のすべての強弱記号が強調表示されます。リンクされた強弱記号のうち1つを別の位置に移動すると、すべてのリンクされた強弱記号が移動します。



リンクされた2つの強弱記号のうち1番上の強弱記号だけを選択した状態



リンクされたグループの1番上の強弱記号だけを移動すると、もう一方も自動的に移動して新しい位置に揃えられます。

同様に、リンクされた強弱記号のうち1つ、たとえば *p* を *mf* に変更すると、この強弱記号にリンクされたすべての強弱記号が変更されます。

リンクされた強弱記号のうち1つに他の強弱記号、たとえばヘアピンがグループ化された場合、リンクされたすべての譜表の同じ位置にヘアピンが追加されます。

譜表のうち1つで、ヘアピンの終端より先に他の局部的強弱記号があった場合、ヘアピンは自動的に切り詰められます。その強弱記号を削除した場合、ヘアピンは次の局部的強弱記号とその本来の長さとのいずれか先に達した方の位置まで自動的に延長されます。



強弱記号がリンクされた2つの譜表。ただし、下の譜表はヘアピンを切り詰める別の局部的強弱記号を含んでいる。



2つめの譜表の1小節めの終わりにあった *mf* を削除した結果、ヘアピンが1番上の譜表と一致する長さまで延長された状態。

補足

- 他の譜表にリンクされたグループから一部の強弱記号だけを削除した場合、削除した強弱記号は他のリンクされた譜表からも削除されます。1つの譜表から強弱記号のグループ全体を削除した場合、これは他の譜表のリンクされた強弱記号には影響しません。
- 強弱記号を垂直にリンクできるだけでなく、強弱記号を水平方向にもグループ化できます。これにより強弱記号は自動的に垂直位置を揃えられ、グループ単位で移動および編集ができるようになります。
- 強弱記号のリンクとリンク解除はプロジェクト全体に適用されます。つまり、レイアウトによって異なる形で強弱記号をリンクすることはできません。

関連リンク

[強弱記号のグループ \(793 ページ\)](#)

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(331 ページ\)](#)

強弱記号をリンクする

同一の強弱記号を別の譜表の同じ位置にコピーアンドペーストすると、強弱記号それぞれが自動的にリンクされます。また自動的にリンクされなかった強弱記号および強弱記号のグループは、手動でリンクさせることによって同時編集できるようになります。

補足

強弱記号をリンクさせるためには、グループが同一である必要があります。たとえば、2つの強弱記号 *p* がいずれもグループに属していなければリンクできますが、一方がヘアピンとグループ化されている場合はリンクできません。

手順

1. 記譜モードで、リンクさせる強弱記号を選択します。
 2. 「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「リンク (Link)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
-

結果

選択した強弱記号がリンクします。リンクされた強弱記号のうち1つをあとから変更した場合、リンクされたすべての強弱記号が合わせて変更されます。これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

関連リンク

[強弱記号のコピー \(779 ページ\)](#)

強弱記号のリンクの解除

自動的にリンクされたものも含めて、強弱記号のリンクを解除できます。

手順

1. 記譜モードで、リンクを解除するグループの強弱記号を1つ選択します。
 2. 「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「リンクを解除 (Unlink)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
-

結果

リンクされたグループに属するすべての強弱記号のリンクが解除されます。これは、それらの強弱記号が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

関連リンク

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(331 ページ\)](#)

強弱記号のフォントスタイル

「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログでは、強弱記号に使用されるフォントをいくつかの側面から変更できます。強弱記号のタイプごとに異なるフォントスタイルを設定できます。

強弱記号の外観に影響するのは以下のフォントです。

- **強弱に関する音楽テキスト用フォント (Dynamic Music Text Font):** *pf* や *mp* など、強弱記号のグリフに使用されます。
- **強弱テキスト用フォント (Dynamic Text Font):** 強弱記号の修飾語句と、テキストとして表示される段階的強弱記号に使用されます。

補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

[強弱記号の修飾語句 \(782 ページ\)](#)

強弱記号の修飾語句のフォントスタイルを編集する

強弱記号の修飾語句 (poco a poco や molto など) の外観に影響するフォントの形式設定を編集できません。

手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
 2. 「フォントスタイル (Font style)」メニューから「強弱テキスト用フォント (Dynamic Text Font)」を選択します。
 3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
 - フォントファミリー (Font family)
 - サイズ (Size)
 - スタイル (Style)
 - 下線 (Underlined)
 4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

強弱記号の修飾語句に使用されるデフォルトのフォントの形式設定が変更されます。

強弱記号のグリフのフォントスタイルを編集する

強弱記号のグリフ (*mf* や *ff* など) に使用するフォントの形式設定を編集できます。ただし、SMuFL に準拠したフォントを選択する必要があります。

手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
 2. 「フォントスタイル (Font style)」メニューから「強弱に関する音楽テキスト用フォント (Dynamic Music Text Font)」を選択します。
 3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
 - フォントファミリー (Font family)
 - サイズ (Size)
 - スタイル (Style)
 - 下線 (Underlined)
 4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

強弱記号のグリフに使用するフォントの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

強弱記号の再生オプション

「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページで強弱のカーブの倍率を調節することにより、再生時に強弱記号がどのように反映されるかの設定を変更できます。

強弱のカーブ

「再生オプション (Playback Options)」の「強弱記号 (Dynamics)」ページの最上部のグラフには連続曲線が描かれています。この曲線は、強弱記号の *pppppp* から *ffffff* までの範囲で音量がどのように増加するかを決定します。

強弱のカーブの強度が1の場合は直線が生成され、音量の増加は一定となります。*pppp* と *pp* の音量差は *p* と *mf* の音量差と等しくなります。

強弱のカーブの強度が2より大きい場合は曲線が生成され、範囲の中央付近の音量の増加率が大きくなります。*pppp* と *pp* の音量差は *p* と *mf* の音量差より大幅に小さくなります。

強弱のカーブの強度が大きくなるほど、範囲の中央付近で音量差が大きくなり、範囲の両端で音量差が小さくなります。

プロジェクトで使用する強弱記号の範囲が広く、*pppp* や *ffff* のような強弱記号まで使用する場合、範囲の両端における音量差を大きくするために、強弱のカーブの強度は低い方がよい場合があります。

プロジェクトで使用する強弱記号の範囲が狭く、最小が *pp*、最大が *ff* であるような場合、範囲の中央付近における音量差がより目立つように、強弱のカーブの強度は高い方がよい場合があります。

補足

強弱のカーブの変更は、プロジェクト中のすべてのインストゥルメントの再生に影響を与えます。

音符の強弱

「強弱 (Dynamics)」ページの「音符の強弱 (Note Dynamics)」セクションでは、再生時の音符の音量が強勢およびアーティキュレーション記号にどれだけ影響されるか設定できます。

ヒューマナイズ

「ヒューマナイズ (Humanize)」は、設定した度合いでダイナミクスをランダムで変化させ、生演奏の自然なゆらぎを模倣するものです。

関連リンク

[「再生オプション」ダイアログ](#) (509 ページ)

[強弱記号レーン](#) (521 ページ)

サスティン楽器と非サスティン楽器

サスティン楽器と非サスティン楽器の音量設定は、段階的強弱記号の制御の面で異なります。

サスティン楽器

弦楽器、木管楽器、そして金管楽器はサスティン楽器です。これらの楽器は音を伸ばしながら、その間ずっと音量を制御できるためです。

Dorico Pro は再生時、これらのインストゥルメントに段階的強弱記号を適用します。それぞれのソフトウェアインストゥルメントの設定の制御は、「再生 (Play)」 > 「エクスプレッションマップ (Expression Maps)」を選択して、左側のリストからソフトウェアインストゥルメントを選択して行なえます。

非サスティン楽器

ピアノ、ハープ、マリンバ、および打楽器インストゥルメントの大部分などの非サスティン楽器は、打音後に音量を制御できません。このため、非サスティン楽器のソフトウェアインストゥルメントは多くの場合、音符の開始位置で設定されるノートベロシティをダイナミクスに使用します。

ヒント

各ソフトウェアインストゥルメントの設定は、「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログで制御できます。

関連リンク

[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(583 ページ\)](#)

音量タイプのための VST エクスプレッションマップ

サードパーティー製サウンドライブラリーを使用する場合、インストゥルメントを段階的強弱記号に反応させるために、エクスプレッションマップの変更または編集が必要となる場合があります。これを行わない場合、サウンドライブラリーは初期設定ではベロシティを使用します。

エクスプレッションマップのダイナミクスの設定は、インストゥルメントの構成によって左右されます。詳細については、サウンドライブラリーの説明書を参照してください。

Dorico Pro では、以下のデフォルトのエクスプレッションマップが提供されています。

- MIDI チャンネルのエクスプレッションの変化によりダイナミクスを得る「**CC11 ダイナミクス (CC11 Dynamics)**」
- MIDI コントローラー 1 の変化によりダイナミクスを得る「**モジュレーションホイールダイナミクス (Modulation Wheel Dynamics)**」

ヒント

「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログでは、エクスプレッションマップを編集できます。

フィンガリング

フィンガリングは、音符に使用が推奨される指をプレーヤーに指示するために楽譜に追加されます。これは、楽器習得中のプレーヤー向けの楽譜や、難しいパッセージで、特定のフィンガリングのパターンを使用すると音符の演奏が容易になる場合などに効果的です。

フィンガリングは、音符の演奏に 10 本の指すべてを使用する鍵盤楽器の楽譜や、フレット位置と同時に使用されることの多いギター楽譜によく使用されます。しかし、フィンガリングはそれ以外の楽器でも効果的な場合があります。たとえば、弦楽器プレーヤーが音符を伸ばしている間に弦を押さえる指を替えることを指示する場合や、木管楽器プレーヤーのある音符に対し、特殊な音響効果を与えるために、通常とは異なるフィンガリングの使用を指示する場合などです。

ピアノの楽譜には、替え指のフィンガリングや代替フィンガリングを含む複数のフィンガリングが記譜されます。

Dorico Pro は、金管楽器のためのフィンガリングも作成できます。たとえばトランペットやホルンなどの楽器では、プレーヤーが押下するバルブを指定でき、ダブルホルンにおいては、プレーヤーに使用を求めるホルンの支管を指定できます。

Dorico Pro は、フィンガリングの外観に関する一般的な慣習に従い、初期設定では太字のローマ字フォントをフィンガリングに使用します。フィンガリングに使用するフォントをプロジェクト全体で変更したり、フィンガリングのフォントスタイルの形式設定を編集したりできます。

関連リンク

- [フィンガリングの入力 \(216 ページ\)](#)
- [フィンガリングのポップオーバー \(218 ページ\)](#)
- [フィンガリングのフォントスタイル \(809 ページ\)](#)
- [フィンガリングに使用するフォントをプロジェクト全体で変更する \(809 ページ\)](#)
- [フィンガリングのフォントスタイルの編集 \(810 ページ\)](#)
- [フィンガリングの表示/非表示 \(808 ページ\)](#)
- [弦の指示記号 \(825 ページ\)](#)

フィンガリングの一般的な配置規則

フィンガリングは、演奏者が容易かつ明瞭に読めるように、それが属する音符のできるだけ近くに配置されます。

ピアノやハープなど大譜表を用いるインストゥルメントの楽譜においては、右手のフィンガリングは上段の譜表の上、左手のフィンガリングは下段の譜表の下に配置するのが一般的です。しかし、これらの

インストゥルメントにおける対位法で記載される密度の高い楽譜については、フィンガリングはそれが属する声部の方向に従い、譜表の間にも配置できます。

フレット楽器のフィンガリングには異なる表記規則が適用されます。これには右手と左手の両方にフィンガリングが必要とされるためです。

右手のフィンガリングの位置

初期設定では、右手のフィンガリングはすべて 譜表の外側で音符の符頭側に配置されます。つまり符尾の方向に従い譜表の上または下に配置されます。譜表の内側で符頭の音符の横に表示する場合、Dorico Pro は同じ右手のフィンガリングを使用する隣接した音符を自動的に角括弧で結合します。

左手のフィンガリングの位置

通常、左手のフィンガリングは譜表の内側の、フィンガリングが適用される音符の左側に配置されます。ただし、臨時記号や付点などの他のアイテムと重ならないようにする必要もあります。Dorico Pro では、左手のフィンガリングには最も適切な位置が自動的に計算されるとともに、デフォルトで背景が白で塗りつぶすことで、譜表線上に配置されたときの可読性を向上させます。

関連リンク

[フレット楽器のフィンガリング](#) (812 ページ)

[左手のフィンガリングの位置を変更する](#) (814 ページ)

[右手のフィンガリングの角括弧を表示/非表示にする](#) (813 ページ)

浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する

フィンガリングの外観と位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**フィンガリング (Fingering)**」ページで変更できます。

「**フィンガリング (Fingering)**」ページのオプションにより、標準の音符、譜表をまたぐ和音および装飾音符のフィンガリングのフォント、サイズ、外観、配置および詳細な位置を変更できます。これには金管楽器やフレット楽器などインストゥルメントグループごとの詳細設定、およびフィンガリングの囲み線や下線のデザインも含まれます。そこでは個別のオプションで譜表の内側に表示されるフィンガリングの位置を制御できるとともに、スラー、オクターブ線および連符に対するフィンガリングの位置も変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ](#) (362 ページ)

フィンガリングを替え指のフィンガリングに変更

替え指のフィンガリングは、音符に使用する指を変更することをプレーヤーに指示します。すでに入力してあるフィンガリングは、替え指のフィンガリングに変更できます。

手順

1. 替え指のフィンガリングに変更するフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」グループで、「**替え指 (Substitution)**」をオンにします。
3. 替え指に使用するフィンガリングを数値フィールドに入力します。

4. **[Return]** を押します。

結果

選択したフィンガリングが替え指のフィンガリングとして表示されるようになります。初期設定では替え指を行なうまでの遅延がなく、替え指の位置は元のフィンガリングと同じですが、替え指のフィンガリングの位置は変更できます。

替え指のフィンガリングの位置の変更

替え指のフィンガリングは、初期設定では元のフィンガリングの直後に表示され、これは替え指が同じ音符で行なわれることを意味しますが、替え指が行なわれる位置は個別に変更できます。

手順

1. 替え指の実行まで待機する位置を変更する替え指のフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、替え指のフィンガリングの位置を変更します。
 - 記譜モードで、丸いハンドルをクリックして任意の水平位置にドラッグします。
 - 記譜モードまたは浄書モードで、プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで「替え指のオフセット (Substitution offset)」をオンにします。

左側の数値フィールドに4分音符の分数で数値を入力するか、数値フィールドの横の矢印をクリックして、替え指の位置を変更します。値を増やすと後ろの位置に、減らすと前の位置に替え指が移動します。

補足

右側の数値フィールドは、装飾音符の位置に替え指が発生する場合に使用します。

結果

替え指のフィンガリングの位置が変更されます。

Dorico Pro では、替え指と同時に発生する他のフィンガリングに対し適切に並ぶように、遅い替え指は自動的に配置されます。

補足

マウスでハンドルをドラッグする場合、1度に位置を変更できる替え指のフィンガリングは1つだけです。しかし、プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで「替え指のオフセット (Substitution offset)」を使用すれば、一度に複数の替え指のフィンガリングの位置を変更できます。

即時の替え指にスラーを表示する設定を選択している場合でも、遅い替え指は常に横棒線が表示されません。

関連リンク

[フィンガリングのポップオーバー \(218 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(801 ページ\)](#)

既存のフィンガリングの変更

フィンガリングは、たとえば他のフィンガリングの方が適切だと判断した場合、入力後でも自由に変更できます。

手順

1. 変更するフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「フィンガリングまたはポジション (Finger or position)」の入力フィールドに、任意のフィンガリングを新規に入力します。
3. **[Return]** を押します。

結果

選択したフィンガリングが変更されます。

ヒント

また既存のフィンガリングは、記譜モードでフィンガリングのポップオーバーを開いても変更できません。ポップオーバーには、選択した音符に付いているフィンガリングが表示されます。

関連リンク

[フィンガリングの入力 \(216 ページ\)](#)

[フィンガリングのポップオーバー \(218 ページ\)](#)

フィンガリングの表示位置の移動

フィンガリングは、その属する符頭とは個別に表示位置を移動できます。

補足

フィンガリングは音符の一部として存在するため、音符と別のリズム上の位置には移動できません。フィンガリングを他の符頭に移動する場合は、既存のフィンガリングを削除してから、移動先の符頭にフィンガリングを再入力します。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動するフィンガリングを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、フィンガリングを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

フィンガリングが異なる表示位置に移動します。

ヒント

フィンガリングを移動すると、プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループにある「オフセット (Offset)」が自動的にオンになります。

- 「オフセット X (Offset X)」はフィンガリングを水平方向に移動します。
- 「オフセット Y (Offset Y)」はフィンガリングを垂直方向に移動します。

このプロパティの数値フィールドの数値を変更することでも、フィンガリングを移動できます。

プロパティをオフにすると、選択したフィンガリングが初期設定の位置にリセットされます。

フィンガリングの位置をリセットする

表示位置を移動したフィンガリングの位置を個別にリセットできます。

手順

1. 浄書モードで、位置をリセットするフィンガリングを選択します。
 2. 以下のいずれかの操作を行なって位置をリセットします。
 - 「編集 (Edit)」 > 「ポジションをリセット (Reset Position)」を選択します。
 - プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「オフセット (Offset)」をオフにします。
-

譜表に対するフィンガリングの位置の変更

Dorico Pro はフィンガリングの位置について自動的に表記規則に従いますが、フレット楽器以外のインストゥルメントのフィンガリングは、プロジェクト全体の設定とは別に譜表の上または下に表示できます。

表記規則に従うと、鍵盤楽器のフィンガリングは右手の譜表の上、および左手の譜表の下に配置されます。弦楽器および金管楽器のフィンガリングは常に譜表の上に配置されます。

補足

これらの手順は、フレット楽器以外のインストゥルメントにのみ適用されます。

手順

1. 譜表に対する位置を変更するフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」のグループで、「譜表との相対位置 (Staff-relative position)」をオンにします。
 3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上 (Above)
 - 下 (Below)
-

結果

選択したフィンガリングが譜表の上または下に表示されます。

ヒント

- また、浄書モードでフィンガリングを選択して **[F]** を押すことで、譜表に対するフィンガリングの位置を変更することもできます。

- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**フィンガリング (Fingering)**」のページでは、譜表に対するフィンガリングの位置が声部の向きに従うようプロジェクト全体で設定できます。

これは、フィンガリングが上段の譜表の上および下段の譜表の下に配置されるだけでは分かりづらい場合がある、複雑な対位法による楽譜に効果的です。

関連リンク

[フレット楽器のフィンガリング \(812 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(801 ページ\)](#)

譜表の内側にフィンガリングを表示する

フレット楽器以外のインストゥルメントのフィンガリングは、個別に譜表の内側の符頭の横に表示位置を変更できます。

補足

- これらの手順は、フレット楽器以外のインストゥルメントにのみ適用されます。フレット楽器の左手のフィンガリングは、デフォルトでは譜表の内側に表示されます。
 - これらの手順は、替え指のフィンガリングには適用されません。
-

手順

1. フィンガリングを譜表の内側に表示させる音符を選択します。これは記譜モードおよび浄書モードで実行できますが、浄書モードではフィンガリング自体を選択する必要があります。
 2. プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」のグループで、「**譜表の内側 (Inside staff)**」をオンにします。
-

結果

選択した音符のフィンガリングが譜表の内側に表示され、符頭の真横に配置されます。初期設定では、フィンガリングが属する音符が譜表線上にある場合、可読性を確保するために譜表線が部分的に消されます。

ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**フィンガリング (Fingering)**」のページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると、譜表の内側に表示されるフィンガリングの塗りつぶしの余白とサイズを制御するプロジェクト全体のオプションが利用できます。また、「**位置 (Position)**」セクションでは、プロジェクト全体で音符の左側に表示されるすべてのフィンガリングがどのように衝突を回避するかも変更できます。

例



スラー、オクターブ線および連符の角括弧に対するフィンガリングの位置を変更する

初期設定では、フィンガリングはスラーの弧の内側に配置されますが、スラーの始端と終端では外側に配置されます。個々のスラーに対するフィンガリングの表示位置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、スラーに対する位置を変更するフィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「スラーとの相対位置 (Slur-relative position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 内側 (Inside)
 - 外側 (Outside)

結果

選択したフィンガリングのスラー、オクターブ線および連符の角括弧に対する位置が変更されます。

補足

- フィンガリングがスラーの最初または最後の音符にも付いている場合、フィンガリングはこれらの記譜記号すべての外側に配置されます。
- スラー、オクターブ線および連符の角括弧に対するすべてのフィンガリングの位置に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(801 ページ\)](#)

フィンガリングのサイズを変更する

フィンガリングのサイズは、それが属する符頭のサイズを変更することなく個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、サイズを変更するフィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「スケール (Scale)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。
4. **[Return]** を押します。

結果

選択したフィンガリングの縮尺が変更されます。たとえば、値を **50** に変更すると、選択したフィンガリングの縮尺が標準サイズの半分になります。

ヒント

すべてのフィンガリングのデフォルトのサイズに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」の「フィンガリング用フォント (Fingering Font)」のサイズを変更することによって変更できます。

関連リンク
[フィンガリングのフォントスタイルの編集 \(810 ページ\)](#)

フィンガリングに囲み線/下線を表示する

フレット楽器以外のインストゥルメントのフィンガリングは個別に丸い囲み線または下線を付けて表示できます。

補足

これらの手順は、フレット楽器以外のインストゥルメントにのみ適用されます。フレット楽器の場合は、かわりに丸の囲み線の中に表示される弦の指示記号を譜表内に表示できます。

手順

1. 浄書モードで、囲み線/下線を表示するフィンガリングを選択します。
 2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「デコレーション (Decoration)」をオンにします。
 3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 丸 (Circle)
 - 下線 (Underline)
-

結果

選択したフィンガリングに選択したデコレーションが表示されます。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると、線の太さなどのフィンガリングの装飾について、プロジェクト全体のデフォルトのデザインを決定する設定を表示できます。

例



丸で囲まれたフィンガリング



下線付きのフィンガリング

関連リンク
[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(801 ページ\)](#)
[弦の指示記号 \(825 ページ\)](#)

フィンガリングの表示/非表示

フィンガリングの表示と非表示は、プロジェクトの各レイアウトごとに個別に切り替えることができます。たとえば、パートレイアウトではフィンガリングを表示させつつ、フルスコアレイアウトでは非表示にできます。指揮者がフィンガリングの情報を必要とすることはまれなためです。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、フィンガリングを表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**フィンガリング (Fingering)**」セクションで、「**フィンガリングを表示 (Show fingering)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトのすべてのフィンガリングが、チェックボックスがオンのときは表示、チェックボックスがオフのときは非表示になります。

関連リンク

[親切フィンガリングの外観を変更する \(811 ページ\)](#)

フィンガリングの削除

フィンガリングは入力後に音符から削除できます。ただし、フィンガリングは単独のアイテムではなく音符の一部と見なされるため、他のアイテムのようにそれ自体を選択しての削除はできません。

手順

1. フィンガリングを削除する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**フィンガリング (Fingering)**」 > 「**フィンガリングをリセット (Reset Fingering)**」を選択します。

結果

選択した音符からすべてのフィンガリングが削除されます。

ヒント

この動作には任意のキーボードショートカットを割り当てることができます。

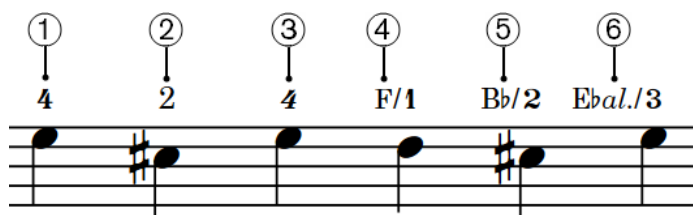
関連リンク

[大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)

[キーボードショートカットの割り当て \(66 ページ\)](#)

フィンガリングのフォントスタイル

異なるタイプのフィンガリングは異なるフォントを使用します。フィンガリングに使用するフォントスタイルの各種設定は、「[フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)](#)」ダイアログで変更できます。



フィンガリングには以下のフォントが使用されています。

- 1 **フィンガリング用フォント (Fingering Font):** 太字のフィンガリング (太字斜体のフィンガリングを含む) に使用されます。SMuFL 準拠である必要があります。
- 2 **フィンガリング用テキストフォント (Fingering Text Font):** 標準のフィンガリングに使用されます。
- 3 **フィンガリング用イタリックテキストフォント (Fingering Text Italic Font):** 斜体のフィンガリングに使用されます。
- 4 **「ホルンの支管のフィンガリングのテキストフォント (Fingering Horn Branch Text Font)」:** ホルンの支管の指示記号の音名に使用されます。
- 5 **「ホルンの支管のフィンガリングの臨時記号のフォント (Fingering Horn Branch Accidental Font)」:** ホルンの支管の指示記号の臨時記号に使用されます。SMuFL 準拠である必要があります。
- 6 **「ホルンの支管指示のテキストフォント (Fingering Horn Branch Alto Text Font)」:** トリプルホルンの支管の指示記号におけるアルトの省略に使用されます。

補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(801 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(825 ページ\)](#)

[開放弦の指示記号の外観を変更する \(826 ページ\)](#)

フィンガリングに使用するフォントをプロジェクト全体で変更する

初期設定では、フィンガリングは太字のアラビア数字フォントで描かれ、これは拍子記号の数字に近い外観です。プロジェクト全体のフィンガリングに使用されるフォントを変更できます。これはフィンガリングの数字、括弧、角括弧、およびフィンガリング 0 として表示される開放弦の指示記号の外観に影響します。

補足

親指の指示記号、替え指の線とスラー、および金管楽器のバルブの区切り文字に使用するフォントは変更されません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**フィンガリング (Fingering)**」をクリックします。
3. 「**デザイン (Design)**」のセクションの「**フィンガリングの外観 (Fingering appearance)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。

- 太字 (Bold font)
- プレーンフォント (Plain font)

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

プロジェクト全体でフィンガリングおよびフィンガリング 0 として表示される開放弦の指示記号に使用するフォントスタイルが変更されます。

ヒント

フィンガリングに使用するフォントスタイルの各種設定は、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。太字のフィンガリングは「**フィンガリング用フォント (Fingering Font)**」を使用します。標準のフィンガリングは「**フィンガリング用テキストフォント (Fingering Text Font)**」を使用します。

フィンガリングのフォントスタイルの編集

プロジェクト全体のすべてのフィンガリングおよびフィンガリング 0 として表示される開放弦の指示記号に使用されるフォントスタイルの形式設定を編集できます。たとえば、初期設定よりも大きく表示したりできます。ただし、「**フィンガリング用フォント (Fingering Font)**」と「**ホルンの支管のフィンガリングの臨時記号のフォント (Fingering Horn Branch Accidental Font)**」のフォントスタイルには、SMuFL に準拠したフォントを選択する必要があります。

手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択して、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開きます。
 2. 編集するフィンガリングのフォントスタイルを「**フォントスタイル (Font style)**」メニューから選択します。
 3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
 - **フォントファミリー (Font family)**
 - **サイズ (Size)**
 - **スタイル (Style)**
 - **下線 (Underlined)**
 4. 必要に応じて、手順 2 と 3 を繰り返して複数のフォントスタイルを編集します。
 5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

選択したフィンガリングのフォントスタイルの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

関連リンク

[フィンガリングのフォントスタイル \(809 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(801 ページ\)](#)

[フィンガリングのサイズを変更する \(806 ページ\)](#)

個々のフィンガリングを斜体で表示する

フィンガリングは太字の立体フォントで表示されるのが標準ですが、個々のフィンガリングについては斜体による表示もできます。

手順

1. 浄書モードで、斜体で表示するフィンガリングを選択します。

2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「斜体 (Italic)」をオンにします。

結果

選択したフィンガリングが、プロジェクト全体の設定が太字フォントの場合は太字の斜体フォント、プレーンフォントの場合はプレーンの斜体フォントで表示されます。

補足

太字斜体のフィンガリングは連符の数字に極めて似ているため、まぎらわしい場合があります。

親切フィンガリング

親切フィンガリングは、先の位置で指定されたフィンガリングが、演奏中の音符にそのまま適用されることをプレーヤーに伝えます。Dorico Pro は、先にフィンガリングを指定した音符の演奏中の位置に他のフィンガリングが追加された場合、自動的に親切フィンガリングを表示します。

初期設定では、親切フィンガリングは括弧に入って表示されます。親切フィンガリングには括弧なしの表示や完全な非表示も選択でき、これはプロジェクト全体に反映されます。また親切フィンガリングの外観は個別に変更でき、これによりたとえば、組段区切りやフレーム区切りをまたぐタイでつながれた音符に、手動で親切フィンガリングを表示できます。



括弧つきで表示される親切フィンガリング (デフォルト)

親切フィンガリングの外観を変更する

親切フィンガリングの外観は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。これによりたとえば、特定のフィンガリングについて括弧をなくしたり、非表示にしたりできます。

補足

これらの手順は、親切フィンガリングとして入力したフィンガリングにのみ適用されます。

手順

1. 浄書モードで、親切フィンガリングの外観を変更する符頭を選択します。

補足

フィンガリング自体ではなく、親切フィンガリングが適用される特定の符頭を選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「親切臨時記号 (Cautionary)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - デフォルト (Default)
 - 括弧つき (With parentheses)
 - 括弧なし (Without parentheses)

- 抑制 (Suppress)

結果

選択した音符の親切フィンガリングの外観が変更されます。

ヒント

すべての親切フィンガリングのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにある「代替、編者注および親切フィンガリング (Alternative, Editorial and Cautionary)」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[親切フィンガリング \(811 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(801 ページ\)](#)

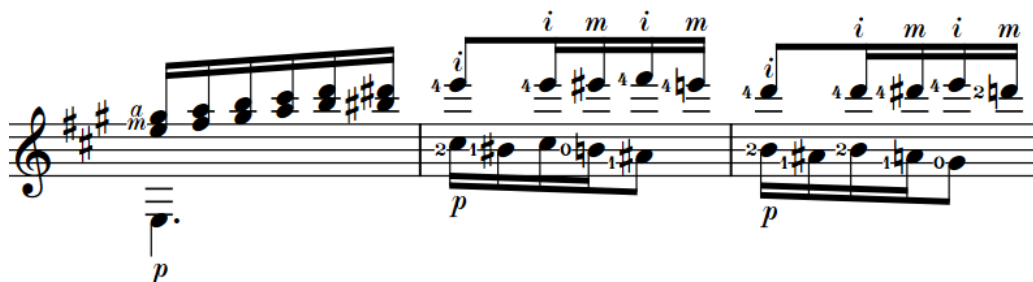
[フィンガリングの入力 \(216 ページ\)](#)

[フィンガリングのポップオーバー \(218 ページ\)](#)

フレット楽器のフィンガリング

クラシックギターなどのフレット楽器は、楽譜が複雑になることから、両手のフィンガリングの追加指示と浄書オプションが必要になります。

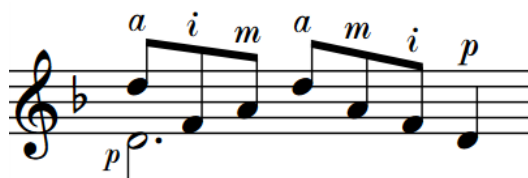
フレット楽器のフィンガリングには、通常のフィンガリングと同じフォントが使われます。



右手と左手のフィンガリングが表示された楽節

右手のフィンガリング

右手のフィンガリングは、弦をはじく指 (通常は右手) を演奏者に指示します。初期設定では、右手のフィンガリングはすべて譜表の外側の音符の符頭側に配置され、複声部では声部の符尾の方向に従って配置されます。コード内の複数の音符を同じ指で演奏する場合、その指ではじく複数の音符に対し、1つのフィンガリングを角括弧付きで表示できます。



Dorico Pro の初期設定では、右手の親指のフィンガリングには「p」、右手の小指のフィンガリングには「e」が表示されますが、これらの文字にはさまざまな表記規則があります。すべてのフィンガリングに適用されるこれらのデフォルト設定は、プロジェクト全体で変更できます。

左手のフィンガリング

左手のフィンガリングは、弦を押さえる指 (通常は左手) を演奏者に指示します。Dorico Pro では、左手のフィンガリングは譜表の内側の、フィンガリングが適用される音符の左側に配置されます。



譜表の内側で音符の横に表示される場合、左手のフィンガリングは譜表の外側に表示されるフィンガリングよりも小さく表示されます。譜表の内側に表示される左手のフィンガリングのデフォルトの倍率は95%です。このオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**フィンガリング (Fingering)**」ページの「**デザイン (Design)**」セクションで「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると表示されます。

関連リンク

- [フィンガリングの入力 \(216 ページ\)](#)
- [フィンガリングのポップオーバー \(218 ページ\)](#)
- [フィンガリングのフォントスタイル \(809 ページ\)](#)
- [フレット楽器のフィンガリングに表示される文字を変更する \(817 ページ\)](#)
- [アルペジオ記号にフィンガリングを追加する \(816 ページ\)](#)
- [フィンガリングスライド \(818 ページ\)](#)
- [弦の指示記号 \(825 ページ\)](#)

右手のフィンガリングの角括弧を表示/非表示にする

同じコード内の複数の音符を右手の同じ指ではじく場合、同じフィンガリングを各音符に1つずつ表示することも、その指ではじく音符にまたがる角括弧を使ってすべての音符に対して1つのフィンガリングを表示することもできます。フィンガリングを各音符に1つずつ表示する場合、それぞれのフィンガリングを譜表の上下どちらに配置するか選択できます。

補足

これらの手順は、フレット楽器の右手のフィンガリングにのみ適用されます。

前提条件

角括弧の表示/非表示を切り替える、または垂直位置を変更するフィンガリングを入力しておきます。

手順

- 右手のフィンガリングの角括弧の表示/非表示を切り替える音符をすべて選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「**つま弾くフィンガリング (Plucked Fingering)**」のグループで、「**垂直位置 (Vertical position)**」をオンにします。
- メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 角括弧を非表示にして、選択した音符それぞれに個別のフィンガリングを表示するには、「**譜表の上 (Above staff)**」または「**譜表の下 (Below staff)**」を選択します。
 - 角括弧を表示して、それぞれの角括弧内のすべての音符に対して1つのフィンガリングを表示するには、「**音符の横 (Next to note)**」を選択します。

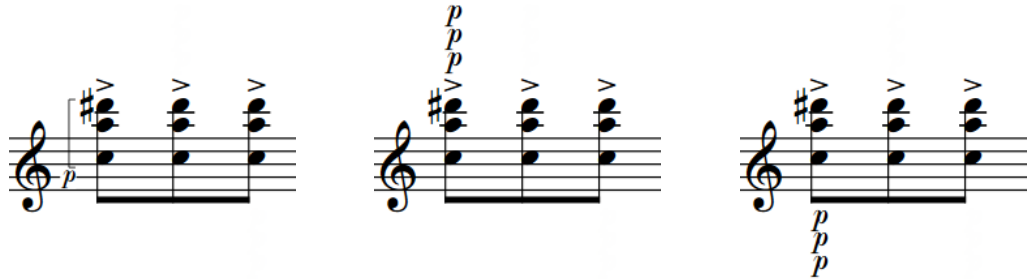
結果

選択した右手のフィンガリングの角括弧が表示または非表示になります。「**譜表の上 (Above staff)**」または「**譜表の下 (Below staff)**」を選択した場合は、譜表に対する位置も一緒に変更されます。

ヒント

右手のフィンガリングすべての譜表に対するデフォルトの位置は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページの「位置 (Position)」セクションで変更できます。

例



右手のフィンガリングを音符の横に角括弧付きで表示した状態

右手のフィンガリングを譜表の上に表示した状態

右手のフィンガリングを譜表の下に表示した状態

関連リンク

[フィンガリングの入力 \(216 ページ\)](#)

左手のフィンガリングの位置を変更する

左手のフィンガリングの位置を個別に変更できます。初期設定では、左手のフィンガリングは譜表の内側の、フィンガリングが適用される音符の左側に配置されます。

補足

これらの手順は、フレット楽器の左手のフィンガリングにのみ適用されます。

前提条件

位置を変更するフィンガリングを入力しておきます。

手順

1. 位置を変更する左手のフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「止め指のポジション (Stopping finger position)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 譜表の外側 (Outside staff)
 - 音符の左側 (Left of note)
 - 音符の右側 (Right of note)

例

選択した左手のフィンガリングの位置が変更されます。譜表の外側に表示した場合、初期設定では譜表の上に配置されます。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにある「位置 (Position)」セクションで、プロジェクト全体で音符の左側に表示されるすべてのフィンガリングがどのように衝突を回避するかを変更できます。



譜表の外側 (Outside staff)



音符の左側 (Left of note)



音符の右側 (Right of note)

関連リンク

[フィンガリングの一般的な配置規則 \(800 ページ\)](#)

[フィンガリングの入力 \(216 ページ\)](#)

譜表内の左手のフィンガリングの背景を塗りつぶす

左手のフィンガリングは譜表内の譜表線上に配置されることが多いため、Dorico Pro の初期設定では、左手のフィンガリングの背景が塗りつぶされます。左手のフィンガリングの背景を塗りつぶすかどうかは個別に変更できます。

補足

これらの手順は、フレット楽器の左手のフィンガリングにのみ適用されます。

手順

1. 浄書モードで、背景の塗りつぶしを変更する左手のフィンガリングを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

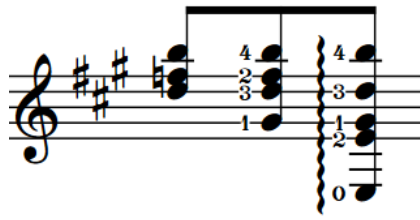
チェックボックスがオンの場合は選択した左手のフィンガリングの背景が塗りつぶされ、オフの場合は塗りつぶされません。

プロパティをオフにすると、左手のフィンガリングの表示は背景を塗りつぶすかどうかのプロジェクト全体の設定に従います。

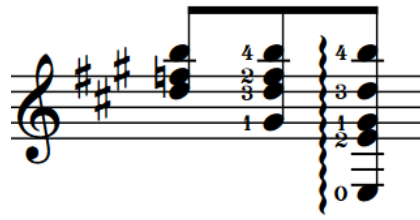
ヒント

左手のフィンガリングすべての背景を塗りつぶすかどうかのプロジェクト全体のデフォルト設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページの「デザイン (Design)」セクションで「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると表示されます。

例



背景が塗りつぶされた左手のフィンガリング



背景が塗りつぶされていない左手のフィンガリング

関連リンク

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(801 ページ\)](#)

アルペジオ記号にフィンガリングを追加する

右手のどの指でコードをかき鳴らすかを指示するために、アルペジオ記号にフィンガリングを追加できます。初期設定では、フィンガリングはアルペジオ記号の下に配置されます。

補足

これらの手順は、フレット楽器のアルペジオ記号にのみ適用されます。

前提条件

フィンガリングを追加するアルペジオ記号を入力しておきます。

手順

1. フィンガリングを追加するフレット楽器のアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「つま弾くフィンガリング (Plucked Fingering)」のグループで、「指 (Finger)」をオンにします。
 3. 使用するフィンガリングを値フィールドに入力します。
たとえば、親指の場合は「p」と入力します。
-

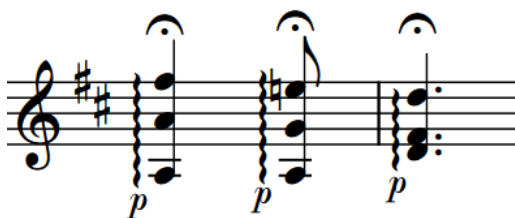
結果

選択したアルペジオ記号に指定したフィンガリングが追加されます。初期設定では、アルペジオ記号の下に配置されます。

ヒント

アルペジオ記号のフィンガリングに関するオプションは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにあります。たとえば、通常のフィンガリングに対するデフォルト倍率のオプションは、「デザイン (Design)」セクションの「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると表示されます。

例



親指で演奏するアルペジオ記号

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

アルペジオ記号のフィンガリングを譜表内に表示することを許可する/許可しない

初期設定では、アルペジオ記号のフィンガリングは常に譜表の外側に表示されます。アルペジオ記号が譜表内で終わる場合に、アルペジオ記号のフィンガリングを譜表内に表示することを許可するかどうかを選択できます。

補足

これらの手順は、フレット楽器のアルペジオ記号にのみ適用されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストの「**フィンガリング (Fingering)**」をクリックします。
 3. 「**位置 (Position)**」セクションの「**垂直位置 (Vertical Position)**」サブセクションにある「**アルペジオ記号のフィンガリングの垂直位置 (Vertical position for arpeggio sign fingering)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **譜表の外側を強制 (Force outside staff)**
 - **譜表の内側を許可 (Allow in staff)**
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

フレット楽器のフィンガリングに表示される文字を変更する

親指と小指を示すフィンガリングに表示される文字を変更できます。Dorico Pro の初期設定では、親指にはp、小指にはeが表示されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**フィンガリング (Fingering)**」をクリックします。
3. 「**デザイン (Design)**」セクションの「**右手でつま弾くフィンガリング (Right-hand Plucked Fingering)**」サブセクションにある「**親指の指示記号 (Thumb indicator)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **P (Pulgar)**
 - **T (Thumb)**
4. 「**小指の指示記号 (Pinky finger indicator)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **E**

- Q
- C
- S
- O
- 「X」

5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

親指と小指のフィンガリングに使用されている文字がプロジェクト全体で変更されます。

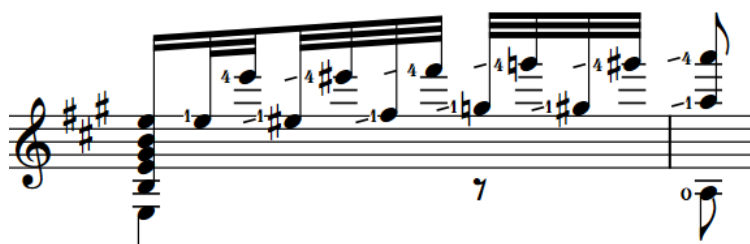
関連リンク

[フィンガリングのポップオーバー \(218 ページ\)](#)

フィンガリングスライド

フィンガリングスライドは、楽器のネックに沿って指を上下にスライドすることを演奏者に指示するもので、フィンガリングの間に斜めの線として記譜されます。

フィンガリングスライドの開始位置の音符をスライド元の音符と呼びます。フィンガリングスライドの終了位置の音符をスライド先の音符と呼びます。



フィンガリングスライドが表示された楽節

スライド元の音符とスライド先の音符の水平距離が十分に近い場合、フィンガリングスライドは、フィンガリングの既存の位置を動かすことなく、それらを直接結合するようにフィンガリング同士の間に表示されます。スライド元の音符とスライド先の音符の水平距離が離れている場合、フィンガリングスライドはスライド先の音符の左側に固定の長さで表示されます。フィンガリングスライドの長さは個別に変更できます。

フィンガリングスライドは、符頭、臨時記号、他のフィンガリングなどの障害物を自動的に回避します。

浄書モードでは、スライド元/スライド先のフィンガリングおよび音符とは関係なくフィンガリングスライドを選択できます。フィンガリングスライドの両側にはハンドルがあり、その開始位置/終了位置を動かして各フィンガリングスライドの角度を個別に調節できます。フィンガリングスライド全体の表示位置を動かすこともできます。

補足

- Dorico Pro では、開始位置/終了位置のフィンガリングを動かすと、フィンガリングスライドの長さ/角度が自動的に調整されます。
- Dorico Pro では、フレット楽器に属する譜表にのみフィンガリングスライドを表示できます。その他の弦楽器に属する譜表には、弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示記号を表示できます。

関連リンク

[フィンガリングスライドを表示/非表示にする \(819 ページ\)](#)

[フィンガリングスライドの長さを変更する \(821 ページ\)](#)

フィンガリングスライドを表示/非表示にする

フレット楽器の同一の弦上で左手の同じ指を使って複数の音符を演奏する場合、それらの音符の間にスライドを表示したり、非表示にしたりできます。

補足

これらの手順は、フレット楽器のフィンガリングにのみ適用されます。

前提条件

- スライドの開始位置と終了位置の音符に、同じ左手のフィンガリングを入力しておきます。
- スライドの開始位置と終了位置の音符に、同じ弦を指定しておきます。

手順

1. フィンガリングスライドを表示/非表示にするスライド先の音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」のグループで、「スライドイン (Slide in)」をオン/オフにします。

結果

「スライドイン (Slide in)」をオンにすると選択した音符の前にフィンガリングスライドが表示され、オフにすると非表示になります。スライド元の音符とスライド先の音符の間隔が十分に近い場合、フィンガリングスライドはフィンガリング同士を結合する斜めの線として表示されます。間隔が離れている場合、フィンガリングスライドはスライド先の音符の左側に固定の長さの斜めの線として表示されます。

ヒント

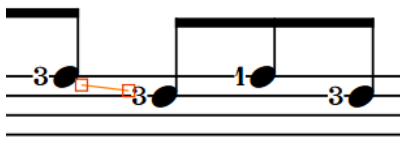
スライドの位置や角度を調節したい場合は、浄書モードでフィンガリングまたはスライド自体の表示位置を動かすことができます。Dorico Pro では、開始位置/終了位置のフィンガリングを動かすと、フィンガリングスライドの長さ/角度が自動的に調整されます。

関連リンク

- [フィンガリングの入力 \(216 ページ\)](#)
- [既存のフィンガリングの変更 \(803 ページ\)](#)
- [個々の音符に弦を指定する \(916 ページ\)](#)
- [フィンガリングの表示位置の移動 \(803 ページ\)](#)

フィンガリングスライドの表示位置を移動する

個々のフィンガリングスライドの表示位置は、適用される音符を変更することなく、また開始位置/終了位置のフィンガリングとも関係なく移動できます。音符をつないでいるフィンガリングスライドの両側を個別に移動でき、スライドの角度を調節することもできます。



2つの音符をつなぐスライドのハンドル (浄書モード)

補足

- フィンガリングスライドの長さを変更する目的で開始位置/終了位置のハンドルを移動する場合は、「**スライドタイプ (Slide type)**」プロパティを変更するかフィンガリングを移動することをおすすめします。Dorico Pro では、開始位置/終了位置のフィンガリングを動かすと、フィンガリングスライドの長さ/角度が自動的に調整されます。
- フィンガリングスライドのリズム上の位置を移動することはできません。フィンガリングスライドを適用する音符を変更する場合は、元の音符間のフィンガリングスライドを非表示にして、新しい音符間に新しいフィンガリングスライドを表示する必要があります。
- スライド先の音符の前にもみ表示されるフィンガリングスライドは長さが固定されているため、開始位置/終了位置のハンドルはありません。
- 音符同士をつなぐフィンガリングスライド全体を移動することはできません。移動できるのはハンドルのみです。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。
 - スライド先の音符の前に表示されたフィンガリングスライド全体
 - 音符同士をつなぐフィンガリングスライドの個々のハンドル

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、フィンガリングスライドまたはハンドルを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したフィンガリングスライドまたはハンドルの表示位置が、それが属する音符や開始位置/終了位置のフィンガリングに影響することなく移動します。

ヒント

フィンガリングスライドのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**スライド開始位置 (Slide start)**」は、フィンガリングスライドの開始ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**スライド終了位置 (Slide end)**」は、フィンガリングスライドの終了ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

たとえば、フィンガリングスライド全体を移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、「**スライド開始位置 (Slide start)**」と「**スライド終了位置 (Slide end)**」の両方がオンになります。こ

これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでもフィンガリングスライドの表示位置と角度を変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したフィンガリングスライドがデフォルトの位置にリセットされます。

フィンガリングスライドの長さを変更する

プロジェクト全体の最大距離のしきい値に関係なく、個々のフィンガリングスライドの長さを変更して、スライド元のフィンガリングとスライド先のフィンガリングを結合するスライドとして表示したり、スライド先の音符の前に固定の長さのフィンガリングスライドとして表示したりできます。

補足

これらの手順は、フレット楽器のフィンガリングにのみ適用されます。

手順

1. 浄書モードで、長さを変更するフィンガリングスライドを選択します。
2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「スライドタイプ (Slide type)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 結合 (Join)
 - スライド先のみ (Destination only)

結果

「結合 (Join)」は、選択したスライドの開始位置/終了位置にあるフィンガリングの間にフィンガリングスライドを表示します。

「スライド先のみ (Destination only)」は、スライド先の音符の前に固定の長さのフィンガリングスライドを表示します。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにある「フィンガリングスライド (Fingering Slides)」セクションでは、その値を超えたら開始位置/終了位置のフィンガリングを結合するかわりに、スライド先の音符の前にのみフィンガリングスライドを表示するデフォルトのしきい値を変更できます。

例



結合 (Join)



スライド先のみ (Destination only)

バルブ式金管楽器のフィンガリング

トランペットやホルンなどのインストゥルメントにおいては、特定の音を出す上でどのバルブを押下するかを示すために、フィンガリングが使用されます。

バルブ式金管楽器のフィンガリングは、フィンガリングのポップオーバーに、区切り文字なしの数字で入力できます。たとえば、トランペットのC#の音に **12** と入力して、1 番めと 2 番めのバルブを押下するよう指示します。

初期設定では、Dorico Pro は金管楽器の譜表の音符に追加されるフィンガリングを自動的に縦に積み重ねます。初期設定では区切り文字は表示されません。

バルブ式金管楽器のフィンガリングの外観は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにある「金管楽器 (Brass)」セクションで変更できます。たとえば、バルブ式金管楽器のフィンガリングは、横一列または縦に積み重ねて表示できます。区切り文字の外観も変更でき、また非表示にできます。

バルブ式金管楽器のフィンガリングの各部分に使用されるフォントの形式設定を編集することもできます。

関連リンク

[フィンガリングのフォントスタイル \(809 ページ\)](#)

[フィンガリングのポップオーバー \(218 ページ\)](#)

[フィンガリングの入力 \(216 ページ\)](#)

ホルンの支管の指示記号の表示

ホルンのフィンガリングに先頭テキストとして支管の指示記号を加えることにより、ダブルホルンおよびトリプルホルンに対し、音符を演奏する支管を指示できます。単に親指 (thumb) の T を表記する場合もあれば、ピッチを明記することにより、どの支管を使用するかより明確に指示する場合があります。

補足

支管の指示記号を追加できるのは、F 調のホルンに属する音符だけです。

手順

1. 支管の指示記号を追加するホルンのフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)」グループで、「ホルンの支管 (Horn branch)」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのホルンの支管を選択します。
 - F
 - B フラット (B flat)
 - F アルト (F alto)
 - E フラットアルト (E flat alto)
 - サムトリガー (Thumb trigger)
-

結果

選択したフィンガリングに支管の指示記号が追加されます。

ヒント

支管の指示記号の外観は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「フィンガリング (Fingering)」ページにある「金管楽器 (Brass)」セクションで変更できます。

関連リンク

[フィンガリングの入力 \(216 ページ\)](#)

[浄書オプションでフィンガリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(801 ページ\)](#)

金管楽器のスライドポジションの外観の変更

トロンボーンなどのスライド式金管楽器においては、スライドポジションの表示にはアラビア数字かローマ数字のいずれかを使用できます。初期設定では、Dorico Pro はスライドポジションにアラビア数字を使用します。

補足

プロジェクトにおいてスライドポジションの表示にローマ数字を選択していたとしても、フィンガリングのポップオーバーにスライドポジションを入力する際は、アラビア数字を使用しなければなりません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストの「**フィンガリング (Fingering)**」をクリックします。
 3. 「**金管楽器 (Brass)**」セクションの「**スライド式金管楽器 (Slide brass instruments)**」サブセクションにある「**スライドポジションの外観 (Slide position appearance)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **アラビア数字 (Arabic numerals)**
 - **ローマ数字 (Roman numerals)**
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

スライド式金管楽器のスライドポジションに使用する数字のスタイルがプロジェクト全体で変更されます。

関連リンク

[フィンガリングの入力 \(216 ページ\)](#)

弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示の表示/非表示

弦楽器プレーヤーが指板の上で指のポジションをシフトさせて、前の音符から指を変えずに高い/低い音符を演奏しなければならない場合、斜めの線を使用してこの移動方向を指示できます。

手順

1. 弦楽器の譜表上で、フィンガリングシフトの開始を指示する音符またはフィンガリングを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」グループで、「**次の音符へのシフトを指示 (Indicate shift to next note)**」をオンまたはオフにします。
-

結果

シフト指示記号が、プロパティをオンにしたときは表示 (各端の音符にフィンガリングが明記されていない場合を含む)、プロパティをオフにしたときは非表示になります。シフト指示記号は選択した音符とその直後の音符の間に配置されます。

ヒント

シフト指示記号の長さ、太さ、角度および配置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**フィンガリング (Fingering)**」のページにある「**弦楽器におけるフィンガリングのシフト (String Fingering Shifts)**」のセクションで変更できます。

例



関連リンク

[個々の音符に弦を指定する \(916 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(825 ページ\)](#)

弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示記号の方向を変更する

個々の弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示記号が望む向きとは異なる場合、これを変更できます。

手順

1. 向きを変更するシフト指示記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**フィンガリングとポジション (Fingering and Positions)**」グループで、「**シフト方向 (Shift direction)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上 (Up)
 - 下 (Down)

結果

選択したシフト指示記号が上向きまたは下向きに変更されます。

補足

また、音符を演奏する弦を指定しても、弦楽器のシフト指示記号の方向に影響を与られません。

関連リンク

[個々の音符に弦を指定する \(916 ページ\)](#)

MusicXML ファイルから読み込まれたフィンガリング

Dorico Pro は、MusicXML ファイルのフィンガリング要素を使用して指定されたフィンガリングを読み込みます。

Finale から書き出された MusicXML ファイルであれば、フィンガリングは通常正しく表現されます。しかし Sibelius はフィンガリング要素を使用しないため、Sibelius によって書き出された MusicXML ファイルからは、Dorico Pro はフィンガリングを読み込めません。

弦の指示記号

弦の指示記号は、一般的にギター楽譜でどの弦で音符を弾くべきかを指示するために使用され、特に複数の弦で弾くことのできるピッチで役立ちます。

弦の指示記号は、丸の囲み線の中に弦の番号が表示され、弦の指示記号が音符の範囲に適用されることを示す破線を表示することもできます。通常、開放弦のピッチは囲み線なしの0として表示されます。

Dorico Proでは、押さえて弾く音の弦の指示記号がプレーンフォントで表示され、開放弦の指示記号にはフィンガリング用フォントを使用してフィンガリング0として表示されます。弦の指示記号の外観を編集する場合は、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログで行ないます。



弦の指示記号と左手のフィンガリングが表示されたフレーズ

Dorico Proには2種類の弦の指示記号があり、それぞれ異なる方法で入力できます。

譜表の外側の弦の指示記号

譜表の外側の弦の指示記号は、常に丸の囲み線の中に表示されます。弦の指示記号にデュレーションがある場合は、その弦で複数の音符を演奏することを示す破線のデュレーション線が自動的に表示されます。

Dorico Proでは、譜表の外側の弦の指示記号は演奏技法と見なされます。これらの指示記号は、その指示記号が適用されている音符とは関係なく選択したり削除したりできます。また、譜表の外側の弦の指示記号のデュレーション線のスタイルは、演奏技法の延長線と同じ方法で変更できます。



デュレーション線が付いた譜表の外側の弦の指示記号

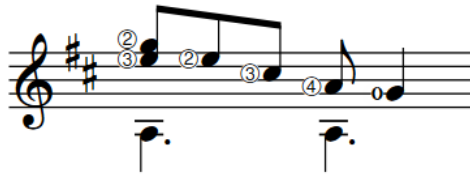
譜表の内側の弦の指示記号

譜表の内側の弦の指示記号は、開放弦を表示する場合を除き、丸の囲み線の中に表示されます。開放弦は、囲み線なしで太字の数字0として表示されます。譜表線と重ならないよう、これらの指示記号の背景は自動的に塗りつぶされます。初期設定では、これらの指示記号は符頭の左側に表示されますが、左手のフィンガリングがある場合は自動的に右側に表示されます。

譜表の内側の弦の指示記号に表示される弦の番号は自動的に計算されますが、弦を手動で指定することもできます。

押さえて弾く音の譜表の内側の弦の指示記号は、弦の外側の弦の指示記号を小さくしたものです。そのため、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログで弦の指示記号の外観を変更すると、押さえて弾く音の譜表の内側にある弦の指示記号の外観にも影響します。

Dorico Pro では、譜表の内側の弦の指示記号は各音符のプロパティと見なされます。浄書モードでは、各音符とは関係なくそれらの指示記号だけを選択できます。



譜表の内側の弦の指示記号 (最後の指示記号は開放弦)

関連リンク

[フレット楽器のフィンガリング \(812 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

[演奏技法 \(1021 ページ\)](#)

[演奏技法のデュレーション \(1030 ページ\)](#)

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(1035 ページ\)](#)

[フィンガリングのフォントスタイル \(809 ページ\)](#)

[弦の指示記号の長さを変更する \(827 ページ\)](#)

[個々の音符に弦を指定する \(916 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線のスタイルを変更する \(1032 ページ\)](#)

[弦の指示記号を削除する \(829 ページ\)](#)

浄書オプションで弦の指示記号の設定をプロジェクト全体に適用する

弦の指示記号の外観と位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**弦の指示記号 (String Indicators)**」ページで変更できます。

「**弦の指示記号 (String Indicators)**」ページのオプションを使用すると、開放弦の指示記号の外観、譜表内の弦の指示記号のサイズ、左手のフィンガリングがある場合に符頭に対する位置を変更するかどうか、弦の指示記号同士や他のアイテムに対する弦の指示記号の正確な位置などを変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

開放弦の指示記号の外観を変更する

すべての開放弦の指示記号の外観をプロジェクト全体で変更できます。初期設定では、譜表の内側の開放弦の指示記号は、左手のフィンガリングと同じように、丸の囲み線のない太字の数字 0 として表示されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**弦の指示記号 (String Indicators)**」をクリックします。
3. 「**デザイン (Design)**」セクションの「**開放弦の外観 (Open string appearance)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **ゼロフィンガリング (Zero fingering)**
 - **指示記号が弦番号 (String number as indicator)**
 - **指示記号がゼロ (Zero as indicator)**

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

譜表の内側のすべての開放弦の指示記号の外観がプロジェクト全体で変更されます。開放弦の指示記号を「ゼロフィンガリング (Zero fingering)」として表示する場合、開放弦の指示記号にはそのプロジェクトのフィンガリングのフォントスタイルセットが使用されます。これは、譜表の外側の弦の指示記号の外観には影響しません。

ヒント

すべての弦の指示記号の外観を編集する場合は、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログで行いません。

関連リンク

[譜表の内側に弦の指示記号を入力する \(292 ページ\)](#)

[フィンガリングに使用するフォントをプロジェクト全体で変更する \(809 ページ\)](#)

弦の指示記号のサイズを変更する

譜表の内側のすべての弦の指示記号のサイズをプロジェクト全体で変更できます。たとえば、譜表の外側の弦の指示記号に近いサイズで表示したい場合などに使用します。また、装飾音符の弦の指示記号を小さく表示するかどうかでも変更できます。

初期設定では、譜表の内側の弦の指示記号は、音符のスペーシングや全体的な可読性への影響を減らすために小さく表示され、装飾音符に表示される場合にはさらに縮小されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
 2. ページリストの「弦の指示記号 (String Indicators)」をクリックします。
 3. 「デザイン (Design)」セクションで、「譜表の内側にある弦の指示記号の表示倍率 (Scale factor for string indicators inside the staff)」の値を変更します。
 4. 「装飾音符の弦の指示記号の倍率を変更する (Scale string indicators on grace notes)」をオン/オフにします。
 5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

譜表の内側の弦の指示記号のサイズがプロジェクト全体で変更されます。「装飾音符の弦の指示記号の倍率を変更する (Scale string indicators on grace notes)」をオンにすると装飾音符の弦の指示記号が小さく表示され、オフにすると常に同じサイズで表示されます。

弦の指示記号の長さを変更する

譜表の外側の弦の指示記号は入力後にデュレーションの長さを変更できます。単一の音符に追加された譜表の外側の弦の指示記号を延長すると、その指示記号にデュレーションが与えられ、デュレーション線が表示されます (初期設定では破線)。

手順

1. 記譜モードで、長さを変更する譜表の外側の弦の指示記号を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できる弦の指示記号は1つだけです。キーボードを使用すると複数の弦の指示記号の長さを変更できますが、すべての指示記号にすでにデュレーションがある必要があります。

- 以下のいずれかの操作を行なって、弦の指示記号のデュレーションを変更します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 1つの弦の指示記号の終端を次の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 1つの弦の指示記号の終端を前の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

- 複数の弦の指示記号が選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔でしか弦の指示記号の長さを変更できません。
 - キーボードを使用しているときは、弦の指示記号の終端しか動かさせません。デュレーションを持つ弦の指示記号の始端は、弦の指示記号全体を移動させるか、開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。
- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。

結果

弦の指示記号1つの長さが、現在のリズムグリッドの間隔または前後の符頭の位置のいずれか近い方に従い変更されます。その指示記号にデュレーションがなかった場合はデュレーションが追加され、デュレーション線が表示されます。

複数の弦の指示記号の長さが、現在のリズムグリッドの間隔に従い変更されます。

ヒント

浄書モードでは、弦の指示記号の表示上の位置や長さを変更できます。

例



デュレーションのない弦の指示記号 (選択時)



デュレーションとデュレーション線が表示された弦の指示記号 (選択時)

関連リンク

[弦の指示記号の表示位置を移動する \(830 ページ\)](#)

[演奏技法のデュレーション \(1030 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線 \(1029 ページ\)](#)

[演奏技法のデュレーション線を表示/非表示にする \(1031 ページ\)](#)

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(1035 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

弦の指示記号を削除する

譜表の内側の弦の指示記号は入力後に音符から削除できます。ただし、譜表の内側の弦の指示記号は単独のアイテムではなく、音符のプロパティであるため、他のアイテムのようにそれ自体を選択して削除することはできません。

補足

これらの手順は、譜表の内側の弦の指示記号にのみ適用されます。譜表の外側の弦の指示記号は、他のアイテムと同じ方法で削除できます。

手順

1. 譜表の内側の弦の指示記号を削除する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**弦の指示記号 (String Indicators)**」グループで、「**表示 (Show)**」をオフにします。
-

結果

譜表の内側の弦の指示記号が選択した音符から削除されます。

関連リンク

- [大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)
- [音符とアイテムの削除 \(339 ページ\)](#)
- [譜表の内側に弦の指示記号を入力する \(292 ページ\)](#)

弦の指示記号の位置

初期設定では、譜表の外側の弦の指示記号は譜表の上に配置されます。複声部においては、符尾が上向きの声部の弦の指示記号は譜表の上に、符尾が下向きの声部の弦の指示記号は譜表の下に配置されます。

譜表線と重ならないよう、譜表の内側の弦の指示記号の背景は自動的に削除されます。初期設定では、これらの指示記号は符頭の左側に表示されますが、左手のフィンガリングがある場合は自動的に右側に表示されます。符頭に対する弦の指示記号の位置は個別に変更できます。

譜表の外側の弦の指示記号の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。また、譜表の外側の弦の指示記号の符頭に対する位置は、演奏技法と同じ方法で個別に変更できます。

弦の指示記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**弦の指示記号 (String Indicators)**」ページでは、すべての弦の指示記号のデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更できます。

関連リンク

- [譜表に対するアイテムの位置の変更 \(332 ページ\)](#)

弦の指示記号の位置を移動する

譜表の外側の弦の指示記号は入力後に別の位置へ移動できます。

手順

1. 記譜モードで、移動する譜表の外側の弦の指示記号を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に位置を移動できる弦の指示記号は1つだけです。

- 以下のいずれかの操作を行なって、弦の指示記号を移動します。
 - 1つの弦の指示記号を同じ譜表の次の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 1つの弦の指示記号を同じ譜表の前の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔に従って右に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔に従って左に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

複数の弦の指示記号が選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔でしか弦の指示記号を移動できません。

- 弦の指示記号をクリックして左右の任意の符頭の位置までドラッグします。

結果

選択した弦の指示記号が新しい位置に移動します。

補足

譜表の上にある1つの弦の指示記号が移動する際に、譜表の上にある他の弦の指示記号の上を通過した場合、弦の指示記号は複数と同じ位置に存在できるため、そこにあった弦の指示記号に影響はありません。ただし、複数の弦の指示記号を一緒に移動した場合、それらが通過した既存の弦の指示記号はそれに応じて短縮されるか削除されます。

この動作内容は元に戻せますが、この過程で短縮または削除された弦の指示記号が復元されるのは、弦の指示記号の移動にキーボードを使用していた場合のみです。

関連リンク

[弦の指示記号の長さを変更する \(827 ページ\)](#)

弦の指示記号の表示位置を移動する

弦の指示記号の表示位置は、適用されるリズム上の位置や音符を変更することなく移動できます。また、弦の指示記号のデュレーション線の開始/終了ハンドルを個別に移動することもできます。これは、弦の指示記号の表示上の長さを変更できることを意味します。

手順

- 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。
 - 弦の指示記号
 - 弦の指示記号のデュレーション線の個々のハンドル

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

- 以下のいずれかの操作を行なって、弦の指示記号またはハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択した弦の指示記号またはハンドルが新しい表示位置に移動します。デュレーション線の付いた弦の指示記号を動かすと、両方が同時に移動します。弦の指示記号のデュレーション線に付いているハンドルを動かすと、弦の指示記号とは関係なくデュレーション線が移動します。

ヒント

譜表の内側の弦の指示記号を移動すると、プロパティパネルの「**弦の指示記号 (String Indicators)**」グループにある「**オフセット (Offset)**」が自動的にオンになります。

- 「**オフセット X (Offset X)**」は譜表の内側の弦の指示記号を水平に移動させます。
- 「**オフセット Y (Offset Y)**」は譜表の内側の弦の指示記号を垂直に移動させます。

アイテムを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**オフセット (Offset)**」は弦の指示記号を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**開始オフセット (Start offset)**」は、弦の指示記号のデュレーション線の開始ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット (End offset)**」は、弦の指示記号のデュレーション線の終了ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、弦の指示記号とデュレーション線を移動することもできます。

プロパティをオフにすると、選択した弦の指示記号が初期設定の位置にリセットされます。

関連リンク

[弦の指示記号の長さを変更する \(827 ページ\)](#)

符頭に対する弦の指示記号の位置を変更する

初期設定では、譜表の内側の弦の指示記号は、左手のフィンガリングがない場合には符頭の左側に表示され、左手のフィンガリングがある場合には符頭の右側に表示されます。譜表の内側の弦の指示記号の符頭に対する位置を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

手順

1. 符頭に対する位置を変更する譜表の内側の弦の指示記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**弦の指示記号 (String Indicators)**」グループで、「**符頭に対する位置 (Notehead-relative pos.)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **左 (Left)**

- 右 (Right)

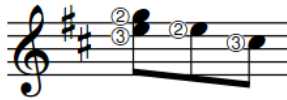
結果

選択した弦の指示記号の符頭に対する位置が変更されます。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「弦の指示記号 (String Indicators)」ページでは、譜表の内側のすべての弦の指示記号の符頭に対するデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更できます。使用できるオプションとして、左手のフィンガリングがある場合に符頭に対する位置を自動的に変更するものなどがあります。

例



符頭の左側に表示された弦の指示記号



符頭の右側に表示された弦の指示記号

関連リンク

[浄書オプションで弦の指示記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(826 ページ\)](#)

前付け

Dorico Pro において前付けとは、スコアの 1 小節めより前に含まれるすべての情報を幅広く指します。

前付けには、スコアの 1 ページめより前のページに加えられることが多い、音楽に関する以下のような情報が含まれます。

- 演奏上の指示
- 目次
- 楽器編成リスト

前付けには、スコアやパートの 1 ページめで楽譜の上に表示される、以下のような情報も含まれます。

- 献呈
- タイトル
- サブタイトル
- 作曲者

プロジェクト中では、楽譜から独立した情報はすべてフレーム内に追加する必要があります。フレームは浄書モードで追加および編集できます。これはレイアウト内の個々のページまたはマスターページで行なえます。マスターページとは、同じマスターページのセットを使用するすべてのレイアウトの複数のページに同じ形式設定を適用できるものです。たとえば最終ページに含まれる組段が共通して少ないことを理由に、すべてのパートレイアウトの最終ページの楽譜フレームを小さくするような場合、マスターページが役に立ちます。

関連リンク

[マスターページ \(364 ページ\)](#)

[マスターページのセット \(365 ページ\)](#)

[マスターページのタイプ \(368 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

[フレーム \(390 ページ\)](#)

デフォルトのマスターページに使用されるプロジェクト情報

プロジェクト内の異なるレイアウトにおけるすべてのテキスト情報を一致させる効率的な方法は、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログに入力した現在のプロジェクト用の情報にリンクしたトークンを使用することです。

トークンとは、異なる場所にあるテキストを参照するコードのことで、これは元のテキストが変更されると自動的に更新されます。

Dorico Pro のデフォルトのマスターページにはトークンが使用され、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログで追加したプロジェクトに関する情報が、自動的に表示されるようになっています。たとえば「**デフォルトのフルスコア (Default Full Score)**」のマスターページのセットには、以下の情報に関するトークンが使用されています。

- 作曲者
- 作詞者
- タイトル

補足

これらのトークンは、初期設定ではプロジェクトを参照します。「**プロジェクト情報 (Project Info)**」のダイアログでフローのための情報しか入力していない場合、それらの情報は自動的に表示されません。必要に応じて、特定のフローを参照するように、デフォルトのマスターページのトークンを変更することもできます。

関連リンク

[「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(104 ページ\)](#)
[フロー名とフロータイトル \(148 ページ\)](#)
[テキストトークン \(401 ページ\)](#)
[マスターページのカスタマイズ \(375 ページ\)](#)

マスターページへの献呈の追加

献呈をマスターページに加えることにより、それを複数のレイアウトに表示できます。献呈は通常スコアのタイトルの上に、タイトルより小さなフォントサイズで、斜体で表示されます。

前提条件

- 「**プロジェクト情報 (Project Info)**」のダイアログのいずれかの「**献呈 (Dedication)**」のフィールドに、献呈を入力しておきます。プロジェクト全体と個々のフローには、それぞれ異なる献呈を入力できます。
- 献呈に新しいパラグラフスタイルを使用する場合は、新しいパラグラフスタイルを作成しておきます。

手順

1. 浄書モードで、献呈を追加するマスターページが含まれるマスターページのセットを使用するレイアウトを楽譜領域に開きます。

補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、献呈を追加するマスターページのペアをダブルクリックして、マスターページエディターを開きます。
 3. タイトルのテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。
 4. カーソルをタイトルのトークンの開始位置に配置します。
 5. **[Return]** を押して、タイトルのトークンの上に新規行を入力します。
 6. タイトルのトークンの上の新規行に、以下のいずれかのトークンを入力します。
 - **{@flowDedication@}** は、フロー用の献呈を表示します。
 - **{@projectDedication@}** は、プロジェクト全体用の献呈を表示します。
 7. 必要に応じて、テキストエディターのオプションを使用して献呈のテキストの外観を変更します。
 8. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command] + [Return]** を押してテキストエディターを閉じます。
-

結果

「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログの対応するフィールドに献呈が入力されている場合、選択したマスターページの形式を使用するすべてのページのタイトルの上に献呈が表示されます。

関連リンク

- [「プロジェクト情報 \(Project Info\)」ダイアログ \(104 ページ\)](#)
- [パラグラフスタイルの作成 \(416 ページ\)](#)
- [浄書モードのテキストエディターオプション \(420 ページ\)](#)

プレイヤーリストを追加する

プレイヤーリストのテキストのトークンは、どのレイアウトまたはマスターページにも追加できます。これはレイアウトに属するすべてのプレイヤーを、各プレイヤーに割り振られたすべてのインストゥルメントを含めて自動的に表示します。

前提条件

- プレイヤーリストをマスターページに追加する場合は、マスターページエディターでマスターページを開いておきます。
- プレイヤーリストを新しいテキストフレームに追加する場合は、プレイヤーリストを表示する位置にテキストフレームを入力しておきます。

手順

- プレイヤーリストを追加するテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。
- `{@playerlist@}` と入力します。
- [Esc]** または **[Ctrl]/[command] + [Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

結果

プレイヤーリストのテキストのトークンが追加されます。レイアウトにおいては、これにすべてのプレイヤーのリストが代入されます。これをマスターページに追加すると、テキストフレームとテキストのトークンが、マスターページを使用するすべてのレイアウトのすべてのページに自動的に追加されます。

補足

マスターページを変更しても、上書きのあるページは更新されません。

例

`{@playerlist@}`

テキストフレーム内のプレイヤーリストのトークン

Oboe & Oboe d'Amore
Piano

レイアウトにおいてプレイヤーが代入されたプレイヤーリストのトークン

関連リンク

- [フレームの入力 \(390 ページ\)](#)
- [ページの形式変更 \(376 ページ\)](#)
- [マスターページエディター \(374 ページ\)](#)

マスターページの欄外見出しを編集する

「デフォルトのパート譜 (Default Part)」のマスターページには、欄外見出しとして各フロー 1 ページめの左上、および 2 ページめ以降の上部に中央揃えでパート名を表示します。欄外見出しに表示するテキストに、たとえばフローのタイトルも含めたい場合は、そのようにテキストを変更できます。

手順

1. 浄書モードで、欄外見出しを編集するマスターページが含まれるマスターページのセットを使用するレイアウトを楽譜領域に開きます。

補足

楽譜領域にいずれかのレイアウトが開いているときに、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」メニューでマスターページのセットを選択することもできますが、その場合、そのレイアウトに適用されるマスターページのセットが変更されます。

2. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、欄外見出しのテキストを変更するマスターページのペアをダブルクリックして、マスターページエディターを開きます。
3. ヘッダーのテキストフレームをダブルクリックして、テキストエディターを開きます。
4. ヘッダーテキストを変更または削除します。
たとえば、ヘッダーテキストにパート名とフローのタイトルの両方をダッシュで区切って表示させる場合は、テキストフレームのパート名のトークンの後に `-{@flowTitle@}` と入力します。
5. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command] + [Return]** を押してテキストエディターを閉じます。

結果

選択したマスターページの形式を使用するすべてのレイアウトの欄外見出しテキストが変更されます。

例

`{@layoutName@} - {@flowTitle@}`

テキストフレームに追加されたトークンのテキスト

Violin I - Allegro con moto

パートレイアウトに表示されるトークンのテキスト

関連リンク

[マスターページエディター \(374 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの垂直方向の配置の変更 \(408 ページ\)](#)

[テキストフレーム内のテキストの水平方向の配置の変更 \(408 ページ\)](#)

[テキストのパラグラフスタイルの変更 \(422 ページ\)](#)

装飾音符

装飾音符とは、固定したデュレーションを持たず、素早く演奏することを意図された音符です。装飾音符は標準の音符の縮小版であり、通常は符尾にスラッシュを伴って表示されます。

符尾にスラッシュが付いた装飾音符は、アチャカトゥーラまたは短前打音と呼ばれ、多くの場合は非常に速く演奏されます。符尾にスラッシュの付かない装飾音符は、アポジャトゥーラまたは長前打音と呼ばれ、多くの場合は短前打音よりゆっくり演奏されます。

バロック音楽においては、アポジャトゥーラは多くの場合、現在の拍子と適用される符頭の音価に基づく特定のデュレーションの間持続させるものと解されます。

装飾音符は、それが適用される符頭(すぐ右にある符頭)の直前の時間に収めるよう意図されているため、リズム上の時間を占めることはありません。

符頭の前には複数の装飾音符が付く場合もあります。同じ符頭に2つ以上の装飾音符が付いており、8分音符や16分音符のような符尾が付く音価の場合、自動的に連符で連結されます。



音符の前の複数の装飾音符

Dorico Pro では、装飾音符は初期設定では標準の符頭の 3/5 のサイズに縮小されますが、これは音符のスペーシングの設定に影響されます。装飾音符のスペーシングについては、専用に個別のオプションが用意されています。

装飾音符には、標準の音符と同じ手順でスラーやアーティキュレーションなどの記譜記号を追加でき、入力後に移調もできます。

関連リンク

[装飾音符の入力 \(197 ページ\)](#)

[装飾音符のスラッシュ \(840 ページ\)](#)

[装飾音符に対するスラーの位置 \(1134 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

[個々の音符のピッチの変更 \(203 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの入力 \(214 ページ\)](#)

[スラーの入力 \(216 ページ\)](#)

装飾音符の一般的な配置規則

装飾音符の振る舞いは多くの点で標準の音符と同様ですが、符尾の方向、符頭に対する位置、および符尾のスラッシュの位置について、特有の配置規則があります。

装飾音符は初期設定では符尾が上向きで表示されますが、1つの譜表の複数の声部それぞれに装飾音符がある場合は例外であり、この場合は下向きの声部の装飾音符の符尾が下向きになります。これにより、装飾音符に対するスラーの位置が影響されます。

装飾音符は、それが拍の手前ではなく拍と同時に演奏されることを意図している場合であっても、常に符頭の前に配置されます。通常は適用される符頭の直前になるように、小節線より後に配置されま

す。しかし、装飾音符が3つ以上のグループの場合は、小節の1拍めの音符が小節線から離れすぎないように、小節線より前に配置されることもあります。

装飾音符の符尾のスラッシュは、複数の装飾音符が同じ位置で1つの連桁に括られる場合は、連桁の開始位置に表示されます。装飾音符が1つの場合は、スラッシュは符尾および符鉤をまたぐ形で表示されます。



臨時記号が追加されると、標準の音符と同様、臨時記号が読みやすいように音符のスペーシングが再調整されます。

装飾音符にアーティキュレーションが付く場合は、最も読みやすい場所、ほとんどの場合は譜表の外側に追加されます。Dorico Pro は自動的にアーティキュレーションを装飾音符の符尾側に、そして符尾または連桁が譜表の内側にある場合は譜表の外側に配置します。

装飾音符に対するスラー

初期設定では、装飾音符からはじまってタイのつながりの音符で終わるスラーは、タイのつながりの最初の音符に終端が付きます。タイのつながりに対するスラーの位置は個別に変更できますが、装飾音符からはじまるスラーも同様です。

すべての装飾音符に対するスラーのデフォルト位置は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページにある「**装飾音符 (Grace Notes)**」セクションで変更できます。このセクションでは、複声部における装飾音符に対するスラーの位置設定も行なえます。

同じページの「**タイでつながれた音符 (Tied notes)**」セクションでは、スラーが装飾音符から始まる場合の、タイのつながりに対するスラーのデフォルトの位置を変更できます。

関連リンク

[小節線に対する装飾音符の位置の変更 \(839 ページ\)](#)

[装飾音符に対するスラーの位置 \(1134 ページ\)](#)

[タイのつながりに対するスラーの位置 \(1133 ページ\)](#)

[タイのつながりに対するスラーの位置を変更する \(1134 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

複声部における装飾音符の配置

記譜の一般的な表記規則に従い、装飾音符は譜表に声部が1つのときは、適用される符頭の符尾が下向きであっても、初期設定では符尾は上向きで表示されます。

しかし、譜表に複数の声部がある場合、上向きの声部に属する音符はすべて上向きに、そして下向きの声部はすべて下向きに表示され、これに装飾音符も従います。Dorico Pro ではこの調整は自動的に行なわれますが、複声部における装飾音符の符尾の方向は、必要に応じて個別に上書きもできます。



関連リンク

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(1215 ページ\)](#)

[装飾音符に対するスラーの位置 \(1134 ページ\)](#)

小節線に対する装飾音符の位置の変更

初期設定では、適用される符頭が小節の最初の音符である場合を含めて、装飾音符は符頭の直前かつ小節線より後に配置されます。個々の装飾音符については小節線より前に配置できます。これによりたとえば、小節の最初の標準の音符が小節線から離れすぎないようにしたり、装飾音符が拍より前に演奏されることを表わしたりできます。

手順

1. 小節線に対する位置を変更する装飾音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「装飾音符 (Grace Notes)」グループで、「小節線前の装飾音符 (Grace note before barline)」をオンまたはオフにします。

結果

選択した装飾音符が、プロパティをオンにしたときは小節線の前に、プロパティをオフにしたときは小節線の後に配置されます。

装飾音符の位置をプロジェクト全体で変更する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページにある「装飾音符 (Grace Notes)」セクションでは、装飾音符とそれが適用される符頭とのデフォルトの距離を変更できます。

一番右にある装飾音符の右側の最小距離の値を増やすと、装飾音符はその適用される符頭から遠ざかり、値を減らすと近づきます。



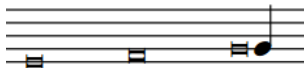
デフォルトの最小値 (右側の符頭に対し 1/2 スペース) に設定された装飾音符



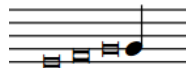
より大きい値 (右側の符頭に対し 1.5 スペース) に設定された装飾音符

また装飾音符の位置は、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「音符のスペーシング (Note Spacing)」ページで装飾音符のスペーシングの倍率を変更することにより、レイアウトごとに個別に調整できます。

装飾音符のスペーシングの倍率を下げると、同じ位置にある複数の装飾音符の間隔が狭くなります。



音符のスペーシングの倍率がデフォルトの 70% に設定された、3つの長いデュレーションの装飾音符



音符のスペーシングの倍率を 20% に下げた場合の、3つの長いデュレーションの装飾音符

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

装飾音符のサイズ

装飾音符は標準の音符を小さくしたもので、デフォルトの設定では標準の音符に対し 3/5 の比率で縮小されます。

装飾音符のデフォルトのサイズをプロジェクト全体で制御するための比率の入力欄は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**装飾音符 (Grace Notes)**」セクションにあります。

また装飾音符のサイズは、標準の音符と同じ手順で個別に変更できます。

関連リンク

[音符のサイズの変更 \(912 ページ\)](#)

装飾音符のスラッシュ

装飾音符の符尾を斜めに横切るスラッシュは、多くの場合は装飾音符の異なるタイプを区別するために使用されます。符尾にスラッシュが付いた装飾音符は、アチャカトゥーラまたは短前打音と呼ばれ、多くの場合は非常に速く演奏されます。符尾にスラッシュの付かない装飾音符は、アポジャトゥーラまたは長前打音と呼ばれ、多くの場合は短前打音よりゆっくり演奏されます。

Dorico Pro では、装飾音符は初期設定では符尾にスラッシュを付けて表示されます。装飾音符にスラッシュを付けるか付けないかの変更は、音符の入力中にも、入力後に装飾音符のタイプを変更することでも行なえます。

装飾音符の符尾のスラッシュの各部分の詳細な寸法は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**装飾音符 (Grace Notes)**」のセクションで設定できます。

このセクションでは、以下の設定を変更できます。

- 装飾音符の符尾のスラッシュの太さ
- 装飾音符の符尾のスラッシュのデフォルトの長さ
- 符尾の先端に対する装飾音符の符尾のスラッシュの位置

装飾音符のタイプを個別に変更する

装飾音符は、入力後にタイプを個別に変更できます。装飾音符はスラッシュ付きの符尾がデフォルトですが、これをスラッシュなしの符尾に変更できます。

手順

1. タイプを変更する装飾音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**装飾音符 (Grace Notes)**」グループで、「**装飾音符のタイプ (Grace note type)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。

- **スラッシュ付きの符尾**



- **スラッシュなしの符尾**



結果

選択した装飾音符がスラッシュ付きまたはスラッシュなしの符尾で表示されます。

ヒント

装飾音符のタイプは、音符入力の途中でも変更できます。

関連リンク

[装飾音符の入力](#) (197 ページ)

装飾音符の符尾のスラッシュの位置を変更する

装飾音符のスラッシュの垂直位置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できません。

手順

1. 浄書モードで、スラッシュの位置を変更する装飾音符を選択します。
2. プロパティパネルの「装飾音符 (Grace Notes)」のグループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
 - 符尾の先端からスラッシュを挿入 (Slash inset from stem tip)
 - スラッシュの右側へのオフセット (Slash offset to right)
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

「符尾の先端からスラッシュを挿入 (Slash inset from stem tip)」は、値を大きくすると装飾音符のスラッシュの符尾の先端からの距離が遠くなり、符頭までの距離が近くなります。値を小さくすると符尾の先端までの距離が近くなり、符頭からの距離が遠くなります。

「スラッシュの右側へのオフセット (Slash offset to right)」は、値を大きくすると装飾音符のスラッシュが右に移動し、値を小さくすると左に移動します。

ヒント

装飾音符の符尾のスラッシュのデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページにある「装飾音符 (Grace Notes)」セクションで設定を行ないます。

装飾音符の符尾のスラッシュの長さを個別に変更する

装飾音符の符尾に付くスラッシュの長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、スラッシュの長さを変更する装飾音符を選択します。
2. プロパティパネルの「装飾音符 (Grace Notes)」のグループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
 - スラッシュの長さ (Slash length)
 - 「スラッシュの連桁からの突出 (Slash protrusion from beam)」 (連桁された装飾音符でのみ有効)

補足

「スラッシュの長さ (Slash length)」をオンにすると、装飾音符のスラッシュが消えたように見えます。これはプロパティをオンにすることで値が 0 にリセットされたからです。

3. 対応する数値フィールドの値を変更して、選択したスラッシュの長さや突出を変更します。

結果

「**スラッシュの長さ (Slash length)**」は、単体の装飾音符と連桁された装飾音符のいずれにおいても、値を大きくするとスラッシュが長く、値を小さくすると短くなります。

「**スラッシュの連桁からの突出 (Slash protrusion from beam)**」は、値を大きくするとスラッシュが装飾音符の連桁の上に伸びる距離が長くなり、値を小さくすると距離が短くなります。

ヒント

装飾音符の符尾のスラッシュのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**装飾音符 (Grace Notes)**」セクションで設定を行ないます。

装飾音符の符尾

装飾音符は音符を縮小したものであるため、装飾音符の符尾の長さは、すべての音符の符尾の長さに対するプロジェクト全体の設定によって決定されます。

符尾のデフォルトの長さをプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**符尾 (Stems)**」セクションで設定を行ないます。

一般的な表記規則に従い、Dorico Pro は初期設定ではどの音部においても装飾音符の符尾を上向きで表示します。これは装飾音符が適用される音符の符尾の方向には左右されません。譜表に複数の声部が存在する場合、装飾音符の符尾の方向は自動的に変更されますが、個々の装飾音符の符尾の方向は手動で変更できます。また装飾音符の符尾の長さは、通常の符尾と同じ手順で変更できます。

関連リンク

[符尾 \(1212 ページ\)](#)

[装飾音符のスラッシュ \(840 ページ\)](#)

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(1215 ページ\)](#)

[符尾の長さを個別に変更する \(1217 ページ\)](#)

[符尾の非表示 \(1218 ページ\)](#)

装飾音符の連桁

Dorico Pro は隣接する複数の装飾音符が 8 部音符かそれ以下のデュレーションである場合、自動的に連桁で連結します。

他のすべての連桁と同様に、装飾音符の連桁は譜表線に対する連桁の配置の一般的な表記規則になるべく従い、くさび形の形成を避けようとしています。しかし、装飾音符は標準の音符より小さいため、これにより装飾音符の連桁が極端に傾斜してしまう場合があります。

個々の装飾音符の連桁の傾斜は、通常の連桁と同じ手順で調整できます。また、すべての装飾音符の連桁の傾斜をどのように配置するかプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連桁 (Beams)**」ページにある「**垂直位置 (Vertical Position)**」セクションで変更できます。

2 音の連桁された装飾音符のグループにおける連桁の傾斜

音程差の広い隣り合う 2 つの装飾音符が同じ位置で連桁に括られる場合、連桁の角度が非常に急になる場合があります。

このような場合、連桁の傾斜をそのまま変えないか、それとも緩やかな傾斜を使用するか、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連桁 (Beams)**」ページにある「**傾斜 (Slants)**」セクションの「**装飾音符 (Grace Notes)**」サブセクションで選択できます。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[連桁 \(675 ページ\)](#)

[連桁グループ \(675 ページ\)](#)

延長記号と休止記号

音楽の一定したリズムの流れが、一時的な静止または一瞬の無音によって中断された後にまた再開する場合、これを示すさまざまな記譜記号が使用されます。最も微妙な効果を生むものとしてはテヌート記号があり、より顕著な効果は延長記号と休止記号によって表されます。

楽譜中の延長記号や休止記号によって意図される中断のデュレーションは、指定が必須のものではありません。通常、延長記号と休止記号のスタイルの違いによって中断の長短が示されますが、解釈の余地は大幅に残されます。

補足

延長記号と休止記号は今のところ再生時の効果を持ちませんが、将来のバージョンでは効果が与えられることが予定されています。

関連リンク

[延長記号と休止記号の入力方法 \(263 ページ\)](#)

延長記号と休止記号のタイプ

Dorico Pro には3つのタイプの延長記号と休止記号があり、それぞれ同じ手順で入力、移動および削除を行なえます。

フェルマータ

フェルマータは、音符がその記譜上の長さより長く伸ばされることを示し、アンサンブル全体に適用されます。

これらは「休止記号」とも呼ばれます。

ブレス記号

ブレス記号はプレーヤーがブレスを取るのに適切な位置、または同様の効果を与えるための演奏方法を示します。

中間休止記号

中間休止記号は、音符をその音価全体まで伸ばしたあと、次に進む前に音の小休止を挟むことを示します。

フェルマータのタイプ

Dorico Pro ではさまざまなタイプのフェルマータが使用できます。フェルマータはそれぞれ休止のデュレーションをおおよそ示しますが、そこには解釈の余地が残されています。

フェルマータ

説明

非常に短いフェルマータ

音符が示すリズムよりほんのわずかにだけ長く伸ばされることを示します。



短いフェルマータ

音符が示すリズムより少しだけ長く伸ばされることを示します。



フェルマータ

説明

短いフェルマータ (Henze)



Hans Werner Henze によって使用され、音符が示すリズムより少しだけ長く伸ばされることを示します。

フェルマータ



音符が示すリズムより長く伸ばされることを示します。

長いフェルマータ



音符が示すリズムよりだいぶ長く伸ばされることを示します。

長いフェルマータ (Henze)



Hans Werner Henze によって使用され、音符が示すリズムよりだいぶ長く伸ばされることを示します。

非常に長いフェルマータ



音符が示すリズムよりずっと長く伸ばされることを示します。

カーリユー (Britten)



Benjamin Britten によって使用され、非同期の音楽において音符または休符を次の同期ポイントまで伸ばすことを示します。

フェルマータは2つのスタイルに分けられます。それぞれの意味は重複するため、1つのプロジェクトの中で両方のスタイルを使用することは、プレイヤーを混乱させるおそれがあります。

スタイル (Style)	非常に短いフェルマータ	短いフェルマータ	フェルマータ	長いフェルマータ	非常に長いフェルマータ
標準 (Normal)					
Henze	なし				なし

関連リンク

[延長記号と休止記号のポップオーバー \(263 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(332 ページ\)](#)

ブレス記号のタイプ

Dorico Pro ではさまざまなタイプのブレス記号が使用できます。ブレス記号は、プレイヤーがブレスを取るのに適切な位置や、ブレスのような効果を音に与えることを指示します。

コンマ



チェックマーク



上げ弓



Salzedo



中間休止記号のタイプ

Dorico Pro ではさまざまなタイプの中間休止記号が使用できます。すべての中間休止記号は音の中断を指示しますが、楽譜のスタイルに応じて異なるタイプの中間休止記号が必要な場合があります。

中間休止記号
(Caesura)



2本の斜めのスラッシュ

太い中間休止記号
(Thick caesura)



2本の太い斜めのスラッシュ

短い中間休止記号
(Short caesura)



2本のまっすぐな垂直のスラッシュ

婉曲した中間休止記号
(Curved caesura)



2本の婉曲した斜めのスラッシュ

それぞれの中間休止記号で延長や休止の明確な長さを伝えたい場合、レジェンドの追加を検討することをおすすめします。これらの記号は、プレーヤーによって解釈が異なる場合があるからです。

関連リンク

[既存のアイテムの変更](#) (332 ページ)

浄書オプションで延長記号と休止記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」ページでは、延長記号と休止記号の位置を設定してプロジェクト全体に適用できます。

「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」ページのオプションを使用すると、複声部におけるフェルマータの配置を含める、延長記号と休止記号のデフォルト位置および配置を変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ](#) (362 ページ)

[延長記号と休止記号の位置](#) (846 ページ)

延長記号と休止記号の位置

延長記号と休止記号は、単一の声部では初期設定で譜表の上に配置され、すべての譜表のリズム上なるべく近い位置に表示されます。たとえば、ある譜表の小節の最後の拍にフェルマータが付く場合、これは他の空白の譜表の小節休符の上に表示されます。複声部の譜表については、フェルマータは譜表の下にも逆向きに表示されます。

延長記号と休止記号の異なる位置への移動は、記譜モードで行ないます。これらは「浄書オプション (Engraving Options)」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

延長記号と休止記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、これによって記号のリズム上の位置が変更されることはありません。

すべての延長記号と休止記号のデフォルト位置、および延長記号と休止記号の周辺の最小間隔の値に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」ページで変更できます。

フェルマータ

フェルマータは符頭に中央揃えで上または下に配置され、音符の符尾の方向には影響されません。



フェルマータは楽曲全体のテンポに影響するため、どこにフェルマータが付くか、すべてのプレーヤーが見えるようにする必要があります。そのためフェルマータは、すべての譜表において、フェルマータと同じ位置、またはフェルマータの終了位置にある音符、和音または休符の位置 (小節に音符がない場合は、小節休符の上) に表示されます。

フェルマータと譜表との最小距離は、「[浄書 \(Engrave\)](#)」 > 「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[延長記号と休止記号 \(Holds and Pauses\)](#)」のページで変更できます。

ブレス記号

ブレス記号は、譜表の第5線の上、適用される音符の終了位置に表示されます。つまり、次の音符の直前に表示されます。

ブレス記号は、旋律を中断してブレスを取るために適切な位置をプレーヤー 1 人またはグループに示すだけで、全体のテンポには影響しないため、それが追加された譜表だけに適用されます。

ブレス記号と譜表との最小距離、およびブレス記号と次の音符または休符との最小距離は、「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[延長記号と休止記号 \(Holds and Pauses\)](#)」のページで変更できます。

中間休止記号

中間休止記号は譜表の上部に、第5線が記号の中央を通り、第4線に記号の下端が乗る形で配置されます。これは通常、小節の終了位置、小節線の前に配置されます。

中間休止記号は、すべての譜表の同じ位置に自動的に追加されます。これは入力位置の符頭または小節線のすぐ左です。中間休止記号は符頭にリンクされてはならず、音符のスペーシングを調整して一定の間隔を作ります。

中間休止記号の右側の間隔のサイズは、「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[延長記号と休止記号 \(Holds and Pauses\)](#)」のページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションで延長記号と休止記号の設定をプロジェクト全体に適用する](#) (846 ページ)

[延長記号と休止記号の表示位置の変更](#) (849 ページ)

同じ位置にある複数の延長記号と休止記号

フェルマータはすべての譜表に適用されるため、同じ位置に存在できるフェルマータは 1 タイプだけです。たとえば、1 つの譜表に短いフェルマータがあるとき、他の譜表の同じ位置に長いフェルマータを同時に置くことはできません。

ブリテンのカーリユーは他のタイプのフェルマータと同じ位置で使用できますが、ブレス記号と同時に存在できません。これは Dorico Pro における唯一の例外です。

中間休止記号は、ブレス記号であればどのタイプとも共存できますが、中間休止記号とフェルマータは同じ位置に置けません。

1 つの譜表でフェルマータを変更する

1 つの譜表でフェルマータか中間休止記号のタイプを変更すると、自動的にその位置にあるすべての譜表のすべてのタイプが変更されます。特定の位置における休止は、デュレーションが全体で一致しなければならないからです。

ただし、譜表のうち 1 つの特定のフェルマータを上書きして、たとえばブリテンのカーリユーやブレス記号に変更した場合、他の譜表に存在するフェルマータを変更しても、上書きされた譜表の記号は変更

延長記号と休止記号の表示位置の変更

延長記号と休止記号は、リズム上の位置を変えずに表示位置を移動できます。

手順

1. 浄書モードで、位置を移動する延長記号または休止記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、延長記号または休止記号を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

延長記号または休止記号が異なる表示位置に移動します。

ヒント

フェルマータまたはブレス記号を移動すると、プロパティパネルの「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」グループにある「**開始オフセット (Start offset)**」が自動的にオンになります。このプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することでフェルマータやブレス記号の表示位置を移動できます。ただし、中間休止記号の位置はこのプロパティでは変更できません。

- 「**オフセット (Offset)**」の「**X**」は、フェルマータやブレス記号を水平方向に移動させます。
- 「**オフセット (Offset)**」の「**Y**」は、フェルマータやブレス記号を垂直方向に移動させます。

プロパティをオフにすると、選択したフェルマータおよびブレス記号が初期設定の位置にリセットされます。

譜表ごとのフェルマータの数の変更

譜表に複数の声部がある場合、各譜表の特定の位置に表示されるフェルマータの最大数を変更できます。

手順

1. フェルマータを1つまたは複数選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」グループで、「**譜表ごとの最大フェルマータ (Max. fermatas per staff)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **声部につき1つ (One per voice)**
 - **譜表の片側につき1つ (One per each side of staff)**
 - **譜表につき1つ (One per staff)**

結果

選択した位置のフェルマータの表示数を変更されます。

ヒント

1つの譜表に表示されるフェルマータの最大数に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションで延長記号と休止記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(846 ページ\)](#)

フェルマータを小節線の上に配置する

次の小節の開始前に間隔を設けることを示すために、個々のフェルマータを音符ではなく小節線の上に配置できます。

補足

「**譜表ごとの最大フェルマータ (Max. fermatas per staff)**」がオンになっている場合、フェルマータは小節線の上に配置できません。

手順

1. 小節線の上に配置するフェルマータを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)**」グループで、「**小節線に配置 (Attach to barline)**」をオンにします。
-

結果

選択したフェルマータは元の小節の終了位置にある小節線の上に配置され、小節線で結合されていない譜表のみで表示されます。楽器編成によっては、組段の一番上のみに表示されます。

「**小節線に配置 (Attach to barline)**」をオフにすると、選択したフェルマータがデフォルトの位置に戻ります。

関連リンク

[譜表ごとのフェルマータの数の変更 \(849 ページ\)](#)

調号

調号は、スケールのどの音符にシャープまたはフラットが付くか示すことにより、現在の楽譜のキーを表示する記号です。調号は各組段の適用されるすべての譜表の開始位置に表示されます。

伝統的に、臨時記号は5度圏(サークルオブフィフス)のパターンに従って、シャープを使用する調とフラットを使用する調でそれぞれ異なる形に並べられます。

調号を使用すると、楽譜のどの音符が通常シャープやフラットになるか各組段の開始位置にひとまとめにして表示でき、音符が出現するたびに臨時記号を横に付ける必要がなくなるため、スペースを節約できます。

初期設定では、調号はすべてのスコアに適用されます。しかし状況によっては、一部のパートがアンサンブル中の他パートとは異なる、独自の調号を必要とする場合があります。Dorico Proでは、すべての譜表に適用される調号も、1つの譜表だけに適用される調号も入力できます。調号を入力すると、それ以降に入力するすべての音符がその調号に従います。たとえば、Gメジャーの調号を入力したあとで[F]を入力すると、自動的にF#が入力されます。

Dorico Proでは、調号はプロジェクトを包括する調性システムの一部です。Dorico Proで標準的に使用される調性システムは、12-EDOと24-EDOの2つです。

プロジェクトで調性システムを選択または作成すると、その調性システムに特別な調号やカスタムの臨時記号を作成できます。

関連リンク

[調性システム \(859 ページ\)](#)

[調号の入力方法 \(220 ページ\)](#)

[音符の入力 \(171 ページ\)](#)

調号の配置

Dorico Proは、調号の配置および外観において、臨時記号を伝統的な5度圏の順番で並べることや、音部記号と拍子記号の間に表示することなどの表記規則に自動的に従います。

調号における臨時記号の表示の順番は、シャープの調とフラットの調でそれぞれ異なります。

- シャープの場合: F#, C#, G#, D#, A#, E#, B#
- フラットの場合: Bb, Eb, Ab, Db, Gb, Cb, Fb

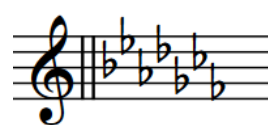
Dorico Proにおいては、すべての標準的な西洋式の調号の臨時記号は、自動的にこの順番で並べられます。調号の臨時記号には伝統的な配置パターンがあり、現在の音部に従ってすべて譜表の内側に配置されます。臨時記号のパターンはすべての音部で同じですが、テナー記号のシャープの調号においては例外となり、臨時記号を譜表に収めるために他とは異なる上昇型のパターンを使用します。

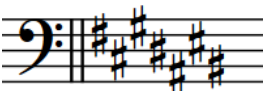
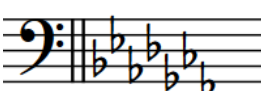

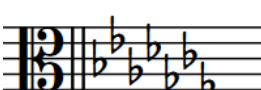
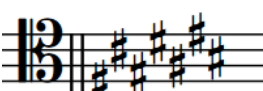
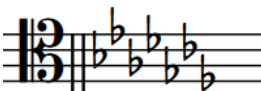
音部記号 (Clef)

シャープ記号の配置

フラット記号の配置

トレブル (Treble)



音部記号 (Clef)	シャープ記号の配置	フラット記号の配置
バス記号 (低音部記号) (Bass)		
アルト (Alto)		
テナー (Tenor)		

補足

標準とは異なるカスタムの調号については、「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログで臨時記号の表示される順番を決定できます。

関連リンク

[特別な調号 \(872 ページ\)](#)

[調号の変更位置の小節線を変更する \(649 ページ\)](#)

[調号の位置 \(854 ページ\)](#)

調号のタイプ

Dorico Pro には調号のタイプが 4 つあり、それぞれ同じ手順で入力、移動、および削除が行なえます。

以下の 4 つのタイプがあります。

- 長調
- 短調
- オープンキー (無調)
- 調号なし (ホルンや打楽器など特定のインストゥルメント用)

長調/短調の調号

長調の調号はその平行短調の調号と外見上は同じであり、同じく短調の調号はその平行長調と同じ外見になります。たとえば、B \flat メジャーの調号にはフラットが 2 つあります。これは B \flat メジャーの平行調である G マイナーの調号とフラット数が同じです。違いとして挙げられる点は、スケールの 7 度がマイナーの調号で上がるため、G マイナーの楽譜は一般的に F がシャープになることです。そのため、G マイナーの調号のあとに F \sharp /G \flat を入力した場合、マイナーの調号の規則に従って、F \sharp と表示されます。



B フラットメジャーの調号における B フラットメジャースケール



G マイナーの調号における G ハーモニックマイナースケール

オープンキーの調号

オープンキー (無調) の調号は、臨時記号を表示しないため C メジャーまたは A マイナーの調号と同じに見えますが、振る舞いは異なります。

オープンキーの調号においては、臨時記号の表記方法はそのときの旋律の方向に基づきます。旋律が上昇するときはシャープの使用が推奨され、旋律が下降するときはフラットの使用が推奨されます。オープンキーではピッチに序列がないため、同じピッチの表記が、数小節の範囲内であっても、状況によって異なる場合があります。

C メジャーまたは A マイナーの調号では、臨時記号は長調と短調のいずれであるかに基づいて表記されます。たとえば、C メジャーでは旋律が上昇下降いずれの方向であっても、一般的にシャープの使用が推奨されます。同様に A マイナーでは、旋律が上昇下降いずれの方向であっても、G# は導音であるため特に使用が推奨されます。

調号なし

一部のインストゥルメントには、楽曲全体の調に関わらず、そのパートに一切の調号を表示しないことが慣例化しているものがあります。このようなインストゥルメントにはティンパニ、打楽器、ホルン、トランペットなどがあり、ときにはハープもこれに加わります。これらのインストゥルメントの「**調号なし (No key sig)**」バージョンを追加した場合、ホルンやトランペットのような移調楽器であっても、これらのパートに調号は表示されません。

これらのインストゥルメントにはどのピッチも入力でき、必要に応じて臨時記号も表示されます。

関連リンク

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(119 ページ\)](#)

浄書オプションで調号の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**調号 (Key Signatures)**」ページでは、調号の外観を設定してプロジェクト全体に適用できます。

「**調号 (Key Signatures)**」ページのオプションでは、調号の打ち消しスタイルや調号の臨時記号の間隔を変更できます。

ヒント

調号変更位置での小節線の外観を変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節線 (Barlines)**」ページにあるオプションを使用します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[調号の変更位置の小節線を変更する \(649 ページ\)](#)

調号の削除

調号の削除は、音符のピッチに影響することなく行なえます。調号を削除したあと、音符には適宜臨時記号が表示されます。

補足

- 調号は、音符のピッチに関する欠かせない情報を担っているため、非表示にはできません。調号を表示させない場合、オープンキーの調号を入力するか、フローまたはプロジェクトからすべての調号を削除します。
- Dorico Pro では、ティンパニやホルンのように通常は調号を持たないインストゥルメントには「**調号なし (No key sig)**」バージョンがあり、このバージョンのインストゥルメントには調号が表示さ

れません。インストゥルメントを追加または変更する際は、インストゥルメントピッカーから適切なインストゥルメントタイプを選択できます。

手順

1. 記譜モードで、削除する調号または調号のガイドを選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択した調号がスコアから削除されます。削除された調号以降の小節の音符のピッチは変わりませんが、削除された調号が示す臨時記号が適用されていた音符は、次の調号がある位置まで、またはフローの終わりまで、臨時記号を伴って表示されるようになります。

補足

フローにあるすべての調号を削除した場合、楽譜には調号が表示されなくなり、必要に応じて臨時記号が表示されるようになります。これはCメジャーやAマイナーの調号があるというより、オープンキーの調号を適用したかのように扱われます。

関連リンク

[調号の入力方法 \(220 ページ\)](#)

[プレーヤーへのインストゥルメントの追加 \(119 ページ\)](#)

[インストゥルメントの変更 \(120 ページ\)](#)

[ガイド \(337 ページ\)](#)

同じ位置の複数の調号

調号をそれぞれ1つの譜表に入力することにより、複数の調号を同じ位置に存在させられます。

補足

スコアに移調楽器がある場合、複数の調号を同じ位置に入力する必要はありません。Dorico Pro はインストゥルメントの移調を自動で管理します。

移調楽器の移調を確認するには、「**編集 (Edit)**」 > 「**移調音 (Transposed Pitch)**」を選択して、レイアウトの楽譜を実音ではなく記譜上のピッチで表示します。

あるいは、個々の移調楽器のパートレイアウトを開いてフルスコアと比較しても確認できます。

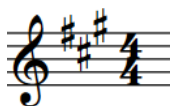
関連リンク

[調号の入力方法 \(220 ページ\)](#)

調号の位置

調号は初期設定では音部記号と拍子記号の間に配置され、調号を必要とするすべての譜表に表示されます。調号は無音程楽器の譜表には表示されません。

調号は楽曲の開始位置および各楽章の開始位置に、楽譜が同じ調のまま継続する場合でも表示されます。拍子記号とは異なり、調号はすべての組段の開始位置に、調号に変化がなくても表示されます。これはフローの終端か、次の調号の変更がある位置の、いずれか先に到達するところまで適用されます。



調号の正しい位置は音部記号と拍子記号の間です。

楽曲か楽章の途中で調号が発生する場合は、小節線の直後に配置されます。調号の変更を行なう場所には複縦線を使用するのが慣例であり、Dorico Pro ではこれがデフォルトになっています。ただし、調号の変更を行なう場所にデフォルトで表示される複縦線は変更できます。



調号の変更に複縦線が使用される例

調号の異なる位置への移動は、記譜モードで行ないます。調号は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**調号 (Key Signatures)**」および「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページの設定に従い配置されます。

個々の調号の表示位置を変更する必要がある場合、これは浄書モードで行なえますが、これにより調号のリズム上の位置が変更されることはありません。

音符や小節線に対する調号のデフォルト位置を調節する場合、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページで間隔のスペーシングに関するプロジェクト全体の値を変更する必要があります。

関連リンク

[調号の配置 \(851 ページ\)](#)

[調号の位置の移動 \(856 ページ\)](#)

[調号の表示位置の変更 \(856 ページ\)](#)

[調号の変更位置の小節線を変更する \(649 ページ\)](#)

プロジェクト全体における調号の間隔のスペーシング

間隔のスペーシングのオプションによって、調号を含めたオブジェクト間の最小間隔に関するプロジェクト全体の設定を変更できます。

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」ページで利用できる値のうち、以下の最小値は調号に直接関係します。

- 小節線から音部記号、調号記号、または拍子記号の前までの間隔 (Gap after barline before clef, key or time signature)
- ナチュラルの後の間隔 (Gap after cancellation naturals)
- 調号の後の間隔 (Gap after key signature)
- 終わりのリピート線の後の間隔 (Gap after end repeat barline)

補足

他の値も調号の位置に影響を及ぼす場合がありますが、それらは他のオブジェクトにも影響するものです。

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**調号 (Key Signatures)**」ページでは、以下の間隔について変更できます。

- 調号の臨時記号との間隔 (Gap between accidentals in key signatures)
- ナチュラル間隔の間隔 (Gap between cancellation naturals)

関連リンク
[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

調号の位置の移動

調号は入力後に位置を移動できます。

手順

1. 記譜モードで、移動する調号を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に位置を移動できる調号は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従い選択した調号を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - 調号をクリックして任意の水平位置にドラッグします。
-

結果

調号が異なる位置に移動します。これは移動先の位置から次の調号の位置かフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで効果を及ぼします。

補足

- 調号は譜表に沿う方向にしか移動できません。調号を別の譜表に移動する場合は、調号を削除してから新たな調号を別の譜表に入力する必要があります。
- 各位置に調号は1つしか存在できませんが、1つの譜表だけに適用される調号は例外となります。調号を移動させる際に他の調号の上を通過した場合、そこにあった調号は削除され、移動させた調号に置き換えられます。

この動作は元に戻せますが、移動中に削除された調号については、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

関連リンク
[調号の入力方法 \(220 ページ\)](#)

調号の表示位置の変更

調号の表示位置は、他のアイテムの位置に影響を与えることなく個別に変更できます。

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。



2. 移動する調号記号の上の四角いハンドルを選択します。



調号の横に小さい丸いハンドルが表示されます。

3. **[Tab]** を押して丸いハンドルを選択します。



4. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。

結果

調号の表示位置が水平方向に移動されます。

ヒント

浄書のツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」が選択されているときは、プロパティパネルの「調号 (Key Signatures)」グループにある「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」を変更しても、調号を水平方向に移動できます。ただし、これは調号のリズム上の位置における全体的な音符のスペーシングに影響し、打ち消しのナチュラル記号もこれに影響されます。

また、「ナチュラル X オフセット (Cancellation naturals X offset)」プロパティを使用すると、後続の調号とは別個に、他のアイテムのスペーシングに影響を与えることなく、打ち消しのナチュラル記号の表示位置を移動できます。

関連リンク

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

選択した音符と同時に調号を移調する

音符の移調と同時に調号の移調を行なえます。これは調号と音符を同じ度数で移調させます。

補足

移調レイアウトの移調楽器に適切な調号が自動的に表示されます。

手順

1. 記譜モードで、調号と音符を併せて選択します。
2. 「記譜 (Write)」 > 「移調 (Transpose)」を選択して「移調 (Transpose)」ダイアログを開きます。
3. 音程や性質など、移調に必要なパラメーターを調節します。

ヒント

- たとえば Gb メジャーから G メジャーに移動する場合など、「間隔を算出 (Calculate interval)」セクションを使用して必要な設定を判断することをおすすめします。
- 音程が異なると使用できる性質が異なります。たとえば、メジャー 3 度は指定できますがメジャーオクターブは指定できません。そのため、移調パラメーターを手動で設定したい場合には、性質の前に音程を選択することをおすすめします。

4. 「調号を変更する (Transpose key signatures)」をオンにします。

これは選択に調号が含まれている場合は自動的にオンになります。

5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択されたすべての音符と調号が、ダイアログで設定した度数で移調されます。

補足

移調のための選択に、すべての譜表に適用される調号が含まれていた場合、すべての譜表を選択していても、レイアウト中すべての譜表の調号が移調されます。

個別の調号、つまり **[Alt]** キーを使用して1つの譜表のみに追加された調号は、選択に含められた場合それ自体は移調しますが、レイアウト中の他の譜表には影響しません。

関連リンク

[「移調 \(Transpose\)」ダイアログ \(206 ページ\)](#)

[実音と移調音 \(141 ページ\)](#)

[レイアウトの移調/非移調の設定 \(140 ページ\)](#)

[音符とアイテムを個々に選択/選択解除する \(322 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)

異名同音の調号

異名同音の調号とは、C#メジャーとD \flat メジャーのように、名前は異なっても音階を構成するピッチが共通する調号のことです。Dorico Pro は表記規則に従い、移調の際は移調前の調と臨時記号のタイプが同じ調に移行します。ただし、異名同音の調号の方が臨時記号が少ない場合を除きます。

選択した音符を移調するとき、Dorico Pro は移調前の調号と臨時記号のタイプが同じ調を優先的に選択します。インストゥルメントを移調する際に調号を選択する場合、Dorico Pro は現在の実音調と同タイプの臨時記号を用いる調号を優先的に選択します。

ただし、同じタイプの臨時記号を用いる調号よりも、異なるタイプの臨時記号を用いる異名同音の調号に転調した方が、臨時記号の数が少なく済むため好ましい場合もあります。たとえば、C#メジャーはシャープが7つになる一方、D \flat メジャーはフラットが5つだけです。つまり、臨時記号が付くことをプレーヤーが記憶しなければならない音符が減るということです。

臨時記号が少ない異名同音調への転調は、ダブルシャープやダブルフラットの使用が抑えられて読みやすくなるという利点もあります。たとえば、楽譜をF#からG#に転調すると、導音はF \sharp と表記する必要がありますが、かわりにA \flat に転調すると、導音はG \sharp となります。



G#メジャーでは導音にダブルシャープを付ける必要があります
G#の異名同音であるA \flat メジャーでは導音にダブルシャープを付ける必要はありません

初期設定では、Dorico Pro は臨時記号が少ない場合に異名同音の調号を選択します。しかしこの設定は、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション臨時記号 (Notation Options)」の「臨時記号 (Accidentals)」ページの「移調 (Transposition)」セクションにある「異名同音の調を優先 (臨時記号を減らす) (Prefer enharmonic equivalent key signatures with fewer accidentals)」をオフにすることにより変更できます。

調号が移調楽器に与える影響

フルスコアに調号がある場合、移調楽器の楽譜に対しては、そのインストゥルメントの移調の音程と同じ度数で移調が行なわれます。たとえば、Eメジャーのプロジェクトでは、B♭クラリネットのパートの調はF#メジャーになります。B♭クラリネットは記譜上のピッチより全音低く発音されるからです。

調号が表示されないインストゥルメント

一部のインストゥルメントには、楽曲全体の調に関わらず、そのパートに一切の調号を表示しないことが慣例化しているものがあります。このようなインストゥルメントにはティンパニ、打楽器、ホルン、トランペットなどがあり、ときにはハープもこれに加わります。これらのインストゥルメントの「**調号なし (No key sig)**」バージョンを入力した場合、ホルンやトランペットのような移調楽器であっても、これらのパートに調号は表示されません。

これらのインストゥルメントの譜表における楽譜は移調できますが、調号は表示されず、必要に応じて臨時記号が表示されるだけになります。

関連リンク

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

[「移調 \(Transpose\)」ダイアログ \(206 ページ\)](#)

[選択範囲の移調 \(206 ページ\)](#)

[プレイヤーへのインストゥルメントの追加 \(119 ページ\)](#)

予告の調号

調号の変更が組段区切りで発生する場合、スコアでもパートでも、区切り後の組段の開始位置とともに、区切り前の組段の終了位置にも新規の調号が表示されます。

これは予告の調号と見なされる場合もあります。プレイヤーが組段の開始位置に調号があることに慣れてしまい、組段の終了位置に表示して目立たせておかないと、調号の変更に気づかないかもしれないからです。

Dorico Pro では、調号の変更は小節線の直後に発生するため、組段の終了位置の調号は予告の調号という別個のものではなく、調号そのものです。

楽譜が十分に分かれていて調号を組段の終了位置に表示する必要がないが、組段の区切り位置を変更できない場合は、組段区切りの位置に新規のフローを作成することにより、楽譜を分離できます。

関連リンク

[フロー \(135 ページ\)](#)

[フローの分割 \(345 ページ\)](#)

[形式設定パネル \(355 ページ\)](#)

[組段区切りの挿入 \(472 ページ\)](#)

調性システム

Dorico Pro では、調性システムとは、調性のコンセプトを構成する3つの重要な要素を内包する言葉として使用されます。

調性システムを構成する3つの要素を以下に挙げます。

- オクターブの均等な分割の数 (EDO)。たとえば、標準的な半音階による西洋音階は 12-EDO を使用します。
- 臨時記号のセット。音符をどれだけ上げ下げするかを記譜できます。これには伝統的な臨時記号のセットかカスタムの臨時記号セットを使用します。これは幅広く取り揃えられた各種セットから選択するか独自に作成できます。
- 調号。これには伝統的な西洋音階の調号か、自作したカスタムの調号が使用できます。

関連リンク

[カスタムの調性システム \(862 ページ\)](#)

[調性システムの変更 \(860 ページ\)](#)

[カスタムの調性システムの再生 \(874 ページ\)](#)

オクターブの均等な分割 (EDO)

EDO とは、「Equal Division of the Octave (オクターブの均等な分割)」の略です。これはオクターブを均等に分割した断片 (音程) の数になります。Dorico Pro では、オクターブの分割を自由な数に設定でき、調性システムそれぞれに特別な調号およびカスタムの臨時記号を作成できます。

伝統的な西洋和声は、調性システムを表現する方法の 1 つである平均律 (12-EDO) に基づきます。伝統的な C から C までのスケールにおいては、スケールを構成する 7 つの音程に 12 個のステップ (オクターブの均等な 12 分割) が振り分けられるためです。

「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログで 12-EDO 調性システムを編集すると、スケール中の各音程にステップがどう振り分けられているか確認できます。たとえば、音程の A と B の間にはステップが 2 つ割り当てられています。B と C の間にはステップが 1 つしかありません。これは、12-EDO におけるそれぞれのステップは半音を表わし、標準の平均律において A と B の間には 2 つの半音がありますが、B と C の間には半音が 1 つしかないからです。

調性システムで最小のステップを半音ではなく 1/4 音にするには、オクターブを分割する数を 12-EDO の倍にしなければなりません。よって、プロジェクトで 1/4 音の臨時記号を使用するには、プロジェクトの調性システムに「**平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))**」を選択する必要があります。

オクターブを分割する数は自由に選択できますが、標準の西洋式調号を表示させる場合は、オクターブの均等な分割の数は 12 の倍数である必要があります。

EDO においては、伝統的な西洋式のピッチとは異なるピッチを A から G の音名に割り当て、これを明解に表現するための記譜記号を作成することもできます。オクターブを分割する方法には制限がないためです。たとえば、トルコ音楽は伝統的に 53-EDO によって分割され、通常 A から A までの各音程に「9-4-9-9-4-9」の形で分割数が割り当てられます。

関連リンク

[カスタムの調性システム \(862 ページ\)](#)

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(866 ページ\)](#)

調性システムの変更

プロジェクトで使用する調性システムは調号の変更位置で切り替えることができ、これには自作したカスタムの調性システムも使用できます。

前提条件

「**平均律 (12-EDO) (Equal temperament (12-EDO))**」または「**平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))**」以外の調性システムを使用する場合は、カスタムの調性システムを作成するか読み込んでおきます。

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。



2. 楽譜領域で、調性システムを変更する位置のアイテムを 1 つ選択します。
3. アイテムの選択を解除しないまま、調号、調性システム、臨時記号パネルの「**調性 (Tonality System)**」セクションから使用する調性システムを選択します。

4. 調号を新規に入力します。

補足

- 調号を表示させたくない場合、無調の調号を入力できます。
- 「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルにある「**フローで使用 (Used in This Flow)**」セクションの調号には元の調性システムが保持されます。調性システムを変更する場合は、ポップオーバーを使用するか「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルの「**調号 (Key Signatures)**」セクションを使用するなどして、新しい調号を始めから入力することをおすすめします。

結果

入力した調号の位置から、次の調性システムの変更を伴う調号が存在する位置、またはフローの終わりまで、調性システムが変更されます。

「**平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))**」のように微分音の臨時記号が使用できる調性システムを選択した場合、調号、調性システム、臨時記号パネルの「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションで微分音の臨時記号が利用できるようになります。



関連リンク

- [カスタムの調性システム \(862 ページ\)](#)
- [カスタムの調性システムの作成 \(863 ページ\)](#)
- [調号の入力方法 \(220 ページ\)](#)
- [調号、調性システム、臨時記号パネル \(221 ページ\)](#)
- [微分音の臨時記号の入力 \(629 ページ\)](#)

調性システムの読み込み

たとえば自分で作成したカスタムの調性システムを別のコンピューターで使用したい場合などに、プロジェクトに調性システムを読み込むことができます。調性システムは .doricolib ファイルとして保存されます。

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。

2. 「**調性 (Tonality System)**」セクションで「**調性システムを読み込み (Import Tonality System)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。

3. 読み込む調性システムファイルを探して選択します。
4. 「**開く (Open)**」をクリックします。

結果

選択した調性システムが読み込まれます。これは現在のプロジェクトでのみ利用できるようになります。

ヒント

調性システムをそれ以降にコンピューター上で作成するすべてのプロジェクトで使用できるようにしたい場合は、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログでデフォルトとして保存できます。

調性システムの書き出し

調性システムを書き出して、他のユーザーに送信したり他のプロジェクトで使用したりできます。初期設定では、作成した調性システムは現在のプロジェクトでのみ使用できます。

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。



2. 「**調性 (Tonality System)**」セクションで、書き出す調性システムをメニューから選択します。
3. 「**調性システムを書き出し (Export Tonality System)**」をクリックして エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。



4. 調性システムファイルの名前と場所を指定します。
5. 「**保存 (Save)**」を選択します。

結果

選択した調性システムが書き出され、選択した場所に .doricolib ファイルとして書き出されます。

ヒント

調性システムをそれ以降にコンピューター上で作成するすべてのプロジェクトで使用できるようにしたい場合は、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログでデフォルトとして保存できます。

カスタムの調性システム

カスタムの調性システムでは、プロジェクト内で使用できるオクターブの独自の分割数を指定できます。これは伝統的な西洋和声に基づかない楽譜の作成において使用します。Dorico Pro では、カスタムの臨時記号を作成して、各カスタムの調性で使用されるカスタムの調号に組み込むことができます。

プロジェクトに登録されている調性システムは、調号、調性システム、臨時記号パネルの「**調性 (Tonality System)**」セクションで確認できます。

Dorico Pro では、各プロジェクトに初期設定で「**平均律 (12-EDO) (Equal temperament (12-EDO))**」と「**平均律 (24-EDO) (Equal temperament (24-EDO))**」の2つの調性システムを用意しています。

「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログでは、カスタムの調性システムを作成および既存の調性システムを編集できます。また、たとえば他のユーザーと共有するために調性システムを書き出すこともできます。調性システムは .doricolib ファイルとして保存されます。

関連リンク

[オクターブのカスタム分割 \(868 ページ\)](#)

[カスタムの臨時記号 \(869 ページ\)](#)

[特別な調号 \(872 ページ\)](#)

[調号、調性システム、臨時記号パネル \(221 ページ\)](#)

カスタムの調性システムの作成

カスタムの調性システムを独自に作成できます。これはオクターブを任意の数で分割することも、必要に応じてカスタムの臨時記号や特別な調号をいくつでも追加することもできます。各プロジェクトにはカスタムの調性システムを複数使用できます。

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。



2. 「**調性システム (Tonality System)**」セクションで新規調性システムを作成し、以下のいずれかの操作を行なって「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログを開きます。
 - まったく新しい調性システムを作成する場合は、アクションバーの「**新規調性システム (New Tonality System)**」をクリックします。



- 既存の調性システムのコピーを作成するには、メニューからその調性システムを選択して、アクションバーの「**調性システムを複製 (Duplicate Tonality System)**」をクリックします。



3. 新しいカスタムの調性システムの名前を「**名前 (Name)**」フィールドに入力します。
4. 「**ディヴィジョン (Divisions)**」セクションで、オクターブを等分した最小単位の各音程に割り当てられる数を変更します。

たとえば A~B、C~D、D~E、F~G および G~A の音程には、B~C および E~F の音程とは異なる数を割り当てることが考えられます。
5. 「**臨時記号 (Accidentals)**」のセクションでは、カスタムの臨時記号を新規作成するか、既存の臨時記号を編集します。

- カスタムの臨時記号を新規作成するには、アクションバーの「**新規臨時記号 (New Accidental)**」をクリックして「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログを開きます。



- 既存の臨時記号のコピーを作成するには、その臨時記号を選択して、アクションバーにある「**臨時記号を複製 (Duplicate Accidental)**」をクリックして「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログを開きます。



- 既存の臨時記号を編集するには、アクションバーの「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」をクリックして「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログを開きます。



6. 臨時記号の外観、名前、ピッチデルタをカスタマイズします。

補足

- オクターブを等分した最小単位の総数の半分を超えるピッチデルタの値を設定することはおすすめしません。
- デフォルトの**ナチュラル**記号のピッチデルタは変更できません。

7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログを閉じます。
8. 必要に応じて、カスタムの調性システムに必要な臨時記号それぞれに、手順 5 から 7 を繰り返します。
9. 「**特別な調号 (Custom Key Signatures)**」セクションで、特別な調号を新規に追加するか、デフォルトの特別な調号のいずれかを編集します。

- デフォルトの特別な調号のいずれかを編集するには、調号を選択してアクションバーの「**調号を編集 (Edit Key Signature)**」をクリックし、「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログを開きます。



- 特別な調号を新規作成するには、アクションバーの「**新規調号 (New Key Signature)**」をクリックして「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログを開きます。



10. 調号の配置をカスタマイズします。
11. 「OK」をクリックして変更を保存し、「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログを閉じます。
12. 必要に応じて、カスタムの調性システムに必要な特別な調号それぞれに、手順9から11を繰り返します。
13. 新規に作成したカスタムの調性システムを、それ以降にコンピューター上で作成するすべてのプロジェクトで使用できるようにするには、「**デフォルトとして保存 (Save As Default)**」をクリックします。
14. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログを閉じます。

結果

プロジェクトに新しくカスタムの調性システムが追加され、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルの「**調性 (Tonality System)**」セクションのメニューで利用できるようになります。「**デフォルトとして保存 (Save As Default)**」をクリックした場合は、それ以降にコンピューター上で作成するすべてのプロジェクトで使用できるようになります。

手順終了後の項目

- 調性システムを切り替えることで、新しいカスタムの調性システムを楽譜の特定の範囲に適用させることができます。
- たとえば他のユーザーと共有するために、カスタムの調性システムを書き出すことができます。

関連リンク

[調性システムの変更 \(860 ページ\)](#)

[調性システムを書き出し \(862 ページ\)](#)

[「臨時記号を編集 \(Edit Accidental\)」ダイアログ \(869 ページ\)](#)

[「特別な調号を編集 \(Edit Custom Key Signature\)」ダイアログ \(872 ページ\)](#)

[調号、調性システム、臨時記号パネル \(221 ページ\)](#)

カスタムの臨時記号を作成/編集する

たとえば EDO とは異なる調性システムを使用することで、ピッチを上昇/下降させる量を示す特定の臨時記号のグリフが必要な場合、カスタムの臨時記号を新規作成することも、既存のものを編集することもできます。





前提条件

カスタムの調性システムを使用して臨時記号を作成または編集する場合は、あらかじめそのカスタムの調性システムを作成しておきます。

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。



2. 「**調性 (Tonality System)**」セクションで、カスタムの臨時記号を作成する調性システムをメニューから選択します。
3. 「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」をクリックして「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログを開きます。

4. 「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションで、以下のいずれかの操作を行なって「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログを開きます。
 - カスタムの臨時記号を新規作成するには、アクションバーの「**新規臨時記号 (New Accidental)**」をクリックします。

 - 既存の臨時記号のコピーを作成するには、その臨時記号を選択して、アクションバーにある「**臨時記号を複製 (Duplicate Accidental)**」をクリックします。

 - 既存の臨時記号を編集するには、それを選択して、アクションバーの「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」をクリックします。

5. 必要に応じて、新しいカスタム臨時記号の名前を「**名前 (Name)**」フィールドに入力します。既存の臨時記号の名前も編集できます。
6. 必要に応じて、カスタムの臨時記号を新規作成した場合、「**ピッチデルタ (Pitch delta)**」の値フィールドの値を変更して、オクターブを等分した最小単位による音符のピッチ上昇/下降の数を変更します。

補足

- オクターブを等分した最小単位の総数の半分を超えるピッチデルタの値を設定することはおすすめしません。
 - デフォルトの**ナチュラル**記号のピッチデルタは変更できません。
-
7. 臨時記号の外観をカスタマイズします。
たとえば、右側のオプションを使用して臨時記号にグリフを追加し、エディターで配置とサイズを変更できます。
 8. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
 9. 必要に応じて、現在の調性システムに作成するカスタムの臨時記号それぞれに、手順4から8を繰り返します。
 10. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログを閉じます。

手順終了後の項目

カスタムの臨時記号は、特別な調号にも組み込めます。

関連リンク

[「臨時記号を編集 \(Edit Accidental\)」ダイアログ \(869 ページ\)](#)

[カスタムの臨時記号 \(869 ページ\)](#)

特別な調号を作成/編集する

たとえばカスタムの臨時記号の配置を表示するために、すべての調性システムにおいて、特別な調号を新規作成したり、既存のものを編集したりできます。

前提条件

カスタムの調性システムの調号を作成/編集する場合は、そのカスタムの調性システムを作成しておきます。

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)**」をクリックして調号、調性システム、臨時記号パネルを表示します。



2. 「**調性 (Tonality System)**」セクションで、特別な調号を作成する調性システムをメニューから選択します。
3. 「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」をクリックして「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログを開きます。



4. 「**特別な調号 (Custom Key Signatures)**」セクションで、以下のいずれかの操作を行なって「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログを開きます。

- 既存の特別な調号を編集するには、それを選択して、アクションバーの「**調号を編集 (Edit Key Signature)**」をクリックします。



- 特別な調号を新規作成するには、アクションバーの「**新規調号 (New Key Signature)**」をクリックします。



5. 必要に応じて、新しい特別な調号の名前を「**名前 (Name)**」フィールドに入力します。既存の特別な調号の名前も編集できます。
6. 調号の配置をカスタマイズします。
たとえば、調号に臨時記号を追加してから、それが適用されるピッチやオクターブを変更できます。また他の音部記号を選択して、調号の配置にどのような影響があるか確認できます。
7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
8. 必要に応じて、現在の調性システムに作成する特別な調号それぞれに、手順4から7を繰り返します。
9. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログを閉じます。

関連リンク

[「特別な調号を編集 \(Edit Custom Key Signature\)」ダイアログ \(872 ページ\)](#)
[特別な調号 \(872 ページ\)](#)

「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログ

「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログでは、カスタムの調性システムの作成および既存の調性システムの編集が行なえます。

以下のいずれかの操作を行なって、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログを開きます。

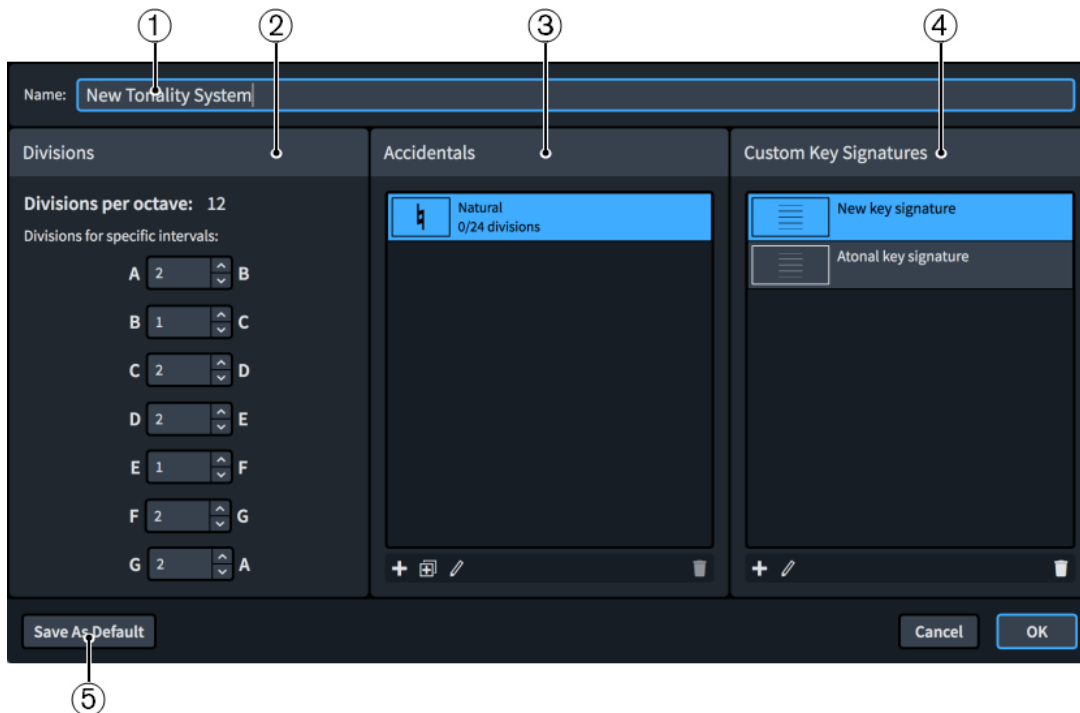
- 新しい調性システムを作成するには、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)**」パネルの「**調性 (Tonality System)**」セクションで「**新規調性システム (New Tonality System)**」をクリックします。



- 既存の調性システムのコピーを作成するには、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)**」パネルにある「**調性 (Tonality System)**」セクションのメニューから調性システムを選択して、「**調性システムを複製 (Duplicate Tonality System)**」をクリックします。



- 既存の調性システムを編集するには、「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)」パネルにある「調性 (Tonality System)」セクションのメニューから調性システムを選択して、「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」をクリックします。



「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログ

「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

1 名前 (Name)

新規の調性システムの名前を入力するか、作成した既存のカスタム調性システムの名前を編集できます。

2 分割 (Divisions)

音程ごとにオクターブの分割をいくつ割り当てるか指定できます。

3 臨時記号 (Accidentals)

現在選択中の調性で利用できる臨時記号を、ピッチデルタが一番低いものから順番にリスト表示します。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規臨時記号 (New Accidental):** 「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログを開き、新規臨時記号を作成できます。



- **臨時記号を複製 (Duplicate Accidental):** 「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログを開き、既存の臨時記号のコピーである新規臨時記号を作成できます。



- **臨時記号を編集 (Edit Accidental):** 「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログを開き、選択した既存の臨時記号を編集できます。



- **臨時記号を削除 (Delete Accidental):** 選択した臨時記号を削除します。



補足

初期設定の調性にあらかじめ定義された臨時記号は削除できません。

4 特別な調号 (Custom Key Signatures)

選択した調性システムで現在利用できる特別な調号を表示します。

セクションの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規調号 (New Key Signature):** 「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログを開き、特別な調号を新規作成できます。



- **調号を編集 (Edit Key Signature):** 「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログを開き、選択した特別な調号を編集できます。



- **調号を削除 (Delete Key Signature):** 選択した特別な調号を削除します。



5 デフォルトとして保存 (Save As Default)

新規のカスタム調性システムまたはデフォルトの調性システムに対して行なった編集を、ユーザーライブラリーにデフォルトとして保存し、以降のすべてのプロジェクトで使用できるようにします。

関連リンク

[調号、調性システム、臨時記号パネル \(221 ページ\)](#)

[オクターブのカスタム分割 \(868 ページ\)](#)

[「臨時記号を編集 \(Edit Accidental\)」ダイアログ \(869 ページ\)](#)

[「特別な調号を編集 \(Edit Custom Key Signature\)」ダイアログ \(872 ページ\)](#)

オクターブのカスタム分割

既存の調性システムに対しオクターブの分割の数を変更するか、または新規に調性システムを作成して任意の分割数を設定できます。

「調性システムを編集 (Edit Tonality System)」のダイアログの「分割 (Divisions)」のセクションでは、各音程に割り当てられる分割の数を変更できます。オクターブごとの分割の総数はセクションの最上部に表示され、各音程の分割の割り当て数を変更すると自動的に更新されます。

平均律 (12-EDO) においては、分割の総数は 12 となります。A と B の間には 2 つの分割があり、B と C の間には 1 つの分割があるという具合です。これは西洋音階の標準パターンに従うもので、鍵盤楽器の白鍵と黒鍵のパターンにも一致します。

Dorico Pro では、オクターブは任意の区分に分割できますが、西洋音階の標準の調号を表示させるには、オクターブの均等な分割の数は必ず 12 でなければなりません。

関連リンク

[カスタムの調性システムの作成 \(863 ページ\)](#)

[特別な調号 \(872 ページ\)](#)

カスタムの臨時記号

カスタムの臨時記号には伝統的な臨時記号のグリフのみならず、その他の音楽記号、テキストおよびグラフィックも使用できます。これにより、カスタムの調性システムにおいて特定のピッチデルタを表わす臨時記号を作成できます。

- 現在の調性システムで使用できるすべての臨時記号は、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」のダイアログの「**臨時記号 (Accidentals)**」のセクションで確認できます。

「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」のダイアログでは、カスタムの臨時記号を作成または編集できます。Dorico Pro に付属するデフォルトの調性システムで使用される臨時記号は編集できます。カスタムの調性システムを新規に作成する際はナチュラル記号 1 つの状態から始まり、これは編集も削除も行なえます。

関連リンク

[カスタムの調性システムの作成 \(863 ページ\)](#)

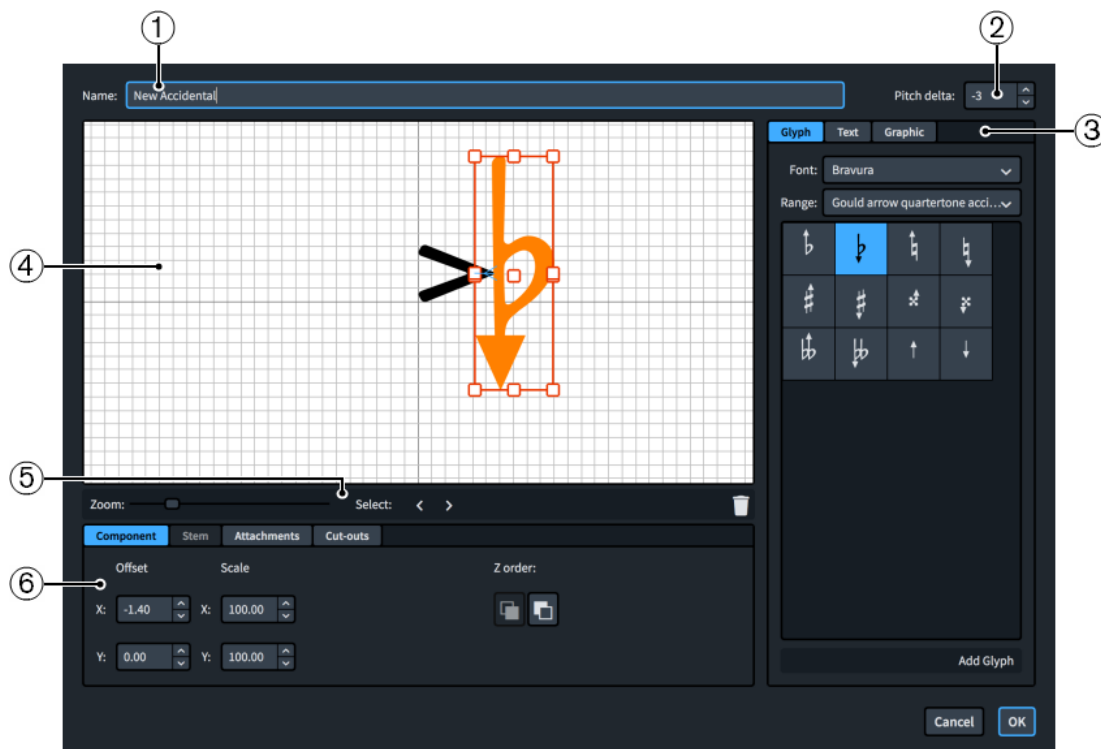
[カスタムの臨時記号を作成/編集する \(864 ページ\)](#)

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(866 ページ\)](#)

「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログ

「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログでは、カスタムの臨時記号の新規作成および編集が行なえます。

- 「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログを開くには、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」ダイアログの「**臨時記号 (Accidentals)**」セクションの下にあるアクションバーの「**新規臨時記号 (New Accidental)**」、「**臨時記号を複製 (Duplicate Accidental)**」または「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」のいずれかをクリックします。



「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」ダイアログ

「**臨時記号を編集 (Edit Accidental)**」ダイアログには以下のセクションがあります。

1 名前 (Name)

臨時記号の名前を入力できます。

2 ピッチデルタ (Pitch delta)

臨時記号が音符のピッチをどれほど上げ下げするかの値を設定できます。たとえば 12-EDO では、ピッチデルタを「2」にすると、1 オクターブを 12 等分した最小単位の 2 つ分、音符のピッチを上昇させます。

補足

オクターブを等分した最小単位の総数の半分を超えるピッチデルタの値を設定することはおすすめしません。

3 臨時記号の構成要素セレクター

臨時記号に追加する構成要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯ や # を追加できます。メニューからフォントや範囲を選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフを臨時記号に追加します。

補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFL の Web サイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したテキスト、または入力したテキストを臨時記号に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNG または JPG 形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを臨時記号に追加します。

4 エディター

臨時記号を形作る構成要素の配置と編集を行いません。臨時記号の構成要素の編集と配置には、ダイアログ下部のコントロールを使用できます。

5 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom):** エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select):** 次/前の要素を選択できます。
- **削除 (Delete):** 選択した要素を削除します。



6 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。臨時記号の場合、利用できるのは「**要素 (Component)**」、「**アタッチメント (Attachments)**」、および「**切り抜き (Cut-outs)**」のタブのみです。「**符尾 (Stem)**」のタブは臨時記号には適用されません。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **スケール (Scale):** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。

補足

一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- 「前後の順序 (Z order)」: 要素が重なった場合、「前面へ移動 (Bring Forward)」または「背面へ移動 (Send Backward)」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。

「アタッチメント (Attachments)」タブは、臨時記号が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from)**: 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「連結元 (Attachment from)」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to)**: 選択した要素のどこのポイントで左側の要素に連結するかを選択します。「連結先 (Attachment to)」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

「切り抜き (Cut-outs)」のタブでは、臨時記号の構成要素の個々の角について、他の臨時記号と重なり合うことができる領域を作成できます。これによりたとえば、密集和音において臨時記号同士をより緊密に配置できます。これは四方の角それぞれに以下のオプションを持ちます。

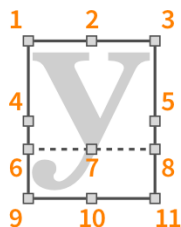
- **幅 (Width)**: 切り抜き領域の幅を設定します。
- **高さ (Height)**: 切り抜き領域の高さを設定します。
- **追加 (Add)**: 対応する角に切り抜きを追加します。



- **削除 (Delete)**: 対応する角から切り抜きを削除します。



グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」のダイアログでは、連結ポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

関連リンク

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(866 ページ\)](#)

[カスタムの臨時記号を作成/編集する \(864 ページ\)](#)

特別な調号

特別な調号には、伝統的な臨時記号を異なる並びで使用するか、または自作したカスタムの臨時記号を必要に応じた並びで使用できます。

- 現在の調性システムで使用できるすべての調号は、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」のダイアログの「**特別な調号 (Custom Key Signatures)**」のセクションで確認できます。

補足

Dorico Pro にはじめから入っているデフォルトの調性システムのいずれかを選択して編集する場合、このセクションには編集できる調号はありません。ただし、デフォルトの調性システムの中に調号を新規に作成はできます。

「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」のダイアログでは、新規または既存いずれの調性システムにおいても、カスタムの調号を作成または編集できます。これで、「**調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems and Accidentals)**」パネルの「**特別な調号 (Custom Key Signatures)**」セクションから調号を入力できます。

関連リンク

[カスタムの調性システムの作成 \(863 ページ\)](#)

[特別な調号を作成/編集する \(865 ページ\)](#)

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(866 ページ\)](#)

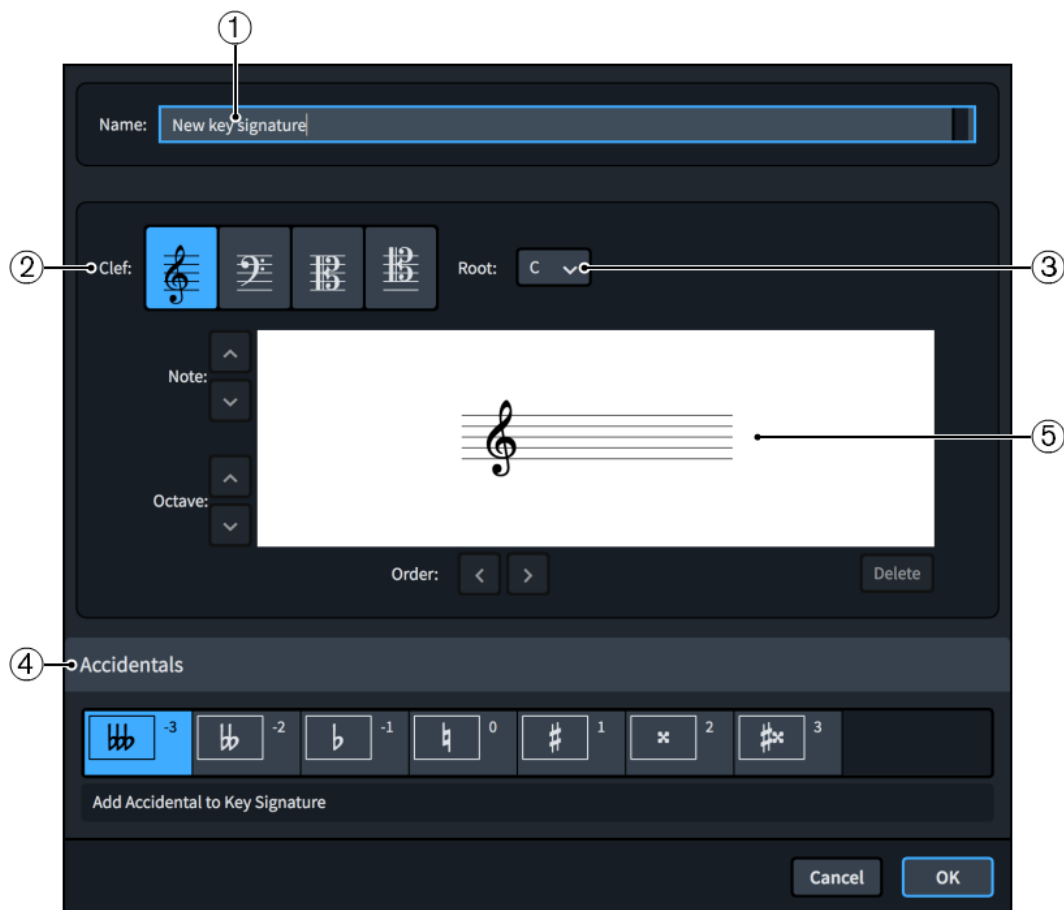
[調号、調性システム、臨時記号パネル \(221 ページ\)](#)

[パネルを使った調号の入力 \(224 ページ\)](#)

「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログ

「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」ダイアログでは、当別な調号の新規作成および編集が行なえます。

- 「**特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)**」のダイアログを開くには、「**調性システムを編集 (Edit Tonality System)**」のダイアログの「**特別な調号 (Custom Key Signatures)**」のセクションにあるアクションバーの「**新規調号 (New Key Signature)**」または「**調号を編集 (Edit Key Signature)**」のいずれかをクリックします。



「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログ

「特別な調号を編集 (Edit Custom Key Signature)」ダイアログには以下のセクションがあります。

- 1 名前 (Name)**
調号の名前を入力できます。
- 2 音部記号 (Clef)**
ト音記号、バス記号、アルト記号、テノール記号においてそれぞれ調号がどのように表示されるかを確認できます。調号はこれらの音部記号のいずれについても編集できます。
- 3 ルート音 (Root)**
調号の基音をメニューから選択できます。
- 4 臨時記号 (Accidentals)**
調性システムからの臨時記号を調号に追加できます。これには「臨時記号を編集 (Edit Accidental)」のダイアログで作成したカスタムの臨時記号も含まれます。選択した臨時記号を調号に追加するには、「調号に臨時記号を追加 (Add Accidental to Key Signature)」をクリックします。
- 5 エディター**
「順番 (Order)」の矢印ボタンを使用して臨時記号を任意の順番に変更でき、「音符 (Note)」の矢印ボタンと「オクターブ (Octave)」の矢印ボタンを使用して譜表上の位置を変更できます。

関連リンク

[調号、調性システム、臨時記号パネル \(221 ページ\)](#)

[「調性システムを編集 \(Edit Tonality System\)」ダイアログ \(866 ページ\)](#)

[「臨時記号を編集 \(Edit Accidental\)」ダイアログ \(869 ページ\)](#)

[特別な調号を作成/編集する \(865 ページ\)](#)

カスタムの調性システムの再生

Dorico Pro はオクターブの分割の数や振り分けがどのようであっても、カスタムの調性システムを再生できます。

Dorico Pro はすべての音符について、臨時記号の有無にかかわらず適切なピッチデルタを計算し、微分音の再生をフルに実現します。再生に使用されるバーチャルインストゥルメントに応じて、Dorico Pro はさまざまな方法で微分音の再生を行ないます。

- HALion バーチャルインストゥルメントの場合は、Dorico Pro は VST 3 ノートエクスプレッションを使用します。
- NotePerformer などのその他のインストゥルメントの場合は、Dorico Pro は VST 2 ディチューンパラメーターを使用します。

関連リンク

[カスタムの調性システム \(862 ページ\)](#)

[再生時のチューニングの変更 \(556 ページ\)](#)

歌詞 (Lyrics)

Dorico Pro では、歌詞とは歌手によって歌われるすべてのテキストを指します。

歌詞テキストを楽譜上の他のテキスト形式と区別するために、他のテキスト形式は演奏上の指示、テンポ、強弱記号などと呼ばれます。

The image shows a musical score snippet with three staves. The top staff is for Soprano and the middle staff is for Bassoon/Continuo. The lyrics are: "vo - - - lo in frà i be - a - ti in frà i be - a - ti, Cho - Pin - do, di Pin - do in frà i be - a - - - ti Cho -". The bottom staff shows a bass line with a key signature of one sharp (F#) and a 4/4 time signature.

ソプラノのデュエットの歌詞と、バスソコンティヌオの伴奏

Dorico Pro は、入力済の歌詞を簡単に変更でき、毎回新たに歌詞を再入力する必要がないように設計されています。たとえば歌詞の音節のタイプを変更すると、ハイフンを伴う表示と伴わない表示を切り替えられます。

歌詞は、水平方向の配置を一貫させ、歌詞番号の表示を簡潔で正確にするために、ラインにまとめられます。歌詞のラインには異なる目的で使用されるいくつかのタイプがあり、ラインタイプによって歌詞の外観も変化します。たとえば、コーラスのラインの歌詞は斜体フォントで表示されます。

歌詞の入力時は、歌詞のラインの切り替え、譜表のどの側に歌詞を入力するかの変更、および歌詞スタイルの標準、コーラス、訳詞のうちいずれかへの切り替えのために、キーボードショートカットを使用できます。歌詞のタイプは、歌詞を入力したあとでも変更できます。

複数行の歌詞、コーラスの歌詞および訳詞は、譜表の上下いずれにでも入力できます。歌詞のタイプや歌詞のラインに応じて既存の歌詞をフィルタリングできます。

関連リンク

[歌詞のタイプ](#) (877 ページ)

[歌詞のライン番号](#) (891 ページ)

[歌詞のフィルター](#) (876 ページ)

[歌詞の入力](#) (296 ページ)

[既存の歌詞の音節のタイプの変更](#) (879 ページ)

歌詞の一般的な配置規則

歌詞は通常それが属する譜表の下に位置し、対応する符頭に水平方向に整列するように配置されます。

標準の歌詞には通常プレーンフォントが使用され、コーラスの歌詞および訳詞には、区別のために通常斜体フォントが使用されます。

歌詞の水平方向のスペーシングは、単語または音節が両側の単語または音節と重ならないだけの幅を持つ必要があります。そのため、歌詞を収めるために音符のスペーシングの調整が必要となる場合があります。

Dorico Pro では、歌詞を収めるために音符のスペーシングの変更が大きくなりすぎ、リズムの外観が不均等にならないように、対応する音符に対する歌詞の配置の調整を許可しています。たとえば、短い音符に付いた長い単音節語の後に、長い音符に付いた長い単音節語が続く場合、2つめの単語が少し右に移動して、両方の単語に十分なスペースを作ります。



great strength_____

短い音符のあとに長い音符が続き、歌詞の水平位置が読みやすさのために自動的に調整されている例

関連リンク

[歌詞の位置](#) (884 ページ)

[歌詞に使用するフォントスタイルの変更](#) (896 ページ)

浄書オプションで歌詞の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」ページで、歌詞の外観と位置を設定してプロジェクト全体に適用できます。

「**歌詞 (Lyrics)**」ページのオプションを使用すると、歌詞のデフォルトの外観、スペーシングや位置、加えて歌詞のハイフンと延長線の外観や位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ](#) (362 ページ)

歌詞のフィルター

Dorico Pro では、歌詞フィルターを使用することで、プロジェクト全体または特定の選択範囲における指定したタイプの歌詞すべてを選択できます。

「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」を選択すると、以下のフィルターがメニューから使用できます。

すべての歌詞 (All Lyrics)

現在選択されている中から、歌詞のライン番号や譜表の上下に関わらず、すべてのタイプの歌詞を選択します。

ライン 1 (Line 1)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 1 の歌詞およびライン 1 の訳詞のみ選択します。

ライン 2 (Line 2)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 2 の歌詞およびライン 2 の訳詞のみ選択します。

ライン 3 (Line 3)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 3 の歌詞およびライン 3 の訳詞のみ選択します。

ライン 4 (Line 4)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 4 の歌詞およびライン 4 の訳詞のみ選択します。

ライン 5 (Line 5)

現在選択されている中から、譜表の上下に関わらず、ライン 5 の歌詞およびライン 5 の訳詞のみ選択します。

譜表の上 (Above Staff)

現在選択されている中から譜表の上のすべての歌詞を選択します。これは他のフィルターを使用したあとに追加で使用できます。たとえば、まずライン番号でフィルターをかけたあと、譜表に対する位置で再度フィルターをかけられます。

譜表の下 (Below Staff)

現在選択されている中から譜表の下のすべての歌詞を選択します。これは他のフィルターを使用したあとに追加で使用できます。たとえば、まずライン番号でフィルターをかけたあと、譜表に対する位置で再度フィルターをかけられます。

コーラス (Chorus)

現在選択されている中からすべてのコーラスの歌詞を選択します。

訳詞 (Translations)

現在選択されている中からすべての訳詞を選択します。

フィルターを使用した歌詞の選択

歌詞フィルターを使用すると、プロジェクト全体または特定の選択範囲における指定したタイプの歌詞すべてを選択できます。

前提条件

フィルターの設定を「**選択のみ (Select Only)**」に設定しておきます。これは「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > 「**選択のみ (Select Only)**」を選択して確認できます。

手順

1. 楽譜領域で、選択する歌詞すべてを含む範囲を選択します。
たとえば、**[Ctrl]/[command]+[A]** を押してフロー全体を選択します。
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」 > **[歌詞タイプ]**を選択します。

結果

選択範囲の中から指定したタイプのすべての歌詞が選択されます。たとえば、「**編集 (Edit)**」 > 「**フィルター (Filter)**」 > 「**歌詞 (Lyrics)**」 > 「**コーラス (Chorus)**」を選択すると、選択範囲内のすべてのコーラスの歌詞が選択されます。

関連リンク

[歌詞のフィルター \(876 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)

歌詞のタイプ

Dorico Pro では、歌詞はいくつかのタイプに分けられます。

歌詞のライン

歌詞のラインは標準の歌詞からなり、歌詞番号を伴って表示できます。これは譜表の上にも下にも表示できます。

コーラスのライン

コーラスのラインは斜体フォントで表示される歌詞からなり、歌詞のラインの間に配置されます。たとえば、2 行の歌詞があった場合、コーラスのラインはライン 1 とライン 2 の間に表示されます。

コーラスのラインには歌詞番号はありません。

訳詞のライン

訳詞のラインは、歌詞のラインまたはコーラスのラインのテキストを異なる言語で表示します。これは、翻訳元となる歌詞のラインまたはコーラスのラインのすぐ下に配置されます。これは斜体フォントで表示されます。

歌詞のラインはコーラスのラインも含め、それぞれが独自の訳詞のラインを持つことができます。

訳詞のラインは、翻訳元となる歌詞のラインの一部であるため、歌詞番号はありません。

すべてのタイプの歌詞は歌詞のポップオーバーを使用して入力できます。ポップオーバーの左側に表示されるアイコンは、現在入力中の歌詞のタイプを示しています。

関連リンク

[歌詞のライン番号 \(891 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(892 ページ\)](#)

[歌詞のポップオーバー \(297 ページ\)](#)

個々の歌詞のタイプの変更

個々の歌詞は入力後にタイプを変更できます。たとえば、歌詞はコーラスの歌詞または訳詞に変更できます。

手順

1. タイプを変更する歌詞を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンまたはオフにします。
 - **コーラス (Chorus)**
 - **訳詞 (Is translation)**

結果

- 「**コーラス (Chorus)**」をオンにすると、選択した個々の歌詞がコーラスの歌詞に変更されます。
- 「**訳詞 (Is translation)**」をオンにすると、選択した歌詞は同じライン番号の訳詞に変更されます。たとえば、ライン2の歌詞を選択して「**訳詞 (Is translation)**」をオンにすると、ライン2が訳詞に変更されます。
- 両方のプロパティをオンにすると、選択した歌詞はコーラスの訳詞に変更されます。
- 両方のプロパティをオフにすると、選択した歌詞が通常のコピーに変更されます。歌詞のライン番号は、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」のグループの「**ライン番号 (Line number)**」の数字で表示されます。

補足

選択中の歌詞のラインと同じ位置の同じ譜表の側に他のコーラスのラインが存在した場合、これをコーラスのラインに変更すると、2つのラインは衝突してしまいます。これを回避するには、歌詞のライン全体のタイプを変更します。こうすることで自動的に衝突が回避されます。

関連リンク

[歌詞を斜体で表示する \(896 ページ\)](#)

歌詞の音節のタイプ

歌詞の音節には、単語内の位置に応じていくつかのタイプがあります。歌詞のポップオーバーを進める際に押すキーによって、それぞれの歌詞の音節のタイプを指定できます。

Dorico Pro は、歌詞の入力時にポップオーバーをどのように進めたかに従い、それぞれの歌詞の音節のタイプを定義します。

文字列全体 (Whole word)

歌詞がスペースの後にきて、そのあとにスペースまたはピリオドが続く場合、歌詞は文字列全体であると見なされます。

文字列全体である歌詞には、いずれの側にもハイフンが表示されません。歌詞の後に延長線であれば表示される場合があります。

開始

歌詞がスペースの後にきて、そのあとにハイフンが続く場合、歌詞は多音節語における開始の音節であると見なされます。

開始の音節の後にはハイフンが表示されます。同じラインの次の歌詞までの距離によって、連続したハイフンが表示される場合もあります。

中央

歌詞がハイフンの後にきて、そのあとにもハイフンが続く場合、歌詞は多音節語における中央の音節であると見なされます。

中央の音節の後にはハイフンが表示されます。同じラインの次の歌詞までの距離によって、連続したハイフンが表示される場合もあります。

終了

歌詞がハイフンの後にきて、後にはスペースまたはピリオドが続く場合、歌詞は多音節語における終了の音節であると見なされます。

終了の歌詞の後には延長線が表示される場合があります。

関連リンク

[歌詞の入力](#) (296 ページ)

既存の歌詞の音節のタイプの変更

歌詞の音節のタイプは、歌詞を入力したあとでも変更できます。

たとえば、**[Space]** を押して歌詞のポップオーバーを次の音符に進めたが、あとからハイフンを付けることにしたような場合、音節のタイプを変更します。

補足

音節のタイプを変更すると、選択した歌詞の後 (前ではありません) にハイフンを表示するかどうかを変更されます。したがって、歌詞の前にハイフンを表示させる場合は、その直前の歌詞の音節のタイプを変更する必要があります。

手順

1. 音節のタイプを変更する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「音節のタイプ (Syllable type)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 文字列全体 (Whole word)
 - 先頭 (Start)
 - 中央 (Middle)

- 末尾 (End)

結果

音節のタイプが「文字列全体 (Whole word)」または「終了 (End)」である歌詞にはスペースが続きます。

音節のタイプが「開始 (Start)」または「中央 (Middle)」である歌詞にはハイフンが続きます。

関連リンク

[歌詞の入力](#) (296 ページ)

歌詞のラインの削除

歌詞のライン全体を削除できます。

手順

1. 記譜モードで、ライン全体を削除する歌詞がある譜表を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「フィルター (Filter)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > [歌詞タイプ] を選択して、削除する歌詞のラインだけを選択します。
3. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択したラインの歌詞がすべて削除されます。

関連リンク

[歌詞のフィルター](#) (876 ページ)

[フィルターを使用した歌詞の選択](#) (877 ページ)

[大きな選択範囲](#) (324 ページ)

歌詞を個別に削除する

同じ歌詞のラインに含まれる他の歌詞を除いて、選択した歌詞のみを削除できます。

手順

1. 記譜モードで、削除する歌詞を選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択した歌詞が削除されます。

歌詞のコピー/ペースト

Dorico Pro 内に存在する歌詞のラインと、外部のテキストエディターのどちらからでも、歌詞をコピーアンドペーストできます。これはたとえば、コピー元とは異なるリズムで同じ歌詞を歌うプレイヤーに歌詞のラインをコピーする場合に利用できます。

Dorico Pro の外部からテキストをコピーする場合、たとえば多音節語にはハイフンを追加するなど、適切に音節に分かれた形にテキストの書式を整える必要があります。これにより、各単語および音節ごとに必要となる文字数が正しく特定されるようになり、その結果歌詞の体裁を適切に整えられるようになります。自動的にハイフン処理を行なうツールも利用できますが、必ずしも信頼できる結果になるとは言えません。Dorico Pro はクリップボードにコピーされたテキストをチェックして、音節が正しく入力されるように、シングルスペースや単一のハイフンのみが含まれていることを確認します。

補足

現在のところ、中国語、日本語、韓国語の文字を含む歌詞はコピーアンドペーストできません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。

手順

1. 記譜モードで、コピーする歌詞またはテキストを選択します。

ヒント

大量の歌詞を選択する場合は、フィルターを使用して歌詞のラインを選択するか、歌詞を1つ選択して **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[A]** を数回押し、歌詞のライン全体の歌詞を選択します。

2. **[Ctrl]/[command]+[C]** を押して選択した歌詞またはテキストをコピーします。
 3. 記譜モードで、歌詞をコピーする声部の最初の音符を選択します。
 4. **[Shift]+[L]** を押して歌詞のポップオーバーを開きます。
初期設定では、歌詞のラインの入力が選択された状態で歌詞のポップオーバーが開きます。
 5. 必要に応じて、以下のいずれかの操作を行なって、歌詞を貼り付ける先の歌詞タイプを変更します。
 - 歌詞のライン番号を変更するには、**[↓]** を押します。
 - 譜表の上の歌詞のラインに変更するには、**[Shift]+[↑]** を押します。
 - コーラスのラインに変更するには、**[↑]** を押します。
 - 訳詞のラインに変更するには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
 6. **[Ctrl]/[command]+[V]** を押して、コピーした歌詞またはテキストの最初の単語または音節を貼り付けます。
歌詞のポップオーバーは元のテキストに従い、選択した音節の次の音符に自動的に進みます。たとえば、元テキストで音節のあとにハイフンが付く場合、ポップオーバーは **[-]** (ハイフン) が入力されたのと同様に進み、音節のあとには自動的にハイフンが表示されます。
 7. 必要に応じて、2つ以上の音符に適用させる単語または音節については、以下のいずれかの操作を行なって、手動でポップオーバーを進める必要があります。
 - 単語全体または多音節語の最後の音節のあとで、**[Space]** を押します。
 - 多音節語の最後ではない音節のあとで、**[-]** (ハイフン) を押します。
 - 音節のあとに延長線やハイフンをあとに付けない場合は、**[→]** を押します。
 8. 単語または音節を1つ1つ貼り付けるために **[Ctrl]/[command]+[V]** を押し続けます。
-

結果

選択した歌詞またはテキストが、コピー元の声部に属する、選択した歌詞のラインに貼り付けられます。

補足

歌詞または音節は、貼り付けと同時にクリップボードから削除されます。同じ歌詞またはテキストをもう一度他の歌詞のラインや譜表に貼り付ける場合は、コピー元を再度コピーする必要があります。

関連リンク

- [「歌詞を編集 \(Edit Lyrics\)」 ダイアログ \(882 ページ\)](#)
- [大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)
- [フィルターを使用した歌詞の選択 \(877 ページ\)](#)
- [同じタイプのアイテムをより多く選択する \(323 ページ\)](#)
- [歌詞のポップオーバー \(297 ページ\)](#)

歌詞テキストの編集

歌詞の校正は困難になる場合があります。通常のテキストより間隔が広く、1つの単語であっても横方向に大きく隔たれてしまうことがあるためです。Dorico Pro では、個々の単語または分節のテキストを歌詞のポップオーバーから変更することも、歌詞のライン全体を1つのダイアログに表示させながら変更することもできます。

既存の歌詞の編集

歌詞のテキストはテキストを入力したあとでも、たとえば文字の誤植を訂正するために変更できます。

補足

これを行なうと、該当する歌詞に設定されたすべてのプロパティがリセットされます。

手順

1. 記譜モードで、変更する歌詞を選択します。

補足

一度に変更できる歌詞は1つだけです。

2. **[Return]** または **[Shift]+[L]** を押して歌詞のポップオーバーを開きます。
3. 歌詞のポップオーバーで既存のテキストを変更します。
4. 必要に応じて、他の既存の歌詞も変更する場合は、以下のいずれかの操作を行なってポップオーバーの位置を移動させます。
 - 単語全体、または多音節語の最後の音節を入力してからポップオーバーを次の音符に進めるには、**[Space]** を押します。
[Space] を押すと、ポップオーバーには自動的に既存の歌詞が選択された状態になります。
 - 多音節語の音節のうち1つを入力してからポップオーバーを次の音符に進めるには、**[-]** を押します。
 - カーソルを右に1文字進めるには、**[→]** を押します。
 - カーソルを左に1文字進めるには、**[←]** を押します。
矢印キーを押し続けると、カーソルは次/前の歌詞/音符に自動的に移動します。
5. 歌詞の変更を終えたら、**[Return]** または **[Esc]** を押してポップオーバーを閉じます。
譜表の最後の音符に到達すると、ポップオーバーは自動的に閉じます。

関連リンク

[歌詞のライン番号](#) (891 ページ)

[歌詞の入力](#) (296 ページ)

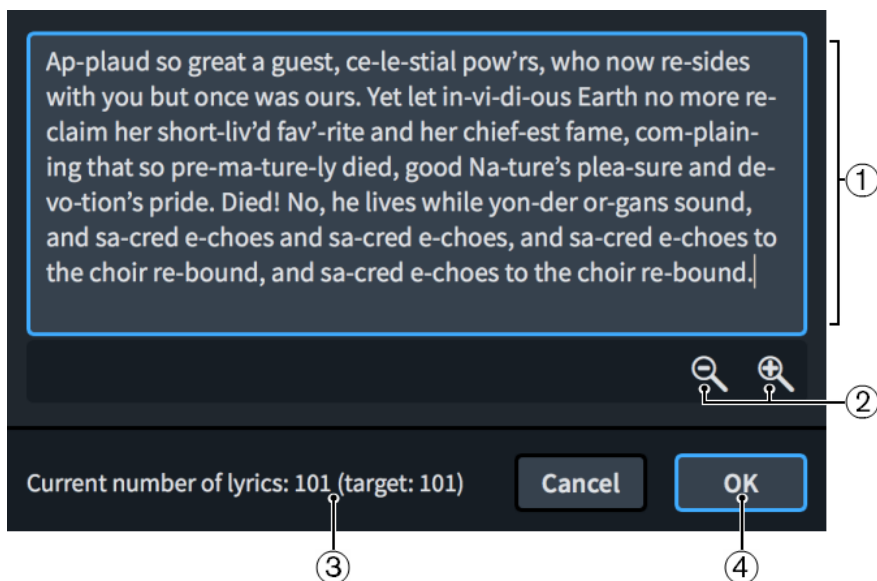
「歌詞を編集 (Edit Lyrics)」ダイアログ

「歌詞を編集 (Edit Lyrics)」ダイアログでは、歌詞全体を1か所に一定間隔のテキストで表示しながら、確認と編集を行なえます。これにより、各単語または音節が音符と並び、歌詞が水平方向に広く隔たった状態よりも変更作業がやりやすくなります。

- 「歌詞を編集 (Edit Lyrics)」ダイアログを開くには、1つ以上の歌詞を選択した状態で「編集 (Edit)」>「歌詞 (Lyrics)」>「歌詞のラインを編集 (Edit Line of Lyrics)」を選択します。

ダイアログには、選択した歌詞が属する歌詞のラインのすべての歌詞が表示され、文字の誤植の訂正、コンマの追加、単語中のハイフンの位置の変更といった歌詞の編集を行なえます。複数の歌詞を選択し

てダイアログを開いた場合、Dorico Pro は選択した中で一番上の譜表の一番早い位置にある歌詞が属する歌詞のラインをダイアログに表示します。



「歌詞を編集 (Edit Lyrics)」ダイアログ

「歌詞を編集 (Edit Lyrics)」ダイアログは以下で構成されます。

1 テキストエディター

現在のフローで選択した歌詞のラインに含まれるすべての歌詞と、必要に応じてハイフンやスペースも編集できます。たとえば、詩の形式として節の終わりにコンマを追加したり、ハイフンをスペースに置き換えたりできます。

補足

歌詞のデュレーションや位置 (それぞれの歌詞が適用される音符の数など) の追加、削除、変更はできません。

2 ズームコントロール

ダイアログ内のテキストのサイズを変更できます。

3 現在の歌詞の数 (Current number of lyrics)

テキストエディターに現在表示されている歌詞の数と、歌詞のラインの歌詞の目標数を表示します。目標数とは、フローで選択中の歌詞のラインに既に存在する歌詞 (対応する音符) の数です。

現在の歌詞の数は、ダイアログ内のテキスト変更を加えると自動的に更新されます。Dorico Pro では、現在の歌詞の数と目標数を一致させなければ、ダイアログを確定できません。

4 「OK」ボタン

変更を確定してダイアログを閉じます。現在の歌詞の数と目標数が一致した場合にのみダイアログを確定できます。

補足

ライン内の歌詞に設定されたプロパティ (斜体設定など) は、ダイアログ確定時にリセットされます。

関連リンク

[歌詞を斜体で表示する \(896 ページ\)](#)

歌詞の位置

Dorico Pro は歌詞の配置と、さまざまな長さの歌詞を収めるための調整を自動的に行いません。これにはメリスマ様式の楽譜における歌詞の水平位置の調整も含まれます。一方で、手動による歌詞の移動や、プロジェクト全体のデフォルト位置の変更もできます。

歌詞の位置は記譜モードで移動できます。歌詞のデフォルト位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」のページで選択したオプションに従います。

個々の歌詞の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

補足

Dorico Pro では、歌詞の水平位置は自動的に調整され、音符のスペーシングの変化を最小化します。長い音節でも音符のリズム上の外観をゆがめることなく配置できるように、音節は左右に小さく移動されます。

浄書モードで歌詞の表示位置を移動すると、選択した歌詞の自動スペーシングが上書きされます。位置が自動調整された歌詞を移動すると、その位置の音符のスペーシングが変わる場合があります。

「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」ページおよび「**音符のスペーシングの変更 (Note Spacing Change)**」ダイアログにある「**歌詞用のスペースを作成 (Make space for lyrics)**」オプションを使用すると、音符のスペーシングの計算に歌詞を反映しないようにできます。ただし、このオプションは注意して使用することをおすすめします。

歌詞のデフォルト位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」のページで変更できます。

「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」のページにおける歌詞のデフォルト設定は、スコアのスペーシングを読みやすくするために最適化されています。プロジェクトの音符のスペーシングを狭くして、各音符の空間を小さくする場合は、この設定を変更します。これにより、浄書モードで編集する量を抑えつつ、分かりやすく読みやすい楽譜にできます。

水平方向のスペースが少ないスコアにおいては、以下の変更を加えることにより、歌詞の外観やリズムに即したスペーシングが改善される場合があります。

- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」のページの「**ハイフン (Hyphens)**」のセクションで、歌詞とハイフンとの最小間隔など、間隔の最小値を小さくします。
- 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」のページの「**スペーシング (Spacing)**」のセクションで、歌詞の位置調整を行なえる幅を増加させます。

音節の位置

音節または単語の中で歌われる音符の数により、歌詞の配置が次のように決定されます。

- それ自体が単語であるか、より長い単語の部分である 1 つの音節が 1 つだけの音符に乗せて歌われる場合、対応する音符に中央揃えで配置されます。
- 2 つ以上の音符に乗せて歌われる音節または単語 (メリスマ) は、それが属する最初の音符の左側に左揃えで配置されます。

歌詞のラインの配置

歌詞は、そのライン番号に従い、他の歌詞のラインとの相対的な関係において配置されます。たとえば、ライン 1 の歌詞は 1 番上に配置されます。これは複数の歌詞のラインが譜表の上にある場合も含まれます。

あるラインの歌詞が 1 つの組段中に存在しない場合、他の歌詞のラインの間に間隔は追加されません。

個々の歌詞のラインを垂直方向に移動することもできます。浄書モードで歌詞のラインに含まれる任意の歌詞を選択すると、その組段のラインの最初の一語の左下に四角いハンドルが表示されます。これを使用すると、他の歌詞のラインとは個別に歌詞のラインの垂直位置を調節できます。



□ *And for bon - nie*

浄書モードで歌詞のラインの開始位置で四角いハンドルを選択した状態

例

3行の歌詞があるが、ある組段においては2行めの歌詞がない場合。この組段では、3行めの歌詞は上に移動し、1行めの歌詞に近づけられます。

次の組段では1行めがなく、しかし2行めと3行めはある場合、歌詞の2行めと3行めが上に移動されます。歌詞の2行めが1行めの位置に取って替わります。

関連リンク

[浄書オプションで歌詞の設定をプロジェクト全体に適用する](#) (876 ページ)

[歌詞の表示位置の変更](#) (886 ページ)

[歌詞のラインを垂直に移動する](#) (886 ページ)

[歌詞のラインの譜表に対する位置の変更](#) (893 ページ)

[「レイアウトオプション \(Layout Options\)」の「音符のスペーシング \(Note Spacing\)」ページ](#) (431 ページ)

[「音符のスペーシングの変更 \(Note Spacing Change\)」ダイアログ](#) (432 ページ)

歌詞のリズム上の位置の変更

歌詞は入力後に別のリズム上の位置へ移動できます。

手順

1. 記譜モードで、位置を移動する歌詞を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従い歌詞を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

補足

歌詞のリズム上の位置はマウスでは移動できず、キーボードしか使用できません。

結果

選択した歌詞が異なる位置に移動します。

歌詞の表示位置の変更

個々の歌詞の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。

補足

浄書モードで歌詞の表示位置を変更すると、選択した歌詞の自動スペーシングが上書きされます。位置が自動調整された歌詞を移動すると、その位置のスペーシングが変わる場合があります。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更する歌詞を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した歌詞を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- クリックして左右にドラッグします。

結果

選択した歌詞が水平位置に移動します。

補足

個々の歌詞は上下に移動できませんが、歌詞のラインは組段ごとで上下に移動できます。そのデフォルトの垂直位置は歌詞のライン番号と、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」におけるプロジェクト全体の設定により決定されます。

関連リンク

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(892 ページ\)](#)

[歌詞のラインの譜表に対する位置の変更 \(893 ページ\)](#)

歌詞のラインを垂直に移動する

プロジェクト全体の設定とは別に、組段ごとに歌詞のラインの表示位置を上下に移動できます。たとえば、ある組段のフレーズの形状の影響で、歌詞のラインが譜表の中間から偏った位置にあるように見える場合、これを修正できます。

補足

- 個々の歌詞は上下に移動できません。そのかわり、歌詞のライン番号または譜表に対する位置を変更できます。
- 歌詞の垂直位置を個別に変更する前に、別のページを追加してページレイアウトを完成させておくことをおすすめします。なぜなら歌詞のラインのオフセットは、それが表示されるフレームが変更されると自動的に解除されるからです。たとえば、歌詞のラインを個別に移動したあとにレイアウトの最初に空白のページを追加すると、レイアウト内の歌詞のラインの個別のオフセットはすべて解除されます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、歌詞のラインの垂直位置を変更する各組段から、以下のいずれかのアイテムを選択します。

- 垂直位置を変更する歌詞のラインに含まれる任意の歌詞
- 垂直位置を変更する歌詞のラインに含まれる最初の歌詞の左下に表示されるハンドル

補足

マウスを使用するときは、歌詞のラインそれぞれの開始位置にあるハンドルを選択する必要があります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した歌詞のラインを上下に移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- ハンドルをクリックして上下にドラッグします。

結果

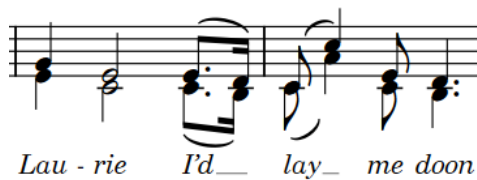
選択した歌詞のラインが選択した組段で上下に移動します。これは同じ組段の他の歌詞のラインの垂直オフセットには一切影響しません。

ヒント

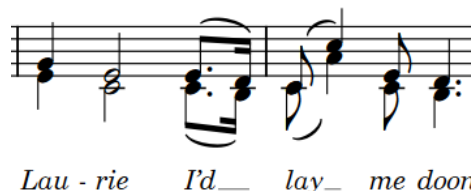
譜表、他の歌詞のライン、および他のオブジェクトに対する歌詞のデフォルト位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」のページにある「**垂直位置 (Vertical Position)**」のセクションで変更できます。

例

この例では、フレーズの形状により 3 番まである歌詞のラインの間にあるコーラスの垂直位置が、デフォルトの状態では上の譜表の音符に近く、下の譜表からは遠く見えてしまいます。コーラスのラインを下に動かすと、譜表の真ん中に配置されているように見えます。



デフォルトのコーラスの位置



下に移動させたコーラスのライン

関連リンク

[個々の歌詞のライン番号の変更 \(893 ページ\)](#)

[個々の歌詞のタイプの変更 \(878 ページ\)](#)

[浄書オプションで歌詞の設定をプロジェクト全体に適用する \(876 ページ\)](#)

歌詞のラインの垂直オフセットを解除する

個々の歌詞のラインの垂直オフセットの変更を解除して、デフォルト位置にリセットできます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかを選択します。
 - 特定の組段の特定の歌詞のラインのオフセットを解除するには、各組段のそれぞれの歌詞のラインの任意の歌詞を選択します。
 - 特定のフレーム内のすべての歌詞のラインのオフセットを解除するには、各フレーム内の任意の歌詞を選択します。
 - レイアウト内のすべての歌詞のラインのオフセットを解除するには、任意のフレームの任意の歌詞を選択します。
 2. 以下のいずれかの操作を行なって歌詞のラインのオフセットを解除します。
 - 現在のレイアウトに含まれるすべての歌詞のラインのオフセットを解除するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**歌詞のオフセット (Lyric Offsets)**」 > 「**レイアウトをリセット (Reset Layout)**」を選択します。
 - 選択したフレームに含まれるすべての歌詞のラインのオフセットを解除するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**歌詞のオフセット (Lyric Offsets)**」 > 「**選択したフレームをリセット (Reset Selected Frames)**」を選択します。
 - 選択した組段に含まれる選択した歌詞のラインのみのオフセットを解除するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**歌詞のオフセット (Lyric Offsets)**」 > 「**選択した組段をリセット (Reset Selected Systems)**」を選択します。
-

歌詞の配置を音符に対して個別に変更する

初期設定では、歌詞はその中央が符頭に対し水平方向に整列されますが、個々の歌詞について水平方向の配置を変更できます。

音符に対する歌詞の配置に初期設定は存在しません。音符のスペーシングの変更を最小化するため、Dorico Pro により自動的に歌詞の水平位置が調整されるためです。

補足

歌詞の配置の手動による変更は、選択した歌詞に対する Dorico Pro による自動スペーシングを上書きします。つまり、該当する位置の音符のスペーシングが変化する場合があります。

手順

1. 配置を変更する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**歌詞 (Lyrics)**」グループで、「**歌詞のテキストを整列 (Lyric text alignment)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかの配置オプションを選択します。
 - **左 (Left)**
 - **中央 (Center)**

- 右 (Right)

結果

選択した歌詞の配置が変更されます。

歌詞のハイフンと歌詞の延長線

歌詞のハイフンは、Hal-le-lu-jah のように、個々の歌詞が多音節語を構成する音節であることを示します。歌詞の延長線は、特定の歌詞 (単語または多音節語の最後の音節) が複数の音符にわたって延びることを表わします。



ハイフンと延長線を使用するフレーズ

Dorico Pro は、[-] を押して歌詞のポップオーバーを進めた場合は音節間に歌詞のハイフンを、歌詞を入力したあと [Space] を 2 回以上押して歌詞のポップオーバーを進めた場合は歌詞の延長線を、それぞれ自動的に入力して配置します。

浄書モードにおいては、歌詞のハイフンと歌詞の延長線にはそれぞれ開始位置と終了位置の 2 か所に四角いハンドルがあります。歌詞のハイフンと歌詞の延長線は全体を動かすことも、ハンドルを個別に動かすこともできます。これで歌詞のハイフンと延長線の長さを変更でき、それにより歌詞のハイフンが表示されるスペースの長さを増減できます。

way □ — □

ハンドルが表示された歌詞の延長線

a - □ way —

ハンドルが表示された歌詞のハイフン

補足

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「歌詞 (Lyrics)」ページの「ハイフン (Hyphens)」セクションで、デフォルトの歌詞のハイフンを変更できます。

関連リンク

[歌詞の延長線およびハイフンの長さの変更 \(890 ページ\)](#)

歌詞の延長線およびハイフンの移動

歌詞の延長線およびハイフンを水平に移動できます。

補足

歌詞の延長線またはハイフンを上下に移動することはできません。これらの垂直位置は、歌詞のライン番号と「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」のプロジェクト全体の設定によって決定されるためです。

手順

1. 浄書モードで、移動させる歌詞の延長線またはハイフンを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、歌詞の延長線またはハイフンを移動させます。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- クリックして左右にドラッグします。

結果

選択した歌詞の延長線またはハイフンが左右に移動します。

補足

- 歌詞の延長線の開始ハンドルは延長元の歌詞に接続され、歌詞のハイフンの開始ハンドルと終了ハンドルはそれぞれの側の歌詞に接続されています。いずれかの歌詞を移動した場合、対応する延長線またはハイフンのハンドルも移動します。
- 歌詞、組段の終了位置、および他の延長線やハイフンに対する歌詞の延長線およびハイフンの配置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**歌詞 (Lyrics)**」のページにある「**延長線 (Extender Lines)**」および「**ハイフン (Hyphens)**」のセクションで変更できます。

歌詞の延長線およびハイフンの長さの変更

歌詞の延長線および歌詞のハイフンは、個別に長さを変更できます。歌詞のハイフンの長さを変更すると、歌詞のハイフンの表示スペースが増減します。

補足

歌詞の延長線およびハイフンの開始ハンドルは、延長元の歌詞に接続されています。この歌詞を移動すると、開始ハンドルも動きます。

手順

1. 浄書モードで、長さを変更する歌詞の延長線またはハイフンの、以下のいずれかの位置にある四角いハンドルを選択します。
 - 歌詞の延長線またはハイフンの開始位置
 - 歌詞の延長線またはハイフンの終了位置

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- クリックして左右にドラッグします。

3. 必要に応じて、歌詞の延長線またはハイフンの他のハンドルについても手順 1 と 2 を繰り返します。

結果

選択した歌詞の延長線の長さが変更されます。たとえば、歌詞の延長線の終了ハンドルを動かさずに開始ハンドルを右に動かすと、線が短くなります。

歌詞のハイフンの長さを変更しても、ハイフンそのもののサイズや形状は変化しません。かわりに、ハンドル同士の距離が増減し、その間にハイフンが表示されます。

補足

- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「歌詞 (Lyrics)」のページの「ハイフン (Hyphens)」のセクションにあるハイフンに関する間隔のサイズの設定に応じて、歌詞のハイフンの長さを変更すると、スペース中に表示されるハイフンの数が変化します。
- 歌詞の延長線およびハイフンのハンドルを移動すると、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループにある対応する以下のプロパティがオンになります。
 - 「ハイフン/延長線の開始 X (Line start X)」は、歌詞の延長線およびハイフンの開始ハンドルを水平方向に移動させます。
 - 「ハイフン/延長線の終了 X (Line end X)」は、歌詞の延長線およびハイフンの終了ハンドルを水平方向に移動させます。

たとえば、歌詞の延長線全体を右に移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することで歌詞の延長線およびハイフンの表示位置を移動できます。

プロパティをオフにすると、選択した歌詞の延長線およびハイフンがデフォルト位置にリセットされます。

歌詞のライン番号

歌詞のライン番号は、1 番と 2 番の歌詞がある楽曲のように、1 つのパスセージにあわせて歌う複数の歌詞がある場合、これを整理するために使用されます。Dorico Pro では、歌詞を入力する際に、または入力後に歌詞のライン番号を変更することにより、歌詞のライン番号を指定できます。

たとえば、ライン 3 に歌詞を入力したあと、ライン 3 に別の歌詞を入れるためにこれをライン 4 に変更する場合、現在のライン 3 をライン 4 に変更したあとに新規のラインをライン 3 として入力できます。歌詞のラインを正しい順番で表示するために、スペーシングが自動的に調整されます。

Andante

S.
A.

1. Max - well - ton's braes are bon - nie,
2. Her__ brow__ is like the snow - drift,
3. Like__ dew on the gow - an ly - ing,

T.
B.

合唱曲の開始位置に表示された 3 番までである歌詞の 3 本のライン

Dorico Pro では、同じ譜表の上下いずれにも複数の歌詞のラインが存在できます。歌詞のラインをコーラスのラインまたは訳詞のラインに変更すると、コーラスの歌詞は通常斜体フォントを使用するため、配置と外観の両方が変更されます。

関連リンク

[歌詞番号 \(894 ページ\)](#)

[歌詞のフィルター \(876 ページ\)](#)

[歌詞を斜体で表示する \(896 ページ\)](#)

歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更

歌詞のライン全体のライン番号は、入力したあとでも変更できます。また、歌詞のライン全体をコーラスのラインや訳詞のラインに変更もできます。

たとえば、既存のライン 1 を訳詞のライン 4 に変更したり、ライン 2 をコーラスのラインに変更したりできます。

ヒント

変更するラインを指定するには、歌詞のラインの音節を 1 つ選択して、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループにある「ライン番号 (Line number)」の数値フィールドを確認します。または、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「歌詞 (Lyrics)」ページで、歌詞番号の表示をオンにできます。

手順

1. 記譜モードで、歌詞のラインタイプを変更するラインに属する歌詞を選択します。歌詞のラインは譜表の上にも下にも配置できます。

ヒント

一定範囲を選択したあとに歌詞フィルターを使用して、ライン番号に従い各種の歌詞のラインを選択することもできます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した歌詞のラインのラインタイプを変更します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「ライン (Line)」 > [ライン番号] を選択します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「ライン (Line)」 > 「コーラス (Chorus)」を選択します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「訳詞 (Translations)」 > [ライン番号の訳詞] を選択します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「訳詞 (Translations)」 > 「コーラスの訳詞 (Chorus Translation)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した歌詞のライン全体のライン番号またはタイプが変更されます。

補足

選択した歌詞のラインの同じ位置にある他の歌詞のラインに対する配置が変更される場合があります。たとえば 2 行の歌詞があり、ライン 1 をライン 3 に変更した場合、このラインはライン 2 の歌詞の下に表示が変わります。

同じ位置の譜表の同じ側にすでに同じ番号の歌詞のラインが存在する場合、2つのラインは入れ替わります。たとえば、ライン2をライン1に変更するとき、同じ位置にすでにライン1がある場合、最新の変更を行なえるように、元からあったライン1はライン2に変更されます。これはコーラスのラインおよび訳詞のラインに関しても同様です。

関連リンク

[歌詞のライン番号](#) (891 ページ)

[歌詞のタイプ](#) (877 ページ)

[歌詞のフィルター](#) (876 ページ)

個々の歌詞のライン番号の変更

歌詞のライン番号は、入力したあとでも個別に選択して変更できます。

手順

1. ライン番号を変更する歌詞を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで「ライン番号 (Line number)」の値を変更します。
-

結果

選択した歌詞のライン番号が数値フィールドの値に合わせて変更されます。

補足

選択した歌詞の他の歌詞のラインに対する位置が変更される場合があります。たとえば2行の歌詞があり、ライン1の歌詞をライン3に変更した場合、この歌詞はライン2の歌詞の下に表示が変わります。

歌詞のラインの譜表に対する位置の変更

歌詞のライン全体の譜表に対する位置は、入力したあとでも変更できます。

手順

1. 記譜モードで、譜表に対する位置を変更するラインに属する歌詞を選択します。

ヒント

一定範囲を選択したあとに歌詞フィルターを使用して、ライン番号および譜表に対する位置に従い、各種の歌詞のラインを選択することもできます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、譜表に対する位置を選択します。

- 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「位置 (Placement)」 > 「上 (Above)」を選択します。
- 「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「位置 (Placement)」 > 「下 (Below)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した歌詞が含まれる歌詞のライン全体の譜表に対する位置が変更されます。

補足

選択中の歌詞のラインを移動させる譜表の側の同じ位置に同じライン番号を持つ歌詞のラインが存在する場合、2つのラインの位置は入れ替わります。たとえば、ライン2の位置を譜表の下から上に変更するときに、すでに譜表の上の同じ位置にライン2がある場合、最新の変更を行なえるように、譜表の上に元からあったライン2は譜表の下に移動されます。

関連リンク

[歌詞のライン番号 \(891 ページ\)](#)

[歌詞のフィルター \(876 ページ\)](#)

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(892 ページ\)](#)

個々の歌詞の譜表に対する位置の変更

歌詞のラインに含まれる個々の歌詞の譜表に対する位置を変更できます。

手順

1. 譜表に対する位置を変更する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「ラインの配置 (Line placement)」から以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上 (Above)
 - 下 (Below)

結果

選択した個々の歌詞の譜表に対する位置が変更されます。

補足

同じ位置の譜表の同じ側にすでに同じライン番号を持つ歌詞のラインが存在する場合、2つのラインは重なり合います。これを防止するには、どちらかの歌詞のライン番号を変更するか、「編集 (Edit)」 > 「歌詞 (Lyrics)」 > 「位置 (Placement)」メニューからオプションを選択して譜表に対する位置を変更することにより、衝突を起こさないようにします。

歌詞番号

歌詞番号は、共通のパスセージに複数の歌詞のラインが存在するときに、歌詞が歌われる順番を示します。これは一般的には讃美歌や歌の楽譜で使用されます。

作成中の楽譜の種類によっては、歌詞番号は適切ではない場合もあります。そのため Dorico Pro では、歌詞番号の表示/非表示を選択できるようになっています。初期設定では、歌詞番号は表示されません。プロジェクト内のすべての歌詞のラインおよび個々に選択した歌詞いずれにおいても、歌詞番号の表示/非表示を切り替えられます。

プロジェクト全体のすべての歌詞のラインに歌詞番号を表示した場合、初期設定では、そのラインの最初の歌詞の前にのみ歌詞番号が表示され、それ以降の組段で自動的に繰り返されることはありません。そのため、後に続く組段でも歌詞番号を表示させる場合は、個々の歌詞において歌詞番号を表示させる必要があります。

補足

訳詞のラインは翻訳元となる歌詞のラインの一部であるため、独自の歌詞番号は持ちません。

プロジェクト全体で歌詞番号を表示/非表示にする

プロジェクト全体で歌詞番号を表示/非表示にできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストの「**歌詞 (Lyrics)**」をクリックします。
 3. 「**歌詞番号 (Verse Numbers)**」セクションの「**歌詞 1 行ごとの歌詞番号 (Verse numbers for each line of lyrics)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **歌詞番号を表示 (Show verse numbers)**
 - **歌詞番号を非表示 (Do not show verse numbers)**
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

プロジェクト全体で歌詞番号が表示または非表示になります。

歌詞番号の表記法の変更

歌詞番号の表記法を変更してプロジェクト全体に反映できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストの「**歌詞 (Lyrics)**」をクリックします。
 3. 「**歌詞番号 (Verse Numbers)**」のセクションの「**歌詞番号の表記法 (Punctuation for verse numbers)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **ピリオド (ドット) をつける (Append period (full stop))**
 - **ピリオド (ドット) をつけない (Do not append period (full stop))**
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

プロジェクト全体の歌詞番号がピリオド付きまたはピリオドなしで表示されます。

個々の歌詞において歌詞番号を表示/非表示にする

個々の歌詞の歌詞番号は、プロジェクト全体の設定より優先される形で表示または非表示に設定できます。たとえば、すべての組段の開始位置に歌詞番号を表示させる場合などはこれを行いません。

手順

1. その前に歌詞番号を表示させる、または非表示にする歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**歌詞 (Lyrics)**」のグループで、「**歌詞番号を表示 (Show verse number)**」をオンまたはオフにします。
 3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
-

結果

チェックボックスがオンのときは選択した歌詞の前に歌詞番号が表示され、オフのときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、歌詞は歌詞番号の表示/非表示についてプロジェクト全体の設定に従います。

歌詞に使用するフォントスタイルの変更

利用できる歌詞のタイプに使用するフォントの設定をプロジェクト全体で変更できます。

手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
2. 変更するフォントを「フォントスタイル (Font style)」メニューから選択します。
 - 歌詞フォント (Lyrics Font)
 - 訳詞用フォント (Lyrics Translation Font)
 - 歌詞番号のフォント (Lyrics Verse Numbers Font)
 - コーラス歌詞用フォント (Chorus lyrics Font)
 - コーラスの訳詞用フォント (Chorus lyrics translation Font)
3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
 - フォントファミリー (Font family)
 - サイズ (Size)
 - スタイル (Style)
 - 下線 (Underlined)
4. 必要に応じて、スタイルを変更するフォントごとに手順2と3を繰り返します。
5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択した歌詞タイプのフォントスタイルがプロジェクト全体で変更されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

歌詞を斜体で表示する

個々の歌詞について、フォントスタイル、歌詞タイプ、または譜表に対する位置を変更しなくても、斜体表示に変更できます。

手順

1. 斜体フォントで表示する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループで、「斜体 (Italic)」をオンにします。

結果

選択した歌詞が斜体フォントで表示されます。

ヒント

歌詞がコーラスの歌詞または訳詞であることを示すために斜体表示にする場合は、歌詞タイプの変更がより適切です。

プロジェクト全体の標準の歌詞すべてを斜体フォントで表示させる場合は、「歌詞フォント (Lyrics Font)」のフォントスタイルを変更してください。

関連リンク

[歌詞のライン番号および歌詞のラインタイプの変更 \(892 ページ\)](#)

[個々の歌詞のタイプの変更](#) (878 ページ)

日本語の歌詞でのスラー

日本語の歌詞でのスラーは、日本語で 2 つ以上の文字が同じ音符の歌詞に属することを示します。



日本語の歌詞でのスラーを使用するフレーズ

プロジェクト内の該当するすべての歌詞および個々に選択した歌詞いずれにおいても、日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示を切り替えられます。

日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示

日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示は、個々の歌詞についてプロジェクト全体の設定より優先される形で切り替えられます。

手順

1. 日本語の歌詞でのスラーを表示する歌詞を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」のグループで、「日本語の歌詞でのスラーを表示 (Show East Asian elision slur)」をオンまたはオフにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

チェックボックスがオンになっているときは選択した歌詞に日本語の歌詞のスラーが表示され、オフになっているときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、歌詞の表示はプロジェクト全体の設定に従います。

ヒント

該当するすべての歌詞における日本語の歌詞でのスラーの表示/非表示に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「歌詞 (Lyrics)」のページで選択できます。

音符

音符とは譜表上に配置し、音程を指示するための記号です。音符は通常、楕円形の符頭で、デュレーションによって黒玉か白玉で表示されますが、他にもさまざまなデザインの符頭が使用できます。

デュレーションによっては、音符は符尾を持つことがあります。符尾はデュレーションを示すために使用されます。

Dorico Pro では、タイで連結された隣接する音符のシーケンスは、個々の音符ではなく、タイのつながり全体のデュレーションを持つ単一の音符と見なされます。音符のグループ化は、通常拍子記号により設定される一般的な拍グループに従って自動的に調整されます。

関連リンク

[音符の入力](#) (176 ページ)

[音符のスペーシング](#) (430 ページ)

[符尾](#) (1212 ページ)

[個々の符頭のデザインの変更](#) (910 ページ)

[音程追加のポップオーバー](#) (202 ページ)

[既存の音符の上/下に音符を追加](#) (201 ページ)

[括弧付きの符頭](#) (918 ページ)

[タイ](#) (1235 ページ)

[音符と休符のグループ化](#) (692 ページ)

[拍に従う連符グループ](#) (676 ページ)

浄書オプションで音符の設定をプロジェクト全体に適用する

音符および符頭の外観に関するプロジェクト全体の設定については、「[浄書 \(Engrave\)](#)」 > 「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」の「[音符 \(Notes\)](#)」ページからさまざまなオプションが選択できます。

このページのオプションを使用すると、符頭、加線、符尾、符鉤および付点のデザイン、外観および位置を変更できます。また、倍全音符 (二全音符) の外観および装飾音符の標準の音符に対するサイズも変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ](#) (362 ページ)

符頭セット

符頭セットは、記譜に際して音符のデュレーションの表現に必要なすべての異なる符頭をひとまとめにした、同種のデザインに属する符頭の集まりです。

標準的な符頭セットには、最低 4 つの符頭が設定されています。

- 4 分音符かそれ以下のデュレーションの音符用の黒玉符頭
 - 2 分音符用の白玉符頭
 - 全音符用の幅広の白玉符頭
 - 倍全音符用の、幅広の白玉符頭の両側に 1 本か 2 本の縦線が付いたもの、または四角形の白い符頭
- ピッチ依存の符頭セットには、音符のデュレーションではなくピッチで変化する符頭も含まれます。

- ピッチの符頭セットには、ピッチごとに異なる符頭が設定されています。
たとえばピッチ名符頭セットは、それぞれの音符の符頭にアルファベットによる音名と、該当する場合は臨時記号を表示します。
- 音度の符頭セットには、現在の調号に対するそれぞれの音符の音度ごとに異なる符頭が設定されています。
たとえば Aikin 7 種の形状の符頭セットは、ピッチごとに形状が異なる符頭を使用します。

補足

- 1 つの符頭が複数の符頭セットに使用される場合もあります。ある符頭セットにおいてある符頭を編集した場合、その符頭が設定されているすべての符頭セットにおいて、その符頭の外観に変化が反映されます。
- 符頭セットには同じ種類の符頭しか設定できません。たとえば、標準の符頭はピッチ符頭セットには使用できません。
- 既存の符頭セットまたは既存の符頭のタイプは変更できません。

関連リンク

[ピッチ依存の符頭セットのデザイン](#) (902 ページ)

[カスタムの符頭セット](#) (904 ページ)

符頭セットのデザイン

Dorico Pro には、個々の符頭に使用できる数種類の符頭セットのデザインが用意されています。

- 「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > [符頭のタイプ] > [符頭のデザイン] を選択すると、利用できる符頭のデザインを確認できます。

補足

Dorico Pro では、符尾なしの符頭は用意されていません。かわりに、どの符頭デザインにおいても、音符の符尾を非表示にできます。

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

大きめの符頭 (Larger Noteheads)



デフォルトの符頭 (Default Noteheads)



丸付き符頭 (大) (Large Circled Noteheads)



丸付き符頭 (Circled Noteheads)

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

スラッシュ付き符頭 (左下から右上) (Slashed Noteheads (Bottom Left to Top Right))

スラッシュ付き符頭 (左上から右下) (Slashed Noteheads (Top Left to Bottom Right))

X 形の符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

丸付き X 符頭 (Circle X Noteheads)

X および菱形の符頭 (大) (Large X and Diamond Noteheads)

装飾文字の X 符頭 (Ornate X Noteheads)

+ 符頭 (Plus Noteheads)

X 付き符頭 (With X Noteheads)

X 符頭 (X Noteheads)

X と丸付き X 符頭 (X and Circle X Noteheads)

X と菱形符頭 (X and Diamond Noteheads)

三角形の符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

下向き矢印符頭 (大) (Large Arrow Down Noteheads)



上向き矢印符頭 (大) (Large Arrow Up Noteheads)



逆三角形符頭 (Triangle Down Noteheads)



左向き三角形符頭 (Triangle Left Noteheads)



右向き三角形符頭 (Triangle Right Noteheads)



三角形符頭 (Triangle Up Noteheads)

菱形の符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

菱形符頭 (Diamond Noteheads)



旧式の菱形符頭 (Old-Style Diamond Noteheads)



菱形符頭 (白) (White Diamond Noteheads)



菱形符頭 (幅広) (Wide Diamond Noteheads)

スラッシュ符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

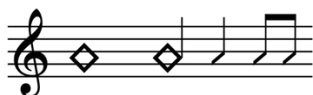
ミュートスラッシュ符頭 (Muted Slash Noteheads)



スラッシュ符頭 (特大) (Oversized Slash Noteheads)



スラッシュ符頭 (Slash Noteheads)



スラッシュ符頭 (小) (Small Slash Noteheads)

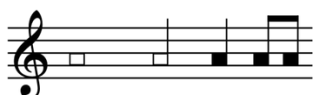
丸と四角の符頭

符頭セットのデザイン

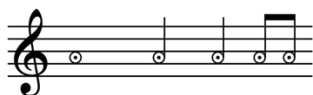


符頭セットの名称

半月形符頭 (Moon Noteheads)



長方形符頭 (Rectangular Noteheads)



点付き白丸符頭 (Round White with Dot Noteheads)

関連リンク

[個々の符頭のデザインの変更 \(910 ページ\)](#)

[符尾の非表示 \(1218 ページ\)](#)

ピッチ依存の符頭セットのデザイン

ピッチ依存の符頭セットは、音符のピッチに従い異なるデザインまたはカラーの符頭を使用します。Dorico Pro では、数種類のピッチ依存の符頭セットが利用できます。

- 「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > [符頭のタイプ] > [符頭のデザイン] を選択すると、利用できる符頭のデザインを確認できます。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページでは、すべての符頭にピッチ依存の符頭のデザインを使用することをプロジェクト全体の設定として選択できます。

音度による符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

Aikin 7 種の形状の符頭 (Aikin 7-shape Noteheads)



Funk 7 種の形状の符頭 (Funk 7-shape Noteheads)



Walker 4 種の形状の符頭 (Walker 4-shape Noteheads)



Walker 7 種の形状の符頭 (Walker 7-shape Noteheads)

ピッチによる符頭

符頭セットのデザイン



符頭セットの名称

Figurenotes© の符頭 (Figurenotes© Noteheads)



ピッチ名符頭 (Pitch name noteheads)

関連リンク

[符頭セット \(898 ページ\)](#)

[個々の符頭のデザインの変更 \(910 ページ\)](#)

[プロジェクト全体でスケールディグリーごとに異なる形状の符頭を表示する \(911 ページ\)](#)

[プロジェクト全体で符頭にノート名を表示する \(911 ページ\)](#)

カスタムの符頭セット

カスタムの符頭および符頭セットを作成および編集できます。これによりたとえば、追加の演奏技法を表す特定の形状を持つ符頭を作成できます。

Dorico Pro では、符頭はセットにグループ化されます。これにより異なるデュレーションに使用される符頭をカスタマイズできます。たとえば、標準の符頭セットは4分音符と2部音符では異なる符頭を使用します。

「**符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)**」ダイアログでは、カスタムの符頭セットの作成および既存の符頭セットの編集が行なえます。

「**符頭を編集 (Edit Notehead)**」ダイアログでは、それぞれの符頭セットについて、符頭の新規作成および個々の符頭の編集が行なえます。

関連リンク

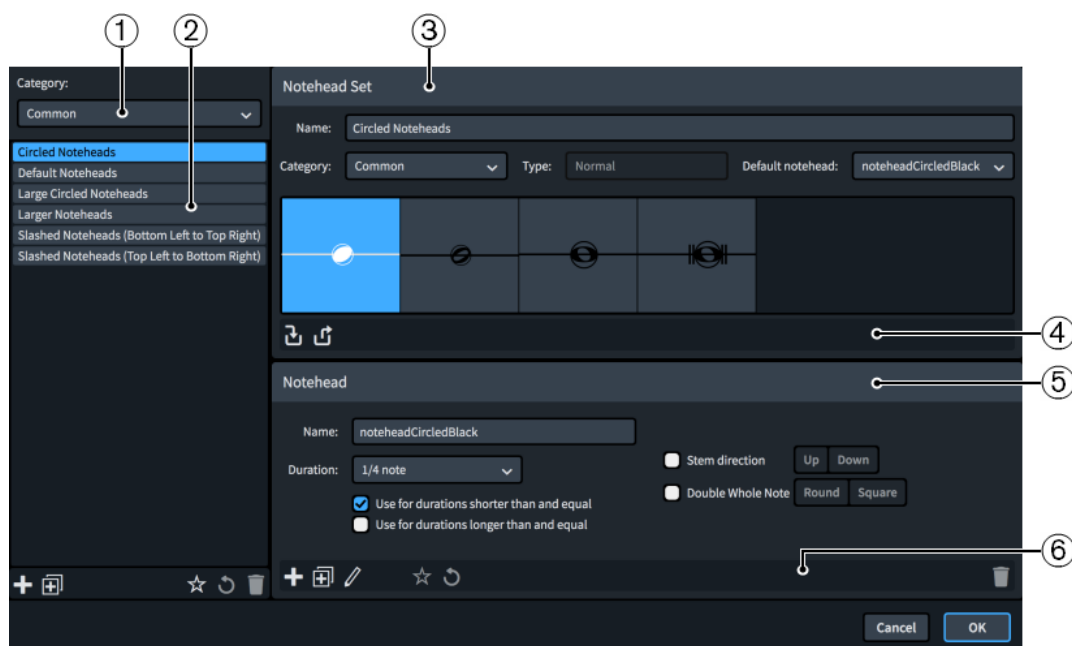
[符頭セット \(898 ページ\)](#)

[「符頭を編集 \(Edit Notehead\)」ダイアログ \(907 ページ\)](#)

「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」ダイアログ

「**符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)**」ダイアログでは、カスタムの符頭セットの追加、編集および削除が行なえます。また、符頭の外観と機能に関するさまざまな設定も、符頭セットごとに変更できます。

- 「**符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)**」ダイアログは、浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**符頭セット (Notehead Sets)**」を選択すると開きます。



「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」ダイアログ

「**符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)**」ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。

1 「カテゴリー (Category)」メニュー

メニューから「**X 形 (Crosses)**」や「**菱形 (Diamonds)**」などのカテゴリーを選択することで、符頭セットのリストを切り替えられます。このカテゴリーは、メニュー内の符頭セットの場所 (例: 「**編集 (Edit)**」 > 「**符頭 (Notehead)**」 > 「**X 形 (Crosses)**」 > 「**X 符頭 (X Noteheads)**」) に対応します。

2 符頭セットのリスト

選択中のカテゴリに属する、プロジェクト中のすべての符頭セットが表示されます。
リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New):** 新規符頭セットを追加します。初期設定では、新規符頭セットは「標準 (Normal)」タイプになり、「一般 (Common)」カテゴリに入ります。



- **選択から新規作成 (New from Selection):** 選択中の符頭セットの複製となる新規符頭セットを追加します。



補足

1つの符頭が複数の符頭セットに使用される場合もあります。ある符頭セットにおいてある符頭を編集した場合、その符頭が設定されているすべての符頭セットにおいて、その符頭の外観に変化が反映されます。

- **デフォルトとして保存 (Save as Default):** 選択中の符頭セットをユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。



- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory):** 選択中のプリセットの符頭セットに加えた編集をすべて削除し、元の設定と外観に戻します。



- **削除 (Delete):** 選択した符頭セットを削除します。



補足

プリセットの符頭セットは削除できません。

3 「符頭セット (Notehead Set)」 セクション

符頭セットリストで選択されている符頭セットに設定された符頭を表示します。符頭セットに適用される以下のオプションがあります。

- **名前 (Name):** 選択中の符頭セットの名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。
- **カテゴリ (Category):** 「X形 (Crosses)」など、符頭セットのカテゴリを選択できます。このカテゴリは、メニュー内の符頭セットの場所 (例: 「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「X形 (Crosses)」 > 「X符頭 (X Noteheads)」) に対応します。
- **タイプ (Type):** 符頭セットが「標準 (Normal)」、「ピッチ (Pitched)」、「音度 (Scale Degree)」のいずれであるか表示します。

補足

符頭セットの「タイプ (Type)」は変更できません。特定の「タイプ (Type)」の符頭セットを新規に作成する場合、符頭セットリストからそのタイプの既存の符頭セットを選択して、「**選択部分から新規作成 (New from Selection)**」をクリックする必要があります。

- **デフォルトの符頭 (Default notehead):** 音符の要求に一致する符頭が存在しない場合、Dorico Pro がどの符頭を使用するか選択できます。たとえば全音符より長い音符を入力したとき、そのデュレーションに定義された符頭がなかった場合などがこれに該当します。

4 符頭セットのアクションバー

符頭セットを構成する符頭を変更する以下のオプションがあります。

- **符頭を設定に追加 (Add Notehead to Set):** 符頭セットに新規に符頭を追加します。メニューから任意の符頭を選択できます。



補足

1つの符頭が複数の符頭セットに使用される場合もあります。ある符頭セットにおいてある符頭を編集した場合、その符頭が設定されているすべての符頭セットにおいて、その符頭の外観に変化が反映されます。

- **符頭を設定から削除 (Remove Notehead from Set):** 符頭セットから選択した符頭を削除します。



5 「符頭 (Notehead)」 セクション

「符頭セット (Notehead Set)」セクションで選択中の符頭に適用される以下のオプションがありません。

- **名前 (Name):** 選択中の符頭の名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。この名前は「符頭を設定に追加 (Add Notehead to Set)」メニューで使用され、固有である必要があります。
- **デュレーション (Duration):** 選択した符頭を使用する基本のデュレーションを選択できます。それから、選択した符頭がこれより短い/長い音符にも使用されるかどうか指定できます。
- **これ以下のデュレーションに使用 (Use for durations shorter than and equal):** 選択した符頭が選択した「デュレーション (Duration)」以下のデュレーションの音符にも使用されるかどうか指定できます。
- **これ以上のデュレーションに使用 (Use for durations longer than and equal):** 選択した符頭が選択した「デュレーション (Duration)」以上のデュレーションの音符にも使用されるかどうか指定できます。
- **符尾の方向 (Stem direction):** 選択した符頭について、符尾が上向きまたは下向きいずれかの音符のみに使用することを指定できます。これは特に、複数の形状がある符頭において必要な機能です。たとえば、三角形の符頭の三角形は符尾の方向に従い異なる方向を向きます。
- **倍全音符 (Double whole note):** 選択した符頭が「丸 (Round)」か「四角 (Square)」か指定できます。これは「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページの「倍全音符 (ブレーベ) の符頭の外観 (Appearance of double whole note (breve) notehead)」によるプロジェクト全体の設定に従い、倍全音符にどの符頭を使用するかを定義します。
- **ピッチ (Pitch):** 選択した符頭が使用される音名と臨時記号を指定します (「ピッチ (Pitch)」タイプの符頭のみ)。
- **音度 (Degree):** 選択した符頭が使用される音度を、1 から 7 の整数で指定します (「音度 (Scale Degree)」タイプの符頭のみ)。

6 符頭のアクションバー

新規および既存の符頭を編集できる以下のオプションがあります。

- **新規の符頭 (New Notehead):** デフォルトの黒玉符頭を基本とする「標準 (Normal)」の符頭を新規作成します。



- **選択から新規作成 (New from Selection):** 「符頭セット (Notehead Set)」セクションで選択中の符頭の複製となる符頭セットを新規作成します。



- **符頭を編集 (Edit Notehead):** 「符頭を編集 (Edit Notehead)」ダイアログを開きます。ここでは符頭そのものの外観を変更できます。



- **デフォルトとして保存 (Save as Default):** 選択中の符頭をユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。



- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory):** 選択中のプリセットの符頭に加えた編集をすべて削除し、元の設定と外観に戻します。



- **削除 (Delete):** 選択した符頭を削除します。



補足

プリセットの符頭、またはプロジェクト内で現在使用中の符頭は削除できません。

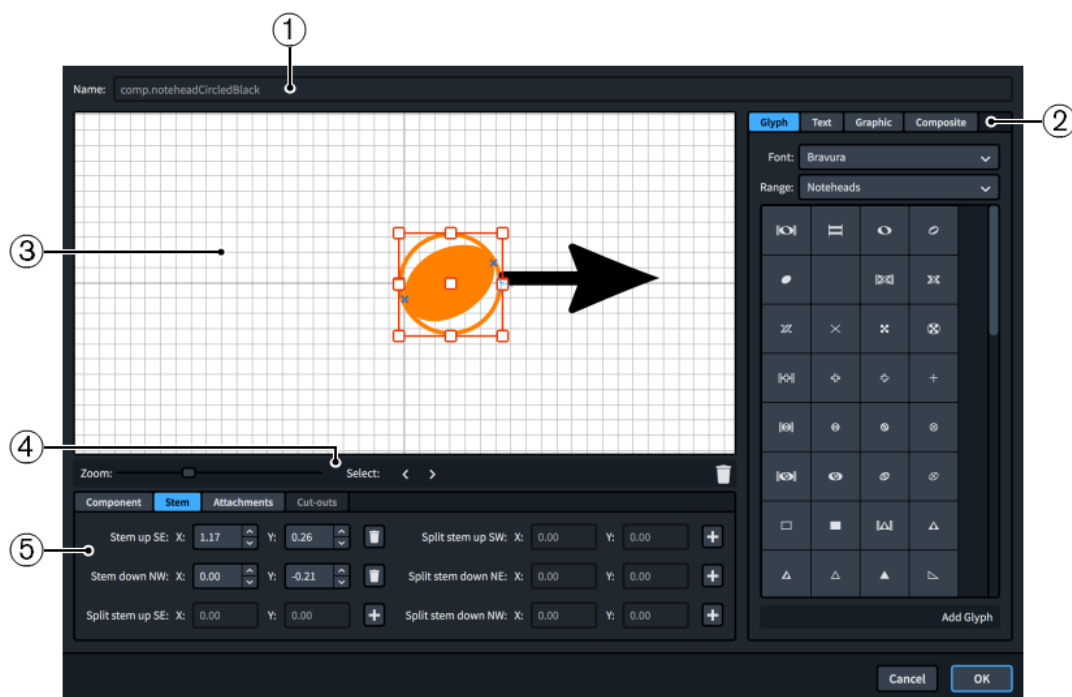
関連リンク

[符頭セット](#) (898 ページ)

「符頭を編集 (Edit Notehead)」 ダイアログ

「符頭を編集 (Edit Notehead)」 ダイアログでは、カスタムの符頭のデザインと、符頭の外観や配置の編集を行なえます。

- 「符頭を編集 (Edit Notehead)」 ダイアログは、「符頭セットを編集 (Edit Notehead Sets)」 ダイアログから開けます。「符頭セット (Notehead Set)」 リストからデザインを編集する符頭を選択してダブルクリックするか、「符頭 (Notehead)」 セクションのアクションバーにある「符頭を編集 (Edit Notehead)」 をクリックします。



「符頭を編集 (Edit Notehead)」 ダイアログ

「符頭を編集 (Edit Notehead)」 ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。

1 名前 (Name)

プリセットの符頭の保存名、または新規の符頭の自動生成された名前が表示されます。この名前は変更できません。

2 構成要素セレクター

符頭に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や#を追加できます。メニューからフォントや範囲を選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフを符頭に追加します。

補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFLのWebサイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したテキスト、または入力したテキストを符頭に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNGまたはJPG形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを符頭に追加します。
- **組み合わせ (Composite):** リストから組み合わせを選択できます。「**組み合わせを追加 (Add Composite)**」をクリックして、選択した組み合わせを符頭に追加します。

3 エディター

符頭を形作る要素の配置と編集を行いません。要素の配置と編集は、エディター内で要素をクリックしてドラッグするか、ダイアログ下部のコントロールを使用して行なえます。各要素のハンドルを使用してサイズを変更することもできます。

符頭はエディターの中央に配置し、その左端を太い垂直のグリッド線に、その中央を太い水平のグリッド線に揃えることをおすすめします。

4 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom):** エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select):** 次/前の要素を選択できます。
- **アタッチメントの表示 (Show Attachments):** エディターのすべての要素のアタッチメントをすべて表示します。



- **削除 (Delete):** 選択した要素を削除します。



5 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。符頭に関しては、「**要素 (Component)**」、「**符尾 (Stem)**」、および「**アタッチメント (Attachments)**」のタブが利用できます。「**切り抜き (Cut-outs)**」のタブは符頭には適用されません。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **「スケール (Scale)」:** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。

補足

一部の要素は高さや幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- 「**前後の順序 (Z order)**」: 要素が重なった場合、「**前面へ移動 (Bring Forward)**」または「**背面へ移動 (Send Backward)**」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。

「**符尾 (Stem)**」のタブには、符頭のどの位置に符尾が接続するかを制御するオプションがあります。それぞれの符頭には複数のアタッチメントポイント (接続位置) を持たせることができます。これは音符の符尾には上向きや下向き、さらにオルタードユニゾンの分割符尾もあり、多くの場合それぞれ接続される符頭の位置が異なるためです。符尾のアタッチメントポイントには、アタッチメントを使用する符尾の方向と、その位置に接続する符尾の部位が示されます。たとえば「**上向き符尾の下端 (Stem up SE)**」は、上向きの符尾の下端が符頭に接続する場所です。

「**符尾 (Stem)**」タブでは、それぞれの符尾のアタッチメントポイントに以下のオプションがあります。

- **X**: アタッチメントポイントを水平方向に移動します。
- **Y**: アタッチメントポイントを垂直方向に移動します。
- **追加**: 符頭にアタッチメントポイントを追加します。



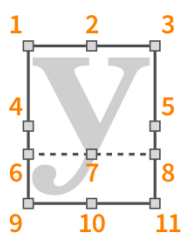
- **削除**: 符頭からアタッチメントポイントを削除します。



「**アタッチメント (Attachments)**」タブは、符頭が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from)**: 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to)**: 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「**符頭を編集 (Edit Notehead)**」ダイアログでは、アタッチメントポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)

- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

関連リンク

[オルタードユニゾン \(627 ページ\)](#)

個々の符頭のデザインの変更

トリルの補助音符を含め、個々の符頭についてデザインを変更できます。たとえば、木管楽器に空気を通す音のように、無音程のサウンドをプレーヤーが発することを示す場合などに、X 型の符頭を使用できます。

補足

この手順は、スラッシュ符頭の声部に属する音符には適用されません。

手順

1. デザインを変更する符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「符頭のタイプ」 > 「符頭のデザイン」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
たとえば、選択した音符の符頭のデザインを X 符頭に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「X 形 (Crosses)」 > 「X 符頭 (X Noteheads)」を選択します。

結果

選択した音符の符頭のデザインが変更されます。

ヒント

また、符頭のデザインに関するプロジェクト全体の設定変更も行なえます。

関連リンク

[浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する \(1110 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭 \(1109 ページ\)](#)

[スラッシュ付き声部 \(1312 ページ\)](#)

[符尾の非表示 \(1218 ページ\)](#)

プロジェクト全体で符頭のデザインを変更する

プロジェクト全体で符頭のデザインに関する設定を変更できます。たとえば教育プロジェクトに関連する譜面の作成で、すべての符頭に音名を表示する場合などにはこれを利用できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. ページリストの「音符 (Notes)」をクリックします。
3. 「符頭 (Noteheads)」のセクションにある「符頭のデザイン (Notehead design)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「デフォルトサイズの符頭 (Default size noteheads)」 (「大きめの符頭 (Larger noteheads)」より小さい)
 - 大きめの符頭 (Larger noteheads) (デフォルト)
 - ノート名を表示 (Note names)

- **Figurenotes© カラー (Figurenotes© colors)**

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

プロジェクト全体ですべての音符における符頭のデザインが変更されます。

補足

これは個別にデザインを変更した符頭のデザインには影響しません。たとえば選択した音符を菱形符頭に変更していた場合、その変更が優先されます。

プロジェクト全体でスケールディグリーごとに異なる形状の符頭を表示する

プロジェクト全体でスケールディグリーごとに異なる符頭のデザインを表示できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
 3. 「**符頭 (Noteheads)**」のセクションで、「**音度に基づく変形符頭 (Shaped noteheads based on scale degree)**」から以下のオプションのうちいずれかを選択します。
 - **Walker 4 種の形状 (Walker 4-shape)**
 - **Walker 7 種の形状 (Walker 7-shape)**
 - **Funk 7 種の形状 (Funk 7-shape)**
 - **Aikin 7 種の形状 (Aikin 7-shape)**
-

結果

プロジェクト全体のすべての符頭のデザインが変更され、選択に従いスケールディグリーごとに異なる符頭のデザインを表示するように変更されます。

補足

これにより、個別にデザインを変更した符頭のデザインが上書きされることはありません。

関連リンク

[ピッチ依存の符頭セットのデザイン \(902 ページ\)](#)

[個々の符頭のデザインの変更 \(910 ページ\)](#)

プロジェクト全体で符頭にノート名を表示する

プロジェクト全体のすべての符頭にノート名を文字で表示できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
3. 「**符頭 (Noteheads)**」のセクションで、「**符頭のデザイン (Notehead design)**」に「**ノート名を表示 (Note names)**」を選択します。

補足

これにより、個別にデザインを変更した符頭のデザインが影響を受けることはありません。

結果

個別にデザインが上書きされた以外のすべての符頭のデザインが、符頭の中にノート名を表示する形に変更されます。

補足

プロジェクトでレイアウトの譜表サイズを大きくすると可読性を向上できます。

関連リンク

[個々の符頭のデザインの変更](#) (910 ページ)

[譜表サイズ](#) (458 ページ)

[デフォルトの譜表サイズの変更](#) (443 ページ)

音符のサイズの変更

キューまたは装飾音符のデフォルトの縮尺サイズを使用して、音符のサイズを個別に変更できます。また、カスタムの縮尺サイズを使用できます。

ヒント

- すべての音符のサイズに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」のページで符頭のデザインを変更することによって変更できます。ただし、音符のサイズを個別に変更する方が自由度は高くなります。
 - 装飾音符やキューとして使用するために音符のサイズ変更を考えている場合は、サイズ変更ではなく装飾音符またはキューの入力を利用してください。
-

手順

1. サイズを変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**一般 (Common)**」グループで、以下のプロパティをオンにします。
 - デフォルトの縮尺サイズを使用する場合は「**スケール (Scale)**」をオンにします。
 - カスタムの縮尺サイズを使用する場合は、「**カスタム尺度 (Custom scale)**」をオンにします。
 - デフォルトの縮尺サイズをもとにしたカスタムの縮尺サイズを使用する場合は、「**スケール (Scale)**」と「**カスタム尺度 (Custom scale)**」の両方をオンにします。
 3. 「**スケール (Scale)**」をオンにした場合、必要に応じて、メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **標準 (Normal)**
 - **装飾音 (Grace)**
 - **キュー (Cue)**
 - **キュー装飾音 (Cue grace)**
 4. 「**カスタム尺度 (Custom scale)**」をオンにした場合、必要に応じて、数値フィールドの値を変更します。
-

結果

- 「**スケール (Scale)**」をオンにした場合、選択した音符が選択したデフォルトの縮尺サイズに変更されます。
- 「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」をオンにした場合、選択した音符が設定したカスタムのパーセンテージの縮尺サイズに変更されます。
- 「**スケール (Scale)**」と「**カスタム尺度 (Custom Scale)**」を両方オンにした場合、選択した音符が選択したデフォルトの縮尺サイズに対するカスタムのパーセンテージの縮尺サイズに変更されます。

す。たとえば、「スケール (Scale)」に「装飾音 (Grace)」を選択し、「カスタム尺度 (Custom Scale)」に「50」を設定した場合、選択した音符のサイズは装飾音符の半分のサイズになります。

関連リンク

[装飾音符の入力 \(197 ページ\)](#)

[キューの入力 \(318 ページ\)](#)

[符頭セットのデザイン \(899 ページ\)](#)

音符の位置の移動

音符は、装飾音符も含めて、入力後に譜表に沿って異なる位置に移動できます。

補足

これらの手順は連符の音符にも適用できますが、連符の角括弧または連符の数や比率を示す数字を選択しているかどうかによって動作が変わります。連符の移動には専用の手順に従うことをおすすめします。

手順

1. 記譜モードで、移動する音符を選択します。
 2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従い選択した音符を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
-

結果

選択した音符が新しい位置に移動します。複数の音符を選択した場合、音符はブロックとして一緒に移動します。

音符は他の音符のデュレーションや配置に応じて自動的に配置されます。

補足

「和音 (Chords)」がオフの状態、選択した音符が同じ譜表上の別の音符、もしくは同じ声部の同じ拍の位置と重なる場合、既存の音符は選択している音符に上書きされます。

音符を移動した直後であれば、移動を取り消して削除された音符を復元できます。

関連リンク

[連符の位置の移動 \(1280 ページ\)](#)

[リズムグリッド \(170 ページ\)](#)

[和音の入力 \(197 ページ\)](#)

[音符ツールボックス \(157 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連符の作成 \(683 ページ\)](#)

[音符を別の譜表に移動する \(342 ページ\)](#)

加線の幅を個別に変更する

個々の音符の加線の幅を変更できます。たとえばこれにより、短いデュレーションの音符を読み取れる状態のまま間隔を詰められます。

手順

1. 浄書モードで、加線の幅を変更する符頭を選択します。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「加線 (Ledger line)」をオンにします。
3. 「L」および「R」の値を変更します。

結果

「加線 (Ledger line)」の「L」の値を大きくすると加線の左側が長くなり、値を小さくすると加線の左側が短くなります。

「加線 (Ledger line)」の「R」の値を大きくすると加線の右側が長くなり、値を小さくすると加線の右側が短くなります。

ヒント

すべての加線の幅に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションで音符の設定をプロジェクト全体に適用する \(898 ページ\)](#)

加線の表示/非表示の切り替え

個々の音符は加線の表示/非表示を切り替えられます。たとえば音符の相対的な垂直位置でおおよそのピッチを示す場合などに、加線の非表示を使用します。

手順

1. 浄書モードで、加線の表示/非表示を切り替える符頭を選択します。

補足

加線を非表示にする場合、同じ声部で声部列の同じ並びに属する他の符頭もすべて選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「加線を非表示 (Hide ledger lines)」をオン/オフにします。

結果

選択した音符の加線が表示または非表示になります。

和音の構成音の一部のみ「加線を非表示 (Hide ledger lines)」をオフにした場合、選択した音符と譜表の間の、同じ声部で声部列の同じ並びに属するすべての音符に加線が表示されます。

関連リンク

[声部列の並び順 \(1311 ページ\)](#)

付点の統合

付点の統合は、複声部においてリズム上の同じ位置に表示される付点の数を制御します。存在する音符と声部の数、およびそれらの譜表上の位置により、付点の異なる表示数および表示位置が必要となる場合があります。

プロジェクト全体の複声部における付点の統合方法は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**付点 (Rhythm Dots)**」セクションで選択できます。付点の統合に関する全般的なオプションと、ユニゾンの音符に関する詳細なオプションが別個に用意されています。

付点の統合

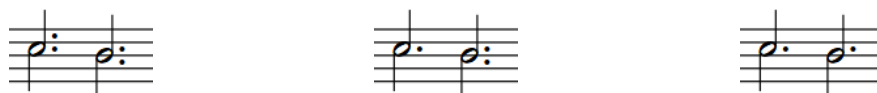


デュレーションに関係なくすべての音符の付点を統合

同じデュレーションの音符のみ付点を統合

付点の統合なし

ユニゾンの音符における付点の統合



ユニゾンの符頭ごとに1つの付点を表示

線上のユニゾンは符頭ごとに付点を表示するが、間上のユニゾンには1つの付点のみ表示

ユニゾンごとに1つの付点のみ表示

ヒント

複声部にある付点の統合方法は、個別に変更することもできます。

付点の統合を個別に変更する

複声部の付点が特定の拍で統合される方法を個別に変更できます。たとえば、非常に密集した和音で付点の表示数を減らすことができます。

手順

1. 浄書モードで、付点の統合を変更する音符を選択します。
2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**付点の統合 (Rhythm dot consolidation)**」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

チェックボックスがオンの場合はあらゆるデュレーションの音符の付点が統合され、チェックボックスがオフの場合は付点は統合されません。

プロパティがオフの場合は、付点は音符のデュレーションによって統合が行なわれるプロジェクト全体の設定に従います。

ヒント

複声部のすべての付点の統合方法に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページで変更できます。

付点の移動

付点は水平方向に移動できます。ただし、1つの付点をリズム上の同じ位置にある他の付点から独立して移動することはできません。

手順

1. 浄書モードで、移動する付点の位置の符頭を選択します。
2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**付点 X (Rhythm dot X)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

「**付点 X (Rhythm dot X)**」の値を大きくすると、選択した位置のすべての付点が右に移動し、小さくすると左に移動します。

個々の音符に弦を指定する

バイオリン、チェロやギターなど弦楽器に属する音符については、個別に選択してどの弦で演奏するかを指定できます。音符の多くは、弦を押さえる位置次第では複数の弦で演奏できます。

弦の指定は、グリッサンドやフィンガリングシフトを行なう音符に対して効果的です。音符を演奏するための弦とフィンガリングのポジションは、これらの変化の方向に影響するからです。ただし、弦の番号は楽譜に表示されません。そのかわりにフィンガリングを入力することにより、弦楽器プレイヤーは演奏すべき弦を把握できます。

補足

弦の指定は、弦楽器インストゥルメントに属する音符にのみ行なえます。

手順

1. 弦の割り当てを変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

複数の音符を同時に選択する場合は、同じインストゥルメントタイプの譜表の音符しか選択できません。たとえば、バイオリン1とバイオリン2の譜表における複数のCを選択します。

2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**弦 (String)**」をオンにします。
3. メニューから任意の弦を選択します。
インストゥルメントの弦番号が表示され、続いてその弦の基本ピッチおよびオクターブ番号が括弧内に表示されます。たとえば、チェロの最低弦は「**4 (C2)**」と表現されます。

補足

メニューで利用できるオプションは、選択したピッチとインストゥルメントのタイプによって変化します。

結果

選択した音符を演奏する弦が変更されます。

補足

この操作のあとに音符のピッチを変更した場合、指定した弦では演奏できなくなったすべての音符において「弦 (String)」が自動的にオフになります。

関連リンク

[グリッサンドライン \(962 ページ\)](#)

[弦楽器におけるフィンガリングのシフト指示記号の方向を変更する \(824 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(825 ページ\)](#)

[譜表の内側に弦の指示記号を入力する \(292 ページ\)](#)

音域外の音符のカラーを表示/非表示にする

音域外と見なされる音符にカラーを表示できます。これにはそのインストゥルメントや声楽のパートが演奏したり歌ったりするには高すぎる/低すぎる音符や、現在のハープペダルセッティングに合致しない音程などがあります。音域外の音符のカラーが非表示になっている場合、初期設定ではすべての音符が黒く表示されます。

音域外の音符のカラーは注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。

手順

- 「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)」 > 「音域外の音符 (Notes Out Of Range)」を選択します。
-

結果

メニュー内の「音域外の音符 (Notes Out Of Range)」の横にチェックマークがあるときは音符が赤で表示され、チェックマークがないときは黒で表示されます。

困難と見なされる音符は暗い赤で表示され、不可能または実質的に不可能な音符は明るい赤で表示されます。

補足

タブ譜の対応する弦のフレットの範囲外にある音符は、音域外の音符にカラーを表示しない設定であっても、常にクエスチョンマークで表示されます。

例



音域外の音符のカラーを表示した例。フレーズ中の3音は明るい赤で、他の音符は暗い赤で表示されている。

手順終了後の項目

音域外の音符のカラーが表示されたことで一部の音符が現在のハープペダル設定に合わないことが分かった場合、そのパッセージのために新しいペダルダイアグラムを入力するか、適切なハープペダルダイアグラムを自動作成できます。

関連リンク

[ハーブペダルダイアグラムの入力 \(289 ページ\)](#)

[既存の楽譜に基づくハーブペダルダイアグラムの計算 \(289 ページ\)](#)

[注釈 \(621 ページ\)](#)

括弧付きの符頭

括弧付きの符頭は、音符の演奏が任意であること、編集上の音符であること、リピートのある楽譜のすべてのリピート回で演奏される音符ではないこと、またはピアノで鍵盤を押さえるが完全には押し込まないことを示すために一般的に使用されます。Dorico Pro では、すべての符頭に括弧を表示できます。

各括弧にどの音符が含まれているのかがはっきりわかるように、符頭の括弧は符頭よりわずかに長く上下に伸びています。



符頭の丸括弧と符頭の角括弧が含まれているフレーズ

また、音符の譜表とタブ譜でそれぞれ個別に符頭に括弧を表示することもできます。

Dorico Pro では、以下の符頭の括弧のタイプを使用できます。

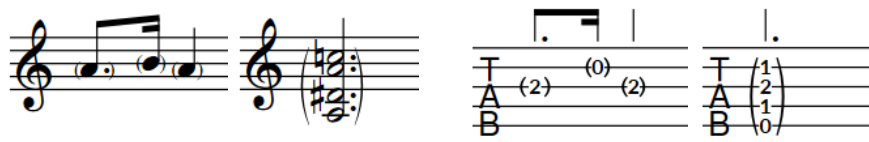
符頭の丸括弧

符頭の丸括弧はスラーと外観が似ていますが、垂直に配置されます。

初期設定では、単一の符頭に表示される丸括弧には、音符の譜表ではフォントグリフが使われ、タブ譜では描画曲線が使われます。浄書モードでは、描画曲線を使用した符頭の丸括弧にはハンドルが表示され、形状を変更できます。フォントグリフが使われた符頭の丸括弧には、浄書モードでもハンドルが表示されません。

補足

タブ譜では、タイのつながりの 2 番め以降のすべての音符/コードを囲む丸括弧が自動的に表示されます。タブ譜でタイのつながりのすべての符頭に括弧を表示した場合、自動的に表示されるこれらの符頭の括弧が含まれます。



音符の譜表で単一の符頭に丸括弧を表示した例
音符の譜表でコードに丸括弧を表示した例

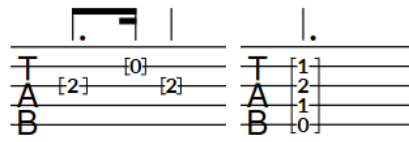
タブ譜で単一の符頭に丸括弧を表示した例
タブ譜でコードに丸括弧を表示した例

符頭の角括弧

符頭の角括弧は、垂直の直線の上下に水平のフックが付いた形になっています。角括弧の長さは、括弧が譜表線上で終わってフックが見えなくなるといったことがないように自動的に調整されます。



音符の譜表で単一の符頭に角括弧を表示した例
音符の譜表でコードに角括弧を表示した例



タブ譜で単一の符頭に角括弧を表示した例
タブ譜でコードに角括弧を表示した例

関連リンク

[タイでつながれた1つまたはすべての符頭に括弧を表示する \(921 ページ\)](#)

[浄書モードにおける符頭の括弧 \(923 ページ\)](#)

[音符をデッドノートとして表示する \(1209 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[タイ \(1235 ページ\)](#)

[単一の符頭の丸括弧の外観を変更する \(923 ページ\)](#)

浄書オプションで括弧付きの符頭の設定をプロジェクト全体に適用する

括弧付きの符頭の外観と位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」ページで変更できます。

「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」ページのオプションを使用すると、符頭の丸括弧/角括弧と符頭との間のデフォルトの間隔、符頭の括弧の太さと形状、符頭の丸括弧の外観を音符の楽譜とタブ譜の両方について変更できます。

補足

フォントグリフを使用した単一の符頭の丸括弧には浄書モードでもハンドルが表示されません。つまり、長さ、形状、幅を変更することはできません。

また、単一の括弧を使用するコード内の最大の音程や、タブ譜の隣接する弦に単一の括弧を表示するか個別の括弧を表示するかも変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

符頭に括弧を表示する

個々の符頭、コード内の単一の音符、およびコード全体に丸括弧または角括弧を表示できます。たとえば、特定の音符の演奏が任意であることや編集上の変更であることを示したい場合や、無音程打楽器の音符をゴーストノートとして表示したい場合などに使用します。

補足

デッドノートを表わすために符頭に括弧を表示したい場合は、かわりに音符をデッドノートとして表示できます。

手順

1. 括弧を表示する符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

- タイでつながれた個別の符頭 (最初の符頭以外) に括弧を表示するには、浄書モードでそれらの符頭を選択する必要があります。
- コード全体に括弧を表示するには、コード内のすべての音符を選択する必要があります。
- 音符の譜表とタブ譜の両方で括弧を表示するには、両方の譜表で音符を選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)」グループで「括弧スタイル (Bracket style)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 丸 (Round)
 - 四角 (Square)

結果

選択した音符に各タイプの符頭の括弧が表示されます。タブ譜のみで音符を選択した場合、音符の譜表の対応する音符には括弧が表示されません。逆も同様です。

記譜モードでは、タイでつながれた最初の符頭にのみ括弧が表示されます。浄書モードでは、タイでつながれた符頭も含め、選択した符頭にのみ括弧が表示されます。

コード内のすべての音符を選択した場合、コード内の音符間の間隔があまりに大きいと括弧が自動的に分割されますが、それ以外の場合は各コードに対して単一の括弧が表示されます。コード内の個々の音符を選択した場合、それぞれの音符に独立した括弧が表示されます。

ヒント

- 「括弧スタイル (Bracket style)」をオフにすると、選択した音符の括弧が非表示になります。
- 「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「丸括弧を切り替え (Toggle Round Brackets)」または「編集 (Edit)」 > 「符頭 (Notehead)」 > 「角括弧を切り替え (Toggle Square Brackets)」を選択して符頭の括弧の表示/非表示を切り替えることもできます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページで、これらのオプションにキーボードショートカットを割り当てることができます。

例



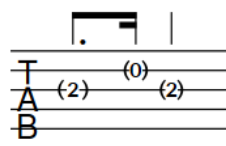
音符の譜表で単一の符頭に丸括弧を表示した例



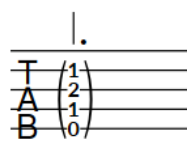
音符の譜表でコードに丸括弧を表示した例



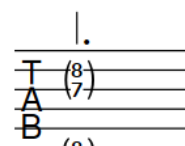
音符の譜表でコードに分割した丸括弧を表示した例



タブ譜で単一の符頭に丸括弧を表示した例



タブ譜でコードに丸括弧を表示した例



タブ譜でコードに分割した丸括弧を表示した例

関連リンク

[音符をデッドノートとして表示する \(1209 ページ\)](#)

[浄書モードにおける符頭の括弧 \(923 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

タイでつながれた 1 つまたはすべての符頭に括弧を表示する

タイでつながれた最初の符頭のみ括弧を表示するか、タイでつながれたデュレーション全体に表示するかを変更できます。後者は、左の括弧がタイのつながりの最初の符頭に表示され、右の括弧が最後の符頭に表示されます。初期設定では、括弧はタイのつながりの最初の符頭のみ表示されます。

前提条件

必要な音符に括弧を表示しておきます。

手順

1. タイのつながりに対する符頭の括弧の位置を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)」グループで「タイのつながりの終了位置までの括弧 (Bracket until end of tie chain)」をオン/オフにします。

結果

「タイのつながりの終了位置までの括弧 (Bracket until end of tie chain)」をオンにすると選択したタイのつながりの開始位置と終了位置に括弧が表示され、オフにすると最初の音符またはコードのみ括弧が表示されます。

括弧付きのコード内の単一の音符に対して「タイのつながりの終了位置までの括弧 (Bracket until end of tie chain)」をオンにすると、最初のコードの括弧が分割されることはありませんが、選択した音符のタイのつながりの終了位置にのみ追加の括弧が表示されます。これと同じようなコードで、別の音符がタイのつながりの終了位置まで括弧でくくられている場合にコード内の単一の音符に対して「タイのつながりの終了位置までの括弧 (Bracket until end of tie chain)」をオフにすると、タイのつながりの終了位置の括弧は分割されます。

タブ譜で音符を選択した場合、2 番めの音符/コードに自動的に括弧が表示され、タイでつながれたそれ以降のすべての音符/コードはプロパティ設定に従って更新されます。

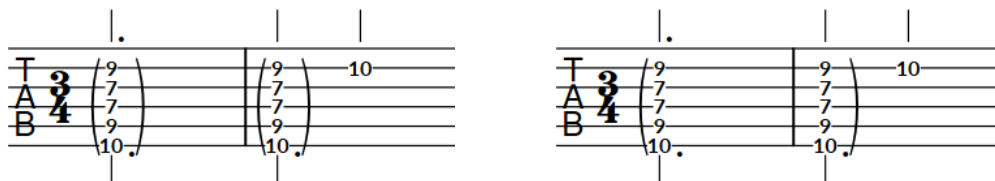
例



音符の譜表でタイのつながりの最初のコードにのみ括弧が表示された例



音符の譜表でタイのつながりの開始位置と終了位置に括弧が表示された例



タブ譜でタイのつながりの最初のコードにのみ括弧が表示され、2番めのコードに自動的に括弧が表示された例

タブ譜でタイのつながり全体の最初と最後に括弧が表示された例

関連リンク

[タイ](#) (1235 ページ)

コードの括弧の分割

コード内の符頭に付いた括弧を分割できます。初期設定では、コード内の音符間の間隔があまりに大きいと括弧が自動的に分割されますが、それ以外の場合はコード内のすべての音符に対して単一の括弧が表示されます。

手順

1. 括弧を分割する場所のすぐ上にあるコード内の個々の音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)」グループで「括弧を分割 (Break bracket)」をオンにします。

結果

選択した音符のすぐ下で括弧が分割されます。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)」ページにある「垂直方向の範囲 (Vertical Extent)」セクションで、コードの括弧が自動的に分割されるデフォルトの間隔を変更できます。

例



単一の丸括弧が付いたコード



分割された丸括弧が付いたコード

関連リンク
[和音の入力 \(197 ページ\)](#)

単一の符頭の丸括弧の外観を変更する

単一の符頭の丸括弧の描画にフォントグリフを使用するか、描画曲線を使用するかを変更できます。浄書モードでは描画曲線を使用した符頭の丸括弧にのみハンドルが表示され、形状を変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」をクリックします。
3. 「**デザイン (Design)**」のセクションの「**単一の符頭に使用される丸括弧の外観 (Round bracket appearance for single noteheads)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **フォントグリフを使用 (Use font glyph)**
 - **カーブを描画 (Use drawn curve)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

すべての単一の符頭の丸括弧の外観がプロジェクト全体で変更されます。

手順終了後の項目

描画曲線を使用した符頭の丸括弧の長さや形状を個別に変更できます。

関連リンク

[符頭の括弧の長さを変更する \(925 ページ\)](#)
[符頭の丸括弧の形状を変更する \(926 ページ\)](#)

浄書モードにおける符頭の括弧

浄書モードでは、符頭の丸括弧に複数のハンドルがあり、それらを個別に動かして表示上の位置、長さ、形状を調節できます。

描画曲線を使用した符頭の丸括弧には、個別に動かすことのできる3つの四角いハンドルが表示されます。上部または下部のハンドルを動かすと、開始ハンドルおよび終了ハンドルに対する相対的な位置を保つために中央ハンドルも移動します。

補足

フォントグリフを使用した単一の符頭の丸括弧には浄書モードでもハンドルが表示されません。つまり、長さ、形状、幅を変更することはできません。

符頭の角括弧には、上部と下部に1つずつ、合わせて2つのハンドルが表示されます。



浄書モードの符頭の丸括弧のハンドル



浄書モードの符頭の角括弧のハンドル

- 上部と下部のハンドルは、符頭の括弧のそれぞれの端を動かして表示上の長さを制御します。

- 中央ハンドルは符頭の丸括弧の形状を制御します。中央ハンドルを垂直に動かすと符頭の括弧の終端が符頭に近づく角度が変わり、水平に動かすと符頭の丸括弧の幅が変わります。

これらのハンドルを動かして符頭の括弧の表示上の長さを変えたり、符頭の丸括弧の形状を変えたりできます。

符頭の括弧の表示位置を移動する

符頭の括弧の表示位置を、その括弧が属する音符を変更することなく個別に移動できます。符頭の左右の括弧をそれぞれ個別に移動することもできます。

補足

符頭の括弧のリズム上の位置を移動することはできません。符頭の括弧を別の音符に移動したい場合は、元の音符の符頭の括弧を非表示にして新しい音符の符頭の括弧を表示する必要があります。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動する符頭の括弧を選択します。

補足

ハンドルではなく、符頭の括弧全体を選択する必要があります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、符頭の括弧を移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択した符頭の括弧の表示位置が、その括弧が属する音符を変更することなく移動します。必要に応じて、タイやスラーなどの別のアイテムが新しい位置に納まるように自動的に移動します。これにより、音符のスペーシングや配置設定に影響する場合があります。

ヒント

- 符頭の括弧を移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
 - 「**左括弧ボディ (L bracket body)**」は符頭の左括弧を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
 - 「**右括弧ボディ (R bracket body)**」は符頭の右括弧を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、符頭の括弧を移動することもできます。

プロパティをオフにすると、選択した符頭の括弧が初期設定の位置にリセットされます。

- 符頭の括弧と他のアイテムとの間の間隔も含め、すべての符頭の括弧のデフォルトの位置は「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」ページで変更できます。

符頭の括弧の長さを変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、符頭の括弧の表示上の長さを個別に変更して高さを変えることができます。

補足

長さを変更できるのは、描画曲線を使用した単一の符頭の丸括弧のみです。フォントグリフを使用した符頭の丸括弧は長さを変更できません。

手順

1. 浄書モードで、長さを変更する符頭の括弧の上下いずれかのハンドルを選択します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

結果

選択した符頭の括弧の表示上の長さが変更されます。これにより、適用される音符が変更されることはありません。

必要に応じて、衝突を回避するためにタイやスラーなどの近くの別のアイテムが自動的に移動します。

ヒント

- 符頭の括弧の長さを変更すると、変更した部位に応じて、プロパティパネルの「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
 - 「**左括弧の範囲 (L bracket extents)**」は符頭の左括弧の高さを制御します。「**T**」は上部のハンドルを動かし、「**B**」は下部のハンドルを動かします。
 - 「**右括弧の範囲 (R bracket extents)**」は符頭の右括弧の高さを制御します。「**T**」は上部のハンドルを動かし、「**B**」は下部のハンドルを動かします。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、符頭の括弧の長さを変更することもできます。

プロパティをオフにすると、選択した符頭の括弧が初期設定の位置にリセットされます。

- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」ページで、すべての符頭の括弧について符頭の上下を超える縦方向の長さをプロジェクト全体で変更できます。

関連リンク

[単一の符頭の丸括弧の外観を変更する \(923 ページ\)](#)

符頭の丸括弧の形状を変更する

符頭の括弧の幅を広くしたい場合や、括弧の終端がより急な角度で符頭に近づくようにカーブを変更したい場合など、符頭の丸括弧の形状を個別に変更できます。

補足

形状を変更できるのは、描画曲線を使用した単一の符頭の丸括弧のみです。フォントグリフを使用した符頭の丸括弧は形状を変更できません。

手順

1. 浄書モードで、形状を変更する符頭の丸括弧の中央のハンドルを選択します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した符頭の丸括弧の形状を変更します。

- 符頭の右括弧の幅を広げる、または符頭の左括弧の幅を狭めるには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 符頭の右括弧の幅を狭める、または符頭の左括弧の幅を広げるには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 符頭の括弧の終端の角度を大きくするには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
- 符頭の括弧の終端の角度を小さくするには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。

ヒント

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
- 中央のハンドルをクリックしてそれぞれの方向にドラッグすることもできます。

結果

選択した符頭の括弧の形状が変更されます。必要に応じて、衝突を回避するためにタイやスラーなどの近くの別のアイテムが自動的に移動します。これにより、音符のスペーシングや配置設定に影響する場合があります。

ヒント

符頭の括弧の中央のハンドルを動かすと、動かした部位に応じて、プロパティパネルの「**括弧付きの符頭 (Bracketed Noteheads)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**左丸括弧の中央 (L round br. middle)**」は符頭の左括弧の中央のハンドルを移動させます。「**X**」は水平に移動させて符頭の括弧の幅を変更し、「**Y**」は垂直に移動させて符頭の括弧のカーブを変更します。
- 「**右丸括弧の中央 (R round br. middle)**」は符頭の右括弧の中央のハンドルを移動させます。「**X**」は水平に移動させて符頭の括弧の幅を変更し、「**Y**」は垂直に移動させて符頭の括弧のカーブを変更します。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、符頭の丸括弧の幅と形状を変更することもできます。

プロパティをオフにすると、選択した符頭の括弧が初期設定の形状にリセットされます。

例



符頭の丸括弧の幅を広げた例



符頭の丸括弧の幅を狭めた例



終端の角度を急にした例



終端の角度をなだらかにした例

関連リンク

[スラーの肩のオフセット \(1150 ページ\)](#)

[単一の符頭の丸括弧の外観を変更する \(923 ページ\)](#)

ハーモニクス

ハーモニクスとは、振動している弦の特定の位置に触れ、対応する倍音を鳴らすことで作り出されるピッチのことです。多くの場合、ハーモニクスは弦を押さえて出す音よりもピッチが高く、透明感のある澄んだ音になります。ハーモニクスには、ナチュラルとアーティフィシャルという 2 つのタイプがあります。

倍音には、倍音列内の順序に応じて番号が振られており、この番号は倍音を作り出す弦の節にも関連しています。たとえば、倍音列内の第 2 倍音は弦の中間の節、つまり弦をちょうど 2 つに分割する節に触れることで作り出されます。同じように、第 3 倍音は弦を 3 つに分割する節に触れることで作り出されるといった具合です。

ナチュラルハーモニクス

ナチュラルハーモニクスは、開放弦のいずれかの節に触れ、弦を弓で弾くか指ではじくことで作り出します。作り出されるハーモニクスの発音上のピッチは、倍音列内の対応する倍音と節によって異なります。たとえば、弦の中央の節に触れると第 2 倍音を作り出され、開放弦のピッチの 1 オクターブ上の音が鳴ります。

アーティフィシャルハーモニクス

アーティフィシャルハーモニクスは、(標準の音符を演奏するように) 弦を完全に押さえてから、押さえた弦のいずれかの節に触れることで作り出します。作り出されるハーモニクスの発音上のピッチは、倍音列内の対応する倍音と節によって異なります。たとえば、押さえるピッチの 4 分の 1 上に相当する節に触れると第 4 倍音を作り出され、押さえるピッチの 2 オクターブ上の音が鳴ります。

アーティフィシャルハーモニクスを作り出すには、弦を完全に押さえたうえで、その弦の正しい節に触れる必要があります。アーティフィシャルハーモニクスは、ナチュラルハーモニクスよりも作り出すのが難しい場合があります。



2 弦でアーティフィシャルハーモニクスとナチュラルハーモニクスを交互に演奏するバイオリンの楽節 同じ楽節の発音上のピッチ

Dorico Pro は、弦楽器およびフレット楽器のハーモニクスを記譜するための複数の表記規則をサポートしています。これには、ナチュラルハーモニクスとアーティフィシャルハーモニクスの両方が含まれます。標準と菱形の 2 つの符頭で表わされるアーティフィシャルハーモニクスの場合、第 2 倍音から第 6 倍音に対して記譜する触れるピッチの菱形の符頭の正しいピッチが自動的に計算されます。これらのピッチは、対応する再生デバイスにハーモニクス専用のサウンドが含まれている場合、それらのサウンドが再生に反映されます。

関連リンク

[臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(625 ページ\)](#)

[倍音の変更 \(930 ページ\)](#)

[ハーモニクスの外観/スタイル \(932 ページ\)](#)

音符をハーモニクスに変換する

既存の音符をアーティフィシャルハーモニクスやナチュラルハーモニクスに変換できます。ハーモニクスは、発音上のピッチ、触れるピッチ、または押さえるピッチを表わすことができます。

前提条件

ハーモニクスに変換する音符を入力しておきます。ただし、入力するピッチは、どのスタイルまたは外観を使用するかによって異なります。

- ナチュラルハーモニクスの場合は、発音上のピッチを入力することをおすすめします。
- アーティフィシャルハーモニクスの場合は、押さえるピッチを入力することをおすすめします。

手順

1. ハーモニクスに変換する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ハーモニクス (Harmonics)」グループで、「タイプ (Type)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 人工 (Artificial)
 - 自然 (Natural)


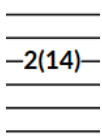
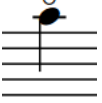

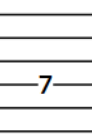
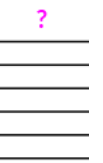
結果

選択した音符が各タイプのハーモニクスに変換されます。対応する再生デバイスにハーモニクス専用のサウンドが含まれている場合、選択した音符は自動的にこれらのサウンドを使用します。それに応じて、演奏時に発音されるアーティフィシャルハーモニクスのピッチも変更されます。

- 初期設定では、アーティフィシャルハーモニクスは第2倍音を表わします。アーティフィシャルハーモニクスは、選択した音符の1オクターブ上に触れるピッチを表わす菱形の符頭を使用して表示されます。タブ譜では、押さえるフレットが左側に表示され、触れるフレットが右側に括弧付きで表示されます。
- 初期設定では、ナチュラルハーモニクスは発音上のピッチを表わします。ナチュラルハーモニクスは、選択した音符の上に丸い記号を使用して表示されます。フレット楽器の音符の譜表では、ナチュラルハーモニクスが黒い菱形符頭として表示されます。タブ譜では、触れるピッチのフレットを計算できるときはそのフレットが表示され、計算できないときはピンクのクエスチョンマークがタブ譜の上に表示されます。

例

以下の例は、さまざまな譜表のナチュラルハーモニクスとアーティフィシャルハーモニクスのデフォルトの外観を示しています。

					
音符の譜表の アーティフィ シャルハーモ ニクス (すべての楽 器)	タブ譜のアー ティフィシャル ハーモニクス	フレット楽器以 外の譜表のナ チュラルハーモ ニクス	フレット楽器の 音符の譜表のナ チュラルハーモ ニクス	タブ譜のナチュ ラルハーモニク ス	タブ譜の計算で きかないナチュ ラルハーモニクス

手順終了後の項目

ハーモニクスの倍音を変更できます。また、ナチュラルハーモニクスの外観とアーティフィシャルハーモニクスのタイプを変更することもできます。

ハーモニクスを標準の音符に戻す場合は、「**ハーモニクス (Harmonics)**」グループの「**タイプ (Type)**」をオフにします。

関連リンク

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[ナチュラルハーモニクスの外観を変更する \(934 ページ\)](#)

[アーティフィシャルハーモニクスのスタイルの変更 \(935 ページ\)](#)

[タブ譜 \(1205 ページ\)](#)

倍音の変更

初期設定では、ハーモニクスは倍音列内の第2倍音、つまり基音の1オクターブ上の音を表わします。第2倍音よりも上の倍音を使用したい場合などに、ハーモニクスの倍音を個別に変更できます。

補足

Dorico Pro で正しく計算できるのは、第2節から第6節までのアーティフィシャルハーモニクスの倍音のみです。

手順

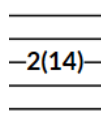
1. 倍音を変更するハーモニクスを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ハーモニクス (Harmonics)**」グループで、「**倍音 (Partial)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を、希望する倍音を作り出すために触れる弦の節の番号に変更します。

結果

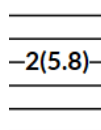
選択したハーモニクスの倍音が変更されます。「**標準 (Normal)**」タイプを使用しているアーティフィシャルハーモニクスの場合、白い菱形符頭のピッチまたは括弧付きのフレット番号は自動的に更新されます。それに応じて、演奏時に発音されるアーティフィシャルハーモニクスのピッチも変更されます。

例

デフォルトの倍音を使用したアーティフィシャルハーモニクス (音符とタブ譜)



第5倍音に変更したアーティフィシャルハーモニクス (音符とタブ譜)



関連リンク

[タブ譜 \(1205 ページ\)](#)

[アーティフィシャルハーモニクスのスタイルの変更 \(935 ページ\)](#)

ハーモニクスの臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける

押さえるピッチの音符の臨時記号の表示/非表示や括弧とは別に、ハーモニクスの臨時記号を個別に丸括弧または角括弧付きで表示したり、表示/非表示にしたりできます。たとえば、臨時記号を丸括弧付きで表示することで、組段やフレーム区切りをまたぐタイのつながりに含まれる音符の親切臨時記号を表示できます。

手順

1. 臨時記号の表示/非表示を切り替える、または臨時記号に括弧を付けるハーモニクスを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

浄書モードでは、タイでつながれた個別の符頭のみを選択できます。

2. プロパティパネルの「**ハーモニクス (Harmonics)**」グループで、「**臨時記号 (Accidental)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **非表示 (Hide)**
 - **表示 (Show)**
 - **丸括弧 (Round brackets)**
 - **角括弧 (Square brackets)**

結果

選択したハーモニクスの臨時記号が、表示、非表示、丸括弧付きまたは角括弧付きで表示されます。

補足

- 臨時記号を非表示にしても再生時の音程には影響しません。
- 多くの臨時記号の表示/非表示を切り替える場合は、臨時記号の有効範囲ルールの変更を検討することをおすすめします。
- 「**環境設定 (Preferences)**」の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページにある異なる臨時記号の表示、非表示、括弧付けコマンドに対して、キーボードショートカットを割り当てることができます。

手順終了後の項目

また、菱形の符頭で表示されるアーティフィシャルハーモニクスの押さえるピッチを表わす標準の符頭の臨時記号を表示/非表示にしたり、臨時記号に括弧を付けたりすることもできます。

関連リンク

[臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(625 ページ\)](#)

ハーモニクスの外観/スタイル

アーティフィシャルハーモニクスとナチュラルハーモニクスはどちらもさまざまな方法で記譜できます。Dorico Pro では、発音上のピッチ、押さえるピッチか触れるピッチのいずれか、あるいは押さえるピッチと触れるピッチの両方を、個々のハーモニクスに対して表示できます。

本書では、アーティフィシャルハーモニクスの「スタイル」、ナチュラルハーモニクスの「外観」という呼び方をします。これは、アーティフィシャルハーモニクスのスタイルがそれぞれ異なる演奏技法の使用を意味するのに対し、ナチュラルハーモニクスの外観は演奏技法とは関係がないためです。

ナチュラルハーモニクス

上に丸 (Circle above)

音符の符頭側にハーモニクスの丸い記号を表示します。通常は、ハーモニクスの発音上のピッチを表わします。初期設定では、フレット楽器に属さないバイオリンなどの譜表のナチュラルハーモニクスに使用されます。



菱形符頭 (Diamond notehead)

音符の符頭を菱形符頭に変更します。4分音符以下の長さの音符の場合は黒い (塗りつぶされた) 菱形符頭が表示され、2分音符以上の長さの音符の場合は白い (塗りつぶされていない) 菱形符頭が表示されます。通常は、触れるピッチを表わします。初期設定では、フレット楽器の音符の譜表のナチュラルハーモニクスに使用されます。

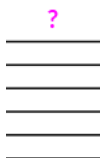


菱形符頭 (白) (White diamond notehead)

音符の符頭を菱形符頭に変更します。音符のデュレーションに関係なく、符頭は常に白い菱形で表わされます。通常は、触れるピッチを表わします。



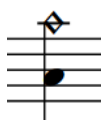
タブ譜では、選択した外観に関係なく、ナチュラルハーモニクスには常に触れるフレットが表示されます。触れるフレットを計算できない場合は、ピンクのクエスチョンマークが表示されます。



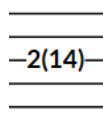
アーティフィシャルハーモニクス

標準 (Normal)

押さえるピッチを表わす符頭と、触れるピッチを表わす符頭の2つの符頭が表示されます。触れるピッチは、倍音に基づいて自動的に計算されます (デフォルトの倍音は第2倍音です)。タブ譜では、押さえるフレットが左側に表示され、触れるフレットが右側に括弧付きで表示されます。これは、すべての譜表のアーティフィシャルハーモニクスのデフォルトの外観です。



音符の譜表の標準アーティフィシャルハーモニクス



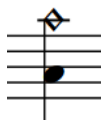
タブ譜の標準アーティフィシャルハーモニクス

ピンチ (Pinch)

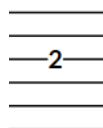
押さえるピッチを表わす符頭と、発音上のピッチを表わす符頭の2つの符頭が表示されます。発音上のピッチは、倍音に基づいて自動的に計算されます (デフォルトの倍音は第2倍音です)。タブ譜では、押さえるフレットだけが表示されます。

補足

この記譜方法はフレット楽器を使用する場合にのみ選択します。ピンチは、振動している弦をピックアップの近くの節の位置でつまむ演奏技法で、甲高い音が出ます。



音符の譜表のピンチハーモニクス



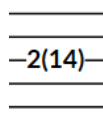
タブ譜のピンチハーモニクス

1つの符頭 (演奏上のピッチ) (Single notehead (sounding))

発音上のピッチを表わす1つの符頭が表示されます。タブ譜では、押さえるフレットが左側に表示され、発音上のピッチが右側に括弧付きで表示されます。



音符の譜表の1つの符頭 (演奏上のピッチ) アーティフィシャルハーモニクス



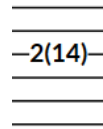
タブ譜の1つの符頭 (音あり) アーティフィシャルハーモニクス

1つの符頭 (押さえる位置のピッチ) (Single notehead (stopped))

押さえるピッチを表わす1つの符頭が表示されます。タブ譜では、押さえるフレットが左側に表示され、触れるフレットが右側に括弧付きで表示されます。



音符の譜表の1つの符頭(押さえる位置のピッチ) アーティフィシャルハーモニクス



タブ譜の1つの符頭(押さえる位置のピッチ) アーティフィシャルハーモニクス

関連リンク

[タブ譜 \(1205 ページ\)](#)

ナチュラルハーモニクスの外観を変更する

初期設定では、ナチュラルハーモニクスは、発音上のピッチを示す丸が標準の符頭の上に付いたものとして表示されます。たとえば、触れるピッチを示す白い菱形の符頭として表示するなど、ナチュラルハーモニクスの外観を個別に変更できます。

補足

これらの手順は、「**自然 (Natural)**」タイプのハーモニクスにのみ適用されます。

手順

1. 外観を変更するナチュラルハーモニクスを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ハーモニクス (Harmonics)**」グループで、「**スタイル (Style)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **上に丸 (Circle above)**
 - **菱形符頭 (Diamond notehead)**
 - **菱形符頭 (白) (White diamond notehead)**

結果

選択したナチュラルハーモニクスの外観が変更されます。これには、フレット楽器の音符の譜表に記譜されたナチュラルハーモニクスの外観も含まれます。タブ譜に表示された触れるピッチは、自動的に変更されません。

補足

- ナチュラルハーモニクスの外観を変更しても、記譜上のピッチが自動的に変更されることはありません。たとえば、発音上のピッチを「**上に丸 (Circle above)**」で表わすハーモニクスから、触れるピッチを「**菱形符頭 (白) (White diamond notehead)**」で表わすハーモニクスに変更するには、音符のピッチも変更する必要があります。
- Dorico Pro は、「**菱形符頭 (白) (White diamond notehead)**」スタイルのナチュラルハーモニクスを、そのハーモニクスの可能な限り一番下の弦に自動的に割り当てます。必要に応じて別の弦を指定することもできます。
- プロパティパネルの「**ハーモニクス (Harmonics)**」グループで「**位置 (Placement)**」をオンにして任意のオプションを選択すると、ハーモニクスの丸い記号の譜表に対する位置を変更できます。

関連リンク

[個々の音符のピッチの変更 \(203 ページ\)](#)

[個々の音符に弦を指定する \(916 ページ\)](#)

アーティフィシャルハーモニクスのスタイルの変更

初期設定では、アーティフィシャルハーモニクスは、押さえるピッチを表わす標準の符頭と、触れるピッチを表わす菱形の符頭の2つの符頭で表わされます。たとえば、ピンチハーモニクスであることを示す場合など、アーティフィシャルハーモニクスのスタイルを個別に変更できます。

補足

これらの手順は、「人工 (Artificial)」タイプのハーモニクスにのみ適用されます。

手順

1. スタイルを変更するアーティフィシャルハーモニクスを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「ハーモニクス (Harmonics)」グループで、「スタイル (Style)」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 標準 (Normal)
 - ピンチ (Pinch)
 - 1つの符頭 (演奏上のピッチ) (Single notehead (sounding))
 - 1つの符頭 (押さえる位置のピッチ) (Single notehead (stopped))
-

結果

選択したアーティフィシャルハーモニクスのスタイルが変更されます。

補足

「ピンチ (Pinch)」は、異なる技法を使ってハーモニクスを作り出すことを意味します。

関連リンク

[臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(625 ページ\)](#)

装飾音

装飾音は、記譜上のピッチに加えて複数の音符を演奏することを示す記号です。これは音楽の装飾に使用されます。たとえばバロック音楽では、トリルやその他の装飾音による装飾が多く施されます。

演奏者がどう音符を演奏するかの特定の記譜方法は時代とともに発展し、さまざまな装飾音パターンを指定するさまざまな装飾記号が生まれています。それでも装飾音においては、演奏者が自身のやり方で音楽を装飾する幾ばくかの自由が与えられています。

Dorico Pro では、装飾音の記号が幅広く用意され、さまざまなスタイルの装飾音の記譜が行なえます。

装飾音と呼ばれるものには、以下に挙げるような装飾的な音符が幅広く含まれています。

- モルデント
- トリル
- ターン
- 装飾音符
- アチャカトゥーラ
- アポジャトゥーラ

Dorico Pro では、装飾音とは音符の上に記入される装飾音やトリルの記号を指します。



ターン、ショートトリル、延長線付きのトリルを含むフレーズ

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

[装飾音符 \(837 ページ\)](#)

[装飾音の位置 \(938 ページ\)](#)

浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」ページで、装飾音とトリルの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「装飾音 (Ornaments)」ページのオプションを使用すると、臨時記号、符頭およびトリルの延長線に対するトリルの位置を変更できます。後に続く組段におけるトリルマークのデフォルトの外観や、トリルの音程の外観と再表示の設定を変更したり、装飾音と譜表および符頭との最小距離を設定したりもできます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

装飾音の音程の変更

装飾音の音程を記譜上のピッチの上下どちらにでも変更して、装飾音で演奏するピッチを指示できます。装飾音の音程は臨時記号によって表示されます。

装飾音の中には、音程の変化を一定の方向でしか行なえないものがあります。たとえば、ショートトリルでは音程の変化は上方のみ、モルデントでは下方のみとなります。

補足

この手順はトリルには適用されません。

手順

1. 音程を変更する装飾音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「装飾音 (Ornaments)」グループで、選択した装飾音に適切なプロパティを以下から選んでオンにします。

- 上の音程 (Interval above)
- 下の音程 (Interval below)

トリルについては、プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで「音程 (Interval)」をオンにします。

3. 数値フィールドの値を任意の音程に変更します。
 - 0 または 4 以上では、臨時記号は表示されません。
 - 1 ではフラットが表示されます。
 - 2 ではナチュラルが表示されます。
 - 3 ではシャープが表示されます。

結果

選択した装飾音の位置が変更されます。

補足

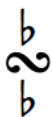
- 装飾音のタイプによっては、上下いずれにも臨時記号を表示しないものもあります。
- 装飾音の臨時記号のトリルに対する位置のプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」ページで変更できます。

例

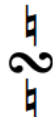
臨時記号なし



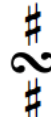
上および下のフラット



上および下のナチュラル



上および下のシャープ



関連リンク

[既存のトリルの音程を変更する \(946 ページ\)](#)

[浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する \(936 ページ\)](#)

装飾音の位置

トリルを含む装飾音は、適用される音符の上に配置されます。複声部においては、符尾が下向きの声部の装飾音は譜表の下にのみ配置されます。

装飾音とトリルは初期設定ではスラーの外側に配置されます。同様に、装飾音はアーティキュレーションより符頭から離れた位置に配置されます。

装飾音の中央は適用される符頭の中央に揃えられます。トリルの整列は異なり、トリル記号の左側が適用される符頭の左端に揃えられます。

Dorico Pro は装飾音をタイプに応じて適切な位置に自動的に配置し、符頭に連結します。

装飾音の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

装飾音の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

すべての装飾音とトリルのデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**装飾音 (Ornaments)**」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する \(936 ページ\)](#)

[装飾音の表示位置の移動 \(939 ページ\)](#)

[スラーに対する装飾音の位置の変更 \(940 ページ\)](#)

装飾音のリズム上の位置の移動

装飾音は入力後に別の位置へ移動できます。

手順

1. 記譜モードで、移動する装飾音を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できる装飾音は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって装飾音を移動します。

- 1つの装飾音を次の同じ譜表の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 1つの装飾音を前の同じ譜表の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従って右に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従って左に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

複数の装飾音を選択している場合、装飾音の移動は現在のリズムグリッドの間隔にのみ従います。

- 装飾音をクリックして左右にドラッグし、異なる位置にスナップさせます。

結果

選択した装飾音が異なる位置に移動します。

補足

装飾音はそれぞれの位置に1つしか存在できません。装飾音が移動する際に他の装飾音の上を通過した場合、既存の装飾音は削除されます。

トリルは他のトリルや装飾音に重ねることができます。ただし、トリルが移動する際にトリルの開始位置が別のトリルの開始位置の上を通過した場合、既存のトリルは削除されます。

これらの動作内容はもとに戻せますが、この過程で削除された装飾音/トリルが復元されるのは、これらのアイテムの移動にキーボードを使用していた場合のみです。

装飾音の表示位置の移動

装飾音の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。またトリルのハンドルの開始位置および終了位置も個別に移動でき、つまりトリルの表示の長さを変更できます。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- 装飾音またはトリル
- トリルの個別のハンドル

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、装飾音またはハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したアイテムの表示位置が適用されるリズム上の位置に影響することなく変更されます。

ヒント

装飾音を移動すると、プロパティパネルの「**一般 (Common)**」グループにある「**オフセット (Offset)**」が自動的にオンになります。

- 「**オフセット X (Offset X)**」は装飾音を水平方向に移動します。
- 「**オフセット Y (Offset Y)**」は装飾音を垂直方向に移動します。

トリルを移動すると、プロパティパネルの「**トリル (Trills)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」はトリル全体を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット X (End offset X)**」はトリル延長線の終了位置を水平に移動します。

たとえば、トリル全体を右に移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのすべてのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、装飾音やトリルを移動したり、トリルの長さを調節したりできます。

プロパティをオフにすると、選択した装飾音やトリルがデフォルト位置にリセットされます。

スラーに対する装飾音の位置の変更

装飾音は初期設定ではスラーの外側に配置されます。装飾音のスラーに対する位置は個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、スラーに対する位置を変更する装飾音を選択します。
 2. プロパティパネルの選択した装飾音に対応するグループで、「スラーとの相対位置 (Slur-relative position)」をオンにします。
 - 装飾音 (Ornaments)
 - トリル (Trills)
 3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 内側 (Inside)
 - 外側 (Outside)
-

結果

選択した装飾音がスラーの内側または外側に配置されます。

トリルの開始位置の変更

それぞれのトリルの開始位置を符頭もしくは臨時記号に揃えるのかを、プロジェクト全体の設定とは別に設定できます。

手順

1. 開始位置を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「開始位置 (Start position)」をオンにします。
 3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 符頭 (Notehead)
 - 臨時記号 (Accidental)
-

結果

選択したトリルの開始位置が変更されます。

ヒント

すべてのトリルの開始位置に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」のページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する \(936 ページ\)](#)

結果

チェックボックスがオンになっているときはトリル記号が表示され、オフになっているときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、トリル記号の表示はプロジェクト全体の設定に従います。

トリルの速さの変更

延長線の波線の高さと波数を変更することにより、トリルに異なる速さを指示できます。これは1つのトリルの途中でも指示できます。

手順

1. 速度を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
 - **開始スピード (Start speed)**
 - **終了スピード (End speed)**
3. 各プロパティのメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **遅く (Slow)**
 - **標準 (Normal)**
 - **速く (Fast)**

結果

選択したトリルの速さが変更されます。これは延長線の波線の波数と再生速度の両方に影響します。

「**開始スピード (Start speed)**」だけがオンになっている場合、トリルの延長線全体の速度が変更されます。「**終了スピード (End speed)**」だけがオンになっている場合、トリルの延長線の後半部分の速度が変更されます。

例



開始では遅く終了では速いトリルの延長線

手順終了後の項目

トリルの再生速度を個別にカスタマイズできます。

関連リンク

[トリルの再生速度の変更 \(951 ページ\)](#)

トリルの延長線で速さの変更指示の表示/非表示を切り替える

個々のトリルの延長線について、速さの変更指示の表示/非表示を切り替えられます。これによりたとえば、再生時の速さの変化は再現しつつ、延長線の波線の幅は一定で表示できます。

手順

1. 速さの変更指示を表示/非表示にするトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「**速度の描画を抑制 (Suppress drawing speed changes)**」をオンまたはオフにします。

結果

プロパティをオンにすると速さの変更指示が非表示になり、オフにすると表示されます。

例



トリルの速さの変更指示を表示した例



トリルの速さの変更指示を非表示にした例

トリルの延長線の表示/非表示を切り替える

個々のトリルの延長線を表示/非表示にできます。

手順

1. 延長線を表示/非表示にするトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「トリル線を表示 (Has trill line)」をオンまたはオフにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

チェックボックスがオンになっているときはトリルの延長線が表示され、オフになっているときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、トリルの表示はプロジェクト全体の設定に従います。

ヒント

すべてのトリルの延長線の表示/非表示に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」ページで変更できます。

関連リンク

[トリルの速さの変更 \(942 ページ\)](#)

[トリルの再生速度の変更 \(951 ページ\)](#)

トリルのリズム上の長さの変更

トリルは入力後に長さを変更できます。トリルは他のトリルや装飾音に重ねることができるため、すでに装飾音が付いている符頭までトリルの長さを変更することもできます。

手順

1. 記譜モードで、長さを変更するトリルを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるトリルは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、トリルの長さを変更します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

- 1本のトリルを次の符頭の位置まで延長するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 1本のトリルを前の符頭の位置まで短縮するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

- 複数のトリルが選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔による長さの変更だけが行なえます。
 - キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。
-
- トリルの開始位置または終了位置にある丸いハンドルをクリックして、左右の符頭に向けてドラッグします。

結果

トリル1つの長さが、現在のリズムグリッドの間隔または前後の符頭の位置のいずれか近い方に従い変更されます。

複数のトリルの長さが、現在のリズムグリッドの間隔に従い変更されます。

関連リンク

[装飾音の位置](#) (938 ページ)

[装飾音のリズム上の位置の移動](#) (938 ページ)

[装飾音の表示位置の移動](#) (939 ページ)

トリル音程

トリルの音程は、演奏者にどの音符を演奏するか伝えるとともに、Dorico Pro が再生時に使用するピッチにも影響を与えます。たとえば、E の音符にシャープの臨時記号付きのトリルが付く場合、演奏者は E と F ではなく E と F# を使用してトリルを演奏します。



これらのトリルに付く異なる臨時記号は、トリル先の音符の変更を示します。

トリル入力時に音程を指定しない場合、Dorico Pro はトリルが属する声部の一番上の音符、現在の調号、および小節内で前出の臨時記号に基づき、適切な音程を算出します。たとえば、C メジャーにおける E にトリルを入力すると、トリル先は半ステップ/短2度の音程による F# となります。小節内で前出の F にシャープの臨時記号が付いている場合、E と F# による 1 ステップ/長2度のトリル音程になります。

オープンキー/無調の調号においては、Dorico Pro は初期設定では 1 ステップ/長2度のトリル音程を演奏します。

ポップオーバーで入力するときトリルの音程を指定できます。これは同じトリルに含まれる異なる符頭にも指定でき、音程は入力後にも変更できます。

トリルと臨時記号

必要に応じて、Dorico Pro はトリルの音程を明確に示すために臨時記号を表示します。また Dorico Pro は、トリルと同じ小節にあるトリル以降の音符が、トリルの上の音符と音名が同じで臨時記号が異なる場合、自動的にその音符に臨時記号を表示します。

初期設定では、調号の変化記号により上の音符が影響されていない限りは、トリル記号そのものが音程を表わします。小節内で前出の臨時記号により上の音符が影響を受けている場合、トリルは常に音程を

表示します。調号の変化記号により変化しているピッチをトリルが変更した場合、後続する同じ音程の音符には自動的に適切な臨時記号が付けられます。現在および次の小節で必要となる親切臨時記号も自動的に表示されます。

微分音トリルの音程

12-EDO 以外の調性システムを使用している場合、トリルの音程は全音階のステップ数と、記譜上の音符からの合計分割数に基づき指定できます。24-EDO では、トリルの音程はメジャーやマイナーなど性質に基づいても記述できます。調整システムで分割数の大きいものや各音階ステップ間の分割数が不均一なものでは、音程の性質のみによる指定では不十分なため、オクターブの分割数に基づきトリルの音程を指定する必要があります。

関連リンク

[トリルの音程の外観 \(947 ページ\)](#)

トリルの音程の臨時記号の表示/非表示を切り替える

個々のトリルはトリルの音程の臨時記号の表示/非表示を切り替えられます。

補足

この手順で非表示になるのは、トリルの音程に表示される臨時記号のみで、補助音符やハリウッドスタイルのマークは非表示になりません。

手順

1. 臨時記号の表示/非表示を切り替えるトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「臨時記号 (Accidental)」をオンにします。
 3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 非表示 (Hide)
 - 表示 (Show)
-

結果

「非表示 (Hide)」を選択すると、選択したトリルの音程の臨時記号が非表示になり、「表示 (Show)」を選択すると表示されます。

補足

トリルの臨時記号は、トリルが伸ばされた先でピッチが変わるごとに再表示されます。「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「装飾音 (Ornaments)」ページの「トリルの音程 (Trill Intervals)」セクションでは、後続の音符にハリウッドスタイルのトリルの音程を再表示するか非表示にするか選択できます。

関連リンク

[トリルの音程の外観を変更する \(948 ページ\)](#)

既存のトリルの音程を変更する

初期設定ではトリルの音程は2度で、状況に応じて長2度か短2度のいずれかになります。トリルの音程は、装飾音のポップオーバーによるトリル入力の際に指定する他に、トリルを入力した後にも個別に変更できます。

手順

1. 記譜モードで、音程を変更するトリルを選択します。
2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「音程 (Interval)」をオンにします。トリルの現在の音程が数字と性質によって表示されます。
3. 数値フィールドの数値を変更して、音程を変更します。
4. メニューから以下のいずれかの音程の性質を選択します。
 - 減 (Diminished)
 - 短 (Minor)
 - 長 (Major)
 - 増 (Augmented)

結果

選択したトリルの音程が変更されます。初期設定では、音程が2度のときはトリルの音程は臨時記号として表示され、音程がそれ以外のときは補助音符として表示されます。

関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(268 ページ\)](#)

トリルの途中でトリルの音程を変更する

トリルの音程はそのデュレーション中に複数回、音符を入力する前でも変更できます。これによりたとえば、ある小節で音程が短2度のトリルを開始して、隙間なく続けながら次の小節では長2度に変更することなどができます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
 - トリルの音程を変更する音符。
 - 譜表上の音符を入力してトリルの音程を指定する位置にあるアイテムまたは休符。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. **[→]**/**[←]** を押してキャレットを現在のリズムグリッドの間隔に従って動かし、トリルの音程を変更する位置の符頭まで移動します。

補足

トリルの音程は符頭の位置でのみ変更できます。

4. **[Shift]+[O]** を押して装飾音のポップオーバーを開きます。
5. ポップオーバーにトリルの音程を入力します。たとえば、短3度の場合は「m3」と入力します。
6. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。
7. 必要に応じて、トリルの他の符頭についても、手順3から6を繰り返してトリルの音程を変更します。
8. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

該当する符頭の位置でトリルの音程が変更されます。初期設定では、音程がすべて 2 度である場合はトリル内のすべてのトリルの音程は臨時記号として表示され、異なるトリルの音程が 1 つ以上ある場合は補助音符として表示されます。

例



臨時記号として表示された音程変更のあるトリル



補助音符として表示された音程変更のあるトリル

トリルの音程の外観

音符の譜表でトリルの音程を表示するにはいくつかの異なる方法が使用できます。たとえば臨時記号による表示や、半ステップ (半音) を H.T.、1 ステップ (全音) を W.T. と表示するハリウッドスタイルなどがあります。

Dorico Pro では、音符の譜表のトリルの音程は以下の方法で表示できます。

臨時記号 (Accidental)

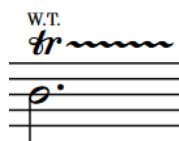
「tr」記号の上、下、または横に臨時記号を表示してトリルの音程を指示します。これは Dorico Pro における長 2 度または短 2 度のトリルの音程の外観の初期設定です。



ハリウッドスタイル (Hollywood-style)

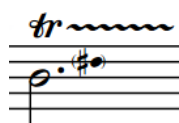
テキストを使用してトリルの音程を指示します。

- H.T.: 半ステップ/短 2 度のトリル
- W.T.: 1 ステップ/長 2 度のトリル



補助音符 (Auxiliary note)

括弧つきで符尾なしの小さな符頭を使用してトリルの音程を指示します。これは譜表上で、トリルが適用される 1 音めの音符のすぐ右側、トリル先のピッチを正しく示す譜表上の位置に表示されます。補助音符は、長 2 度または短 2 度でないすべてのトリルの音程に使用されますが、補助音符の符頭のデザインを上書きしない限り、ユニゾンのトリルについては自動的に非表示になります。



補足

- タブ譜では、トリル先のピッチが常に括弧付きのフレット番号として表示されます。
 - 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**装飾音 (Ornaments)**」ページでは、トリルの音程の外観、位置および再表示に関するデフォルトを設定できます。
-

トリルの音程の外観を変更する

音符の譜表のトリルの2度の音程の外観は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。たとえば、一部のトリルに補助音符を表示して、トリル先のピッチに変更があることを分かりやすくすることなどができます。

補足

トリルの音程の外観を変更できるのは、長2度または短2度の音程のトリルだけです。

手順

1. トリルの音程の外観を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**トリル (Trills)**」グループで、「**外観 (Appearance)**」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **臨時記号 (Accidental)**
 - **ハリウッドスタイル (Hollywood style)**
 - **補助音符 (Auxiliary note)**
-

結果

音符の譜表で選択したトリルの音程の外観が変更されます。これは、タブ譜のトリルの外観には影響しません。

ヒント

すべてのトリルの2度の音程のデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**装飾音 (Ornaments)**」ページにある「**トリルの音程 (Trill Intervals)**」セクションで設定を行ないます。

手順終了後の項目

補助音符の符頭のデザインを個別に変更できます。たとえば、トリル先の音符がハーモニクスであることを表示できます。

関連リンク

[浄書オプションで装飾音の設定をプロジェクト全体に適用する \(936 ページ\)](#)
[個々の符頭のデザインの変更 \(910 ページ\)](#)

トリルの音程の指示の位置を変更する

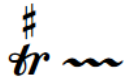
臨時記号や W.T. マークのようなトリルの音程の指示の個々のトリルに対する位置を、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。

手順

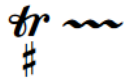
1. 音程の表示の位置を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**トリル (Trills)**」グループで、「**音程の位置 (Interval position)**」をオンにします。

3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。

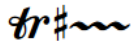
- 上 (Above)



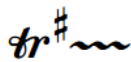
- 下 (Below)



- 右側 (On the right)



- 上付き (Superscript)



結果

選択したトリルに対する音程の指示の位置が変更されます。

ヒント

音程の指示のトリルに対するデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**装飾音 (Ornaments)**」ページにある「**トリルの音程 (Trill Intervals)**」セクションで設定を行ないます。

再生時のトリル

Dorico Pro はトリルを再生する際、用意されている場合はサンプリングされたトリルと、複数の音符の発音とを組み合わせ使用します。

- トリルの再生に関する設定は、「**再生 (Play)**」 > 「**再生オプション (Playback Options)**」の「**トリル (Trills)**」ページにあります。

演奏技法が VST エクスプレッションマップに定義されている場合、Dorico Pro は自動的にサンプリングされた半ステップ (半音) および 1 ステップ (全音) のトリルを再生します。これは HALion Symphonic Orchestra のインストゥルメントの多数に該当します。サウンドライブラリーにサンプリングしたトリルが提供されていない場合、またはトリルの音程が 1 ステップより大きい場合、Dorico Pro はトリルを生成しません。プロジェクトの一部に生成できず再現できないトリルの音程が含まれる場合、サンプリングされたトリルを無効化して生成されたトリルを全体に使用することで、再生結果に統一感を出すこともできます。

生成されたトリルを演奏するとき、Dorico Pro はトリルの直前および直後にある装飾音符を組み込んで再生します。トリルの開始音にスラッシュなしの装飾音符 1 つが付くとアポジャトゥーラの効果となる一方、複数の装飾音符が付くとトリルのパターンに一体化されます。トリルの直後の音符に付く装飾音符もまたトリルのパターンに一体化されます。



開始位置と終了位置の両方に装飾音符が付いたトリル

トリル中の速さの変更は再生に反映されます。遅い、通常、および速いトリルのデフォルトの再生速度は、「再生オプション (Playback Options)」の「トリル (Trills)」ページで指定できるとともに、個々のトリルについても再生速度を変更できます。さらに、トリルの延長線における速さの変化指示を非表示にしつつ、再生における速さの変化は保持できます。

現代の演奏上の習慣では、トリルの演奏は通常記譜された音符から始まりますが、バロックと古典派時代の歴史的な演奏上の習慣では、トリルの演奏は通常上 (トリル先) の音符から演奏を開始します。トリルの開始音は個別に変更できるとともに、デフォルトの設定も変更できます。

もう1つ、特にロマン派のピアノ音楽において一般的な演奏上の習慣としては、すべてのトリルをアツェレランド、つまりゆっくり始まってトリル中に徐々に速くしていくことが挙げられます。この設定は、「再生オプション (Playback Options)」の「トリル (Trills)」ページで選択できます。これは速さの変更が指示されていないすべてのトリルに適用されます。

関連リンク

[トリルの速さの変更 \(942 ページ\)](#)

[トリルの延長線で速さの変更指示の表示/非表示を切り替える \(942 ページ\)](#)

[トリルの開始音の変更 \(951 ページ\)](#)

サンプリングされたトリルと生成されたトリル

サンプリングされたトリルは録音されループ化されたサンプルであり、一方で生成されたトリルは音符を1つずつ再生して作成されています。

サンプリングされたトリルは固定的なサウンドを使用するため、トリルの速さの変化や、トリルのパターンに装飾音符や終止音を組み込むなど、トリルの演奏を何らかの形で変化させるパラメーターは通常利用できません。これに対し、生成されたトリルは柔軟性に優れますが、自然でリアルなサウンドにおいてはおよびません。

プロジェクトの一部に生成でしか再現できないトリルの音程が含まれる場合、サンプリングされたトリルを無効化して生成されたトリルを全体に使用することで、再生結果に統一感を出すこともできます。

再生時のサンプリングされたトリル使用の有効化/無効化

プロジェクトにおけるサンプリングされたトリルの使用の有効/無効を切り替えられます。これは、プロジェクトの一部に生成でしか再現できないトリルの音程が含まれるため、全体に生成されたトリルのみ使用することが望ましい場合や、トリルの直前/直後の装飾音符をトリルに組み込む必要がある場合などに有用です。

補足

再生に NotePerformer を使用する場合、NotePerformer がリアルなトリルの演奏を再現するために必要な正しいノート情報とコントローラー情報を Dorico Pro が送信できるように、サンプリングされたトリルは無効化することをおすすめします。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。

2. ページリストから「トリル (Trills)」をクリックします。
 3. 「トリルの再生方法 (Playback approach for trills)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 生成されたトリルのみ (Generated trills only)
 - 可能な場合はサンプルを使用 (Use samples if possible)
 4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

「可能な場合はサンプルを使用 (Use samples if possible)」を選択するとサンプリングされたトリルが有効化され、「生成されたトリルのみ (Generated trills only)」を選択すると無効化されます。

トリルの再生速度の変更

トリルの速さを変更すると、トリルの延長線の波線の密度と再生速度の両方が変化しますが、これに加えて、個々のトリルに対し速さの段階ごとの実際の再生速度を変更できます。これによりたとえば、特定のトリルの速い部分をデフォルト設定よりも速く演奏させられます。

手順

1. 再生速度を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルで、以下のいずれかのうち、選択したトリルに適切なプロパティをオンにします。
 - 遅いトリルスピード (Slow trill speed)
 - 通常トリルスピード (Normal trill speed)
 - 速いトリルスピード (Fast trill speed)
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

選択したトリルの再生速度が変化します。数値フィールドの数値は、1秒あたりに発音される音符の数に対応します。

ヒント

速さの各段階のデフォルトの再生速度は、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「トリル (Trills)」ページで変更できます。

関連リンク

[トリルの速さの変更 \(942 ページ\)](#)

[トリルの延長線で速さの変更指示の表示/非表示を切り替える \(942 ページ\)](#)

トリルの開始音の変更

Dorico Pro の初期設定では、トリルは下の音符から開始します。通常これは記譜されている音符です。しかし、バロックと古典派の音楽における一般的な習慣においては、トリルは上の音符から開始します。トリルの開始音は個別に変更できます。

手順

1. 開始音を変更するトリルを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「トリル (Trills)」グループで、「上の音符から開始 (Start on upper note)」をオンにします。
 3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
-

結果

チェックボックスをオンにすると選択したトリルの開始音が上の音符になり、オフにすると下の音符になります。

プロパティをオフにすると、トリルは開始音についてプロジェクト全体の設定に従います。

ヒント

すべてのトリルのデフォルトの開始音に対するプロジェクト全体の設定は、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「トリル (Trills)」ページで変更できます。

アルペジオ記号

アルペジオ記号とは、和音をアルペジオまたは分散、つまり和音を構成する音符を1つ1つ非常に素早く演奏することを示す垂直の線です。アルペジオ記号は、通常、垂直の波線で表示されます。



アルペジオの演奏は以下のいずれかの方向で行なわれます。

- 上向き: 和音の最低音から開始。
- 下向き: 和音の最高音から開始。

和音をアルペジオで演奏する場合の多くは上向きであるため、上向きのアルペジオ記号の上端には何も表示せず、下向きのアルペジオ記号の下端には矢印を表示するのが最も一般的で、Dorico Pro ではこれがデフォルトの設定になっています。ただし、同じ楽曲中に下向きのアルペジオ記号が使用されている場合は、上向きのアルペジオ記号の上端にも矢印を表示することが習慣として認められています。

Dorico Pro のアルペジオ記号は、その記号が適用される、声部や譜表に含まれるすべての音符の範囲全体にかかるように自動的に調整されます。

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

[ライン \(1046 ページ\)](#)

アルペジオ記号のタイプ

アルペジオの異なる向きや演奏技法を伝えるために、アルペジオ記号にはいくつかのタイプがあります。

アルペジオ (上へ)



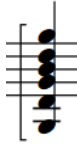
和音を最低音から上向きにアルペジオで演奏することを示す垂直の波線です。

アルペジオ (下へ)



和音を最高音から下向きにアルペジオで演奏することを示す垂直の波線です。

ノンアルペジオ



和音を構成するすべての音符をアルペジオではなく同時に演奏することを示す、直線による角括弧です。

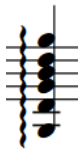
曲線のアルペジオ



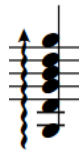
スラーに似た形状の垂直の曲線です。作曲者によっては、ゆるやかなアルペジオ奏法や部分的なアルペジオ奏法の指示に使うことがあります。

Dorico Pro では、上向きおよび下向きどちらのアルペジオ記号についても、以下の終端のうちいずれかを表示できます。

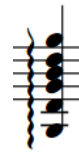
- なし
- 矢印
- 幅広



終端なしの上向きのアルペジオ記号



終端が矢印の上向きのアルペジオ記号



終端が幅広の上向きのアルペジオ記号

アルペジオ記号のタイプの変更

アルペジオ記号は入力後にタイプを変更できます。

手順

1. タイプを変更するアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「アルペジオ (Arpeggios)」グループで、「アルペジオタイプ (Arpeggio type)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - ノンアルペジオ (Non arpeggio)
 - アルペジオ (上へ) (Up arpeggio)
 - アルペジオ (下へ) (Down arpeggio)
 - 上向アルペジオ (曲線) (Up arpeggio (curve))

結果

選択したアルペジオ記号のタイプが変更されます。

ヒント

装飾音のポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、アルペジオタイプを変更できます。

関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(268 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(332 ページ\)](#)

アルペジオ記号の終端の外観を個別に変更する

初期設定では、下向きのアルペジオ記号には線の下端に矢印の先端が付きますが、上向きのアルペジオ記号には付きません。プロジェクト全体の設定とは別に、アルペジオ記号の終端の外観を個別に設定できます。

補足

これらの手順は、上向きと下向きのアルペジオ記号にのみ適用されます。曲線のアルペジオ記号やノンアルペジオ記号には適用されません。

手順

1. 終端の外観を変更するアルペジオ記号を選択します。記号の向きは問いません。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「アルペジオ (Arpeggios)」のグループで、「記号の終端 (Sign end)」をオンにします。
3. メニューから、終端に使用するものを以下のいずれかから選択します。
 - なし (Nothing)
 - 矢印 (Arrow)
 - 幅広 (Swash)

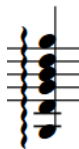
結果

選択したアルペジオ記号の終端の外観が変更されます。

ヒント

アルペジオ記号の終端のデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)」ページで設定を行ないます。

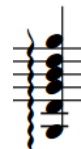
例



終端なしの上向きのアルペジオ記号



終端が矢印の上向きのアルペジオ記号



終端が幅広の上向きのアルペジオ記号

アルペジオ記号の長さ

アルペジオ記号の長さは、その記号が適用される声部/譜表の音符のピッチの幅によって決まります。

Dorico Pro は、アルペジオ記号が適用される声部/譜表の音符の音程が変更されたとき、または和音の音符の追加や削除が行なわれたときに、アルペジオ記号の長さを自動的に調整します。

アルペジオ記号が和音の上下端の音符より外に突き出す長さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」ページで変更できます。音符が譜表の線上にあるときと間上にあるときでは、それぞれ異なる値を設定できます。

アルペジオ記号の長さは個別にも変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(959 ページ\)](#)

アルペジオ記号の長さの変更

個々のアルペジオ記号の表示上の長さを変更できます。たとえば、ピッチの幅の狭い和音ではアルペジオ記号を長くすることで、アルペジオ記号が見やすくなります。

手順

1. 浄書モードで、長さを変更するアルペジオ記号のいずれかの端にある四角いハンドルを選択します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

結果

選択したアルペジオ記号の表示上の長さを変更されます。これにより、適用される音符が変更されることはありません。

ヒント

- アルペジオ記号の終端を移動すると、プロパティパネルの「**アルペジオ (Arpeggios)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
 - 「**上の Y オフセット (Top Y offset)**」は、アルペジオ記号の上のハンドルを移動させます。
 - 「**下の Y オフセット (Bottom Y offset)**」は、アルペジオ記号の下のハンドルを移動させます。

たとえば、アルペジオ記号全体を移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、アルペジオ記号の長さを調節することもできます。

プロパティをオフにすると、選択したアルペジオ記号がデフォルトの長さのリセットされます。

- すべてのアルペジオ記号が和音の上下端の音符より外に突き出す長さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」ページで変更できます。
-

関連リンク

[アルペジオ記号の表示位置の移動 \(958 ページ\)](#)

[浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(959 ページ\)](#)

アルペジオ記号の一般的な配置規則

アルペジオ記号は、それが適用される音符および音符の臨時記号の左に配置されますが、装飾音符が付く場合は、装飾音符と標準の音符との間に配置されます。アルペジオ記号は、それが適用される音符と同じ小節に表示されなければならない、小節線をまたぐ位置には表示されません。

Dorico Pro は、アルペジオ記号が正しい配置で収まるように、音符のスペーシングと譜表のスペーシングを自動的に調整します。

アルペジオ記号は、それが適用される和音のすべての音符の垂直範囲全体をカバーしつつ、両端ともわずかに突き出すように配置されます。ただし、音符の符尾までカバーする必要はありません。Dorico Pro は、和音の音符すべてがカバーされる長さで自動的にアルペジオ記号の作成を行ない、和音の構成音に変更または削除された場合は長さを調整します。

アルペジオで演奏される和音が、ピアノパートにあるような 2 つの譜表にまたがる場合、アルペジオ記号も 2 つの譜表にわたって延長されます。

アルペジオ記号のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。

アルペジオ記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、これにより適用されるリズム上の位置は変更されません。

すべてのアルペジオ記号のデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(959 ページ\)](#)

[アルペジオ記号の長さ \(956 ページ\)](#)

アルペジオ記号の位置の移動

アルペジオ記号の位置は入力後に移動できます。

補足

- アルペジオ記号を休符の上に移動することはできません。アルペジオ記号は、同じ声部の隣接する音符または和音にのみ移動できます。休符を含むフレーズに沿ってアルペジオ記号を移動させた場合は、アルペジオ記号を削除して、新しい位置に新たに入力することをおすすめします。
 - アルペジオ記号のリズム上の位置をマウスで移動することはできません。
-

手順

1. 記譜モードで、位置を変更するアルペジオ記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、アルペジオ記号を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。

- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

結果

アルペジオ記号は現在のリズムグリッドの間隔に従って左右に移動します。

リズムグリッドに従い移動した先の位置に音符が存在しない場合、アルペジオ記号は表示されなくなります。さらに現在のリズムグリッドの間隔に従い左右への移動を続けた先に音符が存在した場合、その音符の横に記号が再表示されます。

アルペジオ記号を別の位置の音符に移動させる際は、リズムグリッドの間隔も変更できます。

補足

- アルペジオ記号を休符の位置に移動すると、アルペジオ記号は削除されます。
- アルペジオ記号はそれぞれの位置に1つしか存在できません。選択したアルペジオ記号を移動させる際に他のアルペジオ記号の上を通過した場合、そこにあったアルペジオ記号は削除されます。

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

アルペジオ記号の表示位置の移動

アルペジオ記号の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更するアルペジオ記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、アルペジオ記号を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したアルペジオ記号の表示位置が、適用されるリズム上の位置に影響することなく変更されます。

ヒント

アルペジオ記号を移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**アルペジオ (Arpeggios)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**上の Y オフセット (Top Y offset)**」は、アルペジオ記号の上端を垂直に移動させます。
- 「**下の Y オフセット (Bottom Y offset)**」は、アルペジオ記号の下端を垂直に移動させます。
- 「**X オフセット (X offset)**」はアルペジオ記号全体を水平に移動させます。

たとえば、アルペジオ記号全体を上方向に移動すると、上下のハンドルも移動するため、「**上の Y オフセット (Top Y offset)**」と「**下の Y オフセット (Bottom Y offset)**」の両方が有効になります。3 つすべてのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでもアルペジオ記号の表示位置を移動できます。

プロパティをオフにすると、選択したアルペジオ記号がデフォルト位置にリセットされます。

関連リンク

[アルペジオ記号の長さの変更](#) (956 ページ)

アルペジオ記号を装飾音符の前または後ろに表示する

アルペジオ記号の表示位置は、装飾音符の前または後ろに個別に変更できます。初期設定では、アルペジオ記号はそれが適用される音符のすぐ左に配置され、装飾音符が付く場合は、装飾音符と標準の音符の間に配置されます。

手順

1. 装飾音符より前に表示させるアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**アルペジオ (Arpeggios)**」グループで、「**装飾音符前のアルペジオ (Arpeggio before grace notes)**」をオンまたはオフにします。

結果

選択したアルペジオ記号が、プロパティをオンにしたときは装飾音符より前に、プロパティをオフにしたときは装飾音符より後に表示されます。

浄書オプションでアルペジオ記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」ページで、アルペジオ記号の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションを使用すると、アルペジオ記号のデザイン、外観、および詳細な位置を、スラッシュ符頭の声部に音符を表示するかを含めて変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ](#) (362 ページ)

再生時のアルペジオ

「**再生 (Play)**」 > 「**再生オプション (Playback Options)**」の「**タイミング (Timing)**」ページにある「**アルペジオ記号 (Arpeggio Signs)**」セクションでは、アルペジオ再生の制御に関する設定を変更してプロジェクト全体に適用できます。

たとえば、アルペジオの速さや、アルペジオが拍の位置で開始するか、それとも拍の位置で終了するかなどを制御できます。

アルペジオのデフォルトの長さは波線のアルペジオ記号と曲線のアルペジオ記号で個別に設定でき、120 bpm での 4 分音符の割合で表わします。アルペジオの長さをそれ自体の記譜上のリズムに対する割合に設定すると、非常にゆっくりな曲においてはアルペジオの再生が通常意図される速さより大幅に遅くなってしまう場合があるため、この場合は上記の割合に設定することをおすすめします。

アルペジオはデフォルトの長さとともに、長さの最小値と最大値も設定でき、これはアルペジオの記譜上の音価に対する割合で表現されます。これは、アルペジオ記号が付いたすべての音符が、記譜されたデュレーションの間に確実に再生されるようにするためです。

ヒント

個々のアルペジオ記号については、プロパティパネルの「アルペジオ再生 (Arpeggios Playback)」のグループにあるプロパティを使用して、再生オプションのデフォルトを上書きすることもできます。

拍に対するアルペジオの再生位置を変更する

個々のアルペジオについて、演奏するのは記譜上の位置より前か後か、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 拍に対する再生位置を変更するアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「アルペジオ再生 (Arpeggios Playback)」グループで、「再生位置 (Playback position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 拍で開始 (Start on beat)
 - 拍で終了 (End on beat)

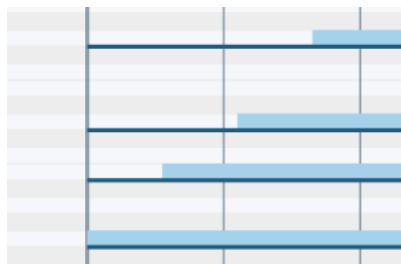
結果

選択したアルペジオの再生時の拍に対する位置が変更されます。

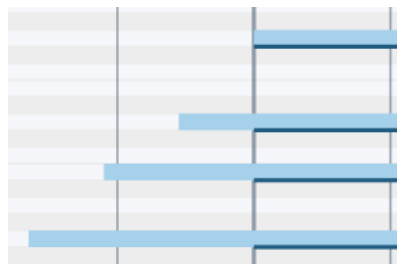
ヒント

アルペジオの拍に対する再生位置に関するプロジェクト全体の設定は、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「タイミング (Timing)」ページで変更できます。

例



拍で開始するアルペジオ



拍で終了するアルペジオ

関連リンク

[再生時のアルペジオ \(959 ページ\)](#)

[「再生オプション」ダイアログ \(509 ページ\)](#)

アルペジオの再生時のデュレーションを変更する

個々のアルペジオの再生時のデュレーションは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

アルペジオのデュレーションは、和音の記譜上のリズムの割合で表現されます。たとえば4分音符の和音では、ノートのオフセット値が1/2のアルペジオは8分音符の長さになり、ノートのオフセット値が1/8のアルペジオは32分音符の長さになります。

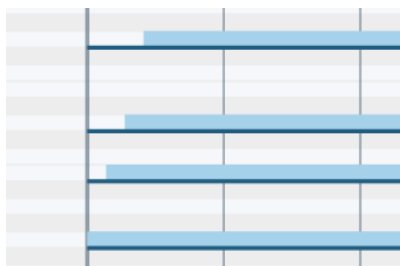
手順

1. 再生時のデュレーションを変更するアルペジオ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「アルペジオ再生 (Arpeggios Playback)」グループで、「ノートのオフセット (Note offset)」をオンにします。
 3. 数値フィールドの数値を変更して、選択したアルペジオ記号の再生時のデュレーションを変更します。
 4. **[Return]** を押します。
-

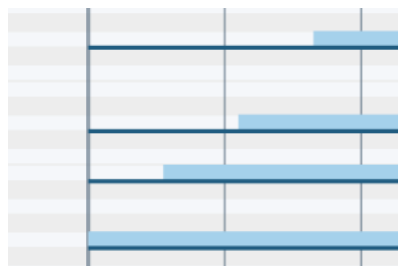
結果

選択したアルペジオの再生時のデュレーションが変更されます。これは選択したアルペジオについて、アルペジオのデュレーションに関するプロジェクト全体の設定を上書きします。

例



ノートのオフセット値が1/8のアルペジオによる和音



ノートのオフセット値が1/2のアルペジオによる和音

関連リンク

[再生時のアルペジオ \(959 ページ\)](#)

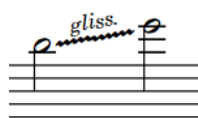
グリッサンドライン

グリッサンドは2つの音符の間の継続的な音程の移行を示し、これはなめらかな移行と半音階による移行、いずれの場合もあります。これは直線と波線のいずれかで表わされ、指示のテキストが付く場合と、テキストが付かない線だけの場合があります。

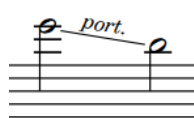
グリッサンドとポルタメントの演奏技法に関しては、さまざまな表記規則が存在します。グリッサンドは上昇下降いずれかに向かう半音の連続による2音間の半音階スケールを示し、ポルタメントは2音間でなめらかに途切れなく音程を滑らせることを示すと理解される場合もあります。ただし、グリッサンドとポルタメントという言葉は、状況が異なれば意味が入れ替わって使用される場合もあります。

Dorico Pro では、グリッサンドとポルタメントの両方を入力でき、入力後でも容易にスタイルを変更できます。

Dorico Pro のグリッサンドラインは両端の音符を自動的に追従します。つまり、各音符のピッチを変更すると、それに応じてグリッサンドラインの両端の位置が移動します。



テキストと波線で示されたグリッサンドの例



テキストと直線で示されたポルタメントの例

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

[グリッサンドのスタイルの変更 \(964 ページ\)](#)

[ライン \(1046 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線 \(1029 ページ\)](#)

[個々の音符のピッチの変更 \(203 ページ\)](#)

グリッサンドの一般的な配置規則

グリッサンドは符頭の上に配置され、その角度は音符間の音程差を反映します。角度が急であるほど、音程差も大きくなります。グリッサンドの終端は符頭のすぐ横の、直接触れない位置に配置されます。

グリッサンドは臨時記号と重なってはならず、臨時記号が明確に読み取れるよう手前で止められます。Dorico Pro はグリッサンドが臨時記号と重ならないよう自動的に配置します。

グリッサンドは2つの音符間の漸進的かつ一定した音程の変化を示すため、通常は隣合う2つの符頭を接続しますが、複数の音符をまたぐこともできます。

グリッサンドは組段区切りやページ区切りをまたぐことができます。組段区切りやページ区切りをまたぐグリッサンドにテキストが表示される場合、テキストはグリッサンドのそれぞれの部分に表示されます。初期設定では、分割された各部分の開始位置と終了位置は、グリッサンド全体の本来の開始位置と終了位置に一致します。

Dorico Pro では、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**グリッサンド (Glissando Lines)**」ページで、グリッサンドのデフォルト位置の詳細な調整を行なえます。個々のグリッサンドの開始位置または終了位置も、浄書モードで調整できます。

関連リンク

[浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する \(963 ページ\)](#)

[グリッサンドのデフォルトの角度をプロジェクト全体で変更する \(967 ページ\)](#)

[グリッサンドの角度を個別に変更する \(967 ページ\)](#)

浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**グリッサンド (Glissando Lines)**」ページで、グリッサンドの外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「**グリッサンド (Glissando Lines)**」のページのオプションを使用すると、グリッサンドのスタイル、外観、および線の太さを変更できます。また、グリッサンドの終端の符頭に対する詳細な位置も設定できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

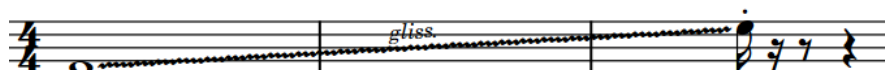
空白の小節をまたぐグリッサンド

Dorico Pro では、2つの音符の間でさえあれば、間に休符や他の音符があっても、声部が異なる音符や譜表が異なる音符の間であったとしても、グリッサンドを入力できます。

複数の小節をまたいで延びる非常に長いグリッサンドにおいては、たとえば演奏者がグリッサンドの過程で音程を強調しないことや、演奏者各自のスピードでグリッサンドを行なえることを示すような場合、各小節の開始位置で音程を表示させないのが好ましい場合があります。初期設定では、Dorico Pro は音符や休符を各小節に表示します。

選択した音符の間にグリッサンドを入力すると、その間にある休符をすべて削除できます。

例



複数小節にわたるグリッサンドの2つの音符の間に休符を表示しない例

関連リンク

[ポップオーバーを使ったグリッサンドラインの入力 \(274 ページ\)](#)

[パネルを使ったグリッサンドラインの入力 \(275 ページ\)](#)

[空白の小節で小節休符を表示/非表示にする \(1125 ページ\)](#)

[休符の削除 \(1124 ページ\)](#)

[明示的な休符を暗黙の休符に変換する \(1123 ページ\)](#)

グリッサンドのスタイルの変更

グリッサンドは直線または波線で表示できます。グリッサンドの線のスタイルは、プロジェクト全体の設定とは個別に変更できます。

手順

1. スタイルを変更するグリッサンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「グリッサンド (Glissando Lines)」グループで、「グリッサンドスタイル (Glissando style)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- 直線 (Straight line)



- 波線 (Wiggly line)



結果

選択したグリッサンドの線のスタイルが変更されます。

ヒント

- 「グリッサンドスタイル (Glissando style)」をオフにすると、選択したグリッサンドの線がデフォルトのスタイルに戻ります。
- 装飾音のポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、グリッサンドスタイルを変更できます。
- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」にある「グリッサンド (Glissando Lines)」ページで、プロジェクト全体のグリッサンドの線のデフォルトのスタイルを変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでグリッサンドの設定をプロジェクト全体に適用する \(963 ページ\)](#)

[装飾音のポップオーバー \(268 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(332 ページ\)](#)

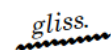
グリッサンドのテキストを個別に変更する

グリッサンドはテキスト付きまたはテキストなしのいずれかで表示できます。グリッサンドのテキストは、プロジェクト全体の設定とは個別に変更できます。

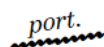
手順

1. テキストを変更するグリッサンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「グリッサンド (Glissando Lines)」グループで、「グリッサンドテキスト (Glissando text)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。

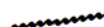
- Gliss.



- Port.



- テキストなし (No text)



結果

選択したグリッサンドのテキストが変更されます。

ヒント

すべてのグリッサンドに表示されるテキストに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**グリッサンド (Glissando Lines)**」のページで変更できます。

グリッサンドラインのテキストの表示条件を変更する

初期設定では、グリッサンドがテキストを収めるには短すぎる場合、グリッサンドテキストは表示されません。個々のグリッサンドについてテキストを常に表示するか、十分なスペースがある場合のみ表示するかを選択できます。

手順

1. テキストが表示される状況の設定を変更するグリッサンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**グリッサンド (Glissando Lines)**」グループで、「**表示中のグリッサンドテキスト (Glissando text shown)**」をオンにします。
 3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **余白が十分な場合に表示 (Show if sufficient space)**
 - **常に表示 (Always show)**
-

結果

「**余白が十分な場合に表示 (Show if sufficient space)**」が選択されている場合、グリッサンドが短すぎる場合はグリッサンドテキストが表示されません。

「**常に表示 (Always show)**」が選択されている場合、グリッサンドが短い場合でもグリッサンドテキストが常に表示されます。ただしこれにより、グリッサンドテキストが符頭や符尾など他のアイテムに重なってしまう場合があります。

ヒント

符頭間のデフォルトの間隔を広げるにはデフォルトの音符のスペーシングを変更し、個々の符頭の間隔を広げるには浄書モードで個々の位置の音符のスペーシングを調節します。

関連リンク

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

[デフォルトの音符のスペーシングを変更する \(430 ページ\)](#)

グリッサンドの表示位置の移動

個別のグリッサンドのリズム上の位置を変更することなく、表示位置を移動できます。グリッサンドの終端は個別に移動でき、これはグリッサンドの角度と表示上の長さも調節できることを意味します。

浄書モードでは、グリッサンドにはそれぞれ開始位置と終了位置の2か所に四角いハンドルがあります。

グリッサンドが組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側のグリッサンドの分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。

補足

グリッサンドのリズム上の位置は移動できません。グリッサンドのリズム上の位置を変更する場合は、それを元の位置から削除してから別の位置に新規にグリッサンドを入力する必要があります。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- グリッサンド全体または分割された部分
- グリッサンドの個々のハンドル

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、グリッサンドまたはハンドルを移動させます。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したグリッサンドまたはハンドルの表示位置が、適用されるリズム上の位置に影響することなく移動します。

ヒント

グリッサンドのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**グリッサンド (Glissando Lines)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」はグリッサンドの開始位置のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット (End offset)**」はグリッサンドの終了位置のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

たとえば、グリッサンド全体を移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのすべてのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、グリッサンドを移動したり、長さを調節したりできます。

プロパティをオフにすると、選択したグリッサンドがデフォルト位置にリセットされます。

関連リンク

[グリッサンドの角度を個別に変更する \(967 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

グリッサンドのデフォルトの角度をプロジェクト全体で変更する

Dorico Pro では、グリッサンドの終端は符頭の横に自動的に配置されます。グリッサンドのピッチの差が小さいと、線の角度は極めて小さくなる場合があります。ピッチの差が小さいグリッサンドの最小スパンについては、さまざまな状況ごとに値を変更してプロジェクト全体に適用できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストから「**グリッサンド (Glissando Lines)**」をクリックします。
 3. 「**垂直位置 (Vertical Position)**」のセクションで、プロジェクト内で該当する状況におけるグリッサンドの位置の値を変更します。
たとえば、譜表の同じ間上にある音符間のグリッサンドの最小スパンを増やせます。
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

グリッサンドのデフォルト位置と角度が変更されます。

ヒント

個々のグリッサンドの表示位置は、浄書モードで調整できます。

関連リンク

[グリッサンドの表示位置の移動 \(966 ページ\)](#)

グリッサンドの角度を個別に変更する

浄書モードで、グリッサンドの両端にあるハンドルを任意の方向に動かして、グリッサンドの角度を個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、角度を変更するグリッサンドの開始位置または終了位置にある四角いハンドルを選択します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。
3. 必要に応じて、他のグリッサンドのハンドルについても手順 1 と 2 を繰り返します。

結果

選択したグリッサンドの角度が変更されます。

補足

また、浄書モードのプロパティパネルの「**グリッサンド (Glissando Lines)**」グループで、「**開始オフセット (Start offset)**」および「**終了オフセット (End offset)**」プロパティを使用することで、グリッサンドの角度および表示上の長さを調節できます。

プロパティをオフにすると、選択したグリッサンドがデフォルト位置にリセットされます。

再生時のグリッサンドライン

グリッサンドラインは、各グリッサンドの開始音と終了音の間にある一連の音符を、短い間隔で鳴らすことで再生に反映されます。

ハーブに属するグリッサンドは、ハーブの現在のペダリングに応じて再生に使用するピッチを決定します。ほかのすべてのインストゥルメントのグリッサンドは、現在の調性システムに関係なく 12-EDO 半音階スケールを使用します。

グリッサンドラインの開始位置または終了位置にタイのつながりがある場合、再生はタイのつながりの最後の音符から始まり、タイのつながりの最初の音符で終了します。

初期設定では、デュレーション全体にわたってグリッサンドが鳴りますが、再生時にグリッサンドの開始を個別に遅らせることもできます。

補足

今のところ、グリッサンドラインを連続したなめらかなスライドとして再生することはできません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。

関連リンク

[ハーブのペダリング](#) (991 ページ)

再生時にグリッサンドの開始を遅らせる

再生時にグリッサンドの開始を遅らせて、デュレーションの途中から始めることができます。初期設定では、グリッサンドは再生時にデュレーション全体にわたって鳴ります。

手順

1. 再生の開始を遅らせるグリッサンドラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**グリッサンド (Glissando Lines)**」のグループで、「**開始位置のディレイ (Delayed start)**」をオンにします。
3. グリッサンドラインの開始をどれだけ遅らせるかを正確に指定したい場合は、「**ディレイ (Delay)**」をオンにして値フィールドの値を変更します。

この値は4分音符に対する割合を表わします。たとえば、「**1/2**」と入力するとグリッサンドの開始が8分音符分遅れます。

結果

「**開始位置のディレイ (Delayed start)**」のみをオンにすると、選択したグリッサンドの再生はそのデュレーションの半分の位置から開始されます。

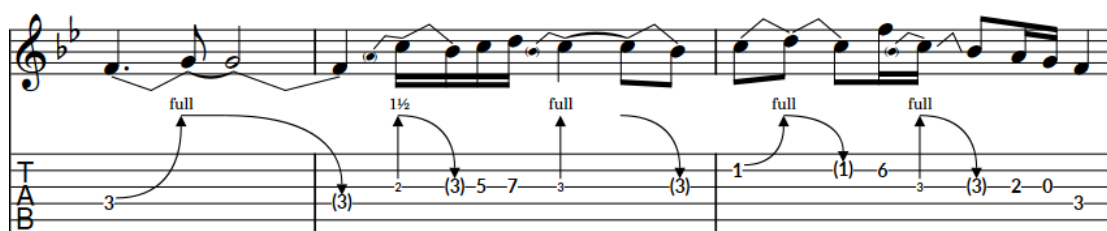
「**ディレイ (Delay)**」も一緒にオンにすると、選択したグリッサンドの再生は設定した値に従います。

ギターベンド

ギターベンドはエレキギターで一般的に使用される演奏技法で、演奏者は弦に力を加えて通常の位置からずらします。ベンドさせると弦の張りが強くなり、特有のピッチの変動が得られます。

音符を演奏したあとに弦をベンドするギターベンドに加え、Dorico Pro ではギタープリベンドもサポートされています。ギタープリベンドは音符を演奏する前に弦をベンドするため、音符の開始時点ではピッチは変化しません。

ギターベンドの演奏では、多くの場合、ベンドがかかったピッチをしばらく保持したあとで、弦を通常の位置 (ベンドがかかってないピッチ) に戻します。Dorico Pro では、これらの動作をそれぞれギターベンドホールドとリリースと呼びます。



音符の楽譜とタブ譜の両方で表示された、ギターベンド、ギターベンドホールド、ギタープリベンド、リリースを含むフレーズ

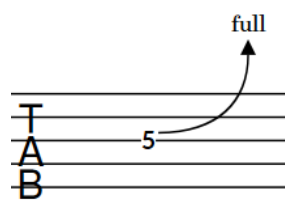
ギターベンド

ギターベンドは、鳴っている音符のピッチを上げるために、音符を演奏したあとで弦をベンドするよう演奏者に指示するものです。Dorico Pro では、ギターベンドは開始ピッチとベンドのピークのピッチを表わす2つの音符を結合します。

音符の譜表では、ギターベンドは開始位置と終了位置の符頭の間に斜めの線を使って記譜されます。タブ譜では、先端が矢印になった上向きの曲線を使って記譜され、矢印の上にベンドの音程を表わすテキストまたは数字/分数が表示されます。終了位置の音符のフレット番号は自動的に非表示になります。

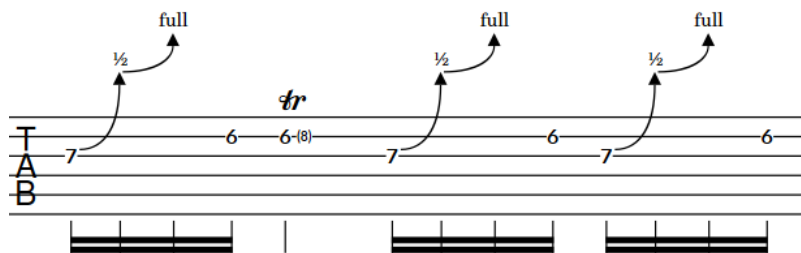


音符の譜表のギターベンド



タブ譜のギターベンド

連続するギターベンドのシーケンスがタブ譜上にベンドランとして記譜されます。

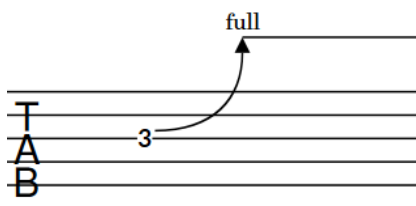


タブ譜のギターバンドラン

ギターバンドホールド

ギターバンドホールドは、ギターバンドのピークのピッチを保持するよう演奏者に指示するものです。通常はタイでつながれた音符に表示されます。

タブ譜では、横線を使って記譜されます。ギターバンドホールドは音符の譜表には記譜されません。



タブ譜のギターバンドホールド

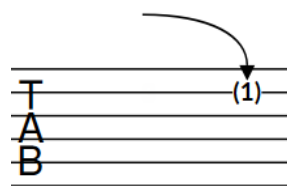
リリース

リリースは、バンドした弦を通常的位置に戻すことでピッチを下げるよう演奏者に指示するものです。Dorico Pro では、リリースはバンドのピークのピッチと終了ピッチを表わす2つの音符を結合します。

音符の譜表では、リリースは開始位置と終了位置の符頭の間に斜めの線を使って記譜されます。タブ譜では、先端が矢印になった下向きの曲線を使って記譜され、矢印の下に終了ピッチを表わすフレット番号が括弧付きで表示されます。開始位置の音符のフレット番号は自動的に非表示になります。



音符の譜表のリリース



タブ譜のリリース

補足

リリースとギターバンドは同じ方法で入力するため、本書では、プロジェクト内のギターバンドアイテムとリリースアイテムの両方をギターバンドと表わします。

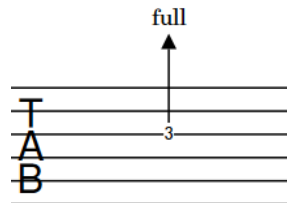
ギタープリバンド

ギタープリバンドは、たとえば前のギターバンドの終了位置の音符を繰り返す場合など、最初から高いピッチで音が鳴るように、音符を演奏する前に弦をバンドするよう演奏者に指示するものです。Dorico Pro では、ギタープリバンドは単音に適用されます。

音符の譜表では、ギタープリベンドは開始位置と終了位置の符頭の間に斜めの線を使って記譜されます。ただし、ギターベンドとは異なり、開始位置の補助符頭がプリベンドの一部として自動的に括弧付きで表示されます。タブ譜では、先端が矢印になった縦線を使って記譜され、矢印の上にプリベンドの音程を表わすテキストまたは数字/分数、縦線の下に開始ピッチを表わす小さなフレット番号が表示されます。



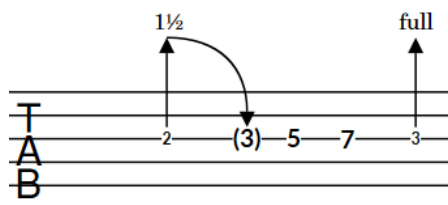
音符の譜表のギタープリベンド



タブ譜のギタープリベンド

ベンドの音程

ベンドの音程は、ピッチの変化を1ステップに対して相対的に表わしたものです。たとえば、「full」は1ステップ、「1/2」は半ステップ、「1 1/2」はマイナー3度のギターベンド/プリベンドをそれぞれ表わします。



2種類の音程（「1 1/2」と「full」）のプリベンドを表わしたフレーズ

補足

- ギターベンド、リリース、プリベンドは現在のところ再生には反映されません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。
- 初期設定では、単一の声部の符尾、符尾の符鉤、および連桁は符尾が上向き状態でタブ譜に表示されるため、ギターベンドと重なることがあります。そのため、タブ譜にギターベンドとリズムの両方を表示するプロジェクトについては、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タブ譜 (Tablature)**」ページにある「**符尾のデフォルトの向き (Default stem direction)**」を「**下 (Down)**」に変更することをおすすめします。

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターベンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

[ベンディングの入力 \(279 ページ\)](#)

[タブ譜 \(1205 ページ\)](#)

[音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする \(1207 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(825 ページ\)](#)

[ライン \(1046 ページ\)](#)

浄書オプションでギターバンド/プリバンドの設定をプロジェクト全体に適用する

ギターバンドとプリバンドの外観と位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ギターバンド (Guitar Bends)**」ページで変更できます。

「**ギターバンド (Guitar Bends)**」ページのオプションを使用すると、音符の譜表とタブ譜の両方について、ギターバンド/プリバンドの高さ、水平スペーシングの最小要件、ギターバンド/プリバンドの太さを変更できます。タブ譜のギターバンド/プリバンドについては、バンドの音程、リリース、ホールドの線のオプションが複数用意されています。また、ギターバンドの終端の符頭、連桁および譜表線に対する詳細な位置も設定できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

ギターバンドホールドの線を表示/非表示にする

ギターバンドホールドの線は、音符 (通常はタイでつながれた音符) のデュレーションの間、バンドを保持するよう指示するものです。タブ譜のギターバンドホールドの線を表示/非表示にできます。

補足

これらの手順は、ギターバンドにのみ適用されます。プリバンドまたはリリースにホールドの線を表示することはできません。

手順

1. ホールドの線を表示/非表示にするギターバンドを選択します。この操作は、記譜モードおよび浄書モードの音符の譜表とタブ譜で行なえます。
2. プロパティパネルの「**ギターバンド (Guitar Bends)**」グループで、「**ホールドを表示 (Show hold)**」をオン/オフにします。

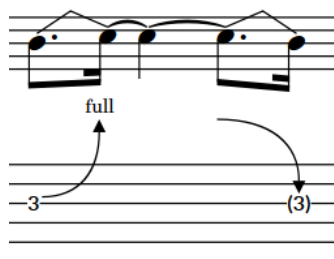
結果

「**ホールドを表示 (Show hold)**」をオンにすると、タブ譜の選択したバンドにホールドの線が表示され、オフにすると非表示になります。

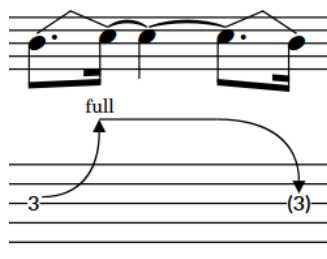
ヒント

ギターバンドホールドは実線または破線で表示できます。すべてのギターバンドホールドの線のタイプは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ギターバンド (Guitar Bends)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションで変更できます。

例



ホールドの線を非表示にした状態



ホールドの線を表示した状態

ギタープリベンドの方向を変更する

ギタープリベンドの方向を個別に変更できます。初期設定では、単声部の場合、音符の符頭側にギタープリベンドが表示され、複声部の場合は音符の符尾側に表示されます。

手順

1. 向きを変更するギタープリベンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」グループで、「**ベンディングの方向 (Pre-bend direction)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上 (Up)
 - 下 (Down)

結果

選択したギタープリベンドの方向が変更されます。

ヒント

ギターバンドを選択して **[F]** を押すと、ギターバンドの方向を変更できます。ただし、このキーボードショートカットはギタープリベンドには使用できません。

関連リンク

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(332 ページ\)](#)

ギターバンドをダイブとリターンとして表示する

既存のギターバンドをダイブとリターンとして表示できます。ダイブとリターンはビブラートバーを使用するギターの演奏技法です。ダイブとリターンは、タブ譜にギターバンドとは異なる形で表示されます。

前提条件

ダイブとリターンのそれぞれの音符の間にギターバンドを入力しておきます。

手順

1. ダイブとリターンとして表示するギターバンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

たとえば、F-E-Fの音符をダイブとリターンとして表示するには、F-EとE-Fの間のギターベンドを両方選択します。

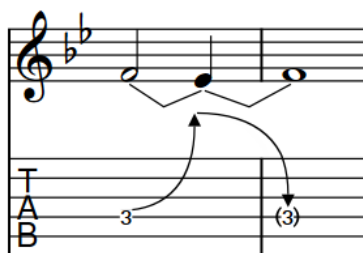
2. プロパティパネルの「ギターベンド (Guitar Bends)」グループで「ビブラートバーを使用 (Use vibrato bar)」をオンにします。

結果

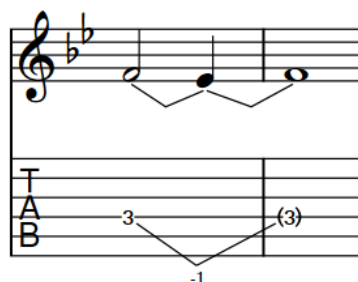
選択したギターベンドがタブ譜にV字形のダイブとリターンとして表示されます。譜表の外側のVの部分に音程を表わす数字/分数が表示されます。

中間のピッチが外側のピッチよりも低い場合、Vが下向きになります。中間のピッチが外側のピッチよりも高い場合、Vが上向きになります。

例



デフォルトで表示されるギターベンドのペア



ダイブとリターンとして表示されたギターベンドのペア

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターベンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

[タブ譜 \(1205 ページ\)](#)

ギタープリベンドの臨時記号を表示/非表示にする

たとえば、タブ譜にも音程を明確に表示するレイアウトで水平方向のスペースを節約する場合などに、ギタープリベンドの臨時記号を個別に表示/非表示にできます。

手順

1. 臨時記号の表示/非表示を切り替えるギタープリベンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ギターテクニック (Guitar Techniques)」グループで、「ベンディングの臨時記号 (Pre-bend accidental)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 非表示 (Hide)
 - 表示 (Show)

結果

「非表示 (Hide)」を選択すると、選択したギタープリベンドの臨時記号が非表示になり、「表示 (Show)」を選択すると表示されます。これは、選択したタブ譜のギタープリベンドに表示される音程には影響しません。

ギターバンドの表示位置を移動する

ギターバンド/プリバンドおよびホールドの表示位置を個別に移動できます。各ハンドルを個別に移動することで、個々のギターバンド/プリバンドおよびホールドの形状と表示上の長さも調節できます。

ギターバンドが組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側のギターバンドの分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。

補足

ギターバンドのリズム上の位置を移動することはできません。ギターバンドのリズム上の位置を変更する場合は、それを元の位置から削除してから別の位置に新規にギターバンドを入力する必要があります。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- ギターバンド/プリバンド、ホールド、またはギターバンドのセグメント全体
- ギターバンド/プリバンドまたはホールドの個々のハンドル

ヒント

- 音符の譜表だけでタブ譜のギタープリバンド全体を移動することはできません。
- 選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。
- **[Tab]** を押して、選択したギターバンド/プリバンドのハンドルを順に切り替えることができます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したギターバンド/プリバンド、ホールド、またはハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したギターバンド/プリバンド、ホールド、またはハンドルの表示位置が、適用されるリズム上の位置に影響することなく移動します。

ヒント

ギターバンド/プリバンド、またはホールドのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**ギターバンド (Guitar Bends)**」または「**ギターテクニック (Guitar Techniques)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」は、ギターバンド/プリバンドの開始ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**中央オフセット (Mid offset)**」は、ギターバンド/プリバンドの中央ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

- 「終了オフセット (End offset)」は、ギターバンド/プリバンドの終了ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「音程オフセット (Interval offset)」は、ギターバンド/プリバンドの音程ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「ホールド開始オフセット (Hold start offset)」は、ギターバンドホールドの開始ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「ホールド終了オフセット (Hold end offset)」は、ギターバンドホールドの終了ハンドルを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

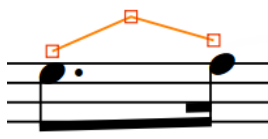
たとえば、音符の譜表のギターバンド全体を移動すると、3つのハンドルもすべて移動するため、「開始オフセット (Start offset)」、「中央オフセット (Mid offset)」、および「終了オフセット (End offset)」がすべて有効になります。これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、ギターバンド/プリバンドおよびギターバンドホールドの表示位置を移動したり、長さを調節したりすることもできます。

プロパティをオフにすると、選択したギターバンドがデフォルトの位置にリセットされます。

浄書モードのギターバンド

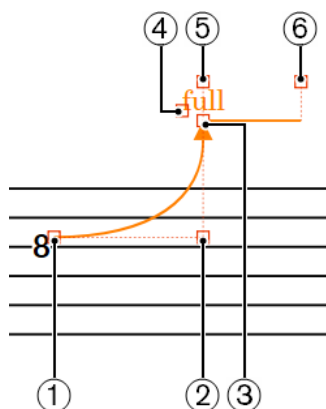
浄書モードでは、ギターバンド、プリバンド、リリース、およびホールドに複数のハンドルがあり、それらを個別に動かして表示上の位置や形状を調節できます。

音符の譜表では、ギターバンド、プリバンド、リリースのすべてに3つの四角いハンドルがあり、それらを個別に動かすことができます。開始ハンドルまたは終了ハンドルを動かすと、開始ハンドルおよび終了ハンドルに対する相対的な位置を保つために中央ハンドルも移動します。



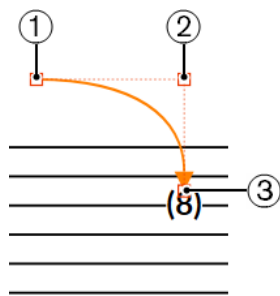
浄書モードの音符の譜表のギターバンドハンドル

タブ譜のギターバンドとホールドには、以下のハンドルがあります。



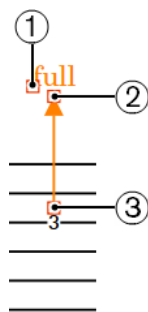
- 1 ギターバンドの開始ハンドル
- 2 ギターバンドの中央ハンドル
- 3 ギターバンドの終了ハンドル
- 4 ギターバンドの音程ハンドル
- 5 ホールドの開始ハンドル
- 6 ホールドの終了ハンドル

タブ譜のリリースには、以下のハンドルがあります。



- 1 リリースの開始ハンドル
- 2 リリースの中央ハンドル
- 3 リリースの終了ハンドル

タブ譜のギタープリベンドには、以下のハンドルがあります。



- 1 ギタープリベンドの音程ハンドル
- 2 ギタープリベンドの終了ハンドル
- 3 ギタープリベンドの開始ハンドル

これらのハンドルを動かして、ギターベンド、プリベンド、およびリリースの形状を変更したり、ギターベンドホールドの表示上の長さや角度を変更したりできます。

ギターベンドが組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側のギターベンドの分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。

ジャズアーティキュレーション

Dorico Pro におけるジャズアーティキュレーションは、ジャズ特有の装飾音を、特に金管楽器に関して幅広くカバーしています。

これらはジャズアーティキュレーションと呼ばれてはいますが、アーティキュレーションというよりもむしろ装飾音として機能します。これらの演奏技法は音符のデュレーションやアタックではなくピッチに変化を与えるためです。このため、これらは Dorico Pro においては装飾音と見なされます。これらは装飾音パネルに収められ、装飾音ポップオーバーを使用しても入力できます。

ジャズアーティキュレーションは、Dorico Pro ではベンドと呼ばれるスラーによく似た曲線と、Dorico Pro ではスムーズと呼ばれる、実線、破線、波線のいずれかによる直線で表示されます。

それぞれの音符は両側、前と後ろに1つずつジャズアーティキュレーションを表示できます。音符の後ろのジャズアーティキュレーションは長さを変更できます。

以下のジャズアーティキュレーションは 音符の前に表示されます。

プロップ

音符に高いピッチからアプローチします。



プロップ (ベンド)



プロップ (スムーズ)

スクープ/リフト

音符に低いピッチからアプローチします。ベンドによるアプローチはスクープ、スムーズによるアプローチはリフトとなります。



スクープ



リフト (直線)

以下のジャズアーティキュレーションは 音符の後ろに表示されます。

ドイト

音符のあとにピッチが上昇します。



ドイト (ベンド)



ドイト (スムーズ)

フォール

音符のあとにピッチが下降します。



フォール (バンド)



フォール (スムーズ)

さらに、金管楽器で一般に使用されるその他のジャズの装飾音も、ジャズアーティキュレーションを入力するのと同じ手順で音符に追加できます。

補足

ジャズアーティキュレーションは現在のところ再生には反映されません。

関連リンク

[装飾音のポップオーバー \(268 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

ジャズの装飾音

ジャズの装飾音は、通常はジャズ音楽で金管楽器によって使用される記譜記号で、反転やスミアなどがあります。ジャズアーティキュレーションが符頭の横に配置されるのとは異なり、これは譜表の外側に配置されます。

ジャズの装飾音は、ジャズアーティキュレーションより他の装飾音に近い振る舞いをします。装飾音は音符とは個別のアイテムであるため、記譜モードでも音符とは個別に選択でき、ジャズアーティキュレーションが付いている音符にも追加できます。これらはジャズアーティキュレーションと一緒に使用されることがほとんどであるため、Dorico Pro においては装飾音パネルの「**ジャズ (Jazz)**」セクションと一緒に収められています。

ジャズの装飾音の入力方法は、ジャズアーティキュレーションよりも、その他の装飾音と共通します。

Dorico Pro では、以下の装飾音がジャズの装飾音と見なされます。

- フリップ (Flip)
- スミア (Smear)
- ジャズターン (Jazz turn)/シェイク (Shake)
- バンド (Bend)

補足

ジャズアーティキュレーションは現在のところ再生には反映されません。

関連リンク

[装飾音 \(936 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

[装飾音のポップオーバー \(268 ページ\)](#)

浄書オプションでジャズアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」ページで、ジャズアーティキュレーションの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」ページのオプションでは、バンドのジャズアーティキュレーションのデフォルトの長さ、およびスムーズのジャズアーティキュレーションのデフォルトの線のスタイル、デザイン、そして角度が変更できます。また、符頭、譜表線、付点、およびリズム上の同じ位置にある他の符頭に属するジャズアーティキュレーションに対するジャズアーティキュレーションのデフォルト位置も変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

ジャズアーティキュレーションの表示位置の移動

個々のジャズアーティキュレーションの表示位置は、適用される音符を変更することなく移動できます。スムーズのジャズアーティキュレーションの終端は個別に移動でき、これはそれぞれの角度と表示上の長さも調節できることを意味します。



浄書モードのドイツスムーズのハンドル

補足

ジャズアーティキュレーションのリズム上の位置は移動できません。ジャズアーティキュレーションを別の音符に移動させる場合は、それを元の音符から削除してから別の音符に新規に入力する必要があります。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。
 - ジャズアーティキュレーション全体
 - スムーズのジャズアーティキュレーションの個々のハンドル

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ジャズアーティキュレーションまたはハンドルを移動させます。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。

- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したジャズアーティキュレーションまたはハンドルの表示位置が、それが属する音符に影響することなく移動します。

ヒント

スムーズのジャズアーティキュレーションのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**前に付く線の外側のオフセット (In far offset)**」は、音符の前に表示されるジャズアーティキュレーションの開始位置、つまり音符から離れた側のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**前に付く線のオフセット (In offset)**」は、音符の前に表示されるジャズアーティキュレーションの終了位置、つまり音符に近い側のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**後ろに付く線のオフセット (Out offset)**」は、音符のあとに表示されるジャズアーティキュレーションの開始位置、つまり音符に近い側のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**後ろに付く線の外側のオフセット (Out far offset)**」は、音符のあとに表示されるジャズアーティキュレーションの終了位置、つまり音符から離れた側のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

たとえば、フォールスムーズ全体を移動すると、両方のハンドルも移動するため「**後ろに付く線のオフセット (Out offset)**」と「**後ろに付く線の外側のオフセット (Out far offset)**」の両方がオンになります。これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することでも、スムーズのジャズアーティキュレーションの表示上の位置や長さを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したスムーズのジャズアーティキュレーションがデフォルトの位置にリセットされます。

関連リンク

[ジャズアーティキュレーション \(979 ページ\)](#)

[ジャズアーティキュレーションの削除 \(985 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

ジャズアーティキュレーションの位置

Dorico Pro では、ジャズアーティキュレーションのそれが属する符頭に対する位置は自動的に調整されます。その際には付点、臨時記号、逆向きの音符などその他の記譜記号もすべて反映されます。

和音中の複数の音符にジャズアーティキュレーションが付く場合、Dorico Pro はそれらをどれだけ符頭に近づけるかと、合計いくつ表示するか2点に基づき、最良の配置を検討します。Dorico Pro は、スペースあたりできるだけ少なくジャズアーティキュレーションを配置しようとしています。逆に言うと、クラスター和音において表示されるジャズアーティキュレーションの数は、符頭の数より少なくなる場合もあります。

これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。

すべてのジャズアーティキュレーションの他のジャズアーティキュレーションや符頭に対するデフォルト位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)**」ページで変更できます。

浄書モードでは、スムーズのジャズアーティキュレーションは両端にハンドルが表示され、これを使用してそれぞれの開始位置と終了位置を別個に移動できます。またジャズアーティキュレーション全体の表示位置も個別に移動できます。

関連リンク

[浄書オプションでジャズアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(981 ページ\)](#)

既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する

ジャズアーティキュレーションは、たとえばドイツスムーズを長いドイツバンドに変更するなど、タイプや長さを入力後に変更できます。ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは装飾音パネルから指定できますが、装飾音ポップオーバーからは指定できません。

手順

1. 記譜モードで、ジャズアーティキュレーションを変更する音符を選択します。
2. 装飾音パネルで、「**ジャズ (Jazz)**」セクションから使用するジャズアーティキュレーションをクリックします。

結果

選択した音符に表示されるジャズアーティキュレーションが変更されます。

ヒント

ジャズアーティキュレーションのタイプや長さは、プロパティパネルの「**ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)**」グループにある「**前に付く線 (In)**」と「**後ろに付く線 (Out)**」プロパティを使用して変更できます。

例



ドイツバンド (短)



ドイツバンド (中)



ドイツバンド (長)

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルを変更する

スムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルは、プロジェクト全体の設定より優先される形で別個に変更できます。たとえば、選択したフォールスムーズを波線から直線に変更できます。

手順

1. 線のスタイルを変更するスムーズのジャズアーティキュレーションが付いた音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

音符の同じ側にスムーズのジャズアーティキュレーションが付いている音符を選択する必要があります。たとえば、音符の前にスムーズのジャズアーティキュレーションが付いている音符だけを選択します。

2. プロパティパネルの「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」グループで、「前に付く線のスタイル (In line style)」と「後ろに付く線のスタイル (Out line style)」のいずれかまたは両方のメニューから、以下の線のスタイルを選択します。

- 直線 (Straight)
- 波線 (Wavy)
- 破線 (Dashed)

補足

「前に付く線のスタイル (In line style)」は、スムーズのジャズアーティキュレーションが選択した音符の前に付いているときに利用でき、「後ろに付く線のスタイル (Out line style)」は、選択した音符の後ろに付いているときに利用できます。スムーズのジャズアーティキュレーションが選択した音符の両側に付いているときは、両方が利用できます。

結果

選択したスムーズのジャズアーティキュレーションの線のスタイルが変更されます。

ヒント

- ジャズアーティキュレーションを選択して「編集 (Edit)」 > 「外観をリセット (Reset Appearance)」を選択すると、デフォルトの線のスタイルにリセットできます。
- スムーズのジャズアーティキュレーションそれぞれのデフォルトの線のスタイルは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ジャズアーティキュレーション (Jazz Articulations)」ページで個別に変更できます。

例



直線のドイトスムーズ



波線のドイトスムーズ



破線のドイトスムーズ

関連リンク

[既存のジャズアーティキュレーションのタイプや長さを変更する \(983 ページ\)](#)

[浄書オプションでジャズアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(981 ページ\)](#)

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

ジャズアーティキュレーションの削除

ジャズアーティキュレーションは入力後に音符から削除できます。ただし、ジャズアーティキュレーションは単独のアイテムではなく音符の一部と見なされるため、選択して削除する手順は他のアイテムとは異なります。

手順

1. 記譜モードで、ジャズアーティキュレーションを削除する音符を選択します。
2. 装飾音パネルの「**ジャズ (Jazz)**」セクションで、「**削除 (Remove)**」をクリックします。

結果

選択した音符からすべてのジャズアーティキュレーションが削除されます。

関連リンク

[装飾音、アルペジオ記号、グリッサンドライン、ギターバンド、ジャズアーティキュレーションの入力方法 \(267 ページ\)](#)

ページ番号

ページ番号はそれぞれのページに一意的な番号を与え、他ページに対する相対的な位置を示すために使用されます。スコアおよびパート譜は、新聞や書籍と同様、ページ番号を使用して楽譜の正しい並び順を維持します。

Dorico Pro では1つのプロジェクトに複数のフローを使用できるため、ほとんどの場合手動でページ番号を変更する必要はありません。ただし、1つの楽曲を複数のファイルに分ける場合は、楽章から楽章へページ番号が切れ目なく続くようにするためにページ番号を確認する必要があります。

このような場合、デフォルトのページ番号を変更します。たとえば、スコアにおいて、楽譜の開始ページの前に前付けの4ページを置きつつ、楽譜の開始ページを1ページめと表示させる場合、楽譜の開始ページにページ番号の変更を挿入できます。

Dorico Pro ではページ番号はレイアウト固有であり、ページ番号はレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、スコアではページ番号を変更しながら、パート譜ではデフォルトのページ番号を表示できます。

Dorico Pro ではページ番号をトークンで表示します。

補足

ページ番号を表示させるすべてのページには、ページ番号のトークンを含むテキストフレームが必要です。

デフォルトのマスターページには、ページ番号のトークンが入ったテキストフレームが置かれています。マスターページエディターではページ番号のテキストフレームの位置を変更できます。これによりこのマスターページを使用するすべてのページでページ番号の位置が変更されます。また個々のページでも、ページ番号のテキストフレームを移動できます。

またレイアウトごとに、ページ番号の表示に使用される数字のタイプも変更できます。たとえば、前付けにはローマ数字を使用し、楽譜ページにはアラビア数字を使用する場合、ページ番号と同時に数字の種類も変更できます。

関連リンク

[「ページ番号の変更 \(Page Number Change\)」ダイアログ \(380 ページ\)](#)

[ページ番号の変更の挿入 \(379 ページ\)](#)

[ページの形式変更 \(376 ページ\)](#)

[ページ番号の変更の解除 \(381 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(390 ページ\)](#)

[テキストトークン \(401 ページ\)](#)

マスターページでのページ番号の移動

ページ番号を表示する位置を変更するには、ページ番号を含むテキストフレームを移動する必要があります。このための一番効率的な方法は、マスターページのフォーマットでページ番号を含むテキストフレームを移動することです。

手順

1. 浄書モードで、ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションから、ページ番号の位置を変更するマスターページの見開きをダブルクリックします。
2. マスターページエディターで、ページ番号を含むテキストフレームを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なってテキストフレームを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したテキストフレームが移動します。

ヒント

テキストフレームを移動すると、プロパティパネルの「フレーム (Frames)」グループにある「左 (Left)」、「上 (Top)」、「右 (Right)」、および「下 (Bottom)」の値が、それぞれ対応するフレームの辺とページ余白との距離を反映する形で変化しますが、値が表示されるのは対応する制限がロックされている場合のみです。

これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでもテキストフレームを移動できます。

- 「右 (Right)」 / 「左 (Left)」はフレームの左右の辺を水平に移動させます。
- 「上 (Top)」 / 「下 (Bottom)」はフレームの上下の辺を垂直に移動させます。

各テキストフレームの制限のロック/ロック解除は、形式設定パネルの「フレーム (Frames)」セクションで行なえます。

関連リンク

[フレーム制限 \(410 ページ\)](#)

[マスターページ \(364 ページ\)](#)

ページ番号のパラグラフスタイル

ページ番号のパラグラフスタイルは、フォント、サイズ、水平方向の配置など、外観に関わるすべての設定を制御します。既存のページ番号のパラグラフスタイルの編集、および追加のページ番号のパラグラフスタイルの作成は「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで行なえます。

- 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」のダイアログは、浄書モードで「**浄書 (Engrave)**」 > 「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」を選択すると開きます。

Dorico Pro に初期設定で用意されているページ番号のパラグラフスタイルは1つですが、ページ番号のパラグラフスタイルは他にも作成できます。たとえば、ページ番号をフルスコアレイアウトには太字でページの一番上に中央揃えで表示させながら、パートレイアウトには斜体でページの外側の端に表示させる場合は、既存の「**ページ番号 (Page Number)**」のパラグラフスタイルを基本とする新規パラグラフスタイルを作成して、名前と設定を変更します。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

[浄書モードのテキストエディターオプション \(420 ページ\)](#)

[テキストのパラグラフスタイルの変更 \(422 ページ\)](#)

[パラグラフスタイルの作成 \(416 ページ\)](#)

ページ番号の数字スタイルの変更

ページ番号はアラビア数字でもローマ数字でも表示できます。ページ番号の数字スタイルは、レイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. ページ番号の数字スタイルを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**ページ番号 (Page Number)**」セクションで、「**使用 (Use)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **数字 (Number)**
 - **ローマ数字 (Roman numeral)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。


結果

選択したレイアウトで、ページ番号の数字スタイルが変更されます。

個々のページにおけるページ番号の数字スタイルの変更

ページ番号はアラビア数字でもローマ数字でも表示できます。個々のページ番号ごとに数字スタイルを変更できます。

手順

1. 浄書モードの楽譜領域で、ページ番号の数字スタイルを変更するレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを開きます。
 - 「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」を選択します。
 - 「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」をクリックします。
4. 「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログで、そこからページ番号の数字スタイルを変更するページの番号を「**開始ページ (From page)**」のフィールドに入力します。
5. 「**シーケンスタイプ (Sequence type)**」の以下のオプションから使用する数字スタイルを選択します。
 - **数字 (Number)**
 - **ローマ数字 (Roman numeral)**
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

次のページ番号の変更がある位置かプロジェクトの終了位置のいずれか先に到達したところまで、ページ番号の数字スタイルが変更されます。

関連リンク

[ページ番号の変更の挿入 \(379 ページ\)](#)

ページ番号を表示/非表示にする

レイアウトごとに個別にページ番号を表示/非表示にできます。これは最初のページのページ番号を表示/非表示いずれにするかの設定も行なえます。たとえば、スコアではすべてのページにページ番号を表示しながら、パート譜では最初のページのページ番号を非表示にできます。

補足

ページ番号を表示するには、ページ番号のトークンを含むテキストフレームがページに必要です。最初のページのデフォルトのマスターページ形式は、ページ番号のトークンを含むテキストフレームを持たないため、デフォルトのマスターページ形式を使用するプロジェクトの1ページめにページ番号を表示させる場合、これを追加します。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、ページ番号を表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
4. 「**ページ番号 (Page Number)**」セクションで、「**表示タイプ (Visibility)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **常に表示 (Always shown)**
 - **常に非表示 (Always hidden)**
 - **最初のページ以外 (Not on first page)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

- 「**常に表示 (Always shown)**」を選択した場合、選択したレイアウトにおいて、ページ番号トークンが含まれるテキストフレームがあるすべてのページに、ページ番号が表示されます。
- 「**常に非表示 (Always hidden)**」を選択した場合、ページ番号トークンが含まれるテキストフレームがあるページを含めて、選択したレイアウトのすべてのページでページ番号が非表示になります。
- 「**最初のページ以外 (Not on first page)**」を選択した場合、選択したレイアウトの最初のページではページ番号が非表示になりますが、それ以外すべての、ページ番号トークンが含まれるテキストフレームがあるページには表示されます。

補足

フロー見出しの上にページ番号を表示するかどうかのレイアウトごとの設定は、ページ番号がページ上でフロー見出しより高い位置にあるページにページ番号を表示するかどうかに影響します。

関連リンク

[「ページ番号の変更 \(Page Number Change\)」ダイアログ \(380 ページ\)](#)

[ページ番号の変更の挿入 \(379 ページ\)](#)

[フレームの入力 \(390 ページ\)](#)

[フロー見出し \(386 ページ\)](#)

[フロー見出しの上の欄外見出しの情報の表示/非表示を切り替える \(453 ページ\)](#)

個々のページでページ番号の表示/非表示を変更する

個々のページでのページ番号の表示/非表示は、各レイアウトのページ番号表示設定より優先される形で変更できます。

補足

ページ番号を表示するには、ページ番号のトークンを含むテキストフレームがページに必要です。最初のページのデフォルトのマスターページ形式は、ページ番号のトークンを含むテキストフレームを持たないため、デフォルトのマスターページ形式を使用するプロジェクトの1ページめにページ番号を表示させる場合、これを追加します。

手順

1. 楽譜領域で、ページ番号を表示/非表示にするレイアウトを開きます。
2. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを開きます。
 - 「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」を選択します。
 - 「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」をクリックします。
4. 「**開始ページ (From page)**」フィールドで、そこからページ番号を表示/非表示にするページの番号を入力します。
5. 必要に応じて、「**開始ページ番号 (First page number)**」の値を変更します。
「**開始ページ番号 (First page number)**」は初期設定では**1**です。ページ番号の表示タイプを変更してもページ番号はそのままにする場合は、既存のページ番号をこのフィールドに入力します。
6. 「**表示タイプ (Visibility)**」のメニューから、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **常に表示 (Always shown)**
 - **常に非表示 (Always hidden)**
 - **最初のページ以外 (Not on first page)**
7. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

指定したページ番号から、次の設定の異なるページ番号の変更がある位置かプロジェクトの終了位置のいずれか先に到達したところまで、楽譜領域に現在開いているレイアウトでページ番号の表示タイプが変更されます。

例

3ページまでページ番号を表示し、4ページからページ番号を非表示にする場合は、「**開始ページ (From page)**」に**4**、「**開始ページ番号 (First page number)**」に**4**を入力し、「**表示タイプ (Visibility)**」に「**常に非表示 (Always hidden)**」を選択します。

ハープのペダリング

ハープのペダリングとは、ハープの楽譜を記譜するための特定の要件を指す幅広い用語です。これは主に、近代的なコンサートハープのチューニングを変更するために必要となることが多いハープペダルダイアグラムについて使われます。



開始位置にフルハープペダルダイアグラムが表示され、そのあとに部分的なペダル変更が2つ表示された楽節

各オクターブに12個(CからBの間の各半音階に1つずつ)の鍵盤があるピアノとは異なり、ハープには各オクターブに7本(CからBの間の各全音階ピッチに1本ずつ)の弦があります。そのため、ハープではチューニングを変更するために、7つのペダルを使用して機械的操作を行ないます。この操作では、すべてのオクターブの対応する音符のピッチを各ペダルで制御します。これらのペダルは2つのグループにまとめられており、3つのペダルが左足に、4つのペダルが右足にそれぞれ割り当てられています。

各ハープペダルには3つの位置があります。

- 1 フラット (最も高い位置): 対応する音符のピッチを半音下げる
- 2 ナチュラル (中間の位置)
- 3 シャープ (最も低い位置): 対応する音符のピッチを半音上げる

楽譜、または楽譜内の楽節に必要なペダル設定を記譜する方法はいくつかあります。Dorico Proでは、ハープのペダリングを以下の方法で表示できます。

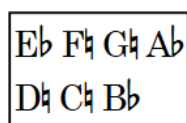
ダイアグラム



7つのペダルの物理的な位置を示します。縦線は左足ペダルと右足ペダルを分割するもので、横線はナチュラルポジションを表わしています。

- 横線の下側のペダルはシャープが付いた音符を示します。
- 横線の上側のペダルはフラットが付いた音符を示します。

音名



7つの全音階ピッチに必要な臨時記号を2行に配置して表示します。右足ペダルは上の行に、左足ペダルは下の行に表示されます。

入力したピッチが現在のハーブペダルダイアグラムに一致しない場合、そのピッチは範囲外であると見なされ、範囲外の音符に色を表示した場合には、そのピッチが赤で表示されます。ハーブのペダリングを入力しなかった場合、すべてのハーブペダルはナチュラル設定と見なされ、Cメジャーになります。

Dorico Pro では、演奏技法のポップオーバーを使用してハーブペダルダイアグラムを入力でき、楽譜全体のフローまたは特定の楽節をもとに正確なハーブペダルダイアグラムを自動的に生成できます。ただし、ハーブペダルダイアグラムを入力して表示できるのはハーブ楽器に属する譜表だけです。ハーブの譜表から別の楽器の譜表に楽譜をコピーすると、ハーブのペダリングは自動的に削除されます。

初期設定では、ハーブのペダリングはフルスコア/カスタムスコアのレイアウトには表示されず、パートレイアウトには表示されます。ハーブのペダリングが非表示になっているレイアウトでは、ハーブペダルダイアグラムの位置にガイドが表示されます。ハーブのペダリングはレイアウトごとに個別に表示/非表示を切り替えられ、またハーブのペダリングを表示するレイアウトでは、ハーブペダルダイアグラムを個別に非表示にできます。一度に1つのペダルだけを変更する必要がある場合など、部分的なハーブのペダリングをいつ表示するかを設定することもできます。

Dorico Pro のハーブペダルダイアグラムは、グリッサンドラインで演奏されるピッチに影響します。

関連リンク

[部分的なハーブのペダリング \(998 ページ\)](#)

[ハーブペダルダイアグラムの入力 \(289 ページ\)](#)

[レイアウト内のハーブのペダリングを表示または非表示にする \(993 ページ\)](#)

[ハーブペダルダイアグラムを個別に非表示にする \(994 ページ\)](#)

[既存の楽譜に基づくハーブペダルダイアグラムの計算 \(289 ページ\)](#)

[音域外の音符のカラーを表示/非表示にする \(917 ページ\)](#)

[再生時のグリッサンドライン \(968 ページ\)](#)

浄書オプションでハーブのペダリングの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ハーブのペダリング (Harp Pedaling)**」ページで、ハーブペダルダイアグラムの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**ハーブのペダリング (Harp Pedaling)**」ページのオプションを使用して、線の太さ、ペダル指示記号、ハーブペダルダイアグラム同士の間隔、音名を使用する場合の左側のペダルの順番、部分的なペダルダイアグラムを表示するペダル変更の最大数を設定できます。また、ハーブペダルダイアグラムと譜表またはその他のオブジェクトとの間隔の正確な値を設定するなど、ハーブペダルダイアグラムのデフォルトの位置も変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

ハーブペダルダイアグラムの外観の変更

ハーブのペダリングは、ダイアグラムとして、または音名を使用して表示します。プロジェクト全体の設定とは別に、ハーブペダルダイアグラムの外観を個別に設定できます。

前提条件

現在のレイアウトにハーブのペダリングを表示しておきます。

手順

1. 外観を変更するハープペダルダイアグラムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ハープペダル (Harp Pedals)」グループで、「外観 (Appearance)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **ダイアグラム (Diagram)**
 - **音名 (Note Names)**

結果

現在のレイアウトの選択したハープペダルダイアグラムの外観が変更されます。

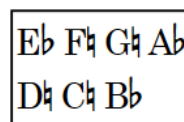
ヒント

各レイアウトのハープペダリングのデフォルトの外観は、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「プレーヤー (Players)」ページの「ハープのペダリング (Harp Pedaling)」セクションで個別に変更できます。

例



ダイアグラムとして表示されたハープのペダリング



音名を使用して表示されたハープのペダリング

関連リンク

- [部分的なハープのペダリング \(998 ページ\)](#)
- [ハープペダルダイアグラムの入力 \(289 ページ\)](#)
- [既存の楽譜に基づくハープペダルダイアグラムの計算 \(289 ページ\)](#)

レイアウト内のハープのペダリングを表示または非表示にする

ハープのペダリングはどのレイアウトでも入力や計算を行なえますが、通常、ハープのペダリングは演奏者にとってのみ意味があるため、初期設定ではフルスコアレイアウトには表示されません。ハープのペダリングの表示と非表示は、プロジェクトの各レイアウトごとに個別に切り替えることができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、ハープのペダリングを表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「プレーヤー (Players)」をクリックします。

4. 「ハーブのペダリング (Harp Pedaling)」セクションで、「ハーブのペダリングを表示 (Show harp pedaling)」をオン/オフにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したレイアウトのチェックボックスがオンになっているときはハーブのペダリングが表示され、オフになっているときは非表示になります。

ハーブのペダリングが非表示になっているレイアウトでは、ハーブペダルダイアグラムの位置にガイドが表示されます。

補足

- ハーブのペダリングが表示されているレイアウトではハーブペダルダイアグラムを個別に非表示にできますが、ハーブのペダリングが非表示になっているレイアウトでハーブペダルダイアグラムを個別に表示することはできません。
- ハーブのペダリングのガイドの表示/非表示は、「ビュー (View)」>「ガイド (Signposts)」>「ハーブペダル (Harp Pedals)」を選択して切り替えられます。メニュー内の「ハーブペダル (Harp Pedals)」の横にチェックマークがあるときはハーブのペダリングのガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

ハーブペダルダイアグラムを個別に非表示にする

ハーブのペダリングが表示されているレイアウトでハーブペダルダイアグラムを個別に非表示にできます。

前提条件

現在のレイアウトにハーブのペダリングを表示しておきます。

手順

1. 楽譜領域で、ハーブペダルダイアグラムを個別に表示/非表示にするレイアウトを開きます。
2. 非表示にするハーブペダルダイアグラムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
3. プロパティパネルの「ハーブペダル (Harp Pedals)」グループで、「非表示 (Hide)」をオンにします。

結果

「非表示 (Hide)」をオンにすると、選択したハーブペダルダイアグラムが非表示になります。非表示にした各ハーブペダルダイアグラムの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

「非表示 (Hide)」をオフにすると、選択したハーブペダルダイアグラムが再度表示されます。

ハーブペダルダイアグラムの枠線を表示または非表示にする

、音名ハーブペダルダイアグラムの枠線は、プロジェクト全体の設定とは別に表示/非表示を切り替えられます。たとえば、垂直方向のスペーシングが非常に狭い組段でハーブペダルダイアグラムの枠線を非表示にすると、少し余白ができます。

補足

これらの手順は、音名を使用したハーブペダルダイアグラムにのみ適用されます。

前提条件

現在のレイアウトにハーブのペダリングを表示しておきます。

手順

1. 枠線を表示/非表示にする音名ハーブペダルダイアグラムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ハーブペダル (Harp Pedals)」グループで、「枠線 (Border)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

チェックボックスがオンになっているときは、選択した音名ハーブペダルダイアグラムの枠線が表示され、オフになっているときは非表示になります。

プロパティをオフにすると、選択したハーブペダルダイアグラムには、枠線の表示/非表示についてのプロジェクト全体の設定が適用されます。

ヒント

プロジェクト全体のすべての音名ハーブペダルダイアグラムの枠線の表示/非表示は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ハーブのペダリング (Harp Pedaling)」ページの「音名 (Note Names)」サブセクションで切り替えることができます。

例



枠線を非表示にした音名ハーブペダルダイアグラム



枠線を表示した音名ハーブペダルダイアグラム

ハーブペダルダイアグラムの枠線の太さを変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、音名ハーブペダルダイアグラムの枠線の太さを個別に変更できます。

補足

これらの手順は、音名を使用したハーブペダルダイアグラムにのみ適用されます。

前提条件

- 現在のレイアウトにハーブのペダリングを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、枠線の太さを変更する音名ハーブペダルダイアグラムを選択します。
2. プロパティパネルの「ハーブペダル (Harp Pedals)」グループで、「境界線の太さ (Border thickness)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択したハーブペダルダイアグラムの枠線の太さが変更されます。

ヒント

プロジェクト全体のすべてのハーブペダルダイアグラムのデフォルトの枠線の太さは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ハーブのペダリング (Harp Pedaling)」ページの「音名 (Note Names)」サブセクションで変更できます。

ハーブペダルダイアグラムの周囲の余白の変更

ハーブペダルダイアグラムは、四方それぞれの余白を個別に変更できます。これは、ハーブペダルダイアグラムと塗りつぶした背景および枠線との間の距離に影響します。

前提条件

- 現在のレイアウトにハーブのペダリングを表示しておきます。
- 浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、余白を変更するハーブペダルダイアグラムを選択します。
2. プロパティパネルの「ハーブペダル (Harp Pedals)」グループで、以下のプロパティを個別に、またはまとめてオンにします。
 - 左余白 (Left padding)
 - 右余白 (Right padding)
 - 上余白 (Top padding)
 - 下余白 (Bottom padding)
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択したハーブペダルダイアグラムの周囲の余白が変更されます。値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。

ヒント

プロジェクト全体のすべてのハーブペダルダイアグラムの周囲のデフォルトの余白は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ハーブのペダリング (Harp Pedaling)」ページの「音名 (Note Names)」サブセクションで変更できます。ただし、この方法では各辺の余白を個別に変更することはできません。

ハーブペダルダイアグラムの位置

初期設定では、ハーブペダルダイアグラムは、通常ハーブに表示される2つの譜表の間の縦方向の中央位置に配置されます。

ハーブペダルダイアグラムの位置は記譜モードで移動できます。これらは「浄書オプション (Engraving Options)」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

ハーブペダルダイアグラムの表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

すべてのハーブペダルダイアグラムのデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ハーブのペダリング (Harp Pedaling)」のページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでハーブのペダリングの設定をプロジェクト全体に適用する \(992 ページ\)](#)

ハーブペダルダイアグラムの位置の移動

ハーブペダルダイアグラムは入力後に別の位置へ移動できます。

手順

1. 浄書モードで、移動するハーブペダルダイアグラムまたはハーブペダルダイアグラムのガイドを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に位置を移動できるハーブペダルダイアグラムは 1 つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従いハーブペダルダイアグラムを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - ハーブペダルダイアグラムをクリックして左右にドラッグします。
-

結果

選択したハーブペダルダイアグラムが新しい位置に移動します。

補足

ハーブペダルダイアグラムを移動したことで一部の音符が現在のハーブペダルダイアグラムに一致しなくなった場合、音域外の音符に色を表示すると、その音符は赤で表示されます。

関連リンク

[音域外の音符のカラーを表示/非表示にする \(917 ページ\)](#)

ハーブペダルダイアグラムの表示位置を移動する

ハーブペダルダイアグラムの表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できません。

前提条件

- 現在のレイアウトにハーブのペダリングを表示しておきます。
 - 浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。
-

手順

1. 浄書モードで、移動するハーブペダルダイアグラムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハーブペダルダイアグラムを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

部分的なハーブのペダリングの有効化/無効化

プロジェクト全体の設定とは別に、個々の音名ハーブペダルダイアグラムの部分的なハーブのペダリングを有効/無効にできます。たとえば、デフォルト設定では最大2つのペダル変化指示で部分的なハーブのペダリングが有効になるようにしていても、3つの変化指示を含む特定のハーブペダルダイアログを部分的なペダリングで表示したい場合があります。

補足

- これらの手順は、音名を使用したハーブペダルダイアグラムにのみ適用されます。
- フローの最初に配置されたハーブペダルダイアグラムは、完全なハーブペダルダイアグラムとしてのみ表示できます。

前提条件

現在のレイアウトにハーブのペダリングを表示しておきます。

手順

1. 部分的なハーブのペダリングを有効/無効にする音名ハーブペダルダイアグラムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「ハーブペダル (Harp Pedals)」グループで、「部分的なペダリング (Partial pedaling)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

チェックボックスがオンになっているときは、選択した音名ハーブペダルダイアグラムの部分的なハーブのペダリングが有効になり、オフになっているときは無効になります。

プロパティをオフにすると、選択したハーブペダルダイアグラムには、部分的なハーブのペダリングについてのプロジェクト全体の設定が適用されます。

ヒント

プロジェクト全体の部分的なペダルダイアグラムの有効化/無効化、および部分的なハーブペダルダイアグラムを有効にするペダル変更指示のデフォルトの最大しきい値は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ハーブのペダリング (Harp Pedaling)」ページの「音名 (Note Names)」サブセクションで変更できます。

例



すべてのペダルを表示したハーブペダルダイアグラム 部分的なハーブペダルダイアグラム

関連リンク

[レイアウト内のハーブのペダリングを表示または非表示にする \(993 ページ\)](#)

ペダル線

ペダル線は演奏者にピアノのどのペダルを使用するか指示し、ペダルを踏み込む深さやペダルを上げて余韻を消すタイミングなど、演奏上の指示も与えられます。

ほとんどのピアノには 2 つか 3 つのペダルがあります。ペダルには以下があります。

サスティンペダル

サスティンペダルはピアノ弦のダンパーを操作するので、ダンパーペダルとも呼ばれます。またこれは最も一般的に使用されるペダルです。サスティンペダルを踏みこむとダンパーが弦から離れ、弦の余韻が長くなります。サスティンペダルは通常右側にあります。



サスティンペダル線の例

ソステヌートペダル

ソステヌートペダルは、現在鍵盤上で押さえられている音符の弦のみ余韻を残せます。これは通常ペダルの並びの真ん中に位置するため、中央のペダルとも呼ばれます。



ソステヌートペダル線の例

ウナコルダペダル

ウナコルダペダルはピアノ内部のアクションの位置をずらし、ハンマーが叩く弦の数を通常より減らします。この動作により、ハンマーが叩く弦が通常の 3 本から 1 本だけになることから、「1 本の弦」を意味するこの名前が付けられたという歴史的背景があります。これにより音量と音の鋭さが減じられるため、これはソフトペダルとも呼ばれます。



ウナコルダペダル線の例

Dorico Pro では、ピアノのペダル線の記譜と再生に幅広く対応しています。サスティンペダル、ソステヌートペダル、ウナコルダペダルのペダリング指示を作成でき、これは 1 回のペダリング指示の途中でペダルの強さを変化させるなど、近代的なサスティンペダルのテクニックもサポートします。

Dorico Pro では、ペダル線はインストゥルメントが鳴らすサウンドを変化させることから、演奏技法と見なされます。そのため、ペダル線は記譜モードの演奏技法パネルに収められ、演奏技法ポップオーバーを使用して入力できます。ただしペダル線には、リテイク、ペダルの強さの変更指示、開始記号、終了記号、延長線など、他の演奏技法にはない独特な追加指示があります。

関連リンク

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

[再生時のペダル線 \(1019 ページ\)](#)

[ペダル線の開始記号、フック、および延長線 \(1012 ページ\)](#)

[テキストによるペダル線の記号 \(1017 ページ\)](#)

[ライン](#) (1046 ページ)
[演奏技法の延長線](#) (1029 ページ)

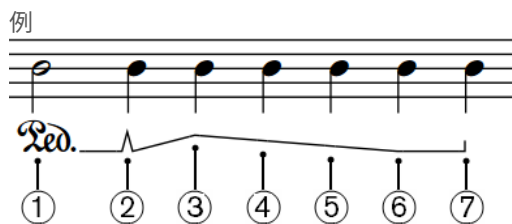
サスティンペダルのリテイクおよびペダルの強さの変更指示

ペダルのリテイクは、プレーヤーがサスティンペダルを上げることによってピアノの弦にダンパーをかけて余韻を消し、そのあと再度ペダルを踏みこむことを示します。ペダルの強さの変更指示は、ペダルを踏みこむ深さの変更を示します。

Dorico Pro では、ペダルのリテイクおよび強さの変更指示を明確に表現できます。

補足

ペダルのリテイクおよび強さの変更指示は、サスティンペダル線にのみ追加できます。



リテイクおよび強さの変更指示を伴うペダル線の例

- 1 Ped. 字形
- 2 リテイク
- 3 1/4 踏み込み
- 4 1/2 踏み込み
- 5 3/4 踏み込み
- 6 完全な踏み込み
- 7 線終了フック

関連リンク

[リテイクとペダルの強さの変更指示の削除](#) (1005 ページ)
[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法](#) (279 ページ)

浄書モードのサスティンペダル線

浄書モードでサスティンペダル線を選択すると、各ペダル線の開始位置と終了位置、および線上のリテイクまたはペダルの強さの変更指示にハンドルが表示されます。これらのハンドルにより、ペダル線の各部分を個別に移動できるとともに、開始位置、終了位置、および各リテイクまたはペダルの強さの変更指示におけるペダルの強さを変更できます。



浄書モードのリテイクを含むサスティンペダル

ペダル線の開始位置には2つ、リテイクおよびペダルの強さの変更指示には3つ、そしてペダル線の終了位置には3つのハンドルがあります。

補足

ソステヌートおよびウナコルダペダル線は、開始位置と終了位置にハンドルが1つずつしかなく、これらは開始位置と終了位置の表示位置を移動できますが、水平方向のみになります。

それぞれのハンドルの移動にはキーボード、マウス、およびプロパティパネルが使用できます。各ハンドルは、プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」グループ、または「ペダル線のリテイク (Pedal Line Retakes)」グループの中のいずれかのプロパティに対応しています。

補足

ペダルの強さは **0** 以上 **1** 未満である必要があります。

- **1** はペダルを完全に踏み込んだ状態です。
- **0** はまったく踏み込んでいない状態です。

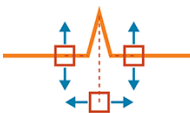
サスティンペダル線の開始位置

ペダル線の開始位置には2つのハンドルがあります。



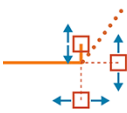
- 左側のハンドルはペダル線の開始位置を移動させます。このハンドルは左右に動かします。
- 右側のハンドルはペダル線の開始レベルを変化させます。このハンドルは上下に動かします。これを変化させると、次のリテイクまたはペダルの強さの変更指示、またはペダル線の終端との関係に従い、ペダル延長線の角度が変わります。

ペダルの強さの変更指示およびリテイク



- 左側のハンドルはリテイク前のペダルの強さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 右側のハンドルはリテイク後のペダルの強さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 下のハンドルはペダルの強さの変更指示またはリテイクの位置に対応します。このハンドルは左右に動かします。

サスティンペダル線の終了位置



- 上のハンドルはフックの長さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 右側のハンドルはペダル線の終了位置のペダルの強さを変化させます。このハンドルは上下に動かします。
- 下のハンドルはペダル線の終了位置を移動させます。このハンドルは左右に動かします。

関連リンク

[ペダル線の表示位置の移動 \(1008 ページ\)](#)

ペダル線のリテイクタイプの変更

既存のサスティンペダル線上的のリテイクをペダルの強さの変更指示に変更、またはその逆に変更できません。

たとえば、ペダルの強さが変更される間にペダルを完全にリリースさせない場合、タイプを「リテイク (Retake)」から「レベルを変更 (Change Level)」に変更します。

手順

1. 浄書モードで、タイプを変更するリテイクまたはペダルの強さの変更指示を選択します。
2. プロパティパネルの「ペダル線のリテイク (Pedal Line Retakes)」グループで、「リテイクタイプ (Retake type)」をオンにします。
3. 以下のオプションから使用するタイプを選択します。
 - リテイク (Retake)
 - レベルを変更 (Change Level)

結果

ペダル線のリテイクのタイプが変更されます。

補足

タイプ変更後のペダル線のリテイクの外観は、両側にすでに設定されているペダルの強さに従い変化します。たとえば、一方のペダルの強さが 0 に設定されている場合、リテイクのノッチはもう一方にしか表示されません。

ペダル線の開始レベルの変更

個々のサスティンペダル線の開始レベルは、開始レベルのハンドルを上下に動かして変更できます。

手順

1. 浄書モードで、ペダルの開始レベルを変更する開始記号の右側のハンドルを選択します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、開始レベルのハンドルを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。
 - **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押してレベルを 0 にスナップします (踏み込みなし)。
 - **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押してレベルを 1 に変更します (完全に踏み込み)。
 - 任意のレベルになるまでハンドルをクリックして上下にドラッグします。

結果

選択したペダル線の開始レベルが変更されます。

ヒント

ペダル線の開始レベルを変更すると、プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」グループにある「開始レベル (Start level)」がオンになります。

このプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することによりペダル線の開始レベルを変更できます。たとえば、**1** はペダルを完全に踏み込んだ状態、**0** は踏み込まれていない状態です。

プロパティをオフにすると、選択したペダル線の開始レベルがデフォルト値にリセットされます。

関連リンク

[浄書モードのサスティンペダル線 \(1001 ページ\)](#)

リテイクおよびペダルの強さの変更指示におけるペダルの強さの変更

個々のサスティンペダル線のリテイクおよびペダルの強さの変更指示における開始レベルと終了レベルはいずれも、対応するハンドルを上下に動かすことで変更できます。

終了レベルとは、リテイクまたはペダルの強さの変更指示の直前のペダルの強さを表わし、開始レベルとは、リテイクまたはペダルの強さの変更指示の直後のペダルの強さを表わします。

手順

1. 浄書モードで、ペダルの開始レベルまたは終了レベルを変更するリテイクまたはペダルの強さの変更指示のハンドルのうち1つを選択します。

- 左側のハンドルを選択してペダルの終了レベルを変更します。
- 右側のハンドルを選択してペダルの開始レベルを変更します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、開始レベルのハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。
- **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押してレベルを 0 にスナップします (踏み込みなし)。
- **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押してレベルを 1 に変更します (完全に踏み込み)。
- 任意のレベルになるまでハンドルをクリックして上下にドラッグします。

3. 必要に応じて、他のハンドルについても手順 1 と 2 を繰り返します。

結果

選択したリテイクまたはペダルの強さの変更指示におけるペダルの強さが変更されます。

ヒント

リテイクおよびペダルの強さの変更指示における強さを変更すると、変更した位置に応じて、プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループにある以下のプロパティがオンになります。

- **リテイクの開始レベル (Start level at retake)**
- **リテイクの終了レベル (End level at retake)**

これらのプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することにより、リテイクおよびペダルの強さの変更指示における対応する強さを変更できます。たとえば、**1** はペダルを完全に踏み込んだ状態、**0** は踏み込まれていない状態です。

プロパティをオフにすると、選択したペダル線の開始レベルおよび終了レベルがデフォルト値にリセットされます。

関連リンク
[浄書モードのサスティンペダル線 \(1001 ページ\)](#)

ペダル線の終了レベルの変更

個々のサスティンペダル線の終了レベルは、終了レベルのハンドルを上下に動かして変更できます。

補足

終了記号としてフックを表示するペダル線の終了レベルのみを変更できます。

手順

1. 浄書モードで、ペダルの終了レベルを変更する終了フックの右側のハンドルを選択します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、終了レベルのハンドルを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。
 - **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押してレベルを 0 にスナップします (踏み込みなし)。
 - **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押してレベルを 1 に変更します (完全に踏み込み)。
 - 任意のレベルになるまでハンドルをクリックして上下にドラッグします。
-

結果

選択したペダル線の終了レベルが変更されます。

ヒント

ペダル線の終了レベルを変更すると、プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループにある「**終了レベル (End level)**」がオンになります。

このプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することによりペダル線の終了レベルを変更できます。たとえば、**1** はペダルを完全に踏み込んだ状態、**0** は踏み込まれていない状態です。

プロパティをオフにすると、選択したペダル線の終了レベルがデフォルト値にリセットされます。

関連リンク
[浄書モードのサスティンペダル線 \(1001 ページ\)](#)

リテイクとペダルの強さの変更指示の削除

サスティンペダル線を削除したり位置を変更したりせずに、ペダルのリテイクおよび強さの変更指示を削除できます。

手順

1. 記譜モードで、削除するリテイクまたはペダルの強さの変更指示がある位置の譜表上の音符を選択します。

補足

リテイクまたはペダルの強さの変更指示は、1度に1つしか削除できません。

- 以下のいずれかの操作を行なって、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を削除します。
 - 演奏技法のポップオーバーを開いて、ポップオーバーに「**nonotch**」と入力してから、**[Return]**を押します。

補足

「**nonotch**」は1単語で、スペースを入れずに入力します。

- 「**編集 (Edit)**」 > 「**ペダル線 (Pedal Lines)**」 > 「**リテイクを削除 (Remove Retake)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択したリテイクまたはペダルの強さの変更指示が削除され、ペダル線の開始位置、または削除位置の1つ前のリテイクやペダルの強さの変更指示の設定値に戻ります。

関連リンク

[演奏技法のポップオーバー \(280 ページ\)](#)

ペダル線の位置

ペダル線のデフォルトの位置は、音符が右手用の上段の譜表にしか記譜されていない場合であっても下段の譜表の下です。オクターブ線、スラー、アーティキュレーションなど、その他すべての記譜記号の外側に配置されます。

1つのペダルを使用するときは、ペダル線はその他すべての記譜記号より外側でありつつ、できるだけ譜表の下端近くに配置されます。

複数のペダルを同時に使用するときは、ペダル線は以下の順番で譜表の下に並びます。

- サスティンペダル: 譜表に一番近い位置
- ソステヌートペダル: サスティンペダル線の下
- ウナコルダペダル: 譜表から一番離れた位置

ペダル線の開始位置を示すグリフ/テキストの開始位置は、それが適用される音符に整列します。ペダル線の終了を示すために線終了フックを使用している場合、フックはそれが適用される音符またはリズム上の位置に整列します。

ペダル線のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

補足

リテイクまたはペダルの強さの変更指示の位置を移動することはできません。移動するには、リテイクまたはペダルの強さの変更指示を削除してから、任意の位置に新規に入力します。

ペダル線の表示位置は浄書モードで変更できます。ただしこれは、それが属するリズム上の位置を変更するものではありません。

すべてのペダル線のデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで変更できます。たとえば、ペダル線と譜表の間の最小距離、ペダル線と他のペダル線との間の最小距離、符頭および装飾音符に対するペダル線の位置に関する数値を変更できます。

関連リンク

- [浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する \(1012 ページ\)](#)
- [テキストによるペダル線の記号 \(1017 ページ\)](#)
- [ペダル線の開始記号、フック、および延長線 \(1012 ページ\)](#)
- [ペダル線の表示位置の移動 \(1008 ページ\)](#)
- [ペダル線の長さの変更 \(1010 ページ\)](#)
- [演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

ペダル線の位置の移動

ペダル線の位置は入力後に移動できます。ペダル線上のリテイクやペダルの強さの変更指示もすべて同時に移動されます。

補足

リテイクやペダルの強さの変更指示をペダル線とは別個に移動させる場合、まずそれらを元の位置から削除し、新たな位置に入力しなおす必要があります。

手順

1. 記譜モードで、移動するペダル線を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるペダル線は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なってペダル線を移動させます。

- 1本のペダル線を同じ譜表の次の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 1本のペダル線を同じ譜表の前の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従って右に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従って左に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

複数のペダル線が選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔に従う移動だけが行なえます。

- ペダル線をクリックして、任意の水平位置にドラッグします。
-

結果

選択したペダル線が新しい位置に移動します。

補足

ペダル線は譜表に沿ってしか移動できません。ペダル線を別の譜表に移動する場合は、ペダル線を削除してから新たなペダル線を別の譜表に入力する必要があります。

関連リンク

- [ペダル線の長さの変更 \(1010 ページ\)](#)
- [浄書モードのサステインペダル線 \(1001 ページ\)](#)
- [演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

ペダル線の表示位置の移動

ペダル線、リテイクおよびペダルの強さの変更指示の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。ペダル線の開始位置と終了位置は別個に移動できるため、表示上の長さも変更できます。

補足

ペダル線の角度はレベルの変更によってのみ変更できます。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- ペダル線全体
- ペダル線の開始位置または終了位置の個々のハンドル
- リテイクおよびペダルの強さの変更指示の下の個々のハンドル

補足

- 選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。
- ペダル線は複数同時に移動できますが、上下方向のみです。
- ペダル線のハンドルは複数同時に移動できますが、左右方向のみです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ペダル線またはハンドルを移動させます。

- ペダル線またはハンドルを右に移動するには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- ペダル線またはハンドルを左に移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- ペダル線全体を上を移動するには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
- ペダル線全体を下を移動するには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したペダル線またはハンドルが新しい表示位置に移動します。

ヒント

ペダル線の位置を移動すると、プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループにある以下の対応するプロパティが自動的にオンになります。

- **開始 X オフセット (Start X offset)**: ペダル線の開始位置を水平に移動します。
- **終了 X オフセット (End X offset)**: ペダル線の終了位置を水平に移動します。
- **Y オフセット (Y offset)**: ペダル線全体を垂直に移動します。

ペダルのリテイクまたはペダルの強さの変更指示を水平に移動させると、プロパティパネルの「**ペダル線のリテイク (Pedal Line Retakes)**」のグループにある「**X オフセット (X offset)**」が自動的にオンになります。

たとえば、ペダル線全体を右に移動させると両側のハンドルが移動するため、「**開始 X オフセット (Start X offset)**」と「**終了 X オフセット (End X offset)**」の両方がオンになります。これらのプロパティを使

用しても、数値フィールドの数値を変更することにより、ペダル線、リテイクおよびペダルの強さの変更指示の表示位置の移動、およびペダル線の表示上の長さの変更が行なえます。

プロパティをオフにすると、選択したペダル線がデフォルト位置にリセットされます。

関連リンク

[ペダル線の長さの変更 \(1010 ページ\)](#)

[浄書モードのサスティンペダル線 \(1001 ページ\)](#)

装飾音符に対するペダル線の位置の変更

個々のペダル線の装飾音符に対する開始位置および終了位置は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 装飾音符に対する位置を変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルで、「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループから以下のいずれかのプロパティをオンにします。
 - **装飾音符の前から開始 (Starts before grace notes)**
 - **装飾音符の前で終了 (Ends before grace notes)**
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

チェックボックスをオンにすると、選択したペダル線の対応する部分が装飾音符の前に配置されます。

チェックボックスをオフにすると、選択したペダル線の対応する部分が装飾音符の後に配置されます。

ヒント

- ペダル線のさらに詳細な位置調整は浄書モードで行なえます。
- すべてのペダル線の装飾音符に対する位置に関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のページで変更できます。

例



装飾音符の前に開始/終了するペダル線



装飾音符の後に開始/終了するペダル線

関連リンク

[浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する \(1012 ページ\)](#)

[ペダル線の表示位置の移動 \(1008 ページ\)](#)

ペダル線の長さの変更

ペダル線は入力後に長さを変更できます。

手順

1. 記譜モードで長さを変更するペダル線を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるペダル線は1本だけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なってペダル線の長さを変更します。

- 1本のペダル線の終端を次の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 1本のペダル線の終端を前の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

- 複数のペダル線が選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔に従う長さの変更だけが行なえます。
 - キーボードを使用しているときは、ペダル線の終端しか動かせません。ペダル線の始端は、ペダル線全体を移動させるか、開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。
-
- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。
-

結果

1本のペダル線の長さが、現在のリズムグリッドの間隔または前後の符頭の位置のいずれか近い方に従い変更されます。

複数のペダル線の長さが、現在のリズムグリッドの間隔に従い変更されます。

ヒント

浄書モードでは、ペダル線の表示上の位置や長さを変更できます。

関連リンク

[ペダル線の位置 \(1006 ページ\)](#)

[ペダル線の位置の移動 \(1007 ページ\)](#)

[ペダル線の表示位置の移動 \(1008 ページ\)](#)

ペダル線の分割

サスティンペダルは、その範囲内に存在する任意のアイテムの位置で分割して、2本のペダル線を作成できます。

補足

これらの手順は、サスティンペダル線にのみ適用されます。

手順

1. サスティンペダル線を分割する位置にある譜表上のアイテムを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

一度に分割できるペダル線は1本だけです。

2. 「編集 (Edit)」 > 「ペダル線 (Pedal Lines)」 > 「ペダル線を分割 (Split Pedal Line)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した譜表の選択した位置でペダル線が分割されます。

手順終了後の項目

ペダル線は両方とも移動、長さの変更および編集が個別に行なえます。

関連リンク

[ペダル線の位置の移動 \(1007 ページ\)](#)

[ペダル線の開始記号、フック、および延長線 \(1012 ページ\)](#)

[テキストによるペダル線の記号 \(1017 ページ\)](#)

ペダル線のマージ

既存のサスティンペダル線をマージできます。これによりたとえば、2本のサスティンペダル線の間隔を埋めて1本にできます。

補足

これらの手順は、サスティンペダル線にのみ適用されます。

手順

1. 同じ譜表上のマージするサスティンペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

ペダル線のマージは一度に1つの譜表でのみ実行できます。

2. 「編集 (Edit)」 > 「ペダル線 (Pedal Lines)」 > 「ペダル線をマージ (Merge Pedal Lines)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択したペダル線がマージされて1本のペダル線になります。ペダル線に間隔があった場合、2本をつなぐ延長線が自動的に作成されます。

例



2本のペダル線



マージされて1本になったペダル線

手順終了後の項目

リテイクやペダルの強さの変更指示を入力できます。これによりたとえば、マージする前はペダル線の開始位置だった位置にリテイクを表示できます。

関連リンク

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」ページで、ペダル線の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「ペダル線 (Pedal Lines)」ページのオプションを使用すると、ペダル線のタイプごとに開始位置に表示される記号、組段をまたぐ場合のペダル線の記号の外観、ペダル線の延長線の外観、およびリテイクのノッチの幅を変更できます。また、ペダル線と譜表またはその他のオブジェクトとの間隔に関する詳細な値を設定したり、ペダル線、開始記号、リテイク、ペダル線の終端のデフォルトの位置を変更したりすることもできます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

ペダル線の開始記号、フック、および延長線

通常、ペダル線は開始記号、延長線、および終了フックから構成されます。これにより、演奏者に各種ペダルを踏み込む位置、踏み込み続ける長さ、およびペダルを上げる位置が明確に伝えられます。

Dorico Pro では、ペダル線の各部分の外観を、個々のペダル線に対しても、プロジェクト全体のすべてのペダル線に対しても変更できます。たとえば、プロジェクト全体のペダル線には開始記号としてグリフを表示しつつ、個々のペダル線の開始記号にはかわりにテキストを表示させるよう変更できます。

記譜モードでは、ペダル線全体を選択して、ペダル線のタイプに従い、延長線や開始記号など外観に関する設定の大部分を変更できます。

サスティンペダルのみ、浄書モードでサスティンペダルのそれぞれのセグメントを個別に選択し、それぞれのセグメントに異なるプロパティを設定できます。サスティンペダル線は、それが表示される組段それぞれについて別個のセグメントを持ちます。

ヒント

多数のペダル線の外観を同時に変更する場合、対応するプロジェクト全体の設定を「**浄書 (Engrave)**」>「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のページで変更する方が効果的な場合があります。

関連リンク

[浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する \(1012 ページ\)](#)

[浄書モードのサスティンペダル線 \(1001 ページ\)](#)

ペダル線の開始記号の外観の変更

プロジェクト全体の設定とは別に、ペダル線の開始記号の外観を個別に設定できます。ペダル線の開始記号は、伝統的なペダル線のグリフの各種バリエーション、その他の記号、またはテキストで表示できます。

手順

1. 開始記号の外観を変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

選択するペダル線は、たとえばサスティンペダル線だけなど、同じタイプのものでなくてはなりません。

2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のグループで、「**記号の外観 (Sign appearance)**」をオンにします。
 3. メニューからのいずれかのオプションを選択します。
オプションは、選択したペダル線のタイプによって異なります。
-

結果

選択したペダル線の開始記号の外観が変更されます。

ヒント

- 「**記号の外観 (Sign appearance)**」をオフにすると選択したペダル線の開始記号の外観がデフォルトの設定に戻ります。
 - すべてのペダル線の開始記号のデフォルトの外観に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」>「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで変更できます。
-

手順終了後の項目

テキストによる記号の外観が選択されている場合、表示しているテキストは編集できます。

関連リンク

[浄書オプションでペダル線の設定をプロジェクト全体に適用する \(1012 ページ\)](#)

[ペダル線の開始テキストの編集 \(1018 ページ\)](#)

ペダル線の開始/終了位置のフックのタイプを個別に変更する

ペダル線の開始位置または終了位置に表示するフックのタイプを個別に変更できます。

補足

開始フックのタイプを変更できるのは開始記号にフックを表示するペダル線のみであり、終了フックのタイプを変更できるのは延長線を表示するペダル線のみです。

手順

1. フックのタイプを変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
 - **線開始フック (Line start hook)**
 - **線終了フック (Line end hook)**
 3. 各メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **フックなし (No Hook)**
 - **垂直フック (Vertical Hook)**
 - **傾斜フック (Slant Hook)**
 - **逆フック (Inverse Hook)**
-

結果

選択したペダル線の開始位置または終了位置のフックのタイプが変更されます。

ヒント

プロジェクト全体ですべてのペダル線のデフォルトの外観を変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで設定を行ないます。

ペダル線のフックの長さを個別に変更する

ペダル線の開始位置または終了位置に表示されるフックの長さはそれぞれ個別に、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。

たとえば、ペダル線の開始位置と終了位置にフックがある場合、開始位置のフックの長さは変えずに終了位置のフックだけ長くできます。

補足

これらの手順は、開始記号または終了記号がフックに設定されているペダル線にのみ適用されます。

手順

1. 浄書モードで、フックの長さを変更するペダル線の開始位置または終了位置にある一番上のハンドルを選択します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

結果

選択したペダル線のフックの長さが変更されます。

ヒント

- ペダル線のフックを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
 - 「**開始フックの長さ (Start hook length)**」は、ペダル線開始位置のフックの長さを変更します。
 - 「**終了フックの長さ (End hook length)**」は、ペダル線終了位置のフックの長さを変更します。このプロパティの数値フィールドの数値を変更することでも、ペダル線のフックの長さを変更できます。
プロパティをオフにすると、選択したペダル線のフックがデフォルトの長さのリセットされます。
- すべてのペダル線のデフォルトのフックの長さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のページにある「**デザイン (Design)**」のセクションの「**フックの長さ (Hook length)**」の値によって変更できます。この数値はペダル線の開始位置および終了位置のフックに適用されます。

ペダル線の延長線タイプを個別に変更する

異なるタイプのペダル線に使用される延長線タイプを、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 延長線タイプを変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、「**延長タイプ (Continuation type)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかの延長タイプを選択します。
 - **ライン (Line)**
 - **終端の記号 (Sign at End)**
 - **終端の記号と破線 (Sign at End and Dashed Line)**
 - **なし (None)**

結果

選択したペダル線の延長線タイプが変更されます。

ヒント

すべてのペダル線の延長タイプに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のページで変更できます。ペダル線の種

類ごとに異なる延長タイプを選択できます。たとえば、サスティンペダル線にはラインを使用し、ウナコルダペダル線には終端の記号のみ使用するといった具合です。

ペダル延長線の破線および破線の間隔の長さを個別に変更する

破線のペダル延長線の破線および破線の間隔の長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

補足

これらの手順は破線の延長線を使用するペダル線にのみ適用されます。

手順

1. 浄書モードで、破線の外観を変更するペダル線を選択します。
 2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のグループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
 - **破線の長さ (Dash length)**
 - **破線の間隔の長さ (Dash gap length)**
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

「**破線の長さ (Dash length)**」を増やすと、ペダル延長線の破線が長くなり、減らすと短くなります。
「**破線の間隔の長さ (Dash gap length)**」を増やすと、ペダル延長線の破線の間隔が大きくなり、減らすと小さくなります。

ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のページの「**デザイン (Design)**」セクションにある「**詳細設定 (Advanced Options)**」で、すべての破線のペダル延長線におけるデフォルトの破線の長さおよび破線の間隔の長さを設定し、プロジェクト全体に適用できます。

ペダル線の太さを個別に変更する

延長線の太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、延長線の太さを変更するペダル線を選択します。
 2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」グループで、「**線の太さ (Line width)**」をオンにします。
初めてプロパティをオンにする場合、数値は自動的に **0** にリセットされます。
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

「**線の太さ (Line width)**」を増やすとペダルの延長線が太くなり、値を減らすと延長線が細くなります。

ヒント

すべてのペダル延長線のデフォルトの太さに対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」ページにある「デザイン (Design)」セクションで変更できます。

ペダル線の延長記号に括弧を付ける

プロジェクト全体の設定とは別に、ペダル線の延長記号に付く括弧の有無を切り替えられます。ペダル線が組段区切りまたはフレーム区切りをまたぐとき、初期設定では新しい組段の開始位置にペダル線の延長記号が表示されます。

手順

1. 延長記号の外観を変更するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「ペダル線 (Pedal Lines)」グループで、「括弧内に延長記号を表示 (Show continuation sign in parentheses)」をオンにします。
 3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。
-

結果

チェックボックスがオンになっているときは延長記号が括弧付き表示になり、オフになっているときは括弧なし表示になります。

プロパティをオフにすると、ペダル線の表示はプロジェクト全体の設定に従います。

ヒント

プロジェクト全体ですべてのペダル線の延長記号のデフォルトの外観を変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」ページにある「デザイン (Design)」セクションで設定を行ないます。

テキストによるペダル線の記号

すべてのタイプのペダル線は、開始記号としてグリフやフックのかわりにテキストを表示できます。テキストの開始記号を持つペダル線の開始位置に表示されるテキスト、新しい組段の開始位置に表示される延長テキスト、およびウナコルダペダル線の終了位置に表示される復元テキストは上書きできます。

すべてのペダル線のデザインに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「ペダル線 (Pedal Lines)」ページにある「デザイン (Design)」セクションにおいてタイプに従い変更でき、また個々のペダル線の外観は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

記号ではなくテキストによる指示を使用するペダル線

ウナコルダペダル線や、サスティンペダル線のうち開始記号に装飾的な記号ではなく、**Ped.Text** のようなテキストを使用しているものなどについては、ペダル線の開始位置に表示されるテキストを上書きして、任意の演奏指示に変更できます。

延長記号/テキスト

ペダル線が後続の組段にまたがって続くとき、延長記号/テキストは初期設定では括弧の中に表示されます。ペダル線が開始記号に記号ではなく、**Ped.Text** のようなテキストを使用している場合は、新しい組段の開始位置に表示されるテキストを書き換えて、任意の演奏指示に変更できます。

ウナコルダペダル線

ウナコルダペダル記号において、終了位置のペダル上げ指示に相当するのがトレコルデへの復帰指示です。ペダル線の終了位置に表示されるテキスト「tre corde」は上書きして、お好みの演奏指示に置き換えられます。

関連リンク

[ペダル線の開始記号の外観の変更 \(1013 ページ\)](#)

ペダル線の開始テキストの編集

開始記号にテキストを使用するペダル線について、開始位置に表示されるテキストを個別に変更できます。

手順

1. 開始テキストを編集するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のグループで、「**テキスト (Text)**」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

結果

選択したペダル線の開始位置に表示されるテキストが変更されます。

「**テキスト (Text)**」をオフにすると、選択したペダル線の開始位置に表示されるデフォルトのテキストが復元されます。

補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

関連リンク

[ペダル線の開始記号の外観の変更 \(1013 ページ\)](#)

ペダル線の延長テキストの編集

ペダル線が組段区切りまたはフレーム区切りをまたいで継続するときに、後続の組段の開始位置に表示されるテキストを変更できます。

補足

これらの手順は、開始記号にテキストを使用するペダル線にのみ適用されます。

手順

1. 延長テキストを編集するペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のグループで、「**延長テキスト (Continuation text)**」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

結果

選択したペダル線で、後続の組段の開始位置に表示される延長テキストが変更されます。

「**延長テキスト (Continuation text)**」をオフにすると、選択したペダル線のデフォルトの延長テキストが復元されます。

補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

ウナコルダペダル線の復元テキストの編集

ウナコルダペダル線において、終了位置のペダル上げ指示に相当するのがトレコルデへの復帰指示です。個々のウナコルダペダル線において、終了位置に表示されるテキスト「tre corde」を任意のテキストに変更できます。

補足

これらの手順は、開始記号にテキストを使用するウナコルダペダル線にのみ適用されます。

手順

1. 復元テキストを編集するウナコルダペダル線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**ペダル線 (Pedal Lines)**」のグループで、「**復元テキスト (Restorative text)**」をオンにします。
 3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
 4. **[Return]** を押します。
-

結果

選択したウナコルダペダル線の終了位置に表示される復元テキストが変更されます。

「**復元テキスト (Restorative text)**」をオフにすると、選択したペダル線のデフォルトの復元テキストが復元されます。

補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

再生時のペダル線

Dorico Pro では、ペダル線は自動的に再生に反映されます。

3つのピアノペダルは以下の MIDI コントローラーを送信します。

- サステインペダル線は MIDI コントローラー 64 (サステイン) を送信します。
- ソステヌートペダル線は MIDI コントローラー 66 (ソステヌート) を送信します。
- ウナコルダペダル線は MIDI コントローラー 67 (ソフトペダル) を送信します。

Pianoteq や Garritan CFX Concert Grand など一部のピアノ VST インストゥルメントは、サステインペダルの部分的な踏み込みをサポートします。詳細はメーカー説明書を参照してください。

再生オプション

Dorico Pro のペダリングの再生方法のオプションは、「**再生 (Play)**」 > 「**再生オプション (Playback Options)**」の「**ペダル線 (Pedal Lines)**」ページで確認できます。

ペダル線の再生に関する以下のパラメーターを制御できます。

- ペダリング開始時の踏み込みの長さ
- ペダル線の途中のリテイクの長さ
- ペダリング終了時のリリースの長さ
- 開始時の踏み込みおよびリテイクの再生が、対応する位置の音符または和音の開始位置より前になるか後になるか

関連リンク

[「再生オプション」ダイアログ](#) (509 ページ)

MusicXML ファイルから読み込まれたペダル線

MusicXML ファイルからは、サステインペダル線を読み込めます。MusicXML が表現できるのはサステインペダルのみで、ペダルの踏み込みの強さは表現できません。

演奏技法

演奏技法という言葉は、演奏者が演奏する音符のサウンドに修飾を加えることを伝えるためのさまざまな指示を意味します。演奏技法の例としては、アンブシュアの変更や弓の位置の変更、または楽器にミュートを付けたりペダルを踏み込んだりすることなどがあります。

Dorico Pro では、演奏技法は記号またはテキストの形で表現されます。利用できる演奏技法はすべて記譜モードの演奏技法パネルに、インストゥルメントのファミリーごとにまとめられています。たとえば、ペダル線は演奏技法パネルの「**キーボード (Keyboard)**」のセクションで確認できます。

補足

ペダル線にはリテイク、開始記号、延長線など、他の演奏技法にはない固有の追加指示があるため、それらは別個に記載されています。またペダル線は、プロパティパネル内に「**演奏技法 (Playing Techniques)**」のグループから分かれた独自のグループを持ちます。

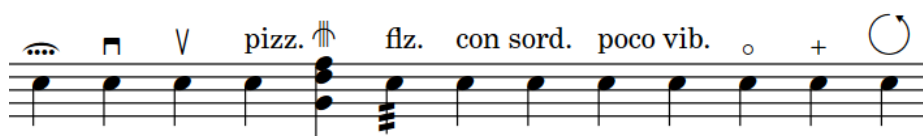
演奏技法を追加すると、インストゥルメントの再生のされ方が変化します。たとえば、バイオリンの譜表にピチカートを加えると、VST インストゥルメントが鳴らすサウンドを変化させるキースイッチがオンになります。

楽譜に一度しか表示されない演奏技法には、それが継続することを意味するものも多数あります。たとえば、ピチカートは通常一度しか表示されませんが、アルコなど次の演奏技法の位置まで適用されます。Dorico Pro では、それがどの音符まで適用されるか演奏者に明確に伝えるために、演奏技法のあとや演奏技法間に延長線を表示できます。また、複数の演奏技法を1つのグループにまとめることもできます。

演奏技法のテキストはプレーンフォントを使用し、強弱記号や表現テキストと見間違えないよう太字も斜体も使用しません。

補足

これはペダル線には当てはまりません。ペダル線は他の演奏技法とはフォントスタイルが分けられているためです。



Dorico Pro で使用できる演奏技法の一部

関連リンク

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

[演奏技法の再生効果 \(1044 ページ\)](#)

[ペダル線 \(1000 ページ\)](#)

[弦の指示記号 \(825 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線 \(1029 ページ\)](#)

[演奏技法のグループ \(1033 ページ\)](#)

浄書オプションで演奏技法の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「演奏技法 (Playing Techniques)」ページで、演奏技法の外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

「演奏技法 (Playing Techniques)」ページのオプションでは、演奏技法と譜表との距離、同じ位置に複数あるテキストによる演奏技法の配置、テキストによる演奏技法のデフォルトの水平オフセット、および演奏技法の延長スタイルを変更できます。装飾音符の演奏技法を小さく表示するかどうかも変更できます。

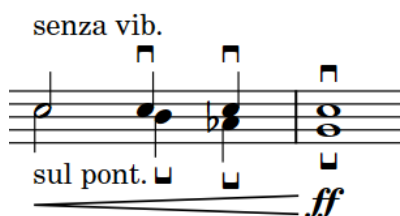
多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

演奏技法の位置

初期設定では、演奏技法は、テキストと記号いずれも譜表の上に配置されます。声楽の譜表では、譜表の上かつ強弱記号の下に配置されます。複声部においては、符尾が上向きの声部の演奏技法は譜表の上に、符尾が下向きの声部の演奏技法は譜表の下に自動的に配置されます。



同じ譜表の2つの声部における演奏技法の配置

演奏技法のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「浄書オプション (Engraving Options)」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

演奏技法の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

すべての演奏技法のデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「演奏技法 (Playing Techniques)」ページで変更できます。

関連リンク

[テキストによるペダル線の記号 \(1017 ページ\)](#)

[浄書オプションで演奏技法の設定をプロジェクト全体に適用する \(1022 ページ\)](#)

[演奏技法の表示位置の変更 \(1023 ページ\)](#)

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(332 ページ\)](#)

演奏技法の位置の移動

演奏技法の位置は、グループ内の個々の演奏技法も含めて、入力後に移動できます。

手順

1. 記譜モードで、位置を変更する演奏技法を選択します。

補足

- マウスを使用する場合、一度に移動できる演奏技法は1つだけです。

- 同じグループ内の複数の演奏技法を同時に移動すると、それらのグループ化が解除されます。

2. 以下のいずれかの操作を行なって演奏技法を移動させます。

- 1つの演奏技法を同じ譜表の次の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 1つの演奏技法を同じ譜表の前の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従って右に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔に従って左に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

複数の演奏技法が選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔でしか演奏技法を移動できません。

- 演奏技法をクリックして左右の任意の符頭の位置までドラッグします。

結果

選択した演奏技法が新しい位置に移動します。

補足

1つの演奏技法が移動する際に他の演奏技法の上を通過した場合、演奏技法は複数が同じ位置に存在できるため、そこにあった演奏技法に影響はありません。ただし、複数の演奏技法を一緒に移動した場合、それらが通過した既存の演奏技法はそれに応じて短縮されるか削除されます。

この動作内容は元に戻せますが、この過程で短縮または削除された演奏技法が復元されるのは、演奏技法の移動にキーボードを使用していた場合のみです。

関連リンク

[ペダル線の位置の移動](#) (1007 ページ)

[演奏技法のグループ](#) (1033 ページ)

演奏技法の表示位置の変更

演奏技法の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。演奏技法の延長線の開始位置と終了位置は別個に移動できるため、表示上の長さも変更できます。

浄書モードでは、演奏技法の延長線にはそれぞれ開始位置と終了位置の2か所に四角いハンドルがあります。

演奏技法の延長線が組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側の演奏技法の延長線の分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。



演奏技法のグループの開始位置には、グループ全体の垂直位置をコントロールするもう1つのハンドルがあります。



補足

この手順はペダル線には適用されません。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- 演奏技法全体
- 演奏技法グループの開始ハンドル

補足

演奏技法グループの開始ハンドルは上下にのみ移動できます。

- 演奏技法の延長線の個々のハンドル

2. 以下のいずれかの操作を行なって演奏技法またはハンドルを移動させます。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。
-

結果

選択した演奏技法またはハンドルが新しい表示位置に移動します。グループ内の演奏技法は延長線に連結されており、グループ内の演奏技法を移動すると隣り合う延長線も自動的に移動します。

演奏技法グループの開始ハンドルを動かすと、グループ全体が上下に移動します。

ヒント

アイテムを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**オフセット (Offset)**」は演奏技法を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**開始オフセット (Start offset)**」は、演奏技法の延長線の開始ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット (End offset)**」は、演奏技法の延長線の終了ハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでも演奏技法と延長線を移動できます。

プロパティをオフにすると、選択した演奏技法と延長線がデフォルト位置にリセットされます。

関連リンク

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(332 ページ\)](#)

[演奏技法のグループ \(1033 ページ\)](#)

[ペダル線の表示位置の移動 \(1008 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線の構成要素 \(1030 ページ\)](#)

演奏技法の垂直の順番を変更する

同じ位置に複数の演奏技法がある場合、演奏技法の垂直の順番を変更できます。初期設定では、テキストの演奏技法よりもグリフの演奏技法が譜表の近くに配置され、線がある演奏技法よりも線のない演奏技法が譜表の近くに配置されます。

手順

1. 浄書モードで、垂直の順番を変更する演奏技法を選択します。
2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、「タッキングインデックス (Tucking index)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択した演奏技法の順番が、同じ位置で、またはデュレーションに沿って他の演奏技法と入れ替わります。これは、同じグループ内の他の演奏技法にも影響します。「タッキングインデックス (Tucking index)」の値が大きい演奏技法が譜表から遠い位置に配置され、値が小さい演奏技法が譜表に近い位置に配置されます。

関連リンク

[タッキングインデックスのプロパティ \(750 ページ\)](#)

演奏技法へのテキストの追加

演奏技法を入力したあと、たとえば演奏技法の意図を明確にするために、その上またはその横にテキストを追加できます。

補足

この手順はペダル線には適用されません。

手順

1. テキストを追加する演奏技法を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、「代替テキスト (Alternative text)」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

結果

入力フィールドに入力したテキストは、テキストによる演奏技法のすぐあと、そして記号による演奏技法のすぐ上に表示されます。

例



テキストによる演奏技法に追加された代替テキスト



記号による演奏技法に追加された代替テキスト

関連リンク

[テキストによるペダル線の記号 \(1017 ページ\)](#)

テキストの演奏技法の背景の塗りつぶし

テキストの演奏技法は、たとえば小節線をまたぐときの読みやすさを確保するために、個別に背景を空白で塗りつぶせます。

手順

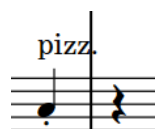
1. 浄書モードで、背景を塗りつぶす演奏技法を選択します。
 2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオンにします。
-

結果

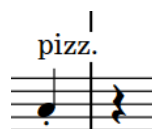
選択した演奏技法の背景が削除されます。

「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオフにすると、選択した演奏技法がデフォルトの、背景の塗りつぶしがない状態に戻ります。

例



背景の塗りつぶしなしのテキストの演奏技法



背景の塗りつぶしありのテキストの演奏技法

手順終了後の項目

演奏技法の塗りつぶしの余白の幅は、四方それぞれについて変更できます。

テキストの演奏技法の塗りつぶしの余白を変更する

演奏記号は個別に塗りつぶしの余白を変更できます。余白の幅は演奏記号の四方それぞれについて個別に変更できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、塗りつぶしの余白を変更するテキストの演奏記号を選択します。
 2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、「塗りつぶしの余白 (Erasure padding)」の2つのプロパティの一方または両方をオンにします。
 - 「L」は演奏技法の左側の余白の幅を変更します。
 - 「R」は演奏技法の右側の余白の幅を変更します。
 - 「上 (T)」は演奏技法の上側の余白の幅を変更します。
 - 「下 (B)」は演奏技法の下側の余白の幅を変更します。
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。

ヒント

すべての演奏技法の塗りつぶしの余白のデフォルトに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「演奏技法 (Playing Techniques)」ページにある「デザイン (Design)」セクションで変更できます。ただし、この方法では各辺の余白を個別に変更することはできません。

演奏技法の表示/非表示

演奏技法は個別に表示/非表示にできます。たとえば、エクスプレッションマップが正しい再生をトリガーするために演奏技法の入力が必要だが、演奏技法を楽譜に表示させたくない場合などに、この機能を使用します。

手順

1. 非表示にする演奏技法、または表示させる演奏技法のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで「非表示 (Hidden)」をオン/オフにします。
-

結果

「非表示 (Hidden)」をオンにすると、選択した演奏技法が非表示になり、オフにすると表示されます。非表示にした演奏技法のそれぞれの位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

ヒント

- 演奏技法のガイドを表示しない場合は、「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」を選択します。メニュー内の「演奏技法 (Playing Techniques)」の横にチェックマークがあるときは演奏技法のガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。
 - コード記号、演奏技法、および拍子記号に適用される、「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページにある「アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)」にキーボードショートカットを設定できます。
-

関連リンク

[エクスプレッションマップ \(582 ページ\)](#)

[ガイド \(337 ページ\)](#)

演奏技法の長さを変更する

演奏技法は入力後にデュレーションの長さを変更できます。これには、譜表の外側の弦の指示記号も含まれます。単一の音符に追加された演奏技法を延長すると、演奏技法にデュレーションが与えられません。

補足

- 長さを変更できるのは、グループ化されていない演奏技法またはグループ内の最後の演奏技法のみです。
- 演奏技法の長さを変更しても再生には影響しません。再生時に生成されるサウンドは、演奏技法に関連付けられた演奏技法の再生効果、エクスプレッションマップの設定、およびプロジェクトに読み込まれたサウンドライブラリーに依存します。

手順

1. 記譜モードで、長さを変更する演奏技法を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できる演奏技法は1つだけです。キーボードを使用する場合は複数の演奏技法の長さを変更できますが、すべての演奏技法がデュレーションを持っている必要があります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって演奏技法の長さを変更します。

- 現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 1つの演奏技法の終端を次の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 1つの演奏技法の終端を前の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

- 複数の演奏技法が選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔でしか演奏技法の長さを変更できません。
- キーボードを使用しているときは、デュレーションを持つ演奏技法の終端しか動かさせません。デュレーションを持つ演奏技法の始端は、演奏技法全体を移動させるか、開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。
- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。

補足

演奏技法のグループには、グループの開始位置と終了位置のハンドルのみが表示され、グループ内の各演奏技法には個々のハンドルは表示されません。

結果

1つの演奏技法の長さは、現在のリズムグリッドの間隔または前後の符頭の位置のうち、いずれか近い方に従い変更されます。

複数の演奏技法の長さは、現在のリズムグリッドの間隔に従い変更されます。

ヒント

浄書モードでは、演奏技法の表示上の位置や長さを変更できます。

関連リンク

[演奏技法のデュレーション](#) (1030 ページ)

[演奏技法の表示位置の変更](#) (1023 ページ)

演奏技法の延長線

演奏技法の延長線は、演奏技法が適用される音符を正確に伝えるもので、演奏技法間の段階的な移行を示すこともできます。



演奏技法の延長線が複数表示されたフレーズ

Dorico Pro の演奏技法には、以下のタイプの延長線があります。

デュレーション線

sul tasto

演奏技法が適用される特定のデュレーションを示します。ほとんどの演奏技法のデュレーション線は、終端にフックのキャップが付いた実線です。

以下の条件が満たされると、演奏技法にデュレーション線が表示されます。

- 演奏技法にデュレーションがある。
- 演奏技法の延長タイプが、線を表示するように設定されている。
- 演奏技法のグループ化が解除されているか、グループ内の最後の演奏技法である。

変移線

sul tasto

線で指定したデュレーションの間に、開始位置の演奏技法を徐々に終了位置の演奏技法へと変えることを意味します。ほとんどの演奏技法の変移線は、終端に矢印のキャップが付いた実線です。

変移線は、グループ内の演奏技法の間に自動的に表示されます。

「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」ダイアログでは、各演奏技法の延長タイプを変更したり、デュレーション線および変移線のデフォルトのタイプを指定したりできます。

補足

演奏技法の延長線は再生には影響しません。再生時に生成されるサウンドは、演奏技法に関連付けられた演奏技法の再生効果、エクスプレッションマップの設定、およびプロジェクトに読み込まれたサウンドライブラリーに依存します。

関連リンク

[演奏技法のグループ](#) (1033 ページ)

[演奏技法の延長線の構成要素](#) (1030 ページ)

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ](#) (1035 ページ)

[カスタムの演奏技法の作成](#) (1043 ページ)

[ライン](#) (1046 ページ)

[ラインの構成要素](#) (1048 ページ)

演奏技法のデュレーション

Dorico Pro では、1つの位置から先にはなく、特定の範囲に演奏技法を適用した場合、その演奏技法が明示的なデュレーションを持ちます。デュレーションを持つ演奏技法には延長線を表示できます。

演奏技法にデュレーションを設定するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 演奏技法をグループ化する
- 音符の入力中に開口型の演奏技法を入力し、それを延長する
- 音符の範囲に演奏技法を追加する
- 演奏技法を延長する

記譜モードでは、デュレーションを持つ演奏技法にはデュレーションを表わす開始ハンドルと終了ハンドルが表示されます。



デュレーションを持つ演奏技法の開始ハンドルと終了ハンドル

補足

演奏技法のデュレーションは再生には影響しません。再生時に生成されるサウンドは、演奏技法に関連付けられた演奏技法の再生効果、エクスプレッションマップの設定、およびプロジェクトに読み込まれたサウンドライブラリーに依存します。

関連リンク

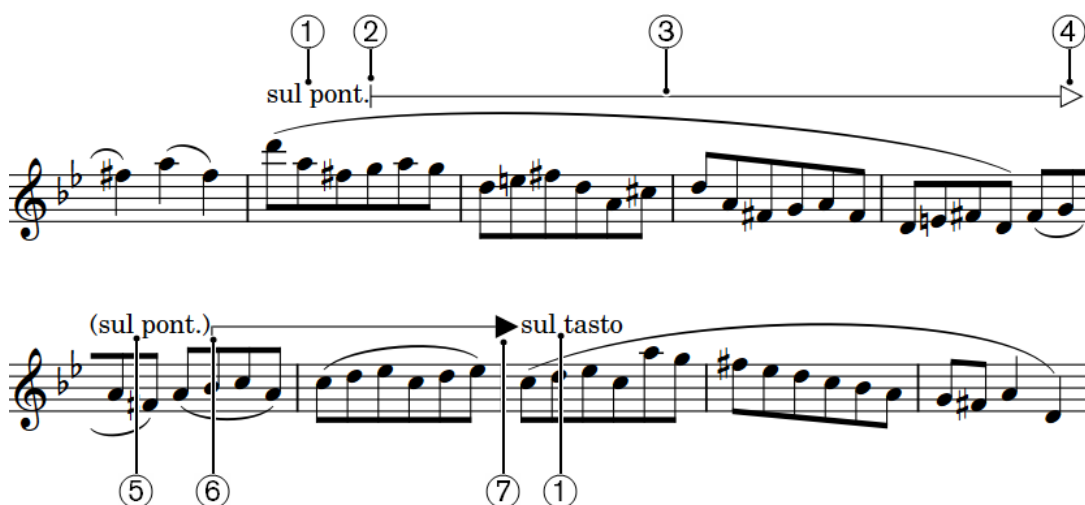
[演奏技法をグループ化する \(1034 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハープペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

[弦の指示記号の長さを変更する \(827 ページ\)](#)

演奏技法の延長線の構成要素

Dorico Pro では、演奏技法の延長線は、単一のアイテムとして一緒に機能する複数の要素で構成されています。同じ演奏技法のデュレーション線と変移線に、異なるデフォルトの構成要素がある場合があります。



1 演奏技法

後ろに続く線のデフォルトの外観を制御します。

2 開始位置のキャップ

演奏技法の延長線の開始位置に表示される記号です。

3 ラインのボディ

演奏技法の延長線の主要部分を構成する横線、パターン、またはくさびで、延長線の全長にわたって延びています。

4 延長線終端のキャップ

複数の組段をまたいで続く演奏技法の延長線のセグメントの終了位置に表示される記号です。

5 演奏技法の延長記号

続きであることがわかるよう、複数の組段をまたいで続く演奏技法の延長線の後続のセグメントの開始位置に、現在の演奏技法が括弧付きで表示されます。演奏技法の延長記号を演奏技法ごとに個別に非表示にすることはできません。

6 延長線のキャップ

複数の組段をまたいで続く演奏技法の延長線の後続のセグメントの開始位置に表示される記号。

7 終端のキャップ

演奏技法の延長線の終了位置に表示される記号。

関連リンク

[演奏技法の延長線のスタイルを変更する \(1032 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線のキャップを変更する \(1033 ページ\)](#)

[ライン \(1046 ページ\)](#)

演奏技法のデュレーション線を表示/非表示にする

演奏技法ごとにデュレーション線を個別に表示/非表示にできます。デュレーション線を非表示にする場合は、何も表示しないか `sim.` を表示するかを選択できます。

補足

これらの手順は演奏技法のデュレーション線にのみ適用され、演奏技法の変移線には適用されません。そのかわり、変移線のスタイルは変更できます。

前提条件

デュレーション線を表示/非表示にする演奏技法にデュレーションがあることとします。

手順

1. 記譜モードで、デュレーション線を表示/非表示にする演奏技法を選択します。
2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、「延長タイプ (Continuation type)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - なし (None)
 - `sim.`
 - ライン (Line)

結果

「なし (None)」を選択すると、選択した演奏技法の後ろのデュレーション線が非表示になります。「`sim.`」を選択すると、デュレーション線が非表示になり、選択したそれぞれの演奏技法の後ろに `sim.` と表示されます。

「ライン (Line)」を選択すると、選択した演奏技法の後ろにデュレーション線が表示されます。

ヒント

「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログでは、各演奏技法のデフォルトの延長タイプを変更できます。

例



デュレーション線を表示した状態 デュレーション線を非表示にした状態 デュレーション線を非表示にして「sim.」を表示した状態

手順終了後の項目

デュレーション線のスタイルを変更できます。

演奏技法の延長線のスタイルを変更する

たとえば、特定のデュレーション線を波線で表示したい場合などに、演奏技法のデュレーション線および変移線のスタイルを個別に変更できます。キャップを含む線のスタイル全体を変更することも、キャップはそのままボディスタイルだけを変更することもできます。

手順

1. 浄書モードで、スタイルを変更する演奏技法の延長線を選択します。
2. プロパティパネルの「演奏技法 (Playing Techniques)」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
 - キャップを含む線のスタイル全体を変更するには、「線のスタイル (Line style)」をオンにします。
 - キャップはそのままボディスタイルだけを変更するには、「ラインボディスタイル (Line body style)」をオンにします。
3. メニューから使用するスタイルを選択します。

結果

選択した演奏技法の延長線のスタイルが変更されます。

ヒント

「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログでは、各演奏技法のデュレーション線および変移線のデフォルトのタイプを変更できます。ただし、変更できるのは線のスタイル全体のみです。

手順終了後の項目

演奏技法の延長線のキャップを個別に変更できます。

関連リンク

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(1035 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線の構成要素 \(1030 ページ\)](#)

[ラインのボディスタイルの変更 \(1057 ページ\)](#)

演奏技法の延長線のキャップを変更する

演奏技法の延長線のキャップを、ラインボディスタイルとは関係なく個別に変更できます。また、複数の組段をまたぐ演奏技法の延長線の個々のセグメントのキャップを変更することもできます。

手順

1. 浄書モードで、キャップを変更する演奏技法の延長線を選択します。
2. プロパティパネルの「**演奏技法 (Playing Techniques)**」グループで、以下のプロパティの一方または両方をオンにします。
 - 選択した線の開始位置のキャップを変更するには、「**開始位置のキャップ (Start cap)**」をオンにします。
 - 選択した線の終了位置のキャップを変更するには、「**終端のキャップ (End cap)**」をオンにします。
 - それ以降の組段で、選択した線のセグメントの開始位置のキャップを変更するには、「**延長線のキャップ (Continuation cap)**」をオンにします。
 - それ以降の組段で、選択した線のセグメントの終了位置のキャップを変更するには、「**延長線終端のキャップ (Continuation end cap)**」をオンにします。
3. 各メニューから使用するスタイルを選択します。

結果

選択した演奏技法の延長線のキャップが変更されます。

手順終了後の項目

演奏技法の延長線のスタイルを個別に変更できます。

関連リンク

[ラインのキャップの変更 \(1058 ページ\)](#)

演奏技法のグループ

演奏技法のグループは自動的に垂直位置を揃えられ、グループ単位で移動および編集ができるようになります。グループ内の個々の演奏技法を移動すると、釣り合いを取るために両側の延長線の長さが自動的に調整されます。



演奏技法のグループ



中央の演奏技法を移動して変移線が調整された同じ演奏技法のグループ

2つ以上の演奏技法がデュレーションを挟んで隣り合っており、それらが既存の音符と一緒に追加されるか、音符の入力中に連続して入力された場合、それらの演奏技法は自動的にグループ化されます。

変移線は、グループ内の演奏技法の間に自動的に表示されます。演奏技法グループ内の最後の演奏技法にデュレーションがある場合は、その演奏技法にデュレーション線を表示できます。

グループに属するいずれかの演奏技法が選択されると、グループ全体の演奏技法が強調表示されます。



浄書モードでは、グループ内の演奏技法および延長線を個別に移動できます。グループ内の演奏技法は延長線に連結されており、演奏技法を移動すると隣り合う延長線も自動的に移動します。演奏技法のグループの開始位置には、グループ全体の垂直位置をコントロールするハンドルがあります。

■ sul tasto → sul pont.

補足

- 演奏技法のグループ同士をグループ化することはできません。グループ化できるのは、演奏技法同士または単一の演奏技法と既存のグループのみです。
- 演奏技法のグループはプロジェクト全体に適用されます。つまり、レイアウトによって異なる形で演奏技法をグループ化することはできません。ただし、演奏技法の表示位置を、グループとは関係なく、レイアウトごとに個別に移動させることはできます。

関連リンク

[演奏技法の延長線 \(1029 ページ\)](#)

[演奏技法の位置の移動 \(1022 ページ\)](#)

[演奏技法のデュレーション \(1030 ページ\)](#)

演奏技法をグループ化する

入力時に自動でグループ化されなかった演奏技法を手動でグループ化できます。グループ化された演奏技法は自動的に垂直位置を揃えられ、演奏技法間には変移線が表示され、グループ単位で移動および編集ができるようになります。

補足

演奏技法のグループ同士をグループ化することはできません。グループ化できるのは、演奏技法同士または単一の演奏技法と既存のグループのみです。

演奏技法のグループ同士をグループ化するには、まずグループ化を解除する必要があります。

手順

1. 記譜モードで、グループ化する演奏技法を選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」 > 「演奏技法をグループ化 (Group Playing Techniques)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した演奏技法がグループ化されます。演奏技法のデュレーションはグループ内の次の演奏技法に到達するまで延長され、グループ内の演奏技法間には変移線が表示されます。グループ内の各変移線には、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログで変移線の開始位置の演奏技法に対して定義された適切な変移線タイプが使用されます。

関連リンク

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(1035 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線 \(1029 ページ\)](#)

演奏技法のグループ化の解除/グループからの演奏技法の削除

演奏技法のグループ化を解除して、グループ内のすべての演奏技法をグループ化されていない状態にできます。また、選択した演奏技法のみをグループから削除して、選択していない演奏技法はグループに残すこともできます。

これは、それらの演奏技法が出現するすべてのレイアウトに適用されます。

手順

1. 記譜モードで、グループ化を解除する、またはグループから削除する演奏技法を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 選択したグループ内のすべての演奏技法のグループ化を解除するには、「編集 (Edit)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」 > 「演奏技法のグループ化を解除 (Ungroup Playing Techniques)」を選択します。
 - 選択した演奏技法だけをグループから削除するには、「編集 (Edit)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」 > 「グループから演奏技法を削除 (Remove Playing Technique from Group)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した演奏技法またはすべての演奏技法が選択したグループから削除されます。「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログで演奏技法に設定したとおり、変移線が表示されていた演奏技法にデュレーション線が表示されます。

カスタムの演奏技法

カスタムの演奏技法を使用すると、任意の演奏技法を任意の形で表現できます。たとえば、特定の演奏技法に使用されるデフォルトのグリフがユーザーまたは楽譜を使用するプレーヤーにとって馴染みのないものであった場合は、この機能が活用できます。

カスタムの演奏技法では、既存のグリフ、テキスト、またはユーザーの用意したグラフィックを使用して外観をデザインできるとともに、再生に与える影響や、延長線の表示の有無も指定できます。

カスタムの演奏技法の作成と編集は、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログおよびその関連するダイアログで行なえます。カスタムの演奏技法は、記譜モードの演奏技法パネルの、それが割り当てられたカテゴリの中に表示されます。またポップオーバーを使用して、それに割り当てたポップオーバーテキストを入力することも記譜できます。

関連リンク

[カスタムの演奏技法の作成 \(1043 ページ\)](#)

[演奏技法の再生効果 \(1044 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

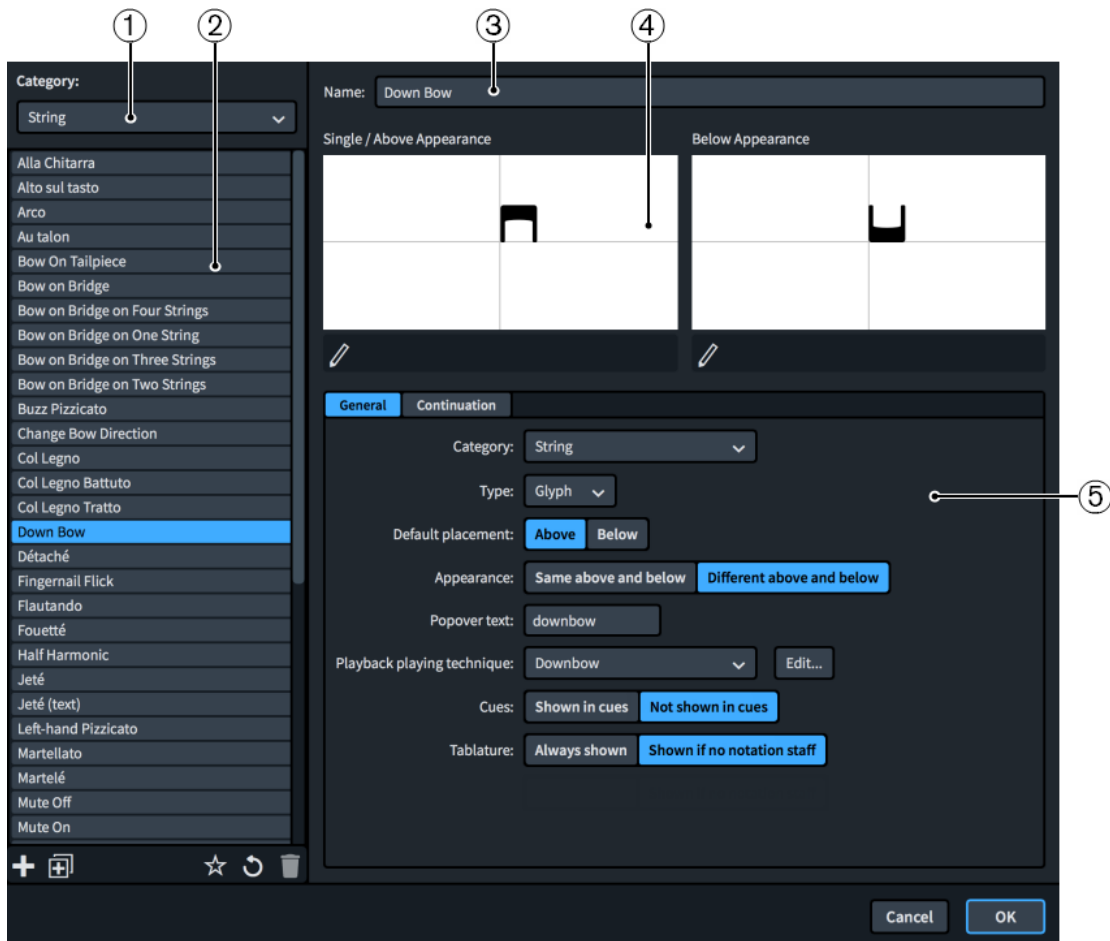
「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログ

「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログでは、カスタムの演奏技法の追加、編集および削除が行なえます。また、プロジェクト内のすべての演奏技法の外観と機能に関するさまざまな設定も変更できます。

- 「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログを開くには、浄書モードで「浄書 (Engrave)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」を選択するか、記譜モードで演奏技法パネル

のいずれかのセクションのアクションバーの「演奏技法を追加 (Add Playing Technique)」をクリックします。

また、記譜モードで演奏技法パネルのいずれかの演奏技法を選択し、そのセクションのアクションバーの「演奏技法を編集 (Edit Playing Technique)」をクリックするか、浄書モードで演奏技法をダブルクリックすることで、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログの特定の演奏技法のページを開くこともできます。



「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログ

「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

1 「カテゴリ (Category)」メニュー

メニューから「弦 (String)」や「合唱 (Choral)」など、インストルメントまたはインストルメントファミリーのカテゴリを選択することで、演奏技法のリストを切り替えられます。これは演奏技法パネルのセクションのタイトルに対応します。

2 演奏技法のリスト

選択中のカテゴリに属する、プロジェクト中のすべての演奏技法が表示されます。

リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New):** 空白の演奏技法を新規に追加します。



- **選択から新規作成 (New from Selection):** 既存の演奏技法のコピーを作成し、元のものとは別の設定に編集できます。



- **デフォルトとして保存 (Save as Default):** 選択中の演奏技法をユーザーライブラリーのデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。



- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory):** 選択中のプリセットの演奏技法に加えた編集をすべて削除し、元の設定と外観に戻します。



- **削除 (Delete):** 選択した演奏技法を削除します。



補足

プリセットの演奏技法、またはプロジェクト内で現在使用中の演奏技法は削除できません。

3 名前 (Name)

選択中の演奏技法の名前を新規に入力するか、既存の名前を編集できます。

4 プレビュー: (Preview:)

演奏技法の現在の外観を表示します。演奏技法の外観が譜表の上下とも同じと設定されている場合、プレビュー領域は1つ表示されます。演奏技法の外観が譜表の上下によって異なる設定されている場合、プレビュー領域は両方の外観を表示できるように分割されます。

プレビューの下のアクションバーから「**複合要素を編集 (Edit Composite)**」をクリックすると、「**演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)**」ダイアログが開き、演奏技法の外観を編集できます。このボタンはグリフの演奏技法においてのみ使用できます。

5 演奏技法のオプション

選択した演奏技法の外観と機能に関するオプションを利用できます。オプションは、それが影響する選択した演奏技法の性質に従いタブに分けられています。

「**全般 (General)**」タブには以下のオプションがあります。

- **カテゴリ (Category):** 選択した演奏技法のインストゥルメントファミリーのカテゴリを選択できます。これによりたとえば、「**弦楽器 (String)**」の演奏技法を複製して作成した新規の演奏技法を「**木管楽器 (Wind)**」のカテゴリに保存できます。
- **タイプ (Type):** 演奏技法のタイプについて「**グリフ (Glyph)**」か「**テキスト (Text)**」が選択できます。これによって、プレビューにおける演奏技法の表示方法が変化します。
「**テキスト (Text)**」を選んでいる場合、「**タイプ (Type)**」メニューの隣に「**テキスト (Text)**」フィールドが表示されます。フィールドには任意のテキストを入力でき、フィールドの隣のメニューから任意のフォントスタイルを選択できます。演奏技法のプレビューは左寄せで表示されます。
「**グリフ (Glyph)**」を選択した場合、演奏技法のプレビューは中央寄せで表示されます。「**グリフ (Glyph)**」を選択することで、「**演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)**」ダイアログで演奏技法の編集もできるようになります。
- **デフォルトの位置 (Default placement):** 演奏技法のデフォルトの配置について、譜表の「**上 (Above)**」か「**下 (Below)**」が選択できます。
- **外観 (Appearance):** 演奏技法の外観について、譜表の上下とも同じとするか、上下によって異なるかを選択できます。「**上下によって異なる (Different above and below)**」を選択した場合、上下の外観を別個に編集できます。
- **ポップオーバーテキスト (Popover text):** 演奏技法を記譜する際にポップオーバーに入力するテキストを設定できます。
- **演奏技法の再生効果 (Playback playing technique):** 演奏技法のための演奏技法の再生効果、つまり、使用されるサンプルサウンドを変化させる動作/スイッチを選択できます。演奏技法の再生効果は、複数の演奏技法が同じものを使用できます。

リストにはない演奏技法の再生効果が必要な場合は、「編集 (Edit)」をクリックして「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログを開くと、独自の演奏技法の再生効果を作成できます。

- **キュー (Cues):** 演奏技法をキューに表示する設定のとき、この演奏技法をキューに表示するかどうかを選択できます。
- **タブ譜 (Tablature):** 演奏技法が常にタブ譜に表示されるか、音符の譜表が表示されないレイアウトにのみ表示されるか選択できます。

「延長 (Continuation)」タブには以下のオプションがあります。

- **延長タイプ (Continuation type):** 演奏技法にデュレーションがある場合はデュレーション線を表示するかどうか、またデュレーションがない場合は何も表示しないか sim. を表示するか選択できます。「ライン (Line)」を選択した場合、デュレーション線のスタイルを変更できます。

補足

これは、グループ化されていない演奏技法とグループ内の最後の演奏技法にのみ適用されます。

- **延長線 (Duration line):** 演奏技法のデフォルトの延長線のスタイルを選択できます。
上にあるときの配置 (Alignment above)/下にあるときの配置 (Below): 演奏技法が譜表の上にあるときと下にあるときの延長線が接続される垂直位置をそれぞれ設定できます。
- **変移線 (Transition line):** 演奏技法のデフォルトの変移線のスタイルを選択できます。

補足

グループ内の演奏技法には常に変移線が表示されます。グループ内の最後の演奏技法にのみデュレーション線を表示できます。

上にあるときの配置 (Alignment above)/下にあるときの配置 (Below): 演奏技法が譜表の上にあるときと下にあるときの變移線が接続される垂直位置をそれぞれ設定できます。

関連リンク

[「演奏技法の再生効果を編集 \(Edit Playback Playing Techniques\)」ダイアログ \(1041 ページ\)](#)

[カスタムの演奏技法の作成 \(1043 ページ\)](#)

[演奏技法パネル \(283 ページ\)](#)

[演奏技法のデュレーション \(1030 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線 \(1029 ページ\)](#)

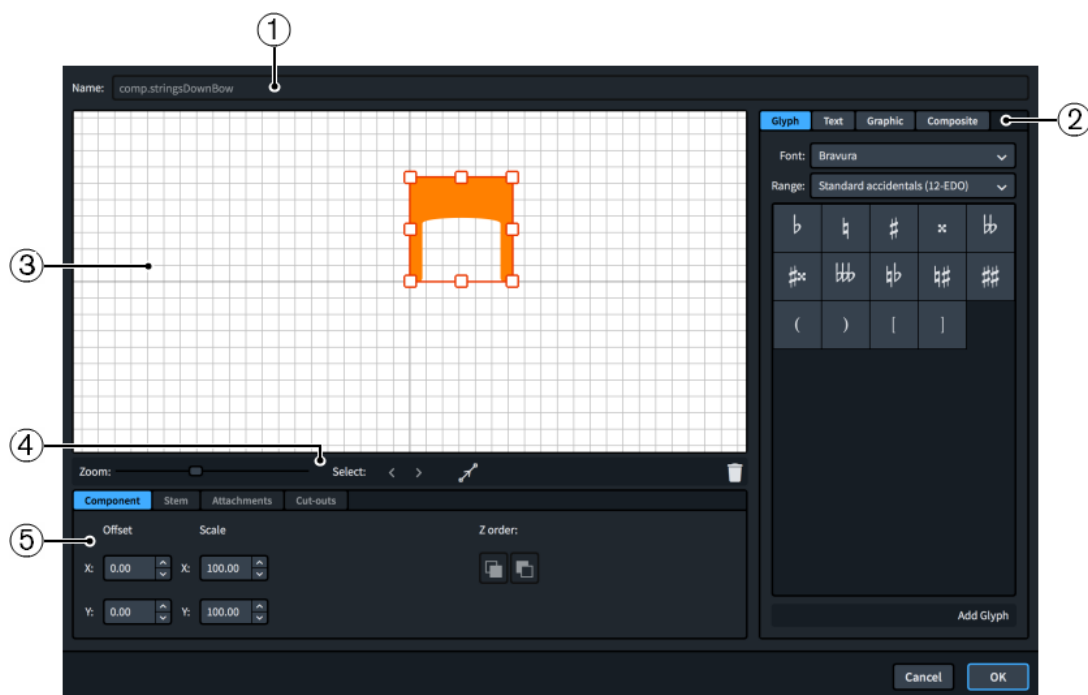
[演奏技法の延長線のスタイルを変更する \(1032 ページ\)](#)

[演奏技法の延長線のキャップを変更する \(1033 ページ\)](#)

「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログ

「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログでは、カスタムの演奏技法のデザインと、演奏技法の外観や配置の編集を行なえます。

- 「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」ダイアログを開くには、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログの中のリストからデザインを編集する演奏技法を選択して、プレビューの下のアクションバーにある「複合要素を編集 (Edit Composite)」をクリックします。これは「タイプ (Type)」が「グリフ (Glyph)」の演奏技法においてのみ行なえます。



「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」 ダイアログ

「演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)」 ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

1 名前 (Name)

プリセットの演奏技法の保存名、または新規の演奏技法に自動生成された名前が表示されます。この名前は変更できません。

2 構成要素セレクター

演奏技法に追加する要素を選択できます。タイプごとのタブのタイトルをクリックして、さまざまな構成要素を追加できます。

- **グリフ (Glyph):** ♯や♭を追加できます。メニューからフォントや範囲を選択して、さまざまなスタイルのグリフを使用できます。「**グリフを追加 (Add Glyph)**」をクリックして、選択したグリフを演奏技法に追加します。

補足

すべてのグリフの完全なリストは、SMuFLのWebサイトで参照できます。

- **テキスト (Text):** 数字やその他のテキストが含まれます。数字およびテキストは、利用できる「**プリセットテキスト (Preset text)**」リストから使用するか、メニューからフォントを選択して画面下部のテキストボックスに任意のテキストを入力できます。「**テキストを追加 (Add Text)**」をクリックして、選択したテキスト、または入力したテキストを演奏技法に追加します。
- **グラフィック (Graphic):** SVG、PNGまたはJPG形式で、新規グラフィックファイルを読み込むか、または「**既存から選択 (Select existing)**」リストから既存のグラフィックを選択できます。「**プレビュー (Preview)**」ボックスでグラフィックのプレビューを確認できます。「**グラフィックを追加 (Add Graphic)**」をクリックして、選択したグラフィックを演奏技法に追加します。
- **組み合わせ (Composite):** リストから組み合わせを選択できます。「**組み合わせを追加 (Add Composite)**」をクリックして、選択した組み合わせを演奏技法に追加します。

3 エディター

演奏技法の構成要素の配置と編集を行なえます。要素の配置と編集は、エディター内で要素をクリックしてドラッグするか、ダイアログ下部のコントロールを使用して行なえます。各要素のハンドルを使用してサイズを変更することもできます。

4 エディターアクションバー

エディターの選択オプションと表示オプションがあります。

- **ズーム (Zoom):** エディターのズームレベルを変更できます。
- **選択 (Select):** 次/前の要素を選択できます。
- **アタッチメントの表示 (Show Attachments):** エディターのすべての要素のアタッチメントをすべて表示します。



- **削除 (Delete):** 選択した要素を削除します。



5 コントロール

個々の構成要素を編集できるコントロールが収められています。コントロールは、それが影響する選択した構成要素の性質に従いタブに分けられています。演奏技法で利用できるタブは「**要素 (Component)**」と「**アタッチメント (Attachments)**」だけです。これ以外のタブは演奏技法には当てはまらないためです。

「**要素 (Component)**」タブには以下のオプションがあります。

- **オフセット (Offset):** 選択した要素の位置をコントロールします。「**X**」で水平方向、「**Y**」で垂直方向に移動します。
- **スケール (Scale):** 選択した要素のサイズをコントロールします。グラフィックに対して、「**X**」で幅、「**Y**」で高さをコントロールします。

補足

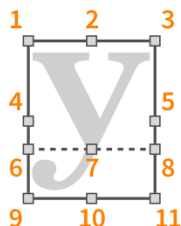
一部の要素は高さと幅を個別に調節できますが、その他の要素は縦横比が保持され、いずれかの値のみで全体のサイズが変わります。

- **前後の順序 (Z order):** 要素が重なった場合、「**前面へ移動 (Bring Forward)**」または「**背面へ移動 (Send Backward)**」を使用してほかの要素に対する選択した要素の前後の順序を入れ替えることができます。

「**アタッチメント (Attachments)**」タブは、演奏技法が2つ以上の個別の要素からなる場合のみ利用できます。このタブには以下のオプションがあります。

- **連結元 (Attachment from):** 選択した要素を左側の要素のどこのポイントに連結するかを選択します。「**連結元 (Attachment from)**」は右側のポイントを選択することをおすすめします。
- **連結先 (Attachment to):** 選択した要素のどこのポイントを左側の要素に連結するかを選択します。「**連結先 (Attachment to)**」は左側のポイントを選択することをおすすめします。

グリフおよびグラフィックには8つ、テキストには11の連結ポイントがあります。テキストの方が多いのは、ベースラインより下に伸びる文字用に追加のポイントが必要となるためです。この図の例は、ポイントと要素上の位置の対応を視覚的に把握するためのものです。



「**演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)**」ダイアログでは、連結ポイントに以下の名前が付いています。

- 1 左上 (Top Left)
- 2 中央上 (Top Center)
- 3 右上 (Top Right)
- 4 中央左 (Middle Left)
- 5 中央右 (Middle Right)
- 6 ベースライン左 (Baseline Left) (テキストのみ)
- 7 ベースライン中央 (Baseline Center) (テキストのみ)
- 8 ベースライン右 (Baseline Right) (テキストのみ)
- 9 左下 (Bottom Left)
- 10 中央下 (Bottom Center)
- 11 右下 (Bottom Right)

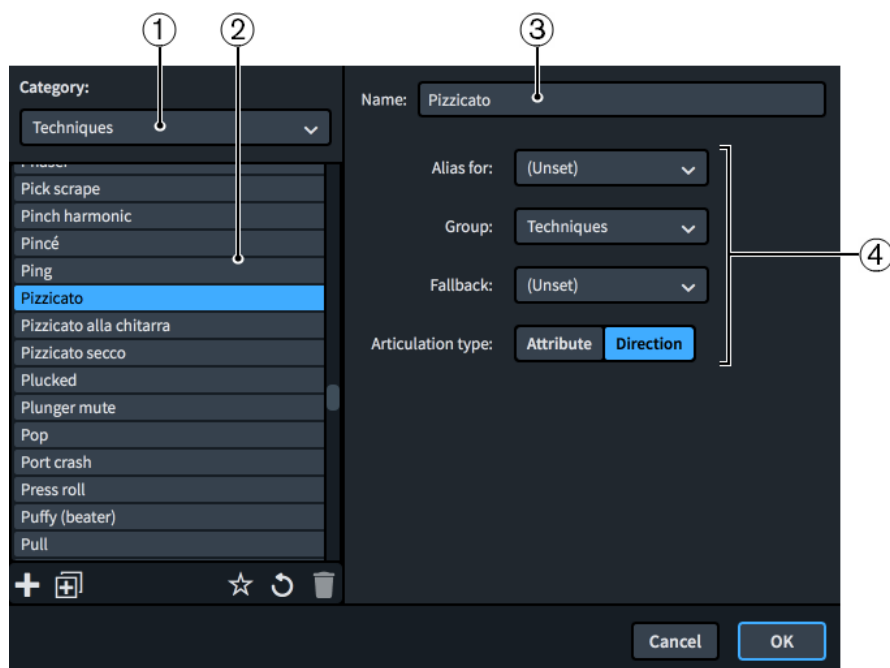
関連リンク

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(1035 ページ\)](#)

「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログ

「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログでは、演奏技法の再生効果の新規作成や、既存のものの編集が行なえます。演奏技法の再生効果は、楽譜中の演奏技法に必要なとされる正しいサウンドを割り当てるために、エクスプレッションマップによって使用されます。

- 「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログを開くには、「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログの「演奏技法の再生効果 (Playback playing technique)」の横にある「編集 (Edit)」をクリックします。



「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログ

「演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)」ダイアログには、以下のセクションとオプションがあります。

- 1 「カテゴリ (Category)」メニュー
メニューから「演奏技法 (Techniques)」や「強弱記号 (Dynamics)」などカテゴリを選択することで、演奏技法の再生効果のリストを切り替えられます。
- 2 演奏技法の再生効果のリスト

選択中のカテゴリーに属する、プロジェクト中のすべての演奏技法の再生効果が表示されます。リストの最下部のアクションバーには以下のオプションがあります。

- **新規 (New):** 空白の演奏技法の再生効果を新規に追加します。



- **選択から新規作成 (New from Selection):** 既存の演奏技法の再生効果のコピーを作成し、元のものとは別の設定に編集できます。



- **デフォルトとして保存 (Save as Default):** 選択中の演奏技法の再生効果をデフォルトとして保存し、複数のプロジェクトで使用できるようにします。



- **出荷時の設定に戻す (Revert to Factory):** 選択中のプリセットの演奏技法の再生効果に加えた編集をすべて削除し、元の設定に戻します。



- **削除 (Delete):** 選択した演奏技法の再生効果を削除します。



補足

プリセットの演奏技法、またはプロジェクト内で現在使用中の演奏技法は削除できません。

3 名前 (Name)

演奏技法の再生効果の名前を編集または入力できます。この名前は「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」、「**エクスペッションマップ (Expression Maps)**」、「**演奏技法の組み合わせ (Playing Technique Combinations)**」、および「**パーカッションマップ (Percussion Maps)**」ダイアログのリストに表示されます。

4 再生オプション

- **エイリアス元 (Alias for):** 他の演奏技法の再生効果を選択すると、そのサウンドマッピングを選択中の演奏技法の再生効果にも適用できます。
- **グループ (Group):** 演奏技法の再生効果が属するグループを設定します。
- **代替 (Fallback):** 選択中の演奏技法が使用できない場合代替として使用する、他の演奏技法の再生効果を指定できます。
- **アーティキュレーションのタイプ (Articulation type):** 演奏技法の再生効果が効果を発揮するデュレーションを設定します。「**単音 (Attribute)**」は、スタッカートのアーティキュレーションのように、演奏技法が付く位置の音符のみが適用範囲となります。これに対し「**持続 (Direction)**」は、ピチカートのように、他の演奏技法によって打ち消されるまでの後続の音符すべてが適用範囲となります。

関連リンク

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(1035 ページ\)](#)

[「演奏技法の外観を編集 \(Edit Playing Technique\)」ダイアログ \(1038 ページ\)](#)

[「エクスペッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(583 ページ\)](#)

[「演奏技法の組み合わせ \(Playing Technique Combinations\)」ダイアログ \(589 ページ\)](#)

カスタムの演奏技法の作成

独自のカスタム演奏技法を作成し、延長線のスタイルや演奏技法の再生効果なども選択できます。たとえば、特定の演奏技法に使用されるデフォルトのグリフがユーザーまたは楽譜を使用するプレーヤーにとって馴染みのないものであった場合は、この機能が活用できます。

手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**演奏技法 (Playing Techniques)**」を選択して「**演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)**」ダイアログを開きます。
2. 「**カテゴリー (Category)**」メニューから、カスタムの演奏技法を作成するためのカテゴリーを選択します。
3. 以下のいずれかの操作を行なって、新規の演奏技法を作成します。

- 空白の演奏技法を作成するには、演奏技法のリストのアクションバーから「**新規 (New)**」をクリックします。



- 既存のものをコピーして演奏技法を作成するには、演奏技法のリストから既存の演奏技法を選択して、演奏技法のリストのアクションバーから「**選択から新規作成 (New from Selection)**」をクリックします。



4. 新規の演奏技法に使用する名前を「**名前 (Name)**」フィールドに入力します。
5. 「**全般 (General)**」タブで、「**タイプ (Type)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **グリフ (Glyph)**
 - **テキスト (Text)**
6. 以下のいずれかの操作を行なって、演奏技法の外観をカスタマイズします。
 - テキストの演奏技法については、「**テキスト (Text)**」フィールドのテキストや、使用するフォントスタイルを変更します。
 - グリフの演奏技法については、カスタマイズする外観の下の「**複合要素を編集 (Edit Composite)**」をクリックして「**演奏技法の外観を編集 (Edit Playing Technique)**」ダイアログを開き、外観をカスタマイズします。
7. 必要に応じて、グリフの演奏技法に対し、「**全般 (General)**」タブの「**外観 (Appearance)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **上下とも同じ (Same above and below)**
 - **上下によって異なる (Different above and below)**
8. 上記で「**上下によって異なる (Different above and below)**」を選択した場合は、譜表の反対側のための外観もカスタマイズします。
9. 演奏技法の再生で使用する演奏技法の再生効果を「**演奏技法の再生効果 (Playback playing technique)**」メニューから選択します。
10. 必要に応じて、現在利用できない演奏技法の再生効果を使用する場合は、「**編集 (Edit)**」をクリックして「**演奏技法の再生効果を編集 (Edit Playback Playing Techniques)**」ダイアログを開くと、ここで演奏技法の再生効果を追加および編集できます。

たとえば、一部のサウンドライブラリーでは特定の動作やスイッチを手動でマッピングすることが求められますが、このようなサウンドライブラリーのために、エクスペリションマップに動作やスイッチを割り当てられる新規の演奏技法の再生効果を作成することが考えられます。
11. 必要に応じて「**全般 (General)**」タブのその他のオプションも変更します。
12. 必要に応じて、演奏技法に延長線を表示させる場合は、「**延長 (Continuation)**」タブの「**延長タイプ (Continuation type)**」メニューから「**ライン (Line)**」を選択します。
13. 必要に応じて、延長線を表示する演奏技法については、延長線と変移線に使用するスタイルに対応するメニューから選択します。

- 必要に応じて、延長線と変移線の配置位置を変更します。
 - 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

カスタムの演奏技法が作成されます。これは現在のプロジェクトでのみ利用できます。

手順終了後の項目

- 演奏技法の再生効果を新規作成した場合、そのカスタムの演奏技法を使用するすべてのインストゥルメントのエクスペッションマップにこれを追加し、サウンドライブラリーに適切な動作/スイッチを割り当てます。
- 他のプロジェクトでも使用できるように、カスタムの演奏技法をデフォルトとして保存できます。
- 演奏技法を入力して楽譜に表示できます。

関連リンク

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

カスタムの演奏技法をデフォルトとして保存する

初期設定では、カスタムの演奏技法を使用できるのは、それが作成されたプロジェクトの中だけです。しかしデフォルトとして保存することで、これを複数のプロジェクトで使用できるようになります。

手順

- 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「演奏技法 (Playing Techniques)」を選択して「演奏技法を編集 (Edit Playing Techniques)」ダイアログを開きます。
 - 演奏技法のリストで、複数のプロジェクトで使用する演奏技法を選択します。
 - アクションバーで「デフォルトとして保存 (Save as Default)」をクリックします。
 - 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

選択した演奏技法がデフォルトとしてユーザーライブラリーに保存され、複数のプロジェクトで使用できるようになります。

関連リンク

[カスタムの演奏技法 \(1035 ページ\)](#)

[「演奏技法を編集 \(Edit Playing Techniques\)」ダイアログ \(1035 ページ\)](#)

演奏技法の再生効果

演奏技法の再生効果は、楽譜に入力した演奏技法のアイテムとサウンドライブラリー内の演奏技法/アーティキュレーションをリンクさせて、再生時の適切なサウンドを実現します。それらはエクスペッションマップおよびパーカッションマップにより、キースイッチやコントロールチェンジなどの適切なコマンドをトリガーするために使用されます。

記譜モードで演奏技法やアーティキュレーションを入力すると、対応するエクスペッションマップにより適切な演奏技法の再生効果が参照されます。たとえば、pizz. の演奏技法を入力すると、エクスペッションマップがピチカートの演奏技法の再生効果を使用して、再生のサウンドがピチカートに切り替えられます。エクスペッションマップがサウンドを見つけられない場合、適用される演奏技法の再生効果は先に使用したものと同じになるか、ナチュラルな演奏技法の再生効果に復帰します。

エクスペッションマップに既存ではない演奏技法の再生効果を使用する場合、カスタムの演奏技法は自動的に再生に反映されません。適切な再生を行なうためには、それを使用するインストゥルメントごとに、エクスペッションマップに演奏技法を追加する必要があります。また、カスタムの演奏技法

ごとに動作内容を割り当てる必要があります。これは演奏技法を実行するために必要なスイッチの制御方法を定義するものです。

必要に応じて、演奏技法の再生効果は「**エクスプレッションマップ (Expression Maps)**」ダイアログの異なるサウンドライブラリーにマッピングできます。たとえば **Legato** と **Tremolo** など、同時に使用できる既存の演奏技法の再生効果による新しい組み合わせを作成できます。

再生モードで個別のインストゥルメントを展開すると表示できる「**演奏技法 (Playing Techniques)**」のレーンでは、特定の位置でどの演奏技法が使用されているかを確認できます。

ヒント

- 演奏技法を入力してもサウンドに変化が見られないときは、エクスプレッションマップで予期されていない演奏技法の組み合わせを使用している場合があります。たとえば、既存の演奏技法をキャンセルしないまま新規の演奏技法を入力した場合、エクスプレッションマップにそれら 2 つの演奏技法の組み合わせが登録されていない限り、エクスプレッションマップは 2 つの演奏技法を同時に処理できません。

演奏技法の衝突を回避するためには、ソフトウェアインストゥルメントを基本状態に戻す演奏技法 *naturale* または *nat.* を入力します。これにより、衝突することなく新規の演奏技法を入力できます。または、これらを同時に使用するために、演奏技法の組み合わせを作成できます。

- 個々のインストゥルメントに声部の個別再生を有効にして、異なる演奏技法を異なる声部で同時に鳴らすこともできます。

関連リンク

[エクスプレッションマップ \(582 ページ\)](#)

[「エクスプレッションマップ \(Expression Maps\)」ダイアログ \(583 ページ\)](#)

[「演奏技法の組み合わせ \(Playing Technique Combinations\)」ダイアログ \(589 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

[新しいエクスプレッションマップの作成 \(590 ページ\)](#)

ライン

ラインはピアノの楽譜でどちらの手を使うかや弓圧の段階的な変化を伝えるなど、楽譜の中でさまざまな意味を伝えることができます。Dorico Pro では、ラインを使用して音符の間を垂直線、横棒線、または斜めの線でつなぎ、さまざまなスタイルや外観を適用できます。



さまざまな意味を伝える垂直線と横棒線が含まれたフレーズ

補足

矢印付きの破線などの汎用的なデザインが使用されていることから、Dorico Pro のラインには固定の音楽的意味はなく、その機能は主に表示上のものです。これはつまり、再生に影響を与えないことを意味します。Dorico Pro では、強弱記号、アルペジオ、グリッサンド、トリルなど、再生に影響する固有の記譜記号については専用の機能が用意されています。

Dorico Pro では、以下の種類のラインを使用できます。

横棒線

横棒線は指定したデュレーションにかかります。つまり、ある位置から始まり、それ以降のある位置で終わります。横棒線は弓圧を表わすくさびのように時間の経過に伴う変化を示したり、フーガの主題にまたがる角括弧やメロディが別の譜表に移動する位置を示す音符間の直線のように、音符間のつながりを示したりできます。

連結の種類は、横棒線の位置と特定の性質を制御します。横棒線の開始位置と終了位置にはそれぞれ異なる種類の連結を設定できます。

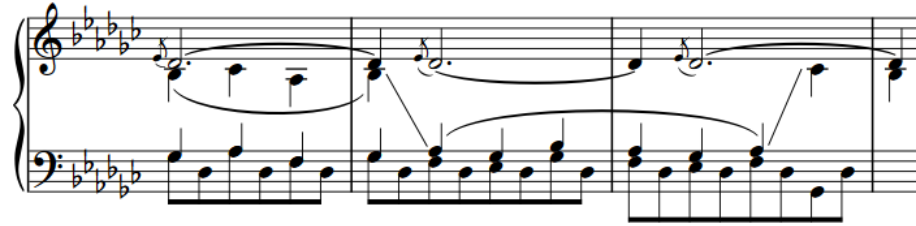
補足

横棒線を入力したあとに連結の種類を変更することはできません。

Dorico Pro では、横棒線のそれぞれの終端に以下の種類の連結を設定できます。

● 符頭に連結

音符の位置に関係なく、個々の音符に連結されます。つまり、符頭に連結されたラインの終端は、音符のピッチまたは楽譜での位置を変更すると音符と一緒に移動します。符頭に連結されたラインの終端の位置とラインの角度は開始音と終了音のピッチ差によって決まるため、符頭に連結されたラインは斜めになることも水平になることもあります。



ピアノの譜表間でメロディが移動する位置を示す符頭に連結されたラインが2本含まれたフレーズ

- **小節線に連結**

位置に連結され、その位置が小節線の位置と一致する場合は小節線に揃えられます。小節線に連結されたラインは常に水平です。



2つの完全小節にまたがる小節線に連結されたライン

- **位置に連結**

位置に連結され、その位置にある音符、和音、休符に対して相対的に配置されます。位置に連結されたラインは水平で、初期設定では譜表の上に配置されます。位置に連結されたラインのそれぞれの終端は、その位置にある音符、和音、または休符の左側で始まり右側で終わります。



2つの完全小節にまたがる位置に連結されたライン

垂直線

垂直線は単一の位置に存在し、その位置にある音符、和音、休符に対して相対的に配置されます。垂直線は、ピアノの楽譜で特定の音符にどちらの手を使うかを示すなど、特定の瞬間についての詳細を伝えることができます。



右手で弾く音符を示す垂直線

関連リンク

[ラインの入力方法 \(293 ページ\)](#)

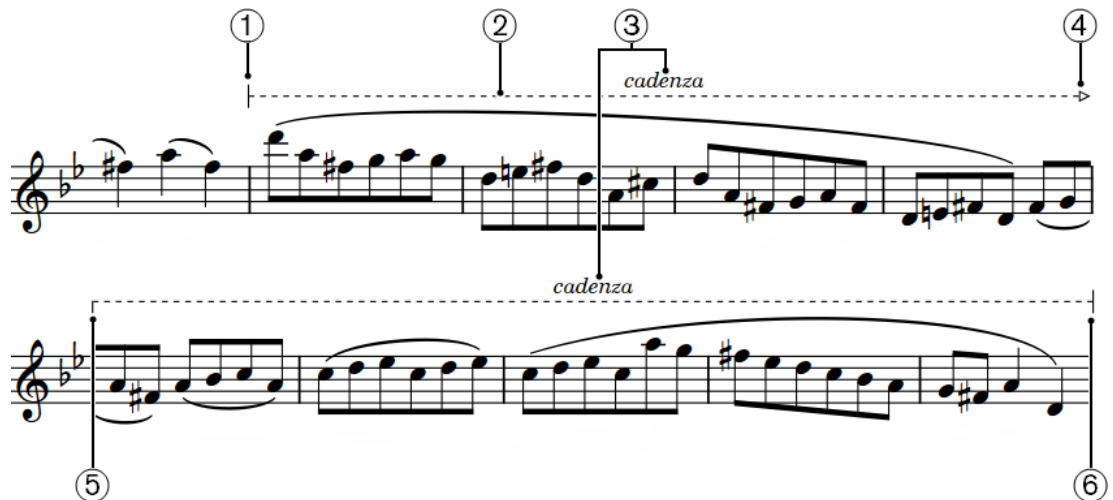
[ラインパネル \(293 ページ\)](#)

[ラインへのテキストの追加 \(1059 ページ\)](#)

[横棒線の配置の変更](#) (1051 ページ)
[アルペジオ記号](#) (953 ページ)
[グリッサンドライン](#) (962 ページ)
[オクターブ線](#) (743 ページ)
[トリル](#) (941 ページ)
[演奏技法の延長線](#) (1029 ページ)
[ペダル線](#) (1000 ページ)
[リピート括弧](#) (1083 ページ)
[ギターバンド](#) (970 ページ)
[連符の角括弧](#) (1281 ページ)

ラインの構成要素

Dorico Pro では、ラインは、単一のアイテムとして一緒に機能する複数の要素で構成されています。



1 開始位置のキャップ

ラインの開始位置に表示される記号。

2 ラインのボディ

ラインの主要部分を構成する横棒線、垂直線、パターン、またはくさびで、ラインの全長または高さ全体にわたって延びています。

3 テキスト

ライン/ラインのセグメントの途中に表示されるテキスト。初期設定では中央揃えになります。初期設定では、垂直線のテキストは下から上に読む形で表示されます。

4 延長線終端のキャップ

複数の組段をまたいで続くラインのセグメントの終了位置に表示される記号。

5 延長線のキャップ

複数の組段をまたいで続くラインの後続のセグメントの開始位置に表示される記号。

6 終端のキャップ

ラインの終了位置に表示される記号。

関連リンク

[ラインのボディスタイルの変更](#) (1057 ページ)
[ラインのキャップの変更](#) (1058 ページ)
[ラインへのテキストの追加](#) (1059 ページ)
[横棒線に対するテキストの位置の変更](#) (1060 ページ)
[垂直線に対するテキストの位置の変更](#) (1061 ページ)

[演奏技法の延長線 \(1029 ページ\)](#)

浄書オプションでラインの設定をプロジェクト全体に適用する

横棒線の開始位置と終了位置のデフォルトの間隔、および横棒線とほかのアイテムとの間のデフォルトの間隔に関するオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ライン (Lines)**」ページにあります。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[ラインの長さ \(1055 ページ\)](#)

ラインの位置

音符と譜表に対するラインの位置は、ラインの種類と、横棒線の場合は連結の種類によって決まります。

符頭に連結された横棒線

符頭に連結されたラインは、連結先の符頭を基準として配置されます。つまり、開始音の右側から始まり、終了音の左側で終わります。これらのラインは両端の音符を自動的に追従します。つまり、各音符のピッチを変更したり位置を移動したりすると、それに応じてラインの両端の位置が移動します。ラインの位置は音符のピッチによって決まるため、譜表の内側に表示されることも外側に表示されることもあります。一方の端のみラインが符頭に連結されている場合、ラインは水平に保たれますが、連結先の音符の譜表上の位置に追従します。

小節線に連結された横棒線

初期設定では、小節線に連結された横棒線は譜表の上に配置されます。ラインのデュレーションが小節線の位置と一致する場合は終端が小節線に揃えられます。終端が小節線と一致しない場合、これらのラインは位置に連結されたラインと同じように配置されます。

位置に連結された横棒線

初期設定では、位置に連結されたラインは譜表の上に配置されます。位置に連結されたラインのそれぞれの終端は、その位置にある音符、和音、または休符の左側で始まり右側で終わります。

垂直線

垂直線は、そのラインが適用される音符および音符の臨時記号の左に配置されますが、装飾音符が付く場合は、装飾音符と標準の音符との間に配置されます。同じ位置に複数の垂直線が存在する場合、最後に追加したラインが一番右、つまり音符、和音、または休符のすぐ左に配置されます。

垂直線を音符の右側に表示したり、横棒線の位置を変更して譜表内に表示したりするなど、ラインの配置はさまざまな方法で変更できます。

関連リンク

[垂直線の水平方向の順序を変更する \(1050 ページ\)](#)

[垂直線を装飾音符の前に表示する \(1051 ページ\)](#)

[横棒線の配置の変更 \(1051 ページ\)](#)

[ラインの表示位置の移動 \(1054 ページ\)](#)

垂直線を音符の右または左に表示する

たとえば、選択した垂直線を音符の右側に表示するなど、垂直線を音符のどちら側に表示するかを変更できます。

手順

1. 水平方向の位置を変更する垂直線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**垂直線 (Vertical Lines)**」グループで、「**表示する側 (Side)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 左 (Left)
 - 右 (Right)

結果

選択したラインが音符のそれぞれの側に表示されます。

例



音符の左側の垂直線



音符の右側の垂直線

手順終了後の項目

同じ位置にある音符の同じ側に複数の垂直線が存在する場合、垂直線の順序を変更できます。

垂直線の水平方向の順序を変更する

同じ位置にある音符の同じ側に複数の垂直線が存在する場合、垂直線の水平方向の順序を変更できます。

手順

1. 順序を変更する垂直線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**垂直線 (Vertical Lines)**」グループで、「**列 (Column)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

同じ位置の他の垂直線に対する選択した垂直線の順序が変更されます。「**列 (Column)**」の値が大きいラインが左側に表示され、値が小さいラインが右側に表示されます。

垂直線を装飾音符の前に表示する

装飾音符の左に表示されるように個々の垂直線を配置できます。初期設定では、垂直線は装飾音符のあと、つまり装飾音符と通常の音符の間に配置されます。

手順

1. 装飾音符の前に表示する垂直線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**垂直線 (Vertical Lines)**」グループで、「**装飾音符前のライン (Line before grace notes)**」をオンにします。

結果

選択した垂直線が装飾音符の前に配置されます。

「**装飾音符前のライン (Line before grace notes)**」をオフにすると、選択した垂直線が再び装飾音符のあとに表示されます。

例



装飾音符のあとの垂直線



装飾音符の前の垂直線

横棒線の配置の変更

個々の横棒線を譜表の上、下、または内側に表示できます。初期設定では、横棒線は譜表の上に配置されます。

補足

これらの手順は、小節線または位置に連結された横棒線にのみ適用されます。

手順

1. 配置を変更する横棒線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**横棒線 (Horizontal Lines)**」グループで、「**配置 (Placement)**」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上 (Above)
 - 下 (Below)
 - 譜表の内側 (Inside staff)

結果

選択した横棒線の配置が変更されます。初期設定では、譜表内の横棒線は譜表の第3線に中央揃えで配置されます。

ヒント

[F] を押して、選択した横棒線の配置オプションを順に切り替えることもできます。

手順終了後の項目

- 譜表の内側に表示されるラインの譜表上の配置を変更できます。
- 譜表の内側に表示されるライン上のテキストの背景を塗りつぶすことができます。

関連リンク

[譜表に対するアイテムの位置の変更 \(332 ページ\)](#)

譜表内にある横棒線の譜表上の位置を変更する

譜表の内側に表示される横棒線の譜表上の位置を変更できます。たとえば、ラインを斜めに表示したい場合など、ラインの譜表上の開始位置と終了位置をそれぞれ個別に変更することもできます。

前提条件

譜表上の位置を変更する横棒線を譜表内に配置し、小節線または位置に連結された終端が少なくとも1つある状態にしておきます。

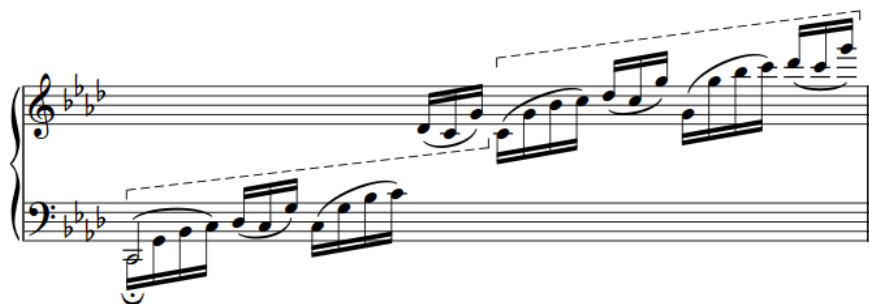
手順

1. 譜表上の位置を変更する譜表上に配置された横棒線を選択します。
 2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」グループで、以下のプロパティの一方または両方をオンにします。
 - 開始位置 (Start position)
 - 終了位置 (End position)
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

選択したラインの譜表上の終了位置が、入力した値に応じて変更されます。たとえば、0 は譜表の第3線、4 は譜表の第5線、-4 は譜表の第1線を意味します。

例



譜表上の開始位置/終了位置が異なる譜表内の横棒線

横棒線の位置の移動

小節線または位置に連結された横棒線は、入力後に別の位置に移動できます。

補足

- 符頭に連結された横棒線の開始位置/終了位置は、連結先の音符を移動しない限り動かすことができません。
- 下記のキーボードショートカットを垂直線に使用することはできませんが、垂直線を休符の上に移動することはできません。垂直線は、同じ声部の隣接する音符または和音にのみ移動できます。休符を含むフレーズに沿って垂直線を移動させたい場合は、垂直線を削除して、新しい位置に新たに入力することをおすすめします。

手順

1. 記譜モードで、移動するラインを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できる横棒線は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なってラインを移動します。
 - 1本のラインを同じ譜表の次の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 1本のラインを同じ譜表の前の符頭の位置まで移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔に従って右に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔に従って左に移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

複数の横棒線が選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔でしか横棒線を移動できません。

- ラインをクリックして左右の任意の符頭の位置までドラッグします。

補足

垂直線のリズム上の位置をマウスで移動することはできません。

結果

選択したラインが新しい位置に移動します。

補足

1本の横棒線が移動する際に他のラインの上を通過した場合、ラインは複数が同じ位置に存在できるため、そこにあったラインに影響はありません。ただし、複数の横棒線を一緒に移動した場合、または1本の垂直線を移動した場合、それらが通過した同じ種類の既存のラインはそれに応じて短縮されるか削除されます。

この動作内容は元に戻せますが、この過程で短縮または削除されたラインが復元されるのは、ラインの移動にキーボードを使用していた場合のみです。

ラインの表示位置の移動

個別の横棒線と垂直線のリズム上の位置を変更することなく、表示位置を移動できます。ラインの終端は個別に移動でき、これはラインの角度と表示上の長さも調節できることを意味します。

浄書モードでは、横棒線の開始位置と終了位置、そして垂直線の上部和下部のそれぞれ2か所に四角いハンドルがあります。

横棒線が組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側の横棒線の分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。



浄書モードの垂直線と横棒線のハンドル

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- ライン全体または横棒線のセグメント
- ラインの個別のハンドル

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ラインまたはハンドルを移動させます。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したラインまたはハンドルの表示位置が、適用されるリズム上の位置に影響することなく移動します。

ヒント

横棒線のハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**横棒線 (Horizontal Lines)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」は横棒線の開始位置のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット (End offset)**」は横棒線の終了位置のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

垂直線のハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**垂直線 (Vertical Lines)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**上のオフセット (Top offset)**」は、垂直線の上部のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**下のオフセット (Bottom offset)**」は、垂直線の下部のハンドルを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

たとえば、ライン全体を移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのすべてのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することにより、ラインを移動したり、長さを調節したりできます。

プロパティをオフにすると、選択したラインがデフォルトの位置にリセットされます。

関連リンク

[ラインの構成要素 \(1048 ページ\)](#)

[ラインの位置 \(1049 ページ\)](#)

[垂直線を音符の右または左に表示する \(1050 ページ\)](#)

[垂直線の水平方向の順序を変更する \(1050 ページ\)](#)

[横棒線の配置の変更 \(1051 ページ\)](#)

ラインの長さ

横棒線と垂直線はどちらも適切な長さが自動的に計算されます。

- 横棒線の長さはラインのデュレーションによって決まります。横棒線の配置方法は連結の種類によって異なり、それが表示上の長さに影響する場合があります。たとえば、小節線に連結されたラインは、同じデュレーションを持つ位置に連結されたラインよりも長くなる場合があります。
- 垂直線の長さは、そのラインが適用される声部または譜表内の音符のピッチの範囲によって決まります。そのラインが適用されている声部または譜表内の音符のピッチを変更した場合や、コードへの音符の追加または削除を行なった場合は、垂直線の長さが自動的に調整されます。

横棒線と垂直線はどちらも長さを変更できます。たとえば、個々の垂直線をコードの一番上の音符の上まで伸ばしたい場合などに行いません。

横棒線の開始位置と終了位置のデフォルトの間隔、および横棒線とほかのアイテムとの間のデフォルトの間隔は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**ライン (Lines)**」ページで変更できます。

横棒線の長さの変更

横棒線は入力後に長さを変更できます。

補足

これらの手順は、小節線または位置に連結された横棒線にのみ適用されます。連結先の音符の長さを変更しない限り、符頭に連結された横棒線の長さを変更することはできません。

手順

1. 記譜モードで長さを変更する横棒線を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるラインは1本だけです。

- 以下のいずれかの操作を行なってラインの長さを変更します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 1本のラインの終端を次の符頭にスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 1本のラインの終端を前の符頭までスナップするには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

- 複数のラインが選択されている場合は、現在のリズムグリッドの間隔でしかラインの長さを変更できません。
 - キーボードを使用しているときは、ラインの終端しか動かせません。ラインの始端は、ラインを移動させるか、1本のラインの開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。
-
- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。

結果

1本のラインの長さが、現在のリズムグリッドの間隔または前後の符頭の位置のいずれか近い方に従い変更されます。

複数のラインの長さが、現在のリズムグリッドの間隔に従い変更されます。

ヒント

浄書モードでは、ラインの表示上の位置や長さを変更できます。

関連リンク

[横棒線の入力](#) (294 ページ)

[横棒線の位置の移動](#) (1053 ページ)

[ラインの表示位置の移動](#) (1054 ページ)

垂直線の長さの変更

個々の垂直線の長さを、譜表上の別の位置まで延ばしたり縮めたりできます。初期設定では、垂直線は同じ位置にある同じ声部のすべての音符の範囲全体にかかるように表示されます。

手順

- 長さを変更する垂直線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「**垂直線 (Vertical Lines)**」グループで、以下のプロパティの一方または両方をオンにします。
 - 上部分 (Top position)**
 - 下部分 (Bottom position)**
- 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択したラインの垂直方向の長さが変更されます。値を大きくすると対応する終端が上に1度ずつ移動し、値を小さくすると下に1度ずつ移動します。

ヒント

浄書モードでは、ラインの表示上の位置や長さを変更できます。

関連リンク

[垂直線の入力](#) (295 ページ)

横棒線の終了位置の変更

初期設定では、位置に連結された横棒線は、そのラインの終了位置にある最後の音符、和音、または休符の直後に終了します。たとえば、次の音符、和音、または休符の直前で終了させたい場合など、位置に連結された横棒線の終了位置を個別に変更できます。

補足

これらの手順は、位置に連結された横棒線にのみ適用されます。

手順

1. 終了位置を変更する位置に連結された横棒線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」グループで、「水平終了位置 (Horizontal end position)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 最後の音符の右側で終了 (End at right-hand side of final note)
 - 次に続く音符の直前で終了 (End immediately before following note)

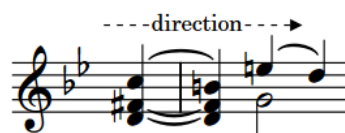
結果

選択した位置に連結された横棒線の終了位置が変更されます。

例



最後の音符のあとで終了する横棒線



次に続く音符の前で終了する横棒線

ラインのボディスタイルの変更

キャップを変更することなく、個々のラインのボディスタイルを変更できます。

手順

1. ボディスタイルを変更するラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「**横棒線 (Horizontal Lines)**」または「**垂直線 (Vertical Lines)**」のグループで、「**ラインボディスタイル (Line body style)**」をオンにします。
 3. メニューから使用するスタイルを選択します。
-

結果

選択したラインのボディスタイルが変更されます。

補足

これは、選択したラインのキャップには影響しません。

関連リンク

[ラインの構成要素 \(1048 ページ\)](#)

[ラインパネル \(293 ページ\)](#)

ラインのキャップの変更

ボディスタイルを変更することなく、個々のラインのキャップを変更できます。

手順

1. キャップを変更するラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「**横棒線 (Horizontal Lines)**」または「**垂直線 (Vertical Lines)**」のグループで、以下のプロパティを片方または両方オンにします。
 - 選択したラインの開始位置または下のキャップを変更するには、「**開始位置のキャップ (Start cap)**」をオンにします。
 - 選択したラインの終了位置または上のキャップを変更するには、「**終端のキャップ (End cap)**」をオンにします。
 - それ以降の組段で、選択した横棒線のセグメントの開始位置のキャップを変更するには、「**延長線のキャップ (Continuation cap)**」をオンにします。
 - それ以降の組段で、選択した横棒線のセグメントの終了位置のキャップを変更するには、「**延長線終端のキャップ (Continuation end cap)**」をオンにします。
 3. 各メニューから使用するスタイルを選択します。
-

結果

選択したラインのキャップが変更されます。

補足

これは、選択したラインのボディスタイルには影響しません。

ラインの方向の変更

たとえば、横棒線の矢印を左向きにしたり、垂直線に表示されるテキストの上下を反転させて上から下に読む形にしたりするなど、横棒線と垂直線はどちらも方向を変更できます。

手順

1. 方向を変更するラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

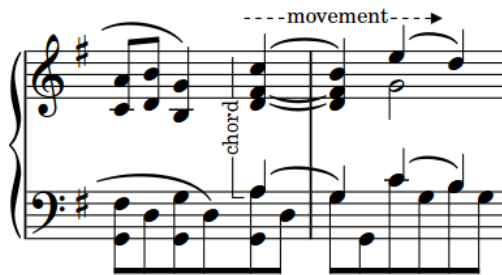
横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」または「垂直線 (Vertical Lines)」のグループで、「反転 (Reverse)」をオンにします。

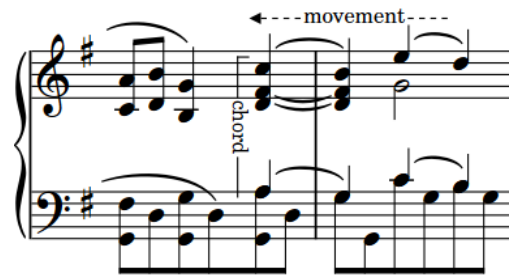
結果

選択したラインの方向が変更されます。垂直線のテキストは上から下に読む形になります。「反転 (Reverse)」をオフにすると、選択したラインがデフォルトの方向に戻ります。

例



デフォルトの方向の横棒線と垂直線



反転した横棒線と垂直線

ラインへのテキストの追加

横棒線と垂直線は、どちらもテキストを追加できます。これは、たとえばラインの意図を明確にするために行ないます。

手順

1. テキストを追加するラインを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

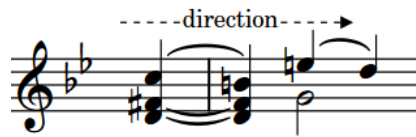
横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」または「垂直線 (Vertical Lines)」のグループで、「テキスト (Text)」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

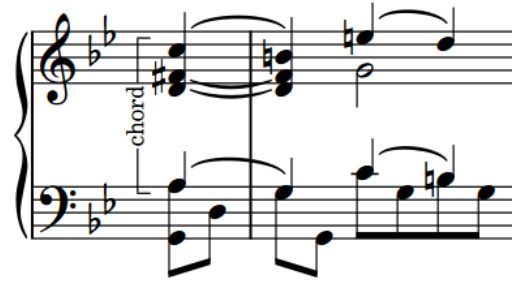
結果

フィールドに入力したテキストが、選択したラインに中央揃えで表示されます。垂直線のテキストは下から上に読む形で表示されます。

例



横棒線のテキスト



垂直線のテキスト

手順終了後の項目

- 垂直線のテキストを上から下に読む形で表示したい場合は、ラインを反転できます。
- ラインのテキストの背景を塗りつぶすことができます。

関連リンク

[ラインの構成要素](#) (1048 ページ)

[ラインの入力方法](#) (293 ページ)

ラインのテキストのフォントスタイル

ラインのテキストには、ラインの種類に応じてさまざまなフォントスタイルがあります。フォントサイズを変更してラインのテキストを大きく表示するなど、これらのフォントの各種設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。

ラインのテキストには以下のフォントが使用されています。

- **横棒線のフォント (Horizontal Line Font)**: 横棒線のテキストに使用されます。
- **垂直線のフォント (Vertical Line Font)**: 垂直線のテキストに使用されます。

補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ](#) (412 ページ)

横棒線に対するテキストの位置の変更

テキストを横棒線の上に表示するなど、横棒線に対するテキストの位置を変更できます。初期設定では、テキストは横棒線に対して中央揃えで配置されます。

補足

ラインのテキストは常にラインの途中に表示されます。ラインの開始位置または終了位置にテキストを表示したい場合は、カスタムの演奏技法を作成し、かわりに延長線を表示するように設定できます。

手順

1. テキストの位置を変更する横棒線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」グループで、「テキストの位置 (Text position)」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上 (Above)
 - 中央揃え (Centered)
 - 下 (Below)
-

結果

選択した横棒線に対するテキストの位置が変更されます。

例



関連リンク

[カスタムの演奏技法の作成 \(1043 ページ\)](#)

垂直線に対するテキストの位置の変更

テキストを垂直線の左に表示するなど、垂直線に対するテキストの位置を変更できます。初期設定では、テキストは垂直線に対して中央揃えで配置されます。

補足

ラインのテキストは常にラインの途中に表示されます。ラインの開始位置または終了位置にテキストを表示したい場合は、カスタムの演奏技法を作成し、かわりに延長線を表示するように設定できます。

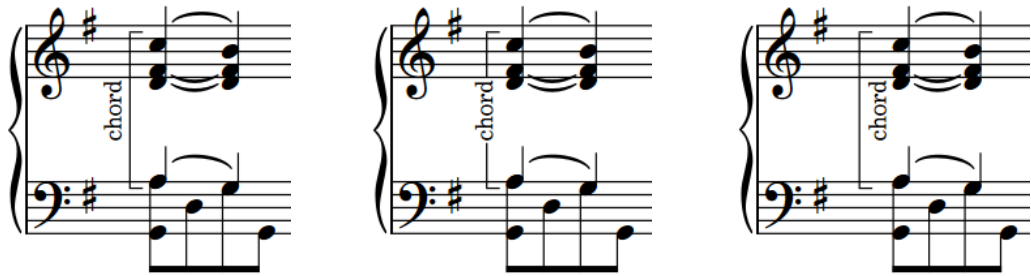
手順

1. テキストの位置を変更する垂直線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「垂直線 (Vertical Lines)」グループで、「テキストの位置 (Text position)」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 左 (Left)
 - 中央揃え (Centered)
 - 右 (Right)
-

結果

選択した垂直線に対するテキストの位置が変更されます。

例



「左 (Left)」のテキスト

「中央揃え (Centered)」のテキスト

「右 (Right)」のテキスト

ラインテキストの背景の塗りつぶし

たとえば、譜表内に表示されるテキストの読みやすさを確保するために、個々のラインに表示されるテキストの背景を塗りつぶすことができます。

前提条件

浄書ツールボックスで「グラフィックの編集 (Graphic Editing)」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、テキストの背景を塗りつぶすラインを選択します。

補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「横棒線 (Horizontal Lines)」または「垂直線 (Vertical Lines)」のグループで、「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオンにします。
-

結果

選択したラインのテキストの背景が塗りつぶされます。

「背景を塗りつぶし (Erase background)」をオフにすると、選択したラインのテキストがデフォルトの背景の塗りつぶしがない状態に戻ります。

例



背景が塗りつぶされていないラインのテキスト

背景が塗りつぶされたラインのテキスト

ラインテキストの塗りつぶしの余白を変更する

ラインテキストの塗りつぶしの余白を個別に変更できます。余白の幅はラインテキストの四方それぞれについて個別に変更できます。

前提条件

浄書ツールボックスで「**グラフィックの編集 (Graphic Editing)**」を選択しておきます。

手順

1. 浄書モードで、テキストの塗りつぶしの余白を変更するラインを選択します。

補足

横棒線のみまたは垂直線のみを選択する必要があります。

2. プロパティパネルの「**横棒線 (Horizontal Lines)**」または「**垂直線 (Vertical Lines)**」のグループで、「**塗りつぶしの余白 (Erasure padding)**」のプロパティをいずれか、またはまとめてオンにします。
 - 「**L**」はラインのテキストの左側の余白の幅を変更します。
 - 「**R**」はラインのテキストの右側の余白の幅を変更します。
 - 「**T**」はラインのテキストの上側の余白の幅を変更します。
 - 「**B**」はラインのテキストの下側の余白の幅を変更します。
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

値を大きくすると余白が増え、値を小さくすると余白が減ります。

リハーサルマーク (Rehearsal Marks)

リハーサルマークは順に並んだ文字または数字であり、小節番号とともに、複数のプレーヤーが利用する楽譜の基準点として機能し、また楽譜の時系列的な順序を明確にします。

リハーサルマークは演奏者に曲中の今どこにいるかを示し、リハーサルやコンサートにおいて位置の把握や全体との調和を容易にします。リハーサルマークは楽曲の重要な変化の位置を示すことにも使用され、その位置は自由に決められます。

リハーサルマークはパートレイアウトとフルスコアレイアウトを作成する際にも役立ちます。リハーサルマークと小節番号を使用すると、パートレイアウトとフルスコアレイアウトを素早く比較して正しいかどうかをチェックできます。Dorico Pro では、リハーサルマークは自動的に順序付けされ、リハーサルマークの重複がないようにします。

Dorico Pro では、リハーサルマークは組段オブジェクトとして分類されます。そのため、リハーサルマークはレイアウトごとの組段オブジェクトの表示設定および位置設定に従い、これは「**設定 (Setup)**」>「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページで変更できます。

関連リンク

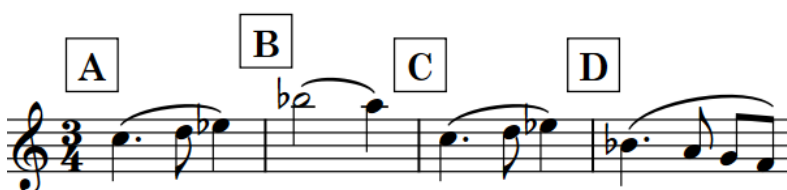
[リハーサルマークの入力 \(299 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

リハーサルマークの一般的な配置規則

リハーサルマークは見つけやすいように、スコア上の目立つ位置に配置する必要があります。リハーサルマークは大きい太字の立体フォントであるとともに、組段の上かつ楽譜の外側に配置される必要があります。



リハーサルマークは小節線より上になければならず、組段の下になってはいけません。Dorico Pro では、リハーサルマークは小節の途中の位置でも入力できますが、これは一般的ではありません。楽譜のスタイルと状況に応じて、リハーサルマークの下に複縦線を入れるのが有効な場合があります。

目につきやすいように、またリハーサルマークに数字を使用している場合は小節番号と間違えられないように、リハーサルマークは囲み線に入って表示される必要があります。Dorico Pro では、リハーサルマークの囲み線の形状とサイズを変更できます。

リハーサルマークは楽譜の任意の位置に配置できますが、テンポの変更やテクスチャーの変更など、音楽的な変化のある位置に合わせると、最もプレーヤーの助けになります。また、重要なソロの導入部や難易度の高いパッセージの始まりなど、特定部分のリハーサルのためにプレーヤーが演奏を開始するポイントとなるであろう位置にリハーサルマークを配置するのも有効です。

一般的に、リハーサルマークは重要な位置に配置するほか、一定間隔で配置するとよいとされています。プレイヤーがリハーサルマーク前後の小節を数える手間を減らすために、5～20小節ごとにリハーサルマークを入れることがよく推奨されます。

リハーサルマークがテンポの変更と同じ位置にある場合、テンポのテキストはリハーサルマークの右側に配置します。ただし、スペースが狭い場合、テキストはリハーサルマークの上または下に配置できます。リハーサルマークの位置は常に空けておくようにします。リハーサルマークが属する小節線から離れた位置に追いやられると、誤った位置に解釈されてしまう場合があります。Dorico Pro は、リハーサルマークが正しく配置されるように、譜表のスペーシングを自動的に調整します。



リハーサルマークおよびテンポマークが配置されるように、上の2つの譜表の垂直のスペーシングが広がっている

関連リンク

[リハーサルマークの入力 \(299 ページ\)](#)

[小節と小節線の入力方法 \(237 ページ\)](#)

[リハーサルマークの囲み線のタイプの変更 \(1065 ページ\)](#)

浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」ページで、リハーサルマークの外観と位置を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

たとえば、リハーサルマークのシーケンスタイプ、デフォルト位置、および括弧に入れて表示するかどうかなどを変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[リハーサルマークの囲み線のサイズと余白の値 \(1066 ページ\)](#)

リハーサルマークの囲み線のタイプの変更

リハーサルマークは通常、長方形または丸の囲み線に入って表示されます。リハーサルマークの囲み線のタイプを変更して、プロジェクト全体に適用できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. ページリストから「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」をクリックします。
3. 「囲み線 (Enclosure)」セクションの「囲み線のタイプ (Enclosure type)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。

- 長方形 (Rectangle)
- 丸 (Circle)
- 囲み線なし (No enclosure)

結果

プロジェクト内のすべてのリハーサルマークの囲み線のタイプが変更されます。囲み線のデフォルトのサイズはリハーサルマークのフォントサイズに比例しますが、囲み線のサイズと形状の決定には余白の値も関わってきます。

例



長方形の囲み線に入ったリハーサルマーク



丸の囲み線に入ったリハーサルマーク



囲み線なしのリハーサルマーク

リハーサルマークの囲み線のサイズと余白の値

リハーサルマークの囲み線のデフォルトの形状およびサイズは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」ページで変更できます。リハーサルマークの囲み線の最小寸法、線の太さ、および余白の値を変更できます。

すべての囲み線

囲み線の太さ (Enclosure line thickness)

長方形と丸の両方のタイプについて、囲み線の太さを設定します。デフォルトは 1/8 スペースです。以下の例は 1/2 スペースの太さです。



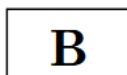
リハーサルマークの長方形の囲み線

以下の図は、リハーサルマークの長方形の囲み線 (デフォルト設定) を示します。最小高さとも最幅はいずれも 4 スペース、左右の余白は 3/4 スペース、上下の最小余白はいずれも 1/8 スペースです。



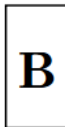
最小幅 (Minimum width)

囲み線の幅の最小値を設定します。以下の例では、値を 4 スペースから 8 スペースに増やしています。



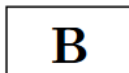
最小高さ (Minimum height)

囲み線の高さの最小値を設定します。以下の例では、値を 4 スペースから 8 スペースに増やしています。



囲み線とテキスト間の余白 (左右) (Left and right padding between text and enclosure)

囲み線の両辺と中のリハーサルマークの間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 3/4 スペースから 3 スペースに増やしています。



囲み線とテキスト間の余白 (上部) (Top padding between text and enclosure)

囲み線の上の線と中のリハーサルマークの間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/2 スペースから 2 スペースに増やしています。



囲み線とテキスト間の余白 (下部) (Bottom padding between text and enclosure)

囲み線の下の方と中のリハーサルマークの間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/8 スペースから 2 スペースに増やしています。



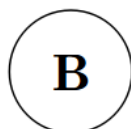
リハーサルマークの丸の囲み線

以下の図は、リハーサルマークの丸の囲み線 (デフォルト設定) を示します。最小直径は 4 スペースで、最小余白は 1/4 スペースです。



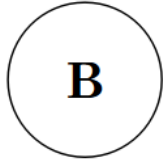
最小直径 (Minimum diameter)

囲み線の直径の最小値を設定します。以下の例では、値を 4 スペースから 8 スペースに増やしています。



囲み線とテキスト間の最小余白 (Minimum padding between text and enclosure)

囲み線と中のリハーサルマークの間の距離の最小値を設定します。以下の例では、値を 1/4 スペースから 2 スペースに増やしています。



リハーサルマークの位置

リハーサルマークは譜表の上の、他の組段オブジェクトと同じ位置に配置されます。

リハーサルマークのリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

リハーサルマークの表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

すべてのリハーサルマークのプロジェクト全体のデフォルト位置の変更や、リハーサルマークと譜表およびリハーサルマークとその他のアイテム間の最小距離の値の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リハーサルマーク (Rehearsal Marks)**」ページで行なえます。

Dorico Pro では、リハーサルマークは組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントのファミリーの最初の大括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。これにより、フルスコアのみ各組段の上に複数のリハーサルマークを表示させることなどができます。

関連リンク

[浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する \(1065 ページ\)](#)

[リハーサルマークの表示位置の変更 \(1069 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

リハーサルマークの位置の移動

リハーサルマークの位置は入力後に移動できます。

手順

1. 記譜モードで、位置を移動するリハーサルマークを選択します。

補足

マウスを使用すると、一度に移動できるリハーサルマークは 1 つだけで、既存の小節線の位置にしからず移動できません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、リハーサルマークを移動させます。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - リハーサルマークをクリックして左右の小節線の位置にドラッグします。

結果

1 つのリハーサルマークは、左右にある既存の小節線の位置に移動します。

複数のリハーサルマークは、現在のリズムグリッドの間隔に従って移動します。

補足

リハーサルマークはそれぞれの位置に1つしか存在できません。リハーサルマークを移動する際に他のリハーサルマークの上を通過した場合、そこにあったリハーサルマークは削除され、移動したリハーサルマークに置き換えられます。

この動作は元に戻せますが、移動中に削除されたリハーサルマークについては、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

リハーサルマークの表示位置の変更

リハーサルマークは、リズム上の位置を変えずに表示位置を移動できます。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動するリハーサルマークを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、リハーサルマークを移動させます。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。
-

結果

選択したリハーサルマークの表示位置が変更されます。

ヒント

リハーサルマークを移動すると、プロパティパネルの「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」グループにある「開始オフセット (Start offset)」が自動的にオンになります。

- 「開始オフセット (Start offset)」の「X」の値を変更すると、リハーサルマークの水平位置が変更されます。
- 「開始オフセット (Start offset)」の「Y」の値を変更すると、リハーサルマークの垂直位置が変更されます。

このプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更してリハーサルマークを移動させることもできます。

プロパティをオフにすると、選択したリハーサルマークがデフォルト位置にリセットされます。

リハーサルマークの削除

リハーサルマークを削除できます。リハーサルマークをいずれかのレイアウトで削除すると、すべてのレイアウトからそのリハーサルマークが削除されます。

手順

1. 記譜モードで、削除するリハーサルマークを選択します。

2. [Backspace] 又は [Delete] を押します。

結果

選択したリハーサルマークが削除されます。それ以降のリハーサルマークは、次に順序の変更がある位置かフローの終了位置まで調整されます。たとえば、1つめのリハーサルマークを削除した場合、次のリハーサルマークはシーケンスタイプの選択に従い、アルファベットの A、数字の 1、または小節番号を表示します。

リハーサルマークの順序の変更

初期設定では、リハーサルマークのシーケンスは各フローの開始位置でリセットされます。たとえば、同じプロジェクト内で同じ文字のリハーサルマークが複数存在しないようにするために、フローをまたいでリハーサルマークのシーケンスを継続させる場合、リハーサルマークのインデックス位置を変更できます。

インデックス位置を変更すると、表示される数字または文字が変更されます。たとえば、インデックス位置 1 はリハーサルマーク A または 1 として表示され、インデックス位置 2 は B または 2 として表示される、という具合です。

またリハーサルマークのインデックス位置の変更は、I や O など他の文字や数字と間違いやすい文字の表示を回避するためにも使用できます。

手順

1. インデックス位置を変更するリハーサルマークを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」グループで、「インデックス (Index)」をオンにします。
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

選択したリハーサルマークが、「インデックス (Index)」の値とシーケンスタイプに従い変化します。同じシーケンスのそれ以降のリハーサルマークは、更新されたインデックスに自動的に従います。たとえば、あるリハーサルマークを A から P に変更した場合、次のリハーサルマークは B から Q に変更されます。

補足

また、リハーサルマークのシーケンスタイプも変更でき、たとえばリハーサルマーク C を 3 と表示できます。

リハーサルマークのシーケンスタイプの変更

リハーサルマークは、文字、数字、または小節番号で表示できます。個々のリハーサルマークのシーケンスタイプを変更すると、リハーサルマークの補助的なシーケンスを作成できます。

Dorico Pro では、用意された 3 つのリハーサルマークのシーケンスすべてを同時に使用できます。たとえば、文字のリハーサルマークをメインのシーケンスとして表示しつつ、数字を補助的なシーケンスとしてソロラインの開始位置などの別種のタイミングの指示に使用しながら、併せてこれらのセクションの重要な小節番号を強調表示できます。

ヒント

プロジェクト全体のすべてのリハーサルマークで使用するシーケンスタイプは、「浄書オプション (Engraving Options)」の「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」ページで変更できます。

手順

1. シーケンスタイプを変更するリハーサルマークを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」グループで、「シーケンスタイプ (Sequence type)」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 文字 (Letters)
 - 数字 (Numbers)
 - 小節番号 (Bar numbers)
-

結果

選択したリハーサルマークに文字、数字、または現在の小節番号が表示されるようになります。フロー内の文字または数字のシーケンスの中でこれが最初である場合、このリハーサルマークは A または 1 を表示します。フロー内の文字または数字のシーケンスにすでに他のリハーサルマークが存在する場合、このリハーサルマークはインデックスに従い次の文字または数字を表示します。

補足

リハーサルマークのシーケンスのインデックスは、他のリハーサルマークのシーケンスには影響されず個別に変更できます。ただし、小節番号のシーケンスはこの方法では変更できません。

関連リンク

[浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する \(1065 ページ\)](#)
[小節番号の変更の追加 \(669 ページ\)](#)

リハーサルマークに先頭および末尾テキストを追加する

リハーサルマークには先頭テキストおよび末尾テキストの両方を個別に追加できます。

手順

1. 先頭テキストまたは末尾テキストを追加するリハーサルマークを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
 - 先頭テキスト (Prefix)
 - 末尾テキスト (Suffix)
 3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
 4. **[Return]** を押します。
-

結果

フィールドに入力したテキストが、先頭テキストまたは末尾テキストとして、選択したリハーサルマークに追加されます。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」のページでは、すべてのリハーサルマークにカスタムの先頭テキスト/末尾テキストを追加してプロジェクト全体に適用できます。

リハーサルマークのフォントスタイルの編集

リハーサルマークに使用されているフォントスタイルの形式設定を編集して、プロジェクト全体に適用できます。

手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択して、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開きます。
 2. 「**フォントスタイル (Font style)**」メニューから「**リハーサルマーク用フォント (Rehearsal Mark Font)**」を選択します。
 3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
 - **フォントファミリー (Font family)**
 - **サイズ (Size)**
 - **スタイル (Style)**
 - **下線 (Underlined)**
 4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

リハーサルマークのフォントスタイルの形式設定の変更がプロジェクト全体に適用されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

[浄書オプションでリハーサルマークの設定をプロジェクト全体に適用する \(1065 ページ\)](#)

マーカー

マーカーは時間上の特定の位置に紐づけられたラベルで、ほとんどの場合ビデオに関連して使用されます。これは通常、音楽的な盛り上がりが必要とされる重要な瞬間を示し、多くの場合は作曲者がこれに合わせて楽曲の形を整えるプロセスに使用されます。



タイムコードの譜表上でカスタムのテキストとタイムコードを表示するマーカー

初期設定では、Dorico Pro のマーカーにはデフォルトのテキストマーカーと、マーカーが紐づけられた時間上の位置のタイムコードが表示されます。

Dorico Pro では、どのプロジェクトでもマーカーが使用できます。ほとんどの場合ビデオと一緒に使用されるため、マーカーは記譜モードのビデオパネルに収められています。再生モードには「マーカー (Markers)」トラックもあり、マーカーの表示と新規マーカーの入力が行なえます。

マーカーはプロジェクトに最適なテンポの検出に使用できます。Dorico Pro は、複数の重要なマーカーがそれぞれ拍子の強拍に合うようにできるテンポを算出できます。

入力したマーカーはすべて MIDI の書き出し時に自動的にデータに含まれます。

関連リンク

[マーカー/タイムコードの入力 \(299 ページ\)](#)

[マーカーのテキストを編集する \(1075 ページ\)](#)

[ビデオパネルの「マーカー \(Markers\)」セクション \(300 ページ\)](#)

[マーカートラック \(545 ページ\)](#)

[「テンポを検出 \(Find Tempo\)」ダイアログ \(301 ページ\)](#)

[マーカーを重要なマーカーに指定する \(1077 ページ\)](#)

浄書オプションでマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「マーカー (Markers)」ページでは、マーカーのデザイン、位置および外観を制御し、プロジェクト全体に適用できます。

たとえば、マーカーにその位置のタイムコードを表示させるかどうか、マーカーをタイムコードの上下いずれに表示させるか、囲み線の太さ、マーカーのデフォルトの垂直位置などを変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

マーカーを表示/非表示にする

初期設定では、マーカーはフルスコアレイアウトに表示され、パートレイアウトでは非表示になっています。各レイアウトはマーカーの表示と非表示を個別に切り替えられます。これによりたとえば、マーカーが有用となる指揮者にはマーカーを表示し、プレーヤーには非表示とするなどできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、マーカーを表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**マーカーおよびタイムコード (Markers and Timecode)**」をクリックします。
4. 「**マーカーを表示 (Show markers)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトでマーカーが表示または非表示になります。

マーカーの垂直位置の変更

マーカーは組段の上または下に表示することも、個別の1線譜を使用して、大括弧でくくられた選択したインストゥルメントファミリーのグループの上に表示することもできます。こうすることで、スコア上のマーカーが見やすくなります。マーカーを個別の譜表に表示すると、タイムコードも自動的に個別の譜表の下に表示されます。

補足

1つの組段に複数のタイムコード譜表を表示することはできません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. マーカーの垂直位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**マーカーおよびタイムコード (Markers and Timecode)**」をクリックします。
4. 「**マーカー (Markers)**」サブセクションの「**垂直位置 (Vertical position)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **組段の上 (Above system)**
 - **組段の下 (Below system)**
 - **タイムコードの譜表 (Timecode staff)**
5. 「**タイムコードの譜表 (Timecode staff)**」を選択した場合は、必要に応じて「**タイムコードの譜表を大括弧の上に配置 (Position timecode staff above bracket)**」メニューから、タイムコードの譜表をその上に表示させる、大括弧で括られたインストゥルメントファミリーを選択します。

6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトで、マーカーの垂直位置が変更されます。

補足

- マーカーをタイムコードの譜表に表示させる場合、譜表にはデフォルトでタイムコードも表示されます。マーカーを個別の譜表に表示させつつタイムコードは不要である場合は、「タイムコード譜表におけるタイムコードの頻度 (Timecode frequency on timecode staff)」を「表示しない (Never)」に変更する必要があります。

タイムコードの譜表上ではなく、組段の開始位置の上または下に表示されるように、タイムコードの垂直位置を変更することもできます。

- 「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)」ページで、タイムコードの譜表と他の譜表とのデフォルト距離を変更できます。
-

手順終了後の項目

- タイムコードの譜表に表示するマーカーとタイムコードに使用されるフォントを編集できます。
- タイムコード譜表上のタイムコードの頻度を変更できます。

関連リンク

[タイムコードの表示頻度を変更する \(1082 ページ\)](#)

[タイムコードの垂直位置を変更する \(1080 ページ\)](#)

[マーカーのタイムコードを表示/非表示にする \(1081 ページ\)](#)

[マーカー/タイムコードのフォントスタイルの編集 \(1076 ページ\)](#)

マーカーのテキストを編集する

新規マーカーに表示されるデフォルトのテキストはマーカーです。各マーカーに表示されるテキストは個別に変更できます。

手順

1. テキストを変更するマーカーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「マーカー (Markers)」グループで、「マーカーのテキスト (Marker text)」をオンにします。
 3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
 4. **[Return]** を押します。
-

結果

選択したマーカーに表示されるテキストが変更されます。これは「マーカーテキスト用フォント (Marker Text Font)」のフォントスタイルを使用します。

ヒント

「マーカーを追加 (Add Marker)」ダイアログを使用してマーカーを入力する際にもカスタムテキストを入力できます。また、記譜モードのビデオパネルの「マーカー (Markers)」セクションでも、マーカーのテキストを変更できます。

関連リンク

[「マーカーを追加 \(Add Marker\)」ダイアログ \(300 ページ\)](#)

[ビデオパネルの「マーカー \(Markers\)」セクション \(300 ページ\)](#)

マーカー/タイムコードのフォントスタイルの編集

すべてのマーカーとタイムコードに使用するフォントスタイルの形式設定に関するプロジェクト全体の設定を編集できます。これによりたとえば、マーカーを太字のイタリックで表示したりできます。マーカーとタイムコードは異なるフォントを使用するため、それぞれ個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択して、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開きます。
2. 「**フォントスタイル (Font style)**」メニューから、以下のいずれかのフォントスタイルを選択します。
 - **マーカーテキスト用フォント (Marker Text Font)**: マーカーに使用します
 - **マーカーのタイムコード用フォント (Marker Timecode Font)**: マーカーに表示するタイムコードに使用します
 - **タイムコード用フォント (Timecode Font)**: タイムコードの譜表に表示するタイムコードに使用します
3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
 - **フォントファミリー (Font family)**
 - **サイズ (Size)**
 - **スタイル (Style)**
 - **下線 (Underlined)**
4. 必要に応じて、手順 2 と 3 を繰り返してもう一方のフォントも変更します。
5. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択したフォントスタイルの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

マーカーのタイムコードを変更する

たとえばビデオが編集されてマーカーの発生する位置が 10 秒遅れたような場合、マーカーのタイムコードを変更できます。

補足

これによりプロジェクトにおけるマーカーの発生位置が変わるため、楽譜に対するマーカーの位置も移動します。

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで「**ビデオ (Video)**」をクリックして、ビデオパネルを表示します。
 2. 「**マーカー (Markers)**」セクションで、変更するタイムコードをダブルクリックします。
 3. 入力フィールドに任意の新しいタイムコードを入力します。
 4. **[Return]** を押します。
-

結果

マーカーのタイムコードが変更されます。マーカーはこの新しい時間上の位置を反映して、自動的に楽譜に対する位置を移動します。

関連リンク

[ビデオパネルの「マーカー \(Markers\)」セクション \(300 ページ\)](#)

マーカーのリズム上の位置を変更する

マーカーをリズム上の異なる位置に移動できます。ただし、マーカーに紐づけられた時間上の位置は固定されているため、楽譜に対するマーカーの位置を移動すると、マーカーの前後のテンポが自動的に変更されます。

ヒント

マーカーの時間上の位置を変更して、たとえば 25 秒から 28 秒の位置に移動する場合は、マーカーのタイムコードを変更する必要があります。

手順

1. 記譜モードで、移動するマーカーを選択します。

補足

一度に移動できるマーカーは 1 つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従いマーカーを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - クリックして左右にドラッグします。

結果

選択したマーカーが異なる位置に移動します。ただし、マーカーに紐づけられた時間上の位置は変更されません。このため、演奏が正しい時間でマーカーの位置に到達するように、マーカーの直前のテンポが自動的に更新されます。たとえばマーカーを右に動かすと、その前にあるテンポが速くなります。

マーカーと、その前にあるテンポ変更またはフローの開始位置との間にある段階的テンポ変更は、すべて削除されます。

補足

テンポの変更は、フロー内のその他すべてのマーカーの楽譜に対する位置に影響を与えます。

関連リンク

[マーカー/タイムコードの入力 \(299 ページ\)](#)

マーカーを重要なマーカーに指定する

個々のマーカーを重要なマーカーに指定できます。これにより、「テンポを検出 (Find Tempo)」ダイアログで適切なテンポを検出する処理にそのマーカーを反映させられます。

手順

1. 記譜モードの記譜ツールボックスで「ビデオ (Video)」をクリックして、ビデオパネルを表示します。

2. 「マーカー (Markers)」セクションの「重要 (Imp.)」の列から、重要なマーカーに指定するマーカーのチェックボックスをオンにします。
-

結果

チェックボックスをオンにしたマーカーが重要なマーカーに指定されます。「マーカー (Markers)」セクションの下部にある「テンポを検出 (Find Tempo)」ボタンが利用できるようになります。

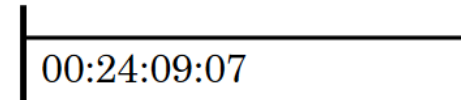
関連リンク

[「テンポを検出 \(Find Tempo\)」ダイアログ \(301 ページ\)](#)

タイムコード

タイムコードは通常ビデオとの関連において、時間上の正確な位置を示します。これを使用すると、音楽と動画など複数の要素間の正確な同期を行なえるようになり、基準ツールとしても使用できます。

タイムコードは hh:mm:ss:ff の形式で表示されます。これは時間、分、秒、フレームをそれぞれ 2 桁で表わすものです。



タイムコードの譜表に表示されるタイムコード

Dorico Pro では、タイムコードのタイプに以下のいずれかを指定できます。

ノンドロップフレームのタイムコード

すべてのフレームは前のフレームから順番に番号付けされ、フレーム番号のスキップはありません。

ノンドロップフレームのタイムコードには、末尾テキストとして「**fps**」が表示され、秒とフレームの区切り文字には、「00:00:01:05」のようにコロンが使用されます。

ドロップフレームのタイムコード

29.97fps と 30fps のフレームレートの差を埋め合わせるためにフレーム番号の一部がスキップされます。10 分ごとを除く毎分ごとに、フレームカウントからタイムコード番号が 2 つ飛ばされます。

ドロップフレームのタイムコードには、末尾テキストとして「**dfps**」が表示され、秒とフレームの区切り文字には、「00:00:01;05」のようにセミコロンが使用されます。

Dorico Pro においてタイムコードはフロー固有のものです。つまり、フローごとに他のフローとは完全に別個のタイムコードを設定できます。タイムコードは「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログで設定できます。これはビデオを使用しないフローにも行なえます。

補足

設定モードの「**フロー (Flows)**」パネルのフローカードに表示されるタイムコードは、フローの開始位置のタイムコードを反映します。これは「**ビデオのプロパティ (Video Properties)**」ダイアログで設定できるタイムコードにより変化します。たとえば、「**タイムコードの開始位置 (Timecode start)**」を **02:00:00:00** に設定しつつ、「**フローのアタッチメント位置 (Flow attachment position)**」を 4 分音符の 8 拍と設定して、テンポが 60bpm である場合、フローカードに表示されるタイムコードは「01:59:52:00」になります。



初期設定では、タイムコードはマーカーに表示されます。各組段の開始位置の上下またはタイムコード譜表 (ある場合) の下に、レイアウトごとに個別に追加のマーカーを表示できます。マーカーのタイムコードの表示/非表示を切り替えることもできます。

さらに、**トランスポート**ウィンドウに表示するタイムは、初期設定で表示される経過時間からタイムコードに変更できます。

関連リンク

[フレームレート \(154 ページ\)](#)

[「ビデオのプロパティ \(Video Properties\)」ダイアログ \(150 ページ\)](#)

[マーカー/タイムコードのフォントスタイルの編集 \(1076 ページ\)](#)

- [タイムコードの表示頻度を変更する \(1082 ページ\)](#)
- [トランスポートディスプレイに表示する内容の変更 \(567 ページ\)](#)
- [マーカー \(1073 ページ\)](#)
- [マーカーの垂直位置の変更 \(1074 ページ\)](#)
- [タイムコードの垂直位置を変更する \(1080 ページ\)](#)
- [マーカーのタイムコードを表示/非表示にする \(1081 ページ\)](#)

タイムコードの開始位置の値を変更する

プロジェクトのフローごとに開始位置のタイムコードを変更できます。たとえばフィルムのリールめに個別のプロジェクトを使用する場合などに、この機能を使用します。開始位置のタイムコードは、ビデオを使用しないプロジェクトでも変更できます。

手順

1. 記譜モードで、開始位置のタイムコードの値を変更するフローのアイテムを選択します。
2. 記譜ツールボックスで「ビデオ (Video)」をクリックして、ビデオパネルを表示します。



3. ビデオパネルで「プロパティ (Properties)」をクリックして、「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログを開きます。
4. 「ビデオのプロパティ (Video Properties)」ダイアログで、「タイムコードの開始位置 (Timecode start)」の値を変更します。
5. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

選択したアイテムが属するフローの開始位置のタイムコードが変更されます。

関連リンク

- [タイムコード \(1079 ページ\)](#)
- [ビデオの開始位置の変更 \(152 ページ\)](#)

タイムコードの垂直位置を変更する

タイムコードを組段の開始位置の上または下、あるいは個別の1線譜に表示できます。たとえば、マーカーや個別のタイムコード譜表を表示することなく、パートレイアウトの組段の開始位置の上にタイムコードを表示したい場合などに使用します。

補足

組段中の複数の譜表にタイムコードを表示させることはできません。

前提条件

タイムコードを個別の譜表に表示する場合は、個別の譜表に表示できるようマーカーの垂直位置を変更しておきます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. タイムコードの垂直位置を変更するレイアウトを「レイアウト (Layouts)」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイア

ウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。

3. ページリストの「**マーカおよびタイムコード (Markers and Timecode)**」をクリックします。
 4. 「**タイムコード (Timecode)**」サブセクションの「**タイムコードを表示 (Show timecode)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **組段の開始位置の上または下 (Above or below start of system)**
 - **タイムコード譜表の下 (Below timecode staff)**
 5. 「**組段の開始位置の上または下 (Above or below start of system)**」を選択した場合は、「**組段に対するタイムコードの位置 (Timecode position relative to system)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **組段の上 (Above system)**
 - **組段の下 (Below system)**
 6. 「**組段の開始位置の上または下 (Above or below start of system)**」を選択した場合は、「**組段の開始位置のオフセット (Offset at start of system)**」数値フィールドの値を変更してタイムコードと譜表の間隔を変更します。
 7. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトで、タイムコードの垂直位置が変更されます。

補足

タイムコードが組段の開始位置の上または下に表示されている場合は、「**タイムコード譜表におけるタイムコードの頻度 (Timecode frequency on timecode staff)**」の設定も適用されます。

関連リンク

[マーカの垂直位置の変更 \(1074 ページ\)](#)

マーカのタイムコードを表示/非表示にする

プロジェクト全体のすべてのマーカのタイムコードの表示/非表示、および表示位置のマーカテキストに対する上/下を切り替えられます。たとえば、重要なタイミングの正確な位置が分かりやすく表示されるようにできます。これはタイムコードを専用の譜表に表示するためのレイアウトごとの設定に対する追加の設定となります。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストから「**マーカ (Markers)**」をクリックします。
 3. 「**マーカのタイムコード (Timecode in markers)**」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **タイムコードを表示 (Show timecode)**
 - **タイムコードを非表示 (Do not show timecode)**
 4. 必要に応じて、「**タイムコードを表示する場合の情報の並び順 (Order of information, if timecode shown)**」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **タイムコードの上にテキスト (Text above timecode)**
 - **テキストの上にタイムコード (Timecode above text)**
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

関連リンク

[マーカー \(1073 ページ\)](#)

[タイムコードの垂直位置を変更する \(1080 ページ\)](#)

[マーカーの垂直位置の変更 \(1074 ページ\)](#)

タイムコードの表示頻度を変更する

タイムコードを専用の譜表に表示するレイアウトでは、タイムコードの異なる表示間隔を使用できません。たとえば、フルスコアレイアウトではタイムコードをすべての小節に表示しつつ、パートレイアウトでは組段の開始位置のみに表示する、といった設定ができます。

補足

長休符を使用するレイアウトでは、タイムコードをすべての小節に表示することはお勧めしません。タイムコードが重なり合って判読不能になってしまうためです。長休符を使用するパートレイアウトにタイムコードを表示する場合は、タイムコードの表示を組段の開始位置のみとするか、そのレイアウトで長休符の表示をやめることをお勧めします。

前提条件

選択したレイアウトにマーカーを表示しておきます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. タイムコードの表示頻度を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**マーカーおよびタイムコード (Markers and Timecode)**」をクリックします。
4. また、選択したレイアウトがタイムコードを専用の譜表に表示していない場合は、必要に応じて「**垂直位置 (Vertical position)**」を「**タイムコードの譜表 (Timecode staff)**」に設定します。
5. 「**タイムコード譜表におけるタイムコードの頻度 (Timecode frequency on timecode staff)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **組段の開始位置 (Start of system)**
 - **1 小節ごと (Every bar)**
 - **常に表示 (Never)**
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

関連リンク

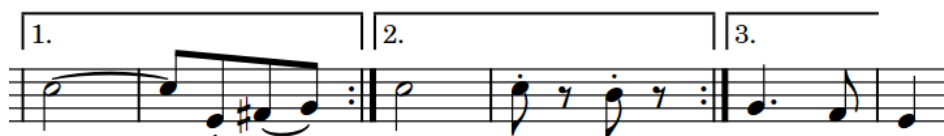
[マーカーを表示/非表示にする \(1074 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1127 ページ\)](#)

リピート括弧

パッセージを繰り返す楽譜において、リピート括弧は各繰り返しでどの小節が最後に演奏されるかを示します。必要な場合、毎回異なる終わり方にできます。これはボルタ線または1番括弧と2番括弧と呼ばれる場合もありますが、この説明書ではリピート括弧を名称として使用します。

リピート括弧は2つ以上のセグメントから構成され、それぞれのセグメントは異なる終わり方を表わします。リピート括弧を入力すると、Dorico Pro は1つめのセグメントの終わりに反復終了の小節線を自動的に入力します。リピート括弧のセグメントは、上部の実線と、そのセグメントが使用されるリピート回数を示す数字によって明示されます。



終わり方が3通りあるリピート括弧

Dorico Pro では、リピート括弧にはセグメントをいくつでも作成でき、どのセグメントを何回めのリピートに使用するか制御できます。たとえば、リピート括弧にセグメントを2つ作成して合計4回繰り返す場合、はじめの2回は1つめのリピート括弧のセグメントを、あとの2回は2つめのリピート括弧のセグメントを使用するように指定できます。

Dorico Pro では、リピート括弧は組段オブジェクトとして分類されます。そのため、リピート括弧はレイアウトごとの組段オブジェクトの表示設定および位置設定に従い、これは「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」のページで変更できます。

関連リンク

[リピートとトレモロの入力方法 \(303 ページ\)](#)

[リピート括弧のセグメントにリピート回数を振り分ける \(1084 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

[ライン \(1046 ページ\)](#)

リピート括弧でリピート回数の総数を変更する

初期設定では、リピート括弧のそれぞれのセグメントが演奏されるのは1回ずつであり、それぞれのセグメントにはそれが演奏されるリピート回数を示す番号が1つずつ表示されます。リピート括弧のリピート回数の総数を増やすことにより、セグメントを2回以上演奏させられるようになります。

手順

1. リピートの総数を変更するリピート括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」グループで、「**リピート回数 (No. times played)**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

補足

セグメント数より少ないリピート回数は設定できません。

結果

選択したリピート括弧のリピート回数の総数が変更されます。Dorico Pro の初期設定では、リピート括弧の最後に閉じられたセグメントには、まだ特定のセグメントに割り当てられていないリピート回数が付与されます。

手順終了後の項目

リピート回数の総数を決定すると、それぞれのリピート回数にどのセグメントを使用するかを変更できます。

関連リンク

[再生時の反復 \(556 ページ\)](#)

リピート括弧のセグメントにリピート回数を振り分ける

リピートの総数をそれぞれのセグメントにどのように振り分けるか、個々のリピート括弧ごとに制御できます。

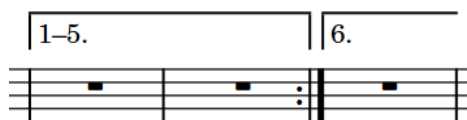
手順

1. 浄書モードで、演奏されるリピート回数を変更するセグメントをリピート括弧の中から個別に選択します。
2. プロパティパネルの「リピート括弧 (Repeat Endings)」のグループで、「リピート括弧のリピート回数 (Times played for segment)」をオンにします。
3. 選択したセグメントを演奏するリピート回数の各番号を入力します。
たとえば、全部で6回繰り返すリピート括弧の2つめのセグメントに対し、「4,5,6」を入力すると、繰り返しの4、5、6回めで演奏されるようになります。

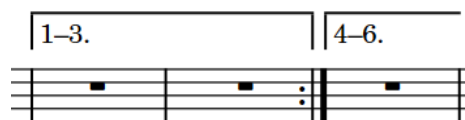
結果

選択したセグメントが演奏されるリピート回数を変更されます。

例



デフォルトのリピート回数の振り分け



カスタムのリピート回数の振り分け

浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「リピート括弧 (Repeat Endings)」ページでは、リピート括弧のセグメントのデザイン、位置および外観を制御し、プロジェクト全体に適用できます。

「リピート括弧 (Repeat Endings)」ページのオプションを使用すると、リピート括弧の終端、数字とフックの外観、およびリピート括弧のデフォルト位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク
[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

リピート括弧のセグメントの長さの変更

リピート括弧のセグメントの長さを個別に変更することにより、各セグメントに含まれる小節数を変更できます。

手順

1. 記譜モードで長さを変更するリピート括弧を選択します。

補足

1度に長さを変更できるリピート括弧のセグメントは1つだけです。

2. 長さを変更するセグメントの終端の丸いハンドルを選択します。



真ん中のハンドルが選択され、太い線で表示されています。

3. ハンドルをクリックして左右にドラッグし、前後の小節線にスナップさせます。

補足

セグメントには最低1小節が必要です。

4. 必要に応じて、リピート括弧のそれぞれのセグメントに手順1から3を繰り返します。

結果

選択したセグメントの長さを変更されます。

補足

- これにより反復記号が自動的に入力または位置を変更されることはありません。反復記号は必要に応じて手動で入力する必要があります。
- 1つのリピート括弧の最終セグメントの長さは、以下のキーボードショートカットを使用しても変更できます。
 - **[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押すと、最終セグメントが長くなります。
 - **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押すと最終セグメントが短くなります。

関連リンク
[リピート括弧の表示位置の移動 \(1087 ページ\)](#)

リピート括弧の位置

リピート括弧は譜表の上の、他の組段オブジェクトと同じ位置に配置され、フックは小節線に整列します。リピート括弧は通常他の記譜記号の外側に配置されますが、段階的なテンポ変更など、表示が長い一部のアイテムについては、リピート括弧より上に配置される場合もあります。

リピート括弧の位置は個別にも、プロジェクト全体のデフォルトによっても変更できます。たとえば、特定のリピート括弧の位置の音符や記譜記号に多くの垂直スペースが必要な場合、個々のリピート括弧についてデフォルト位置を上書きできます。

リピート括弧のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。

浄書モードでは、リピート括弧の個々のセグメントの表示位置を他のセグメントとは別個に移動できますが、これによってそれぞれのリズム上の位置が変更されることはありません。

すべてのリピート括弧のデフォルトの外観と位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」ページで変更できます。

Dorico Pro では、リピート括弧は組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントのファミリーの最初の大括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。これによりたとえば、フルスコアのみ各組段の上に複数のリピート括弧を表示させることなどができます。

関連リンク

[浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する \(1084 ページ\)](#)

[リピート括弧の表示位置の移動 \(1087 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

リピート括弧の位置の変更

リピート括弧は入力後に別の位置へ移動して、異なる小節に適用できます。

手順

1. 記譜モードで、位置を変更するリピート括弧を選択します。

補足

一度に移動できるリピート括弧は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、リピート括弧を前後の小節に移動させます。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - クリックして左右にドラッグします。

結果

選択したリピート括弧が次または前の小節に移動します。

補足

- これにより反復記号が自動的に入力または位置を変更されることはありません。反復記号は必要に応じて手動で入力する必要があります。
- リピート括弧はそれぞれの位置に1つしか存在できません。選択したリピート括弧を移動する際にどこか一部がもう1つのリピート括弧に重なった場合、もう1つのリピート括弧は削除されます。ただし、その反復記号は削除されません。

この動作は元に戻せますが、移動中に削除されたリピート括弧については、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

リピート括弧の表示位置の移動

リピート括弧は、そのリズム上の位置に影響なく表示位置を移動できます。リピート括弧のセグメントの開始位置と終了位置は別個に移動できるため、表示上の長さも変更できます。

浄書モードでは、リピート括弧の各セグメントにはそれぞれ開始位置と終了位置の2か所に四角いハンドルがあります。

リピート括弧のセグメントが組段区切りおよびフレーム区切りをまたぐ場合は、区切りの両側のリピート括弧のセグメントの分割された部分をそれぞれ個別に移動できます。



手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- リピート括弧のセグメント
- リピート括弧のセグメントの個々のハンドル

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、リピート括弧のセグメントまたはハンドルを移動させます。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したリピート括弧のセグメントまたはハンドルの表示位置が移動します。

ヒント

リピート括弧のセグメントの位置を移動すると、プロパティパネルの「リピート括弧 (Repeat Endings)」のグループにある以下の対応するプロパティが自動的にオンになります。

- 「開始 X オフセット (Start X offset)」: リピート括弧のセグメントの開始ハンドルを水平に移動します。
- 「終了 X オフセット (End X offset)」: リピート括弧のセグメントの終了ハンドルを水平に移動します。
- 「Y オフセット (Y offset)」: リピート括弧のセグメント全体を垂直に移動します。

たとえば、リピート括弧のセグメント全体を右に移動させると両側のハンドルが移動するため、「開始 X オフセット (Start X offset)」と「終了 X オフセット (End X offset)」の両方がオンになります。3つすべてのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでも、リピート括弧の表示位置および長さを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したリピート括弧のセグメントがデフォルト位置にリセットされます。

関連リンク

[リピート括弧の位置の変更 \(1086 ページ\)](#)

[リピート括弧のセグメントの長さの変更 \(1085 ページ\)](#)

リピート括弧のテキストの編集

リピート括弧のセグメントに表示されるテキストは、個別にカスタムのテキストに置き換えられます。初期設定では、これにはセグメントが演奏されるリピート回数が表示されます。

手順

1. 浄書モードで、テキストを変更するリピート括弧のセグメントを選択します。
 2. プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」のグループで、「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオンにします。
 3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
 4. **[Return]** を押します。
-

結果

選択したセグメントに表示されるテキストが変更されます。

「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオフにすると、選択されたリピート括弧のセグメントのデフォルトのテキストを復元します。

補足

プロパティをオフにすると、入力したカスタムテキストは完全に削除されます。

リピート括弧の最終セグメントの外観を個別に変更する

リピート括弧の最終セグメントの終端の外観は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 最終セグメントの外観を変更するリピート括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

浄書モードでは、リピート括弧内のセグメントをどれでも選択できます。

2. プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」グループで、「**リピート括弧の終端 (End of line)**」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **閉じずに短く (Open, short)**
 - **閉じずに小節いっぱいの長さ (Open, full length)**
 - **閉じる (Closed)**
-

結果

選択したリピート括弧の最終セグメントの終端が変更されます。

ヒント

すべてのリピート括弧の最終セグメントの外観に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」のページにある「**リピート括弧 (Segments)**」のセクションで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する \(1084 ページ\)](#)

リピート括弧のフックの長さを変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、リピート括弧のフックの長さを変更できます。

補足

リピート括弧の個々のセグメントでは、フックの長さを個別に変更できません。フックの長さの変更はリピート括弧全体に影響します。

手順

1. 浄書モードで、長さを変更するリピート括弧のフックを選択します。
 2. プロパティパネルの「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」グループで、「**フックの長さ (Hook length)**」をオンにします。
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

数値を大きくするとリピート括弧のフックが長くなります。数値を小さくするとリピート括弧のフックが短くなります。

ヒント

すべてのリピート括弧のフックのデフォルトの長さに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピート括弧 (Repeat Endings)**」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する \(1084 ページ\)](#)

MusicXML ファイルのリピート括弧

リピート括弧のすべての設定は MusicXML ファイル形式で読み込みと書き出しを行なえます。

ただし、MusicXML ではリピート括弧の最終セグメントではないセグメントであっても括弧の終端を閉じずに表示できますが、Dorico Pro ではこれを表示できません。

リピートマーカー

リピートマーカーは音符や記譜記号の繰り返しを示すものですが、リピート括弧とは異なり、多くは楽譜の並びに従って進行せず、異なる位置やセクションにジャンプします。

The image shows two examples of musical notation. The left example shows two staves with repeat signs (double bar lines with dots) and lyrics: '2. Und im - mer' and '3. Es quoll und'. The right example shows a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line has a Coda symbol (a circle with a cross) above it and the lyrics 'nun wußt' ich wohl'. The piano accompaniment also has a Coda symbol above it.

Dorico Pro では、リピートマーカーは以下のタイプに分類されます。

ジャンプ記号

ここからプレーヤーや再生がジャンプすることを指示するもので、D.C. al Coda などがあります。second time only などの指示により、ジャンプ記号が効果を発揮する条件の限定も行なえます。

ジャンプ記号は、そのリズム上の位置に右揃えで配置されます。つまり、テキストや記号は、終端がリズム上の位置に揃えられ、そこから左に向かって配置されます。

D.C. al Coda

D.S. al Fine

リピートセクション

ジャンプ先を指定するセーニョやコーダ、または楽曲の終わりを指定するフィーネなどがあります。Dorico Pro では、組段の途中で始まるコーダセクションは、先行する楽譜と間隔によって自動的に区切られます。

リピートマーカーは、そのリズム上の位置に左揃えで配置されます。つまり、テキストや記号は、始端がリズム上の位置に揃えられ、そこから右に向かって配置されます。



Fine

初期設定では、リピートマーカーは1行で表示されますが、必要に応じて個別に表示を2行に変更して、水平方向の長さを節約できます。またリピートマーカーは、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログでフォントサイズを変更するなどパラグラフスタイルをカスタマイズしたり、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」ページで外観をカスタマイズしたりできます。

関連リンク

[リピートとトレモロの入力方法 \(303 ページ\)](#)

[リピートマーカーを1行または2行で表示する \(1094 ページ\)](#)

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

[再生時の反復 \(556 ページ\)](#)

浄書オプションでリピートマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「リピートマーカー (Repeat Markers)」ページでは、リピートマーカーのデザイン、位置および外観を制御し、プロジェクト全体に適用できます。

「リピートマーカー (Repeat Markers)」ページのオプションを使用すると、リピートマーカーの外観、デザインおよび長さ、組段の途中で開始するコーダセクションの前のデフォルトの間隔、およびそれぞれのデフォルト位置を変更できます。またリピートマーカーの記号とテキストの順番、テキストに対する記号の縮尺、およびリピートマーカーのテキストの大文字/小文字も変更できます。

「リピートマーカーのプリセット (Repeat Markers Preset)」セクションでは、外観のプリセットとして以下のものが用意されています。

- **標準 (Standard):** 現在出版されているロック/ポップスの譜面における最も一般的な表記規則に基づくもので、より短く省略された指示を用います。
- **グールド (Gould):** Elaine Gould 氏の著書『Behind Bars』における推奨事項に基づくもので、より長く明確な指示を用いるため、クラシックやコンサート音楽に最適です。

補足

また Gould 氏は、リピートマーカーを譜表の上ではなく下に配置することを推奨しています。

- **カスタム (Custom):** ユーザーの好みに合わせて設定を混在させられます。個々のオプションを変更して外観のプリセットを上書きした時点で、このプリセットが自動的に選択されます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[譜表に対するリピートマーカーの位置の変更 \(1096 ページ\)](#)

リピートマーカーのパラグラフスタイル

リピートマーカーはサイズ、スペーシング、配置、その他形式設定オプションなどのフォントの形式設定にパラグラフスタイルを使用します。リピートマーカーは異なるタイプごとに異なる形式設定を必要とするため、初期設定でそれぞれ個別のパラグラフスタイルを持ちます。

Dorico Pro には、リピートマーカーに関する以下のデフォルトのパラグラフスタイルがあります。

- **リピートマーカージャンプ (Repeat Marker Jumps):** D.C. al Coda など、ジャンプ記号に使用されるデフォルトのパラグラフスタイルです。
- **リピートマーカーセクション (Repeat Marker Sections):** a coda など、リピートセクションに使用されるデフォルトのパラグラフスタイルです。

初期設定ではこれらのパラグラフスタイルの形式設定は同じですが、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログでそれぞれ個別に編集できます。たとえば、ジャンプ記号のサイズを小さくしつつ、リピートセクションはデフォルトのサイズのままにすることなどができます。

補足

「**リピートマーカージャンプ (Repeat Marker Jumps)**」のパラグラフスタイルは、「**リピートマーカーセクション (Repeat Marker Sections)**」のスタイルから設定を継承します。「**リピートマーカーセクション (Repeat Marker Sections)**」のパラグラフスタイルを変更すると、「**リピートマーカージャンプ (Repeat Marker Jumps)**」のパラグラフスタイルの対応するオプションも、上書きされていない限り同様に変更されます。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

[リピートマーカーのテキストの編集 \(1093 ページ\)](#)

[リピートマーカーを 1 行または 2 行で表示する \(1094 ページ\)](#)

コーダ/セーニョ記号のサイズの変更

コーダ記号とセーニョ記号のデフォルトのサイズを、プロジェクト全体でそれぞれ別個に変更できます。これはリピートマーカーのテキストのサイズに影響しません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」をクリックします。
3. 「**デザイン (Design)**」セクションで、「**コーダ記号の倍率 (Scale factor for coda symbols)**」の値を変更します。
4. 「**セーニョ記号の倍率 (Scale factor for segno symbols)**」の値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

リピートマーカーのテキストに対するコーダ記号とセーニョ記号のサイズがプロジェクト全体で変更されます。

リピートマーカーのインデックスの変更

個々のリピートマーカーのインデックスは変更できます。たとえばフローに 2 つの異なるコーダが使用され、プレーヤーがそれぞれを区別できるようにする必要がある場合などに、この機能を使用します。

初期設定では、たとえフロー中に複数のリピートマーカーがあったとしても、同じタイプのリピートマーカーはすべて同じ外観を持ちます。

補足

リピートマーカーの Fine または D.C. については、インデックスを変更できません。

手順

1. インデックスを変更するリピートマーカーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」セクションで、選択に応じて以下のプロパティを片方または両方オンにします。
 - **マーカーインデックス (Marker index)**
 - **ジャンプ先のインデックス ('Jump to' index)**
3. 数値フィールドの値を変更します。

補足

入力できる数値は 1 から 3 までです。

結果

「**マーカーインデックス (Marker index)**」は、選択したリピートマーカーの、他の同じタイプのリピートマーカーに対する順番を変更します。

「ジャンプ先のインデックス ('Jump to' index)」は、選択したリピートマーカーのジャンプ先を変更します。

ヒント

複数のリピートマーカーのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」>「浄書オプション (Engraving Options)」の「リピートマーカー (Repeat Markers)」ページにある「リピートセクション (Repeat Sections)」セクションで設定を行います。

例

フロー中に2つのコーダと2つの異なる D.S. al Coda がある場合、1つめのコーダの「マーカーインデックス (Marker index)」には **1** を、2つめには **2** を設定して、1つめの D.S. al Coda の「ジャンプ先のインデックス ('Jump to' index)」には **1** を、2つめには **2** を設定することなどが考えられます。

D.S. % al \oplus

デフォルトのインデックス設定の D.S. al Coda のマーカー

D.S. %% al \oplus 2

両方のインデックスが2に設定された D.S. al Coda のマーカー

関連リンク

[浄書オプションでリピートマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1091 ページ\)](#)

リピートマーカーのテキストの編集

個々のリピートマーカーに表示されるテキストを変更できます。これによりたとえば、通常とは異なるリピートマーカーの指示を記譜できます。

手順

1. テキストを変更するリピートマーカーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「リピートマーカー (Repeat Markers)」グループで、「カスタムテキスト (Custom text)」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

結果

選択したリピートマーカーに表示されるテキストが変更されます。選択したリピートマーカーのテキストのみが変更され、記号は削除されません。

関連リンク

[浄書オプションでリピートマーカーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1091 ページ\)](#)

リピートマーカーを1行または2行で表示する

リピートマーカーの表示を1行とするか2行に分けるかは、レイアウトごとの設定より優先される形で個別に変更できます。これはたとえば、あるパートレイアウトで1つの長いリピートマーカーがページ余白からはみ出してしまうような場合に使用できます。

補足

ワードラップの設定を変更できるのは、D.C. al FineやD.S. al Codaなどのジャンプ記号で、カスタムテキストを使用していないものだけです。

手順

1. 浄書モードで、ワードラップを変更するリピートマーカーを選択します。
2. プロパティパネルの「リピートマーカー (Repeat Markers)」グループで、「ワードラップ (Word wrap)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

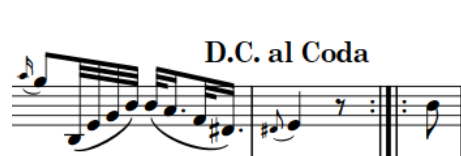
チェックボックスがオンのときは選択したリピートマーカーが2行で表示され、オフのときは1行で表示されます。

プロパティをオフにすると、リピートマーカーはワードラップに関してはレイアウトごとの設定に従います。

ヒント

すべてのリピートマーカーを2行で表示するかどうかについては、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「譜表と組段 (Staves and Systems)」ページの「リピートマーカー (Repeat Markers)」セクションで、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえばフルスコアでは1行で表示させ、パートレイアウトでは2行で表示させるなどができます。

例



ワードラップなしのリピートマーカー



ワードラップありのリピートマーカー

関連リンク

[「レイアウトオプション」ダイアログ \(106 ページ\)](#)

コーダの前に表示される小節線の変更

コーダの前、ジャンプ記号の直後に表示される小節線のデフォルトをプロジェクト全体で変更できます。たとえば、通常の小節線のかわりに複縦線を表示できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. ページリストの「小節線 (Barlines)」をクリックします。

3. 「反復 (Repeats)」セクションの「コーダの前のジャンプ記号と一致する小節線 (Barline coinciding with repeat jump before Coda)」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 複縦線 (Double barline)
 - 縦線 (Single barline)
 4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

コーダの前、ジャンプ記号の直後に自動的に表示される小節線がプロジェクト全体で変更されます。

リピートマーカーの位置

初期設定では、リピートマーカーは譜表の上の、他の組段オブジェクトと同じ位置に配置されます。コーダセクションは、その前の楽譜とは組段の間隔によって区切られます。

リピートマーカーのリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これは初期設定では、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定した位置に配置されます。

リピートマーカーの表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。コーダの前に発生する組段の途中の間隔は、浄書モードでその位置の音符のスペーシングを変更することで個別に調節できます。

すべてのリピートマーカーのプロジェクト全体のデフォルト位置の変更、リピートマーカーと譜表や他のアイテムとの最小距離の値の設定、およびコーダセクションの前にある間隔に対するデフォルトの設定は、「**浄書 (Engrave)**」>「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」のページで行なえます。Dorico Pro では、組段の途中でも新しい組段の開始位置であっても、コーダの開始位置の前には同じ幅の間隔が使用されます。

リピートマーカーの譜表に対するデフォルトの位置は、「**設定 (Setup)**」>「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページにある「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」セクションで、レイアウトごとに個別に変更できます。

Dorico Pro では、リピートマーカーは組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントのファミリーの最初の大括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえばこれにより、フルスコアの各組段の上に複数のリピートマーカーを表示させることなどができます。

関連リンク

[浄書オプションでリピート括弧の設定をプロジェクト全体に適用する \(1084 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(435 ページ\)](#)

[譜表に対するリピートマーカーの位置の変更 \(1096 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

リピートマーカーのリズム上の位置の移動

リピートマーカーは入力後に位置を移動できます。

手順

1. 記譜モードで、表示位置を変更するリピートマーカーを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に位置を移動できるリピートマーカーは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従い、選択したリピートマーカーを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。

- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - リピートマーカーをクリックして、任意の水平位置にドラッグします。
-

結果

選択したリピートマーカーが新しい位置に移動します。

リピートマーカーの表示位置の移動

リピートマーカーは、リズム上の位置を変えずに表示位置を移動できます。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更するリピートマーカーを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、リピートマーカーを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。
-

結果

選択したリピートマーカーの表示位置が変更されます。

ヒント

リピートマーカーを移動すると、プロパティパネルの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」グループにある「**開始オフセット (Start offset)**」が自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」の「**X**」の値を変更すると、リピートマーカーの水平位置が変更されます。
- 「**開始オフセット (Start offset)**」の「**Y**」の値を変更すると、リピートマーカーの垂直位置が変更されます。

このプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更してリピートマーカーを移動させることもできます。

プロパティをオフにすると、選択したリピートマーカーがデフォルトの位置にリセットされます。

関連リンク

[リピートマーカーの位置](#) (1095 ページ)

譜表に対するリピートマーカーの位置の変更

リピートマーカーは譜表の上、下、または上下両方に表示でき、これはレイアウトごとに個別に設定できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。

2. リピートマーカーの譜表に対する位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」セクションの「**ジャンプ記号および「Fine」のデフォルト位置 (Default placement for repeat jumps and 'Fine')**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 譜表の上 (Above Staff)
 - 譜表の下 (Below Staff)
 - 譜表の上と一番下の譜表の下 (Above and below bottom staff)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトで、譜表に対するすべてのリピートマーカーの位置が変更されます。

ジャンプ記号でジャンプした後の繰り返しを再生に含める/除外する

初期設定では、Dorico Pro はすべてのタイプの反復記号のすべてのリピート回を再生します。ジャンプ記号でジャンプした後のリピートマーカー、リピート括弧、およびリピート小節線によって指示されるリピートを再生に含めるか除外するかを、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に手動で設定できます。

補足

D.C. al Fine や D.S. al Coda などのジャンプ記号でジャンプした後のリピートのみ、再生に含めるか除外するかを選択できます。

手順

1. そのあとのリピートを再生に含めるまたは除外するジャンプ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**リピートマーカー (Repeat Markers)**」グループで、「**繰り返し時にリピートを再生 (Replay repeats)**」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

チェックボックスがオンのときは、選択したジャンプ記号でジャンプした後のリピートが再生に含められ、オフのときは再生から除外されます。

プロパティがオフのときは、ジャンプ記号でジャンプした後のリピートマーカーが再生に含められるかどうかは、プロジェクト全体の設定に従います。

ヒント

すべてのジャンプ記号についてジャンプした後のリピートを再生に含めるか除外するかはプロジェクト全体の設定は、「**再生 (Play)**」 > 「**再生オプション (Playback Options)**」の「**リピート (Repeats)**」ページで変更できます。

関連リンク
[「再生オプション」ダイアログ \(509 ページ\)](#)

リピート小節線による演奏回数の変更

反復終了線は通常、その前の楽譜を 2 回演奏することを指示します。反復終了線の演奏回数はそれぞれ個別に変更できます。

手順

1. 演奏回数を変更する反復終了線を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「Play n times」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

補足

最小値は「2」です。

結果

選択した反復終了線の前の楽譜の演奏回数を変更されます。演奏回数が「3」以上に設定されると、組段オブジェクトの位置にこれを示すマーカーが表示されます。

例



演奏回数がデフォルトの 2 回に設定されているリピート終止線



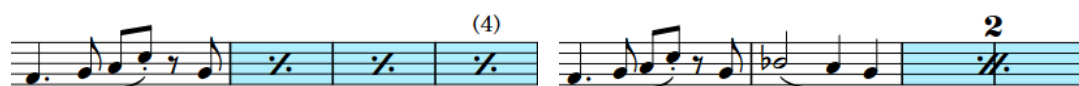
演奏回数が 4 回に設定され、マーカーが表示されているリピート終止線

関連リンク
[ジャンプ記号でジャンプした後の繰り返しを再生に含める/除外する \(1097 ページ\)](#)
[リピート括弧でリピート回数の総数を変更する \(1083 ページ\)](#)
[再生時の反復 \(556 ページ\)](#)

小節リピート記号

小節リピート記号は、同じ内容の記譜を省略し、前の小節の音符や記譜記号を正確に繰り返すことを指示するものです。小節リピート記号は1小節、2小節、または4小節の集合で構成されます。

たとえば、1小節リピート記号は1小節内の音符や記譜記号の繰り返しを示し、領域内のすべての小節がそれぞれ同じ内容を繰り返すことを意味します。4小節リピート記号はその前の4小節に含まれる音符や記譜記号の繰り返しを示します。



1小節リピート領域

2小節リピート領域



4小節リピート領域

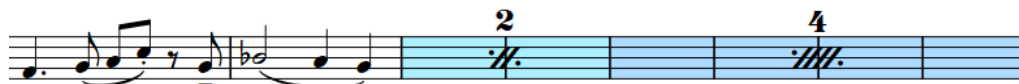
この省略表現の記譜は繰り返しの多い楽譜を読みやすくします。演奏者は繰り返しのフレーズを1度読むだけでよく、あとは単に何回繰り返すか数えれば済みます。小節リピート記号は、通常、同等の内容の完全に記譜された小節より幅が狭くなるため、水平方向のスペースの節約にもなります。

Dorico Pro では、小節リピート記号の表示には小節リピート領域が使用されます。つまり、領域を埋めるために必要な数の小節リピート記号が自動的に表示されます。

記譜モードでは、それぞれの領域の開始位置と終了位置にハンドルがあり、これを使用して領域の移動や長さの変更が行なえます。

初期設定では、小節リピート領域は色付きの背景で強調表示されています。ズームアウトすると、強調表示の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで見るとき特に便利です。このような強調表示は注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。また画面上の表示/非表示も切り替えられます。

また、小節リピート領域は隣り合わせても使用できます。たとえば2小節リピート記号を最初のフレーズの繰り返しの使用し、次に4小節リピート記号でこの全体のフレーズを繰り返すことを指示できます。2つの異なる小節リピート領域が隣り合う場合、個々の領域が識別できるように、それぞれ異なる強調色で表示されます。



2つの小節リピート領域が隣り合うフレーズ

関連リンク

[小節リピート記号の入力 \(314 ページ\)](#)

[リピートのポップオーバー \(303 ページ\)](#)

[小節リピート記号のカウント \(1102 ページ\)](#)

[小節リピート記号のグループ化 \(1107 ページ\)](#)

[小節リピート領域の強調表示を表示/非表示にする \(1102 ページ\)](#)

[小節リピート領域を移動する \(1101 ページ\)](#)

[小節リピート領域の長さを変更する \(1101 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1127 ページ\)](#)

[注釈 \(621 ページ\)](#)

浄書オプションで小節リピート記号の設定をプロジェクト全体に適用する

小節リピート記号のプロジェクト全体のデザインおよび外観を制御するオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」ページにあります。

「**小節リピート記号 (Bar Repeats)**」ページのオプションでは、小節リピート記号のカウンターの表示頻度、小節リピート記号のカウンターの外観、それから4小節のフレーズが1小節と3小節のリピート記号で構成されるときに小節リピート記号をグループ化する方法について変更できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

小節リピート領域の繰り返されるフレーズの長さを変更する

小節リピート記号は、繰り返されるフレーズを構成する小節数を入力後個別に変更できます。たとえば、その前の4小節を繰り返す領域を、その前の2小節を繰り返す領域に変更できます。

補足

小節リピート領域より前に存在する小節数より大きい小節数は繰り返しに設定できません。たとえば、フローの1小節めが記譜されたそのあとに小節リピート領域が続く場合、繰り返されるフレーズの小節数は大きくできません。

手順

1. フレーズの長さを変更する小節リピート領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)**」グループで、「**小節数 (No. bars)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **1 小節 (One bar)**
 - **2 小節 (Two bars)**
 - **4 小節 (Four bars)**

結果

選択した小節リピート領域において繰り返されるフレーズを構成する小節数を変更されます。これは再生にも反映されます。

ヒント

- 小節リピート領域に追加したすべての強弱記号は、繰り返される楽譜の演奏に影響します。
- リピートのポップオーバーを開いて入力内容を変更することで、繰り返されるフレーズの長さを変更することもできます。

関連リンク

[小節リピート記号のグループ化 \(1107 ページ\)](#)

[小節リピート記号の入力 \(314 ページ\)](#)
[リピートのポップオーバー \(303 ページ\)](#)
[既存のアイテムの変更 \(332 ページ\)](#)

小節リピート領域を移動する

小節リピート領域は入力後に別の位置へ移動できます。

手順

1. 記譜モードで移動させる小節リピート領域を選択します。

補足

1 度に移動できる小節リピート領域は 1 つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、小節リピート領域を別の小節に移動させます。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - クリックして左右にドラッグします。

結果

選択した小節リピート領域が左右の小節に移動します。

キーボードを使用して小節リピート領域を移動する場合、右に移動するときは繰り返しの小節数のデュレーションが使用されます。たとえば 2 小節リピート記号は右に 2 小節移動します。一方で、左に移動する場合は、繰り返しの小節数にかかわらず、常に 1 小節左に移動します。

マウスを使用して小節リピート領域を移動する場合、領域は常に前後の隣接する小節に移動します。

補足

小節リピート領域はそれぞれの位置に 1 つしか存在できません。選択した小節リピート領域の長さを変更して、他の小節リピート領域の部分に重ねた場合、他の小節リピート領域はそれに合わせて短縮されます。場合によって、他の小節リピート領域のグループ化が変更されたり、完全に削除されたりすることがあります。

この動作は元に戻せます。影響された他の小節リピート領域の長さは復元されます。

小節リピート領域の長さを変更する

小節リピート領域は入力後に長さを変更できます。

手順

1. 記譜モードで長さを変更する小節リピート領域を選択します。

補足

1 度に長さを変更できる小節リピート領域は 1 つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、小節リピート領域の長さを変更します。
 - グループ化のデュレーションを長くするには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - グループ化のデュレーションを短くするには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。

- 開始位置または終了位置のハンドルをクリックして、次または前の小節までドラッグします。

結果

選択した小節リピート領域の長さが変更されます。

補足

- 小節リピート領域の長さの最小値は1小節です。繰り返しの小節数が4小節などで、短縮された領域がそれより短いとき、領域の長さは半分になり、最終的に1小節のリピート領域になります。
- 小節リピート領域はそれぞれの位置に1つしか存在できません。選択した小節リピート領域の長さを変更して、他の小節リピート領域の部分に重ねた場合、他の小節リピート領域はそれに合わせて短縮されます。場合によって、他の小節リピート領域のグループ化が変更されたり、完全に削除されたりすることがあります。

この動作は元に戻せます。影響されたすべての小節リピート領域の長さは復元されます。

関連リンク

[小節リピート記号 \(1099 ページ\)](#)

[小節リピート記号のグループ化 \(1107 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1127 ページ\)](#)

小節リピート領域の強調表示を表示/非表示にする

小節リピート領域の背景色による強調表示はいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば記譜中は強調表示をオンにして、浄書中はオフにするといったことができます。

手順

- 「ビュー (View)」 > 「小節リピート領域を強調 (Highlight Bar Repeat Regions)」を選択します。

結果

メニューの「小節リピート領域を強調 (Highlight Bar Repeat Regions)」の横にチェックマークがあるときは小節リピート領域が強調表示され、チェックマークがないときは非表示となります。

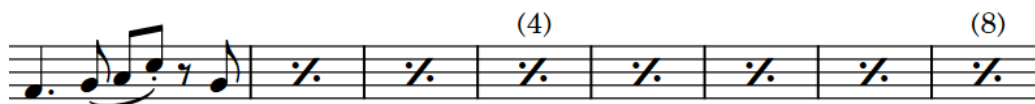
小節リピート記号のカウント

小節リピート記号のカウントは、小節リピート記号の上または下に一定間隔で表示される数字で、いくつの小節が過ぎたかプレイヤーが把握することを助けます。上記の間隔は通常、4小節ごとや8小節ごとなど、一般的な音楽フレーズの長さに基づくものです。

補足

小節リピート記号のカウントが表示されるのは、1小節リピート領域だけです。

小節リピート記号は必ず1小節以上の完全な形で記譜されたフレーズから始まるため、小節リピート記号のカウントは、小節リピート領域の最初の小節ではなく、直前の記譜された小節を1小節めとして開始されます。たとえば、小節リピート領域の3小節めにはカウント番号「4」が表示されます。これは、オリジナルの記譜された小節が演奏されるのが4回めであるためです。小節リピート領域には、それぞれ独立したカウントが表示されます。



4小節ごとにカウンントを表示する小節リピート領域

Dorico Pro では、小節リピート領域それぞれの開始カウンント、小節リピート記号のカウンントの表示頻度、括弧のあり/なしを変更でき、また小節リピート記号のカウンントに使用するフォントスタイルをカスタマイズできます。

補足

「**小節リピート記号のカウンント (Bar Repeat Count)**」のフォントスタイルは、スラッシュ領域のカウンントの外観にも影響します。

関連リンク

- [小節リピート記号のカウンントの外観を変更する \(1105 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のカウンントの表示頻度を変更する \(1104 ページ\)](#)
- [小節リピート記号のカウンントのフォントスタイルを編集する \(1105 ページ\)](#)
- [リピートのポップオーバー \(303 ページ\)](#)
- [小節リピート記号の入力 \(314 ページ\)](#)
- [長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(661 ページ\)](#)

小節リピート記号の開始カウンントを変更する

個々の小節リピート記号について、カウンントを開始する数字を変更できます。たとえば、組段の開始位置に来るたびに繰り返しのフレーズを記譜しなおしつつ、カウンントはリピート全体で連続したものにできます。

補足

- カウンントは小節リピートの1小節め、つまり記譜された小節を起点とします。たとえば、3小節続く1小節リピート領域の開始カウンントを5に設定し、カウンントの表示が4小節ごとの場合、小節リピート領域の最後の小節に「8」のカウンントが表示されます。
- 小節リピート記号のカウンントが表示されるのは、1小節リピート領域だけです。

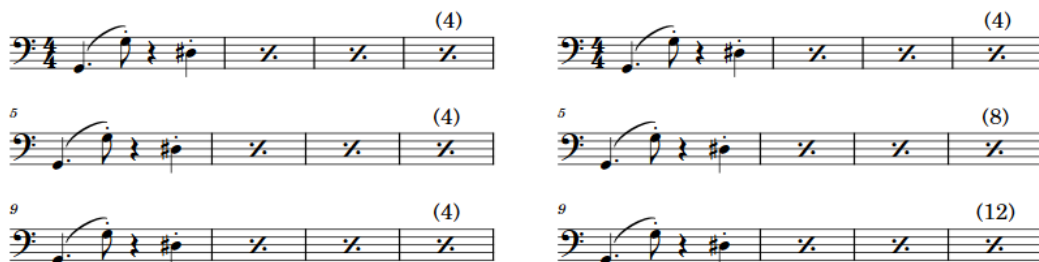
手順

- 開始カウンントを変更する1小節リピート領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「**小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)**」グループで、「**開始カウンント (Count from)**」をオンにします。
- 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択した小節リピート記号のカウンントの数字と位置が変更されます。たとえば開始カウンントを1から2に変更すると、カウンントの表示が4小節ごとの場合、カウンントの表示位置は小節リピート領域の3小節めから2小節めに移動します。

例



同じパートレイアウトの複数の組段にある、個別の小節リピート領域。カウンントはデフォルトのまま

同じパートレイアウトの複数の組段にある、個別の小節リピート領域。連続した領域であることを示すためにカウンントが変更されている

関連リンク

[小節リピート記号のカウンント \(1102 ページ\)](#)

小節リピート記号のカウンントの表示頻度を変更する

1 小節リピート領域のカウンントの表示頻度を、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。これにより、たとえば小節リピート領域の 8 小節ごとにカウンントを表示するよう変更できます。

補足

小節リピート記号のカウンントが表示されるのは、1 小節リピート領域だけです。

手順

1. カウンントの表示頻度を変更する 1 小節リピート記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)」グループで、「カウンント頻度 (Count frequency)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択した小節リピート領域のカウンント表示頻度を変更されます。

ヒント

すべての小節リピート領域のカウンントのデフォルトの表示頻度に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節リピート記号 (Bar Repeats)」ページで変更できます。

関連リンク

[小節リピート記号のカウンント \(1102 ページ\)](#)

[浄書オプションで小節リピート記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1100 ページ\)](#)

[長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(661 ページ\)](#)

小節リピート記号のカウンントの外観を変更する

個々の小節リピート記号のカウンントの表示には、プロジェクト全体の設定より優先される形で、括弧付き、括弧なし、またはリピート回数の表示なしが選択できます。

補足

小節リピート記号のカウンントが表示されるのは、1小節リピート領域だけです。

手順

1. カウンントの外観を変更する1小節リピート記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)」グループで、「カウンントの外観 (Count appearance)」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 括弧つき (Parenthesized)
 - 括弧なし (No parentheses)
 - 表示しない (Don't show)
-

結果

選択した小節リピート領域のカウンントの外観が変更されます。

ヒント

すべての小節リピート記号のカウンントのデフォルトの外観に対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節リピート記号 (Bar Repeats)」ページで変更できます。

関連リンク

[小節リピート記号のカウンントの表示頻度を変更する \(1104 ページ\)](#)

小節リピート記号のカウンントのフォントスタイルを編集する

小節リピート記号およびスラッシュ領域のカウンントに使用されるフォントスタイルの形式設定は、プロジェクト全体で変更できます。これにより、たとえばカウンントの外観を太字や斜体に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、「浄書 (Engrave)」 > 「フォントスタイル (Font Styles)」を選択して、「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログを開きます。
 2. 「フォントスタイル (Font style)」メニューから「小節リピート記号のカウンント (Bar Repeat Count)」を選択します。
 3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
 - フォントファミリー (Font family)
 - サイズ (Size)
 - スタイル (Style)
 - 下線 (Underlined)
 4. 「OK」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。
-

結果

小節リピート記号およびスラッシュ領域のカウンントに使用されるフォントスタイルの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

小節リピート記号のカウンントを移動する

小節リピート記号のカウンントは、適用されるリズム上の位置を変更することなく、個々に表示位置を移動できます。これはたとえば、同じ位置にある他のアイテムとの間隔を確保するために行ないます。

補足

番号が適用される小節を変更するために小節リピート記号のカウンントを移動する場合は、この機能ではなく開始カウンントの変更を使用します。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動する小節リピート記号のカウンントを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した小節リピート記号のカウンントを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択した小節リピート記号のカウンントが新しい表示位置に移動します。

ヒント

小節リピート記号のカウンントを移動すると、プロパティパネルの「**小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)**」グループにある「**番号のオフセット (Number offset)**」の、方向に対応する以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**番号の X オフセット (Number offset X)**」は、小節リピート記号のカウンントを水平方向に移動させます。
- 「**番号の Y オフセット (Number offset Y)**」は、小節リピート記号のカウンントを垂直方向に移動させます。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することによっても、小節リピート記号のカウンントの表示位置を移動できます。

プロパティをオフにすると、選択した小節リピート記号のカウンントが初期設定の位置にリセットされます。

関連リンク

[小節リピート記号の開始カウンントを変更する \(1103 ページ\)](#)

小節リピート記号のグループ化

小節リピート記号のグループ化は、長くなる小節リピート領域を圧縮できます。これは規則性の高い楽譜においては、フレーズ全体の表示を簡略化できるため便利です。

譜表に表示される記号はグループ化の種類によって異なります。2小節リピート記号と4小節リピート記号には、グループにまとめられた小節数を示す数字も表示されます。



小節リピート記号のグループ化は入力時に指定できるとともに、入力後にも変更できます。小節リピート領域の開始位置と終了位置の、記譜された音符や記譜記号に対する位置に従い、Dorico Pro は正確な結果が得られるように自動的に記号の表示を調整します。たとえば1小節の記譜された小節と7小節の1小節リピート記号による8小節のフレーズがあり、小節リピート記号には4小節ごとのグループ化が設定されている場合、小節リピート領域の7小節の表示は自動的に1小節リピート記号、2小節リピート記号、次いで4小節リピート記号という形になります。



4小節ごとのグループ化を設定した1小節リピート記号7小節を使用する8小節フレーズ

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節リピート記号 (Bar Repeats)」ページでは、4小節フレーズを構成するために3小節リピート記号を表示することも選択できます。ただし、1小節と2小節のリピート記号の組み合わせがより一般的です。

関連リンク

[リピートのポップオーバー \(303 ページ\)](#)

[小節リピート記号の入力 \(314 ページ\)](#)

小節リピート記号のグループ化を変更する

小節リピート記号のグループ化は入力後に変更できます。これにより、たとえば1小節リピート領域を2小節ごとにグループ化させたりできます。

手順

1. グループ化を変更する小節リピート領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「小節リピート領域 (Bar Repeat Regions)」グループで、「この小節数ごとにグループ化 (Group every)」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 1小節 (One bar)
 - 2小節 (Two bars)
 - 4小節 (Four bars)

補足

利用できるオプションは、選択した小節リピート領域の長さによって変化します。たとえば3小節の長さの小節リピート領域を選択している場合、メニューから利用できるのは「**1小節 (One bar)**」と「**2小節 (Two bars)**」のみとなります。

結果

選択した小節リピート領域のグループ化が変更されます。Dorico Pro は、一番明確な領域のグループ化の方法を自動的に計算します。たとえば1小節の記譜された小節と7小節の1小節リピート記号による8小節のフレーズがあり、小節リピート記号には4小節ごとのグループ化が設定されている場合、小節リピート領域の7小節の表示は自動的に1小節リピート記号、2小節リピート記号、次いで4小節リピート記号という形になります。

スラッシュ符頭

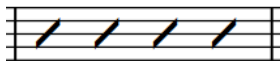
スラッシュ符頭は譜表上に記譜される斜線で、明確なリズムやピッチの指定はないまま、演奏者が何かを演奏することを指示するものです。これには多くの場合、演奏者が使用するべき音符の組み合わせを指示するコード記号が併記されます。

スラッシュ符頭には2種類あります。

- 符尾ありのスラッシュは通常、演奏するリズムを示して、ピッチは示さないものです。



- 符尾なしのスラッシュは通常、リズムもピッチも示さないものです。



符尾ありのスラッシュはリズム記号とも呼ばれ、符尾なしのスラッシュはスラッシュ記号ともよばれます。

Dorico Pro では、スラッシュ領域とスラッシュ符頭の声部を使用することにより、両方の種類のスラッシュ符頭を同時に表示できます。

関連リンク

[スラッシュ付き声部 \(1312 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の入力 \(314 ページ\)](#)

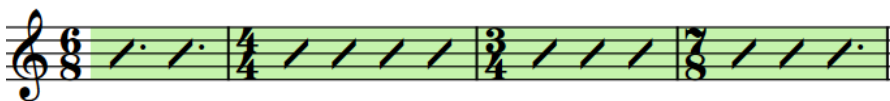
[スラッシュ付き声部への音符の入力 \(185 ページ\)](#)

[コード記号 \(706 ページ\)](#)

[コード記号を表示/非表示にする \(717 ページ\)](#)

スラッシュ領域

スラッシュ領域は、拍子に適切なスラッシュ符頭を自動的にデュレーション全体に表示します。たとえば、4/4 の小節にはスラッシュが4つ、6/8 の小節にはスラッシュが2つ表示されます。1つのスラッシュ領域は異なる拍子にわたって延ばすこともできます。



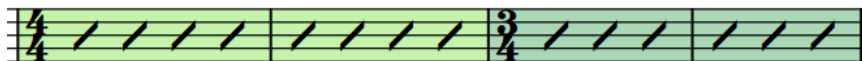
異なる拍子にわたって表示される1つのスラッシュ領域

スラッシュ領域は、リズム上の同じ位置に複数同時に存在できます。スラッシュ領域が重なり合うと、Dorico Pro はこれを複声部の状況として扱い、それぞれのスラッシュの譜表上の位置を自動的に変更します。

初期設定では、スラッシュ領域は色付きの背景で強調表示されています。ズームアウトすると、強調表示の不透明度が上がります。これはフルスコアレイアウトをギャラリービューで見るとき特に便利です。このような強調表示は注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。また画面上の表示/非表示も切り替えられます。

記譜モードでは、それぞれの領域の開始位置と終了位置にハンドルがあり、これを使用して領域の移動や長さの変更が行なえます。

2つのスラッシュ領域が隣り合う場合、個々の領域を識別できるように、それぞれ異なる強調色で表示されます。



異なる強調色で表示される2つの隣接するスラッシュ領域

スラッシュ領域およびスラッシュ付き声部は、同じプロジェクトの同じ位置に使用できます。たとえば、リズムを特定したくない場所にスラッシュ領域を入力し、そのあとに正確なリズムを指定したい1小節のスラッシュ付き声部に音符を入力できます。

ヒント

スラッシュ符頭は、演奏者が使用する音符の組み合わせを示すためにコード記号を伴って記譜されることも多いため、コード記号が非表示になっているインストゥルメントの譜表では、スラッシュ領域またはコード記号領域のコード記号の表示/非表示を切り替えられます。

関連リンク

[スラッシュ付き声部 \(1312 ページ\)](#)

[浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する \(1110 ページ\)](#)

[スラッシュ領域のカウント \(1115 ページ\)](#)

[複声部におけるスラッシュ \(1111 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の移動 \(1114 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の長さの変更 \(1114 ページ\)](#)

[コード記号を表示/非表示にする \(717 ページ\)](#)

[コード記号領域 \(719 ページ\)](#)

[注釈 \(621 ページ\)](#)

スラッシュ領域の強調表示の表示/非表示を切り替える

スラッシュ領域の背景色による強調表示はいつでも表示/非表示を切り替えられます。たとえば記譜中は強調表示をオンにして、浄書中はオフにするといったことができます。

手順

- 「ビュー (View)」 > 「スラッシュ領域を強調 (Highlight Slash Regions)」を選択します。

結果

メニューの「スラッシュ領域を強調 (Highlight Slash Regions)」の横にチェックマークがあるときはスラッシュ領域が強調表示され、チェックマークがないときは非表示となります。

関連リンク

[スラッシュ付き声部 \(1312 ページ\)](#)

浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する

スラッシュ符頭のプロジェクト全体のデザインおよび外観を制御するオプションは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「音符 (Notes)」ページの「スラッシュ符頭 (Rhythmic slashes)」セクションにあります。これらのオプションはスラッシュ符頭の声部とスラッシュ領域の両方に影響を与えます。

「音符 (Notes)」 ページの「スラッシュ符頭 (Rhythmic slashes)」 セクションにあるオプションでは、符尾ありと符尾なし両方のスラッシュのデザイン、複合拍子においてスラッシュに付点を表示するかどうか、およびスラッシュ領域の小節数の表示頻度、外観および位置を変更できます。たとえば、スラッシュ領域の小節数をすべての小節に表示することを選択できます。

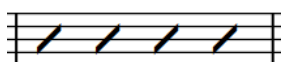
各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

関連リンク

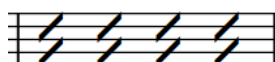
[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

複声部におけるスラッシュ

スラッシュ領域とスラッシュ符頭の声部は、リズム上の同じ位置に複数同時に存在できます。スラッシュ符頭の複声部やスラッシュ領域同士が重なったときは、Dorico Pro はすべてのスラッシュがなるべく読みやすいように、自動的にそれぞれの譜表上の位置を変更し、ずらして表示します。



1つのスラッシュ領域



符尾が上向きと符尾が下向きの2つのスラッシュ領域

リズム上の同じ位置にある他のスラッシュに対するスラッシュの位置とオフセットのフローごとのデフォルトは、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」 の「声部 (Voices)」 ページで設定できます。

補足

これらのオプションは、スラッシュ符頭の声部に属する音符とスラッシュ領域に属する音符を含め、すべてのスラッシュ符頭に影響を与えます。

また、スラッシュ符頭のお互いの位置は、符尾/声部の向きや譜表上の位置を変更することによって手動で制御できます。

関連リンク

[複声部の音符位置 \(1308 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(344 ページ\)](#)

[スラッシュ符頭の譜表上の位置を変更する \(1112 ページ\)](#)

スラッシュ領域の声部の向きを変更する

スラッシュ領域の声部の向きは個別に変更できます。複数のスラッシュ領域が重なり合う場合、それぞれの符尾の方向が影響されます。

手順

1. 声部の向きを変更するスラッシュ領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「声部の向き (Voice direction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上 (Up)
 - 下 (Down)

結果

選択したスラッシュ領域の声部の向き、および符尾の向きもこれに従い変更されます。

補足

これによって符尾の方向が変化するのは、スラッシュ領域が譜表の第3線にある場合、および複数のスラッシュ領域が同じリズム位置に存在する場合のみです。たとえば、譜表の第1線にあるスラッシュ領域の声部の向きを「**下 (Down)**」に変更した場合、他のスラッシュ領域と重なり合っていないければ、符尾の方向は変化しません。

関連リンク

[符尾の方向](#) (1213 ページ)

スラッシュ符頭の譜表上の位置を変更する

スラッシュ符頭の譜表上の位置は、スラッシュ符頭の声部およびスラッシュ領域のいずれにおいても変更できます。これによりたとえば、リズム上の同じ位置に他の音符を配置しやすくなります。初期設定では、スラッシュ符頭は譜表の第3線に配置されます。

手順

1. 譜表上の位置を変更するスラッシュ符頭を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 - スラッシュ符頭の声部の音符については、譜表上の位置を変更する音符をそれぞれ選択する必要があります。
 - スラッシュ領域については、譜表上の位置を変更する領域のどの部分を選択しても全体が変更されます。
 2. プロパティパネルの、譜表上の位置を変更するスラッシュ符頭のタイプに応じたグループで、「**スラッシュの位置 (Slash pos.)**」をオンにします。
 - スラッシュ符頭の声部の音符である場合は、「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループ
 - スラッシュ領域である場合は、「**スラッシュ領域 (Slash Regions)**」グループ
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

選択したスラッシュ符頭の譜表上の位置が変更されます。たとえば「**スラッシュの位置 (Slash pos.)**」の値を **4** に変更するとスラッシュ符頭は5線譜の第5線に配置され、**-4** にすると第1線に配置されます。

スラッシュ符頭に符尾が付いている場合、符尾の方向は自動的に調整されます。

関連リンク

[符尾の方向](#) (1213 ページ)

スラッシュ領域内の音符を表示/非表示にする

スラッシュ領域と同じ位置にある音符を表示または非表示にできます。これはたとえば、再生時に鳴らすための音符を入力しつつ楽譜にはスラッシュ領域のみ表示する場合や、スラッシュ領域に推奨の音符を追加で記譜する場合などに使用できます。

手順

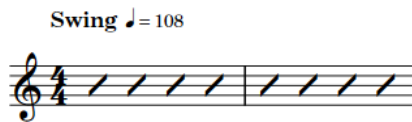
1. 領域内にある他の音符を表示または非表示にするスラッシュ領域の任意の部分を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「他の声部を表示 (Show other voices)」をオンまたはオフにします。

結果

「他の声部を表示 (Show other voices)」をオンにすると、選択したスラッシュ領域の領域内にあるすべての音符が表示され、オフにすると非表示になります。

例



領域内の音符が非表示のスラッシュ領域



領域内の音符を表示したスラッシュ領域

関連リンク

[スラッシュ領域 \(1109 ページ\)](#)

[スラッシュ付き声部 \(1312 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の強調表示の表示/非表示を切り替える \(1110 ページ\)](#)

スラッシュ領域の前後の余白を埋める休符を表示/非表示にする

小節の途中から始まるスラッシュ領域の前後の余白を埋める休符は、個別に表示/非表示にできません。これは、たとえば余白の位置に他の音符があり、休符の表示が紛らわしい場合などに使用します。

初期設定では、Dorico Pro は小節全体のデュレーションが明確になるように、小節の途中で開始または終了するスラッシュ領域の前後に自動的に暗黙の休符を表示します。

手順

1. 余白を埋める休符を表示/非表示にするスラッシュ領域の任意の部分を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
 - 開始位置より前の休符を非表示 (Hide rests before start)
 - 終了位置より後の休符を非表示 (Hide rests after end)

結果

選択したスラッシュ領域の対応する側の余白を埋める休符が非表示になります。たとえば両方のプロパティをオンにすると、選択したスラッシュ領域の前後両方の余白を埋める休符が非表示になります。

関連リンク

[暗黙の休符と明示的な休符 \(1121 ページ\)](#)

スラッシュ領域の分割

スラッシュ領域は入力後に分割できます。これによりたとえば、既存のスラッシュ領域の途中にあとから詳細な記譜を行なえます。

手順

1. 記譜モードで、分割するスラッシュ領域の分割位置に対してすぐ右側のスラッシュを選択します。

2. **[U]** を押します。

結果

選択したスラッシュのすぐ左側でスラッシュ領域が分割されます。それぞれの領域の開始位置と終了位置にハンドルができ、これを使用してそれぞれの長さを個別に変更できます。

関連リンク

[スラッシュ領域のカウントの表示頻度を変更する \(1116 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の長さの変更 \(1114 ページ\)](#)

スラッシュ領域の移動

スラッシュ領域は入力後に別の位置へ移動できます。スラッシュ領域はリズム上の同じ位置に複数同時に存在できるため、他のスラッシュ領域に重なる形でも移動を行なえます。

手順

1. 記譜モードで、移動するスラッシュ領域の任意の部分を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従い、選択したスラッシュ領域を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

補足

スラッシュ領域のリズム上の位置をマウスで移動することはできません。

結果

選択したスラッシュ領域が新しい位置に移動します。

補足

1つのスラッシュ領域が移動する際に他のスラッシュ領域の上を通過した場合、スラッシュ領域は複数と同じ位置に存在できるため、そこにあったスラッシュ領域に影響はありません。スラッシュ領域が重なり合う場所では、スラッシュの譜表上の位置が自動的に調整されます。

ただし、複数のスラッシュ領域を一緒に移動すると、それらが通過した既存のスラッシュ領域はそれに応じて短縮されるか削除されます。

この動作内容は元に戻せますが、この過程で短縮または削除されたスラッシュ領域が復元されるのは、スラッシュ領域の移動にキーボードを使用していた場合のみです。

関連リンク

[複声部におけるスラッシュ \(1111 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の声部の向きを変更する \(1111 ページ\)](#)

スラッシュ領域の長さの変更

スラッシュ領域は入力後に長さを変更できます。スラッシュ領域はリズム上の同じ位置に複数同時に存在できるため、他のスラッシュ領域に重なる形でも長さの変更を行なえます。

手順

1. 記譜モードで、長さを変更するスラッシュ領域の任意の部分を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるスラッシュ領域は1つだけです。

- 以下のいずれかの操作を行なって、選択したスラッシュ領域の長さを変更します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
 - 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。

結果

選択したスラッシュ領域の長さが、現在のリズムグリッドの間隔に従い変更されます。そのいずれかの一部が他のスラッシュ領域と重なり合う場合、複数のスラッシュ領域を同じ位置に表示できるように、スラッシュの譜表上の位置が自動的に調整されます。

関連リンク

[複声部におけるスラッシュ \(1111 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の声部の向きを変更する \(1111 ページ\)](#)

スラッシュ領域の符尾を表示/非表示にする

個々のスラッシュ領域のスラッシュの符尾を表示または非表示にできます。初期設定では、スラッシュ領域のスラッシュは符尾なしで表示されます。

手順

- 符尾を表示または非表示にするスラッシュ領域の任意の部分を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「スラッシュのタイプ (Slash type)」をオンにします。
- 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 符尾あり (With stems)
 - 符尾なし (Without stems)

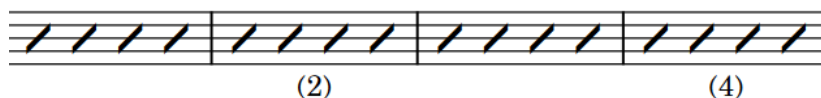
結果

「符尾なし (Without stems)」を選択すると、選択したスラッシュ領域の符尾が非表示になり、「符尾あり (With stems)」を選択すると表示されます。

スラッシュ領域のカウント

スラッシュ領域のカウントは、スラッシュ領域の上または下に一定間隔で表示される数字で、いくつの小節が過ぎたかプレーヤーが把握することを助けます。上記の間隔は通常、4小節ごとや8小節ごとなど、一般的な音楽フレーズの長さに基づくものです。

初期設定では、スラッシュ領域のカウントは4小節ごとに譜表の下に表示されます。スラッシュ領域には、それぞれ独立したカウントが表示されます。



2小節ごとにカウントを表示するスラッシュ領域

Dorico Pro では、スラッシュ領域それぞれの開始カウント、カウントの表示頻度、譜表に対する位置、括弧のあり/なしを変更でき、またスラッシュ領域のカウントに使用するフォントスタイルをカスタマイズできます。

補足

スラッシュ領域のカウントは、小節リピート記号のカウントと同じフォントスタイルを使用します。

関連リンク

[スラッシュ領域 \(1109 ページ\)](#)

[浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する \(1110 ページ\)](#)

[小節リピート記号のカウントのフォントスタイルを編集する \(1105 ページ\)](#)

スラッシュ領域の開始カウントの変更

個々のスラッシュ領域についてカウントが開始する番号を変更できます。これはたとえば、2つのスラッシュ領域の間に詳細な記譜を行ないつつ、カウントは全体を通して継続的に表示させる場合などに使用します。

手順

1. 開始カウントを変更するスラッシュ領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「開始カウント (Count from)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択したスラッシュ領域のカウントの番号と位置が変更されます。たとえば開始カウントを 1 から 2 に変更すると、カウントの表示が 4 小節ごとの場合、カウントの表示位置は小節リピート領域の 4 小節めから 3 小節めに移動します。

例



2つめのスラッシュ領域の開始カウントが変更され、1つめのスラッシュ領域からカウントが継続しているように表示するもの。

スラッシュ領域のカウントの表示頻度を変更する

スラッシュ領域のカウントの表示頻度を、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。これにより、たとえばスラッシュ領域の 8 小節ごとにカウントを表示するよう変更できます。初期設定では、スラッシュ領域のカウントは 4 小節ごとに表示されます。

手順

1. カウントの表示頻度を変更するスラッシュ領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラッシュ領域 (Slash Regions)」グループで、「カウント頻度 (Count frequency)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択したスラッシュ領域のカウント表示頻度が変更されます。

ヒント

スラッシュ領域のデフォルトのカウント頻度をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**スラッシュ符頭 (Rhythmic slashes)**」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する \(1110 ページ\)](#)

[スラッシュ領域の分割 \(1113 ページ\)](#)

スラッシュ領域のカウントの外観を変更する

個々のスラッシュ領域のカウントの表示には、プロジェクト全体の設定より優先される形で、括弧つき、括弧なし、またはリピート回数の表示なしが選択できます。

手順

1. カウントの外観を変更するスラッシュ領域を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**スラッシュ領域 (Slash Regions)**」グループで、「**カウントの外観 (Count appearance)**」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **括弧つき (Parenthesized)**
 - **括弧なし (No parentheses)**
 - **表示しない (Don't show)**
-

結果

選択したスラッシュ領域のカウントの外観が変更されます。

ヒント

スラッシュ領域のカウントのデフォルトの外観をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**スラッシュ符頭 (Rhythmic slashes)**」セクションで設定を行ないます。

スラッシュ領域のカウントの移動

スラッシュ領域のカウントは、適用されるリズム上の位置を変更することなく、個々に表示位置を移動できます。これはたとえば、同じ位置にある他のアイテムとの間隔を確保するために行ないます。

補足

スラッシュ領域のカウントを移動するのが番号が適用される小節を変更するためである場合は、この機能ではなく開始カウントの変更を使用します。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更するスラッシュ領域のカウントを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したスラッシュ領域のカウントを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。

- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したスラッシュ領域のカウンントが新しい表示位置に移動します。

ヒント

スラッシュ領域のカウンントを移動すると、プロパティパネルの「**スラッシュ領域 (Slash Regions)**」グループにある「**カウンントのオフセット (Count offset)**」の、方向に対応する以下のプロパティが自動的にオンになります。

- **カウンントの X オフセット**は、スラッシュ領域のカウンントを水平方向に移動させます。
- **カウンントの Y オフセット**は、スラッシュ領域のカウンントを垂直方向に移動させます。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することによっても、スラッシュ領域のカウンントの表示位置を移動できます。

プロパティをオフにすると、選択したスラッシュ領域のカウンントがデフォルトの位置にリセットされます。

関連リンク

[スラッシュ領域の開始カウンントの変更 \(1116 ページ\)](#)

スラッシュ領域のカウンントの譜表に対する位置の変更

スラッシュ領域のカウンントは、プロジェクト全体の設定より優先される形で、譜表の上または下に個別に表示位置を切り替えられます。

補足

スラッシュ領域のカウンントの譜表に対する位置の変更は、領域内のすべてのカウンントに影響します。同じスラッシュ領域内では、カウンントのうち1つだけの位置を個別に変更はできません。

手順

1. カウンントの譜表に対する位置を変更するスラッシュ領域の任意の部分を選択します。
2. プロパティパネルの「**スラッシュ領域 (Slash Regions)**」グループで、「**カウンントの位置 (Count position)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **上 (Above)**
 - **下 (Below)**

結果

選択したスラッシュ領域のすべてカウンントの譜表に対する位置が変更されます。

ヒント

スラッシュ領域のカウントのデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**スラッシュ符頭 (Rhythmic slashes)**」セクションで設定を行ないます。

関連リンク









[浄書オプションでスラッシュ符頭の設定をプロジェクト全体に適用する \(1110 ページ\)](#)

休符 (Rests)

休符は音が演奏されない時間を表わす記号です。それぞれの音符には同等のデュレーションの休符があり、たとえば、4分音符の休符は16分音符の休符とは異なります。

小節内の音符と休符のデュレーションの合計は、一般的な拍子記号に定義される小節のデュレーションと等しくする必要があります。

デュレーションの等しい音符と休符の対応を以下の表に示します。

デュレーション (Duration)	音符 (Note)	休符
2分		
4分		
8分		
16分		

音符の入力時、Dorico Pro は自動的に音符間の間隔を適切なデュレーションの暗黙の休符で埋めます。そのため、Dorico Pro では基本的に休符を入力する必要はありません。

関連リンク

[暗黙の休符と明示的な休符 \(1121 ページ\)](#)

[休符の入力 \(194 ページ\)](#)

[休符の削除 \(1124 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

休符の一般的な配置規則

休符は、休符のデュレーションの開始位置に合わせて配置されます。休符の開始と終了が分かりにくくなるため、拍の中央に休符を配置することはありません。休符は他のアイテムと均等な位置に揃えられます。

唯一の例外として、小節休符は小節の視覚的な中央位置に配置されます。小節内で他の音符と並んで記譜される2分休符および全休符とは配置が異なるため、明確に区別できます。

休符は可能な限り譜表の中に記譜されます。周辺の音符が高音域や低音域にある場合でも、譜表の上や下に休符が移動することはありません。

ただし、複声部の譜表においては、休符は符尾が上向きの声部では譜表の高い位置や譜表の上に、符尾が下向きの声部では譜表の低い位置や譜表の下に配置されます。



複声部における休符の位置の例

複声部の休符は重複させることができません。そのため、複数の声部の同じ位置に同じデュレーションの休符が複数ある場合、休符を統合して1つだけ表示することができます。

休符は複雑な形状のものもあるため、譜表の線や間に対して決まった位置に配置する必要があり、休符の垂直位置を大きく変更することはできません。

関連リンク

[休符の削除 \(1124 ページ\)](#)

[明示的な休符を暗黙の休符に変換する \(1123 ページ\)](#)

暗黙の休符と明示的な休符

暗黙の休符は入力した音符の間に自動的に表示され、デュレーションは小節内の拍子記号と位置に従います。明示的な休符はデュレーションを強制的に固定して入力、または MusicXML ファイルから取り込んだ休符です。

Dorico Pro では、暗黙の休符は現在の拍子記号に応じて記譜されるため、6/8 拍子と 4/4 拍子では異なる暗黙の休符が表示されます。これはまた、既存の音符や休符の拍子記号を変更した場合にも当てはまります。

Dorico Pro では、入力した音符の周辺に自動的に暗黙の休符が表示されるため、休符を入力する必要はありません。暗黙の休符のデュレーションは、強制的に固定して明示的な休符に変更することもできます。



拍子記号が 6/8 の小節の 4 拍めに入力された 4 分音符の場合、暗黙の付点 4 分休符が小節の始めにある



拍子記号が 4/4 の小節の 4 拍めに入力された 4 分音符の場合、暗黙の 4 分休符および 8 分休符が小節の始めにある

「声部開始 (Starts voice)」および「声部終了 (Ends voice)」プロパティで、声部の最初の音符以前の休符および最後の音符以降の休符を非表示に設定している場合でも、明示的な休符を抑制することはできません。

プロジェクトの中でどれが暗黙の休符で、どれが明示的な休符であるかは、休符の色で見分けることができます。

関連リンク

[休符の入力 \(194 ページ\)](#)

[音符の入力 \(176 ページ\)](#)

[音符/休符のデュレーションの強制 \(181 ページ\)](#)

[明示的な休符を暗黙の休符に変換する \(1123 ページ\)](#)

[休符の削除 \(1124 ページ\)](#)

[休符のカラーを表示/非表示にする \(1124 ページ\)](#)

複声部における暗黙の休符

Dorico Pro では、音符周囲の空白を埋めるために暗黙の休符が自動的に表示されます。これは譜表に複数の声部がある場合も同様です。しかし、複声部では、休符をいつどこに表示するかの詳細な設定が必要になる場合があります。

通常、声部が小節内に複数の音符を含む場合、休符または音符が小節全体に対し表示されます。これにより、小節内のすべての声部の各音符の位置が一目で明らかになります。

譜表に複数の声部がある場合、複数の声部に任意のデュレーションの音符が存在する小節すべてに、暗黙の休符が表示されます。ただし、譜表に複数の声部がある場合、ある声部の最初の音符以前、あるいは最後の音符以降に休符を表示させたくないこともあります。たとえば、1つのメロディーラインを含む小節に経過音を表示するためだけの声部を追加する場合などは、休符を非表示にすると役立ちます。



第2声部は経過音として使用

ヒント

初期設定では、複数の声部の同じ位置に同じデュレーションの休符がある場合、休符が統合されます。

休符の垂直位置を変更すると、複数の休符を個別の位置に表示できます。

「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページで複声部における休符の統合方法の設定を変更し、プロジェクト全体に適用することもできます。

プロパティパネルのプロパティをオンにすると、声部の最初の音符以前および最後の音符以降の休符を個別に非表示にできます。対応するプロパティをオフにすることで、非表示にした休符を表示できます。



暗黙の休符がある複声部フレーズ



暗黙の休符がない同フレーズ

複声部の内容に応じていつ休符を表示するか選択し、プロジェクト全体に適用するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページで設定を行ないます。

選択した楽節から休符を削除することもできます。

関連リンク

[休符のフローごとの記譜オプション \(1123 ページ\)](#)

[休符を垂直に移動する \(1130 ページ\)](#)

[休符の削除 \(1124 ページ\)](#)

明示的な休符を暗黙の休符に変換する

暗黙の休符と明示的な休符は振る舞いが異なります。たとえば、暗黙の休符はプロパティパネルを使用して非表示にできますが、明示的な休符やデュレーションを強制された休符は非表示にできません。

補足

プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**声部開始 (Starts voice)**」および「**声部終了 (Ends voice)**」で非表示にできるのは、暗黙の休符のみです。

手順

1. 記譜モードで、暗黙の休符に変換する明示的な休符を選択します。
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択した明示的な休符が暗黙の休符に変わります。休符の色を表示するとこれを確認できます。

関連リンク

[休符のカラーを表示/非表示にする \(1124 ページ\)](#)

[休符の削除 \(1124 ページ\)](#)

休符のフローごとの記譜オプション

休符の配置方法、記譜方法、および休符が表示される条件をフローごとに制御するオプションは、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」のページにあります。

たとえば、付点休符が許可されているときに小節の休符を追加の声部内に表示するかどうかを設定したり、楽譜の内容に合わせて初期設定の休符の位置を変更したりできます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

関連リンク

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

[声部 \(1308 ページ\)](#)

[声部のフローごとの記譜オプション \(1309 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(1213 ページ\)](#)

浄書オプションで休符の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページで休符の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**休符 (Rests)**」ページのオプションで、休符のスタイル、外観、幅、および詳細な位置を変更できます。また、1小節の小節休符のタセットバーと小節数を表示するかどうかや、フローの終了位置の長休符をどのように表示するかを選択するなど、長休符の外観やデザインを変更することもできます。たとえば、フローの終端まで延びる長休符のデフォルトの外観は *tacet al fine* を表示しますが、これを小節の数を表示するよう変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

休符のカラーを表示/非表示にする

休符のカラーの表示/非表示を切り替えることで、暗黙の休符と明示的な休符を異なるカラーで表示できます。

休符カラーが表示されている場合、プロジェクト中の暗黙の休符はグレーで表示され、明示的な休符は黒で表示されます。これらのプロパティで非表示にできるのは暗黙の休符のみのため、「**声部開始 (Starts voice)**」と「**声部終了 (Ends voice)**」プロパティをオンにしても休符が非表示にならない場合などに原因を突き止めるときは、この機能が役に立ちます。

手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)**」 > 「**暗黙の休符カラー (Implicit Rests)**」を選択します。

結果

メニュー内の「**暗黙の休符カラー (Implicit Rests)**」の横にチェックマークがあるときは休符カラーが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

例



すべての休符を黒で表示し、暗黙の休符は識別されない 暗黙の休符をグレーで表示

手順終了後の項目

明示的な休符として特定できた休符を削除できます。明示的な休符を削除すると、それに置き換わる暗黙の休符が「**声部開始 (Starts voice)**」と「**声部終了 (Ends voice)**」プロパティの効果に従うようになります。

休符の削除

暗黙の休符と明示的な休符は、いずれも削除できます。これによりたとえば、経過音の表示に使用される別声部の音符の前後の休符を非表示にできます。

補足

- 対立する声部で同じ位置にある同じ長さの休符を削除したいと思う場合は、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページにある「**休符の位置 (Rest positioning)**」セクションでこれらの休符を統合できます。
- 無音程打楽器の休符は削除できません。

手順

1. 記譜モードで、削除する休符を選択します。

ヒント

休符は個別に選択するか、削除する休符を含んだ大きな選択範囲を使用するかします。

2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**休符を削除 (Remove Rests)**」を選択します。

結果

選択したすべての休符が削除されます。これは、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**声部開始 (Starts voice)**」と「**声部終了 (Ends voice)**」プロパティを自動的にオンにして、選択領域内に休符が表示されないようにするものです。

ヒント

休符の削除はすぐに元に戻せます。

あとから休符を再表示させることもできます。これには、削除した休符の右隣または左隣の音符か休符を選択して、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**声部開始 (Starts voice)**」または「**声部終了 (Ends voice)**」の対応するプロパティをオフにします。

関連リンク

[休符 \(Rests\) \(1120 ページ\)](#)

[休符のフローごとの記譜オプション \(1123 ページ\)](#)

[暗黙の休符と明示的な休符 \(1121 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(1122 ページ\)](#)

空白の小節で小節休符を表示/非表示にする

空白の小節において小節休符を表示するか非表示にするかは、プロジェクトの各レイアウトごとに個別に切り替えることができます。たとえば、フルスコアレイアウトでは小節休符を非表示にして、パートレイアウトでは表示させるということができます。

小節休符は通常、楽譜中の空白の小節に表示され、演奏する内容が何もないことを演奏者に示します。しかし、場合によっては小節休符を非表示にして、空白の小節を完全に空白のままにする方が適切な場合もあります。

たとえばパート数の多いスコアでは、音符がある小節を一目で見分けられるため、空白の小節の小節休符を非表示にした方がよい場合があります。また、音符の演奏以外の行動を演奏者に指示するために文字を書き込むようなレイアウトの場合も、小節休符を非表示にした方がよい場合があります。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 空白の小節で小節休符を表示または非表示にするレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**小節休符と長休符 (Bar Rests and Multi-bar Rests)**」セクションで、「**空の小節に小節休符を表示 (Show bar rests in empty bars)**」をオン/オフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトのチェックボックスがオンになっているときは、すべての空白の小節で小節休符が表示され、オフになっているときは非表示になります。

関連リンク

[長休符を表示/非表示にする \(1127 ページ\)](#)

追加の声部内の小節休符を表示/非表示にする

追加の声部内の音符または明示的な休符をフローごとに表示/非表示にできます。たとえば、対位法による楽譜に明示的な休符を表示することで、各声部が見やすくなります。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]** を押して「**記譜オプション (Notation Options)**」を開きます。
2. 「**フロー (Flows)**」リストから、追加の声部内に小節休符を表示または非表示にするフローを選択します。
初期設定では、現在のフローのみを選択した状態のダイアログが表示されます。
3. ページリストの「**休符 (Rests)**」をクリックします。
4. 「**追加の声部内の休符 (Rests in Additional Voices)**」セクションの「**追加の声部内の小節休符 (Bar rests in additional voices)**」で、以下のオプションからいずれかを選択します。
 - **小節休符を表示 (Show bar rests)**
 - **小節休符を省略 (Omit bar rests)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**小節休符を表示 (Show bar rests)**」を選択すると、選択したフローのすべての声部の音符または明示的な休符の間に小節休符が表示され、「**小節休符を省略 (Omit bar rests)**」を選択すると非表示になります。

補足

「**小節休符を表示 (Show bar rests)**」を選択しても、追加の声部内の最初の音符または明示的な休符の前にある、空白の小節には小節休符が自動的に表示されません。最初の小節から始まらない追加の声部の場合は、最初の小節に小節休符を手動で入力する必要があります。

関連リンク

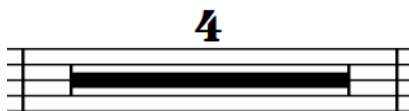
[暗黙の休符と明示的な休符](#) (1121 ページ)

[複数の声部への音符の入力](#) (183 ページ)

[特定の声部に小節休符を入力する](#) (195 ページ)

長休符

長休符は 2 つ以上の連続した空白の小節をグループ化して 1 つにまとめます。これは通常タレットバーと呼ばれる、譜表の第 3 線上の太い水平線で表示されます。これには、複数の空白小節によって占められる水平方向のスペースが削減され、プレイヤーが楽譜上の位置を把握しやすくなる効果があります。



空白の小節 4 つを示す長休符

補足

長休符は、その範囲内に組段テキスト、リハーサルマーク、延長記号や休止記号などのアイテムがあると、その位置で自動的に分割されます。非表示のアイテムでも同様です。ただし、再生モードの**タイム**

トラックで入力するような、非表示のテンポ記号は除きます。アイテムが長休符の最初の小節の開始位置にある場合、その小節は後に続く長休符と一体のままです。

Dorico Pro では、レイアウトごとに個別に長休符の表示/非表示を切り替えられます。また、その下の小節番号の範囲表示の表示/非表示を切り替えられます。

初期設定では、長休符の小節数は大譜表のインストゥルメントの譜表の間に 1 回だけ表示されます。

長休符のプロジェクト全体の外観、デザイン、幅および内容を制御するオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページにあります。

関連リンク

[長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(661 ページ\)](#)

[タイムトラック \(538 ページ\)](#)

[長休符のタセットバーの幅を変更する \(1128 ページ\)](#)

[長休符の小節数の位置を変更する \(1129 ページ\)](#)

[長休符の分割 \(1130 ページ\)](#)

長休符を表示/非表示にする

空白の小節において長休符を表示するか非表示にするかは、プロジェクトの各レイアウトごとに個別に切り替えることができます。また、小節リピート記号も長休符の形に統合するか選択できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは長休符を非表示にして、パートレイアウトでは表示させることができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
 2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、長休符を表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
 3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
 4. 「**小節休符と長休符 (Bar Rests and Multi-bar rests)**」セクションの「**統合 (Consolidate)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - なし (None)
 - 長休符 (Multi-bar Rests)
 - 長休符と小節リピート記号 (Multi-bar Rests and Bar Repeats)
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

- 「**なし (None)**」を選択した場合、選択したレイアウトに長休符は表示されず、空白の小節が個別に表示されます。
- 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」を選択した場合、選択したレイアウトの隣接するすべての空白の小節が、長休符に統合されます。ただし小節リピート記号については、その領域中に一切の音符がなかったとしても、長休符の形に統合はされません。
- 「**長休符と小節リピート記号 (Multi-bar Rests and Bar Repeats)**」を選択した場合、選択したレイアウトの隣接する空白の小節または小節リピート記号だけの小節のすべてが、長休符の形に統合されます。統合された小節リピート記号の上にも、長休符の小節数が表示されます。

ヒント

1 小節の小節休符のタセットバーと小節数の表示/非表示の切り替えは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**休符 (Rests)**」のページにある「**長休符 (Multi-bar Rests)**」のセクションで行なえます。

関連リンク

[小節リピート記号 \(1099 ページ\)](#)

[長休符 \(1126 ページ\)](#)

[長休符における小節番号の範囲を表示/非表示にする \(661 ページ\)](#)

長休符におけるフローの終了位置の tacet al fine を表示/非表示にする

プロジェクトのすべてのレイアウトのフローの終端まで延びる長休符の外観を変更できます。初期設定では、フローの終端まで延びる長休符は tacet al fine を小節数の合計の上ではなく、譜表の上に表示します。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**休符 (Rests)**」をクリックします。
3. 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」セクションの「**外観 (Appearance)**」サブセクションで、「**フローの終端まで延びる長休符 (Multi-bar rests that extend to the end of the flow)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「**tacet al fine**」を表示 (Show tacet al fine)
 - **小節の数を表示 (Show bar count)**
4. 必要に応じて、「**フローの終わりに「tacet al fine」を表示する空白の小節数の最小値 (Minimum number of bars' rest at the end of flow to show 'tacet al fine')**」の値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

長休符のフローの終わりの外観がプロジェクト全体で変更されます。「**フローの終わりに「tacet al fine」を表示する空白の小節数の最小値 (Minimum number of bars' rest at the end of flow to show 'tacet al fine')**」の値を変更すると、設定した以上の小節数を持つ長休符にのみ tacet al fine が表示されるようになります。

長休符のタセットバーの幅を変更する

Dorico Pro の自動処理による長休符のタセットバーの幅について、前後の小節線との間隔を使用 (小節幅に従いタセットバーの幅が変化) するか、小節幅に関係なく固定幅を使用するか選択できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**休符 (Rests)**」をクリックします。
3. 「**長休符 (Multi-bar Rests)**」セクションの「**デザイン (Design)**」サブセクションで、「**タセットバーの幅 (H-bar width)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **小節線間に挿入 (Inset from barlines)**
 - **固定幅 (Fixed width)**
4. 「**小節線間に挿入 (Inset from barlines)**」を選択した場合、必要に応じて「**タセットバーの終端と小節線との間隔 (Gap between end of H-bar and barline)**」の値を変更します。
5. **固定幅 (Fixed width)**を選択した場合、必要に応じて「**タセットバーの固定幅 (Fixed H-bar width)**」を変更します。

6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

プロジェクト全体ですべてのタセットバーの幅が変更されます。

長休符の小節数の位置を変更する

長休符の小節数の位置は、譜表の上または下に変更できます。大譜表を使用するインストゥルメントについては、小節数を譜表の間に一度だけ表示するか、各譜表の上または下に表示するか選択できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
 2. ページリストの「休符 (Rests)」をクリックします。
 3. 「長休符 (Multi-bar Rests)」セクションの「外観 (Appearance)」サブセクションで、「単一の譜表のインストゥルメントにおける小節数の位置 (Placement for bar count on single staff instruments)」から以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上 (Above)
 - 下 (Below)
 4. 「大譜表における小節数の表示: (Bar count on grand staff instruments)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 譜表間に表示 (Show between staves)
 - 各譜表の上または下 (Show above or below each staff)
 5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

長休符の小節数に使用するフォントの変更

初期設定では、長休符の小節数は太字のアラビア数字フォントを使用し、これは拍子記号の数字に近い外観です。長休符の小節数に使用されるフォントは、プロジェクト全体で変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
 2. ページリストの「休符 (Rests)」をクリックします。
 3. 「長休符 (Multi-bar Rests)」セクションの「デザイン (Design)」サブセクションで、「小節数の外観 (Bar count appearance)」から以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 音楽フォント (Music font)
 - プレーンフォント (Plain font)
 4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

結果

長休符の小節数に使用されるフォントスタイルがプロジェクト全体で変更されます。

ヒント

長休符の小節数に使用するフォントスタイルのさまざまな設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。これによりたとえばフォントを斜体にしたり、フォントサイズを変更したりできます。

- 音楽フォントの小節数は「**長休符の小節数用フォント (Multi-bar Rest Bar Count Font)**」が使用されますが、これは SMuFL 準拠である必要があります。

- プレーンフォントの小節数は「**長休符の小節数用プレーン フォント (Multi-bar Rest Bar Count Plain Font)**」が使用されます。
-

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

長休符の分割

長休符は、楽譜中に余分な記譜を一切行わずに手動で分割できます。長休符の分割は、フルスコアやパート譜など、プロジェクトのすべてのレイアウトに影響を与えます。

補足

長休符は、その範囲内に組段テキスト、リハーサルマーク、延長記号や休止記号などのアイテムがあると、その位置で自動的に分割されます。

前提条件

長休符を分割する位置の小節にアイテムが存在している、または長休符が非表示になっているレイアウトを楽譜領域に開いておきます。長休符の中での位置は選択できません。

手順

1. 浄書モードで、長休符を分割する位置にあるアイテムを選択します。
 2. 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**長休符を分割 (Split Multi-bar Rest)**」を選択します。
-

結果

すべてのレイアウトのすべての長休符が選択した位置で分割されます。長休符を分割した位置には、ガイドが表示されます。

関連リンク

[長休符 \(1126 ページ\)](#)

[ガイドの表示/非表示の切り替え \(339 ページ\)](#)

[長休符を表示/非表示にする \(1127 ページ\)](#)

[レイアウトの切り替え \(54 ページ\)](#)

休符を垂直に移動する

休符の垂直位置は個別に変更できます。これによりたとえば、全休符がぶら下がる譜表線を変更したり、あるリズム上の位置にすべての声部の休符を表示したりできます。

譜表上の2つ以上の声部に同じデュレーションの休符がある場合、休符を垂直に移動すると複数の休符がその位置に表示されます。初期設定では、Dorico Pro は複声部の休符を統合して自動的に複声部の状況に応じた位置に配置し、衝突を回避します。

補足

休符の垂直位置をマウスで変更することはできません。

手順

1. 垂直位置を変更する休符、または各声部で休符を表示させたい位置にある休符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**休符の位置 (Rest pos.)**」をオンにします。

3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

値を増やすと休符が上に移動し、減らすと下に移動します。0 の位置は譜表の第 3 線にあたります。譜表上の複声部に同じデュレーションの休符がある場合、複数の休符が表示されるようになります。

ヒント

- 「**休符の位置 (Rest pos.)**」をオフにすると、選択した休符がデフォルトの位置に戻ります。
 - 各声部の休符をすべて表示するか、すべての声部で 1 つの休符のみ表示するかを選択するには、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**休符 (Rests)**」ページにある「**休符の位置 (Rest positioning)**」セクションで設定を行ないます。
 - 浄書モードで「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」がオンになっている場合、休符の水平位置と周囲のスペーシングを、音符の位置を変更するときと同様に変更できます。
-

関連リンク

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(435 ページ\)](#)

[個々の音符/アイテムのスペーシングをそれぞれの位置とは関係なく調節する \(437 ページ\)](#)

スラー

スラーは先細の曲線であり、それがつないだ音符をレガートのアーティキュレーションおよびフレージングで演奏することを示します。

スラーは、状況やインストゥルメントにより、ただフレーズを示す以上の意味を持つ場合があります。たとえば木管楽器のプレーヤーに対しては、スラーはフレーズ中のすべての音符をすべて一息で、タンギングやアーティキュレーションの付け直しを行わずに演奏することを示します。弦楽器のプレーヤーに対しては、スラーはフレーズ中のすべての音符をレガートで、一弓で演奏することを示します。歌手に対しては、スラーは同じ音節を2つ以上の音符で歌うことを示します。

スラーは、適用される音符の符尾の方向に従い、譜表の上下どちらにも配置されます。スラーの末端が音符から離れないようするため、スラーはその途中の音符ではアーティキュレーションより外側に配置されますが、最初と最後の音符では、音符と表示サイズの大きいアーティキュレーションの間に配置されます。たとえば初期設定では、アクセント記号や強調記号はスラー両端より外側に配置されますが、スタッカート記号やテヌート記号はスラー両端より内側に表示されます。



譜表上下のスラーおよび譜表をまたぐスラー

スラーに対するアクセント、マルカート、強調および強調解除のアーティキュレーションの配置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**アーティキュレーション (Articulations)**」ページの「**スラー (Slurs)**」セクションで変更できます。

補足

スラーをタイと混同しないよう注意してください。見た目は似ていますが、タイは同じピッチの音符を一息で演奏することを示します。そういった意味でタイはリズム記号として、スラーはアーティキュレーションとして捉えることができます。

関連リンク

[スラーの入力 \(216 ページ\)](#)

[タイ \(1235 ページ\)](#)

[浄書オプションでアーティキュレーションの設定をプロジェクト全体に適用する \(635 ページ\)](#)

スラーの一般的な配置規則

譜表に対するスラーの位置とそれに伴うカーブの方向は、スラーでつながれる音符の符尾の方向に従います。スラーが音符の符頭か符尾のどちら側に配置されるかによって、末端の位置は異なります。

スラーの方向

1つの譜表におけるスラーは、スラーでつながれる音符の符尾がすべて上向きである場合を除き、常に上向きにカーブして音符の上に配置されます。符尾がすべて上向きである場合は、スラーは下向きにカーブして音符の下に配置されます。スラーでつながれる音符に上向きと下向きの符尾が混在する場合、スラーは譜表の上に配置され、上向きにカーブします。



符尾の方向に従いスラーの方向が変更する例

スラーが符尾の方向に従うか、それとも常に音符の上に表示されるかは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」のページで設定できます。

補足

ジャズのスコアでは、スラーはときにアーティキュレーションとして扱われるため、すべてのスラーを譜表の上に配置するのが好ましい場合があります。

連行のない音符間の符尾側のスラー

Dorico Pro では、連行のない音符の符尾側にある場合、スラーは符尾の間にスラーが表示され、デフォルトの設定では、符尾の端から少し距離を取って接続されます。



スラーが符尾に接続する位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**終端の位置 (Endpoint Positioning)**」セクションにある「**符尾の先端からの垂直オフセット (Vertical offset from end of stem)**」を調節することで変更できます。

関連リンク

[他のアイテムに対するスラーの終端の位置](#) (1136 ページ)

タイのつながりに対するスラーの位置

タイのつながりに対するスラーの位置に関しては、現在使用される楽譜と歴史的な出版物とで異なる表記規則があります。

近代的な表記規則では、タイのつながりの最初の音符からスラーが始まり、タイのつながりの最後の音符で終わります。この表記では、フレーズ全体の長さが演奏者に視覚的にはっきり伝わり、演奏を助けます。Dorico Pro のデフォルトです。

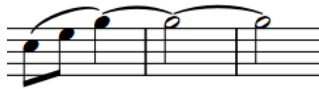


タイのつながりの最後の音符で終わるスラー



タイのつながりの最初の音符から始まるスラー

一方、歴史的な出版物においては、スラーはタイのつながりの最初の音符で終わり、タイのつながりの最後の音符から始まる場合があります。この違いにより、スラーが短くなって譜表の上下に広がる幅が抑えられるため、垂直方向のスペースが節約されます。



タイのつながりの最初の音符で終わるスラー



タイのつながりの最後の音符から始まるスラー

すべてのスラーについて、スラーの開始位置をタイのつながりの最初または最後の音符どちらに合わせるか、また終了位置をタイのつながりの最初または最後の音符どちらに合わせるか、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページで選択できます。標準の音符間のスラーと装飾音符から始まるスラーとは、異なるオプションが用意されています。

タイのつながりに対するスラーの位置を変更する

垂直のスペースを節約するために、タイのつながりに対するスラーや装飾音から始まるスラーの位置を設定できます。

手順

1. タイのつながりに対する位置を変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
 - **タイのつながりでの開始位置 (Start pos. in tie chain)**
 - **タイのつながりでの終了位置 (End pos. in tie chain)**
3. 各プロパティに以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **最初の音符 (First note)**
 - **最後の音符 (Last note)**

結果

タイのつながりに対する選択したスラーの位置が変更されます。

ヒント

タイのつながりに対するすべてのスラーのデフォルト位置のプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページで変更できます。標準の音符間のスラーと装飾音符から始まるスラーとは、異なるオプションが用意されています。

関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1137 ページ\)](#)

装飾音符に対するスラーの位置

スラーが装飾音符から始まり装飾音符の直後の標準の音符で終わる場合、スラーに影響する特定の配置ルールがあります。

ルールは以下になります。

- スラーは符尾ではなく符頭を接続します。
- スラーは装飾音符の比率に合わせて縮小されます。
- スラーは加線を覆い隠してはいけません。
- スラーは、音符の下に配置したとき標準の音符の臨時記号に衝突するような場合は、音符の上に配置されます。

特別な配置ルールそれぞれのパラメーターの値は調節できます。たとえば、装飾音符のスラー右端の、それが接続される縮小なしの標準の符頭に対する垂直および水平方向のオフセットは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」のページの「**装飾音符 (Grace Notes)**」のセクションで変更できます。

補足

これらのルールは、スラーが装飾音符の直後の音符を超えた位置にある標準の音符までつながる場合は適用されません。

一般的な配置規則に従い、Dorico Pro のデフォルトにおいてスラーは装飾音符の下に下向きのカーブで表示されます。装飾音符から始まるスラーが音符の上に上向きのカーブで表示されるのは、複声部における符尾が上向きの声部のみです。



複声部における装飾音符のスラーのカーブ方向の自動変更

装飾音符のスラーの自動配置に対する変更としては、装飾音符の符尾の方向の変更、スラーの向きの変更、および浄書モードのスラーのハンドルを使用したより精密なスラーの位置調整が行なえます。

関連リンク

- [スラーのカーブ方向を変更する \(1152 ページ\)](#)
- [音符の符尾の方向を個別に変更する \(1215 ページ\)](#)
- [装飾音符の一般的な配置規則 \(837 ページ\)](#)
- [浄書モードのスラー \(1143 ページ\)](#)
- [スラーの形状の変更 \(1145 ページ\)](#)

譜表線に対するスラーの位置

スラーの終端は譜表線に触れてはならず、またスラーの弧の頂点は譜表線上に来てはなりません。

これが表記規則となっているのは、頂点が譜表線上に来るスラーは、譜表線とスラーのカーブによって三角形のくさび型を形成する可能性があるからです。スラーの頂点が譜表線上にある場合は、頂点が譜表線の上か下に出るように高さを調節できます。

補足

Dorico Pro は自動的にスラーの終端が譜表線に触れないようにしますが、スラーの頂点を適切に配置するには手動の調節が必要な場合があります。

スラーの終端と譜表線との最小距離の値は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」セクションで設定できます。スラーの終端のデフォルト位置は、開始位置/終了位置が譜表線に触れることのないように、譜表線に対し上か下に 1/4 スペースの距離となっています。

関連リンク

- [浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1137 ページ\)](#)
- [スラーの高さを変更する \(1149 ページ\)](#)

他のアイテムに対するスラーの終端の位置

衝突を回避するために、スラーの終端のデフォルト位置は、スラーが音符の符頭側と符尾側どちらに位置するか、譜表線に対する位置、そしてアーティキュレーション、タイ、他のスラーが同じ位置にあるかどうかによって変化します。

符頭および符尾に対するスラーの終端の位置

符頭に対するスラーの終端のデフォルト位置は、譜表の間上にある符頭の 1/2 スペース上、および譜表の線上にある符頭の 1/4 スペース上になります。

スラーの終端の垂直および水平方向のオフセットは、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」のページの「**終端の位置 (Endpoint Positioning)**」のセクションで変更できます。ただし、スラーの終端は「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」のセクションの「**衝突回避のためのスラー内側の最小間隔 (Minimum gap inside slur curvature to avoid collisions)**」の値よりも符頭に近づくことができないため、この値も小さくしなければならない場合があります。

補足

この値は、プロジェクト中のすべてのスラーの衝突回避に影響を与えます。

アーティキュレーションに対する終端の位置

初期設定では、強弱および強調のアーティキュレーションはスラーの終端より外側に配置されますが、デュレーションのアーティキュレーションは内側に配置され、終端を押し出します。

スラーの終端をアーティキュレーションに近づけるには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」のページの「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」のセクションにある「**衝突回避のためのスラー内側の最小間隔 (Minimum gap inside slur curvature to avoid collisions)**」の値を小さくします。

補足

この値を変更すると、プロジェクト全体のスラーの終端の位置に影響を与えます。アーティキュレーションに対するスラーの終端の位置は、浄書モードで個別に移動させるほうが適切である場合もあります。

タイおよび他のスラーに対するスラーの終端の位置

スラーの終端の、同じ音符で開始するまたは終了するスラーに対するデフォルト位置は、1/4 スペース上になります。

これを変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」のページの「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」のセクションで「**同じ音符を共有する 2 つのスラーの垂直方向の最小間隔 (Minimum vertical gap between two slurs starting or ending on the same note)**」の値を増減させます。

タイでつながれた音符にスラーの表示位置を近づけるには、スラーの終端の符頭に対する位置を調整します。

関連リンク

[浄書モードのスラー \(1143 ページ\)](#)

[スラーの形状の変更 \(1145 ページ\)](#)

[アーティキュレーション \(634 ページ\)](#)

浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページでは、スラーの外観、位置および配置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「スラー (Slurs)」ページのオプションを使用すると、スラーの方向、スタイル、高さ、および線の太さを変更できます。また、符頭、符尾、装飾音符およびタイに対するスラーの位置に関する詳細な値を設定し、譜表をまたぐスラーの衝突回避に関する動作を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

譜表および声部をまたぐスラー

譜表をまたぐスラーは、ある譜表から始まって別の譜表で終わります。声部をまたぐスラーは、ある声部から始まって別の声部で終わります。

Dorico Pro は、譜表および声部をまたぐスラーの配置を標準のスラーの配置と同様に行なうため、それらの外観は標準のスラーと同じになる場合があります。譜表および声部をまたぐスラーの移動および長さの変更は標準のスラーと同様に行なえますが、その動作は同じではありません。

たとえば、声部をまたぐスラーは同じ譜表の別の声部には移動できず、また同じ譜表の別の声部への延長もできません。スラーが開始または終了する声部のいずれかにスラー内の符頭がない場合は、声部をまたぐスラーの短縮もできません。

譜表をまたぐスラーの移動および長さの変更は、末端が属するのと同じ譜表上の音符へしか行なえません。たとえば、譜表をまたぐスラーが下段の譜表から始まって上段の譜表で終わるフレーズをつなぐ場合、譜表をまたぐスラーを短縮できるのは上段の譜表の最初の音符までで、下段の譜表の音符までは縮められません。

声部をまたぐスラーにおいて、声部は同じ譜表にあっても、異なる譜表にあっても構いません。

関連リンク

[スラーの長さの変更 \(1140 ページ\)](#)

[スラーの位置の移動 \(1139 ページ\)](#)

譜表および声部をまたぐスラーの入力

譜表および声部をまたぐスラーを入力できます。たとえば、ピアノやハープなど大譜表を用いるインストゥルメントにおいては、フレーズが上下の譜表にわたって続き、スラーでつながれる場合があります。

手順

1. 記譜モードで、任意の声部または譜表から、スラーを開始する音符を選択します。
2. **[Ctrl]/[command]** を押しながら、手順 1 の音符と同じインストゥルメントに属する任意の声部または譜表で、スラーを終了する音符をクリックします。

補足

この 2 つの音符以外は選択しません。

3. **[S]** を押します。

結果

声部または譜表をまたぐスラーが、選択した音符間にわたって入力されます。スラーは、選択範囲内の音符の符尾の方向に従い、音符の上または下に配置されます。

手順終了後の項目

スラーのカーブ方向は個別に変更できます。

関連リンク

[スラーのカーブ方向を変更する \(1152 ページ\)](#)

入れ子状のスラー

入れ子状のスラーでは 2 つ以上のスラーが同時に使用され、全体にわたるスラーがフレーズの構造を、内側のスラーがフレーズ内のアーティキュレーションを示します。これはスラー内のスラーとも呼ばれます。

全体にわたる外側のスラーの範囲内の音符の符尾の方向、および「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの設定に従い、内側のスラーは外側のスラーとは譜表の逆側に表示される場合もあります。



入れ子状のスラーによるフレーズ

入れ子状のスラーの終端同士のデフォルト距離を変更する場合は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」のページの「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」のセクションで「**同じ音符を共有する 2 つのスラーの垂直方向の最小間隔 (Minimum vertical gap between two slurs starting or ending on the same note)**」の値を増減させて、プロジェクト全体に適用できます。

入れ子状のスラーは標準のスラーと同様の方法で入力できます。初期設定では、浄書モードのプロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで「**自動カーブ調整の無効化 (Disable auto curve adjustment)**」をオンにしない限りは、Dorico Pro が位置の自動調整を行なって衝突を回避します。

関連リンク

[スラーの衝突回避を有効化/無効化する \(1157 ページ\)](#)

音符入力中の入れ子状のスラーの入力

たとえば入力中すでにフレーズの付け方が分かっている場合などは、音符の入力中に直接入れ子状のスラーを入力できます。

手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. 選択中の音符から 2 本のスラーを開始するには、**[S]** を 2 回押します。
スラーの 1 つは内側のスラー、もう 1 つは外側のスラーになります。
3. 音符を入力します。
音符を入力し続けると、入力する音符間に休符が含まれていたとしても、スラーは自動的に延びていきます。

4. **[Shift]+[S]** を 1 回押すと、選択中の音符で内側のスラーが終了します。
 5. 音符の入力を続けます。
 6. 必要に応じて、他の内側のスラーを開始/終了します。
 7. **[Shift]+[S]** を再度押すと、選択中の音符で外側のスラーが終了します。
-

関連リンク

[入れ子状のスラー \(1138 ページ\)](#)

既存の音符への入れ子状のスラーの追加

既存の音符に複数のスラーを追加して入れ子状にできます。

手順

1. 記譜モードで、外側のスラーに含める音符を選択します。
2. **[S]** を押して外側のスラーを入力します。
3. 外側のスラーの範囲内で、内側のスラーでつなぐ音符を選択します。
4. **[S]** を押して内側のスラーを入力します。
5. 必要に応じて、手順 3 と 4 を繰り返して他の内側のスラーを作成します。

補足

- Dorico Pro はスラーが衝突しないように自動的に調整を行ない、短いスラーは長いスラーの内側に配置されるため、外側のスラーと内側のスラーはどのような順番で入力しても構いません。
 - 個々の音符について、プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで「自動カーブ調整の無効化 (Disable auto curve adjustment)」をオンにすると、スラーの自動衝突回避は行われなくなります。
-

関連リンク

[スラーの衝突回避 \(1156 ページ\)](#)

スラーの位置の移動

スラーは入力後に別の位置へ移動できます。

手順

1. 記譜モードで、移動するスラーを選択します。

補足

スラーのリズム上の位置は一度に 1 つしか変更できません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、スラーを譜表上の異なる符頭に移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して、譜表上の次の符頭まで移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して、譜表上の前の符頭まで移動します。
 - クリックして左右にドラッグします。
-

結果

スラーが譜表上の異なる符頭に移動します。

補足

通常、スラーのデュレーションは維持されます。ただし、移動先でスラーがわたされる音符のリズムによっては、移動前とはデュレーションが変化する場合もあります。

手順終了後の項目

スラーの形状と表示上の位置は、個別にでも、すべてのスラーのデフォルトの設定を変更することも調節できます。

関連リンク

[浄書モードのスラー \(1143 ページ\)](#)

[スラーの形状の変更 \(1145 ページ\)](#)

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1137 ページ\)](#)

スラーの長さの変更

スラーのリズム上の長さは、スラーを入力したあとでも変更できます。

補足

スラーの変更できる長さは、譜表をまたぐスラーから対応する終端の位置と同じ譜表に含まれる音符まで、または声部をまたぐスラーから対応する終端の位置と同じ声部に含まれる音符までのみです。

手順

1. 記譜モードで、長さを変更するスラーを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できるスラーは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、スラーの長さを変更します。
 - **[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押して、次の符頭までスラーを伸ばします。
 - **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押して、前の符頭までスラーを縮めます。

補足

キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。スラーの始端は、スラー全体を移動させるか、開始位置のハンドルをクリックしてドラッグすることで移動できます。

- スラーの開始位置または終了位置をクリックして、次または前の符頭までドラッグします。
-

結果

選択したスラーの長さが変更されます。

関連リンク

[スラーの位置の移動 \(1139 ページ\)](#)

[浄書モードのスラー \(1143 ページ\)](#)

[譜表および声部をまたぐスラー \(1137 ページ\)](#)

リンクされたスラー

複数の譜表で同じ位置にある同じデュレーションのスラーは、リンクすることができます。このリンクは、スラーやスラーを含むフレーズを譜表間でコピーアンドペーストした場合、またはスラーを同時に入力した場合は自動的に行なわれます。

スラーがリンクされている場合、リンクのグループ内で1つのスラーを動かすと、すべてのリンクされたスラーが同じように動きます。同様に、リンクのグループ内で1つのスラーの長さを変更すると、すべてのリンクされたスラーの長さが同じように変更されます。

ただし、リンクのグループ内で1つのスラーを削除しても、選択したスラーが削除されるだけで、グループ全体は削除されません。

リンクされたスラーは、グループ内のいずれかのスラーが選択されると全体が強調表示されます。



リンクされた3つのスラーのうち一番上のスラーが選択された状態

スラーのリンクおよびリンク解除は手動でも行なえます。

関連リンク

[スラーの入力 \(216 ページ\)](#)

[スラーのリンクの解除 \(1142 ページ\)](#)

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(331 ページ\)](#)

スラーのリンク

Dorico Pro は、スラーやスラーを含むフレーズを譜表をまたいでコピーアンドペーストした場合、またはスラーを同時に入力した場合、同じ位置にある同じデュレーションのスラーを自動的にリンクさせます。一方、スラーは手動でもリンクできます。

手順

1. 記譜モードでリンクさせるスラーを選択します。

補足

リンクできるのは、同じ位置から開始する同じデュレーションのスラーだけです。

2. 「編集 (Edit)」 > 「スラー (Slurs)」 > 「リンク (Link)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
-

結果

選択したスラーがリンクします。

スラーのリンクの解除

自動的にリンクされたスラーは、たとえばそれぞれ個別に長さを変更する場合など、手動でリンクを解除できます。

手順

1. 記譜モードで、リンクされたグループの中からリンクが不要なスラーを選択します。
2. 「編集 (Edit)」 > 「スラー (Slurs)」 > 「リンクを解除 (Unlink)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択したスラーにリンクされたスラーのリンクが解除されます。

補足

グループから1つのスラーだけリンクを解除することはできません。

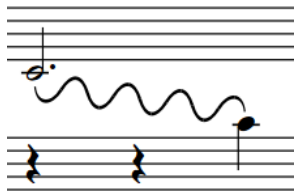
関連リンク

[貼り付け時の強弱記号とスラーの自動リンクをオフにする \(331 ページ\)](#)

スラーのセグメント

標準的なスラーは1つのセグメントからできています。複数セグメントによるスラーを使用すると、カーブが1つのスラーより複雑な形状を作成できるなど、より精巧な形状が実現します。

スラーにセグメントを追加すると、初期設定ではその長さの中に均等な幅の波状の線が作成されます。そのため、セグメントを増やすほどそれぞれの波の幅は短くなります。

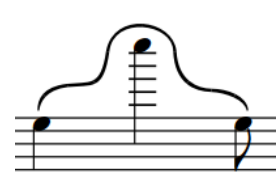


8つのセグメントによるスラー

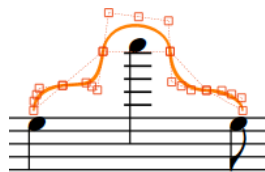
浄書モードでは、それぞれのセグメントに個別に5つの四角いハンドルのセットがあるため、スラー中の他のセグメントから独立して表示を変化できます。これにより、通常とは異なる複雑な形状をスラーに与えられます。

補足

計画している形状にあるカーブよりも多くのセグメントが必要となる場合があります。多くの場合、大きな角度変化ごとにセグメントが必要となるためです。Dorico Pro では、いつでもスラー内のセグメント数を増減できます。



5つのセグメントによって作成された通常とは異なる形状のスラー



同じスラーに5セグメントすべてのハンドルの位置を表示したもの

関連リンク

[スラーの形状の変更 \(1145 ページ\)](#)

[浄書モードの複数セグメントによるスラー \(1144 ページ\)](#)

スラーのセグメント数を個別に変更する

たとえば通常とは異なる形状のスラーを作成する場合などに、スラーのセグメント数を個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、セグメント数を変更するスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、「セグメント数 (Number of segments)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

値を大きくすると、スラーのセグメント数が増加します。値を小さくすると、スラーのセグメント数が減少します。

手順終了後の項目

ハンドルを使用すると、スラーのセグメントの形状をより詳細に調整できます。

補足

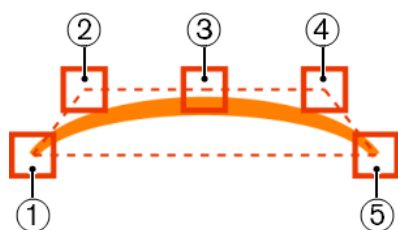
複数セグメントによるスラーのハンドルは、隣接するセグメントの対応する種類のハンドルにリンクしています。ハンドルを動かすと、リンクしたハンドルが同じだけ逆方向に移動します。

関連リンク

[スラーの形状の変更 \(1145 ページ\)](#)

浄書モードのスラー

浄書モードでは、各スラーには別個に動かせる5つの四角いハンドルがあります。浄書モードでスラーのハンドルを使用してスラーを編集するとき、各ハンドルはスラーの対応する部位を調整しますが、同時にスラーの他のハンドルの位置にも影響を与えます。



浄書モードでは、スラーには以下のハンドルがあります。

- 1 左の終端
- 2 左の制御ポイント
- 3 スラーの高さ
- 4 右の制御ポイント
- 5 右の終端

たとえば、左の終端を動かすとスラーの開始位置が移動しますが、他のハンドルは元の位置を保持します。しかし、右のコントロールポイントを動かすと、同時にスラーの高さのハンドルも移動されま

す。これにより、スラーの形状に対する精密な制御を実現しつつ、スムーズなカーブの形状が確保されます。

補足

複数セグメントによるスラーにおいては、制御ポイントのハンドル間には、他のハンドルとの連動に影響する追加のリンクが存在します。

これらのハンドルを移動してスラーの形状を変化させるには、キーボード、マウス、およびプロパティパネルの「スラー (Slurs)」のグループ下のプロパティを使用できます。スラー全体の形状は変えずに角度のみ変更することもできます。

関連リンク

[スラーの肩のオフセット \(1150 ページ\)](#)

[スラーの高さ \(1148 ページ\)](#)

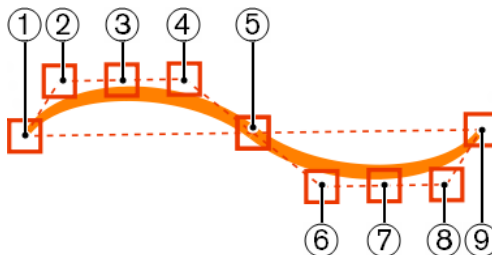
[スラーの形状の変更 \(1145 ページ\)](#)

[スラーの角度を個別に変更する \(1146 ページ\)](#)

浄書モードの複数セグメントによるスラー

浄書モードでは、S字型スラーなど複数セグメントによるスラーの各セグメントには、標準のスラーと同様のハンドルが表示されます。これらによって、複数セグメントによるスラーの各セグメントは、別々のスラーのように別個に編集できますが、一貫した形状を維持するために、特定のハンドルを動かすと他のハンドルも同時に移動します。

浄書モードでは、複数セグメントによるスラーには以下のハンドルがあります。



- 1 左の終端
- 2 左の制御ポイント
- 3 スラーの高さ
- 4 右の制御ポイント
- 5 中央の制御ポイント
- 6 左の制御ポイント
- 7 スラーの高さ
- 8 右の制御ポイント
- 9 右の終端

各ハンドルは標準のスラーと同様に選択して移動できますが、複数セグメントによるスラーのハンドルは隣接するセグメントとリンクしています。リンクした制御ポイントを動かすと、次または前のセグメントの開始側または終了側の制御ポイントが同じだけ逆方向に移動します。これにより鋭角の発生を防ぎ、複数セグメントによるスラーのカーブができるだけスムーズで対称形を保つようにします。

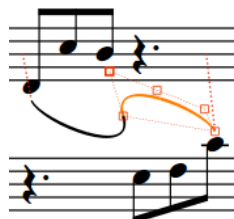
複数セグメントによるスラーでは、右の制御ポイントは隣接するセグメントの左の制御ポイントにリンクしています。隣接するセグメントがない場合、右または左の終端に隣接する制御ポイントは独立して動かせます。たとえば、上図のラベルに従えば、制御ポイント 4 は制御ポイント 6 とリンクしていますが、制御ポイント 2 と 8 は他の制御ポイントとリンクしていません。

同様に、スラーの高さのハンドルを動かすと、隣接するセグメントのスラーの高さのハンドルが同じだけ逆方向に移動します。たとえば、3セグメントあるスラーの真ん中のセグメントでスラーの高さのハンドルを動かすと、3つあるスラーの高さのハンドルすべてが移動します。

例



左の制御ポイントが選択されています。



選択した左の制御ポイントを左上に動かすと、隣のセグメントの右の制御ポイントが右下に移動します。

スラーの形状の変更

スラーの形状は個別に変更でき、ハンドルを動かして表示を変化させられます。これによりたとえば、個々の符頭に対し終端を調整できます。これはスラーの外観のみ変化させ、適用されるリズム上の位置は変化しません。

手順

1. 浄書モードで以下のいずれかの操作を行なって、移動するスラー全体またはスラーの個々のハンドルを選択します。
 - **[Ctrl]/[command]** を押しながら複数のスラーをクリックします。
 - スラー全体を選択した状態で **[Tab]** を押しと、最初のハンドルから次のハンドルへと選択が切り替わるので、移動させるハンドルが選択されるまで押し続けます。
 - 移動させるハンドルをクリックします。
 - 複数のスラーの個々のハンドルを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、スラーまたはハンドルを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押してハンドルを右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押してハンドルを左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押してスラーまたはハンドルを上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押してスラーまたはハンドルを下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- スラーをクリックして上または下にドラッグします。
- ハンドルをクリックして任意の方向にドラッグします。

補足

スラー全体は左右には動かせず、移動できるのは上下のみです。

3. 必要に応じて手順1と2を繰り返し、他のスラーやスラーのハンドルを移動します。

結果

選択したスラーまたはスラーのハンドルが移動します。選択したハンドルに応じて、対応するスラーの形状が変化する場合があります。

ヒント

スラーのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「スラー (Slurs)」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「開始オフセット (Start offset)」は、スラーの左側の終端を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「終了オフセット (End offset)」は、スラーの右側の終端を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「開始ハンドルオフセット (Start handle offset)」は、スラーの左制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「終了オフセット (End handle offset)」は、スラーの右制御ポイントを移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。

たとえば、スラー全体を右上に移動させた場合は、すべてのハンドルが移動されることにより、すべてのプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用して、数値フィールドの数値を変更することによっても、個々のスラーの形状を変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したスラーの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

手順終了後の項目

スラー全体の形状には影響を与えずに、角度のみ変更することもできます。

関連リンク

[スラーの高さ \(1148 ページ\)](#)

[スラーの肩のオフセット \(1150 ページ\)](#)

スラーの角度を個別に変更する

個々のスラーについて、全体の形状に影響することなく角度や回転を変更できます。

これはたとえば、組段区切りの後にくるスラーの開始側の端をデフォルト位置よりも高くする場合に、スラーの回転角度を変化させつつスラーのハンドルの相互の位置関係を保持できるため便利です。

手順

1. 浄書モードで、角度を変更するスラーの終端を選択します。

ヒント

- 複数のスラーから個々のハンドルを選択するには、**[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。
- 選択したアイテムだけでなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. **[Alt/Opt]** を押しながらかlickし、任意の方向にドラッグします。

補足

個々のスラーの角度変更にキーボードは使用できません。

結果

選択したスラーの角度や回転が、形状に影響することなく変更されます。

例



[Alt/Opt] を押さずに終端を移動した例



[Alt/Opt] を押しながら終端を移動した例

スラーの太さを個別に変更する

スラーの太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。スラーの中央部の太さをスラーの終端とは別に変更することもできます。

手順

1. 浄書モードで、太さを変更するスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
 - 終端の太さ (End thickness)
 - 中央部の太さ (Middle thickness)
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

値を大きくすると選択したスラーの対応する部分が太くなり、値を小さくすると細くなります。

ヒント

- プロパティをオフにすると、選択したスラーの対応する部分が初期設定の太さに戻ります。
- すべてのスラーのデフォルト太さに対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページで変更できます。

関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1137 ページ\)](#)

大きなピッチ差をつなぐ短いスラー

短いスラーが大きなピッチ差をつなぐときは、釣り合いを取るために大きく回転します。これにより、短いスラーの終端が過度に角ばってしまう場合があります。

スラーの制御ポイントのハンドルを動かして、カーブを調整できます。

3つの例のうち、真ん中のスラーが最もスムーズなカーブになっています。右側のスラーはハンドルの調整が不適切なため、カーブが過度に角ばっています。

下段にはハンドルの位置が表示され、それぞれの上段のカーブがどのように作成されているか示しています。



大きなピッチ差をつなぐ短いスラー、調整なし



同じスラーの形状を調整し、カーブをスムーズにしたもの



同じスラーへの調整が不適切で、カーブが過度に角ばっているもの



デフォルトのハンドルの位置



対応するスラーを形成するハンドルの位置



対応するスラーを形成するハンドルの位置

ヒント

スラーの終端を調整するときは、以下の指針に従うと最良の結果が得られます。

- スラーの低い側の制御ポイントが、その隣の終端のハンドルが示すスラーの幅の外側にはみ出さないこと。
- スラーの高い側の制御ポイントが、終端に対し 90 度より大きい角度をつくらないこと。角度の判断には破線を使用できます。

短いスラーの終端の形状調整には別のやり方もあります。

- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」のページの「デザイン (Design)」のセクションにある「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックして確認できる「短いスラーの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of short slur)」の値を大きくすることで調整し、プロジェクト全体に適用できます。
- 浄書モードのプロパティパネルで「開始ハンドルオフセット (Start handle offset)」および「終了ハンドルオフセット (End handle offset)」をオンにし、「X」の値を変更することで、個別に調整できます。
- 浄書モードのスラーのハンドルを動かすことで、個別に調整できます。

関連リンク

[浄書モードのスラー \(1143 ページ\)](#)

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1137 ページ\)](#)

[スラーの形状の変更 \(1145 ページ\)](#)

スラーの高さ

スラーの高さは、スラーが音符の上下に垂直方向にどれだけ延びるかを決定します。

スラーの高さの値に関するプロジェクト全体の設定は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページで変更できます。浄書モードでは、個々のスラーの高さについても変更できます。

スラーの高さを増やすと、譜表からより遠くまで延びようになります。これによりスラーの形状はより丸くなり、より多くの垂直方向のスペースを取るようになります。垂直方向のスペースが限られる状況では、スラーを丸くしてプレーヤーにとって読みやすくすることと、譜表に重ならないようにすることのバランスを取る必要があります。



デフォルトの高さの長いスラー



高さを増やした長いスラー



デフォルトの高さの長く平坦なスラー



高さを増やした長く平坦なスラー

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページの「デザイン (Design)」セクションにある「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすることで、短いスラー、短く平坦なスラー、長いスラー、および長く平坦なスラーの高さの値を設定し、プロジェクト全体に適用できます。

関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1137 ページ\)](#)

スラーの高さを変更する

たとえば特に長いスラーの高さを抑えるなどの場合に、個々のスラーの高さをプロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。

手順

1. 浄書モードで、高さを変更するスラーの中央のハンドル (高さのハンドル) を選択します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

結果

選択したスラーの高さが変更されます。

補足

- すっきりした見た目と釣り合いのとれた曲線を維持するためにスラーの高さを手動で変更する場合、スラーの高さハンドルを上下左右に少し移動する必要があります。

- スラーの高さのハンドルを左右に動かすと、スラー全体の形状に影響を与えます。
- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると、プロジェクト全体のスラーのデフォルトの高さを制御しているオプションがあります。短いスラーと長いスラーに個別の設定を使用できます。

関連リンク

[スラーの形状の変更 \(1145 ページ\)](#)

スラーの肩のオフセット

多くの場合、スラーの両端はスラーの弧より急な角度で符頭に近づくため、スラーの肩はスラーのカーブの角度に影響し、終端に向かってスラーが符頭に近づくようになります。

肩のオフセットを大きくするとカーブの始まりの角度がなだらかになり、肩のオフセットを小さくするとカーブの始まりの角度が急になります。よって理想的なカーブのためには、肩のオフセットはスラーの高さとのバランスを取らなければなりません。



初期設定の肩のオフセットが 1/5 の長いスラー



肩のオフセットを 1.5 に上げた長いスラー



肩のオフセットを 1/2 に下げた長いスラー

スラーおよび平坦なスラーの肩のオフセットに対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページの「**デザイン (Design)**」セクションにある「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると確認できる、以下のオプションの値によって変更できます。

- 短いスラーの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of short slur)
- 長いスラーの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of long slur)
- 平坦なスラーの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of flat slur)

個々のスラーの肩の調整は、浄書モードで行なえます。

関連リンク

[スラーの高さ \(1148 ページ\)](#)

スラーの肩のオフセットを変更する

スラーの制御ポイントのハンドルを移動して、プロジェクト全体の設定とは別に個別のスラーの肩を調整できます。それぞれの制御ポイントは個別に移動できます。

手順

1. 浄書モードで、肩の調整を行なうスラーの制御ポイントのハンドルの 1 つを以下のいずれかの操作を行なって選択します。
 - スラー全体を選択した状態で **[Tab]** を押すと、最初のハンドルから次のハンドルへと選択が切り替わるので、移動させるハンドルが選択されるまで押し続けます。
 - 移動させるハンドルをクリックします。

- 複数のスラーの個々のハンドルを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。
3. 必要に応じて、肩の調整を行なうスラーの他の制御ポイントのハンドルについても、手順 1 と 2 を繰り返します。

結果

選択したスラーの肩のオフセットが変更されます。

ヒント

- スラーのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
 - 「**開始ハンドルオフセット (Start handle offset)**」は、スラーの左制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
 - 「**終了オフセット (End handle offset)**」は、スラーの右制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用して、数値フィールドの数値を変更することによっても、個々のスラーの肩のオフセットを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したスラーの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると、プロジェクト全体のスラーのデフォルトの肩のオフセットを制御しているオプションがあります。短いスラーと長いスラーに個別の設定を使用できます。

関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1137 ページ\)](#)

スラーのカーブ方向

スラーのカーブは上向き、下向き、または複数セグメントによる S 字型の形状を取ります。

プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」のグループの「**方向 (Direction)**」をオンにすると、スラーのカーブ方向に関する以下のオプションが使用できるようになります。

上 (Up)

スラーのカーブ方向を強制的に上向きにして、音符の上に表示します。



下 (Down)

スラーのカーブ方向を強制的に下向きにして、音符の下に表示します。



上/下 (Up/Down)

スラーに強制的に2つのセグメントを与え、1つめは上向きのカーブ、2つめは下向きのカーブで逆S字型を形成します。通常これはピアノパートの、たとえばフレーズが下段の譜表から始まり上段の譜表で終わるようなときなどに使用されます。



下/上 (Down/Up)

スラーに強制的に2つのセグメントを与え、1つめは下向きのカーブ、2つめは上向きのカーブでS字型を形成します。通常これはピアノパートの、たとえばフレーズが上段の譜表から始まり下段の譜表で終わるようなときなどに使用されます。



ヒント

浄書モードで各スラーの四角いハンドルを使用することで、個々のスラーおよびスラーの各セグメントの詳細な形状を調整できます。

関連リンク

[浄書モードのスラー \(1143 ページ\)](#)

[スラーの形状の変更 \(1145 ページ\)](#)

スラーのカーブ方向を変更する

個々のスラーのカーブ方向は、プロジェクト全体の設定より優先される形で、上向き、下向き、または複数セグメントによるS字型に変更できます。

手順

1. カーブ方向を変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、「方向 (Direction)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上 (Up)
 - 下 (Down)
 - 上/下 (Up/Down) (逆S字型)
 - 下/上 (Down/Up) (S字型)

結果

選択したスラーのカーブ方向が変更されます。

ヒント

- 浄書モードで各スラーのハンドルを使用することで、スラーおよびスラーの各セグメントの詳細な形状を調整できます。

- スラーのデフォルトのカーブ方向をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」にある「**スラー (Slurs)**」ページで設定を行ないます。
-

関連リンク

[浄書モードのスラー \(1143 ページ\)](#)

[スラーの形状の変更 \(1145 ページ\)](#)

スラーのスタイル

Dorico Pro ではさまざまなスタイルのスラーが利用でき、それぞれ異なる意味を示すとともに異なる状況で使用されます。

プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループの「**スタイル (Style)**」をオンにすると、スラーのスタイルに関する以下のオプションが使用できるようになります。

実線 (Solid)

これはスラーのデフォルトのスタイルです。先細の実線で表示されるスラーです。先に行くほど細く、中央ほど太くなります。



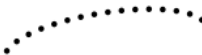
破線 (Dashed)

先細の破線で表示されるスラーです。たとえばブレスやボウイングの推奨されるパターンを示すためのオプションのスラーとして使用される場合があります。



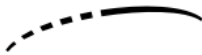
点線 (Dotted)

点線で表示されるスラーです。スラー全体の長さにわたって同サイズの点が等間隔で並びます。



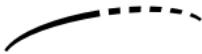
前半部分が破線 (Half-dashed start)

スラーの前半が破線で表示され、後半が実線で表示されます。校訂版で、元版ではスラーが不完全な形で記譜されていたことを表現するのに使用されます。



後半部分が破線 (Half-dashed end)

スラーの前半が実線で表示され、後半が破線で表示されます。校訂版で、元版ではスラーが不完全な形で記譜されていたことを表現するのに使用されます。



編者注 (Editorial)

黒い実線で表示されますが、長さのちょうど半分的位置に短い縦線が、スラーの曲線と垂直に交差しています。スラーが編集者によって追加されたもので、元版にはなかったものであることを示すのに使用されます。



ヒント

これらのオプションそれぞれの詳細なパラメーターは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページで設定してプロジェクト全体に適用できます。たとえば「**編者注 (Editorial)**」のスラーの短い縦線の長さや幅、点線の点の直径や破線の線の長さ、点線や破線の間隔の大きさなどを変更できます。

スラーのスタイルの変更

個々のスラーは入力後にスタイルを変更できます。

手順

1. スタイルを変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、「**スタイル (Style)**」をオンにします。
 3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **実線 (Solid)**
 - **破線 (Dashed)**
 - **点線 (Dotted)**
 - **前半部分が破線 (Half-dashed start)**
 - **後半部分が破線 (Half-dashed end)**
 - **編者注 (Editorial)**
-

スラーの破線/点のサイズを個別に変更する

破線/点線のスラーの破線の長さや点の大きさは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

補足

これらの手順は破線/点線のスラーにのみ適用されます。

手順

1. 浄書モードで、破線の長さ/点の大きさを変更する破線/点線のスラーを選択します。
 2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
 - 破線のスラーの場合は、「**破線の長さ (Dash length)**」をオンにします。
 - 点線のスラーの場合は、「**点の大きさ (Dot size)**」をオンにします。
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

値を大きくすると破線が長く、点が大きくなり、値を小さくすると破線が短く、点が小さくなります。

ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると、プロジェクト全体の破線/点線のスラーの線/点のデフォルトの大きさを設定しているオプションがあります。

関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1137 ページ\)](#)

破線/点線のスラーの間隔の大きさを変更する

破線/点線のスラーの間隔の長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、間隔の長さを変更する破線/点線のスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
 - 破線のスラーの場合は、「破線の間隔の長さ (Dash gap length)」をオンにします。
 - 点線のスラーの場合は、「点線の間隔の長さ (Dot gap length)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

値を大きくすると破線/点線の間隔が大きくなります。値を小さくすると破線/点線の間隔が小さくなります。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると、プロジェクト全体の破線/点線のスラーの間隔のデフォルトの長さを設定するオプションがあります。

個々のスラーの平坦なスラーへの変更

標準として使用されることはあまりありませんが、一部の出版社は、スラーが占める垂直方向のスペースを削減するために平坦なスラーを使用します。個々のスラーは、プロジェクト全体の設定より優先される形で、平坦なスラーに個別に変更できます。

補足

少数の音符をつなぐような短いスラーは、平坦なスラーにすると外見が奇妙になる場合があるため、プロジェクト全体で平坦な曲線スタイルを選択するのは適切ではない場合があります。しかし、プロジェクト中で1、2回だけ平坦なスラーを使用するのもまた風変わりだと考えられます。そのため、プロジェクト中の1つか2つのスラーでのみ曲線スタイルを変更することは避けるようおすすめします。

曲線スタイルを変更するよりも、たとえば個々のスラーの太さの変更、スラーの肩のオフセットの調整、またはスラーの高さのハンドルを使用した高さの調整を浄書モードで行なうことの方がより効果的である場合があります。

手順

1. 曲線スタイルを変更するスラーを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「スラー (Slurs)」グループで、「曲線スタイル (Curvature style)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 通常 (曲線) (Normal (curved))
 - フラット (Flat)

結果

選択したスラーの曲線スタイルが変更されます。

ヒント

すべてのスラーの曲線スタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」のページにある「デザイン (Design)」のセクションで変更できます。

関連リンク

[スラーの太さを個別に変更する \(1147 ページ\)](#)

[スラーの高さを変更する \(1149 ページ\)](#)

[スラーの肩のオフセットを変更する \(1150 ページ\)](#)

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1137 ページ\)](#)

スラーの衝突回避

Dorico Pro は初期設定では、スラーと弧内のアイテムとの衝突を回避するように、形状と位置を自動的に調整します。

つまりある符頭が、上向きにカーブするスラーの中で他より高い位置にある場合、または下向きにカーブするスラーの中で他より低い位置にある場合、衝突を回避しつつ符頭がスラー内に収まるように、スラーのカーブが調整されます。衝突回避は個々のスラーにおいて手動で無効にできます。

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページの「衝突の回避 (Avoiding Collisions)」セクションでは、衝突回避のためにスラーを調整する方法のオプションを選択できます。これには、調整におけるスラーの形状の変更と終端の移動のバランスの選択や、左右非対称なスラーを認めるかどうかなどが含まれます。



衝突回避が有効化されたスラー (デフォルト)



衝突回避が無効化されたスラー

譜表をまたぐスラーの衝突回避

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「スラー (Slurs)」ページの「衝突の回避 (Avoiding Collisions)」セクションでは、譜表をまたぐスラーの衝突回避をオンまたはオフにできます。

これにより衝突が回避されますが、譜表をまたぐスラーの配置は複雑さが増すため、浄書モードにおける手動の調整がさらに必要となる場合があります。

補足

譜表間の S 字型スラーは衝突回避を一切行わないため、この設定は適用されません。

フラットの臨時記号を二分するスラー

出版される楽譜における記譜規則に従えば、スラーは垂直方向のスペースを抑えるためにフラットの臨時記号の棒を二分できますが、シャープやナチュラルを二分できません。



「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページでは、スラーによるフラット記号の二分の禁止を選択したり、フラット記号の棒がスラーの上に突き抜ける最大量を変更したりできます。

関連リンク

[浄書オプションでスラーの設定をプロジェクト全体に適用する \(1137 ページ\)](#)

スラーの衝突回避を有効化/無効化する

個々のスラーについて、プロジェクト全体の設定より優先される形で、衝突回避のための自動調整を有効化/無効化できます。

手順

1. 浄書モードで、衝突回避を有効化または無効化するスラーを選択します。
2. プロパティパネルの「**スラー (Slurs)**」グループで、「**自動カーブ調整の無効化 (Disable auto curve adjustment)**」をオンまたはオフにします。

結果

選択したスラーが、プロパティをオンにしたときは衝突回避を行わず、プロパティをオフにしたときは衝突回避を行なうようになります。

ヒント

プロジェクト全体の譜表をまたぐスラーすべての衝突回避については、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**スラー (Slurs)**」ページにある「**衝突の回避 (Avoiding Collisions)**」セクションで有効化/無効化できます。

またこのセクションでは、衝突回避を行なうスラーの形状および終端の位置に関するデフォルト設定のカスタマイズも行なえます。

組段およびフレーム区切りをまたぐスラー

スラーは組段区切りおよびフレーム区切りを自動的にまたぎます。

組段区切りまたはフレーム区切りは、スラーを2つに分割します。スラーの前半の終わり、およびスラーの後半の始まりは、どちらも初期設定では譜表より垂直に1スペース外側に配置されます。

浄書モードでは、スラーのそれぞれの部分を個別に移動および編集できます。これにより、スラーのそれぞれの部分の開始位置または終了位置の高さを、組段ごとに個別に調整できます。

区切りで分割されるフレーズに入れ子状のスラーが含まれるような場合など、複数のスラーが同じ組段区切りまたはフレーム区切りをまたぐ場合は、スラーの終端は自動的に揃えて重ねられ、垂直に1/2スペース以上の間隔を空けられます。



スラーの前半部分を表示する組段の終わり。右側の終端は次の組段への延長を示しています。



スラーの広範部分を表示する組段の始まり。左側の終端は前の組段から延長してきたことを示しています。

関連リンク

[浄書モードのスラー \(1143 ページ\)](#)

[スラーの形状の変更 \(1145 ページ\)](#)

再生時のスラー

再生時、スラーはレガートの演奏技法を実行します。初期設定では、これは楽譜上の記譜に影響することなく、MIDI ノートの長さを延長します。

スラーなしの音符が記譜上のデュレーションの 85% の長さで発音されるのに対し、スラーの音符は記譜上のデュレーションの 105% の長さで発音されます。

スラーの最後の音符は、そのあとにスラーがなく、レガートの演奏技法が必要とされないため、記譜上のデュレーションの 85% の長さで発音されます。

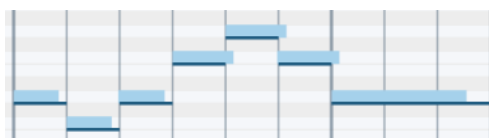
ヒント

- スラーの音符の発音上のデュレーションのデフォルト値は、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「タイミング (Trills)」のページで変更できます。
- 一方の声部にスラーがあり、もう一方の声部にスタッカートがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にできます。

例では、スラーが使用されると、明るい色で塗りつぶされた長方形で示される MIDI ノートが長くなること示されています。暗い色の細い線は、それぞれの音符の記譜上のデュレーションを示しています。はじめの 3 音はスラーされておらず、MIDI ノートの長さを示す長方形は記譜上のデュレーションより短くなっています。うしろの 4 音はスラーされており、MIDI ノートの長さが記譜上の長さより長くなることにより、レガートされたスラーのサウンドになります。ただし、スラーのフレーズの最後の音符は標準のスラーされていない音符として扱われるため、スラーのグループの最後の音符は長くなっていません。



インストゥルメントの譜表上のフレーズ



再生モードのピアノロールで表示される同じフレーズ

関連リンク

[「再生オプション」ダイアログ \(509 ページ\)](#)

[演奏される音符のデュレーションと記譜された音符のデュレーション \(600 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

譜表ラベル

譜表ラベルは、複数のプレーヤーに割り振られた楽譜で譜表を特定するために使用され、各組段の最初の小節線の左側に配置されます。譜表ラベルは、それが付記されている譜表の内容を現在演奏するインストゥルメントを示します。

インストゥルメント名は、各フローの最初の組段の譜表ラベルにおいて完全な形で、以降の組段の譜表ラベルにおいては省略された形で表示するのが通例となっています。省略されたインストゥルメント名を使用すると水平方向のスペースが節約され、各組段により多くの楽譜を書き込めます。



フローの最初の組段の譜表ラベルの例

Dorico Pro では、譜表ラベルには「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」のダイアログで各インストゥルメントごとに設定されたインストゥルメント名が使用されます。ダイアログでは、各インストゥルメント名の単数形と複数形、および省略形の単数形と複数形をそれぞれ指定できます。

ヒント

譜表ラベルのインストゥルメントの数を手動で指定する必要はありません。Dorico Pro は、同じタイプのインストゥルメントを演奏する同じタイプのプレーヤーが複数いる場合、自動的にその数を特定します。

パートレイアウトは初期設定では譜表ラベルを表示しません。ほとんどのパートに譜表は1つしか含まれず、それが何のための楽譜であるかはレイアウト名と状況から明らかだからです。初期設定のパートレイアウトでは、レイアウト名は1ページめの左上に表示されます。

補足

レイアウト名は、譜表ラベルに使用されるインストゥルメント名とは異なります。

複数のインストゥルメントが割り当てられたプレーヤーに対し、譜表ラベルはプレーヤーが現在演奏しているインストゥルメントを表示します。プレーヤーが組段の途中でインストゥルメントを変更する場合、新しいインストゥルメント名は最初の音符の位置で譜表の上に表示され、譜表ラベルは次の組段の開始位置から更新されます。

補足

譜表ラベルは、最初の組段の譜表ラベルなどで、プレーヤーに割り当てられるインストゥルメントをすべて表示することはありません。そのためスコアの冒頭には、楽器の持ち替えをすべて示す完全なインストゥルメントのリストを掲載する必要があります。

Dorico Pro は、移調楽器の譜表ラベルにインストゥルメントの移調、またはインストゥルメントのピッチを初期設定で表示します。移調楽器とは、記譜上のピッチと発音上のピッチが異なるインストゥルメントです。

インストゥルメントの移調、またはインストゥルメントのピッチを譜表ラベルに表示する条件は変更できます。また、譜表ラベルにおいてインストゥルメントの移調をインストゥルメント名の前後いずれに表示するかも変更できます。

MusicXML ファイルから読み込まれた譜表ラベル

MusicXML ファイルを Cubase から書き出して Dorico Pro に読み込む場合、ファイルの書き出しの前に Cubase の **スコアエディター** でインストゥルメント名を変更し、Dorico Pro が使用する英語のインストゥルメント名と同じにしておくことで、インストゥルメント自動選択の精度を上げられます。

関連リンク

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(143 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(115 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(144 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(147 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベル \(1200 ページ\)](#)

[コンデンシングされた譜表の譜表ラベル \(1170 ページ\)](#)

譜表ラベルに表示されるインストゥルメント名

譜表ラベルには各インストゥルメントに設定されたインストゥルメント名が使用されます。譜表ラベルにはインストゥルメントの完全な名称か略称を表示できます。

「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページでは、譜表ラベルに完全な名称または略称によるインストゥルメント名を表示するか、または非表示にするか、レイアウトごとに個別に選択できます。

- 「**完全 (Full)**」を選択した譜表ラベルは、インストゥルメントの完全な名称を使用します。
- 「**省略 (Abbreviated)**」を選択した譜表ラベルは、インストゥルメントの略称を使用します。
- 「**なし (None)**」を選択すると、譜表ラベルが非表示になります。

インストゥルメント番号は、完全な譜表ラベルと省略された譜表ラベルの両方に自動的に表示されません。

補足

- 各インストゥルメントの完全な名称と略称の切り替えは、設定モードの「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログで行なえます。
- インストゥルメント名を変更しても、各パートレイアウトの上部に表示される名前は変化しません。これにはレイアウト名が使用されているためです。レイアウト名は設定モードで変更できません。

関連リンク

[プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(143 ページ\)](#)

[インストゥルメントのナンバリング \(115 ページ\)](#)

[譜表ラベルを表示/非表示にする \(1162 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」 ダイアログ \(144 ページ\)](#)
[インストゥルメント名の変更 \(147 ページ\)](#)

譜表ラベルのパラグラフスタイル

譜表ラベルはサイズ、スペーシング、配置、その他形式設定オプションなど、フォントの形式設定にパラグラフスタイルを使用します。インストゥルメント名とインストゥルメントの番号の垂直位置が異なっている場合など、譜表ラベルが複数の分かれた部分で構成されている場合は、それぞれの部分の形式を個別に設定できます。

Dorico Pro には、譜表ラベルに関する以下のデフォルトのパラグラフスタイルがあります。

- **譜表ラベル (Staff Labels):** インストゥルメント名とインストゥルメントの番号が隣り合って整列している場合にデフォルトで使用されるスタイルです。ディヴィジ譜表上のグループラベル、複数ある同一のインストゥルメントの間に配置されたインストゥルメント名、またはコンデンシングされた譜表の譜表ラベルのプレーヤー番号の間に配置されたインストゥルメント名にも使用されます。
- **譜表ラベル (内) (Staff Labels (Inner)):** ディヴィジグループの個別の譜表、複数ある同一のインストゥルメントの間にインストゥルメント名が配置されている場合のインストゥルメントの番号、またはコンデンシングされた譜表ラベルのプレーヤー番号に使用されます。
- **譜表ラベル (打楽器グリッド) (Staff Labels (Percussion Grid)):** グリッドを使用した打楽器キットのレイアウトで使用されます。

それぞれのパラグラフスタイルは「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで個別に編集できます。たとえば、外側の譜表ラベルは左揃え、内側の譜表ラベルは右揃え、という具合に設定できます。

ヒント

ディヴィジ譜表の譜表ラベルの外観や配置のより詳細な変更は、個別のディヴィジ作成で行なえます。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」 ダイアログ \(415 ページ\)](#)
[ディヴィジの譜表ラベルの編集 \(1200 ページ\)](#)
[コンデンシングされた譜表の譜表ラベル \(1170 ページ\)](#)

浄書オプションで譜表ラベルの設定をプロジェクト全体に適用する

プロジェクト全体の譜表ラベルの外観と配置のオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**譜表ラベル (Staff Labels)**」ページにあります。

たとえば、譜表ラベルと組段の小節線との距離や、インストゥルメント番号の数字にアラビア数字とローマ数字のいずれを使用するかなどを変更できます。また、隣接する同一のソロインストゥルメントのインストゥルメント名について、グループ化して全体の譜表間に1つ中央揃えで表示するか、それとも譜表ごとに1つずつ表示するかや、声楽の譜表ラベルを全大文字と頭文字大文字のいずれで表示するかも指定できます。オッサラ譜表のラベルおよびコンデンシングされた譜表の譜表ラベルに特化したオプションもあります。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

ヒント

「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」にある「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」ページで、組段に表示される譜表ラベルの長さを各レイアウトごとに個別に変更できます。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[譜表ラベルの番号スタイルの変更 \(1168 ページ\)](#)

[声楽の譜表のラベルを全大文字/頭文字大文字で表示する \(1169 ページ\)](#)

譜表ラベルを表示/非表示にする

レイアウトごとに個別に、譜表ラベルにインストゥルメントの正式名称または略称を表示するか、すべての譜表ラベルを完全に非表示にするか選択できます。各フローの最初の組段と、後続するすべての組段には、異なる譜表ラベルの長さを設定できます。

初期設定では、フルスコアレイアウトでは各フローの最初の組段には完全な譜表ラベルが表示され、以降の組段には省略された譜表ラベルが表示されます。パートレイアウトでは、譜表ラベルはどの組段にも表示されません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、譜表ラベルの表示/非表示を切り替えるレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**最初の組段の譜表ラベル (Staff labels on first system)**」メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **完全 (Full)**
 - **省略 (Abbreviated)**
 - **なし (None)**
5. 「**次の組段の譜表ラベル (Staff labels on subsequent systems)**」のメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **完全 (Full)**
 - **省略 (Abbreviated)**
 - **なし (None)**
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトの対応する譜表で、譜表ラベルの表示/非表示が切り替えられます。

- 「**なし (None)**」を選択すると、譜表ラベルが非表示になります。
- 「**完全 (Full)**」と「**省略 (Abbreviated)**」を選択すると、対応するインストゥルメント名の長さで譜表ラベルが表示されます。

ヒント

- これらの設定は、プロジェクト全体ではなく、そのレイアウトの各フローに適用されます。たとえば、プロジェクトの最初のフローの最初の組段には完全な譜表ラベルを表示しつつ、以降すべてのフローの最初の組段には省略された譜表ラベルを表示するような場合は、レイアウトの大部分のフローに適切な設定を選択し、必要に応じて少数側の譜表ラベルの長さを個別に変更することをおすすめします。

- 完全なインストゥルメント名と略称は、ともに「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」のダイアログで編集できます。

関連リンク

[譜表ラベルに表示されるインストゥルメント名 \(1160 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(147 ページ\)](#)

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(144 ページ\)](#)

[特定の位置の譜表ラベルを表示/非表示にする \(1163 ページ\)](#)

[譜表ラベル内のディヴィジのセクション番号を表示/非表示にする \(1202 ページ\)](#)

譜表ラベルの付いた組段の最小インデントの変更

水平方向のスペースを最適化するために、譜表ラベルの付いた組段すべての最小インデントをレイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 譜表ラベルの付いた組段の最小インデントを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**譜表ラベルの付いた組段の最小インデント (Minimum indent for systems with staff labels)**」の値を変更します。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

譜表ラベルの付いた組段すべての最小インデントが選択したレイアウトで変更されます。

関連リンク

[組段のインデント \(1190 ページ\)](#)

[最初の組段のインデントの変更 \(1191 ページ\)](#)

[組段の開始位置/終了位置の変更 \(438 ページ\)](#)

特定の位置の譜表ラベルを表示/非表示にする

特定の位置の譜表ラベルについて、レイアウトごとの設定より優先される形で、インストゥルメント名の表示を完全、省略、なしのいずれかに切り替えられます。これはたとえば、最初のフローの開始位置には完全な譜表ラベルを表示しつつ、後続のフローの開始位置では省略された譜表ラベルを表示する場合や、合唱の楽譜において、複雑なパート、ソロライン、またはディヴィジラインを含む組段にのみ譜表ラベルを表示する場合などに使用します。

前提条件

- 譜表ラベルのインストゥルメント名の長さを変更する位置に、組段区切りまたはフレーム区切りを挿入しておきます。
- 組段/フレーム区切りの位置にはガイドが表示されます。

手順

1. 浄書モードで、譜表ラベルの表示/非表示を切り替える位置の組段区切りまたはフレーム区切りのガイドを選択します。
2. プロパティパネルの「形式 (Format)」グループで、「譜表ラベル (Staff labels)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 完全 (Full)
 - 省略 (Abbreviated)
 - なし (None)

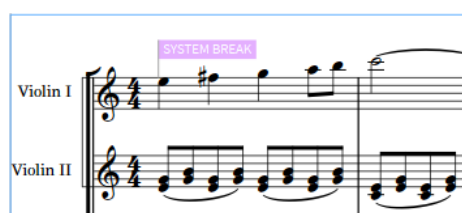
結果

選択した組段区切りまたはフレーム区切りに対応する組段の譜表ラベルの表示/非表示が切り替えられます。組段が楽譜フレームいっぱいに広がるように、水平方向のスペーシングが自動的に調整されます。

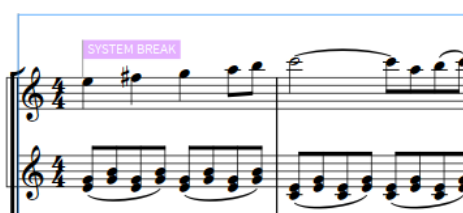
- 「なし (None)」を選択すると、譜表ラベルが非表示になります。
- 「完全 (Full)」と「省略 (Abbreviated)」を選択すると、対応するインストゥルメント名の長さで譜表ラベルが表示されます。

プロパティをオフにすると、選択した組段区切りがプロジェクトレイアウトの設定に従う状態に戻ります。

例

Musical score for Violin I and Violin II. The score is in 4/4 time and contains a system break. The staff labels 'Violin I' and 'Violin II' are displayed to the left of their respective staves.

完全な譜表ラベルが表示された状態

Musical score for Violin I and Violin II, identical to the previous example, but the staff labels 'Violin I' and 'Violin II' are not displayed.

譜表ラベルが表示されない状態

関連リンク

[譜表ラベル \(1159 ページ\)](#)

[譜表ラベルに表示されるインストゥルメント名 \(1160 ページ\)](#)

[譜表ラベルを表示/非表示にする \(1162 ページ\)](#)

[組段区切りの挿入 \(472 ページ\)](#)

[フレーム区切りの挿入 \(470 ページ\)](#)

[組段区切りガイドの表示/非表示の切り替え \(473 ページ\)](#)

[フレーム区切りガイドの表示/非表示 \(471 ページ\)](#)

譜表ラベルに表示されるインストゥルメントの移調

インストゥルメントの移調は、音符に従いインストゥルメントが演奏する音と実音とのピッチ差を示します。FホルンやB♭クラリネットなどの移調楽器には、通常インストゥルメント名やレイアウト名の一部として移調が表示され、これはインストゥルメントの音程とも呼ばれます。

各移調楽器の「インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)」のダイアログにある「移調を表示 (Show transposition)」のオプションの設定によっては、レイアウトで譜表ラベルの移調を非表示に設定していたとしても、譜表ラベルに移調が表示される場合があります。

Dorico Pro では、B \flat クラリネットや B \flat トランペットのような一般的な移調楽器については、譜表ラベルにおけるインストゥルメントの移調の表示/非表示はレイアウト設定に従うように設定されています。

混乱を避けるため、A クラリネットや E トランペットなど一般的ではない移調楽器については、レイアウトでインストゥルメントの移調を非表示に設定したとしても、常に譜表ラベルに移調を表示するように設定されています。

関連リンク

[「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」 ダイアログ \(144 ページ\)](#)

[移調楽器 \(118 ページ\)](#)

[インストゥルメント名の変更 \(147 ページ\)](#)

譜表ラベルのインストゥルメントの移調を表示/非表示にする

譜表ラベルでインストゥルメントの移調を表示するか非表示にするかは、レイアウトごとに個別に切り替えられます。たとえば、フルスコアレイアウトではインストゥルメントの移調を非表示にして、パートレイアウトでは表示させることができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、譜表ラベルのインストゥルメントの移調を表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションの「**インストゥルメントの音程または移調 (Instrument pitch or transposition)**」について、以下のオプションをオンまたはオフにします。
 - **完全な譜表ラベルに表示 (Show in full staff labels)**
 - **省略された譜表ラベルに表示 (Show in abbreviated staff labels)**
5. 必要に応じて、他のレイアウトにも手順 2 から 4 を繰り返します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

対応するチェックボックスをオンにすると、選択したレイアウトの対応する長さの譜表ラベルにインストゥルメントの移調が表示され、対応するチェックボックスをオフにすると非表示になります。

補足

各移調楽器の「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」のダイアログにある「**移調を表示 (Show transposition)**」のオプションの設定によっては、レイアウトで譜表ラベルの移調を非表示に設定していたとしても、譜表ラベルに移調が表示される場合があります。

関連リンク

[インストゥルメント名の変更 \(147 ページ\)](#)

完全な譜表ラベルにおけるインストゥルメントの移調の位置の変更

譜表ラベルでインストゥルメントの移調をインストゥルメント名の前後どちらに表示するかは、レイアウトごとに個別に切り替えられます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. インストゥルメントの移調の位置を変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**譜表ラベルを完全表示した際のインストゥルメントの音程の位置 (Position of instrument pitch in full staff labels)**」の以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **先頭 (Start)**
 - **末尾 (End)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

譜表ラベルのインストゥルメント名に対するインストゥルメントの移調の位置が選択したレイアウトで変更されます。

移調の異なるインストゥルメントの番号の扱いの別個/一緒に切り替える

たとえば F のホルン 2 本と D のホルン 2 本のように、移調は異なる同種のインストゥルメントが複数あるとき、インストゥルメントの番号付けを別個に扱うか一緒に扱うかをプロジェクト全体のすべての譜表で変更できます。Dorico Pro の初期設定では、移調の異なるインストゥルメントの番号付けは別個に扱われます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
3. 「**番号 (Numbering)**」のサブセクションの「**移調が異なる類似のインストゥルメントの番号付け (Numbering for similar instruments with different transpositions)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **別個に扱って番号付けする (Number separately)**
 - **一緒に扱って番号付けする (Number together)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にする

各レイアウトの各フローの開始位置で個別にインストゥルメントの変更ラベルを表示/非表示にできます。これらのラベルは、譜表ラベルが通常は表示されないパートレイアウトで、複数の楽器を持つプレイヤーに必要な楽器を明示するのに役立ちます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、フローの開始位置でインストゥルメントの変更ラベルを表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「プレイヤー (Players)」をクリックします。
4. 「インストゥルメントの変更 (Instrument Changes)」セクションで、「フローの開始位置にインストゥルメントの変更ラベルを表示 (Show instrument change label at start of flow)」をオン/オフにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

「フローの開始位置にインストゥルメントの変更ラベルを表示 (Show instrument change label at start of flow)」がオンの場合は選択したレイアウトの各フローの最初の小節にインストゥルメントの変更ラベルが表示され、オフの場合は非表示になります。

隣接する同一のインストゥルメントの譜表ラベルをグループ化する

複数の隣接するソロプレイヤーが同じインストゥルメントに割り当てられている場合、それらをグループ化して全体にはインストゥルメント名を1つだけ表示させ、個々の譜表の横にはインストゥルメント番号を表示するようにできます。

初期設定では、すべての譜表には該当するインストゥルメント名を含む譜表ラベルが個別に表示されません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. ページリストの「譜表ラベル (Staff Labels)」をクリックします。
3. 「番号 (Numbering)」のサブセクションで、「同種のソロ楽器が隣接する場合の譜表ラベル (Staff labels for identical adjacent solo instruments)」に「譜表をグループ化する (Group between staves)」を選択します。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

プロジェクト全体のすべてのレイアウトで、すべての隣接する同一のソロインストゥルメントに対し、1つのインストゥルメント名が中央揃えで表示されます。

例



The image shows a musical score for two violins. The tempo is marked 'Allegro'. The first staff is labeled 'Violin 1' and the second staff is labeled 'Violin 2'. Both staves contain musical notation in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C).

個別に譜表ラベルが表示された譜表



The image shows a musical score for two violins. The tempo is marked 'Allegro'. The first staff is labeled '1' and the second staff is labeled '2'. Both staves contain musical notation in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C).

隣接する同一のソロインストゥルメントがグループ化された譜表ラベル

関連リンク

[コンデンスされた譜表の譜表ラベル \(1170 ページ\)](#)

譜表ラベルの番号スタイルの変更

ソロプレーヤーおよびセクションプレーヤーの譜表ラベルの番号スタイルは個別に変更できます。たとえば、ソロプレーヤーには2のようなアラビア数字を、セクションプレーヤーにはIIのようなローマ数字をそれぞれ設定できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
3. 「**番号 (Numbering)**」のサブセクションの「**ソロプレーヤーの番号スタイル (Numbering style for solo players)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - アラビア数字 (Arabic numerals)
 - ローマ数字 (Roman numerals)
4. 「**セクションプレーヤーの番号スタイル (Numbering style for section players)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - アラビア数字 (Arabic numerals)
 - ローマ数字 (Roman numerals)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

ソロプレーヤーおよびセクションプレーヤーに関連付けられた楽器は、プロジェクト全体で選択された番号スタイルを使用します。

関連リンク

[コンデンスされた譜表の譜表ラベル \(1170 ページ\)](#)

[コンデンス \(477 ページ\)](#)

声楽の譜表のラベルを全大文字/頭文字大文字で表示する

声楽の譜表ラベルを全大文字または頭文字大文字で表示できます。ヨーロッパの多くの出版社は、声楽の譜表に全大文字の譜表ラベルを使用することを好みますが、これはすべての出版社に共通するわけではありません。

手順


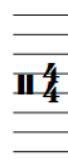
1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
3. 「**大文字/小文字 (Case)**」のサブセクションにある「**声楽の譜表のラベル: (Labels for vocal staves)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **全大文字 (Shown in uppercase)**
 - **頭文字大文字 (Shown in title case)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

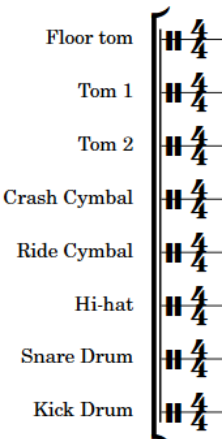
結果

プロジェクト全体の声楽の譜表に使用される譜表ラベルが、全大文字または頭文字大文字のいずれかになります。

打楽器キットの譜表ラベル

打楽器キットの譜表に表示される譜表ラベルは、プロジェクトにおけるキットの表示方法によって異なります。キットは5線譜、グリッド、または1線譜を使用するインストゥルメントとして表示できます。

打楽器キットの表示タイプ	譜表ラベル	例
5線譜	打楽器キットのインストゥルメント名を使用する1つのインストゥルメント名	Percussion 
グリッド	複数のインストゥルメント名: キットの構成インストゥルメント1つにつき1つのラベルが、対応するインストゥルメントの譜表の位置に配置されます。 グリッドの譜表ラベルは小さめのフォントと、標準のインストゥルメント用譜表ラベルとは異なるパラグラフスタイルを使用します。	

打楽器キットの表示タイプ	譜表ラベル	例
1 線譜を使用するインストゥルメント	複数のインストゥルメント名: キットの構成インストゥルメント 1 つにつき 1 つのラベルが、対応する 1 線譜の横に配置されます。 1 線譜を使用するインストゥルメントの譜表ラベルは、標準のインストゥルメント用譜表ラベルと同じフォントとパラグラフスタイルを使用します。	

打楽器キットのプレーヤー名、レイアウト名、およびインストゥルメント名は、他のプレーヤーやインストゥルメントと同様に変更できます。ただし、打楽器キットの譜表ラベルを変更する際は、打楽器キットの表示タイプによってそれぞれ異なる方法で、キットのインストゥルメント名を変更する必要があります。

- 5 線譜: キットの名前を変更するには、設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開くか、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログの「**名前 (Name)**」フィールドを使用します。
- グリッド/1 線譜を使用するインストゥルメント: 個別のインストゥルメント名を変更するには、設定モードの「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログの中から「**インストゥルメント名を編集 (Edit Instrument Names)**」ダイアログを開きます。

キットのインストゥルメントで使用できるインストゥルメント名のフィールドとオプションは、標準の有音程楽器と同じです。

補足

グリッド表示の各ラインの小さい譜表ラベルは、「**譜表ラベル (打楽器グリッド) (Staff Labels (Percussion Grid))**」のパラグラフスタイルを使用します。このパラグラフスタイルは、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」のダイアログで編集できます。

関連リンク

- [「インストゥルメント名を編集 \(Edit Instrument Names\)」ダイアログ \(144 ページ\)](#)
- [プレーヤー名、レイアウト名、インストゥルメント名 \(143 ページ\)](#)
- [「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(122 ページ\)](#)
- [無音程打楽器 \(1289 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプの変更 \(1296 ページ\)](#)
- [「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

コンデンスされた譜表の譜表ラベル

コンデンスされた譜表の譜表ラベルは、譜表に含まれるすべてのプレーヤーを反映する必要があります。Dorico Pro は自動的に譜表ラベルの同属のインストゥルメント名を統合しますが、必要なプレイヤー番号はすべて常に表示します。

異なる種類のインストゥルメントが含まれるコンデンスされた譜表には、必要なインストゥルメント名がすべて表示されます。

The image shows a musical score for a brass section. It consists of five staves: Horn in F (1 and 2), Horn in F (3 and 4), Trumpet in C (1 and 2), Trombone (1 and 2), and Bass Trombone/Tuba. The score is in 4/4 time and features a key signature of two flats (B-flat and E-flat). The music is written in a condensed format, with player numbers (1, 2, 3, 4) placed above the staves to indicate which player is playing which part. Dynamics such as *fp* (fortissimo piano) and accents (>) are used throughout. The score is divided into two systems, with the second system starting with a *fp* dynamic marking.

コンデンシングされた金管楽器の譜表の譜表ラベル

コンデンシングは頻繁に変化するため、コンデンシングされた譜表の譜表ラベルは組段ごとにも変わる場合があります。コンデンシングされた譜表では、譜表ラベルのプレイヤー番号をスタックする方法を変更できます。

また Dorico Pro では、同一の組段内でもコンデンシングが変化する場合があるため、各プレイヤーがコンデンシングされた譜表のどの音符に属するのか識別するために、コンデンシングされた譜表の上または下にもプレイヤーラベルが表示されます。

補足

隣接する同じインストゥルメントの譜表ラベルのグループ化に関する設定は、コンデンシングされた Flute 1-2 の譜表と単独の Flute 3 の譜表がある場合など、同じインストゥルメントがコンデンシングされた隣接する譜表にも適用されます。

譜表ラベルの番号スタイルの設定は、コンデンシングされた譜表にも適用されます。

関連リンク

- [譜表ラベルのパラグラフスタイル \(1161 ページ\)](#)
- [プレイヤーラベル \(493 ページ\)](#)
- [コンデンシング \(477 ページ\)](#)
- [コンデンシングの計算と考慮事項 \(481 ページ\)](#)
- [コンデンシング結果 \(483 ページ\)](#)
- [コンデンシングの有効化/無効化 \(455 ページ\)](#)
- [隣接する同一のインストゥルメントの譜表ラベルをグループ化する \(1167 ページ\)](#)
- [譜表ラベルの番号スタイルの変更 \(1168 ページ\)](#)

コンデンシングされた譜表ラベルの番号をスタックする方法の変更

コンデンシングされた譜表のプレイヤー番号をスタックする方法を変更できます。これによりたとえば、プレイヤーが単一の声部にコンデンシングされた組段も含めて、常に番号が垂直にスタックされるように変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。

2. ページリストの「**譜表ラベル (Staff Labels)**」をクリックします。
 3. 「**番号 (Numbering)**」のサブセクションの「**コンデンシングされたプレイヤーのプレイヤー番号 (Player numbers for condensed players)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **縦 1 列に表示 (Stack vertically)**
 - **水平にスタック (Stack horizontally)**
 4. 「**縦 1 列に表示 (Stack vertically)**」を選択した場合、必要に応じて「**コンデンシングされたプレイヤーのプレイヤー番号を垂直にスタックする場合 (When stacking player numbers for condensed players vertically)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **符尾の割り当てを反映 (Consider stem allocation)**
 - **符尾の割り当てを無視 (Ignore stem allocation)**
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

コンデンシングされた譜表のすべての譜表ラベルのプレイヤー番号をスタックする方法が、プロジェクト全体で変更されます。

譜表

譜表とは、1本の線または複数の線が集まったもので、その上に記譜された音符により音楽のピッチとリズムを示すものです。有音程楽器は伝統的な5線譜を使用し、無音程楽器は多くの場合1線譜を使用します。

音符は5線譜の線上および間上に配置され、譜表の上下に加線を使用することで、譜表に収まらないピッチも表現できます。



5線譜上のフレーズ



1線譜上の同じフレーズ

5線譜上の音符のピッチおよび音域は音部記号によって決定され、これにオクターブ線を組み合わせても演奏者が演奏するピッチを示すことができます。

無音程打楽器の5線譜においては、譜表上の1つ1つの位置はそれぞれ異なる打楽器に対応します。



たとえばフルスコアレイアウトではパートレイアウトより小さい譜表を使用するなど、レイアウトのタイプに従って異なる譜表サイズを使用する必要があることも多いため、Dorico Proでは、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」において譜表に関するさまざまな設定を変更できます。

関連リンク

[音部記号 \(736 ページ\)](#)

[オクターブ線 \(743 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプ \(1295 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(446 ページ\)](#)

レイアウトごとの譜表のオプション

譜表に影響を与える設定をレイアウトごとに個別に変更できます。

各レイアウトの譜表サイズは、「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**ページ設定 (Page Setup)**」のページにある「**線間の高さ (Space Size)**」のセクションで変更できます。

譜表に関するその他の設定は、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」の「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」のページで変更できます。たとえば、組段に表示する譜表ラベルの変更、各フローの最初の組段のインデント、各組段に含まれる小節数の固定などを行なえます。また、それぞれのインストゥルメントファミリーに従い、どの組段の上に組段オブジェクトを表示するか選択できます。

補足

- 組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サ

イズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「絶対値 (Absolute)」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

- 組段オブジェクトは、プロジェクト内の大括弧または中括弧で括られたグループの上だけに表示されます。大括弧または中括弧が存在しない場合、組段オブジェクトは組段の一番上だけに表示されます。

組段に一定数以上のプレーヤーが存在するとき、組段の間に分割記号を表示できます。組段の分割記号の外観も変更できます。

関連リンク

[ページ形式設定 \(440 ページ\)](#)

[譜表サイズ \(458 ページ\)](#)

[デフォルトの譜表サイズの変更 \(443 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(446 ページ\)](#)

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(694 ページ\)](#)

譜表線の太さの変更

譜表線の太さに関するプロジェクト全体の設定を変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**譜表 (Staves)**」をクリックします。
3. 「**譜表線 (Staff Lines)**」セクションで、「**譜表線の太さ (Staff line thickness)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

譜表線の太さに関するプロジェクト全体の設定が変更されます。「**譜表の線の太さ (Staff line thickness)**」の値を大きくすると譜表の線が太くなり、小さくすると細くなります。

譜表の削除

譜表は、追加の譜表やオssia譜表も含めて削除できます。これによりその譜表は、それが属するインストゥルメントを表示するすべてのレイアウトに表示されなくなります。ただし、譜表に残っている音符はこれにより自動的に削除されず、譜表が表示されなくても再生は行なわれます。

手順

1. 記譜モードで、以下のどれでも選択します。
 - 削除する譜表の、削除を開始する位置のアイテム
 - 削除する追加の譜表のガイド

補足

一度に削除できる譜表は1つだけです。

-
2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**譜表 (Staff)**」 > 「**譜表を削除 (Remove Staff)**」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
-

結果

選択した位置から選択した譜表が削除され、譜表の変更を示すガイドが表示されます。この譜表に対する次の譜表変更のガイドがある位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達したところまで、譜表が削除されます。

補足

- 記譜された音符を削除しないまま追加の譜表を削除した場合、音符は表示されませんがそのまま存在し、再生に反映されます。あとから同じ位置に追加の譜表を作成すると、音符は再度表示されます。
- インストゥルメントから譜表をすべて削除することはできません。最低1つは常に表示されている必要があります。あるレイアウトで特定のインストゥルメントの譜表を一切表示しない場合、かわりにそのレイアウトで空白の譜表を非表示にする設定を利用できます。

例



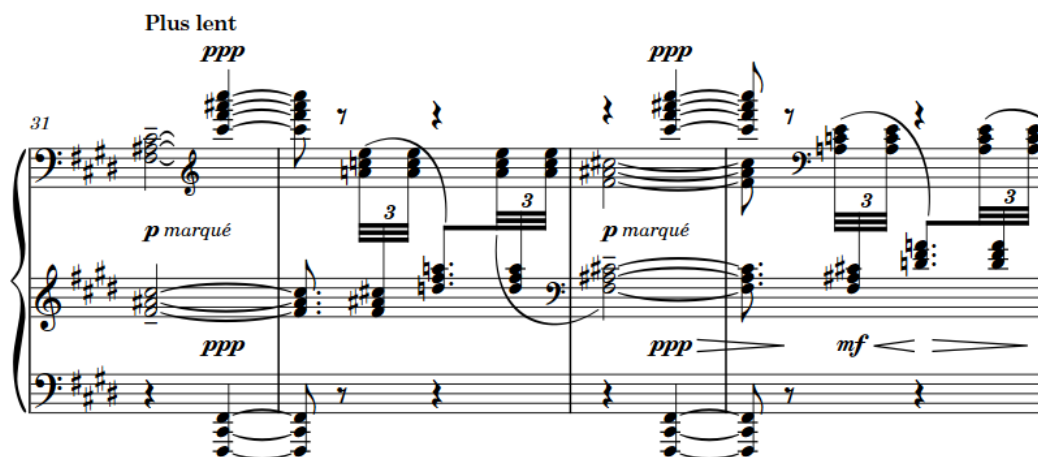
譜表が3つのピアノの楽譜の2小節めで一番下の譜表が削除された例

関連リンク

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(446 ページ\)](#)

追加の譜表

Dorico Pro では、どのインストゥルメントにでも追加の譜表を追加できます。たとえば、あるインストゥルメントの楽譜を通常より多くの譜表に広げることで、複雑な対位法による楽譜を読みやすくできます。



ドビュッシーのピアノ前奏曲「枯葉」からの抜粋で、3つの譜表が使用される例

追加の譜表を追加すると、これはフロー全体にわたって存在するものとなります。しかし、追加の譜表が必要とされるのは短い一部のみである場合が多いため、表示箇所を制御できます。追加の譜表はすぐ

に終了させることもできます。このあとには、組段の終端まで空白のスペースを入れることも、音符が含まれない場合でも空白の小節で埋めることもできます。

追加の譜表を追加または削除すると自動的にガイドが表示され、その位置で追加または削除された譜表の数を示します。同じ位置で複数の譜表の変更が行なわれた場合、それらはすべて同じガイドに表示されます。

ドビュッシーのピアノ前奏曲「枯葉」からの抜粋で、譜表変更のガイドが3つ使用される例

このガイドは、追加の譜表の開始位置および終了位置の変更に使用でき、これによりたとえば追加の譜表が表示される領域の長さを変更できます。ガイドは追加の譜表の削除にも使用できます。

また Dorico Pro は、譜表の用途によるタイプごとに専用の機能を用いて譜表の数を変更できます。

- 追加の譜表は、ソロプレーヤーに属する標準サイズの譜表です。
- オッシア譜表は、プレーヤーのタイプを問わず追加できる小さいサイズの譜表です。
- ディヴィジ譜表は、セクションプレーヤーに属する標準サイズの譜表です。

関連リンク

[追加の譜表を組段全体にわたって表示する \(1178 ページ\)](#)

[オッシア譜表 \(1179 ページ\)](#)

追加の譜表の追加

ソロプレーヤーに属するインストゥルメントには、譜表の上下いずれにも追加の譜表を追加できます。これは限定された範囲にも、フロー全体にわたっても表示できます。たとえば、一部の複雑なピアノの楽譜においては、楽譜を分かりやすく表示するために2つではなく3つの譜表が必要とされます。

補足

- ディヴィジのパッセージや代替の演奏を記譜するために追加の譜表が必要な場合は、この機能ではなく専用のディヴィジ譜表およびオッシア譜表の機能を使用します。
- インストゥルメントの上下にはいくつでも譜表を追加できますが、1度に追加できるのは1つだけです。また、追加の譜表を追加するには、以前に追加した追加の譜表ではなく、インストゥルメントの元の譜表の1つでアイテムを選択する必要があります。
- 追加の譜表を追加できるのは、ソロプレーヤーに割り当てられたインストゥルメントのみです。セクションプレーヤーまたは打楽器キットに属するインストゥルメントには、追加の譜表を追加できません。

手順

1. 記譜モードで、インストゥルメントの元の譜表の1つの、追加の譜表を追加する位置にあるアイテムを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって追加の譜表を追加します。

- 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「上に譜表を追加 (Add Staff Above)」を選択します。
- 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「下に譜表を追加 (Add Staff Below)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

3. 必要に応じて、手順 1 と 2 を何度でも繰り返します。

結果

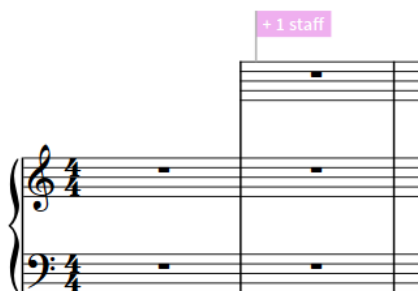
標準サイズの譜表が選択した譜表の上または下に追加されます。これは選択した中の一番前の位置から開始し、フローの終端まで続きます。開始位置には追加された譜表の数を示すガイドが表示されません。

ヒント

初期設定では、追加の譜表は組段の始端または終端まで伸ばされません。つまり組段の途中で開始または終了します。

追加の譜表がその実際の開始位置または終了位置に関わらず、組段の始端または終端まで自動的に伸びるようにする場合、組段全体にわたって追加の譜表を表示するよう組段ごとに個別に設定できます。

例



2 小節めで上の譜表の上に追加の譜表を追加したピアノの楽譜

関連リンク

[オssia譜表 \(1179 ページ\)](#)

[オssia譜表の追加 \(1180 ページ\)](#)

[追加の譜表を組段全体にわたって表示する \(1178 ページ\)](#)

追加の譜表の開始位置/終了位置を移動する

追加の譜表の開始位置および終了位置は、追加した後に移動できます。追加の譜表は開始位置および終了位置を移動できるため、長さも変更できます。

手順

1. 記譜モードで、開始位置/終了位置の変更を行なう追加の譜表の始端/終端にある、譜表変更のガイドを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できる譜表変更のガイドは 1 つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従い、選択した譜表変更のガイドを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- 譜表変更のガイドをクリックして左右にドラッグします。

3. 必要に応じて、追加の譜表のもう一方のガイドにも手順 1 と 2 を繰り返します。

結果

選択した追加の譜表の開始位置/終了位置が変更されます。

補足

譜表変更のガイドはそれぞれの位置に 1 つしか存在できません。譜表変更のガイドを移動する際に他の譜表変更のガイドの上を通過した場合、そこにあったガイドは削除され、移動したものに置き換えられます。たとえば、追加の譜表の開始位置のガイドを動かして、それ自体の終了位置のガイドの上を通過させた場合、追加の譜表は譜表上の次の譜表変更の位置、またはフローの終了位置の、いずれか先に到達したところまで継続されるようになります。

この動作は元に戻せませんが、移動中に削除された譜表変更のガイドについては、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

追加の譜表を組段全体にわたって表示する

初期設定では、追加の譜表はその開始位置から終了位置までの範囲のみに表示されます。この設定は、追加の譜表がどの組段でも幅いっぱいに表示されるように、レイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
 2. 追加の譜表を組段の幅いっぱいに表示させるレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。

初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
 3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
 4. 「**オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)**」セクションで、「**追加の譜表の開始位置または終了位置では、追加の譜表を組段全体にわたり表示する (Show extra staves across full system when starting or stopping)**」をオンにします。
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトの追加譜表は、どの組段においても常に幅いっぱいに表示されるようになります。プロパティをオフにしたレイアウトでは、追加の譜表がそれぞれのガイドの位置で指定されるデュレーション範囲のみに表示されるようになります。

例



組段の幅いっぱいには表示されていない追加の譜表

組段の幅いっぱいに表示された追加の譜表

関連リンク

[追加の譜表 \(1175 ページ\)](#)

オツシア譜表

オツシア譜表は、インストゥルメントのメイン譜表の上下に小さめに表示される譜表です。これはオリジナルのフレーズに代わって演奏できる代替フレーズを表示するものです。たとえば装飾音符に対する提案や、別ソースに由来する記譜、または簡易化されたバージョンなどがあります。

ピアノの左手の譜表の下に簡易化された代替フレーズを表示するオツシア譜表

Dorico Pro ではオツシア譜表をインストゥルメントの譜表の上下に追加できますが、これは指定されたデューレーションに対してのみであり、形式設定は自動で処理されます。オツシア譜表周辺の垂直方向のスペーシングは自動的に調整されます。

オツシア譜表を追加または削除すると自動的にガイドが表示され、その位置で追加または削除された譜表の数を示します。同じ位置で複数の譜表の変更が行なわれた場合、それらはすべて同じガイドに表示されます。



ガイドを表示しているオssia譜表

初期設定では、オssia譜表は標準の譜表の3分の2の縮尺になっています。これは固定された譜表サイズではなく倍率であるため、レイアウトごと、セクションごと、そしてプレーヤーごとに設定できる譜表サイズに応じて、オssia譜表のサイズは自動的に調整されます。

補足

オssia譜表の記譜内容は再生されません。

関連リンク

[追加の譜表 \(1175 ページ\)](#)

[オssia譜表のサイズを変更する \(1182 ページ\)](#)

[オssiaの譜表ラベル \(1185 ページ\)](#)

[譜表冒頭部のオssia譜表を表示/非表示にする \(1183 ページ\)](#)

[オssia譜表を表示/非表示にする \(1184 ページ\)](#)

[オssia譜表に対する組段オブジェクトの配置の変更 \(1190 ページ\)](#)

オssia譜表の追加

オssia譜表はソロプレーヤーおよびセクションプレーヤーの既存の譜表の上下いずれにも追加できます。大譜表のインストゥルメントについては、譜表が2つのオssiaも追加できます。

補足

- 打楽器キットのインストゥルメントにはオssia譜表は追加できません。
- インストゥルメントは譜表の上下にオssiaを表示できますが、片側につき1つのオssiaしか同時に存在できません。

手順

1. 記譜モードで、上か下にオssia譜表を追加する範囲を選択します。

補足

譜表が2つのオssiaを追加する場合、大譜表の上下両方の譜表を選択する必要があります。

2. 以下のいずれかの操作を行なってオssia譜表を追加します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「オssiaを上を作成 (Create Ossia Above)」を選択します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「オssiaを下を作成 (Create Ossia Below)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した譜表の選択した範囲の上か下にオッサアが追加されます。オッサアのパッセージの開始位置に1つ、終了位置にもう1つのガイドが表示されます。

ヒント

これらのガイドを選択して移動することにより、オッサア譜表の開始位置と終了位置を変更できます。

オッサア譜表の開始位置/終了位置を移動する

オッサア譜表の開始位置および終了位置は、追加した後に移動できます。オッサア譜表は開始位置および終了位置を移動できるため、長さも変更できます。

手順

1. 記譜モードで、開始位置/終了位置または長さの変更を行なうオッサア譜表の始端/終端にある、譜表変更のガイドを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できる譜表変更のガイドは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従い、選択した譜表変更のガイドを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - オッサアのガイドをクリックして左右にドラッグします。
 3. 必要に応じて、オッサア譜表のもう一方のガイドにも手順1と2を繰り返します。
-

結果

選択したオッサア譜表の開始位置/終了位置が変更されます。

補足

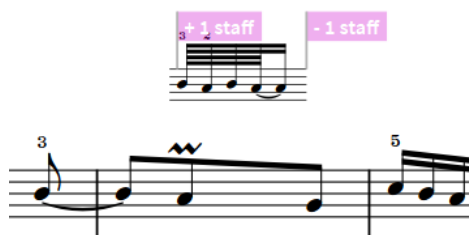
オッサアのガイドはそれぞれの位置に1つしか存在できません。オッサアのガイドを移動する際に他のオッサアのガイドの上を通過した場合、そこにあったガイドは削除され、移動したものに置き換えられます。たとえば、オッサア譜表の開始位置のガイドを動かして、それ自体の終了位置のガイドの上を通過させた場合、オッサア譜表は譜表上の次のオッサアの位置、またはフローの終了位置の、いずれか先に到達したところまで継続されるようになります。

この動作は元に戻せませんが、移動中に削除されたオッサアのガイドについては、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

例



ガイドを表示しているオssia譜表



同じオssia譜表の始端のガイドを右に、終端のガイドを左に移動したものの

オssia譜表のサイズを変更する

初期設定では、オssia譜表は標準の譜表の3分の2の縮尺になっています。プロジェクト全体に対し、すべてのオssia譜表の倍率を変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**譜表 (Staves)**」をクリックします。
3. 「**オssia (Ossias)**」セクションで、「**オssiaの倍率 (Ossia scale factor)**」の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

プロジェクト全体のすべてのレイアウトで、それが属する譜表のサイズに対するオssia譜表の倍率が変更されます。

関連リンク

[譜表サイズ](#) (458 ページ)

小節の途中で開始/終了するオssiaの余白を変更する

小節の途中で開始/終了するオssia譜表の左右に延長される譜表線の長さを変更できます。オssia譜表に余白を与えることで、音符、臨時記号、付点その他のアイテムが、譜表線からはみ出すことがないようにします。

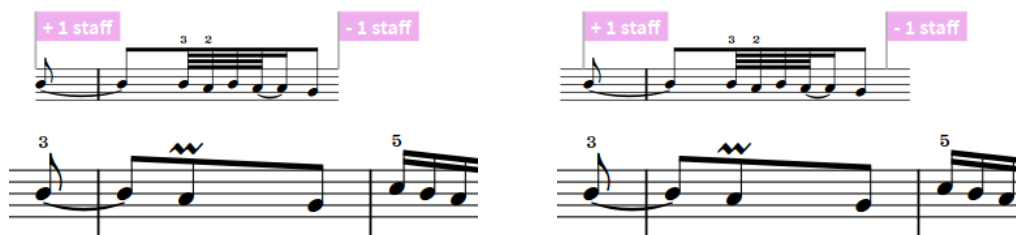
手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**譜表 (Staves)**」をクリックします。
3. 「**オssia (Ossias)**」セクションで、「**オssia開始位置の譜表線の延長 (Extend staff lines at start of ossia)**」と「**オssia終了位置の譜表線の延長 (Extend staff lines at end of ossia)**」のいずれかまたは両方の値を変更します。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

小節の途中で開始/終了するオssia譜表の前後の余白がプロジェクト全体で変更されます。

例



余白なしのオssia譜表

開始位置と終了位置の両方の余白を3に設定したオssia譜表

譜表冒頭部のオssia譜表を表示/非表示にする

オssiaがシステム区切りまたはフレーム区切りをまたぐとき、譜表冒頭部にオssia譜表を含めるか除外するか、レイアウトごとに個別に設定できます。

固定された譜表冒頭部にオssia譜表を表示するということは、各組段の開始位置で、その音部記号と拍子記号がその他すべての標準の譜表と並んで表示されるということです。これはオssia譜表が追加のインストゥルメントであるかのように見える場合があるため、固定された譜表冒頭部からはオssia譜表を除外するのが通例となっています。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、譜表冒頭部のオssia譜表を表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)**」セクションの「**組段をまたぐオssia (Ossias crossing a system break)**」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 譜表冒頭部の記号を含める (Include in preamble)
 - 譜表冒頭部の記号を除外する (Exclude from preamble)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**譜表冒頭部の記号を除外する (Exclude from preamble)**」を選択すると、選択したレイアウトのメインの譜表冒頭部においてオssia譜表の譜表冒頭部の記号が非表示になり、「**譜表冒頭部の記号を含める (Include in preamble)**」を選択すると表示されます。

例



譜表冒頭部にオssiaを含めた例



譜表冒頭部からオssiaを除外した例

オssia譜表を表示/非表示にする

初期設定では、オssia譜表はすべてのレイアウトに表示されます。オssia譜表を表示するレイアウトは変更できます。これによりたとえば、オssia譜表をパートレイアウトには表示させつつ、フルスコアには表示させないことなどができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、オssia譜表を表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)**」セクションで、「**オssiaを表示 (Show ossias)**」をオンまたはオフにします。
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

「**オssiaを表示 (Show ossias)**」がオンのときは選択したレイアウトにオssiaが表示され、オフのときは非表示になります。

オssia譜表の削除

オssia譜表を削除してどのレイアウトにも表示されないようにできます。これは自動的にその内容まで削除するものではありません。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
 - 削除するオssia譜表の開始位置/終了位置のガイド
 - 削除するオssia譜表上のアイテム
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したオssia譜表を削除します。

- オッサアのガイドを選択している場合、**[Backspace]** 又は **[Delete]** を押すか、「編集 (Edit)」> 「削除 (Delete)」を選択します。
- オッサア譜表上のアイテムを選択している場合、「編集 (Edit)」> 「譜表 (Staff)」> 「譜表を削除 (Remove Staff)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択したオッサア譜表が削除され、そのプレーヤーを表示するすべてのレイアウトに表示されなくなります。

補足

記譜された音符を削除しないままオッサア譜表を削除した場合、音符は表示されませんがそのまま存在します。あとから同じ位置にオッサアを作成すると、音符は再度表示されます。

関連リンク

[オッサア譜表を表示/非表示にする \(1184 ページ\)](#)

オッサア譜表の小節線

オッサア譜表をそれが属する譜表に小節線で接続するかどうか、接続するのであればどのタイプの小節線を使用するかについては、異なる表記規則が存在します。

オッサアの開始と終了がいずれも小節線の位置である場合、出版社により異なる以下の一般的な表記規則が存在します。

- 開始位置と終了位置の両方で、小節線がオッサアとメイン譜表を結合する
- 終了位置でのみ、小節線がオッサアとメイン譜表を結合する
- オッサアはメイン譜表に一切結合されない

オッサアをメイン譜表に結合するとき、他の譜表と同じ種類の縦線による小節線を使用する出版社と、破線による小節線を使用する出版社があります。

Dorico Pro では、これらすべての表記規則をカバーするオプションが「浄書 (Engrave)」> 「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節線 (Barlines)」ページの「オッサア (Ossias)」セクションにあります。

補足

オッサアが、たとえばピアノの右手の譜表の下など、インストゥルメントのメイン譜表の間に挟まれて表示される場合、「浄書オプション (Engraving Options)」の「小節線 (Barlines)」ページで選択した設定に関わらず、メイン譜表と同じ小節線で結合されます。

関連リンク

[小節線 \(647 ページ\)](#)

[浄書オプションで小節線の設定をプロジェクト全体に適用する \(649 ページ\)](#)

オッサアの譜表ラベル

オッサアは通常の譜表と同様に譜表ラベルを表示できますが、唯一異なる点として、オッサアの譜表ラベルは組段の途中であっても、通常は組段内に表示され、最初の小節線の前ではなくオッサアの開始位置の左側に表示されます。

オッサアの譜表ラベルは「オッサアの譜表ラベル (Ossia Staff Label)」のフォントスタイルを使用します。これは「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログで編集できます。



初期設定の譜表ラベルが付いたオssia譜表

オssiaの譜表ラベルは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「譜表 (Staves)」ページの「オssia (Ossias)」セクションで設定された距離に従い配置されます。1つのオssiaと、中括弧で括られた譜表が2つのオssiaには、オプションが個別に用意されています。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

オssia譜表の譜表ラベルを表示/非表示にする

オssia譜表の譜表ラベルはレイアウトごとに個別に表示と非表示を切り替えられます。また初期設定の譜表ラベルを表示するか、カスタムのオssiaラベルを入力するか選択できます。

オssia譜表の初期設定の譜表ラベルは *ossia* です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、オssia譜表の譜表ラベルを表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
4. 「オssiaおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)」セクションで、「オssiaの前にラベルを表示 (Show label before ossia)」をオンまたはオフにします。
5. また「オssiaの前にラベルを表示 (Show label before ossia)」をオンにした場合、譜表ラベルを以下のオプションから選択します。
 - デフォルト (Default)
 - カスタム (Custom)
6. さらに「カスタム (Custom)」を選択した場合、任意の譜表ラベルを「カスタムのオssiaラベル (Custom ossia label)」フィールドに入力します。
7. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したレイアウトで譜表ラベルが表示または非表示になります。

関連リンク

[オssiaの譜表ラベル \(1185 ページ\)](#)

組段の分割記号

組段の分割記号は、同じページに表示される異なる組段の区切りを明確にするために使用されます。通常、最初の小節線の左側に配置された2本の太い斜めの平行線として表示されます。

Dorico Pro では、組段の分割記号の外側の端は楽曲フレームの対応する端に揃えられます。



弦楽四重奏のスコアにおける2つの組段の間の分割記号

組段の分割記号を異なる状況で表示でき、レイアウトごとに個別に外観を変更できます。「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「組段の分割記号 (System Dividers)」ページですべてのレイアウトにおけるデフォルトの挿入幅をプロジェクト全体で変更することもできます。

組段の分割記号の表示

表示に必要なプレーヤーの最小数など、組段の分割記号が表示される状況を、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、異なる数の譜表を持つ組段の間にのみ組段の分割記号を表示できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、組段の分割記号を表示させるレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
4. 「組段の分割記号 (System Dividers)」セクションの「組段の分割記号を表示 (Show system dividers)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 譜表の数が異なる場合 (When number of staves differs)
 - プレーヤーの最小数が存在する場合 (When minimum number of players present)
5. また「プレーヤーの最小数が存在する場合 (When minimum number of players present)」を選択した場合は、必要に応じて「プレーヤーの最小数 (Minimum number of players)」の値を変更します。
6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

設定した最小数以上のプレーヤーが存在するか譜表の数が異なる、選択したレイアウトのすべてのフロアの組段の間に分割記号が表示されます。

関連リンク

[空白の譜表の表示/非表示を切り替える \(446 ページ\)](#)

組段の分割記号の長さを変更する

組段の分割記号の長さをレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、譜表ラベルを省略せずに表示するレイアウトでは長い組段の分割記号を表示するといったことができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、組段の分割記号を表示させるレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**組段の分割記号 (System Dividers)**」セクションの「**外観 (Appearance)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - デフォルト (Default)
 - 長 (Long)
 - 最長 (Extra long)
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

組段オブジェクト

組段オブジェクトとは、組段中のすべての譜表に適用され、すべてのレイアウトに表示されますが、フルスコアレイアウトでは必ずしもすべての譜表には表示されないアイテムです。たとえば、テンポ記号やリハーサルマークはそれぞれのパートですべてのプレーヤーに見えることが大事ですが、オーケストラのフルスコアにおいてすべての譜表に表示された場合、非常に取り散らかった状態になります。

Dorico Pro では、以下のアイテムが組段オブジェクトと見なされます。

- リハーサルマーク (Rehearsal Marks)
- リピート括弧
- リピートマーカー
- 組段テキスト
- テンポ記号
- 譜表の上に表示された拍子記号
- すべての譜表に適用される横線

組段オブジェクトは、すべてのレイアウトに少なくとも 1 回は自動的に表示されます。組段オブジェクトは、複数のインストゥルメントファミリーの上に表示することにより、各組段の複数の位置に表示できます。たとえば、木管楽器、金管楽器、打楽器、および弦楽器ファミリーの上に表示させるなどです。オーケストラのフルスコアでは、これによって組段オブジェクトがページ全体に均等に分散し、これらの重要な記号からどの譜表もそれほど離れていない状態になります。

補足

- 組段オブジェクトは、大括弧または中括弧によって括られたインストゥルメントファミリーの上のみ表示されます。大括弧のグループ化はレイアウトごとに個別に変更できます。また、カスタムの大括弧/中括弧のグループ化を使用して、特定の譜表をまとめて大括弧または中括弧で括ることもできます。
- 組段オブジェクトのフォントスタイルのサイズが「**譜表との相対値 (Staff-relative)**」に設定されている場合、インストゥルメントファミリーの大括弧で括られたグループの最上段の譜表の譜表サ

イズにより、その上に表示される組段オブジェクトのサイズが影響されます。フォントスタイルが「絶対値 (Absolute)」に設定されている場合、譜表サイズによる影響は受けません。

関連リンク

[アンサンブルタイプごとの大括弧によるグループ化の変更 \(695 ページ\)](#)

[カスタムの譜表のグループ化 \(700 ページ\)](#)

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

[大括弧と中括弧 \(694 ページ\)](#)

[リハーサルマーク \(Rehearsal Marks\) \(1064 ページ\)](#)

[テンポ記号 \(1219 ページ\)](#)

[リピート括弧 \(1083 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(1256 ページ\)](#)

[テキストの入力 \(315 ページ\)](#)

組段オブジェクトの位置の変更

組段オブジェクトの表示位置は、レイアウトごとに個別に異なるインストゥルメントファミリーの上に設定できます。組段テキスト、リハーサルマーク、テンポ記号、リピートマーカ、リピート括弧など、多数のアイテムが組段オブジェクトに分類されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
 2. 組段オブジェクトをその上に表示させるインストゥルメントファミリーを変更するレイアウトを「**レイアウト (Layouts)**」リストから選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
 3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
 4. 「**組段オブジェクト (System Objects)**」セクションで、組段オブジェクトをその上に表示させるインストゥルメントファミリーのチェックボックスをオンにします。
 5. 必要に応じて、「**1 番下の譜表の下に追加でリピート括弧を表示 (Additionally show repeat endings below bottom staff)**」をオンにします。
 6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトにそのインストゥルメントファミリーの大括弧または中括弧で括られたグループが含まれる場合、選択した括弧それぞれの一番上の譜表の上に組段オブジェクトが表示されます。「**1 番下の譜表の下に追加でリピート括弧を表示 (Additionally show repeat endings below bottom staff)**」をオンにした場合、リピート括弧が 1 番下の譜表の下に追加で表示されます。

補足

組段オブジェクトは、大括弧または中括弧によって括られたインストゥルメントファミリーの上のみ表示されます。大括弧のグループ化はレイアウトごとに個別に変更できます。また、カスタムの大括弧/中括弧のグループ化を使用して、特定の譜表をまとめて大括弧または中括弧で括ることもできます。

関連リンク

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

ロシア譜表に対する組段オブジェクトの配置の変更

組段オブジェクトをメイン譜表とロシア譜表の間に配置するか、またはロシア譜表の上に配置するかをレイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、ロシア譜表に対する組段オブジェクトの配置を変更するレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
4. 「**ロシアおよび追加の譜表 (Ossias and Extra Staves)**」セクションの「**譜表の上のロシアに対する組段オブジェクトの位置 (Position of system objects relative to ossia above staff)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **ロシアの内側 (Inside ossia)**
 - **ロシアの外側 (Outside ossia)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

組段のインデント

組段のインデントは、楽譜の左側のページ余白と組段の開始位置の間の距離を制御します。伝統的には、パートレイアウトの最初の組段はインデントされますが、現代的な用法においてこれは必ずしも必須ではありません。

表記規則によれば、新しい組段の開始位置にあるコーダセクションもインデントされます。Dorico Pro では、組段の途中で新しい組段の開始位置であっても、コーダの開始位置の前には同じ幅の間隔が使用されます。



最初の組段がインデントされたバイオリンパート

Dorico Pro では、組段のインデントは譜表ラベルを収めるために自動的に調整されます。たとえば、組段のインデントの最小値より大幅に長い譜表ラベルが組段に存在する場合、Dorico Pro はその組段のインデントを大きくして、譜表ラベルの読みやすさを維持しつつ、左端で切れたり楽譜に衝突したりしないようにします。

譜表ラベルの付いた組段の最小インデントと最初の組段のインデントは、どちらもレイアウトごとに個別に変更できます。個々の組段の開始位置および終了位置のインデントは、どちらもレイアウトごとの設定から独立した形で調整できます。

関連リンク

[譜表ラベルの付いた組段の最小インデントの変更 \(1163 ページ\)](#)

[組段の開始位置/終了位置の変更 \(438 ページ\)](#)

[最後の組段の両端揃え \(水平方向\) の変更 \(455 ページ\)](#)

最初の組段のインデントの変更

Dorico Pro の初期設定では、各フローの最初の組段は、パートレイアウトではインデントされます。各フローの最初の組段のインデントは、レイアウトごとに個別に変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
 2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、最初の組段のインデントを変更するレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
 3. ページリストの「**譜表と組段 (Staves and Systems)**」をクリックします。
 4. 「**譜表ラベル (Staff Labels)**」セクションで、「**フローの最初の組段のインデント (Indent first system of flow by)**」の値を変更します。
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトで、すべてのフローの最初の組段のインデントが変更されます。

ディヴィジ

ディヴィジとは、1つの譜表を共有するプレーヤーが、通常は短いパッセージの間複数のラインに分かれ (divide)、そののち一緒 (トゥッティ) に戻るものです。ディヴィジのパッセージは、すべてのラインを1つの譜表に記譜する場合も、複数の譜表にわたって記譜する場合があります。

ディヴィジは、最も一般的にはオーケストラの弦楽器の記譜において使用される技法です。通常、弦楽器セクションには、譜表の数に対して数多くのプレーヤーが参加しているためです。たとえば、通常大規模なオーケストラには第1バイオリンが12人いて、大抵は全員が同じパートを演奏しています。これらのプレーヤーを複数のパートに分割することにより、作曲者はより複雑な対位法による楽曲を作成できます。



Violin I パートを2つのセクションと1つのソロラインに分割するディヴィジ作成の例

分割方法が比較的単純であれば、すべてのパートを同じ譜表に記譜してセクションにラベルを付けることができます。この場合は必要に応じて、各ラインに必要なプレーヤー数を指示できます。パート内でリズムが異なる部分がある場合は、同じ譜表の別々の声部に各パートを入力できます。

一方、分割したラインの内容が大きく異なり、単一の譜表にわかりやすく記譜できない場合は、複数の譜表に分割する必要があります。Dorico Pro では、特定の領域にディヴィジ作成を設定できます。これによりセクションを分割してパートや譜表をいくつでも用いることができるだけでなく、必要に応じてソロラインとグループ譜表に分けることもできます。ディヴィジ作成は、セクションプレーヤーに属するものであれば、どの譜表にでも入力できます。

補足

- ディヴィジ作成は、ソロプレーヤーに属する譜表には入力できません。ソロプレーヤーに複数の譜表にわたる楽譜を記譜する場合、追加の譜表をかわりに使用します。
- 組段の譜表の数は、組段の最初のディヴィジ作成によって定義されます。組段にディヴィジがすでに存在するところにさらにディヴィジ作成を入力した場合、新しいディヴィジ作成による譜表数の変化は次の組段まで反映されません。

ディヴィジ作成が組段の途中で行なわれた場合、Dorico Pro は自動的に譜表を追加して組段の始端と終端まで延長します。それから、ユニゾン範囲を使用して、セクションがトゥッティになっている領域をその譜表に自動的に複製します。

ディヴィジ作成はすべてのレイアウトに適用されます。

ヒント

複数のソロプレーヤーのパートを同じ譜表に表示する場合は、コンデンシングを使用します。

関連リンク

[ユニゾン範囲 \(1197 ページ\)](#)

[追加の譜表 \(1175 ページ\)](#)

[複数の声部への音符の入力 \(183 ページ\)](#)

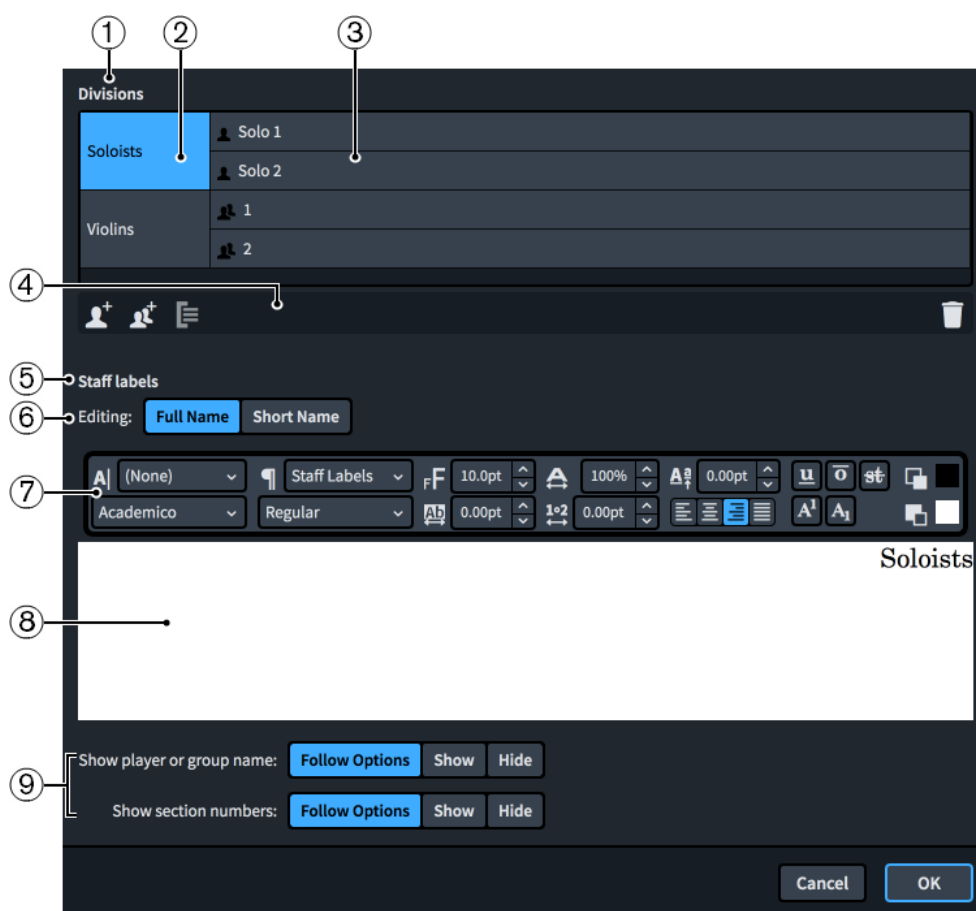
[コンデンシング \(477 ページ\)](#)

「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」 ダイアログ

「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログでは、セクションプレーヤーの分割方法を変更するとともに、譜表ラベルの外観とグループ分けを変更できます。

- 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログを開くには、セクションプレーヤーの譜表上のアイテムを選択して「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」を選択します。

「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログには以下のセクションとオプションがあります。



1 ディヴィジョン (Divisions)セクション

選択したセクションプレーヤーの選択した位置における現在のディヴィジョンとグループを表示します。

2 グループ

作成したディヴィジョンのグループをすべて表示します。セクションをグループ化してまとめると、譜表のラベルをより柔軟に設定できます。

3 分割 (Divisions)

現在ある個々のディヴィジョンを表示します。各ディヴィジョンは個別の譜表に対応します。

4 アクションバー

ディヴィジョンの数と編成を変更できるオプションが収められます。

- **ソロのディヴィジョンを追加 (Add Solo Division):** セクションにソロの譜表を追加します。Dorico Pro は自動的にソロ譜表をセクション譜表の上に追加します。



- **セクションのディヴィジョンを追加 (Add Section Division):** セクションにセクションのディヴィジョンを追加します。Dorico Pro は自動的にセクションのディヴィジョンを既存セクションの下に追加します。



- **グループを追加 (Add Group):** 選択したソロまたはセクションのディヴィジョンをグループ化します。



- **ディヴィジョンまたはグループを削除 (Delete Division or Group):** 選択したセクションのディヴィジョンまたはグループを削除します。



補足

ディヴィジ上の楽譜を削除せずにディヴィジを削除した場合、楽譜は表示されなくなりますがそのまま存在しています。あとから同じ位置に同じタイプのディヴィジョンを作成すると、楽譜は再度表示されます。

5 「譜表ラベル (Staff labels)」 セクション

選択したディヴィジョンまたはグループの現在の譜表ラベルを表示し、譜表ラベルのデフォルトのパラグラフスタイル設定とは別に譜表ラベルを編集できます。

6 編集 (Editing)

グループのみで有効です。選択したグループの「**正式名称 (Full Name)**」と「**略称 (Short Name)**」の編集を切り替えられます。

「**正式名称 (Full Name)**」は「**完全 (Full)**」の譜表ラベルに、「**略称 (Short Name)**」は「**省略 (Abbreviated)**」の譜表ラベルに使用されます。

7 テキストエディターのオプション

選択したディヴィジまたはグループの譜表ラベルのフォント、サイズおよび形式設定を、対応するパラグラフスタイルの形式設定とは別にカスタマイズできます。

8 テキスト編集領域

選択したディヴィジまたはグループの現在の譜表ラベルを表示します。譜表ラベルは、どの部分でも自由に選択して他の部分とは別個に編集できます。たとえば、数字にインストゥルメント名とは異なるフォントを使用できます。

ディヴィジの譜表ラベルは初期設定では右揃えになっているため、テキスト編集領域の右端に表示されます。

9 譜表ラベルの表示タイプのオプション

譜表ラベルの表示/非表示の切り替えおよび譜表ラベルのディヴィジセクション番号の表示/非表示の切り替えについて、レイアウトごとの設定とは別に、ディヴィジの譜表ラベルの部分ごとの表示をカスタマイズできます。

- **オプションに従う (Follow Options):** 対応するディヴィジの譜表ラベルの部分は、レイアウトごとの譜表ラベルの設定に従います。
- **表示 (Show):** 対応するディヴィジの譜表ラベルの部分は、レイアウトごとの譜表ラベルの設定にかかわらず常に表示されます。
- **非表示 (Hide):** 対応するディヴィジの譜表ラベルの部分は、レイアウトごとの譜表ラベルの設定にかかわらず常に非表示になります。

関連リンク

- [譜表ラベルのパラグラフスタイル \(1161 ページ\)](#)
- [ディヴィジの譜表ラベル \(1200 ページ\)](#)
- [譜表ラベルを表示/非表示にする \(1162 ページ\)](#)
- [譜表ラベル内のディヴィジのセクション番号を表示/非表示にする \(1202 ページ\)](#)

ディヴィジ作成の入力

ディヴィジ作成は、セクションプレーヤーの譜表であればどれでも入力できます。ディヴィジ作成は、継続するデュレーションにも含める譜表数にも制限はありません。

補足

- ディヴィジ作成は、ソロプレーヤーに属する譜表には入力できません。ソロプレーヤーに複数の譜表にわたる楽譜を記譜する場合、追加の譜表をかわりに使用します。
- ディヴィジ作成は該当するすべてのレイアウトに自動的に表示されます。

手順

- 記譜モードで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符の入力を開始します。
 - 分割させる譜表上の、ディヴィジの適用を開始する位置のアイテムを選択します。
- 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」を選択して、「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログを開きます。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- 「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログで、任意のディヴィジを作成します。
たとえば、プレーヤーを2つのセクションに分割する場合は、「セクションのディヴィジョンを追加 (Add Section Division)」をクリックします。
- 必要に応じて、譜表ラベルを編集します。
- 「OK」をクリックします。

結果

選択した譜表が、音符入力中はキャレットの位置、音符入力外では選択されたアイテムの位置から、「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログで指定された数と種類の譜表に分割されます。ディヴィジ作成の位置にガイドが表示されます。

ディヴィジ作成は、選択したアイテムから次にあるディヴィジ作成の位置、またはフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。これは該当するすべてのレイアウトに表示されます。ディヴィジ作成が組段の途中で行なわれた場合、追加の譜表はすべて自動的に組段全体にわたって表示されます。ここにはユニゾン範囲が自動的に作成され、ディヴィジ作成で追加されたすべての譜表にトゥッティの音符や記譜記号すべてが複製されます。

補足

組段の譜表の数は、組段の最初のディヴィジ作成によって定義されます。組段にディヴィジがすでに存在するところにさらにディヴィジ作成を入力した場合、新しいディヴィジ作成による譜表数の変化は次の組段まで反映されません。

手順終了後の項目

ディヴィジ作成のさらなる追加、またはディヴィジのパッセージの終了は、どの位置でも行なえます。

関連リンク

- [「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(1193 ページ\)](#)
- [ディヴィジの譜表ラベル \(1200 ページ\)](#)

[ディヴィジのパスセージを終了させる \(1197 ページ\)](#)

既存のディヴィジ作成を編集する

ディヴィジ作成は入力後に編集できます。たとえば、既存のセクションのディヴィジョンに追加する形でソロラインを設定できます。

手順

1. 編集を行なう既存のディヴィジ作成のガイドをダブルクリックして、「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログを開きます。この操作は設定、記譜、および浄書モードで行なえます。
2. 「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログでディヴィジ作成を編集します。
3. 必要に応じて、譜表ラベルを編集します。
4. 「**OK**」をクリックします。

結果

選択したディヴィジ作成が更新されます。

ディヴィジ作成に追加のディヴィジョンを設定した場合、ディヴィジ作成が適用される領域にこれらの譜表が追加されます。

ディヴィジ作成からディヴィジョンを削除した場合、これらの譜表はディヴィジ作成が適用される領域から削除されます。

補足

ディヴィジのセクションを削除しても、それ以前に譜表にあった楽譜が自動的に削除されるわけではありません。削除された譜表は表示されなくなりますが、そこに残された音符はすべて再生されます。あとから譜表を復元すると、音符も同時に復元されます。

削除したディヴィジ譜表の音符を再生したくない場合は、先に譜表からすべての音符を削除することをおすすめします。

関連リンク

[「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(1193 ページ\)](#)

[ディヴィジの譜表ラベル \(1200 ページ\)](#)

[大きな選択範囲 \(324 ページ\)](#)

ディヴィジ作成の移動

ディヴィジ作成は入力後に位置を移動できます。ディヴィジのパスセージは、開始位置と終了位置にそれぞれガイドが表示されて別個に移動できるため、長さも変更できます。

手順

1. 記譜モードで、移動するディヴィジ作成のガイドを選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に移動できるディヴィジ作成のガイドは1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従いディヴィジ作成を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - ディヴィジ作成のガイドをクリックして左右にドラッグします。

- 必要に応じて、ディヴィジのパスセージのもう一方のガイドにも手順 1 と 2 を繰り返します。
-

結果

選択したディヴィジ作成のガイドが異なる位置に移動します。移動によりディヴィジのパスセージの範囲から外れたディヴィジ譜表上の楽譜は自動的に非表示になり、パスセージの前後のユニゾン範囲は、パスセージの新しい開始位置と終了位置に従い自動的に更新されます。

補足

ディヴィジ作成のガイドはそれぞれの位置に 1 つしか存在できません。ディヴィジ作成のガイドを移動する際に他のディヴィジ作成のガイドの上を通過した場合、そこにあったガイドは削除され、移動したガイドに置き換えられます。たとえば、ディヴィジ作成の開始位置のガイドを動かして、それ自体のトゥッティの復元の上を通過させた場合、ディヴィジのパスセージは譜表上の次のディヴィジ作成の位置、またはフローの終了位置の、いずれか先に到達したところまで継続されるようになります。

この動作は元に戻せませんが、移動中に削除されたディヴィジ作成のガイドについては、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

ディヴィジのパスセージを終了させる

ディヴィジのパスセージは、組段の途中を含む任意の位置で終了させて 1 つの譜表のユニゾンセクションに戻せます。

手順

- 記譜モードで、ディヴィジのパスセージを終了させる位置にあるディヴィジ譜表上のアイテムを選択します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「譜表 (Staff)」 > 「ユニゾンに戻る (Restore Unison)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
-

結果

選択した位置に 1 つのユニゾンセクションを持つデフォルトのディヴィジ作成が入力され、ここまでのディヴィジのパスセージを終了させます。ユニゾンの復元位置にガイドが表示されます。

ユニゾンの復元は、選択したアイテムから次にあるディヴィジ作成の位置、またはフローの終了位置のいずれか先に到達したところまで適用されます。これは該当するすべてのレイアウトに表示されます。

ユニゾンの復元が組段の途中で行なわれた場合、この前のディヴィジ作成で指定されているすべての譜表は、組段の終端まで自動的に継続されます。ここにはユニゾン範囲が自動的に作成され、ディヴィジ作成から継続されるすべての譜表にユニゾンの音符や記譜記号すべてが複製されます。

補足

組段の譜表の数は、組段の最初のディヴィジ作成によって定義されます。組段にディヴィジがすでに存在するところにさらにディヴィジ作成を入力した場合、新しいディヴィジ作成による譜表数の変化は次の組段まで反映されません。

ユニゾン範囲

ユニゾン範囲とは、ディヴィジのパスセージが組段の途中で開始/終了するとき、その前/後ろのすべての譜表に自動的に複製されるトゥッティのパスセージです。これにより、どの時点でもプレーヤーが演奏すべき内容があいまいになることはありません。

楽譜の複製の際、Dorico Pro はセクションの一番上の譜表を複製元に使用し、その譜表のすべての音符と記譜記号をセクションのすべての譜表に複製します。

ユニゾン範囲の各譜表の音符は個別に編集できません。ユニゾン範囲の譜表の音符やアイテムを選択すると、セクションのすべての譜表上で同じ音符やアイテムが選択されます。従って、ユニゾン範囲の音符やアイテムを編集することは、セクションのすべての譜表の音符やアイテムを同時に編集することになります。同様に、ユニゾン範囲の譜表に音符を入力すると、Dorico Pro はセクションのすべての譜表にもその音符を入力します。



ユニゾン範囲 (色で表示) のすべての譜表で同時に選択されている音符とスラー

補足

1つの譜表からセクションの他の譜表への複製は複雑な処理であるため、Dorico Pro が自動で行なえる処理には限界があります。これには特にディヴィジ作成より前から始まる、またはディヴィジ作成より後ろで終わる音符や記譜記号が該当します。たとえば、ディヴィジ作成の前から始まってディヴィジ作成の内側につながるスラーは、ユニゾン範囲には複製されません。このような場合、ディヴィジ作成をスラーの前または後ろに移動し、必要に応じて前後のユニゾンの音符や記譜記号を手動で複製することをおすすめします。

ディヴィジョンの譜表がトゥッティに復元する位置でメインの譜表とは異なる音部記号を使用している場合、Dorico Pro は自動的に適切な音部記号を入力します。

補足

このときディヴィジョンの終了位置における音部変更記号のデフォルトのスペーシングが狭く、直前の音符とすれすれに配置される場合があります。このような場合、その位置の音符のスペーシングを調整することをおすすめします。

関連リンク

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(435 ページ\)](#)

ユニゾン範囲のカラーを表示/非表示にする

ユニゾン範囲の表示カラーを変更して、パッセージをより識別しやすくなります。

ユニゾン範囲がカラー表示されている場合、ユニゾン範囲の音符はグレーで表示されます。Dorico Pro はトゥッティのセクションの複製元の音符を、初期設定ではセクションの一番上の譜表に記譜するため、一番上の譜表の音符は黒いままになります。

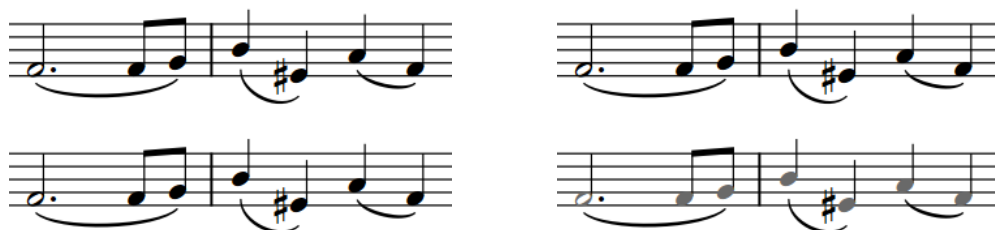
手順

- 「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)」 > 「ディヴィジのユニゾン範囲 (Divisi Unison Ranges)」を選択します。

結果

メニュー内の「ディヴィジのユニゾン範囲 (Divisi Unison Ranges)」の横にチェックマークがあるときはユニゾン範囲がカラー表示され、チェックマークがないときはカラー表示されません。

例



ユニゾン範囲のカラーが表示されていないトゥッティのパスセージ

同じユニゾン範囲のカラーが表示されているトゥッティのパスセージ

関連リンク

[ユニゾン範囲](#) (1197 ページ)

声楽の譜表のディヴィジ

声楽の譜表が分かれて異なるラインが個別の譜表に記されるとき、組段の終わりに矢印を表示して譜表の分割を強調し、ディヴィジョンの終端にも再度矢印を表示して譜表の結合を示すことが一般的です。



ons ses faits glo - ri -



ne - lle, soit é - ter -



ne - lle, soit é - ter -

譜表が次の組段で2つに分割されることを示す分割の矢印

2つの譜表が次の組段で結合して1つに戻ることを示す分割の矢印

声楽の譜表のディヴィジのパスセージで開始位置と終了位置に表示される矢印は、Dorico Pro では分割の矢印と呼ばれます。Dorico Pro は初期設定ではこの矢印を声楽の譜表に表示しますが、これはプロジェクト全体のすべての譜表で非表示にもできます。

声楽の譜表の分割の矢印を表示/非表示にする

声楽の譜表の分割の矢印を、プロジェクト全体で表示または非表示にできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストから「**ディヴィジ (Divisi)**」をクリックします。
3. 「**声楽の譜表の組段終端にあるディヴィジの指示 (Indicate divisi at end of system on vocal staves)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 分割矢印を表示 (Show divide arrows)
 - 分割矢印を非表示 (Do not show divide arrows)

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

ディヴィジの譜表ラベル

ディヴィジ譜表の譜表ラベルは、通常の譜表ラベルより詳細な記載が必要なこともよくありますそのため Dorico Pro では、ディヴィジ譜表の譜表ラベルの外観と形式設定については、追加の制御項目が用意されています。

初期設定では、ディヴィジ譜表の譜表ラベルは、テキストの形式設定に通常の譜表と同じパラグラフスタイルを使用し、譜表ラベルのオプションはディヴィジ譜表にも適用されます。一方、ディヴィジ作成における個々の譜表ラベルについては、フォント、スタイル、配置などについて、「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログの設定より優先される形での編集も行なえます。また譜表ラベルの表示/非表示のレイアウトごとの設定とは別に、特定のディヴィジに属する譜表のプレーヤー/グループ名とセクション番号の表示/非表示も切り替えられます。

ディヴィジ作成で譜表のカスタムグループを作成すると、各譜表ラベルとは個別にグループの譜表ラベルを編集できます。グループの譜表ラベルは正式名称と略称のどちらも編集できます。

補足

個々のディヴィジの譜表ラベルを編集すると、パラグラフスタイルの設定が上書きされます。このあと譜表ラベルのパラグラフスタイルを変更しても、編集されたディヴィジの譜表ラベルは更新されません。

ディヴィジ譜表の上には、レイアウトごとに個別に追加のディヴィジ作成のラベルを表示できます。初期設定では、ディヴィジ作成のラベルはディヴィジの譜表ラベルと同じ情報を表示し、各譜表の上にディヴィジ作成の位置に整列して配置されます。このようなラベルは、組段の途中でディヴィジ作成を行ない、セクションの分割の正確な位置があいまいになってしまう場合に特に有用です。

関連リンク

- [「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(1193 ページ\)](#)
- [譜表ラベル \(1159 ページ\)](#)
- [譜表ラベルのパラグラフスタイル \(1161 ページ\)](#)
- [ディヴィジ作成のラベルを編集する \(1201 ページ\)](#)

ディヴィジの譜表ラベルの編集

それぞれのディヴィジ作成に表示される譜表ラベルは個別に表示テキストを変更できます。たとえば、プロジェクト中のある1つのディヴィジョンが他とは大きく異なり、より詳細な説明が必要な場合に使用できます。ディヴィジの譜表ラベルを個別に編集する際は、各ラベルのフォントもカスタマイズできます

補足

「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログで譜表ラベルに行なった変更は、すべてのレイアウトに適用されます。これは、譜表の上の対応するディヴィジ作成のラベルに表示されるテキストにも影響します。これらのラベルに表示されるテキストを変更している場合でも同様です。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行なって、「**ディヴィジを作成 (Change Divisi)**」ダイアログを開きます。
 - 既存のディヴィジ作成のガイドのうち譜表ラベルを変更するものをダブルクリックします。
 - 新規にディヴィジ作成を入力します。
2. 「**ディヴィジョン (Divisions)**」セクションで、譜表ラベルを編集するグループまたはセクションを選択します。

3. またグループを選択している場合、必要に応じて以下のいずれかのうち編集する譜表ラベルを選択します。
 - 正式名称 (Full Name)
 - 略称 (Short Name)
4. 「譜表ラベル (Staff labels)」セクションで、選択した譜表ラベルを編集します。
5. 「プレイヤー名またはグループ名を表示 (Show player or group name)」および「セクション番号を表示 (Show section numbers)」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - オプションに従う (Follow Options)
 - 表示 (Show)
 - 非表示 (Hide)

補足

「表示 (Show)」と「非表示 (Hide)」は両方とも、すべてのレイアウトにおけるレイアウトごとの譜表ラベルの設定より優先されます。

6. 必要に応じて、ディヴィジ作成の他のセクションまたはグループに対しても、手順2から5を繰り返します。
 7. 「OK」をクリックします。
-

結果

ディヴィジ作成の譜表ラベルの外観、長さおよび挙動が、該当するすべてのレイアウトで変更されません。

関連リンク

[「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(1193 ページ\)](#)

[既存のディヴィジ作成を編集する \(1196 ページ\)](#)

[譜表ラベルを表示/非表示にする \(1162 ページ\)](#)

ディヴィジ作成のラベルを編集する

譜表の上に表示される個々のディヴィジの作成ラベルには、カスタムテキストを表示できます。これはディヴィジ譜表の譜表ラベルの内容には影響しません。

手順

1. 浄書モードで、テキストを編集するディヴィジ作成のラベルを選択します。
 2. プロパティパネルの「ディヴィジ (Divisi)」グループで、「カスタムテキスト (Custom text)」をオンにします。
 3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
 4. **[Return]** を押します。
-

結果

選択したディヴィジ作成のラベルに表示されるテキストが変更されます。

譜表ラベル内のディヴィジのセクション番号を表示/非表示にする

レイアウトごとに個別に、最初の小節線の前に表示される譜表ラベル内のディヴィジのセクション番号の表示/非表示を切り替えられます。たとえば、パートレイアウトでは譜表ラベル内のディヴィジのセクション番号を表示させ、フルスコアレイアウトでは非表示にできます。

補足

- これらの手順は、「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログでセクション番号が「オプションに従う (Follow Options)」に設定されているディヴィジ作成にのみ適用されます。
- これらの手順は、譜表ラベルの表示に関するレイアウトごとの設定または「ディヴィジを作成 (Change Divisi)」ダイアログの設定のいずれかに従うディヴィジのグループまたはインストゥルメント名には適用されません。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、ディヴィジのセクション番号を表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
4. 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションで、以下のオプションをオンまたはオフにします。
 - 最初の組段にセクション名を表示 (Show section names on first system)
 - 次以降の組段にセクション名を表示 (Show section names on subsequent systems)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

「最初の組段にセクション名を表示 (Show section names on first system)」をオンにすると、それぞれのディヴィジのパスページの最初の組段において最初の小節線の前にディヴィジのセクション番号が表示され、オフにすると非表示になります。

「次以降の組段にセクション名を表示 (Show section names on first system)」をオンにすると、ディヴィジのパスページの後続の組段すべてにおいて最初の小節線の前にディヴィジのセクション番号が表示され、オフにすると非表示になります。

例

The image shows a musical score for a string ensemble. It features four staves: Vln I, Vln II, Vla 1, and Vla 2. The Vln I and Vln II staves are in treble clef and contain rests. The Vla 1 and Vla 2 staves are in bass clef. The Vla 1 staff contains a triplet of eighth notes, followed by a quarter note and an eighth note. The Vla 2 staff contains a single eighth note. Section numbers '1' and '2' are placed to the left of the Vla staves. The text below indicates that both section numbers and staff labels are visible.

ディヴィジのセクション番号と譜表ラベルの両方を表示

The image shows the same musical score as the previous example, but with the section numbers '1' and '2' removed from the Vla staves. Only the staff labels 'Vla' are present. The text below indicates that only the staff labels are visible.

ディヴィジのセクション番号は非表示で、譜表ラベルを表示

関連リンク

[ディヴィジの譜表ラベル \(1200 ページ\)](#)

[「ディヴィジを作成 \(Change Divisi\)」ダイアログ \(1193 ページ\)](#)

[譜表ラベルを表示/非表示にする \(1162 ページ\)](#)

譜表の上のディヴィジ作成のラベルを表示/非表示にする

ディヴィジセクションの譜表の上のセクション番号は、レイアウトごとに個別に表示/非表示にできます。これによりたとえば、ディヴィジ作成が組段の途中で行なわれた場合にどの譜表がディヴィジのどのセクションに対応するのかわかりやすくしたり、譜表間の重み付けの違いを示したりできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、譜表の上のディヴィジの作成ラベルを表示または非表示にするレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
4. 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションで、「譜表の上にディヴィジの作成ラベルを表示 (Show divisi change labels above staves)」をオンまたはオフにします。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

「譜表の上にディヴィジの作成ラベルを表示 (Show divisi change labels above staves)」がオンのときは、ディヴィジョンの譜表の上にセクション番号が表示され、オフのときは非表示になります。

補足

これは、各組段の最初の小節線の前の譜表ラベルに、ディヴィジのセクション番号が表示されるかどうかには影響しません。

例



各譜表上のディヴィジのセクション名を表示



各譜表上のディヴィジのセクション名を非表示

関連リンク

[ディヴィジの譜表ラベル \(1200 ページ\)](#)

再生時のディヴィジ

ディヴィジ譜表の音符はすべて、譜表の数に関係なく再生されます。初期設定では、ディヴィジは1つのセクションプレーヤーに属するため、すべての譜表は同じチャンネルを使用して再生されます。

たとえば1つの譜表はピチカート、もう1つはアルコというように、異なるディヴィジ譜表ごとに異なるサウンドで再生させる場合は、声部の個別再生を有効にします。

関連リンク

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

タブ譜

タブ譜は5線譜に代わる記譜法で、フレット楽器に使用されます。タブ譜では、楽器の各弦を表わす線の上に配置されたフレット番号としてピッチが表示されます。タブ譜はギターに使用されることが多いため、通常は6本の線が表示されます。

Allegro

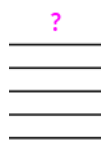
T	1	1	0	0	0	0	0	0
A		2	1	1	12	11	10	9
B		3	2	2	12	11	10	9
	1		0	0	0	0	0	0

音符の楽譜とタブ譜の両方で表示されたギターの楽譜の抜粋

Dorico Pro では、ギターやベースなどのフレット楽器の楽譜を、通常の音符の譜表とタブ譜の両方、あるいはいずれか一方で表示できます。音符や記譜記号は2つの譜表の間でリンクされているため、一方に変更を加えると (音符の入力を含む)、もう一方に自動的に反映されます。

タブ譜では、タイは、タイのつながりの2番め以降のすべての音符/コードを囲む丸括弧として自動的に記譜されます。

そのインストゥルメントの音域外の音符や計算できない音符 (一番低い弦のナットより下にある音符や適切な節が設定されていないナチュラルハーモニクスなど) は、ピンクのクエスチョンマークとしてタブ譜の上に表示されます。2つの音符が同じ弦の同じ位置に割り当てられている場合、これらの音符は隣に並べて表示され、色は緑になります。



タブ譜の計算できない音符

弦とチューニングの設定に応じて、そのインストゥルメントに適したタブ譜が自動的に表示されます。Dorico Pro では、各インストゥルメントタイプのデフォルトのチューニングが保存されており、これらは「**弦とチューニングを編集 (Edit Strings and Tuning)**」ダイアログでカスタマイズできます。

関連リンク

- [フレット楽器のチューニング \(118 ページ\)](#)
- [「弦とチューニングを編集 \(Edit Strings and Tuning\)」ダイアログ \(130 ページ\)](#)
- [タブ譜への音符の入力 \(191 ページ\)](#)
- [ハーモニクス \(928 ページ\)](#)
- [ギターバンド \(970 ページ\)](#)
- [タイ \(1235 ページ\)](#)
- [トリル \(941 ページ\)](#)

浄書オプションでタブ譜の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タブ譜 (Tablature)」ページと「譜表 (Staves)」ページには、プロジェクト全体のタブ譜のデザインに関するオプションがあります。

「タブ譜 (Tablature)」ページのオプションでは、符尾の向き、位置、配置、付点の位置、およびタブ譜の和音の囲み線のデフォルト設定を変更できます。さまざまな出版社によって定められた表記規則に則った多くのオプションがあります。

「譜表 (Staves)」ページでは、タブ譜の譜表線同士の間隔を制御する倍率を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

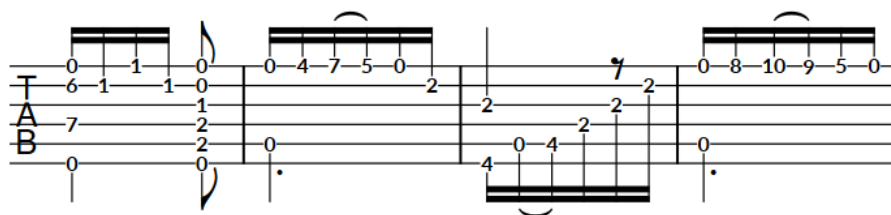
タブ譜のリズム

音符の譜表とタブ譜の両方を表示する場合、音符の譜表にのみリズムを記譜するのが慣例です。ただし、タブ譜だけを表示する場合はタブ譜にリズムを表示する必要があります。

以下の項目は、音符の譜表を表示せずにタブ譜を表示する場合にリズムを表わすために表示されます。

- 拍子記号
- 符尾、符尾の符鉤、連桁
- 付点

タブ譜にこれらの項目をどのように表示するかは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タブ譜 (Tablature)」ページで変更できます。



タブ譜に表示されたリズム

補足

初期設定では、単一の声部の符尾、符尾の符鉤、および連桁は符尾が上向き状態でタブ譜に表示されるため、ギターバンドと重なることがあります。そのため、タブ譜にギターバンドとリズムの両方を表示するプロジェクトについては、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タブ譜 (Tablature)」ページにある「符尾のデフォルトの向き (Default stem direction)」を「下 (Down)」に変更することをおすすめします。

関連リンク

[タブ譜への音符の入力 \(191 ページ\)](#)

[タブ譜の付点の配置を変更する \(1211 ページ\)](#)

音符の譜表とタブ譜を表示または非表示にする

音符の譜表とタブ譜は、レイアウトごと、およびフレット楽器ごとにさまざまな組み合わせで個別に表示/非表示にできます。たとえば、フルスコアレイアウトには音符の楽譜だけを表示し、ギターのパートレイアウトには音符の譜表とタブ譜を表示するといった具合です。


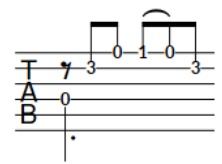

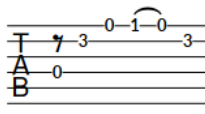
手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、タブ譜を表示または非表示にするレイアウトを選択します。初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**プレーヤー (Players)**」をクリックします。
4. 「**フレット楽器 (Fretted Instruments)**」セクションで、プロジェクト内のフレット楽器ごとに以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 音符
 - タブ譜
 - 音符とタブ譜
 - タブ譜
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

- 「**音符 (Notation)**」では音符の譜表のみ表示され、タブ譜は非表示になります。
- 「**タブ譜 (Tab)**」を選択すると、リズムを含むタブ譜が表示され、音符の譜表は非表示になります。
- 「**音符とタブ譜 (Notation and Tab)**」を選択すると、音符の譜表とリズムを含むタブ譜が表示されます。
- 「**タブ譜 (リズムなし) (Tab (no rhythms))**」を選択すると、リズムを含まないタブ譜だけが表示されます。

例

			
音符	タブ譜	音符とタブ譜	タブ譜

タブ譜で音符に割り当てられた弦の変更

タブ譜で個々の音符に割り当てられた弦を手動で変更できます。これは、たとえば音符の譜表で音符を入力し、その音符のデフォルトの弦の割り当てを変更したい場合などに便利です。

補足

音符がその弦の開放弦のピッチより低いなど、割り当てが不可能な場合には音符に弦を割り当てる事ができません。

手順

1. タブ譜で、割り当てられた弦を変更する音符のフレット番号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

音符の譜表で音符を選択するのではなく、タブ譜でフレット番号を選択してください。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、割り当てられた弦を変更します。
 - 1つ上の弦に移動するには、**[N]** を押します。
 - 1つ下の弦に移動するには、**[M]** を押します。
 - プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループの「弦 (String)」メニューから弦を選択します。

結果

選択した音符に割り当てられた弦が変更されます。キーボードショートカットを使用すると選択した音符の弦が比率を保ったまま変更されますが、「弦 (String)」メニューから弦を選択すると、選択したすべての音符に選択した弦が割り当てられます。

補足

- 割り当てられた弦を変更したことで、その音符が別の音符と同じ弦の同じ位置に割り当てられた場合、これらの音符は隣に並べて表示され、色は緑になります。
- このプロパティをオフにすると、選択した音符はデフォルトの弦にリセットされます。

例



デフォルトの弦の割り当て



いくつかの音符の弦を変更してフレット間の距離を縮めたあと

関連リンク

[タブ譜への音符の入力 \(191 ページ\)](#)

音符をデッドノートとして表示する

フレット楽器に属する個々の音符をデッドノートとして表示できます。デッドノートは音符の譜表ではX形の符頭を使用して表示され、タブ譜ではXで表示されます。

手順

1. デッドノートとして表示する、フレット楽器に属する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」のグループで、「デッドノート (Dead note)」をオンにします。

結果

選択した音符がデッドノートとして表示されます。

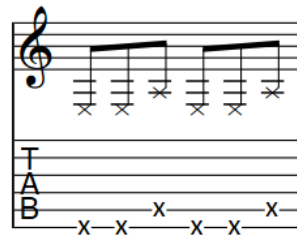
補足

デッドノートは現在のところ再生には反映されませんが、これは将来のバージョンにおいて予定されています。

例



標準の音符



デッドノート

関連リンク

[タブ譜への音符の入力 \(191 ページ\)](#)

[括弧付きの符頭 \(918 ページ\)](#)

タブ譜で音符の囲み線を表示または非表示にする

タブ譜で、2分音符以上の長さの音符（つまり、音符の譜表では白い符頭で表示されるデュレーション）のすべての和音の囲み線を表示または非表示にできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. ページリストの「タブ譜 (Tablature)」をクリックします。
3. 「囲み線 (Enclosures)」セクションの「2分音符以上の長さの音符または和音の囲み線: (Enclosures for notes and chords longer than a quarter note (crotchet):)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - なし (None)

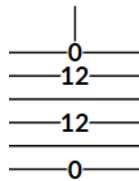
- 楕円
- 角丸の長方形

4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

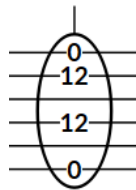
結果

「なし (None)」を選択した場合は、2 分音以上の長さの音符の囲み線が非表示になり、「楕円 (Ellipse)」または「角丸の長方形 (Rounded rectangle)」を選択した場合は、それぞれの形状の囲み線が表示されます。

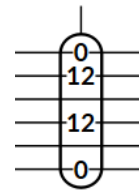
例



なし (None)



楕円



角丸の長方形

タブ譜で単音の囲み線の形状を変更する

2 桁のフレット番号は高さより幅の方が大きくなることが多いなど、全体的な寸法が大きく異なる場合があるため、タブ譜の単音には、和音とは異なる形状の囲み線が必要です。すべての単音に丸の囲み線を表示するか、1 桁のフレット番号に楕円の囲み線を表示するかを設定できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
2. ページリストの「タブ譜 (Tablature)」をクリックします。
3. 「囲み線 (Enclosures)」セクションの「単音の囲み線の形: (Enclosure shape for single notes:)」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 丸を優先 (Prefer circle)
 - 楕円を許可 (Allow ellipse)
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

「丸を優先 (Prefer circle)」は、フレット番号が 1 桁か 2 桁かに関係なく、すべての単音に丸の囲み線を表示します。

「楕円を許可 (Allow ellipse)」は、1 桁のフレット番号に楕円の囲み線を表示しますが、2 桁のフレット番号には丸の囲み線を表示します。

例



丸を優先 (Prefer circle)



楕円を許可 (Allow ellipse)

タブ譜の付点の配置を変更する

初期設定では、タブ譜の付点は1つの和音に対して1つで、一番上の譜表線の上に表示されます。この配置を変更して、音符の横に複数の付点を表示させることができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**タブ譜 (Tablature)**」をクリックします。
3. 「**付点 (Rhythm Dots)**」セクションの「**付点の位置: (Position of rhythm dots:)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **音符の横 (Next to notes)**
 - **譜表の外側 (Outside staff)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

関連リンク

[タブ譜のリズム](#) (1206 ページ)

タブ譜の数字用フォントスタイルの編集

タブ譜の数字に使用するフォントの形式設定を編集できます。

手順

1. 浄書モードで、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」を選択して、「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログを開きます。
2. 「**フォントスタイル (Font style)**」メニューから「**タブ譜の数字用フォント (Tablature Numbers Font)**」を選択します。
3. 以下のオプションを個別または一括で設定することで、対応するフォント属性を変更できます。
 - **フォントファミリー (Font family)**
 - **サイズ (Size)**
 - **スタイル (Style)**
 - **下線 (Underlined)**
4. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

タブ譜の数字に使用するフォントの形式設定がプロジェクト全体で変更されます。

符尾

符尾とは、2分音符かそれ以下のデュレーションの音符の符頭から延びる垂直の線です。符頭のデザインとの組み合わせにより、それぞれの音符のデュレーションが明確に識別できます。

たとえば、4分音符と8分音符はどちらも黒丸符頭と符尾を持ちますが、8分音符の場合は符尾に符鉤も付きます。16分音符には2つ、32分音符には3つというように符鉤が付いていきます。符尾の長さは Dorico Pro のデフォルトにより決定され、符鉤の増減に合わせて自動的に調整されます。



2分音符 (左) から 128分音符 (右) までの、符尾の付いた音符

音符と和音の符尾は、楽譜の浄書における表記規則と楽譜中の位置に従い、上向きまたは下向きになります。たとえば譜表が2つの合唱の楽譜においては、ソプラノとテナーのラインでは符尾は上向き、アルトとバスのラインでは符尾は下向きになります。

関連リンク

[符尾の長さ \(1217 ページ\)](#)

[譜表の第3線上にある音符のデフォルトの符尾方向を変更する \(1215 ページ\)](#)

[オルタードユニゾン \(627 ページ\)](#)

浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページで、符尾の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**音符 (Notes)**」ページのオプションを使用すると、符尾のデザイン、衝突回避、長さ、および線の太さを変更できます。また、符尾が上向きまたは下向きになる状況の設定や、符尾が短くなる状況の設定、符頭が譜表の第3線上にあるときのデフォルトの符尾の方向の変更が行なえます。



デフォルトの符鉤のデザイン



まっすぐな符鉤のデザイン

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

補足

トレモロストロークが付いた符尾には、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページで確認できる特定のオプションがあります。たとえば、符尾の端や異なる符尾の符鉤とトレモロストロークとのデフォルト距離の変更などが行なえます。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[浄書オプションでトレモロの設定をプロジェクト全体に適用する \(1273 ページ\)](#)

符尾の方向

Dorico Pro では、音符および和音の符尾の方向は、楽譜の浄書における表記規則に基づくルールに従います。

符尾の方向は自動的に決定されますが、音符、和音、または声部全体について、手動で個別に符尾の方向を変更できます。適用されるルールは以下の条件に従います。

- 譜表で有効な声部の数。
- 適用先が音符、和音、または音符の連桁グループのいずれであるか。
- 同じ和音または同じ連桁グループに属する音符が、譜表間で分割されているかどうか。

単一の声部の単一の音符

有効な声部が1つだけの5線譜においては、単一の音符のデフォルトの符尾の向きは、その譜表上の位置により決定されます。

- 音符が第3線より上にある場合、符尾は下向きになります。
- 音符が第3線より下にある場合、符尾は上向きになります。
- 音符が譜表の第3線上にある場合、譜表の方向は隣接する音符、連桁グループ、または和音により決定されます。両側の符尾の方向が同じである場合、音符の符尾もそれに合わせます。隣接する音符、連桁グループ、または和音の符尾の方向がそれぞれ異なる場合、または隣接する音符、連桁グループ、または和音がない場合、音符はデフォルトの符尾の方向に従います。

デフォルトの符尾の方向はインストゥルメントのタイプに従います。初期設定では、第3線上の音符の符尾は、インストゥルメントの譜表では下向きですが、声楽の譜表では歌詞との衝突を避けるため上向きです。

ヒント

譜表の第3線上の音符および連桁グループ、および譜表の第3線上から上下に均等に音符が配置された和音におけるデフォルトの符尾の方向は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」のページにある「**符尾 (Stems)**」のセクションで変更できます。また、符尾の方向がデフォルトの設定に従うか、それとも楽譜の前後関係に従い変化するか選択できます。



4番目の音符の符尾が上向きであるため、第3線上の音符の符尾は上向きになります。



4番目の音符の符尾が下向きであるため、第3線上の音符の符尾は下向きになります。

Dorico Pro の初期設定では、最初に入力された一連の音符は、符尾が上向きの声部として設定されます。これらの音符は他の声部が入力されるまで譜表の唯一の声部として扱われます。

複声部の単一の音符

譜表に複数の声部があり、すべての声部に音符が含まれる場合、符尾の向きは声部の符尾の向きによって決定されます。符尾が上向きの声部に含まれる音符の符尾は上を、符尾が下向きの声部に含まれる音符の符尾は下を向きます。通常であれば譜表の位置に基づいて逆の方向に符尾が向く場合でも、声部の符尾の方向が音符に適用されます。

補足

符尾が上向きの異なる声部または符尾が下向きの異なる声部に含まれる音符の表示順は、それぞれのピッチと「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**声部 (Voices)**」ページの設定によって変わります。また、音符の声部ごとに列の並び順を個別に変更することもできます。

音符が1つの声部にしか含まれない状態が1小節以上続くときは、Dorico Pro は自動的に符尾の方向をピッチに基づくデフォルトの方向に変更します。たとえば、譜表に符尾が上向きの声部が1つと符尾が下向き声部が1つあり、符尾が下向き声部にのみ音符や休符が含まれている場合、符尾が下向き声部に含まれる音符の符尾は、譜表上の音符の位置によっては上向きになることがあります。ただし、空白の声部で休符や暗黙の休符を表示した場合、音符の符尾の方向は声部の符尾の方向に従います。



上向き声部を表わすブルーの音符 下向き声部を表わす紫色の音符。他の声部がないため、下向き声部に含まれる音符の符尾が上向き 上向き、下向き声部が同じ小節内にある場合、符尾の方向は自動的に変わる

単一の声部の和音

単一の声部の和音の符尾の方向は、譜表の第3線の上下にある音符のバランスにより決定されます。

- 第3線から一番遠い音符が第3線より高い位置にある場合、和音の符尾は下向きになります。
- 第3線から一番遠い音符が第3線より低い位置にある場合、和音の符尾は上向きになります。
- 譜表の第3線の上下で和音のバランスが均等に取れている場合、譜表の方向は隣接する音符、連符グループ、または和音により決定されます。両側の符尾の方向が同じである場合、和音の符尾もそれに合わせます。隣接する音符、連符グループ、または和音の符尾の方向がそれぞれ異なる場合、均等なバランスの和音はデフォルトの符尾の方向に従います。

デフォルトの符尾の方向はインストゥルメントのタイプに従います。初期設定では、第3線上の音符の符尾は、インストゥルメントの譜表では下向きですが、声楽の譜表では歌詞との衝突を避けるため上向きです。

ヒント

譜表の第3線上の音符および連符グループ、および譜表の第3線上から上下に均等に音符が配置された和音におけるデフォルトの符尾の方向は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」のページにある「**符尾 (Stems)**」のセクションで変更できます。また、符尾の方向がデフォルトの設定に従うか、それとも楽譜の前後関係に従い変化するか選択できます。

単一の声部の連符グループ

連符グループの符尾の方向は、連符グループに属する音符が譜表の第3線の上下に分布するバランスにより決定されます。

- 連符グループに属する音符の過半数が第3線より上であれば、連符グループの符尾の方向は下向きになります。
- 連符グループに属する音符の過半数が第3線より下であれば、連符グループの符尾の方向は上向きになります。
- 連符グループに属する音符の数が譜表の第3線の上下で均等な場合、譜表の方向は隣接する音符、連符グループ、または和音により決定されます。両側の符尾の方向が同じである場合、連符グループの符尾もそれに合わせます。隣接する音符、連符グループ、または和音の符尾の方向がそれぞれ異なる場合、均等なバランスの連符グループはデフォルトの符尾の方向に従います。

デフォルトの符尾の方向はインストゥルメントのタイプに従います。初期設定では、第3線上の音符の符尾は、インストゥルメントの譜表では下向きですが、声楽の譜表では歌詞との衝突を避けるため上向きです。

ヒント

譜表の第3線上の音符および連符グループ、および譜表の第3線上から上下に均等に音符が配置された和音におけるデフォルトの符尾の方向は、「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符**

「(Notes)」のページにある「符尾 (Stems)」のセクションで変更できます。また、符尾の方向がデフォルトの設定に従うか、それとも楽譜の前後関係に従い変化するか選択できます。

関連リンク

[浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する \(1212 ページ\)](#)

[声部のフローごとの記譜オプション \(1309 ページ\)](#)

[声部列の並び順 \(1311 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(1122 ページ\)](#)

[複声部の音符位置 \(1308 ページ\)](#)

[声部のデフォルトの符尾の方向を変更する \(1216 ページ\)](#)

[符尾の方向の変更を解除 \(1217 ページ\)](#)

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

[オルタードユニゾン \(627 ページ\)](#)

譜表の第3線上にある音符のデフォルトの符尾方向を変更する

譜表の第3線上にある音符の符尾は、上下いずれの方向にもできます。そのような符尾のデフォルトの方向を変更して、符尾の方向が隣接する音符、連桁グループ、または和音に影響を受けるか、それとも常にデフォルトの方向に従うか選択できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストの「**音符 (Notes)**」をクリックします。
 3. 「**符尾 (Stems)**」のセクションの「**符尾の方向 (Stem Directions)**」のサブセクションで、「**譜表の第3線上にある音符の符尾の向き (Stem direction for notes on the middle line of the staff)**」の以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **前後の音符に合わせる (Determine by context)**
 - **デフォルトの向きを使用 (Use default direction)**
 4. 必要に応じて、「**第3線上の音符のデフォルトの向き (Default stem direction for notes on the middle line of the staff)**」に以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **上 (Up)**
 - **下 (Down)**
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

音符の符尾の方向を個別に変更する

音符の符尾の方向は手動で変更できます。

手順

1. 符尾の方向を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって符尾の方向を変更します。
 - 「**編集 (Edit)**」 > 「**符尾 (Stem)**」 > 「**符尾を強制的に上向き (Force Stem Up)**」を選択します。
 - 「**編集 (Edit)**」 > 「**符尾 (Stem)**」 > 「**符尾を強制的に下向き (Force Stem Down)**」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した音符の符尾の方向が変更されます。選択した音符はここで指定した符尾の方向に従います。音符のピッチを後から変更し、異なる符尾の方向が通常使用されるピッチにしても符尾の方向は変わりません。

補足

これによって音符が属する声部は変更されません。

例



同じ方向を向くが、異なる声部に属する符尾



同じ方向を向き、同じ声部に属する符尾

関連リンク

[既存の音符の声部を変更する \(344 ページ\)](#)

声部のデフォルトの符尾の方向を変更する

声部のデフォルトの符尾の方向は、スラッシュ符頭の声部も含めて、入力したあとでも変更できます。

補足

これは声部における暗黙の符尾の方向を変更しますが、単一の声部におけるすべての音符の符尾の方向を変更するわけではありません。Dorico Pro では、音符が含まれる声部が 1 つだけのときは、符尾の方向が自動的に変更されます。

手順

1. 符尾の方向を変更する声部の音符または和音を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択した声部のデフォルトの符尾の方向を変更します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「符尾をデフォルトで下向きにする (Default Stems Down)」を選択します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「符尾をデフォルトで上向きにする (Default Stems Up)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

関連リンク

[符尾の方向 \(1213 ページ\)](#)

符尾の方向の変更を解除

符尾の方向に加えた変更を解除して、デフォルトの方向に復元できます。

手順

1. 符尾の方向の変更を解除する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「符尾 (Stem)」 > 「符尾の強制を削除 (Remove Forced Stem)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した音符におけるすべて符尾の方向の変更が解除されます。選択した音符の符尾がデフォルトの方向に復元されます。

補足

または、符尾の方向を逆方向に変更もできます。ただし、符尾の方向が強制された音符は、たとえば後からピッチを変更しても、符尾の方向が自動的に変更されません。

関連リンク

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(1215 ページ\)](#)

符尾の長さ

Dorico Pro の初期設定での符尾の長さは、音符の譜表上の位置による符尾の外観に関する一般的な表記規則に従い決定されます。

すべての符尾の長さに関するプロジェクト全体のデフォルト設定は変更でき、また浄書モードでは個々の符尾の長さを変更できます。

関連リンク

[浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する \(1212 ページ\)](#)

符尾の長さを個別に変更する

音符の符尾の長さを、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、長さを変更する符尾を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、符尾の長さを変更します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して符尾を伸ばします。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して符尾を縮めます。

補足

符尾の長さを変更する幅を大きくする場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 符尾の終端の四角いハンドルをクリックして、上下にドラッグします。

結果

選択した符尾の長さが、符尾の方向に関わらず変更されます。たとえば、符尾が下向きの音符を選択して **[Alt/Opt]+[↑]** を押すと、符尾の終端が下に移動して符頭から離れることによって長さが伸びます。

ヒント

- 符尾の長さを変更すると、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループの「**符尾の調節 (Stem adj.)**」がオンになります。

このプロパティの数値フィールドの数値を変更することでも、符尾の長さを変更できます。ただし、「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループは、符尾ではなく符頭が選択されているときしか利用できません。

プロパティをオフにすると、選択した符尾がデフォルトの長さにリセットされます。

- 符尾のデフォルトの長さをプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**符尾 (Stems)**」セクションで設定を行ないます。異なる状況の符尾には、それぞれ異なるオプションがあります。

符尾の非表示

どの符頭デザインの音符でも、符尾は非表示にできます。

Dorico Pro では、符尾なしの符頭のデザインを使用するのではなく、符尾を非表示にできるようにしています。これにより、どの符頭のデザインにおいても符尾を非表示にできます。

手順

1. 浄書モードで、符尾を非表示にする音符を選択します。
2. プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループで、「**符尾を非表示 (Hide stem)**」をオンにします。

結果

選択した音符の符尾と付属する符鉤が非表示になります。あとから音符のピッチを変更しても、符尾は完全に非表示のままになります。

選択した音符が連桁のグループに属する場合、連桁は通常通りに表示され続けます。ただし連桁グループのすべての音符の符尾を非表示にした場合は、連桁も非表示になります。

関連リンク

[符尾の長さを個別に変更する \(1217 ページ\)](#)

テンポ記号

テンポ記号は楽譜を演奏する速さを示し、多くの場合テキストによる指示とメトロノームマークの組み合わせで表示されます。これはまたテンポ変更やテンポ指示などとも呼ばれます。

テンポ記号はテキストによる指示、メトロノームマーク、または両者の組み合わせで表示されます。

Assez animé ♩ = 144

Assez animé ♩ = 144

pp très rythmé, léger

フランス語によるテキスト指示とメトロノームマークからなるテンポ記号

テキストによる指示は伝統的に、largo や allegretto などのイタリア語で表現されますが、英語、フランス語、ドイツ語など他の言語の使用も広く受け入れられるようになってきました。テキストによる指示は単に楽曲を演奏する速さを表現するだけの場合もありますが、その性質を表わす場合もあります。たとえば、grave は遅さとともに重々しさや悲しさの表現を意味し、vivo は速さとともに陽気さや快活さの表現を意味します。

メトロノームマークは楽曲を演奏する速さを表わし、1分あたりの拍数、または bpm で表示されます。メトロノームマークは固定の bpm を表示する場合と、可能または許容される値の範囲を示す場合があります。

段階的テンポ変更は、指定された時間範囲で行なわれるテンポ変更を示します。たとえば、延長線が付くものや付かないもの、テキストが音節で分かれてデュレーションにわたって広がるものなど、さまざまな形で表現されます。

テンポ記号はポイントサイズの大きい太字フォントを使用するため、ページ上でははっきりと目立ちます。通常、テンポ記号に斜体フォントは使用されません。フォントサイズを変更してテンポ記号を大きく表示するなど、テンポ記号に使用されるフォントの形式設定を編集できます。

Dorico Pro では、テンポ記号は組段オブジェクトに分類されます。従って、テンポ記号は組段オブジェクトの表示と配置に関するレイアウトごとの設定に従い、これは「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「譜表と組段 (Staves and Systems)」のページで変更できます。

初期設定では、入力したテンポ記号によって再生と MIDI 録音のテンポが設定されますが、たとえば MIDI 録音時に単一の固定テンポを使用したい場合などはテンポモードを変更できます。段階的テンポ変更は再生テンポにも影響し、たとえば最終的に特定の bpm に到達する必要がある場合には、段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポを変更できます。プロジェクトに一切のテンポ記号を入力しなかった場合、デフォルトの再生テンポは 120 bpm になります。

関連リンク

[メトロノームマーク \(1228 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更 \(1231 ページ\)](#)

[テンポ記号の要素 \(1226 ページ\)](#)

[テンポ記号のフォントスタイル \(1224 ページ\)](#)

[タイムトラック \(538 ページ\)](#)

- [テンポ記号の入力方法 \(231 ページ\)](#)
- [テンポ記号の位置 \(1221 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)
- [組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)
- [テンポモードの変更 \(554 ページ\)](#)

テンポ記号のタイプ

Dorico Pro は、その機能と楽曲に与える影響に従い、テンポ記号を複数のタイプにグループ分けしています。

記譜モードのテンポパネルでは以下のテンポ変更が利用できますが、テンポのポップオーバーを使用しても、すべてのタイプのテンポ変更を入力できます。

固定テンポ変更 (Absolute Tempo Change)

明確なテンポ変更を示し、多くの場合メトロノームマークを伴って表示されます。

段階的テンポ変更 (Gradual Tempo Change)

rallentando (テンポを落とす) や accelerando (テンポを上げる) など、指定した時間範囲におけるテンポの変更を示します。

相対テンポ変更 (Relative Tempo Change)

mosso (変動) など、前のテンポに対する相対的なテンポの変更を示します。

相対テンポ変更には、poco meno mosso (今までより少し遅く) のように、変化の度合いを表わす修飾語句が付く場合もあり、これにはメトロノームマークによる指定はありません。ただし、前のメトロノームマークに対する割合の形で、メトロノームマークの相対的な変化を設定できます。

テンポをリセット (Reset Tempo)

A tempo のようにテンポを前のテンポに戻したり、Tempo primo (楽曲の最初のテンポに戻る) のように、あらかじめ指定されたテンポに戻したりします。

テンポの等式 (Tempo Equation)

メトロノームマークが基本とする拍の単位の変更を示します。たとえば、拍子記号が 3/4 から 6/8 に変更された場合、♩♩ というテンポの等式により、3/4 拍子では 4 分音符の拍の単位に使用されていたメトロノームマークの値が、6/8 拍子では付点 4 分音符の拍の単位に使用されることが示されます。

関連リンク

- [メトロノームマーク \(1228 ページ\)](#)
- [段階的テンポ変更 \(1231 ページ\)](#)
- [テンポ記号の入力方法 \(231 ページ\)](#)
- [テンポパネル \(233 ページ\)](#)
- [テンポのポップオーバー \(231 ページ\)](#)
- [テンポ記号のフォントスタイル \(1224 ページ\)](#)

浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「テンポ (Tempo)」ページで、テンポ記号の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「テンポ (Tempo)」のページのオプションでは、メトロノームマークに表示する小数点以下の桁数を含めたテンポ記号の外観や、譜表、拍子の変更記号、その他のアイテムに対する位置を変更できます。また、段階的テンポ変更の延長線の外観、太さ、および小節線に対する位置も変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1230 ページ\)](#)

テンポ記号の位置

テンポ記号は通常すべての譜表に適用されるため、譜表の上の他の組段オブジェクトと同じ位置に配置されます。可読性を確保するため、スラー、タイ、オクターブ線などの記譜記号の上に配置され、多くの場合リハーサルマークと整列します。

テンポ記号は拍子記号、またはテンポが適用されるリズム上の位置にある符頭か休符に整列します。たとえば、テンポ記号の位置に臨時記号の付いた符頭がある場合、テンポ記号は臨時記号に整列するのが表記規則となっています。

組段の途中に反復記号が置かれ、これが小節線として扱われない場合、テンポ記号はこの反復記号に整列します。

テンポ記号がテキストとメトロノームマークの両方を表示するとき、先にテキストが表示され、そのあとにメトロノームマークが表示されます。水平方向のスペースが詰まっているとき、メトロノームマークはテンポ記号テキストの下に配置できます。

テンポ記号のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。これらは「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

テンポ記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、適用されるリズム上の位置がこれによって変更されることはありません。

テンポ記号のデフォルト位置および外観に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページで変更できます。

Dorico Pro では、テンポマークは組段オブジェクトに分類され、選択したインストゥルメントのファミリーの最初の太括弧の上に表示できます。どのインストゥルメントファミリーの上に組段オブジェクトを表示させるかは、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアのみ各組段の上に複数のテンポ記号を表示させることなどができます。

関連リンク

[浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1220 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

テンポ記号のリズム上の位置の変更

テンポ記号の位置は入力後に移動できます。

手順

1. 記譜モードで、移動するテンポ記号を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に位置を移動できるテンポ記号は1つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従いテンポ記号を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - テンポ記号をクリックして任意の水平位置にドラッグします。

結果

選択したテンポ記号が新しい位置に移動します。

補足

テンポ記号はそれぞれの位置に1つしか存在できません。選択したテンポ記号を移動させる際に他のテンポ記号の上を通過した場合、そこにあったテンポ記号は削除されます。

この動作は元に戻せますが、移動中に削除されたテンポ記号については、移動にキーボードを使用した場合しか復元されません。

関連リンク

[段階的テンポ変更の長さの変更 \(1231 ページ\)](#)

テンポ記号の表示位置の変更

テンポ記号の表示位置は、適用されるリズム上の位置を変更することなく移動できます。段階的テンポ変更の開始位置と終了位置はそれぞれ個別に移動できるため、個々の段階的テンポ変更の表示上の長さを変更できます。

補足

段階的テンポ変更の角度は変更できません。

手順

1. 浄書モードで、以下のいずれかから移動するものを選択します。

- テンポ記号
- 段階的テンポ変更の開始位置または終了位置の個々のハンドル

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、テンポ記号またはハンドルを移動させます。

- テンポ記号またはハンドルを右へ移動するには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- テンポ記号またはハンドルを左へ移動するには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- テンポ記号または段階的テンポ変更全体を上へ移動するには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
- テンポ記号または段階的テンポ変更全体を下へ移動するには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。

補足

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。
-

結果

選択したテンポ記号、段階的テンポ変更またはハンドルの移動により、表示位置が更新されます。

ヒント

テンポ記号の位置を移動すると、プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」のグループにある以下の対応するプロパティが自動的にオンになります。

- 「開始オフセット (Start offset)」: テンポ記号および段階的テンポ変更の開始位置を移動させます。「X」は水平位置を移動させ、「Y」は垂直位置を移動させます。
- 「終了 X (End X)」は段階的テンポ変更の終了位置を水平に移動させます。

たとえば、段階的テンポ変更全体を移動させた場合は、両方のハンドルが移動されることにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでも、テンポ記号の移動および段階的テンポ変更の表示の長さの変更が行なえます。ただし、これらのプロパティを使用しているときは、固定テンポ記号と段階的テンポ変更の表示位置を同時に変更はできません。

プロパティをオフにすると、選択したテンポ記号および段階的テンポ変更がデフォルト位置にリセットされます。

小節線に対する段階的テンポ変更の線の終了位置を変更する

小節の終了位置に対する段階的テンポ変更の線の右端の位置を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

補足

これはテキストのみのスタイルを使用する段階的なテンポ変更記号の外観に影響しません。

手順

1. 浄書モードで、終了位置の小節線に対する位置を変更する段階的テンポ変更を選択します。
 2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「小節線との交差 (Barline interaction)」をオンにします。
 3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 手前で停止 (Stop before)
 - 継続 (Continue)
-

結果

選択した段階的テンポ変更の終了位置が変更されます。

補足

段階的テンポ変更のデフォルトの終了位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「テンポ (Tempo)」ページにある「水平位置 (Horizontal Position)」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1220 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更のスタイルを個別に変更する \(1232 ページ\)](#)

テンポのテキストの変更

既存のテンポマークのテキストは個別に変更できます。

手順

1. テンポのテキストを変更するテンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「テキスト (Text)」フィールドに任意のテンポのテキストを入力します。

3. **[Return]** を押します。

結果

選択したテンポ記号のテンポのテキストが変更されます。

ヒント

テンポのポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、テンポのテキストを変更できます。

関連リンク

[テンポのポップオーバー \(231 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(332 ページ\)](#)

[テンポ記号の要素 \(1226 ページ\)](#)

テンポの省略テキストの表示

テンポ記号は個別にカスタムの省略テキストを使用して表示できます。たとえば、長いテンポ記号が一部のパートレイアウトのページ範囲からはみ出してしまう場合、省略形を使用して範囲内に収めることができます。

手順

1. 楽譜領域で、テンポの省略テキストを表示するレイアウトを開きます。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. 省略テキストで表示するテンポ記号を選択します。
 3. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」のグループで、「略語 (Abbreviation)」をオンにします。
 4. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
 5. 「テンポ (Tempo)」のグループの「省略 (Abbreviate)」をオンにします。
 6. 対応するチェックボックスをオンにします。
-

結果

選択したテンポ記号が省略テキストで表示されます。Dorico Pro のプロパティはレイアウト固有のため、テンポのテキスト全体を表示しているレイアウトにある同じテンポ記号の外観には、この設定は影響しません。

「略語 (Abbreviation)」がオンで「省略 (Abbreviate)」がオフのとき、または「略語 (Abbreviation)」と、「省略 (Abbreviate)」および対応するチェックボックスの両方がオンになっているとき、テンポの省略テキストが表示されます。これにより、「略語 (Abbreviation)」のフィールドに入力した省略テキストが削除されないまま、レイアウトごとに省略テキストと完全テキストを切り替えられます。

テンポ記号のフォントスタイル

さまざまなテンポ記号のタイプとテンポ記号の要素のために、さまざまなフォントスタイルがあります。フォントサイズを変更してテンポ記号を大きく表示するなど、これらのフォントの各種設定は「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで編集できます。

テンポ記号には以下のフォントが使用されています。

- **段階的テンポテキスト用フォント (Gradual Tempo Text Font):** rallentando などの段階的テンポ変更で使用されます。
- **即時テンポテキスト用フォント (Immediate Tempo Text Font):** Adagio などの固定テンポ変更で使用されます。
- **メトロノーム音楽テキスト用フォント (Metronome Music Text Font):** 」など、メトロノームマークの音価のグリフで使用されます。

- **メトロノームテキスト用フォント (Metronome Text Font):** =76 など、メトロノームマークの等式と数字に使用されます。

補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

テンポ記号の表示/非表示

再生速度を変えずに、個々のテンポ記号の各構成要素を表示/非表示にできます。これはすべてのレイアウトにおける外観に影響します。

手順

1. 非表示にするテンポ記号、または表示するテンポ記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルにある「**テンポ (Tempo)**」グループで、次のプロパティのオンオフを切り替えます。
 - **テキストを表示 (Text shown)**
 - **メトロノームマークを表示 (Metronome mark shown)**
-

結果

少なくとも1つのプロパティがオンになると、選択したテンポ記号が表示されます。オンのプロパティに応じて、構成要素が表示されます。

どちらのプロパティもオフの場合、選択したテンポ記号は非表示になります。テンポ記号は非表示にしても再生速度に影響を与えるため、非表示のテンポ記号の位置にガイドが表示されます。

関連リンク

[固定テンポ変更のタイプと外観の変更 \(1227 ページ\)](#)
[ガイド \(337 ページ\)](#)

テンポ記号の削除

テンポ記号を削除して、再生のテンポを1つ前のテンポ記号がある場合はそのテンポに、ない場合はデフォルトのテンポにリセットできます。

手順

1. 記譜モードで、削除するテンポ記号またはテンポ記号のガイドを選択します。
 2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
-

結果

選択したテンポ記号が削除され、楽譜領域または再生モードのタイムトラックに表示されなくなります。再生におけるテンポは、1つ前のテンポ記号がある場合はそのテンポに、ない場合はデフォルトのテンポである120bpmに従います。

段階的テンポ変更のラインを打ち切っているテンポ記号を削除した場合、段階的テンポ変更のラインは自動的に本来の全長か、次の既存のテンポ記号の位置まで延長されます。

テンポ記号の要素

テンポ記号の要素にはテキスト、メトロノームマーク、括弧、そして近似値の指示などがあります。テンポ記号は、プロジェクトごとに好みや必要に従い、さまざまな要素のさまざまな組み合わせで表示できます。

テンポ記号のどのタイプにどの要素を表示するか、プロジェクト全体の設定を変更できるとともに、個々のテンポ記号においても表示する要素を変更できます。

プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」のグループで、それぞれの要素に対応するプロパティをオンにできます。個々の固定テンポ変更に対しては、以下のテンポ記号のプロパティをいくつでも自由な組み合わせでオンにできます。

テキストを表示 (Text shown)

オンにするとテキストを表示し、オフにするとテキストを非表示にします。

メトロノームマークを表示 (Metronome mark shown)

オンにするとメトロノームマークを表示し、オフにするとメトロノームマークを非表示にします。

括弧つき (Parenthesized)

オンにするとメトロノームマークを括弧つきで表示し、オフにすると括弧なしで表示します。これは近似値によるメトロノームマークにも適用されます。

近似 (Is approximate)

オンにするとメトロノームマークを近似値で表示し、オフにすると固定値で表示します。

近似値の外観 (Approximate appearance)

近似値によるメトロノームマークの外観を、「c.」や「circa」などから選択できます。

補足

このプロパティは近似値によるテンポ記号に適用され、「近似 (Is approximate)」がオンのときだけ利用できます。

等号を表示 (Show equals sign)

このプロパティと対応するチェックボックスの両方をオンにすると、等号が表示されます。チェックボックスをオフにすると、等号は非表示になります。

補足

このプロパティは近似値によるテンポ記号に適用され、「近似 (Is approximate)」がオンのときだけ利用できます。

段階的テンポ変更の要素

以下の要素は、rallentando などの段階的テンポ変更に応用されます。

Poco a poco

このプロパティの横のチェックボックスをオンにすると、段階的テンポ変更の直後に poco a poco のテキストが表示されます。

関連リンク

[浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1220 ページ\)](#)

固定テンポ変更のタイプと外観の変更

個々の固定テンポ変更に表示する要素と、その外観を変更できます。

手順

1. 要素を変更する固定テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、以下のいずれかのプロパティをオンにします。
 - テキストを表示 (Text shown)
 - メトロノームマークを表示 (Metronome mark shown)
 - 括弧つき (Parenthesized)
 - 近似 (Is approximate)
 - 「近似値の外観 (Approximate appearance)」(「近似 (Is approximate)」がオンである場合のみ利用可能)
 - 「等号を表示 (Show equals sign)」(「近似 (Is approximate)」がオンである場合のみ利用可能)

結果

選択したテンポ記号が対応する要素を表示するように変更されます。

補足

いずれのプロパティもオンにしなかった場合、楽譜にテンポ記号は表示されません。かわりに、テンポ記号の位置がガイドによって示されます。

段階的テンポ変更 **poco a poco** のテキストを個別に追加する

段階的テンポ変更の直後に **poco a poco** のテキストを追加できます。

補足

また、テンポのポップオーバーに **poco a poco** を直接入力もできます。ただし、この入力は段階的テンポ変更ではなくテンポ記号として扱われ、使用できるプロパティも異なってきます。

手順

1. **poco a poco** のテキストを追加する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「**Poco a poco**」をオンにします。

結果

選択した段階的テンポ変更のテキストの直後に **poco a poco** のテキストが表示されます。

「**Poco a poco (少しずつ)**」をオフにすると、選択した段階的テンポ変更から **poco a poco** のテキストが取り除かれます。

例



Rallentando に poco a poco のテキストが付いた例

メトロノームマーク

テンポ記号には多くの場合メトロノームマークの値が表示されます。メトロノームマークは楽曲を演奏する速さを表わし、1分あたりの拍数、または bpm で表示されます。たとえば、60bpm は1秒間に1拍を意味します。1分あたりの拍数が増えるほど、演奏が速くなります。

♩ = 176–184

範囲で表示されるメトロノームマーク

メトロノームマークは ♩ = 176 といった単独の数値を指定したり、♩ = 152 ~ 176 のように許容可能な範囲を示したりできます。これは括弧付きで表示することもでき、メトロノームマークが固定テンポではなくガイドとしての意味合いで使用される場合などに有効です。

初期設定では、メトロノームマークは整数として表示され、小数点以下は表示されません。メトロノームマークに小数点以下の値を入力した場合、最も近い整数に丸められます。再生モードで**タイムトラック**に入力したメトロノームマークは、初期設定ではガイドとして表示されます。

メトロノームマークに使用されている拍の単位は、通常は拍子に関連しています。たとえば 4/4 におけるメトロノームマークの拍の単位は4分音符ですが、6/8 においては付点4分音符になります。

Dorico Pro では、メトロノームマークは単独の数値または範囲として表示できます。メトロノームマークのタイプと外観によって、bpm の値は固定テンポを示す場合も、近似値を示す場合もあります。

関連リンク

[テンポ記号の入力方法 \(231 ページ\)](#)

[タイムトラック \(538 ページ\)](#)

[メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする \(1230 ページ\)](#)

[固定テンポ変更のタイプと外観の変更 \(1227 ページ\)](#)

メトロノームマークの値の変更

個々の固定テンポ記号におけるメトロノームマークの値や拍の単位は、入力後でも変更できます。

補足

この手順は、段階的テンポ変更やテンポのリセット記号、相対テンポ記号には当てはまりません。

手順

1. メトロノームマークの値を変更する固定テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「テンポ (bpm) (Tempo (bpm))」の値を変更します。
3. **[Return]** を押します。

4. 「**拍の単位 (Beat unit)**」に対し、適切な音符のデュレーションと、該当する場合は付点を選択します。

結果

選択した固定テンポ記号のメトロノームマークの値と拍の単位が変更されます。これは、テンポ記号にメトロノームマークの要素が表示されていない場合であっても、再生時のテンポに影響を与えます。

補足

- 初期設定では、入力した少数はすべて非表示になり、表示されるメトロノームマークの値は最も近い整数として表示されます。ただし、再生時には、メトロノームマークに常に正確な数値が反映されます。
- テンポのポップオーバーを開いて入力内容を変更しても、メトロノームマークの値を変更できません。

関連リンク

[テンポのポップオーバー \(231 ページ\)](#)

[既存のアイテムの変更 \(332 ページ\)](#)

メトロノームマークの値の範囲表示

個々の固定テンポ記号におけるメトロノームマークの値を範囲で表示できます。たとえばこれを使用すると、指定の範囲内のテンポであれば、その楽曲に対し適切であることを指示できます。

補足

この手順は、段階的テンポ変更やテンポのリセット記号、相対テンポ記号には当てはまりません。

手順

1. メトロノームマークの値を範囲で表示させる固定テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**テンポ (Tempo)**」グループで、「**テンポ範囲 (bpm) (Tempo range (bpm))**」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

選択したテンポ記号で、1分あたりの拍数で表現されるテンポ範囲が変更されます。初期設定では、メトロノームマークの範囲の区切り文字にはダッシュ記号が使用されます。

補足

- 「**テンポ (bpm) (Tempo (bpm))**」と「**テンポ範囲 (bpm) (Tempo range (bpm))**」は、どちらがテンポ範囲の最小値でどちらが最大値であるかは決まっていません。Dorico Pro は、メトロノームマークの範囲の1つめの数値に小さい方の値を自動的に使用します。ただし再生の際には、それがテンポ範囲の上限か下限かに関わらず、常に「**テンポ (bpm) (Tempo (bpm))**」の値が使用されます。
- メトロノームマークの範囲に使用されるデフォルトの区切り文字は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページにある「**固定値による変更 (Absolute Changes)**」セクションで変更できます。

相対テンポ記号の値の変更

先のテンポ記号に対する割合で表現される相対テンポ記号について、テンポを個別に変更できます。

手順

1. 値を変更する相対テンポ記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「相対 % (Relative %)」の値を変更します。
3. **[Return]** を押します。

結果

相対テンポ記号のテンポが変更されます。たとえば、先のテンポが 100 bpm で、相対テンポ記号を 90 に変更した場合、新しいテンポは 100 bpm の 90 %、つまり 90 bpm になります。

段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポの変更

段階的テンポ変更の開始位置のテンポに対する割合の形で、段階的テンポ変更が再生時のテンポに与える影響の大きさを変更できます。

手順

1. 最終的なテンポを変更する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「最終的なテンポ % (Final tempo %)」の値を変更します。
3. **[Return]** を押します。

結果

選択した段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポが変更されます。

たとえば、100 bpm で開始する段階的テンポ変更において値を 20 に変更した場合、最終的なテンポは 100 bpm の 20% となるため、20 bpm になります。100 bpm で開始する段階的テンポ変更において値を 120 に変更した場合、最終的なテンポは 100 bpm の 120% となるため、120 bpm になります。

メトロノームマークの小数点以下の値を表示/非表示にする

プロジェクト全体のすべてのメトロノームマークに表示する小数点以下の最大桁数を変更できます。これはたとえば、映画に合わせて楽譜を作成する場合のメトロノームマークには極めて厳密な数値が必要とされる一方、楽譜に表示するのは小数点以下 1 桁のみとするような場合に役立ちます。

初期設定では、メトロノームマークに小数点は表示されず、小数点以下は最も近い整数に丸められます。ただし、再生時には、メトロノームマークに常に正確な数値が反映されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「浄書オプション (Engraving Options)」を開きます。
 2. ページリストの「テンポ (Tempo)」をクリックします。
 3. 「固定値による変更 (Absolute Changes)」のセクションで、「テンポを表示する小数点位置 (Number of decimal places to show tempo)」の値を変更します。
 4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。
-

段階的テンポ変更

段階的テンポ変更は、指定した時間範囲にわたるテンポの変更を示し、テンポを落としていくことを指示する *rallentando*、テンポを上げていくことを指示する *accelerando* などがあります。

rallentando.....

破線付きの *rallentando*

Dorico Pro では、段階的テンポ変更は一種のテンポ記号とみなされます。そのためテンポ記号と同じように扱うことができます。

段階的テンポ変更は開始位置と終了位置とで異なるメトロノームマークの値を持つため、個々の段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポを変更できます。

Dorico Pro では、延長線を表示したり、音節をデュレーション全体に広げたりするなど、段階的テンポ変更をさまざまなスタイルで表示できます。また、段階的テンポ変更は、点線や破線といったいくつかの異なる線のスタイルで表示できます。

関連リンク

[テンポ記号の入力方法 \(231 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更の線のスタイルを個別に変更する \(1232 ページ\)](#)

[浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1220 ページ\)](#)

[段階的テンポ変更の終了位置の最終的なテンポの変更 \(1230 ページ\)](#)

段階的テンポ変更の長さの変更

段階的テンポ変更は、入力後に長さを変更できます。

手順

1. 記譜モードで、長さを変更する段階的テンポ変更を選択します。

補足

マウスを使用する場合、一度に長さを変更できる段階的テンポ変更は 1 つだけです。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、段階的テンポ変更の長さを変更します。

- 現在のリズムグリッドの間隔ずつ伸ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 現在のリズムグリッドの間隔ずつ縮めるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。

- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。

結果

選択した段階的テンポ変更の長さが、現在のリズムグリッドの間隔に従い変更されます。

ヒント

段階的テンポ変更の表示位置は、浄書モードで調整できます。

関連リンク

[テンポ記号の表示位置の変更 \(1222 ページ\)](#)

段階的テンポ変更のスタイルを個別に変更する

プロジェクト全体の設定とは別に、段階的テンポ変更のスタイルを変更できます。段階的なテンポ変更記号の外観は、線のないテキストのみ、線付きのテキスト、またはデュレーション全体に表示されるテキストのいずれかで表示されます。

手順

1. スタイルを変更する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - rit.
 - rit...
 - rit-e-nu-to

結果

選択した段階的テンポ変更のスタイルが変更されます。

補足

- ritenuto や accelerando など、有効なフルテキストを持つ段階的テンポ変更だけが音節に分割されて表示されます。パネルを使用して入力するか、ポップオーバー使用時に提案されたエントリをメニューから選択すると、段階的テンポ変更の有効なフルテキストが自動的に適用されます。既存の段階的テンポ変更のテキストを変更することもできます。
- すべての段階的テンポ変更のスタイルに対するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「テンポ (Tempo)」のページで変更できます。

例

rallentando

rit.: テキストのみ

rallentando.....

rit...: 延長線付きテキスト

ral . len . tan . do .

rit-e-nu-to: テキストの音節を段階的テンポ変更のデュレーション全体に広げる

関連リンク

[浄書オプションでテンポ記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1220 ページ\)](#)

[テンポ記号の入力方法 \(231 ページ\)](#)

[テンポのテキストの変更 \(1223 ページ\)](#)

段階的テンポ変更の線のスタイルを個別に変更する

延長線を使用する段階的テンポ変更の線のスタイルを、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

補足

これはテキストのみのスタイルを使用する段階的なテンポ変更記号の外観に影響しません。

手順

1. 線のスタイルを変更する段階的テンポ変更を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「線のスタイル (Line style)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 実線 (Solid)
 - 点線 (Dotted)
 - 破線 (Dashed)

結果

選択した段階的テンポ変更の線のスタイルが変更されます。

ヒント

段階的テンポ変更のデフォルトの線のスタイルをプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「テンポ (Tempo)」ページで設定を行ないます。

段階的テンポ変更の破線と間隔の長さを個別に変更する

個々の段階的テンポ変更の破線における線と間隔の長さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で変更できます。

補足

これらの手順は、破線付きの段階的テンポ変更のみに適用されます。

手順

1. 浄書モードで、破線付きの段階的テンポ変更のうち、破線の長さを変更するものを選択します。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」のグループで、以下のプロパティを片方または両方ともオンにします。
 - 破線の線の長さ (Line dash length)
 - 破線の線の間隔 (Line dash gap)
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

「破線の線の長さ (Line dash length)」を大きくすると段階的テンポ変更の破線の線が長くなり、小さくすると線が短くなります。

「破線の線の間隔 (Line dash gap)」を大きくすると段階的テンポ変更の線の間隔が大きくなり、小さくすると間隔が小さくなります。

ヒント

すべての破線付きの段階的テンポ変更のデフォルトの破線の長さは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「テンポ (Tempo)」のページの「段階的な変更 (Gradual Changes)」のセクションにある「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックして設定し、プロジェクト全体に適用できます。

たとえば、テキストのあとに続く破線とハイフン付きテキストの間の破線、それぞれのデフォルトの線の長さは個別に変更できます。

段階的テンポ変更の線の太さを個別に変更する

段階的テンポ変更の延長線の破線および実線の太さは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、太さを変更する段階的テンポ変更を選択します。
2. プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで、「線の太さ (Line thickness)」をオンにします。
3. 数値フィールドの値を変更します。

結果

値を大きくすると破線および実線が太くなり、値を小さくすると破線および実線が細くなります。

ヒント

すべての段階的テンポ変更の破線および実線の太さに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**テンポ (Tempo)**」ページで変更できません。

テンポの等式

テンポの等式は、メトロノームマークが基本とする拍の単位の変更を示します。多くの場合、複数の異なる拍子の間で拍動を一定に維持するために使用されます。

たとえば、拍子記号が 6/8 から 3/4 に変更された場合、♩=♩というテンポの等式により、6/8 拍子では付点 4 分音符の拍の単位に使用されていたメトロノームマークの値が、3/4 拍子では 4 分音符の拍の単位に使用されることが示されます。



関連リンク

[テンポ記号の入力方法 \(231 ページ\)](#)

タイ

タイとは、同じピッチの2つの音符をつなぐ曲線です。音符がその位置に適用される拍子記号の1小節のデュレーションよりも長い場合、Dorico Pro ではそれらの音符が自動的にタイのつながり、つまりタイで連結された隣接する音符のシーケンスとして表示されます。

一連のタイのつながりは、それを構成するのが2つの音符であろうと10個の音符であろうと、タイで連結されたすべての音符を合計したデュレーションの1音を意味します。演奏者はこの音符を1音として演奏し、タイのつながりのデュレーションの途中で一切の打ち直し、吹き直し、弾き直しは行いません。



ピアノ譜の下段の複数小節にわたるタイのつながり

タブ譜では、タイは、それ以降の小節の音符またはコードを囲む丸括弧として自動的に記譜されます。タブ譜にリズムが表示されている場合、同じ小節内のタイは括弧付きの符頭ではなく符尾で示されます。



小節内にいくつかのタイがあり、2つの小節をまたいで 音符の譜表での同じフレーズ
タイでつながれたコードがあるタブ譜のフレーズ

Dorico Pro では、ほとんどのタイは自動的に作成されます。リズムの記譜は、通常拍子記号により設定される一般的な拍グループに従います。そのため、単一のデュレーションで表記できない音符は自動的にタイのつながりとして記譜されます。たとえば、4/4 拍子の開始位置に付点全音符を入力した場合、この音符は自動的に全音符と次の小節の2分音符がタイでつながれた形で記譜されます。拍子記号が変更された場合は、新しい拍子で正しい拍数が維持されるようにタイのつながりが自動的に調整されます。

補足

- タイのつながりは単一の音符と見なされるため、記譜モードでは、タイのつながり全体のみを選択できます。ピッチの変更など、記譜モードでタイのつながりに対して行なった編集はタイのつながりに含まれるすべての音符に影響しますが、タイのスタイルを破線に変更するなどの変更は、そのつながりの最初のタイにのみ影響します。ただし、キャレットを有効にしてタイのつながりの中の必要な位置に移動すれば、強弱記号などの記譜記号をタイのつながりの途中に入力することもできます。

浄書モードでは、タイのつながりに含まれる個別の音符とタイを選択してそれらを個別に編集できます。

- 既存の音符をタイでつなぐと、楽譜の前後関係、拍子記号、小節内の音符の開始位置に応じて、タイのつながりの中で音符が統合されたり分割されたりする場合があります。

- アーティキュレーションは、その種類に応じてタイのつながりの開始位置または終了位置に1度だけ表示できます。たとえば、スタッカート記号は終了位置に表示され、アクセント記号は開始位置に表示されます。タイのつながりに対するアーティキュレーションの位置は、プロジェクト全体でも、個々のタイのつながりにおいても変更できます。

関連リンク

- [音符と休符のグループ化](#) (692 ページ)
- [拍に従う連符グループ](#) (676 ページ)
- [音符の入力](#) (176 ページ)
- [音符/休符のデュレーションの強制](#) (181 ページ)
- [タイの入力](#) (196 ページ)
- [タイのつながりの分割](#) (1242 ページ)
- [拍子記号](#) (1251 ページ)
- [拍子記号の入力方法](#) (226 ページ)
- [音符](#) (898 ページ)
- [アーティキュレーションの位置](#) (636 ページ)
- [タイのつながりのアーティキュレーションの位置を変更する](#) (637 ページ)
- [括弧付きの符頭](#) (918 ページ)
- [タブ譜](#) (1205 ページ)
- [キャレット](#) (171 ページ)
- [手動でのキャレットの移動](#) (175 ページ)

タイの一般的な配置規則

タイは2つの符頭を連結するため、タイの両端はそれがつながる符頭の近くに配置されます。

タイは曲線であり、カーブ方向は通常、音符の符尾の方向に従います。音符の符尾が上向きならタイのカーブは下向きに、音符の符尾が下向きならタイのカーブは上向きになります。

補足

譜表に複数の声部が存在する場合、符尾が上向きの声部に属するタイはすべてカーブが上向きに、符尾が下向きの声部に属するタイはすべてカーブが下向きになります。

タイの終端の符頭に対する配置には、主要な表記規則が2つあります。1つは、タイの終端を符頭の外側、つまり上か下に配置し、水平方向をなるべく符頭に中央揃えとすることです。もう1つは、タイの終端を符頭の間に配置する場合、垂直方向をなるべく符頭に中央揃えとすることです。



符頭の外側のタイ

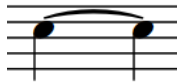


符頭の中のタイ

いずれの表記規則においても、Dorico Pro は自動的にタイの終端とそれがつながる音符を、他の記譜記号と衝突しない範囲でできるだけ近づけて配置します。

また Dorico Pro はタイの垂直位置も自動的に調整して、タイの終端やカーブの頂点が譜表線の高さで開始または終了しないようにします。もし譜表線とタイの上下が重なった場合、タイの形状が歪んで見え、譜面が読みづらくなります。

これを防止するため、Dorico Pro はタイの垂直位置をわずかに変更したり、タイのカーブに小さな変化を与えたりします。これらの変更は小さなものですが、譜表線に対する音符の位置に従いタイの配置が微妙に変化します。



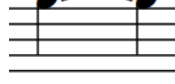
符頭の外側のタイ



音符を半音下に移調すると、タイの頂点が譜表線に接してしまうのを防止するために、タイのカーブが急になります。



この符頭間のタイは、その両端または頂点が譜表線に近づきすぎないように、両端が符頭の垂直方向の中心よりもわずかに上に配置されています。



上に移調して譜表線とタイが衝突しなくなると、タイの両端は符頭の垂直方向の中心に配置されるようになります。

音部変更記号は、できるだけタイのつながりの途中には配置しないようにします。音部の変更はタイでつながれた音符の譜表上の位置を変えてしまうため、演奏者がタイをスラーと読み違えて異なる2音を演奏してしまうことが容易に起こり得ます。

タイが極めて短いときはタイが歪んで見え、見落とされてしまう場合があります。1段に収まるタイの長さの最小値は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タイ (Ties)」ページで変更できます。

補足

スラーをタイと混同しないよう注意してください。見た目は似ていますが、タイは同じピッチの音符を一息で演奏することを示します。そういった意味でタイはリズム記号として、スラーはアーティキュレーションとして捉えることができます。

関連リンク

[タイとスラー \(1238 ページ\)](#)

[タイの入力 \(196 ページ\)](#)

[浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する \(1237 ページ\)](#)

[音部記号の一般的な配置規則 \(737 ページ\)](#)

浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タイ (Ties)」ページでは、タイの外観、位置と配置を設定してプロジェクト全体に適用できます。

「タイ (Ties)」ページのオプションでは、タイのデフォルトのカーブ方向、形状および外観とともに、符頭やタイのつながりでの他のタイに対する位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図がありません。

関連リンク

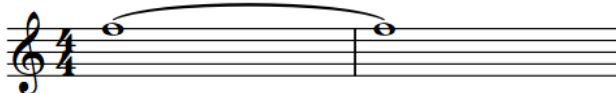
[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

タイとスラー

タイとスラーは一見すると似ていますが、意味は異なります。

タイは音符を打音しなおしてはならないことを示します。これは同じピッチの音符をつなげるために使用されます。たとえば、タイは複数の小節にわたって音符を延ばす際に使用されます。1つのタイのつながりには複数の音符が含まれることがあります。つながりの中の1つ1つのタイは、1の符頭を譜表上の次の符頭につなげるのみです。

タイはアーティキュレーションと同時に使用できますが、タイでつながれた音符のアーティキュレーションは、タイのつながりの始まりのアタックと、タイのつながりの終わりのリリースにのみ影響を及ぼします。



タイでつながれた2つの長い音符

スラーはボウイングや息継ぎなどのアーティキュレーションを示すものであり、通常は異なるピッチの音符をつないでグループ化します。スラーは2つの符頭の間にとりだけピッチ差があってもそれらをつなぐことができます。多くの場合、これはフレーズの形成のしかたを示します。

スラーはまた、アーティキュレーションと同時に使用できます。タイとは異なり、スラーの中のアーティキュレーションはフレーズ全体のサウンドに影響します。たとえば、スラーの中で同じピッチで繰り返される音符に付くスタッカートは、弦楽器でボウイングを同じ方向に行ないつつ、1音ごとにボウイングを止めることを示します。



スラーでつないでグループ化されたフレーズ

非標準のタイ

通常タイは、同じ譜表の同じピッチにある2つの音符を連結します。しかしタイは、組段区切りやフレーム区切り、音部変更記号、または拍子記号をまたぐ場合もあります。Dorico Proでは、これらのタイプのタイはすべて自動的に配置されます。

またタイは、隣接しない音符、声部の異なる音符や、譜表の異なる音符も連結できます。Dorico Proでは、これらのタイプのタイは手動で入力する必要があります。

組段区切りおよびページ区切りをまたぐタイ

Dorico Proでは、組段区切りをまたぐタイの終端は自動的に配置されます。

その垂直位置は変わらず、両端それぞれが属する符頭に中央揃えで配置されます。その動作も変わらず、記譜モードで組段区切りまたはフレーム区切りをまたぐタイのつながりのうち1つを選択すると、タイのつながりに属するすべての音符が選択されます。

区切りの後の組段/フレームの開始位置にある音符の左側に表示されるタイの一部について、適切なカーブを描くために十分な水平方向のスペースが得られない場合があります。この場合、浄書モードの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」を使用して組段/フレームの開始位置の音符のスペースを個別に調整することで、タイのためのスペースを作れます。



組段区切りの前のタイのつながりの開始位置



組段区切りの後の同じタイのつながりの終了位置

組段区切りおよびページ区切りをまたぐタイでつながれた臨時記号付きの音符

組段区切りおよびページ区切りをまたぐ臨時記号付きの音符をつなぐタイの終端も、自動的に配置されます。

Dorico Pro では、タイでつながれた音符は、拍子記号の指定に合致するよう分かれて記譜されつつも 1 音として扱われるため、区切りの後の組段/フレームの開始位置の音符には、初期設定では親切臨時記号は表示されません。区切りの後の組段/フレームの開始位置の、タイのつながりに属する音符に臨時記号を表示する場合、臨時記号を収めるために音符の位置が変更されます。しかしこの自動配置では、タイの後半部分を適切なカーブで表示するための十分な広さが、音符の左側に得られない場合があります。



組段区切りの前のタイのつながりの開始位置



同じタイのつながりの終了位置の、親切臨時記号が付いたもの



同じタイのつながりの終了位置の、臨時記号の横のタイにスペースを与えるために音符のスペーシングを調整したもの

拍子記号をまたぐタイ

タイは拍子変更記号をまたぐ音符をつなぐ場合、自動的に配置されます。譜表の途中で拍子変更記号をまたぐ音符がタイでつながれる場合、拍子変更記号の上または下の一部がタイによって隠されてしまいます。もっともタイはカーブしているため、拍子記号が完全に読めなくなってしまうことは考えにくいことです。

音部変更記号をまたぐタイ

タイは音部変更記号をまたぐ音符をつなぐ場合、自動的に配置されます。音部が異なると同じピッチでも位置が変わるため、音部変更記号をまたぐタイは水平ではなくなります。

その結果、音部記号をまたぐタイはスラーと読み間違えられる場合があります、視覚的、音楽的に混乱を招きやすくなります。この場合、タイでつながれた音符より前か後ろに音部変更記号を移動することをおすすめします。

隣接しない音符の間のタイ

直接隣り合う位置になくともピッチが同じ音符間には、タイを入力できます。これは、和音の前の複数の音符にタイを入力する場合などに便利です。



和音につながる音符をすべてタイでつながれた和音で記譜したもの



和音につながる音符を隣接しない音符のタイで記譜したもの



和音の前の複数の装飾音符を隣接しない音符のタイでつないだもの

異なる声部間のタイ

異なる声部のピッチが同じ音符間にタイを入力できます。

異なる譜表の音符間のタイ

異なる譜表のピッチが同じ音符間にタイを入力できます。

レセヴィブレタイ

レセヴィブレタイとは、音符を鳴らし続け、止めてはいけないことを指示する短いタイです。これは音符から右側へ少しだけ延ばされますが、もう 1 つの音符につながることはありません。

レセヴィブレタイはあらゆる音符に追加できます。レセヴィブレタイは、浄書モードで他のタイと同様に編集できます。

関連リンク

[レセヴィブレタイの表示/非表示 \(1241 ページ\)](#)

[臨時記号を表示/非表示にするか括弧を付ける \(625 ページ\)](#)

[音符のスペーシング \(430 ページ\)](#)

[個々の位置にある音符のスペーシングの調節 \(435 ページ\)](#)

隣接しない音符の間へのタイの入力

隣接しなくともピッチが同じ音符間には、手動でタイを入力できます。また、異なる声部や異なる譜表のピッチが同じ音符間にもタイを入力できます。

たとえば、経過音を記譜するために複声部にまたがるメロディを入力したとして、異なる声部に属する 2 音をタイでつなぐ必要があるとします。あるいは、和音の前に複数の音符によるフレーズを記譜したとして、そのすべてを延ばしてつなげることで、タイでつながれる音符の数を減らしたいとします。

手順

1. 記譜モードで、タイでつなぐ 2 音を選択します。

補足

2 番目の音符は最初の音符と同じピッチでなければなりません。2 番目の音符が最初の音符と異なるピッチの場合、タイは入力されません。

2. **[T]** を押します。

結果

選択した 2 音間にタイが入力されます。

例



隣接する音符すべてをタイでつないだ分散和音



隣接しない音符をタイでつないだ分散和音

関連リンク
[タイの入力](#) (196 ページ)

レセヴィブレタイの表示/非表示

レセヴィブレタイはあらゆる音符に追加できます。

手順

1. レセヴィブレタイを追加する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「レセヴィブレタイ (Laissez vibrer tie)」をオン/オフにします。

結果

プロパティをオンにすると選択した音符にレセヴィブレタイが追加され、プロパティをオフにすると削除されます。レセヴィブレタイは自動的に配置されます。

ヒント

- レセヴィブレタイの長さや形状は、浄書モードで他のタイと同様に個々に編集できます。
- 「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページにある「レセヴィブレタイを切り替え (Toggle Laissez Vibrer Tie)」にキーコマンドを割り当てられます。

関連リンク
[タイの形状と角度の変更](#) (1242 ページ)

タイの削除

タイは、それが属する音符を削除せずに、それだけを削除できます。

補足

タイのつながりからタイを削除すると、タイのつながりに属するすべてのタイが削除されます。タイのつながりからタイを1つだけ削除するような場合には、タイのつながりを分割できます。

手順

1. 記譜モードで、すべてのタイを削除するタイのつながりを選択します。
2. **[U]** を押します。

結果

選択したタイのつながりのすべてのタイが削除されます。タイのつながりで連結されていた音符は、それぞれの位置に残ります。

関連リンク
[音符のデュレーションの変更](#) (180 ページ)

タイのつながりの分割

たとえばタイのつながりの途中でピッチを変更する場合や、つながりの中のタイを個別に削除する場合など、タイのつながりを特定の位置で分割できます。これによりタイのつながりの中の他のタイが削除されることはありません。

手順

1. 記譜モードで、分割するタイのつながりを選択します。
 2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
 3. タイのつながりを分割する位置にキャレットを移動します。
 - **[→]/[←]** を押して、現在のリズムグリッドの間隔に従いキャレットを左右に動かします。
 - **[Space]** を押して、現在選択中の音符の音価に従いキャレットを次の位置に進めます。
 4. **[U]** を押してタイのつながりを分割します。
 5. 同じタイのつながりを複数の個所で分割する場合、タイのつながりを分割する次の位置にキャレットを移動します。
 6. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。
-

結果

タイのつながりがキャレット位置で分割されます。

関連リンク

[手動でのキャレットの移動 \(175 ページ\)](#)

タイの形状と角度の変更

浄書モードでは、それぞれのタイには5つの四角いハンドルがあり、個別に動かして個々のタイの形状や角度を変更できます。一部のハンドルは他のハンドルに連動します。つまり1つを動かすと隣接するハンドルの位置にも影響を与える場合があります。



浄書モードのタイ

タイのハンドルの動作はスラーのものとは異なります。たとえば左端のハンドルを動かすと、タイの開始位置とともに他のハンドルも移動しますが、右端のハンドルは移動しません。これにより、タイ全体の形状は変更しないまま、角度や幅を変更できます。左の制御ポイントを動かすとタイの高さハンドルも動きますが、左右の終端や右の制御ポイントの位置には影響を与えません。これにより、なめらかにカーブした状態を保持しながら、タイの形状を細かく制御できます。

手順

1. 浄書モードで以下のいずれかの操作を行なって、動かすタイのハンドルを選択します。
 - タイ全体を選択した状態で **[Tab]** を押すと、最初のハンドルから次のハンドルへと選択が切り替わるので、移動させるハンドルが選択されるまで押し続けます。
 - 移動させるハンドルをクリックします。
 - 複数のタイの個々のハンドルを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

選択したタイのハンドルの位置が変更され、対応するタイの形状、幅、角度などがハンドルの移動に応じて変更されます。

ヒント

タイのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始オフセット (Start offset)**」は、タイの左側の終端を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了オフセット (End offset)**」は、タイの右側の終端を移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**開始ハンドルオフセット (Start handle offset)**」は、タイの左側の制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了ハンドルオフセット (End handle offset)**」は、タイの右側の制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することにより、個々のタイの形状を変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したタイの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

タイの肩のオフセット

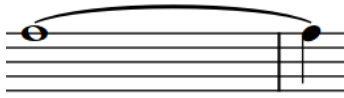
多くの場合、タイの両端はタイの弧より急な角度で符頭に近づくため、タイの肩はタイのカーブの角度に影響し、終端に向かってタイが符頭に近づくようになります。

肩のオフセットを大きくするとカーブの始まりの角度がなだらかになり、肩のオフセットを小さくするとカーブの始まりの角度が急になります。

以下のオプションの値を変更すると、タイの肩のオフセットに関するプロジェクト全体の設定を変更できます。これらのオプションは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページの「**デザイン (Design)**」セクションにある「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックして表示できます。

- **短いタイの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of short tie)**

- 長いタイの半分の長さ x 次の分数の値で肩をオフセット (Offset shoulders by fraction of half length of long tie)



デフォルトの肩のオフセットが (1/10) の長いタイ



肩のオフセットを (7/8) に上げた長いタイ

また、浄書モードで制御ポイントのハンドルを動かすことにより、タイの肩のオフセットを個別に変更もできます。

関連リンク

[浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する \(1237 ページ\)](#)

タイの肩のオフセットの変更

タイの肩のオフセットをプロジェクト全体の設定とは別に設定できます。たとえばプロジェクト中に非常に短いまたは非常に長いタイがいくつかある場合は、それらの形状を改善するために肩のオフセットを変更します。

手順

1. 浄書モードで、肩の調整を行なうタイの制御ポイントのハンドルの1つを以下のいずれかの操作を行なって選択します。
 - タイ全体を選択し、移動させるハンドルが選択されるまで、**[Tab]** を押して順番にフォーカスを切り替えます。
 - 移動させるハンドルをクリックします。
 - 複数のタイの個々のハンドルを、**[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。

ヒント

選択したアイテムだけでなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。
3. 必要に応じて、肩の調整を行なうタイの他の制御ポイントのハンドルについても、手順1と2を繰り返します。

結果

タイのオフセットのハンドルを互いに離すほど肩のオフセットは小さくなり、近づけるほど肩のオフセットは大きくなります。

ヒント

タイのハンドルを移動すると、移動した部位に応じて、プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」のグループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。

- 「**開始ハンドルオフセット (Start handle offset)**」は、タイの左側の制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
- 「**終了ハンドルオフセット (End handle offset)**」は、タイの右側の制御ポイントを移動させます。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。

これらのプロパティを使用しても、数値フィールドの数値を変更することにより、個々のタイの肩のオフセットを変更できます。

プロパティをオフにすると、選択したタイの対応するハンドルがデフォルト位置にリセットされます。

ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると、プロジェクト全体のタイのデフォルトの肩のオフセットを制御しているオプションがあります。短いタイと長いタイに個別の設定を使用できます。

関連リンク

[浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する \(1237 ページ\)](#)

タイの高さ

短いタイと長いタイすべての高さの値に関するプロジェクト全体の設定を変更できます。浄書モードでは、個々のタイの高さの変更も行なえます。

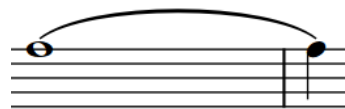
タイの高さのプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページの「**デザイン (Design)**」セクションにある「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると現れるオプションで変更できます。短いタイと長いタイに個別の設定を使用できます。

高さを増すと、タイは譜表からより離れた位置まで延びるようになります。これによりタイはより丸みを帯びた形状となり、垂直方向のスペースを大きく取るようになります。タイは同じピッチの音符をつなぐことから、ピッチ差のある音符の上に弧を描くスラーのように丸みを帯びる必要は概してありません。

垂直方向のスペースが限られる状況では、タイは丸みの度合いと譜表線に重ならないこととのバランスを取る必要があります。



デフォルトの高さの長いタイ



高さを増した長いタイ

タイの高さの変更

垂直のスペースを節約するために、タイの高さをプロジェクト全体の設定とは別に設定できます。

手順

1. 浄書モードで、変更するタイの高さハンドル (中央) を選択します。

ヒント

選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

結果

選択したタイの高さが変更されます。

補足

- すっきりした見た目と釣り合いのとれた曲線を維持するためにタイの高さを手動で変更する場合、タイの高さハンドルを上下左右に少し移動する必要があります。
- タイの高さハンドルを水平方向に移動すると、タイ全体の形が影響を受けます。
- 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると、プロジェクト全体のタイのデフォルトの高さを制御しているオプションがあります。短いタイと長いタイに個別の設定を使用できます。

関連リンク

[浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する \(1237 ページ\)](#)

タイのスタイル

Dorico Pro では、それぞれ異なる意味合いを示す数種類のタイのスタイルが利用できます。

実線 (Solid)

これはタイのデフォルトのスタイルです。タイは先細りの実線で表示されます。先端は細くなり、中央は太くなります。



破線 (Dashed)

タイは先細りの破線で表示されます。たとえばボーカルの楽譜で、一部の歌詞が同じ箇所他の歌詞より多くの音節を持つために多くの音符を必要とする場合など、オプションや提案のためのタイであることを示すために使用されます。



点線 (Dotted)

タイは点線で表示されます。点はタイの全長を通して同じサイズで等間隔に並びます。これもオプションまたは提案のタイであることを示すために使用されます。



前半部分が破線 (Half-dashed start)

タイの前半が破線として、後半が実線として表示されます。校訂版で、原典には不完全なタイが記譜されていたことを示すために使用されます。



後半部分が破線 (Half-dashed end)

タイの前半が実線として、後半が破線として表示されます。校訂版で、原典には不完全なタイが記譜されていたことを示すために使用されます。



編者注 (Editorial)

タイは黒い実線で表示されますが、そのちょうど中央に小さな縦線が交差しています。タイが編集者により追加されたもので、原典には記載されていないことを示すために使用されます。



タイのスタイルを変更する

個々のタイについてスタイルを変更できます。初期設定では、すべてのタイは実線で表示されます。

補足

記譜モードでは、タイのつながり全体のみを選択できます。記譜モードでタイのつながりに加えた変更は、そのタイのつながりの最初のタイにのみ影響します。

手順

1. スタイルを変更するタイを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

- 記譜モードでは、タイチェーン全体のみを選択できます。浄書モードでは、タイチェーンに含まれる個別のタイを選択できます。
- 記譜モードでタイチェーンに加えた変更は、そのチェーンの最初のタイのみに影響します。

2. プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループで、「**スタイル (Style)**」をオンにします。

3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。

- **実線 (Solid)**
- **破線 (Dashed)**
- **点線 (Dotted)**
- **前半部分が破線 (Half-dashed start)**
- **後半部分が破線 (Half-dashed end)**
- **編者注 (Editorial)**

結果

選択したタイのスタイルが変更されます。

ヒント

これらのオプションそれぞれの詳細なパラメーターに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」のページで変更できます。た

例えば、「**編者注 (Editorial)**」のタイのストロークの長さや幅、点線の点の直径や破線の長さ、点線や破線の間隔の大きさなどを変更できます。

タイの線/点のサイズを個別に変更する

破線/点線のタイの線/点のサイズは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

補足

これらの手順は破線/点線のタイにのみ適用されます。

手順

1. 線/点のサイズを変更する破線/点線のタイを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

- 記譜モードでは、タイチェーン全体のみを選択できます。浄書モードでは、タイチェーンに含まれる個別のタイを選択できます。
- 記譜モードでタイチェーンに加えた変更は、そのチェーンの最初のタイのみに影響します。

2. プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループで、「**破線/点線 (Dash/dot)**」をオンにします。
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

値を増やすと線/点が大きくなり、減らすと小さくなります。

ヒント

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**タイ (Ties)**」ページにある「**デザイン (Design)**」セクションの「**詳細設定 (Advanced Options)**」をクリックすると、プロジェクト全体の破線/点線のタイの線/点のデフォルトの大きさを設定しているオプションがあります。

またこのページでは、すべてのタイのスタイルにおける線の太さも変更できます。ただし、タイの太さを個別に変更はできません。

関連リンク

[浄書オプションでタイの設定をプロジェクト全体に適用する \(1237 ページ\)](#)

破線/点線のタイの間隔の大きさを変更する

破線/点線のタイの間隔の大きさは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、間隔の大きさを変更する個々の破線/点線のタイを選択します。
 2. プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループで、「**間隔 (Gap)**」をオンにします。
 3. 数値フィールドの値を変更します。
-

結果

値を大きくすると破線/点線の間隔が大きくなります。値を小さくすると破線/点線の間隔が小さくなります。

ヒント

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タイ (Ties)」ページにある「デザイン (Design)」セクションの「詳細設定 (Advanced Options)」をクリックすると、プロジェクト全体の破線/点線のタイの間隔のデフォルトの大きさを設定しているオプションがあります。

タイのカーブ方向

カーブの方向は、タイの両端それぞれの音符または和音の符尾の方向、和音に含まれる音符の数、および譜表内の声部の数により決定されます。

単一の声部における単音のタイ

単一の声部のみ有効でタイが2つの単音を連結する場合、タイのカーブ方向はタイの両側の音符の符尾の方向により決定されます。

- 符尾の方向が一致する場合、タイのカーブは音符から離れる方を向き、符頭側に配置されます。
- 符尾の方向が食い違う場合、初期設定ではタイのカーブは上向きになります。

単一の声部における和音のタイ

タイが2つの和音を連結する場合、タイの方向は和音を構成するタイに結ばれた音符の数によって決定されます。

- 偶数の場合、タイはカーブが符頭側を向くものと符尾側を向くものに均等に分かれます。
- 奇数の場合、タイのカーブが符頭側を向くものが1本多くなります。

複声部における音符のタイ

タイは符尾側に配置され、カーブの方向は以下の条件に従います。

- 符尾が上向きの声部は、タイのカーブも上向きになります。
- 符尾が下向きの声部は、タイのカーブも下向きになります。
- 複声部でピッチが重なり合ったり入れ違いになったりする場合、単一の声部における和音のタイのルールが適用されます。すべての声部のすべての音符が単一の声部に属するかのように扱われます。

ヒント

符尾の方向が食い違う音符間におけるデフォルトのタイのカーブ方向は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「タイ (Ties)」ページで変更できます。

また、タイのカーブ方向は個別にも変更できます。

タイのカーブ方向を変更する

タイのつながりの中でのタイも含めた、タイのカーブ方向を個別に変更できます。

手順

1. カーブ方向を変更するタイを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

- 記譜モードでは、タイチェーン全体のみを選択できます。浄書モードでは、タイチェーンに含まれる個別のタイを選択できます。
 - 記譜モードでタイチェーンに加えた変更は、そのチェーンの最初のタイのみに影響します。
-

2. プロパティパネルの「**タイ (Ties)**」グループで、「**方向 (Direction)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **上 (Up)**



- **下 (Down)**



結果

選択したタイのカーブ方向が変更されます。

ヒント

タイのつながりおよびタイのつながりに属する個々のタイの詳細な形状は、浄書モードでそれぞれのタイの四角いハンドルを使用して調整できます。

関連リンク

[タイの形状と角度の変更 \(1242 ページ\)](#)

拍子記号

拍子記号は楽譜の拍子を示し、それが記譜されてから次の拍子変更記号が出てくるまでは、すべての小節に適用されます。拍子は音楽のリズミ的な律動と、それがどのように拍と小節に分割されるかを示します。

拍子記号は、上の分子とその下の分母という2つの部分で構成されます。これらは分数と同じように配置されるため、同じ数学的表現が使用されます。拍子記号スタイルに関するプロジェクト全体の設定に従い、分子と分母は異なる外観にできます。



1 分子

拍子記号の影響下にある各小節の拍数を指定します。拍のデュレーションは分母により指定されます。

2 分母

拍子記号の拍のデュレーションを指定します。拍のデュレーションが半分になると分母は倍になります。1は全音符、2は2分音符、4は4分音符という具合に続きます。

たとえば4/4の拍子記号は、小節が4つの拍で構成され、それぞれの拍は4分音符の長さであることを示しています。4/2の拍子記号は各小節に4つの2分音符を持ち、4/8は各小節に4つの8分音符を持ちます。3/4と6/8はいずれも6つの8分音符を収められますが、3/4は1小節に4分音符の拍を3つ持つ一方で、6/8は付点4分音符の拍を2つ持つものと解釈されます。

小節とは拍子記号に従い分割されたリズムのグループであり、楽譜を大幅に追いやすく読みやすくします。同じ理由により、拍子記号が異なると音符の連桁も変化します。

初期設定では、拍子記号はすべての譜表に適用されます。しかし、多拍子音楽のように、一部のパートがアンサンブル中の他パートとは別個に独自の拍子記号を持つ必要がある状況もあります。Dorico Proでは拍子記号を入力する際、すべての譜表に適用させることも、1つの譜表のみに適用させることもできます。

拍子記号は、次の拍子変更記号の位置か、フローの終了位置のいずれか先に到達するところまで適用されます。

補足

- 拍の長さはプロジェクトを通して、拍子記号に関わらずすべての譜表で固定されています。たとえば、ある譜表には2/4の拍子記号、もう1つの譜表には6/8の拍子記号がある場合、2/4の拍子記号における4分音符1つは6/8の拍子記号における4分音符1つに等しく、つまりそれぞれの小節線は一致しないということになります。
- Dorico Proでは、挿入モードがオンになっていない限り、拍子記号を入力した際に小節を埋めるための拍が自動的に追加されることはありません。



「挿入 (Insert)」モードをオンにせず、既存の4/4の拍子記号の前に5/8の拍子記号を入力した例。5/8の2小節めには8分音符が3つしかありません。

関連リンク

- [拍子記号のスタイル \(1258 ページ\)](#)
- [拍子記号の入力方法 \(226 ページ\)](#)
- [拍に従う連桁グループ \(676 ページ\)](#)
- [拍子記号 \(拍子\) パネル \(227 ページ\)](#)
- [拍子のカスタム連桁グループを作成する \(693 ページ\)](#)
- [小節 \(642 ページ\)](#)

拍子記号の一般的な配置規則

拍子記号の配置や表現に関する表記規則は、その記譜内容が確実に伝わるよう、時代と共に発展してきました。Dorico Pro は自動的にこれらの表記規則に従います。

外観の表記規則

拍子記号は譜表の高さを埋める必要があります。これより小さい場合、拍子記号と認識されない恐れがあります。線の本数が5本より少ない譜表の拍子記号のサイズは、5線譜の拍子記号と同じ大きさである必要があります。



5線譜の拍子記号



1線譜の拍子記号

拍子記号には、譜表線に対して目立って即座に認識されるように、独特な重厚感のあるフォントを使用します。

一部の種類の音楽、特に映画音楽では、複数の譜表にわたって表示される大きな拍子記号を使用することが通例となっています。

配置の表記規則

拍子記号は楽曲の開始位置、および楽章に分かれる場合は各楽章の開始位置に、楽譜が拍子の変化なしに継続する場合でも表示されます。拍子記号は音部記号と調号の後に表示されます。

楽曲かムーブメントの途中で拍子変化記号を置く場合、先の小節のデュレーションが先の拍子記号が意図するデュレーションと食い違うことを防ぐために、拍子変化記号は小節線の直後に配置する必要があります。

関連リンク

- [拍子記号の入力方法 \(226 ページ\)](#)
- [挿入モードでの音符の挿入 \(187 ページ\)](#)
- [大きな拍子記号 \(1256 ページ\)](#)
- [拍子記号のサイズと位置を変更する \(1258 ページ\)](#)
- [拍子記号のフォントスタイル \(1266 ページ\)](#)

浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページでは、大きな拍子記号も含めた拍子記号の外観を設定してプロジェクト全体に適用できます。

このページのオプションでは、プロジェクト全体のすべての分子と分母の外観、拍子なしの拍子記号の外観、および入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字を変更できます。また、たとえば入れ替え可能な拍子の拍子記号同士やそれらの区切り文字との間隔など、拍子記号のデフォルトの間隔も変更でき

ます。大きな拍子記号は、大括弧のグループごとに1つ表示される場合と、組段オブジェクトの位置に表示される場合とで、それぞれ外観と位置を制御するためのセクションが別個に用意されています。これには、組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号と同じ位置の他アイテムとの衝突回避の方法も含まれます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[拍子記号 \(1251 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(1256 ページ\)](#)

プロジェクト全体における拍子記号の間隔のスペーシング

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「間隔のスペーシング (Spacing Gaps)」ページでは、拍子記号も含めたすべてのオブジェクトの最小間隔を変更できます。

以下の最小値が拍子記号に関連するものです。

- 小節線から音部記号、調号記号、または拍子記号の前までの間隔 (Gap after barline before clef, key or time signature)
- 調号の後の間隔 (Gap after key signature)
- 組段中の拍子記号の後の間隔 (Gap after mid-system time signature)

ほかの値も拍子記号の位置に影響を及ぼす場合がありますが、それらは他のオブジェクトにも影響するものです。

拍子記号のタイプ

拍子記号にはさまざまなタイプがあり、多岐にわたる複雑な拍子を表現できます。

補足

Dorico Pro ではアメリカ英語で一般的に使用される拍子の定義を使用しています。どの拍子が単純拍子や複合拍子であるかの定義は、他の言語で異なる場合があります。

単純拍子

単純拍子の拍子記号では、各拍が2で分割されて均等な音符のグループに分かれます。単純拍子の拍子記号には2/4などの単純2拍子、3/4などの単純3拍子、または4/4などの単純4拍子があります。



複合拍子

複合拍子の拍子記号では、各拍が3で分割されて均等な付点音符グループに分かれます。たとえば6/8は2つの付点4分音符から構成され、9/4は3つの付点2分音符から構成されます。



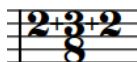
変拍子

5/4や7/8などの変拍子の拍子記号は、均等な拍のグループに分割できません。分子が奇数であるため、これらの拍子記号は不均一な拍のグループに分ける必要があります。たとえば、5/4は通常2分音符の拍と付点2分音符の拍からなります。



加算型拍子

加算的な拍子記号は小節がどのような拍のグループに分割されているかを示します。拍のグループを示す分子は、あらゆるタイプの拍子記号に使用できます。たとえば、7/8 のかわりに加算的な拍子記号 2+3+2/8 を使用できます。



交互拍子

交互拍子の拍子記号は、2つ以上の拍子記号が指定された順番の定期的なパターンで小節ごとに切り替わることを示します。たとえば、8分音符 12個のフレーズで強調の形が 3+3+2+2+2 となるものは、交互拍子の拍子記号 6/8+3/4 を使用すると、2つの拍子がより分かりやすく解読できるようになります。



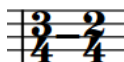
入れ替え可能な拍子

入れ替え可能な拍子の拍子記号は、3/4-2/4 のように、楽曲中で使用できる拍子記号のセットを楽曲の開始位置で表示するものです。交互拍子の拍子記号とは異なり、入れ替え可能な拍子の拍子記号では固定したパターンは必要ありません。楽曲中のすべての小節は、セットに含まれる拍子のいずれでも、拍子記号を再提示することなく使用できます。

補足

交互拍子の拍子記号とは異なり、固定したパターンが存在しないため、必要に応じて適切な拍子記号を手動で入力する必要があります。入れ替え可能な拍子記号に指定されている拍子記号は、入力し次第すべて自動的に非表示になります。

Dorico Pro ではこれにさまざまなスタイルを使用でき、プロジェクト全体に設定することも個別の変更も行なえます。



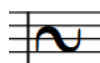
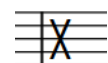
結合拍子 (Aggregate)

結合拍子の拍子記号は 2/4+3/8+5/4 のように、2つ以上の拍子が同じ小節に含まれることを示します。Dorico Pro では、異なる拍子間の分割を示すために、自動的に破線の小節線を表示しますが、ポップオーバーで結合拍子の拍子記号を入力する際には、破線の小節線を表示しないように指定もできます。



オープン

自由拍子記号では、拍子、連桁、または拍への制約はありません。音符はいくつでも追加でき、自由に連桁できます。Dorico Pro では、自由拍子記号を「X」か「N」で表示するか、一切表示しないこともできます。



2のべき乗ではない分母の拍子

2のべき乗ではない分母の拍子記号とは、5つの6連符で全音符となる5/6などです。このような拍子記号の例は、Adèsの楽曲などに見られます。



Boulezなど一部の作曲家は、分子に分数を使用する拍子記号を記譜しています。Dorico Proは現在のところこれをサポートしていません。

関連リンク

[拍子記号のスタイル](#) (1258 ページ)

[大きな拍子記号](#) (1256 ページ)

[拍子記号の入力方法](#) (226 ページ)

[拍子記号のポップオーバー](#) (226 ページ)

弱起 (アウフタクト)

弱起 (アウフタクト) は、最初の完全な小節の前に音符を配置するものです。多くの場合、弱起は少数の拍からなり、主要な目的は楽曲を導入することです。



ショパンのマズルカ Op. 30 No.2の冒頭の、1拍の4分音符による弱起

弱起から始まる楽曲は、通常通り組段の開始位置に拍子記号が配置されます。ただし、拍子記号に従う最初の完全な1小節は、最初の小節線の前ではなく後ろになります。そのため、弱起小節は小節番号のカウントには加えられません。小節番号はフロー最初完全小節からカウントされます。

弱起小節は楽譜の音符/休符の数にリンクされているため、Dorico Proでは弱起小節は拍子記号にリンクされるので、拍子記号と一緒に入力する必要があります。ただし、楽譜に表示する必要のない拍子記号は非表示にできます。

関連リンク

[拍子記号の入力方法](#) (226 ページ)

[拍子記号の表示/非表示](#) (1265 ページ)

アウフタクトまたは不規則小節として部分小節を定義する

拍子記号の開始位置にある明示的な不規則小節をアウフタクトとして定義するかどうかを変更できます。これは、小節内の音符がどのように連桁でつながれ、グループ化されるかに影響します。

アウフタクトとして定義された不規則小節の音符は小節の終わりから連桁/グループ化されますが、アウフタクトとして定義されていない不規則な小節の音符は小節の始まりから連桁/グループ化されます。

補足

明示的な不規則小節およびアウフタクトの小節は、拍子記号の一部として入力する必要があります。たとえば拍子記号のポップオーバーに **4/4,1.5** と入力して、4/4 の拍子記号と 4 分音符 1.5 個分の拍 (8 分音符 3 つ分の拍) のアウフタクトを入力します。

手順

1. アウフタクトの定義を変更する明示的な不規則小節で始まる拍子記号または拍子記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルで、「拍子記号 (Time Signatures)」グループの「1 小節目をアウフタクトとしてグループ化 (Group first bar as pick-up)」をオンにします。
3. 対応するチェックボックスをオン/オフにします。

結果

「1 小節目をアウフタクトとしてグループ化 (Group first bar as pick-up)」とその対応するチェックボックスの両方がオンの場合は、選択した拍子記号の開始位置にある不規則小節がアウフタクトとして定義され、対応するチェックボックスがオフの場合は通常の不規則小節として定義されます。

このプロパティがオフの場合は、Dorico Pro は内部ヒューリスティクスを使用してアウフタクトか通常の不規則小節かを自動的に定義します。

例



コモンタイムのアウフタクトとして定義された不規則小節



アウフタクトではなく通常の不規則小節として定義された不規則小節

大きな拍子記号

大きな拍子記号は、譜表に対するサイズが標準よりずっと大きい、スケールアップされた拍子記号です。これはオーケストラのスコアで役に立ちます。譜表サイズが小さいことから拍子記号も標準のままだと小さく、指揮者にとって読みづらくなるからです。

大きな拍子記号は、映画音楽のスコアでも非常によく使用されます。これは、指揮者が録音セッションまでのスコアの準備に多くの時間をかけられることがまれであるためです。大きな拍子記号を使用すると、ページ上で拍子の変更がはっきり見やすくなります。特に拍子が何度も変更される場合に有効です。

Dorico Pro では、大きな拍子記号を以下の配置で表示できます。

- 大括弧のグループごとに 1 つ
- 譜表の上の組段オブジェクトの位置

大括弧のグループごとに 1 つ表示される拍子記号

譜表ごとに譜表と同じ高さの拍子記号を表示するかわりに、譜表の大括弧によるグループごとに 1 つの大きな拍子記号を表示できます。大括弧のグループごとに 1 つ表示される場合、拍子記号は大括弧によるグループに属する譜表の数に応じて拡大されます。拍子記号のサイズは、大括弧のグループに 4 つ以上の譜表が含まれるとき最大になります。1 つの譜表に表示される場合、大きな拍子記号は譜表の上下

に少しずつはみ出します。これは映画音楽の録音セッション用のパート譜で一般的に使用されるものです。



大括弧のグループごとに1つ表示される「ナローセリフ (Narrow, serif)」の拍子記号

大括弧のグループに属する譜表の数ごとの拍子記号のサイズは、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページで変更できます。また、大きな拍子記号を表示するときに、金管楽器の大括弧と弦楽器の大括弧にあるすべての譜表 (打楽器、ハープ、ピアノが含まれる場合が多い) を1つの大括弧とみなして扱うか、個別に扱うかを選択できます。

大括弧のグループに表示される大きな拍子記号は、表示倍率が高く、標準の拍子記号のデザインを使用しているときは特に、水平方向のスペースを大きく占める場合があります。そのため、大括弧のグループに大きな拍子記号を表示するレイアウトにおいては、ナローデザインの拍子記号の使用をおすすめします。

組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号

大括弧のグループごとに大きな拍子記号を1つ表示するのと似た形で、譜表上の組段オブジェクトの位置のみに拍子記号を表示することもできます。このとき組段ごとの拍子記号の表示位置は、リハーサルマークやテンポ記号など他の組段オブジェクトの位置を制御するのと同じオプションによって制御されます。



組段オブジェクトの位置に表示される「標準 (Normal)」の拍子記号

組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号は水平方向のスペースを占めないため、これにナローフォントスタイルを使用する必要はそれほどありません。またこれは、拍子記号の前後の音符間の水平距離も減らします。音符のスペーシングに与える影響が少ないため、この拍子記号の配置法は20世紀以降の現代音楽においてよく使用されるようになりました。

組段オブジェクトの位置に表示する拍子記号に音符による分母のスタイルを使用している場合、音符は分子の下ではなく右に表示されます。

初期設定では、組段オブジェクトの位置の拍子記号は標準の拍子記号の2倍のサイズとなり、同じ位置の他のアイテムは強制的にその右に表示されます。この表示倍率と、同じ位置にある他アイテムのデフォルトの位置は、「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページで変更できます。また、小節線に対する整列方法も変更できます。

関連リンク

[拍子記号のフォントスタイル \(1266 ページ\)](#)

[拍子記号のデザインを個別に変更する \(1267 ページ\)](#)

[大括弧のグループに対する拍子記号の位置を変更する \(1265 ページ\)](#)

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

[組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では小節番号を非表示にする \(667 ページ\)](#)

拍子記号のサイズと位置を変更する

拍子記号のサイズは、その垂直位置も含めて、レイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは大きな拍子記号を大括弧ごとに中央揃えで表示させつつ、パートレイアウトでは譜表ごとに標準サイズの拍子記号を表示させることなどができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、拍子記号のサイズを変更するレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「**拍子記号 (Time Signatures)**」をクリックします。
4. 「**拍子記号の位置とサイズ (Time signature position and size)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **すべての譜表に表示 (Show on every staff)**
 - **大括弧ごとに1つ表示 (Show once per bracket)**
 - **組段オブジェクトの位置に表示 (Show at system object positions)**
5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

選択したレイアウトの拍子記号のサイズと位置が変更されます。

組段オブジェクトの位置の譜表の上に大きな拍子記号を表示すると、譜表上の水平方向のスペースを一切使用しません。これ以外を選択すると、拍子記号によって水平方向のスペースが占められます。

手順終了後の項目

大きな拍子記号を、大括弧のグループに対し垂直方向に中央揃えとするか上揃えとするかは、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで変更できます。

関連リンク

[大きな拍子記号 \(1256 ページ\)](#)

[拍子記号の位置 \(1262 ページ\)](#)

[組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では小節番号を非表示にする \(667 ページ\)](#)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1252 ページ\)](#)

拍子記号のスタイル

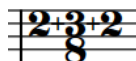
Dorico Pro では、拍子記号をさまざまなスタイルで表示できます。たとえば、分母を数字か音価のいずれかを選択して表示できます。

すべての拍子記号のスタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで、拍子記号のタイプに従い変更できます。また個々の拍子記号のスタイルは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

分子は常に1つか複数の数字であり、小節の拍数の合計を示す場合と、小節のデュレーション合計の分割のされ方を示す場合があります。



数字1つで表示される7/8の拍子記号の分子



分割のされ方を表示する7/8の拍子記号の分子

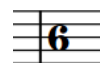
分母は数字かデュレーションに等しい音符として表示するか、まったく表示しないか選択できます。



数字で表示される分母



符頭(拍の長さ)で表示される分母



非表示の分母

符頭として表示される場合、分母は小節内の拍1つの長さを示す場合と、音符のデュレーションを示す場合があります。拍の長さを示す場合、分子も同時に変化することがあります。下の例では、6/8の拍子記号の分子が、6/8の小節が2つの付点4分音符により構成されることを反映して、2に変化します。



6/8の拍子記号で拍の長さを表示する分母の符頭



6/8の拍子記号で音符のデュレーションを表示する分母

関連リンク

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1252 ページ\)](#)

[拍子記号のデザインを個別に変更する \(1267 ページ\)](#)

[入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字のスタイルを個別に変更する \(1261 ページ\)](#)

[拍子記号の自由拍子のスタイルを個別に変更する \(1260 ページ\)](#)

拍子記号の分子スタイルを個別に変更する

個々の拍子記号の分子に各小節の拍の総数を表示するか、それとも各小節の分割のされ方を表示するか、プロジェクト全体の設定より優先される形で選択できます。

手順

1. 分子スタイルを変更する拍子記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループで、「**分子スタイル (Numerator style)**」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **数字 (Number)**
 - **拍グループ (Beat group)**

結果

選択した拍子記号の分子スタイルが変更されます。

ヒント

すべての拍子記号の分子スタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**拍子記号 (Time Signatures)**」のページで変更できます。

関連リンク

[拍子記号のスタイル \(1258 ページ\)](#)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1252 ページ\)](#)

拍子記号の分母スタイルを個別に変更する

それぞれの拍子記号の分母スタイルをプロジェクト全体の設定とは別に変更できます。たとえば、分母の数字を音符に置き換えることができます。

手順

1. 分母スタイルを変更する拍子記号を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「分母スタイル (Denominator style)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 数字 (Number)
 - 音符 (Note)
 - なし (None)

結果

選択した拍子記号の分母スタイルが変更されます。

ヒント

すべての拍子記号の分母スタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」のページで変更できます。

拍子記号の自由拍子のスタイルを個別に変更する




個々の拍子記号の自由拍子のスタイルは、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. スタイルを変更する自由拍子の拍子記号を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

自由拍子の拍子記号では、プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループの「オープンスタイル (Open style)」が自動的にオンになります。

2. プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで、「オープンスタイル (Open style)」から以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 記号なし (No symbol)

 - 「X」

 - ペンデレツキの記号 (Penderecki's symbol)


結果

選択した拍子記号の自由拍子のスタイルが変更されます。

ヒント

すべての自由拍子の拍子記号のスタイルに関するプロジェクト全体の設定は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」のページで変更できます。

入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字のスタイルを個別に変更する

入れ替え可能な拍子の拍子記号に表示される区切り文字は、プロジェクト全体の設定より優先される形で個別に変更できます。

手順

1. 区切り用文字を変更する入れ替え可能な拍子の拍子記号を個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。

補足

入れ替え可能な拍子の拍子記号では、プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループの「区切り用文字 (Separator)」が自動的にオンになります。

2. 「区切り用文字 (Separator)」のメニューから、以下のいずれかのオプションを選択します。

- 括弧 (Parentheses)



- 角括弧 (Brackets)



- イコールサイン (Equals sign)



- 斜線 (Slash)



- スペース (Space)



- ハイフン (Hyphen)



結果

選択した入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り用文字のスタイルが変更されます。

補足

- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」にある「拍子記号 (Time Signatures)」ページで、プロジェクト全体の入れ替え可能な拍子記号のデフォルトの区切り文字を変更できます。
- 結合拍子の拍子記号は、入れ替え可能な拍子の拍子記号と外観が似ているかもしれませんが、これとは異なる動作をするものです。結合拍子の拍子記号は「+」記号で区切られるのに対し、入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り文字は6種類ありますが、ここに「+」記号は使用できません。

結合拍子の拍子記号では「区切り用文字 (Separator)」をオンにして利用できるオプションを選択できますが、このプロパティが効果を持つのは、入れ替え可能な拍子の拍子記号の区切り用文字の外観のみです。

関連リンク

[拍子記号のスタイル \(1258 ページ\)](#)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1252 ページ\)](#)

拍子記号の位置

標準の拍子記号は、5線譜の第3線、または1線譜の譜表線がその中央を通過する形で配置されます。大きな拍子記号は、大括弧のグループごとに中央揃えまたは上揃えで配置するか、組段オブジェクトの位置の譜表の上に配置できます。

拍子記号のリズム上の位置は記譜モードで移動できます。拍子記号は現在のリズムグリッドの間隔に従い移動し、「**浄書オプション (Engraving Options)**」で設定されたデフォルト位置に配置されます。

個々の拍子記号の表示位置は浄書モードで移動できますが、これによって記号のリズム上の位置が変更されることはありません。

プロジェクト全体のすべての拍子記号の水平方向および垂直方向のデフォルト位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」および「**拍子記号 (Time Signatures)**」ページで変更できます。

拍子記号の位置はレイアウトごとに個別に変更もできます。たとえば、一部のレイアウトでは拍子記号を譜表の上の組段オブジェクトの位置に表示しつつ、他のレイアウトでは大括弧ごとに1つ表示することなどができます。

関連リンク

[組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)

[組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)

[拍子記号のサイズと位置を変更する \(1258 ページ\)](#)

[テンポ記号の表示位置の変更 \(1222 ページ\)](#)

[大括弧のグループに対する拍子記号の位置を変更する \(1265 ページ\)](#)

[浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1252 ページ\)](#)

[プロジェクト全体における拍子記号の間隔のスペーシング \(1253 ページ\)](#)

拍子記号の位置の変更

拍子記号は入力後に位置を移動できます。

補足

- 拍子記号の移動にはキーボードしか使用できません。
- 拍子記号は譜表に沿ってのみ移動できます。拍子記号を別の譜表に移動する場合は、拍子記号を削除してから新たな拍子記号を別の譜表に入力する必要があります。
- 音符や小節線に対する拍子記号のデフォルト位置を調節する場合、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**間隔のスペーシング (Spacing Gaps)**」のページで間隔のスペーシングに関するプロジェクト全体の値を変更する必要があります。

手順

1. 記譜モードで、移動する拍子記号を選択します。
 2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従い拍子記号を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
-

結果

拍子記号は移動された位置から、次の拍子記号がある位置かフローの終わりまで効力を持ちます。拍子記号の前後両側の、拍子記号が存在すればその位置、なければフローの開始位置および終了位置までの範囲で、小節線が自動的に更新されます。

補足

各位置に拍子記号は1つしか存在できませんが、1つの譜表だけに適用される拍子記号は例外となります。移動の途中で拍子記号が他の拍子記号と同じ位置に移動した場合、既存の拍子記号が削除されます。

この動作は元に戻すことができ、移動中に削除された拍子記号はすべて復元されます。

拍子記号の表示位置の変更

個々の拍子記号の表示位置を、他のアイテムの位置に影響を与えず変更できます。

補足

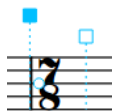
- この手順は、組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号には当てはまりません。
 - 組段の開始位置に表示される拍子記号は移動できません。移動できるのは、組段の途中か終了位置にある拍子変更記号のみです。
-

手順

1. 浄書ツールボックスで、「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」をオンにします。

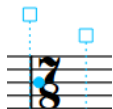


2. 移動する拍子記号の位置にある、音符のスペーシング用の四角いハンドルを選択します。



拍子記号の横に丸いハンドルが表示されます。

3. **[Tab]** を押して丸いハンドルを選択します。



4. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

補足

- ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。
 - 音符のスペーシングのハンドルの移動はマウスでは行なえず、キーボードのみで行なえます。
-

結果

拍子記号の表示位置が水平方向に移動されます。

ヒント

またプロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループで「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」の値を変更すると、拍子記号を水平に移動できます。ただしこれは、拍子記号周辺の全体的な音符のスペーシングに影響を与えます。

「スペーシングのオフセット (Spacing offset)」の値は、音符のスペーシングの変更から独立していません。

関連リンク

[音符のスペーシング](#) (430 ページ)

組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号の表示位置を変更する

組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号の表示位置は、他の拍子記号の表示位置の変更とは異なる形で変更できます。

補足

- この手順は、譜表上に表示される拍子記号には当てはまりません。
- 小節線に対する拍子記号の配置を変更する場合は、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「拍子記号 (Time Signatures)」ページの「組段オブジェクトの位置の拍子記号 (Time Signatures at System Object Positions)」セクションで、組段オブジェクトの位置に表示するすべての拍子記号のデフォルトの配置を変更できます。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を変更する組段オブジェクトの位置の拍子記号を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって拍子記号を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

アイテムの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。

結果

組段オブジェクトの位置に表示される選択した拍子記号が新しい表示位置に移動します。

ヒント

組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号の表示位置を変更すると、プロパティパネルの「拍子記号 (Time Signatures)」グループにある「オフセット (Offset)」が自動的にオンになります。

- 「オフセット X (Offset X)」は、拍子記号を水平方向に移動させます。
- 「オフセット Y (Offset Y)」は、拍子記号を垂直方向に移動させます。

これらのプロパティを使用して数値フィールドの数値を変更することでも、組段オブジェクトの位置に表示される拍子記号の表示位置を移動できます。

プロパティをオフにすると、選択した拍子記号がデフォルトの位置にリセットされます。

関連リンク

- [拍子記号のサイズと位置を変更する \(1258 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト位置に拍子記号を表示する場所では小節番号を非表示にする \(667 ページ\)](#)
- [組段オブジェクト \(1188 ページ\)](#)
- [組段オブジェクトの位置の変更 \(1189 ページ\)](#)
- [拍子記号の表示位置の変更 \(1263 ページ\)](#)
- [浄書オプションで拍子記号の設定をプロジェクト全体に適用する \(1252 ページ\)](#)

大括弧のグループに対する拍子記号の位置を変更する

初期設定では、大括弧ごとに1つ表示される拍子記号は、それぞれの大括弧のグループに対し中央揃えで配置されます。大括弧のグループに対する拍子記号の垂直位置はプロジェクト全体のすべてのレイアウトに対し変更できます。たとえば映画音楽のスコアでは、大きな拍子記号の上端をそれぞれの大括弧のグループの上端に揃えて表示するのが一般的です。

手順

- [Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
- ページリストの「**拍子記号 (Time Signatures)**」をクリックします。
- 「**大括弧を中央にして配置された拍子記号 (Time Signatures Centered on Brackets)**」セクションで、「**大括弧に対する垂直方向の整列 (Vertical alignment relative to bracket)**」に対し、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上 (Top)
 - 中央 (Middle)
- 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

プロジェクト全体のすべてのレイアウトで、大括弧のグループに対する大きな拍子記号の垂直位置が変更されます。

関連リンク

- [拍子記号の位置 \(1262 ページ\)](#)
- [大きな拍子記号 \(1256 ページ\)](#)
- [拍子記号のサイズと位置を変更する \(1258 ページ\)](#)

拍子記号の表示/非表示

拍子記号は、プロジェクトから削除することなく表示/非表示を切り替えられます。これにより、現在楽譜領域で開いているレイアウトだけではなく、すべてのレイアウトで表示/非表示が切り替わります。

手順

- 非表示にする拍子記号、または表示する拍子記号のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「**拍子記号 (Time Signatures)**」グループで、「**拍子記号を非表示 (Hide time signature)**」をオンまたはオフにします。

結果

「**拍子記号を非表示 (Hide time signature)**」をオンにすると、選択した拍子記号がすべてのレイアウトで非表示になり、オフにすると表示されます。

非表示にした各拍子記号の位置にはガイドが表示されます。ただし初期設定では、ガイドは印刷されません。

補足

- 非表示の拍子記号は水平方向のスペースを一切取らないため、拍子記号の表示/非表示は音符のスペーシングに影響します。
- 拍子記号のガイドの表示/非表示は「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」 > 「拍子記号 (Time Signatures)」を選択して切り替えられます。メニュー内の「拍子記号 (Time Signatures)」の横にチェックマークがあるときは拍子記号のガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

印刷モードのウィンドウ右側にある印刷オプションパネルの「注釈 (Annotations)」セクションの「オプションを表示 (View options)」をオンにすると、拍子記号のガイドの印刷を選択できます。

- コード記号、演奏技法、および拍子記号に適用される、「環境設定 (Preferences)」の「キーボードショートカット (Key Commands)」ページにある「アイテムを表示/非表示 (Hide/Show Item)」にキーボードショートカットを設定できます。

関連リンク

[音符のスペーシング](#) (430 ページ)

[ガイド](#) (337 ページ)

拍子記号の削除

音符の相対的なリズム上の位置に影響することなく、拍子記号を削除できます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
 - 削除する拍子記号
 - 削除する非表示の拍子記号のガイド
2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択した拍子記号がスコアから削除されます。拍子記号が削除された位置以降の小節は、スコアのそれ以前にある拍子記号に従って、次の拍子記号かフローの終わりの位置まで振り直されます。

フロー中唯一の拍子記号を削除した場合、楽譜は自由拍子として表示されますが、すべての音価に変化はありません。

関連リンク

[拍子記号のタイプ](#) (1253 ページ)

拍子記号のフォントスタイル

異なる拍子記号のデザインにはそれぞれ異なるフォントスタイルが使用されます。「フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)」ダイアログでは、拍子記号に使用されるフォントの形式設定を編集できます。

拍子記号には以下のフォントが使用されています。

- **拍子記号用フォント (Time Signature Font):** 「標準 (Normal)」、 「ナローセリフ (Narrow, serif)」、または 「ナローサンセリフ (Narrow, sans serif)」 のデザインタイプを使用する、標準の拍子記号と大きな拍子記号に使用されます。SMuFL 準拠のフォントファミリーを使用する必要があります。
- **拍子記号用プレーンフォント (Time Signature Plain Font):** 「プレーンフォント (Plain font)」 のデザインタイプを使用する拍子記号に使用されます。どのフォントファミリーでも使用できますが、大きな拍子記号にはナローフォントを使用することをおすすめします。

補足

フォントスタイルへの変更が、パートレイアウトを含めてプロジェクト全体に適用されます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」 ダイアログ \(412 ページ\)](#)

[大きな拍子記号 \(1256 ページ\)](#)

拍子記号のデザインを個別に変更する

使用するフォントスタイルなど、拍子記号のデザインはレイアウトごとに個別に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトの拍子記号にはプレーンフォントを使用しつつ、パートレイアウトには標準の拍子記号用フォントを使用するなどができます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
 2. 「**レイアウト (Layouts)**」リストから、拍子記号のデザインを変更するレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
 3. ページリストの「**拍子記号 (Time Signatures)**」をクリックします。
 4. 「**拍子記号のデザイン (Time signature design)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **標準 (Normal)**
 - **ナローセリフ (Narrow, serif)**
 - **ナローサンセリフ (Narrow, sans serif)**
 - **プレーンフォント (Plain font)**
 5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

選択したレイアウトの拍子記号のデザインが変更されます。「**プレーンフォント (Plain font)**」を選択した場合、それ以外のオプションを選んだ場合とは異なるフォントスタイルが拍子記号に使用されます

関連リンク

[拍子記号のスタイル \(1258 ページ\)](#)

トレモロ (Tremolos)

トレモロとは、1本の符尾をまたぐ、または複数の符尾の間に配置される太い斜めの線です。これは単音または複数の音符の連続で、音符を繰り返すことを示すために使用されます。

符頭を1つ1つ記譜せずにトレモロストロークを使用すると、水平方向のスペースが節約できるとともに早いパッセージの読解が容易になります。

トレモロストロークの数は、音符を繰り返す回数とその速さの両方を示します。たとえば音価が指定されたトレモロでは、4分音符の符尾に付く1本のトレモロストロークは2個の8分音符を演奏することを示し、4分音符の符尾に付く3本のトレモロストロークは8個の32分音符を演奏することを示します。



1ストロークの単音トレモロが付いた4分音符と、それを音符で記したものの



3ストロークの単音トレモロが付いた4分音符と、それを音符で記したものの

トレモロには以下の種類があります。

単音のトレモロ

1音が繰り返されます。



重音のトレモロ

複数の音符 (通常は2つ) が連続で演奏されます。これはトリルに似ていますが、トリルがGとAなど隣接する2つの音符を素早く交互に演奏することに対し、重音トレモロに使用する音符の制限はなく、ただ楽器の性能の限界が制約となります。



連符のトレモロ

連符中の複数の音符が記譜された並びで繰り返されます。



音楽的な状況によって、トレモロの音価は指定される場合と指定されない場合があります。音価が指定されるトレモロと指定されないトレモロに視覚的な違いはないため、作曲家または編曲者が、たとえばスコアの前付けにおける指示やスコア中の指示テキストなどの形で、トレモロの演奏方法を指定する場合も多く見られます。

音価が指定されたトレモロ

トレモロストロークの数は、その位置に適用されるテンポと拍子による正確なリズムに対応します。

音価が指定されないトレモロ

ストロークの数とリズムの間に関係性はありません。そのかわり、音価が指定されないトレモロはテンポに関わらずできるだけ速く演奏されます。

音価が指定されないトレモロは、多くの場合3本以上のトレモロストロークを使用し、trem. のテキスト指示を伴う場合もあります。

関連リンク

[リピートとトレモロの入力方法 \(303 ページ\)](#)

タイのつながりの中のトレモロ

初期設定では、タイのつながりの音符に単音トレモロが追加された場合、タイのつながりに属するすべての音符にトレモロストロークが表示されます。タイでつながれた音符からトレモロストロークを削除すると、タイのつながりに属するすべての音符からトレモロストロークが削除されます。

Dorico Pro では、トレモロは初期設定では音価が指定されていると見なされるため、タイのつながりの後続の音符に表示されるトレモロストロークの数は、必要に応じて自動的に調整されます。たとえば、2本のトレモロストロークが付いた8分音符が4分音符にタイでつながれた場合、4分音符には3本のトレモロストロークが付きます。これはトレモロストロークの機能が連桁に類似するためであり、2本のトレモロストロークと8分音符の符鉤1つは、3本のトレモロストロークと等価になります。

もっとも、個々のトレモロのデュレーションに関わらず、すべての音符に同じ数のトレモロストロークを付けることが必要な状況もあるかもしれません。また、トレモロをタイのつながりの途中から始めたり、途中で終わらせる場合もあります。

個々の音符に表示されるトレモロストロークの数は、浄書モードで個別に変更できます。

タイのつながりのそれぞれの音符のトレモロストロークの数を変更する

Dorico Pro はタイのつながりの後続の音符に付くトレモロストロークの数を、それぞれのデュレーションに応じて自動的に変更しますが、意図するリズムを表現するために、単音トレモロのストロークの数を音符ごとに手動で変更できます。

手順

1. 浄書モードで、トレモロストロークの数を変更する音符の符頭を選択します。
2. プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで、「単一符尾のトレモロ (Single stem tremolo)」をオンにします。
3. メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - なし (None)
 - 1 ストローク (One stroke)
 - 2 ストローク (Two strokes)
 - 3 ストローク (Three strokes)
 - 4 ストローク (Four strokes)
 - バズロール (Buzz roll)

結果

選択した音符のトレモロストロークの表示数を変更されます。

例



タイのつながりで2つめの音符が1つめより長い場合のトレモロストロークのデフォルトの数



2つめの音符のトレモロストロークの数を1つめに合わせて変更したもの

関連リンク

[トレモロの速さの変更 \(1270 ページ\)](#)

トレモロの一般的な配置規則

単音トレモロは音符の符尾に配置され、重音トレモロは2つ以上の音符の間に配置されます。重音トレモロが3つ以上の音符にまたがる場合、トレモロストロークはすべての音符の間に配置されます。

トレモロストロークの線は、ストロークの間隔が十分広くなりストロークの数が即座に読み取れるように、連符よりもわずかに細くなっています。

トレモロストロークは加線や符鉤と重なり合ってはいけません。Dorico Pro は、そのような衝突を防止するために、トレモロストロークの位置を自動的に調整します。

譜表の内側のトレモロストロークは、符頭から少なくとも間1つ分の距離を置くとともに、譜表の線および間に対する正しい位置に配置されます。つまり、音符のピッチを変更してもトレモロストロークの位置が変わらない場合もあります。



前2つと後ろ2つの音符のトレモロストロークの位置は同じですが、ピッチはいずれも異なります。

Dorico Pro では、フレーズの方角に関わらず、単音トレモロのストロークの角度は常に同じです。重音トレモロのストロークの角度は、重音トレモロが適用される符尾それぞれの高さにより決定されます。重音トレモロのストロークの角度は、トレモロの始まりおよび終わりの符尾の長さを変更することによって変えられます。

すべてのトレモロストロークのデフォルト位置に対するプロジェクト全体の設定は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページで変更できます。

関連リンク

[トレモロストロークの移動 \(1272 ページ\)](#)

[浄書オプションでトレモロの設定をプロジェクト全体に適用する \(1273 ページ\)](#)

トレモロの速さの変更

トレモロの速さは、入力後でもストロークの数を変更することで変更できます。

手順

1. 記譜モードで、速さを変更するトレモロの付いた音符を選択します。
反復記号パネルの「**トレモロ (Tremolos)**」のセクションでは、選択した音符に対応するトレモロストロークの数のボタンが強調表示されています。

補足

単音トレモロと重音トレモロは別個に選択します。

2. 反復記号パネルの「**トレモロ (Tremolos)**」のセクションで、新たに選択するトレモロストロークの数のボタンをクリックします。

たとえば、ストロークが2本の単音トレモロを入力するには「**単音トレモロ (2 ストローク) (Two Strokes Single-note Tremolo)**」をクリックし、ストロークが3本の重音トレモロを入力するには「**重音トレモロ (3 ストローク) (Three Strokes Multi-note Tremolo)**」をクリックします。



ストロークが2本の単音トレモロ



ストロークが3本の重音トレモロ

結果

選択した音符のトレモロストロークの本数が変更され、トレモロの速さも変化します。

関連リンク

[再生時のトレモロ \(1274 ページ\)](#)

[タイのつながりのそれぞれの音符のトレモロストロークの数を変更する \(1269 ページ\)](#)

トレモロの削除

単音トレモロおよび重音トレモロは、適用される音符に影響することなく、それだけを音符から削除できます。

手順

1. 記譜モードで、トレモロストロークを削除する音符を選択します。
2. 反復記号パネルの「**トレモロ (Tremolos)**」セクションで、選択したトレモロのタイプに対応するボタンをクリックします。

- **単音トレモロを削除 (Remove Single-note tremolo)**



- **重音トレモロを削除 (Remove Multi-note tremolo)**



結果

対応するタイプのトレモロストロークが削除されます。

例



単音トレモロと重音トレモロが付いた音符



重音トレモロが削除され単音トレモロが残っている音符



重音トレモロと単音トレモロの両方が削除された音符

トレモロが付いた音符の位置

単音トレモロおよび重音トレモロが付いた音符は、通常の音符と同じ方法で異なる位置に移動できます。ただし、重音トレモロを小節線をまたいで移動させた場合、そのトレモロストロークは自動的に削除されます。

補足

トレモロを移動した直後であれば、移動を取り消して削除された重音トレモロのストロークを復元できます。

単音トレモロは、小節線を越えて異なる位置に移動しても、トレモロストロークに影響することはありません。音符の移動先の位置と拍子記号によっては、通常の音符と同様、必要に応じてタイのつながりに自動的に書き換えられる場合があります。

補足

単音トレモロが付いたタイのつながりを構成する音符がそれぞれ異なるデュレーションとなった場合、それぞれの音符に付くトレモロストロークの数も異なります。タイのつながりに含まれるそれぞれの音符のトレモロストロークの数は、個別に変更できます。

関連リンク

[音符の位置の移動 \(913 ページ\)](#)

[タイのつながりのそれぞれの音符のトレモロストロークの数を変更する \(1269 ページ\)](#)

トレモロストロークの移動

トレモロストロークは表示位置を上下に動かせます。

補足

- トレモロストロークは左右には動かせません。
- トレモロストロークは特定の音符に付属するため、リズム上の位置は変更できませんが、トレモロの付いた音符は異なる位置に移動できます。単音トレモロの付いた音符は小節線を越えられますが、重音トレモロの付いた音符が小節線を越えると、自動的にストロークが削除されます。

手順

1. 浄書モードで、表示位置を移動するトレモロストロークを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、トレモロストロークを移動させます。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]**)。

- 選択対象をクリックして上下にドラッグします。

結果

選択したトレモロストロークが上下に移動します。

補足

- 重音トレモロのストロークを移動すると、それが付属する符尾の長さも変更されます。

- トレモロストロークの表示位置を動かす際、最初は間違った方向に動いたり、予想より大きい幅で動いたりするように見える場合があります。これは、トレモロストロークを移動して位置が書き上げられる際に、その位置が一旦リセットされるからです。
- 重音トレモロのストロークの開始位置/終了位置を移動すると、プロパティパネルの「**連桁 (Beaming)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
 - 「**開始 Y オフセット (Start Y offset)**」は、対応する符尾の先端を動かすことにより、重音トレモロのストロークの開始位置を垂直方向に移動させます。
 - 「**終了 Y オフセット (End Y offset)**」は、対応する符尾の先端を動かすことにより、重音トレモロのストロークの終了位置を垂直方向に移動させます。

単音トレモロのストロークを移動すると、プロパティパネルの「**音符と休符 (Notes and Rests)**」グループにある「**トレモロ Y (Tremolo Y)**」が自動的にオンになります。これは単音トレモロのストロークを垂直に移動させます。

たとえば重音トレモロのストローク全体を上を移動させた場合、両方の符尾のハンドルが移動することにより、両方のプロパティがオンになります。これらのプロパティを使用し、数値フィールドの数値を変更することでもトレモロストロークを移動できます。ただし、プロパティパネルの関連するグループを表示させるには、トレモロストロークではなく符頭を選択する必要があります。

プロパティをオフにすると、選択した符尾のハンドル位置がリセットされ、それに従いトレモロストロークもデフォルト位置にリセットされます。

浄書オプションでトレモロの設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**トレモロ (Tremolos)**」ページで、トレモロの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「**トレモロ (Tremolos)**」ページのオプションでは、トレモロストロークの外観と、符尾の先端、符鉤、符頭および連桁に対するトレモロストロークの位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

[浄書オプションで符尾の設定をプロジェクト全体に適用する \(1212 ページ\)](#)

2 分音符の重音トレモロの外観に関するプロジェクト全体の設定を変更する

2 分音符の重音トレモロの記譜に関する慣習は複数あります。2 分音符の重音トレモロの記譜方法に関するプロジェクト全体の設定を変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
 2. ページリストの「**トレモロ (Tremolos)**」をクリックします。
 3. 「**重音のトレモロ (Multi-note Tremolos)**」のセクションで、「**2 分音符のトレモロの外観 (Appearance of half note (minim) tremolos)**」から以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **すべての線で符尾を結合 (All lines join stems)**
 - **最も外側にある線で符尾を結合 (Outermost line joins stems)**
 - **符尾を結合しない (No lines join stems) (デフォルト)**
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

環境設定に従い、すべての 2 分音符の重音トレモロの外観に関するプロジェクト全体の設定が変更されます。

再生時のトレモロ

トレモロが音価が指定されないトレモロとして解釈されるためのトレモロストロークの最小数を指定することで、音価が指定されないトレモロの再生を制御できます。これには、音符に使用されるトレモロストロークの数と連桁線の数の両方が反映されます。

- これは「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「タイミング (Timing)」ページで行なえます。

たとえば、3 本のトレモロストロークが必要のようにオプションが設定されている場合、2 本のトレモロストロークが付いた 8 分音符は、8 分音符の連桁 1 本も計算に含まれるため、音価が指定されないトレモロとして演奏されます。

また、音価が指定されないトレモロのデフォルトの音符の長さも指定できます。音符のデュレーションは、「トレモロ (Tremolos)」セクションで、テンポ 120 の 4 分音符の長さに対する割合として入力します。

トレモロストロークの数は、繰り返される音符の音価を決定します。たとえば、1 本のストロークは 8 分音符を意味し、2 本のストロークは 16 分音符を意味するといった具合に続きます。

ヒント

一方の声部にトレモロがあり、もう一方の声部にスラーがある場合などに、個々のインストゥルメントに対して声部の個別再生を有効にできます。

関連リンク

[「再生オプション」ダイアログ \(509 ページ\)](#)

[声部の個別再生の有効化 \(551 ページ\)](#)

再生時のトレモロのデュレーションの変更

再生時の音価が指定されないトレモロの各音符のデフォルトの長さ、再生時にトレモロの音価を指定しないことを示すために必要なトレモロストロークの最小数をどちらも変更できます。

たとえば、数値フィールドの数値を変更してデフォルトの長さを 0.5 秒にするには、「再生 (Play)」 > 「再生オプション (Playback Options)」の「タイミング (Timing)」ページの「トレモロ (Tremolos)」セクションにある「音価が指定されないトレモロのデフォルトの長さ (Default unmeasured tremolo length)」において、数値フィールドに「1」を入力します。

ヒント

「音価が指定されないトレモロのデフォルトの長さ (Default unmeasured tremolo length)」の数値フィールドの横のいずれかの矢印の上にマウスを合わせると、現在の割合を小数で示す小さなボックスが表示されます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]** を押して「再生オプション (Playback Options)」を開きます。
2. ページリストの「タイミング (Timing)」をクリックします。
3. 必要に応じて、「トレモロ (Tremolos)」セクションで「音価が指定されないトレモロを再生するストロークの最少数 (Minimum number of strokes for playback of unmeasured tremolos)」の数値を変更します。

4. 「**音価が指定されないトレモロのデフォルトの長さ (Default unmeasured tremolo length)**」の数値を変更します。

たとえば、音価が指定されないトレモロの音符のデフォルトの長さを 0.5 秒に設定するには、数値を「1」に変更します。

ヒント

数値の横のいずれかの矢印の上にマウスを合わせると、現在の割合を小数で示す小さなボックスが表示されます。

5. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

音価が指定されないトレモロの再生時に各音が発音されるデュレーションがプロジェクト全体で変更されます。

「**音価が指定されないトレモロを再生するストロークの最少数 (Minimum number of strokes for playback of unmeasured tremolos)**」の数値を変更すると、再生時にトレモロが音価が指定されないトレモロとして扱われるために必要なトレモロストロークの最少数を変更されます。

連符

連符は、現在の拍に応じた通常の分割とは異なる分割数の拍のことで、連符は、通常の分割パターンで拍内に入る音符よりも多いたまたは少ない音符を拍に収める場合に使用されます。



4/4 における 4 分音符での標準的な分割



4/4 の中を 4 分音符で 6 つに分割する



6/8 における 8 分音符での標準的な分割



6/8 の中を 8 分音符で 4 つに分割する

連符は、標準とは異なる形で分割されますが、通常の音符と同じリズムの記譜法を使用するため、デュレーションが異なることを明確に示すために印を付ける必要があります。

以下の例では、4 分音符の 3 連符が数字の 3 の付いた角括弧の下に表示されています。8 分音符の 2 連符は連符で括られるため角括弧は使用せず、連符の上に数字の 2 を表示します。

Dorico Pro では、連符は角括弧のみを表記、角括弧と連符の数や比率を示す数字を組み合わせる表記、または角括弧、連符の数や比率を示す数字、連符の音値を示す音符を組み合わせる表記できます。

関連リンク

[連符の入力 \(199 ページ\)](#)

[連符の角括弧 \(1281 ページ\)](#)

[連符の数や比率を示す数字 \(1286 ページ\)](#)

連符の一般的な配置規則

連符の角括弧と数や比率を示す数字は、通常音符の符尾側に配置されます。連符が連符で表示される場合は、連符の角括弧は必ずしも必要ありませんが、連符の数や比率を示す数字と組み合わせる表記することもできます。

声部の譜表における連符の角括弧と連符の数や比率を示す数字は、表記規則に従って、音符と歌詞の間に入り込まないように常に譜表の上に配置されます。

連符の角括弧は、スラーやアーティキュレーションなどの記譜記号と重ならない範囲で、できるだけ音符に近い位置に配置されます。スラーは通常、連符の角括弧より短い場合は角括弧の内側に配置されます。スラーが連符の角括弧より長い場合は、スラーが角括弧の外側に配置される場合もあります。

連符の角括弧の水平位置は、どの音符が括弧に含まれるか一目で分かる位置にする必要があります。そのため、連符の隣の音符まで含まれるかのように見える位置まで括弧を拡張しないようにしてください。



連符の角括弧が2拍3連符であることを明確に示している



連符の角括弧を拡張しすぎるとリズムが不明瞭になる

浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する

「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページで連符、連符の角括弧、および連符の数や比率の外観を設定しプロジェクト全体に適用できます。

「連符 (Tuplets)」ページのオプションでは、譜表や符頭に対する連符の角括弧の外観と角度および連符の角括弧と連符の数や比率を示す数字の位置を変更できます。

多くのオプションに、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示す図があります。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

入れ子状の連符

連符がより大きな連符の中に入っているものは入れ子状の連符と呼ばれ、複雑なリズムを表現する際にしばしば用いられます。Dorico Pro では、入れ子状の連符の階層数に制限はありません。

例



入れ子状の連符

入れ子状の連符の入力

入れ子状の連符は、空白の譜表に新規に入力することも、既存の連符を選択してその中に入力することもできます。

手順

1. 記譜モードで音符を入力します。
2. **[:]** を押して連符のポップオーバーを開きます。
3. 必要に応じて、空白の譜表に入れ子状の連符を入力する場合は、ポップオーバーに外側の連符の比率を入力します (例:たとえば、「3:2」と入力します)。
4. 必要に応じて、**[Return]** を押してポップオーバーを閉じ、外側の連符の入力を確定します。

補足

既存の連符に入れ子状の連符を入力する場合、手順3と4は飛ばします。

5. **[:]** を押して連符のポップオーバーを再度開きます。
6. 内側の連符の比率を入力します (例:たとえば、「5:4」と入力します)。
7. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じ、内側の連符の入力を確定します。

8. 任意のピッチで入力または再生します。
9. 以下のいずれかの操作を行なって、入れ子状の連符の入力を終了します。
 - **+** を 1 回押し、内側の連符の入力を終了して外側の連符の入力を続けます。
 - **+** を 2 回押し、両方の連符の入力を終了して標準の音符入力に戻ります。
 - **[Esc]** を押して、音符の入力を完全に停止します。
 - 矢印キーでカーレットを移動して、標準の音符入力に戻ります。

結果

入力または再生したピッチは、入れ子状の連符としてカーレット位置から入力されます。

内側の連符の倍数が外側の連符内にちょうど収まる場合は、連符を手動で停止するまで、指定された入れ子状の連符として音符入力を続けられます。

内側の連符の倍数が外側の連符内に収まらない場合、外側の連符内に収まる最後の音符を入力したところで内側の連符の入力が自動的に停止します。そのあとは手動で停止するまで、外側の連符の入力が続きます。

補足

入れ子状の連符は、既存の連符にカーレットを合わせた状態で音符ツールボックスの「連符 (Tuplets)」をクリックして入力することもできます。ただしこの操作では、入れ子状の連符を一度に 1 つしか入力できません。

既存の音符を連符に変換する

既存の音符はどれでも連符に変換できます。これはたとえば、既存のデュレーション範囲内に追加の音符を入れ込む場合に使用できます。

手順

1. 記譜モードで、連符に変換する音符を選択します。
2. **[:]** を押して連符のポップオーバーを開きます。
ポップオーバーには選択内容に基づき提案される比率が自動的に記入されます。
3. 必要に応じて、ポップオーバー内の比率を変更します。たとえば、「**3:2**」と入力して 3 連符を入力します。
4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

選択した音符が、ポップオーバーの比率に従い連符に変換されます。たとえば、5 つの 8 分音符を選択してポップオーバーに **5:4** と入力すると、選択した音符が 8 分音符の 5 連符に変わります。

選択した音符が指定した比率の 1 つの連符に収まる場合、連符は 1 つだけ作成されます。選択した音符が 1 つの連符に収まらない場合、必要となる数の連符が自動的に作成されます。

関連リンク

[連符のポップオーバー \(199 ページ\)](#)

連符から標準の音符に変換する

既存の連符の音符はどれでも標準の音符に変換できます。たとえば、連符の 8 分音符から標準の 8 分音符に変換できます。

手順

1. 記譜モードで、標準の音符に変換する連符の角括弧、数/比率、またはガイドのみを選択します。

補足

連符の符頭は選択してはいけません。

- 必要に応じて、選択した連符内のすべての音符を保持する場合は、**[I]** を押して挿入モードをオンにします。
- [Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択した連符内のすべての音符がアンスケールされ、記譜上は同じデュレーションの標準の音符として表示されます。たとえば、連符の4分音符は標準の4分音符に変わります。

挿入モードがオンになっている場合、連符内のすべての音符を保持することから必要となる追加のデュレーションを確保するために、後続の既存の音符はすべてリズム上の後ろの位置に押し出されます。挿入モードがオフになっている場合、選択している中で一番前の連符が展開され、後続の音符や連符に上書きされます。

関連リンク

[ガイドの表示/非表示の切り替え](#) (339 ページ)

[連符の数や比率を示す数字](#) (1286 ページ)

[連符の角括弧](#) (1281 ページ)

連符が小節線をまたぐことの許可/禁止を切り替える

連符が小節線をまたぐことを許可できます。たとえば、ルネサンス音楽などでは、記譜に影響を与えることなくティックの小節線をまたいで連符を配置する場合があります。Dorico Pro の初期設定では、連符は小節線をまたぐと自動的に分割され、小節のデュレーションと連符の分割位置が明確に表示されます。

手順

- 小節線をまたぐことの許可/禁止を切り替える連符の角括弧または数や比率の数字を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
- プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「小節線をまたぐ (Spans barline)」をオンまたはオフにします。

結果

「小節線をまたぐ (Spans barline)」をオンにすると選択した連符が小節線をまたぎ、オフにすると小節線の位置で自動的に分割されます。

例



小節線をまたぎ、2つの3連符として表示される16分音符の6連符



小節線をまたぐことが許可され、連符が連結された同じ6連符

手順終了後の項目

選択した連符の連符を連結できます。

関連リンク

[小節線 \(647 ページ\)](#)

[手動で音符に連符を付ける \(678 ページ\)](#)

[連符の角括弧 \(1281 ページ\)](#)

[連符の数や比率を示す数字 \(1286 ページ\)](#)

連符の位置の移動

連符は入力後に別の位置に移動できます。これには連符の角括弧および連符の数や比率を示す数字とは個別に移動する場合も含まれます。音符を連符の範囲の外に移動させると、これは標準の音符に戻ります。

手順

1. 記譜モードで、移動する連符を選択します。

補足

音符を連符のまま移動させる場合は、連符の数や比率を示す数字、角括弧、または連符のガイドも含めて選択する必要があります。連符の数や比率を示す数字または角括弧が選択されていない場合、音符を連符の範囲の外側に移動すると、それぞれの音価に従う標準の音符に変化します。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従い選択した連符を移動します。

- **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
- **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。

補足

連符の位置をマウスで移動することはできません。

結果

選択した連符が新しい位置に移動します。

音符と一緒に連符の数や比率を示す数字または角括弧も選択している場合、連符全体が譜表に沿って移動します。連符が小節線をまたぐ場合、連符は自動的に調整され補正されます。

補足

- 「和音 (Chords)」がオフの状態、選択した音符が同じ譜表上の別の音符、もしくは同じ声部の同じ拍の位置と重なる場合、既存の音符は選択している音符に上書きされます。

音符を移動した直後であれば、移動を取り消して削除された音符を復元できます。

- 通常、連符は拍の分かれ目で分割されますが、小節の途中で自動調整されることはありません。小節の途中で拍の分かれ目を表示するには、2つの連符を手動で入力する必要があります。
-

例



連符の削除

連符に含まれるすべての音符は連符ごと削除できます。また、対応する音符は残したまま、連符の角括弧または連符の数や比率を示す数字を削除することもできます。

手順

1. 記譜モードで、削除する連符を選択します。

ヒント

連符全体とその連符に含まれるすべての音符を削除するには、符頭とそれに付随する連符の角括弧または連符の数や比率を示す数字をすべて選択します。

2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。

結果

選択した連符が削除されます。

- 音符だけを選択した場合、選択した音符のみが削除され、連符は削除されません。
- 連符の角括弧または連符の数や比率を示す数字だけを選択した場合、連符のみが削除され、連符内の音符は記譜されているのと同じデュレーションで維持されます。たとえば、4分音符の3連符から角括弧を削除すると、連符内にあった音符のみが残り、3つの4分音符が表示されます。

補足

これにより、連符の直後にある既存の音符が上書きされます。ただし、「挿入 (Insert)」モードがオンになっている場合、必要な追加のデュレーションに対応するため、あとに続く既存の音符がすべて後ろにずれます。

関連リンク

[連符から標準の音符に変換する \(1278 ページ\)](#)

連符の連桁

連符の連桁は、連符ではない音符の連桁と同様に、連符の音符を連桁で連結したものです。連符の連桁には、他の種類の連桁と同様の変更を加えることができます。

関連リンク

[連桁 \(675 ページ\)](#)

[連桁内の連符 \(687 ページ\)](#)

[手動で音符に連桁を付ける \(678 ページ\)](#)

[音符の連桁の解除 \(678 ページ\)](#)

[連桁グループの分割 \(677 ページ\)](#)

[不完全連桁の方向を変更する \(678 ページ\)](#)

[連桁の傾斜を個別に変更する \(681 ページ\)](#)

連符の角括弧

連符の角括弧は、連符内の音符を角括弧の中に収めることで3連符の4分音符のように連桁で連結されない連符のデュレーションを示します。

連符の角括弧の位置と形は、浄書モードで個別に微調整できます。

連符の角括弧にはそれぞれ4つのハンドルがあり、ハンドルを移動することで位置や形を変更できます。



連符の角括弧の開始位置/終了位置を設定するには、上部の2つのハンドルを動かします。「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページで連符の角度の設定が「常に水平 (Always horizontal)」に設定されている場合でも、ハンドルを個別に動かして連符の角括弧に角度を付けることができます。

連符の角括弧のフックの長さを設定するには、下部の2つのハンドルを動かします。片方のハンドルを動かすと、両方のフックの長さが変更されます。

補足

プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループにあるプロパティを使用して、連符の角括弧を個別に編集できます。ただし、「連符 (Tuplets)」グループが表示されるのは、連符の数/比率または角括弧を選択した場合のみです。連符内の音符、あるいは連符と連符の数/比率または角括弧内の音符を選択した場合は表示されません。

関連リンク

[連符の角括弧の角度を個別に変更する \(1284 ページ\)](#)

[ライン \(1046 ページ\)](#)

連符の数や比率を示す数字と角括弧の表示位置を移動する

連符の数や比率を示す数字と連符の角括弧は、対応する音符の位置の範囲内で移動できます。また連符の角括弧のハンドルの開始位置および終了位置も個別に移動でき、つまり連符の角括弧の表示の長さを変更できます。

手順

1. 浄書モードで、移動させる以下のいずれかのアイテムを選択します。
 - 連符の数や比率を示す数字
 - 連符の角括弧全体
 - 連符の角括弧にある個別のハンドル
2. 以下のいずれかの操作を行なって、連符の角括弧、連符の数や比率を示す数字、ハンドルを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押してハンドルを右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押してハンドルを左へ移動します。
 - ハンドル、角括弧全体、連符の数や比率を示す数字を上へ移動するには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
 - ハンドル、角括弧全体、連符の数や比率を示す数字を下へ移動するには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。

ヒント

連符の角括弧、連符の数や比率を示す数字、ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- 連符の角括弧全体または連符の数や比率を示す数字をクリックして、上下にドラッグします。
- 連符の角括弧のハンドルをクリックして、任意の方向にドラッグします。

結果

選択した連符の角括弧または連符の数や比率を示す数字が、対応する音符の位置の範囲内で移動します。

ヒント

- 連符の角括弧を移動すると、プロパティパネルの「**連符 (Tuplets)**」グループにある以下のプロパティが自動的にオンになります。
 - **開始オフセット (Start offset)**: 連符の角括弧の開始位置を移動します。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
 - **終了オフセット (End offset)**: 連符の角括弧の終了位置を移動します。「**X**」は水平位置を移動させ、「**Y**」は垂直位置を移動させます。
 - **フックの長さ (Hook length)**: 連符の角括弧のフックの長さを変更します。

たとえば、連符の角括弧全体を移動すると、両方のハンドルも移動するため、「**開始オフセット (Start offset)**」と「**終了オフセット (End offset)**」の両方が有効になります。これらのプロパティを使用して、連符の角括弧と連符の数や比率を示す数字の表示位置を変更することもできます。

連符の角括弧の開始位置と終了位置のプロパティ値を個別に変更できるため、連符の角括弧の角度を変更することもできます。

プロパティをオフにすると、連符の角括弧が初期設定の位置に戻ります。

- 連符の角括弧のデフォルトの位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連符 (Tuplets)**」ページにある「**水平位置 (Horizontal Position)**」セクションで設定を行ないます。

連符の大括弧を表示/非表示にする

連符の大括弧を個別に表示/非表示にできます。

手順

1. 非表示にする連符の角括弧、または角括弧を表示する連符のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルで、「**連符 (Tuplets)**」グループにある「**大括弧 (ブラケット)**」を有効化します。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- 「**非表示 (Hidden)**」



- 「**表示 (Shown)**」



結果

選択した連符の角括弧が表示または非表示になります。非表示にした各連符の位置、つまり数/比率または角括弧の付いていない連符の位置にガイドが表示されます。

手順終了後の項目

連符の表示を完全に非表示にする場合は、連符の数や比率を示す数字も非表示にする必要があります。

関連リンク

[ガイド \(337 ページ\)](#)

[連符の数や比率を示す数字を表示/非表示にする \(1286 ページ\)](#)

連符の角括弧の角度を個別に変更する

連符の角括弧の角度は、連符の角括弧の四隅にある四角いハンドルの位置を移動することで個別に変更できます。

手順

1. 浄書モードで、角度を変更する連符の角括弧にある以下の角ハンドルのいずれかを選択します。
 - 開始位置の角ハンドル
 - 終了位置の角ハンドル
2. 以下のいずれかの操作を行なって、ハンドルを移動します。
 - **[Alt/Opt]+[→]** を押して右へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[←]** を押して左へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して上へ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して下へ移動します。

ヒント

ハンドルの移動幅を大きくしたい場合は、**[Ctrl]/[command]** を押しながらキーボードショートカットを押します (例: **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]**)。

- オートメーションイベントをクリックして任意の方向にドラッグします。
3. 必要に応じて、もう一方のハンドルに対しても手順 1 と 2 を繰り返し、連符の角括弧の角度を変更します。

関連リンク

[連符の数や比率を示す数字と角括弧の表示位置を移動する \(1282 ページ\)](#)




[連符の角括弧を強制的に水平にする \(1285 ページ\)](#)

[連符の角括弧 \(1281 ページ\)](#)

譜表に対する連符の角括弧の位置を変更する

連符の角括弧や数と比率を示す数字は、譜表の上または下、もしくは譜表間から、表示位置を個別に選択できます。

手順

1. 譜表に対する位置を変更する連符の角括弧と連符の数や比率を示す数字を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「位置 (Placement)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 上 (Above)

 - 下 (Below)

 - 上の譜表にまたがる (Cross-staff above)

 - 下の譜表にまたがる (Cross-staff below)

「3」

結果

選択した連符の角括弧の位置が変更されます。

ヒント

- 「位置 (Placement)」をオフにすると、選択した連符がデフォルトの位置に戻ります。
- [F] を押すことで、選択した連符を譜表の上または下に表示するか、上または下の譜表にまたがるように表示するかを切り替えることもできます。
- 声楽の譜表に対する連符の角括弧の位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」> 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページにある「位置 (Placement)」セクションで設定を行ないます。

連符の角括弧の終了位置を変更する

個々の音符に対する連符の角括弧の終了位置は、個別に変更できます。

手順

1. 終了位置を変更する連符の角括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「終了位置 (End position)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- 最後の音符の右側で終了 (End at right-hand side of final note)



- 次に続く音符の直前で終了 (End immediately before following note)



- 最後の連符のグループ位置で終了 (End at position of final tuplet division)



結果

選択した連符の角括弧の終了位置が変更されます。

ヒント

- プロパティをオフにすると、選択した連符が初期設定に戻ります。
- すべての連符の数や比率を示す数字の水平位置をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」> 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページにある「水平位置 (Horizontal Position)」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[連符の角括弧の角度を個別に変更する \(1284 ページ\)](#)

[浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する \(1277 ページ\)](#)

連符の角括弧を強制的に水平にする

個々の連符の角括弧の角度設定を水平に変更すると、その設定をプロジェクト全体の設定より優先させることができます。

手順

1. 角度を変更する連符の角括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「連符を強制的に水平にする (Force horizontal)」をオンにします。

結果

プロパティをオンにすると、選択した連符の角括弧が水平になります。プロパティをオフにすると、選択した連符の角括弧に、連符の角度に関するプロジェクト全体の設定が再度適用されます。

ヒント

すべての連符の角括弧に角度を付けるか、常に水平に表示するかの設定をプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページにある「角括弧 (Brackets)」セクションで設定を行ないます。

連符の数や比率を示す数字

連符の数と比率は非常に似ています。3連符の場合は3というように、ともに連符に含まれる長さの等しい音符の数を示します。しかし連符の比率はさらに、3連符であれば3:2というように、連符のデュレーションに対応する標準の音符の数も表示します。

さらに、連符の比率はユニットの音価を示す音符を表示することもできます。



比率と音価を示した連符

連符の数や比率を示す数字は、記譜された音符の数をどのように現在のテンポおよび拍子に入れこむかを演奏者に分かりやすく示します。

Dorico Pro では、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」にある「連符 (Tuplets)」ページで、プロジェクト全体の連符の数字と比率の外観 (使用されるフォントなど) を変更できます。この設定より優先される形で個別の連符の外観を変更することもできます。

補足

プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループにあるプロパティを使用して、連符の数や比率を個別に編集できます。ただし、「連符 (Tuplets)」グループが表示されるのは、連符の数/比率または角括弧を選択した場合のみです。連符内の音符、あるいは連符と連符の数/比率または角括弧内の音符を選択した場合は表示されません。

関連リンク

[連符の数字や比率に使用するフォントの変更 \(1288 ページ\)](#)

連符の数や比率を示す数字を表示/非表示にする

連符の数や比率を示す数字の表示/非表示を切り替えられます。連符の数や比率を示す数字を表示する場合、連符ごとに個別に、プロジェクト全体の設定より優先される形で、異なるタイプを選択できます。

手順

1. 数/比率を非表示にする、または変更する連符の角括弧、あるいは数/比率を表示する連符のガイドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「数字 (Number)」をオンにします。
3. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- なし (None)



- 数字 (Number)



- 比率 (Ratio)



- 比率 + 音符 (Ratio+note)



結果

選択した連符の、数や比率を示す数字の表示が変更されます。「なし (None)」を選択すると、選択した連符の数や比率を表わす数字が非表示になります。非表示にした各連符の位置、つまり数/比率または角括弧の付いていない連符の位置にガイドが表示されます。

ヒント

- 「数字 (Number)」をオフにすると、選択した連符はデフォルトの設定に戻ります。
- すべての連符の数や比率の表示タイプをプロジェクト全体で変更するには、「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「連符 (Tuplets)」ページの「数字と比率 (Number and Ratio)」セクションで設定を行ないます。

手順終了後の項目

連符の表示を完全に非表示にする場合は、連符の角括弧も非表示にする必要があります。

関連リンク

[連符の大括弧を表示/非表示にする \(1283 ページ\)](#)

[浄書オプションで連符の設定をプロジェクト全体に適用する \(1277 ページ\)](#)

連符の数字や比率の位置を個別に変更する

連符の数字や比率の水平位置を、プロジェクト全体の設定とは別に変更できます。

手順

1. 連符の数や比率を示す数字の位置を変更する連符の角括弧を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「連符 (Tuplets)」グループで、「中央 (Center)」をオンにします。
 3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - ビジュアル (Visual)
 - リズム (Rhythmic)
-

結果

- 「**ビジュアル (Visual)**」は、連符の数や比率を示す数字の位置を、連符の連桁または連符の角括弧の視覚的な中央位置にします。
- 「**リズム (Rhythmic)**」は、連符の数や比率を示す数字の位置を、連符の連桁または連符の角括弧のリズムの中央位置にします (視覚的には中央にならない場合があります)。

ヒント

- プロパティをオフにすると、連符はプロジェクト全体の設定に戻ります。
- すべての連符の数や比率を示す数字の水平位置をプロジェクト全体で変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**連符 (Tuplets)**」ページにある「**数字と比率 (Number and Ratio)**」セクションで設定を行ないます。

関連リンク

[連符の角括弧 \(1281 ページ\)](#)

[連符の角括弧の角度を個別に変更する \(1284 ページ\)](#)

連符の数字や比率に使用するフォントの変更

初期設定では、連符の数字や比率はフィンガリングの外観に似た太字で斜体のアラビア数字フォントで描かれます。連符の数字や比率に使用されるフォントをプロジェクト全体で変更できます。これは、音価の指示の外観にも影響します。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]** を押して「**浄書オプション (Engraving Options)**」を開きます。
2. ページリストの「**連符 (Tuplets)**」をクリックします。
3. 「**数字と比率 (Number and Ratio)**」セクションの「**連符の数字のスタイル (Tuplet digit style)**」で、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **ボールド (Bold weight)**
 - **レギュラー (Regular weight)**
 - **プレーンフォント (Plain font)**
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

プロジェクト全体の連符の数字や比率に使用されるフォントが変更されます。

- 「**ボールド (Bold weight)**」と「**レギュラー (Regular weight)**」はともに、SMuFL に準拠する必要がある「**連符用フォント (Tuplet Font)**」スタイルに基づきます。
- 「**プレーンフォント (Plain font)**」は、あらゆるテキストフォントを使用できる「**連符のプレーンフォント (Tuplet Plain Font)**」スタイルを使用します。

ヒント

「**フォントスタイルを編集 (Edit Font Styles)**」ダイアログで、「**連符のプレーンフォント (Tuplet Plain Font)**」スタイルのフォントサイズなどの各設定を編集できます。

関連リンク

[「フォントスタイルを編集 \(Edit Font Styles\)」ダイアログ \(412 ページ\)](#)

無音程打楽器

無音程打楽器とは、特定のピッチにチューニングされていないすべての打楽器を含む表現です。これにはバスドラム、ギロ、マラカス、シンバル、シェイカーなどが含まれます。

Dorico Pro は無音程打楽器に対する包括的なサポートを提供しています。複数のインストゥルメントの楽譜を打楽器キットにまとめ、レイアウトごとに異なる表示を行なうための柔軟なオプションを備えています。また、打楽器キットはドラムセットとしても定義でき、これにより音符のデフォルトの符尾方向が変更されます。

Dorico Pro のさまざまな打楽器キットの表示タイプはレイアウト固有であることから、レイアウトごとに異なる形で打楽器キットを表示できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは打楽器キットを5線譜で表示しながら、打楽器のパートレイアウトでは1線譜を使用するインストゥルメントとして表示できます。

また無音程打楽器の演奏技法固有の符頭をカスタマイズしたり、新規に作成したりもできます。これにより、打楽器キットのそれぞれのインストゥルメントで、演奏技法ごとに異なる符頭を使用して、音符の演奏方法を指示できます。

関連リンク

[打楽器キットとドラムセット \(1290 ページ\)](#)

[打楽器キットの表示タイプ \(1295 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表ラベル \(1169 ページ\)](#)

[打楽器キットをドラムセットとして定義 \(126 ページ\)](#)

[打楽器キットの音符の入力 \(188 ページ\)](#)

[無音程打楽器の演奏技法 \(1297 ページ\)](#)

[符頭に括弧を表示する \(919 ページ\)](#)

打楽器キットと個々の打楽器インストゥルメント

打楽器キットでは、1人のプレーヤーに同時に割り当てられた複数の無音程打楽器をいくつかの方法で表示できます。キットに組み込まれていない複数の打楽器は、初期設定では現在演奏中のインストゥルメントのみ表示する1本の線上に表示されます。

打楽器キットの一般的なものとして、ドラムセットが挙げられます。ドラムセットは、フレームに取り付けられた複数の個別のインストゥルメントによって構成され、記譜は通常、標準の5線譜上に行なわれます。それぞれのインストゥルメントには譜表上の固有の位置や、場合によっては固有の符頭タイプが割り振られます。同様に、Dorico Pro ではボンゴのペアもデフォルトの打楽器キットです。これは2つのボンゴドラムから構成され、通常2線のグリッド上に記譜されます。小さい方が上の線、大きい方が下の線に表示されます。

プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントが1つか2つかない場合は、個々の打楽器を個別に表示する方が適切な場合もあります。ただし、打楽器をキットに組み込むと楽譜表示の柔軟性が向上し、レイアウトごとに個別に変化させられます。また、キットではインストゥルメントのラベルもより強力に制御できます。

Dorico Pro では、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「プレーヤー (Players)」のページでインストゥルメントの変更がオンになっている場合、有音程楽器と同様にインストゥルメントからインストゥルメントへの切り替えを行なえます。

補足

設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルにあるプレーヤーカードのキットインストゥルメントは緑色で表示されますが、打楽器キットに属さない個々の打楽器インストゥルメントは、他のインストゥルメントと同様水色で表示されます。

打楽器キットとドラムセット

打楽器キットとは、1人のプレーヤーによって演奏される無音程打楽器の集まりです。ドラムセットは、ポップスやロック音楽で使用されることの多い、特殊なタイプの打楽器キットです。

補足

本書では、打楽器キットという用語は打楽器キットとドラムセットの両方を意味します。

Dorico Pro では打楽器キットを5線譜やグリッドなど異なる方法で表示できます。打楽器キットをドラムセットとして動作させる必要がある場合、それらをドラムセットとして定義できます。ドラムセットにのみ適用される、声部に関する記譜オプションもあります。

打楽器キットは設定モードで作成できます。既存の無音程打楽器をキットに組み込んだり、空のキットをプレーヤーに追加してから無音程打楽器をそれに追加したりできます。また、あらかじめ書き出して保存したキットの読み込みも行なえます。

打楽器は、そのインストゥルメントにすでに追加された楽譜の内容に一切影響しない形でプレーヤー間を移動できます。

補足

移動させるインストゥルメントが打楽器キットに組み込まれている場合は、他のプレーヤーに移動させる前にまずインストゥルメントをキットから取り除く必要があります。

個々の打楽器インストゥルメントは、他のインストゥルメントと同様に変更できます。しかし、無音程打楽器は無音程打楽器以外には変更できず、またキットに属する打楽器インストゥルメントは、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」のダイアログ内でしか変更できません。

関連リンク

- [打楽器キットの音符入力の設定 \(189 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1295 ページ\)](#)
- [打楽器キットの譜表ラベル \(1169 ページ\)](#)
- [「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(122 ページ\)](#)
- [キットへの個別の打楽器インストゥルメントの結合 \(120 ページ\)](#)
- [打楽器キットをドラムセットとして定義 \(126 ページ\)](#)
- [打楽器キットへのインストゥルメントの追加 \(125 ページ\)](#)
- [打楽器キットから個別のインストゥルメントを削除 \(129 ページ\)](#)
- [インストゥルメントの移動 \(121 ページ\)](#)
- [打楽器キットの音符の入力 \(188 ページ\)](#)

打楽器キットの書き出し

打楽器キットをライブラリーファイルとして書き出せます。これにより、キットを1から作り直す必要なく再利用できます。

手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、打楽器キットの書き出しを行なうプレーヤーのカードを展開します。

2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログ下部の「**キットを書き出す (Export Kit)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
4. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、ライブラリーファイルの名前と保存場所を指定します。
5. 「**保存 (Save)**」を選択します。

結果

キットが書き出され、ライブラリーファイルとして保存されます。

ヒント

あとからライブラリーファイルを他のプロジェクトに読み込むと、打楽器キットを再利用できます。


打楽器キットの読み込み

打楽器キットを収めるライブラリーファイルを読み込むことで、キットを1から作り直す必要なく再利用できます。

前提条件

設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルにソロプレーヤーを新規に追加しておきます。

手順

1. 設定モードで以下のいずれかの操作を行なって、空のソロプレーヤーでインストゥルメント選択ダイアログを開きます。
 - 空のプレーヤーを選択して **[Shift]+[I]** を押します。
 - 空のプレーヤーのカードでプラス記号をクリックします。

 - 空のプレーヤーを右クリックして、コンテキストメニューから「**インストゥルメントをプレーヤーに追加 (Add Instrument to Player)**」を選択します。
2. インストゥルメント選択ダイアログの「**キットを読み込む (Import Kit)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
3. エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) で、インポートする打楽器キットのライブラリーファイルを探して選択します。
4. 「**開く (Open)**」をクリックします。

結果

選択したライブラリーファイルが打楽器キットとして読み込まれます。これはインストゥルメント選択ダイアログを開いたカードのプレーヤーに割り当てられます。

浄書オプションで無音程打楽器の設定をプロジェクト全体に適用する

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページで、打楽器のレジェンドおよびゴーストノートの外観と位置を設定しプロジェクト全体に適用できます。

オプションと一緒に表示される図は、オプションを楽譜に適用したときにどのように表示されるかを示します。

関連リンク

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

無音程打楽器のフローごとの記譜オプション

打楽器キットの音符の記譜に関するフローごとに個別の設定は、「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページで変更できます。

たとえば、打楽器キットのすべての音符を複声部ではなく単一の声部で記譜することを選択できます。

関連リンク

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

打楽器キットの譜表で音符の演奏技法を変更する

打楽器キットの譜表上で、さまざまな演奏技法を表示するために演奏技法固有の符頭を使用する音符は、利用できる中から演奏技法固有の符頭を切り替えることで、入力後でも演奏技法を変更できます。

補足

これらの手順は、演奏技法固有の符頭の変更にのみ適用されます。

前提条件

演奏技法を変更する打楽器キットのインストゥルメントに、「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」のダイアログで演奏技法固有の符頭を2つ以上設定しておきます。

手順

1. 記譜モードで、演奏技法固有の符頭を変更する音符を選択します。

補足

音符を1つ選択すると、使用中の演奏技法がリズムグリッドの上に表示されます。これは複数の音符を選択した場合は表示されません。

2. 以下のいずれかの操作を行なって、選択したインストゥルメントの演奏技法を利用できる中から切り替えます。
 - **[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]** を押して上方向に移動します。
 - **[Shift]+[Alt/Opt]+[↓]** を押して下方向に移動します。
-

結果

選択した音符の演奏技法が変更されます。符頭のデザインや位置も変更される場合があります。

関連リンク

[「打楽器の演奏技法 \(Percussion Instrument Playing Techniques\)」ダイアログ \(1297 ページ\)](#)

[打楽器キットの音符の入力 \(188 ページ\)](#)

[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(599 ページ\)](#)

[演奏技法 \(1021 ページ\)](#)

[符頭に括弧を表示する \(919 ページ\)](#)

打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動する

音符の入力後に、同じ打楽器キットの別のインストゥルメントに音符を移動できます。ただし、1線譜を使用するインストゥルメントキットの表示タイプのレイアウトでは移動できません。

1線譜を使用するインストゥルメントキットの表示タイプのレイアウトでは、音符を他の譜表に伸ばして、譜表をまたぐ連符を作成できます。

手順

1. 記譜モードで、打楽器キットの別のインストゥルメントに移動する音符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、別のインストゥルメントに音符を移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↑]** を押して1つ上のインストゥルメントへ移動します。
 - **[Alt/Opt]+[↓]** を押して1つ下のインストゥルメントへ移動します。

結果

音符がキット内の別のインストゥルメントに移動します。

手順終了後の項目

キット内の各インストゥルメントの位置を変更できます。

関連リンク

- [「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」 ダイアログ \(122 ページ\)](#)
- [打楽器キット内のインストゥルメントの位置の変更 \(128 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプ \(1295 ページ\)](#)
- [打楽器キットの表示タイプの変更 \(1296 ページ\)](#)
- [譜表をまたぐ連符の作成 \(683 ページ\)](#)

打楽器キットの音符の記譜記号

打楽器キットでは、通常の音符と同様に音符に記譜記号を追加してさまざまなリズムを使用できますが、その作用は異なる場合があります。

アーティキュレーション

打楽器インストゥルメントでは、キットの表示タイプにかかわらず、他のインストゥルメントと同じ方法でアーティキュレーションを追加できます。

ただし、グリッドおよび5線譜の表示では、追加したアーティキュレーションはいずれも、同じ声部の同じ位置にあるすべてのインストゥルメントに適用されます。たとえば、スネアドラムとトムトムの音符がリズム上の同じ位置にあるとして、これにアクセントを追加した場合、これらは初期設定ではいずれも下向きの符尾の声部で表示されるため、アクセントは両方のインストゥルメントに追加されます。

1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプに切り替えると、音符それぞれに適用されるアクセントが確認できます。

連符

グリッドおよび5線譜のキット表示タイプに記譜する場合、連符は同じ声部のすべてのインストゥルメントに追加されます。

インストゥルメントごとに個別にクロスリズムを入力する場合は、1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプに切り替えます。グリッドまたは5線譜のキット表示タイプに戻すと、Dorico Pro はリズム上の矛盾を解消しようとします。

- 競合する連符: 連符のうち1つがデュレーションの競合を解消するために追加の声部に移動されます。

- あるインストゥルメントの連符の音符と、もう1つのインストゥルメントの連符ではない音符が、リズム上の同じ位置で開始する場合: 連符ではない音符が連符の一部であるかのように表示されます。これは、この音符の開始位置の位置が連符の開始位置と一致するため、元の記譜内容と発音は同じになるからです。
- あるインストゥルメントの連符の音符ともう1つのインストゥルメントの連符ではない音符がリズム上の同じ位置で開始しない場合、または他の連符ではない音符が連符の途中で開始する場合: 連符ではない音符がデュレーションの競合を解消するために追加の声部に移動されます。

補足

グリッドおよび5線譜のキット表示タイプにおいて連符を削除すると、音符が同じ声部に属するすべてのインストゥルメントから連符が削除されます。

演奏技法

たとえばクローズのハイハットに +、オープンハイハットに o などのように、演奏技法を入力できます。これは他のインストゥルメントと同様、音符の入力中に行なうことも、既存の音符にあとから追加することもできます。入力には記譜モードで演奏技法のポップオーバーを使用するか、演奏技法パネル内の演奏技法をクリックします。

演奏技法は、そこに同じ声部の他のインストゥルメントがある場合でも、選択した音符が属するインストゥルメントのみに追加されます。

打楽器のスティッキング

Dorico Pro には現在、打楽器のスティッキングに関する専用の機能は実装されていません。ただし、キットのすべての表示タイプにおいて、打楽器のスティッキングを表現するために歌詞機能を使用できます。

- グリッド/5線譜の表示タイプ: スティックングを表示するインストゥルメントの音符を選択します。
- 1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプ: スティックングを表示するインストゥルメントに直接歌詞を入力します。

関連リンク

[アーティキュレーションの入力 \(214 ページ\)](#)

[連符の入力 \(199 ページ\)](#)

[個々の音符のピッチの変更 \(203 ページ\)](#)

[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

[歌詞の入力 \(296 ページ\)](#)

打楽器キットにおける強弱記号

強弱記号は他のアイテムとは異なり、グリッドや5線譜の表示タイプと1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプとの間では共有されません。1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプにおいて追加された強弱記号は、グリッドや5線譜の表示に切り替えると表示されなくなります。

1線譜を使用するインストゥルメントの表示においては、大量の異なる強弱記号がリズム上の同じ位置にあることが許容されますが、グリッドおよび5線譜の表示では1か所に集約する必要があり、これが困難であるためです。そのため、グリッドおよび5線譜の表示タイプにおいては、1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプとは別個に強弱記号を追加できます。

関連リンク

[強弱記号の入力方法 \(244 ページ\)](#)

打楽器キットの表示タイプ

打楽器キットは3つの異なる表示タイプで表示でき、プロジェクトのレイアウトごとに個別に設定できます。

補足

グリッドや5線譜の表示タイプと1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプとの間では、強弱記号は共有されません。1線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプにおいて追加された強弱記号は、グリッドや5線譜の表示に切り替えると表示されなくなります。

各表示タイプの外観/構造は「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」のダイアログで個別に編集できます。たとえば、5線譜表示でインストゥルメントの並び順を変更しても、これは同じ打楽器キットのグリッド表示のインストゥルメントの並び順に影響しません。

5線譜

キットのインストゥルメントは5線譜上に表示されます。譜表のそれぞれの線および間ほどのインストゥルメントが表示されるか指定できます。キットの名前を示す1つの譜表ラベルが表示されます。

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」のダイアログの編集エリアの左側に並ぶ数字は、譜表位置に対応します。たとえば0の位置は5線譜の第3線、1の位置は第3間、-2の位置は第2線といった具合です。

太くて黒い線は5本の譜表線を示し、その上下の灰色の線は加線の位置を示します。各インストゥルメントはそれぞれの譜表位置に表示されます。



5線譜による表示

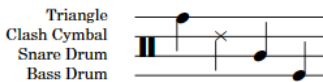
グリッド

キットのインストゥルメントはグリッド上に表示され、それぞれのインストゥルメントに1本ずつの線が与えられます。各線間の間隔の大きさはカスタマイズできます。各インストゥルメントの譜表ラベルは、通常の譜表ラベルより小さなフォントで表示されます。

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」のダイアログの編集エリアの右側に並ぶ数字は、各楽器の線を隔てる譜表スペースの数に対応します。初期設定では、グリッドのすべてのインストゥルメントは2スペース離れています。

リスト上にインストゥルメントが並ぶ順番は、それらがスコア上に表示される順番に一致します。

初期設定では、グリッド内の各インストゥルメントにはそれぞれの譜表ラベルが付き、それぞれの線に垂直方向で揃えられますが、隣り合うインストゥルメント同士をグループ化すると、グループごとに1つのラベルを表示させられます。

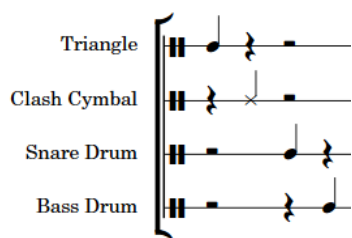


グリッドによる表示

1線譜を使用するインストゥルメント

キットのインストゥルメントは、それぞれの線上で個別のインストゥルメントとして表示されます。各インストゥルメントには標準サイズの譜表ラベルが表示されます。

「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログの編集領域にはすべてのインストゥルメントが、スコアに表示される順番でリスト表示されます。



1 線譜を使用するインストゥルメントの表示

同じプレーヤーに割り振られた複数のインストゥルメント間の垂直方向のスペーシングは、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)」のページで定義された最適間隔に従います。

関連リンク

[打楽器キットとドラムセット \(1290 ページ\)](#)

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」 ダイアログ \(122 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表ラベル \(1169 ページ\)](#)

[演奏技法固有の符頭の外観の上書き \(1301 ページ\)](#)

[「打楽器の符頭の上書き \(Override Percussion Noteheads\)」 ダイアログ \(1299 ページ\)](#)

打楽器キットの表示タイプの変更

打楽器キットの表示タイプは、レイアウトごと、またそれぞれ別個に変更できます。たとえば、フルスコアレイアウトでは5線譜を使用しつつ打楽器のパートレイアウトではグリッドを使用したり、フルスコアレイアウトの中で同時に異なる表示タイプの打楽器キット2つを使用したりできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. 「レイアウト (Layouts)」リストから、打楽器キットの表示タイプを変更するレイアウトを選択します。
初期設定では、楽譜領域で選択されているものと同じレイアウトが選択された状態のダイアログが表示されます。アクションバーの選択オプションを使用し、**[Shift]** を押しながら隣接するレイアウトをクリックして、**[Ctrl]/[command]** を押しながら個々のレイアウトをクリックすると、他のレイアウトを選択できます。
3. ページリストの「プレーヤー (Players)」をクリックします。
4. 「打楽器 (Percussion)」セクションで、プロジェクト内の打楽器キットごとに以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 5 線譜 (5-line Staff)
 - グリッド (Grid)
 - 1 線譜を使用するインストゥルメント (Single-line Instruments)
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したレイアウト内で選択した打楽器キットの表示タイプが変更されます。

関連リンク

[打楽器キットの表示タイプ \(1295 ページ\)](#)

無音程打楽器の演奏技法

無音程打楽器と打楽器キットにおいては、打楽器キットの音符に通常の演奏技法を使用することに加えて、符頭のデザインおよび位置を使用して異なる演奏技法を表現できます。

無音程打楽器の演奏技法は、以下のいずれかの方法で表示できます。

- 演奏技法固有の符頭を使用する
- 音符が通常記譜される線の上に隣接する間に音符を配置する
- アーティキュレーションまたは単音トレモロを追加する
- 有音程楽器と同じ方法で演奏技法を追加する

たとえば、ハイハットにオープンまたはクローズの演奏技法を追加するには、演奏技法ポップオーバーを使用するか、演奏技法パネルで追加する演奏技法をクリックします。

各打楽器インストゥルメントに定義された演奏技法固有の符頭のセットは、「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログで編集できます。

関連リンク

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(122 ページ\)](#)

[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(599 ページ\)](#)

[打楽器キットの書き出し \(1290 ページ\)](#)

[打楽器キットの読み込み \(1291 ページ\)](#)

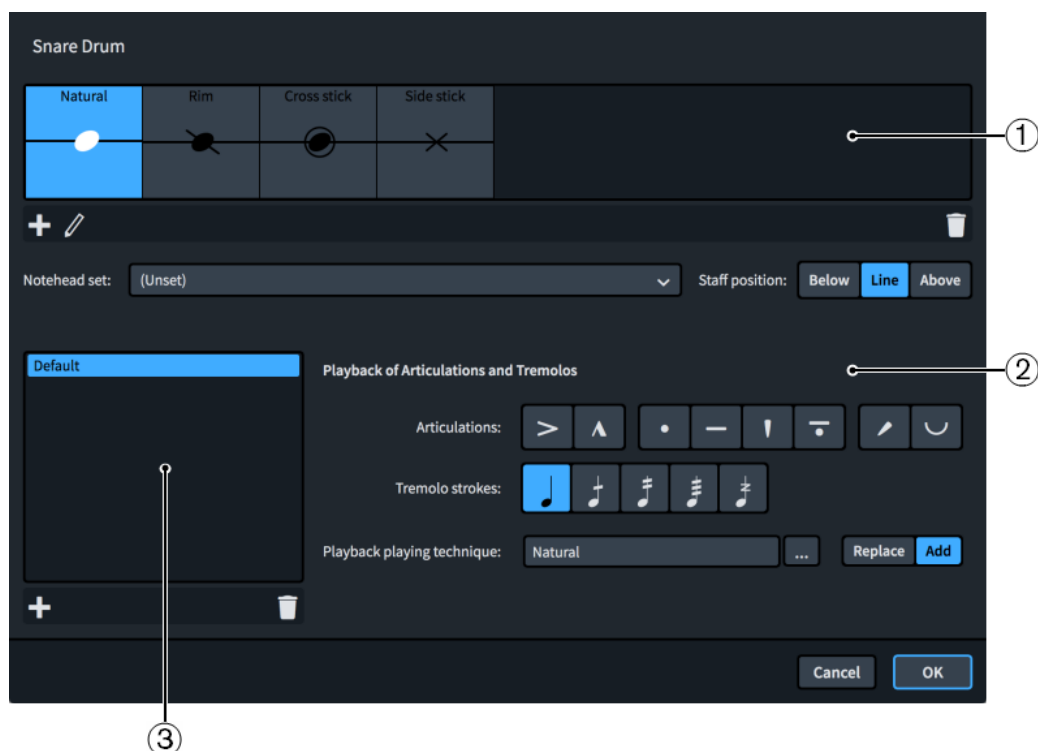
[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)

「打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)」ダイアログ

「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログでは、打楽器ごとに定義された演奏技法固有の符頭セットを編集できます。

以下のいずれかの操作を行なって、設定モードで「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログを開きます。

- 個別の打楽器インストゥルメントの場合、「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーのカードを展開し、インストゥルメントラベルの矢印をクリックして、メニューから「**打楽器演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」を選択します。
- 打楽器キットに属する打楽器インストゥルメントの場合、「**プレーヤー (Players)**」パネルでキットのインストゥルメントラベルの矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開き、メイン編集領域で演奏技法を編集するインストゥルメントを選択して、「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックします。



「打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)」ダイアログ

1 演奏技法固有の符頭のリスト

選択した打楽器インストゥルメントに現在定義されている主要な演奏技法固有の符頭を表示し、それぞれの演奏技法に対応する符頭セットと譜表位置を示します。

無音程打楽器には、新規に演奏技法固有の符頭を追加できます。通常、打楽器インストゥルメントには少なくとも「ナチュラル (Natural)」の演奏技法が定義され、これは通常デフォルトの符頭セットを使用して表示されます。

2 アーティキュレーションとトレモロが付いた場合の再生 (Playback of Articulations and Tremolos)

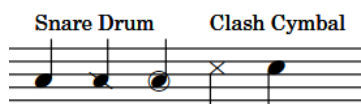
アーティキュレーションとトレモロストロークの組み合わせが、演奏技法の再生にどう影響または上書きするか定義できます。

たとえば、演奏技法固有の符頭にアクセントを追加した場合、まったく別の演奏技法を再生するように定義できます。

3 アーティキュレーションおよびトレモロの上書きのリスト

定義されたアーティキュレーションおよびトレモロの上書きがあればここに表示されます。

例



スネアドラムの演奏技法固有の符頭3種類と、クラッシュシンバルの演奏技法固有の符頭2種類

これらすべての設定はプロジェクト内の打楽器インストゥルメントに保存され、書き出しおよび他プロジェクトへの読み込みが行なえます。

補足

アーティキュレーションとトレモロによる 上書きは現在再生に反映されませんが、将来のバージョンにおいて予定されています。

関連リンク

[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(599 ページ\)](#)

[打楽器キットの書き出し \(1290 ページ\)](#)

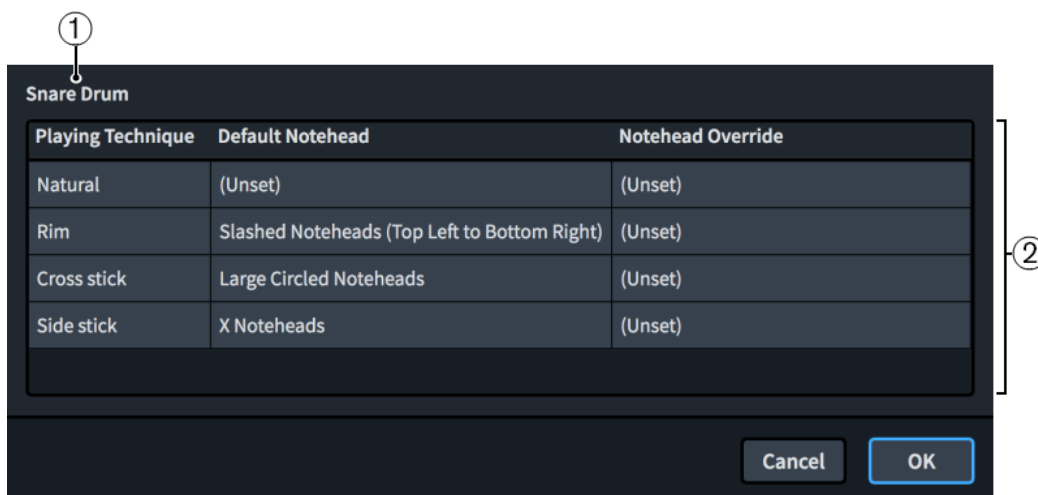
[打楽器キットの読み込み \(1291 ページ\)](#)

「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログ

「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログは、選択したインストゥルメントに対し「打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)」ダイアログで定義された演奏技法固有の符頭をリスト表示し、それぞれの演奏技法にマッピングされた符頭タイプを表示します。ここで、5 線譜キット表示においてのみ符頭を上書きできます。

たとえば異なるインストゥルメントにおいては、同じ符頭が異なる演奏技法を示す場合もあります。これらのインストゥルメントを同じ 5 線譜上に表示すると、混乱をきたす場合があります。そこで 5 線譜キット表示においてのみ、「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログを使用して、インストゥルメント間で音符の区別を付けられるようにできます。

- 「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログを開くには、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログでインストゥルメントを選択して、「符頭を編集 (Edit Noteheads)」をクリックします。



スネアドラムの「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログ

「打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)」ダイアログは以下で構成されます。

1 インストゥルメント名

ダイアログに符頭をリスト表示させている打楽器の名前を表示します。

2 演奏技法の表

選択した打楽器の符頭について、以下の項目別に表示します。

- 演奏技法 (Playing Technique):** 表の対応する行の符頭に関連付けられた演奏技法を表示します。
- デフォルトの符頭 (Default Notehead):** 表の対応する行の演奏技法がデフォルトで使用する符頭を表示します。
- 符頭の上書き (Notehead Override):** 表の対応する行の演奏技法が 5 線譜表示で使用する上書きの符頭を表示します。上書きの符頭は、クリックしてメニューから他の符頭を選択することで変更できます。

関連リンク
[打楽器キットの表示タイプ \(1295 ページ\)](#)

無音程打楽器の演奏技法固有の符頭の作成

無音程打楽器インストゥルメントについて新規の演奏技法固有の符頭を個別に定義し、保存してプロジェクト内の同種の打楽器インストゥルメントで使用できます。また演奏技法固有の符頭はプロジェクトから書き出し、他のプロジェクトに読み込めます。

手順

1. 設定モードで、以下のいずれかの操作を行なって「**打楽器の演奏技法 (Percussion Instrument Playing Techniques)**」ダイアログを開きます。
 - 個別の打楽器インストゥルメントの場合、「**プレーヤー (Players)**」パネルでプレーヤーのカードを展開し、インストゥルメントラベルの矢印をクリックして、メニューから「**打楽器演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」を選択します。
 - 打楽器キットに属する打楽器インストゥルメントの場合、「**プレーヤー (Players)**」パネルでキットのインストゥルメントラベルの矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開き、メイン編集領域で演奏技法を編集するインストゥルメントを選択して、「**打楽器の演奏技法を編集 (Edit Percussion Playing Techniques)**」をクリックします。
2. 「**演奏技法を追加 (Add Playing Technique)**」をクリックします。



3. 開いたダイアログで、作成する演奏技法を選択します。
4. 「**OK**」を押して、演奏技法固有の符頭のリストに選択した演奏技法を追加します。
5. 演奏技法に使用する符頭を「**符頭セット (Notehead set)**」メニューから選択します。

補足

「**符頭セット (Notehead set)**」を「**(未設定) ((Unset))**」のままにすると、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページで定義されたデフォルトの符頭セットが使用されます。

-
6. 「**譜表からの位置 (Staff position)**」で以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **下 (Below)**
 - **ライン (Line)**
 - **上 (Above)**

結果

選択した無音程打楽器インストゥルメントに演奏技法固有の符頭が新規に追加されます。

関連リンク
[演奏技法、ペダル線、弦の指示記号、ハーブペダルダイアグラムの入力方法 \(279 ページ\)](#)
[アーティキュレーションと単音のトレモロの組み合わせのサウンドの再生を定義する \(599 ページ\)](#)

演奏技法固有の符頭の外観の上書き

5 線譜キット表示において、あるインストゥルメントと他のインストゥルメントが同じ譜表位置を共有する場合、それらを明確に区別できるように、演奏技法固有の符頭の外観の上書きが必要な場合があります。

手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、演奏技法固有の符頭を上書きするキットを割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
3. ダイアログのメイン編集領域で、符頭を上書きするインストゥルメントを選択します。
4. 「**符頭を編集 (Edit Noteheads)**」をクリックして、「**打楽器の符頭の上書き (Override Percussion Noteheads)**」ダイアログを開きます。
5. 「**符頭の上書き (Notehead Override)**」の列で対象となる演奏技法をクリックし、メニューから新規の符頭タイプを選択して符頭を上書きします。
6. 「**OK**」をクリックして変更内容を保存し、ダイアログを閉じます。

結果

5 線譜キット表示において、選択したインストゥルメントの演奏技法固有の符頭が上書きされます。

補足

これはグリッドおよび 1 線譜を使用するインストゥルメントのキット表示タイプにおける演奏技法固有の符頭の外観には影響しません。

関連リンク

[「打楽器の符頭の上書き \(Override Percussion Noteheads\)」ダイアログ \(1299 ページ\)](#)

打楽器のレジェンド

打楽器のレジェンドは、5 線譜の表示タイプを使用するとき、譜表内で使用する打楽器のリストを表示するものです。打楽器のレジェンドは、譜表に現れるすべてのインストゥルメントを含めることも、設定範囲内で演奏されるインストゥルメントのみ表示して、特定の位置で演奏するインストゥルメントをプレーヤーに提示することもできます。

打楽器のレジェンドのデフォルト位置は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページにある「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」セクションで変更できます。

初期設定では、打楽器のレジェンドは譜表の上に表示されます。打楽器のレジェンドの位置および外観は、プロパティパネルの「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」グループのプロパティで個別に変更できます。

打楽器レジェンドのフォントサイズやスタイルなど、パラグラフスタイルに関するさまざまな設定は、「**パラグラフスタイル (Paragraph Styles)**」ダイアログで変更できます。

打楽器のレジェンドは、その位置で演奏されるインストゥルメントがないか、グリッドの表示タイプを使用するレイアウトである場合は、ガイドとして表示されます。1 線譜を使用するインストゥルメントの表示タイプを使用するレイアウトにおいては、打楽器のレジェンドは一切表示されません。

ヒント

打楽器のレジェンドのガイドの表示/非表示は、「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」 > 「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」を選択して切り替えられます。メニューの「**打楽器のレジェン**

ド (Percussion Legends)」の横にチェックマークがあるときはガイドが表示され、チェックマークがないときは非表示となります。

関連リンク

[「パラグラフスタイル \(Paragraph Styles\)」ダイアログ \(415 ページ\)](#)

[浄書オプションで無音程打楽器の設定をプロジェクト全体に適用する \(1291 ページ\)](#)

[無音程打楽器のフローごとの記譜オプション \(1292 ページ\)](#)

[打楽器キットの譜表ラベル \(1169 ページ\)](#)

5 線譜キット表示への打楽器のレジェンドの追加

特定の位置に打楽器のレジェンドを追加して、キットに含まれるインストゥルメントを表示できます。打楽器のレジェンドはキット内のすべてのインストゥルメントを表示することも、特定の範囲内で演奏されているインストゥルメントのみ表示することもできます。

補足

打楽器のレジェンドは、打楽器キットが5線譜の表示タイプを使用するときのみ表示されます。

手順

1. 記譜モードで、以下のいずれかを選択します。
 - すべてのインストゥルメントの打楽器のレジェンドを追加する譜表上の位置にあるアイテム
 - 演奏されているインストゥルメントの打楽器のレジェンドを表示する範囲の音符またはアイテム
2. 以下のいずれかの操作を行なって打楽器レジェンドを追加します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「すべてのインストゥルメントのレジェンド (Legend for All Instruments)」を選択します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「演奏されているインストゥルメントのレジェンド (Legend for Sounding Instruments)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

キットに打楽器のレジェンドが追加されます。これは、キットが5線譜の表示タイプを使用するレイアウトの譜表の上に表示されます。これはすべてのインストゥルメントか、選択範囲内の音符で使用されるインストゥルメントのみのいずれかによるリストを、5線譜に表示される順番で上から下まで表示します。

演奏されている打楽器インストゥルメントのレジェンドの範囲の変更

演奏されている打楽器インストゥルメントのレジェンドは、その範囲に含まれる位置で演奏されるインストゥルメントのみ表示するため、範囲を変更してレジェンドに含まれるインストゥルメントの数を変更できます。

手順

1. 記譜モードで、範囲を変更する演奏されているインストゥルメントによる打楽器のレジェンドを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行なって、現在のリズムグリッドの間隔に従って範囲を変更します。
 - 範囲全体を右に進めるには、**[Alt/Opt]+[→]** を押します。

- 範囲全体を左に進めるには、**[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 範囲を延長するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。
- 範囲を縮小するには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。

補足

キーボードショートカットを使用すると、終端のみを動して長さを調節できます。

- 開始位置または終了位置の丸いハンドルをクリックして、任意の位置にドラッグします。
-

結果

選択した演奏されているインストゥルメントによる打楽器のレジェンドの範囲が、現在のリズムグリッドの間隔に従い変更されます。

打楽器のレジェンドに含まれるインストゥルメントは、範囲内で演奏されるインストゥルメントを反映する形で自動的に更新されます。

打楽器のレジェンドのタイプの変更

5 線譜表示では、打楽器のレジェンドのタイプを変更して、すべてのインストゥルメントを表示するか、演奏中のインストゥルメントだけ表示するか選択できます。

手順

1. タイプを変更する打楽器のレジェンドを個別に選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. プロパティパネルの「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」グループで、「**レジェンドタイプ (Legend type)**」をオンにします。

補足

演奏されているインストゥルメントによる打楽器のレジェンドでは、このプロパティはすでにオンになっています。

3. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **レジェンド (Legend)**
 - **演奏中のインストゥルメント (Sounding Instruments)**
-

結果

選択したレジェンドのタイプが変更されます。

打楽器のレジェンドにインストゥルメントの略称を表示する

打楽器のレジェンドは初期設定ではインストゥルメントの正式名称を使用しますが、スペース節約のために略称も使用できます。

手順

1. インストゥルメント名の長さを変更する打楽器のレジェンドを選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
 2. プロパティパネルの「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」グループで、「**略称を使用 (Use short names)**」をオンにします。
-

結果

選択した打楽器のレジェンドにインストゥルメントの略称が表示されます。

「**略称を使用 (Use short names)**」をオフにすると、選択した打楽器レジェンドがインストゥルメントの名前全体を表示するよう戻ります。

関連リンク
[打楽器キットの譜表ラベル \(1169 ページ\)](#)

打楽器のレジェンドのテキストの編集

初期設定では、打楽器のレジェンドには5線譜表示で使用する打楽器のインストゥルメント名が縦に並べて表示されます。打楽器のレジェンドに表示されるテキストを変更して、カスタムテキストを表示できます。

手順

1. 浄書モードで、編集する打楽器のレジェンドを選択します。
2. プロパティパネルの「**打楽器のレジェンド (Percussion Legends)**」グループで、「**カスタムテキスト (Custom text)**」をオンにします。
3. 入力フィールドに任意のテキストを入力します。
4. **[Return]** を押します。

結果

選択した打楽器のレジェンドに表示されるテキストが変更されます。

打楽器キットにおける声部

Dorico Pro は、複数の打楽器が5線譜またはグリッドとして表示される場合、それぞれが異なるリズムを持つ場合でも、楽譜をより少数の声部に自動的にまとめます。初期設定では、楽譜は上向きの声部1つと下向きの声部1つにまとめられます。

または、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」のページでキットがドラムセットと定義されている場合は、打楽器キットのすべての音符を1つの声部として記譜することも選択できます。これはオーケストラの打楽器で稀に使用される慣習です。

またこのオプションは個々の打楽器キットについて、および打楽器キット内の個々の音符について、個別に上書きできます。

同じ声部の音符は異なるデュレーションでは記譜できず、初期設定ではかわりにタイを使用して記譜されます。タイを使用しないようにするには、長い方の音符を切り詰めてそれぞれの音符の開始位置のみ表示することを「**記譜オプション (Notation Options)**」の「**打楽器 (Percussion)**」ページで選択します。

打楽器キットのインストゥルメントのうちいずれかが連符を使用する場合、他のインストゥルメントの音符が同じ連符の構造を持つか、開始位置が連符の開始位置と同じ単音であるなど競合しない場合は、声部を共有できます。この場合連符ではない単音は、連符の1音めと同じデュレーションの音符として記譜されます。

同じ声部に属する異なるインストゥルメントの音符が競合する場合、Dorico Pro は競合がなくなるまで動的に声部を追加し、そこに残りの音符を記譜します。

関連リンク
[打楽器キットの音符の記譜記号 \(1293 ページ\)](#)
[打楽器キットをドラムセットとして定義 \(126 ページ\)](#)
[打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加する \(1314 ページ\)](#)

打楽器キットの個々の音符の声部を変更する

ドラムセットを含めた打楽器キットにおいて、個々の音符のデフォルトの声部を上書きできます。

手順

1. 声部を上書きする音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > [声部] を選択します。
たとえば、音符を符尾が下向きの 2 番めの声部に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > 「符尾が下向きの声部 2 (Down-stem Voice 2)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

インストゥルメントのデフォルトの声部およびドラムセットの声部の設定より優先される形で、選択した音符の声部が変更されます。



ヒント

個別の音符の声部をリセットするには、元に戻す音符を選択し、「編集 (Edit)」 > 「打楽器 (Percussion)」 > 「声部を変更 (Change Voice)」 > 「音符の記譜先の声部のリセット (Reset Note Destination Voice)」をクリックします。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

打楽器キット内のインストゥルメントの符尾の方向/声部を指定する

個々の打楽器キット内の各インストゥルメントの符尾の方向を指定できます。またそれぞれがどの声部に属するか設定でき、打楽器キット内でどのインストゥルメントが声部を共有するか制御できます。

手順

1. 設定モードの「プレーヤー (Players)」パネルで、符尾方向および声部を指定するインストゥルメントが属するキットを割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」を選択して、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログを開きます。
3. ダイアログ内で、符尾方向および声部を指定するインストゥルメントを選択します。
4. 「符尾の向きと声部 (Stem direction and voice)」に対し、以下のいずれかの符尾の方向を選択します。
 - 上向きの符尾

 - 下向きの符尾

5. 「符尾の向きと声部 (Stem direction and voice)」の値を変更して声部を指定します。

補足

符尾が上向きの声部と符尾が下向きの声部を切り替えるだけの場合、声部番号はそれぞれ両方の符尾方向に対応するため、声部番号を変更する必要はありません。

6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

選択したインストゥルメントのデフォルトの符尾方向および声部が変更されます。

再生モードにおける無音程打楽器

無音程打楽器インストゥルメントは、再生モードでは有音程インストゥルメントと異なる形で扱われます。通常のピアノロールを表示するかわりに、ドラムエディターに各打楽器の各音符の開始位置が表示されます。

トラックヘッダーの左端でキットの各インストゥルメントを展開すると、特定のインストゥルメントを他の再生エンドポイントに割り当てることができます。たとえば、インストゥルメントを同じ VST インストゥルメントや MIDI の出力デバイスの別のチャンネルか、または異なるデバイスに割り当てることができます。

補足

エンドポイントには適切なパーカッションマップが選択されている必要があります。

再生モードでは、音符を任意の位置にドラッグすることで移動できます。ただし、他のインストゥルメントと同様、音符は打楽器間で移動できません。これは同じ打楽器キット内であっても同様です。

補足

再生モードでは、無音程打楽器の音符のデュレーションは変更できません。これは将来のバージョンでサポートされる予定です。

関連リンク

[パーカッションマップ \(593 ページ\)](#)

[ドラムエディター \(512 ページ\)](#)

[イベントディスプレイでの音符の入力 \(513 ページ\)](#)

[イベントディスプレイでの音符の移動 \(514 ページ\)](#)

MIDI ファイルから読み込まれた無音程打楽器

MIDI ファイルを読み込むとき、「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログで「10 チャンネルは General MIDI パーカッションとして読み込み (Interpret channel 10 as General MIDI percussion)」がオンになっている場合、Dorico Pro は 10 チャンネルを使用するよう設定されたトラックの楽譜をドラムセットとして解釈します。

補足

Dorico Pro で MIDI ファイルを開くと、「MIDI インポートオプション (MIDI Import Options)」ダイアログが自動的に開きます。

これは、Dorico Pro が MIDI ファイルに含まれる楽譜を打楽器として解釈する唯一の条件です。

MusicXML ファイルから読み込まれた無音程打楽器

MusicXML では、無音程打楽器の楽譜はさまざまな方法で表現されます。どのデータを書き出すか、およびどのようにエンコードするかについて、楽譜作成アプリケーションによってそれぞれ方法が異なります。そのため、Dorico Pro に MusicXML を読み込んだときの結果にもかなりの差が生じます。

Dorico Pro はキットに含まれる各インストゥルメントを明確に識別し、動的に 5 線譜に組み込みます。他の楽譜作成アプリケーションとその MusicXML は、無音程打楽器の楽譜を異なる方法で表現します。たとえば、ドラムセットは実際にはピッチを持つ音符として 5 線譜上に記譜され、それぞれの譜表位置にどのインストゥルメントが対応するか識別するための注釈情報が追加されます。

このような方法の違いから、MusicXML による表現から Dorico Pro による表現に情報を移し替えることはときに困難であるため、Dorico Pro は読み込み結果の品質向上のためにヒューリスティクスを用います。

通常 Dorico Pro では、Sibelius および Finale から書き出された MusicXML ファイルのドラムセットのインストゥルメントは非常にきれいに読み込まれます。

たとえばスネアドラムは常に符尾が下向きの声部に記譜するなど、ドラムセットの声部の振り分けに一貫性がある場合は特に良い結果が出やすく、正しく読み込まれる見込みが高くなります。声部の振り分けが小節ごとに変わる場合、一部の音符が正しく識別されるか、まったく読み込まれていないかのいずれかである場合があります。

5 線譜に記される他の種類の打楽器は、さらに多様な結果をもたらします。ほとんどの場合、Finale はどの打楽器がどの譜表位置にマッピングされるかの情報を含めますが、Sibelius はこれを行いません。その結果、Dorico Pro が思ったとおりのインストゥルメントを選択しない場合もありますが、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを使用するとインストゥルメントを変更できません。

関連リンク

[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(122 ページ\)](#)

[打楽器キット内のインストゥルメントの変更 \(125 ページ\)](#)

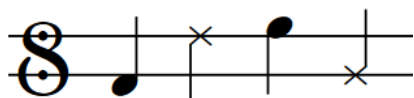
[打楽器キットへのインストゥルメントの追加 \(125 ページ\)](#)

ユニバーサルインド太鼓記譜法

Dorico Pro は、Keda Music Ltd. が開発したユニバーサルインド太鼓記譜法をサポートしています。

ユニバーサルインド太鼓記譜法は主にタブラのために作成されましたが、ナガラ、ドール、ドールク、ムリダンガム、パカワジなど、2つの面を持つその他のインド太鼓にも適用できます。

プレイヤーのインストゥルメントにタブラを追加すると、譜表にインド太鼓記号が自動的に追加されます。



音部記号パネルの「**その他の音部記号 (Uncommon Clefs)**」にある「**インド太鼓記号 (Indian drum clef)**」をクリックすると、インド太鼓記号を入力できます。

関連リンク

[プレイヤーへのインストゥルメントの追加 \(119 ページ\)](#)

[音部記号とオクターブ線の入力方法 \(257 ページ\)](#)

声部

フルートやトロンボーンなど多くのインストゥルメントでは通常、それぞれの譜表には単一の声部による単一の旋律のみが含まれ、音符は譜表に沿って左から右に読まれます。1つの譜表に複数の独立した旋律を表示する場合、各旋律はそれぞれ別個の声部に割り当てることができます。

1つの譜表に複数の声部を表示する一般的な例として、ボーカルの譜面があります。ボーカルの譜面では、ソプラノとアルトの旋律が1つの譜表を共有し、テナーとバスの旋律がもう1つの譜表を共有します。各ボーカル旋律をそれぞれの声部で表示して旋律を区別できるようにすると、譜面が読みやすくなり、それぞれのメロディーラインが明瞭になります。

Dorico Pro では、各譜表にいくつでも声部を作成できます。声部にはそれぞれカラーが割り当てられ、各カラーを表示できます。これにより、複数の旋律が重なり合うようなプロジェクトでも、どの音符がどの声部に属するか常に把握できます。

Dorico Pro では、声部は符尾が上向きの声部と符尾が下向きの声部に分けられます。符尾が上向きの声部に含まれる音符は符尾が上向きになり、符尾が下向きの声部に含まれる音符は符尾が下向きになります。ただし、音符を含む声部が1つしかない小節では、符尾の方向は譜表に声部が1つしかない場合の方向に自動的に変更されます。初期設定では、譜表の最初の声部は符尾が上向きです。

一般的な表記規則に従って、小節内に音符があるすべての声部には、小節内にそれぞれ休符が表示されます。2つ以上の声部が同じ位置に同じデュレーションの休符を持つ場合、この休符は統合され、2つの個別の休符ではなく1つの休符のみが表示されます。

関連リンク

[複数の声部への音符の入力 \(183 ページ\)](#)

[声部カラーを表示/非表示にする \(1309 ページ\)](#)

[声部のフローごとの記譜オプション \(1309 ページ\)](#)

[休符のフローごとの記譜オプション \(1123 ページ\)](#)

[既存の音符の上/下に音符を追加 \(201 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(1213 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(1122 ページ\)](#)

[休符を垂直に移動する \(1130 ページ\)](#)

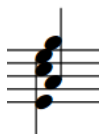
複声部の音符位置

通常、音符はそれぞれ共通の水平位置に上下に連なって配置され、どの音符と一緒に演奏されるか一目で分かるようになっています。しかし、音符の水平位置は複声部では異なる場合があります。

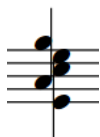
1つの譜表に声部が3つ以上ある場合、声部ごとの音符の区分を明らかにするために一部の音符をわずかに一方にずらして配置し、声部ごとの列を作る必要があります。

異なる声部の音符を組み合わせる方法には、以下の2種類があります。

1. 符頭と符頭 (Notehead to notehead): 符頭の水平位置を部分的に重ね合わせます。この並べ方では、音符を寄せる分、符尾と符尾を合わせた音符の配置よりも水平方向に占めるスペースが少なくなります。



2. 符尾と符尾 (Stem to stem): 符頭は重ね合わせないで、符尾の垂直位置を重ね合わせます。この並べ方では、異なる声部の音符 (符頭) が別々の方向を向きます。



異なる声部の音符の組み合わせ方法を選択してプロジェクト全体に適用するには、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「声部 (Voices)」ページで設定を行ないます。

Dorico Pro の初期設定では「符頭と符頭 (Notehead to notehead)」が選択されています。これにより、リズムを明確にしたまま、水平方向に占めるスペースを最小化できます。

また、異なる声部それぞれの音符の並びと配置も自動的に調整されるため、各音符が水平方向に占めるスペースを最小化しながら音符の明確性と可読性を維持できます。声部が追加されるにつれて声部列が変更される場合があります。これは Dorico Pro がピッチの幅が広い声部を左側に、ピッチの幅が狭い声部を右側に寄せるためです。そうすることでバランスのとれた見た目となり、これは特に臨時記号が複数ある場合に役立ちます。



関連リンク

[複声部におけるスラッシュ \(1111 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(1213 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(1122 ページ\)](#)

声部のフローごとの記譜オプション

フローごとに個別に複声部の音符の配置を制御するオプションは、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「声部 (Voices)」のページにあります。

このページのオプションを選択すると、複声部の状況に応じて音符の位置および並び方を変更し、異なる声部の符頭を重ねる場合を設定できます。

各オプションには、オプションを反映したときの表記例が示されています。

関連リンク

[「記譜オプション」ダイアログ \(164 ページ\)](#)

[休符のフローごとの記譜オプション \(1123 ページ\)](#)

声部カラーを表示/非表示にする

音符を声部に応じて色づけして、どの音符がどの声部に含まれるか確認できます。声部カラーが非表示の場合、初期設定ではすべての音符が黒く表示されます。

声部カラーはランダムに割り当てられるため、カラーは特定の声部を示していません。声部カラーは注釈と見なされ、初期設定では印刷されません。

手順

- 「ビュー (View)」 > 「音符と休符のカラー (Note And Rest Colors)」 > 「声部カラー (Voice Colors)」を選択します。

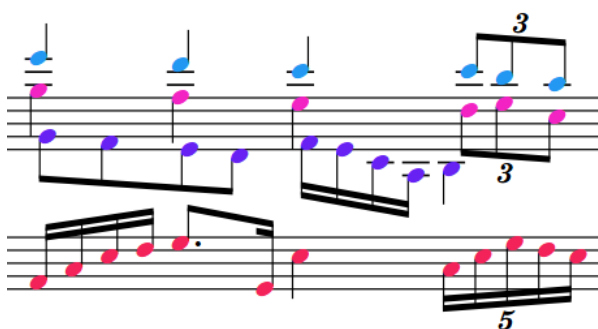
結果

メニュー内の「声部カラー (Voice Colors)」の横にチェックマークがあるときは声部カラーが表示され、チェックマークがないときは非表示になります。

ヒント

個々の音符を選択し、ステータスバーの表示を見て声部を識別することもできます。

例



声部カラー

手順終了後の項目

声部カラーを表示することで、音符が間違った声部に含まれているかどうか確認し、修正できます。

関連リンク

[既存の音符の声部を変更する \(344 ページ\)](#)

[声部の内容の入れ替え \(344 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(1213 ページ\)](#)

[注釈 \(621 ページ\)](#)

[ステータスバー \(51 ページ\)](#)

未使用の声部

未使用の声部とは、プロジェクトのどこにも音符が存在しない声部のことです。使用されていない声部はプロジェクトを閉じるときに自動的にすべて削除されますが、一度作成した声部を手動で削除することはできません。各譜表には任意の数の声部を作成できます。

補足

声部内の音符をすべて削除しても、すぐに声部が削除されるわけではありません。

プロジェクトを終了してから自動的に削除された声部の音符をあとから入力する場合は、どの位置にでも新しい声部を作成できます。

関連リンク

[複数の声部への音符の入力 \(183 ページ\)](#)

声部の順番の入れ替え

Dorico Pro では、自動的に符頭と符頭を重ねることで、水平方向に占めるスペースを最小化しながらリズムの明確性を維持しています。対となる声部同士の水平方向の配置の順番は、手動で入れ替えることができます。

手順

1. 順番を変更する音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「声部の順番を入れ替え (Swap Voice Order)」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した音符の声部の順番が変更されます。

補足

選択した音符を現在のフローのデフォルトの声部の順番に戻す場合は、プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループで「声部列の並び順 (Voice column index)」をオフにすることをおすすめします。このプロパティは浄書モードで使用でき、声部の順番を入れ替えると自動的にオンになります。音符の順番をそのまま再度入れ替えると、予想外の位置に音符が配置される場合があります。

例



符頭と符頭 (声部反転)



符尾と符尾 (声部反転)

関連リンク

[符尾の方向 \(1213 ページ\)](#)

[複声部における暗黙の休符 \(1122 ページ\)](#)

声部列の並び順

声部列の並び順は音符の位置を決定するために複数列必要な場合に使用します。たとえば、音符が複声部にあり、それぞれを垂直位置に配置せずに部分的に重なるように配置する場合などに役立ちます。

手動で声部の順番を変更すると、プロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループにある「声部列の並び順 (Voice column index)」プロパティが自動的にオンになります。

補足

このプロパティは浄書モードのみで使用できます。

このプロパティをオンにすると、個別に選択した音符のインデックス番号、つまり水平方向の並び順を変更できます。このプロパティをオフにすると、選択した音符はデフォルトの位置に戻ります。

ヒント

- 複声部の音符の順番をプロジェクト全体で変更するには、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」の「声部 (Voices)」ページで設定を行ないます。

- また、異なる声部の音符同士の最小間隔を変更するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**音符 (Notes)**」ページにある「**声部 (Voices)**」セクションで設定を行ないます。

音符の表示位置は浄書モードで変更できます。音符は、同じ位置にある他のアイテムとは個別に動かすことも、同じ位置にあるすべてのアイテムと同時に動かすこともできます。

関連リンク

[声部のフローごとの記譜オプション \(1309 ページ\)](#)

[「浄書オプション」ダイアログ \(362 ページ\)](#)

他の声部の音符がすでにある譜表に伸びた音符

既に他の音符がある譜表に音符を伸ばすことで譜表をまたぐ連桁を作成すると、既存の音符の符尾の方向が変わる場合があります。これは Dorico Pro が同じ位置にある複声部を同じように扱うためです。

たとえば、ピアノパートに符尾が上向き声部の音符が2つの譜表に含まれる場合、上側の譜表の音符が下側の譜表の音符まで伸びると、両方の声部の音符の符尾の方向が変更されます。この場合では、2つの譜表の音符は結合されるのではなく、符尾が上向きの複声部の音符として扱われます。



ピアノ譜 (2 段譜) にそれぞれ 1 声部ずつ記譜される



上段の声部が下段の声部と交差しているとき、下段の声部の符尾は上向きに変わる

下段に元からあった音符の符尾の方向を変更するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 下段に元からあった音符を選択して、符尾が下向き声部など、別の声部に変更します。
- 下段に元からあった音符を選択して、符尾の方向を変更します。

または、上段の音符を恒久的に下段に移動させることもできます。

関連リンク

[音符を別の譜表に移動する \(342 ページ\)](#)

[既存の音符の声部を変更する \(344 ページ\)](#)

[譜表をまたぐ連桁の作成 \(683 ページ\)](#)

[音符の符尾の方向を個別に変更する \(1215 ページ\)](#)

[符尾の方向 \(1213 ページ\)](#)

スラッシュ付き声部

スラッシュ符頭の声部では、スラッシュ符頭で特定のリズムを記譜できます。手動で音符とリズムを入力する点において通常の声部と動作は似ていますが、スラッシュ符頭の声部における音符は、入力したピッチにかかわらず、デフォルトではすべて譜表の第3線に配置されます。

あとから拍子記号を、たとえば 3/4 から 6/8 に変更した場合、Dorico Pro では他の音符と同様、拍子に合うようその音符のグループ化が変更されるだけです。スラッシュ符頭の声部においては、スラッシュ領域のようにリズムの表示が変更されることはありません。

補足

- スラッシュ符頭の声部の音符は標準の声部に変更することも、その逆も行なえるため、入力したピッチは保持されます。
- スラッシュ符頭の声部の音符は再生されません。

スラッシュ符頭の声部は同じ位置に複数表示できます。複声部においてすべてのスラッシュ符頭の声部を調整するために、Dorico Pro はそれぞれの譜表上の位置を自動的に変更します。もっとも、スラッシュ符頭の譜表上の位置は手動でも変更できます。

スラッシュ領域およびスラッシュ付き声部は、同じプロジェクトの同じ位置に使用できます。たとえば、リズムを特定したくない場所にスラッシュ領域を入力し、そのあとに正確なリズムを指定したい1小節のスラッシュ付き声部に音符を入力できます。

関連リンク

- [スラッシュ符頭 \(1109 ページ\)](#)
- [スラッシュ領域 \(1109 ページ\)](#)
- [複声部におけるスラッシュ \(1111 ページ\)](#)
- [既存の音符の声部を変更する \(344 ページ\)](#)
- [スラッシュ符頭の譜表上の位置を変更する \(1112 ページ\)](#)
- [複数の声部に音符をコピーアンドペーストする \(340 ページ\)](#)

スラッシュ符頭の声部のタイプを変更する

スラッシュ符頭の声部のタイプは変更できます。たとえば、スラッシュ符頭の声部を符尾ありから符尾なしに変更できます。また、標準の音符にもタイプ変更できます。このときは入力時に指定したピッチが復元されます。同じく標準の音符からスラッシュ符頭への変更も行なえます。

補足

これは同じ声部に属するすべての音符に影響を与えます。一部の音符についてスラッシュ符頭の声部のタイプを変更するだけの場合は、かわりにそれらの音符の声部を変更する必要があります。

手順

1. スラッシュのタイプを変更する声部の音符を選択します。この操作は記譜モードおよび浄書モードで行なえます。
2. 「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)」 > [声部のタイプ] を選択します。
たとえば、標準の声部全体を符尾なしのスラッシュ符頭の声部に変更するには、「編集 (Edit)」 > 「声部 (Voices)」 > 「スラッシュ符頭 (Rhythmic Slashes)」 > 「符尾なしのスラッシュ (Slashes without Stems)」を選択します。

ヒント

このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。

結果

選択した音符と同じフローの同じ声部に属するスラッシュ符頭の声部のタイプが変更されます。

標準の音符をスラッシュ符頭の声部に変更した場合、これはすべて自動的に1本の譜表線上に配置されます。単声部における初期設定では、これは譜表の第3線になります。

スラッシュ符頭を標準の音符に変更した場合、それらの元のピッチが復元され、その譜表上の位置がピッチを反映するようになります。

関連リンク
[既存の音符の声部を変更する \(344 ページ\)](#)



打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加する

打楽器キットにスラッシュ符頭の声部を追加できます。たとえば、演奏するインストゥルメントは指定せずに、パッセージに求められるリズムのみ表示できます。同じキットには複数のスラッシュ符頭の声部を追加できます。これには符尾ありおよび符尾なしいずれのスラッシュ符頭の声部も使用できます。

補足

打楽器キットのスラッシュ符頭は、5 線譜による表示を使用する場合のみ表示されます。グリッドまたは 1 線譜によるインストゥルメントの表示においては、これは表示されません。

手順

1. 設定モードの「**プレーヤー (Players)**」パネルで、スラッシュ符頭の声部を追加する打楽器キットが割り当てられたプレーヤーのカードを展開します。
 2. キットインストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印をクリックし、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」を選択して、「**打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)**」ダイアログを開きます。
 3. 5 線譜エディターの下アクションバーで、追加するスラッシュ符頭の声部のタイプに対応するボタンをクリックします。
 - 符尾ありのスラッシュ (Slashes with stems)

 - 符尾なしのスラッシュ (Slashes without stems)

 4. 必要に応じて、追加するスラッシュ符頭の声部の数に応じて手順 3 を繰り返します。
-

結果

キットにスラッシュ符頭の声部が追加されます。これは初期設定では譜表の第 3 線に配置されます。音符の入力においては、キットの他のインストゥルメントと同様に、キャレットをスラッシュ符頭の声部に移動することも、スラッシュ符頭の声部に音符を入力することもできます。

手順終了後の項目

キットに追加したスラッシュ符頭の声部は、譜表上の位置を変更できます。

関連リンク

[打楽器キットの表示タイプ \(1295 ページ\)](#)
[打楽器キットにおける声部 \(1304 ページ\)](#)
[「打楽器キットを編集 \(Edit Percussion Kit\)」ダイアログ \(122 ページ\)](#)
[打楽器キットの音符の入力 \(188 ページ\)](#)
[打楽器キット内のインストゥルメントの位置の変更 \(128 ページ\)](#)

用語

暗黙の休符

入力した音符の周りに自動的に表示される休符です。休符の記譜されるデュレーションは、拍子記号と小節内の位置に従って自動的に調整されます。暗黙の休符は、特定の声部の音符間に抑制することができます。その場合は非表示になります。[明示的な休符](#)も参照してください。

異名同音

G#とAbのように、異なる音度と臨時記号を使用して表記されながら、演奏されるピッチは同じとなる音符のことです。

移調音

移調音は、実際に鳴るピッチではなく、楽器が演奏するピッチを記譜するものです。プレーヤーが記譜されている音符をそのまま演奏できるように、パート譜は常に移調音で記譜されます。このことは移調楽器では特に重要です。[実音](#)、[インストゥルメントの移調](#)も参照してください。

一定ポイント

再生モードのトラックまたはレーン上の値の変化です。トラックまたはレーン上の次のポイントまで固定の値を設定し続けます。[リニアポイント](#)、[値ライン](#)も参照してください。

印刷プレビュー領域

印刷モードのウィンドウの大部分を占める領域です。印刷する、または画像として書き出す内容のプレビューを確認できます。[印刷モード](#)も参照してください。

印刷モード

プロジェクト内のレイアウトの印刷や書き出しを行なえる Dorico Pro のモードです。[モード](#)も参照してください。

音符入力

譜表に音符を続けて追加する標準的な方法で、キャレットが有効時に使用できます。それぞれの音符が入力されると、キャレットが自動的に次のリズム上の位置に進みます。音符の入力中は、キャレットの位置に他のアイテムを入力することもできます。[キャレット](#)、[和音の入力](#)、[挿入モード](#)も参照してください。

歌詞

1人または複数の歌手によって歌われる（または語られる）ためのテキストです。歌詞は完全な単語としても、または多音節語の一部である個々の音節としても記譜できます。歌詞は、新しい言葉や音節が始まるそれぞれのリズム上の位置に配置されます。通常、歌詞は譜表の下に配置されますが、たとえば短いスコアなどにおいては、譜表の上に配置される場合もあります。

楽譜領域

設定モード、記譜モードおよび浄書モードにおいてウィンドウの中央大部分を占める部分で、ここで楽譜の入力と編集を行ないます。

記譜オプション

楽譜の記譜法、特に音符や休符を拍子に合わせてグループ化する方法、臨時記号の範囲のルール、移調オプションなどに関する設定を行なうオプションです。このオプションは「[記譜オプション \(Notation Options\)](#)」ダイアログで、フローごとに個別に設定できます。

記譜モード

楽譜の入力に加え、アイテムの位置や音符のピッチの変更、音符やアイテムの削除といった編集を行なえる Dorico Pro のモードです。[モード](#)も参照してください。

形式設定

組段あたりの小節数、ページあたりの組段数、および譜表間や組段間の距離を設定します。

弦のシフト指示

弦楽器プレーヤーが指を変えずに前の音符より高い音符または低い音符を演奏するために、指板の上でポジションをシフトさせる際の移動方向を指示する斜めの線です。

再生ヘッド

再生および録音中に楽曲に沿って動いていく垂直の線で、現在のリズム上の位置を表わします。

再生モード

再生時に楽譜をどのように発音するかを変更できる Dorico Pro のモードです。たとえば、再生テンプレートの変更や VST インストゥルメントの割り当て、オートメーションの入力、ミキシングの調節などを行なえるほか、再生時に記譜上のデュレーションに影響を与えずに音を発音するデュレーションを変更することもできます。[モード](#) も参照してください。

実音

すべての音符が聞こえる音のとおり記譜されます。フルスコアは通常実音で記譜され、これにより和声と旋律が判別しやすくなります。[移調音](#)、[インストゥルメントの移調](#) も参照してください。

衝突回避

同じ位置にある複数のアイテムが重なり合わずはっきり読み取れるように、Dorico Pro が行なう自動調整です。これにはスラーのようにアイテムの形状が変化するものと、和音の臨時記号のようにアイテムの垂直位置や水平位置が変化するものがあります。

浄書オプション

記譜記号の外観を設定するオプションです。記号、線の太さ、間隔などを選択できます。これらのオプションはすべてのフローとレイアウトを含むプロジェクト全体に適用され、設定は「[浄書オプション \(Engraving Options\)](#)」ダイアログで行なえます。

浄書モード

アイテムを削除したり、位置を動かしたり、音符のピッチを変更したりすることなく、プロジェクトで使用するすべてのアイテムの操作や変更を行なえる Dorico Pro のモードです。また、印刷時や書き出し時に使用する、プロジェクトの各レイアウトのページの形式を指定することもできます。[モード](#) も参照してください。

親切臨時記号

先の音符に付いた臨時記号を再度表示し、あいまいさを排除するものです。たとえば臨時記号の付いた音符がタイによって次のページに続く場合などに表示されます。

声部

Dorico Pro では、通常同一のインストゥルメントにより演奏されて 1 つの旋律を形作る、連続した音符、和音、休符、その他の記譜記号を指します。演奏されているピッチ音符やアイテムを異なる声部に割り当てることで、同じ譜表を共有する複数の旋律がより明確に見分けられるようになります。たとえばボーカル譜において、ソプラノのラインには符尾が上向きの声部を、アルトのラインには符尾が下向きの声部を使用するなどです。Dorico Pro では、1 つの譜表に使用できる声部の数に制限はありません。また声部の配置および間隔の調整は自動的に行なわれます。

設定モード

インストゥルメントやそのインストゥルメントを割り当てるプレーヤー、フロー、レイアウト、ビデオなど、プロジェクトの基本的な要素を設定できる Dorico Pro のモードです。また、たとえばレイアウトに割り当てられたプレーヤーを変更するなど、それらが互いにどのように作用するかも設定できます。[モード](#) も参照してください。

節

弦の 4 分の 1 など、弦に沿って長さを均等に分割する位置です。節の位置で弦に触れる (ただし完全には押さえない) ことで倍音が発生されます。[倍音](#)、[倍音列](#) も参照してください。

組段オブジェクト

組段のすべての譜表に適用されますが、必ずしもすべての譜表に表示されるわけではないアイテムです。たとえばテンポ記号やリハーサルマークなどがあります。Dorico Pro では、組段オブジェクトを表示するインストゥルメントファミリーを複数選択することにより、組段ごとの複数の位置に組段オブジェクトを表示できます。

組段のスペーシングのハンドル

浄書モードで「**譜表のスペーシング (Staff Spacing)**」が有効なとき、各組段の左上角に表示される四角いハンドルです。組段のスペーシングのハンドルは、組段の一番上の譜表の垂直位置を変更し、それに合わせて組段のすべての譜表も移動します。[譜表のスペーシングのハンドル](#)も参照してください。

組段の形式設定

組段に対する小節の振り分け、およびフレームに対する組段の振り分けです。レイアウト間でパートの形式設定をコピーした場合、Dorico Pro は組段区切りの位置、フレーム区切りの位置、そして音符のスペーシングの変更を組段の形式設定と見なします。

組段区切り

特定の位置 (通常は小節線) で組段を強制的に終了します。Dorico Pro ではガイドで表示されます。

組段密度表示

音符のスペーシング (Note Spacing)が有効なとき、ページの右余白に表示されるハイライトがかかった領域です。組段の密度は色 (緑、紫、赤) とパーセンテージの組み合わせで表示されます。

挿入モード

音符の入力方法を変更するオプションです。挿入モードがオンの場合は、入力する新しい音符が既存の音符を上書きするのではなく、キャレットの後ろにある既存のすべての音符を入力したデュレーションに合わせて後ろに押し下げます。同様に、挿入モードがオンの状態で音符のデュレーションを短くすると、音符間に休符を残さずに音符同士を近づけます。これは、音符の入力だけでなく、音符をコピーアンドペーストする場合や拍子記号を入力する場合にも影響します。

装飾音符

装飾音の表示に使用されることが多い、小さな音符です。これは小節内の拍数に含めては数えられず、前後の音符のデュレーションに食い込む形で発音されます。一般的に、装飾音符の符尾に斜線が引かれているものが短前打音で、後に続く音符やコードの位置かその直前でできるだけ短く演奏されます。装飾音符の符尾に斜線が引かれていないものが長前打音で、後に続く音符やコードを演奏する前に、その音価の半分の長さ (デュレーション) で演奏されます。

多拍子

楽曲に同時に複数の拍子が存在することです。たとえばアンサンブル中のあるインストゥルメントは 6/8 を演奏し、もう 1 つは 7/4 を演奏するなどです。

打ち消しのナチュラル記号

譜表上の調号の変更または単音の直前に配置されるナチュラル記号です。直前の臨時記号がこれ以降に適用しないことを示し、直後に別の臨時記号を入力できます。二重臨時記号のあとに来る単一臨時記号の前に表示される打ち消しのナチュラル記号は、古式の臨時記号打ち消しと呼ばれます。調号の変更の前の打ち消しのナチュラル記号が小節線の後ろに配置される場合は伝統式と呼ばれ、小節線の前に配置される場合はロシア式と呼ばれます。

値ライン

再生モードのトラックやレーンで、時間の経過に伴う値の変化を視覚的に表わしたものです。水平な値ラインは値が一定であることを示し、斜めの値ラインは所定の時間内 (通常は 2 つのポイントの間) で値がなめらかに変化することを示します。[一定ポイント](#)、[リニアポイント](#)も参照してください。

長休符

複数の隣接する空白小節を小さくまとめるもので、通常は 1 小節が使用され、譜表上部に休む小節の総数が記されます。長休符は通常、太い水平線の両端に垂直線が付いた H 型の記号 (タレットバー) で表示されます。過去に出版されたスコアの中には、二全休符と全休符を組み合わせ、最大 9 小節の長休符を示した例があります。

通し演奏

楽曲のはじめから終わりまで 1 回演奏することです。リピート括弧やコーダのある楽譜など、複数のエンディングが存在する楽譜については、複数回の通し演奏が必要となります。

展開矢印マーク

Dorico Pro のメインウィンドウの四方の端に表示される小さな矢印です。これにより、ツールバーやパネルの表示/非表示を個別に切り替えられます。

動作内容

ピアノ内部のメカニズムで、プレーヤーが鍵を押し下げる強さに応じて、ハンマーが対応する弦を叩く力をさまざまに変化させられます。これによりピアノは大きなダイナミックレンジが利用できるようになり、その正式名称ピアノフォルテもこれに由来しています。

配置設定

楽譜のページレイアウトを整えることです。ページごとの組段数や組段ごとの小節数を定義することが該当します。

倍音

倍音列内の単一のピッチまたは周波数のことであり、そのピッチは基音のピッチに応じて変化しますが、倍音列内の番号に応じて基音との間隔は常に一定です。たとえば、第2倍音は基音の1オクターブ上、第3倍音は基音の1オクターブと5度上、第4倍音は基音の2オクターブ上となります。[倍音列](#)も参照してください。

倍音列

基音と呼ばれる単一のピッチに関連して自然に発生する一連の周波数です。基音のピッチを演奏すると、発生する音には倍音列内のさまざまな音が含まれます。追加されるこれらの音は、部分音や倍音と呼ばれます。また、これらをハーモニクスとして演奏することで倍音を個々に鳴らすこともあります。倍音列に含まれる倍音の間隔には一貫したパターンがあり、この間隔は発生する倍音列が高くなるほど狭くなります。たとえば、第1倍音と第2倍音の間隔は1オクターブですが、第7倍音と第8倍音の間隔は長2度程度しかありません。倍音列の最上部では、ほとんどの倍音が微分音となります。[倍音](#)も参照してください。

半小節

均等な4つの拍に分割できる拍子記号が設定されているとき、小節を均等に2分割するリズム上の位置です。Dorico Proでは、特定の連桁のグループ化と音符のグループ化に関する設定が、半小節の存在する小節に適用されます。半小節を持つ拍子記号には、4/4や12/8があります。

表記

特定のピッチの音符を、アルファベットによる音名と臨時記号を組み合わせることで指定する方法です。たとえば標準の12-EDOピッチシステムの場合、MIDIノート61はC#、DbまたはB^bと表記できます。通常、同じピッチの音は調性に基づく一定の方法で表記されます。たとえば、MIDIノート61は通常DメジャーにおいてはC#と表記されますが、AbメジャーにおいてはDbと表記されます。[EDO](#)、[MIDI](#)も参照してください。

符尾の分割

オルタードユニゾンの臨時記号を、それぞれが属する符頭のすぐ横に表示するための表記法です。

譜表に対する位置

アイテムの譜表に対する垂直位置であり、上と下のいずれかです。

譜表のスペーシングのハンドル

浄書モードで「[譜表のスペーシング \(Staff Spacing\)](#)」が有効なとき、各譜表の左下角に表示される四角いハンドルです。譜表のスペーシングのハンドルで変更できるのは、1つの譜表の垂直位置のみです。[組段のスペーシングのハンドル](#)も参照してください。

譜表冒頭部

通常は楽譜の各組段の最初の音符または休符より前に表示される記譜記号です。通常、譜表冒頭部には音部記号、調号および拍子記号が含まれます。Dorico Proでは、譜表冒頭部は自動的に書き込まれるため、そこに含まれるアイテムはいずれも選択できません。

部位

記譜アイテムの一部です。たとえば音符の部位としては符頭、付点、臨時記号、符尾の先端、連桁などがあります。記譜モードでは、アイテムのどの部分を選択してもそのすべての部位が同時に選択され、加えられた変更はアイテム全体に影響します。浄書モードでは、各部位を個々に選択して、それぞれの位置や外観を微調節できます。[アイテム](#)、[セグメント](#)も参照してください。

明示的な休符

手動で入力された休符、あるいはMusicXMLファイルからインポートされた休符のことです。特定の声部の音符間に明示的な休符を抑制することはできません。[暗黙の休符](#)も参照してください。

余白

テキストとその囲み線など、2 アイテム間の最小距離または最小間隔です。余白の値は、最小高さや最小幅などの他の設定値とは独立である場合があります。

余白を埋める休符

小節の途中で開始/終了するキューの前後の余分なスペースを埋める休符のことです。この休符は、キューのリズムが現在の拍子にどう当てはまるか、またプレイヤーの既存の楽譜とどのような関係になるかを明確に表示します。

両端揃え

楽譜のコンテンツをフレームの両端に合わせて、水平および垂直方向に調整します。[フレーム](#)、[両端揃え \(水平方向\)](#)、[両端揃え \(垂直方向\)](#)も参照してください。

両端揃え (垂直方向)

譜表や組段をフレームの全高に合わせて、できる限り均等に配置します。フレームに収められた楽譜の高さがフレームの垂直のスペースをすべて必要としない場合、余ったスペースは組段間に均等に分配され、さらに組段内の譜表間にも均等に分配されます。[フレーム](#)、[両端揃え](#)も参照してください。

両端揃え (水平方向)

楽譜のコンテンツをフレームの左右の両端に揃えます。組段上の譜表がすべて同じ幅を占めるように、音符のスペーシングを行なったあとに余ったスペースは、組段上のすべての列に均等に分配されます。場合によっては、フロー最後の組段には完全な両端揃えを行わず、フレーム幅の途中で終わらせることもできます。[フレーム](#)、[両端揃え](#)も参照してください。

列

組段のすべての譜表にわたっての同じ水平位置を表わす垂直の線です。楽譜の正確なスペーシングを目的として、音符と和音の位置決定に使用されます。複数の声部を配置する場合に、リズム上の同じ位置に列を複数使用できます。このとき、一部の声部の音符や和音は、他の声部の音符や和音から水平方向にずらして表示されます。

連符

記譜上の標準のデュレーションに対する分数のデュレーションによって演奏されるリズムです。たとえば3連符は、所定の音価で通常は2つの音符を演奏する時間において、その音価の音符を3つ演奏するものです。

和音

リズム上の同じ位置から開始し1つの符尾を共有する、デュレーションが同じ2つ以上の音符の重なりです。

和音の入力

入力した音符が直前の音符に続いて後ろに入力されるのではなく、各音符の上に入力されることで和音を作成する音符入力の方式です。音符はキャレットの位置に入力され、キャレットは自動的に進みません。[キャレット](#)、[音符入力](#)も参照してください。

E

EDO

「Equal Division of the Octave」の略語です。1オクターブがどのように均等に分割されるかを表わす単位で、多くの場合は微分音のスケールや調性システムの定義に使用されます。伝統的な西洋音楽では12-EDOが使用されます。これはそれぞれのオクターブが12個の均等な半音に分割されるものです。均等な1/4音を使用する音楽では、24EDOが使用されます。

F

fps

単位の1つで、frames per secondの略です。1秒ごとに発生するビデオフレームの数を示します。

M

MIDI

「Musical Instrument Digital Interface」の略語で、電子楽器、コンピューター、バーチャルインストゥルメント間で相互に接続および通信する方法を規定した規格です。Dorico Pro では、MIDI データは 16 のチャンネルのいずれかに送信されます。特定のインストゥルメント、または特定のインストゥルメントの特定のパッチがそれを受信し、応答が返されます。[チャンネル](#)、[パッチ](#) も参照してください。

MusicXML

記譜データの相互変換および保管を、オープンかつ非独占的な形式で行なえるように設計されたファイル形式です。異なる音楽アプリケーション間で楽譜データのやり取りをする場合に役立ちます。

S

SMuFL

Standard Music Font Layoutの略称です。これは記譜に必要なとされるすべての異なる記号を標準レイアウトにマッピングするフォントの仕様です。Dorico Pro では、音部記号や強弱記号のグリフなど、プログラムの特定の領域で正しい記号を判別するために、SMuFL 準拠のフォントが必要です。SMuFL 準拠フォントには Bravura、Petaluma、November 2.0 などがあります。

SVG

SVG は「Scalable Vector Graphics」の略で、XML に基づきグラフィックを表示および変更するための方法です。そのコーディング方法により、他の形式と比較して非常に柔軟なグラフィック変更が行なえます。

V

VST インストゥルメント

VST は Virtual Studio Technology の略であり、MIDI データをオーディオ出力に変換するデジタルプラグインです。これは既存のスタジオ機材のエミュレーションである場合も、まったく新しく作られたものである場合もあります。

あ

アーティキュレーション

(1) 記譜において、音符をどのように演奏するかを表わす記号です。通常は音の立ち上がり (アタック)、音の終わり (リリース)、または音の長さ (デュレーション) に影響を与えます。(2) サウンドライブラリーにおいては、これは演奏技法全般を指す用語となります。

アイテム

Dorico Pro において、音符、休符、和音、記譜記号、その他スコア上に表示されるすべての選択可能なオブジェクトの総称です。[部位](#)、[セグメント](#) も参照してください。

アウフタクト

楽曲最初の完全小節の前に演奏される音符です。多くの場合、弱起は 1~2 拍からなり、楽曲を導入することがその主要な目的となります。

アタッチメント

楽譜の中の、アイテムが配置される、またはアイテムが適用されるリズム上の位置です。Dorico Pro の浄書モードでは、選択されているアイテムとそのリズム上の位置を結ぶ連結線が表示されます。

アンサンブル

あらかじめ定義されたプレーヤーの集合で、一緒に使用されることが多いインストゥルメントが各プレーヤーに割り当てられます。たとえば弦楽四重奏、木管五重奏、金管五重奏、弦楽合奏、木管二重奏などがあります。

い

インストゥルメント

それが発するサウンドまたは楽曲を表現するために最低1つの譜表を必要とするものすべてを指します。一般的なインストゥルメントにはバイオリン、フルート、チューバ、バスドラムなどがあります。一方、人間の声、コンピューターにより再生されるサンプリングやテープ録音もインストゥルメントになります。

インストゥルメントの移調

インストゥルメントが演奏するピッチと、それより発せられる音のピッチの間隔差です。多くの場合、インストゥルメント名の一部に含まれます。たとえば、B \flat クラリネットがCを演奏すると、発せられる音は実音のB \flat になります。[実音](#)、[移調音](#)も参照してください。

え

エキスプロード

元となる楽譜をより多くのインストゥルメントに割り当てる処理です。楽譜のエキスプロードは、楽曲のアレンジやオーケストレーションにおける重要な手順となる場合も多く、たとえばピアノの曲を弦楽四重奏にアレンジするときなどに使用されます。[リデュース](#)も参照してください。

エンドポイント

入力と出力の一意的な組み合わせを表わし、これによって各インストゥルメントに正しい音が再生されます。

エンベロープ

アタック、サスティン、ディケイなどの複数のステージで構成される経時的な音の変化です。再生モードの強弱記号レーンでは、エンベロープはエンベロープ全体のそれぞれのパラメーターを制御する複数の独立したポイントとして表わされます。[一定ポイント](#)、[リニアポイント](#)、[値ライン](#)も参照してください。

か

カーソル

テキストの入力または編集時に表示される点滅する垂直線です。[キャレット](#)も参照してください。

き

キーボードショートカット

一緒に押すと設定されたタスクが実行されるキーの組み合わせです。

ギャラリービュー

楽譜を1本の、無限の幅に広がる組段として表示する表示オプションです。

キャレット

キャレットは入力中に表示される、譜表の上下に伸びる垂直の線で、アイテムが入力されるリズム上の位置を示します。Dorico Proにおいては、キャレット、カーソル、ポインターはそれぞれ関連しつつも目的は異なります。[リズムグリッド](#)、[音符入力](#)も参照してください。

く

クオンタイズ

音楽においては、指定した拍の最も近いものに揃うように、音符の位置とデュレーションを調整することを指します。この処理は、生演奏により自然に生じるリズムとデュレーションの小さな変動を除去します。楽譜上の記譜がより端正になるため、MIDIデータの読み込み/書き出しを行なう際に役に立つ場合があります。

グループ

メインアンサンブルのサブセット (たとえばオーケストラ内の同属楽器のグループ)、または個別のグループ (たとえばオフステージの吹奏楽団やセカンドオーケストラ) で構成されるプレーヤーの集合で

す。フルスコアにおいては、プレイヤーの各グループは個別にラベルが与えられ、インストゥルメントの順番にまとめてグループ化および番号付けされます。[プレイヤー](#) も参照してください。

こ

コンテキストメニュー

マウスの右クリック、またはタッチパッドのダブルタップで呼び出せるメニューです。メニュー内容は呼び出すときのマウスポインターの位置によって変化しますが、ほとんどの場合は「**編集 (Edit)**」メニューからも呼び出せるものです。

コンデンシング

複数のプレイヤーの楽譜を通常より少ない譜表に表示する処理のことです。通常は、フルート 1 と 2 やホルン 1 ~ 4 など、同じタイプの複数のインストゥルメントが譜表を共有できるようにすることでコンデンシングを行ないます。最もよく使われるのは大規模なオーケストラのスコアです。これは、ページ上の譜表を少なくすることで譜表サイズを大きくし、指揮者にとって読みやすいスコアを作成できるためです。[ディヴィジ](#)、[ピッチまたぎ](#) も参照してください。

す

スコア

[フルスコア](#)、[パート譜](#)、[プロジェクト](#)を参照してください。

ストローク

編者注のスラーやタイを二分する短い線です。

スペーシング

楽譜の書式を整えるために、連続する列の間の水平距離を設定することです。Dorico Pro における水平方向のスペーシングには、音符やその他のアイテム (付点や臨時記号など) のグラフィカルな形状やサイズと、音符のスペーシングの設定値が反映されます。横幅いっぱいの組段には、水平方向の両端揃えが自動的に適用されます。

スペース

楽譜の浄書における単位で、隣接する 2 本の譜表線の中心同士の距離に基づきます。ほぼすべての記譜アイテムが、スペースに比例したサイズとなります。たとえば、符頭は通常 1 スペース分の高さです。

せ

セクションプレイヤー

全員が同じ楽器を演奏し、同じパートレイアウトの楽譜を読む複数のミュージシャンです。たとえば、第 1 バイオリンセクションのプレイヤーは、それ以外の楽器は演奏できませんが、分かれて別々の音を演奏することはできます。[プレイヤー](#) も参照してください。

セグメント

浄書モードで独立して機能する記譜アイテムの一部です。セグメントは、リピート括弧内の個々の終了括弧のように位置に関係なく存在できます。また、グリッサンドラインのように、1 つのアイテムのみが組段区切りまたはフレーム区切りをまたいで分割される場合にも存在できます。[アイテム](#)、[部位](#) も参照してください。

そ

ソロプレイヤー

1 つまたは複数のインストゥルメントを演奏する (フルート奏者がピッコロに持ち替えるなど)、1 人のミュージシャンのことです。[プレイヤー](#) も参照してください。

た

タッチパッド

触覚センサーを備えたフラットなデバイスで、従来のマウスのかわりとして機能するものです。ラップトップコンピューターに内蔵されることが多いですが、ワイヤレスまたは有線で接続される別個の器具の場合もあります。

ち

チャンネル

MIDI では、音符、コントローラーその他のデータをどのデバイスのどのサウンドで演奏するかは、チャンネルによって決定されます。Dorico Pro では、各チャンネルに割り当てられたパッチにより提供される演奏技法に応じて、1つの譜表上の音符が別々のチャンネルで演奏されることもあります。[MIDI](#)、[パッチ](#) も参照してください。

て

ディヴィジ

ディヴィジは分割するまたは分割されるを意味するイタリア語で、プレーヤーが分かれて複数の旋律を演奏するときに使用します。多くは、あるセクション (第1バイオリンなど) で一部のパッセージを分割し、2つの譜表を使用するような場合です。複数の譜表を使うほか、必要に応じて複声部を使用し、同じ譜表にディヴィジのパッセージを記譜することもできます。[トゥッティ](#)、[コンデンシング](#) も参照してください。

デッドノート

フレット楽器で演奏される音符です。この音符は、音をミュートすることで、音程を奏でるのではなく打楽器のような音を出します。通常は、片手を弦の上に軽く置いた状態で演奏します。Dorico Pro では、ギターやバンジョーなどのフレット楽器に属する音のみをデッドノートに指定できます。

デュレーションをロック

既存の音符に対し、リズムを保ったままピッチのみ変更できる機能です。

テンポトラック

MIDI データに含まれるタイミングに関する情報で、テンポ、SMPTE オフセット、拍子記号、タイムコード、およびマーカーに影響を与えるものです。MIDI ファイルのそれ以外のデータとは別個に読み込むこともできます。

と

トゥッティ

全員を意味するイタリア語です。あるパッセージについて、そのパートまたは譜表を読むすべてのプレーヤーが演奏することを指示します。通常はディヴィジのパッセージの終わりに、あるいは譜表が時にソロを指示し、時にトゥッティのパッセージを指示するような場合に使用されます。[ディヴィジ](#) も参照してください。

トークン

テキスト文字列内で使用されるコードで、プロジェクト内の何らかの情報 (現在のフローのタイトル、プレーヤー名、ページ番号など) に自動で置き換えられるものです。

ドラムセット

ポップスやロック音楽で使用されることの多い、特殊なタイプの打楽器キットです。多くの場合、ドラムセットは打楽器キットとは異なる声部の配置を使用します。ドラムセットは打楽器キットの一種であり、このマニュアルで打楽器キットと記載されている場合にはドラムセットも含まれます。

トランスポート

再生と録音に関するすべてのオプションを網羅します。

は

パッチ

MIDI デバイスまたはバーチャルインストゥルメントの個別のサウンドを示す古い用語です。[チャンネル](#)、[MIDI](#) も参照してください。

パネル

メインウィンドウの左右および下部に表示されるツールパレットです。すべてのモードで使用できませんが、パレットに表示されるツールはモードごとに異なります。

ハンドル

選択可能なアイテムで、線の終端、フレームの角、またはペダル線のリテイクやスラーの制御ポイントなどといった、移動できるポジションを示します。記譜モードではハンドルは丸い形で、それぞれがアイテムのリズム上の位置を示します。浄書モードではハンドルは四角い形で、それぞれがアイテムの表示上の位置を示します。

バー

拍子記号で定められた一定の拍数を含む楽譜の区分のことで、その境界は小節線によって区切られています。

パート譜

1人以上のプレーヤーが演奏するインストゥルメント用の楽譜です。フルスコアではなく個別に表示されます。アンサンブル全体の楽譜を見る必要のない演奏者は、自分の演奏する楽譜だけが読めれば良いため、パート譜を見て演奏します。[フルスコア](#) も参照してください。

ひ

ピッチまたぎ

符尾が下向きの声部の音符のピッチが符尾が上向きの声部の音符よりも高くなることで、コンデンシングされた譜表など、複数の声部またはパートが含まれる譜表で起こることがあります。[コンデンシング](#) も参照してください。

ビブラートバー

電気フレット楽器、特にエレキギターに搭載されるデバイスで、演奏者はこれを使用して音符にビブラートを追加したり、ギターバンドのように音符のピッチを調節したりできます。

ふ

ファミリー

木管楽器、金管楽器、打楽器、弦楽器など、通常スコア上では大括弧で括られて表示される同属のインストゥルメントを意味します。

フェルマータ

その位置にあるすべての音符を、表記上の長さよりも長く保持することを指示する音楽記号です。ほとんどの場合は曲線とその下の点の形で描かれますが、曲線かわりに山形や四角が描かれるものもあります。

フック

他の線から (ほとんどの場合は直角に) 延びる短い線で、線の終端を分かりやすくします。Dorico Pro では、フックはペダル線、オクターブ線、リピート括弧、および連符の角括弧の終端に使用できます。

プラグイン

他のソフトウェアプログラム内で動作するソフトウェアプログラムです。Dorico Pro は VST インストゥルメントおよびエフェクト、それから Lua で記述されるスクリプトプラグインをサポートしています。

フルスコア

スコアの一種で、すべてのプレーヤーとそのインストゥルメントの楽譜が含まれ、通常は決められた順番で配置されます。この順番は楽曲の楽器編成によって異なります。オーケストラのフルスコアの場合は、一般的にはページの一番上に最高音の木管楽器 (たとえばピッコロ) が配置され、ページの一番下

に最低音の弦楽器 (たとえばコントラバス) が配置されます。その間に金管楽器、鍵盤楽器、ボーカル、打楽器が配置されます。

フレーム

楽譜、テキスト、またはグラフィックを収めてページ上に配置するための、長方形のコンテナを指します。

プレーヤー

1つ以上のインストゥルメントを演奏するミュージシャンのことです。プレーヤーは、ソロプレーヤーまたはセクションプレーヤーのいずれかに定義され、フローとレイアウトに割り当てられます。[ソロプレーヤー](#)、[セクションプレーヤー](#)、[フロー](#)、[レイアウト](#) も参照してください。

フレット楽器

ほとんどの場合、複数の弦とフレットの付いたネックがあり、片手 (通常は左手) でネックのフレット位置の弦を押さえ、もう一方の手 (通常は右手) で対応する弦をはじいて演奏するタイプの楽器です。一般的なフレット楽器には、ギター、ウクレレ、バンジョーなどがあります。

フロー

交響曲の1楽章、アルバム内の1歌曲、ミュージカルの1曲、もしくは音楽理論の練習問題にある練習曲など、独立している楽譜の範囲のことです。フローは、プロジェクト内の他のフローと同じプレーヤーを、または特定のフローだけの別のプレーヤーを含むことができます。[プレーヤー](#) も参照してください。

プロジェクト

複数のフローおよびレイアウトを格納する Dorico Pro 形式のファイルです。[フロー](#) および [レイアウト](#) も参照してください。

プロパティ

プロパティパネルから編集できる、プロジェクト内の個々のアイテムおよびアイテムの部位の特性です。プロパティの多くはレイアウト固有のもので、あるレイアウトでアイテムのプロパティを変更しても、他のレイアウトにある同じアイテムには影響しません。

へ

ヘアピン

一点から広がるまたは一点に合流する、一対の斜線で描かれる強弱記号で、音を徐々に大きくまたは小さくすること、つまりクレッシェンドとディミヌエンドを表わします。

ペダルの強さの変更指示

ピアノのサスティンペダルを 1 (完全に踏み込んだ状態) から 0 (踏み込んでいない状態) の間でどこまで踏み込むかを指定する変更指示です。ペダル線の高さが変化する形で記譜されます。

ページビュー

印刷時と同様の、一定の幅と高さのページレイアウトで楽譜を表示する表示オプションです。[ギャラリービュー](#) も参照してください。

ページ区切り

特定の位置 (通常は小節線) で、楽譜のページを強制的に終了します。多くの場合は、パート譜でページをめくる際の利便性を確保するために使用されます。Dorico Pro では、フレーム区切りを使用するとページ区切りの効果が得られます。これはガイドによって表示されます。

ほ

ポインター

コンピューター画面上で、マウスまたはタッチパッドのユーザー操作による動きに追従する記号です。最も一般的な形状は、画面の左上方向を指す矢印です。

ポップオーバー

キーボードショートカットを使用して表示できる一時的な数値フィールドです。テキストエントリを入力することでアイテムを挿入できます。ポップオーバーは記譜モードでの音符入力時または楽譜領域でアイテムを選択時に開くことができます。異なるタイプのアイテムごとに専用のポップオーバーが用意されています。

ま

マイナーキー

メジャースケールとは異なる音程パターンを持つ、マイナースケールに基づく調号です。[マイナースケール](#)も参照してください。

マイナースケール

マイナーキーの音程を含む音符の並びです。マイナースケールには3つのタイプがあります。ナチュラル、ハーモニック、そしてメロディックです。ナチュラルマイナースケールはエオリアンモードの音程パターンに従います。キーボードでいえばAからAまでのすべての白鍵の音符です。ハーモニックマイナースケールもエオリアンモードの音程パターンに従いますが、AハーモニックマイナーにおけるG#のように、スケールの7度にシャープが付きます。メロディックマイナースケールは、上昇時と下降時で異なる音程パターンに従います。上昇時は(エオリアンモードに対し)6度と7度にシャープが付きますが、下降時はいずれもナチュラルです。[マイナーキー](#)も参照してください。

も

モード

プロジェクトウィンドウで選択できるワークスペースです。スコアを作成するワークフローの異なるフェーズのことを指します。

り

リズムグリッド

デュレーションの単位であり、入力および編集の特定の性質、たとえばアイテムの移動量などに影響を与えます。その現在値はステータスバーに音価で示されるとともに、キャレットがアクティブな譜表の上の、拍および拍の分割を表わすルーラーの目盛りによっても示されます。[キャレット](#)も参照してください。

リデュース

複数のインストゥルメントの楽譜を、それより少ない数のインストゥルメントに割り当てる処理のことです。たとえば合唱用の楽曲を、キーボード用の楽譜に再編成するなどです。リデュースにより作成された楽曲はリダクションと呼ばれます。[エクスプロード](#)も参照してください。

リニアポイント

カーブ上のポイントとして動作する再生モードのトラックまたはレーン上の値の変化です。そのポイントの位置の値のみを設定するものであり、その位置からトラックまたはレーン上の次のポイントまで値をなめらかに変化させることができます。[一定ポイント](#)、[値ライン](#)も参照してください。

れ

レイアウト

すべてのプレーヤーを含むフルスコアや1人のプレーヤーのみを含むインストゥルメントパートなど、1つまたは複数のフローの1人または複数のプレーヤーの楽譜を、ページ上にどのように配置するかを示したものです。[フロー](#)、[プレーヤー](#)も参照してください。

レイアウトオプション

ページや譜表サイズなど、個々のレイアウトを設定するためのオプションです。これらのオプションは「[レイアウトオプション\(Layout Options\)](#)」ダイアログで、レイアウトごとに個別に設定できます。[レイアウト](#)も参照してください。

数字

5線のサイズ

第1線から第5線までの幅で表わされる5線譜のサイズです。「ラストラムサイズ」の呼称は、かつて白紙に5線譜を描くのに使用された道具、ラストラムに由来します。ラストラムは形の固定された器具であるため、人々はその決められたサイズに慣れるようになりました。Dorico Proはこの伝統を引き継ぎ、ラストラムによる譜表サイズを選択できるようにしています。

索引

数字

- 1 桁の数字
 - タブ譜 [1210](#)
- 1 ステップのトリル [944](#), [949](#)
 - 位置 [948](#)
 - 外観 [947](#)
 - 非表示 [941](#), [945](#)
 - 表示 [941](#), [945](#)
- 16 分音符 [159](#)
 - スウィング再生 [233](#), [557](#), [561](#)
- 2 分音符 [159](#)
 - テンポの等式 [1234](#)
- 2 ページを 1 ページに集約の配置 [615](#)
- 2 連符 (「連符」を参照してください)
- 3 連符 [1276](#)
 - スウィング再生 [557](#)
 - 入力 [157](#), [199](#)
- 4 分音符 [159](#)
 - スウィング再生 [557](#)
 - テンポの等式 [1234](#)
- 5 連符 (「連符」を参照してください)
- 5th コードダイアグラム [167](#)
- 6 連符 (「連符」を参照してください)
- 7 連符 (「連符」を参照してください)
- 8 分音符 [159](#)
 - スウィング再生 [233](#), [557](#), [561](#)
 - テンポの等式 [1234](#)
 - 連符 [676](#)
- 8 連符 (「連符」を参照してください)
- 9 連符 (「連符」を参照してください)
- 9th コードダイアグラム [167](#)

A

- a2 (「プレイヤーラベル」を参照してください)
- Academico フォント [413](#)
- accelerando (「段階的テンポ変更」を参照してください) (「トリル」も参照)
- adagio (「テンポ記号」を参照してください)
- Aikin 符頭 [902](#)
 - 表示 [910](#)
- allegretto (「テンポ記号」を参照してください)

B

- Boston コード記号 [707](#)
- bpm [1228](#)
 - スウィング再生 [561](#)
 - 変更 [542](#), [1228](#)
- Brandt-Roemer コード記号 [707](#)
- Bravura 音楽フォント [413](#)
- Britten フェルマータ [844](#)

C

- CC64
 - ペダル線 [83](#), [213](#)
- Cubase
 - インストゥルメント名 [1160](#)
 - エクスプレッションマップデータ [583](#)
 - 譜表ラベル [1160](#)

D

- 「Dark」のテーマ [60](#)
- dpi [620](#)

E

- EDO [860](#)
- EQ [564](#)

F

- fine
 - d.c. al [1090](#)
 - tacet al [1128](#)
 - サイズ [1091](#)
 - セクション [1090](#)
 - 入力 [310](#), [311](#)
 - フォント [1091](#)
- fps [154](#)
- Funk 符頭 [902](#)
 - 表示 [910](#)
- FX チャンネル [564](#)

G

- General MIDI [83](#)
- gli altri (「ディヴィジ」を参照してください)

H

- HALion Sonic SE
 - エンドポイント [580](#)
 - 再生テンプレート [567](#), [568](#)
 - 声部の個別再生 [551](#)
- HALion Symphonic Orchestra
 - エンドポイント [580](#)
 - 再生テンプレート [567](#), [568](#)
 - 声部の個別再生 [551](#)
- Henze [844](#)
 - 入力 [263](#), [265](#), [266](#)
- HTML ファイル
 - コメント [351](#)
- Hub [69](#)
 - プロジェクトを開く [72](#)

- Hz
再生時のチューニング 556
- I**
- Indiana コード記号 707
- J**
- Jazz Standards コード記号 707
- JPEG ファイル
グラフィックフレーム 409
- L**
- l.v. タイ (「レセヴィブレタイ」を参照してください)
- largo (「テンポ記号」を参照してください)
- lento (「テンポ記号」を参照してください)
- 「Light」のテーマ 60
- loco (「オクターブ線」を参照してください)
- lv タイ (「レセヴィブレタイ」を参照してください)
- M**
- macOS
印刷 610
- messa di voce 783
移動 792
表示 785
- MIDI
thru 208
インストゥルメント 506, 519 (「MIDI インストゥルメント」.も参照)
インストゥルメントのロード 507
エクスペリションマップ 582, 583, 590
エンドポイント 576, 580
オートメーション 531, 533, 536
音符入力 171, 186, 193, 194
書き換え 194
書き出し 89
重なり合う音符 180
クオンタイズ 84
コントローラー (「MIDI コントローラー」を参照してください)
再生 519, 576, 593
削除 536
ショートカット 62, 66
スラー 1158
ダイアログ 83, 84, 86
タイムトラック 538
チャンネル 563, 576
デバイス (「MIDI デバイス」を参照してください)
テンポ 538, 554
テンポトラック 87, 89
ナビゲーション 66
入力 533
ノート範囲 115
パーカッションマップ 581, 593, 594, 597
パン 563
範囲 115
ピアノロールエディター 512
ファイル (「MIDI ファイル」を参照してください)
- MIDI (続き)
フェーダー 563
編集 536
ポート 576
ボリューム 799
マーカー 545
臨時記号の表記 193
レーン 531
録音 (「MIDI 録音」を参照してください)
- MIDI thru 208
- MIDI インストゥルメント 506
インスタンス 506
ナンバリング 506
ロード 507
- 「MIDI インポートオプション」ダイアログ 83
「MIDI クオンタイズオプション」ダイアログ 84
- MIDI コントローラー 531, 799
オートメーション 531, 533
強弱記号 799
ペダル線 1019
- MIDI デバイス 214
アクティビティ 51
エクスペリションマップ 582, 590
音符入力の設定 189
音符の表記 167
警告 51
コード記号 167, 249, 254–256, 543, 544
再生テンプレート 567, 568
設定 167
打楽器キット 189
ナビゲーション 167
パーカッションマップ 593, 597
ポリコード 255
無効化 214
有効化 214
- 「MIDI 入力デバイス」ダイアログ 214
- MIDI ファイル 82
書き出し 85
クオンタイズ 82, 84
再クオンタイズ 210
再生の上書き 601
サスティンペダルコントローラー 213
ダイアログ 83, 86
開く 72
ペダル線 213
無音程打楽器 1306
読み込み 82, 83, 1306
リピート 556
- MIDI 録音 208
オーディオバッファサイズ 212, 213
開始 208
カウントイン 211
クオンタイズ 84, 208
クリック設定 210
再クオンタイズ 210
最適化 212
サスティンペダルコントローラー 213
設定 212
ダイアログ 84
停止 208
デバイス 214 (「MIDI デバイス」.も参照)
テンポモード 554
トランスポートウィンドウ 565

MIDI 録音 (続き)
ピッチ 178
ピッチの入力 178
拍子記号 208
非録音時の MIDI 入力データを記録 209
ペダル線 213
リピート 210
レイテンシー 212
「MIDI を書き出し」ダイアログ 86
moderato (「テンポ記号」を参照してください)
molto
強弱記号 244, 246, 791
中央揃え 791
テンポ記号 231, 233
フォントスタイル 797

MP3 ファイル
書き出し 90, 91

MusicXML
書き出し 80
コード記号 724
ダイアログ 80
打楽器 1306
開く 72
譜表ラベル 1160
ペダル線 1020
読み込み 79
リピート括弧 1089
連桁のリセット 677
「MusicXML を書き出し」ダイアログ 80

N

Nashville
コード記号 250, 707
番号 250
New York コード記号 707
NotePerformer
トリル 950
微分音の再生 874
November 音楽フォント 413

P

PDF ファイル 620
書き出し 610
カラー 614
キーボードショートカット 62
フォント 614
レイアウト番号 142
Petaluma 音楽フォント 413
PNG ファイル 620
書き出し 610
カラー 614
間隔 620
グラフィックフレーム 409
レイアウト番号 142
poco a poco
強弱記号 244, 246, 790, 791
中央揃え 791
テンポ記号 1227
フォントスタイル 797
possibile
強弱記号 246

presto (「テンポ記号」を参照してください)

R

rallentando (「段階的テンポ変更」を参照してください)
(「テンポ記号」.も参照)
ritardando (「段階的テンポ変更」を参照してください)
(「テンポ記号」.も参照)
ritenuto (「段階的テンポ変更」を参照してください) (「テンポ記号」.も参照)
Ross コード記号 707

S

Salzedo ブレス記号 845
simile
演奏技法 1031
強弱記号 244, 246, 782
非表示 1031
表示 1031
SMuFL 413
強弱記号のグリフ 797
長休止符 1129
トークン 402
フィンガリング 809, 810
Steinberg Hub 69
ビデオチュートリアル 69
プロジェクトの開始 70
プロジェクトを開く 72
subito 244, 246
SVG ファイル 620
書き出し 610
カラー 614
グラフィックフレーム 409
フォント 614
レイアウト番号 142

T

tacet al fine 1123, 1128
thru
MIDI 208
TIFF ファイル 620
書き出し 610
カラー 614
間隔 620
レイアウト番号 142

V

vivace (「テンポ記号」を参照してください)
VST インストゥルメント 505
VST 2 プラグインをホワイトリストに設定する 508
インスタンス 505
エンドポイント 576
再生 576, 582, 593
再生テンプレート 567, 568
名前 576
ナンバリング 505
パーカッションマップ 581
微分音の再生 874
編集 505

VST インストゥルメント (続き)

ポート 576

ロード 507

VST および MIDI インストゥルメントパネル 502, 505

W

Walker 符頭 902

表示 910

WAV ファイル

書き出し 90, 91

X

X 形の符頭 900

デッドノート 1209

表示 910

あ

アーティキュレーション 634

位置 635-640

移動 638

演奏技法固有の符頭 599

音符 637

重ね合わせ 639

間隔 640

キーボードショートカット 215

記号 427

キット 1293

キュー 763

形式設定 427

コピー 635

再生 551, 599, 641, 1044

削除 636

ジャズ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)

順番 637

浄書オプション 635

衝突回避 639

垂直位置 640

スペーシング 638

スラー 637

スラーの終端 1136

タイ 637, 641, 1235

タイプ 634

打楽器 599, 1293, 1297

デフォルト設定 635

デュレーション 634, 641

トレモロ 599

入力 214, 215

パネル 159

反転 639, 640

符尾 637

譜表 640

譜表の外側 640

変更 635

連符 214

アーティフィシャルハーモニクス 928

再生 928-930

スタイル 932, 935

倍音 930

アーティフィシャルハーモニクス (続き)

ピッチ 930

非表示 929

表示 929

変更 935

臨時記号 931

アイテム 168, 322

コピー 340

選択 168, 322-324, 330, 334

選択解除 330

変更 332

編集 160

ほかのアイテムの後ろ 322

リセット 333, 334

青い選択範囲 794, 1141

アクセント (「アーティキュレーション」を参照してください)

上げ

ジャズアーティキュレーション (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)

ペダル線 (「ペダルのリテイク」を参照してください)

上げ弓ブレス記号 845

値

音符 (「音符のデュレーション」を参照してください)

タイムコード 150, 1080

フレームレート 150

メトロノームマーク 332, 1228

リズムグリッド 51, 170

レイテンシーの補正 212

値ライン

オートメーション 531, 534

強弱記号 521, 524

テンポ 538

アタック

アーティキュレーション 634

強弱記号 771

再生 582

アタッチメントポイント

演奏技法 1038

コード記号の構成要素 712

符頭 904, 907

符尾 907

ライン 293-295, 1046, 1049

臨時記号の構成要素 869

アチャカトゥーラ (「装飾音符」を参照してください)

圧縮された MusicXML 80

アポジャトゥーラ (「装飾音符」を参照してください)

アラビア数字

コードダイアグラム 726

フィンガリング 823

譜表ラベル 1168

フレット番号 726

ページ番号 380, 988

アルコ (「演奏技法」を参照してください)

アルト記号 (「音部記号」を参照してください)

アルトの省略

ホルンのフィンガリング 809

アルペジオ記号 953, 957, 1046

位置 956, 957, 959

移動 957, 958

外観 953-955, 959

角括弧 953

記号 427

アルペジオ記号 (続き)

- 曲線 269
 - 形式設定 427, 954, 955
 - 再生 959, 960
 - 再生時にミュート 554
 - 削除 339
 - 終端 955
 - 浄書オプション 959
 - スペーシング 957
 - スラッシュ符頭 959
 - 声部 272, 273
 - 装飾音符 959
 - タイプ 269, 954
 - デフォルト設定 959
 - デュレーション 959, 960
 - 長さ 272, 273, 956
 - 入力 267, 269, 272, 273
 - 配置 957
 - 拍相対再生 960
 - パネル 273
 - 幅広 953
 - ハンドル 956, 958
 - フィルター 328
 - フィンガリング 801, 816, 817
 - 譜表をまたぐ 272, 273
 - 変更 332
 - 方向 953
 - ポップオーバー 269, 272
- アンサンプル 96, 114
- 角括弧 71, 695, 696
 - グループ 133, 134
 - 追加 99, 114, 134
 - ディヴィジ 1192, 1193
 - テンプレート 70
 - 譜表のグループ化 71, 696
- 暗黙の休符 37, 1120, 1121
- カラー 1124
 - 削除 1124
 - 声部 1122
 - 非表示 1122, 1124
 - 表示 1124
 - 明示的な休符 1123

い

イオニアンコード記号 252, 724

位置 38

- アーティキュレーション 637-640
- アイテム 334
- 新しいアイテム 168
- アルペジオ記号 957, 959
- 演奏技法 332, 1022
- オクターブ線 748, 751
- 音部記号 737
- 歌詞 875, 884
- キュー 752, 754, 755
- 休止 846
- 休符 1120
- 強弱記号 772
- グリッサンドライン 962
- 弦の指示記号 829
- 再生 548
- ジャズアーティキュレーション 982

位置 (続き)

- 順番 750
 - 垂直の順番 750
 - スタッカート 638
 - スラー 1132, 1136
 - 声部 1308
 - 装飾音 938
 - 装飾音符 837
 - タイ 1236
 - 打楽器キット内のインストゥルメント 128
 - タッキングインデックス 750, 751
 - 段階的強弱記号 792
 - 中間休止記号 847
 - 調号 854
 - テンポ記号 1221
 - トリルの音程 948
 - トレモロ 1270
 - 入力 168
 - ハーブペダルダイアグラム 996
 - ビデオ 152
 - 拍子記号 1252
 - フィンガリング 800, 801, 805
 - フェルマータ 846
 - 複声部の音符 1308
 - 付点 1211
 - プレス記号 847
 - フレット番号 735
 - ヘアピン 792
 - ペダル線 1006, 1009
 - 変更 332
 - ライン 1049, 1050
 - リセット 334
 - リハーサルマーク 1064
 - 連符 1276
- 1 小節の小節休符
- 小節数 1127
 - タセットバー 1127
 - 非表示 1125
 - 表示 1125
- 位置に連結されたライン (「ライン」を参照してください)
1 番括弧と 2 番括弧 (「リピート括弧」を参照してください)
- 移調 206
- インストゥルメント (「移調楽器」を参照してください)
 - エクスペッションマップ 582
 - オクターブ 203
 - 音符 202, 203, 205, 206, 516
 - 音部記号 742, 767
 - キュー 761, 767
 - コード記号 140, 206, 716
 - 選択範囲 206
 - ダイアログ 206
 - 調号 206, 854, 857
 - ピッチ (「移調音」を参照してください)
 - 譜表ラベル 1165
 - ポップオーバー 202
 - 臨時記号 206
 - レイアウト 138, 141
- 移調音 141
- インストゥルメントの移調 1164
 - インストゥルメントのナンバリング 1166
 - 音部記号 740-742

移調音 (続き)

音符入力 178
 コード記号 140, 723, 724
 ステータス表示 51
 パートレイアウト 138, 140
 ピッチの入力 178
 表示 140
 フィルター 329
 譜表ラベル 1159, 1164
 レイアウト 140

移調楽器 118, 140, 742, 1159

移調音 140, 141
 インストゥルメントの移調 1164-1166
 インストゥルメントのナンバリング 1166
 音部記号 99, 740-742
 キュー 757
 キューの音域 757
 コード記号 723, 724
 実音 140, 141
 調号 141, 164, 852, 854, 859
 譜表ラベル 1159, 1164-1166
 レイアウト 140, 141

「移調」ダイアログ 206

1 線

打楽器キット 1295, 1296
 譜表 1173

一定ポイント 524, 534

入力 523, 533

一般的な臨時記号の有効範囲ルール 631

移動

MIDI データ 536
 アーティキュレーション 638
 アルペジオ記号 957, 958
 インストゥルメント 121, 135
 打ち消しのナチュラル記号 856
 演奏技法 1022, 1023, 1025
 オートメーションポイント 536
 オクターブ線 746, 747, 749
 オッサン譜表 1181
 音符 203, 430, 514, 913 (「音符のスペーシング」も参照)
 音部記号 737, 738, 740
 音符を別のインストゥルメントに 1293
 音符を別の譜表に 342, 683
 カーソル 216, 253, 298
 歌詞 885, 886
 歌詞の延長線 889
 歌詞のハイフン 889
 ギターバンド 976
 キャレット 175, 199
 キュー 754, 758, 762
 休止 848, 849
 休符 430, 1130
 強弱記号 526, 774-776, 792
 組段 464, 467
 グリッサンドライン 966
 弦の指示記号 829-831
 コード記号 720, 722
 コードダイアグラム 735
 再生ヘッド 336, 548
 ジャズアーティキュレーション 981, 982
 小節 469, 472
 小節休符 1130

移動 (続き)

小節線 651
 小節番号 664-666
 小節リピート記号 1101, 1106
 スラー 1137, 1139, 1145, 1146
 スラッシュ 841
 スラッシュ符頭 1112
 スラッシュ領域 1114, 1117
 選択 (「ナビゲーション」を参照してください)
 装飾音 938, 939
 装飾音符 841, 913
 タブ 58
 調号 856
 ディヴィジ 1196
 テキスト 423
 テンポ記号 541, 1221, 1222
 トリル 939
 トレモロ 1272
 ナビゲーション (「ナビゲーション」を参照してください)
 ハープペダルダイアグラム 997
 ビュー 335, 336
 拍子記号 1262-1264
 フィンガリング 803, 819
 付点 916
 符頭の括弧 924-926
 譜表 464
 フレーム 391
 プレーヤー 135
 プレーヤーラベル 496
 フレット番号 735
 フロー見出し 451, 464
 ページ 336, 447
 ページ番号 986
 ペダル線 1007, 1008
 ホールドの線 976
 マーカー 1076, 1077
 余分な譜表 1177
 ライン 1050, 1051, 1053, 1054
 ラインのテキスト 1060, 1061
 リハーサルマーク 1068, 1069
 リピート括弧 1086, 1087
 リピートマーカー 1095, 1096
 連符 1280, 1287

イニシャル
 コメント 346, 351

イベント
 オートメーション 531, 533
 音符 513
 強弱記号 521, 523, 525
 テンポ変更 538, 540
 ベロシティー 530
 マーカー 545

イベントディスプレイ 510
 インストゥルメントトラック 519
 演奏技法レーン 537
 オートメーションレーン (「オートメーションレーン」を参照してください)
 音符の入力 513
 強弱記号レーン (「強弱記号レーン」を参照してください)
 コードトラック 543
 ズーム 517

- イベントディスプレイ (続き)
 - タイムトラック 538
 - ビデオトラック 546
 - ベロシティーレーン (「ベロシティーレーン」を参照してください)
 - マーカートラック 545
- 異名同音の表記
 - MIDI 82, 208
 - 音符 193, 204
 - 書き換え 204
 - コード記号 707, 723, 724
 - 調号 858
 - モード 724
 - 臨時記号 193, 204
- 入れ替え
 - 音符 342
 - 音符の順番 1311
 - 声部 344
 - 譜表 342
 - ページ 385
- 入れ替え可能な拍子の拍子記号 1253
 - 個々の小節ごとの指定 1253
 - 入力 226
- 入れ子
 - スラー 1138, 1139
 - 連符 1277
- 入れ子状のスラー
 - エンドポイント 1136
- インサート 564
- 印刷 602, 607
 - macOS オプション 610
 - オプション 605
 - 音符の色 621
 - ガイド 621
 - キーボードショートカット 62
 - コメント 621
 - 冊子印刷 616
 - 縮尺サイズ 607
 - ジョブタイプ 615
 - 透かし 621
 - 声部の色 621
 - タイム 621
 - 縦 615, 618
 - 注釈 621
 - トンボ 621
 - 配置 615
 - 範囲 607, 609
 - 日付 621
 - 部数 607
 - プレビュー 48
 - ページサイズ 618, 619
 - 見開き 615
 - 向き 618
 - 用紙サイズ 618
 - 横 615, 618
 - 両面 607, 617
 - レイアウト 607
 - 枠線 621
- 印刷オプションパネル 602, 605
- 印刷プレビュー領域 48
 - ナビゲーション 48, 602
- 印刷モード 21, 602
 - 切り替え 602
 - 縦向き 615
 - ツールボックス 602
 - パネル 49, 602, 603, 605
 - プリンター 615
 - ページ設定 619
 - 横向き 615
- インスタンス
 - 追加 507
 - プラグイン 505
- インストゥルメント 36, 115
 - MIDI 506, 507
 - MIDI 録音 208
 - VST 505, 507
 - アンサンブル 114
 - 移調 118, 140 (「インストゥルメントの移調」.も参照)
 - 移動 121
 - エクスペッションマップ 576
 - エンドポイント 576, 580
 - エンドポイントへの割り当て 580
 - 押さえるフィンガリング 812
 - 音部記号 740
 - 音符の入力 176
 - 角括弧 71, 695, 696
 - 既存のものの変更 120, 125
 - キットから削除 129
 - キットへの結合 120
 - キューのポップオーバー 319
 - 強弱記号 521, 798 (「強弱記号レーン」.も参照)
 - 空白の譜表 446
 - グループ (「インストゥルメントグループ」を参照してください)
 - 弦楽器 118
 - 検索 99
 - コード記号 254, 717
 - コメント 346, 348
 - 再生 551, 567, 568, 570, 573, 576, 580, 582, 593
 - 再生モード 519
 - 削除 113, 122
 - サステイン 798
 - 自動ナンバリング 115
 - 順番 113, 121, 133
 - スウィング再生 559
 - ソロ 553
 - 打楽器 593, 1295
 - 打楽器キット内の順番 128
 - 打楽器キットへの追加 125
 - 打楽器のレジェンド 1301, 1302
 - チューニング 99, 118
 - 調号 852, 853, 858, 859
 - 追加 99, 114, 119
 - つま弾くフィンガリング 812
 - ディヴィジ 1192, 1193, 1195
 - テンプレート 70
 - トラック (「インストゥルメントトラック」を参照してください)
 - 名前 (「インストゥルメント名」を参照してください)
 - ナンバリング 115, 1166
 - パーカッションマップ 576
 - パートから削除 137, 139
 - パートに追加 139

インストゥルメント (続き)

- パートレイアウト (「レイアウト」を参照してください)
- 配置ツール 339
- 範囲 917
- 非サスティン 798
- 非表示 137, 139
- 表示 137, 139
- 譜表 59, 1174, 1176, 1178, 1295
- 譜表サイズ 460
- 譜表のグループ化 71, 696
- 譜表の削除 1174
- 譜表の追加 1176
- 譜表の表示 59
- 譜表ラベル 144, 1160, 1161, 1166, 1167
- プレーヤー 110
- プレーヤー間の移動 121
- プレーヤーパネル 96
- フレット楽器 118
- フローに追加 137
- ベロシティー 528 (「ベロシティーレーン」も参照)
- 変更 (「インストゥルメントの変更」を参照してください)
- ミュート 553
- 持ち替え 59, 119
- ロード 507
- インストゥルメントグループ 126, 133
 - 削除 128
 - 打楽器キット 126
 - 名前を付ける 127
- インストゥルメントトラック 518, 519
 - 演奏技法 (「演奏技法レーン」を参照してください)
 - オートメーション (「オートメーションレーン」を参照してください)
 - 折りたたみ 547
 - カラー領域 519
 - 強弱記号 (「強弱記号レーン」を参照してください)
 - コントロール 519
 - 展開 547
 - ピアノロールエディター 512
 - ヘッダー 519
 - ベロシティー (「ベロシティーレーン」を参照してください)
- インストゥルメントの移調 118, 1164
 - 音部記号 741
 - キューラベル (「キューラベル」を参照してください)
 - ナンバリング 1166
 - 非表示 1165
 - 表示 1165
 - 譜表ラベル 144, 1166
- インストゥルメントの音程 (「インストゥルメントの移調」を参照してください)
- インストゥルメントの変更 117
 - 許可 117
 - 禁止 117
 - 入力 119, 176
 - ラベル (「インストゥルメントの変更ラベル」を参照してください)
- インストゥルメントの変更ラベル 115, 1167
 - 非表示 1167
 - 表示 1167
- インストゥルメントピッカー 99

インストゥルメント名 143, 1159

- キュー (「キューラベル」を参照してください)
- 再生モード 519
- デフォルトとして保存 144
- トークン 402
- トラック 519 (「インストゥルメントトラック」も参照)
- 長さ 144, 1162
- ナンバリング 115, 1160, 1166
- 配置 144
- 譜表ラベル 144, 402, 1160, 1162
- 変更 147
- 「インストゥルメント名を編集」ダイアログ 144
- インストゥルメントラベル
 - 打楽器キット 127
- インターフェース 41
- インタラクティブキーボードショートカットマップ 64
- インチ
 - 基準単位 61
 - 譜表のスペーシング 464
- インデント 1190
 - 組段 438
 - コード 438, 1095, 1190
 - 最初の組段 1191
 - 譜表ラベル 1163
 - 変更 1191
- インド太鼓の記譜 736, 1307

う

- ウィンドウ
 - VST インストゥルメント 505
 - 再生 58
 - タブ 57
 - タブの移動 58
 - トランスポート 565
 - ビデオ 153
 - 開く 25, 58
 - 複数 55, 57, 58
 - フローティング 42
 - プロジェクト 41
 - 分割 57
 - ミキサー 563, 565
 - ワークスペース 54
- 上の音符
 - トリル 951
- 上向アルペジオ記号 (「アルペジオ記号」を参照してください)
- ウクレレ (「フレット楽器」を参照してください)
- 打ち消し
 - 調号 853, 856
 - ナチュラル 856
 - 二重臨時記号 631
 - 臨時記号 631
- ウナコルダペダル 1000
 - MIDI コントローラー 1019
 - 外観 1019
 - テキスト 1019
- 上書き
 - 入れ替え 385
 - エンドポイント 578
 - 音符のデュレーション 600, 601
 - 楽曲フレーム 393

上書き (続き)

コード記号 709, 715
 コンデンス 487
 再生テンプレート 567, 568, 570, 573, 578, 579
 削除 408, 601
 テキスト 400, 422
 パラグラフスタイル 422
 フロー見出し 378, 386
 マスターページ (「ページの優先」を参照してください)

え

映画 (「ビデオ」を参照してください)

エオリアンコード記号 252, 724
 「エクスペリションマップ」ダイアログ 583

エクスペリションマップ 582

MIDI 799
 演奏技法 1027, 1044
 演奏技法の再生効果 583, 589, 592
 演奏技法を非表示 1027
 エンドポイント 576, 578, 579, 581
 書き出し 593
 作成 590
 ダイアログ 583, 589
 トリル 949
 ファイル形式 582, 593
 フィルター 583
 ボリューム 799
 読み込み 592

エクスプロード 175, 186, 343

音符入力 175, 186

エスプレッシーヴォ (「強弱記号」を参照してください)

エディター

テキスト 316, 420
 ドラム 512
 ピアノロール 512
 フロー見出し 386
 マスターページ 374

エフェクトチャンネル 564

ミキサー 563

演奏音

打楽器のレジェンドの範囲 1301, 1302
 デュレーション 1274
 ピッチ (「発音上のピッチ」を参照してください) (「実音」も参照)

演奏回数

変更 1098

演奏技法 1021

アタッチメントポイント 1038
 位置 1022
 移動 1022, 1023, 1025
 エクスペリションマップ 582, 583, 1044
 延長線 1022, 1029, 1032-1034
 エンドポイント設定 579
 ガイド 1027
 カスタム 1035, 1043, 1044
 キュー 763
 組み合わせ 589, 592, 599
 組段区切り 1023
 グループ化 1029, 1033, 1034
 グループ化の解除 1035
 サイズ 1022

演奏技法 (続き)

再生 551, 582, 1041, 1044
 削除 339
 作成 1043, 1300
 順番 1025
 浄書オプション 1022
 垂直位置 1025
 水平オフセット 1022
 声部 284, 285, 551
 選択 323
 装飾音符 1022
 ダイアログ 1038, 1041
 タイプ 280, 1021
 打楽器 594, 599, 1294, 1297, 1299
 ディヴィジ 1192
 テキストの追加 1025
 デザイン 1035, 1038
 デフォルト設定 1022
 デュレーション 1028, 1030, 1031, 1034
 トラック (「演奏技法レーン」を参照してください)
 長さ 1023, 1028
 入力 279, 280, 284, 285
 ハーモニクス (「ハーモニクス」を参照してください)
 背景 1026
 背景の塗りつぶし 1026
 排他グループ 583
 パネル 283, 285
 ハンドル 1023, 1030
 非表示 1027
 表示 1027
 フィルター 328
 符頭 599, 1297, 1299-1301
 譜表に対する位置 332
 フレーム区切り 1023
 変更 332, 1292
 編集 1038
 ポップオーバー 280, 284
 ミュート 554
 余白 1026
 ライン (「演奏技法の線」を参照してください)
 レーン (「演奏技法レーン」を参照してください)

演奏技法固有の符頭 1297, 1299
 アーティキュレーション 599
 外観 1301
 再生 599
 作成 1300

「演奏技法の外観を編集」ダイアログ 1038

演奏技法の組み合わせ
 作成 592

「演奏技法の組み合わせ」ダイアログ 589

演奏技法の再生効果 576, 592, 1041, 1044
 エクスペリションマップ 582, 583
 エンドポイント 576
 組み合わせ 589, 592
 再生テンプレート 567
 打楽器 599
 パーカッションマップ 594

「演奏技法の再生効果を編集」ダイアログ 1041

演奏技法の線 1029, 1033
 外観 1031, 1032
 キャップ 1033
 組段区切り 1030
 構成要素 1030

演奏技法の線 (続き)

- デフォルト設定 1029
 - デュレーション 1028, 1030, 1031
 - 非表示 1031, 1032
 - 表示 1031, 1032, 1034
 - 変更 1032, 1035
- 演奏技法パネル 285, 287
- 演奏技法レーン 537
- 非表示 538
 - 表示 538
- 「演奏技法を編集」ダイアログ 1035
- 演奏されるデュレーション 600
- 上書き 600, 601
 - 記譜されたデュレーション 600
 - ツール 503
 - 変更 600, 601
- 演奏上の指示 833
- 延長 (「休止」を参照してください) (「ギターバンド」.も参照)
- 延長記号 1017
- 演奏技法の延長線 1030
 - 括弧 1017
 - テキスト 1018
 - ライン 1048
- 延長記号と休止記号パネル 266
- 延長線 1029, 1046
- 演奏技法 1029, 1031-1034
 - オクターブ線 744
 - 外観 1035
 - 角度 1001
 - 歌詞 298, 879, 889
 - カスタムの演奏技法 1043
 - キャップ 1033
 - 強弱記号 771, 783
 - 区切りをまたぐスラー 1157
 - 段階的強弱記号 785
 - デフォルト設定 1035
 - デュレーション 1030
 - テンポ記号 1223, 1231, 1232
 - トリル 941-943
 - 入力 280, 284, 285
 - 太さ 1016, 1234
 - ヘアピン 776, 785, 786
 - ペダル線 1000, 1001, 1012, 1015, 1016
- エンドポイント 576
- インストゥルメント 580
 - エクスプレッションマップ 576, 581
 - カスタム 579
 - 声部 580
 - 設定 576, 578, 579
 - パーカッションマップ 576, 581
 - 符頭の括弧 926
 - プラグイン 567
 - 変更 580, 581
 - 保存 579
- 「エンドポイントの設定」ダイアログ 576
- 「エンドポイントの設定を保存」ダイアログ 579
- エンベロープ
- 強弱記号 521, 526

お

- 扇形連桁 690
- 角度 690
 - 作成 690
 - 方向 690
- 大きい
- 選択範囲 324
 - 拍子記号 (「大きな拍子記号」を参照してください) 符頭 902
- 大きな拍子記号 1256, 1258
- 小節番号 667
 - 垂直位置 1265
- オーギュメント 202
- 音程 202, 268, 631, 946
 - コード記号 251, 707
 - トリル 268, 946
 - 臨時記号 631
- オーケストラ
- キュー (「キュー」を参照してください)
 - 順番 113, 121, 133, 142
 - テンプレート 70, 71
 - 譜表のグループ化 71, 696
- オーケストレーション (「配置」を参照してください)
- オーディオ
- 書き出し 90, 91
 - 警告 51
 - ダイアログ 91
 - デバイスの設定 61
 - バッファサイズ 212, 213
 - ビデオ 154
 - ボリューム 154, 563
 - ミキサー 563
 - ミキサーの出力 576
 - リピート 556
- 「オーディオを書き出し」ダイアログ 91
- オートメーションレーン 531
- 一定ポイント 534
 - 強弱記号 (「強弱記号レーン」を参照してください) データの入力 533
 - テンポ 538, 540
 - 非表示 532
 - 表示 532
 - ベロシティ (「ベロシティレーン」を参照してください) 編集 536
 - ポイントの移動 536
 - ポイントのコピー 535
 - ポイントの削除 536
 - リニアポイント 534
- オープン
- 弦楽器 (「開放弦」を参照してください) スタイル 1260
 - 調号 853
 - 拍子記号 226, 1253
 - メーター 1260
- 大文字
- 譜表ラベル 1169
 - フロー番号 403
 - リピートマーカーのテキスト 1091
 - ローマ数字 403

- 置き換え
 - フォント 73
 - フロー見出し 388
 - マスターページ 369, 370
- オクターブ線 743
 - 位置 744, 746, 748, 750
 - 移動 746, 747
 - 外観 744
 - 角度 745, 746
 - 記号 427
 - 組段区切り 749
 - 形式設定 427
 - 削除 749
 - 浄書オプション 744
 - 浄書モード 749
 - スタックの順番 751
 - 選択 323
 - タイプ 259, 743
 - タッキングインデックス 750
 - デフォルト設定 744
 - 長さ 744, 747
 - 入力 257, 259, 261, 262
 - 配置 748
 - パネル 262
 - ハンドル 744, 747, 749, 750
 - フィルター 328
 - フック 750
 - 譜表に対する位置 332
 - フレーム区切り 749
 - ポップオーバー 257, 259, 261
- オクターブの移調 203, 206
 - オクターブ線 259, 743
 - 音部記号 257, 736
 - キュー 753, 757
- オクターブの均等な分割 860
- オクターブの分割 860
 - EDO 860
 - 移調 206
 - カスタム 868
 - 再生 874
 - 調性システム 862, 868
 - 変更 863, 868
- オクタトニックコード記号 252
- 押さえるピッチ 928
 - ハーモニクス 932
- オシニア譜表 1179
 - 移動 1181
 - ガイド 1179
 - 組段オブジェクト 1190
 - サイズ 1182
 - 再生 1179
 - 削除 1184
 - 小節線 1185
 - 垂直方向のスペーシング 444, 462
 - 追加 1180
 - 非表示 1184
 - 表示 1184
 - 譜表のスペーシング 444, 462
 - 譜表冒頭部 1183
 - 譜表ラベル 1185, 1186
 - 余白 1182
- 音を消した音符（「デッドノート」を参照してください）
- オプション
 - 音符 164
 - 音符入力 167
 - 環境設定 61
 - 再生 509
 - 浄書 362
 - ズーム 51, 53, 337
 - ダイアログ 39
 - ツールバー 42
 - テキストの形式設定 316, 420
 - トランスポート 42, 43
 - ページサイズ 619
 - レイアウト 106
 - ワークスペース 42, 43
- オプションを表示 52, 621
 - 印刷 621
 - ウィンドウ 58
 - 音域外の音符 917
 - 音符 497, 1309
 - ガイド 339
 - 書き出し 621
 - 楽譜の移動 335, 336
 - 楽譜領域 46, 53, 59
 - ギャラリービュー 52, 59
 - キュー 768, 769
 - 休符 1124
 - 組段区切りガイド 473
 - コード記号 717, 721
 - コメント 346, 351
 - コンデンス 497
 - 再生ヘッド 549, 567
 - システムトラック 326
 - 小節番号 662
 - 小節リピート記号 1102
 - ズーム 53, 337, 517
 - スラッシュ領域 1110
 - 声部 1308, 1309
 - 全画面表示モード 59
 - タイプ 52
 - タイムコード 567
 - 打楽器のレジェンド 1301
 - タブ 45, 54, 55
 - ディヴィジ 1198
 - トラック 517, 547
 - トランスポート 567
 - ハーブのペダリング 917
 - パネル 23, 49
 - 「ビデオ」ウィンドウ 153
 - 拍子記号のガイド 1265
 - フレーム区切りガイド 471
 - ページ配置 51, 53, 59
 - ページビュー 52, 59
 - 変更 51
 - ミキサー 565
 - ユニゾン範囲 1198
 - レイアウト 45, 54
- オフセット
 - 演奏技法 1022
 - 歌詞のライン 886, 888
 - 声部列 1311
 - タイムコード 150, 1080
 - ビデオ 150
 - プレーヤーラベル 493

オフセット (続き)

フレット番号 729, 730, 732
リセット 334

オプティカルスペーシング

譜表をまたぐ連桁 684

重いスウィング 557, 561

親指 812

入力 219
フィンガリング 812, 817
ポップオーバー 218, 219

折りたたみ (「展開」を参照してください)

折りたたみ式ドラッグ 467

オルタードユニゾン 627

外観 628
形式設定 628
符尾の分割 627

オルタレーション

コード記号 251, 707
コードダイアグラム 726
ジャズの装飾音 270

音域

移調 205, 742
オクターブ線 261, 262, 743
音部記号 260, 736, 742
音符入力 178
キュー 757, 761
プラグイン 508
変更 203, 205, 206

音価 (「音符のデュレーション」を参照してください)

音価が指定されたトレモロ (「トレモロ」を参照してください)

音価が指定されないトレモロ (「トレモロ」を参照してください)

音楽記号 427

ダイアログ 427
トークン 402
編集 427

音楽フォントダイアログ 413

オンコード 251, 256, 707

入力 251, 256

音節

位置 884
タイプ 879

音程

移調 202, 206
オクターブの分割 860
音程追加のポップオーバー 202
ギターバンド 970, 973
コード記号 251, 707
自動保存 93
装飾音 937
トリル 268, 944-946, 948
ハーモニクス 928-930, 932, 935
フレット楽器 130
ベンディング 970

音程追加のポップオーバー 202

音符の移調 205
音符の追加 201

音符 37, 898

アーティキュレーション 159, 635, 637
アルペジオ記号 (「アルペジオ記号」を参照してください)
アンスケール 1278

音符 (続き)

移調 202, 203, 205, 206, 516, 857

異名同音の表記 204

入れ替え 342

上書き 600, 601

演奏されるデュレーション 600, 601

音域 178, 203, 205

音域外 917, 1208

音程追加のポップオーバー 202

音符のスペーシング 430, 432

外観 160, 898, 1206

角括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください)

囲み線 1209, 1210

重ね合わせ 180

歌詞を整列 888

カスタム尺度のサイズ 912

加線 914

加線の非表示 914

括弧 918, 919

カラー 497, 917, 1309

記号 427

既存の音符への追加 201

ギターバンド 277, 278, 970

記譜されたデュレーション 38, 600

キュー 752, 764

休符 1121

強弱記号 244, 521, 771 (「強弱記号レーン」.も参照)

強弱記号の整列 773

金管楽器のフィンガリング 822

グリッサンドライン (「グリッサンドライン」を参照してください)

グループ化 676, 692

形式設定 427

弦の指示記号 (「弦の指示記号」を参照してください)

弦のフィンガリング 823, 824, 916

ゴーストノート 919

コード 197

コードダイアグラム 726

コピー 340, 341, 635

コンデンシング (「コンデンシング」を参照してください)

再クオンタイズ 210

サイズ 912

再生 582

再生モード 513

削除 339, 517, 1271

試聴 330, 331

ジャズアーティキュレーション (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)

縮尺サイズ 912

順番 1311

浄書オプション 898, 1206

水平方向のスペーシング (「音符のスペーシング」を参照してください)

ステムレット 688

スペーシング (「音符のスペーシング」を参照してください)

スラー 159, 1136

スラッシュ 1109, 1312

スラッシュ符頭 1313

スラッシュ領域 1112

声部 183, 344

声部への貼り付け 340

音符 (続き)

選択 322-324, 330, 334
 選択解除 330
 装飾音符 197, 837
 挿入モード 187
 タイ 38, 196, 637, 1239, 1240
 第2連桁 686
 第3線 1215
 タイプ 159
 打楽器キット 188, 1305
 タブ譜 1206, 1208
 デッドノート 1209
 デフォルト設定 898, 1206
 デュレーション 159, 179, 180, 515, 600
 デュレーションの固定 181
 デュレーションをロック 205
 点線 182, 676, 692
 ドラムエディター 514
 トリル 941
 トリルの音程 946
 トレモロ (「トレモロ」を参照してください)
 長さ 180, 515
 ナビゲーション 334
 入力 28, 171, 176, 181, 182, 187, 188, 197, 513
 ハープのペダリング 991, 992
 ハーモニクス (「ハーモニクス」を参照してください)
 倍音 928
 配置 773
 範囲 917
 ピアノロールエディター 512-516
 ピッチ 203, 205
 ピッチ依存の符頭のデザイン 902
 ピッチの変更 203, 205
 非表示 1112
 表記 194, 204
 表示 1112
 表示位置の移動 (「音符のスペーシング」を参照してください)
 拍子記号 1260
 フィルター 328, 329
 フォント 413
 複声部の状況 1312
 符鉤 427
 付点 182, 915, 916
 符頭セット 898
 符頭のデザイン 899, 904, 907
 符尾 1218
 符尾の長さ 1217
 符尾の非表示 1218
 符尾の方向 344, 1213, 1215, 1216, 1305
 符尾の方向の変更を解除 1217
 譜表のスペーシング 444
 プロパティ 161
 別のインストゥルメントへの移動 1293
 別の譜表に移動 342, 683
 ベロシティ 528 (「ベロシティレーン」も参照)
 編者注 918, 919
 編集 157, 160, 361
 ベンディング 279, 970
 他の譜表まで伸ばす 342, 683
 補助 947
 ホルンの支管の指示記号 822
 ミュート 554

音符 (続き)

ライン (「ライン」を参照してください) (「グリッサンドライン」も参照)
 リズムグリッド 170
 リズム上の位置の変更 514, 913, 1280
 リセット 601
 臨時記号 159, 192
 連桁 675, 678
 連桁の解除 678
 連符 1276, 1278
 ロール (「トレモロ」を参照してください)
 音部記号 736
 位置 737, 740
 移調楽器 99, 740-742
 移動 737, 738, 740
 音部記号の変更におけるサイズ 739
 ガイド 337, 741
 間隔のスペーシング 737
 記号 427
 キュー 752, 767
 形式設定 427
 削除 739
 装飾音符 740
 タイ 1239
 タイのつながり 737
 タイプ 257
 調号 854
 入力 257, 259, 260
 パネル 260
 非表示 260, 741
 表示 741
 フィルター 328
 ポップオーバー 257, 260
 音部記号パネル 259, 260
 音符ツールボックス 157
 はさみ 1242
 音符と休符の色 917, 1124
 印刷 607, 621
 音域外の音符 917, 1205
 書き出し 610, 621
 キュー 769
 休符 1124
 コンデンシングされた楽譜 497
 声部 1309
 タブ譜 1205
 ユニゾン範囲 1198
 音符入力 171, 176, 513
 MIDI 208, 209, 212
 オプション 39
 音域の選択 178
 音符の再生 330
 音符の追加 201
 音符のピッチ変更 205
 開始 174
 キャレット 171, 175
 休符 1121
 コード 197
 声部 183
 装飾音符 197
 挿入モード 171
 タイ 196
 打楽器キット 188-190
 タブ譜 191

- 音符入力 (続き)
 - デュレーションをロック 205
 - 入力と編集 168
 - ピッチ 178
 - ピッチの入力 178
 - 非録音時の MIDI 入力データを記録 209
 - 複数の譜表 175, 186
 - 符尾の方向 190
 - マウス入力 179
 - リズムグリッド 170
 - 連符 199
 - 和音の入力 171
 - 音符をミュートする 330
 - 「音符入力オプション」ダイアログ 167
 - コードダイアグラム 726
 - 音符の括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
 - 音符のグループ化 37, 692
 - 音符入力 37, 38
 - 休符 37
 - 弱起 (アウフタクト) 1255
 - タイ 196
 - 拍子記号 38
 - ヘミオラ 181
 - 変更 181
 - メーター 676, 693
 - 音符の再クオンタイズ 210
 - 音符のスペーシング 203, 354, 430–432, 514, 600, 913
 - ガイド 337, 432
 - 歌詞 431, 432, 875
 - ギターバンド 973
 - ギャレービュー 52
 - 組段 436
 - 個々の音符 435, 437
 - 小節線 651
 - 装飾音符 837, 839
 - ダイアログ 432
 - デフォルト 430
 - ハンドル 435, 437
 - フィルター 328
 - 復元 439
 - 別のレイアウトへコピー 500
 - 変更 430, 432, 435
 - 変更の削除 434
 - 密度 436
 - 有効化 354
 - リセット 434
 - 両端揃え 436
 - レイアウトオプション 106, 431
 - 「音符のスペーシングの変更」ダイアログ 432
 - 音符のデュレーション 159, 600
 - 強制 181
 - クオンタイズ 84
 - 選択 179
 - テンポの等式 232
 - 非表示 159
 - 表示 159
 - 符点の統合 915
 - 変更 180
 - 音符のピッチ変更 205
 - 音符の表記 204
 - 書き換えの無効化 167
 - 音符の譜表 1205
 - 非表示 1207
 - 表示 1207
 - 音符パネル 156, 159
 - 音符のデュレーションをさらに表示 159
- ## か
- カーソル
 - 歌詞 298, 882
 - キャレット 171
 - コード記号 253
 - テキスト 401, 406
 - フィンガリング 216
 - カード
 - タイムコード 103
 - 展開矢印マーク 50
 - プレーヤー 96
 - フロー 103
 - レイアウト 100
 - カーニング 627
 - カーブ方向
 - ギターバンド 332
 - スラー 1132, 1134, 1137, 1151, 1152
 - 装飾音符 1134
 - タイ 1236, 1237, 1249
 - 符頭の括弧 923, 926
 - ベンディング 974
 - カーリユーフェルマータ 844
 - 外観
 - デフォルト設定 106, 164, 362
 - リセット 333
 - 改行
 - プレーヤーラベル 496
 - リピートマーカー 1094
 - 開始 174
 - Hub 69
 - MIDI 録音 208
 - 音符入力 174, 176
 - 再生 550
 - タイムコードの値 1080
 - プレーヤー 46
 - プロジェクト 25, 46, 70
 - 領域 46
 - ワークスペース 54
 - 開始位置
 - ビデオ 152
 - 開始記号
 - 外観 1013
 - テキスト 1018
 - ペダル線 1012, 1017, 1018
 - 開始ページ
 - 左側のページ 449
 - ページ番号 449, 989
 - 開始領域 46
 - 回転
 - スラー 1146
 - ヘアピン 787
 - ガイド 337
 - 印刷 607, 621
 - 演奏技法 1027
 - オッサ譜表 1179, 1181
 - 音部記号 741

ガイド (続き)

音符のスペーシングの変更 432
書き出し 610, 621
キュー 752, 756, 768, 769
強弱記号 783
組段区切り 471, 473
コード記号 706, 717, 719
コンデンシング方法の変更 487
小節 645
小節線 645, 651, 700
大括弧と小節線の変更 700, 701
打楽器のレジェンド 1301
長休符 1130
調号 853
テンポ記号 1225, 1227, 1228
ハーブのペダリング 991, 993, 994
非表示 339
表示 339
拍子記号 1265
副括弧 701
譜表 1177
譜表の変更 1175
フレーム区切り 471
プレーヤーラベル 495
余分な譜表 1175
連符 1283, 1286
ガイド小節番号 662
回復 209
音符 209
バックアップ 94
ファイル 92-94
開放弦 928
外観 826
弦の指示記号 826
コードダイアグラム 725, 730
ハーモニクス 928
ピッチ 130, 131
カウント
tacet al fine 1128
位置 1118
移動 1106, 1117
歌詞 882
休符 1128
弱起 (アウフタクト) 1255
小節 1128
小節番号 671-673, 1255
小節リピート記号 1102-1105
スラッシュ符頭 1115-1117
タイムコード 1079
長休符 1127-1129
譜表に対する位置 1118
フレーム 1079
ページ番号 404
リピート括弧 1083
リピートセクション 671
カウントイン
デュレーション 211
メトロノームクリック 211
替え指のフィンガリング 801
位置 802
ハンドル 802

書き換え

音符 194, 204
キューに含まれる音符 760
コード記号 723, 724
臨時記号 204
書き出し
MIDI 85, 86
MP3 ファイル 90, 91
MusicXML ファイル 80, 1089
PDF 610
PNG 610
SVG 610
TIFF 610
WAV ファイル 90, 91
エクスペリションマップ 593
オーディオ 90, 91
音符の色 621
ガイド 621
書き出し形式 610
カスタムの演奏技法 1044
カラーのグラフィック 614
キーボードショートカット 62
コメント 348, 351, 621
再生テンプレート 575
白黒のグラフィック 614
透かし 621
声部の色 621
タイム 621
打楽器キット 1290
注釈 621
調性システム 862
テンポトラック 89
トンボ 621
パーカッションマップ 598
配置 615
パス 611
日付 621
ファイル名 612
符尾 90, 91
フレット楽器のチューニング 132
フロー 77
ページ範囲 609, 615
マスターページのセット 367
リピート 556
レイアウト 610
枠線 621
「書き出し用ファイル名」ダイアログ 612
かき鳴らす
フィンガリング 816
描く 52, 336, 503
オートメーション 533
音符 513
強弱記号 523
テンポ 538
ベロシティ 530
角括弧 694
アルペジオ記号 953
アンサンブルタイプ 71, 696
外観 699, 700
ガイド 337, 701
カスタムのグループ化 700, 701
記号 427
グループ化 133, 356, 695, 700

角括弧 (続き)

形式設定 356, 427
削除 704
終端 700
小節線 652
小副括弧 699
第2括弧 697, 698
デザイン 699
テンプレート 71
長さ 703
入力 701
羽根 700
非表示 698
表示 698
拍子記号 1256, 1258, 1265
フィンガリング 813
副括弧 356, 697, 698
符頭 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
譜表のスペーシング 444, 462
プレーヤーグループ 133, 653
プロジェクトテンプレート 71
分割 701
リセット 704
レイアウト 695
連符 1283

楽章 35, 135

書き出し 77
タレット 474
追加 27, 136
フロー見出し 386
分割 345
ページ上に複数 449
読み込み 75, 76

角度

扇形連桁 690
オクターブ線 745, 746
グリッサンドライン 962, 966, 967
弦のシフト指示 823
スラー 1146
タイ 1242
トレモロ 1270
フィンガリングスライド 818
ヘアピン 787
ライン 293, 1046, 1052, 1054
連桁 681, 690
連符の大括弧 1284

確認

コメント 346

確認の臨時記号

非表示 632
表示 632

楽譜

記号 (「音楽記号」を参照してください)
組段に固定 472
コンデンシング (「コンデンシング」を参照してください)
配置 (「配置」を参照してください)
フレームに固定 470
フレームに割り当て 397
編集 168

楽譜領域 19, 46

イベントディスプレイ (「イベントディスプレイ」を参照してください)
楽譜の移動 335, 336
ズームオプション 53, 337
選択範囲の作成 324
パネル 23
ビューの選択 59
複数のウィンドウ 58
フロー見出しエディター 386
ページ配置 53
マスターページエディター 374
レイアウトを開く 45, 54

囲み線

弦の指示記号 826
小節番号 658, 659
線の太さ 659, 1066
タブ譜 1206, 1209, 1210
テキスト 424, 425
フィンガリング 807
余白の値 659, 1066
リハーサルマーク 1064-1066

重ね合わせ

アーティキュレーション 639
音符 180
角括弧 701, 703
キュー 764
小節線 655
スラー 1156
スラッシュ領域 1111
タイ 1236
中括弧 701, 703
テキスト 424
臨時記号 626, 627

加算的な拍子記号 1253

歌詞 875

位置 875, 876, 884
移動 885, 886
延長線 (「歌詞の延長線」を参照してください)
オフセット 886, 888
音節のタイプ 298, 879
音符のスペーシング 431, 432, 875
外観 876
カウント 882
歌詞番号 894, 895
キュー 763
コーラス 297, 877, 878, 892
コピー 880
サイズ 896
削除 880
斜体 896
浄書オプション 876
ズーム 882
スペーシング 431, 432, 884, 886, 888
選択 323, 877
タイプ 297, 877, 879
テキスト 882
デフォルト設定 876
日本語の歌詞でのスラー 897
入力 296, 298
配置 875, 888
ハイフン (「歌詞のハイフン」を参照してください)
ハンドル 884, 886, 889, 890

歌詞 (続き)

フィルター 328, 876, 877
フォントスタイル 896
譜表に対する位置 893, 894
変更 878, 882, 892
編集 882
ポップオーバー 296-298
メリスマ様式 296, 298, 884, 889
訳詞 297, 877, 878, 892
ライン (「歌詞のライン」を参照してください)
ライン番号 891-893

リセット 888

歌詞の延長線 879, 889

移動 889
入力 296, 298
ハンドル 889, 890

歌詞のハイフン 879, 889

移動 889
入力 296
ハンドル 889, 890

歌詞のライン 297, 875, 877

位置 884, 886
移動 886
オフセット 886, 888
コピー 880
削除 880
番号 891, 892
変更 878, 892, 893
リセット 888

歌詞番号 894

歌詞のライン番号 891
非表示 895
表記法 895
表示 895

頭文字大文字

譜表ラベル 1169
リピートマーカのテキスト 1091

カスタム

演奏技法 (「カスタムの演奏技法」を参照してください)
エンドポイント設定 578, 579
オクターブの分割 868
音符サイズ 912
記号 427
コードダイアグラム 729
コンデンシング 491
コンデンシンググループ 485
コンデンシング結果 488
再生テンプレート 567, 570, 573
小節線の結合 653-655
スコアレイアウト (「レイアウト」を参照してください)
大括弧のグループ化 700
中括弧のグループ化 700
調号 863, 865, 872
調性システム (「カスタムの調性システム」を参照してください)
トリルの速さ 951
符頭 (「カスタムの符頭セット」を参照してください)
譜表サイズ 461
譜表のグループ化 700
フロー見出し 388
ページサイズ 618

カスタム (続き)

マーカー 1075
マスターページ 368-370
用紙サイズ 618
リズムフィールド 560, 561
リピート括弧 1088
リピートマーカー 1093
臨時記号 863, 864, 869
レイアウト 109

カスタムスコアレイアウト (「レイアウト」を参照してください)

カスタムの演奏技法 1035

書き出し 1044
再生 1044
作成 1043
デザイン 1038
デフォルトとして保存 1044
入力 284, 285
編集 1038

「カスタムのコンデンシングのグループを編集」ダイアログ 485

カスタムの調性システム 862-864, 869

オクターブの分割 868
書き出し 862
再生 874
作成 862, 863
調号 865, 872
パネル 221
編集 862, 866
読み込み 861
臨時記号 864, 869

カスタムの符頭セット 904

外観 907
デザイン 904, 907
編集 904, 907

「カスタムの譜表サイズ」ダイアログ 461

下線

テキスト 316, 415, 418, 420
フィンガリング 807

加線 898, 914

幅 914
非表示 914
臨時記号 626

画像

書き出し 610
入力 410
ビデオ 149
フレーム 409

画像解像度 620

肩のオフセット

スラー 1150
タイ 1243, 1244
符頭の括弧 926

楽器の持ち替え 110

インストゥルメントの変更 117
音符の入力 176
追加 119
譜表の表示 59
ラベル 1167

楽器編成リスト 401, 833

追加 835

- 楽曲フレーム 393
 - 上書き 393
 - 順番 398
 - セレクター 396
 - 選択 392
 - 入力 390
 - フレームチェーン 395, 397, 398
 - プレーヤー 399
 - フロー 399
 - マスターページ 394
 - 密度 466
 - 余白 454, 466
 - 両端揃え (垂直方向) 462
 - レイアウト 394
- 楽曲フレームチェーン 395
 - セレクター 396
 - パート形式のコピー 498, 500
 - フレームに割り当て 397
 - フレームのリンクの解除 398
 - プレーヤー 399
 - フロー 399
 - マスターページ 394, 395
 - レイアウト 394, 395
- 括弧
 - オクターブ線の数字 743
 - ギターバンドリリース 973
 - 強弱記号 777
 - 弦のシフト指示 916
 - ゴーストノート (「括弧付きの符頭」を参照してください)
 - 小節リピート記号のカウント 1105
 - スラッシュ領域のカウント 1117
 - 打楽器の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
 - 追加 307, 309
 - テンポ記号 1226, 1227
 - トリル 936
 - ハーモニクス 931
 - 反復 306, 308
 - 拍子記号 226, 229, 1261
 - フィンガリング 216, 218, 811
 - 符頭 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
 - ペダル延長記号 1017
 - メトロノームマーク 1226, 1227
 - リピート回数 1083
 - 臨時記号 625, 631, 931
- 括弧付きの符頭 918, 919, 1209
 - 移動 924-926
 - カーブ 926
 - 外観 923
 - 間隔 919
 - 形式設定 925, 926
 - 形状 923, 926
 - ゴーストノート 919
 - コード 918, 919, 922
 - 浄書オプション 919
 - スラー 924
 - タイ 924
 - タイのつながり 921
 - タイプの変更 919
 - 打楽器 919
 - タブ譜 918, 919
 - タブ譜のタイ 921, 1235
- 括弧付きの符頭 (続き)
 - デフォルト設定 919
 - 長さ 923, 925
 - 入力 919
 - 幅 926
 - ハンドル 923, 925
 - 非表示 919
 - 描画曲線 919, 923
 - 表示 919
 - フォントグリフ 919, 923
 - 分割 922
- 合唱
 - 演奏技法 283
 - 歌詞 875
 - 歌詞番号 894
 - 分割の矢印 1199
- 合唱のテンプレート 70
 - 譜表のグループ化 71, 696
- カットコモンタイム 851, 1253
- カテゴリ
 - テンプレート 70, 71, 696
- カラー
 - 「Dark」のテーマ 60
 - 「Light」のテーマ 60
 - ウィンドウ 60
 - 音域 917
 - キュー 768, 769
 - 休符 1124
 - グラフィック 614
 - コード記号領域 721
 - コードダイアグラム 728, 730
 - コンデンスされた楽譜 497
 - 小節リピート記号 1102
 - 白黒 614
 - スラッシュ領域 1110
 - 声部 1308, 1309
 - タブ譜 917, 1205, 1208
 - テキスト 316, 415, 418, 420
 - ユニゾン範囲 1198
- カラー領域 519, 721, 769, 1102, 1110
 - 印刷 621
 - 書き出し 621
 - 強弱記号レーン 521
 - タイムトラック 538, 540
- 軽いスウィング 557, 561
- 間隔
 - アーティキュレーション 640
 - アイテムの周囲 (「背景の塗りつぶし」を参照してください)
 - オッサア譜表 444, 462
 - 音符 (「音符のスペーシング」を参照してください)
 - 角括弧 699
 - 画像 620
 - 括弧付きの符頭 919
 - ギャラリービュー 464
 - クオンタイズ 84
 - 組段 1090
 - 組段のインデント 1190
 - 弦の指示記号 826
 - コーダ 438, 1095, 1190
 - 小節線 426, 777, 1026, 1062
 - スラー 1155
 - タイ 1248

間隔 (続き)

- タセットバー 1128
- タレット 476
- タブ譜 1206
- 中括弧 699
- 長休止符 1128
- 調号 855
- テキスト 415, 416, 418
- テキストの衝突回避 424
- テンポ記号 1233
- ハーブのペダリング 992
- 背景の塗りつぶし (「背景の塗りつぶし」を参照してください)
- パラグラフ 415, 416
- 拍子記号 1252, 1253
- フィンガリングスライド 818
- 譜表 444, 462, 1090
- フロー見出し 383, 451
- ヘアピン 788
- ペダル線 1010, 1011
- ライン 1049
- リズムグリッド 51, 170

環境設定

- MIDI 213
- キーボードショートカット 62, 66
- サステインペダルコントローラー 213
- 選択ツール 52
- 存在しないフォント 73
- テーマ 60
- ペダル線 213
- マウス入力 169

「環境設定」ダイアログ 61

き

キークリック (「演奏技法」を参照してください)

キースイッチ

- エクスプレッションマップ 582, 583
- パーカッションマップ 594

キーボード

- MIDI 167
- 音符の入力 171
- キーボードショートカットマップ 64
- コード記号の入力 167
- レイアウト 67

キーボードショートカット 16, 62

- MIDI 66
- アーティキュレーション 215
- キーボードレイアウト 67
- ギャラリービュー 59
- 言語 67
- 検索 64, 65
- 検出 65
- 再生 550
- 削除 67
- ソロ 553
- 定義 61
- テキストの形式設定 316, 420
- ナビゲーション 48, 335, 336
- ページビュー 59
- マップ 64
- ミュート 553

キーボードショートカット (続き)

- リセット 67
- 割り当て 66

基音

- 弦のピッチ 130
- ハーモニクス 928

記号

- 印刷 621
- 演奏技法 1021
- 楽譜 427
- キャレット 171
- コード 1092
- コード 706, 725
- 小節休止符 1130
- 小節リピート記号 1099, 1107
- セーニョ 1092
- 装飾音 936
- ダイアログ 427
- 注釈 621
- 調号 (「調号」を参照してください)
- 拍子記号 (「拍子記号」を参照してください)
- 吹き出し (「コメント」を参照してください)
- ペダル線 1012
- 編集 427

奇数ページのレイアウト

- 印刷 607, 616
- 冊子印刷 616

ギター

- 音域外の音符 917
- 音符入力 191
- 音符の弦の変更 1208
- 開放弦のピッチ 131
- かき鳴らす 816
- 弦楽器 131
- 弦の指示記号 (「弦の指示記号」を参照してください)
- コード記号 (「コード記号」を参照してください)
- コードダイアグラム (「コードダイアグラム」を参照してください)
- スライド 818
- タブ譜 (「タブ譜」を参照してください)
- チューニング 99, 118, 130, 131
- デッドノート 1209
- ハーモニクス 928, 930, 932
- フィンガリング 812
- バンド (「ギターバンド」を参照してください)

ギターバンド 844, 970, 973

- 位置 973
- 移動 976
- 延長 970, 973, 977
- 音程 970, 973
- 外観 973
- 形状 976
- 浄書オプション 973
- スペーシング 973
- セグメント 977
- ダイブ 974
- 高さ 973
- タブ譜 1206
- デフォルト設定 973
- 長さ 976
- 入力 267, 269, 277-279
- ハンドル 977
- 太さ 973

- ギターバンド (続き)
 - ベンディング 970
 - 方向 332, 974
 - ホルドの線 973
 - ポップオーバー 269, 277, 278
 - ラン 970
 - リリース 970, 973
 - 臨時記号 975
- キット (「打楽器キット」を参照してください)
 - 機能
 - キーボードショートカット 65
 - キーボードショートカットの削除 67
- 記譜オプション 39, 164
 - 休符 1123
 - コンデンシング 479, 488
 - 小節線 649, 650
 - 声部 1309
 - ダイアログ 164
 - 打楽器キット 1292
 - デフォルトとして保存 164
 - 変更 166
 - 連桁 676
- 「記譜オプション」ダイアログ 164
- 記譜記号
 - 位置 361, 362
 - 外観 160, 361, 362
 - キュー 752, 753, 763
 - コピー 340, 341
 - ズームオプション 53, 337
 - スタックの順番 750
 - 設定 106, 109, 164, 362
 - 選択 323, 324
 - 打楽器キット 1293
 - タッキングインデックス 750
 - 入力 36, 214
 - プロパティ 160, 161
 - 変更 332
 - 編集 361
 - ポップオーバー 36
- 記譜されたデュレーション 600
 - 演奏されるデュレーション 600
 - 再クオンタイズ 210
 - ツール 503
- 記譜ツールボックス 162
- 記譜に関するリファレンス 623
- 記譜パネル 156, 164
- 記譜モード 21, 156
 - 「移調」ダイアログ 206
 - 音符入力オプション 167
 - 音符の選択 334
 - 音符の入力 171
 - ガイド 337
 - 記譜オプション 164
 - 記譜記号の入力 214
 - キャレット 174
 - 切り替え 156
 - システムトラック 325
 - 選択 322-324, 327
 - ツールボックス 50, 156, 157, 162
 - テキストエディター 316
 - ナビゲーション (「ナビゲーション」を参照してください)
 - 入力と編集 168
- 記譜モード (続き)
 - パネル 49, 156, 159, 160, 164
 - ポップオーバー 36
- キャップ 1029, 1046
 - 演奏技法の延長線 1030, 1033
 - 変更 1033, 1058
 - 矢印 1033, 1058
 - ライン 1046, 1048
- ギャレービュー 52, 59
 - インストゥルメントの変更 117
 - 小節番号 52
 - 譜表のスペーシング 462, 464
 - 譜表ラベル 52
 - フロー 345
 - ページのドラッグ 336
 - への変更 59
- キャレット 171
 - 移動 170, 175, 1277
 - 延長 175, 186
 - コード 31, 171, 197
 - スラッシュ 185
 - スラッシュ付き声部 171
 - 声部の指示 171, 183, 780
 - 前進 175
 - 装飾音符 171, 197
 - 挿入モード 171, 187
 - タイプ 171
 - 打楽器キット 188
 - タブ譜 171
 - デュレーションをロック 171
 - 入力と編集 168
 - 複数の譜表 175, 186
 - 無効化 174
 - 有効化 174
 - リズムグリッド 170
- キュー 752
 - アーティキュレーション 763
 - 位置 752, 754, 755, 760
 - 移調 761
 - 移動 754, 755, 758, 762
 - インストゥルメント 319
 - インストゥルメントの移調 761
 - インストゥルメント名 761
 - 演奏技法 763
 - 音域 757
 - 音部記号 752, 767
 - 音符の書き換え 760
 - 外観 760
 - ガイド 337, 752, 756, 768, 769
 - 重ね合わせ 764
 - 歌詞 763
 - 休符 164, 752, 765, 766
 - 強弱記号 763
 - 強調表示 768, 769
 - サイズ 752
 - 削除 759
 - 浄書オプション 753
 - 小節休符 164, 766
 - 垂直位置 753, 754
 - スペーシング 430, 432
 - 声部 764
 - 装飾音 763
 - タイ 765

キュー (続き)

- 提案 320
 - テキスト 763
 - デフォルト設定 753
 - 内容 760
 - 長さ 759
 - 入力 318, 320, 321
 - パネル 319-321
 - 非表示 756
 - 表示 756
 - 表示オプション 768, 769
 - 表示される記譜記号 752, 763
 - フィルター 328
 - 複数 764
 - 符尾の方向 764, 765
 - 譜表 460
 - 譜表上の位置 755
 - ポップオーバー 318, 319
 - 無音程楽器 753
 - ラベル (「キューラベル」を参照してください)
 - リズム (「リズムによるキュー」を参照してください)
 - リズムによるキューに変換 754
- 急激な増大を示すヘアピン (「広がり付きのヘアピン」を参照してください)
- 休止 844
- 位置 846
 - 移動 848, 849
 - 同じ位置に複数 847
 - 外観 332
 - 記号 427
 - 形式設定 427
 - 再生 844
 - 削除 339
 - 浄書オプション 846
 - 小節線 850
 - 選択 323
 - タイプ 263, 844
 - 中間休止記号 (「中間休止記号」を参照してください)
 - デフォルト設定 846
 - デュレーション 332
 - 入力 263, 265, 266
 - パネル 266
 - 1つの譜表 847
 - フィルター 328
 - フェルマータ 844, 849
 - 譜表に対する位置 332, 846
 - ブレス記号 (「ブレス記号」を参照してください)
 - 変更 847
 - ポップオーバー 263, 265
 - リンク 847

旧バージョン 73

キューパネル 319, 320

休符 37, 1120

- tacet al fine 1128
- 暗黙 1120, 1121, 1123
- 位置 1120
- 移動 430, 1130
- 埋める 180
- カラー 1124 (「音符と休符の色」も参照)
- 記号 427
- 記譜オプション 1123
- キュー 752, 765, 766
- 空白の小節 1125

休符 (続き)

- グループ化 (「音符のグループ化」を参照してください)
 - 形式設定 427
 - コンデンシング 479, 481, 488
 - 削除 180, 1124
 - 浄書オプション 1123
 - 小節休符 (「小節休符」を参照してください)
 - 小節数のフォント 1129
 - ステムレット (「ステムレット」を参照してください)
 - 声部 1120, 1122, 1126, 1130
 - タイプの変更 1123
 - 打楽器キット 164
 - 長休符 1123, 1126-1128
 - デフォルト設定 1123
 - デュレーション 179
 - デュレーションの強制 181
 - 点線 164
 - 統合 164, 1122, 1126, 1127
 - 入力 157, 181, 194, 195
 - 配置 1120
 - 非表示 1113, 1124, 1125, 1127
 - 表示 1124, 1125, 1127
 - 復元 1124
 - 明示的 1120, 1121, 1123
 - 余白 765, 766, 1113
- 休符のグループ化 (「音符のグループ化」を参照してください)
- キューラベル 761
- 移動 762
 - オクターブの移調 753, 757
 - テキスト 761
 - 内容 761
 - 譜表に対する位置 332
 - 変更 762
- 強弱
- アーティキュレーション 634
 - 強弱記号 771
- 強弱記号 771
- poco a poco 790, 791
 - 位置 772, 773
 - 移動 526, 774, 775
 - 延長線 771, 783
 - 外観 772
 - ガイド 337, 783
 - 括弧 777
 - 記号 427
 - キュー 763
 - 強弱 771
 - 強弱のカーブ 798
 - 強度 332
 - 局部的 771
 - グループ化 793, 794
 - グループ化の解除 794
 - クレッシェンド (「段階的強弱記号」を参照してください)
 - 形式設定 427
 - 結合 771
 - コピー 779
 - 再生 551, 556, 780, 798
 - 再生時にミュート 554
 - 削除 779
 - サスティン楽器 798

強弱記号 (続き)

修飾語句 (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)
 終端の位置 776
 浄書オプション 772
 小節線 776
 小節リピート記号 1100
 スペーシング 791
 声部固有 247, 248, 521, 523, 780
 整列 776
 選択 323
 タイプ 244, 771
 打楽器キット 1294
 段階的 (「段階的強弱記号」を参照してください)
 デイミヌエンド (「段階的強弱記号」を参照してください)
 テキスト 785, 796
 デフォルト設定 772
 長さ 526, 775, 784
 ニエンテのヘアピン (「ニエンテのヘアピン」を参照してください)
 入力 244, 246-248
 背景 777
 背景の塗りつぶし 777, 778
 配置 773, 776, 793, 794
 パネル 248
 ハンドル 775, 783, 784, 787, 788
 非サスティン楽器 798
 ひと続きのヘアピン 786
 非表示 783
 ヒューマナイズ 521, 798
 表記規則 772
 表現テキスト (「強弱記号の修飾語句」を参照してください)
 広がり付きのヘアピン 789
 フィルター 328, 779
 フォントスタイル 796, 797
 譜表に対する位置 332
 ヘアピン (「ヘアピン」を参照してください)
 ベロシティー 528, 530 (「ベロシティーレーン」.も参照)
 変更 332
 編集 526
 ポップオーバー 244, 247
 余白 778
 リピート 556
 リンク 331, 794, 796
 リンクの解除 331, 796
 レーン (「強弱記号レーン」を参照してください) (「ベロシティーレーン」.も参照)
 強弱記号のグリフ 771
 フォントスタイル 797
 強弱記号の修飾語句 771, 782
 poco a poco 790
 中央揃え 791
 入力 244, 246-248, 782
 表示 783
 フォントスタイル 796, 797
 ヘアピン 791
 強弱記号パネル 246, 248
 強弱記号レーン 244, 521, 771
 一定ポイント 524
 非表示 523

強弱記号レーン (続き)

表示 523
 編集 526
 ポイントの移動 526
 ポイントのコピー 525
 ポイントの削除 528
 ポイントの入力 523
 リニアポイント 524
 強弱のカーブ 798
 強調記号 (「アーティキュレーション」を参照してください)
 強調表示
 印刷 621
 オートメーション 531
 書き出し 621
 キュー 768, 769
 強弱記号 521
 コード記号領域 719, 721
 コメント 351
 小節リピート記号 1099, 1102
 スラッシュ領域 1109, 1110
 テンポ変更 538, 540
 トラック 510, 521, 531, 538
 強度
 強弱記号 332
 許可 (「有効化」を参照してください) (「有効化」.も参照)
 曲線のアルペジオ記号 953
 再生 959, 960
 デュレーション 959, 960
 入力 269
 ポップオーバー 269
 局部的強弱記号 (「強弱記号」を参照してください)
 距離
 角括弧 697, 699
 キュー 754
 組段のインデント 1191
 小節番号 665
 中括弧 697
 テキストの枠線 407, 425
 符頭 684
 符尾 684
 譜表ラベル 1161
 リハーサルマークの囲み線 1066
 切り替え
 音符のスペーシングのハンドル 437
 音符を打楽器に 1293
 タブ 57
 ハンドル 361
 譜表のスペーシングのハンドル 464
 フレームハンドル 392
 モード 21
 レイアウト 18, 42, 54
 切り取り
 スラッシュ領域 1113
 タイのつながり 1242
 金管楽器
 演奏技法 283
 スライドポジション 823
 フィンガリング 800, 809, 822
 ホルンの支管の指示記号 809, 822

く

- 空白の小節
 - キュー 765
 - 休符（「小節休符」を参照してください）
 - 削除 643
 - 長休符 1126
 - 入力 240
 - 幅 644
- 空白の声部 1310
- 空白の譜表
 - タレット 474
 - 非表示 446, 462
 - 表示 446, 462
- 空白ページ 376, 448
 - 削除 39, 378, 420, 448
 - 挿入 447
 - 譜表のスペーシングの変更 464
- 空白領域（「背景の塗りつぶし」を参照してください）
- グルード
 - リピートマーカー 1091
- クエスチョンマーク
 - タブ譜 203, 1205
 - ハーモニクス 929
- クオリティー
 - 移調 206
 - コード記号 251, 256, 707, 718
- クオンタイズ
 - MIDI の読み込み 82
 - MIDI 録音 208
 - 再クオンタイズ 210
 - ダイアログ 84
 - 変更 210
 - 連符 84
- 区切り
 - 組段 471
 - タイのつながり 1242
 - 長休符 1126, 1130
 - フレーム 469
 - ページ 469
- 区切り用文字
 - 組段（「組段の分割記号」を参照してください）
 - コード記号 716
 - タイムコード 1079
 - 拍子記号 1252, 1261
 - フィンガリング 822
 - プレイヤー番号 494
- くさび形符頭 901
 - 表示 910
- くさび線 293, 1046
 - 入力 294
 - 非表示 1031
 - 表示 1030-1032, 1057
- 組み合わせ
 - 演奏技法の再生効果 589, 592, 599
 - トレモロ 599
- 組段
 - 移動 464, 467
 - インデント 438, 1163, 1173, 1190, 1191
 - インデントの変更 1191
 - 開始位置 438
 - 間隔 1090
 - 区切り（「組段区切り」を参照してください）
- 組段（続き）
 - 組段に変換 472
 - 形式設定 355
 - コードの間隔 1095
 - コンデンシングされた譜表（「コンデンシング」を参照してください）
 - 終了位置 438
 - 小節線 650
 - 小節の固定 457
 - 小節番号 657, 665, 666
 - 垂直位置（「組段のスペーシング」を参照してください）
 - スペーシング（「組段のスペーシング」を参照してください）
 - セクション 1090
 - 選択 323, 324
 - タイムコード 1080, 1082
 - 調性 859
 - ディヴィジ 1192, 1195
 - テキスト（「組段テキスト」を参照してください）
 - トラック（「システムトラック」を参照してください）
 - トリル記号 941
 - 配置設定 457
 - 幅 438, 455
 - 譜表サイズ 459
 - 譜表冒頭部 1183
 - 譜表ラベル 1162, 1163, 1191
 - プレイヤーラベル（「プレイヤーラベル」を参照してください）
 - 分割 1090
 - 分割記号（「組段の分割記号」を参照してください）
 - ページあたりの数を固定 457
 - 密度（「組段密度表示」を参照してください）
 - リピート小節線 649
- 組段オブジェクト 1188
 - 位置 1189, 1190
 - サイズ 443, 459, 460, 1173
 - テキスト 315
 - テンポ記号 1219, 1221
 - 拍子記号 1257, 1264
 - ライン 294
 - リハーサルマーク 1064, 1068
 - リピート括弧 1083, 1085
 - リピートマーカー 1095
 - レイアウト 1188
- 組段区切り 355, 440, 471
 - 演奏技法 1023
 - 演奏技法の線 1030
 - オクターブ線 749
 - ガイド 337, 471, 473
 - 強弱記号 788
 - 組段に変換 472
 - グリッサンドライン 966
 - コンデンシング 481
 - 削除 474
 - 自動的 457
 - 小節リピート記号 457, 472
 - スラー 1157
 - 挿入 472
 - タイ 1238
 - ディヴィジ 1192
 - フィルター 328
 - 譜表サイズ 459

- 組段区切り (続き)
 - 譜表のスペーシング 444
 - 譜表ラベル 1163
 - ヘアピン 788
 - 別のレイアウトへコピー 498-500
 - ライン 1048, 1054
 - リピート括弧 1087
- 組段テキスト 1188
 - 移動 423
 - 入力 315
 - 背景 426
 - 背景の塗りつぶし 426
 - 複数の位置 1189
 - 譜表からの位置 1188
 - 譜表に対する位置 332
 - 余白 425
 - 枠線 424
- 組段の形式設定 498
 - 別のレイアウトへコピー 500
- 組段の小節線 650
 - 角括弧 694, 699
 - 小副括弧 699
 - 第2括弧 697, 698
 - 中括弧 694, 699
 - 非表示 650
 - 表示 650
 - 副括弧 697, 698
- 組段のスペーシング 354, 444, 462
 - デフォルト設定 444, 462
 - ハンドル 437, 464
 - 変更 444, 464
 - 両端揃え 444, 462
- 組段の途中の間隔
 - コーダ 1090, 1095
- 組段の分割記号 1187
 - 記号 427
 - 形式設定 427
 - 幅 1188
 - 非表示 1187
 - 表示 1187
- 組段密度表示 436
 - クラシックギター (「フレット楽器」を参照してください)
- グラフィック
 - 演奏技法 1038
 - コード記号 712
 - ファイル (「グラフィックファイル」を参照してください)
 - 符頭 904, 907
 - 臨時記号 869
- グラフィックファイル 610, 620
 - 書き出し 610, 611
 - 画像解像度 620
 - カラー 614
 - 形式 409, 620
 - 白黒 614
 - ファイル名 612
 - フォント 614
- グラフィックフレーム 409
 - イメージの読み込み 410
 - 選択 392
 - 入力 390
 - ファイル形式 409
 - マスターページ 374, 409, 410
- クリック 210, 565
 - MIDI 録音 208
 - カウントイン 211
 - 再生 210, 538, 550
 - サウンド 538
 - 設定 210
 - ミキサー 563
 - 無効化 550
 - 有効化 550
- グリッサンドライン 962, 1046
 - 位置 962
 - 移動 966
 - 外観 963
 - 角度 967
 - ギターバンド (「ギターバンド」を参照してください)
 - 組段区切り 966
 - 形式設定 964
 - 再生 968, 991
 - 削除 339
 - 浄書オプション 963
 - スタイル 964
 - セグメント 966
 - 線のスタイル 964
 - タイのつながり 968
 - タイプ 269
 - テキスト 964, 965
 - デフォルト設定 963
 - 長さ 966
 - 入力 267, 269, 274, 275, 963
 - ハープのペダリング 968, 991
 - パネル 275
 - ハンドル 966, 967
 - 非表示 965
 - 表示 965
 - フィルター 328
 - 太さ 963
 - フレーム区切り 966
 - 変更 332
 - 方向 916
 - ポップオーバー 269, 274
- グリッド
 - インストゥルメントグループ 126
 - 間隔 129
 - グループ名の変更 127
 - 打楽器キット 1295, 1296
 - 譜表 1169, 1295
 - リズム 170
- グリフ
 - 演奏技法 1038
 - 音楽記号 427
 - 括弧付きの符頭 919, 923
 - 強弱記号 797
 - 形式設定 427
 - コード記号 712
 - トリル 936, 938
 - フォント 413, 797
 - 符頭 904, 907
 - ペダル線 1012
 - 臨時記号 204, 869
- グループ
 - インストゥルメント (「インストゥルメントグループ」を参照してください)
 - 演奏技法 1029, 1030, 1033, 1034

グループ (続き)

音符 (「音符のグループ化」を参照してください)
 角括弧 694, 700
 休符 (「音符のグループ化」を参照してください)
 強弱記号 793, 794
 コンデンシング 481, 485
 小節リピート記号 1107
 タブ 57, 58
 中括弧 694, 700
 譜表 652, 654, 655, 700, 701, 703, 704
 譜表のスペーシング 444, 462
 譜表ラベル 1161, 1167, 1170
 プレーヤー (「プレーヤーグループ」を参照してください)
 連桁 (「連桁グループ」を参照してください)

グループ化の解除

演奏技法 1035
 強弱記号 794

クレッシェンド (「段階的強弱記号」を参照してください)

グローバルなコード記号 706

入力 254

黒玉符頭 898, 899

け

警告

MIDI 入力 51
 オーディオエンジン 51
 異なるバージョンの Dorico 73
 存在しないフォント 73
 プレーヤーの削除 96, 113

形式 (「ファイル形式」を参照してください)

形式設定

アルペジオ記号 954, 955
 演奏技法 1035, 1038
 オルタードユニゾン 628
 音楽記号 427
 角括弧 356, 700
 記号 427
 キャップ 1033, 1058
 キューラベル 762
 強弱記号 785
 強弱記号のフォント 797
 組段 355, 498
 グリッサンドライン 964
 コード記号 709, 711, 712
 コードダイアグラム 729
 コードダイアグラムシェイプ 732
 コードダイアグラムのフォント 734
 小節線 356, 649
 小節番号 657, 662-664
 小節リピート記号 1105
 スラー 1145, 1147, 1154, 1155
 スラッシュ符頭 1110
 タイ 1242, 1247, 1248
 タイムコード 1076
 タチエット 474, 476
 タブ譜のフォント 1211
 段階的強弱記号 785
 中括弧 356
 ディヴィジ作成 1196
 ディヴィジの譜表ラベル 1200, 1202, 1203
 テキスト 316, 318, 412, 415-420

形式設定 (続き)

テンポ記号 1232-1234
 トレモロ 1273
 ニエンテのヘアピン 781
 ハンドル 361
 拍子記号 1266
 ファイル名 612
 フォント 412
 符頭 904, 907, 910
 符頭の括弧 923, 925, 926
 譜表ラベル 1161
 フレーム 355, 357, 498
 フレーム制限 410
 プレーヤーラベル 495
 フロー見出し 386
 ヘアピン 785
 ページ 440, 498-500, 833
 ページ形式設定 365, 376, 457
 ペダル線 1013-1016
 マーカー 1075, 1076
 前付け 833
 マスターページ 364, 374, 375, 387
 ライン 1032, 1033, 1057, 1058
 リピートマーカー 1091
 レイアウト 368, 498-500
 連符 1278, 1286

形式設定パネル 353, 355

傾斜

オクターブ線 745, 746
 ペダル線のフック 1014
 連桁 680, 842

形状

ギターバンド 976, 977
 コードダイアグラム 725, 728-730, 732
 小節番号の囲み線 658, 659
 スラー 1142-1147, 1150
 タイ 1242
 複数セグメントによるスラー 1144
 符頭 899, 902, 904
 符頭の括弧 923, 926
 フレーム 392
 リハーサルマークの囲み線 1065, 1066
 連桁 681, 686, 690
 連符の大括弧 1281, 1282, 1284, 1285

結果 483

コンデンシング 483, 488

結合

オッサ譜表 1185
 小節線 649, 652, 654, 655, 696, 704, 1185
 小節線を表示した譜表 654
 符尾 683
 ペダル線 1011
 連桁 683

結合式強弱記号 (「強弱記号」を参照してください)

結合拍子の拍子記号 226, 1253

入力 226
 破線の小節線 226, 1253

弦楽器 115, 118

演奏技法 (「演奏技法」を参照してください)
 音域外の音符 917, 1208
 替え指のフィンガリング 801
 弦の指定 916
 コードダイアグラム 725, 730, 732

弦楽器 (続き)

- 削除 130
- チューニング 99, 118
- 追加 130
- ハーモニクス 928
- 番号 (「弦の指示記号」を参照してください)
- ピッチの変更 130
- 表示 (「弦の指示記号」を参照してください)
- フィンガリング 916
- フィンガリングのシフト 823
- フレット楽器 99, 118, 130
- 変更 916, 1208
- バンド (「ギターバンド」を参照してください)
- リセット 1208

言語

- キーボードショートカット 64, 67

検索

- アンサンブル 99
- インストゥルメント 99
- キーボードショートカット 64, 65

献呈 104, 833, 834

- テキストトークン 401

弦の指示記号 825

- 位置 829
- 移動 829–831
- オープン 826
- 外観 809, 1035
- サイズ 826, 827
- 削除 829
- 浄書オプション 826
- 水平位置 831
- 装飾音符 827
- デフォルト設定 826
- デュレーション 1028, 1029
- 長さ 830
- 入力 280, 282, 290–292
- パネル 283, 291
- ハンドル 830
- フィンガリング 826, 831
- フォント 809, 810, 825, 1035
- 譜表の内側 292, 825, 829
- 譜表の外側 290, 291, 825
- ポップオーバー 280, 282, 290
- ライン 290, 291, 827, 1029

弦のシフト指示 823

- 角度 823
- 太さ 823
- 方向 824, 916

弦のピッチ

- フレット楽器 131
- 変更 131

こ

交互拍子の拍子記号 1253

交差するピッチ 479 (「コンデンシング」.も参照)

格子状配列

- 臨時記号 626, 627

構成要素 612

- アーティキュレーション 636
- 演奏技法 1038
- 演奏技法の延長線 1030
- コード記号 250, 707, 712

構成要素 (続き)

- コードダイアグラム 725
- テンポ記号 1226
- 符頭 904, 907
- ライン 1048
- 臨時記号 869

候補メニュー

- 演奏技法のポップオーバー 280
- キューのポップオーバー 319
- テンポのポップオーバー 231

ゴーストノート 918, 919

- ギター (「デッドノート」を参照してください) (「括弧付きの符頭」.も参照)
- 浄書オプション 1291

コード 1090

- インデント 438, 1095, 1190
- 外観 1091
- 間隔 438, 1095, 1190
- 組段の途中の間隔 1090, 1095
- サイズ 1091, 1092
- 小節線 649, 1094
- セクション 1090
- 入力 310, 311
- フォント 1091
- 複数 1091, 1092

コードブック 150

コード 401

- アルペジオ記号 957
- 音域の選択 178
- 囲み線 1209
- 括弧付きの符頭 918, 919, 922
- キャレット 31, 171, 175, 197
- 試聴 331
- 衝突回避 626
- タイ 1249
- タイム 1079
- タブ譜 1206
- トラック (「コードトラック」を参照してください)
- 入力 31, 157, 186, 197
- フィンガリング 816
- 符尾の方向 1214
- 密集 627
- 臨時記号 626, 627
- 臨時記号のスタック 627
- ルール (「アルペジオ記号」を参照してください)

コード記号 706

- MIDI での操作 66, 167
- MIDI 入力 249, 254
- MusicXML の読み込み 724
- 位置 721
- 移調 140, 206, 716
- 移調楽器 140, 723, 724
- 移動 722
- 異名同音の表記 167, 707, 723, 724
- インストゥルメント 254, 717
- オルタレーション 707
- オンコード 256
- 音程 251
- 外観 707, 709, 711, 712
- 外観をリセット 715
- ガイド 337, 706, 719
- 強調表示 721
- クオリティー 256, 718

コード記号 (続き)

- 区切り用文字 [716](#)
- グローバル (「グローバルなコード記号」を参照してください)
- 構成要素 (「コード記号の構成要素」を参照してください)
- 再生 [543, 544](#)
- 削除 [339](#)
- サスペンション [251](#)
- 浄書オプション [707](#)
- 省略 [251](#)
- スラッシュ領域 [717, 719, 1109](#)
- ダイアグラム (「コードダイアグラム」を参照してください)
- ダイアログ [709, 711, 712](#)
- タイプ [250, 707](#)
- デフォルト設定 [167, 707](#)
- デフォルトとして保存 [715](#)
- トラック (「コードトラック」を参照してください)
- 入力 [249, 250, 253-256](#)
- 入力中のナビゲーション [253](#)
- 入力の設定 [167](#)
- 配置 [721](#)
- ピッチ [140](#)
- 非表示 [717-719](#)
- 表示 [254, 256, 717-719](#)
- 表示オプション [721](#)
- フィルター [328](#)
- フォント [716](#)
- 付加音 [251](#)
- 譜表 [254, 717](#)
- プレーヤー [254, 717](#)
- 変更 [332](#)
- ポップオーバー [167, 250](#)
- ポリコード [252, 255](#)
- モーダル [252, 724](#)
- 領域 (「コード記号領域」を参照してください)
- 臨時記号 [707](#)
- ルート [250, 256, 718](#)
- レイアウト [718](#)
- ローカル (「ローカルなコード記号」を参照してください)
- 和音なし [252](#)
- 「コード記号の外観を編集」ダイアログ [711](#)
- コード記号の構成要素 [707](#)
- アタッチメントポイント [712](#)
- タイプ [707](#)
- 入力 [250](#)
- ハンドル [709, 711, 712](#)
- ポップオーバー [250](#)
- 「コード記号要素の編集」ダイアログ [712](#)
- コード記号領域 [719](#)
- 移動 [720](#)
- 強調表示 [721](#)
- 長さ [720](#)
- 入力 [256](#)
- ハンドル [720](#)
- 非表示 [717](#)
- 表示 [717](#)
- コードダイアグラム [725](#)
- 音符入力オプション [726](#)
- 開放弦 [725, 730](#)
- カスタム [729](#)

コードダイアグラム (続き)

- カラー [728, 730](#)
- 記号 (「コード記号」を参照してください)
- 形式設定 [729, 730, 732](#)
- 形状 [728-730, 732](#)
- 構成要素 [725](#)
- サイズ [726](#)
- シェイプのコピー [728](#)
- 浄書オプション [726](#)
- 省略弦 [725, 730](#)
- 省略された音符 [167](#)
- デフォルト設定 [726](#)
- ナット [725](#)
- バレ [730](#)
- バレー [725](#)
- 非表示 [727](#)
- 表示 [727](#)
- フォントスタイル [734](#)
- フレット番号 [729, 730, 734, 735](#)
- 変更 [728](#)
- 編集 [729](#)
- 丸 [726, 729, 730](#)
- 向き [735](#)
- ライン [726](#)
- リセット [730](#)
- 「コードダイアグラムの編集」ダイアログ [730, 732](#)
- 「コードダイアグラムを選択」ダイアログ [728](#)
- コードトラック [543](#)
- コードの括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
- コーナー
 - オクターブ線 [745, 746](#)
 - トンボ [621](#)
 - 臨時記号の切り抜き [869](#)
 - 連桁 [686](#)
- コーラスの歌詞 [877](#)
- 歌詞を変更 [878](#)
- ポップオーバー [297](#)
- ラインを変更 [892](#)
- 五重奏のテンプレート [70](#)
- 譜表のグループ化 [71, 696](#)
- 5線のサイズ [458](#)
- 5線譜 [1173](#)
- 打楽器キット [1295, 1296](#)
- 打楽器のレジェンド [1302](#)
- 符頭 [1299, 1301](#)
- 固定
 - 音符のデュレーション [181, 196](#)
 - 組段 [472](#)
 - 組段あたりの小節数 [457](#)
 - フレーム [470](#)
 - ページあたりの組段数 [457](#)
- 固定テンポ変更 [1220](#)
- 構成要素 [1226](#)
- 固定テンポモード [554](#)
- 古典派
 - 装飾音 [270](#)
 - トリル [949, 951](#)
- コピー [339-341](#)
- アーティキュレーション [635](#)
- エクスプロード [343](#)
- オートメーション [535](#)
- 音符 [635](#)
- 歌詞 [880](#)

- コピー (続き)
 - 強弱記号 331, 525, 779
 - コードダイアグラムシェイプ 728
 - 小節線 137
 - スラー 331
 - 声部への音符の貼り付け 340
 - ディヴィジ 1197
 - パート形式 498, 500
 - 譜表 1197
 - 譜表のスペーシング 468
 - フレーム 375, 393
 - プレーヤー 113
 - フロー 137
 - プロパティ 501
 - ページ形式設定 375, 499
 - マスターページ 375
 - リデュース 343
 - コメント 346
 - イニシャル 346, 351
 - 印刷 607, 621
 - インストゥルメント 348
 - 書き出し 348, 351, 610, 621
 - 削除 339, 348
 - 作成者 346, 351
 - 小節番号 347, 348
 - ダイアログ 347
 - 追加 347, 350
 - パネル 348
 - 非表示 351
 - 表示 351
 - 変更 350
 - 返信 350
 - リスト 348
 - 「コメント」ダイアログ 347
 - 小文字
 - フロータイトル 403
 - リピーターマーカーのテキスト 1091
 - ローマ数字 403
 - コモンタイム 851, 1253
 - 小指 812
 - 入力 219
 - ポップオーバー 219
 - 文字 817
 - コルレーニョ (「演奏技法」を参照してください)
 - コンソルディーノ (「演奏技法」を参照してください)
 - コンデンス 477, 479, 487, 1192
 - カラー 497
 - 休符 479, 481, 488
 - グループ (「コンデンスグループ」を参照してください)
 - グループを除外する 486
 - グループを含める 486
 - 計算 481, 483
 - 結果 483, 487
 - 手動 491
 - 声部 481, 483
 - ダイアログ 488
 - デフォルト設定 479, 483, 493
 - 背景の塗りつぶし 497
 - パラグラフスタイル 493, 1161, 1170
 - ピリオド 494
 - 譜表ラベル 479, 488, 1161, 1168, 1170, 1171
 - フレーズ 481, 483, 487, 488
 - コンデンス (続き)
 - プレーヤーラベルを非表示にする 495
 - 変更 479, 485, 487, 488, 491, 492
 - 変更の削除 493
 - 無効化 455
 - 有効化 455
 - ラベル (「プレーヤーラベル」を参照してください)
 - リセット 492
 - コンデンスグループ 485
 - 計算 481
 - 作成 485
 - 手動コンデンス 491
 - 除外 486
 - 設定の変更 487, 488, 491
 - デフォルト設定 479
 - 含める 486
 - 「コンデンス方法の変更」ダイアログ 488
 - コントローラー
 - MIDI (「MIDI コントローラー」を参照してください)
 - エクスペッションマップ 582
 - オートメーション 531
 - コントロールチェンジ
 - エクスペッションマップ 583
 - コンマプレス記号 845
- ## さ
- 最近使用したプロジェクト 72
 - 最終的なテンポ 1230
 - 段階的テンポ変更 1230
 - 最初の組段
 - インデント 1191
 - 最初のページ
 - 形式設定 450
 - ページ番号 989
 - マスターページ 368, 450
 - 最初のマスターページ
 - 置き換え 369, 370
 - カスタマイズ 375
 - サイズ
 - 5線 458
 - アルペジオ記号のフィンガリング 816
 - 演奏技法 1022
 - オーディオバッファ 212, 213
 - オシラ譜表 1182
 - 音符 752, 912
 - 音部変更記号 739
 - 歌詞 882, 896
 - 間隔 129, 1155, 1248
 - 基準単位 61
 - キュー 752, 753
 - 組段オブジェクト 443, 459, 460
 - 弦の指示記号 826, 827
 - コード記号 1092
 - コードダイアグラム 726, 734
 - 小節番号 662, 663
 - スペース 458
 - セーニョ記号 1092
 - 装飾音符 837, 840, 912
 - タセットバー 1128
 - 長休符 1128
 - テンポ記号 1224
 - トラック 517, 547

サイズ (続き)

左手のフィンガリング 812
「ビデオ」ウィンドウ 153
拍子記号 1256, 1258
広がり付きのヘアピン 789
フィンガリング 806, 810, 816
符頭 899
譜表 106, 443, 458-460
譜表ラベル 1161
フレーム 392
フレット番号 734
ページ 106, 441, 618
メトロノームマーク 1224
用紙 618, 619
ラインのテキスト 1060
リハーサルマーク 1072
リピートマーカー 1091

再生 550, 1044

アーティキュレーション 551, 641
アイテムを除外する 554
アルペジオ記号 959, 960
インストゥルメント 551, 582, 593
上書き 601
エクスペリションマップ 582, 583
演奏回数 1098
演奏技法 551, 592, 1041, 1044
エンドポイント 576, 578-581
オーディオの書き出し 90, 91
オーディオバッファサイズ 212, 213
オートメーション 531
オシラ譜表 1179
オプション (「再生オプション」を参照してください)
音符 330, 331, 551
音符のデュレーション 600
音符の非表示 1112
音符の録音 209
開始 550
カスタムの調性システム 874
環境設定 61
休止 844
強弱記号 521, 551, 780, 798
強弱のカーブ 798
クリック 210, 538, 550, 565
グリッサンドライン 968, 991
経過時間 565, 567
コード 331
コード記号 543, 544
固定テンポ 554
再生ヘッド (「再生ヘッド」を参照してください)
サウンドライブラリーの変更 573
ジャズアーティキュレーション 979
小節リピート記号 1100
スウィング 557-561
スラー 216, 551, 1158
スラッシュ領域 1112
声部 551, 580
選択範囲 550
ソロ 552, 553
タイムコード 565, 567
打楽器 581, 593, 594, 1297, 1299
チャンネルストリップ 564
チューニング 556
追従テンポ 554

再生 (続き)

デイヴィジ 1204
デッドノート 1209
デフォルト設定 573
デフォルトのテンポ 1219, 1225
テンプレート (「再生テンプレート」を参照してください)
テンポ 538, 565, 1228-1230
テンポの等式 1234
トランスポート 565, 567
トリル 949-951
トレモロ 551, 599, 1274
ノートベロシティ 528
ハーモニクス 928-930
パッチ 576
早送り 548
非表示の譜表 1174
微分音 874
フェーダー 563
複数のウィンドウ 58
プラグイン 563
プリロール 555
フロー 580
ペダル線 1019
ベロシティ 528
ボリューム 554, 563
ボリュームのリセット 554
巻き戻し 548
ミキサー 563, 564
ミュート 552-554
無音の再生テンプレート 567, 568
メトロノーム 565, 1230
ライン 548
リズムミックフィール 560, 561
リピート 556, 1097, 1098
リピート回数 1098
臨時記号 874
再生オプション 39, 509
強弱記号 798
スウィング再生 558
スラー 1158
ダイアログ 509
タイミング 641, 959
デフォルトとして保存 509
トリル 949
トレモロ 1274
ペダル線 1019
リピート 556
「再生オプション」ダイアログ 509
再生ツールボックス 503
再生テンプレート 567, 568
上書き 567
エンドポイント設定 505, 576, 578, 579
書き出し 575
カスタム 567, 570, 573
作成 573
出荷時のデフォルト 568
ダイアログ 568, 570
代替 570
ファイル形式 567
変更 573
メトロノームクリック 210

- 再生テンプレート (続き)
 - 読み込み 575
 - リセット 573
- 再生ヘッド 548
 - 位置 550
 - 移動 336, 548
 - 再生 550
 - ズーム 517
 - トランスポート 565, 567
 - 早送り 548
 - 非表示 549
 - 表示 549
 - 巻き戻し 548
 - リピート 556
- 再生モード 21, 502
 - VST 2 プラグインをホワイトリストに設定する 508
 - イベントディスプレイ 510
 - ウィンドウの要素 502
 - 上書き 601
 - エクスプレッションマップ 582, 589
 - エクスプレッションマップの書き出し 593
 - 「エンドポイントの設定」ダイアログ 576
 - 音符の移動 514
 - 音符の削除 517
 - 音符のデュレーション 515, 600
 - 音符の入力 513
 - 切り替え 502
 - 再生 509, 550
 - 再生ヘッド (「再生ヘッド」を参照してください)
 - サウンドのロード 507
 - ズーム 517
 - チャンネルストリップ 564
 - ツールボックス 502, 503
 - トラック 518, 547
 - ドラムエディター 512
 - トランスポート 43, 565
 - パーカッションマップ 593
 - パネル 49, 502, 505
 - ピアノロールエディター 512
 - ミキサー 563, 564
 - 無音程打楽器 1306
- 再生を抑制 554
- 再表示
 - トリルの音程 936
 - 臨時記号 632
- 再読み込み
 - ビデオファイル 151
- サウンド (「再生」を参照してください)
- サウンドトラック
 - オーディオ 154
 - ボリューム 154
- サウンドライブラリー 567, 593
 - 再生 582, 593
 - サウンドのロード 507, 567, 573
 - 存在しないサウンド 573
 - トリル 949
 - パーカッションマップ 597
 - 変更 573
- 作詞者 104, 402
 - テキストトークン 401
 - デフォルトのマスターページ 833
- 削除 339, 353
 - アーティキュレーション 636
 - アルペジオ記号 339
 - インストゥルメント 113, 122, 129
 - 演奏技法 339
 - エンドポイント 578
 - オートメーション 536
 - オクターブ線 749
 - オッサ譜表 1184
 - 音符 339, 517
 - 音部記号 739
 - 音符のスペーシングの変更 434, 439
 - 音符の複製 343
 - 角括弧 704
 - 重なり合う音符 180
 - 歌詞 880
 - キーボードショートカット 67
 - キュー 759
 - 休止 339
 - 休符 1124
 - 強弱記号 528, 779
 - 空白ページ 39
 - 組段区切り 474
 - グリッサンドライン 339
 - 弦楽器 130
 - 弦の指示記号 829
 - コメント 339, 348
 - コンデンシング方法の変更 493
 - 再生の上書き 601
 - ジャズアーティキュレーション 985
 - 小節 238, 642, 643
 - 小節線 651
 - 小節線の結合 655
 - 小節番号の変更 669
 - 小節リピート記号 339
 - ステムレット 689
 - スラー 339
 - スラッシュ符頭 339
 - 声部 1310
 - 装飾音 339
 - 装飾音符 339
 - タイ 1241, 1242
 - 打楽器キットのグループ 128
 - 中央配置の連符 683
 - 中括弧 704
 - 中間休止記号 339
 - 調号 853
 - テンポ記号 542, 1225
 - トリル 339
 - トレモロ 1271
 - 拍 238, 642
 - パラグラフスタイル 417
 - ビデオ 153
 - 拍子記号 1266
 - フィンガリング 808
 - フェルマータ 339
 - 符尾の方向の変更 1217
 - 譜表 1174
 - 譜表のスペーシングの変更 467
 - フレーム 451
 - フレーム区切り 471
 - プレーヤー 113, 134, 135, 137, 139
 - プレス記号 339

削除 (続き)

フロー 138, 140
 フロー番号 386, 387
 フロー見出し 389, 451
 フロー見出しの変更 385
 プロジェクトの自動保存 92
 ページ 378, 448
 ページの優先 378
 ページ番号の変更 381
 ペダル線 339
 ベロシティーの変更 530
 マーカー 339
 マスターページ 374
 マスターページのセット 368
 マスターページの変更 382
 ユニゾンの音符 343
 リズミックフィールの変更 560
 リデュース 343
 リハーサルマーク 1069
 リピート括弧 339
 リピートマーカー 339
 臨時記号 624
 レイアウト 142
 連符 678
 連符 1278, 1281
 作成 (「入力」を参照してください)
 作成者名 346
 変更 351
 サスティン楽器 798
 サスティンペダル 1000
 MIDI コントローラー 213, 1019
 MusicXML の読み込み 1020
 延長線 1015
 浄書モード 1001
 入力 282, 286, 287
 ハンドル 1001
 分割 1010
 ポップオーバー 282, 286
 マジ 1011
 リテイク 287, 288, 1001, 1003
 リテイク/強さの変更指示の削除 1005
 レベルの変更指示 287, 288, 1001
 サスペンション
 コード記号 251
 作曲者 104
 テキストトークン 401
 デフォルトのマスターページ 833
 冊子印刷 616
 印刷 615, 616
 両面印刷 617
 サブ小節番号 670
 外観 671
 追加 670
 サブタイトル 104, 386 (「フロー見出し」.も参照)
 サブページ番号 380
 数字スタイル 379, 380
 三角形符頭 901
 表示 910
 三重小節線 239, 647
 入力 242
 三重付点音符 182

三重臨時記号
 移調 206
 書き換え 204
 讃美歌スタイルのリピート小節線 649
 サンプリングされたトリル 949, 950
 無効化 950
 有効化 950
 サンプルライブラリー (「サウンドライブラリー」を参照してください)

し

シーケンス
 サブ 670
 小節番号 668-670
 タイプ 1070
 ページ番号 379, 380, 449
 リハーサルマーク 1070
 シェイク (「ジャズの装飾音」を参照してください)
 四角
 括弧付きの符頭 918, 919, 923
 符頭 902
 臨時記号の括弧 625, 931
 指揮者用のスコア (「コンデンシング」を参照してください) (「レイアウト」.も参照)
 ジグザグ配列
 臨時記号 627
 四重奏のテンプレート 70
 譜表のグループ化 71, 696
 システムトラック 325
 楽譜の削除 642
 楽譜の選択 327
 小節の入力 241
 拍の入力 241
 非表示 326
 下の音符
 トリル 951
 下パネル 49
 下向アルペジオ記号 (「アルペジオ記号」を参照してください)
 舌を鳴らす (「演奏技法」を参照してください)
 試聴
 MIDI デバイス 208
 音符 208, 330, 331
 コード 331
 実音 141
 インストゥルメントの移調 1164
 音部記号 740-742, 767
 キュー 767
 ステータス表示 51
 ピッチの入力 178
 表示 140
 フィルター 329
 譜表ラベル 1159, 1164
 レイアウト 138, 140
 実線
 スラー 1153
 タイ 1246
 テンポ記号 1232
 自動保存 92, 93
 音程 93
 プロジェクトの削除 92
 無効化 93

- 「自動保存したプロジェクトを回復」ダイアログ 93
- シャープ
フィルター 328
- ジャズ
アーティキュレーション（「ジャズアーティキュレーション」を参照してください）
音楽フォント 413
グリフ 413
コード記号 707
バンドのテンプレート 70, 71
譜表のグループ化 71, 696
- ジャズアーティキュレーション 979, 980
位置 981, 982
移動 981, 982
外観 981, 983, 984
再生 979
削除 985
浄書オプション 981
スムーズ 979
線のスタイル 984
装飾音（「ジャズの装飾音」を参照してください）
タイプ 269, 979, 983
デフォルト設定 981
デュレーション 983
長さ 981, 983
入力 267, 269, 276
パネル 276
ハンドル 981
変更 983
バンド 979
ポップオーバー 269, 276
- ジャズの装飾音 979, 980
タイプ 269
入力 269, 271, 272
ポップオーバー 269
- 斜線
臨時記号のスタック 626
- 斜体
歌詞 896
強弱記号 771
テキスト 316, 415, 418, 420
フィンガリング 809, 810
- 弱起（アウフタクト） 1253, 1255
小節の変換 1255
入力 226, 229, 230
拍の削除 238, 642
- ジャンプ
再生 1097
入力 310, 311
反復 1090
- ジャンプ記号（「リピートマーカ―」を参照してください）
重音のトレモロ（「トレモロ」を参照してください）
終止線 239, 647, 650
演奏回数 1098
入力 242
- 修飾キー
キーボードショートカット 64
検索 64
- 修飾語句 244, 246, 782
- 終端の位置
アルペジオ記号 956
オクターブ線 748
強弱記号 776
- 終端の位置（続き）
スラー 1133, 1135, 1136, 1143-1145
タイ 1236
トリル 940
譜表線 1135
ペダル線 1009
ライン 1049, 1055, 1057
リピート括弧 1088
連符の大括弧 1285
- 重要なマーカ― 301, 1077
- 終了位置の小節線 650
- 縮尺サイズ
印刷 607, 618, 619
オシリア譜表 1182
音符 912
音符のスペーシング 430-432
音部変更記号 739
キュー 430-432
弦の指示記号 827
コード記号の構成要素 709, 711, 712
コードダイアグラム 726
小節線 647
装飾音符 430-432, 837, 840
タブ譜 1206
フィンガリング 806, 812
譜表 458, 460, 461
- 出荷時のデフォルトの再生テンプレート 568
- 出力
オーディオ書き出し 61
プラグイン 576
ミキサー 576
ミキサーのチャンネル 563
- 取得（「回復」を参照してください）（「非録音時の MIDI 入力データ」を記録）.も参照）
- 順番
アーティキュレーション 637
インストゥルメント 121
インストゥルメントのナンバリング 115
演奏技法 1025
オーケストラ 121, 133
音符 1311
スコア 113
声部 164, 1311
打楽器キット内のインストゥルメント 128
タブ 57
調号 851
フレームチェーン 395, 397, 398
プレーヤー 113
ライン 1050
リハーサルマーク 1070
リピートマーカ― 1092
臨時記号 626, 627, 851
レイアウト 142
- 小音符 912
キュー（「キュー」を参照してください）
譜表（「譜表サイズ」を参照してください）
- 詳細設定
非表示 50
表示 50
- 浄書オプション 39, 362, 364
アーティキュレーション 635
アルペジオ記号 959
演奏技法 1022

浄書オプション (続き)

延長 846
オクターブ線 744
オッサア譜表 1185
音楽フォント 413
音符 898, 1212
歌詞 876
加線 898
括弧付きの符頭 919
ギターベンド 973
キュー 753
休止 846
休符 1123
強弱記号 772
グリッサンドライン 963
コード記号 707
ジャズアーティキュレーション 981
詳細設定 50
小節線 649, 1185
小節番号 668
小節リピート記号 1100
スラー 1137
スラッシュ符頭 1110
装飾音 936
タイ 1237
ダイアログ 362
タイムコード 1081
打楽器 1291
タブ譜 1206
中間休止記号 846
調号 853
テキスト 315
デフォルトとして保存 362
テンポ記号 1220
トリル 936
トレモロ 1273
拍子記号 1252
フィンガリング 801
フェルマータ 846
符尾 898, 1206, 1212
譜表ラベル 1161
プレス記号 846
ペダル線 1012
変更 364
マーカー 1073, 1081
ライン 1049
リハーサルマーク 1065
リピート括弧 1084
リピートマーカー 1091
臨時記号 626
連符 1277
「浄書オプション」ダイアログ 362
浄書モード 21, 353
アイテムの選択 354
音符のスペーシング 430
ガイド 337
楽曲フレーム 393
切り替え 353
組段区切り 471
組段に変換 472
グラフィックフレーム 409
「浄書オプション」ダイアログ 362
ツールボックス 354

浄書モード (続き)

テキストエディター 420
テキストの移動 423
テキストフレーム 400
配置設定 457
パネル 49, 353, 355, 358, 361
譜表のスペーシング 462
フレーム 390
フレーム区切り 469
フレームチェーン 395
フレームに変換 470
ページ区切り (「フレーム区切り」を参照してください)
ページ形式設定 440
小数点位置
メトロノームマーク 235, 236, 1228, 1230
小節 642
移動 336, 469, 472
音符のグループ化 38
カウントイン 211
休符 (「小節休符」を参照してください)
組段あたりの数を固定 457
グリッサンドライン 963
グループ化 1107
結合 646
コード記号 719
コンテンツの削除 643
削除 238, 642, 643
弱起 (アウフタクト) 1255
小節休符 (「小節休符」を参照してください)
選択 327
タイムコード 1082
長休符 1126, 1127
ディスプレイ 565, 567
デュレーション 644
ナビゲーション 336
入力 237-241
パネル 239, 240
幅 644
番号 657
分割 645
ポップオーバー 237, 238, 240
リピート記号 1099
連桁のグループ化 38
連符 1279
小節休符 1125
移動 1130
カウント 1127
キュー 164, 765, 766
声部 1126
長休符 1127
入力 195, 238
非表示 1125, 1126
表示 1125, 1126
小節数
長休符 661, 1129
フォントスタイル 1129
小節線 647
移動 651
オッサア譜表 1185
外観 649
開始 (「組段の小節線」を参照してください)
ガイド 337, 651

小節線 (続き)

カスタムの結合 652, 654, 704
 間隔 426, 777, 1026, 1062
 記号 427
 記譜オプション 649
 強弱記号 776
 組段 650
 形式設定 356, 427
 結合 (「小節線の結合」を参照してください)
 コーダ 649
 コピー 137
 最終 647
 削除 651
 三重 239
 讃美歌スタイル 649
 終了位置の小節線 650
 縮尺サイズ 647
 浄書オプション 649
 スペーシング 651
 接続 (「小節線の結合」を参照してください)
 装飾音符 839
 タイプ 239, 647
 大譜表を用いる楽器 652
 単一 647
 段階的テンポ変更 1223
 短線 647
 中間休止記号 267
 調号 854
 調号の変更 649
 ティック 647
 デフォルト設定 649
 二重 647, 1094
 入力 237, 239, 242, 243, 645
 破線 647
 パネル 239, 243
 反復 647, 649, 1098
 非表示 426, 777, 1026, 1062
 拍子記号 654, 1264
 フェルマータ 850
 太さ 647, 649
 譜表 652, 654
 譜表のグループ化 356, 653, 696, 700
 譜表をまたぐ 356, 652, 654
 ポップオーバー 237, 239, 242
 リセット 704
 連符 1279
 小節線に連結されたライン (「ライン」を参照してください)
 小節線の結合 652-654, 696, 700
 削除 655
 長さ 655
 入力 356, 654
 分割 655
 リセット 704
 小節線 (太線) 239, 647
 入力 242
 小節と小節線パネル 239, 240, 243
 「小節に移動」ダイアログ 336
 小節の時間 (「リピート括弧」を参照してください)
 小節番号 657
 位置 664, 665
 移動 664-666
 外観 657, 662, 671, 673

小節番号 (続き)

ガイド 337, 662
 囲み線 658, 659
 ギャレービュー 52
 組段に対する位置 666
 コメント 346-348
 サイズ 663
 削除 669
 サブ 670, 671
 シーケンスの変更 668
 弱起 (アウフタクト) 1255
 浄書オプション 668
 先頭 673
 代替 671
 長休符 661, 1129
 デフォルト設定 657, 668
 パートレイアウト 662
 背景の塗りつぶし 658
 パラグラフスタイル 663
 範囲 661
 非表示 657, 662, 667
 表示 657, 662
 拍子記号 667
 頻度 657
 フォント 662, 663, 671
 複数の位置 665
 譜表に対する位置 665
 プライマリーシーケンスに戻す 671
 変更 669
 末尾 673
 リピートセクション 671, 673
 リピートの算入 672
 リピートの除外 672
 リピートの2回目以降 671, 673
 レイアウトオプション 657
 小節番号のプライマリーシーケンス
 変更 669
 戻す 671
 小節リピート記号 1099
 移動 1101
 カウント 1102, 1103
 カウントの移動 1106
 カウントの非表示 1105
 数の変更 1103
 括弧 1105
 記号 427, 1107
 強弱記号 1100
 強調表示 1099, 1102
 組段区切り 472
 グループ化 1107
 形式設定 427
 再生 332, 1100
 削除 339
 浄書オプション 1100
 小節番号 661
 タイプ 305
 長休符 1127
 デフォルト設定 1100
 統合 1127
 長さ 1101
 入力 305, 306, 314
 配置設定 457
 パネル 306

小節リピート記号 (続き)

ハンドル 1101
 表示オプション 1102
 頻度 1104
 フィルター 328
 フォントスタイル 1102, 1105
 フレーズの長さ 332, 1100
 フレーム区切り 470
 変更 332, 1100
 ポップオーバー 305
 領域 1099

上線付きテキスト 316, 415, 418, 420

衝突回避

アーティキュレーション 639
 括弧付きの符頭 919
 ギャレービュー 464
 スラー 1138, 1156, 1157
 タイ 1236
 テキスト 424
 フィンガリング 801

小副括弧 (「副括弧」を参照してください)

情報 (「プロジェクト情報」を参照してください)

省略

コード記号 251
 コードダイアグラム 167, 725, 726, 730
 テンポのテキスト 1224
 譜表ラベル 1160, 1162, 1163

ショートカット

MIDI 62, 66
 キーボードショートカット 62, 66

除外 109

コンデンシンググループ 486
 再生 554
 小節番号からのリピート回数 672
 プレーヤー 137
 フローからプレーヤーを 109
 レイアウトからプレーヤーを 109, 139
 レイアウトからフローを 109, 140

ジョブタイプ 605, 615

印刷 615
 選択 615
 ページ範囲 609

白黒のグラフィック 614

白玉符頭 898, 899

新ウィーン楽派の臨時記号の有効範囲ルール 632

新規プロジェクト

開始 70
 テンプレート 69, 70

「新規マスターページ」ダイアログ 370

シンコペーション

ステムレット 688

親切フィンガリング 811

括弧 811
 非表示 811
 表示 811

親切臨時記号 631

括弧 631
 タイのつながり 625, 931
 非表示 625, 632, 931
 表示 625, 632, 931

す

図

書き出し 610

フレーム 409

垂直位置

poco a poco 791

アーティキュレーション 635, 637-640

アイテムの反転 332

インストゥルメント 113

演奏技法 332, 1022, 1025

歌詞 875, 877, 884, 886, 888

キュー 753-755

休止 846

休符 1120

強弱記号 772, 791

組段 444, 462

組段オブジェクト 1189, 1190

組段テキスト 1189, 1190

弦の指示記号 826

コード記号 721

修飾語句 791

小節番号 665, 666

スタックの順番 (「スタックの順番」を参照してください)

スラー 1132

スラッシュ符頭 1112

装飾音 938

タイ 1236

タイムコード 1073, 1074, 1080

タチエット 476

中間休止記号 847

テキスト 332, 408, 424, 1188

テンポ記号 1188-1190, 1221

トリル 938

トレモロ 1270

ハープペダルダイアグラム 996

拍子記号 1188, 1256, 1258, 1262, 1265

フィンガリング 800, 813, 814, 816, 817

フェルマータ 846

譜表 444, 462, 464

譜表ラベルの番号 1171

プレーヤー 113

プレス記号 847

フロー見出し 386, 451, 453

ペダル線 1006

変更 332

マーカー 1073, 1074

ライン 1025, 1049, 1051, 1052, 1054, 1056

リハーサルマーク 1064, 1068, 1188-1190

リピート括弧 1085, 1188-1190

リピートマーカー 1095, 1096, 1189, 1190

レイアウト 142

連符 1276

垂直スタックの順番 (「スタックの順番」を参照してください)

垂直線 (「ライン」を参照してください) (「アルペジオ記号」も参照)

垂直方向のスペーシング

アーティキュレーション 635, 638

オシリア譜表 1179

歌詞 886, 888

括弧付きの符頭 919, 922

- 垂直方向のスペーシング (続き)
組段 (「組段のスペーシング」を参照してください)
打楽器キット 129
タレット 476
テキスト 415, 416
譜表 (「譜表のスペーシング」を参照してください)
フレーム密度表示 466
- 垂直方向の配置
テキスト 408
- 水平位置
poco a poco 791
アーティキュレーション 638
アルペジオ記号 957
演奏技法 1022
音符 430, 436, 1308, 1311
音部記号 740
歌詞 875
休符 1120
強弱記号 772, 773, 791
組段 438, 455
弦の指示記号 831
コード記号 721
コードダイアグラム 735
修飾語句 791
小節番号 664
スタッカート 638
装飾音 938
タイ 1236
テンポ記号 1221
トリル 938
拍子記号 1252
付点 916
譜表 455, 1178
フレット番号 735
ライン 1050, 1051, 1053, 1054, 1057
リハーサルマーク 1064
連符 1276, 1287
連符の大括弧 1285
- 水平方向の配置
強弱記号 776
組段 455
装飾音 938
テキスト 408, 417
譜表 455
- スウィング再生 557
3 連符 557
カスタムリズムフィール 560
単位 561
テンポ 561
比率 557
編集 561
ポップオーバー 233
無効化 560
有効化 233, 558, 559
リズムフィール 560, 561
- ズーム 51
イベントディスプレイ 517
オプション 51, 53, 337
歌詞 882
キュー 768, 769
コード記号 721
小節リピート記号 1102
スラッシュ領域 1110
- ズーム (続き)
ドラムエディター 517
ピアノロールエディター 517
変更 337
- 透かし 621
印刷 607
書き出し 610
フォントスタイル 412
- スクイーズ (「ジャズの装飾音」を参照してください)
スクープ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)
スクロールビュー (「ギャラリービュー」を参照してください)
スケール 859
EDO 859, 860
オクターブの分割 859, 860
調号 851, 852
度 707, 902, 911
マイナー 852
メジャー 852
- スケールディグリー
Nashville 番号 250
コード記号 250
コードダイアグラム 726
符頭 902, 911
- スコア (「レイアウト」を参照してください)
- スタイル
外観 333
グリッサンドライン 962, 964
ジャズアーティキュレーション 984
スラー 1153, 1154
タイ 1246, 1247
中間休止記号 846
テキスト 415, 418
テンポ記号 1220, 1231
ナンバリング 1168
ニエンテのヘアピン 781
拍子記号 1258, 1260
フェルマータ 844
フォント 412
プレス記号 845
ページ番号 987
余白 440
リセット 333
- スタッカート (「アーティキュレーション」を参照してください)
- スタックの順番 750
演奏技法 1025
オクターブ線 750
弦の指示記号 826
スラー 750
譜表ラベルの番号 1171
変更 751
ライン 1050
臨時記号 626, 627
連符 750
- スティッキング 1294
ステータスバー 21, 51
選択ツール 52
ビュータイプ 52
ステータス表示 51
ステップ入力 (「音符入力」を参照してください)

- ステムレット 688
削除 689
表示 688
- ストレート再生 (「スウィング再生」を参照してください)
- ストローク
スラー 1153
タイ 1246
トレモロ 1268-1270, 1272
- スネアドラム
ロール (「トレモロ」を参照してください)
- スペーシング
アーティキュレーション 638
アルペジオ記号 957
音符 430-432, 435
音部記号 737
歌詞 431, 432, 884, 886, 888
括弧付きの符頭 919
ギターバンド 973
ギャレービュー 52
キュー 430, 753
組段 455
組段密度 436
コードダイアグラム 726
コンデンシング 455, 477
小節線 651
声部列 1311
装飾音符 430
打楽器キット 129
タチエット 476
タブ譜 1206
段階的強弱記号 791
中間休止記号 267
調号 855
テキスト 415, 418, 422
拍子記号 1253
譜表 444, 455, 462
譜表をまたぐ連桁 684
フレーム密度 466
フレット 130
リハーサルマーク 1064
臨時記号 627
レイアウトオプション 106
- スミア (「ジャズの装飾音」を参照してください)
- スムーズ
オートメーション 534
強弱記号 524
グリッサンドライン 962
ジャズアーティキュレーション 979
スラーの形状 1143, 1144
タイの形状 1242
- スラー 1132, 1238
アーティキュレーション 637, 1136
アルペジオ記号 (「曲線のアルペジオ記号」を参照してください)
位置 750, 1132, 1134, 1135, 1137, 1152
移動 1139, 1145, 1146
入れ子 1136
入れ子状のスラー 1138, 1139
エンドポイント 1136, 1143, 1145
大きなピッチ差 1147
カーブ 1132, 1134, 1137, 1151, 1152, 1155
回転 1146
角度 1146
- スラー (続き)
重ね合わせ 1156, 1157
肩のオフセット 1150
間隔の大きさ 1155
キュー 763
組段区切り 1157
形式設定 1145, 1147, 1154, 1155
形状 1142-1147, 1150
再生 216, 551, 1158
削除 339
浄書オプション 1137
浄書モード 1143
衝突回避 1138, 1156, 1157
スタイル 1153, 1154
スラー内 1138, 1139
制御ポイント 1143
声部をまたぐ 1137
セグメント (「スラーのセグメント」を参照してください)
選択 323
装飾音 940
装飾音符 837, 1133, 1134
タイ 1133, 1134, 1136, 1137
タイとスラー 1238
高さ 1148, 1149
タッキングインデックス 750
短線 1147
デフォルト設定 1137
デュレーション 1158
点線 1153-1155
長さ 1140
日本語のエリジョン 897
入力 216, 1137-1139
破線 1153-1155
パネル 159
範囲 1147
反転 1132, 1134, 1152
ハンドル 1142-1144, 1147
フィルター 328
フィンガリング 806
複数セグメント 1144
符頭の括弧 924
太さ 1137, 1147
譜表線 1135
譜表をまたぐ 1137, 1156
フレーム区切り 1157
平坦なスラー 1155
編者注 1153
ミュート 554
リンク 331, 1141
リンクの解除 331, 1142
臨時記号 1156
- スラーのセグメント 1142, 1144
数 1143
- スライド
ピッチ (「グリッサンドライン」を参照してください) (「ピッチバンド」も参照)
フィンガリング (「フィンガリングスライド」を参照してください)
- スライド先
インストゥルメント 752
音符 818
ファイルの書き出し 611

- スライド元の音符 818
- スラッシュ 837, 1109
- 音符（「トレモロストローク」を参照してください）
 - 声部（「スラッシュ付き声部」を参照してください）
 - 装飾音符 837, 840, 841
 - トレモロ（「トレモロストローク」を参照してください）
 - 長さ 841
 - 拍子記号 1261
 - 符頭 899
 - 符尾（「トレモロストローク」を参照してください）
 - 符尾なし 1313
 - 領域（「スラッシュ領域」を参照してください）
- スラッシュ記号 1109
- スラッシュ付き声部 1312
- 移動 1112
 - キャレット 171, 185
 - 浄書オプション 1110
 - 垂直位置 1112
 - 打楽器キット 122, 188, 1314
 - デフォルト設定 1110
 - 入力 185
 - 複声部の状況 1111
 - 符尾なし 171, 185
 - 符尾の非表示 1218
 - 符尾の方向 1216
 - 譜表上の位置 1112
 - ポップオーバー 305
 - 領域 305, 1109
- スラッシュ符頭 837, 1109, 1312
- アルペジオ記号 959
 - 位置 1118
 - 移動 1112, 1114
 - 音符を貼り付ける 340
 - 外観 1110, 1111
 - カウント 1115-1117
 - カウントの移動 1117
 - カウントの非表示 1117
 - 数の変更 1116
 - 括弧 1117
 - キャレット 171, 185
 - 休符 1113
 - 休符の非表示 1113
 - 強調表示 1110
 - 削除 339
 - 浄書オプション 1110
 - 垂直位置 1112
 - 声部 185, 344, 1111, 1312, 1313
 - タイプ 1313
 - 打楽器キット 122, 128, 188, 1314
 - デザイン 1110
 - デフォルト設定 1110
 - 入力 185, 306, 314
 - パネル 306
 - 表示オプション 1110
 - 頻度 1116
 - フィルター 328
 - フォントスタイル 1102, 1105, 1115
 - 付点 1110
 - 符尾 1115
 - 符尾なし 171, 185
 - 符尾の方向 1111, 1216
 - 譜表上の位置 128, 1112
- スラッシュ符頭（続き）
- 譜表に対する位置 1118
 - 分割 1113
 - ポップオーバー 305, 314
 - 領域 1109, 1115
- スラッシュ領域 1109
- 位置 1118
 - 移動 1112, 1114
 - カウント 1115, 1117
 - カウントの移動 1117
 - 重ね合わせ 1111
 - 括弧 1117
 - 休符 1113
 - 休符の非表示 1113
 - 強調表示 1109, 1110
 - コード記号 717, 719, 1109
 - 削除 339
 - 浄書オプション 1110
 - 垂直位置 1112
 - 声部 1111, 1312
 - デフォルト設定 1110
 - 長さ 1114
 - 入力 314
 - ハンドル 1114
 - 表示オプション 1110
 - フィルター 328
 - フォントスタイル 1102, 1105
 - 複数 1111
 - 符尾 1115
 - 符尾の方向 1111
 - 譜表上の位置 1112
 - 譜表に対する位置 1118
 - 他の音符の非表示 1112
 - 他の音符の表示 1112
 - ポップオーバー 305
- スルタスト（「演奏技法」を参照してください）
- スルポンティチェッロ（「演奏技法」を参照してください）
- ## せ
- 成果（「結果」を参照してください）
- 声楽の譜表
- 角括弧 71
 - 頭文字大文字 1169
 - 小節線 71
 - 全大文字 1169
 - 譜表のグループ化 71, 696
 - 譜表ラベル 1161, 1169
 - 分割の矢印 1199
- 制御ポイント
- スラー 1143, 1144
 - タイ 1242, 1243
 - ハンドル 1147, 1150, 1244
- 制限
- 定義 411
 - フレーム 410
 - フロー見出し 386
- 整数
- メトロノームマーク 1230
- 生成されたトリル 949, 950
- 再生 950
- 生成用文字列 612

声部 1308

MIDI 録音 210
 アーティキュレーション 636
 位置 1308
 演奏技法 284, 285
 エンドポイント 580
 オートメーション 531
 オクターブ線 261
 音符の移動 342
 音符のスペーシング 437
 音符を貼り付ける 340
 加線 914
 カラー 1308, 1309
 記譜オプション 1309
 キャレット 171, 183
 キュー 764, 765
 休符 1120, 1122, 1130
 強弱記号 247, 248, 521, 780
 切り替え 183
 コード記号の再生 544
 コピー 340
 コンデンスされた譜表 479, 481, 483, 488, 491, 1171
 再生 551, 580
 削除 1310
 識別 51, 1309
 順番 164, 1311
 順番の入れ替え 1311
 小節休符 195, 1126
 新規作成 183
 ステータスバー 51
 スラー 1132, 1137
 スラッシュ 185, 344, 1111, 1312, 1313
 スラッシュ符頭 185, 1111
 スラッシュ領域 1112
 選択 323
 装飾音符 837, 838
 タイ 1240, 1249
 打楽器キット 1304, 1305
 追加 183
 ドラムセット 126
 トレモロ 1274
 内容の入れ替え 344
 入力 183, 513
 パート (「レイアウト」を参照してください)
 配置 1308
 ピアノロールエディター 512
 ピッチまたぎ 479, 488
 非表示 1112
 表示 1112
 フィルター 328
 フェルマータ 846, 849
 付点 915
 符尾の方向 1213, 1216, 1304, 1305, 1308, 1312
 フロー 580
 分割の矢印 1199
 変更 340, 344, 1313
 方向 1111
 マージ 343
 臨時記号のスタックの順番 626
 列の並び順 1311
 連桁 1214

声部の色

印刷 621
 書き出し 621
 声部の個別再生 551
 演奏技法 284, 285
 エンドポイントの変更 580
 音符の入力 513
 ピアノロールエディター 512
 声部列の並び順 1308, 1311
 音符のスペーシング 437
 加線 914
 順番の入れ替え 1311
 デフォルト設定 164
 声部をまたぐスラー 1137
 移動 1137, 1139
 長さ 1137, 1140
 入力 1137
 声部をまたぐタイ 1240
 セーニョ 1090
 サイズ 1091
 セクション 1090
 入力 310, 311
 フォント 1091
 複数 1091, 1092
 セクション
 fine 1090
 コーダ 1090
 反復 1090
 非表示 50
 表示 50
 セクションプレーヤー 110
 オシタ譜表 1179, 1180
 空白の譜表 446
 追加 111
 ディヴィジ 1192, 1193, 1195
 ディヴィジ作成の編集 1196
 譜表ラベル 1159
 ユニゾン範囲 1197, 1198
 セグメント
 演奏技法の延長線 1033
 ギターバンド 976, 977
 キャップ 1058
 グリッサンドライン 966
 最終 1088
 スラー 1142, 1143
 ライン 1054
 リピート回数 1084
 リピート括弧 307, 309, 1084, 1085, 1087
 設定 39
 MIDI インポート 83
 MIDI 録音 212
 ウィンドウ 54
 エンドポイント 576, 578, 579
 オーディオ 61
 オーディオデバイス 61, 212, 213
 音符入力 167
 環境設定 61
 キーボードショートカット 66
 打楽器キット 122
 打楽器キットの音符の入力 189
 デフォルト 362, 364
 ドラムセット 122
 ハープペダル 991

設定 (続き)

ビデオ 150
 フロー固有 164
 プロジェクト全体 362, 364
 プロパティのコピー 501
 マウス入力 169
 両面印刷 607
 レイアウト固有 106, 109
 ワークスペース 54

設定モード 21, 95

アンサンブル 114
 インストゥルメント (「インストゥルメント」を参照してください)
 ガイド 337
 切り替え 95
 打楽器 122
 パネル 49, 95, 96, 100, 103
 プレーヤー (「プレーヤー」を参照してください)
 プレーヤーグループ 133
 プレーヤーの追加 114
 フロー (「フロー」を参照してください)
 レイアウト (「レイアウト」を参照してください)

セット

ドラムセット (「ドラムセット」を参照してください)
 マスターページ (「マスターページのセット」を参照してください)

セレクター

楽曲フレーム 396

ゼロ

弦の指示記号 825, 826

全音符 159

全画面表示モード 59

線間の高さ 458

前進

歌詞のポップオーバー 298
 キャレット 175
 コード記号のポップオーバー 253

選択 52, 322, 324, 330, 334

アイテム 168, 322, 324, 334, 354
 青 794, 1141
 音符 52, 322, 324, 330, 331, 334
 音符のスペーシングのハンドル 437
 歌詞 877
 記譜記号 52, 324
 記譜モード 157
 組段のスペーシングのハンドル 464
 コード 331
 再生モード 503
 システムトラック 325
 小節 327
 ステータス表示 51
 すべて 324, 327
 選択の延長 323, 324
 選択の変更 (「ナビゲーション」を参照してください)
 選択範囲の移調 206, 857
 ツール 51, 52, 157, 503
 拍 327
 範囲選択 52, 324
 ハンドル 361
 フィルター 328, 330
 譜表 324
 譜表のスペーシングのハンドル 464
 フレームハンドル 392

選択 (続き)

フロー 324
 ほかのアイテムの後ろのアイテム 322
 より広く 323, 324

選択解除 (「選択」を参照してください)

範囲選択ツール 52

使用 324

センチメートル

基準単位 61

譜表のスペーシング 464

センド 564

ミキサー 563

先頭

強弱記号 782

小節番号 673

フィンガリング 822

リハーサルマーク 1071

そ

装飾 (「装飾音」を参照してください)

装飾音 936

アチャカトゥーラ (「装飾音符」を参照してください)

アポジャトゥーラ (「装飾音符」を参照してください)

位置 936, 938

移動 938, 939

音程 937

記号 427

キュー 763

形式設定 427

削除 339

ジャズ 980 (「ジャズアーティキュレーション」も参照)

浄書オプション 936

スラー 940

選択 323

タイプ 268

デフォルト設定 936

トリル (「トリル」を参照してください)

長さ 939, 943

入力 267, 268, 271, 272

配置 938

パネル 270, 272

ハンドル 939

フィルター 328

譜表に対する位置 332

変更 332

ポップオーバー 268, 271

臨時記号 937, 948

装飾音パネル 272, 273, 275

装飾音符 837

アルペジオ記号 959

位置 837, 839

移調 206

移動 913

演奏技法 1022

音域 203

音部記号 740

外観 842

キャレット 171, 197

弦の指示記号 827

サイズ 840, 912

再生 555

装飾音符 (続き)

- 削除 339
- 小節線 839
- スペーシング 430, 432, 839
- スラー 837, 1133, 1134
- スラッシュ 837, 840, 841
- 声部 838
- タイプ 840
- デフォルト設定 837, 839
- トリル 949
- 入力 157, 197
- 反転 838
- ピッチ 203
- 符尾 837, 838, 840, 842
- ペダル線 1009, 1012
- ライン 1051
- 連桁 842
- 相対テンポ変更 1220
- 値 1230
- 挿入ポイント 171
- 挿入モード 157, 187
- 音符の入力 187
- キャレット 171, 187
- 拍子記号 229, 230, 645, 1251
- 有効化 157
- 連符 1281
- ソート
- レイアウト 142
- ソステヌートペダル 1000
- MIDI コントローラー 1019
- ソプラノ記号 (「音部記号」を参照してください)
- ソルディーノ (「演奏技法」を参照してください)
- ソルフェージュコード記号 250
- ソロ 563, 1192
- インストゥルメント 553
- 再生 551
- トラック 552
- 無効化 553, 563
- ソロプレイヤー 110
- オッサン譜表 1179, 1180
- 空白の譜表 446
- 追加 26, 111
- 譜表サイズ 460
- 譜表の追加 1176
- 譜表ラベル 1159, 1161
- 余分な譜表 1175, 1176
- 存在しないサウンド
- ロード 573
- 「存在しないフォント」ダイアログ 73

た

- ターン 936
- 音程 937
- ジャズ (「ジャズの装飾音」を参照してください)
- ページ (「フレーム区切り」を参照してください)
- タイ 37, 1235, 1238
- アーティキュレーション 637, 641, 1235
- 位置 1134, 1236, 1237, 1242
- 音部記号 737
- 音符のグループ化 181
- 音部変更記号 1239
- カーブ方向 1237, 1249

タイ (続き)

- 外観 1246
- 肩のオフセット 1243, 1244
- 括弧 921
- 括弧付きの符頭 921
- 間隔の大きさ 1248
- ギターバンド 973
- キュー 765
- 強制 181
- 区切り 1242
- 組段区切り 1238
- 形式設定 1242, 1247, 1248
- 形状 1242
- コード 1249
- 削除 1241, 1242
- 実線 1246
- 浄書オプション 1237
- 衝突回避 1236
- 親切臨時記号 625, 931
- スタイル 1246, 1247
- スラー 1133, 1134, 1136
- スラーとタイ 1238
- 声部 1236, 1249
- 声部をまたぐ 1240
- タイのつながり (「タイのつながり」を参照してください)
- 高さ 1245
- タブ譜 1235
- チェーン (「タイのつながり」を参照してください)
- デフォルト設定 1237
- 点線 1246, 1248
- トレモロ 1269
- 入力 157, 196, 1240
- 破線 1246, 1248
- 幅 1242
- 反転 1249
- ハンドル 1242, 1243, 1245
- 半分が破線 1246
- 非標準タイプ 1238
- 拍子記号 1235
- 拍子変更記号 1239
- 符頭の括弧 924
- 譜表線 1236
- 譜表をまたぐ 1240
- フレーム区切り 1238
- 分割 181, 1242
- 编者注 1246
- 臨時記号 1239
- 隣接しない音符 1239, 1240
- レセヴィブレ 1240, 1241
- 第2声部
- 小節休符 195, 1126
- 追加 183
- 第2連桁 686
- 変更 686
- ライン 686
- リセット 687
- ダイアグラム
- コード (「コードダイアグラム」を参照してください)
- ハープのペダリング 991, 992
- ダイアログ 39
- 第1連桁 686

- 対位法 195
 - 小節休符 195, 1126
 - 声部 183, 1308
- 第3線
 - 符尾の方向 1213, 1215
- 代替
 - 再生テンプレート 570
- タイトル
 - 楽章 386
 - 追加 104
 - テキストトークン 401
 - デフォルトのマスターページ 833
 - テンプレート 386
 - 非表示 451, 453
 - 表示 451, 453
 - フロー 148, 386
 - フロー見出し 453
 - プロジェクト 148
 - 変更 104, 149
 - 欄外見出し 453
 - 臨時記号 402
- タイトルページ
 - 書き出し 367
 - 追加 369, 381, 447
 - テキストトークン 401
 - 編集 375
 - 読み込み 366, 371
- 第2括弧 697
 - 小副括弧 699
 - 中括弧 698
 - 非表示 698
 - 表示 698
 - 副括弧 698 (「副括弧」も参照)
- タイのつながり 1235
 - アーティキュレーション 637, 1235
 - 音部記号 737
 - 括弧付きの符頭 921
 - グリッサンドライン 968
 - 削除 1241
 - スラー 1133, 1134, 1137
 - 選択 1235
 - タブ譜 1235
 - トレモロ 1269
 - 分割 1242
- タイプ
 - アーティキュレーション 980
 - アルペジオ記号 269
 - 演奏技法 280, 1021
 - 演奏技法の線 1030, 1032
 - 延長 263, 844
 - オクターブ線 259, 743
 - 音節 879
 - 音符 159
 - 音部記号 257
 - 外観 333
 - 囲み線 658, 659, 1065, 1066
 - 歌詞 297, 877, 878
 - キャレット 171
 - 休止 263, 844
 - 強弱記号 244, 771
 - グリッサンドライン 269
 - コード記号 250, 707
 - ジャズアーティキュレーション 269, 979, 980, 983
- タイプ (続き)
 - 小節線 647
 - 小節リピート記号 305
 - スラッシュ符頭 1313
 - 装飾音 268, 980
 - 装飾音符 840
 - タイ 1246
 - 打楽器のレジェンド 1303
 - 中間休止記号 263, 846
 - 調号 220
 - テキスト 420
 - テンプレート 71
 - テンポ記号 231, 233, 1220
 - トラック 518
 - トレモロ 304, 305, 1268
 - 拍子記号 226, 1253, 1261
 - フィンガリング 218, 822
 - フェルマータ 263, 844
 - 符頭 899, 902, 904
 - 符頭セット 898
 - プレス記号 263, 845
 - ペダル線 282, 1000
 - マスターページ 368
 - ライン 1046, 1048
 - リセット 333
 - リハーサルマーク 1070
 - リピート括弧 304
 - リピートマーカー 304
 - 連符 199, 1276
- ダイブ 974
- 大譜表を用いる楽器
 - MIDI 録音 208
 - 角括弧 71, 696
 - キューのポップオーバー 319
 - 強弱記号 772
 - コード記号 717
 - 小節線 652
 - スウィング再生 559
 - 中央配置の連桁 681
 - 中括弧 694
 - 長休符 1126, 1129
 - 譜表 652
 - 譜表のグループ化 71, 696
 - 譜表の非表示 446, 462
 - 譜表をまたぐスラー 1137
 - 譜表をまたぐ連桁 683
 - 両端揃え (垂直方向) 462
- タイム
 - 位置 38
 - 記号 (「拍子記号」を参照してください)
 - ディスプレイ 565, 567
 - トラック (「タイムトラック」を参照してください)
 - トランスポートウィンドウ 565, 567
 - ビデオ 152
 - マーカー 1073
 - レイテンシー 208, 212
- タイムコード 1079
 - オフセット 1080
 - 開始位置の値 1080
 - 垂直位置 1080
 - ダイアログ 150
 - テンポ 301
 - トランスポートウィンドウ 565, 567

- タイムコード (続き)
 ドロップフレーム 1079
 入力 299
 ノンドロップフレーム 1079
 パネル 300
 非表示 1081
 表示 1081
 頻度 1082
 フォントスタイル 1076
 譜表 1074, 1080
 譜表のスペーシング 444, 462
 フロー 103
 変更 150, 1076, 1080
 マーカー 300, 301, 1081
- タイムトラック 87, 538
 折りたたみ 547
 展開 547
 テンポの変更 542
 テンポ変更の移動 541
 テンポ変更の削除 542
 テンポ変更の入力 540
- ダウンロード
 アクセス 69
- 楕円
 音符の囲み線 1209, 1210
 和音の囲み線 1209
- ダカーポ
 アルコーダ 1090
 アルセーニョ 1090
 アルフィーネ 1090
 サイズ 1091
 入力 310, 311
 フォント 1091
 ワードラップ 1094
- 高さ
 囲み線 659, 1066
 ギターバンド 973
 組段 444, 462
 スラー 1148, 1149
 タイ 1243, 1245
 中括弧 699
 トラック 547
 ハンドル 1143, 1144, 1149
 拍子記号 1252
 広がり付きのヘアピン 789
 符頭の括弧 925
 譜表 444, 462
 フレーム 392
 ライン 1056
- 打楽器 1289
 演奏技法 599
 音符入力 513
 キット (「打楽器キット」を参照してください)
 浄書オプション 1291
 デフォルト設定 1291
 ドラムセット (「ドラムセット」を参照してください)
 トレモロ 599
 符頭 1297
 レジェンド 1301, 1302
- 打楽器キット 1289, 1290
 1 線譜を使用するインストゥルメント 1295
 インストゥルメントの削除 129
 インストゥルメントの順番 128
- 打楽器キット (続き)
 インストゥルメントの追加 125
 インストゥルメントのフィルタリング 122
 インストゥルメントの変更 125
 演奏技法 1292
 音符入力 189, 190, 513
 音符の移動 1293
 音符の入力 188
 書き出し 1290
 間隔の大きさ 129
 記譜オプション 1292
 記譜記号 1293
 キャレット 188
 休符 164
 強弱記号 1294
 グリッド 126-129, 1295
 グループ 126-128
 5 線譜 1173, 1295
 個別のインストゥルメントとキット 1289
 作成 120, 125
 ステッキング 1294
 スペーシング 129
 スラッシュ符頭 1314
 声部 164, 1304, 1305
 設定 122, 189
 ドラムセット (「ドラムセット」を参照してください)
 名前を付ける 122, 127
 表示タイプ 122, 1289, 1295, 1296
 符尾の方向 122, 164, 190, 1304, 1305
 譜表 122, 1289, 1295, 1296
 譜表に対するレジェンドの位置 332
 譜表ラベル 122, 1169, 1295
 編集領域 122, 1295
 読み込み 1291
 レジェンド 1301
- 「打楽器キットを編集」ダイアログ 122
 「打楽器の演奏技法」ダイアログ 1297
 打楽器のステッキング 1294
 「打楽器の符頭の上書き」ダイアログ 1299
 打楽器のレジェンド 1301
 位置 1291
 インストゥルメント名 1303
 演奏中のインストゥルメント 1302
 ガイド 337, 1301
 タイプ 1301, 1303
 追加 1302
 テキスト 1304
 長さ 1302, 1303
 範囲 1301, 1302
 ハンドル 1302
 譜表に対する位置 332
 変更 1303
- 多重録音
 MIDI 録音 210
- タセットバー 1126
 小節数のフォント 1129
 幅 1126, 1128
 非表示 1127
 表示 1127
- タチエット 35, 474
 形式設定 474
 テキスト 476
 パラグラフスタイル 474

- タレット (続き)
 - 非表示 475
 - 表示 475
 - フローからプレイヤーを削除 137
 - 余白 476
- 多調
 - 調号 223, 224
- タッキングインデックス 750
 - 演奏技法 1025
 - 変更 751, 1025, 1050
 - ライン 1050
- タップテンポ入力 233
- 縦線 647
- 縦向き 618, 619
- 多拍子
 - 拍子記号 229, 230
- タブ
 - 移動 58
 - オプションを表示 55
 - 切り替え 57
 - グループ 57, 58
 - 順番 57
 - 閉じる 56
 - バー 45
 - 非表示 43
 - 表示 43
 - 開く 24, 55
 - 複数表示 57
 - レイアウト 54, 55
- タブ譜 1205
 - 音域外の音符 203, 917, 1205, 1208
 - 音部記号 736
 - 音符入力 191
 - 音符の弦の変更 1208
 - 外観 1211
 - 開放弦のピッチ 131
 - 囲み線 1206, 1209, 1210
 - 括弧付きの符頭 918, 919
 - 間隔 1206
 - ギターバンド 970, 1206
 - キャレット 171
 - クエスチョンマーク 203, 1205
 - 弦楽器 130, 131, 176
 - 弦のリセット 1208
 - コード 1206
 - スペーシング 1206
 - タイ 1235
 - ダイブ 974
 - チューニング 118, 130, 132
 - デッドノート 1209
 - デフォルトの記譜 176
 - トリル 941
 - ハーモニクス 929, 932
 - 非表示 1207
 - 表示 1207
 - フォントスタイル 1211
 - 付点 1206, 1211
 - 符尾 1206, 1207
 - フレット 130
 - バンド (「ギターバンド」を参照してください)
 - 緑の音符 1205, 1208
 - ライン 1206
- タブ譜 (続き)
 - リズム 1206, 1207
 - 連桁 1207
- タブラの記譜 1307
- タブを閉じる 56
- ダルセーニョ 1090
- 単位
 - クオンタイズ 84
 - システムトラック 325
 - スウィング 561
 - スウィング再生 557
 - タイム 150, 565
 - テンポ 233, 301
 - 長さ 61
 - 拍 150, 233, 301, 332, 1228
 - ビデオ 150
 - メトロノームマーク 332, 1228
 - リズムグリッド 170
 - 連符 199
- 単一の声部の状況 1308
 - アーティキュレーション 636
 - 装飾音符 837
 - タイのカーブ方向 1249
 - 符尾の方向 837, 1213
 - ベンディング 974
- 単音のトレモロ (「トレモロ」を参照してください)
- 段階的強弱記号 771, 783
 - messa di voce 785
 - poco a poco 790, 791
 - 位置 792
 - 移動 792
 - 延長線 785
 - 外観 785
 - 開始位置 792
 - 回転 787
 - 角度 787
 - 切り詰め 792
 - 組段区切り 788
 - 終了位置 776, 792
 - 小節線 776
 - スペーシング 791
 - 中央揃えされたテキスト 791
 - 長さ 784
 - ニエンテ (「ニエンテのヘアピン」を参照してください)
 - 入力 244, 246-248
 - 配置 776
 - 幅 788
 - ハンドル 775, 784, 788
 - ひと続きのヘアピン 786
 - 開きの幅 788
 - 広がり付きのヘアピン 789
 - フォントスタイル 796
- 段階的テンポ変更 949, 1220, 1231
 - 位置 1223
 - 延長線 1231, 1232
 - 描く 538
 - 間隔 1233
 - 形式設定 1232-1234
 - 構成要素 1226
 - 最終的なテンポ 1230
 - 再生モード 538
 - 小節線 1223

段階的テンポ変更 (続き)

スタイル 1232, 1234
タイムトラック 538
長さ 1222, 1231
入力 231, 233, 235, 236, 540
破線 1233
太さ 1234
編集 538
ポップオーバー 231

単純拍子 1253

短線

小節線 239, 242, 647
ステムレット 688

ダンピング (「演奏技法」を参照してください)

ち

チェーン

タイ 1235
フレーム 395

チャンネル 563

MIDI 563
インストゥルメント 580
エクスプレッションマップ 576, 581
エンドポイント 576
コントロール 563, 564
再生 576
ストリップ 564
設定 576
パーカッションマップ 576, 581
プラグイン 576
変更 580
ミキサー 563, 564
メーター 563

中央揃えされたテキスト

ヘアピン 791

中央配置の連桁 681

削除 683
作成 682

中括弧 694

外観 699
ガイド 337, 701
カスタムのグループ化 700, 701
記号 427
グループ化 700
形式設定 356, 427
削除 704
第2括弧 697, 698
デザイン 699
長さ 703
入力 701
非表示 698
表示 698
譜表のスペーシング 444, 462
分割 701
リセット 704

中間休止記号 844, 846

位置 267, 847
移動 848, 849
同じ位置に複数 847
外観 332
削除 339

中間休止記号 (続き)

タイプ 332, 846
入力 263, 265-267

注釈 346, 621

音符/休符の色 497, 769, 917, 1124, 1309
ガイド 337
強調表示 719, 721, 769, 1099, 1102, 1109, 1110
コメント 346
声部の色 1309
ライン 1048

チュートリアル 69

チューニング

開放弦のピッチ 131
書き出し 132
ギター 99, 118, 130
組段 (「調性システム」を参照してください)
弦楽器 131
コードダイアグラム 728, 729
再生 556
ダイアログ 130
フレット楽器 99, 118, 130
読み込み 132

調

移調 206
記号 (「調号」を参照してください)
マイナー 852
メジャー 852

長休符 1126, 1127

tacet al fine 1128
位置 1129
1小節 1123, 1127
外観 1123, 1128
ガイド 1130
記号 427
形式設定 427
小節数のフォント 1129
小節番号 661
タッチット 474, 475
幅 1128
番号 427
非表示 1127
表示 1127
譜表 1129
フローの終端 1128
分割 1130

調号 851

位置 223, 854
移調 206, 857
移調楽器 141, 164, 859
移動 856
異名同音 858
打ち消しのスタイル 853
オープン 853
オクターブの分割 860, 868
音部記号 854
外観 853
ガイド 337, 853
カスタム 862, 863, 865, 868, 869, 872
間隔 855
再生 874
削除 853
浄書オプション 853
小節線 649, 854

調号 (続き)

スケール 852
 スペーシング 855
 ダイアログ 866, 869, 872
 タイプ 220, 852
 多調 223, 224
 調性システム 859, 860, 862, 866
 デフォルト設定 853
 入力 31, 220, 221, 223, 224
 パネル 221, 224
 非表示 99, 853
 表示なし 853
 フィルター 328
 複数 854
 変更 332, 649, 851, 854
 ポップオーバー 220, 223
 マイナー 852
 無調 853
 メジャー 852
 持たないインストゥルメント 853, 859
 予告 859
 臨時記号 624, 851, 869

調号、調性システム、臨時記号パネル 221, 224

調性システム 859

オクターブの分割 860, 868
 書き出し 862
 カスタム (「カスタムの調性システム」を参照してください)
 再生 874
 作成 863
 調号 865, 872
 パネル 221, 224
 変更 860
 読み込み 861
 臨時記号 864, 869

「調性システムを編集」ダイアログ 866

長方形

音符の囲み線 1209
 小節番号の囲み線 658, 659
 テキストの囲み線 424
 符頭 902
 リハーサルマークの囲み線 1065, 1066
 和音の囲み線 1209

直線

ギターバンド 970
 グリッサンドライン 962
 ジャズアーティキュレーション 984

著作権 104, 402

散りばめ

臨時記号 626

つ

追加

歌詞番号 895
 括弧 307, 309, 1083
 声部 183, 1126, 1308
 プレーヤー番号 494

追従テンポモード 554

ツール

選択 51, 52
 タイムコード 1079
 配置 (「配置」を参照してください)

ツールバー 18, 42
 トランスポートオプション 42, 43
 非表示 42
 ワークスペースオプション 42, 43

ツールボックス 19, 50

音符 156, 157
 記譜記号 156, 162
 再生 503
 再生 (Play) 502
 浄書 354

て

提案

キュー 320
 ディヴィジ 477, 1192
 移動 1196
 延長 1196
 音符の入力 1197
 カラー 1198
 空白の譜表を隠す 446
 コンデンシング (「コンデンシング」を参照してください)
 再生 551, 580, 1204
 終了 1197
 音楽の譜表 1199
 ダイアログ 1193
 短縮 1196
 テキスト 1201
 トウッティ 1197
 入力 1193, 1195
 フォント 1200
 譜表 446, 1195, 1197
 譜表のスペーシング 444
 譜表ラベル 1162, 1193, 1200, 1202, 1203
 譜表ラベルを非表示にする 1162
 変更 1193
 変更ラベル 1200, 1201, 1203
 編集 1196
 矢印 1199
 ユニゾン範囲 1197, 1198
 ラベルを非表示にする 1202, 1203
 「ディヴィジを作成」ダイアログ 1193
 停止 (「開始」を参照してください)
 ティック
 小節線 239, 242, 647
 ブレス記号 845
 ディミニッシュ (「オーギュメント」を参照してください)
 ディミヌエンド (「段階的強弱記号」を参照してください)
 デイレイ
 グリッサンドの再生 968
 ティンパニ
 調号 99
 データ
 エクスプレッションマップ 583
 テーマ
 変更 60
 テオルボ (「フレット楽器」を参照してください)
 テキスト
 移動 423
 エディター (「テキストエディター」を参照してください)
 演奏技法 1021, 1025

- テキスト (続き)
音楽フォント 413
重ね合わせ 424
歌詞 879, 882
キュー 763
キューラベル 761, 762
強弱記号 782, 785
組段テキスト 315, 1188
グリッサンドライン 964, 965
形式設定 316, 412, 420
献呈 834
コメント 346, 350
浄書オプション 315
衝突回避 424
垂直方向の配置 408
水平方向の配置 408
スペーシング 415, 418, 422
全大文字の譜表ラベル 1169
存在しないフォント 73
タイプ 420
打楽器のレジェンド 1304
タレット 476
ディヴィジ作成のラベル 1200, 1201
ディヴィジの譜表ラベル 1200
デフォルト位置 424
デフォルト設定 315
テンポ記号 332, 1223
テンポの省略テキスト 1224
トークン (「トークン」を参照してください)
入力 315, 390, 406, 1059
背景 426
背景の塗りつぶし 426, 1063
配置 316, 408, 417, 420
パラグラフスタイル 415, 416, 422
表現 771, 782
フィルター 328
フィンガリング 810
「フォントスタイルを編集」ダイアログ 412
複数の位置 1188, 1189
譜表に対する位置 332
譜表ラベル 1161
フレーム (「テキストフレーム」を参照してください)
プレーヤーラベル 493, 495, 496
フロータイトル 149
ペダル線 1017-1019
編集 318, 406, 420
マーカー 300, 1073, 1075
文字スタイル 418, 419
余白 407, 425, 1063
ライン 1048, 1059-1061
リセット 422
リハーサルマーク 1064
リピート括弧 1088
リピートマーカー 1091, 1093, 1094
レディング 415, 416, 422
ワードラップ 496, 1094
枠線 407, 424, 425
- テキストエディター 316, 318
歌詞 882
記譜モード 316
コメント 347
浄書モード 420
- テキストエディター (続き)
テキストフレーム 406
開く 406
テキストオブジェクト 420, 1192
識別 420
編集 318
テキストのワードラップ
プレーヤーラベル 496
リピートマーカー 1094
テキストフレーム 400
上書き 400
識別 420
垂直方向の配置 408
水平方向の配置 408
選択 392
テキストの入力 406
テキストの変更 406
入力 390
パラグラフスタイル 422
フロー見出し 453
余白 407
欄外見出し 453
枠線 407
- デクレッシェンド (「段階的強弱記号」を参照してください)
デザイン
演奏技法 1035, 1038
音楽記号 427
ギターバンド 973
スラー 1153, 1155
スラッシュ符頭 1110
装飾音符のスラッシュ 840
拍子記号 1266, 1267
フィンガリング 427, 807
符頭 899, 902, 904, 907, 910
符尾の符鉤 427, 1212
矢印 1032, 1033, 1046, 1058
ライン 1032, 1033, 1035, 1046, 1057, 1058
- デッドノート 1209
再生 1209
非表示 1209
表示 1209
- テヌート (「アーティキュレーション」を参照してください)
テノール記号 (「音部記号」を参照してください)
デバイス
オーディオ 61
デフォルト設定 364
演奏技法 1029
音符入力オプション 167
音符のグループ化 164
音符のスペーシング 430, 431
重なり合う音符 164
キーボードショートカット 16, 62, 66
強弱記号 331
コードダイアグラム 726
コンデンシング 479, 488
再生 509
再生テンプレート 573
ジャズアーティキュレーション 981
小節線 650
スウィング再生 561
スラー 331

- デフォルト設定 (続き)
 - 声部の順番 164
 - 選択ツール 52
 - 範囲選択ツール 52
 - ダイアログ 39
 - タブ譜の弦 176
 - テキスト 417
 - テキストの衝突回避 424
 - ハンドツール 52
 - 譜表のグループ化 696
 - 譜表のスペーシング 444, 462
 - プレーヤーラベル 494
 - フロー見出し 386
 - 変更 364
 - マウス入力 169
 - 臨時記号 626
 - レイアウト 142
 - 連桁のグループ化 164, 677
- デフォルトの再生テンプレート 568
- 「デフォルト」のフロー見出し 365, 386
 - 置き換え 388
- デフォルトのマスターページ 365, 368
 - 置き換え 369
 - カスタマイズ 370, 375
 - 作詞者 833
 - 作曲者 833
 - タイトル 833
 - トークン 833
- デュレーション 1030
 - MIDI 録音のカウントイン 211
 - アーティキュレーション 634, 641
 - アルペジオ記号 959, 960
 - 演奏技法 280, 284, 285, 1028, 1030, 1034
 - 演奏される 600
 - 音符 38, 159, 179, 180, 515, 600
 - 記譜された 600
 - 休符 179
 - 強制 181
 - 弦の指示記号 1028
 - ジャズアーティキュレーション 983
 - 小節 38, 644
 - スラー 1158
 - トレモロ 1274
 - フェルマータ 332
 - プリロール 555
 - フロー 403
 - ペダル線 1019
 - 横棒線 1055
 - ライン (「デュレーション線」を参照してください)
 - 臨時記号 630
 - ロック 205
- デュレーション線 1029, 1046
 - 演奏技法 1030, 1033, 1043
 - 外観 1032, 1035
 - 弦の指示記号 290, 291, 825, 827, 830
 - デフォルト設定 1035
 - 入力 280, 284, 285
 - ハンドル 830, 1030
 - 非表示 827, 1031, 1032
 - 表示 827, 1031, 1032
- デュレーションを強制 157, 181
 - 音符の入力 181
 - 休符の入力 181
 - 有効化 157
- デュレーションをロック 157, 205
 - 有効化 157
- 展開 323, 547
 - オプション 50
 - 音符 180
 - キャレット 175, 186
 - 選択範囲 323, 324
 - トラック 547
 - メニュー 50
- 展開矢印マーク 50
 - 「エクスペリションマップ」ダイアログ 583
 - トラック 519
 - プロパティパネル 51
- 点線
 - オクターブ線 743
 - 音符 (「付点音符」を参照してください)
 - 休符 157, 164
 - 強弱記号 771
 - スラー 1153-1155
 - タイ 1246, 1248
 - テンポ記号 1232
 - 拍の単位 233
 - 符頭 902
- テンプレート 70, 71
 - アンサンブル 99, 114
 - 角括弧 71
 - カテゴリー 70, 71
 - 再生 505, 567, 568, 573, 576
 - 新規プロジェクト 69
 - タイトル 386
 - 開く 17
 - 譜表 71, 696
 - 譜表のグループ化 71, 696
 - プレーヤー 99, 114
 - フロー見出し 386
 - ページ 39, 364, 374
 - マスターページ 364, 374
- テンポ 1219
 - bpm 1228
 - MIDI 録音 554
 - 描く 538
 - クリック設定 210
 - 検出 301, 1077
 - 固定テンポ 554, 565
 - 再生時にミュート 554
 - 再生モード 538
 - スウィング再生 561
 - 追従テンポ 554, 565
 - デフォルト 1219, 1225
 - 等式 (「テンポの等式」を参照してください)
 - トラック (「テンポトラック」を参照してください)
 - 入力 540
 - 範囲 1229
 - 変更 542
 - 変更の削除 542
 - 編集 538
 - マーク (「テンポ記号」を参照してください)
 - メトロノームマーク 1228
 - 録音 554

テンポ記号 538, 1219, 1231
 poco a poco 1227
 位置 1220, 1221
 移動 541, 1221, 1222
 延長線 1219, 1231, 1232
 外観 1220, 1227
 ガイド 337, 1225, 1227, 1228
 括弧 1226, 1227
 間隔 1233
 記号 427
 形式設定 427, 1232-1234
 検出 301, 1077
 構成要素 1226, 1227
 固定テンポ変更 233, 1220
 サイズ 1224
 再生 556, 1219, 1225, 1229, 1230
 再生時にミュート 554
 削除 1225
 浄書オプション 1220
 小数点位置 235, 236, 1228, 1230
 小節線 1223
 省略 1224
 垂直位置 1188
 スタイル 1232, 1234
 整数 235, 236, 1230
 選択 323
 相対テンポ変更 233, 1220, 1230
 タイプ 231, 233, 1220
 段階的テンポ変更 233, 1220, 1230, 1231
 テキスト 332, 1223, 1224
 デフォルト設定 1220
 テンポをリセット 233, 1220
 等式 (「テンポの等式」を参照してください)
 長さ 1222, 1231
 入力 231, 233, 235, 236
 配置 1221
 拍の単位 332, 1228
 破線 1233
 パネル 233
 ハンドル 1222, 1231
 非表示 1225
 表示 1225
 フィルター 328
 フォント 1224
 複数の位置 1188, 1189, 1221
 変更 332, 1223, 1224, 1227, 1228
 ポップオーバー 231
 メトロノームマーク (「メトロノームマーク」を参照してください)
 リピート 556
 テンポトラック 87, 538
 書き出し 89
 再生モード 538 (「タイムトラック」.も参照)
 ダイアログ 87, 89
 読み込み 87
 「テンポトラックの読み込み」ダイアログ 87
 「テンポトラックを書き出し」ダイアログ 89
 テンポの等式 1234
 入力 232, 233
 パネル 233
 ポップオーバー 232
 テンポパネル 233
 テンポ変更 (「テンポ記号」を参照してください)

「テンポを検出」ダイアログ 301
 重要なマーカー 1077

と

ドイツ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)
 同期
 楽譜にビデオを 152
 統合 646
 休符 164, 1122, 1126, 1127
 小節 646
 小節リピート記号 1127
 付点 915
 譜表 (「コンデンシング」を参照してください)
 譜表ラベル 1161, 1166, 1167, 1170
 プレーヤー 133
 動作内容
 エクスプレッションマップ 583
 等式
 テンポ記号 233, 1234
 トウッティ 1192, 1197
 復元 1197
 トークン 401, 420
 SMuFL 402
 音楽記号 402
 タイトル 148
 タイム 404
 入力 401, 406
 日付 404
 ファイル名 (「構成要素」を参照してください)
 譜表ラベル 402
 フロー 148, 402, 403
 フロー番号 386, 387
 フロー見出し 386, 387
 プロジェクト情報 104, 148, 402
 ページ番号 404
 マスターページ 368, 833
 臨時記号 402
 ローマ数字 403
 ト音記号 (「音部記号」を参照してください)
 「特別な調号を編集」ダイアログ 872
 止め指 (「左手のフィンガリング」を参照してください)
 トラック 518
 インストゥルメント (「インストゥルメントトラック」を参照してください)
 演奏技法 (「演奏技法レーン」を参照してください)
 オートメーション (「オートメーションレーン」を参照してください)
 折りたたみ 547
 強弱記号 (「強弱記号レーン」を参照してください)
 組段 325
 コード (「コードトラック」を参照してください)
 声部 551
 声部の個別再生 551, 580
 ソロ 552
 タイプ 518
 タイム (「タイムトラック」を参照してください) (「テンポトラック」.も参照)
 高さ 547
 展開 547
 テンポ (「テンポトラック」を参照してください) (「タイムトラック」.も参照)

- トラック (続き)
 - ピアノロールエディター 512
 - ビデオ 546
 - 非表示 547
 - 表示 547
 - ペロシティー (「ペロシティーレーン」を参照してください)
 - マーカー 545
 - ミュート 552
- ドラッグ 52, 336 (「描く」.も参照)
- トラック名
 - MIDI インポート 83
- ドラムエディター 512, 1306
 - イベントディスプレイ (「イベントディスプレイ」を参照してください)
 - 音符の移動 514
 - 音符の削除 517
 - 音符の選択 503
 - 音符の入力 513
 - ズーム 517
 - トラック 518
- ドラムキット (「打楽器キット」を参照してください)
- ドラムセット 122, 1289, 1290
 - インストゥルメントのフィルタリング 122
 - 音符入力 189
 - 音符の入力 188
 - 書き出し 1290
 - キットを定義 126
 - キャレット 188
 - 声部 126, 1304
 - 設定 122, 189
 - 名前を付ける 122
 - 符尾の方向 126
 - 読み込み 1291
- ドラムロール (「トレモロ」を参照してください)
- トランスポート 565
 - ウィンドウ 41, 565
 - 基本オプション 42, 43
 - 再生ヘッド 548
 - 再生ヘッドの位置 565, 567
 - リピート 556
- トランブルマン 936
- ドリアンコード記号 252, 724
- 取り消し線付きテキスト 316, 415, 418, 420
- トリル 936, 941, 949
 - NotePerformer 950
 - 位置 938, 940
 - 移動 938
 - 延長線 (「トリル線」を参照してください)
 - 音程 268, 944, 945, 947, 948
 - 外観 947, 948
 - 開始位置 940
 - 開始音 951
 - 括弧 936
 - 記号の非表示 941
 - 再生 949-951
 - 削除 339
 - サンプリング 950
 - 生成 950
 - 装飾音符 949
 - タブ譜 941
 - 長さ 939, 943
 - 入力 268, 271
- トリル (続き)
 - 配置 940
 - 速さ 942, 949, 951
 - ハリウッドスタイル 947
 - ハンドル 939, 943
 - ピッチ 951
 - フィルター 328
 - 譜表に対する位置 332
 - 補助音符 947
 - ポップオーバー 268
 - ライン (「トリル線」を参照してください)
 - 臨時記号 947, 948
- トリル線 942, 943
 - 長さ 943
 - 速さ 942
 - 非表示 943
 - 表示 943
- トリルの音程 944, 945, 948
 - 位置 948
 - 外観 936, 947, 948
 - 再表示 936
 - ハリウッドスタイル 947
 - 非表示 945
 - 微分音 945
 - 表示 944, 945
 - 変更 946
 - 補助音符 947
 - 臨時記号 947
- トリルの開始音 949
- トルコ音楽
 - オクターブの分割 860
- トレコルデ 1000
- トレモロ 1268
 - アーティキュレーション 599
 - 位置 1270, 1272, 1273
 - 音価が指定された 1268
 - 音価が指定されない 1268
 - 外観 1273
 - 角度 1270
 - 記号 427
 - 形式設定 427, 1273
 - 再生 551, 599, 1274
 - 削除 1271
 - 重音 305, 1268, 1273
 - 浄書オプション 1273
 - ストローク (「トレモロストローク」を参照してください)
 - ストロークの移動 1272
 - ストロークの数 1269
 - 声部 1274
 - タイのつながり 1269
 - タイプ 304, 305, 1268
 - 単音 304, 1268
 - デフォルト設定 1273
 - デュレーション 1274
 - 入力 304-306, 311, 312
 - パネル 306, 312
 - 速さ 1270
 - ポップオーバー 304, 305, 311
 - 連符 1268
 - トレモロストローク 1268, 1270
 - 移動 1272
 - 数の変更 1269, 1270

トレモロストローク (続き)

記号 427

形式設定 427

ドロップ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)

ドロップフレームのタイムコード 1079

トンボ 621

印刷 607

書き出し 610

な

内容

キュー 760

キューラベル 761

小節 643

テーブル 833

前付け 833

長さ

アルペジオ記号 272, 273, 956

演奏技法 1023, 1028

延長線 1023

オクターブ線 744, 747, 749, 750

音符 180, 515, 600

音符の演奏されるデュレーション 600

音符の記譜されたデュレーション 600

角括弧 703, 923, 925

歌詞の延長線 890

歌詞のハイフン 890

ギターバンド 976

キュー 759

強弱記号 526, 775, 784

組段の分割記号 1188

グリッサンドライン 966

弦の指示記号 830

コード記号領域 720

ジャズアーティキュレーション 981, 983

小節線 655

小節リピート記号 1101

小節リピート記号のフレーズ 332, 1100

スラー 1137, 1140

スラッシュ領域 1114

装飾音符のスラッシュ 841

打楽器のレジェンドの名前 1303

打楽器のレジェンドの範囲 1302

タセットバー 1128

単位 61

中括弧 703

長休符 1128

ディヴィジのパスページ 1196

テンポ記号 1222, 1231, 1233

トリル 939, 943

フィンガリングスライド 821

フック 1014, 1089

符頭の括弧 923, 925

符尾 1212, 1217

譜表ラベル 1162, 1200, 1202

ヘアピン 776

ペダル線 1008, 1010, 1011, 1014, 1016

ライン 1054-1057

リピート括弧 1085, 1087, 1089

連符の大括弧 1282

なぞる (「演奏技法」を参照してください)

ナチュラル

括弧 625, 931

入力 192

非表示 625, 931

表示 625, 931

ナチュラルハーモニクス 928

外観 932, 934

非表示 929

表示 929

ナット

コードダイアグラム 725

フレット楽器 130

ナビゲーション 334

アイテム 334

印刷プレビュー領域 48, 602

音符 334

音符入力 176, 178, 191

楽譜領域 334

歌詞のポップオーバー 298

記譜モード 334

キャレット 175

コード記号のポップオーバー 253

小節 336

ハンドル 361, 392, 437, 464

フィンガリングのポップオーバー 216

フレーム 392

フロー 335

ページ 336

リズムグリッド 170

名前

インストゥルメント 143, 144, 147

打楽器キット 122

ドラムセット 122

符頭 911

譜表ラベル 143, 147

プレーヤー 143, 146

プレーヤーグループ 133, 134

フロー 148

フロー見出し 389

マスターページ 370, 373

マスターページのセット 367

レイアウト 143, 147

名前の変更

インストゥルメント 147

打楽器キット 122

ドラムセット 122

プレーヤー 146

プレーヤーグループ 134

フロー 148

フロー見出し 389

マスターページ 373

マスターページのセット 367

レイアウト 147

波線 962, 1046

演奏技法 1032

グリッサンドライン 962, 964

ジャズアーティキュレーション 984

トリル 942, 943

入力 272-276, 294

非表示 1031

表示 1030, 1031, 1057

に

ニエンテのヘアピン 780
 スタイル 781
 テキスト 780
 入力 244, 247, 248
 変更 781
 丸 780

二重
 小節線 239, 242, 647, 649, 1094
 全音符 159
 付点音符 182
 臨時記号 204, 206, 631

日時
 印刷 607
 書き出し 610
 コメント 346
 注釈 621
 トークン 404

2のべき乗ではない拍子記号 1253

に変換
 組段 355, 472
 フレーム 355, 470

日本語
 コーダ 1091
 コード記号 707
 セーニョ 1091

日本語の歌詞でのスラー 897
 非表示 897
 表示 897

入力 168
 MIDI 208, 214, 533
 アーティキュレーション 214, 215
 アルペジオ記号 267, 269, 272
 アンサンブル 99, 114
 位置 168
 入れ子状のスラー 1138, 1139
 入れ子状の連符 1277
 インストゥルメント 99, 111, 119
 インストゥルメントの変更 176
 エクスプレッションマップ 590
 演奏技法 279, 280, 284, 285
 扇形連桁 690
 オートメーション 533
 オクターブ線 257, 259, 261, 262
 オッサ譜表 1180
 音域の選択 178
 オンコードのコード記号 256
 音符 171, 176, 181, 187, 208, 513
 音部記号 257, 259, 260
 角括弧 701
 歌詞 296, 298
 カスタムの演奏技法 284, 285, 1043
 カスタムの調性システム 863
 カスタムの臨時記号 192, 863, 864
 括弧付きの符頭 919
 ギターバンド 267, 269, 277, 278
 ギターバンドホールドの線 973
 キャレット 171, 174
 キュー 318-321
 休止 263, 265, 266
 休符 157, 181, 194
 強弱記号 244, 246-248, 523, 782

入力 (続き)

強弱記号の修飾語句 244, 246-248, 782
 空白ページ 447
 組段区切り 472
 グリッサンドライン 267, 269, 274, 275, 963
 弦楽器 130
 弦の指示記号 282, 290-292
 弦の指示記号の線 827
 コード 157, 197
 コード記号 167, 249, 250, 253, 254, 256
 コードダイアグラムシェイプ 729
 コメント 347, 350
 コンデンシンググループ 485
 再生テンプレート 573, 575
 ジャズアーティキュレーション 267, 269, 276
 ジャズの装飾音 269, 271, 272
 弱起 (アフタクト) 226, 229, 230
 小節 237-241
 小節休符 195, 238
 小節線 237, 239, 242, 243, 654
 小節線の結合 654
 小節番号の変更 669
 小節リピート記号 305, 306, 314
 小副括弧 701
 スウィング再生 233
 スラー 216, 1137-1139
 スラッシュ付き声部 185, 1314
 スラッシュ符頭 305, 306, 314
 スラッシュ領域 305, 314
 声部 183, 185
 設定 169
 装飾音 267, 268, 271, 272
 装飾音符 197
 挿入モード 187
 タイ 157, 196, 1240
 タイムコード 299
 打楽器キット 120
 打楽器キット内のインストゥルメント 125
 打楽器キットにおける音符 188, 189
 タブ譜 191, 1207
 段階的テンポ変更 231, 233, 235, 236
 中央配置の連桁 682
 中括弧 701
 中間休止記号 263, 265, 266
 調号 220, 221, 223, 224, 624
 調性システム 860, 863
 追加のリピート括弧 307, 309
 ディヴィジ 1195, 1197
 ディヴィジ譜表の音符 1197
 テキスト 315, 406, 1059
 テンポ記号 231, 233, 235, 236, 540
 テンポの等式 231
 トークン 401, 406
 特別な調号 224, 863, 865
 トリル 268, 271
 トレモロ 304-306, 311, 312
 入力と編集 168
 ハープのペダリング 282, 289
 ハーモニクス 929
 拍 238, 240, 241
 パラグラフスタイル 416
 左手のフィンガリング 219
 ビデオ 151

入力 (続き)

微分音の臨時記号 629
 拍子記号 226, 229, 230
 フィンガリング 216
 フェルマータ 263, 265, 266
 副括弧 701
 複数の声部への音符の入力 183
 付点 176, 182
 符頭の括弧 919
 符尾の方向 190
 譜表 1176
 フレーム 390
 フレーム区切り 470
 プレーヤー 111
 プレーヤーグループ 133
 プレーヤーリスト 835
 ブレス記号 263, 265, 266
 フロー 136
 フロー見出し 388
 フロー見出しの変更 383
 ページ 447
 ページ番号の変更 379
 ペダル線 279, 282, 286, 287
 ベロシティー 530
 ベンディング 279
 ポップオーバー 36
 マーカー 299, 300, 545
 マウス入力 169, 179
 マスターページ 369, 370
 マスターページのセット 366
 マスターページの変更 381
 右手のフィンガリング 219
 無音程打楽器 513
 メトロノームマーク 231, 235, 236
 ライン 280, 284, 285, 293-295
 ラインのテキスト 1059
 リズミックフィール 560
 リズミックフィールの変更 231, 559
 リズムグリッド 170
 リハーサルマーク 299
 リピート括弧 304, 306-309
 リピートマーカー 304, 306, 310, 311
 臨時記号 192, 624
 レイアウト 139
 連符 199, 1277, 1278
 任意の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)

ぬ

塗りつぶした符頭 899

の

ノートベロシティー
 MIDI インポート 83
 ノッチ
 オクターブ線 745
 ノンアルペジオ記号 (「アルペジオ記号」を参照してください)
 ノンドロップフレームのタイムコード 1079

は

パーカッションマップ 593
 演奏技法の再生効果 594
 エンドポイント 576, 581
 音符入力 189
 書き出し 598
 カスタム 597
 作成 597
 ダイアログ 594
 ファイル形式 598
 フィルター 594
 読み込み 598
 リンク 581
 「パーカッションマップ」ダイアログ 594
 バージョン
 ファイル 73
 パート (「レイアウト」を参照してください)
 パート形式 498-500
 組段の形式設定 498
 「パート形式をコピーする」ダイアログ 499
 パート名 143
 変更 147
 パートレイアウト (「レイアウト」を参照してください)
 ハープのペダリング 991
 移動 997
 音域外の音符 917
 外観 991, 992
 ガイド 991, 993, 994
 グリッサンドライン 968, 991
 計算 289
 再生 991
 浄書オプション 992
 ダイアグラム (「ハープペダルダイアグラム」を参照してください)
 デフォルト設定 992
 入力 282, 289
 ノート名 992
 倍音 (「部分的なハープのペダリング」を参照してください)
 背景の塗りつぶし 996
 非表示 993, 994
 表示 993
 フィルター 328
 ポップオーバー 282
 余白 996
 枠線 994, 995
 ハープペダルダイアグラム 991, 992
 位置 996
 表示 992
 ハーモニクス 928
 アーティフィシャル 928
 外観 932, 934, 935
 クエスチョンマーク 929
 再生 928-930
 スタイル 932, 935
 タブ譜 929, 932
 ナチュラル 928
 入力 929
 倍音 930
 ビッチ 930
 非表示 929
 表示 929

- ハーモニクス (続き)
 - 符頭 910
 - 臨時記号 931
- 倍音 928
 - 変更 930
- 背景 60
 - 演奏技法 1026
 - 強弱記号 777
 - テキスト 426, 1062
 - 塗りつぶし 426, 497, 777, 815, 825, 1026, 1062
 - フィンガリング 815
 - プレイヤーラベル 497
 - ライン 1062
- 背景の塗りつぶし 426
 - 演奏技法 1026
 - 強弱記号 777
 - 弦の指示記号 825
 - 小節番号 658
 - テキスト 426, 1063
 - フィンガリング 815
 - 譜表線 805
 - プレイヤーラベル 497
 - 余白 425, 778, 996, 1026, 1063
 - ライン 1062
- 排他グループ
 - エクスペッションマップ 583
- 配置 339, 340
 - アルペジオ記号 957
 - インストゥルメントの変更 120
 - インストゥルメント名 144
 - エクスプロード 343
 - 演奏技法 1034
 - オクターブ線の数字 748
 - 楽章 135
 - 歌詞 875, 888
 - 休符 1120
 - 強弱記号 773, 776, 793, 794
 - コード記号 721
 - コピー 340, 341
 - コンデンシング (「コンデンシング」を参照してください)
 - 声部 340, 344, 1308, 1311
 - 装飾音 938
 - 段階的強弱記号 776
 - 調号の臨時記号 851
 - テキスト 316, 408, 415, 417, 418, 420
 - テンポ記号 1221
 - トリル 940
 - 貼り付け 341
 - 拍子記号 1264
 - フィルター 328-330
 - 譜表 454
 - 譜表の入れ替え 342
 - 譜表ラベル 144, 1161
 - フロー 135
 - ページ番号 987
 - ペダル線 1006, 1012
 - ライン 1049, 1051, 1052
 - リデュース 343, 477
 - リピート括弧 1085
 - リピートマーカー 1091
- 配置設定 457
 - 組段あたりの小節数 457
 - コンデンシング 481
 - フレームあたりの組段数 457
 - 別のレイアウトへコピー 498, 500
- ハイフン
 - 歌詞 298, 879, 889, 890
 - 拍子記号 1261
- 八音記号 (「音部記号」を参照してください)
- 拍
 - 1分あたり 1228
 - 削除 238, 642
 - 選択 327
 - 相対位置 334
 - ディスプレイ 565, 567
 - 入力 238, 240, 241
 - ポップオーバー 238
 - 録音レイテンシー 212
- 拍グループ 37, 675, 692, 693
 - 指定 226
 - タイ 1235
 - 定義 693
 - 拍子記号 1258, 1259
 - 分子 1258
- 拍の単位 1228
 - 設定 233
 - メトロノームマーク 332, 1228
 - 連符 199
- 拍の変調
 - 連符 1278
- はさみ 157
 - スラッシュ 1113
 - タイ 1242
 - 有効化 157
- 場所
 - バックアップフォルダー 94
- バス記号 (「音部記号」を参照してください)
- 破線
 - オクターブ線 743
 - ギターバンドホルドの線 973
 - 弦の指示記号の線 825, 827
 - ジャズアーティキュレーション 984
 - 小節線 226, 239, 242, 647, 1185, 1253 (「結合拍子の拍子記号」も参照)
 - スラー 1153-1155
 - タイ 1246, 1248
 - テンポ記号 1232, 1233
 - ペダル延長線 1016
 - ライン 293, 1046
- パターン
 - コードダイアグラム 725, 728-730, 732
- 発音上のピッチ 141, 928
 - 再生 556
 - ハーモニクス 932
 - ピッチの入力 178
 - レイアウト 140
- バックアップ 94
 - 数 94
 - 自動保存 (「自動保存」を参照してください)
 - 場所 94
- 撥弦楽器
 - アルペジオのフィンガリング 816, 817
 - 弦楽器 916

撥弦楽器 (続き)

弦の指示記号 (「弦の指示記号」を参照してください)

スライド 818, 819

タブ譜 (「タブ譜」を参照してください)

チューニング 118

フィンガリング 216, 801, 812

ポップオーバー 219

パッチ

エンドポイント 576

再生 576, 582, 593

バッファ

オーディオ 212, 213

羽根付き大括弧 700

羽根つき連桁 (「扇形連桁」を参照してください)

パネル 20, 49

MIDI インストゥルメント 506

VST インストゥルメント 505

VST インストゥルメント/MIDI インストゥルメント
505

アルペジオ記号 273

印刷オプション 605

印刷モード 602

演奏技法 283, 285, 287

延長 266

オクターブ線 262

音符 159

音部記号 259, 260, 262

記譜記号 164

記譜モード 156, 159, 160, 164

キュー 319-321

休止 266

強弱記号 246, 248

グリッサンドライン 275

形式設定 355

再生モード 502

ジャズアーティキュレーション 276

浄書モード 353

小節 239, 240

小節線 239, 243

小節リピート記号 306

スラッシュ符頭 306

設定モード 95

装飾音 270, 272, 273, 275, 276

調号 221, 224

調性システム 224

テンポ 233, 236

トレモロ 306, 312

非表示 23, 43, 50

表示 23, 43, 50

拍子記号 227, 230

プレーヤー 95, 96

フロー 95, 103

プロパティ 160, 361

ページ 358

ペダル線 283, 287

リピート括弧 306

リピートマーカー 306

臨時記号 224

レイアウト 95, 100, 603

幅

オssia譜表 1182

音符のデュレーション 430, 600 (「音符のスペーシング」も参照)

幅 (続き)

角括弧 697, 699

囲み線 659, 1066

加線 626, 914

ギターバンド 973

空白の小節 644

組段 438, 455

組段の分割記号 1188

グラフィック 712, 869

小節線 647

タイ 1242

タセットバー 1126, 1128

中括弧 697, 699

長休符 1128

テキストの枠線 407, 425

広がり付きのヘアピン 789

符頭 901

符頭の括弧 919, 926

フレーム 392, 410

ヘアピン 776

ヘアピンの開きの幅 788

余分な譜表 1178

臨時記号 627

幅広

アルペジオ記号 953

早送り 548

速さ

bpm 1228

アルペジオ記号 959, 960

再生 554, 1219

テンポ記号 1219, 1228, 1230, 1231

トリル 942, 949, 951

トレモロ 1270

ビデオ 154

フレームレート 154

変更 235, 236, 540, 542, 554, 1228, 1230

パラグラフスタイル 412, 415, 662

上書き 422

コンデンシング 493, 1161

削除 417

作成 416

小節番号 662, 663, 671

存在しないフォント 73

ダイアログ 415

タチエット 474

ディヴィジの譜表ラベル 1200

テキストの入力 315

テキストフレーム 422

デフォルトとして保存 415

譜表ラベル 1161

プレーヤーラベル 493

ページ番号 987

リセット 422

リピートマーカー 1091

「パラグラフスタイル」ダイアログ 415

バラライカ (「フレット楽器」を参照してください)

ハリウッドスタイルのトリル 947

位置 948

音程 948

表示 948

貼り付け (「コピー」を参照してください)

バルブ

フィンガリング 822

バレ

外観 726
 コードダイアグラム 730
 追加 729
 入力 280, 284, 285
 非表示 1027

バレエ 1021

コードダイアグラム 725

バロック

アポジャトゥーラ 837
 装飾音 270, 936
 チューニング 556
 トリル 949, 951

パン 563

範囲

アルペジオ記号 272, 273, 957
 入れ替え 342
 インストゥルメント 115
 音符 917
 音符のコピー 341
 カラー 917
 キュー 752
 グリッサンドライン 967
 再生時の強弱記号 798
 小節番号 661
 スラー 1147
 選択 324
 打楽器のレジェンド 1302
 フロー見出しの変更 383
 ページ 607, 609
 ページサイズ 618
 ページ番号の変更 380
 マスターページの変更 381
 メトロノームマーク 1228, 1229
 ユニゾン 1197, 1198
 用紙サイズ 618
 ライン 295, 956, 1055

半音階のグリッサンド 962

再生 968

半月形符頭 902

表示 910

番号

インストゥルメント 115, 1166
 歌詞 894, 895
 歌詞のライン 891-893
 弦楽器（「弦の指示記号」を参照してください）
 小節 657, 668
 小節リピート記号 1102, 1103
 スラーのセグメント 1143
 スラッシュ符頭 1116
 スラッシュ領域のカウント 1115
 バックアップ 94
 拍子記号 1259
 フィンガリング 823
 譜表ラベル 1168
 プラグイン 505, 506
 ページ 380, 986, 988
 レイアウト 142
 連桁線 686
 連符 1286

番号の付け直し

レイアウト 142

半小節

連桁のグループ化 676, 693

バンジョー（「フレット楽器」を参照してください）

半ステップのトリル 944, 949

位置 948

外観 947

非表示 941, 945

表示 941, 945

反転 332, 1152

アーティキュレーション 639, 640

スラー 1132, 1134, 1152

装飾音符の符尾 838

タイ 1249

フィンガリング 804

ライン 1058

連桁 679

連符 1284

バンド

テンプレート 70, 71

譜表のグループ化 71, 696

ハンドツール 52

ページのドラッグ 336

ハンドル 982

アルペジオ記号 956, 958

演奏技法 1023, 1030

オクターブ線 744, 747, 749, 750

音符のスペーシング 435, 437

角括弧 923, 925

歌詞 884, 886, 889, 890

ギターバンド 976, 977

強弱記号 775, 783, 784, 787, 788

組段のスペーシング 464

グリッサンドライン 966, 967

弦の指示記号 830

コード記号の構成要素 709, 711, 712

コード記号領域 720

ジャズアーティキュレーション 981

小節リピート記号 1101

スラー 1142-1144, 1147

スラッシュ領域 1114

選択 361, 437

タイ 1242, 1243, 1245

打楽器のレジェンド 1302

テンポ記号 1222, 1231

トリル 939, 943

フィンガリング 802

フィンガリングスライド 819

符頭の括弧 923, 925

符尾 1217, 1272

譜表のスペーシング 464

フレーム 392, 396, 400, 410

ヘアピン 775, 788

ペダル線 1001, 1008, 1014

ライン 1054

リピート括弧 1085, 1087

リリース 977

連桁 681

連符の大括弧 1281, 1282, 1284

反復（「コピー」を参照してください）（「リピート」も参照）

反復開始線 239, 647

入力 242

反復記号パネル 306

反復終了線 [239](#), [647](#)

入力 [242](#)

リピート回数 [1098](#)

ひ

非圧縮の MusicXML [80](#)

ピアノ

押さえる音符（「括弧付きの符頭」を参照してください）

替え指のフィンガリング [801](#)

強弱記号（「強弱記号」を参照してください）

再生 [1019](#)

ペダル線（「ペダル線」を参照してください）

リテイク [1001](#), [1005](#)

レベルの変更指示 [1001](#), [1005](#)

ピアノロールエディター [512](#)

イベントディスプレイ（「イベントディスプレイ」を参照してください）

インストゥルメントトラック [519](#)

演奏されるデュレーションと記譜されたデュレーション [600](#)

音符の移調 [516](#)

音符の移動 [514](#)

音符の削除 [517](#)

音符の選択 [503](#)

音符のデュレーションの変更 [600](#)

音符の長さ [515](#)

音符の入力 [513](#)

ズーム [517](#)

スラーの音符 [1158](#)

声部の個別再生 [512](#)

トラック [518](#)

非移調レイアウト [140](#)

ビープ（「クリック」を参照してください）

非サスティン楽器 [798](#)

ベロシティー [528](#)（「ベロシティーレーン」も参照）

菱形の符頭 [900](#), [901](#)

ハーモニクス [932](#), [934](#), [935](#)

表示 [910](#)

臨時記号 [931](#)

左手のフィンガリング [812](#)

位置 [801](#), [814](#)

弦の指示記号 [826](#)

サイズ [812](#)

浄書オプション [801](#)

スライド [818](#), [819](#)

デフォルト設定 [801](#)

入力 [216](#), [219](#)

背景の塗りつぶし [815](#)

ポップオーバー [219](#)

文字 [817](#)

左パネル [49](#)

左ページ

から開始 [449](#)

ピチカート（「演奏技法」を参照してください）

ピッチ

移調音 [141](#)

オクターブ線 [261](#), [262](#), [743](#)

音程追加のポップオーバー [202](#)

音符 [205](#)

音部記号 [260](#), [736](#)

音符入力 [178](#), [192](#)

ピッチ（続き）

開放弦 [130](#), [131](#)

ギターの弦 [131](#)

キュー [761](#)

弦楽器 [130](#), [131](#), [729](#), [730](#)

弦の変更 [1208](#)

交差 [479](#), [488](#)

コードダイアグラム [729](#), [730](#)

再生 [556](#)

実音 [141](#)

ジャズアーティキュレーション [979](#)

調号 [851](#)

トリル [946](#), [948](#), [949](#), [951](#)

入力 [178](#)

ハーモニクス [928-930](#)

倍音 [928](#), [930](#)

範囲 [917](#)

微分音 [629](#), [859](#)

フィルター [328](#), [329](#)

符頭 [898](#), [902](#), [911](#)

フレット楽器の弦 [131](#)

変更 [131](#), [203](#), [205](#), [206](#)

バンド（「ピッチバンド」を参照してください）

臨時記号 [192](#), [624](#)

ピッチデルタ [869](#)

調性システム [866](#)

微分音の再生 [874](#)

変更 [864](#)

臨時記号 [864](#)

ピッチの入力

変更 [178](#)

ピッチバンド [533](#), [962](#), [970](#)

MIDI コントローラー [531](#), [533](#)

ギター（「ギターバンド」を参照してください）

ビデオ [69](#), [149](#)

ウィンドウ [153](#)

オーディオ [154](#), [563](#)

開始位置 [152](#)

形式 [150](#)

サイズ [153](#)

再読み込み [151](#)

探す [151](#)

削除 [153](#)

ダイアログ [150](#)

タイムコード [1079](#), [1080](#)

チュートリアル [69](#)

追加 [151](#)

同期 [152](#)

トラック [546](#)

パネル [300](#)

非表示 [153](#)

フレームレート [154](#), [155](#)

フロー [103](#)

ボリューム [154](#)

マーカー [545](#), [1073](#)

ミキサー [563](#)

「ビデオのプロパティ」ダイアログ [150](#)

ひと続きのヘアピン [786](#)

非表示 [43](#)

VST インストゥルメント [505](#)

入れ替え可能な拍子の拍子記号 [1253](#)

インストゥルメントの移調 [1165](#)

インストゥルメントの変更 [117](#)

非表示 (続き)

インストゥルメントの変更ラベル 1167
 演奏技法 1027, 1031
 演奏技法レーン 538
 延長線 1031, 1032
 オートメーションレーン 532
 オッサ譜表 1184
 音符 1112
 音部記号 260, 741
 音符の色 621, 917
 開始ページ番号 989
 ガイド 339, 471, 473
 角括弧 698
 歌詞番号 895
 加線 914
 カラー 497, 769, 917, 1102, 1110, 1124, 1198, 1309
 ベンディングの臨時記号 975
 ギターバンドホルドの線 973
 キャップ 1033
 キャレット 174
 キュー 756
 キューの色 769
 休符 1124-1127
 休符の色 1124
 キューラベルのオクターブ移調 757
 強弱記号 783
 強弱記号レーン 523
 空白の譜表 446
 組段の小節線 650
 組段の分割記号 1187
 グリッサンドラインのテキスト 965
 弦の指示記号 292
 弦の指示記号の線 827
 コード記号 717-719
 コード記号のクオリティ 718
 コード記号のルート 718
 コードダイアグラム 727
 コメント 351
 コンデンシングの色 497
 再生ヘッド 549
 システムトラック 326
 小数点位置 1230
 小節休符 766, 1125, 1126
 小節線 426, 649, 650, 777, 1026, 1062
 小節番号 657, 661, 662, 667
 小節リピート記号のカウント 1105
 親切臨時記号 625, 931
 スラッシュ領域のカウント 1117
 声部の色 621, 1309
 タイムコード 1081, 1082
 打楽器のレジェンドのガイド 1301
 タレット 475
 タブ 43
 タブ譜 1207
 中括弧 698
 長休符 1127
 調号 99, 853
 ツールバー 42
 ディヴィジの色 1198
 ディヴィジ譜表 446
 ディヴィジ作成のラベル 1193
 ディヴィジの譜表ラベル 1162, 1202, 1203
 テキストの枠線 424

非表示 (続き)

デッドノート 1209
 テンポ記号 1225
 トラック 547
 トランスポートウィンドウ 565
 トリル記号 936, 941
 トリルの延長線 942, 943
 トリルの音程 945
 日本語の歌詞でのスラー 897
 ハープのペダリング 993, 994, 999
 ハーモニクス 929
 背景 426, 777, 1026, 1062
 パネル 23, 43, 50, 51, 96, 100
 「ビデオ」ウィンドウ 153
 拍子記号 1265
 広がり付きのヘアピン 789
 フィンガリング 808, 811
 フィンガリングスライド 819
 符頭の括弧 919
 符尾 1115, 1218
 譜表 109, 137, 139, 140, 446, 1174, 1207
 譜表線 497, 815
 譜表冒頭部のオッサ譜表 1183
 譜表ラベル 1162, 1163, 1193, 1200, 1202, 1203
 部分的なハープのペダリング 999
 プレーヤー 137, 139
 プレーヤーラベル 495
 フロー 140, 474
 フロータイトル 453
 フローパネル 103
 フローページ番号 453
 フロー見出し 451
 分割の矢印 1199
 ページ番号 453, 989, 990
 ベロシティレーン 529
 マーカー 1074
 ミキサー 565
 ミキサーのオーディオ出力 576
 メトロノームマーク 1230
 余白を埋める休符 766, 1113
 ライン 1031, 1032
 ラインのテキスト 1059
 欄外見出し 453
 臨時記号 624, 625, 632, 931, 945, 975
 レセヴィプレタイ 1241
 連符 1283, 1286
 枠線 424, 994
 ビブラート (「演奏技法」を参照してください)
 微分音 629, 862
 EDO 860
 移調 202
 オクターブの分割 868
 カスタムの調性システム 862
 再生 874
 調号 872
 トリル 945
 入力 629
 臨時記号 869
 ヒューマナイズ
 強弱記号 521, 798
 表
 コメント 351

表記

音符 193, 204
臨時記号 193, 204

表記規則

アルペジオ記号 957
演奏技法 1022
歌詞 875
キュー 752
休止 846
休符 1120
強弱記号 772
グリッサンドライン 962
声部 1308
装飾音 938
装飾音符 837
タイ 1236
中間休止記号 847
調号 851, 854
テンポ記号 1221
トリル 938
トレモロ 1270
ハープのペダリング 996
拍子記号 1252
フィンガリング 800
フェルマータ 846
プレス記号 847
ペダル線 1006
リハーサルマーク 1064
連符 1276

表記法

歌詞番号 895
タイムコード 1079

表現テキスト（「強弱記号の修飾語句」を参照してください）

表示

MIDI 入力 51
オーディオエンジン 51
親指 218
キャレット 780
組段密度 436
弦のフィンガリング 823, 824, 916
声部 780
テンポ（「テンポ記号」を参照してください）

トリルの音程 944, 948
フィンガリング 218, 822
フレーム密度 466
ホルンの支管 822

表示オプション 41, 52

印刷プレビュー 48
楽譜領域 46, 53
画像解像度 620
再生 567
タイム 43, 567
タブ 55
ドラムエディター 512
トランスポート 43
パネル 23, 49
ピアノロールエディター 512
フレーム 374, 386, 395, 440
プロジェクトウィンドウ 45
ページ 440
レイアウト 45

拍子記号 1251

MIDI 録音 208
位置 229, 230, 1252, 1258, 1262, 1265
移動 1262-1265
入れ替え可能な拍子 1253
大きい 1256
オープン 1253, 1260
音符のグループ化 38, 676, 692
外観 1252, 1267
ガイド 337, 1265
加算型拍子 1253
カスタム 1253
括弧 226, 229, 1261
間隔のスペーシング 1253
記号 427
休符のグループ化 676, 692
区切り用文字 1252, 1261
組段オブジェクト 1257
クリック 208
形式設定 427
結合拍子 1253
交互拍子 1253
サイズ 1258
削除 1266
弱起（アウフタクト） 226, 229, 230, 1253, 1255
浄書オプション 1252
小節線 654, 1264
小節番号 667
垂直位置 1188, 1189, 1256, 1258, 1265
スタイル 1258, 1261
スラッシュ符頭 1110
タイ 1235, 1239
大括弧のグループ 1256
タイプ 226, 1253
高さ 1252
多拍子 229, 230
単純拍子 1253
デザイン 1266, 1267
デフォルト設定 1252
2 のべき乗ではない分母の拍子 1253
入力 30, 226, 229, 230, 645
配置 1264
拍グループ 38, 164, 1259
パネル 227
非表示 1265
表示 1265
フィルター 328
フォント 1252
フォントスタイル 1266, 1267
複合拍子 1253
複数の位置 1188, 1189
符頭 1260
譜表の上 1257
分子 1252, 1259
分母 1252, 1260
変更 332, 645
変拍子 1253
ポップオーバー 226
連桁のグループ化 38, 164, 676, 693
挿入モード 645
拍子記号（拍子）パネル 227

- 表示タイプ 122
 - 強弱記号 1294
 - 打楽器キット 1289, 1295
 - 変更 1296
 - 編集領域 122, 1295
- 開きの幅
 - ヘアピン 788
- 開く
 - MIDI ファイル 72
 - MusicXML ファイル 72
 - ウィンドウ 25, 58
 - 自動保存ファイル 93
 - タブ 24, 55
 - テンプレート 17, 70
 - トラック 547
 - 「ビデオ」ウィンドウ 153
 - ビデオチュートリアル 69
 - ファイル 72, 93
 - フロー見出しエディター 387
 - プロジェクト 70, 72, 93
 - マスターページエディター 375
 - ミキサー 565
 - レイアウト 24, 54
- ピリオド
 - 歌詞 879, 895
 - 歌詞番号 895
 - 休符 320
 - 付点 157, 182
 - プレーヤーラベル 494
- 比率
 - 音符のスペーシング 431, 432
 - スウィング再生 557
 - 装飾音符 840
 - 連符 1286-1288
- 広がり付きのヘアピン 789
 - サイズ 789
- 非録音時の MIDI 入力データを記録 209, 565
- ピンチハーモニクス 932
 - 表示 935
- 頻度
 - 再生時のピッチ 556
 - 自動保存 93
 - 小節番号 657
 - 小節リピート記号のカウント 1104
 - スラッシュ領域のカウント 1116
 - タイムコード 1082
 - トリル 942
 - ハーモニクス 928
- ふ
- ファーストステップ
 - 新規プロジェクトの開始 70
- ファイル 75
 - 書き出し 75, 610, 611
 - 異なるバージョンの Dorico 73
 - 存在しないフォント 73
 - ビデオ 151
 - 開く 72
 - フレームへの読み込み 410
 - 読み込み 75
- ファイル形式 620
 - MIDI 82
 - MusicXML 79
 - エクスプレッションマップ 582, 593
 - オーディオ 90
 - グラフィックファイル 620
 - 再生テンプレート 567
 - 調性システム 862
 - パーカッションマップ 598
 - バックアップ 94
 - ビデオ 150
 - フレーム 409
- ファイル名 612
 - 構成要素 612
 - 生成用文字列 612
 - 設定 612
- ファミリー
 - インストゥルメント 99, 570, 1021, 1035
 - フォント 73
- フィードバック
 - コメント（「コメント」を参照してください）
- フィルター 328
 - アンサンブル 99
 - インストゥルメント 99
 - エクスプレッションマップ 583
 - 音符 328, 329
 - 歌詞 328, 876, 877
 - 強弱記号 328, 779
 - 声部 328
 - 選択 330
 - 選択解除 330
 - 打楽器 122
 - テンポ記号 328
 - ドラム 122
 - パーカッションマップ 594
 - ハーブのペダリング 328
 - ピッチ 328, 329
 - 符尾の方向 328
 - フレームチェーン 399
 - プレーヤー 399
 - フロー 399
 - 臨時記号 328
- フィンガリング 800
 - MusicXML の読み込み 824
 - アルペジオ記号 816, 817
 - 位置 800, 801, 805, 813, 814
 - 移動 803
 - 親指の文字 817
 - 外観 801, 807, 809, 811
 - 替え指 801, 802
 - 角括弧 813
 - 囲み線 807
 - 下線 807
 - 括弧 216, 218, 811
 - 記号 427
 - 区切り用文字 822
 - 形式設定 427
 - 弦楽器 916
 - 弦の指示記号 826, 831
 - 弦のシフト指示 823, 824
 - コードダイアグラム 725
 - 小指の文字 817
 - サイズ 806, 810

- フィンガリング (続き)
 - 削除 808
 - 斜体 810
 - 浄書オプション 801
 - 衝突回避 801
 - 数字スタイル 823
 - スラー 806
 - スライド (「フィンガリングスライド」を参照してください)
 - スライドポジション 823
 - タイプ 218, 822
 - デザイン 807
 - デフォルト設定 801
 - 入力 216, 218
 - 背景 815
 - 背景の塗りつぶし 815
 - バルブ式金管楽器 822
 - 反転 804
 - ハンドル 802
 - 非表示 808, 811
 - 表示 808, 811
 - フォント 809, 810
 - フォントスタイル 809, 811
 - 譜表に対する位置 804
 - 譜表の内側 805
 - 譜表をまたぐ和音 801
 - フレット楽器 812
 - 変更 803
 - ポップオーバー 216, 218
 - ホルンの支管の指示記号 822
 - 文字 817
 - 予告 811
 - リセット 804
- フィンガリングスライド 818
 - 移動 819
 - 長さ 821
 - ハンドル 818, 819
 - 非表示 819
 - 表示 819
 - リセット 819
- フェーダー 563
- フェルマータ 844
 - 位置 846
 - 移動 848, 849
 - 同じ位置に複数 847
 - 外観 332
 - 削除 339
 - 小節線 850
 - 声部 849
 - タイプ 332, 844, 847
 - デュレーション 332
 - 入力 263, 265, 266
 - 1つの譜表 847
 - 譜表ごとの数 849
 - 譜表に対する位置 332
 - 変更 847
- フォーラム
 - アクセス 69
- フォル (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)
- フォルダー
 - 書き出しパス 611
 - バックアップ 94
- フォルテ (「強弱記号」を参照してください)
- フォントスタイル 412
 - PDF ファイル 614
 - SVG ファイル 614
 - 演奏技法 1022
 - オッサアの譜表ラベル 1185
 - 音符 413
 - 楽譜 413
 - 歌詞 877, 896
 - 記譜記号 413
 - 強弱記号 796, 797
 - グリフ 413, 797
 - 献呈 834
 - 弦の指示記号 809, 810, 825, 1035
 - コード記号 716
 - コードダイアグラム 734
 - 小節番号 (「パラグラフスタイル」を参照してください)
 - 小節リピート記号 1102, 1105
 - スラッシュ符頭 1105, 1115, 1117
 - 存在しないフォント 73
 - ダイアログ 412
 - タイムコード 1076
 - タブ譜 1211
 - 長休符 1129
 - ディヴィジの譜表ラベル 1200
 - テンポ記号 1224
 - パラグラフスタイル 415
 - 拍子記号 1252, 1266, 1267
 - フィンガリング 809, 810
 - 譜表ラベル 1161
 - ページ番号 987
 - 変更 412
 - マーカー 1076
 - 文字スタイル 418
 - ラインのテキスト 1060
 - リハーサルマーク 1072
 - リピートマーカー 1091
 - 連符 1288
- 「フォントスタイルを編集」ダイアログ 412
- 付加音
 - コード記号 251
- 深さ
 - 入れ子状の連符 1277
- 不完全連符 678
- 吹き出し
 - コメント (「コメント」を参照してください)
- 副括弧 697-699
 - 外観 699
 - ガイド 701
 - カスタムのグループ化 700, 701
 - 形式設定 356
 - 削除 704
 - デザイン 699
 - デフォルト設定 699
 - 長さ 703
 - 入力 701
 - 非表示 698
 - 表示 698
 - リセット 704
- 復元テキスト 1019

- 複合拍子の拍子記号 1253
 - スラッシュ符頭 1110
 - 入力 226
- 複数
 - 楽章 135
 - キュー 764
 - 組段あたりの小節番号 665
 - コーダ 1091, 1092
 - セーニョ 1091, 1092
 - 譜表の入力 175, 186
 - ページ上のフロー 449
- 複数セグメントによるスラー 1142-1144
- 複数の譜表を使用するインストゥルメント 1175
 - キューのポップオーバー 319
 - 幅 1178
 - 譜表の削除 1174
 - 譜表の追加 1176
 - 譜表の非表示 446, 462
 - 譜表をまたぐスラー 1137
 - 譜表をまたぐ連符 683
- 複数貼り付け 341
- 複製
 - アイテム 340, 341
 - エクスペッションマップ 590
 - エクспロード 343
 - 音符 340, 341
 - 再生テンプレート 573
 - パーカッションマップ 597
 - パラグラフスタイル 416
 - プレーヤー 113
 - フロー 137
 - マスターページ 366, 367, 369, 371
 - 文字スタイル 419
- 複声部の状況 1308
 - アーティキュレーション 636
 - 音符 1312
 - 音符位置 1308
 - 音符の入力 183
 - キュー 764
 - 休符 1120, 1122
 - 強弱記号 332, 780
 - スラー 1134
 - スラッシュ 1111, 1112
 - 声部列の並び順 1311
 - 装飾音 332, 938
 - 装飾音符 837, 838, 1134
 - タイ 1249
 - フェルマータ 846, 849
 - 符点の統合 915
 - 符尾の方向 837, 838, 1213, 1312
 - ベンディング 974
- 含める（「除外」を参照してください）
- 符鉤 337
 - 音符 1212
 - 記号 427
 - 形式設定 427
 - デザイン 1212
 - 非表示 1218
 - 符尾 1212
- 節 928
 - 変更 930
- 部数
 - 複数印刷 607
- フック
 - 演奏技法 1029, 1031
 - オクターブ線 749, 750
 - 長さ 1089, 1282
 - ペダル線 1001, 1005, 1012, 1014
 - リピート括弧 1089
 - 連符 1281
- 付点 182
 - 位置 1211
 - 移動 916
 - 数 182
 - スラッシュ符頭 1110
 - 声部 915
 - タブ譜 1206, 1211
 - 統合 915
 - 入力 176, 182
 - 複合拍子の拍子記号 1110
- 付点音符 182, 692
 - 音符のグループ化 692
 - 強制 181
 - 三重 182
 - スウィング再生 557
 - テンポの等式 1234
 - 統合 915
 - 二重 182
 - 入力 157, 182
 - 付点の移動 916
- 符頭 899
 - Aikin 902
 - Funk 902
 - Walker 902
 - X形 900
 - アーティキュレーション 639, 640
 - アタッチメントポイント 904, 907
 - 円形 899
 - 演奏技法 1297, 1299
 - 演奏技法固有 1297, 1300
 - 大きい 902
 - 角括弧（「括弧付きの符頭」を参照してください）
 - カスタム 904, 907
 - 加線 914
 - 括弧（「括弧付きの符頭」を参照してください）
 - くさび形 901
 - 形状 899, 902, 904, 907, 911（「符頭セット」も参照）
 - 5線譜 1299
 - 三角 901
 - 四角 902
 - スタッカートの位置 638
 - スラッシュ 1109, 1312
 - セット（「符頭セット」を参照してください）
 - ダイアログ 904, 907
 - タイプ 899
 - 打楽器 1297, 1299, 1301
 - 長方形 902
 - デザイン 899, 902, 904, 907, 910（「符頭セット」も参照）
 - デフォルトのデザイン 910
 - 点線 902
 - ノート名 911
 - 半月 902
 - 菱形 900, 901
 - ピッチ依存 902
 - 拍子記号 1260

符頭 (続き)

符尾なし 1218
 変更 910, 911
 編集 907
 ミュート 902
 無音程打楽器 1297, 1299
 矢印 901

符頭セット 898, 899, 902

音度 902
 カスタム 904
 加線 914
 ダイアログ 904
 タイプ 898
 デザイン 899, 902
 ピッチ依存 902

「符頭セットを編集」ダイアログ 904

符頭に連結されたライン (「ライン」を参照してください)

符頭の丸括弧 918

間隔 919
 非表示 919
 表示 919

「符頭を編集」ダイアログ 907

太さ

角括弧 697, 699
 ギターバンド 973
 グリッサンドライン 963
 弦のシフト指示 823
 コードダイアグラム 726
 小節線 649
 小節番号の囲み線 659
 スラー 1137, 1147, 1154
 装飾音符のスラッシュ 840
 タイ 1237, 1248
 段階的テンポ変更 1234
 テキストの枠線 407, 425
 符頭の括弧 919
 符尾 1212
 譜表線 1174
 ペダル線 1016
 ライン 362
 リハーサルマークの囲み線 1066
 連符の数や比率を示す数字 1288
 枠線 407, 425, 995

太字 316, 415, 418, 420

符尾 675, 1212

アーティキュレーション 639, 640
 アタッチメントポイント 907
 オーディオ 90, 91
 オルタードユニゾン 627
 カスタムの符頭 907
 記号 427
 キュー 764
 形式設定 427
 重音のトレモロ 1273
 浄書オプション 1212
 スタッカート的位置 638
 ステムレット (「ステムレット」を参照してください)
 スラーの終端 1136
 スラッシュ符頭 1111, 1115, 1313
 声部 1213, 1216
 装飾音符 840, 842
 第3線での方向 1215
 タブ譜 1206, 1207

符尾 (続き)

デフォルト設定 1212
 トレモロ 1268, 1269, 1272
 トレモロの削除 1271
 長さ 842, 1212, 1217
 ハンドル 1217, 1272
 非表示 1218
 符鉤 427, 1212
 符鉤のデザイン 1212
 符頭 907
 太さ 1212
 符尾の分割 627, 628
 方向 (「符尾の方向」を参照してください)
 方向の変更の解除 1217

連桁 678

連桁の位置 685

連符の位置 1276

符尾が上向きの声部 (「声部」を参照してください)

符尾が下向きの声部 (「声部」を参照してください)

符尾なし

スラッシュ符頭 171, 185, 1313

符頭 1218

符尾の分割 627

外観 628

符尾の方向 1213

キュー 764, 765

コード 1214

コンデンシング 479, 488, 491

スラーのカーブ 1132

スラッシュ符頭 1111, 1216

声部 344, 1213, 1216, 1308

装飾音符 837, 838, 842

第3線 1213, 1215

タイのカーブ 1236

打楽器キット 122, 126, 164, 190, 1304, 1305

タブ譜 1206

単一の声部の状況 1213, 1216

中央配置の連桁 682

デフォルト設定 1215

ドラムセット 126

ピッチまたぎ 479, 488

フィルター 328

複声部の状況 1213

譜表に対する位置 679

譜表の第3線上にある音符 1213, 1215

変更 344, 765, 1111, 1215, 1216

ベンディング 974

他の譜表まで伸びた音符 683, 1312

リセット 680, 1217

連桁グループ 1214

連桁の位置 679, 685

譜表 1173

アーティキュレーション 640

アイテムのコピー 340, 341

移調楽器の音部記号 742

1線 1074, 1080, 1082, 1169, 1173, 1295

移動 464

インストゥルメントの変更 117

インストゥルメントの変更ラベル 1167

インデント 1163, 1173, 1190, 1191

エクスプロード 343

大きな拍子記号 1258

オッサアの追加 1180

譜表 (続き)

オシリア譜表 1179, 1185
 音符 342, 1205, 1207
 音符入力 175, 186
 音符を伸ばす 683
 角括弧 71, 695, 696, 701, 703
 間隔 1090
 ギャレービュー 59
 キュー 753, 755
 休止 846
 強弱記号 332
 強弱記号のリンク 331, 794
 組段オブジェクト 1188-1190
 組段区切り 471
 組段の分割記号 1187
 グリッド 1169, 1295
 グループ 653, 696
 弦の指示記号 (「弦の指示記号」を参照してください)
 コード記号 140, 254, 717, 719, 721
 5線譜 1169, 1173, 1295
 コピー 1197
 コメント 346, 348
 コンデンシング (「コンデンシング」を参照してください)
 サイズ (「譜表サイズ」を参照してください)
 再生 550
 削除 1174
 小節休符 (「小節休符」を参照してください)
 小節線 356, 652, 654, 1185
 小節線の結合のリセット 704
 小節番号 662, 664, 665
 垂直方向のスペーシング (「譜表のスペーシング」を参照してください)
 スウィング再生 559
 スペーシング (「譜表のスペーシング」を参照してください)
 スラー 1137, 1141
 スラーのリンク 331
 声楽 1199
 声部 183
 全大文字の譜表ラベル 1169
 選択 324
 線の太さ 1174 (「譜表線」も参照)
 タイ 1236, 1240
 ダイアログ 461
 大括弧/中括弧のグループ化のリセット 704
 タイムコード 1074, 1080, 1082
 打楽器 1295, 1296
 タレット 474
 タブ譜 1205, 1207
 中括弧 701, 703
 長休符 1129
 追加 1175, 1176
 ディヴィジ 1192, 1193, 1195, 1197, 1200, 1204
 ディヴィジ作成の編集 1196
 ディヴィジのラベル 1203
 ディヴィジを終了 1197
 テキスト 315, 1188
 テンポ記号 1188
 内容の入れ替え 342
 配置ツール 339
 幅 455, 1178
 非表示 109, 137, 139, 140, 446, 1174, 1207

譜表 (続き)

表示 59, 137, 139, 446
 拍子記号 1188, 1257, 1258, 1264, 1265
 フィンガリング 805, 815, 817
 フェルマータ 849
 複数に入力 175, 186
 複数の声部 183, 477
 符尾の長さ 1217
 符尾の方向 1215
 譜表冒頭部 1183
 譜表ラベル (「譜表ラベル」を参照してください)
 プレーヤーラベル (「プレーヤーラベル」を参照してください)
 分割 310, 311, 1090
 分割記号 (「組段の分割記号」を参照してください)
 分割の矢印 1199
 ページビュー 59
 マーカー 1074
 ユニゾン範囲 1197, 1198
 ラスタライズ (「譜表サイズ」を参照してください)
 ラベル (「譜表ラベル」を参照してください)
 リデュース 343, 477
 リハーサルマーク 1188
 リピート括弧 1188
 リピートマーカー 1096
 レイアウトオプション 1173
 連桁 683-685
 譜表サイズ 458
 MusicXML ファイル 79
 オシリア譜表 1182
 カスタム 461
 個々の譜表 460
 5線のサイズ 458
 線間の高さ 458
 ダイアログ 461
 変更 443, 459-461
 レイアウト 1173
 譜表上の位置
 音符入力 189
 キュー 753, 755
 打楽器キット 128, 189
 ライン 956, 1052, 1055, 1056
 譜表線
 オシリア譜表 1182
 弦の指示記号 825
 スラー 1135
 タイ 1236
 タブ譜 130, 1205
 塗りつぶし 497, 805, 815, 825, 1062
 太さ 1174
 符尾の方向 1215
 譜表に対する位置
 アーティキュレーション 639, 640
 演奏技法 332
 オクターブ線 332
 歌詞 893, 894
 ギターバンド 332
 キューラベル 332
 強弱記号 332, 772
 弦の指示記号 290-292, 825, 829
 小節番号 666
 スラー 1152
 スラッシュ領域のカウント 1118

譜表に対する位置 (続き)

装飾音 332
 打楽器のレジェンド 332
 長休止符 1129
 テキスト 332
 トリル 332
 ハーモニクス 934
 左手のフィンガリング 814
 フィンガリング 804, 805, 813, 817
 フェルマータ 332
 プレーヤーラベル 493
 ペダル線 1006
 変更 332
 ベンディング 974
 リセット 334
 リハーサルマーク 1064
 リピートマーカー 1096
 連桁 679
 連符の大括弧 1284

譜表に対する配置

ライン 1051, 1052

譜表の共有 (「コンデンシング」を参照してください) (「ディヴィジ」も参照)

譜表のグループ化 71, 695, 696, 700

アンサンプルタイプ 695, 696

角括弧 700, 701, 703

カスタム 700

小節線の結合 652, 654, 655, 700

中括弧 700, 701, 703

デフォルト設定 71, 695, 696

変更 695

リセット 704

譜表のスペーシング 354, 462

ギャラリービュー 462, 464

組段の移動 467

コピー 468, 469

コンデンシング 455, 477

ディヴィジ 444

テキストの衝突回避 424

デフォルト設定 444, 462

ハンドル 464

復元 467

変更 444, 462, 464

密度 466

有効化 354

リハーサルマーク 1064

両端揃え 444, 462, 466

レイアウトオプション 106

「譜表のスペーシングをコピー」ダイアログ 469

譜表冒頭部 833

オッサ譜表 1183

小節線 650

譜表ラベル 1159

Cubase 1160

MusicXML の読み込み 1160

移調楽器 1159, 1164-1166

インストゥルメントの変更ラベル 1167

インストゥルメント名 143, 144, 147, 402, 1160

インデント 1163, 1190

オッサ譜表 1185, 1186

ギャラリービュー 52

組段 1163

グループ化 1167, 1170

譜表ラベル (続き)

形式設定 1161

コンデンシング 1161

コンデンシングされた譜表 479, 488, 493, 1168, 1170, 1171

最初の組段のインデントの変更 1191

サイズ 1161

浄書オプション 1161

全大文字 1169

打楽器 122, 1169, 1295, 1303

ディヴィジ 1193, 1200, 1202, 1203

デフォルト設定 71, 1161

トークン 402

長さ 1162, 1163

ナンバリング 115, 1160, 1166, 1168, 1171

配置 144

パラグラフスタイル 415, 1161

非表示 1162, 1163

表示 1162, 1163

フォント 1161

プロジェクトテンプレート 71

譜表をまたぐスラー 1137

移動 1137, 1139

衝突回避 1156

長さ 1137, 1140

入力 1137

譜表をまたぐタイ 1240

譜表をまたぐ連桁 683

位置 685

スペーシング 684

譜表をまたぐ和音

フィンガリング 801

部分的なハーブのペダリング 998

非表示 999

表示 999

部分非表示

小節線 426, 777, 1026

背景の塗りつぶし 426, 777, 1026

プラグイン 567

インスタンス 505

エクスペリションマップ 581, 583

エンドポイント 567, 580, 581

再生 563

設定 576, 578-580

パーカッションマップ 581

変更 567

保存 579

ホワイトリストに設定する 508

ミキサー 576

ロード 507

プラグインをホワイトリストに設定する 508

フラット

フィルター 328

フリジアンコード記号 252, 724

フリップ (「ジャズの装飾音」を参照してください)

プリロール 555

デュレーション 555

振り分け

オクターブごとの分割 868

組段あたりの小節数 457

フレームあたりの組段数 457

フレームあたりの譜表数 444

- プリンター 615
 - 選択 607
- フルスコアレイアウト（「レイアウト」を参照してください）
- フレーズ 481, 483
 - コード記号領域 719
 - コンデンシング 481, 483, 488
 - 小節リピート記号 332, 1100
 - 分割 487, 488
- フレーム 390, 424
 - 移動 391
 - 楽譜 393, 454
 - 区切り 440, 469
 - 組段 444, 455, 457
 - グラフィック 409, 410
 - 形式設定 357
 - 形状 392
 - コピー 375, 387, 393
 - サイズ 392
 - 順番 398
 - 制限 410, 411
 - 選択 354
 - 選択部分から作成 470
 - テキスト 400, 401, 420
 - テキストの配置 408
 - トークン 401
 - 入力 390
 - 破線 386
 - ハンドル 392, 400
 - 譜表 444, 455
 - フロー見出し 386, 451, 453
 - フロー見出しエディター 386
 - 編集 354, 376
 - マスターページエディター 374
 - 密度 466
 - 余白 407, 440, 454
 - 欄外見出し 453
 - リセット 378
 - 枠線 407
- フレーム区切り 355, 440, 469
 - 演奏技法 1023
 - オクターブ線 749
 - ガイド 337, 471
 - グリッサンドライン 966
 - コンデンシング 481
 - 削除 471
 - 小節リピート記号 470
 - スラー 1157
 - 挿入 470
 - タイ 1238
 - ディヴィジ 1192
 - フィルター 328
 - 譜表サイズ 459
 - 譜表のスペーシング 444
 - 譜表ラベル 1163
 - 別のレイアウトへコピー 498-500
 - ライン 1054
 - リピート括弧 1087
- フレーム使用率のしきい値
 - 両端揃え (垂直方向) 444, 462
 - 両端揃え (水平方向) 455
- フレームチェーン
 - 音符のスペーシング 432, 434
 - 音符のスペーシングのリセット 434
 - 楽譜（「楽曲フレームチェーン」を参照してください）
 - 順番 398
 - フレーム 397
 - プレーヤー 399
 - フロー 399
 - マスターページ 395
 - リンク 397
 - リンクの解除 398
 - レイアウト 395
- フレーム密度表示 466
- フレームレート 154
 - ダイアログ 150
 - トランスポートウィンドウ 565, 567
 - ドロップフレームのタイムコード 1079
 - ノンドロップフレームのタイムコード 1079
 - 変更 150, 155
- プレーヤー 35, 109, 110
 - MIDI の書き出し 85
 - アンサンブル 96, 114
 - インストゥルメント 36, 59, 115, 119, 120
 - インストゥルメントの順番 121
 - インストゥルメントのナンバリング 115
 - インストゥルメントの変更ラベル 1167
 - オーディオの書き出し 90
 - オシラ譜表 1179
 - オシラ譜表の追加 1180
 - 音部記号 740, 741
 - カード 96
 - 間のインストゥルメントの移動 121
 - 空白の譜表 446
 - グループ（「プレーヤーグループ」を参照してください）
 - グループから削除 135
 - グループ間の移動 135
 - コード記号 254, 717
 - コピー 113
 - コンデンシング 455, 477, 485
 - 削除 113, 122, 134
 - スウィング再生 559, 560
 - スコア上の位置 113
 - セクションプレーヤー 96, 110, 111
 - ソロ 553
 - ソロプレーヤー 96, 110, 111
 - 打楽器キット 120
 - 追加 26, 114, 119, 134
 - ディヴィジ 1192, 1193, 1195
 - ディヴィジ作成の編集 1196
 - テキストトークン 401
 - 名前を付ける 143, 146, 147
 - パートレイアウト（「レイアウト」を参照してください）
 - パネル 95, 96
 - 非表示 137, 139
 - 表示 137, 139
 - フィルター 399
 - 複数のインストゥルメント 59, 119
 - 複製 113
 - 譜表 1174, 1176
 - 譜表サイズ 460
 - 譜表の削除 1174

- プレイヤー (続き)
 - 譜表の追加 1176
 - 譜表ラベル 1160
 - フレームチェーン 396, 399
 - プレイヤー名 146
 - フロー 109, 137
 - フローから削除 137
 - フローに追加 137
 - マージ 75, 76, 79, 82
 - ミュート 553
 - ユニゾン範囲 1197, 1198
 - 余分な譜表 1175
 - 読み込み 75, 76
 - リスト 401, 835
 - レイアウト 109, 139, 147
- プレイヤーカード 96
 - 展開矢印マーク 50
- プレイヤーグループ 96, 133
 - 削除 134
 - 作成 133
 - 大括弧のグループ化 653
 - 名前を付ける 134
 - プレイヤーの移動 135
 - プレイヤーの削除 135
 - プレイヤーの追加 134
- プレイヤーパネル 95, 96
 - 非表示 96
 - 表示 96
- プレイヤー番号 (「プレイヤーラベル」を参照してください)
- プレイヤー名 143
 - インストゥルメントトラック 519
 - テキストトークン 401
 - 変更 146
- プレイヤーラベル 493, 494
 - 位置 493
 - 移動 496
 - ガイド 495
 - 浄書オプション 494
 - デフォルト設定 494
 - 背景 497
 - 背景の塗りつぶし 497
 - 非表示 495
 - 表示 495
 - ピリオド 494
 - 譜表ラベル 1170, 1171
 - 変更 494, 495
 - ライン 496
 - ワードラップ 496
- プレーンフォント
 - 長休符 1129
 - フィンガリング 809
- ブレス記号 844, 845
 - 位置 847
 - 移動 848, 849
 - 同じ位置に複数 847
 - 外観 332
 - 削除 339
 - タイプ 332, 845
 - 入力 263, 265, 266
- フレット 118
 - 位置 130, 735
 - 音域外の音符 1208
- フレット (続き)
 - 音程 130
 - 開始番号 725, 729, 730, 732, 734
 - コードダイアグラム (「コードダイアグラム」を参照してください)
 - サイズ 734
 - 削除 130, 730
 - スペーシング 130
 - 追加 130, 730
 - 番号 735
 - フォントスタイル 1211
 - 変更 1208
- フレット楽器 118
 - アルペジオのフィンガリング 816, 817
 - 開放弦のピッチ 131
 - 弦楽器 131, 916
 - 弦の指示記号 (「弦の指示記号」を参照してください)
 - コードダイアグラム 725, 727, 732
 - スライド 818, 819
 - タブ譜 (「タブ譜」を参照してください)
 - チューニング 118, 130
 - チューニングの書き出し 132
 - チューニングの読み込み 132
 - 追加 99, 119
 - ハーモニクス 928-930, 932
 - ピンチハーモニクス 935
 - フィンガリング 216, 801, 812
 - フレット 130
 - ポップオーバー 219
- 触れるピッチ 928
 - ハーモニクス 932
- フロー 35, 109, 135
 - MusicXML ファイル 80
 - 移動 335
 - インストゥルメントの変更ラベル 1167
 - オーディオ 90
 - カード 103
 - 書き出し 77
 - 記譜オプション 166
 - 空白の小節の削除 643
 - 組段 455
 - コピー 137
 - コンデンシングオプション 479, 488
 - 再生 555, 580
 - 削除 138
 - 終了位置の小節線 650
 - 声部 580
 - 選択 324
 - タイトル 148, 149, 453
 - タイムコード 103
 - タレット 474, 475
 - 追加 27, 136
 - デフォルト設定 164
 - デュレーション 403
 - トークン 402, 403
 - トリミング 238, 643
 - ナビゲーション 335
 - 名前 148
 - パネル 103
 - 番号 386, 387, 403
 - ビデオ 103, 149, 151, 152
 - 非表示 140
 - 表示 140

フロー (続き)

- 複製 137
 - 譜表サイズ 460
 - 譜表ラベル 1162
 - プリロール 555
 - フレームチェーン 396, 399
 - プレーヤー 109, 137
 - プレーヤーの削除 137
 - プレーヤーの追加 137
 - 分割 345
 - ページ上に複数 449
 - ページ番号 403, 404, 453
 - マスターページ 450
 - 見出し (「フロー見出し」を参照してください)
 - 読み込み 75, 76, 79, 82
 - 両端揃え 455
 - 臨時記号の有効範囲ルール 630
 - レイアウト 109
 - レイアウトから削除 140
 - レイアウトに追加 140
- フローティングウィンドウ 42
- フローのトリミング 237, 238, 643
- 「フローの読み込みオプション」ダイアログ 76
- フローパネル 95, 103
- 非表示 103
 - 表示 103
- フロー見出し 104, 365, 386
- 移動 447, 451, 464
 - 削除 389
 - 新規追加 388
 - 制限 386
 - 挿入 383
 - タイトル 453
 - テキストの配置 408
 - デフォルト 386, 388
 - 名前を付ける 389
 - 配置 387
 - パネル 358
 - 非表示 451
 - 表示 451
 - フレーム 386
 - フロータイトル 453
 - ページ番号 453, 989
 - 変更 383, 387
 - 変更の解除 385
 - 編集 386, 387
 - マスターページ 450
 - 優先の解除 378
 - 余白 451
- フロー見出しエディター 386
- 開く 387
- 「フロー見出しの変更を挿入」ダイアログ 383
- 「フローを書き出し」ダイアログ 77
- プログラムチェンジ
- エクスプレッションマップ 582, 583
- プロジェクト 34, 75
- MIDI ファイル 85
 - MusicXML ファイル 80
 - Steinberg Hub 69
 - イメージの追加 410
 - ウィンドウ 41
 - 開始 25, 70
 - 開始領域 46

プロジェクト (続き)

- 回復 93
 - 書き出し 80, 85, 89
 - 楽章 135
 - 異なるバージョンの Dorico 73
 - 最近 72
 - 自動保存 92, 93
 - 設定 362, 364
 - 全画面表示モード 59
 - 存在しないフォント 73
 - タイトル 149
 - タブ 57
 - テンプレート 69-71
 - トークン 402
 - バックアップ 94
 - バックアップの場所 94
 - ビデオ 149, 151
 - 開く 58, 72, 93
 - 複数のウィンドウ 25, 58
 - フレームレート 155
 - フロー 75-77, 135, 136, 149, 345
 - フローの書き出し 77
 - フローの分割 345
 - フローの読み込み 75, 76, 79
 - レイアウト (「レイアウト」を参照してください)
 - ワークスペース 54
- プロジェクトウィンドウ 41
- Dark 60
 - Light 60
 - 印刷モード 602
 - 記譜モード 156
 - 再生モード 502
 - 浄書モード 353
 - 設定モード 95
 - テーマ 60
 - 複数開く 58
 - 分割 57
- プロジェクト情報 104
- テキストトークン 104
 - トークン 148, 402
 - マスターページ 833
- 「プロジェクト情報」ダイアログ 104
- フロータイトル 148
- 「プロジェクトの初期設定のコード記号の外観」ダイアログ 709
- プロップ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)
- プロパティ 160, 361
- 音符 161, 361
 - 記譜記号 161, 361
 - 選択したアイテム 160
 - ビデオ 150
 - 別のレイアウトへコピー 501
- プロパティパネル 49, 160
- 記譜モード 156
 - 浄書モード 353, 361
 - 展開矢印マーク 51
 - 非表示 51
 - 表示 51
- 分割
- 角括弧 701, 922
 - 小節 645
 - 小節線の結合 655

分割 (続き)

スラッシュ領域 1113
 タイ 1242
 中括弧 701
 長休止符 1126, 1130
 符頭の括弧 922
 譜表 310, 311, 1090
 フレーズ 487, 488
 プレーヤーラベル 496
 フロー 345
 プロジェクトウィンドウ 57
 ペダル線 1010
 リpeatマーカーのテキスト 1094
 連桁 164, 677
 連符 1279

分割記号 (「組段の分割記号」を参照してください)

分割の矢印 1199

分割ポイント

MIDI インポート 83

分子

スタイル 1258, 1259
 拍子記号 1251, 1252

文頭の 1 文字目のみ大文字

リpeatマーカーのテキスト 1091

分母

スタイル 1258, 1260
 拍子記号 1251, 1252

へ

ヘアピン (「段階的強弱記号」を参照してください)

平坦なスラー 1155

平坦な中括弧 699

ページ

移動 336, 447
 入れ替え 385
 印刷 615, 619
 オプションを表示 51
 書き出し 615
 区切り (「フレーム区切り」を参照してください)
 形式設定 376, 833
 サイズ (「ページサイズ」を参照してください)
 削除 378, 448
 順番 398
 設定 619
 選択部分から作成 470
 総数 404
 ターン (「フレーム区切り」を参照してください)
 追加 447
 テキストトークン 401
 テンプレート 364, 374, 386
 ドラッグ 336
 ナビゲーション 336
 配置 53
 パネル 358
 範囲 615
 番号 (「ページ番号」を参照してください)
 ビューの変更 59
 複数のフロー 449
 譜表のスペーシング 468
 フレーム 390, 391, 398, 410
 フロー見出し 386
 フロー見出しの割り当て 383

ページ (続き)

編集 376, 378
 マスターページ 364, 374, 381, 440
 マスターページの割り当て 381

密度 466

向き 441

余白 440, 442, 454

レイアウト 364, 374, 440, 457

ページ区切り (「フレーム区切り」を参照してください)

ページ形式設定 440

空白の譜表 446

組段 438, 457

組段あたりの小節数 457

組段に変換 472

組段の移動 467

組段のスペーシング 444

形式設定 365, 376

献呈 834

固定 457, 470

コピー 468

タイトル 364, 386

タレット 475

長休止符 1130

ディヴィジ 1192, 1193

テキストの衝突回避 424

配置設定 457

左ページ 449

複数のフロー 449

譜表サイズ 458

譜表のスペーシング 424, 444, 462, 468

フレーム制限 410

フレームに変換 470

フロー見出し 383, 385, 386, 440

ページサイズ 441

マスターページ 364, 365, 368, 374, 375, 382

ページサイズ 618, 619

MusicXML ファイル 79

変更 441

レイアウトオプション 106

「ページの移動」ダイアログ 336

ページの優先 376, 420

移動 447

削除 378

テキスト 400

ページの削除 448

ページ配置 52, 53

ページパネル 353, 358

ページ範囲

印刷 609

書き出し 609

選択 615

ページ番号 380, 986

移動 447, 986

外観 987

開始 449, 989

カウント 404

合計 404

サイズ 987

シーケンスの変更 379, 380

水平方向の配置 987

数字スタイル 380, 988

トークン 403, 404

パラグラフスタイル 987

- ページ番号 (続き)
 - 非表示 453, 989, 990
 - 表示 453, 990
 - フォントスタイル 987
 - フロー 403
 - フロー見出し 453, 989
 - ページ内の位置 986
 - 変更 379, 380
 - 変更の解除 381
- 「ページ番号の変更」ダイアログ 380
- ページビュー 52
 - 配置 53
 - フロー 345
 - への変更 59
- ページめくり
 - 左に最初のページ 449
- ページ余白 440
 - 変更 442, 454
- 「ページを挿入」ダイアログ 447
- ベース音
 - オルタード 256
- ベースギター (「フレット楽器」を参照してください)
- ベースライン
 - アタッチメントポイント 427, 712, 869, 907, 1038
 - 歌詞 886, 888
 - テキスト 316, 420
- へ音記号 (「音部記号」を参照してください)
- ペダル
 - ハープのペダリング (「ハープのペダリング」を参照してください)
- ペダル線 1000
 - MIDI インポート 83, 213
 - MIDI 録音 213
 - MusicXML の読み込み 1020
 - 上げ 1001
 - 位置 1006, 1009, 1012
 - 移動 1007, 1008
 - 延長線 1000, 1012, 1015, 1016
 - 外観 1012, 1013, 1015, 1018, 1019
 - 開始記号 1012, 1013, 1017
 - ガイド 337
 - 括弧 1017
 - 間隔 1016
 - 記号 427
 - 形式設定 427, 1013-1016
 - 再生 1019
 - 再生時にミュート 554
 - 削除 339
 - 順番 1006
 - 浄書オプション 1012
 - 浄書モード 1001
 - 装飾音符 1009, 1012
 - タイプ 282, 1000
 - 打楽器 1021
 - テキスト 1017-1019
 - デフォルト設定 1012
 - デュレーション 1019
 - 長さ 1008, 1010, 1011
 - 入力 279, 282, 286, 287
 - ハープのペダリング (「ハープのペダリング」を参照してください)
 - 配置 1006, 1012
 - 破線 1016
- ペダル線 (続き)
 - パネル 283, 287
 - ハンドル 1001, 1008, 1014
 - フィルター 328
 - フック 1012, 1014
 - 太さ 1016
 - 譜表に対する位置 1006
 - 分割 1010
 - 変更 332
 - ポップオーバー 282, 286
 - マージ 1011
 - リテイク (「ペダルのリテイク」を参照してください)
 - リテイクの削除 1005
 - リリース 1012
 - レベル (「ペダルの強さの変更指示」を参照してください)
- ペダル線のペダルの強さを変える 1001, 1003-1005
 - ハンドル 1001
- ペダルの強さの変更指示 1001
 - 開始レベル 1003
 - 削除 1005
 - 終了レベル 1005
 - 追加 282, 286-288
 - 変更 1003-1005
- ペダルのリテイク 1001
 - 位置 1012
 - 削除 1005
 - タイプ 1003
 - 追加 282, 286-288
 - 配置 1012
 - ハンドル 1001
 - ペダルの強さ 1004
- ヘッダー
 - インストゥルメントトラック 519
 - コードトラック 543
 - フロー 386
 - 欄外見出し 836
- ヘミオラ
 - 音符のデュレーションの強制 181
- ベロシティー
 - MIDI インポート 83
 - エクスペッションマップ 583
 - 変更 530
 - レーン (「ベロシティーレーン」を参照してください)
- ベロシティーレーン 521, 528, 530
 - 非表示 529
 - 表示 529
 - ベロシティーの変更 530
 - ベロシティーのリセット 530
- 変移線 1029, 1046
 - 演奏技法 1033, 1043
 - オートメーション 534
 - 外観 1032, 1035
 - 強弱記号 524
 - デフォルト設定 1035
 - デュレーション 1030
 - 入力 280, 284, 285
 - 非表示 1032
 - 表示 1032, 1034
- 変換
 - PDF 610
 - 音符から連符 1278

変換 (続き)

レイアウトをグラフィックファイルに 610
連符から標準の音符 1278

編曲者 104, 402

変更ラベル

インストゥルメント 117
コンデンシング (「プレイヤーラベル」を参照してください)
ディヴィジ 1200

编者注

音符 918, 919
スラー 1153
タイ 1246

編集 168, 332

アイテム 161, 332, 361
音符 157
歌詞のテキスト 882
ツール 322
入力と編集 168
ハンドル 361
フロー見出し 387
方法 322
マウス入力 169
マスターページ 375
領域 122, 1295

返信

コメント 346, 348, 350

ベンディング (「ギターバンド」を参照してください)

バンド

ギター (「ギターバンド」を参照してください)
ジャズ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください) (「ジャズの装飾音」も参照)

変拍子

アウフタクトとしての小節 1255
拍子記号 1253

ほ

ポイント

一定 524, 534
オートメーション 531, 533-536
基準単位 61
強弱記号 521, 523, 524, 526, 528
テンポ変更 538
譜表のスペーシング 464
リニア 524, 534

方向

アルペジオ記号 953, 954
移調 206
扇形連符 690
ギターバンド 332
グリッサンドライン 916
弦のシフト指示 824, 916
スラーのカーブ 1132, 1151, 1152
スラッシュ符頭 1111
第3線にある音符 1215
タイのカーブ 1236, 1249
段階的強弱記号 783
不完全連符 678
符尾 1213, 1215-1217
ヘアピン 783
ベンディング 974

方向 (続き)

用紙の向き 618
ライン 1058

ボーイング (「演奏技法」を参照してください)

ポート 519, 538, 543, 576

インストゥルメント 580
インストゥルメントトラック 519
エクスプレッションマップ 576, 581
コードトラック 543
設定 576
タイムトラック 538
パーカッションマップ 576, 581
変更 580
ミキサー 563

ホルトーンコード記号 252

ホルドの線 970, 973

移動 976
ギターバンド 973, 976

補助音符 947

位置 948
表示 948
符頭のデザイン 910

保存 69, 92

MIDI ファイル 85
MusicXML ファイル 80
インストゥルメント名をデフォルトとして 144
エクスプレッションマップ 593
演奏技法 1044
演奏した音符 209
エンドポイント 579
エンドポイント設定 578, 579
オーディオ 85, 90
音符入力オプションをデフォルトとして 167
カスタムの演奏技法 1043
記譜オプションをデフォルトとして 164
グラフィックファイル 610, 611
コード記号をデフォルトにする 715
コードダイアグラムシェイプ 729
コメント 351
再生テンプレート 575
自動保存 (「自動保存」を参照してください)
浄書オプションをデフォルトとして 362
打楽器キット 1290
調性システム 861, 862
調性システムをデフォルトとして 863, 866
デフォルトの再生オプション 509
パーカッションマップ 598
バックアップ 94
パラグラフスタイルをデフォルトとして 415
フォルダーの場所 94
マスターページのセット 367
文字スタイルをデフォルトとして 418
レイアウトオプションをデフォルトとして保存 106
ボックス (「粹線」を参照してください) (「フレーム」も参照)
ホットキー (「キーボードショートカット」を参照してください)
ポップオーバー 36
アイテムの変更 332
アルペジオ記号 269, 272
インストゥルメント (「インストゥルメントピッカー」を参照してください)
演奏技法 280, 284, 286

ポップオーバー (続き)

延長 263, 265
オクターブ線 257, 259, 261
音程追加 201, 202, 205
音部記号 257, 260
歌詞 296-298
ギターバンド 269, 277, 278
キュー 318, 319
休止 263, 265
強弱記号 244, 247
グリッサンドライン 269, 274
弦の指示記号 282
コード記号 167, 250, 253
ジャズアーティキュレーション 269, 276
小節 237, 238, 240
小節線 237, 239, 240, 242
小節リピート記号 305, 314
スラッシュ符頭 305
装飾音 268, 271, 272, 274, 276-278
調号 220, 223
テンポ 231, 235
トリル 268, 946
トレモロ 304, 305, 311
ハーブのペダリング 282
拍 238
拍子記号 226, 229
フィンガリング 216, 218
ペダル線 282, 286
メトロノームマーク 231
リピート 303, 311, 314
リピート括弧 304
リピートマーカー 304
連符 199

ボディ

演奏技法の延長線 1030, 1032
変更 1057
ライン 1046, 1048, 1057

ポリコード記号 252

入力 255

ボリューム

MIDI 799
強弱記号 771, 798
再生 583, 798
チャンネルメーター 563
ビデオオーディオ 154
ペロシティー 583
ミキサー 563
無音の再生テンプレート 567, 568
メトロノームクリック 210
リセット 554

ポルタ線 (「リピート括弧」を参照してください)

ポルタメント (「グリッサンドライン」を参照してください)

ホルン

音部記号 99
支管の指示記号 809, 822
調号 99
フィンガリング 809, 822

ま

マーカー 1073

位置 1073
移動 1076, 1077
外観 1073
コメント (「コメント」を参照してください)
削除 339
重要 301, 1077
浄書オプション 1073
垂直位置 444, 462, 1073, 1074
ダイアログ 300
タイムコード 300, 1076, 1081
テキスト 300, 1075
デフォルト設定 1073
トラック 545
入力 299, 300, 545
パネル 300
非表示 1074
表示 1074
フィルター 328
フォントスタイル 1076
譜表 1074
譜表のスペーシング 444, 462
リピート 303, 304, 1090

マーク

テンポ (「テンポ記号」を参照してください)
トリル 936, 938, 941
リハーサル (「リハーサルマーク」を参照してください)

マークアップ (「コメント」を参照してください) (「注釈」も参照)

マージ

声部 343
プレーヤー 75, 76, 79, 82
ペダル線 1011

マイナー

コード記号 251
スケール 852
調 852

マウス入力 168

設定 169
無効化 157, 179
有効化 157, 179

前付け 833

献呈 834
プレーヤーリスト 401
プロジェクト情報 833
欄外見出し 836

巻き戻し 548

マスター出力ボリューム 563

マスターページ 39, 364, 368

移動 447

上書き (「ページの優先」を参照してください)

カスタム 368-370

楽曲フレーム 393, 394

グラフィックフレーム 374, 409, 410

献呈 834

最初 368

削除 374

新規追加 369

セット (「マスターページのセット」を参照してください)

- マスターページ (続き)
 - タイプ 368
 - 追加 370
 - テキストの配置 408
 - デフォルト 368
 - 名前を付ける 373
 - パネル 358
 - フレーム 390-392
 - フレーム制限 410
 - フレームチェーン 395, 397, 398
 - フロー見出し 386
 - フロー見出しの変更の解除 385
 - ページ番号 986
 - ページへの割り当て 381, 450
 - 変更の解除 382
 - 編集 374, 375
 - もとにするページ 369, 370, 375
 - 読み込み 371, 373
 - 欄外見出し 836
 - リンク 369, 370, 375
 - レイアウトのコピー 375
- マスターページエディター 374
 - 開く 375
- マスターページのセット 365
 - 書き出し 367
 - 削除 368
 - 作成 366
 - 適用 368
 - 名前を付ける 367
 - フロー見出し 365, 386, 388
 - 読み込み 366
- 「マスターページの読み込み」ダイアログ 373
- 末尾
 - 強弱記号 782
 - 小節番号 673
 - タイムコード 1079
 - リハーサルマーク 1071
- マップ
 - エクスペッション 582
 - キーボードショートカット 64
 - 打楽器 593
- 丸
 - 音符の囲み線 1210
 - 弦の指示記号 825
 - 弦の指示記号の囲み線 826
 - コードダイアグラム 725, 726, 729, 730
 - 小節番号の囲み線 658, 659
 - ハーモニクス 932, 934
 - 符頭 899
 - リズム (「付点」を参照してください) (「付点音符」も参照)
 - リハーサルマークの囲み線 1065, 1066
- マルカート (「アーティキュレーション」を参照してください)
- マンドリン (「フレット楽器」を参照してください)
- み
- ミキサー 563
 - ウィンドウ 41
 - オーディオ出力を非表示にする 576
 - サウンドトラック 154
 - ソロ状態 553, 563
- ミキサー (続き)
 - チャンネルストリップ 564
 - トラックのミュート 552
 - トラックをソロにする 552
 - ビデオ 154
 - 非表示 565
 - 表示 565
 - ポート 563
 - ボリューム 554
 - ミュート状態 553, 563
 - リセット 554
- 右手のフィンガリング 812
 - アルペジオ記号 816, 817
 - 位置 801
 - 角括弧 813
 - 浄書オプション 801
 - デフォルト設定 801
 - 入力 216
 - ポップオーバー 219
 - 文字 817
- 右パネル 49
- ミクソリディアンコード記号 252, 724
- 密集和音 627
 - 臨時記号のスタック 627
- 密度
 - 組段 436
 - フレーム 466
- ミディウムスウィング 557, 561
- 緑の音符
 - タブ譜 1208
- ミニトランスポート 42, 43
- 見開きページの配置 53, 615
- ミュート
 - アイテム 554
 - インストゥルメント 553
 - 音符 330, 554, 1209
 - トラック 552, 563
 - 無効化 553, 563
- ミュートの符頭 902
- ミリメートル
 - 基準単位 61
 - 譜表のスペーシング 464
- 未割当のインストゥルメント
 - サウンドのロード 573
- む
- 無音
 - アイテムのミュート 554
 - 音符 1209
 - 再生テンプレート 567, 568, 573
 - 存在しないサウンド 573
 - ヘアピン (「ニエンテのヘアピン」を参照してください)
- 無音程打楽器 1289
 - MIDI ファイル 1306
 - MusicXML ファイル 1306
 - アーティキュレーション 599, 1293
 - インストゥルメントの順番 128
 - インド太鼓の記譜 1307
 - 演奏技法 599, 1021, 1292, 1294, 1297, 1299
 - 音符入力 188-190, 513
 - 音符の移動 1293

無音程打楽器 (続き)

括弧 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
 キット (「打楽器キット」を参照してください)
 キットにおける強弱記号 1294
 キットにおける声部 1304, 1305
 キットの書き出し 1290
 キットの読み込み 1291
 記譜オプション 1292
 記譜記号 1293
 キュー 753, 754
 グリッドキットの表示 126-129
 グループ 126
 グループ名の変更 127
 ゴーストノート (「括弧付きの符頭」を参照してください)
 個別のインストゥルメント 1289
 再生 581, 593, 594, 599, 1297
 再生モード 512, 1306
 浄書オプション 1291
 ステッキング 1294
 スラッシュ符頭 122, 1314
 デフォルト設定 1291
 ドラムセット (「ドラムセット」を参照してください)
 トレモロ 599
 なぞる (「演奏技法」を参照してください)
 パーカッションマップ 581, 593, 594
 表示タイプ 122, 1289, 1295, 1296
 符頭 1297, 1300
 符尾の方向 122, 190, 1304, 1305
 譜表 122, 1295, 1296
 譜表ラベル 1169
 レジェンド 1301, 1302, 1304
 連符 1293

向き

印刷 607, 619
 書き出し 619
 コードダイアグラム 735
 縦 618, 619
 変更 441
 横 618, 619

無効化

音符入力 176
 音符の書き換え 194
 キャレット 174
 ソロ状態 553
 ソロにされたトラック 563
 マウス入力 179
 ミュートされたトラック 563
 ミュート状態 553
 和音の入力 197
 挿入モード 187

無調の調号 853

め

明示的な休符 1120, 1121
 暗黙の休符 1123
 カラー 1124
 削除 1124
 非表示 1124
 表示 1124

命名規則

ファイル名 612

メーター 1251

オープン 1253, 1260
 音符のグループ化 676, 692
 休符のグループ化 676, 692
 チャンネルレベル 563
 トレモロ 1268
 拍子記号 1253
 拍子なしの拍子記号 1252
 変更 332
 変拍子 644, 645
 連符のグループ化 676, 693
 連符 1276

メジャー

コード記号 251
 スケール 852
 調 852

メトロノームクリック (「クリック」を参照してください)

メトロノームマーク 1219, 1228
 値 332, 542, 1228
 外観 1226, 1227
 括弧 1226
 クリック 210
 構成要素 1226, 1227
 サイズ 1224
 再生 210, 565, 1229, 1230
 小数点位置 235, 236, 1228, 1230
 垂直位置 1188
 選択 323
 等式 233, 1234
 入力 231, 235, 236
 拍の単位 332, 1228
 範囲 1229
 非表示 1225
 表示 1225
 フォント 1224
 複数の位置 1188
 変更 332, 542, 1228
 ポップオーバー 231
 メリスマ様式の歌詞 298, 884, 889

も

モーター (「演奏技法」を参照してください)
 モーダルコード記号 252, 724
 モード 21, 34
 機能 21
 記譜 156
 切り替え 21
 コード 171, 724
 浄書 353
 全画面表示 59
 挿入 171, 187
 ツールバー 18
 テンポ 554
 印刷 602
 再生 (Play) 502
 設定 95

文字

右手のフィンガリング 817
 文字スタイル 412, 418
 削除 419
 作成 419
 存在しないフォント 73

文字スタイル (続き)

- ダイアログ 418
- デフォルトとして保存 418
- 「文字スタイル」ダイアログ 418
- モジュレーションホイールダイナミクス 799
- モダニストの臨時記号の有効範囲ルール 632
- 木管楽器
 - 演奏技法 283
- モックアップ
 - 書き出し 90
- 元スタイル
 - パラグラフスタイル 415, 416
- もとにするページ
 - マスターページ 369, 370, 375
- もとのインストゥルメント 752
 - キューラベル 761
- モルデント 936
 - 音程 937

や

- 訳詞 877
 - 歌詞を変更 878
 - ポップオーバー 297
 - ラインを変更 892
- 矢印 1046
 - アルペジオ記号 953
 - キャップ 1033, 1058
 - 声楽の譜表 1199
 - デザイン 1032
 - 展開 50
 - 符頭 901
 - 分割記号 1199

ゆ

- 有効化 174
 - MIDI デバイス 214
 - インストゥルメントの変更 117
 - 音符入力 174, 176
 - 音符のスペーシング 354, 435
 - キャレット 174
 - 休符の入力 157
 - 強弱記号のリンク 331
 - グラフィックの編集 354
 - コード記号の再生 543, 544
 - コンデンス 455, 486
 - 再生時のサンプリングされたトリル 950
 - 再生中のクリック 550
 - 自動保存 93
 - スウィング再生 233, 558-560
 - スラーの衝突回避 1157
 - スラーのリンク 331
 - 声部の個別再生 551
 - 装飾音符の入力 157
 - 挿入モード 157, 187
 - テキストの衝突回避 424
 - デュレーションを強制 157
 - デュレーションをロック 157
 - はさみ 157
 - 付点音符 157
 - 譜表のスペーシング 354, 464
 - 部分的なハーブのペダリング 999

有効化 (続き)

- フレーム 354
- マウス入力 157, 179
- 連符の入力 157
- 和音の入力 157, 197
- ユーザーアカウント
 - コメント 351
- ユーザーインターフェース 18, 41
 - ウィンドウ 41
 - 楽譜領域 19
 - ステータスバー 21
 - ツールバー 18
 - ツールボックス 19
 - トランスポートオプション 43
 - パネル 20
- ユーザー名
 - コメント 346
- ユニゾン 1192
 - オルタード (「オルタードユニゾン」を参照してください)
 - 削除 343
 - ディヴィジ 1197
 - 配置 343
 - 復元 1197
- ユニゾン範囲 1197
 - カラー 1198
- ユニバーサルインド太鼓記譜法 1307

よ

- 用紙
 - サイズ 441, 618, 619
 - 向き 618, 619
 - 両面印刷 617
- 洋式の調性
 - オクターブの分割 860
 - 調号 851
- 用紙サイズに合わせる 619
- 横棒線 (「ライン」を参照してください) (「グリッサンドライン」も参照)
- 横向き 618, 619
- 余白
 - MusicXML ファイル 79
 - 演奏技法 1026
 - オシニア譜表 1182
 - 囲み線 659, 1066
 - 楽曲フレーム 454, 466
 - 休符 (「余白を埋める休符」を参照してください)
 - 強弱記号 778
 - 小節番号 659
 - タレット 476
 - テキスト 407, 425, 1063
 - ハーブのペダリング 996
 - フレーム 407, 440
 - プレーヤーラベル 497
 - フロー見出し 383, 451
 - ページ 440, 442
 - 変更 442
 - ライン 1063
 - リハーサルマーク 1066

余白を埋める休符 765, 1120

キュー 766
スラッシュ領域 1113
非表示 766, 1113

余分な譜表 1175

移動 1177
オシリア譜表 (「オシリア譜表」を参照してください)
ガイド 1175
削除 1174
追加 1176
ディヴィジ (「ディヴィジ」を参照してください)
幅 1178
非表示 446
表示 446

読み込み

Cubase データ 583
MIDI ファイル 82, 83, 1306
MusicXML ファイル 79, 1089, 1306
エクスプレッションマップ 583, 592
再生テンプレート 575
打楽器キット 1291
調性システム 861
テンポトラック 87
パーカッションマップ 598
フレット楽器のチューニング 132
フロー 75, 76
マスターページ 366, 371, 373
無音程打楽器 1306

1/4 音 629, 862

移調 202
オクターブの分割 868
調号 872
臨時記号 629, 869

5

ライブラリー

コードダイアグラム 732
サウンド 505, 508, 567, 583, 593
打楽器 593
フレット楽器のチューニング 132

ライン 962, 1029, 1046, 1048

アルペジオ記号 (「アルペジオ記号」を参照してください)
位置 1049, 1050
移動 1050, 1051, 1053, 1054
演奏技法 (「演奏技法の線」を参照してください)
延長 (「ホールドの線」を参照してください) (「ギターバンド」.も参照)
オートメーション 531, 533
オクターブ線 (「オクターブ線」を参照してください)
音符 (「符尾」を参照してください) (「連桁」.も参照)
音符の連結 (「連桁」を参照してください)
外観 1032, 1035, 1046, 1057
描く 540
囲み線 659, 1066
歌詞 875, 891
歌詞の延長 889, 890
加線 914
間隔 1049
ギターバンド 970, 973
キャップ 1033, 1046, 1058

ライン (続き)

強弱記号 521, 523
組段区切り 1048, 1054
組段の分割記号 (「組段の分割記号」を参照してください)
グリッサンド (「グリッサンドライン」を参照してください)
弦の指示記号 290, 291, 827
弦のシフト指示 824
構成要素 1048
コードダイアグラム 726
サイズ 1055, 1060
再生 (「再生ヘッド」を参照してください)
ジャズアーティキュレーション 979, 984
終了位置 1057
順番 1025, 1050
浄書オプション 1049
小節線 647
垂直 1046, 1049
垂直位置 1025, 1049, 1051
水平 1046, 1049
水平位置 1050
スラー 1154
セグメント 1054
装飾音符 1051
装飾音符のスラッシュ 840
タイ 1246, 1248
第2 連桁 686
タイプ 1032, 1046, 1049
タブ譜 1205, 1206
段階的テンポ変更 1234
注釈 1048
テキスト 424, 1048, 1059–1061
デフォルト設定 1049
デュレーション 1055, 1056
テンポ記号 538, 1232
トリル 942, 943
長さ 1054–1057
斜め 293, 1046, 1052
波線 942, 953
入力 293–295
ハープのペダリング 991, 998
背景 1062
背景の塗りつぶし 1062, 1063
配置 1051, 1052
反転 1058
ハンドル 1054
非表示 1031
フィンガリング 823
フォント 1060
太さ 362
譜表 1173, 1174
譜表に対する配置 1051, 1052
譜表をまたぐ 295
フレーム区切り 1054
プレーヤーラベル 496
分割の矢印 1199
ペダル (「ペダル線」を参照してください)
ベロシティ 530
変更 1032, 1057, 1058
余白 1063
リピート括弧 (「リピート括弧」を参照してください)
リピートマーカのテキスト 1094

- ライン (続き)
列 1050
連結 293, 294, 1046
連結の種類 1049
連桁 (「連桁」を参照してください)
連符の大括弧 (「連符の大括弧」を参照してください)
- ラインのスペーシング 415, 416, 422
ラスタライズ (「譜表サイズ」を参照してください)
- ラベル
インストゥルメント 144, 1159
インストゥルメントの変更 117
オッサ譜表 1185
キュー (「キューラベル」を参照してください)
コンデンシング (「プレイヤーラベル」を参照してください)
打楽器キット 1169, 1295
ディヴィジ 1200, 1201, 1203
譜表 (「譜表ラベル」を参照してください)
マーカー 1073
- ラン
ギターバンド 970
- 欄外見出し 836
非表示 453
フロー見出し 453
- り
- リードシート
組段の小節線 650
- リスト
コメント 348
プレイヤー 401, 835
- リズムミックフィール
ガイド 337, 559, 560
デフォルト設定 557
変更 559
変更の削除 560
ポップオーバー 233
- 「リズムミックフィール」ダイアログ 561
- リズム
再クオンタイズ 210
スラッシュ (「スラッシュ符頭」を参照してください)
タブ譜 1206, 1207
ロック 205
- リズム記号 38, 1109
- リズムグリッド 51, 170
楽譜の選択 327
間隔 51, 170
キーボードショートカット 62, 66
変更 170
- リズムセクション
角括弧 696
コード記号 717, 718
譜表のグループ化 696
- リズムによるキュー 753
位置 753, 754
移動 754
キューを変換 754
譜表上の位置 755
- リセット
アイテム 333, 334
位置 334
エクスペクションマップ 583
- リセット (続き)
オクターブ線の角度 746
音符のスペーシング 434, 439
外観 333
角括弧 704
歌詞のライン 888
キーボードショートカット 67
コード記号 715, 724
コードダイアグラム 730
コンデンシング 492, 493
再生テンプレート 573
再生の上書き 601
小節線 704
小節番号 669
第2連桁 687
中括弧 704
テキスト 422
テンポ 1220
ノートベロシティー 530
パーカッションマップ 594
パートレイアウト 142
フィンガリング 804, 814
フィンガリングスライド 819
譜表のグループ化 704
譜表のスペーシング 467
ページ番号 381
ベロシティー 530
ボリューム 554
レイアウト 142
連桁 677, 680, 683, 687
- リダクション 138
リップ (「ジャズアーティキュレーション」を参照してください)
リディアンコード記号 252, 724
リテイク (「ペダルのリテイク」を参照してください)
リデュース 343, 477 (「コンデンシング」も参照)
リニアポイント 524, 534
入力 523, 533
- リハーサルマーク 1064
位置 1064, 1068
移動 1068, 1069
囲み線 1065, 1066
キュー 320
サイズ 1072
削除 1069
シーケンス 1070
順番 1070
浄書オプション 1065
垂直位置 1188
先頭 1071
タイプ 1070
デフォルト設定 1065
入力 299
フィルター 328
フォントスタイル 1072
複数の位置 1068, 1188, 1189
譜表に対する位置 1064
末尾 1071
余白の値 1066
- リバーブチャンネル 564
ミキサー 563

- リピート
 - カウント [1102](#)
 - カウントの移動 [1106](#)
 - 括弧 (「リピート括弧」を参照してください)
 - グループ化 [1107](#)
 - 再生 [1097](#)
 - 浄書オプション [1100](#)
 - 小節 [1099](#)
 - 小節線 (「リピート小節線」を参照してください)
 - 長さ [332](#), [1100](#)
 - 任意の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
 - 頻度 [1104](#)
 - フォントスタイル [1105](#)
 - マーカー (「リピートマーカー」を参照してください)
- リピート回数 [1083](#)
 - MIDI 録音 [210](#)
 - 小節番号 [671-673](#)
 - 総数 [1083](#)
 - 任意の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
 - 分割 [1084](#)
 - 変更 [1098](#)
 - リピート [1084](#), [1097](#), [1098](#)
- リピート括弧 [1083](#)
 - MIDI 録音 [210](#)
 - MusicXML ファイル [1089](#)
 - 位置 [1084](#), [1085](#)
 - 移動 [1086](#), [1087](#)
 - 外観 [1084](#), [1088](#)
 - 書き出し [556](#)
 - 組段区切り [1087](#)
 - 最終セグメント [1088](#)
 - 再生 [556](#)
 - 削除 [339](#)
 - 浄書オプション [1084](#)
 - 小節番号 [671-673](#)
 - 垂直位置 [1188](#)
 - セグメント [1083](#), [1085](#)
 - タイプ [304](#)
 - 追加の括弧 [307](#), [309](#)
 - テキスト [1088](#)
 - デフォルト設定 [1084](#)
 - 長さ [1085](#), [1087](#)
 - 入力 [304](#), [306-309](#)
 - 任意の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
 - 配置 [1085](#)
 - パネル [306](#), [308](#), [309](#)
 - ハンドル [1085](#), [1087](#)
 - 複数の位置 [1085](#), [1188](#), [1189](#)
 - フック [1089](#)
 - フレーム区切り [1087](#)
 - ポップオーバー [304](#), [306](#), [307](#)
 - リピート回数 [1083](#), [1084](#)
- リピート小節線 [647](#)
 - MIDI 録音 [210](#)
 - 演奏回数 [1098](#)
 - 外観 [649](#)
 - 書き出し [556](#)
 - 組段の開始位置 [649](#)
 - 再生 [556](#)
 - 入力 [239](#), [242](#)
 - ポップオーバー [239](#), [242](#)
 - リピート回数 [1098](#)
- リピートセクション (「リピートマーカー」を参照してください)
 - リピートの 2 回め以降
 - 小節番号 [671](#), [673](#)
 - リピートのポップオーバー [303](#)
 - リピートマーカー [1090](#)
 - MIDI 録音 [210](#)
 - 位置 [1091](#), [1095](#)
 - 移動 [1095](#), [1096](#)
 - インデックス [1092](#)
 - 演奏回数 [1098](#)
 - 大文字 [1091](#)
 - 外観 [1091](#)
 - 書き出し [556](#)
 - 小文字 [1091](#)
 - サイズ [1091](#), [1092](#)
 - 再生 [556](#), [1097](#)
 - 削除 [339](#)
 - 順番 [1092](#)
 - 浄書オプション [1091](#)
 - 小節線 [649](#), [1094](#)
 - 小節番号 [671-673](#)
 - 垂直位置 [1188](#)
 - タイプ [304](#)
 - テキスト [1093](#)
 - デフォルト設定 [1091](#)
 - 入力 [304](#), [306](#), [310](#), [311](#)
 - 任意の音符 (「括弧付きの符頭」を参照してください)
 - パネル [306](#), [311](#)
 - パラグラフスタイル [1091](#)
 - フォント [1091](#)
 - 複数 [1092](#)
 - 複数の位置 [1095](#), [1188](#), [1189](#)
 - 譜表に対する位置 [1096](#)
 - 変更 [332](#)
 - ポップオーバー [304](#), [310](#)
 - ライン [1094](#)
 - ワードラップ [1094](#)
- リムショット (「演奏技法」を参照してください)
- リュート (「フレット楽器」を参照してください)
- 領域
 - 印刷プレビュー [48](#)
 - カウント [1115](#)
 - 楽譜 [46](#)
 - 強弱記号 [521](#)
 - コード記号 [719](#)
 - 再生モード (「カラー領域」を参照してください)
 - 浄書オプション [1100](#)
 - 小節リピート記号 [1099](#)
 - スラッシュ [1109](#), [1113](#)
 - プロジェクト開始領域 [46](#)
 - 編集 [122](#), [1295](#)
- 両端揃え
 - 組段 [438](#), [444](#), [455](#), [462](#)
 - 垂直 [444](#), [462](#)
 - 譜表 [444](#), [455](#), [462](#), [1178](#)
- 両端揃え (垂直方向)
 - 組段 [444](#), [462](#)
 - 譜表 [444](#), [462](#)
- 両面印刷 [607](#), [617](#)
- 冊子印刷 [616](#)
- 両立しない演奏技法のグループ
 - エクスペリションマップ [583](#)

- リリース
 - ギターバンド 970, 973
 - ハンドル 977
 - リンク
 - VST/MIDI へのパーカッションマップのリンク 581
 - 楽曲をフレームに 397, 398
 - 強弱記号 331, 794, 796
 - 強弱記号のグループ 793
 - スラー 331, 1141, 1142
 - フロータイトル 148
 - フロー名 148
 - マスターページ 369, 370, 375
 - リンクの解除
 - 楽曲フレーム 398
 - 強弱記号 796
 - スラー 1142
 - 臨時記号 624
 - MIDI 入力 193
 - 位置 626
 - 移調 206
 - 異名同音 204
 - 打ち消し 631
 - オクターブの分割 860
 - オルタードユニゾン（「オルタードユニゾン」を参照してください）
 - カーニング 627
 - 外観 625
 - ガイド 337
 - 書き換え 194, 204
 - 角括弧 625, 931
 - カスタム 863, 864, 869（「カスタムの調性システム」も参照）
 - 加線 626
 - 括弧 625, 631, 931
 - 区切りをまたぐタイ 625, 1239
 - コード 627
 - コード記号 707, 723, 724
 - 再表示 632
 - 削除 624
 - 順番 626
 - 浄書オプション 626
 - 衝突回避 626, 627
 - スタックの順番 626, 627
 - スペーシング 627
 - スラー 1156
 - 装飾音 937, 948
 - タイトル 402
 - 調号 624, 851, 858
 - 調性システム 862
 - デフォルト設定 626
 - トークン 402
 - トリル 944, 945, 947, 948
 - 入力 192, 629
 - ハーブのペダリング（「ハーブのペダリング」を参照してください）
 - ハーモニクス 931
 - パネル 159, 224
 - 非表示 624, 625, 632, 931, 945
 - 微分音 629
 - 表示 624, 625, 632, 931, 945
 - フィルター 328, 329
 - 変更 192
 - ベンディング 975
 - 臨時記号（続き）
 - ホルンの支管の指示記号 809
 - 有効範囲ルール（「臨時記号の有効範囲ルール」を参照してください）
 - 予告 631, 632
 - 1/4 音 629
 - 臨時記号の構成要素 869
 - アタッチメントポイント 869
 - 臨時記号の表記 193
 - 書き換えの無効化 167, 194
 - 変更 204
 - 臨時記号の有効範囲ルール 630
 - 一般的な慣習 631
 - 変更 630
 - モダニスト 632
 - 新ウィーン楽派 (Second Viennese School) 632
 - 「臨時記号を編集」ダイアログ 869
- ## る
- ルート
 - コード記号 250, 256, 707, 718
 - コードダイアグラム 726
 - ルーラー
 - 再生モード 510
 - リズムグリッド 170
- ## れ
- レイアウト 38, 100, 109, 138, 477
 - MIDI の書き出し 85
 - MusicXML ファイル 80
 - tacet al fine 1128
 - 移調 118, 138, 140, 141
 - 異名同音の表記 204
 - 印刷 607, 615, 619
 - 印刷モードのパネル 603
 - インストゥルメントの順番 133
 - インストゥルメントの変更ラベル 1167
 - インデント 1190, 1191
 - 大きな拍子記号 1256, 1258
 - オーケストラの順番 113
 - オーディオの書き出し 90
 - オッサ譜表 1184, 1186
 - オッサ譜表の非表示 1184
 - 音部記号 740, 741
 - 音符のスペーシング 430
 - カード（「レイアウトカード」を参照してください）
 - 書き出し 610, 615
 - 角括弧 71, 695, 696, 698, 700（「譜表のグループ化」も参照）
 - カスタムスコア 138
 - 楽曲フレーム 394
 - キーボード 64, 67
 - キュー（「キュー」を参照してください）
 - 強弱記号 776
 - 切り替え 54
 - 空白の譜表 446
 - 空白ページ 447
 - 組段オブジェクト 1188–1190
 - 組段区切り 471
 - 組段の形式設定 498
 - 組段のスペーシング 444, 462

レイアウト (続き)

組段の分割記号 1187
組段の両端揃え 455
グラフィックファイル 610, 620
形式設定 498, 500
形式設定のコピー 498-500
コード記号 718
コンデンス 455, 477
コンデンスラベル (「プレーヤーラベル」を参照してください)
削除 142
作成 27, 139
実音 141
縮尺サイズ 619
順番 142
小節番号 657, 661-663, 673
設定 106
設定モードのパネル 100, 138
選択 43
ソート 142
タイムコード 1074, 1080, 1082
打楽器キットの表示 1296
タッチ 474-476
タブ 45, 55
中括弧 71, 695, 696, 698, 700 (「譜表のグループ化」.も参照)
長休止符 661, 1127, 1128, 1130
ディヴィジ 1192, 1193
ディヴィジの譜表ラベル 1202, 1203
テキストの衝突回避 424
トークン 402
名前を付ける 147 (「レイアウト名」.も参照)
パート 138, 498
パートのコピー 498, 499
ハーブのペダリング 993
配置設定 457
番号 (「レイアウト番号」を参照してください)
番号の付け直し 142
比較 57
左ページ 449
ビュータイプ 52
拍子記号 1256, 1258, 1267
開く 24, 45, 54
ファイル名 612
復元 142
複数のウィンドウ 25, 58
複数開く 55, 57
部数 607
譜表サイズ 443
譜表のグループ化 700
譜表のスペーシング 424, 444, 462
譜表の非表示 446
譜表ラベル 402, 1162, 1202, 1203
フルスコア 138
フレーム 393
フレーム区切り 469
フレームチェーン (「楽曲フレームチェーン」を参照してください)
フレームのコピー 393
フレームの順番 398
プレーヤー 109, 139, 399
プレーヤーの削除 139
プレーヤーの追加 139

レイアウト (続き)

プレーヤーラベル 493
プレーヤーリスト 835
フロー 109, 140, 399, 449, 450
フローの削除 140
フローの追加 140
フロー見出し 386, 451, 453
プロパティのコピー 501
ページサイズ 618
ページの削除 448
ページの追加 447
ページの優先の解除 378
ページ範囲 607, 615
ページ番号 986
ページめくり 469
ヘッダー 836
編集 376
マーカー 1074
前付け 833
マスターページ 364, 374, 381
マスターページのセット 365, 368
向き 441, 618, 619
用紙サイズ 618
用紙サイズに合わせる 619
余白 442, 454
欄外見出し 453, 836
リピート回数 673
リピートマーカーのテキスト 1094
両端揃え 444, 455, 462
両端揃え (垂直方向) 444
臨時記号 204
レイアウトのコピー 500
「レイアウト」パネル 100
レイアウトオプション 39, 106
小節番号 657, 658, 661, 664
ダイアログ 106
デフォルトとして保存 106
別のレイアウトへコピー 498, 500
変更 109
「レイアウトオプション」ダイアログ 106
レイアウトカード 100
展開矢印マーク 50
番号 100 (「レイアウト番号」.も参照)
開く 100
レイアウトセレクター 43
レイアウトの切り替え 54
レイアウトの順番 142
「レイアウト」パネル 49
印刷モード 602, 603
設定モード 95, 100
非表示 100
表示 100
レイアウト番号 100
順番 142
番号の付け直し 142
レイアウトフレームチェーン 395
レイアウト名 143, 147
テキストトークン 401
変更 147
レイテンシー
MIDI 録音 208, 212
値の変更 212

- レート
 - フレーム 154
- レーン
 - 演奏技法 (「演奏技法レーン」を参照してください)
 - オートメーション (「オートメーションレーン」を参照してください)
 - 強弱記号 (「ベロシティレーン」を参照してください)
 - ベロシティ (「ベロシティレーン」を参照してください)
- レセヴィブレタイ 1240, 1241
 - 角度 1242
 - 形状 1242
 - 幅 1242
- レター用紙サイズ 618
- 列
 - 強弱記号 776
 - 声部 1308, 1311
 - ライン 1050
 - 臨時記号 626, 627
- レディング 415, 416, 422
- レベル
 - 入れ子状の連符 1277
 - 強弱記号 521, 798
 - チャンネル 563
- 連結線 38
 - 演奏技法 1023, 1030
 - 強弱記号 792
 - 中間休止記号 267
 - テキスト 420
- 連桁 675, 678, 690
 - 扇形 690
 - 大きなピッチ差 842
 - 音符 678
 - 記譜オプション 676
 - グループ化 675, 678, 692 (「拍グループ」も参照)
 - 傾斜 680, 681, 842
 - コーナー 686
 - ステムレット (「ステムレット」を参照してください)
 - スペーシング 684
 - 装飾音符 842
 - タイ 196
 - 第2連桁 686, 687
 - 第1連桁 686
 - タブ譜 1207
 - 中央配置の連桁 681, 682
 - デフォルト設定 676
 - 半小節 676, 693
 - 反転 679
 - ハンドル 681
 - 非表示 1218
 - 拍子記号 676, 693
 - 複数の譜表 685
 - 符尾の方向 679, 685
 - 譜表間のオプティカルスペーシング 684
 - 譜表に対する位置 679
 - 譜表をまたぐ 683, 685
 - 分割 164, 677
 - 方向 678, 681, 690
 - メーター 693
 - リセット 677, 680, 683
 - 臨時記号 632
 - 臨時記号の再表示 632
- 連桁 (続き)
 - 連桁の解除 678
 - 連符 687
 - 倍音 678
- 連桁グループ 37, 675, 676, 692
 - 記譜オプション 676
 - 作成 678
 - 弱起 (アウフタクト) 1255
 - 定義 676, 693
 - デフォルト設定 164, 676
 - 半小節 676
 - 拍子記号 676
 - 符尾の方向 1214
 - リセット 677
- 連桁線
 - 数 686
- 連桁の傾斜 680
 - 装飾音符 842
 - 変更 681
- 連桁のどっぴり 686
- 連符 1276
 - アーティキュレーション 214, 637
 - アンスケール 1278
 - 位置 750, 1276, 1277
 - 移動 1280, 1282, 1287
 - 入れ子状の連符 1277
 - 音符 1278
 - 音符の変換 1278
 - 外観 1277, 1283, 1286
 - ガイド 337, 1283, 1286
 - 角括弧 (「連符の大括弧」を参照してください)
 - 記号 427
 - クオンタイズ 84
 - 形式設定 427, 1286
 - 削除 1278, 1281
 - 終了位置 1285
 - 浄書オプション 1277
 - 小節線 1279
 - 水平括弧 1285
 - スウィング再生 557
 - スラー 216
 - タイプ 199, 1276
 - 打楽器キット 1293
 - タッキングインデックス 750
 - デフォルト設定 1277
 - トレモロ 1268
 - 入力 199, 1277, 1278
 - 拍の単位 199
 - 番号 (「連符の数字」を参照してください)
 - 反転 1284
 - ハンドル 1281, 1282, 1284
 - 非表示 1286
 - 表示 1286
 - 標準の音符に変換 1278
 - 比率 (「連符の数字」を参照してください)
 - フィルター 328
 - フック 1281, 1282
 - 譜表に対する位置 1284
 - ポップオーバー 199
 - 臨時記号 192
 - 連符 687, 1281
 - 連符のアンスケール 1278

連符の数字 [1286](#)
 外観 [1286](#), [1288](#)
 水平位置 [1287](#)
 非表示 [1286](#)
 フォント [1288](#)
 連符の大括弧 [1281](#)
 位置 [1276](#)
 移動 [1282](#)
 角度 [1284](#)
 終了位置 [1285](#)
 水平 [1285](#)
 長さ [1282](#)
 ハンドル [1281](#), [1282](#), [1284](#)
 非表示 [1283](#)
 表示 [1283](#)
 フック [1281](#)
 連符の比率（「連符の数字」を参照してください）

ろ

ローカルなコード記号 [706](#)
 入力 [254](#)
 ロード
 MIDI インストゥルメント [507](#)
 VST インストゥルメント [507](#)
 再生テンプレート [573](#)
 サウンド [507](#), [573](#)
 ビデオファイル [151](#)
 ローマ数字
 トークン [403](#)
 フィンガリング [823](#)
 譜表ラベル [1168](#)
 フロー番号 [403](#)
 ページ番号 [380](#), [988](#)
 ロール（「トレモロ」を参照してください）
 ロールコード（「アルペジオ記号」を参照してください）
 録音
 MIDI [208](#), [212](#), [554](#), [565](#)
 カウントイン [211](#)
 クリック設定 [210](#)
 テンポ [554](#)
 ピッチの入力 [178](#)
 非録音時の MIDI 入力データを記録 [209](#), [565](#)
 6 線譜
 タブ譜（「タブ譜」を参照してください）
 ロクリアンコード記号 [252](#), [724](#)
 ロック
 組段 [355](#)
 デュレーション（「デュレーションをロック」を参照してください）
 フレーム [355](#)
 ロマンチック
 トリル [949](#)

わ

ワークスペース [34](#)
 オプション [42](#), [43](#)
 環境設定 [61](#)
 キーボードショートカット [16](#), [66](#)
 設定 [54](#)
 ワークフロー
 コメント [346](#)

ワイルドカード [401](#)
 和音なしの記号 [252](#)
 和音の入力
 アルペジオ記号 [272](#)
 エクスプロード [186](#)
 音域の選択 [178](#)
 キャレット [171](#)
 タブ譜 [191](#)
 複数の譜表 [186](#)
 有効化 [157](#), [197](#)
 粹線 [424](#), [621](#)
 印刷 [607](#)
 書き出し [610](#)
 テキスト [407](#), [424](#)
 ハープのペダリング [994](#), [995](#)
 太さ [407](#), [425](#), [995](#)
 余白 [425](#), [996](#)
 割り当て
 MIDI コマンド [66](#)
 エンドポイントに声部を [580](#)
 エンドポイントへのインストゥルメントの割り当て [580](#)
 エンドポイントへのエクスペッションマップの割り当て [581](#)
 エンドポイントへのパーカッションマップの割り当て [581](#)
 キーボードショートカット [66](#)
 フレームをフレームチェーンに [397](#)
 プレーヤーをフレームチェーンに [399](#)
 フローにプレーヤーを [109](#), [137](#)
 フローをフレームチェーンに [399](#)
 レアウトにプレーヤーを [109](#), [139](#)
 レアウトにフローを [109](#), [140](#)